
2022年度 前期

1.0単位

ICT実習 (A)【人文】

深田 美紀、青木 恵美、三木 洪子、富士野 克己、
岡元 直樹

< 授業の方法 >

講義・実習

< 授業の目的 >

この科目は、共通教育科目のリテラシー科目群、情報分野に属しています。

全学 DP に掲げる、広い教養を身につけること、獲得した知識や技能をもって社会に貢献する力を身につけることを目的とします。

当講義では [学業に必要と考えられるレベルの PC 操作スキル] の習得を目指します。

知識面では OS やネットワーク、セキュリティ、情報モラルに関する基礎を、技能面ではタイピングに始まり、OS の基本操作、メールやブラウザの活用、基礎的なオフィスソフトの活用を学びます。

20 世紀後半から始まった ICT (情報・通信に関連する技術一般の総称) の急激な発展は、我々の社会に劇的な変化をもたらしました。

技術的には今も変化のうねりの渦中にありますが、社会に十分に浸透し、活用されている技術は、(別の大きなブレークスルーの出現までは) 今後も活用され続けると考えられます。

タブレットやスマートフォンなどの業務活用も広がっていますが、現時点では、PC を適切に操作できることは学業・社会生活に非常に有用な (もしくは必須の) 技能です。

他講義から一定の習熟を期待される内容でもありますので、苦手意識を捨てて取り組んでいただきたいと思います。

なお、この授業は、実務経験のある教員が担当しています。学外 (公的機関等) での情報教育業務を6年間経験しており、企業等で求められる情報に関する知識・スキルを、より実践的な観点から解説します。

< 到達目標 >

・日本語 75 文字 / 分以上のスピードでタッチタイピングができる

・Windows において基本的なファイル・フォルダー操作を行える

・基本的なショートカットキーを使用して Windows を操作できる

・Word を利用し、1 ページで完結する体裁の整った文

書を作成できる

・Excel を利用し、表計算ソフトの特徴を活かした (比較的少ない件数の) 表及びグラフを作成できる

・PowerPoint を利用し、聞き手を意識したプレゼン資料を作成できる

・メールに関する基本的なマナーを知り、大学のメールシステムを活用できる

・圧縮と解凍について理解し、ファイルやフォルダーを圧縮・暗号化して受け渡しできる

・インターネットのトラブル事例を知り、安全かつ価値的なネット活用を行える

・学内・学外の Wi-Fi 環境を適切かつ安全に活用できる

< 授業のキーワード >

タッチタイピング、エクスプローラー操作、圧縮と解凍、Wi-Fi

< 授業の進め方 >

実習を中心に講義を進めます。

テキストとして eラーニング教材「nanare」を利用します。

一部の回を除き、毎回、講義内で提示された課題を提出してもらいます。

< 履修するにあたって >

(1) 遅刻について

当講義は実習が中心となるため、遅刻者対応は授業を一時的に中断させるということを認識しておいてください。講義開始直後に着席していない学生は遅刻とみなします。

(2) 欠席について

欠席した場合は、次の講義までに必ず講義内容を自習してください。

講義開始 20 分以降に入室した学生は欠席とみなします。

遅刻 3 回で欠席 1 回とし、欠席回数が全講義回数の 3 分の 1 を超えた場合は評価不能とみなします。

(3) アカウントについて

手元に届いているユーザーID、パスワードが記載されたハガキを必ず持参してください。

情報処理実習室の PC を利用する際に、ログイン用のユーザーID、パスワードが必要です。

紛失した場合は、必ず申し出てください。アカウントの貸し借りは厳禁です。

(4) 講義に臨む姿勢について

各学生の年度当初の PC 操作スキルには大きな開きがありますが、他人と比較することなく、自己のスキル向上に努めるようにしてください。

(5) タイピングについて

タイピングスピードの向上にはある程度の練習量が必要

ですが、一度習得してしまえば、今後受講する様々な講義において課題やレポート作成の効率が上がります。できるだけ早い段階で練習時間を確保し、目標に達成することを勧めます。

(6) 学習環境について

eラーニング教材 nanare から試験問題も提出されますので、自宅で学習ができるような環境を整えることが望ましいです。

PC を所有していない人は購入することを推奨します。なお、大学情報処理実習室の PC の OS は Windows であり、Windows を基本として説明を行います。

< 授業時間外に必要な学修 >

理解度確認問題（中間）と理解度確認問題（前期末）は、それぞれ eラーニング教材 nanare から出題されますので、指示された範囲を学習しておいてください。当講義ではタイピングスキルを重視しています。頭で考えなくても指が自然に動くようになるまで、そう多くの期間は必要ありません。できるだけ日を置かず集中的に練習し、早めに目標に到達してください。コツ等は講義内で説明します。

・学習に要する時間目安

- eラーニング教材 nanare の学習：1~2 時間/週（個人差あり）
- タイピングの練習：10 分/日（個人差あり）
一定速度に達するまで

< 提出課題など >

講義内に提出する課題と、eラーニング教材 nanare の課題があります。

eラーニング教材 nanare の課題の完了期限は 4 回に分かれています。

1. 第 04 回講義日の前日 24 時までに 001-067 の範囲を学習済みにすること
2. 第 07 回講義日の前日 24 時までに 068-104 の範囲を学習済みにすること
3. 第 10 回講義日の前日 24 時までに 105-132 の範囲を学習済みにすること
4. 第 13 回講義日の前日 24 時までに 133-156 の範囲を学習済みにすること

eラーニング教材 nanare の課題のフィードバックは教材の自動添削機能によって行い、講義時間内に質疑応答の時間を設けます。

講義内に提出する課題のフィードバックは講義時間内に行い、講義時間外においても解説や動画を Web サイトで閲覧できるようにします。内容によっては模範解答を紹介します。

< 成績評価方法・基準 >

以下の割合で総合的に評価します。

- eラーニング教材 nanare の課題：30 %
- 講義内に提出する課題：15 %
- タイピング試験：20 %
- 理解度確認問題（中間）：10 %
- 理解度確認問題（前期末）：25 %

単位取得には、期限を遵守した各課題の提出、タイピング練習、試験対策が必要です。

普段の取り組みが評点に反映されやすくなるよう、各試験は eラーニング教材 nanare から抜粋して出題します。

< テキスト >

eラーニング教材「nanare」2021 年度版

教材費 3,500 円は初回登校日に講義内で徴収します。

忘れないように持参してください。

遠隔申請者には第 1 回の講義内で支払い方法を案内します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンスとタイピング計測

- 当講義の意義、進め方、注意事項、単位の評価基準などについて理解する。

- eラーニング教材 nanare の学習の流れ、課題の提出方法について理解する。

- タイピングスピードを測定し、今後の目標を設定する。

- nanare の主な学習内容：ウィンドウ操作など最も初歩的な PC 操作

第2回 基本的なウィンドウ操作とタッチタイピング

- タッチタイピングを習得するためのコツや練習方法について理解する。

- nanare の主な学習内容：（Word）行と段落の違いや適切な文字列の配置、画像の挿入

第3回 覚えておきたい Windows の機能と文書の新規作成

- ショートカットキーや IME 辞書の活用など、Windows の提供する作業効率向上のための機能について実習する。

- Word を利用して文書を新規作成し、ページ設定、名前を付けて保存する方法を理解する。

- nanare の主な学習内容：（Excel）セルへの値の入力や結合といった基本的なセル操作

第4回 電子メールの活用

- 電子メールの一般的な利用方法とマナー、及び学内 Webメール環境の操作について実習する。

- nanare の主な学習内容：（PowerPoint）スライドの作成・編集

第5回 効果的なプレゼン資料の作成（1）

- 聞き手が理解しやすいプレゼン資料のアウトラインを作成、実習する。

- nanare の主な学習内容：（Excel）セルの書式設定、計算式の入力

第6回 効果的なプレゼン資料の作成(2)

- 効果的なプレゼン資料作成について実習し、発表中のスライドの切り替えやノートの利用について実践感覚を掴む。

- nanare の主な学習内容：(Word) 表の挿入、編集と検索、置換

第7回 ネット利用に関するトラブル事例

インターネット利用に関する各種のトラブル事例を確認し、プライバシーやセキュリティを意識した、トラブルに巻き込まれにくいネット活用姿勢について学習する。

- nanare の主な学習内容：(Excel) 関数の利用、印刷範囲の設定

第8回 理解度確認問題(中間)

テスト形式で当該回までの理解度を確認する。

- nanare の主な学習内容：(Word) インデント・箇条書き・段落番号といった段落の編集、書式のコピー・貼り付けなどの操作

第9回 ファイルの圧縮と解凍

- 圧縮ファイルの形式や特徴について理解を深め、Windows 標準機能や圧縮解凍アプリを用い、ファイルやフォルダーの圧縮・解凍、暗号化について実習する。

- nanare の主な学習内容：(Excel) 簡単なグラフの作成、各要素の表示・非表示の切り替え

第10回 エクスプローラー操作の基礎

- 階層構造の概念を理解し、ファイル・フォルダーの基本操作を習得する。

- nanare の主な学習内容：(Word) 各種オブジェクトの追加と編集

第11回 エクスプローラー操作の応用

- ファイル・フォルダーの応用的な操作(特に多くのファイルを効率的に扱う操作)を習得する。

- nanare の主な学習内容：(Word) 表の編集と効率的な表の作成(Excel) さまざまなオートフィル

第12回 Word 印刷実習

- Word の印刷時の調整と、発生しやすいトラブル及びその解決方法について実習する。

- PDF ファイルの特徴と活用について理解する。

- nanare の主な学習内容：(Excel) 基本的な関数とセル参照、絶対参照

第13回 問題解決実習

- 特定のテーマ(問題)について、それらを手持ちのソフトウェア(道具)を利用して解決する実習を行う。

- [テーマの例] 家計簿

- nanare の主な学習内容：(一般知識) n 進数、文字コード、解像度

第14回 [対面]

理解度確認問題(前期末)とタイピング試験

[遠隔]

Wi-Fi の安全な利用

- [対面]

当該回までの eラーニング教材 nanare の課題の理解度を試験形式で確認する。

タイピング試験を実施する。

- [遠隔]

無線LAN(Wi-Fi)の基本的な構成と接続方法、また公共のWi-Fi環境を利用する際の注意事項について理解する。

第15回 [対面・遠隔申請者]

理解度確認問題(前期末)とタイピング試験

[遠隔]

Wi-Fi の安全な利用

- [対面・遠隔申請者]

当該回までの eラーニング教材 nanare の課題の理解度を試験形式で確認する。

タイピング試験を実施する。

- [遠隔]

無線LAN(Wi-Fi)の基本的な構成と接続方法、また公共のWi-Fi環境を利用する際の注意事項について理解する。

2022年度 前期

1.0単位

ICT実習 (A)【心理】

深田 美紀、青木 恵美、三木 洪子、富士野 克己、岡元 直樹

<授業の方法>

ハイブリッド型授業(対面+オンデマンド型)(講義・実習)

履修者数によりハイブリッド型(基本)から対面型へ変更する

<急激な感染拡大に伴う授業形態の一時的変更について>

5月6日(木)から6月19日(土)までの間、授業形態をリアルタイムオンライン授業(Zoom)に変更します。

受講方法(Zoom情報)につきましては、「遠隔授業情報」をご確認ください。

<授業の目的>

この科目は、共通教育科目のリテラシー科目群、情報分野に属しています。

全学 DP に掲げる、広い教養を身につけること、獲得した知識や技能をもって社会に貢献する力を身につけることを目的とします。

当講義では[学業に必要と考えられるレベルのPC操作スキル]の習得を目指します。

知識面ではOSやネットワーク、セキュリティ、情報モラルに関する基礎を、技能面ではタイピングに始まり、OSの基本操作、メールやブラウザの活用、基礎的なオ

フィスソフトの活用を学びます。

20 世紀後半から始まった ICT（情報・通信に関連する技術一般の総称）の急激な発展は、我々の社会に劇的な変化をもたらしました。

技術的には今も変化のうねりの渦中にありますが、社会に十分に浸透し、活用されている技術は、（別の大きなブレークスルーの出現までは）今後も活用され続けると考えられます。

タブレットやスマートフォンなどの業務活用も広がっていますが、現時点では、PC を適切に操作できることは学業・社会生活に非常に有用な（もしくは必須の）技能です。

他講義から一定の習熟を期待される内容でもありますので、苦手意識を捨てて取り組んでいただきたいと思います。

なお、この授業は、実務経験のある教員が担当しています。学外（公的機関等）での情報教育業務を6年間経験しており、企業等で求められる情報に関する知識・スキルを、より実践的な観点から解説します。

<到達目標>

- ・日本語 75 文字/分以上のスピードでタッチタイピングができる
- ・Windows において基本的なファイル・フォルダー操作を行える
- ・基本的なショートカットキーを使用して Windows を操作できる
- ・Word を利用し、1 ページで完結する体裁の整った文書を作成できる
- ・Excel を利用し、表計算ソフトの特徴を活かした（比較的少ない件数の）表及びグラフを作成できる
- ・PowerPoint を利用し、聞き手を意識したプレゼン資料を作成できる
- ・メールに関する基本的なマナーを知り、大学のメールシステムを活用できる
- ・圧縮と解凍について理解し、ファイルやフォルダーを圧縮・暗号化して受け渡しできる
- ・インターネットのトラブル事例を知り、安全かつ価値的なネット活用を行える
- ・学内・学外の Wi-Fi 環境を適切かつ安全に活用できる

<授業のキーワード>

タッチタイピング、エクスプローラー操作、圧縮と解凍、Wi-Fi

<授業の進め方>

実習を中心に講義を進めます。

テキストとして eラーニング教材「nanare」を利用します。

一部の回を除き、毎回、講義内で提示された課題を提出

してもらいます。

<履修するにあたって>

(1) 遅刻について

当講義は実習が中心となるため、遅刻者対応は授業を一時的に中断させるということをご認識しておいてください。講義開始直後に着席していない学生は遅刻とみなします。

(2) 欠席について

欠席した場合は、次の講義までに必ず講義内容を自習してください。

講義開始 20 分以降に入室した学生は欠席とみなします。遅刻 3 回で欠席 1 回とし、欠席回数が全講義回数の 3 分の 1 を超えた場合は評価不能とみなします。

(3) アカウントについて

手元に届いているユーザーID、パスワードが記載されたハガキを必ず持参してください。

情報処理実習室の PC を利用する際に、ログイン用のユーザーID、パスワードが必要です。

紛失した場合は、必ず申し出てください。アカウントの貸し借りは厳禁です。

(4) 講義に臨む姿勢について

各学生の年度当初の PC 操作スキルには大きな開きがありますが、他人と比較することなく、自己のスキル向上に努めるようにしてください。

(5) タイピングについて

タイピングスピードの向上にはある程度の練習量が必要ですが、一度習得してしまえば、今後受講する様々な講義において課題やレポート作成の効率が上がります。できるだけ早い段階で練習時間を確保し、目標に達成することを勧めます。

(6) 学習環境について

eラーニング教材 nanare から試験問題も提出されますので、自宅で学習ができるような環境を整えることが望ましいです。

PC を所有していない人は購入することを推奨します。

なお、大学情報処理実習室の PC の OS は Windows であり、Windows を基本として説明を行います。

<授業時間外に必要な学修>

理解度確認問題（中間）と理解度確認問題（前期末）は、それぞれ eラーニング教材 nanare から出題されますので、指示された範囲を学習しておいてください。

当講義ではタイピングスキルを重視しています。頭で考えなくても指が自然に動くようになるまで、そう多くの期間は必要ありません。できるだけ日を置かず集中的に練習し、早めに目標に到達してください。コツ等は講義

内で説明します。

・学習に要する時間目安

- eラーニング教材 nanare の学習：1～2 時間/週（個人差あり）

- タイピングの練習：10 分/日（個人差あり）

一定速度に達するまで

< 提出課題など >

講義内に提出する課題と、eラーニング教材 nanare の課題があります。

eラーニング教材 nanare の課題の完了期限は 4 回に分かれています。

1. 第 04 回講義日の前日 24 時までに 001-067 の範囲を学習済みにすること

2. 第 07 回講義日の前日 24 時までに 068-104 の範囲を学習済みにすること

3. 第 10 回講義日の前日 24 時までに 105-132 の範囲を学習済みにすること

4. 第 13 回講義日の前日 24 時までに 133-156 の範囲を学習済みにすること

eラーニング教材 nanare の課題のフィードバックは教材の自動添削機能によって行い、講義時間内に質疑応答の時間を設けます。

講義内に提出する課題のフィードバックは講義時間内に行い、講義時間外においても解説や動画を Web サイトで閲覧できるようにします。内容によっては模範解答を紹介します。

< 成績評価方法・基準 >

以下の割合で総合的に評価します。

- eラーニング教材 nanare の課題：30 %

- 講義内に提出する課題：15 %

- タイピング試験：20 %

- 理解度確認問題（中間）：10 %

- 理解度確認問題（前期末）：25 %

単位取得には、期限を遵守した各課題の提出、タイピング練習、試験対策が必要です。

普段の取り組みが評点に反映されやすくなるよう、各試験は eラーニング教材 nanare から抜粋して出題します。

< テキスト >

eラーニング教材「nanare」2021 年度版

教材費 3,500 円は初回登校日に講義内で徴収します。

忘れないように持参してください。

遠隔申請者には第 1 回の講義内で支払い方法を案内します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンスとタイピング計測

- 当講義の意義、進め方、注意事項、単位の評価基準などについて理解する。

- eラーニング教材 nanare の学習の流れ、課題の提出方法について理解する。

- タイピングスピードを測定し、今後の目標を設定する。

- nanare の主な学習内容：ウィンドウ操作など最も初歩的な PC 操作

第2回 基本的なウィンドウ操作とタッチタイピング

- タッチタイピングを習得するためのコツや練習方法について理解する。

- nanare の主な学習内容：（Word）行と段落の違いや適切な文字列の配置、画像の挿入

第3回 覚えておきたい Windows の機能と文書の新規作成

- ショートカットキーや IME 辞書の活用など、Windows の提供する作業効率向上のための機能について実習する。

- Word を利用して文書を新規作成し、ページ設定、名前を付けて保存する方法を理解する。

- nanare の主な学習内容：（Excel）セルへの値の入力や結合といった基本的なセル操作

第4回 電子メールの活用

- 電子メールの一般的な利用方法とマナー、及び学内 Web メール環境の操作について実習する。

- nanare の主な学習内容：（PowerPoint）スライドの作成・編集

第5回 効果的なプレゼン資料の作成（1）

- 聞き手が理解しやすいプレゼン資料のアウトラインを作成、実習する。

- nanare の主な学習内容：（Excel）セルの書式設定、計算式の入力

第6回 効果的なプレゼン資料の作成（2）

- 効果的なプレゼン資料作成について実習し、発表中のスライドの切り替えやノートの利用について実践感覚を掴む。

- nanare の主な学習内容：（Word）表の挿入、編集と検索、置換

第7回 ネット利用に関するトラブル事例

インターネット利用に関する各種のトラブル事例を確認し、プライバシーやセキュリティを意識した、トラブルに巻き込まれにくいネット活用姿勢について学習する。

- nanare の主な学習内容：（Excel）関数の利用、印刷範囲の設定

第8回 理解度確認問題（中間）

テスト形式で当該回までの理解度を確認する。

- nanare の主な学習内容：（Word）インデント・箇条書き・段落番号といった段落の編集、書式のコピー・貼り付けなどの操作

第9回 ファイルの圧縮と解凍

- 圧縮ファイルの形式や特徴について理解を深め、Windows 標準機能や圧縮解凍アプリを用い、ファイルやフォルダーの圧縮・解凍、暗号化について実習する。

- nanare の主な学習内容：（Excel）簡単なグラフの作成、各要素の表示・非表示の切り替え
- 第10回 エクスプローラー操作の基礎
- 階層構造の概念を理解し、ファイル・フォルダーの基本操作を習得する。
- nanare の主な学習内容：（Word）各種オブジェクトの追加と編集

- 第11回 エクスプローラー操作の応用
- ファイル・フォルダーの応用的な操作（特に多くのファイルを効率的に扱う操作）を習得する。
- nanare の主な学習内容：（Word）表の編集と効率的な表の作成（Excel）さまざまなオートフィル

- 第12回 Word 印刷実習
- Word の印刷時の調整と、発生しやすいトラブル及びその解決方法について実習する。
 - PDF ファイルの特徴と活用について理解する。
- nanare の主な学習内容：（Excel）基本的な関数とセル参照、絶対参照

- 第13回 問題解決実習
- 特定のテーマ（問題）について、それらを手持ちのソフトウェア（道具）を利用して解決する実習を行う。
 - [テーマの例] 家計簿
- nanare の主な学習内容：（一般知識）n 進数、文字コード、解像度

- 第14回 [対面]
- 理解度確認問題（前期末）とタイピング試験
[遠隔]
- Wi-Fi の安全な利用

- [対面]
- 当該回までの eラーニング教材 nanare の課題の理解度を試験形式で確認する。
タイピング試験を実施する。

- [遠隔]
- 無線LAN（Wi-Fi）の基本的な構成と接続方法、また公共のWi-Fi環境を利用する際の注意事項について理解する。

- 第15回 [対面・遠隔申請者]
- 理解度確認問題（前期末）とタイピング試験
[遠隔]
- Wi-Fi の安全な利用

- [対面・遠隔申請者]
- 当該回までの eラーニング教材 nanare の課題の理解度を試験形式で確認する。
タイピング試験を実施する。

- [遠隔]
- 無線LAN（Wi-Fi）の基本的な構成と接続方法、また公共のWi-Fi環境を利用する際の注意事項について理解する。

2022年度 前期
1.0単位
ICT実習 【総リハ】
濱本 季之、橋本 貴

<授業の方法>
対面(講義・実習)
<授業の目的>
この科目は、全学DPが示す問題を発見・解決する能力の基盤となる知識や技術を身につけることを目的とする。

今やコンピューターは、ビジネスや日常生活に欠かすことのできない存在となった。スマートフォンやタブレット、ノートパソコンといった携帯機器を当たり前で使用し、社会を動かすことのできる時代である。しかし、その便利さと合わせてコンピュータウイルスを始めとした様々な危険性も持ち合わせている。同時に情報の偏りを知り、問題解決を図るための情報活用能力を身につける必要がある。

この科目では、学生がコンピューターの利便性と危険性の両方を理解し、社会に対応できるコンピューター力を身に付けることを目標とする。

さらに、この科目では、知識面と技術面からますます発展していくインターネット社会に対応できる基礎的な力を身につけ、Society 5.0の社会を理解する。

知識面では、情報の特性や情報セキュリティに関する知識を習得し、危険を未然に回避することができるようになることを目的とする。

技術面では、ビジネスメールやワープロソフトMicrosoft Wordに関する操作・技術を学び、社会でも役立つビジネススキルを習得することを目的とする。特にレポート作成ではインターネット情報の取捨選択についても学び、獲得した知識や技能を総合的に活用できるようになることを目的とする。

また、この科目の担当者は実務経験のある教員である。企業においてSE（システムエンジニア）や情報処理関連分野の研修講師として10年以上の経験がある。常に最新の情報や技術を踏まえ、時に専門分野についてもわかりやすく伝えていきたい。

- <到達目標>
1. パソコンに対する苦手意識がなくなる。
 2. タッチタイピングで入力できる。
 3. インターネットを利用して必要な情報を取捨選択できる。
 4. Society 5.0で実現する社会を説明できる。
 5. クラウドサービスを活用することができる。
 6. ビジネスメールを作成し、就職活動にも役立てることができる。
 6. ワープロソフトを使用して、目的に合った文書やレポ

ート作成ができる。

< 授業のキーワード >

タッチタイピング・情報セキュリティ・ビジネスメール
・クラウドサービス・Society 5.0・IoT・AI・Microsoft Word

< 授業の進め方 >

すべての講義は実習室のパソコンを使用する実習を中心とした内容である。

毎回設定されているテーマに基づく機能習得を目指し、時間の許す限り復習も行う。

毎回授業の冒頭にタイピング練習を行い、スムーズなキー入力ができるようにスキルアップを目指す。

< 履修するにあたって >

毎回、教科書と配布プリントを持参すること。

実習室のパソコンを使用する際、“ユーザー名(アカウント)”と“パスワード”が必要である。貸出用は無いので忘れないように注意すること。

遅刻するとパソコンの実習環境が整わなかったり、操作がわからなくなったりするため、遅刻しないように注意すること。

実習は原則として前回授業の受講を前提として行われる。欠席すると致命的になる場合があるため、欠席しないように注意すること。やむを得ない理由で欠席した場合は、次の授業までに自習しておくこと。

コンピューターは精密機器であるため、取り扱いについては十分注意すること。

教室内では飲食禁止。また、指定された座席に着席すること。

質問は電子メールでも受け付ける。電子メール操作は授業において実習する。

その他すべて教員の指示に従うこと。不明な点があれば遠慮なく担当教員に尋ねること。

この講義は、Microsoft Windows10とMicrosoft Office 2016の環境で行う。

推奨パソコンスペック

OS : Windows10 (Home Edition以上)

Sモードは制約が多いため推奨いたしません。

Officeアプリ (Word、Excel等) は本学学生であれば入学後、無償でインストールができます。

Microsoftとの包括契約

CPU : Intel Core i5 (第10世代以降) またはAMD Ryzen 5 (第3世代以降) 以上

Wi-Fi : 必須 (Wi-Fi5 (11ac) 以上対応)

メモリ : 8GB以上

ディスク : 256GB以上 (SSD推奨)

Webカメラ : カメラ付き必須推奨

モニター : 13インチ以上

バッテリー : 6時間程度は稼働可能なもの

< 授業時間外に必要な学修 >

各種機能の習得には提供される教材データを利用して、2時間程度の復習を行うこと。

また、日常的にタイピング練習を実施すること。

< 提出課題など >

技能習得確認のための中間テスト (第9回) ・実技テスト (第15回) ・タイピングテスト (第8回・第14回) を授業中に実施する。また、知識習得確認のためにオンラインテスト (第5回) を実施する。提示が必要な模範解答はdotCampusにて対応する。

その他、毎回授業で作成したファイルを、学内ネットワークシステムを利用して提出する。提示が必要な模範解答は配布ファイルで対応する。

< 成績評価方法・基準 >

学習活動評価40% ・各種テスト評価60%の割合で評価する。

定期試験は実施しない。

学習活動評価は以下とする

毎回の授業で作成した成果ファイルの提出
成果ファイルの完成度
授業への参加度

各種テストは以下とする

オンラインテスト・中間テスト・実技テスト・タイピングテスト2回

その他

毎回出席確認を行う。

授業回数の3分の2以上の出席が必要。そうでない場合は、単位を認定しない。

他人データの流用や作成データのコピー等不正行為が行われた場合、単位を認定しない。

< テキスト >

神戸学院大学情報支援事務室編集「情報活用の基礎2022年度版」

その他適宜、補足教材を配布する。

< 授業計画 >

第1回 授業や評価に関する案内
学内環境の確認とe-Learningについて
授業内容や評価に関する案内を行う。
授業で使用するパソコンの使用方法を確認し、学内ネットワーク及びe-Learningシステムの使用方法を実習する。

クラウドについて学び、ファイル保存を行う。
タイピング練習を開始する。

第2回 インターネット
情報モラルと情報セキュリティ・IoT・センサ・Society 5.0・ビッグデータ・AI

Webページの取扱方法やコンピューターネットワークを使用する上では常識として必要な知識である情報モラル

や情報セキュリティに関する講義を行う。
またセンサからの膨大な情報（ビッグデータ）を人工知能（AI）が解析するしくみを講義する。

第3回

電子メール

電子メールの操作方法を実習する。また、将来の就職活動でも役立つように、礼儀正しい文章で利用すべきビジネスメールの演習を行う。（Outlook初期設定・署名・メール送受信・連絡先）

第4回 電子メール

電子メールの操作方法を実習する。また、将来の就職活動でも役立つように、礼儀正しい文章で利用すべきビジネスメールの演習を行う。（ビジネスメール・TO/CC/BCの使い分け・敬語）

第5回 オンラインテスト（知識）

ファイル管理

Office365について

第1～4回までの習得確認のためのオンラインテストを実施する。

必要なファイル管理操作を行い、Office365サービスについて理解する。

第6回 Word基礎

文書作成に必要な機能を実習する。但し、単に編集機能の実習を行うのではなく、作成すべき内容に適した文書作成ができるようになることを目的とした実習を行う。

（文字書式・段落書式・文字の効果・オンライン画像・作表）

第7回 Word基礎

文書作成に必要な機能を実習する。但し、単に編集機能の実習を行うのではなく、作成すべき内容に適した文書作成ができるようになることを目的とした実習を行う。

（図形描画・テキストボックス・スクリーンショット）

第8回 タイピングテスト

Word基礎復習演習

タイピング技術の習得確認の為、タイピングテストを実施する。

Word基礎範囲の復習演習を実施する。

第9回 中間テスト（実技）

ここまでのWord基礎技能習得確認のための中間テストを実施する。

第10回 Web検索と参考文献

レポートや論文作成のためのWeb検索と参考文献の表記の仕方を実習する。

第11回 Word応用

レポート作成に必要な機能を実習する。他科目でも課せられるレポート作成時に役立つ機能を習得する。（ページ設定・ヘッダーフッター・表紙・スタイル・Excelデータの活用）

第12回 Word応用

レポート作成に必要な機能を実習する。他科目でも課せられるレポート作成時に役立つ機能を習得する。（図表番号・脚注・段組み・タブ）

第13回 Word応用

（Web情報利用）

Word応用の習得技術の再確認とWeb情報の利用を実習する。

第14回 タイピングテスト

Word応用復習演習

タイピング技術の習得確認の為、タイピングテストを実施する。

Word応用範囲の復習演習を実施する。

第15回 実技テスト

ここまでのWord応用技能習得確認のための実技テストを実施する。

毎回 タイピング練習

成果ファイル提出

タイピング練習ソフトやWebサイトを使用して、正しい指使いでタッチタイピングができるようにタイピング練習を行い、記録を付ける。

2022年度 前期

1.0単位

ICT実習 A - 1【栄養管理】

濱本 季之、竹内 晶子

<授業の方法>

対面(講義・実習)

<授業の目的>

この科目は、全学DPが示す問題を発見・解決する能力の基盤となる知識や技術を身につけることを目的とする。今やコンピューターは、ビジネスや日常生活に欠かすことのできない存在となった。スマートフォンやタブレット、ノートパソコンといった携帯機器を当たり前で使用し、社会を動かすことのできる時代である。しかし、その便利さと合わせてコンピュータウイルスを始めとした様々な危険性も持ち合わせている。同時に情報の偏りを知り、問題解決を図るための情報活用能力を身につける必要がある。

この科目では、学生がコンピューターの利便性と危険性の両方を理解し、社会に対応できるコンピューター力を身につけることを目標とする。

さらに、この科目では、知識面と技術面からますます発展していくインターネット社会に対応できる基礎的な力を身につけ、Society 5.0の社会を理解する。

知識面では、情報の特性や情報セキュリティに関する知識を習得し、危険を未然に回避することができるようになることを目的とする。

技術面では、ビジネスメールやワープロソフトMicrosoft

t Wordに関する操作・技術を学び、社会でも役立つビジネススキルを習得することを目的とする。特にレポート作成ではインターネット情報の取捨選択についても学び、獲得した知識や技能を総合的に活用できるようになることを目的とする。

また、この科目の担当者は実務経験のある教員である。企業においてSE（システムエンジニア）や情報処理関連分野の研修講師として10年以上の経験がある。常に最新の情報や技術を踏まえ、時に専門分野についてもわかりやすく伝えていきたい。

<到達目標>

1. パソコンに対する苦手意識がなくなる。
2. タッチタイピングで入力できる。
3. インターネットを利用して必要な情報を取捨選択できる。
4. Society 5.0で実現する社会を説明できる。
5. クラウドサービスを活用することができる。
5. ビジネスメールを作成し、就職活動にも役立てることができる。
6. ワードプロソフトを使用して、目的に合った文書やレポート作成ができる。

<授業のキーワード>

タッチタイピング・情報セキュリティ・ビジネスメール・クラウドサービス・Society 5.0・IoT・AI・Microsoft Word

<授業の進め方>

すべての講義は実習室のパソコンを使用する実習を中心とした内容である。

毎回設定されているテーマに基づく機能習得を目指し、時間の許す限り復習も行う。

毎回授業の冒頭にタイピング練習を行い、スムーズなキー入力ができるようにスキルアップを目指す。

<履修するにあたって>

毎回、教科書と配布プリントを持参すること。

実習室のパソコンを使用する際、“ユーザー名(アカウント)”と“パスワード”が必要である。貸出用は無いので忘れないように注意すること。

遅刻するとパソコンの実習環境が整わなかったり、操作がわからなくなったりするため、遅刻しないように注意すること。

実習は原則として前回授業の受講を前提として行われる。欠席すると致命的になる場合があるため、欠席しないように注意すること。やむを得ない理由で欠席した場合は、次の授業までに自習しておくこと。

コンピューターは精密機器であるため、取り扱いについては十分注意すること。

教室内では飲食禁止。また、指定された座席に着席すること。

質問は電子メールでも受け付ける。電子メール操作は授業において実習する。

その他すべて教員の指示に従うこと。不明な点があれば遠慮なく担当教員に尋ねること。

この講義は、Microsoft Windows10とMicrosoft Office 2016の環境で行う。

推奨パソコンスペック

OS : Windows10 (Home Edition以上)

Sモードは制約が多いため推奨いたしません。

Officeアプリ (Word、Excel等) は本学学生であれば入学後、無償でインストールができます。

Microsoftとの包括契約

CPU : Intel Core i5 (第10世代以降) またはAMD Ryzen 5 (第3世代以降) 以上

Wi-Fi : 必須 (Wi-Fi5 (11ac) 以上対応)

メモリ : 8GB以上

ディスク : 256GB以上 (SSD推奨)

Webカメラ : カメラ付き必須推奨

モニタ : 13インチ以上

バッテリー : 6時間程度は稼働可能なもの

<授業時間外に必要な学修>

各種機能の習得には提供される教材データを利用して、2時間程度の復習を行うこと。

また、日常的にタイピング練習を実施すること。

<提出課題など>

技能習得確認のための中間テスト (第9回) ・実技テスト (第15回) ・タイピングテスト (第8回・第14回) を授業中に実施する。また、知識習得確認のためにオンラインテスト (第5回) を実施する。提示が必要な模範解答はdotCampusにて対応する。

その他、毎回授業で作成したファイルを、学内ネットワークシステムを利用して提出する。提示が必要な模範解答は配布ファイルで対応する。

<成績評価方法・基準>

学習活動評価40% ・各種テスト評価60%の割合で評価する。

定期試験は実施しない。

学習活動評価は以下とする

毎回の授業で作成した成果ファイルの提出

成果ファイルの完成度

授業への参加度

各種テストは以下とする

オンラインテスト・中間テスト・実技テスト・タイピングテスト2回

その他

毎回出席確認を行う。

授業回数の3分の2以上の出席が必要。そうでない場合は、単位を認定しない。

他人データの流用や作成データのコピー等不正行為が行われた場合、単位を認定しない。

<テキスト>

神戸学院大学情報支援事務室編集「情報活用の基礎2022年度版」

その他適宜、補足教材を配布する。

<授業計画>

第1回 授業や評価に関する案内

学内環境の確認とe-Learningについて

授業内容や評価に関する案内を行う。

授業で使用するパソコンの使用方法を確認し、学内ネットワーク及びe-Learningシステムの使用方法を実習する。クラウドについて学び、ファイル保存を行う。

タイピング練習を開始する。

第2回 インターネット

情報モラルと情報セキュリティ・IoT・センサ・

Society 5.0・ビッグデータ・AI

Webページの取扱方法やコンピューターネットワークを使用する上では常識として必要な知識である情報モラルや情報セキュリティに関する講義を行う。

またセンサからの膨大な情報（ビッグデータ）を人工知能（AI）が解析するしくみを講義する。

第3回 電子メール

電子メールの操作方法を実習する。また、将来の就職活動でも役立つように、礼儀正しい文章で利用すべきビジネスメールの演習を行う。（Outlook初期設定・署名・メール送受信・連絡先）

第4回 電子メール

電子メールの操作方法を実習する。また、将来の就職活動でも役立つように、礼儀正しい文章で利用すべきビジネスメールの演習を行う。（ビジネスメール・TO/CC/BCの使い分け・敬語）

第5回 オンラインテスト（知識）

ファイル管理

Office365について

第1～4回までの習得確認のためのオンラインテストを実施する。

必要なファイル管理操作を行い、Office365サービスについて理解する。

第6回 Word基礎

文書作成に必要な機能を実習する。但し、単に編集機能の実習を行うのではなく、作成すべき内容に適した文書作成ができるようになることを目的とした実習を行う。

（文字書式・段落書式・文字の効果・オンライン画像・作表）

第7回 Word基礎

文書作成に必要な機能を実習する。但し、単に編集機能の実習を行うのではなく、作成すべき内容に適した文書作成ができるようになることを目的とした実習を行う。

（図形描画・テキストボックス・スクリーンショット）

第8回 タイピングテスト

Word基礎復習演習

タイピング技術の習得確認の為、タイピングテストを実施する。

Word基礎範囲の復習演習を実施する。

第9回 中間テスト（実技）

ここまでのWord基礎技能習得確認のための中間テストを実施する。

第10回 Web検索と参考文献

レポートや論文作成のためのWeb検索と参考文献の表記の仕方を実習する。

第11回 Word応用

レポート作成に必要な機能を実習する。他科目でも課せられるレポート作成時に役立つ機能を習得する。（ページ設定・ヘッダーフッター・表紙・スタイル・Excelデータの活用）

第12回 Word応用

レポート作成に必要な機能を実習する。他科目でも課せられるレポート作成時に役立つ機能を習得する。(図表番号・脚注・段組み・タブ)

第13回 Word応用 (Web情報利用)

Word応用の習得技術の再確認とWeb情報の利用を実習する。

第14回 タイピングテスト Word応用復習演習

タイピング技術の習得確認の為、タイピングテストを実施する。

Word応用範囲の復習演習を実施する。

第15回 実技テスト

ここまでのWord応用技能習得確認のための実技テストを実施する。

第16回 タイピング練習 成果ファイル提出

タイピング練習ソフトやWebサイトを使用して、正しい指使いでタッチタイピングができるようにタイピング練習を行い、記録を付ける。

2022年度 前期

1.0単位

ICT実習 C【臨検】

上村 千里

< 授業の方法 >

対面(講義・実習)

< 授業の目的 >

この科目は、全学DPが示す問題を発見・解決する能力の基盤となる知識や技術を身につけることを目的とする。今やコンピューターは、ビジネスや日常生活に欠かすことのできない存在となった。スマートフォンやタブレット、ノートパソコンといった携帯機器を当たり前で使用し、社会を動かすことのできる時代である。しかし、その便利さと合わせてコンピュータウイルスを始めとした様々な危険性も持ち合わせている。同時に情報の偏りを知り、問題解決を図るための情報活用能力を身につける必要がある。

この科目では、学生がコンピューターの利便性と危険性の両方を理解し、社会に対応できるコンピューター力を

身に付けることを目標とする。

さらに、この科目では、知識面と技術面からますます発展していくインターネット社会に対応できる基礎的な力を身につけ、Society 5.0の社会を理解する。

知識面では、情報の特性や情報セキュリティに関する知識を習得し、危険を未然に回避することができるようになることを目的とする。

技術面では、ビジネスメールやワープロソフトMicrosoft Wordに関する操作・技術を学び、社会でも役立つビジネススキルを習得することを目的とする。特にレポート作成ではインターネット情報の取捨選択についても学び、獲得した知識や技能を総合的に活用できるようになることを目的とする。

また、この科目の担当者は実務経験のある教員である。企業においてSE(システムエンジニア)や情報処理関連分野の研修講師として10年以上の経験がある。常に最新の情報や技術を踏まえ、時に専門分野についてもわかりやすく伝えていきたい。

< 到達目標 >

1. パソコンに対する苦手意識がなくなる。
2. タッチタイピングで入力できる。
3. インターネットを利用して必要な情報を取捨選択できる。
4. Society 5.0で実現する社会を説明できる。
5. クラウドサービスを活用することができる。
5. ビジネスメールを作成し、就職活動にも役立てることができる。
6. ワープロソフトを使用して、目的に合った文書やレポート作成ができる。

< 授業のキーワード >

タッチタイピング・情報セキュリティ・ビジネスメール・クラウドサービス・Society 5.0・IoT・AI・Microsoft Word

< 授業の進め方 >

すべての講義は実習室のパソコンを使用する実習を中心とした内容である。

毎回設定されているテーマに基づく機能習得を目指し、時間の許す限り復習も行う。

毎回授業の冒頭にタイピング練習を行い、スムーズなキー入力ができるようにスキルアップを目指す。

< 履修するにあたって >

毎回、教科書と配布プリントを持参すること。

実習室のパソコンを使用する際、“ユーザー名(アカウント)”と“パスワード”が必要である。貸出用は無いので忘れないように注意すること。

遅刻するとパソコンの実習環境が整わなかったり、操作がわからなくなったりするため、遅刻しないように注意すること。

実習は原則として前回授業の受講を前提として行われる。欠席すると致命的になる場合があるため、欠席しな

いように注意すること。やむを得ない理由で欠席した場合は、次の授業までに自習しておくこと。

コンピューターは精密機器であるため、取り扱いについては十分注意すること。

教室内では飲食禁止。また、指定された座席に着席すること。

質問は電子メールでも受け付ける。電子メール操作は授業において実習する。

推奨パソコンスペック

OS：Windows10（Home Edition以上）

Sモードは制約が多いため推奨いたしません。

Officeアプリ（Word、Excel等）は本学学生であれば入学後、無償でインストールができます。

Microsoftとの包括契約

CPU：Intel Core i5（第10世代以降）またはAMD Ryzen 5（第3世代以降）以上

Wi-Fi：必須（Wi-Fi5（11ac）以上対応）

メモリ：8GB以上

ディスク：256GB以上（SSD推奨）

Webカメラ：カメラ付き必須推奨

モニタ：13インチ以上

バッテリー：6時間程度は稼働可能なもの

その他すべて教員の指示に従うこと。不明な点があれば遠慮なく担当教員に尋ねること。

この講義は、Microsoft Windows10とMicrosoft Office 2016の環境で行う。

< 授業時間外に必要な学修 >

各種機能の習得には提供される教材データを利用して、2時間程度の復習を行うこと。

また、日常的にタイピング練習を実施すること。

< 提出課題など >

技能習得確認のための中間テスト（第9回）・実技テスト（第15回）・タイピングテスト（第8回・第14回）を授業中に実施する。また、知識習得確認のためにオンラインテスト（第5回）を実施する。提示が必要な模範解答はdotCampusにて対応する。

その他、毎回授業で作成したファイルを、学内ネットワークシステムを利用して提出する。提示が必要な模範解答は配布ファイルで対応する。

< 成績評価方法・基準 >

学習活動評価40％・各種テスト評価60％の割合で評価する。

定期試験は実施しない。

学習活動評価は以下とする

毎回の授業で作成した成果ファイルの提出

成果ファイルの完成度

授業への参加度

各種テストは以下とする

オンラインテスト・中間テスト・実技テスト・タイピングテスト2回

その他

毎回出席確認を行う。

授業回数の3分の2以上の出席が必要。そうでない場合は、単位を認定しない。

他人データの流用や作成データのコピー等不正行為が行われた場合、単位を認定しない。

< テキスト >

神戸学院大学情報支援事務室編集「情報活用の基礎2022年度版」

その他適宜、補足教材を配布する。

< 授業計画 >

第1回 授業や評価に関する案内

学内環境の確認とe-Learningについて

授業内容や評価に関する案内を行う。

授業で使用するパソコンの使用方法を確認し、学内ネットワーク及びe-Learningシステムの使用方法を実習する。クラウドについて学び、ファイル保存を行う。

タイピング練習を開始する。

第2回 インターネット

情報モラルと情報セキュリティ・IoT・センサ・

Society 5.0・ビッグデータ・AI

Webページの取扱方法やコンピューターネットワークを使用する上では常識として必要な知識である情報モラルや情報セキュリティに関する講義を行う。

またセンサからの膨大な情報（ビッグデータ）を人工知能（AI）が解析するしくみを講義する。

第3回 電子メール

電子メールの操作方法を実習する。また、将来の就職活動でも役立つように、礼儀正しい文章で利用すべきビジネスメールの演習を行う。（Outlook初期設定・署名・メール送受信・連絡先）

第4回 電子メール

電子メールの操作方法を実習する。また、将来の就職活動でも役立つように、礼儀正しい文章で利用すべきビジネスメールの演習を行う。（ビジネスメール・TO/CC/BCの使い分け・敬語）

第5回 オンラインテスト（知識）

ファイル管理

Office365について

第1～4回までの習得確認のためのオンラインテストを実施する。

必要なファイル管理操作を行い、Office365サービスについて理解する。

第6回 Word基礎

文書作成に必要な機能を実習する。但し、単に編集機能の実習を行うのではなく、作成すべき内容に適した文書

作成ができるようになることを目的とした実習を行う。

(文字書式・段落書式・文字の効果・オンライン画像・作表)

第7回 Word基礎

文書作成に必要な機能を実習する。但し、単に編集機能の実習を行うのではなく、作成すべき内容に適した文書作成ができるようになることを目的とした実習を行う。

(図形描画・テキストボックス・スクリーンショット)

第8回 タイピングテスト

Word基礎復習演習

タイピング技術の習得確認の為、タイピングテストを実施する。

Word基礎範囲の復習演習を実施する。

第9回 中間テスト(実技)

ここまでのWord基礎技能習得確認のための中間テストを実施する。

第10回 Web検索と参考文献

レポートや論文作成のためのWeb検索と参考文献の表記の仕方を実習する。

第11回 Word応用

レポート作成に必要な機能を実習する。他科目でも課せられるレポート作成時に役立つ機能を習得する。(ページ設定・ヘッダーフッター・表紙・スタイル・Excelデータの活用)

第12回 Word応用

レポート作成に必要な機能を実習する。他科目でも課せられるレポート作成時に役立つ機能を習得する。(図表番号・脚注・段組み・タブ)

第13回 Word応用

(Web情報利用)

Word応用の習得技術の再確認とWeb情報の利用を実習する。

第14回 タイピングテスト

Word応用復習演習

タイピング技術の習得確認の為、タイピングテストを実施する。

Word応用範囲の復習演習を実施する。

第15回 実技テスト

ここまでのWord応用技能習得確認のための実技テストを実施する。

毎回 タイピング練習

成果ファイル提出

タイピング練習ソフトやWebサイトを使用して、正しい指使いでタッチタイピングができるようにタイピング練習を行い、記録を付ける。

2022年度 前期

1.0単位

ICT実習 (A)【経済】

梯 健太郎、永岡 久美子、沈 成輔

<授業の方法>

講義・実習

<授業の目的>

この科目は、共通教育科目のリテラシー科目群、情報分野に属しています。

全学 DP に掲げる、広い教養を身につけること、獲得した知識や技能をもって社会に貢献する力を身につけることを目的とします。

当講義では[学業に必要と考えられるレベルのPC操作スキル]の習得を目指します。

知識面ではOSやネットワーク、セキュリティ、情報モラルに関する基礎を、技能面ではタイピングに始まり、OSの基本操作、メールやブラウザの活用、基礎的なオフィスソフトの活用を学びます。

20世紀後半から始まったICT(情報・通信に関連する技術一般の総称)の急激な発展は、我々の社会に劇的な変化をもたらしました。

技術的には今も変化のうねりの渦中にありますが、社会に十分に浸透し、活用されている技術は、(別の大きなブレイクスルーの出現までは)今後も活用され続けると考えられます。

タブレットやスマートフォンなどの業務活用も広がっていますが、現時点では、PCを適切に操作できることは学業・社会生活に非常に有用な(もしくは必須の)技能です。

他講義から一定の習熟を期待される内容でもありますので、苦手意識を捨てて取り組んでいただきたいと思います。

なお、この授業は、実務経験のある教員が担当しています。IT企業での業務を9年間、情報教育業務を7年間経験していますので、より実践的な観点から情報に関する知識・スキル等を解説します。

<到達目標>

・日本語 75文字/分以上のスピードでタッチタイピングができる

・Windowsにおいて基本的なファイル・フォルダー操作を行える

・基本的なショートカットキーを使用してWindowsを操作できる

・Wordを利用し、1ページで完結する体裁の整った文書を作成できる

- ・Excel を利用し、表計算ソフトの特徴を活かした（比較的少ない件数の）表及びグラフを作成できる
- ・PowerPoint を利用し、聞き手を意識したプレゼン資料を作成できる
- ・メールに関する基本的なマナーを知り、大学のメールシステムを活用できる
- ・圧縮と解凍について理解し、ファイルやフォルダーを圧縮・暗号化して受け渡しできる
- ・インターネットのトラブル事例を知り、安全かつ価値的なネット活用を行える
- ・学内・学外の Wi-Fi 環境を適切かつ安全に活用できる

< 授業のキーワード >

タッチタイピング、エクスプローラー操作、圧縮と解凍、Wi-Fi

< 授業の進め方 >

実習を中心に講義を進めます。

テキストとして eラーニング教材「nanare」を利用します。

一部の回を除き、毎回、講義内で提示された課題を提出してもらいます。

< 履修するにあたって >

(1) 遅刻について

当講義は実習が中心となるため、遅刻者対応は授業を一時的に中断させるということを認識しておいてください。講義開始直後に着席していない学生は遅刻とみなします。

(2) 欠席について

欠席した場合は、次の講義までに必ず講義内容を自習してください。

講義開始 20 分以降に入室した学生は欠席とみなします。遅刻 3 回で欠席 1 回とし、欠席回数が全講義回数の 3 分の 1 を超えた場合は評価不能とみなします。

(3) アカウントについて

手元に届いているユーザーID、パスワードが記載されたハガキを必ず持参してください。

情報処理実習室の PC を利用する際に、ログイン用のユーザーID、パスワードが必要です。

紛失した場合は、必ず申し出てください。アカウントの貸し借りは厳禁です。

(4) 講義に臨む姿勢について

各学生の年度当初の PC 操作スキルには大きな開きがありますが、他人と比較することなく、自己のスキル向上に努めるようにしてください。

(5) タイピングについて

タイピングスピードの向上にはある程度の練習量が必要ですが、一度習得してしまえば、今後受講する様々な講

義において課題やレポート作成の効率が上がります。できるだけ早い段階で練習時間を確保し、目標に達成することを勧めます。

(6) 学習環境について

eラーニング教材 nanare から試験問題も提出されますので、自宅で学習ができるような環境を整えることが望ましいです。

PC を所有していない人は購入することを推奨します。なお、大学情報処理実習室の PC の OS は Windows であり、Windows を基本として説明を行います。

< 授業時間外に必要な学修 >

理解度確認問題（中間）と理解度確認問題（前期末）は、それぞれ eラーニング教材 nanare から出題されますので、指示された範囲を学習しておいてください。

当講義ではタイピングスキルを重視しています。頭で考えなくても指が自然に動くようになるまで、そう多くの期間は必要ありません。できるだけ日を置かず集中的に練習し、早めに目標に到達してください。コツ等は講義内で説明します。

・学習に要する時間目安

- eラーニング教材 nanare の学習：1～2 時間 / 週（個人差あり）

- タイピングの練習：10 分 / 日（個人差あり）
一定速度に達するまで

< 提出課題など >

講義内に提出する課題と、eラーニング教材 nanare の課題があります。

eラーニング教材 nanare の課題の完了期限は 4 回に分かれています。

1. 第 04 回講義日の前日 24 時までに 001-067 の範囲を学習済みにすること

2. 第 07 回講義日の前日 24 時までに 068-104 の範囲を学習済みにすること

3. 第 10 回講義日の前日 24 時までに 105-132 の範囲を学習済みにすること

4. 第 13 回講義日の前日 24 時までに 133-156 の範囲を学習済みにすること

eラーニング教材 nanare の課題のフィードバックは教材の自動添削機能によって行い、講義時間内に質疑応答の時間を設けます。

講義内に提出する課題のフィードバックは講義時間内に行い、講義時間外においても解説や動画を Web サイトで閲覧できるようにします。内容によっては模範解答を紹介します。

< 成績評価方法・基準 >

以下の割合で総合的に評価します。

- eラーニング教材 nanare の課題：30 %
- 講義内に提出する課題：15 %
- タイピング試験：20 %
- 理解度確認問題（中間）：10 %
- 理解度確認問題（前期末）：25 %

単位取得には、期限を遵守した各課題の提出、タイピング練習、試験対策が必要です。

普段の取り組みが評点に反映されやすくなるよう、各試験は eラーニング教材 nanare から抜粋して出題します。

<テキスト>

eラーニング教材「nanare」2021 年度版

教材費 3,500 円は初回登校日に講義内で徴収します。

忘れないように持参してください。

遠隔申請者には第 1 回の講義内で支払い方法を案内します。

<授業計画>

第1回 ガイダンスとタイピング計測

- 当講義の意義、進め方、注意事項、単位の評価基準などについて理解する。
- eラーニング教材 nanare の学習の流れ、課題の提出方法について理解する。

- タイピングスピードを測定し、今後の目標を設定する。

- nanare の主な学習内容：ウィンドウ操作など最も初歩的な PC 操作

第2回 基本的なウィンドウ操作とタッチタイピング

- タッチタイピングを習得するためのコツや練習方法について理解する。

- nanare の主な学習内容：（Word）行と段落の違いや適切な文字列の配置、画像の挿入

第3回 覚えておきたい Windows の機能と文書の新規作成

- ショートカットキーや IME 辞書の活用など、Windows の提供する作業効率向上のための機能について実習する。

- Word を利用して文書を新規作成し、ページ設定、名前を付けて保存する方法を理解する。

- nanare の主な学習内容：（Excel）セルへの値の入力や結合といった基本的なセル操作

第4回 電子メールの活用

- 電子メールの一般的な利用方法とマナー、及び学内 Webメール環境の操作について実習する。

- nanare の主な学習内容：（PowerPoint）スライドの作成・編集

第5回 効果的なプレゼン資料の作成（1）

- 聞き手が理解しやすいプレゼン資料のアウトラインを作成、実習する。

- nanare の主な学習内容：（Excel）セルの書式設定、計算式の入力

第6回 効果的なプレゼン資料の作成（2）

- 効果的なプレゼン資料作成について実習し、発表中のスライドの切り替えやノートの利用について実践感覚を掴む。

- nanare の主な学習内容：（Word）表の挿入、編集と検索、置換

第7回 ネット利用に関するトラブル事例

インターネット利用に関する各種のトラブル事例を確認し、プライバシーやセキュリティを意識した、トラブルに巻き込まれにくいネット活用姿勢について学習する。

- nanare の主な学習内容：（Excel）関数の利用、印刷範囲の設定

第8回 理解度確認問題（中間）

テスト形式で当該回までの理解度を確認する。

- nanare の主な学習内容：（Word）インデント・箇条書き・段落番号といった段落の編集、書式のコピー・貼り付けなどの操作

第9回 ファイルの圧縮と解凍

- 圧縮ファイルの形式や特徴について理解を深め、Windows 標準機能や圧縮解凍アプリを用い、ファイルやフォルダーの圧縮・解凍、暗号化について実習する。

- nanare の主な学習内容：（Excel）簡単なグラフの作成、各要素の表示・非表示の切り替え

第10回 エクスプローラー操作の基礎

- 階層構造の概念を理解し、ファイル・フォルダーの基本操作を習得する。

- nanare の主な学習内容：（Word）各種オブジェクトの追加と編集

第11回 エクスプローラー操作の応用

- ファイル・フォルダーの応用的な操作（特に多くのファイルを効率的に扱う操作）を習得する。

- nanare の主な学習内容：（Word）表の編集と効率的な表の作成（Excel）さまざまなオートフィル

第12回 Word 印刷実習

- Word の印刷時の調整と、発生しやすいトラブル及びその解決方法について実習する。

- PDF ファイルの特徴と活用について理解する。

- nanare の主な学習内容：（Excel）基本的な関数とセル参照、絶対参照

第13回 問題解決実習

- 特定のテーマ（問題）について、それらを手持ちのソフトウェア（道具）を利用して解決する実習を行う。

- [テーマの例] 家計簿

- nanare の主な学習内容：（一般知識） n 進数、文字コード、解像度

第14回 [対面]

理解度確認問題（前期末）とタイピング試験

[遠隔]

Wi-Fi の安全な利用

- [対面]

当該回までの eラーニング教材 nanare の課題の理解度を試験形式で確認する。

タイピング試験を実施する。

- [遠隔]

無線LAN (Wi-Fi) の基本的な構成と接続方法、また公共のWi-Fi環境を利用する際の注意事項について理解する。

第15回 [対面・遠隔申請者]

理解度確認問題 (前期末) とタイピング試験

[遠隔]

Wi-Fi の安全な利用

- [対面・遠隔申請者]

当該回までの eラーニング教材 nanare の課題の理解度を試験形式で確認する。

タイピング試験を実施する。

- [遠隔]

無線LAN (Wi-Fi) の基本的な構成と接続方法、また公共のWi-Fi環境を利用する際の注意事項について理解する。

2022年度 前期

1.0単位

ICT実習 (A)【薬】

宇佐美 美紀子、福井 昌則、山下 義史

< 授業の方法 >

対面授業 (実習・演習・講義)

< 授業の目的 >

これからの学生生活に必要な情報機器の利用法の理解を深め、各種ソフトウェアの操作技能を習得する。また情報化社会に生き、医療に関わる人として、ネットワーク利用におけるモラルとマナーを理解し、他者を尊重し、信頼関係を築く情報コミュニケーション力を向上させる。これらの知識および操作技能を修得することで、全学DPに掲げる幅広い知識に基づいて他者を理解すること、獲得した知識や技能を社会に役立てる力をつけることを目的とする。

< 到達目標 >

(1) 獲得した知識や技能を社会に役立てることができる

調べたことや自分の意見などを効果的に伝えられるレポートやプレゼンテーション資料を制作することに重点を置き、実習する。

ワープロソフトの効果的な利用方法 (Webサイトとの連携、複数ページの文書作成、引用、段組み、セクション、図や表の扱い等) を習得し、レポートや論文の制作にこれを活かすことができる

プレゼンテーションソフトの効果的な利用方法 (図・図形・表の効果的な利用、スライドの再利用、ノートの利用等) を習得し、それをポスターセッションに活かすことができる

(2) 幅広い知識を習得し、他者を尊重、理解しコミュニケーションをとることができる

個人情報保護、著作権保護、情報受発信における留意点を学ぶ。他者を理解し尊重する姿勢を身につけ、学生生活および日常生活に活かすことができる

< 授業のキーワード >

情報

コミュニケーション

モラル

Word

PowerPoint

< 授業の進め方 >

操作実習を中心に、制作、グループワーク、セッション、相互評価をおこなう

< 履修するにあたって >

(1) オンライン授業、課題学修をおこなう場合に備えて、各自Windowsパソコンを準備しておくこと。学内設置パソコンはWindowsのため、受講環境を整えるためWindows搭載のパソコンを準備すること。MacOS、Chromebookなど異なるOSの場合、配布する講義資料、実際の操作が異なることがある (OSの違いによる個別の質問等、教員の対応はおこなわない)。また、スマートフォン及びタブレットのみでの受講は不可とする。

(2) パソコンには、ブラウザ「Chrome」をインストールすること。その他のブラウザを使用する場合、授業内での説明や操作とは異なることがある。「Edge」は利用できない学内サービスがあるため利用しないこと。なお、Internet Explorer (IE) はすでにサポート体制が終了しており、学内の各種サービスも利用できない。使用は不可とする。

(3) Microsoft Word、Excel、PowerPointが必須アプリケーションとなる。バージョンは2016、2019、デスクトップ版365とする。各自のパソコンに導入されていない場合は、各自Microsoft365からデスクトップ版Office365をインストールすること (Web版の365は機能制限があり授業の実施内容に耐えないため利用しない)。

(4) USBフラッシュメモリの準備

操作実習に使用するファイル、制作物の保管に必要となる場合がある。

(5) クラス

6クラスに分かれて授業をおこなう。クラスによって授業進度・実施順序が異なる場合がある。

(6) リアルタイム授業日欠席の場合

前回の授業内容を前提として授業を進行するため、次回の授業までに自習しておき、必要に応じて質問すること。

(7) アカウントについて

“ユーザーID”と“パスワード”を忘れると、学内ネットワークを利用することができない。再発行には手数料が必要となるため、管理に注意すること。

“パスワード”は、紛失したり、他人に教えたりすることのないように、また推測されづらいよう長く複雑なものにするなど安全面も考慮し各自で管理すること。

(8) 自宅のPCを利用するにあたり、必ずウイルス対策をおこなうこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

(1) 操作技術の習得にあたり、講義時間内に配布した教材データを用いて1時間程度の復習を行うこと。

(2) 課題の仕上げと提出作業を行う

(3) 課題制作にあたり、事前に案を練ったり調査しておいたり、といった準備が必要となる。

(4) 講義資料を読み、ワークシートまたは小レポートを提出する

< 提出課題など >

中間レポートとしてWord文書作成

期末レポートとしてプレゼンテーション資料作成

その他、講義時に指定するワークシート、小レポート課題(5回程度)

提出方法は、様々な方法を経験できるよう、その都度指示する

ミスが多かった問題、注意を要する問題について、提出後の講義で解説を行う

他人データの流用や作成データのコピー等不正行為が行われた場合、その課題は無得点とする

< 成績評価方法・基準 >

中間レポート25%、期末レポート25%、講義時に指定するワークシートおよび小レポートの提出35%、グループ活動の取り組み状況15%の割合で総合評価する

< テキスト >

授業内容にあわせたテキストおよびプリントを配布する。

< 授業計画 >

第1回 学内ネットワークの利用

オリエンテーション

学内情報サービスログイン

お知らせメール設定確認

パスワード変更作業確認

dotCampusログイン

テキストとファイルのダウンロード

Microsoft365サインイン

- ・Officeのインストールについて
- ・Outlookメールアプリ設定について
- ・署名、メッセージ形式の設定
- ・メール送信

第2回 e-learningシステムの利用

Word操作習得1

dotCampusの利用 ファイルのダウンロードと保存

デスクトップへファイルの移動

フォルダーの作成、フォルダー内へファイルの移動
入力練習と記録表の作成

Wordでレポート作成(1)

- ・Wordを使用するときの準備
- ・ページ設定
- ・書式設定
- ・ヘッダーとフッター
- ・名前を付けて保存
- ・ハイパーリンクの削除
- ・改行と改段落
- ・ファイルの上書き保存

dotCampusの利用 ファイルのアップロード

レポート作成時の注意とWebページの利用(著作権と引用のルール)を各自読んでおくこと。後日まとめをおこなう

第3回 レポート作成時におけるWebサイトの利用1

Word操作習得1

dotCampus ファイルのダウンロードと保存

ファイルの移動

Wordでレポート作成(2)

- ・演習1
- ・Chrome URL入力
- ・Word ページ情報の記載(日付、運営者、タイトル、URL、更新日)
- ・Chrome ページ情報画面の利用
- ・Chrome 新しいタブ
- ・Chrome 画像の検索、画像の保存
- ・Word文書への画像の挿入

dotCampus ファイルのアップロード

第4回 レポート作成時におけるWebサイトの利用2

Word操作習得1

dotCampus ファイルのダウンロードと保存

ファイルの移動

Wordでレポート作成(3)

- ・Chrome 新しいタブを用意
- ・Chrome 画像の検索
- ・演習2
- ・Webページ情報確認方法
- ・演習3
- ・Chrome ページ内検索

dotCampus ファイルのアップロード

第5回 Word操作習得1

著作権と引用のルールを知る

dotCampus ファイルのダウンロードと保存

ファイルの移動

講義 レポート作成時の注意とWebページの利用(著作権と引用のルール)のまとめ、Webサイトの利用時の注意

Chrome いろいろな検索方法

Wordでレポート作成（４）

- ・効率のよい入力方法，ファンクションキーの利用
- ・タブの挿入、タブを使った表作成
- ・演習４

dotCampus ファイルのアップロード

第6回 Word操作習得 1

PDFファイルの作成

USBメモリの利用

dotCampus ファイルのダウンロードと保存

ファイルの移動

Wordでレポート作成（５）

- ・書式設定
- ・文字書式、書式のコピー／貼り付け、段落書式
- ・箇条書きと段落番号
- ・ページ罫線
- ・PDFファイルの作成
- ・画像ファイルの挿入
- ・図の調整、文字列の折り返し設定
- ・図として保存

USBメモリの利用

- ・ファイルのコピー
- ・USBメモリの取り外し

dotCampus ファイルのアップロード

第7回 Word操作習得 1

メール（添付ファイル）の送信

メール送信時のマナーを理解する

dotCampus ファイルのダウンロードと保存

ファイルの移動

Wordでレポート作成（６）

- ・編集記号の表示、ルーラーの表示
- ・画像の挿入とレイアウト
- ・図表番号
- ・テキストボックスの利用

dotCampus ファイルのアップロード

Outlook

- ・メール（添付ファイル）送信とメール送信時のマナー

ー

「CCとBCC」「メールのマナー」は各自で必ず読んでおくこと

第8回 Word操作習得 1

中間レポート説明

dotCampus ファイルのダウンロードと保存

ファイルの移動

Wordでレポート作成（７）

- ・編集記号の表示、ルーラーの表示
- ・図表番号
- ・段落と範囲選択
- ・文書の校正，貼り付けの形式

・インデント設定

中間レポート制作（Word文書制作）に向けての説明と注意

dotCampus ファイルのアップロード

第9回 Word操作習得 1

日常生活における著作権について理解する

dotCampus ファイルのダウンロード

ファイルの移動

中間レポートの仕上げと提出

Wordの操作

- ・インデントの復習
- ・入力オートフォーマット

dotCampus ファイルのアップロード

講義 日常生活における著作権

第10回 PowerPoint操作習得

dotCampus ファイルのダウンロードと保存

PowerPointでプレゼンテーション資料作成（１）

- ・フォルダの作成とファイルの移動、完成例確認
- ・PowerPointの画面
- ・タイトルスライドの作成
- ・テキストボックスの作成
- ・新しいスライドの挿入とスライドのレイアウト
- ・図の挿入
- ・プレースホルダの削除
- ・図形の利用
- ・表の挿入
- ・スライドの再利用

dotCampus ファイルのアップロード

第11回 PowerPoint操作習得

期末レポート説明

dotCampus ファイルのダウンロードと保存

PowerPointでプレゼンテーション資料作成（２）

- ・資料を作り始める前に
- ・スライドの再利用
- ・表の挿入，
- ・箇条書き（インデント），行頭文字の設定
- ・テーマ、配色、フォント、背景、図形のスタイルの設定
- ・図の透明化
- ・SmartArtグラフィック
- ・配布資料の作成

USBメモリの利用

- ・フォルダのコピー
- ・USBメモリの取り外し

dotCampus ファイルのアップロード

期末レポート制作（プレゼンテーション資料作成）に向けての説明と注意

第12回 Word操作習得2

個人情報保護に関する知識を身につける

dotCampus ファイルのダウンロード

Wordでレポート作成（8）

- ・改ページの挿入
- ・段組み
- ・ページ番号（フッター）の設定、ヘッダー/フッター先頭ページのみ別指定
- ・スタイルの設定、見出しスタイルの設定
- ・目次作成

講義 個人情報について

第13回 Word操作習得2

SNS利用と情報の発信について考える

dotCampus ファイルのダウンロードと保存

Wordでレポート作成（9）

- ・セクションの操作
- ・罫線表の操作

講義 SNS利用と情報の発信

第14回 著作権の知識

個人情報保護

グループワーク

著作権および個人情報保護に関する活動

第15回 SNS利用と情報の発信

グループワーク

SNS利用と情報の発信に関する活動

2022年度 前期

1.0単位

ICT実習（A）【経営】

上村 千里、濱本 季之、中原 伸子

< 授業の方法 >

対面(講義・実習)

< 授業の目的 >

この科目は、全学DPが示す問題を発見・解決する能力の基盤となる知識や技術を身につけることを目的とする。今やコンピューターは、ビジネスや日常生活に欠かすことのできない存在となった。スマートフォンやタブレット、ノートパソコンといった携帯機器を当たり前で使用し、社会を動かすことのできる時代である。しかし、その便利さと合わせてコンピュータウイルスを始めとした様々な危険性も持ち合わせている。同時に情報の偏りを知り、問題解決を図るための情報活用能力を身につける必要がある。

この科目では、学生がコンピューターの利便性と危険性の両方を理解し、社会に対応できるコンピューター力を身に付けることを目標とする。

さらに、この科目では、知識面と技術面からますます発展していくインターネット社会に対応できる基礎的な力を身につけ、Society 5.0の社会を理解する。

知識面では、情報の特性や情報セキュリティに関する知識を習得し、危険を未然に回避することができるようになることを目的とする。

技術面では、ビジネスメールやワープロソフトMicrosoft Wordに関する操作・技術を学び、社会でも役立つビジネススキルを習得することを目的とする。特にレポート作成ではインターネット情報の取捨選択についても学び、獲得した知識や技能を総合的に活用できるようになることを目的とする。

また、この科目の担当者は実務経験のある教員である。企業においてSE（システムエンジニア）や情報処理関連分野の研修講師として10年以上の経験がある。常に最新の情報や技術を踏まえ、時に専門分野についてもわかりやすく伝えていきたい。

< 到達目標 >

1. パソコンに対する苦手意識がなくなる。
2. タッチタイピングで入力できる。
3. インターネットを利用して必要な情報を取捨選択できる。
4. Society 5.0で実現する社会を説明できる。
5. クラウドサービスを活用することができる。
5. ビジネスメールを作成し、就職活動にも役立てることができる。
6. ワープロソフトを使用して、目的に合った文書やレポート作成ができる。

< 授業のキーワード >

タッチタイピング・情報セキュリティ・ビジネスメール・クラウドサービス・Society 5.0・IoT・AI・Microsoft Word

< 授業の進め方 >

すべての講義は実習室のパソコンを使用する実習を中心とした内容である。

毎回設定されているテーマに基づく機能習得を目指し、時間の許す限り復習も行う。

毎回授業の冒頭にタイピング練習を行い、スムーズなキー入力ができるようにスキルアップを目指す。

< 履修するにあたって >

毎回、教科書と配布プリントを持参すること。

実習室のパソコンを使用する際、“ユーザー名(アカウント)”と“パスワード”が必要である。貸出用は無いので忘れないように注意すること。

遅刻するとパソコンの実習環境が整わなかったり、操作がわからなくなったりするため、遅刻しないように注意すること。

実習は原則として前回授業の受講を前提として行われる。欠席すると致命的になる場合があるため、欠席しないように注意すること。やむを得ない理由で欠席した場合は、次の授業までに自習しておくこと。

コンピューターは精密機器であるため、取り扱いについては十分注意すること。

教室内では飲食禁止。また、指定された座席に着席すること。

質問は電子メールでも受け付ける。電子メール操作は

授業において実習する。

推奨パソコンスペック

OS：Windows10（Home Edition以上）

Sモードは制約が多いため推奨いたしません。

Officeアプリ（Word、Excel等）は本学学生であれば入学後、無償でインストールができます。

Microsoftとの包括契約

CPU：Intel Core i5（第10世代以降）またはAMD Ryzen 5（第3世代以降）以上

Wi-Fi：必須（Wi-Fi5（11ac）以上対応）

メモリ：8GB以上

ディスク：256GB以上（SSD推奨）

Webカメラ：カメラ付き必須推奨

モニター：13インチ以上

バッテリー：6時間程度は稼働可能なもの

その他すべて教員の指示に従うこと。不明な点があれば遠慮なく担当教員に尋ねること。

この講義は、Microsoft Windows10とMicrosoft Office 2016の環境で行う。

< 授業時間外に必要な学修 >

各種機能の習得には提供される教材データを利用して、2時間程度の復習を行うこと。

また、日常的にタイピング練習を実施すること。

< 提出課題など >

技能習得確認のための中間テスト（第9回）・実技テスト（第15回）・タイピングテスト（第8回・第14回）を授業中に実施する。また、知識習得確認のためにオンラインテスト（第5回）を実施する。提示が必要な模範解答はdotCampusにて対応する。

その他、毎回授業で作成したファイルを、学内ネットワークシステムを利用して提出する。提示が必要な模範解答は配布ファイルで対応する。

< 成績評価方法・基準 >

学習活動評価40％・各種テスト評価60％の割合で評価する。

定期試験は実施しない。

学習活動評価は以下とする

毎回の授業で作成した成果ファイルの提出

成果ファイルの完成度

授業への参加度

各種テストは以下とする

オンラインテスト・中間テスト・実技テスト・タイピングテスト2回

その他

毎回出席確認を行う。

授業回数の3分の2以上の出席が必要。そうでない場

合は、単位を認定しない。

他人データの流用や作成データのコピー等不正行為が行われた場合、単位を認定しない。

< テキスト >

神戸学院大学情報支援事務室編集「情報活用の基礎2022年度版」

その他適宜、補足教材を配布する。

< 授業計画 >

第1回 授業や評価に関する案内

学内環境の確認とe-Learningについて

授業内容や評価に関する案内を行う。

授業で使用するパソコンの使用方法を確認し、学内ネットワーク及びe-Learningシステムの使用方法を実習する。クラウドについて学び、ファイル保存を行う。

タイピング練習を開始する。

第2回 インターネット

情報モラルと情報セキュリティ・IoT・センサ・

Society 5.0・ビッグデータ・AI

Webページの取扱方法やコンピューターネットワークを使用する上では常識として必要な知識である情報モラルや情報セキュリティに関する講義を行う。

またセンサからの膨大な情報（ビッグデータ）を人工知能（AI）が解析するしくみを講義する。

第3回 電子メール

電子メールの操作方法を実習する。また、将来の就職活動でも役立つように、礼儀正しい文章で利用すべきビジネスメールの演習を行う。（Outlook初期設定・署名・メール送受信・連絡先）

第4回 電子メール

電子メールの操作方法を実習する。また、将来の就職活動でも役立つように、礼儀正しい文章で利用すべきビジネスメールの演習を行う。（ビジネスメール・TO/CC/BCの使い分け・敬語）

第5回 オンラインテスト（知識）

ファイル管理

Office365について

第1～4回までの習得確認のためのオンラインテストを実施する。

必要なファイル管理操作を行い、Office365サービスについて理解する。

第6回 Word基礎

文書作成に必要な機能を実習する。但し、単に編集機能の実習を行うのではなく、作成すべき内容に適した文書作成ができるようになることを目的とした実習を行う。

（文字書式・段落書式・文字の効果・オンライン画像・作表）

第7回 Word基礎

文書作成に必要な機能を実習する。但し、単に編集機能の実習を行うのではなく、作成すべき内容に適した文書作成ができるようになることを目的とした実習を行う。

(図形描画・テキストボックス・スクリーンショット)

第8回 タイピングテスト

Word基礎復習演習

タイピング技術の習得確認の為、タイピングテストを実施する。

Word基礎範囲の復習演習を実施する。

第9回 中間テスト(実技)

ここまでのWord基礎技能習得確認のための中間テストを実施する。

第10回 Web検索と参考文献

レポートや論文作成のためのWeb検索と参考文献の表記の仕方を実習する。

第11回 Word応用

レポート作成に必要な機能を実習する。他科目でも課せられるレポート作成時に役立つ機能を習得する。(ページ設定・ヘッダーフッター・表紙・スタイル・Excel データの活用)

第12回 Word応用

レポート作成に必要な機能を実習する。他科目でも課せられるレポート作成時に役立つ機能を習得する。(図表番号・脚注・段組み・タブ)

第13回 Word応用

(Web情報利用)

Word応用の習得技術の再確認とWeb情報の利用を実習する。

第14回 タイピングテスト

Word応用復習演習

タイピング技術の習得確認の為、タイピングテストを実施する。

Word応用範囲の復習演習を実施する。

第15回 実技テスト

ここまでのWord応用技能習得確認のための実技テストを実施する。

毎回 タイピング練習

成果ファイル提出

タイピング練習ソフトやWebサイトを使用して、正しい指使いでタッチタイピングができるようにタイピング練習を行い、記録を付ける。

2022年度 前期

1.0単位

ICT実習 (A) 【現社・社防】

小野原 登美子、河下 真佐代、寄木 知子

< 授業の方法 >

講義・実習

< 授業の目的 >

この科目は、共通教育科目のリテラシー科目群、情報分野に属しています。

全学 DP に掲げる、広い教養を身につけること、獲得した知識や技能をもって社会に貢献する力を身につけることを目的とします。

当講義では [学業に必要と考えられるレベルの PC 操作スキル] の習得を目指します。

知識面では OS やネットワーク、セキュリティ、情報モラルに関する基礎を、技能面ではタイピングに始まり、OS の基本操作、メールやブラウザの活用、基礎的なオフィスソフトの活用を学びます。

20 世紀後半から始まった ICT (情報・通信に関連する技術一般の総称) の急激な発展は、我々の社会に劇的な変化をもたらしました。

技術的には今も変化のうねりの渦中にありますが、社会に十分に浸透し、活用されている技術は、(別の大きなブレークスルーの出現までは) 今後も活用され続けると考えられます。

タブレットやスマートフォンなどの業務活用も広がっていますが、現時点では、PC を適切に操作できることは学業・社会生活に非常に有用な (もしくは必須の) 技能です。

他講義から一定の習熟を期待される内容でもありますので、苦手意識を捨てて取り組んでいただきたいと思います。

なお、この授業は、実務経験のある教員が担当しています。IT企業での業務を 19 年、情報教育業務は 3 年経験していますので、実務経験を生かした実践的な観点から情報に関する知識・スキル等を解説します。

< 到達目標 >

- ・日本語 75 文字 / 分以上のスピードでタッチタイピングができる
- ・Windows において基本的なファイル・フォルダー操作を行える
- ・基本的なショートカットキーを使用して Windows を操作できる
- ・Word を利用し、1 ページで完結する体裁の整った文書を作成できる
- ・Excel を利用し、表計算ソフトの特徴を活かした (比較的少ない件数の) 表及びグラフを作成できる
- ・PowerPoint を利用し、聞き手を意識したプレゼン資料を作成できる
- ・メールに関する基本的なマナーを知り、大学のメールシステムを活用できる
- ・圧縮と解凍について理解し、ファイルやフォルダーを圧縮・暗号化して受け渡しできる
- ・インターネットのトラブル事例を知り、安全かつ価値的なネット活用を行える
- ・学内・学外の Wi-Fi 環境を適切かつ安全に活用でき

る

<授業のキーワード>

タッチタイピング、エクスプローラー操作、圧縮と解凍、Wi-Fi

<授業の進め方>

実習を中心に講義を進めます。

テキストとして eラーニング教材「nanare」を利用します。

一部の回を除き、毎回、講義内で提示された課題を提出してもらいます。

<履修するにあたって>

(1) 遅刻について

当講義は実習が中心となるため、遅刻者対応は授業を一時的に中断させるということを認識しておいてください。講義開始直後に着席していない学生は遅刻とみなします。

(2) 欠席について

欠席した場合は、次の講義までに必ず講義内容を自習してください。

講義開始 20 分以降に入室した学生は欠席とみなします。遅刻 3 回で欠席 1 回とし、欠席回数が全講義回数の 3 分の 1 を超えた場合は評価不能とみなします。

(3) アカウントについて

手元に届いているユーザーID、パスワードが記載されたハガキを必ず持参してください。

情報処理実習室の PC を利用する際に、ログイン用のユーザーID、パスワードが必要です。

紛失した場合は、必ず申し出てください。アカウントの貸し借りは厳禁です。

(4) 講義に臨む姿勢について

各学生の年度当初の PC 操作スキルには大きな開きがありますが、他人と比較することなく、自己のスキル向上に努めるようにしてください。

(5) タイピングについて

タイピングスピードの向上にはある程度の練習量が必要ですが、一度習得してしまえば、今後受講する様々な講義において課題やレポート作成の効率が上がります。できるだけ早い段階で練習時間を確保し、目標に達成することを勧めます。

(6) 学習環境について

eラーニング教材 nanare から試験問題も提出されますので、自宅で学習ができるような環境を整えることが望ましいです。

PC を所有していない人は購入することを推奨します。

なお、大学情報処理実習室の PC の OS は Windows で

あり、Windows を基本として説明を行います。

<授業時間外に必要な学修>

理解度確認問題（中間）と理解度確認問題（前期末）は、それぞれ eラーニング教材 nanare から出題されますので、指示された範囲を学習しておいてください。

当講義ではタイピングスキルを重視しています。頭で考えなくても指が自然に動くようになるまで、そう多くの期間は必要ありません。できるだけ日を置かず集中的に練習し、早めに目標に到達してください。コツ等は講義内で説明します。

・学習に要する時間目安

- eラーニング教材 nanare の学習：1~2 時間/週（個人差あり）

- タイピングの練習：10 分/日（個人差あり）
一定速度に達するまで

<提出課題など>

講義内に提出する課題と、eラーニング教材 nanare の課題があります。

eラーニング教材 nanare の課題の完了期限は 4 回に分かれています。

1. 第 04 回講義日の前日 24 時までに 001-067 の範囲を学習済みにすること

2. 第 07 回講義日の前日 24 時までに 068-104 の範囲を学習済みにすること

3. 第 10 回講義日の前日 24 時までに 105-132 の範囲を学習済みにすること

4. 第 13 回講義日の前日 24 時までに 133-156 の範囲を学習済みにすること

eラーニング教材 nanare の課題のフィードバックは教材の自動添削機能によって行い、講義時間内に質疑応答の時間を設けます。

講義内に提出する課題のフィードバックは講義時間内に行い、講義時間外においても解説や動画を Web サイトで閲覧できるようにします。内容によっては模範解答を紹介します。

<成績評価方法・基準>

以下の割合で総合的に評価します。

- eラーニング教材 nanare の課題：30 %

- 講義内に提出する課題：15 %

- タイピング試験：20 %

- 理解度確認問題（中間）：10 %

- 理解度確認問題（前期末）：25 %

単位取得には、期限を遵守した各課題の提出、タイピング練習、試験対策が必要です。

普段の取り組みが評点に反映されやすくなるよう、各試験は eラーニング教材 nanare から抜粋して出題します。

<テキスト>

eラーニング教材「nanare」2021 年度版

教材費 3,500 円は初回登校日に講義内で徴収します。

忘れないように持参してください。

遠隔申請者には第 1 回の講義内で支払い方法を案内します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンスとタイピング計測

- 当講義の意義、進め方、注意事項、単位の評価基準などについて理解する。
- eラーニング教材 nanare の学習の流れ、課題の提出方法について理解する。

- タイピングスピードを測定し、今後の目標を設定する。
- nanare の主な学習内容： ウィンドウ操作など最も初歩的な PC 操作

第2回 基本的なウィンドウ操作とタッチタイピング

- タッチタイピングを習得するためのコツや練習方法について理解する。

- nanare の主な学習内容： (Word) 行と段落の違いや適切な文字列の配置、画像の挿入

第3回 覚えておきたい Windows の機能と文書の新規作成

- ショートカットキーや IME 辞書の活用など、Windows の提供する作業効率向上のための機能について実習する。

- Word を利用して文書を新規作成し、ページ設定、名前を付けて保存する方法を理解する。

- nanare の主な学習内容： (Excel) セルへの値の入力や結合といった基本的なセル操作

第4回 電子メールの活用

- 電子メールの一般的な利用方法とマナー、及び学内 Webメール環境の操作について実習する。

- nanare の主な学習内容： (PowerPoint) スライドの作成・編集

第5回 効果的なプレゼン資料の作成(1)

- 聞き手が理解しやすいプレゼン資料のアウトラインを作成、実習する。

- nanare の主な学習内容： (Excel) セルの書式設定、計算式の入力

第6回 効果的なプレゼン資料の作成(2)

- 効果的なプレゼン資料作成について実習し、発表中のスライドの切り替えやノートの利用について実践感覚を掴む。

- nanare の主な学習内容： (Word) 表の挿入・編集と検索・置換

第7回 ネット利用に関するトラブル事例

- インターネット利用に関する各種のトラブル事例を確認し、プライバシーやセキュリティを意識した、トラブルに巻き込まれにくいネット活用姿勢について学習する。

- nanare の主な学習内容： (Excel) 関数の利用、印刷範囲の設定

第8回 理解度確認問題(中間)

- テスト形式で当該回までの理解度を確認する。

- nanare の主な学習内容： (Word) インデント・箇条書き・段落番号といった段落の編集、書式のコピー・貼り付けなどの操作

第9回 ファイルの圧縮と解凍

- 圧縮ファイルの形式や特徴について理解を深め、Windows 標準機能や圧縮解凍アプリを用い、ファイルやフォルダーの圧縮・解凍、暗号化について実習する。

- nanare の主な学習内容： (Excel) 簡単なグラフの作成、各要素の表示・非表示の切り替え

第10回 エクスプローラー操作の基礎

- 階層構造の概念を理解し、ファイル・フォルダーの基本操作を習得する。

- nanare の主な学習内容： (Word) 各種オブジェクトの追加と編集

第11回 エクスプローラー操作の応用

- ファイル・フォルダーの応用的な操作(特に多くのファイルを効率的に扱う操作)を習得する。

- nanare の主な学習内容： (Word) 表の編集と効率的な表の作成 (Excel) さまざまなオートフィル

第12回 Word 印刷実習

- Word の印刷時の調整と、発生しやすいトラブル及びその解決方法について実習する。

- PDF ファイルの特徴と活用について理解する。

- nanare の主な学習内容： (Excel) 基本的な関数とセル参照、絶対参照

第13回 問題解決実習

- 特定のテーマ(問題)について、それらを手持ちのソフトウェア(道具)を利用して解決する実習を行う。

- [テーマの例] 家計簿

- nanare の主な学習内容： (一般知識) n 進数、文字コード、解像度

第14回 Wi-Fi の安全な利用

- 無線LAN(Wi-Fi)の基本的な構成と接続方法、また公共のWi-Fi環境を利用する際の注意事項について理解する。

第15回 理解度確認問題(前期末)とタイピング試験

- 当該回までの eラーニング教材 nanare の課題の理解度を試験形式で確認する。

- タイピング試験を実施する。

2022年度 前期

1.0単位

ICT実習 (A)【GC】

沈 成輔、永岡 久美子、梯 健太郎

< 授業の方法 >

講義・実習

< 授業の目的 >

この科目は、共通教育科目のリテラシー科目群、情報分野に属しています。

全学 DP に掲げる、広い教養を身につけること、獲得した知識や技能をもって社会に貢献する力を身につけることを目的とします。

当講義では [学業に必要なと考えられるレベルの PC 操作スキル] の習得を目指します。

知識面では OS やネットワーク、セキュリティ、情報モラルに関する基礎を、技能面ではタイピングに始まり、OS の基本操作、メールやブラウザの活用、基礎的なオフィスソフトの活用を学びます。

20 世紀後半から始まった ICT (情報・通信に関連する技術一般の総称) の急激な発展は、我々の社会に劇的な変化をもたらしました。

技術的には今も変化のうねりの渦中にありますが、社会に十分に浸透し、活用されている技術は、(別の大きなブレークスルーの出現までは) 今後も活用され続けると考えられます。

タブレットやスマートフォンなどの業務活用も広がっていますが、現時点では、PC を適切に操作できることは学業・社会生活に非常に有用な (もしくは必須の) 技能です。

他講義から一定の習熟を期待される内容でもありますので、苦手意識を捨てて取り組んでいただきたいと思います。

なお、この授業は、実務経験のある教員が担当しています。IT 企業での業務を8年間、情報教育業務を6年間経験していますので、より実践的な観点から情報に関する知識・スキル等を解説します。

< 到達目標 >

・日本語 75 文字 / 分以上のスピードでタッチタイピングができる

・Windows において基本的なファイル・フォルダー操作を行える

・基本的なショートカットキーを使用して Windows を操作できる

・Word を利用し、1 ページで完結する体裁の整った文書を作成できる

・Excel を利用し、表計算ソフトの特徴を活かした (比較的少ない件数の) 表及びグラフを作成できる

・PowerPoint を利用し、聞き手を意識したプレゼン資料を作成できる

・メールに関する基本的なマナーを知り、大学のメールシステムを活用できる

・圧縮と解凍について理解し、ファイルやフォルダーを圧縮・暗号化して受け渡しできる

・インターネットのトラブル事例を知り、安全かつ価値的なネット活用を行える

・学内・学外の Wi-Fi 環境を適切かつ安全に活用できる

< 授業のキーワード >

タッチタイピング、エクスペローラー操作、圧縮と解凍、Wi-Fi

< 授業の進め方 >

実習を中心に講義を進めます。

テキストとして eラーニング教材「nanare」を利用します。

一部の回を除き、毎回、講義内で提示された課題を提出してもらいます。

< 履修するにあたって >

(1) 遅刻について

当講義は実習が中心となるため、遅刻者対応は授業を一時的に中断させるということを認識しておいてください。講義開始直後に着席していない学生は遅刻とみなします。

(2) 欠席について

欠席した場合は、次の講義までに必ず講義内容を自習してください。

講義開始 20 分以降に入室した学生は欠席とみなします。遅刻 3 回で欠席 1 回とし、欠席回数が全講義回数の 3 分の 1 を超えた場合は評価不能とみなします。

(3) アカウントについて

手元に届いているユーザーID、パスワードが記載されたハガキを必ず持参してください。

情報処理実習室の PC を利用する際に、ログイン用のユーザーID、パスワードが必要です。

紛失した場合は、必ず申し出てください。アカウントの貸し借りは厳禁です。

(4) 講義に臨む姿勢について

各学生の年度当初の PC 操作スキルには大きな開きがありますが、他人と比較することなく、自己のスキル向上に努めるようにしてください。

(5) タイピングについて

タイピングスピードの向上にはある程度の練習量が必要ですが、一度習得してしまえば、今後受講する様々な講

義において課題やレポート作成の効率が上がります。
できるだけ早い段階で練習時間を確保し、目標に達成することを勧めます。

(6) 学習環境について

eラーニング教材 nanare から試験問題も提出されますので、自宅で学習ができるような環境を整えることが望ましいです。

PC を所有していない人は購入することを推奨します。
なお、大学情報処理実習室の PC の OS は Windows であり、Windows を基本として説明を行います。

< 授業時間外に必要な学修 >

理解度確認問題（中間）と理解度確認問題（前期末）は、それぞれ eラーニング教材 nanare から出題されますので、指示された範囲を学習しておいてください。

当講義ではタイピングスキルを重視しています。頭で考えなくても指が自然に動くようになるまで、そう多くの期間は必要ありません。できるだけ日を置かず集中的に練習し、早めに目標に到達してください。コツ等は講義内で説明します。

・ 学習に要する時間目安

- eラーニング教材 nanare の学習：1～2 時間 / 週（個人差あり）

- タイピングの練習：10 分 / 日（個人差あり）
一定速度に達するまで

< 提出課題など >

講義内に提出する課題と、eラーニング教材 nanare の課題があります。

eラーニング教材 nanare の課題の完了期限は 4 回に分かれています。

1. 第 04 回講義日の前日 24 時までに 001-067 の範囲を学習済みにすること

2. 第 07 回講義日の前日 24 時までに 068-104 の範囲を学習済みにすること

3. 第 10 回講義日の前日 24 時までに 105-132 の範囲を学習済みにすること

4. 第 13 回講義日の前日 24 時までに 133-156 の範囲を学習済みにすること

eラーニング教材 nanare の課題のフィードバックは教材の自動添削機能によって行い、講義時間内に質疑応答の時間を設けます。

講義内に提出する課題のフィードバックは講義時間内に行い、講義時間外においても解説や動画を Web サイトで閲覧できるようにします。内容によっては模範解答を紹介します。

< 成績評価方法・基準 >

以下の割合で総合的に評価します。

- eラーニング教材 nanare の課題：30 %
- 講義内に提出する課題：15 %
- タイピング試験：20 %
- 理解度確認問題（中間）：10 %
- 理解度確認問題（前期末）：25 %

単位取得には、期限を遵守した各課題の提出、タイピング練習、試験対策が必要です。

普段の取り組みが評点に反映されやすくなるよう、各試験は eラーニング教材 nanare から抜粋して出題します。

< テキスト >

eラーニング教材「nanare」2021 年度版

教材費 3,500 円は初回登校日に講義内で徴収します。

忘れないように持参してください。

遠隔申請者には第 1 回の講義内で支払い方法を案内します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンスとタイピング計測

- 当講義の意義、進め方、注意事項、単位の評価基準などについて理解する。

- eラーニング教材 nanare の学習の流れ、課題の提出方法について理解する。

- タイピングスピードを測定し、今後の目標を設定する。

- nanare の主な学習内容：ウィンドウ操作など最も初歩的な PC 操作

第2回 基本的なウィンドウ操作とタッチタイピング

- タッチタイピングを習得するためのコツや練習方法について理解する。

- nanare の主な学習内容：（Word）行と段落の違いや適切な文字列の配置、画像の挿入

第3回 覚えておきたい Windows の機能と文書の新規作成

- ショートカットキーや IME 辞書の活用など、Windows の提供する作業効率向上のための機能について実習する。

- Word を利用して文書を新規作成し、ページ設定、名前を付けて保存する方法を理解する。

- nanare の主な学習内容：（Excel）セルへの値の入力や結合といった基本的なセル操作

第4回 電子メールの活用

- 電子メールの一般的な利用方法とマナー、及び学内 Webメール環境の操作について実習する。

- nanare の主な学習内容：（PowerPoint）スライドの作成・編集

第5回 効果的なプレゼン資料の作成（1）

- 聞き手が理解しやすいプレゼン資料のアウトラインを作成、実習する。

- nanare の主な学習内容：（Excel）セルの書式設定、計算式の入力

第6回 効果的なプレゼン資料の作成（2）

- 効果的なプレゼン資料作成について実習し、発表中のスライドの切り替えやノートの利用について実践感覚を掴む。

- nanare の主な学習内容：(Word) 表の挿入、編集と検索、置換

第7回 ネット利用に関するトラブル事例

インターネット利用に関する各種のトラブル事例を確認し、プライバシーやセキュリティを意識した、トラブルに巻き込まれにくいネット活用姿勢について学習する。

- nanare の主な学習内容：(Excel) 関数の利用、印刷範囲の設定

第8回 理解度確認問題(中間)

テスト形式で当該回までの理解度を確認する。

- nanare の主な学習内容：(Word) インデント・箇条書き・段落番号といった段落の編集、書式のコピー・貼り付けなどの操作

第9回 ファイルの圧縮と解凍

- 圧縮ファイルの形式や特徴について理解を深め、Windows 標準機能や圧縮解凍アプリを用い、ファイルやフォルダーの圧縮・解凍、暗号化について実習する。

- nanare の主な学習内容：(Excel) 簡単なグラフの作成、各要素の表示・非表示の切り替え

第10回 エクスプローラー操作の基礎

- 階層構造の概念を理解し、ファイル・フォルダーの基本操作を習得する。

- nanare の主な学習内容：(Word) 各種オブジェクトの追加と編集

第11回 エクスプローラー操作の応用

- ファイル・フォルダーの応用的な操作(特に多くのファイルを効率的に扱う操作)を習得する。

- nanare の主な学習内容：(Word) 表の編集と効率的な表の作成(Excel) さまざまなオートフィル

第12回 Word 印刷実習

- Word の印刷時の調整と、発生しやすいトラブル及びその解決方法について実習する。

- PDF ファイルの特徴と活用について理解する。

- nanare の主な学習内容：(Excel) 基本的な関数とセル参照、絶対参照

第13回 問題解決実習

- [対面]

当該回までの eラーニング教材 nanare の課題の理解度を試験形式で確認する。

タイピング試験を実施する。

- [遠隔]

無線LAN(Wi-Fi)の基本的な構成と接続方法、また公共のWi-Fi環境を利用する際の注意事項について理解する。

- nanare の主な学習内容：(一般知識)n 進数、文字コード、解像度

第14回 [対面]

理解度確認問題(前期末)とタイピング試験

[遠隔]

Wi-Fi の安全な利用

- [対面]

当該回までの eラーニング教材 nanare の課題の理解度を試験形式で確認する。

タイピング試験を実施する。

- [遠隔]

無線LAN(Wi-Fi)の基本的な構成と接続方法、また公共のWi-Fi環境を利用する際の注意事項について理解する。

第15回 [対面・遠隔申請者]

理解度確認問題(前期末)とタイピング試験

[遠隔]

Wi-Fi の安全な利用

- [対面・遠隔申請者]

当該回までの eラーニング教材 nanare の課題の理解度を試験形式で確認する。

タイピング試験を実施する。

- [遠隔]

無線LAN(Wi-Fi)の基本的な構成と接続方法、また公共のWi-Fi環境を利用する際の注意事項について理解する。

2022年度 前期

1.0単位

I C T実習 (F)【 G C (日)】

三木 洪子

<授業の方法>

講義・実習

<授業の目的>

この科目は、共通教育科目のリテラシー科目群、情報分野に属しています。

全学 DP に掲げる、広い教養を身につけること、獲得した知識や技能をもって社会に貢献する力を身につけることを目的とします。

当講義では[学業に必要と考えられるレベルのPC操作スキル]の習得を目指します。

知識面ではOSやネットワーク、セキュリティ、情報モラルに関する基礎を、技能面ではタイピングに始まり、OSの基本操作、メールやブラウザの活用、基礎的なオフィスソフトの活用を学びます。

20世紀後半から始まったICT(情報・通信に関連する技術一般の総称)の急激な発展は、我々の社会に劇的な変化をもたらしました。

技術的には今も変化のうねりの渦中にありますが、社会に十分に浸透し、活用されている技術は、(別の大きなブレークスルーの出現までは)今後も活用され続けると

考えられます。

タブレットやスマートフォンなどの業務活用も広がっていますが、現時点では、PC を適切に操作できることは学業・社会生活に非常に有用な（もしくは必須の）技能です。

他講義から一定の習熟を期待される内容でもありますので、苦手意識を捨てて取り組んでいただきたいと思います。

なお、この授業は、実務経験のある教員が担当しています。IT企業での業務を 10 年、情報教育業務は 15 年経験していますので、実務経験を生かした実践的な観点から情報に関する知識・スキル等を解説します。

<到達目標>

- ・日本語 75 文字/分以上のスピードでタッチタイピングができる
- ・Windows において基本的なファイル・フォルダー操作を行える
- ・基本的なショートカットキーを使用して Windows を操作できる
- ・Word を利用し、1 ページで完結する体裁の整った文書を作成できる
- ・Excel を利用し、表計算ソフトの特徴を活かした（比較的少ない件数の）表及びグラフを作成できる
- ・PowerPoint を利用し、聞き手を意識したプレゼン資料を作成できる
- ・メールに関する基本的なマナーを知り、大学のメールシステムを活用できる
- ・圧縮と解凍について理解し、ファイルやフォルダーを圧縮・暗号化して受け渡しできる
- ・インターネットのトラブル事例を知り、安全かつ価値的なネット活用を行える
- ・学内・学外の Wi-Fi 環境を適切かつ安全に活用できる

<授業のキーワード>

タッチタイピング、エクスプローラー操作、圧縮と解凍、Wi-Fi

<授業の進め方>

実習を中心に講義を進めます。

テキストとして eラーニング教材「nanare」を利用します。

一部の回を除き、毎回、講義内で提示された課題を提出してもらいます。

<履修するにあたって>

(1) 遅刻について

当講義は実習が中心となるため、遅刻者対応は授業を一時的に中断させるということを認識しておいてください。講義開始直後に着席していない学生は遅刻とみなします。

(2) 欠席について

欠席した場合は、次の講義までに必ず講義内容を自習してください。

講義開始 20 分以降に入室した学生は欠席とみなします。遅刻 3 回で欠席 1 回とし、欠席回数が全講義回数の 3 分の 1 を超えた場合は評価不能とみなします。

(3) アカウントについて

手元に届いているユーザーID、パスワードが記載されたハガキを必ず持参してください。

情報処理実習室の PC を利用する際に、ログイン用のユーザーID、パスワードが必要です。

紛失した場合は、必ず申し出てください。アカウントの貸し借りは厳禁です。

(4) 講義に臨む姿勢について

各学生の年度当初の PC 操作スキルには大きな開きがありますが、他人と比較することなく、自己のスキル向上に努めるようにしてください。

(5) タイピングについて

タイピングスピードの向上にはある程度の練習量が必要ですが、一度習得してしまえば、今後受講する様々な講義において課題やレポート作成の効率が上がります。できるだけ早い段階で練習時間を確保し、目標に達成することを勧めます。

(6) 学習環境について

eラーニング教材 nanare から試験問題も提出されますので、自宅で学習ができるような環境を整えることが望ましいです。

PC を所有していない人は購入することを推奨します。

なお、大学情報処理実習室の PC の OS は Windows であり、Windows を基本として説明を行います。

<授業時間外に必要な学修>

理解度確認問題（中間）と理解度確認問題（前期末）は、それぞれ eラーニング教材 nanare から出題されますので、指示された範囲を学習しておいてください。

当講義ではタイピングスキルを重視しています。頭で考えなくても指が自然に動くようになるまで、そう多くの期間は必要ありません。できるだけ日を置かず集中的に練習し、早めに目標に到達してください。コツ等は講義内で説明します。

・学習に要する時間目安

- eラーニング教材 nanare の学習：1~2 時間/週（個人差あり）

- タイピングの練習：10 分/日（個人差あり）

一定速度に達するまで

<提出課題など>

講義内に提出する課題と、eラーニング教材 nanare の課題があります。

eラーニング教材 nanare の課題の完了期限は 4 回に分かれています。

1. 第 04 回講義日の前日 24 時までに 001-067 の範囲を学習済みにすること
2. 第 07 回講義日の前日 24 時までに 068-104 の範囲を学習済みにすること
3. 第 10 回講義日の前日 24 時までに 105-132 の範囲を学習済みにすること
4. 第 13 回講義日の前日 24 時までに 133-156 の範囲を学習済みにすること

eラーニング教材 nanare の課題のフィードバックは教材の自動添削機能によって行い、講義時間内に質疑応答の時間を設けます。

講義内に提出する課題のフィードバックは講義時間内に行い、講義時間外においても解説や動画を Web サイトで閲覧できるようにします。内容によっては模範解答を紹介します。

<成績評価方法・基準>

以下の割合で総合的に評価します。

- eラーニング教材 nanare の課題 : 30 %
- 講義内に提出する課題 : 15 %
- タイピング試験 : 20 %
- 理解度確認問題 (中間) : 10 %
- 理解度確認問題 (前期末) : 25 %

単位取得には、期限を遵守した各課題の提出、タイピング練習、試験対策が必要です。

普段の取り組みが評点に反映されやすくなるよう、各試験は eラーニング教材 nanare から抜粋して出題します。

<テキスト>

eラーニング教材「nanare」2021 年度版

教材費 3,500 円は初回登校日に講義内で徴収します。

忘れないように持参してください。

遠隔申請者には第 1 回の講義内で支払い方法を案内します。

<授業計画>

第1回 ガイダンスとタイピング計測

- 当講義の意義、進め方、注意事項、単位の評価基準などについて理解する。

- eラーニング教材 nanare の学習の流れ、課題の提出方法について理解する。

- タイピングスピードを測定し、今後の目標を設定する。

- nanare の主な学習内容： ウィンドウ操作など最も初歩的な PC 操作

第2回 基本的なウィンドウ操作とタッチタイピング

- タッチタイピングを習得するためのコツや練習方法について理解する。

- nanare の主な学習内容： (Word) 行と段落の違いや適切な文字列の配置、画像の挿入

第3回 覚えておきたい Windows の機能と文書の新規作成

- ショートカットキーや IME 辞書の活用など、Windows の提供する作業効率向上のための機能について実習する。

- Word を利用して文書を新規作成し、ページ設定、名前を付けて保存する方法を理解する。

- nanare の主な学習内容： (Excel) セルへの値の入力や結合といった基本的なセル操作

第4回 電子メールの活用

- 電子メールの一般的な利用方法とマナー、及び学内 Web メール環境の操作について実習する。

- nanare の主な学習内容： (PowerPoint) スライドの作成・編集

第5回 効果的なプレゼン資料の作成 (1)

- 聞き手が理解しやすいプレゼン資料のアウトラインを作成、実習する。

- nanare の主な学習内容： (Excel) セルの書式設定、計算式の入力

第6回 効果的なプレゼン資料の作成 (2)

- 効果的なプレゼン資料作成について実習し、発表中のスライドの切り替えやノートの利用について実践感覚を掴む。

- nanare の主な学習内容： (Word) 表の挿入・編集と検索・置換

第7回 ネット利用に関するトラブル事例

- インターネット利用に関する各種のトラブル事例を確認し、プライバシーやセキュリティを意識した、トラブルに巻き込まれにくいネット活用姿勢について学習する。

- nanare の主な学習内容： (Excel) 関数の利用、印刷範囲の設定

第8回 理解度確認問題 (中間)

- テスト形式で当該回までの理解度を確認する。

- nanare の主な学習内容： (Word) インデント・箇条書き・段落番号といった段落の編集、書式のコピー・貼り付けなどの操作

第9回 ファイルの圧縮と解凍

- 圧縮ファイルの形式や特徴について理解を深め、Windows 標準機能や圧縮解凍アプリを用い、ファイルやフォルダーの圧縮・解凍、暗号化について実習する。

- nanare の主な学習内容： (Excel) 簡単なグラフの作成、各要素の表示・非表示の切り替え

第10回 エクスプローラー操作の基礎

- 階層構造の概念を理解し、ファイル・フォルダーの基本操作を習得する。

- nanare の主な学習内容： (Word) 各種オブジェクトの追加と編集

第11回 エクスプローラー操作の応用

- ファイル・フォルダーの応用的な操作（特に多くのファイルを効率的に扱う操作）を習得する。
- nanare の主な学習内容：（Word）表の編集と効率的な表の作成（Excel）さまざまなオートフィル

第12回 Word 印刷実習

- Word の印刷時の調整と、発生しやすいトラブル及びその解決方法について実習する。
- PDF ファイルの特徴と活用について理解する。
- nanare の主な学習内容：（Excel）基本的な関数とセル参照、絶対参照

第13回 問題解決実習

- 特定のテーマ（問題）について、それらを手持ちのソフトウェア（道具）を利用して解決する実習を行う。
- [テーマの例] 家計簿
- nanare の主な学習内容：（一般知識）n 進数、文字コード、解像度

第14回 Wi-Fi の安全な利用

- 無線LAN（Wi-Fi）の基本的な構成と接続方法、また公共のWi-Fi環境を利用する際の注意事項について理解する。

第15回 理解度確認問題（前期末）とタイピング試験

- 当該回までの eラーニング教材 nanare の課題の理解度を試験形式で確認する。
- タイピング試験を実施する。

2022年度 前期

1.0単位

ICT実習 【法】

三木 洪子

< 授業の方法 >

講義・実習

< 授業の目的 >

この科目は、共通教育科目のリテラシー科目群、情報分野に属しています。

全学 DP に掲げる、広い教養を身につけること、獲得した知識や技能をもって社会に貢献する力を身につけることを目的とします。

当講義では [学業に必要と考えられるレベルの PC 操作スキル] の習得を目指します。

知識面では OS やネットワーク、セキュリティ、情報モラルに関する基礎を、技能面ではタイピングに始まり、OS の基本操作、メールやブラウザの活用、基礎的なオフィスソフトの活用を学びます。

20 世紀後半から始まった ICT（情報・通信に関連する技術一般の総称）の急激な発展は、我々の社会に劇的な変化をもたらしました。

技術的には今も変化のうねりの渦中にありますが、社会に十分に浸透し、活用されている技術は、（別の大きなブレイクスルーの出現までは）今後も活用され続けると考えられます。

タブレットやスマートフォンなどの業務活用も広がっていますが、現時点では、PC を適切に操作できることは学業・社会生活に非常に有用な（もしくは必須の）技能です。

他講義から一定の習熟を期待される内容でもありますので、苦手意識を捨てて取り組んでいただきたいと思います。

なお、この授業は、実務経験のある教員が担当しています。IT 企業での業務を 10 年間、情報教育業務を 15 年間経験していますので、より実践的な観点から情報に関する知識・スキル等を解説します。

< 到達目標 >

- ・日本語 75 文字 / 分以上のスピードでタッチタイピングができる

- ・Windows において基本的なファイル・フォルダー操作を行える

- ・基本的なショートカットキーを使用して Windows を操作できる

- ・Word を利用し、1 ページで完結する体裁の整った文書を作成できる

- ・Excel を利用し、表計算ソフトの特徴を活かした（比較的少ない件数の）表及びグラフを作成できる

- ・PowerPoint を利用し、聞き手を意識したプレゼン資料を作成できる

- ・メールに関する基本的なマナーを知り、大学のメールシステムを活用できる

- ・圧縮と解凍について理解し、ファイルやフォルダーを圧縮・暗号化して受け渡しできる

- ・インターネットのトラブル事例を知り、安全かつ価値的なネット活用を行える

- ・学内・学外の Wi-Fi 環境を適切かつ安全に活用できる

< 授業のキーワード >

タッチタイピング、エクスプローラー操作、圧縮と解凍、Wi-Fi

< 授業の進め方 >

実習を中心に講義を進めます。

テキストとして eラーニング教材「nanare」を利用します。

一部の回を除き、毎回、講義内で提示された課題を提出してもらいます。

< 履修するにあたって >

(1) 遅刻について

当講義は実習が中心となるため、遅刻者対応は授業を一時的に中断させるということを認識しておいてください。

講義開始直後に着席していない学生は遅刻とみなします。

(2) 欠席について

欠席した場合は、次の講義までに必ず講義内容を自習してください。

講義開始 20 分以降に入室した学生は欠席とみなします。遅刻 3 回で欠席 1 回とし、欠席回数が全講義回数の 3 分の 1 を超えた場合は評価不能とみなします。

(3) アカウントについて

手元に届いているユーザーID、パスワードが記載されたハガキを必ず持参してください。

情報処理実習室の PC を利用する際に、ログイン用のユーザーID、パスワードが必要です。

紛失した場合は、必ず申し出てください。アカウントの貸し借りは厳禁です。

(4) 講義に臨む姿勢について

各学生の年度当初の PC 操作スキルには大きな開きがありますが、他人と比較することなく、自己のスキル向上に努めるようにしてください。

(5) タイピングについて

タイピングスピードの向上にはある程度の練習量が必要ですが、一度習得してしまえば、今後受講する様々な講義において課題やレポート作成の効率が上がります。できるだけ早い段階で練習時間を確保し、目標に達成することを勧めます。

(6) 学習環境について

eラーニング教材 nanare から試験問題も提出されますので、自宅で学習ができるような環境を整えることが望ましいです。

PC を所有していない人は購入することを推奨します。

なお、大学情報処理実習室の PC の OS は Windows であり、Windows を基本として説明を行います。

< 授業時間外に必要な学修 >

理解度確認問題（中間）と理解度確認問題（前期末）は、それぞれ eラーニング教材 nanare から出題されますので、指示された範囲を学習しておいてください。

当講義ではタイピングスキルを重視しています。頭で考えなくても指が自然に動くようになるまで、そう多くの期間は必要ありません。できるだけ日を置かず集中的に練習し、早めに目標に到達してください。コツ等は講義内で説明します。

・ 学習に要する時間目安

- eラーニング教材 nanare の学習：1~2 時間 / 週（個人差あり）

- タイピングの練習：10 分 / 日（個人差あり）
一定速度に達するまで

< 提出課題など >

講義内に提出する課題と、eラーニング教材 nanare の課題があります。

eラーニング教材 nanare の課題の完了期限は 4 回に分かれています。

1. 第 04 回講義日の前日 24 時までに 001-067 の範囲を学習済みにすること

2. 第 07 回講義日の前日 24 時までに 068-104 の範囲を学習済みにすること

3. 第 10 回講義日の前日 24 時までに 105-132 の範囲を学習済みにすること

4. 第 13 回講義日の前日 24 時までに 133-156 の範囲を学習済みにすること

eラーニング教材 nanare の課題のフィードバックは教材の自動添削機能によって行い、講義時間内に質疑応答の時間を設けます。

講義内に提出する課題のフィードバックは講義時間内に行い、講義時間外においても解説や動画を Web サイトで閲覧できるようにします。内容によっては模範解答を紹介します。

< 成績評価方法・基準 >

以下の割合で総合的に評価します。

- eラーニング教材 nanare の課題：30 %

- 講義内に提出する課題：15 %

- タイピング試験：20 %

- 理解度確認問題（中間）：10 %

- 理解度確認問題（前期末）：25 %

単位取得には、期限を遵守した各課題の提出、タイピング練習、試験対策が必要です。

普段の取り組みが評点に反映されやすくなるよう、各試験は eラーニング教材 nanare から抜粋して出題します。

< テキスト >

eラーニング教材「nanare」2021 年度版

教材費 3,500 円は初回登校日に講義内で徴収します。

忘れないように持参してください。

遠隔申請者には第 1 回の講義内で支払い方法を案内します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンスとタイピング計画

- 当講義の意義、進め方、注意事項、単位の評価基準などについて理解する。

- eラーニング教材 nanare の学習の流れ、課題の提出方法について理解する。

- タイピングスピードを測定し、今後の目標を設定する。

- nanare の主な学習内容：ウィンドウ操作など最も初歩的な PC 操作

第2回 基本的なウィンドウ操作とタッチタイピング

- タッチタイピングを習得するためのコツや練習方法について理解する。

- nanare の主な学習内容：（Word）行と段落の違いや適切な文字列の配置、画像の挿入

第3回 覚えておきたい Windows の機能と文書の新規作成

- ショートカットキーや IME 辞書の活用など、Windows の提供する作業効率向上のための機能について実習する。

- Word を利用して文書を新規作成し、ページ設定、名前を付けて保存する方法を理解する。

- nanare の主な学習内容：（Excel）セルへの値の入力や結合といった基本的なセル操作

第4回 電子メールの活用

- 電子メールの一般的な利用方法とマナー、及び学内 Webメール環境の操作について実習する。

- nanare の主な学習内容：（PowerPoint）スライドの作成・編集

第5回 効果的なプレゼン資料の作成（1）

- 聞き手が理解しやすいプレゼン資料のアウトラインを作成、実習する。

- nanare の主な学習内容：（Excel）セルの書式設定、計算式の入力

第6回 効果的なプレゼン資料の作成（2）

- 効果的なプレゼン資料作成について実習し、発表中のスライドの切り替えやノートの利用について実践感覚を掴む。

- nanare の主な学習内容：（Word）表の挿入、編集と検索、置換

第7回 ネット利用に関するトラブル事例

インターネット利用に関する各種のトラブル事例を確認し、プライバシーやセキュリティを意識した、トラブルに巻き込まれにくいネット活用姿勢について学習する。

- nanare の主な学習内容：（Excel）関数の利用、印刷範囲の設定

第8回 理解度確認問題（中間）

テスト形式で当該回までの理解度を確認する。

- nanare の主な学習内容：（Word）インデント・箇条書き・段落番号といった段落の編集、書式のコピー・貼り付けなどの操作

第9回 ファイルの圧縮と解凍

- 圧縮ファイルの形式や特徴について理解を深め、Windows 標準機能や圧縮解凍アプリを用い、ファイルやフォルダーの圧縮・解凍、暗号化について実習する。

- nanare の主な学習内容：（Excel）簡単なグラフの作成、各要素の表示・非表示の切り替え

第10回 エクスプローラー操作の基礎

- 階層構造の概念を理解し、ファイル・フォルダーの基本操作を習得する。

- nanare の主な学習内容：（Word）各種オブジェクトの追加と編集

第11回 エクスプローラー操作の応用

- ファイル・フォルダーの応用的な操作（特に多くのファイルを効率的に扱う操作）を習得する。

- nanare の主な学習内容：（Word）表の編集と効率的な表の作成（Excel）さまざまなオートフィル

第12回 Word 印刷実習

- Word の印刷時の調整と、発生しやすいトラブル及びその解決方法について実習する。

- PDF ファイルの特徴と活用について理解する。

- nanare の主な学習内容：（Excel）基本的な関数とセル参照、絶対参照

第13回 問題解決実習

- 特定のテーマ（問題）について、それらを手持ちのソフトウェア（道具）を利用して解決する実習を行う。

- [テーマの例] 家計簿

- nanare の主な学習内容：（一般知識）n 進数、文字コード、解像度

第14回 [対面・遠隔申請者]

理解度確認問題（前期末）とタイピング試験

[遠隔]

Wi-Fi の安全な利用

- [対面・遠隔申請者]

当該回までの eラーニング教材 nanare の課題の理解度を試験形式で確認する。

タイピング試験を実施する。

- [遠隔]

無線LAN (Wi-Fi) の基本的な構成と接続方法、また公共のWi-Fi環境を利用する際の注意事項について理解する。

第15回 [対面・遠隔申請者]

理解度確認問題（前期末）とタイピング試験

[遠隔]

Wi-Fi の安全な利用

- [対面・遠隔申請者]

当該回までの eラーニング教材 nanare の課題の理解度を試験形式で確認する。

タイピング試験を実施する。

- [遠隔]

無線LAN (Wi-Fi) の基本的な構成と接続方法、また公共のWi-Fi環境を利用する際の注意事項について理解する。

2022年度 後期

1.0単位

ICT実習 (A)【人文】

深田 美紀、青木 恵美、三木 洪子、富士野 克己、
岡元 直樹

< 授業の方法 >

講義・実習

< 授業の目的 >

この科目は、共通教育科目のリテラシー科目群、情報分野に属しています。

全学DPに掲げる、広い教養を身につけること、獲得した知識や技能をもって社会に貢献する力を身につけることを目的とします。

当講義では [第三者による一定の評価に基づく、自信を持って実務を遂行できる Word・Excel スキル] の習得を目指します。

知識面では、主にネットワークや情報モラルに関して、個人や家庭で必要とされるレベルから企業で必要とされるレベルにまで理解を深めていきます。

近年、企業にとってコンピューターの存在は必要不可欠のものとなっており、PC 操作については習得済みという前提で業務が組み立てられている場合も多く見受けられます。

また、何らかの業務に従事し始めた当初は、業務知識（業務遂行に必要な知識）の吸収に多くの時間を割く必要があり、PC 操作の学習・習得にまではなかなか手が回らないということもありがちな話です。

是非、当講義の目標レベルにまで到達し、学業においても社会生活においても、PC 操作に手を取られることなく、取り組むべき本質に集中できるようになっていただきたいと思えます。

なお、この授業は、実務経験のある教員が担当しています。学外（公的機関等）での情報教育業務を6年間経験しており、企業等で求められる情報に関する知識・スキルを、より実践的な観点から解説します。

< 到達目標 >

1. ICTプロフィシエンシー検定協会主催の P 検試験「準 2 級以上」に合格する
2. Word を利用し、複数ページで構成された文書を効率よく作成できる
3. Excel を利用し、件数の多い表の作成と集計、及び簡単な分析を行うことができる
4. 一般的なメディアについての知識を持ち、適切な方法でデータの受け渡しを行える
5. アカウントの安全な保持手段についての理解を深める。

< 授業のキーワード >

ソフトウェア間の連携、知的財産、アカウント管理、BI

< 授業の進め方 >

実習を中心に講義を進めます。

テキストとして eラーニング教材「nanare」を利用します。

一部の回を除き、毎回、講義内で提示された課題を提出してもらいます。

< 履修するにあたって >

(1) 遅刻について

当講義は実習が中心となるため、遅刻者対応は授業を一時的に中断させるということを認識しておいてください。

(2) 欠席について

欠席した場合は、次の講義までに必ず講義内容を自習してください。

講義開始 20 分以降に入室した学生は欠席とみなします。遅刻 3 回で欠席 1 回とし、欠席回数が全講義回数の 3 分の 1 を超えた場合は評価不能とみなします。

(3) アカウントについて

手元に届いているユーザーID、パスワードが記載されたハガキを必ず持参してください。

情報処理実習室の PC を利用する際に、ログイン用のユーザーID、パスワードが必要です。

紛失した場合は、必ず申し出てください。アカウントの貸し借りは厳禁です。

(4) 講義に臨む姿勢について

各学生の PC 操作スキルには大きな開きがありますが、他人と比較することなく、自己のスキル向上に努めるようにしてください。

(5) 学習環境について

毎回、eラーニング教材 nanare の課題が出ますので、自宅で学習できる環境を整えることが望ましいです。

PC を所有していない人は購入することを推奨します。

なお、大学情報処理実習室の PC の OS は Windows であり、Windows を基本として説明を行います。

< 授業時間外に必要な学修 >

後期理解度確認問題は eラーニング教材 nanare の課題から出題されますので、指示された範囲を学習しておいてください。

当講義ではタイピングスキルを重視しています。P 検準 2 級の合格基準（日本語 75 文字 / 分以上のスピードでタッチタイピングができる）をクリアしていない場合、できるだけ日を置かず集中的に練習し、早めに目標に到達してください。

- ・学習に要する時間目安
 - eラーニング教材 nanare の学習：1～2 時間/週（個人差あり）
 - タイピングの練習：10 分/日（個人差あり）
- タイピングが目標速度に達していない場合のみ
< 提出課題など >

講義内に提出する課題と、eラーニング教材 nanare の課題があります。

eラーニング教材 nanare の課題の完了期限は 4 回あります。

1. 第 04 回講義日の前日 24 時までに 157-191 までの範囲を学習済みにすること
2. 第 06 回講義日の前日 24 時までに 192-206 までの範囲を学習済みにすること
3. 第 09 回講義日の前日 24 時までに 207-224 までの範囲を学習済みにすること
4. 第 14 回講義日の前日 24 時までに 225-231 までの範囲を学習済みにすること

eラーニング教材 nanare の課題のフィードバックは教材の自動添削機能によって行い、講義時間内に質疑応答の時間を設けます。

講義内に提出する課題のフィードバックは講義時間内に行い、講義時間外においても解説や動画を Web サイトで閲覧できるようにします。内容によっては模範解答を紹介します。

< 成績評価方法・基準 >

以下の割合で総合的に評価します。

- eラーニング教材 nanare の課題：30 %
- 講義内に提出する課題：15 %
- 後期理解度確認問題：25 %
- P 検：30 %

単位取得には、各課題の提出と検定試験対策が必要です。普段の取り組みが評点に反映されやすくなるよう、後期理解度確認問題は nanare から抜粋して出題します。

< テキスト >

eラーニング教材「nanare」2021 年度版

後期からの受講生は、教材費 3,500 円を初回登校日に持参してください。

遠隔申請者には第 1 回の講義内で支払い方法を案内します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンスと前期の復習

- 当講義の意義、進め方、注意事項、単位の評価基準などについて理解する。
- eラーニング教材 nanare の学習の流れについて理解する。

- 前期の内容（実技、知識問題）の復習をする。
- nanare の主な学習内容：（Excel）データの並べ替え、複数シートの操作

第2回 Office ソフトウェア間の連携

- Office ソフトウェアの連携（特に Word 文書内に Excel の成果物を取り込む方法）について理解・実習する。

- nanare の主な学習内容：（Word）ヘッダーとフッターの設定、セクションの利用

第3回 アカウントの管理

- 各種オンラインサービスを利用するために個人や企業が保持するアカウントの数は増加の一途を辿っている。それらの不適切な管理が招くリスクと安全な保持手段についての理解を深める。

- nanare の主な学習内容：（Excel）ヘッダーとフッターの設定方法、グラフの構成要素

第4回 Word・Excel の実技問題、知識確認問題

- 主に実技問題で 3 級レベルの操作スキルのレベルを確認する。

- nanare の主な学習内容：（Word）トリミング（Excel）オートフィルター、ROUND 関数

第5回 P 検 3 級模擬演習とタイピング測定

- P 検 3 級の模擬試験に取り組み、自身のレベルと得意/不得意分野を多角的に確認する。

タイピング測定を実施し、今後の目標を設定する。

第6回 Excel データのインポートと表・グラフの作成

- 区切り文字で区切られた異なるファイル形式のデータを Excel に取り込み、表やグラフを作成する方法について理解・実習する。

- nanare の主な学習内容：（Word）スタイルの利用（Excel）RANK 関数、VLOOKUP 関数

第7回 Word レポート作成講座

- 見出しと Word のスタイル機能を活用し、複数ページに渡る文書を作成するポイントを理解する。

- nanare の主な学習内容：（Excel）複合グラフ、COUNTIF関数、SUMIF関数

第8回 Excel 関数集中講座

- Excel の関数に対する苦手意識解消を目的とし、身近な例から関数の概念と利用方法を理解する。

- nanare の主な学習内容：（Word）索引の作成、差し込み印刷（Excel）ユーザー定義の表示形式

第9回 Excel 関数を使用した問題解決実習

- 特定のテーマ（問題）について、それらを手持ちのソフトウェア（道具）を利用して解決する実習を行う。

- [テーマの例] 簡易レジスター作成

- nanare の主な学習内容：（Word）文書の保護（Excel）テーブル機能

第10回 P 検準 2 級 Word・Excel の実技問題、知識確認問題

- 準 2 級レベルの Word・Excel の操作スキルのレベルを

確認する。

各自が自己分析に基づいた検定試験対策を行う。

- nanare の主な学習内容：(Excel)ピボットテーブルの作成と編集

第11回 P 検準 2 級模擬演習とタイピング測定

P 検準 2 級の模擬試験に取り組み、自身のレベルと得意/不得意分野を多角的に確認する。

タイピング測定を実施し、検定試験の受験級を判断する。

第12回 ドキュメント情報の編集とファイル形式の変換
保存したファイルの情報の編集、保護、ファイル形式の変換について実習する。

第13回 P 検本番試験

検定試験形式で自身の ICT スキルを確認する。

第14回 Excel による最も簡単な意思決定支援

実務では、データの収集 蓄積 分析を経て意思決定を行うことが多々ある(この一連の考え方を BI と呼ぶ)。アンケートを通して最も簡単な BI の流れを俯瞰する。アンケートの集計結果からデータの分析を行う。

第15回 後期理解度確認問題

後期理解度確認問題で自身の ICT スキルを確認する。

2022年度 後期

1.0単位

ICT実習 (A)【心理】

深田 美紀、青木 恵美、三木 洪子、富士野 克己、岡元 直樹

< 授業の方法 >

講義・実習

< 授業の目的 >

この科目は、共通教育科目のリテラシー科目群、情報分野に属しています。

全学DPに掲げる、広い教養を身につけること、獲得した知識や技能をもって社会に貢献する力を身につけることを目的とします。

当講義では[第三者による一定の評価に基づく、自信を持って実務を遂行できる Word・Excel スキル]の習得を目指します。

知識面では、主にネットワークや情報モラルに関して、個人や家庭で必要とされるレベルから企業で必要とされるレベルにまで理解を深めていきます。

近年、企業にとってコンピューターの存在は必要不可欠のものとなっており、PC 操作については習得済みという前提で業務が組み立てられている場合も多く見受けられます。

また、何らかの業務に従事し始めた当初は、業務知識(業務遂行に必要な知識)の吸収に多くの時間を割く必要があり、PC 操作の学習・習得にまではなかなか手が回らないということもありがちな話です。

是非、当講義の目標レベルにまで到達し、学業においても社会生活においても、PC 操作に手を取られることなく、取り組むべき本質に集中できるようになっていただきたいと思います。

なお、この授業は、実務経験のある教員が担当しています。学外(公的機関等)での情報教育業務を6年間経験しており、企業等で求められる情報に関する知識・スキルを、より実践的な観点から解説します。

< 到達目標 >

1. ICTプロフィシエンシー検定協会主催の P 検試験「準 2 級以上」に合格する
2. Word を利用し、複数ページで構成された文書を効率よく作成できる
3. Excel を利用し、件数の多い表の作成と集計、及び簡単な分析を行うことができる
4. 一般的なメディアについての知識を持ち、適切な方法でデータの受け渡しを行える
5. アカountの安全な保持手段についての理解を深める。

< 授業のキーワード >

ソフトウェア間の連携、知的財産、アカウント管理、BI
< 授業の進め方 >

実習を中心に講義を進めます。

テキストとして eラーニング教材「nanare」を利用します。

一部の回を除き、毎回、講義内で提示された課題を提出してもらいます。

< 履修するにあたって >

(1) 遅刻について

当講義は実習が中心となるため、遅刻者対応は授業を一時的に中断させるということを認識しておいてください。

(2) 欠席について

欠席した場合は、次の講義までに必ず講義内容を自習してください。

講義開始 20 分以降に入室した学生は欠席とみなします。遅刻 3 回で欠席 1 回とし、欠席回数が全講義回数の 3 分の 1 を超えた場合は評価不能とみなします。

(3) アカountについて

手元に届いているユーザーID、パスワードが記載されたハガキを必ず持参してください。

情報処理実習室の PC を利用する際に、ログイン用のユーザーID、パスワードが必要です。

紛失した場合は、必ず申し出てください。アカウントの貸し借りは厳禁です。

(4) 講義に臨む姿勢について

各学生の PC 操作スキルには大きな開きがありますが、

他人と比較することなく、自己のスキル向上に努めるようにしてください。

(5) 学習環境について

毎回、eラーニング教材 nanare の課題が出ますので、自宅で学習できる環境を整えることが望ましいです。

PC を所有していない人は購入することを推奨します。なお、大学情報処理実習室の PC の OS は Windows であり、Windows を基本として説明を行います。

< 授業時間外に必要な学修 >

後期理解度確認問題は eラーニング教材 nanare の課題から出題されますので、指示された範囲を学習しておいてください。

当講義ではタイピングスキルを重視しています。P 検準 2 級の合格基準（日本語 75 文字/分以上のスピードでタッチタイピングができる）をクリアしていない場合、できるだけ日を置かず集中的に練習し、早めに目標に到達してください。

・学習に要する時間目安

- eラーニング教材 nanare の学習：1~2 時間/週（個人差あり）

- タイピングの練習：10 分/日（個人差あり）

タイピングが目標速度に達していない場合のみ

< 提出課題など >

講義内に提出する課題と、eラーニング教材 nanare の課題があります。

eラーニング教材 nanare の課題の完了期限は 4 回あります。

1. 第 04 回講義日の前日 24 時までに 157-191 までの範囲を学習済みにすること

2. 第 06 回講義日の前日 24 時までに 192-206 までの範囲を学習済みにすること

3. 第 09 回講義日の前日 24 時までに 207-224 までの範囲を学習済みにすること

4. 第 14 回講義日の前日 24 時までに 225-231 までの範囲を学習済みにすること

eラーニング教材 nanare の課題のフィードバックは教材の自動添削機能によって行い、講義時間内に質疑応答の時間を設けます。

講義内に提出する課題のフィードバックは講義時間内に行い、講義時間外においても解説や動画を Web サイトで閲覧できるようにします。内容によっては模範解答を紹介します。

< 成績評価方法・基準 >

以下の割合で総合的に評価します。

- eラーニング教材 nanare の課題：30 %

- 講義内に提出する課題：15 %

- 後期理解度確認問題：25 %

- P 検：30 %

単位取得には、各課題の提出と検定試験対策が必要です。普段の取り組みが評点に反映されやすくなるよう、後期理解度確認問題は nanare から抜粋して出題します。

< テキスト >

eラーニング教材「nanare」2021 年度版

後期からの受講生は、教材費 3,500 円を初回登校日に持参してください。

遠隔申請者には第 1 回の講義内で支払い方法を案内します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンスと前期の復習

- 当講義の意義、進め方、注意事項、単位の評価基準などについて理解する。

- eラーニング教材 nanare の学習の流れについて理解する。

- 前期の内容（実技、知識問題）の復習をする。

- nanare の主な学習内容：（Excel）データの並べ替え、複数シートの操作

第2回 Office ソフトウェア間の連携

- Office ソフトウェアの連携（特に Word 文書内に Excel の成果物を取り込む方法）について理解・実習する。

- nanare の主な学習内容：（Word）ヘッダーとフッターの設定、セクションの利用

第3回 アカウントの管理

- 各種オンラインサービスを利用するために個人や企業が保持するアカウントの数は増加の一途を辿っている。それらの不適切な管理が招くリスクと安全な保持手段についての理解を深める。

- nanare の主な学習内容：（Excel）ヘッダーとフッターの設定方法、グラフの構成要素

第4回 Word・Excel の実技問題、知識確認問題

主に実技問題で 3 級レベルの操作スキルのレベルを確認する。

- nanare の主な学習内容：（Word）トリミング（Excel）オートフィルター、ROUND 関数

第5回 P 検 3 級模擬演習とタイピング測定

P 検 3 級の模擬試験に取り組み、自身のレベルと得意/不得意分野を多角的に確認する。

タイピング測定を実施し、今後の目標を設定する。

- nanare の主な学習内容：（Excel）IF関数、複数の関数の組み合わせ

第6回 Excel データのインポートと表・グラフの作成

- 区切り文字で区切られた異なるファイル形式のデータを Excel に取り込み、表やグラフを作成する方法について理解・実習する。

- nanare の主な学習内容：(Word)スタイルの利用 (Excel) RANK 関数、VLOOKUP 関数

第7回 Word レポート作成講座

- 見出しと Word のスタイル機能を活用し、複数ページに渡る文書を作成するポイントを理解する。

- nanare の主な学習内容：(Excel)複合グラフ、COUNTIF関数、SUMIF関数

第8回 Excel 関数集中講座

- Excel の関数に対する苦手意識解消を目的とし、身近な例から関数の概念と利用方法を理解する。

- nanare の主な学習内容：(Word)索引の作成、差し込み印刷 (Excel) ユーザー定義の表示形式

第9回 Excel 関数を使用した問題解決実習

- 特定のテーマ(問題)について、それらを手持ちのソフトウェア(道具)を利用して解決する実習を行う。

- [テーマの例] 簡易レジスター作成

- nanare の主な学習内容：(Word)文書の保護 (Excel) テーブル機能

第10回 P 検準 2 級 Word・Excel の実技問題、知識確認問題

準 2 級レベルの Word・Excel の操作スキルのレベルを確認する。

各自が自己分析に基づいた検定試験対策を行う。

- nanare の主な学習内容：(Excel)ピボットテーブルの作成と編集

第11回 P 検準 2 級模擬演習とタイピング測定

P 検準 2 級の模擬試験に取り組み、自身のレベルと得意/不得意分野を多角的に確認する。

タイピング測定を実施し、検定試験の受験級を判断する。

第12回 ドキュメント情報の編集とファイル形式の変換
保存したファイルの情報の編集、保護、ファイル形式の変換について実習する。

第13回 P 検本番試験

検定試験形式で自身の ICT スキルを確認する。

第14回 Excel による最も簡単な意思決定支援

実務では、データの収集 蓄積 分析を経て意思決定を行うことが多々ある(この一連の考え方を BI と呼ぶ)。

アンケートを通して最も簡単な BI の流れを俯瞰する。

アンケートの集計結果からデータの分析を行う。

第15回 後期理解度確認問題

後期理解度確認問題で自身の ICT スキルを確認する。

2022年度 後期

1.0単位

ICT実習 【総リハ】

濱本 季之、橋本 貴

<授業の方法>

対面授業(講義・実習)

<授業の目的>

この科目は、全学DPが示す問題を発見・解決する能力の基盤となる知識や技術を身につけることを目的とする。ビジネスシーンにおいては、プレゼンテーションスキルとコンピュータースキルが重視されており、社会ではこの2つのスキル習得を学生に求める声も多い。

この科目では、Microsoft PowerPointとMicrosoft Excelを使用して、社会に通用するプレゼンテーションスキルと必須とされているExcelスキルを身につける。

Microsoft PowerPointでは、プレゼンテーションスキルを習得する。実習ではアプリケーション操作だけでなく、聞き手に興味を持たせる構成やわかりやすいプレゼンテーションのためのビジュアル化ができるようになることを目的とし、社会に通用するプレゼンテーションスキルの習得を目指す。

Microsoft Excelでは、様々なデータを元に作表や計算、グラフ化、データベース利用などができるように基礎を習得する。その上で様々なビジネスシーンで役立つ汎用性の高いExcel関数を学び、社会で必要とされるコンピュータースキルを習得することを目指す。

また、この科目の担当者は実務経験のある教員である。企業においてSE(システムエンジニア)や情報処理関連分野の研修講師として10年以上の経験がある。常に最新の情報や技術を踏まえ、時に専門分野についてもわかりやすく伝えていきたい。

<到達目標>

1. プレゼンテーションに必要な知識を習得し、訴求力のあるプレゼンテーション資料を作成できる。
2. Excelを使用して、計算式を設定した表作成や目的に合ったグラフ作成ができる。
3. 効率的に作業を行うための使用頻度が高いExcel関数を使うことができる。
4. タッチタイピングで速く正確な入力ができる。
5. ビジネス形式のメールが作成できる。

<授業のキーワード>

プレゼンテーション・Microsoft PowerPoint・Microsoft Excel・タッチタイピング・ビジネスメール

<授業の進め方>

すべての講義は実習室のパソコンを使用する実習を中心とした内容である。

毎回、設定されているテーマに基づく機能習得を目指し、時間の許す限り復習も行う。

毎回、授業の冒頭にタイピング練習を行い、タッチタイピングができるようにスキルアップを目指す。

授業の最後に指示されたテーマに基づくメールを作成し、講師宛に送信する。

<履修するにあたって>

毎回、必ず、配布プリントと教科書を持参すること。実習室のパソコンを使用する際、“ユーザー名(アカウント)”と“パスワード”が必要である。貸出用は無

いので忘れないように注意すること。

遅刻すると自分のパソコンの実習環境が整わなかったり、操作がわからなくなったりするため、遅刻しないように注意すること。

実習は原則として前回授業の受講を前提として行われる。欠席すると大幅な遅れにつながる場合があるため、欠席しないように注意すること。やむを得ない理由で欠席した場合は、次の授業までに自習しておくこと。

コンピューターは精密機器であるため、取り扱いについては十分注意すること。

教室内では飲食禁止。また、指定された座席に着席すること。

質問は電子メールでも受け付ける。

その他すべて教員の指示に従うこと。不明な点があれば遠慮なく担当教員に尋ねること。

この講義は、Microsoft Windows 10とMicrosoft Office 2016の環境で行う。

推奨パソコンスペック

OS：Windows10（Home Edition以上）

Sモードは制約が多いため推奨いたしません。

Officeアプリ（Word、Excel等）は本学学生であれば入学後、無償でインストールができます。

Microsoftとの包括契約

CPU：Intel Core i5（第10世代以降）またはAMD Ryzen 5（第3世代以降）以上

Wi-Fi：必須（Wi-Fi5（11ac）以上対応）

メモリ：8GB以上

ディスク：256GB以上（SSD推奨）

Webカメラ：カメラ付き必須推奨

モニタ：13インチ以上

バッテリー：6時間程度は稼働可能なもの

< 授業時間外に必要な学修 >

各種機能の習得には提供される教材データを利用して、2時間程度の復習を行うこと。

また、日常的にタイピング練習を実施すること。

< 提出課題など >

技能習得確認のための課題作成テスト（第5回）・中間テスト（第10回）・実技テスト（第15回）・タイピングテスト（第9回・第14回）を授業中に実施する。

提示が必要な模範解答はdotCampusにて対応する。

その他、毎回授業で作成したファイルを、学内ネットワークシステムを利用して提出する。提示が必要な模範解答は配布ファイルで対応する。

< 成績評価方法・基準 >

学習活動評価40％・各種テスト評価60％の割合で評価する。

定期試験は実施しない。

学習活動評価は以下とする

毎回の授業で作成した成果ファイルの提出
成果ファイルの完成度
授業への参加度

各種テストは以下とする

課題作成テスト・中間テスト・実技テスト・タイピングテスト2回

その他

毎回出席確認を行う。

授業回数の3分の2以上の出席が必要。そうでない場合は、単位を認定しない。

他人データの流用や作成データのコピー等不正行為が行われた場合、単位を認定しない。

< テキスト >

神戸学院大学情報支援事務室編集「情報活用の基礎2022年度版」

その他適宜、補助教材を配布する。

< 授業計画 >

第1回 授業や評価に関する案内

Power Pointの実習

授業内容や評価に関する案内を行う。

Power Pointを使用し、スライド作成実習を行う。（テーマ・箇条書き・オンライン画像・書式設定）

第2回 Power Pointの実習

Power Pointを使用し、スライド作成実習を行う。（SmartArt・画面切り替え効果・アニメーション・リハーサル・配布資料・スライドマスタ・発表技術）

第3回 Power Pointの実習

Power Pointを使用し、ビジュアル化演習を行う。

第4回 課題作成実習

次のテストで使用するプレゼンテーションの企画を行う。

第5回 課題作成テスト（実技）

ここまでのPowerPoint技能習得確認のための課題作成テストを実施する。

第6回 Excel基礎

（表計算）

作表・表計算・データベースの実習を行う。できるだけ多くの問題に取り組み、習得する。（数式・オートSUM・表の書式設定・表示形式）

第7回 Excel基礎

（表計算）

作表・表計算・データベースの実習を行う。できるだけ多くの問題に取り組み、習得する。（相対参照・絶対参照・データベース）

第8回 Excel基礎

（グラフ）

様々なグラフの作成実習を行う。できるだけ多くの問題に取り組み、習得する。

第9回 タイピングテスト

Excel基礎復習演習

タイピング技術の習得確認の為、タイピングテストを実施する。

Excel基礎範囲の復習演習を実施する。

第10回 中間テスト(実技)

ここまでのExcel基礎技能習得確認のための中間テストを実施する。

第11回 Excel応用

(端数処理関数)

端数処理関数と条件付き書式を習得する。基礎範囲を含め、できるだけ多くの問題に取り組み、応用力を付ける。

第12回 Excel応用

(条件分岐関数)

条件分岐関数・順位を求める関数・個数関数を習得する。前回の関数と組み合わせ、応用的な問題に取り組む。

第13回 Excel応用

(文字列検索関数)

文字列検索関数とエラー表示回避方法及び入力規則を習得する。前回、前々回の関数と組み合わせ、実践的な問題に取り組む。

第14回 タイピングテスト

Excel応用復習演習

タイピング技術の習得確認の為、タイピングテストを実施する。

Excel応用範囲の復習演習を実施する。

第15回 実技テスト(実技)

ここまでのExcel応用技能習得確認のための実技テストを実施する。

毎回 タイピング練習

成果ファイル提出

ICT実習と同様にタイピング練習を継続して行う。必要なファイルは講師の指示により提出する。

2022年度 後期

1.0単位

ICT実習 A - 1【栄養管理】

濱本 季之、竹内 晶子

< 授業の方法 >

対面授業(講義・実習)

< 授業の目的 >

この科目は、全学DPが示す問題を発見・解決する能力の基盤となる知識や技術を身につけることを目的とする。ビジネスシーンにおいては、プレゼンテーションスキルとコンピュータスキルが重視されており、社会ではこの2つのスキル習得を学生に求める声も多い。

この科目では、Microsoft PowerPointとMicrosoft Exc

elを使用して、社会に通用するプレゼンテーションスキルと必須とされているExcelスキルを身につける。

Microsoft PowerPointでは、プレゼンテーションスキルを習得する。実習ではアプリケーション操作だけでなく、聞き手に興味を持たせる構成やわかりやすいプレゼンテーションのためのビジュアル化ができるようになることを目的とし、社会に通用するプレゼンテーションスキルの習得を目指す。

Microsoft Excelでは、様々なデータを元に作表や計算、グラフ化、データベース利用などができるように基礎を習得する。その上で様々なビジネスシーンで役立つ汎用性の高いExcel関数を学び、社会で必要とされるコンピュータスキルを習得することを目指す。

また、この科目の担当者は実務経験のある教員である。企業においてSE(システムエンジニア)や情報処理関連分野の研修講師として10年以上の経験がある。常に最新の情報や技術を踏まえ、時に専門分野についてもわかりやすく伝えていきたい。

< 到達目標 >

1. プレゼンテーションに必要な知識を習得し、訴求力のあるプレゼンテーション資料を作成できる。
2. Excelを使用して、計算式を設定した表作成や目的に合ったグラフ作成ができる。
3. 効率的に作業を行うための使用頻度が高いExcel関数を使うことができる。
4. タッチタイピングで速く正確な入力ができる。
5. ビジネス形式のメールが作成できる。

< 授業のキーワード >

プレゼンテーション・Microsoft PowerPoint・Microsoft Excel・タッチタイピング・ビジネスメール

< 授業の進め方 >

すべての講義は実習室のパソコンを使用する実習を中心とした内容である。

毎回、設定されているテーマに基づく機能習得を目指し、時間の許す限り復習も行う。

毎回、授業の冒頭にタイピング練習を行い、タッチタイピングができるようにスキルアップを目指す。

授業の最後に指示されたテーマに基づくメールを作成し、講師宛に送信する。

< 履修するにあたって >

毎回、必ず、配布プリントと教科書を持参すること。実習室のパソコンを使用する際、“ユーザー名(アカウント)”と“パスワード”が必要である。貸出用は無いので忘れないように注意すること。

遅刻すると自分のパソコンの実習環境が整わなかったり、操作がわからなくなったりするため、遅刻しないように注意すること。

実習は原則として前回授業の受講を前提として行われる。欠席すると大幅な遅れにつながる場合があるため、欠席しないように注意すること。やむを得ない理由で欠

席した場合は、次の授業までに自習しておくこと。

コンピューターは精密機器であるため、取り扱いについては十分注意すること。

教室内では飲食禁止。また、指定された座席に着席すること。

質問は電子メールでも受け付ける。

その他すべて教員の指示に従うこと。不明な点があれば遠慮なく担当教員に尋ねること。

この講義は、Microsoft Windows 10とMicrosoft Office 2016の環境で行う。

推奨パソコンスペック

OS：Windows10（Home Edition以上）

Sモードは制約が多いため推奨いたしません。

Officeアプリ（Word、Excel等）は本学学生であれば入学後、無償でインストールができます。

Microsoftとの包括契約

CPU：Intel Core i5（第10世代以降）またはAMD Ryzen 5（第3世代以降）以上

Wi-Fi：必須（Wi-Fi5（11ac）以上対応）

メモリ：8GB以上

ディスク：256GB以上（SSD推奨）

Webカメラ：カメラ付き必須推奨

モニタ：13インチ以上

バッテリー：6時間程度は稼働可能なもの

< 授業時間外に必要な学修 >

各種機能の習得には提供される教材データを利用して、2時間程度の復習を行うこと。

また、日常的にタイピング練習を実施すること。

< 提出課題など >

技能習得確認のための課題作成テスト（第5回）・中間テスト（第10回）・実技テスト（第15回）・タイピングテスト（第9回・第14回）を授業中に実施する。

提示が必要な模範解答はdotCampusにて対応する。

その他、毎回授業で作成したファイルを、学内ネットワークシステムを利用して提出する。提示が必要な模範解答は配布ファイルで対応する。

< 成績評価方法・基準 >

学習活動評価40％・各種テスト評価60％の割合で評価する。

定期試験は実施しない。

学習活動評価は以下とする

毎回の授業で作成した成果ファイルの提出

成果ファイルの完成度

授業への参加度

各種テストは以下とする

課題作成テスト・中間テスト・実技テスト・タイピングテスト2回

その他

毎回出席確認を行う。

授業回数の3分の2以上の出席が必要。そうでない場合は、単位を認定しない。

他人データの流用や作成データのコピー等不正行為が行われた場合、単位を認定しない。

< テキスト >

神戸学院大学情報支援事務室編集「情報活用の基礎2022年度版」

その他適宜、補助教材を配布する。

< 授業計画 >

第1回 授業や評価に関する案内

Power Pointの実習

授業内容や評価に関する案内を行う。

Power Pointを使用し、スライド作成実習を行う。（テーマ・箇条書き・オンライン画像・書式設定）

第2回 Power Pointの実習

Power Pointを使用し、スライド作成実習を行う。（SmartArt・画面切り替え効果・アニメーション・リハーサル・配布資料・スライドマスタ・発表技術）

第3回 Power Pointの実習

Power Pointを使用し、ビジュアル化演習を行う。

第4回 課題作成実習

次のテストで使用するプレゼンテーションの企画を行う。

第5回 課題作成テスト（実技）

ここまでのPowerPoint技能習得確認のための課題作成テストを実施する。

第6回 Excel基礎

（表計算）

作表・表計算・データベースの実習を行う。できるだけ多くの問題に取り組み、習得する。（数式・オートSUM・表の書式設定・表示形式）

第7回 Excel基礎

（表計算）

作表・表計算・データベースの実習を行う。できるだけ多くの問題に取り組み、習得する。（相対参照・絶対参照・データベース）

第8回 Excel基礎

（グラフ）

様々なグラフの作成実習を行う。できるだけ多くの問題に取り組み、習得する。

第9回 タイピングテスト

Excel基礎復習演習

タイピング技術の習得確認の為、タイピングテストを実施する。

Excel基礎範囲の復習演習を実施する。

第10回 中間テスト（実技）

ここまでのExcel基礎技能習得確認のための中間テスト

を実施する。

第11回 Excel応用

(端数処理関数)

端数処理関数と条件付き書式を習得する。基礎範囲を含め、できるだけ多くの問題に取り組み、応用力を付ける。

第12回 Excel応用

(条件分岐関数)

条件分岐関数・順位を求める関数・個数関数を習得する。前回の関数と組み合わせ、応用的な問題に取り組む。

第13回 Excel応用

(文字列検索関数)

文字列検索関数とエラー表示回避方法及び入力規則を習得する。前回、前々回の関数と組み合わせ、実践的な問題に取り組む。

第14回 タイピングテスト

Excel応用復習演習

タイピング技術の習得確認の為、タイピングテストを実施する。

Excel応用範囲の復習演習を実施する。

第15回 実技テスト(実技)

ここまでのExcel応用技能習得確認のための実技テストを実施する。

毎回 タイピング練習

成果ファイル提出

ICT実習 と同様にタイピング練習を継続して行う。必要なファイルは講師の指示により提出する。

2022年度 後期

1.0単位

ICT実習 C【臨検】

上村 千里

< 授業の方法 >

対面授業(講義・実習)

< 授業の目的 >

この科目は、全学DPが示す問題を発見・解決する能力の基盤となる知識や技術を身につけることを目的とする。ビジネスシーンにおいては、プレゼンテーションスキルとコンピュータスキルが重視されており、社会ではこの2つのスキル習得を学生に求める声も多い。

この科目では、Microsoft PowerPointとMicrosoft Excelを使用して、社会に通用するプレゼンテーションスキルと必須とされているExcelスキルを身につける。

Microsoft PowerPointでは、プレゼンテーションスキルを習得する。実習ではアプリケーション操作だけでなく、聞き手に興味を持たせる構成やわかりやすいプレゼンテーションのためのビジュアル化ができるようになることを目的とし、社会に通用するプレゼンテーションスキルの習得を目指す。

Microsoft Excelでは、様々なデータを元に作表や計算、グラフ化、データベース利用などができるように基礎を習得する。その上で様々なビジネスシーンで役立つ汎用性の高いExcel関数を学び、社会で必要とされるコンピュータスキルを習得することを目指す。

また、この科目の担当者は実務経験のある教員である。企業においてSE(システムエンジニア)や情報処理関連分野の研修講師として10年以上の経験がある。常に最新の情報や技術を踏まえ、時に専門分野についてもわかりやすく伝えていきたい。

< 到達目標 >

1. プレゼンテーションに必要な知識を習得し、訴求力のあるプレゼンテーション資料を作成できる。
2. Excelを使用して、計算式を設定した表作成や目的に合ったグラフ作成ができる。
3. 効率的に作業を行うための使用頻度が高いExcel関数を使うことができる。
4. タッチタイピングで速く正確な入力ができる。
5. ビジネス形式のメールが作成できる。

< 授業のキーワード >

プレゼンテーション・Microsoft PowerPoint・Microsoft Excel・タッチタイピング・ビジネスメール

< 授業の進め方 >

すべての講義は実習室のパソコンを使用する実習を中心とした内容である。

毎回、設定されているテーマに基づく機能習得を目指し、時間の許す限り復習も行う。

毎回、授業の冒頭にタイピング練習を行い、タッチタイピングができるようにスキルアップを目指す。

授業の最後に指示されたテーマに基づくメールを作成し、講師宛に送信する。

< 履修するにあたって >

毎回、必ず、配布プリントと教科書を持参すること。実習室のパソコンを使用する際、“ユーザー名(アカウント)”と“パスワード”が必要である。貸出用は無いので忘れないように注意すること。

遅刻すると自分のパソコンの実習環境が整わなかったり、操作がわからなくなったりするため、遅刻しないように注意すること。

実習は原則として前回授業の受講を前提として行われる。欠席すると大幅な遅れにつながる場合があるため、欠席しないように注意すること。やむを得ない理由で欠席した場合は、次の授業までに自習しておくこと。

コンピューターは精密機器であるため、取り扱いについては十分注意すること。

教室内では飲食禁止。また、指定された座席に着席すること。

質問は電子メールでも受け付ける。

その他すべて教員の指示に従うこと。不明な点があれば遠慮なく担当教員に尋ねること。

この講義は、Microsoft Windows 10とMicrosoft Office 2016の環境で行う。

推奨パソコンスペック

OS：Windows10（Home Edition以上）

Sモードは制約が多いため推奨いたしません。

Officeアプリ（Word、Excel等）は本学学生であれば入学後、無償でインストールができます。

Microsoftとの包括契約

CPU：Intel Core i5（第10世代以降）またはAMD Ryzen 5（第3世代以降）以上

Wi-Fi：必須（Wi-Fi5（11ac）以上対応）

メモリ：8GB以上

ディスク：256GB以上（SSD推奨）

Webカメラ：カメラ付き必須推奨

モニタ：13インチ以上

バッテリー：6時間程度は稼働可能なもの

< 授業時間外に必要な学修 >

各種機能の習得には提供される教材データを利用して、2時間程度の復習を行うこと。

また、日常的にタイピング練習を実施すること。

< 提出課題など >

技能習得確認のための課題作成テスト（第5回）・中間テスト（第10回）・実技テスト（第15回）・タイピングテスト（第9回・第14回）を授業中に実施する。

提示が必要な模範解答はdotCampusにて対応する。

その他、毎回授業で作成したファイルを、学内ネットワークシステムを利用して提出する。提示が必要な模範解答は配布ファイルで対応する。

< 成績評価方法・基準 >

学習活動評価40％・各種テスト評価60％の割合で評価する。

定期試験は実施しない。

学習活動評価は以下とする

毎回の授業で作成した成果ファイルの提出

成果ファイルの完成度

授業への参加度

各種テストは以下とする

課題作成テスト・中間テスト・実技テスト・タイピングテスト2回

その他

毎回出席確認を行う。

授業回数数の3分の2以上の出席が必要。そうでない場合は、単位を認定しない。

他人データの流用や作成データのコピー等不正行為が行われた場合、単位を認定しない。

< テキスト >

神戸学院大学情報支援事務局編集「情報活用の基礎2022年度版」

その他適宜、補助教材を配布する。

< 授業計画 >

第1回 授業や評価に関する案内

Power Pointの実習

授業内容や評価に関する案内を行う。

Power Pointを使用し、スライド作成実習を行う。（テーマ・箇条書き・オンライン画像・書式設定）

第2回 Power Pointの実習

Power Pointを使用し、スライド作成実習を行う。（SmartArt・画面切り替え効果・アニメーション・リハーサル・配布資料・スライドマスタ・発表技術）

第3回 Power Pointの実習

Power Pointを使用し、ビジュアル化演習を行う。

第4回 課題作成実習

次のテストで使用するプレゼンテーションの企画を行う。

第5回 課題作成テスト（実技）

ここまでのPowerPoint技能習得確認のための課題作成テストを実施する。

第6回 Excel基礎

（表計算）

作表・表計算・データベースの実習を行う。できるだけ多くの問題に取り組み、習得する。（数式・オートSUM・表の書式設定・表示形式）

第7回 Excel基礎

（表計算）

作表・表計算・データベースの実習を行う。できるだけ多くの問題に取り組み、習得する。（相対参照・絶対参照・データベース）

第8回 Excel基礎

（グラフ）

様々なグラフの作成実習を行う。できるだけ多くの問題に取り組み、習得する。

第9回 タイピングテスト

Excel基礎復習演習

タイピング技術の習得確認の為、タイピングテストを実施する。

Excel基礎範囲の復習演習を実施する。

第10回 中間テスト（実技）

ここまでのExcel基礎技能習得確認のための中間テストを実施する。

第11回 Excel応用

（端数処理関数）

端数処理関数と条件付き書式を習得する。基礎範囲を含め、できるだけ多くの問題に取り組み、応用力を付ける。

第12回 Excel応用

（条件分岐関数）

条件分岐関数・順位を求める関数・個数関数を習得する。
前回の関数と組み合わせ、応用的な問題に取り組む。

第13回 Excel応用

(文字列検索関数)

文字列検索関数とエラー表示回避方法及び入力規則を習得する。前回、前々回の関数と組み合わせ、実践的な問題に取り組む。

第14回 タイピングテスト

Excel応用復習演習

タイピング技術の習得確認の為、タイピングテストを実施する。

Excel応用範囲の復習演習を実施する。

第15回 実技テスト(実技)

ここまでのExcel応用技能習得確認のための実技テストを実施する。

毎回 タイピング練習

成果ファイル提出

ICT実習 と同様にタイピング練習を継続して行う。必要なファイルは講師の指示により提出する。

2022年度 後期

1.0単位

ICT実習 D【臨検】

梯 健太郎、永岡 久美子、沈 成輔

< 授業の方法 >

対面授業(講義・実習)

< 授業の目的 >

この科目は、全学DPが示す問題を発見・解決する能力の基盤となる知識や技術を身につけることを目的とする。ビジネスシーンにおいては、プレゼンテーションスキルとコンピュータスキルが重視されており、社会ではこの2つのスキル習得を学生に求める声も多い。

この科目では、Microsoft PowerPointとMicrosoft Excelを使用して、社会に通用するプレゼンテーションスキルと必須とされているExcelスキルを身につける。

Microsoft PowerPointでは、プレゼンテーションスキルを習得する。実習ではアプリケーション操作だけでなく、聞き手に興味を持たせる構成やわかりやすいプレゼンテーションのためのビジュアル化ができるようになることを目的とし、社会に通用するプレゼンテーションスキルの習得を目指す。

Microsoft Excelでは、様々なデータを元に作表や計算、グラフ化、データベース利用などができるように基礎を習得する。その上で様々なビジネスシーンで役立つ汎用性の高いExcel関数を学び、社会で必要とされるコンピュータスキルを習得することを目指す。

また、この科目の担当者は実務経験のある教員である。企業においてSE(システムエンジニア)や情報処理関連分野の研修講師として10年以上の経験がある。常に最新

の情報や技術を踏まえ、時に専門分野についてもわかりやすく伝えていきたい。

< 到達目標 >

1. プレゼンテーションに必要な知識を習得し、訴求力のあるプレゼンテーション資料を作成できる。
2. Excelを使用して、計算式を設定した表作成や目的に合ったグラフ作成ができる。
3. 効率的に作業を行うための使用頻度が高いExcel関数を使うことができる。
4. タッチタイピングで速く正確な入力ができる。
5. ビジネス形式のメールが作成できる。

< 授業のキーワード >

プレゼンテーション・Microsoft PowerPoint・Microsoft Excel・タッチタイピング・ビジネスメール

< 授業の進め方 >

すべての講義は実習室のパソコンを使用する実習を中心とした内容である。

毎回、設定されているテーマに基づく機能習得を目指し、時間の許す限り復習も行う。

毎回、授業の冒頭にタイピング練習を行い、タッチタイピングができるようにスキルアップを目指す。

授業の最後に指示されたテーマに基づくメールを作成し、講師宛に送信する。

< 履修するにあたって >

毎回、必ず、配布プリントと教科書を持参すること。実習室のパソコンを使用する際、“ユーザー名(アカウント)”と“パスワード”が必要である。貸出用はないので忘れないように注意すること。

遅刻すると自分のパソコンの実習環境が整わなかったり、操作がわからなくなったりするため、遅刻しないように注意すること。

実習は原則として前回授業の受講を前提として行われる。欠席すると大幅な遅れにつながる場合があるため、欠席しないように注意すること。やむを得ない理由で欠席した場合は、次の授業までに自習しておくこと。

コンピューターは精密機器であるため、取り扱いについては十分注意すること。

教室内では飲食禁止。また、指定された座席に着席すること。

質問は電子メールでも受け付ける。

その他すべて教員の指示に従うこと。不明な点があれば遠慮なく担当教員に尋ねること。

この講義は、Microsoft Windows 10とMicrosoft Office 2016の環境で行う。

推奨パソコンスペック

OS: Windows10 (Home Edition以上)

Sモードは制約が多いため推奨いたしません。

Officeアプリ (Word、Excel等) は本学学生であれば入学後、無償でインストールができます。

Microsoftとの包括契約

CPU：Intel Core i5（第10世代以降）またはAMD Ryzen 5（第3世代以降）以上

Wi-Fi：必須（Wi-Fi5（11ac）以上対応）

メモリ：8GB以上

ディスク：256GB以上（SSD推奨）

Webカメラ：カメラ付き必須推奨

モニター：13インチ以上

バッテリー：6時間程度は稼働可能なもの

< 授業時間外に必要な学修 >

各種機能の習得には提供される教材データを利用して、2時間程度の復習を行うこと。

また、日常的にタイピング練習を実施すること。

< 提出課題など >

技能習得確認のための課題作成テスト（第5回）・中間テスト（第10回）・実技テスト（第15回）・タイピングテスト（第9回・第14回）を授業中に実施する。

提示が必要な模範解答はdotCampusにて対応する。

その他、毎回授業で作成したファイルを、学内ネットワークシステムを利用して提出する。提示が必要な模範解答は配布ファイルで対応する。

< 成績評価方法・基準 >

学習活動評価40％・各種テスト評価60％の割合で評価する。

定期試験は実施しない。

学習活動評価は以下とする

毎回の授業で作成した成果ファイルの提出

成果ファイルの完成度

授業への参加度

各種テストは以下とする

課題作成テスト・中間テスト・実技テスト・タイピングテスト2回

その他

毎回出席確認を行う。

授業回数の3分の2以上の出席が必要。そうでない場合は、単位を認定しない。

他人データの流用や作成データのコピー等不正行為が行われた場合、単位を認定しない。

< テキスト >

神戸学院大学情報支援事務室編集「情報活用の基礎2022年度版」

その他適宜、補助教材を配布する。

< 授業計画 >

第1回 授業や評価に関する案内

Power Pointの実習

授業内容や評価に関する案内を行う。

Power Pointを使用し、スライド作成実習を行う。（テーマ・箇条書き・オンライン画像・書式設定）

第2回 Power Pointの実習

Power Pointを使用し、スライド作成実習を行う。（SmartArt・画面切り替え効果・アニメーション・リハーサル・配布資料・スライドマスタ・発表技術）

第3回 Power Pointの実習

Power Pointを使用し、ビジュアル化演習を行う。

第4回 課題作成実習

次のテストで使用するプレゼンテーションの企画を行う。

第5回 課題作成テスト（実技）

ここまでのPowerPoint技能習得確認のための課題作成テストを実施する。

第6回 Excel基礎

（表計算）

作表・表計算・データベースの実習を行う。できるだけ多くの問題に取り組み、習得する。（数式・オートSUM・表の書式設定・表示形式）

第7回 Excel基礎

（表計算）

作表・表計算・データベースの実習を行う。できるだけ多くの問題に取り組み、習得する。（相対参照・絶対参照・データベース）

第8回 Excel基礎

（グラフ）

様々なグラフの作成実習を行う。できるだけ多くの問題に取り組み、習得する。

第9回 タイピングテスト

Excel基礎復習演習

タイピング技術の習得確認の為、タイピングテストを実施する。

Excel基礎範囲の復習演習を実施する。

第10回 中間テスト（実技）

ここまでのExcel基礎技能習得確認のための中間テストを実施する。

第11回 Excel応用

（端数処理関数）

端数処理関数と条件付き書式を習得する。基礎範囲を含め、できるだけ多くの問題に取り組み、応用力を付ける。

第12回 Excel応用

（条件分岐関数）

条件分岐関数・順位を求める関数・個数関数を習得する。前回の関数と組み合わせ、応用的な問題に取り組む。

第13回 Excel応用

（文字列検索関数）

文字列検索関数とエラー表示回避方法及び入力規則を習得する。前回、前々回の関数と組み合わせ、実践的な問

題に取り組む。

第14回 タイピングテスト

Excel 応用復習演習

タイピング技術の習得確認の為、タイピングテストを実施する。

Excel 応用範囲の復習演習を実施する。

第15回 実技テスト(実技)

ここまでのExcel 応用技能習得確認のための実技テストを実施する。

第16回 タイピング練習

成果ファイル提出

ICT実習 と同様にタイピング練習を継続して行う。必要なファイルは講師の指示により提出する。

2022年度 後期

1.0単位

ICT実習 (A)【経済】

宇佐美 美紀子、福井 昌則、山下 義史

< 授業の方法 >

講義・実習

< 授業の目的 >

この科目は、共通教育科目のリテラシー科目群、情報分野に属しています。

全学DPに掲げる、広い教養を身につけること、獲得した知識や技能をもって社会に貢献する力を身につけることを目的とします。

当講義では [第三者による一定の評価に基づく、自信を持って実務を遂行できる Word・Excel スキル] の習得を目指します。

知識面では、主にネットワークや情報モラルに関して、個人や家庭で必要とされるレベルから企業で必要とされるレベルにまで理解を深めていきます。

近年、企業にとってコンピューターの存在は必要不可欠のものとなっており、PC 操作については習得済みという前提で業務が組み立てられている場合も多く見受けられます。

また、何らかの業務に従事し始めた当初は、業務知識（業務遂行に必要な知識）の吸収に多くの時間を割く必要があり、PC 操作の学習・習得にまではなかなか手が回らないということもありがちな話です。

是非、当講義の目標レベルにまで到達し、学業においても社会生活においても、PC 操作に手を取られることなく、取り組むべき本質に集中できるようになっていただきたいと思えます。

なお、この授業は、実務経験のある教員が担当しています。IT 企業での業務を9年間、情報教育業務は7年間経験していますので、企業等で求められる情報に関する

知識・スキルを、より実践的な観点から解説します。

< 到達目標 >

1. ICTプロフィシエンシー検定協会主催の P 検試験「準 2 級以上」に合格する
2. Word を利用し、複数ページで構成された文書を効率よく作成できる
3. Excel を利用し、件数の多い表の作成と集計、及び簡単な分析を行うことができる
4. 一般的なメディアについての知識を持ち、適切な方法でデータの受け渡しを行える
5. アカウントの安全な保持手段についての理解を深める。

< 授業のキーワード >

ソフトウェア間の連携、知的財産、アカウント管理、BI
< 授業の進め方 >

実習を中心に講義を進めます。

テキストとして eラーニング教材「nanare」を利用します。

一部の回を除き、毎回、講義内で提示された課題を提出してもらいます。

< 履修するにあたって >

(1) 遅刻について

当講義は実習が中心となるため、遅刻者対応は授業を一時的に中断させるということをご認識しておいてください。

(2) 欠席について

欠席した場合は、次の講義までに必ず講義内容を自習してください。

講義開始 20 分以降に入室した学生は欠席とみなします。遅刻 3 回で欠席 1 回とし、欠席回数が全講義回数の 3 分の 1 を超えた場合は評価不能とみなします。

(3) アカウントについて

手元に届いているユーザーID、パスワードが記載されたハガキを必ず持参してください。

情報処理実習室の PC を利用する際に、ログイン用のユーザーID、パスワードが必要です。

紛失した場合は、必ず申し出てください。アカウントの貸し借りは厳禁です。

(4) 講義に臨む姿勢について

各学生の PC 操作スキルには大きな開きがありますが、他人と比較することなく、自己のスキル向上に努めるようにしてください。

(5) 学習環境について

毎回、eラーニング教材 nanare の課題が出ますので、自宅で学習できる環境を整えることが望ましいです。

PC を所有していない人は購入することを推奨します。

なお、大学情報処理実習室の PC の OS は Windows であり、Windows を基本として説明を行います。

< 授業時間外に必要な学修 >

後期理解度確認問題は eラーニング教材 nanare の課題から出題されますので、指示された範囲を学習しておいてください。

当講義ではタイピングスキルを重視しています。P 検準 2 級の合格基準（日本語 75 文字 / 分以上のスピードでタッチタイピングができる）をクリアしていない場合、できるだけ日を置かず集中的に練習し、早めに目標に到達してください。

・学習に要する時間目安

- eラーニング教材 nanare の学習：1~2 時間 / 週（個人差あり）

- タイピングの練習：10 分 / 日（個人差あり）

タイピングが目標速度に達していない場合のみ

< 提出課題など >

講義内に提出する課題と、eラーニング教材 nanare の課題があります。

eラーニング教材 nanare の課題の完了期限は 4 回あります。

1. 第 04 回講義日の前日 24 時までに 157-191 までの範囲を学習済みにすること

2. 第 06 回講義日の前日 24 時までに 192-206 までの範囲を学習済みにすること

3. 第 09 回講義日の前日 24 時までに 207-224 までの範囲を学習済みにすること

4. 第 14 回講義日の前日 24 時までに 225-231 までの範囲を学習済みにすること

eラーニング教材 nanare の課題のフィードバックは教材の自動添削機能によって行い、講義時間内に質疑応答の時間を設けます。

講義内に提出する課題のフィードバックは講義時間内に行い、講義時間外においても解説や動画を Web サイトで閲覧できるようにします。内容によっては模範解答を紹介します。

< 成績評価方法・基準 >

以下の割合で総合的に評価します。

- eラーニング教材 nanare の課題：30 %

- 講義内に提出する課題：15 %

- 後期理解度確認問題：25 %

- P 検：30 %

単位取得には、各課題の提出と検定試験対策が必要です。

普段の取り組みが評点に反映されやすくなるよう、後期理解度確認問題は nanare から抜粋して出題します。

< テキスト >

eラーニング教材「nanare」2021 年度版

後期からの受講生は、教材費 3,500 円を初回登校日に持参してください。

遠隔申請者には第 1 回の講義内で支払い方法を案内します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンスと前期の復習

- 当講義の意義、進め方、注意事項、単位の評価基準などについて理解する。

- eラーニング教材 nanare の学習の流れについて理解する。

- 前期の内容（実技、知識問題）の復習をする。

- nanare の主な学習内容：（Excel）データの並べ替え、複数シートの操作

第2回 Office ソフトウェア間の連携

- Office ソフトウェアの連携（特に Word 文書内に Excel の成果物を取り込む方法）について理解・実習する。

- nanare の主な学習内容：（Word）ヘッダーとフッターの設定、セクションの利用

第3回 アカウントの管理

- 各種オンラインサービスを利用するために個人や企業が保持するアカウントの数は増加の一途を辿っている。それらの不適切な管理が招くリスクと安全な保持手段についての理解を深める。

- nanare の主な学習内容：（Excel）ヘッダーとフッターの設定方法、グラフの構成要素

第4回 Word・Excel の実技問題、知識確認問題

主に実技問題で 3 級レベルの操作スキルのレベルを確認する。

- nanare の主な学習内容：（Word）トリミング（Excel）オートフィルター、ROUND 関数

第5回 P 検 3 級模擬演習とタイピング測定

P 検 3 級の模擬試験に取り組み、自身のレベルと得意 / 不得意分野を多角的に確認する。

タイピング測定を実施し、今後の目標を設定する。

第6回 Excel データのインポートと表・グラフの作成

- 区切り文字で区切られた異なるファイル形式のデータを Excel に取り込み、表やグラフを作成する方法について理解・実習する。

- nanare の主な学習内容：（Word）スタイルの利用（Excel）RANK 関数、VLOOKUP 関数

第7回 Word レポート作成講座

- 見出しと Word のスタイル機能を活用し、複数ページに渡る文書を作成するポイントを理解する。

- nanare の主な学習内容：（Excel）複合グラフ、COUNTIF関数、SUMIF関数

第8回 Excel 関数集中講座

- Excel の関数に対する苦手意識解消を目的とし、身近な例から関数の概念と利用方法を理解する。

- nanare の主な学習内容：（Word）索引の作成、差し

込み印刷 (Excel) ユーザー定義の表示形式

第9回 Excel 関数を使用した問題解決実習

- 特定のテーマ (問題) について、それらを手持ちのソフトウェア (道具) を利用して解決する実習を行う。

- [テーマの例] 簡易レジスター作成

- nanare の主な学習内容: (Word) 文書の保護 (Excel) テーブル機能

第10回 P 検準 2 級 Word・Excel の実技問題、知識確認問題

準 2 級レベルの Word・Excel の操作スキルのレベルを確認する。

各自が自己分析に基づいた検定試験対策を行う。

- nanare の主な学習内容: (Excel) ピボットテーブルの作成と編集

第11回 P 検準 2 級模擬演習とタイピング測定

P 検準 2 級の模擬試験に取り組み、自身のレベルと得意 / 不得意分野を多角的に確認する。

タイピング測定を実施し、検定試験の受験級を判断する。

第12回 ドキュメント情報の編集とファイル形式の変換
保存したファイルの情報の編集、保護、ファイル形式の変換について実習する。

第13回 P 検本番試験

検定試験形式で自身の ICT スキルを確認する。

第14回 Excel による最も簡単な意思決定支援
実務では、データの収集 蓄積 分析を経て意思決定を行うことが多々ある (この一連の考え方を BI と呼ぶ)。

アンケートを通して最も簡単な BI の流れを俯瞰する。

アンケートの集計結果からデータの分析を行う。

第15回 後期理解度確認問題

後期理解度確認問題で自身の ICT スキルを確認する。

2022年度 後期

1.0単位

ICT実習 (A)【薬】

上村 千里、濱本 季之、中原 伸子

< 授業の方法 >

遠隔授業 (オンデマンドでの課題学修を基本とし、グループワークなど実施内容に応じてリアルタイム授業をおこなう)

< 授業の目的 >

これからの学生生活に必要な情報機器の利用法の理解を深め、各種ソフトウェアの操作技能を向上させる。また情報化社会に生き、医療に関わる人として、ネットワーク利用におけるモラルとマナーを理解し、クリティカルな視点を養い、信頼関係を築く情報コミュニケーション力を向上させる。これらの知識および操作技能を修得することで、全学DPに掲げる、様々な問題を発見しそれを解決する方策を導くこと、獲得した知識や技能を社会に

役立てる力をつけることを目的とする。

< 到達目標 >

(1) 様々な問題を発見しそれを解決する方策を導くことができる

フォームによる調査活動を行い、その結果を表計算ソフトで集計と分析をおこなう、さらにプレゼンテーションソフトを用いて発表することができる

個人情報保護、著作権保護、情報受発信における留意点を、ペアワークやグループワークを通して学び、クリティカルな視点からこれを判断することができる

(2) 獲得した知識や技能を社会に役立てることができる

化学構造式の作成、表計算ソフトでのデータの処理、グラフ作成、効果的に伝えられるプレゼンテーションをおこなうことに重点を置き、実習する。

化学構造式をPC上で描画でき、レポートや発表資料に用いることができる

表計算ソフトの基礎と考え方を確かめ、適切な数式、関数、グラフを扱うことができる

プレゼンテーションソフトの効果的な利用方法を習得し、発表ができる

(3) 他者を尊重、理解しコミュニケーションをとることができる

ペアワークやグループワークを通して他者を尊重する姿勢を身につけ、コミュニケーションスキルを向上させる

< 授業のキーワード >

情報

モラル

表計算

化学構造式

プレゼンテーション

< 授業の進め方 >

オンデマンドによりおこなう課題学修を通しての操作実習およびリアルタイム授業でのグループワーク、グループ発表をおこなう

< 履修するにあたって >

(1) オンライン授業、課題学修をおこなう場合に備えて、各自Windowsパソコンを準備しておくこと。学内設置パソコンはWindowsのため、受講環境を整えるためWindows搭載のパソコンを準備すること。MacOS、Chromebookなど異なるOSの場合、配布する講義資料、実際の操作が異なることがある (OSの違いによる個別の質問等、教員の対応はおこなわない)。また、スマートフォン及びタブレットのみでの受講は不可とする。

(2) パソコンには、ブラウザ「Chrome」をインストールすること。その他のブラウザを使用する場合、授業内での説明や操作とは異なることがある。「Edge」は利用

できない学内サービスがあるため利用しないこと。なお、Internet Explorer (IE) はすでにサポート体制が終了しており、学内の各種サービスも利用できない。使用は不可とする。

(3) Microsoft Word、Excel、PowerPointが必須アプリケーションとなる。バージョンは2016、2019、デスクトップ版365とする。各自のパソコンに導入されていない場合は、各自Office365からデスクトップ版Office365をインストールすること (Web版の365は機能制限があり授業の実施内容に耐えないため利用しない)。

(4) USBフラッシュメモリの準備

操作実習に使用するファイル、制作物の保管に必要となる場合がある。

(5) クラス

6クラスに分かれて授業をおこなう。クラスによって授業進度・実施順序が異なる場合がある。

(6) リアルタイム授業日欠席の場合

前回の授業内容を前提として授業を進行するため、次回の授業までに自習しておき、必要に応じて質問すること。

(7) アカウントについて

“ユーザーID”と“パスワード”を忘れると、学内ネットワークを利用することができない。再発行には手数料が必要となるため、管理に注意すること。

“パスワード”は、紛失したり、他人に教えたりすることのないように、また推測されづらいよう長く複雑なものにするなど安全面も考慮し各自で管理すること。

(8) 自宅のPCを利用するにあたり、必ずウイルス対策をおこなうこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

(1) 操作技術の習得にあたり、配布する講義資料、教材データを用いて1時間程度の復習をおこなうこと

(2) 課題制作にあたり、事前に案を練ったり調査しておいたり、といった準備が必要となる

(3) グループ課題制作と発表に向けて、調査活動、データ入力や集計、スライド制作などの分担作業

< 提出課題など >

中間レポート (ChemSketch、Word、PowerPointを用いた制作)

期末レポート (グループ課題制作と発表)

その他、講義資料で指示するワークシート、課題 (5回程度)

提出方法は、様々な方法を経験できるよう、その都度指示する

ミスが多かった問題、注意を要する問題について、回答および解説を配布する

他人データの流用や作成データのコピー等不正行為が行われた場合、その課題は無得点とする

< 成績評価方法・基準 >

中間レポート25%、期末レポート25%、講義時に指定するワークシートおよび小レポートの提出35%、グループ活動の取り組み状況15%の割合で総合評価する

< テキスト >

授業内容にあわせたテキストおよびプリントを、dotCampusにて配布する。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

化学構造式描画アプリケーションChem Sketchの習得

オリエンテーション

Chem Sketch (化学構造式作成アプリケーション) のインストールについて

Chem Sketchの基本操作 (ポインタの形状、ESCキー、描画の基本)

第2回 化学構造式描画アプリケーションChem Sketchの習得

Chem Sketchの操作 (1)

Select、Delete

Single bond、Double bond

Ring structure

Flip (Tabキー)

Edit Atom Label

Move

Table of Radicals

3D Viewer

構造式をWord文書へペースト

第3回 化学構造式描画アプリケーションChem Sketchの習得

スキャナ実習

Chem Sketchの操作 (2)

Change Position

Rotation

Flip

Stereo Bond

Edit Atom Label

演習

構造式をWord文書へペースト

第4回 化学構造式描画アプリケーションChem Sketchの習得

Chem Sketchの操作 (3)

演習

Template

課題制作

第5回 PowerPoint 効果的な発表用スライド作成方法の習得

PowerPointの操作(1)

- 効果的なスライドの作り方
- 効果的なアニメーション設定
- スライドショー形式での保存
- ファイルの種類、拡張子

第6回 情報モラルに関するアクティビティ

PowerPoint 効果的な発表用スライド作成方法の習得

PowerPointの操作(2)

PowerPoint課題制作

第7回 情報モラルに関するアクティビティ(リアルタイム授業)

情報モラルに関するアクティビティ(グループワーク)

中間レポート(ChemSketch, Word, PowerPointを用いた課題制作)に向けての説明と注意事項

第8回 Excelの操作習得

Excelの操作(1)

- グラフ作成(1)
- グラフの書式設定
- リスト形式のデータ
- セルの書式設定
- データベース機能(ソート)
- データベース機能(フィルタ)

第9回 Excelの操作習得

Excelの操作(2)

- 関数(SUM、AVERAGE)
- 引数の訂正
- 縦横合計
- データの入力とオートフィル
- 数式作成
- グラフ作成(2)
- 散布図の活用(検量線)

第10回 情報モラルに関するアクティビティのまとめ

グループ課題制作(リアルタイム授業)

情報モラルに関するアクティビティのまとめ

期末レポート(グループ課題制作と発表)について、作業の進め方と注意点

グループ課題説明(題材について)

グループ分け

グループワーク(題材決定)

第11回 グループ課題制作(リアルタイム授業)

グループ課題説明(アンケートフォームの作り方)

グループ課題説明(スライド作成について)

グループワーク(アンケートフォーム制作、スライド制作)

第12回 グループ課題制作(リアルタイム授業)

グループ課題説明(集計、グラフ作成)

グループワーク(アンケート集計、グラフ整形、スライド制作)

第13回 グループ課題制作

Excelの操作習得(リアルタイム授業)

グループワーク(発表会に向けてのミーティング)

Excelの操作(3)

- 行列の挿入と削除
- 相対参照と絶対参照
- 演習

第14回 グループ課題発表(リアルタイム授業)

グループ課題発表会

第15回 Excelの操作習得

発表会講評

Excelの操作(4)

- 演習
- 関数(IF、COUNT、COUNTA、COUNTIF、STDEV.P、T.TEST)
- グラフの利用(組み合わせグラフ、エラーバー付き棒グラフ)
- 課題制作

2022年度 後期

1.0単位

ICT実習 (A)【経営】

小野原 登美子、河下 真佐代、寄木 知子

<授業の方法>

対面授業(講義・実習)

<授業の目的>

この科目は、全学DPが示す問題を発見・解決する能力の基盤となる知識や技術を身につけることを目的とする。ビジネスシーンにおいては、プレゼンテーションスキルとコンピュータースキルが重視されており、社会ではこの2つのスキル習得を学生に求める声も多い。

この科目では、Microsoft PowerPointとMicrosoft Excelを使用して、社会に通用するプレゼンテーションスキルと必須とされているExcelスキルを身につける。

Microsoft PowerPointでは、プレゼンテーションスキルを習得する。実習ではアプリケーション操作だけでなく、聞き手に興味を持たせる構成やわかりやすいプレゼンテーションのためのビジュアル化ができるようになること

を目的とし、社会に通用するプレゼンテーションスキルの習得を目指す。

Microsoft Excelでは、様々なデータを元に作表や計算、グラフ化、データベース利用などができるように基礎を習得する。その上で様々なビジネスシーンで役立つ汎用性の高いExcel関数を学び、社会で必要とされるコンピュータスキルを習得することを目指す。

また、この科目の担当者は実務経験のある教員である。企業においてSE（システムエンジニア）や情報処理関連分野の研修講師として10年以上の経験がある。常に最新の情報や技術を踏まえ、時に専門分野についてもわかりやすく伝えていきたい。

<到達目標>

1. プレゼンテーションに必要な知識を習得し、訴求力のあるプレゼンテーション資料を作成できる。
2. Excelを使用して、計算式を設定した表作成や目的に合ったグラフ作成ができる。
3. 効率的に作業を行うための使用頻度が高いExcel関数を使うことができる。
4. タッチタイピングで速く正確な入力ができる。
5. ビジネス形式のメールが作成できる。

<授業のキーワード>

プレゼンテーション・Microsoft PowerPoint・Microsoft Excel・タッチタイピング・ビジネスメール

<授業の進め方>

すべての講義は実習室のパソコンを使用する実習を中心とした内容である。

毎回、設定されているテーマに基づく機能習得を目指し、時間の許す限り復習も行う。

毎回、授業の冒頭にタイピング練習を行い、タッチタイピングができるようにスキルアップを目指す。

授業の最後に指示されたテーマに基づくメールを作成し、講師宛に送信する。

<履修するにあたって>

毎回、必ず、配布プリントと教科書を持参すること。

実習室のパソコンを使用する際、“ユーザー名(アカウント)”と“パスワード”が必要である。貸出用は無いので忘れないように注意すること。

遅刻すると自分のパソコンの実習環境が整わなかったり、操作がわからなくなったりするため、遅刻しないように注意すること。

実習は原則として前回授業の受講を前提として行われる。欠席すると大幅な遅れにつながる場合があるため、欠席しないように注意すること。やむを得ない理由で欠席した場合は、次の授業までに自習しておくこと。

コンピューターは精密機器であるため、取り扱いについては十分注意すること。

教室内では飲食禁止。また、指定された座席に着席すること。

質問は電子メールでも受け付ける。

その他すべて教員の指示に従うこと。不明な点があれば遠慮なく担当教員に尋ねること。

この講義は、Microsoft Windows 10とMicrosoft Office 2016の環境で行う。

推奨パソコンスペック

OS: Windows10 (Home Edition以上)

Sモードは制約が多いため推奨いたしません。

Officeアプリ (Word、Excel等) は本学学生であれば入学後、無償でインストールができます。

Microsoftとの包括契約

CPU: Intel Core i5 (第10世代以降) またはAMD Ryzen 5 (第3世代以降) 以上

Wi-Fi: 必須 (Wi-Fi5 (11ac) 以上対応)

メモリ: 8GB以上

ディスク: 256GB以上 (SSD推奨)

Webカメラ: カメラ付き必須推奨

モニター: 13インチ以上

バッテリー: 6時間程度は稼働可能なもの

<授業時間外に必要な学修>

各種機能の習得には提供される教材データを利用して、2時間程度の復習を行うこと。

また、日常的にタイピング練習を実施すること。

<提出課題など>

技能習得確認のための課題作成テスト (第5回) ・中間テスト (第10回) ・実技テスト (第15回) ・タイピングテスト (第9回・第14回) を授業中に実施する。

提示が必要な模範解答はdotCampusにて対応する。

その他、毎回授業で作成したファイルを、学内ネットワークシステムを利用して提出する。提示が必要な模範解答は配布ファイルで対応する。

<成績評価方法・基準>

学習活動評価40% ・各種テスト評価60%の割合で評価する。

定期試験は実施しない。

学習活動評価は以下とする

毎回の授業で作成した成果ファイルの提出

成果ファイルの完成度

授業への参加度

各種テストは以下とする

課題作成テスト・中間テスト・実技テスト・タイピングテスト2回

その他

毎回出席確認を行う。

授業回数の3分の2以上の出席が必要。そうでない場

合は、単位を認定しない。

他人データの流用や作成データのコピー等不正行為が行われた場合、単位を認定しない。

<テキスト>

神戸学院大学情報支援事務室編集「情報活用の基礎2022年度版」

その他適宜、補助教材を配布する。

<授業計画>

第1回 授業や評価に関する案内

Power Pointの実習

授業内容や評価に関する案内を行う。

Power Pointを使用し、スライド作成実習を行う。(テーマ・箇条書き・オンライン画像・書式設定)

第2回 Power Pointの実習

Power Pointを使用し、スライド作成実習を行う。(SmartArt・画面切り替え効果・アニメーション・リハーサル・配布資料・スライドマスタ・発表技術)

第3回 Power Pointの実習

Power Pointを使用し、ビジュアル化演習を行う。

第4回 課題作成実習

次のテストで使用するプレゼンテーションの企画を行う。

第5回 課題作成テスト(実技)

ここまでのPowerPoint技能習得確認のための課題作成テストを実施する。

第6回 Excel基礎

(表計算)

作表・表計算・データベースの実習を行う。できるだけ多くの問題に取り組み、習得する。(数式・オートSUM・表の書式設定・表示形式)

第7回 Excel基礎

(表計算)

作表・表計算・データベースの実習を行う。できるだけ多くの問題に取り組み、習得する。(相対参照・絶対参照・データベース)

第8回 Excel基礎

(グラフ)

様々なグラフの作成実習を行う。できるだけ多くの問題に取り組み、習得する。

第9回 タイピングテスト

Excel基礎復習演習

タイピング技術の習得確認の為、タイピングテストを実施する。

Excel基礎範囲の復習演習を実施する。

第10回 中間テスト(実技)

ここまでのExcel基礎技能習得確認のための中間テストを実施する。

第11回 Excel応用

(端数処理関数)

端数処理関数と条件付き書式を習得する。基礎範囲を含め、できるだけ多くの問題に取り組み、応用力を付ける。

第12回 Excel応用

(条件分岐関数)

条件分岐関数・順位を求める関数・個数関数を習得する。前回の関数と組み合わせ、応用的な問題に取り組む。

第13回 Excel応用

(文字列検索関数)

文字列検索関数とエラー表示回避方法及び入力規則を習得する。前回、前々回の関数と組み合わせ、実践的な問題に取り組む。

第14回 タイピングテスト

Excel応用復習演習

タイピング技術の習得確認の為、タイピングテストを実施する。

Excel応用範囲の復習演習を実施する。

第15回 実技テスト(実技)

ここまでのExcel応用技能習得確認のための実技テストを実施する。

毎回 タイピング練習

成果ファイル提出

ICT実習 と同様にタイピング練習を継続して行う。必要なファイルは講師の指示により提出する。

2022年度 後期

1.0単位

ICT実習 (A)【現社・社防】

沈 成輔、永岡 久美子、梯 健太郎

<授業の方法>

講義・実習

<授業の目的>

この科目は、共通教育科目のリテラシー科目群、情報分野に属しています。

全学DPに掲げる、広い教養を身につけること、獲得した知識や技能をもって社会に貢献する力を身につけることを目的とします。

当講義では[第三者による一定の評価に基づく、自信を持って実務を遂行できる Word・Excel スキル]の習得を目指します。

知識面では、主にネットワークや情報モラルに関して、個人や家庭で必要とされるレベルから企業で必要とされるレベルにまで理解を深めていきます。

近年、企業にとってコンピューターの存在は必要不可欠のものとなっており、PC 操作については習得済みという前提で業務が組み立てられている場合も多く見受けられます。

また、何らかの業務に従事し始めた当初は、業務知識（業務遂行に必要な知識）の吸収に多くの時間を割く必要があり、PC 操作の学習・習得にまではなかなか手が回らないということもありがちな話です。

是非、当講義の目標レベルにまで到達し、学業においても社会生活においても、PC 操作に手を取られることなく、取り組むべき本質に集中できるようになっていただきたいと思います。

なお、この授業は、実務経験のある教員が担当しています。IT 企業での業務を 19 年、情報教育業務は 3 年経験していますので、企業等で求められる情報に関する知識・スキルを、より実践的な観点から解説します。

<到達目標>

1. ICTプロフィシエンシー検定協会主催の P 検試験「準 2 級以上」に合格する
2. Word を利用し、複数ページで構成された文書を効率よく作成できる
3. Excel を利用し、件数の多い表の作成と集計、及び簡単な分析を行うことができる
4. 一般的なメディアについての知識を持ち、適切な方法でデータの受け渡しを行える
5. アカウントの安全な保持手段についての理解を深める。

<授業のキーワード>

ソフトウェア間の連携、知的財産、アカウント管理、BI
<授業の進め方>

実習を中心に講義を進めます。

テキストとして eラーニング教材「nanare」を利用します。

一部の回を除き、毎回、講義内で提示された課題を提出してもらいます。

<履修するにあたって>

(1) 遅刻について

当講義は実習が中心となるため、遅刻者対応は授業を一時的に中断させるということを認識しておいてください。

(2) 欠席について

欠席した場合は、次の講義までに必ず講義内容を自習してください。

講義開始 20 分以降に入室した学生は欠席とみなします。遅刻 3 回で欠席 1 回とし、欠席回数が全講義回数の 3 分の 1 を超えた場合は評価不能とみなします。

(3) アカウントについて

手元に届いているユーザー ID、パスワードが記載されたハガキを必ず持参してください。

情報処理実習室の PC を利用する際に、ログイン用のユーザー ID、パスワードが必要です。

紛失した場合は、必ず申し出てください。アカウントの

貸し借りは厳禁です。

(4) 講義に臨む姿勢について

各学生の PC 操作スキルには大きな開きがありますが、他人と比較することなく、自己のスキル向上に努めるようにしてください。

(5) 学習環境について

毎回、eラーニング教材 nanare の課題が出ますので、自宅で学習できる環境を整えることが望ましいです。

PC を所有していない人は購入することを推奨します。なお、大学情報処理実習室の PC の OS は Windows であり、Windows を基本として説明を行います。

<授業時間外に必要な学修>

後期理解度確認問題は eラーニング教材 nanare の課題から出題されますので、指示された範囲を学習しておいてください。

当講義ではタイピングスキルを重視しています。P 検準 2 級の合格基準（日本語 75 文字 / 分以上のスピードでタッチタイピングができる）をクリアしていない場合、できるだけ日を置かず集中的に練習し、早めに目標に到達してください。

・学習に要する時間目安

- eラーニング教材 nanare の学習：1~2 時間 / 週（個人差あり）

- タイピングの練習：10 分 / 日（個人差あり）

タイピングが目標速度に達していない場合のみ

<提出課題など>

講義内に提出する課題と、eラーニング教材 nanare の課題があります。

eラーニング教材 nanare の課題の完了期限は 4 回あります。

1. 第 04 回講義日の前日 24 時までに 157-191 までの範囲を学習済みにすること

2. 第 06 回講義日の前日 24 時までに 192-206 までの範囲を学習済みにすること

3. 第 09 回講義日の前日 24 時までに 207-224 までの範囲を学習済みにすること

4. 第 14 回講義日の前日 24 時までに 225-231 までの範囲を学習済みにすること

eラーニング教材 nanare の課題のフィードバックは教材の自動添削機能によって行い、講義時間内に質疑応答の時間を設けます。

講義内に提出する課題のフィードバックは講義時間内に行い、講義時間外においても解説や動画を Web サイトで閲覧できるようにします。内容によっては模範解答を紹介します。

<成績評価方法・基準>

以下の割合で総合的に評価します。

- eラーニング教材 nanare の課題：30 %
- 講義内に提出する課題：15 %
- 後期理解度確認問題：25 %
- P 検：30 %

単位取得には、各課題の提出と検定試験対策が必要です。普段の取り組みが評点に反映されやすくなるよう、後期理解度確認問題は nanare から抜粋して出題します。

<テキスト>

eラーニング教材「nanare」2021 年度版

後期からの受講生は、教材費 3,500 円を初回登校日に持参してください。

遠隔申請者には第 1 回の講義内で支払い方法を案内します。

<授業計画>

第1回 ガイダンスと前期の復習

- 当講義の意義、進め方、注意事項、単位の評価基準などについて理解する。
- eラーニング教材 nanare の学習の流れについて理解する。
- 前期の内容（実技、知識問題）の復習をする。
- nanare の主な学習内容：（Excel）データの並べ替え、複数シートの操作

第2回 Office ソフトウェアの連携

- Office ソフトウェアの連携（特に Word 文書内に Excel の成果物を取り込む方法）について理解・実習する。
- nanare の主な学習内容：（Word）表の編集と効率的な表の作成

第3回 アカウントの管理

- 各種オンラインサービスを利用するために個人や企業が保持するアカウントの数は増加の一途を辿っている。それらの不適切な管理が招くリスクと安全な保持手段についての理解を深める。

- nanare の主な学習内容：（Excel）ヘッダーとフッターの設定方法とグラフの構成要素

第4回 Word・Excel の実技問題、知識確認問題

- 主に実技問題で 3 級レベルの操作スキルのレベルを確認する。
- nanare の主な学習内容：（Word）ヘッダーとフッターの設定とセクションの利用

第5回 P 検 3 級模擬演習とタイピング測定

- P 検 3 級の模擬試験に取り組み、自身のレベルと得意／不得意分野を多角的に確認する。
- タイピング測定を実施し、今後の目標を設定する。
- nanare の主な学習内容：（Excel）IF関数と複数の関数の組み合わせ

第6回 Excel データのインポートと表・グラフの作成

- 区切り文字で区切られた異なるファイル形式のデータを Excel に取り込み、表やグラフを作成する方法について理解・実習する。

- nanare の主な学習内容：（Word）スタイルの利用と目次の作成

第7回 Word レポート作成講座

- 見出しと Word のスタイル機能を活用し、複数ページに渡る文書を作成するポイントを理解する。

- nanare の主な学習内容：（Excel）RANK 関数とVLOOKUP 関数

第8回 Excel 関数集中講座

- Excel の関数に対する苦手意識解消を目的とし、身近な例から関数の概念と利用方法を理解する。

- nanare の主な学習内容：（Word）索引の作成と差し込み印刷

第9回 Excel 関数を使用した問題解決実習

- 特定のテーマ（問題）について、それらを手持ちのソフトウェア（道具）を利用して解決する実習を行う。

- [テーマの例] 簡易レジスター作成

- nanare の主な学習内容：（Word）文書の保護（Excel）テーブル機能

第10回 P 検準 2 級 Word・Excel の実技問題、知識確認問題

- 準 2 級レベルの Word・Excel の操作スキルのレベルを確認する。

- 各自が自己分析に基づいた検定試験対策を行う。

- nanare の主な学習内容：（Excel）ピボットテーブルの作成と編集

第11回 P 検準 2 級模擬演習とタイピング測定

- P 検準 2 級の模擬試験に取り組み、自身のレベルと得意／不得意分野を多角的に確認する。

- 各自が自己分析に基づいた検定試験対策を行う。

- タイピング測定を実施し、検定試験の受験級を判断する。

- 第12回 ドキュメント情報の編集とファイル形式の変換
- 保存したファイルの情報の編集、保護、ファイル形式の変換について実習する。

第13回 P 検本番試験

- 検定試験形式で自身の ICT スキルを確認する。

第14回 Excel による最も簡単な意思決定支援

- 実務では、データの収集 蓄積 分析を経て意思決定を行うことが多々ある（この一連の考え方を BI と呼ぶ）。アンケートを通して最も簡単な BI の流れを俯瞰する。

- アンケートの集計結果からデータの分析を行う。

第15回 後期理解度確認問題

- 後期理解度確認問題で自身の ICT スキルを確認する。

2022年度 後期

1.0単位

ICT実習 (A)【GC】

三木 洪子

< 授業の方法 >

講義・実習

< 授業の目的 >

この科目は、共通教育科目のリテラシー科目群、情報分野に属しています。

全学DPに掲げる、広い教養を身につけること、獲得した知識や技能をもって社会に貢献する力を身につけることを目的とします。

当講義では [第三者による一定の評価に基づく、自信を持って実務を遂行できる Word・Excel スキル] の習得を目指します。

知識面では、主にネットワークや情報モラルに関して、個人や家庭で必要とされるレベルから企業で必要とされるレベルにまで理解を深めていきます。

近年、企業にとってコンピューターの存在は必要不可欠のものとなっており、PC 操作については習得済みという前提で業務が組み立てられている場合も多く見受けられます。

また、何らかの業務に従事し始めた当初は、業務知識（業務遂行に必要な知識）の吸収に多くの時間を割く必要があり、PC 操作の学習・習得にまではなかなか手が回らないということもありがちな話です。

是非、当講義の目標レベルにまで到達し、学業においても社会生活においても、PC 操作に手を取られることなく、取り組むべき本質に集中できるようになっていただきたいと思えます。

なお、この授業は、実務経験のある教員が担当しています。IT 企業での業務を8年間、情報教育業務は6年間経験していますので、企業等で求められる情報に関する知識・スキルを、より実践的な観点から解説します。

< 到達目標 >

1. ICTプロフィシエンシー検定協会主催の P 検試験「準 2 級以上」に合格する
2. Word を利用し、複数ページで構成された文書を効率よく作成できる
3. Excel を利用し、件数の多い表の作成と集計、及び簡単な分析を行うことができる
4. 一般的なメディアについての知識を持ち、適切な方法でデータの受け渡しを行える
5. アカウントの安全な保持手段についての理解を深める。

< 授業のキーワード >

ソフトウェア間の連携、知的財産、アカウント管理、BI
< 授業の進め方 >

実習を中心に講義を進めます。

テキストとして eラーニング教材「nanare」を利用します。

一部の回を除き、毎回、講義内で提示された課題を提出してもらいます。

< 履修するにあたって >

(1) 遅刻について

当講義は実習が中心となるため、遅刻者対応は授業を一時的に中断させるということを認識しておいてください。

(2) 欠席について

欠席した場合は、次の講義までに必ず講義内容を自習してください。

講義開始 20 分以降に入室した学生は欠席とみなします。遅刻 3 回で欠席 1 回とし、欠席回数が全講義回数の 3 分の 1 を超えた場合は評価不能とみなします。

(3) アカウントについて

手元に届いているユーザーID、パスワードが記載されたハガキを必ず持参してください。

情報処理実習室の PC を利用する際に、ログイン用のユーザーID、パスワードが必要です。

紛失した場合は、必ず申し出てください。アカウントの貸し借りは厳禁です。

(4) 講義に臨む姿勢について

各学生の PC 操作スキルには大きな開きがありますが、他人と比較することなく、自己のスキル向上に努めるようにしてください。

(5) 学習環境について

毎回、eラーニング教材 nanare の課題が出ますので、自宅で学習できる環境を整えることが望ましいです。

PC を所有していない人は購入することを推奨します。なお、大学情報処理実習室の PC の OS は Windows であり、Windows を基本として説明を行います。

< 授業時間外に必要な学修 >

後期理解度確認問題は eラーニング教材 nanare の課題から出題されますので、指示された範囲を学習しておいてください。

当講義ではタイピングスキルを重視しています。P 検準 2 級の合格基準（日本語 75 文字 / 分以上のスピードでタッチタイピングができる）をクリアしていない場合、できるだけ日を置かず集中的に練習し、早めに目標に到達してください。

・学習に要する時間目安

- eラーニング教材 nanare の学習：1~2 時間/週（個人差あり）

- タイピングの練習：10 分/日（個人差あり）

タイピングが目標速度に達していない場合のみ

< 提出課題など >

講義内に提出する課題と、eラーニング教材 nanare の課題があります。

eラーニング教材 nanare の課題の完了期限は 4 回あります。

1. 第 04 回講義日の前日 24 時までに 157-191 までの範囲を学習済みにすること

2. 第 06 回講義日の前日 24 時までに 192-206 までの範囲を学習済みにすること

3. 第 09 回講義日の前日 24 時までに 207-224 までの範囲を学習済みにすること

4. 第 14 回講義日の前日 24 時までに 225-231 までの範囲を学習済みにすること

eラーニング教材 nanare の課題のフィードバックは教材の自動添削機能によって行い、講義時間内に質疑応答の時間を設けます。

講義内に提出する課題のフィードバックは講義時間内に行い、講義時間外においても解説や動画を Web サイトで閲覧できるようにします。内容によっては模範解答を紹介します。

< 成績評価方法・基準 >

以下の割合で総合的に評価します。

- eラーニング教材 nanare の課題：30 %

- 講義内に提出する課題：15 %

- 後期理解度確認問題：25 %

- P 検：30 %

単位取得には、各課題の提出と検定試験対策が必要です。普段の取り組みが評点に反映されやすくなるよう、後期理解度確認問題は nanare から抜粋して出題します。

< テキスト >

eラーニング教材「nanare」2021 年度版

後期からの受講生は、教材費 3,500 円を初回登校日に持参してください。

遠隔申請者には第 1 回の講義内で支払い方法を案内します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンスと前期の復習

- 当講義の意義、進め方、注意事項、単位の評価基準などについて理解する。

- eラーニング教材 nanare の学習の流れについて理解する。

- 前期の内容（実技、知識問題）の復習をする。

- nanare の主な学習内容：（Excel）データの並べ替

え、複数シートの操作

第2回 Office ソフトウェア間の連携

- Office ソフトウェアの連携（特に Word 文書内に Excel の成果物を取り込む方法）について理解・実習する。

- nanare の主な学習内容：（Word）ヘッダーとフッターの設定、セクションの利用

第3回 アカウントの管理

- 各種オンラインサービスを利用するために個人や企業が保持するアカウントの数は増加の一途を辿っている。それらの不適切な管理が招くリスクと安全な保持手段についての理解を深める。

- nanare の主な学習内容：（Excel）ヘッダーとフッターの設定方法、グラフの構成要素

第4回 Word・Excel の実技問題、知識確認問題

主に実技問題で 3 級レベルの操作スキルのレベルを確認する。

- nanare の主な学習内容：（Word）トリミング（Excel）オートフィルター、ROUND 関数

第5回 P 検 3 級模擬演習とタイピング測定

P 検 3 級の模擬試験に取り組み、自身のレベルと得意/不得意分野を多角的に確認する。

タイピング測定を実施し、今後の目標を設定する。

第6回 Excel データのインポートと表・グラフの作成

- 区切り文字で区切られた異なるファイル形式のデータを Excel に取り込み、表やグラフを作成する方法について理解・実習する。

- nanare の主な学習内容：（Word）スタイルの利用（Excel）RANK 関数、VLOOKUP 関数

第7回 Word レポート作成講座

- 見出しと Word のスタイル機能を活用し、複数ページに渡る文書を作成するポイントを理解する。

- nanare の主な学習内容：（Excel）複合グラフ、COUNTIF関数、SUMIF関数

第8回 Excel 関数集中講座

- Excel の関数に対する苦手意識解消を目的とし、身近な例から関数の概念と利用方法を理解する。

- nanare の主な学習内容：（Word）索引の作成、差し込み印刷（Excel）ユーザー定義の表示形式

第9回 Excel 関数を使用した問題解決実習

- 特定のテーマ（問題）について、それらを手持ちのソフトウェア（道具）を利用して解決する実習を行う。

- [テーマの例] 簡易レジスター作成

- nanare の主な学習内容：（Word）文書の保護（Excel）テーブル機能

第10回 P 検準 2 級 Word・Excel の実技問題、知識確認問題

準 2 級レベルの Word・Excel の操作スキルのレベルを確認する。

各自が自己分析に基づいた検定試験対策を行う。

- nanare の主な学習内容：(Excel)ピボットテーブルの作成と編集

第11回 P 検準 2 級模擬演習とタイピング測定

P 検準 2 級の模擬試験に取り組み、自身のレベルと得意/不得意分野を多角的に確認する。

タイピング測定を実施し、検定試験の受験級を判断する。

第12回 ドキュメント情報の編集とファイル形式の変換
保存したファイルの情報の編集、保護、ファイル形式の変換について実習する。

第13回 P 検本番試験

検定試験形式で自身の ICT スキルを確認する。

第14回 Excel による最も簡単な意思決定支援
実務では、データの収集 蓄積 分析を経て意思決定を行うことが多々ある(この一連の考え方を BI と呼ぶ)。アンケートを通して最も簡単な BI の流れを俯瞰する。アンケートの集計結果からデータの分析を行う。

第15回 後期理解度確認問題

後期理解度確認問題で自身の ICT スキルを確認する。

2022年度 後期

1.0単位

ICT実習 (F)【GC(日)】

三木 洪子

< 授業の方法 >

講義・実習

< 授業の目的 >

この科目は、共通教育科目のリテラシー科目群、情報分野に属しています。

全学DPに掲げる、広い教養を身につけること、獲得した知識や技能をもって社会に貢献する力を身につけることを目的とします。

当講義では[第三者による一定の評価に基づく、自信を持って実務を遂行できる Word・Excel スキル]の習得を目指します。

知識面では、主にネットワークや情報モラルに関して、個人や家庭で必要とされるレベルから企業で必要とされるレベルにまで理解を深めていきます。

近年、企業にとってコンピューターの存在は必要不可欠のものとなっており、PC 操作については習得済みという前提で業務が組み立てられている場合も多く見受けられます。

また、何らかの業務に従事し始めた当初は、業務知識(業務遂行に必要な知識)の吸収に多くの時間を割く必要があり、PC 操作の学習・習得にまではなかなか手が回らないということもありがちな話です。

是非、当講義の目標レベルにまで到達し、学業においても社会生活においても、PC 操作に手を取られることな

く、取り組むべき本質に集中できるようになっていただきたいと思います。

なお、この授業は、実務経験のある教員が担当しています。IT 企業での業務を 10 年、情報教育業務は 15 年経験していますので、企業等で求められる情報に関する知識・スキルを、より実践的な観点から解説します。

< 到達目標 >

1. ICTプロフィシエンシー検定協会主催の P 検試験「3 級以上」に合格する
2. Word を利用し、複数ページで構成された文書を効率よく作成できる
3. Excel を利用し、件数の多い表の作成と集計、及び簡単な分析を行うことができる
4. 一般的なメディアについての知識を持ち、適切な方法でデータの受け渡しを行える
5. アカountの安全な保持手段についての理解を深める。

< 授業のキーワード >

ソフトウェア間の連携、知的財産、アカウント管理、BI

< 授業の進め方 >

実習を中心に講義を進めます。

テキストとして eラーニング教材「nanare」を利用します。

一部の回を除き、毎回、講義内で提示された課題を提出してもらいます。

< 履修するにあたって >

(1) 遅刻について

当講義は実習が中心となるため、遅刻者対応は授業を一時的に中断させるということを認識しておいてください。

(2) 欠席について

欠席した場合は、次の講義までに必ず講義内容を自習してください。

講義開始 20 分以降に入室した学生は欠席とみなします。遅刻 3 回で欠席 1 回とし、欠席回数が全講義回数の 3 分の 1 を超えた場合は評価不能とみなします。

(3) アカountについて

手元に届いているユーザーID、パスワードが記載されたハガキを必ず持参してください。

情報処理実習室の PC を利用する際に、ログイン用のユーザーID、パスワードが必要です。

紛失した場合は、必ず申し出てください。アカウントの貸し借りは厳禁です。

(4) 講義に臨む姿勢について

各学生の PC 操作スキルには大きな開きがありますが、他人と比較することなく、自己のスキル向上に努めるようにしてください。

(5) 学習環境について

毎回、eラーニング教材 nanare の課題が出ますので、自宅で学習できる環境を整えることが望ましいです。

PC を所有していない人は購入することを推奨します。なお、大学情報処理実習室の PC の OS は Windows であり、Windows を基本として説明を行います。

< 授業時間外に必要な学修 >

後期理解度確認問題は eラーニング教材 nanare の課題から出題されますので、指示された範囲を学習しておいてください。

当講義ではタイピングスキルを重視しています。P 検準 2 級の合格基準（日本語 75 文字/分以上のスピードでタッチタイピングができる）をクリアしていない場合、できるだけ日を置かず集中的に練習し、早めに目標に到達してください。

・学習に要する時間目安

- eラーニング教材 nanare の学習：1~2 時間/週（個人差あり）

- タイピングの練習：10 分/日（個人差あり）

タイピングが目標速度に達していない場合のみ

< 提出課題など >

講義内に提出する課題と、eラーニング教材 nanare の課題があります。

eラーニング教材 nanare の課題の完了期限は 4 回あります。

1. 第 04 回講義日の前日 24 時までに 157-191 までの範囲を学習済みにすること

2. 第 06 回講義日の前日 24 時までに 192-206 までの範囲を学習済みにすること

3. 第 09 回講義日の前日 24 時までに 207-224 までの範囲を学習済みにすること

4. 第 14 回講義日の前日 24 時までに 225-231 までの範囲を学習済みにすること

eラーニング教材 nanare の課題のフィードバックは教材の自動添削機能によって行い、講義時間内に質疑応答の時間を設けます。

講義内に提出する課題のフィードバックは講義時間内に行い、講義時間外においても解説や動画を Web サイトで閲覧できるようにします。内容によっては模範解答を紹介します。

< 成績評価方法・基準 >

以下の割合で総合的に評価します。

- eラーニング教材 nanare の課題：30 %

- 講義内に提出する課題：15 %

- 後期理解度確認問題：25 %

- P 検：30 %

単位取得には、各課題の提出と検定試験対策が必要です。普段の取り組みが評点に反映されやすくなるよう、後期理解度確認問題は nanare から抜粋して出題します。

< テキスト >

eラーニング教材「nanare」2021 年度版

後期からの受講生は、教材費 3,500 円を初回登校日に持参してください。

遠隔申請者には第 1 回の講義内で支払い方法を案内します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンスと前期の復習

- 当講義の意義、進め方、注意事項、単位の評価基準などについて理解する。

- eラーニング教材 nanare の学習の流れについて理解する。

- 前期の内容（実技、知識問題）の復習をする。

- nanare の主な学習内容：（Excel）データの並べ替え、複数シートの操作

第2回 Office ソフトウェアの連携

- Office ソフトウェアの連携（特に Word 文書内に Excel の成果物を取り込む方法）について理解・実習する。

- nanare の主な学習内容：（Word）表の編集と効率的な表の作成

第3回 アカウントの管理

- 各種オンラインサービスを利用するために個人や企業が保持するアカウントの数は増加の一途を辿っている。それらの不適切な管理が招くリスクと安全な保持手段についての理解を深める。

- nanare の主な学習内容：（Excel）ヘッダーとフッターの設定方法とグラフの構成要素

第4回 Word・Excel の実技問題、知識確認問題

- 主に実技問題で 3 級レベルの操作スキルのレベルを確認する。

- nanare の主な学習内容：（Word）ヘッダーとフッターの設定とセクションの利用

第5回 P 検 3 級模擬演習とタイピング測定

- P 検 3 級の模擬試験に取り組み、自身のレベルと得意/不得意分野を多角的に確認する。

- タイピング測定を実施し、今後の目標を設定する。

- nanare の主な学習内容：（Excel）IF関数と複数の関数の組み合わせ

第6回 Excel データのインポートと表・グラフの作成

- 区切り文字で区切られた異なるファイル形式のデータを Excel に取り込み、表やグラフを作成する方法について理解・実習する。

- nanare の主な学習内容：（Word）スタイルの利用と目次の作成

第7回 Word レポート作成講座

- 見出しと Word のスタイル機能を活用し、複数ページ

に渡る文書を作成するポイントを理解する。

- nanare の主な学習内容：（Excel）RANK 関数とVL00 KUP 関数

第8回 Excel 関数集中講座

- Excel の関数に対する苦手意識解消を目的とし、身近な例から関数の概念と利用方法を理解する。

- nanare の主な学習内容：（Word）索引の作成と差し込み印刷

第9回 Excel 関数を使用した問題解決実習

- 特定のテーマ（問題）について、それらを手持ちのソフトウェア（道具）を利用して解決する実習を行う。

- [テーマの例] 簡易レジスター作成

- nanare の主な学習内容：（Word）文書の保護（Excel）テーブル機能

第10回 P 検準 2 級 Word・Excel の実技問題、知識確認問題

- 準 2 級レベルの Word・Excel の操作スキルのレベルを確認する。

- 各自が自己分析に基づいた検定試験対策を行う。

- nanare の主な学習内容：（Excel）ピボットテーブルの作成と編集

第11回 P 検準 2 級模擬演習とタイピング測定

- P 検準 2 級の模擬試験に取り組み、自身のレベルと得意/不得意分野を多角的に確認する。

- 各自が自己分析に基づいた検定試験対策を行う。

- タイピング測定を実施し、検定試験の受験級を判断する。

第12回 ドキュメント情報の編集とファイル形式の変換

- 保存したファイルの情報の編集、保護、ファイル形式の変換について実習する。

第13回 Excel による最も簡単な意思決定支援

- 実務では、データの収集 蓄積 分析を経て意思決定を行うことが多々ある（この一連の考え方を BI と呼ぶ）。アンケートを通して最も簡単な BI の流れを俯瞰する。

- アンケートの集計結果からデータの分析を行う。

第14回 P 検本番試験

- 検定試験形式で自身の ICT スキルを確認する。

第15回 後期理解度確認問題

- 後期理解度確認問題で自身の ICT スキルを確認する。

2022年度 後期

1.0単位

ICT実習 【法】

三木 洪子

<授業の方法>

講義・実習

<授業の目的>

この科目は、共通教育科目のリテラシー科目群、情報分

野に属しています。

全学DPに掲げる、広い教養を身につけること、獲得した知識や技能をもって社会に貢献する力を身につけることを目的とします。

当講義では [第三者による一定の評価に基づく、自信を持って実務を遂行できる Word・Excel スキル] の習得を目指します。

知識面では、主にネットワークや情報モラルに関して、個人や家庭で必要とされるレベルから企業で必要とされるレベルにまで理解を深めていきます。

近年、企業にとってコンピューターの存在は必要不可欠のものとなっており、PC 操作については習得済みという前提で業務が組み立てられている場合も多く見受けられます。

また、何らかの業務に従事し始めた当初は、業務知識（業務遂行に必要な知識）の吸収に多くの時間を割く必要があり、PC 操作の学習・習得にまではなかなか手が回らないということもありがちな話です。

是非、当講義の目標レベルにまで到達し、学業においても社会生活においても、PC 操作に手を取られることなく、取り組むべき本質に集中できるようになっていただきたいと思います。

なお、この授業は、実務経験のある教員が担当しています。IT 企業での業務を 10 年間、情報教育業務は 15 年間経験していますので、企業等で求められる情報に関する知識・スキルを、より実践的な観点から解説します。
<到達目標>

1. ICTプロフィシエンシー検定協会主催の P 検試験「準 2 級以上」に合格する
2. Word を利用し、複数ページで構成された文書を効率よく作成できる
3. Excel を利用し、件数の多い表の作成と集計、及び簡単な分析を行うことができる
4. 一般的なメディアについての知識を持ち、適切な方法でデータの受け渡しを行える
5. アカウントの安全な保持手段についての理解を深める。

<授業のキーワード>

ソフトウェア間の連携、知的財産、アカウント管理、BI
<授業の進め方>

実習を中心に講義を進めます。

テキストとして eラーニング教材「nanare」を利用します。

一部の回を除き、毎回、講義内で提示された課題を提出してもらいます。

<履修するにあたって>

(1) 遅刻について

当講義は実習が中心となるため、遅刻者対応は授業を一

時的に中断させるということを認識しておいてください。

(2) 欠席について

欠席した場合は、次の講義までに必ず講義内容を自習してください。

講義開始 20 分以降に入室した学生は欠席とみなします。遅刻 3 回で欠席 1 回とし、欠席回数が全講義回数の 3 分の 1 を超えた場合は評価不能とみなします。

(3) アカウントについて

手元に届いているユーザーID、パスワードが記載されたハガキを必ず持参してください。

情報処理実習室の PC を利用する際に、ログイン用のユーザーID、パスワードが必要です。

紛失した場合は、必ず申し出てください。アカウントの貸し借りは厳禁です。

(4) 講義に臨む姿勢について

各学生の PC 操作スキルには大きな開きがありますが、他人と比較することなく、自己のスキル向上に努めるようにしてください。

(5) 学習環境について

毎回、eラーニング教材 nanare の課題が出ますので、自宅で学習できる環境を整えることが望ましいです。

PC を所有していない人は購入することを推奨します。なお、大学情報処理実習室の PC の OS は Windows であり、Windows を基本として説明を行います。

< 授業時間外に必要な学修 >

後期理解度確認問題は eラーニング教材 nanare の課題から出題されますので、指示された範囲を学習しておいてください。

当講義ではタイピングスキルを重視しています。P 検準 2 級の合格基準（日本語 75 文字/分以上のスピードでタッチタイピングができる）をクリアしていない場合、できるだけ日を置かず集中的に練習し、早めに目標に到達してください。

・学習に要する時間目安

- eラーニング教材 nanare の学習：1~2 時間/週（個人差あり）

- タイピングの練習：10 分/日（個人差あり）

タイピングが目標速度に達していない場合のみ

< 提出課題など >

講義内に提出する課題と、eラーニング教材 nanare の課題があります。

eラーニング教材 nanare の課題の完了期限は 4 回あります。

1. 第 04 回講義日の前日 24 時までに 157-191 までの

範囲を学習済みにすること

2. 第 06 回講義日の前日 24 時までに 192-206 までの範囲を学習済みにすること

3. 第 09 回講義日の前日 24 時までに 207-224 までの範囲を学習済みにすること

4. 第 14 回講義日の前日 24 時までに 225-231 までの範囲を学習済みにすること

eラーニング教材 nanare の課題のフィードバックは教材の自動添削機能によって行い、講義時間内に質疑応答の時間を設けます。

講義内に提出する課題のフィードバックは講義時間内に行い、講義時間外においても解説や動画を Web サイトで閲覧できるようにします。内容によっては模範解答を紹介します。

< 成績評価方法・基準 >

以下の割合で総合的に評価します。

- eラーニング教材 nanare の課題：30 %

- 講義内に提出する課題：15 %

- 後期理解度確認問題：25 %

- P 検：30 %

単位取得には、各課題の提出と検定試験対策が必要です。普段の取り組みが評点に反映されやすくなるよう、後期理解度確認問題は nanare から抜粋して出題します。

< テキスト >

eラーニング教材「nanare」2021 年度版

後期からの受講生は、教材費 3,500 円を初回登校日に持参してください。

遠隔申請者には第 1 回の講義内で支払い方法を案内します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンスと前期の復習

- 当講義の意義、進め方、注意事項、単位の評価基準などについて理解する。

- eラーニング教材 nanare の学習の流れについて理解する。

- 前期の内容（実技、知識問題）の復習をする。

- nanare の主な学習内容：（Excel）データの並べ替え、複数シートの操作

第2回 Office ソフトウェア間の連携

- Office ソフトウェアの連携（特に Word 文書内に Excel の成果物を取り込む方法）について理解・実習する。

- nanare の主な学習内容：（Word）ヘッダーとフッターの設定、セクションの利用

第3回 アカウントの管理

- 各種オンラインサービスを利用するために個人や企業が保持するアカウントの数は増加の一途を辿っている。

それらの不適切な管理が招くリスクと安全な保持手段に

ついでに理解を深める。

- nanare の主な学習内容：(Excel)ヘッダーとフッターの設定方法、グラフの構成要素

第4回 Word・Excel の実技問題、知識確認問題

主に実技問題で 3 級レベルの操作スキルのレベルを確認する。

- nanare の主な学習内容：(Word)トリミング(Excel)オートフィルター、ROUND 関数

第5回 P 検 3 級模擬演習とタイピング測定

P 検 3 級の模擬試験に取り組み、自身のレベルと得意/不得意分野を多角的に確認する。

タイピング測定を実施し、今後の目標を設定する。

- nanare の主な学習内容：(Excel)IF関数、複数の関数の組み合わせ

第6回 Excel データのインポートと表・グラフの作成

- 区切り文字で区切られた異なるファイル形式のデータを Excel に取り込み、表やグラフを作成する方法について理解・実習する。

- nanare の主な学習内容：(Word)スタイルの利用(Excel)RANK 関数、VLOOKUP 関数

第7回 Word レポート作成講座

- 見出しと Word のスタイル機能を活用し、複数ページに渡る文書を作成するポイントを理解する。

- nanare の主な学習内容：(Excel)複合グラフ、COUNTIF関数、SUMIF関数

第8回 Excel 関数集中講座

- Excel の関数に対する苦手意識解消を目的とし、身近な例から関数の概念と利用方法を理解する。

- nanare の主な学習内容：(Word)索引の作成、差し込み印刷(Excel)ユーザー定義の表示形式

第9回 Excel 関数を使用した問題解決実習

- 特定のテーマ(問題)について、それらを手持ちのソフトウェア(道具)を利用して解決する実習を行う。

- [テーマの例] 簡易レジスター作成

- nanare の主な学習内容：(Word)文書の保護(Excel)テーブル機能

第10回 P 検準 2 級 Word・Excel の実技問題、知識確認問題

準 2 級レベルの Word・Excel の操作スキルのレベルを確認する。

各自が自己分析に基づいた検定試験対策を行う。

- nanare の主な学習内容：(Excel)ピボットテーブルの作成と編集

第11回 P 検準 2 級模擬演習とタイピング測定

P 検準 2 級の模擬試験に取り組み、自身のレベルと得意/不得意分野を多角的に確認する。

タイピング測定を実施し、検定試験の受験級を判断する。

第12回 ドキュメント情報の編集とファイル形式の変換
保存したファイルの情報の編集、保護、ファイル形式の

変換について実習する。

第13回 Excel による最も簡単な意思決定支援

実務では、データの収集 蓄積 分析を経て意思決定を行うことが多々ある(この一連の考え方を BI と呼ぶ)。

アンケートを通して最も簡単な BI の流れを俯瞰する。アンケートの集計結果からデータの分析を行う。

第14回 P 検本番試験

検定試験形式で自身の ICT スキルを確認する。

第15回 後期理解度確認問題

後期理解度確認問題で自身の ICT スキルを確認する。

2022年度 後期

2.0単位

アジア・アフリカの社会と文化

雑賀 広海

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

・本授業は、全学DPが示すように、幅広い知識に基づいて他者および異文化にたいする理解を深めたいという、自分の見解を論理的に説明することの修得を目指すものです。

・香港映画というメディアを通じて、アジアの歴史・文化・社会についての知見を深め、それによって香港映画からアジアを読み解くことを目的とします。

<到達目標>

・映画文化が同時代の政治や社会と密接に結びついたものであること、さらに、作り手と受け手の多層的視点が折り重なって形成されるということを説得的に論じることができる。

・映画作品の物語をたどるだけでなく、映像表現によって何が表象されているかを作品分析から導くことができる。

<授業のキーワード>

香港映画、植民地、人種、ジェンダー、セクシュアリティ、身体性

<授業の進め方>

・Power Pointを使った講義形式で授業を進める。基本的に、各回で一本の映画をとりあげ、映画学としてどのような議論がなされているかを紹介、解説する。授業で使用したスライドは、授業後にdotCampusにPDFファイルでアップロードする。

<履修するにあたって>

配布資料はdotCampusやOneDriveにアップロードするので、各自で予習や復習に活用してください。レポートの提出はdotCampusでおこないます。香港映画を扱いますが、中国語の能力は問いません。授業形態に変更があれば、授業計画も若干の変更があるかもしれません。

<授業時間外に必要な学修>

授業内容を自分の言葉で要約して説明することを毎回の授業後のレポート課題とします。課題の作成には1時間程度が必要です。授業で参照する論文は、事前に読んで予習しておくことが望ましいですが、ほとんどが英語の論文であるため必須ではありません（読むとすれば2時間程度）。

< 提出課題など >

記述形式の小レポート（300字程度を目安としますが、厳密な字数制限は設けません）。

第2回～第15回の講義において、各回で扱う映画作品について授業内容と関連した質問を出しますので、その質問にそってレポートの作成をしてください。提出期間は授業日から1週間とします。

なお、この小レポートは毎回提出ではなく、第2回～第15回までの間で10回以上の提出を必須のラインとします。したがって、10回未満は単位取得の条件を満たしません。

< 成績評価方法・基準 >

提出されたレポートをそれぞれ10点満点で評価して成績を出します。11回以上レポートを提出した場合、最低点のものを評価から除外し、なるべく高得点となるように調整します。

レポートの評価基準は、議論の正確さと充実度で評価し、誤字脱字は1点ずつ減点します。

添削したレポートはdotCampusで順次返却しますので、次のレポート作成の際の参考にしてください。

< テキスト >

特に定めなし。

< 参考図書 >

四方田犬彦『電影風雲』白水社、1993年

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

講義の全体的な概要、進行方法と成績評価の基準について説明する。アジア映画を議論する際の注意点について解説する。

第2回 アクション映画

『残酷ドラゴン 血斗竜門の宿』（キン・フー監督、1967）| 武侠映画と女性剣士

第3回 アクション映画

『片腕必殺剣』（チャン・チェ監督、1967）| 残酷描写と男性の身体

第4回 アクション映画

『ドラゴン怒りの鉄拳』（ロー・ウェイ監督、1972）| 人種の表象と中国ナショナリズム

第5回 アクション映画

『クレージーモンキー/笑拳』（ジャッキー・チェン監督、1979）| カンフー映画における父子関係

第6回 香港都市と1997年

『新Mr. Boo! アヒルの警備保障』（マイケル・ホイ監督、1981）| 広東語映画と香港エブリマン

第7回 香港都市と1997年

『ラヴソング』（ピーター・チャン監督、1996）| 越境する物語

第8回 香港都市と1997年

『メイド・イン・ホンコン』（フルーツ・チャン監督、1997）| 下層階級から見た香港

第9回 香港都市と1997年

『花様年華』（ウォン・カーウアイ監督、2000）| ポスト1997の香港都市

第10回 ジェンダー

『狼ノ男たちの挽歌・最終章』（ジョン・ウー監督、1989）| 男性中心社会のホモソーシャルな関係

第11回 ジェンダー

『スウォーズマン 女神伝説の章』（チン・シウトン監督、1993）| トランスジェンダーの女性

第12回 ジェンダー

『誰かがあなたを愛してる』（メイベル・チャン監督、1995）| 女性監督による女性の表象

第13回 ジェンダー

『藍宇？情熱の嵐？』（スタンリー・クワン監督、2001）| 同性愛者の欲望

第14回 中国と香港

『ドラッグ・ウォー 毒戦』（ジョニー・トー監督、2012）| 検閲と作家性

第15回 中国と香港

『十年』（2015）| 現在の香港の自由と民主主義

2022年度 後期

2.0単位

アジア・アフリカの社会と文化

浜本 宏

< 授業の方法 >

簡易な英文で書かれたテキストを読みながら対面授業で実施します。

授業用関係資料については授業時に言及するURLなどから事前に取得してもらうことがあります。

また、授業時に提出してもらう提出課題などについても提出先のアドレスを授業時に伝えますので、原則、当該アドレスへの提出を求めます。

できる限りソクラテス方式で授業を進め、受講生の授業への積極的参加をしやすい授業環境を作りたいと考えています。

< 授業の目的 >

本学ディプロマポリシーに基づき、特に「共通教育等を通じて、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養」できるような授業及び「国内外において、価値観

や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができるよう授業を目指します。また、衆議院外務委員会与党委員・理事及び同院海賊対処・テロ防止特別委員会与党委員・理事などの実務経験のある教員の立場から、わが国の外交政策、特に対アジア・アフリカ政策などがどのように決まってくるのか等についても適宜紹介します。なお本講義は、国政又は地方政治において外交政策や国際化政策などに携わる又は携わったことのある実務者等を招いて、実践的教育から構成される授業科目である。

<到達目標>

国際社会の法・政治・経済・文化構造の基本的理解
日本とAA（アジア・アフリカ）諸国との基本的関係の重要性の理解（特に経済・文化面での）

<授業のキーワード>

AA、アジア・アフリカ、国際法、中国、韓国、南アフリカ、ナミビア、南西アフリカ、フィリピン、英領香港、インド、タイ、カンボジア、ビルマ、ミャンマー、台湾、国際連合、国際司法裁判所

<授業の進め方>

今年度は特にアジア諸国に関する平易な英文を毎回読みつつ授業を進めていきます。なお、国際社会の法である国際法とAA諸国のかかわりについても随時、解説していきます。

<履修するにあたって>

コロナ禍が終息した時には、是非、学生の特権を利用して、AA諸国、特にアジア諸国へは短期の海外観光旅行でも良いですから実現してください。"Seeing is believing."百聞は一見に如かずです！

<授業時間外に必要な学修>

AA諸国に関するニュースや書物に関心を寄せてください。コロナ禍終息後には短期間でも、AA諸国を訪ねてください。予復習共に各1時間程度の時間をかけてください。

<提出課題など>

授業中に指示します。

<成績評価方法・基準>

最終提出課題（70～80%）と非定期的に求められる提出課題（20～30%）の総合評価で行います。講義時に説明した重要事項が、しっかり把握理解されているかを基準とします。

<テキスト>

Hello, Asia! (南雲堂 ISBN978-4-523-17542-1 田地野 彰/ナガトモ/R ファウザー著)

注意：TEXTは毎回使用しますので、必ず購入してください。最終課題などの提出時にも使用します。

<参考図書>

『現代アジア学入門（芦書房）』by 鈴木隆・西野真由
『アジアの終わり（徳間書店）』by マイケル・オースリン
『中国の大問題（PHP新書）』by 丹羽

宇一郎 『嫌韓問題の解き方（朝日新聞出版）』by

大西裕 他

<授業計画>

第1回 講義開講にあたって

AA諸国概観

講義を始めるにあたっての諸注意など

AA諸国の地理的歴史的事項の確認を中心に

第2回 韓国政府の主要政策としての韓流ドラマについて

日本とAA諸国との関係の重要性について

韓国政府の政策としての韓流TVドラマの現状と今後について

日本とAA諸国の関係の重要性について

第3回 韓国のハングル文字について

国際法とは何か

ハングル文字の歴史と特性について

日本を含めAA諸国も構成員である国際社会の法である国際公法について

第4回 インドの交通事情

AA諸国と国際法1?

経済の発展とともに深刻な社会問題となっているインドの交通事情について

AA諸国の一員でもある日本が、中国人奴隷救出のために関わった国際法判例からマリア・ルス号事件について。関係国：日本、中国（清）、ペルー、ロシア

第5回 カレーの本場インドのカレーにはカレーライスはあるか

AA諸国と国際法2?

インドのカレーはどのようなものなのかについて

日本が日清戦争開戦時の清（明治期の中国）及び英国と関わった高陞号事件について。関係国：日本、中国（清）、英国。

第6回 シンガポールのハローキティ

シンガポールの歴史と文化について

シンガポールにおけるハローキティのすごい人気について

1967年にマレーシアから独立したシンガポールの現状と今後について

第7回 パキスタンの集団結婚政策

パキスタンの歴史と文化について

パキスタン政府の国家政策としての結婚奨励策について

1947年にインドから分離独立したパキスタンの歴史と文化について

第8回 インドネシアの象の医者

インドネシアの社会と文化について

2004年に襲われたインドネシアの大地震と復興のために活躍した象について

インドネシアの国土、言語、宗教について

第9回 韓国の血液型ブームについて
韓国の少子高齢化問題について
韓国メディアが過去数年間、血液型と性格の関連性を特集した時の韓国社会の反応について
韓国の少子高齢化問題と、その一因について

第10回 フィリピンのメディカルツーリズム政策について
フィリピンの歴史と文化について
美容整形と旅行を観光産業化し始めたフィリピンの現状について
多数の群島から構成されるフィリピンの歴史と文化について

第11回 外国語としての中国語について
経済発展とともに大きく変貌する中国について
中国の経済発展とともに中国語を学ぶ人たちが増えています。その現状と未来について
経済発展とともに大きく変貌する中国が抱える諸問題について

第12回 中国のカウチポテト族問題について
多民族社会としての中国について
中国の経済発展とともに国民の日常生活にも多大の変化が生じている。特にTV等の過視聴問題などを中心に深刻な問題が生じている。
多言語社会としての中国について

第13回 Bollywood映画とは
農業国としてのインドとITビジネス国としてのインドについて
インドのムーンバイは世界の主要映画産業都市として名高い。そこで展開される映画を愛してやまない若者たちの実態について
今世紀中ごろにはインドが最も重要な経済大国のひとつになると予想されている。ITビジネス国家と農業国家としてのインドについて

第14回 日本とアフリカについて
南アフリカの人種隔離政策（アパルトヘイト）について

日本を中心に進められてきたアフリカ諸国支援のためのTICADの歴史と今後について
南アフリカにおいて実施された悪名高いアパルトヘイト政策について

第15回 総括
最終提出課題などについての説明と授業の総復習をします

2022年度 前期

2.0単位

アジア・アフリカの社会と文化

為村 啓二

<授業の方法>

パワーポイントを使った講義形式で授業を進める。

毎回の授業の終わりに、理解度を把握するために小レポートを課す。

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）の本科目の取扱いについて 授業を実施します。

ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

<授業の目的>

アジア・アフリカの多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて学習し、地域文化を理解することにより円滑なコミュニケーションを可能とすること。

これらの地域にある世界遺産を通じてその地域で育まれた文化を学習し、その背景にある自然文化も同時に理解すること。なお、この授業の担当者は、外資系航空会社で営業、マーケティング業務を30年以上経験している、実務経験のある教員であるので、より実践的な観点からアジア・アフリカ地域の文化・社会の現状について解説出来る。

<到達目標>

アジア・アフリカの文化・社会・自然に関する広く豊かな知識を備え、それを社会に役立てる事が出来る
広い教養を身に付け、豊かな人間性や社会性を養い、国内外において、価値観や意見の異なる様々な人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てる事が出来る

文化・社会・自然に関する広く豊かな知識を備え、それを社会に役立てる事が出来る

アジア・アフリカの文化的特徴を説明することが出来る。

アジア・アフリカ地域に存在する代表的な世界遺産を説明することが出来る。

<授業のキーワード>

世界4大文明 世界遺産 シルクロード 宗教 交易

<授業の進め方>

DVDおよびPower Pointを用いて授業を進める。

授業資料はすべてOneDriveで入手出来る。

<履修するにあたって>

英語圏以外の地域の歴史や文化に興味があり、これらの地域をより深く学びたい者を対象とする。

<授業時間外に必要な学修>

講義の後、授業で用いたパワーポイントの資料を自宅で復習することが必要。dotCampusで閲覧出来る。毎回少

なくとも1時間程度の復習が必要となる。また、より授業を理解しやすくなる為に事前学習を行うことを勧める。

< 提出課題など >

課題を授業終了後必ずdotCampusに提出することにより出席とみなされる

< 成績評価方法・基準 >

提出課題とその内容を中心に総合して評価します。

課題提出70%、最終レポート 30%

< テキスト >

なし

< 参考図書 >

なし

< 授業計画 >

第1回 はじめに

オリエンテーション 自己紹介 授業の進め方 注意点など

第2回 世界4大文明

メソポタミア文明

世界最古の文明と言われるメソポタミア文明を学習する。チグリス・ユーフラテス両河流域に前3000年頃に都市文明が成立し、エジプトと並んでオリエント文明の中心地域となる。多くの民族が興亡し、パピロニア、アッシリア、ペルシア帝国などの古代国家が生まれた。

第3回 世界4大文明

エジプト文明

ナイル川流域に前3000年に生まれた古代エジプト文明はピラミッド、ヒエログリフなどの文字に見られる高度な文明を発展させ、前1世紀のヘレニズム時代の終わりまで続いた。

第4回 世界4大文明

インダス文明

インド・パキスタン・アフガニスタンのインダス川および並行して流れていたとされるガッガル・ハークラ川周辺に栄えた文明である。インダス川流域のモエンジョ＝ダーロ、ハラッパーなどの遺跡に紀元前2500年頃から1500年頃まで、彩文土器、金属器、印章などを伴う高度な都市文明が生まれた。

第5回 世界4大文明

黄河文明

黄河文明は黄河の中・下流域で栄えた古代の中国文明のひとつである。

しかしながら最近では長江文明など多くの文明が発見され現在では「中国文明」と呼ばれるようになっている。

第6回 北アフリカの世界遺産

アフリカ大陸のサハラ砂漠の北に位置する地域の世界遺産を検証する。この地は古くよりギリシア、ローマとの交易、文化交流も盛んで多くの影響を受けている。

第7回 エジプトの世界遺産

古代文明が栄え7000年以上の歴史を持つこの地域ではギザ、ルクソールにあるピラミッドや神殿が多数散財す

る。また、古くよりギリシア・ローマ帝国に影響を受け、イスラム・キリスト教との関わりが深い地域である。

第8回 中間レポート

これまでの授業で学んだことについて中間レポートを作成する。

第9回 トルコの世界遺産

アジアとヨーロッパの境にいちするトルコには多くの宗教、文化が交わり、経済交易の中心的役割も演じてきた。トルコにはその土地柄ゆえのユニークな遺産が多く存在する。これらの世界遺産を詳しく歴史とともに解説する。

第10回 インドの世界遺産

インド国内には30を超える世界遺産が登録されていて、イスラム教、ヒンドゥー教、仏教など宗教に関わる重要な遺産が多く含まれている。これらを中心に宗教、社会、文化との関係を検証しながら解説する。

第11回 東南アジアの世界遺産

東南アジア文化圏に多大な影響を与えた世界文化遺産はアジアの歴史的信仰と文化を今に伝えている。当時の権力の象徴とも言われる都市遺跡や信仰の対象となった様々な遺跡を検証する。また、各地に点在する自然遺産も紹介する。

第12回 中国の世界遺産

イタリアに次ぐ世界で2番目に多くの世界遺産を有する中国を紹介し解説する。その地域、歴史分布は広範囲におよび、中国の歴史の長さや領土の広大さ、その文化的影響の大きさを検証する。

第13回 東アジアの世界遺産

中国を除く東アジアの遺産はモンゴル、北朝鮮、韓国そして日本の各地に登録されている。それぞれの国の文化的意義、価値を検証する。

第14回 その他アジア・アフリカの世界遺産

アジア・アフリカ地域には文化的価値のある多くの遺産が多く存在している。これまで紹介できなかった重要な世界遺産を紹介し、その文化的価値を解説する。

第15回 総括

理解度を確認するためのレポート試験

2022年度 後期

2.0単位

Issues in Japanese Society (交換留学生対応科目)

清水 亮

< 授業の方法 >

10月4日以降 日本の学生は、対面授業(講義 演習)
*今後の感染状況等によっては変更の可能性があります。日英両語を使用して授業を進めます。韓国の留学生は、遠隔で進めます。

留学生と日本文化の知識を共有しながら、日本文化と世界の文化について考えます。

< 授業の目的 >

この授業は、共通教育科目のうち、リテラシー領域に属し、その中でも国際化推進分野に位置づけられる授業の一つです。全学のディプロマ・ポリシー「獲得した知識や技術を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる」ようになることを目的としています。具体的には、日本や世界におけるさまざまな問題について、自分が生まれ育った慣習に基づく画一的な考え方からではなく、グローバルな視点から考え、なんでこうなるのだろうと自問しながら理解し、他者と意見を交換し、全体像を把握できるようになることを目的とします。つまり、現代日本の多様で動的な状況を、グローバルな視点から考察しながら理解し、より良き未来のために何ができるかを考え、行動に移せるようになることを目指します。そうするなかで、生涯にわたり他者理解および異文化理解に関心を持ち続けることができ、修得した知識や技能を社会や世界で役立てられることを到達目標とします。

授業で得た知識を鵜呑みにすることなく、なんでこうなるのだろうと考えながら、日本人学生が日本についてどのように考え、留学生は日本で何を考え発信しようとしているのか、外国人学生が今、日本の何について知りたがっているのか等についてお互いに学び、グローバルな視点を持ちながら、相互理解を深め、よりよい明日の世界を希求します。

<到達目標>

1. 現代日本に関する基礎的な知識を身につけ、それを踏まえて自らの経験を基に、日本の文化、社会等について意見を述べ、他者の意見を踏まえ、理解を深めることができる。
2. 現代日本に関する情報を主体的に収集し、自らの経験と照らし合わせながら整理する中で、他者の視点を踏まえて、現代日本の多様かつ動的な状況を理解し、説明することができる。

<授業のキーワード>

異文化理解、日本の文化・習慣、日本人のライフスタイル、日本の社会、異文化交流

<授業の進め方>

テキストをベースにしたイントロダクションを基に、グループでのディスカッションを通じて、テーマを掘り下げ、さまざまな視点から、日本の現状について考えていきます。

<履修するにあたって>

日本に関する？について、授業でスピークアウトして？の解決の糸口を是非見つけてください。

<授業時間外に必要な学修>

毎週、授業前に、1時間ほど時間をかけて、テキストの該当の部分に事前に目を通し、わかるところ、不明はところは、どこか示せるようになってください。

わからない言葉等があったら、読み方、意味を調べてきてください。

授業後、テキストとノートを基に、テーマと授業内容を1時間ほどかけて振り返り、その週のテーマのまとめを行ってください。

<提出課題など>

シャトルカード（毎回） ワークシート（Week 2からWeek 14）

ファイナル・プレゼンテーション

<成績評価方法・基準>

シャトルカード 1ポイント x 15回 = 15ポイント

ワークシート 5ポイント x 13回 = 65ポイント

ファイナル・プレゼンテーション 20ポイント

<テキスト>

毎週、テキストに沿ったプリントを配布。

<参考図書>

金津日出美・桂島宣弘 アジアにおける日本研究ゼミナール

『留学生のための日本事情入門 1冊で分かる最新日本の総合的紹介』文理閣 2017

佐々木瑞枝『クローズアップ日本事情15 日本語で学ぶ社会と文化』The Japan Times 2017

<授業計画>

第1回 Introduction: Welcome to Japan

コースオリエンテーション 自己紹介 日本のファーストインプレッション

第2回 現代日本の社会

人間関係社会と原則関係社会 家族の変遷 核家族化と人間関係の変遷

第3回 Tips for Getting Around

Japan

生活事情 交通事情 住宅事情

第4回 日本人と宗教

民間信仰 神道 仏教 キリスト教 新仏教 日本人は無宗教？

第5回 日本の四季と

観光スポット：

和の文化

日本の春・夏・秋・冬 季節を楽しむ年中行事 日本の名所 伝統文化体験

第6回 日本のポップカルチャー

現代文化とポップカルチャー

第7回 個人・家族・社会

そして結婚

個人 家族 会社 社会 現代社会における結婚

第8回 日本の食文化と世界：

インターナショナル

フード・リカーになった

日本食と日本の酒

伝統的な和食 ラーメン・お好み焼きの台頭
ファストフードとしての和食 立ち食い
日本酒(杜氏とAI)ビール ワイン ウイスキー
第9回 ショッピング事情
ショッピングモール アウトレット
AFGA クレジットカード デビットカード キャッシュ
レス決済
第10回 現代日本の高等教育
と就活
高等教育の変遷 大学進学率の変遷
日本の大学生生活と海外の大学生生活
就職活動と留学
第11回 日本社会で、女性が活躍
できるために
女性の社会進出 家族 結婚の形態
第12回 アメリカ文化の浸透
vs. 日本文化の発信
パレンティンデー ハロウィーン ブラックフライデー
クリスマス カウントダウンの浸透 vs.
歌舞伎 アニメーション 映画 音楽 キャラクターの
発信
第13回 24/7の人・モノ・金・
情報の流れの中の
世界と日本
twitter、#ブログ、SNSのインパクトとメディア
第14回 ルミナリエ
ルミナリエの起源と現代日本 教訓を受け継いでいくた
めには
第15回 プレゼンテーション
授業でカバーしたテーマから1つを選び、独自の視点で
掘り下げた
プレゼンテーション

2022年度 後期

2.0単位

Issues in Japanese Society 【G C 日】

下岡 邦子

< 授業の方法 >

講義、演習

< 授業の目的 >

この授業は、共通教育科目のうち、リテラシー領域に属し、その中でも国際化推進分野に位置づけられる授業の一つです。全学DPIに示す「幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる」ようになることを目的としています。具体的には、現代日本に関する基礎知識を身につけること、そして、それが学生自身の経験・置かれている環境とどのように結びつくのかを理解することを目指します。そのために、教員から情報を受け取るだけでなく、ディスカッション、情報収集、レポ

ート作成といった活動を行います。

< 到達目標 >

1. 現代日本に関する基礎的な知識を身につけ、それを踏まえて自らの経験や意見を述べることができる。
2. 日本での学生自身の経験・置かれている環境が、どのような歴史的・社会的背景によるものかを理解し、日本で生活する一員として自らを位置づけることができる。

< 授業のキーワード >

日本の科学技術、日本の教育、日本の社会、日本の中の多様性、日本の産業構造と経済

< 授業の進め方 >

講義のほか、ディスカッション、情報収集、レポート作成などの活動を取り入れます。

< 履修するにあたって >

扱うトピックは、学生の興味・関心に応じて適宜変更します。

< 授業時間外に必要な学修 >

情報の収集、レポート作成など、授業時間外で行ってもらった活動がいくつかあります。

予習・復習も合わせて、1時間程度の学修を行ってください。

< 提出課題など >

授業中に課題あるいは小テストを実施します。

授業内課題と小テストのフィードバックは、授業内で行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業への取り組み(20%)、課題(40%)、小テスト(20%)、レポート(20%)によって成績を評価します。3分の1以上の欠席は評価の対象外とします。遅刻3回で欠席1回とみなします。

< テキスト >

『クローズアップ日本事情15 日本語で学ぶ社会と文化』佐々木瑞枝 The Japan Times

2,750円(税込)

< 参考図書 >

『留学生のための日本事情入門 1冊で分かる最新日本の総合的紹介』桂島宣弘編 文理閣

< 授業計画 >

第1回 日本の科学技術

日本の科学技術政策、科学技術が生み出すイノベーション

課題

第2回 日本の環境問題

地球温暖化、日本の環境問題対策、3R

課題

第3回 日本の教育

日本の学校制度、教育内容、課外活動、学校給食

課題

第4回 日本の政治と憲法

日本の憲法、三権分立と議員内閣制、国会

課題

第5回 日本の中の多様性(1)

日本の民族(琉球・アイヌ)、方言

小テスト

第6回 日本の中の多様性(2)

外国人観光客と観光事業

課題

第7回 日本の中の多様性(3)

日本に滞在する外国人、やさしい日本語

課題

第8回 日本の産業構造と経済(1)

日本の産業構造、国際化と産業のこれから

小テスト

第9回 日本の産業構造と経済(2)

日本の企業文化、労働を取り巻く問題

課題

第10回 日本の産業構造と経済(3)

地域に根差した日本の産業

課題

第11回 レポート作成(1)

情報を収集する

第12回 レポート作成(2)

情報を収集する

第13回 レポート作成(3)

レポートの構成を考える

第14回 レポート作成(4)

レポート全体をまとめて書く(下書き)

第15回 レポート作成(5)

レポート全体をまとめて書く(清書)

2022年度 前期

1.0単位

Intensive Training B

ECC

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

Intensive Training1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、TOEICやその他の英語各種検定試験へ対応講座である。本年度はTOEICの高得点を目指した、中級者(TOEIC400点、英検準2級など)以上を対象としたクラスとなる。この科目は、全学DPIに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

- ・ これまで培ってきた基本的な語彙や文法の知識を活用し、検定試験の問題を解くことができる。(知識)
- ・ 英語コミュニケーション能力向上のために積極的に

参加できる。(態度・習慣)

・ 各種試験に応じた技能を身につけるため、語彙学習やその他の学習を授業外でも行うことができる。(態度・習慣)

・ 初出の単語や表現について辞書などで調べ、会話の中で実践することができる。(技能)

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・リーディング・語彙・文法

< 授業の進め方 >

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加型の授業です。積極的な参加が必要となります。

< 履修するにあたって >

1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。| 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。| 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。(週30分程度)| 2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。(週1時間程度)

< 提出課題など >

必要に応じて課された課題を提出。詳細は授業内で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

授業内評価(小テスト20% 授業参加度20%) 授業外評価(授業外課題30%) 定期試験(TOEIC IP)30%

< テキスト >

世界一わかりやすいTOEIC L&Rテスト総合模試1 600点突破レベル 出版社:KADOKAWA 2090円(税込) ISBN:9784046022059

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。

第2回 Test 1

Part1 No.1,2,4 (人の動作)

Part5 No.101,103,105,106,111,115,118,119,120,122 (品詞識別)

第3回 Test 1

Part2 No.7,12,15,17,22,24 (Wh-疑問文)

Part7 No.147-152,164-167 (Eメール、広告、チャット)

第4回 Test 1

Part3 No.32-37,41-43,47-49 (予約、手配)

Part6 No.131-138 (スケジュール、告知)

第5回 Test 1

Part4 No.74-79,89-94 (アナウンス、ガイド、スピー

チ)

Part5 No.108,112,114,121,125 (時制、動詞の形)

第6回 Test 1

Part2 No.8,11,14,21,31 (Yes/No, OR, 間接疑問文)

Part7 No.158-60,168-171 (記事、社内文書)

第7回 Test 1

Part3 No.38-40,44-46, 50-52, 59-61 (トラブル、変更)

Part5 No. 102,104,107,110,113,116,126,129,130 (前置詞、接続詞)

第8回 Test 1

Part3 No.62-70 (図表問題)

Part6 No.139-146 (返品、告知)

第9回 Test 1

Part4 No.80-82, 95-100 (ミーティング抜粋、図表)

Part7 No.176-185 (2文書問題)

第10回 Test 1

Part1No.3,5,6 (位置と動作)

Part7 No.186-195 (3文書問題)

第11回 Test 1

Part2 No.13,18,19,20,23,25,29 (その他の疑問文、ステートメント)

Part5 No.109,124 (代名詞)

第12回 Test 1

Part3 No.53-58 (勧誘、問合せ)、No.50-52 (3人の会話)

Part7 No.153-57,161-63 (クーポン、申込用紙、招待)

第13回 Test 1

Part2 No.9,10,16 (依頼、誘い)、No.26,27,28,30 (Wh-疑問文)

Part7 No.172-75,196-200 (アンケート、3文書問題)

第14回 Test 1

Part4 No.71-73,83-88 (留守電)

Part5-7 復習

第15回 総復習

総復習

2022年度 後期

1.0単位

Intensive Training B

E C C

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

Intensive Training1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、TOEICやその他の英語各種検定試験へ対応講座である。本年度はTOEICの高得点を目標した、中級者 (TOEIC400点、英検準2級など) 以上を対象とし

たクラスとなる。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

- ・ これまで培ってきた基本的な語彙や文法の知識を活用し、検定試験の問題を解くことができる。(知識)
- ・ 英語コミュニケーション能力向上のために積極的に参加できる。(態度・習慣)
- ・ 各種試験に応じた技能を身につけるため、語彙学習やその他の学習を授業外でも行うことができる。(態度・習慣)
- ・ 初出の単語や表現について辞書などで調べ、会話の中で実践することができる。(技能)

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・リーディング・語彙・文法

< 授業の進め方 >

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加型の授業です。積極的な参加が必要となります。

< 履修するにあたって >

- 1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。| 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。| 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

- 1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。(週30分程度)
- 2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。(週1時間程度)

< 提出課題など >

必要に応じて課された課題を提出。詳細は授業内で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

授業内評価 (小テスト20% 授業参加度20%) 授業外評価 (授業外課題30%) 定期試験 (TOEIC IP) 30%

< テキスト >

世界一わかりやすいTOEIC L&Rテスト総合模試1 600点突破レベル 出版社: KADOKAWA 2090円(税込) ISBN: 9784046022059

< 授業計画 >

- 第1回 Test 2
Part 1 No.1-6 Part5 No.101-108
- 第2回 Test 2
Part2 No.7-14
Part6 No.131-138
- 第3回 Test 2
Part3 No.32-40

Part7 No.147-152
 第4回 Test 2
 Part4 No.71-82
 Part5 No.109-115
 第5回 Test 2
 Part3 No.41-49
 Part7 No.153-160
 第6回 Test 2
 Part2 No.15-23
 Part6 No.139-146
 第7回 Test 2
 Part3 No.50-58
 Part5 No.116-122
 第8回 Test 2
 Part4 No.83-91
 Part7 No.161-171
 第9回 Test 2
 Part2 No.24-31
 Part7 No.172-180
 第10回 Test 2
 Part3 No.59-64
 Part5 No.123-130
 第11回 Test 2
 Part4 No.92-100
 Part7 No.181-190
 第12回 Test 2
 Part3 No.65-70
 Part7 No.191-200
 第13回 Test 2
 Test 2 リスニングパート復習 (Parts 1-4)
 第14回 Test 2
 Test 2 リーディングパート復習 (Parts 5,6)
 第15回 総復習
 総復習

 2022年度 後期
 1.0単位
 英会話 B
 ECC

< 授業の方法 >

(演習) : 英語のコミュニケーション能? を伸ばすため、積極的に参加し出来るだけ多く発? すること。

< 授業の目的 >

The purpose of Eikawa 1b is to improve the speaking abilities and confidence of the student by providing sufficient amount of student speaking time and developing skills such as active vocabulary and grammar development, pronunciation, and intonation

< 到達目標 >

Students will be able to communicate in English about a variety of commonly discussed topics.

< 授業の進め方 >

クラスのアクティビティに積極的に参加し、?ら積極的に質問に答えることが求められます。このクラスでは英語で効果的にコミュニケーションを取ることを? 指します。そのためにも、出来るだけ多く英語を話すように? 掛けて下さい。

< 授業時間外に必要な学修 >

Students should spend 20 minutes reviewing the material from the previous class.

Students should spend 20 minutes previewing the material for the following class.

Students should prepare for any course assessment with additional review of the target language studied.

Further instruction and feedback will be given in class.

< 成績評価方法・基準 >

Quizzes = 15%, Conversation Check = 30%, Attendance = 20%, Participation = 35%

< テキスト >

Smart Choice 1 (4th Edition) 出版社:Oxford 3289 円 (税込) ISBN:978-0-19-406099-8

< 授業計画 >

第1回 Introduction & Orientation, Course Overview, Classroom English, Introductions

Orientation and Introductions

第2回 Which one is cheaper?

Types of clothes

第3回 Which one is cheaper?

Shopping for clothes

第4回 What 's she like?

Describe people

第5回 What 's she like?

Making friends

第6回 Assessments: Quiz and Conversation Check

Based on lessons 2 - 5

第7回 What can you do there?

Recommend places to see

第8回 What can you do there?

Places to visit

第9回 Is there a bank near here?

The best places to go and things to do in town

第10回 Assessments: Quiz and Conversation Check

Based on lessons 7 - 9

第11回 Did you have a good time?

Describe a vacation

第12回 Did you have a good time?

Places to go on a vacation

第13回 I'm going to go by car.

Describe future plans

第14回 Assessments: Quiz and Conversation Check

Based on lessons 11-13

第15回 Review of Units 6-10

Based on lessons 2 - 14

2022年度 前期

1.0単位

英会話 B

E C C

< 授業の方法 >

(演習) : 英語のコミュニケーション能? を伸ばすため、積極的に参加し出来るだけ多く発? すること。

< 授業の目的 >

The purpose of Eikawa IIb is to improve the speaking abilities and confidence of the student by providing sufficient amount of student speaking time and developing skills such as active vocabulary and grammar development, pronunciation, and intonation

< 到達目標 >

Students will be able to communicate in English about a variety of commonly discussed topics.

< 授業の進め方 >

クラスのアクティビティに積極的に参加し、? ら積極的に質問に答えることが求められます。このクラスでは英語で効果的にコミュニケーションを取ることを? 指します。そのためにも、出来るだけ多く英語を話すように? 掛けて下さい。

< 授業時間外に必要な学修 >

Students should spend 20 minutes reviewing the material from the previous class.

Students should spend 20 minutes previewing the material for the following class.

Students should prepare for any course assessment with additional review of the target language studied.

Further instruction and feedback will be given in class.

< 成績評価方法・基準 >

Quizzes = 15%, Conversation Check = 30%, Attendance = 20%, Participation = 35%

< テキスト >

Smart Choice 2 4th Edition 出版社:Oxford 3289 円(税込) ISBN: 9780194061148

< 授業計画 >

第1回 Essential English & Classroom English, Clas

s Guidelines, Where's the party?

Course Introduction / Classroom English and Celebrations

第2回 Where's the party?

Describe special cultural events

第3回 The best place in the world

Geography

第4回 The best place in the world

Describe Places

第5回 Assessments: Quiz and Conversation Check

Based on lessons 1 - 4

第6回 I think it's exciting!

Moves and Music

第7回 I think it's exciting!

Understand and give opinions

第8回 Assessments: Quiz and Conversation Check

Based on lessons 1 - 4

第9回 Do it before you're 30!

Extreme sports and activities

第10回 Do it before you're 30!

Personal experiences

第11回 How was your vacation

action activities

第12回 How was your vacation?

Agree and disagree with others

第13回 You should try it!

Suggestions and obligations

第14回 Assessments: Quiz and Conversation Check

Based on lessons 9-13

第15回 Review and Consolidation

Review of Units 1-13

2022年度 後期

1.0単位

英会話 B

E C C

< 授業の方法 >

(演習) : 英語のコミュニケーション能? を伸ばすため、積極的に参加し出来るだけ多く発? すること。

< 授業の目的 >

The purpose of Eikawa IIIb is to improve the speaking abilities and confidence of the student by providing sufficient amount of student speaking time and developing skills such as active vocabulary and grammar development, pronunciation, and intonation

< 到達目標 >

Students will be able to communicate in English about a variety of commonly discussed topics.

< 授業の進め方 >

クラスのアクティビティに積極的に参加し、？ら積極的に質問に答えることが求められます。このクラスでは英語で効果的にコミュニケーションを取ることを？指します。そのためにも、出来るだけ多く英語を話すように？掛けて下さい。

< 授業時間外に必要な学修 >

Students should spend 20 minutes reviewing the material from the previous class.

Students should spend 20 minutes previewing the material for the following class.

Students should prepare for any course assessment with additional review of the target language studied.

Further instruction and feedback will be given in class.

< 成績評価方法・基準 >

Quizzes = 15%, Conversation Check = 30%, Attendance = 20%, Participation = 35%

< テキスト >

Smart Choice 2 (4th Edition) 出版社:Oxford 3289 円 (税込) ISBN: 9780194061148

< 授業計画 >

第1回 Introduction & Orientation, Course Overview, Semester 1 Review, Classroom English Orientation and Review

第2回 I like people who are smart Appearance and personality

第3回 I like people who are smart Describe preferences

第4回 There are too many stores Things to buy and stores

第5回 There are too many stores Make a complaint and discuss shopping habits

第6回 Assessments: Quiz and Conversation Check Based on lessons 2 - 5

第7回 What were you doing? Accidents and injuries

第8回 What were you doing? Tell a story about past events

第9回 I used to sing School activities and past habits

第10回 Assessments: Quiz and Conversation Check Based on lessons 7 - 9

第11回 It must be an earthquake Extreme natural events

第12回 It must be an earthquake Make speculations

第13回 If you live downtown

Places to live and housing options

第14回 Assessments: Quiz and Conversation Check Based on lessons 11-13

第15回 Review of Units 6-10 Based on lessons 2 - 14

2022年度 前期

1.0単位

英語コミュニケーション E

河内山 真理、E C C

< 授業の方法 >

教科書のリスニングとリーディングで各テーマに関する知識や表現を学びます。その後、それぞれに関して自分がプレゼンを行います。プレゼンには、PPT等を用いません。

連絡先: kochiyama@ge.kobegakuin.ac.jp

< 授業の目的 >

英語コミュニケーション1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。実用英語1/2や基礎英語1/2で学んだ文法や語彙を使用し、コミュニケーション能力を育成する。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

- ・会話の全体的な内容を把握できる。(知識)
- ・自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて述べるができる。(知識)
- ・相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣)
- ・発音や発話練習に積極的に参加できる(態度・習慣)
- ・初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・英会話・語彙

< 授業の進め方 >

各Unitでトピックの知識や表現を活用して自分でもプレゼンテーションをします。自分のプレゼンのために、PCまたはタブレットが必要となります。プレゼンに対する質疑応答や討論を行いながら、英語でのコミュニケーション力を高めます。

< 履修するにあたって >

基礎英語1/2および実用英語1/2を履修済みであることを強く推奨します。

連絡先メールアドレス

kochiyama@ge.kobegakuin.ac.jp

< 授業時間外に必要な学修 >

・各レッスンの語彙・表現の意味・綴り・使い方を覚える(20分程度)

・授業で指示されたトピックについてのプレゼン準備(60分程度)

< 提出課題など >

各章ごとに、関連するトピックについてのプレゼン原稿を作成する。フィードバックは授業の発表時に行う。

< 成績評価方法・基準 >

小テスト20%、プレゼン課題(原稿30%、発表30%)最終課題20%

< テキスト >

臼倉美里・鈴木祐一・Christopher Belton著 Speaking Steps (金星堂)

ISBN978-4-7647-4151-5 C1082

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

Unit 1

授業の進め方

What is Important to You?

第2回 Unit 1

What is Important to You?

第3回 Unit 2

My Morning Routine

第4回 Unit 2

My Morning Routine

第5回 Unit 3

Your Recommended Restaurant

第6回 Unit 3

Your Recommended Restaurant

第7回 Unit 4

The Best Film Ever

第8回 Unit 4

The Best Film Ever

第9回 Unit 5

What is a True Friend?

第10回 Unit 5

What is a True Friend?

第11回 Unit 6

The Best Pizza in Town

第12回 Unit 6

The Best Pizza in Town

第13回 Unit 7

An Ideal Private Tour Plan

第14回 Unit 7

An Ideal Private Tour Plan

第15回 総括

総復習

2022年度 前期

1.0単位

英語コミュニケーション A【人文】

E C C

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

英語コミュニケーション1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。実用英語1/2や基礎英語1/2で学んだ文法や語彙を使用し、コミュニケーション能力を育成する。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

- ・会話の全体的な内容を把握できる。(知識)
- ・自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて述べるができる。(知識)
- ・相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣)
- ・発音や発話練習に積極的に参加できる(態度・習慣)
- ・初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・英会話・語彙

< 授業の進め方 >

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加型の授業です。積極的な参加が必要となります。

< 履修するにあたって >

- 1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。| 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。| 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

- 1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。(週30分程度)| 2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。(週1時間程度)

< 提出課題など >

必要に応じて課された課題を提出。詳細は授業内で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

授業内評価(小テスト20% 授業参加度20%) 授業外評価(授業外課題30%) 期末試験(資料10% プレゼ

ンテーション20%)

<テキスト>

Two Sides to Every Discussion 2 出版社：成美堂 2
090円(税込) ISBN:9784791972104

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。|また
今後の講義内容についてもお知らせします。

第2回 Unit 1-1

Shared Housing vs. Living Alone

第3回 Unit 1-2

一人暮らしよりもシェアハウスの方がいい

第4回 Unit 2-1

Studying in a Caf? vs. Home

第5回 Unit 2-2

勉強するなら自宅よりもカフェだ

第6回 Unit 3-1

Gakuran vs. Blazer

第7回 Unit 3-2

高校の制服といえばブレザーよりも学ランだ

第8回 Unit 4-1

Coming-of-Age Ceremonies

第9回 Unit 4-2

成人式は廃止するべきだ

第10回 Unit 5-1

24/7 Convenience Stores

第11回 Unit 5-2

コンビニは 24 時間営業するべきだ

第12回 Unit 6-1

Japanese Era Names

第13回 Unit 6-2

元号はもういらぬ

第14回 プレゼンテーション準備

プレゼンテーションの準備を行います。

第15回 前期のまとめとプレゼンテーション

前期の既習項目の総復習とプレゼンテーション

2022年度 前期

1.0単位

英語コミュニケーション A【GC・中/日】

ECC

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

英語コミュニケーション1/2は共通教育リテラシー科目
群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科
目として位置づけられる。実用英語1/2や基礎英語1/2で
学んだ文法や語彙を使用し、コミュニケーション能力を
育成する。この科目は、全学DPIに示す「獲得した知識や

技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なる
さまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役
立てることができる」を目指す。

<到達目標>

・会話の全体的な内容を把握できる。(知識)

・自分自身について、大学生活や身の回りのできごと
について述べるができる。(知識)

・相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を
示すことができる。(態度・習慣)

・発音や発話練習に積極的に参加できる(態度・習慣)

・初出の単語や表現について辞書などで調べることが
できる。(技能)

<授業のキーワード>

リスニング・スピーキング・英会話・語彙

<授業の進め方>

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施
します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れ
ます。発言や発表の機会も多くある学生参加型の授業で
すので積極的な参加が必要となります。

<履修するにあたって>

1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情が
ない限り単位認定されません。|2) ペア・グループワ
ークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高め
ることを目的としています。そのため、クラスメイトと
積極的に関わる姿勢が求められます。|3) 授業の予習

・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

<授業時間外に必要な学修>

1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。(週30分程度
)|2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。(週1
時間程度)

<提出課題など>

必要に応じて課された課題を提出。詳細は授業内で指示
する。

<成績評価方法・基準>

授業内評価(小テスト20% 授業参加度20%) 授業外
評価(授業外課題30%) 期末試験(資料10% プレゼ
ンテーション20%)

<テキスト>

Discoverer 1 出版社：ECC 2970円(税込)

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。

第2回 Focus1

Do you like going out after work?

第3回 Focus2

Which do you like better, flying or taking the tra
in?

第4回 復習

Your interests

第5回 Conversation 1

Where You`re From

第6回 Focus3

Is there much tourism?

第7回 復習

Your hometown

第8回 Conversation 2

Foods You Like

第9回 Conversation 3

Traditional Dishes

第10回 復習

Food

第11回 Focus 4

I found it boring

第12回 Conversation 4

Past Experiences

第13回 復習

Your recent past

第14回 プレゼンテーション準備

プレゼンテーションの準備を行います

第15回 前期のまとめとプレゼンテーション

前期の既習項目の総復習とプレゼンテーション

2022年度 前期

1.0単位

英語コミュニケーション B【GC・中/日】

ECC

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

英語コミュニケーション1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。実用英語1/2や基礎英語1/2で学んだ文法や語彙を使用し、コミュニケーション能力を育成する。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

- ・会話の全体的な内容を把握できる。(知識)
- ・自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて述べるができる。(知識)
- ・相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣)
- ・発音や発話練習に積極的に参加できる(態度・習慣)
- ・初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・英会話・語彙

< 授業の進め方 >

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加型の授業です。積極的な参加が必要となります。

< 履修するにあたって >

1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。| 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。| 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。(週30分程度)| 2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。(週1時間程度)

< 提出課題など >

必要に応じて課された課題を提出。詳細は授業内で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

授業内評価(小テスト20% 授業参加度20%) 授業外評価(授業外課題30%) 期末試験(資料10% プレゼンテーション20%)

< テキスト >

Discoverer 1 出版社:ECC 2970円(税込)

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。

第2回 Focus1

Do you like going out after work?

第3回 Focus2

Which do you like better, flying or taking the train?

第4回 復習

Your interests

第5回 Conversation 1

Where You`re From

第6回 Focus3

Is there much tourism?

第7回 復習

Your hometown

第8回 Conversation 2

Foods You Like

第9回 Conversation 3

Traditional Dishes

第10回 復習

Food

第11回 Focus 4

I found it boring

第12回 Conversation 4

Past Experiences

第13回 復習

Your recent past

第14回 プレゼンテーション準備

プレゼンテーションの準備を行います

第15回 前期のまとめとプレゼンテーション

前期の既習項目の総復習とプレゼンテーション

2022年度 後期

1.0単位

英語コミュニケーション E

河内山 真理、ECC

< 授業の方法 >

教科書のリスニングとリーディングで各テーマに関する知識や表現を学びます。その後、それぞれに関して自分がプレゼンを行います。プレゼンには、PPT等を用います。

連絡先：kochiyama@ge.kobegakuin.ac.jp

< 授業の目的 >

英語コミュニケーション1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。実用英語1/2や基礎英語1/2で学んだ文法や語彙を使用し、コミュニケーション能力を育成する。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

- ・会話の全体的な内容を把握できる。(知識)
- ・自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて述べるができる。(知識)
- ・相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣)
- ・発音や発話練習に積極的に参加できる(態度・習慣)
- ・初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・英会話・語彙

< 授業の進め方 >

各Unitでトピックの知識や表現を活用して自分でもプレゼンテーションをします。自分のプレゼンのために、PCまたはタブレットが必要となります。プレゼンに対する質疑応答や討論を行いながら、英語でのコミュニケーション力を高めます。

< 履修するにあたって >

基礎英語1/2および実用英語1/2を履修済みであることを強く推奨します。

連絡先メールアドレス

kochiyama@ge.kobegakuin.ac.jp

< 授業時間外に必要な学修 >

・各レッスンの語彙・表現の意味・綴り・使い方を覚える(20分程度)

・授業で指示されたトピックについてのプレゼン準備(60分程度)

< 提出課題など >

各章ごとに、関連するトピックについてのプレゼン原稿を作成する。フィードバックは授業の発表時に行う。

< 成績評価方法・基準 >

小テスト20%、プレゼン課題(原稿30%、発表30%)最終課題20%

< テキスト >

臼倉美里・鈴木祐一・Christopher Belton著 Speaking Steps (金星堂)

ISBN978-4-7647-4151-5 C1082

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

Unit 8

授業の進め方

Useful Apps for Your Smartphone

第2回 Unit 8

Useful Apps for Your Smartphone

第3回 Unit 9

A Proposal for New Flavors

第4回 Unit 9

A Proposal for New Flavors

第5回 Unit 10

A Great Figure in the Business World

第6回 Unit 10

A Great Figure in the Business World

第7回 Unit 11

Cheese for Uncle David Comedy

第8回 Unit 11

Cheese for Uncle David Comedy

第9回 Unit 12

The Babysitter #1 Horror

第10回 Unit 12

The Babysitter #1 Horror

第11回 Unit 13

The Babysitter #2 Horror

第12回 Unit 13

The Babysitter #2 Horror

第13回 Unit 14

Unsent Letter #1 Romance

第14回 Unit 14

Unsent Letter #1 Romance

第15回 総括

総復習

2022年度 後期

1.0単位

英語コミュニケーション A【人文】

E C C

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

英語コミュニケーション1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。実用英語1/2や基礎英語1/2で学んだ文法や語彙を使用し、コミュニケーション能力を育成する。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

- ・ 会話の全体的な内容を把握できる。(知識)
- ・ 自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて述べるができる。(知識)
- ・ 相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣)
- ・ 発音や発話練習に積極的に参加できる(態度・習慣)
- ・ 初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・英会話・語彙

< 授業の進め方 >

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加型の授業ですので積極的な参加が必要となります。

< 履修するにあたって >

- 1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。| 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。| 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

- 1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。(週30分程度)
- 2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。(週1時間程度)

< 提出課題など >

必要に応じて課された課題を提出。詳細は授業内で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

授業内評価(小テスト20% 授業参加度20%) 授業外評価(授業外課題30%) 期末試験(資料10% プレゼ

ンテーション20%)

< テキスト >

Two Sides to Every Discussion 2 出版社:成美堂 2090円(税込) ISBN:9784791972104

< 授業計画 >

第1回 Unit 7-1

Point Cards

第2回 Unit 7-2

ポイントカードはいらない

第3回 Unit 8-1

Disaster Volunteers

第4回 Unit 8-2

政府は災害ボランティアに報酬を支払うべきだ

第5回 Unit 9-1

Domestic Trip vs. Abroad

第6回 Unit 9-2

10万円あったら海外旅行よりも国内旅行だ

第7回 復習

Unit 7からUnit 9の復習

第8回 Unit 10-1

Studying English Abroad

第9回 Unit 10-2

英語を勉強するなら米国よりもフィリピンだ

第10回 Unit 11-1

More Foreign Visitors

第11回 Unit 11-2

外国人観光客の数を今後も増やしていくべきだ

第12回 Unit 12-1

New Year's Eve Fireworks

第13回 Unit 12-2

日本も「年越しカウントダウン花火大会」を開催するべきだ

第14回 プレゼンテーション準備

プレゼンテーションの準備を行います。

第15回 後期のまとめとプレゼンテーション

後期の既習項目の総復習とプレゼンテーション

2022年度 後期

1.0単位

英語コミュニケーション C

栢木 敦子、E C C

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

英語コミュニケーション1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。実用英語1/2や基礎英語1/2で学んだ文法や語彙を使用し、コミュニケーション能力を育成する。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や

技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

<到達目標>

- ・会話の全体的な内容を把握できる。(知識)
- ・自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて述べるができる。(知識)
- ・相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣)
- ・発音や発話練習に積極的に参加できる(態度・習慣)
- ・初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

<授業のキーワード>

リスニング・スピーキング・英会話・語彙

<授業の進め方>

- ・単語の意味を確認する。
- ・リスニングの基礎知識(ヒント)を確認する。
- ・小テストを行う。
- ・リスニングの練習問題に取り組む。
- ・発音および会話の練習を行う。

<履修するにあたって>

基礎英語1/2および実用英語1/2を履修済みであることを強く推奨します。

テキストは必ず購入し、毎回手元に辞書を準備してください。

3分の2以上の出席に達しないときは、特別な事情がない限り単位は認定されない。

<授業時間外に必要な学修>

リスニングの復習は繰り返し行い定着を図ること。(毎日60分程度)

与えられた予習を行うこと。(毎日30分程度)

語彙力強化を図ること。(毎日30分程度)

<提出課題など>

毎回、小テストの提出を課す。

<成績評価方法・基準>

授業内評価100%(発表や小テスト50%+復習テスト50%)

<テキスト>

What a World Listening 1 (テキストのみ) Milada Bro ukal 著 (Pearson)

<授業計画>

第1回 Unit 11 Who Are Some Famous Philanthropists?

Vocabularyの確認

Comprehension: Short Conversations

Comprehension: Long Talk

Pronunciation

Discussion

第2回 Unit 12 What Do You Know about Desert?

Vocabularyの確認

Comprehension: Short Conversations

Comprehension: Long Talk

Pronunciation

Discussion

第3回 Unit 13 What Are Some Different Kinds of Houses?

Vocabularyの確認

Comprehension: Short Conversations

Comprehension: Long Talk

Pronunciation

Discussion

第4回 Unit 14 What Is Some Traditional Clothing from Around the World?

Vocabularyの確認

Comprehension: Short Conversations

Comprehension: Long Talk

Pronunciation

Discussion

第5回 Unit 15 What Are Some Man-Made Islands?

Vocabularyの確認

Comprehension: Short Conversations

Comprehension: Long Talk

Pronunciation

Discussion

第6回 Review Unit 11 - Unit 15

Vocabularyの確認

Comprehension: Short Conversations

Comprehension: Long Talk

Pronunciation

Discussion

第7回 Unit 16 What Do You Know about Sports?

Vocabularyの確認

Comprehension: Short Conversations

Comprehension: Long Talk

Pronunciation

Discussion

第8回 Unit 17 What Do You Know about Australia?

Vocabularyの確認

Comprehension: Short Conversations

Comprehension: Long Talk

Pronunciation

Discussion

第9回 Unit 18 What Are Some National Emblems?

Vocabularyの確認

Comprehension: Short Conversations

Comprehension: Long Talk

Pronunciation

Discussion

第10回 Unit 19 What Do You Know about the Ancient Greeks?

Vocabularyの確認

Comprehension: Short Conversations

Comprehension: Long Talk

Pronunciation

Discussion

第11回 Unit 20 How Did the Nobel Peace Prize Start?

Vocabularyの確認

Comprehension: Short Conversations

Comprehension: Long Talk

Pronunciation

Discussion

第12回 Review Unit 15 - 20

Vocabularyの確認

Comprehension: Short Conversations

Comprehension: Long Talk

Pronunciation

Discussion

第13回 総括

Vocabularyの確認

Comprehension: Short Conversations

Comprehension: Long Talk

Pronunciation

Discussion

第14回 後期復習テスト

後期復習テスト (Unit 11 - Unit 20)

第15回 後期復習テスト解説

後期復習テスト返却および解説

2022年度 後期

1.0単位

英語コミュニケーション A【GC・中/日】

ECC

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

英語コミュニケーション1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。実用英語1/2や基礎英語1/2で学んだ文法や語彙を使用し、コミュニケーション能力を育成する。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

- ・会話の全体的な内容を把握できる。(知識)
- ・自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて述べるができる。(知識)
- ・相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示

すことができる。(態度・習慣)

- ・発音や発話練習に積極的に参加できる(態度・習慣)
- ・初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・英会話・語彙

< 授業の進め方 >

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加型の授業です。そのため積極的な参加が必要となります。

< 履修するにあたって >

- 1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。
- 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。
- 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

- 1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。(週30分程度)
- 2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。(週1時間程度)

< 提出課題など >

必要に応じて課された課題を提出。詳細は授業内で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

授業内評価(小テスト20% 授業参加度20%) 授業外評価(授業外課題30%) 期末試験(資料10% プレゼンテーション20%)

< テキスト >

Discoverer 1 出版社:ECC 2970円(税込)

< 授業計画 >

第1回 Focus 5

Why did you go to Peru?

第2回 Conversation 5

Past Vacations

第3回 復習

Past Travel

第4回 Focus 6

What are you going to do tonight?

第5回 Conversation 6

Your Plans

第6回 復習

Near Future Plans

第7回 Focus 7

How long are you going to be there?

第8回 Conversation 7

Summer Plans

第9回 復習

Future Travel Plans

第10回 Focus 8

Are they older than you?

第11回 Focus 9

Who eats the most snacks?

第12回 復習

Talking about others

第13回 総復習

総復習

第14回 プレゼンテーション準備

プレゼンテーションの準備を行います。

第15回 後期のまとめとプレゼンテーション

後期の既習項目の総復習とプレゼンテーション

2022年度 後期

1.0単位

英文リーディング B

E C C

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

英文リーディングは共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、英文テキストを読む訓練を行うクラスとして位置づけられる。本科目では、伝統的に行われていたような英文テキストを日本語で理解する和訳中心の授業ではなく、読んだ英文の内容について、英語による質疑応答を適宜取り入れ、テーマや問題点などについてのディスカッション等を通じて、いっそう深く精度の高いリーディングのスキルを身につけることを目的とする。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

- ・ これまで培ってきた基本的な語彙や文法の知識を授業内容に応用できる。(知識)
- ・ 読んだ内容について具体的に意見を述べるができる。(知識)
- ・ 英字新聞の短い記事や英語で書かれたパンフレットの内容を正確に解釈できる。(知識)
- ・ 国内のみならず海外での出来事にも関心を示すことができる。(態度・習慣)
- ・ クラスメイトと積極的に意見の共有をし、自らの考えを表現できる。(態度・習慣)
- ・ 初出の単語や表現について辞書などで調べ、まとめることができる。(技能)

< 授業の進め方 >

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加型の授業で

すので積極的な参加が必要となります。

< 履修するにあたって >

1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。| 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。| 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。(週30分程度)| 2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。(週1時間程度)

< 提出課題など >

必要に応じて課された課題を提出。詳細は授業内で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

授業内評価(小テスト20% 授業参加度20%) 授業外評価(授業外課題30%) 学期末試験30%

< テキスト >

Reader's Ark: Intro 出版元: 金星堂、2090円(税込)| ISBN: 9784764739314

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。

第2回 Unit 1

Check Your Level

第3回 Unit 2

Vocabulary Strategy <1>

第4回 Unit 3

Vocabulary Strategy <2>

第5回 Unit 4

Vocabulary Strategy <3>

第6回 Unit 5

Experience Pre-reading Activities

第7回 Unit 6

Understanding Reference Words <1>

第8回 Unit 7

Understanding Reference Words <2>

第9回 Unit 8

Understanding Reference Words <3>

第10回 Unit 9

Using Signal Words to Predict Ideas <1>

第11回 Unit 10

Using Signal Words to Predict Ideas <2>

第12回 Unit 11

Using Signal Words to Predict Ideas <3>

第13回 Unit 12

Identifying the Main Idea <1>

第14回 Unit 13

Identifying the Main Idea <2>

第15回 総復習と試験
既習内容の総復習と学期末試験

2022年度 前期

1.0単位

英文リーディング B

EC C

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

英文リーディングは共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、英文テキストを読む訓練を行うクラスとして位置づけられる。本科目では、伝統的に行われていたような英文テキストを日本語で理解する和訳中心の授業ではなく、読んだ英文の内容について、英語による質疑応答を適宜取り入れ、テーマや問題点などについてのディスカッション等を通じて、いっそう深く精度の高いリーディングのスキルを身につけることを目的とする。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

- ・ これまで培ってきた基本的な語彙や文法の知識を授業内容に応用できる。(知識)
- ・ 読んだ内容について具体的に意見を述べるができる。(知識)
- ・ 英字新聞の短い記事や英語で書かれたパンフレットの内容を正確に解釈できる。(知識)
- ・ 国内のみならず海外での出来事にも関心を示すことができる。(態度・習慣)
- ・ クラスメイトと積極的に意見の共有をし、自らの考えを表現できる。(態度・習慣)
- ・ 初出の単語や表現について辞書などで調べ、まとめることができる。(技能)

< 授業の進め方 >

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加型の授業ですので積極的な参加が必要となります。

< 履修するにあたって >

- 1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。| 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。| 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

- 1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。(週30分程度

) | 2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。(週1時間程度)

< 提出課題など >

必要に応じて課された課題を提出。詳細は授業内で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

授業内評価(小テスト20% 授業参加度20%) 授業外評価(授業外課題30%) 学期末試験30%

< テキスト >

Reader's Ark Basic 出版元: 金星堂、2090円(税込)
ISBN: 9784764738843

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。

第2回 Unit 1

Check Your Level

第3回 Unit 2

Experience Pre-Reading Activities

第4回 Unit 3

Identifying the Main Idea <1>

第5回 Unit 4

Identifying the Main Idea <2>

第6回 Unit 5

Identifying the Main Idea <3>

第7回 Unit 6

Understanding Supporting Details

第8回 Unit 7

Using Signal Words to Predict Ideas <1>

第9回 Unit 8

Using Signal Words to Predict Ideas <2>

第10回 Unit 9

Using Reference Words to Follow Ideas <1>

第11回 Unit 10

Using Reference Words to Follow Ideas <2>

第12回 Unit 11

Paragraph Organization <1>

第13回 Unit 12

Paragraph Organization <2>

第14回 Unit 13

Paragraph Organization <3>

第15回 総復習と試験

既習内容の総復習と学期末試験

2022年度 後期

1.0単位

英文リーディング B

EC C

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

英文リーディングは共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、英文テキストを読む訓練を行うクラスとして位置づけられる。本科目では、伝統的に行われていたような英文テキストを日本語で理解する和訳中心の授業ではなく、読んだ英文の内容について、英語による質疑応答を適宜取り入れ、テーマや問題点などについてのディスカッション等を通じて、いっそう深く精度の高いリーディングのスキルを身につけることを目的とする。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

- ・ これまで培ってきた基本的な語彙や文法の知識を授業内容に応用できる。(知識)
- ・ 読んだ内容について具体的に意見を述べるができる。(知識)
- ・ 英字新聞の短い記事や英語で書かれたパンフレットの内容を正確に解釈できる。(知識)
- ・ 国内のみならず海外での出来事にも関心を示すことができる。(態度・習慣)
- ・ クラスメートと積極的に意見の共有をし、自らの考えを表現できる。(態度・習慣)
- ・ 初出の単語や表現について辞書などで調べ、まとめることができる。(技能)

< 授業の進め方 >

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加型の授業ですので積極的な参加が必要となります。

< 履修するにあたって >

- 1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。| 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。| 3) 授業の予習
- ・ 復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

- 1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。(週30分程度)| 2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。(週1時間程度)

< 提出課題など >

必要に応じて課された課題を提出。詳細は授業内で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

授業内評価(小テスト20% 授業参加度20%) 授業外評価(授業外課題30%) 学期末試験30%

< テキスト >

Reader's Ark 出版元：金星堂、2090円(税込) ISBN : 9784764738652

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。

第2回 Unit 1

How You Read + How Well You Read

- ・ 現在のリーディング力を診断する

第3回 Unit 2

Developing Your "Before Reading Skills"

- ・ プレ・リーディングスキルを磨く

第4回 Unit 3

Identifying a Main Idea

- ・ 重要な情報や概念(メインアイデア)を理解する

第5回 Unit 4

Understanding Supporting Details to Find Main Ideas

- ・ 詳細情報を理解する

第6回 Unit 5

Using Signal Words to Predict Ideas

- ・ アイデアの結びつきをシグナルワード(signal words)から理解する

第7回 Unit 6

Using Referring Words to Follow Ideas

- ・ 指示語(reference)が誰を示すか、何を示すかを把握する

第8回 Unit 7

Understanding Paragraph Organization <1> Comparison and Contrast

- ・ パラグラフ構造：「比較(comparison)」と「対照(contrast)」を学ぶ

第9回 Unit 8

Understanding Paragraph Organization <2> Cause and Effect

- ・ パラグラフ構造：「原因と結果」を学ぶ

第10回 Unit 9

Understanding Paragraph Organization <3> Time Order

- ・ パラグラフ構造：「時間順序」を学ぶ

第11回 Unit 10

Understanding Paragraph Organization <4> Space Order

- ・ パラグラフ構造：「空間順序」を学ぶ

第12回 Unit 11

Summarizing the Ideas

- ・ 重要な情報を「要約する(summarize)」ストラテジーを磨く

第13回 Unit 12

Searching for Information

・必要な情報をスピーディに把握するストラテジーを磨く

第14回 Unit 13

Using Illustrations and Photos to Aid Comprehension

・視覚的な情報を効果的に使用する

第15回 総復習と試験

既習内容の総復習と学期末試験

2022年度 前期

1.0単位

SE Understanding Culture & Language (SE) 神戸学院
カレッジ科目

E C C

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

Understanding Culture and Language は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、全学部（グローバルコミュニケーション学部英語コース以外）から選出された学生のみを対象としたクラスである。その中でも、海外留学を目指す学生のためのクラスである。生きた英語を身につけ、相手の意見をしっかりと聞きながら理解できる能力を身につけることを目的とする。また、文化や言語についても英語で深く学び、それらを発信できるスキルを身につける。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

- ・ これまで培ってきた基本的な語彙や文法の知識を英会話に応用できる。（知識）
- ・ 日本文化や言語に対する理解を深め、聞いたり読んだりした内容について積極的に意見を述べるができる。（知識）
- ・ 英語コミュニケーション能力向上のために積極的に参加できる。（態度・習慣）
- ・ クラスメートと積極的に意見の共有をし、自らの考えを英語で表現できる。（態度・習慣）
- ・ 必要に応じて効果的なジェスチャーを使うなど、意思伝達のための工夫ができる。（技能）

< 授業のキーワード >

異文化理解・メタ言語・スピーキング・リーディング・リスニング

< 授業の進め方 >

クラスのアクティビティに積極的に参加し、？ら積極的に質問に答えることが求められます。このクラスでは英語で効果的にコミュニケーションを取るこ

とを？指します。そのためにも、出来るだけ多く英語を話すように？掛けて下さい。

< 履修するにあたって >

共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、全学部（グローバルコミュニケーション学部英語コース以外）から選出された学生のみを対象としたクラスである。

< 授業時間外に必要な学修 >

Students should spend 20 minutes reviewing the material from the previous class.

Students should spend 20 minutes previewing the material for the following class.

Students should prepare for any course assessment with additional review of the target language studied.

Further instruction and feedback will be given in class.

< 成績評価方法・基準 >

Daily Speaking = 35%, Scene / Scene Challenges = 15%, Speaking Evaluations = 15%, Participation = 35%

< テキスト >

Encounters on Campus 出版社:南雲堂 2310円(税込) ISBN: 9784523178637

< 授業計画 >

第1回 Introduction & Orientation, Expectations, Classroom English; Nice to meet you, Course Introduction / Classroom English; Make a new friend your first week on campus

第2回 This is my friend

Introduce mutual friends to each other

第3回 Where do People hang out?

Ask a friend's advice about where to hang out

第4回 I went to that place

Share your experience of a place suggested by your friend

第5回 I have a question

Ask a question in class and give examples until you understand

第6回 Would it be possible to study this?

Make a special content request to your teacher

第7回 I have to miss next class

Explain a future absence to your teacher

第8回 Midterm Speaking Evaluation

Based on lessons 1 - 7

第9回 What are you doing on Sunday?

Invite a friend to go out for the day

第10回 What should we get?

Suggest, explain, and order food, then talk about the day

第11回 Come on! I'll help you
Encourage and support a friend to try a new challenge

第12回 What should we do?
Reach a group consensus on your club's event theme

第13回 I can book the BBQ
Assign tasks in your group to prepare for your event

第14回 Final Speaking Evaluation
Based on lessons 9 - 13

第15回 Review and Consolidation
Based on lessons 1 - 13

2022年度 後期

1.0単位

SE Oral Practice (SE) 神戸学院カレッジ科目
安田 有紀子

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

SE Oral Practice1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、全学部（グローバルコミュニケーション学部英語コース以外）から選出された学生のみを対象としたクラスである。TOEIC 550点以上を目指す、きわめて実践的な英語運用能力の養成科目として位置づけられる。生きた英語を身につけ、相手の意見をしっかりと聞きながら理解し、自らの意見も発信できるスキルを身につけることを目的とする。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

- ・ これまで培ってきた基本的な語彙や文法の知識を英会話に応用できる。（知識）
- ・ 英語コミュニケーション能力向上のために積極的に参加できる。（態度・習慣）
- ・ クラスメイトと積極的に意見の共有をし、自らの考えを英語で表現できる。（態度・習慣）
- ・ 必要に応じて効果的なジェスチャーを使うなど、意思伝達のための工夫ができる。（技能）
- ・ 初出の単語や表現について辞書などで調べ、会話の中で実践することができる。（技能）"

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・語彙・文法

< 授業の進め方 >

ペアワークやグループワークなどを多く取り入れます。

< 履修するにあたって >

この科目は2016年度より開始された神戸学院カレッジのカレッジ生を対象とした特別クラスです。カレッジ

生以外は履修ができません。本年度の入学生を対象としたカレッジ生募集は7月初旬から始まります。カレッジに関しての詳細は別途お問い合わせください。

< 授業時間外に必要な学修 >

1) 簡単な小テストを授業の冒頭に行いますので、復習が必要です。（毎日30分）

2) 授業に関連した課題に取り組み、提出してもらいます。（1時間程度）

3) 積極的に図書館留学を利用して多読・多聴に取り組んでください。（毎日最低10分）

< 提出課題など >

必要に応じて課題を提出してもらい、採点・確認後に返却します。

< 成績評価方法・基準 >

授業内評価50%（各回の小テスト30%、レポート20%）

授業内学期末テスト50%

< テキスト >

授業内でお知らせします。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

Pronunciation

集中講義の進め方および成績評価について説明

単語練習 & 問題

発音練習

第2回 Pronunciation

TOEIC Practice

単語練習 & 問題

発音練習

TOEIC練習問題

第3回 Pronunciation

TOEIC Practice

単語練習 & 問題

発音練習

TOEIC練習問題

第4回 Pronunciation

TOEIC Practice

単語練習 & 問題

発音練習

TOEIC練習問題

第5回 Pronunciation

TOEIC Practice

単語練習 & 問題

発音練習

TOEIC練習問題

第6回 Pronunciation

TOEIC Practice

単語練習 & 問題

発音練習

TOEIC練習問題

第7回 Pronunciation

TOEIC Practice

単語練習 & 問題

発音練習

TOEIC練習問題

第8回 Pronunciation

TOEIC Practice

単語練習 & 問題

発音練習

TOEIC練習問題

第9回 Pronunciation

TOEIC Practice

単語練習 & 問題

発音練習

TOEIC練習問題

第10回 Pronunciation

TOEIC Practice

単語練習 & 問題

発音練習

TOEIC練習問題

第11回 Pronunciation

TOEIC Practice

単語練習 & 問題

発音練習

TOEIC練習問題

第12回 Pronunciation

TOEIC Practice

単語練習 & 問題

発音練習

TOEIC練習問題

第13回 Pronunciation

TOEIC Practice

単語練習 & 問題

発音練習

TOEIC練習問題

第14回 Pronunciation

TOEIC Practice

単語練習 & 問題

発音練習

TOEIC練習問題

第15回 Pronunciation

TOEIC Practice

単語練習 & 問題

発音練習

TOEIC練習問題

2022年度 後期

1.0単位

SE Reading (SE) 神戸学院カレッジ科目

安田 有紀子

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

SE Reading 1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、全学部（グローバルコミュニケーション学部英語コース以外）から選出された学生のみを対象としたクラスである。TOEIC 550点以上を目指す、きわめて実践的な英語運用能力の養成科目として位置づけられる。本科目ではTOEICテストとはどのようなテストかを理解し、TOEICテストに頻出のリスニングやリーディング形式を認識し、問題に取り組むことを通して、スコアの取得、向上を目的とする。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

- ・これまで培ってきた基本的な文法事項を解答に応用できる。（知識）
- ・短い英文を聞いて、内容を理解できる。（知識）
- ・TOEICテストを積極的に受験して、自らのレベル把握に努めることができる。（態度・習慣）
- ・受験目標を立てて、自らの学習計画を立てることができる。（態度・習慣）
- ・初出の単語や表現について辞書などで調べ、まとめることができる。（技能）

< 授業のキーワード >

リーディング・語彙・文法・リスニング・スピーキング

< 授業の進め方 >

ペアワークやグループワークなどを多く取り入れます。

< 履修するにあたって >

この科目は2016年度より開始された神戸学院カレッジのカレッジ生を対象とした特別クラスです。カレッジ生以外は履修ができません。本年度の入学生を対象としたカレッジ生募集は7月初旬から始まります。カレッジ生に関しての詳細は別途お問い合わせください。

< 授業時間外に必要な学修 >

- 1) 簡単な小テストを授業の冒頭に行いますので、復習が必要です。（毎日30分）
- 2) 授業に関連した課題に取り組み、提出してもらいます。（1時間程度）
- 3) 積極的に図書館留学を利用して多読・多聴に取り組んでください。（毎日最低10分）

< 提出課題など >

必要に応じて課された課題を提出。課題は確認後に授業

内で返却する。

< 成績評価方法・基準 >

授業内評価50% (各回の小テスト30%、レポート20%)

授業内学期末テスト50%

< テキスト >

1) Score Booster for the TOEIC L & R Test Pre-Intermediate (金星堂)

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション(1)

授業の進め方について

Ice Break Activity

第2回 オリエンテーション(2)

図書館留学について

Classroom English

第3回 Practice (1)

Quiz (1)

Grammar (1)

TOEIC Listening

第4回 Practice (2)

Quiz (2)

Grammar (2)

TOEIC Reading

第5回 Practice (3)

Quiz (3)

Grammar (3)

TOEIC Listening

第6回 Practice (4)

Quiz (4)

Grammar (4)

TOEIC Reading

第7回 Practice (5)

Quiz (5)

Grammar (5)

TOEIC Listening

第8回 Practice (6)

Quiz (6)

Grammar (6)

TOEIC Reading

第9回 Practice (7)

Quiz (7)

Grammar (7)

TOEIC Listening

第10回 Practice (8)

Quiz (8)

Grammar (8)

TOEIC Reading

第11回 Practice (9)

Quiz (9)

Grammar (9)

TOEIC Listening

第12回 Practice (10)

Quiz (10)

Grammar (10)

TOEIC Reading

第13回 Practice (11)

Quiz (11)

Grammar (11)

TOEIC Listening

第14回 Practice (12)

Quiz (12)

Grammar (12)

TOEIC Reading

第15回 Practice (13)

Quiz (13)

Grammar (13)

TOEIC Listening

2022年度 後期

1.0単位

SE Reading (SE) 神戸学院カレッジ科目

安田 有紀子

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

SE Reading 1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、全学部(グローバルコミュニケーション学部英語コース以外)から選出された学生のみを対象としたクラスである。TOEIC 550点以上を目指す、きわめて実践的な英語運用能力の養成科目として位置づけられる。本科目ではTOEICテストとはどのようなテストかを理解し、TOEICテストに頻出のリスニングやリーディング形式を認識し、問題に取り組むことを通して、スコアの取得、向上を目的とする。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

- ・これまで培ってきた基本的な文法事項を解答に応用できる。(知識)
- ・短い英文を聞いて、内容を理解できる。(知識)
- ・TOEICテストを積極的に受験して、自らのレベル把握に努めることができる。(態度・習慣)
- ・受験目標を立てて、自らの学習計画を立てることができる。(態度・習慣)
- ・初出の単語や表現について辞書などで調べ、まとめることができる。(技能)

< 授業のキーワード >

リーディング・語彙・文法・リスニング・スピーキング

< 授業の進め方 >

ペアワークやグループワークなどを多く取り入れます。

< 履修するにあたって >

この科目は2016年度より開始された神戸学院カレッジのカレッジ生を対象とした特別クラスです。カレッジ生以外は履修ができません。本年度の入学生を対象としたカレッジ生募集は7月初旬から始まります。カレッジ生に関する詳細は別途お問い合わせください。

< 授業時間外に必要な学修 >

1) 簡単な小テストを授業の冒頭に行いますので、復習が必要です。(毎日30分)

2) 授業に関連した課題に取り組み、提出してもらいます。(1時間程度)

3) 積極的に図書館留学を利用して多読・多聴に取り組んでください。(毎日最低10分)

< 提出課題など >

必要に応じて課された課題を提出。課題は確認後に授業内で返却する。

< 成績評価方法・基準 >

授業内評価50% (各回の小テスト30%、レポート20%)

授業内学期末テスト50%

< テキスト >

1) Score Booster for the TOEIC L & R Test Pre-Intermediate (金星堂)

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション(1)

授業の進め方について

Ice Break Activity

第2回 オリエンテーション(2)

図書館留学について

Classroom English

第3回 Practice (1)

Quiz (1)

Grammar (1)

TOEIC Listening

第4回 Practice (2)

Quiz (2)

Grammar (2)

TOEIC Reading

第5回 Practice (3)

Quiz (3)

Grammar (3)

TOEIC Listening

第6回 Practice (4)

Quiz (4)

Grammar (4)

TOEIC Reading

第7回 Practice (5)

Quiz (5)

Grammar (5)

TOEIC Listening

第8回 Practice (6)

Quiz (6)

Grammar (6)

TOEIC Reading

第9回 Practice (7)

Quiz (7)

Grammar (7)

TOEIC Listening

第10回 Practice (8)

Quiz (8)

Grammar (8)

TOEIC Reading

第11回 Practice (9)

Quiz (9)

Grammar (9)

TOEIC Listening

第12回 Practice (10)

Quiz (10)

Grammar (10)

TOEIC Reading

第13回 Practice (11)

Quiz (11)

Grammar (11)

TOEIC Listening

第14回 Practice (12)

Quiz (12)

Grammar (12)

TOEIC Reading

第15回 Practice (13)

Quiz (13)

Grammar (13)

TOEIC Listening

2022年度 後期

1.0単位

SE Reading (SE) 神戸学院カレッジ科目

安田 有紀子

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

SE Reading 1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、全学部(グローバルコミュニケーション学部英語コース以外)から選出された学生のみを対象としたクラスである。TOEIC 550点以上を目指す、きわめて実践的な英語運用能力の養成科目として位置づけられる。本科目ではTOEICテストとはどのようなテストかを理解し、TOEICテストに頻出のリスニングやリーディング形

式を認識し、問題に取り組むことを通して、スコアの取得、向上を目的とする。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

<到達目標>

・これまで培ってきた基本的な文法事項を解答に応用できる。(知識)

・短い英文を聞いて、内容を理解できる。(知識)

・TOEICテストを積極的に受験して、自らのレベル把握に努めることができる。(態度・習慣)

・受験目標を立てて、自らの学習計画を立てることができる。(態度・習慣)

・初出の単語や表現について辞書などで調べ、まとめることができる。(技能)

<授業のキーワード>

リーディング・語彙・文法・リスニング・スピーキング

<授業の進め方>

ペアワークやグループワークなどを多く取り入れます。

<履修するにあたって>

この科目は2016年度より開始された神戸学院カレッジのカレッジ生を対象とした特別クラスです。カレッジ生以外は履修ができません。本年度の入学生を対象としたカレッジ生募集は7月初旬から始まります。カレッジに関しての詳細は別途お問い合わせください。

<授業時間外に必要な学修>

1) 簡単な小テストを授業の冒頭に行いますので、復習が必要です。(毎日30分)

2) 授業に関連した課題に取り組み、提出してもらいます。(1時間程度)

3) 積極的に図書館留学を利用して多読・多聴に取り組んでください。(毎日最低10分)

<提出課題など>

必要に応じて課された課題を提出。課題は確認後に授業内で返却する。

<成績評価方法・基準>

授業内評価50%(各回の小テスト30%、レポート20%)

授業内学期末テスト50%

<テキスト>

授業内でお知らせします。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

Practice (1)

Talk about your summer

Quiz (1)

Grammar (1)

TOEIC Listening

第2回 Practice (2)

Quiz (2)

Grammar (2)

TOEIC Reading

第3回 Practice (3)

Quiz (3)

Grammar (3)

TOEIC Listening

第4回 Practice (4)

Quiz (4)

Grammar (4)

TOEIC Reading

第5回 Practice (5)

Quiz (5)

Grammar (5)

TOEIC Listening

第6回 Practice (6)

Quiz (6)

Grammar (6)

TOEIC Reading

第7回 Practice (7)

Quiz (7)

Grammar (7)

TOEIC Listening

第8回 Practice (8)

Quiz (8)

Grammar (8)

TOEIC Reading

第9回 Practice (9)

Quiz (9)

Grammar (9)

TOEIC Listening

第10回 Practice (10)

Quiz (10)

Grammar (10)

TOEIC Reading

第11回 Practice (11)

Quiz (11)

Grammar (11)

TOEIC Listening

第12回 Practice (12)

Quiz (12)

Grammar (12)

TOEIC Reading

第13回 Practice (13)

Quiz (13)

Grammar (13)

TOEIC Listening

第14回 Practice (14)

Quiz (14)

Grammar (14)

TOEIC Reading

第15回 Practice (15)

Quiz (15)
Grammar (15)
TOEIC Listening

2022年度 前期

1.0単位

SE Reading (SE) 神戸学院カレッジ科目

安田 有紀子

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

SE Reading 3/4は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、全学部（グローバルコミュニケーション学部英語コース以外）から選出された学生のみを対象としたクラスである。TOEIC 600点以上を目指す、きわめて実践的な英語運用能力の養成科目として位置づけられる。本科目ではSE Reading 1/2で身につけた能力をさらに向上させるためTOEICテストに頻出のリスニングやリーディング問題に取り組むことを通して、スコアの取得、向上を目的とする。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

- ・ これまで培ってきた基本的な語彙や文法の知識を長文読解に応用できる。（知識）
- ・ 英語リーディング能力向上のために積極的に予習・復習に取り組むことができる。（態度・習慣）
- ・ クラスメイトと積極的に意見の共有をし、自らの考えを英語で表現できる。（態度・習慣）
- ・ 必要に応じて効果的なジェスチャーを使うなど、意思伝達のための工夫ができる。（技能）
- ・ 初出の単語や表現について辞書などで調べ、会話の中で実践することができる。（技能）

< 授業のキーワード >

リーディング・語彙・文法

< 授業の進め方 >

ペアワークやグループワークなどを多く取り入れます。

< 履修するにあたって >

共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、全学部（グローバルコミュニケーション学部英語コース以外）から選出された学生のみを対象としたクラスである。

< 授業時間外に必要な学修 >

- 1) 簡単な小テストを授業の冒頭に行いますので、復習が必要です。（毎日30分）
- 2) 授業に関連した課題に取り組み、提出してもらいます。（1時間程度）
- 3) 積極的に図書館留学を利用して多読・多聴に取り組んでください。（毎日最低10分）

< 提出課題など >

必要に応じて課された課題を提出。課題は確認後に授業内で返却する。

< 成績評価方法・基準 >

授業内評価50%（各回の小テスト30%、レポート20%）

授業内学期末テスト50%

< テキスト >

授業内でお知らせします。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

Practice (1)

課題について

Quiz (1)

TOEIC Practice

第2回 Practice (2)

Quiz (2)

TOEIC Practice

第3回 Practice (3)

Quiz (3)

TOEIC Practice

第4回 Practice (4)

Quiz (4)

TOEIC Practice

第5回 Practice (5)

Quiz (5)

TOEIC Practice

第6回 Practice (6)

Quiz (6)

TOEIC Practice

第7回 Practice (7)

Quiz (7)

TOEIC Practice

第8回 Practice (8)

Quiz (8)

TOEIC Practice

第9回 Practice (9)

Quiz (9)

TOEIC Practice

第10回 Practice (10)

Quiz (10)

TOEIC Practice

第11回 Practice (11)

Quiz (11)

TOEIC Practice

第12回 Practice (12)

Quiz (12)

TOEIC Practice

第13回 Practice (13)

Quiz (13)

TOEIC Practice

第14回 Practice (14)

Quiz (14)

TOEIC Practice

第15回 Practice (15)

Quiz (15)

TOEIC Practice

2022年度 後期

1.0単位

SE Reading (SE) 神戸学院カレッジ科目

安田 有紀子

< 授業の方法 >

演習 (10月4日以降は対面授業)

< 授業の目的 >

SE Reading 3/4は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、全学部 (グローバルコミュニケーション学部英語コース以外) から選出された学生のみを対象としたクラスである。TOEIC 600点以上を目指す、きわめて実践的な英語運用能力の養成科目として位置づけられる。本科目ではSE Reading 1/2で身につけた能力をさらに向上させるためTOEICテストに頻出のリスニングやリーディング問題に取り組むことを通して、スコアの取得、向上を目的とする。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

- ・ これまで培ってきた基本的な語彙や文法の知識を長文読解に応用できる。(知識)
- ・ 英語リーディング能力向上のために積極的に予習・復習に取り組むことができる。(態度・習慣)
- ・ クラスメイトと積極的に意見の共有をし、自らの考えを英語で表現できる。(態度・習慣)
- ・ 必要に応じて効果的なジェスチャーを使うなど、意思伝達のための工夫ができる。(技能)
- ・ 初出の単語や表現について辞書などで調べ、会話の中で実践することができる。(技能)

< 授業のキーワード >

リーディング・語彙・文法

< 授業の進め方 >

ペアワークやグループワークなどを多く取り入れます。

< 履修するにあたって >

共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、全学部 (グローバルコミュニケーション学部英語コース以外) から選出された学生のみを対象としたクラスである。

< 授業時間外に必要な学修 >

- 1) 簡単な小テストを授業の冒頭に行いますので、復習が必要です。(毎日30分)
- 2) 授業に関連した課題に取り組み、提出してもらいま

す。(1時間程度)

3) 積極的に図書館留学を利用して多読・多聴に取り組んでください。(毎日最低10分)

< 提出課題など >

必要に応じて課された課題を提出。課題は確認後に授業内で返却する。

< 成績評価方法・基準 >

授業内評価50% (各回の小テスト30%、レポート20%)

授業内学期末テスト50%

< テキスト >

授業内でお知らせします。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

Practice (1)

課題について

Quiz (1)

TOEIC Practice

第2回 Practice (2)

Quiz (2)

TOEIC Practice

第3回 Practice (3)

Quiz (3)

TOEIC Practice

第4回 Practice (4)

Quiz (4)

TOEIC Practice

第5回 Practice (5)

Quiz (5)

TOEIC Practice

第6回 Practice (6)

Quiz (6)

TOEIC Practice

第7回 Practice (7)

Quiz (7)

TOEIC Practice

第8回 Practice (8)

Quiz (8)

TOEIC Practice

第9回 Practice (9)

Quiz (9)

TOEIC Practice

第10回 Practice (10)

Quiz (10)

TOEIC Practice

第11回 Practice (11)

Quiz (11)

TOEIC Practice

第12回 Practice (12)

Quiz (12)

TOEIC Practice

第13回 Practice (13)

Quiz (13)

TOEIC Practice

第14回 Practice (14)

Quiz (14)

TOEIC Practice

第15回 Practice (15)

Quiz (15)

TOEIC Practice

2022年度 前期

1.0単位

SE Practical English (SE) 神戸学院カレッジ科目

安田 有紀子

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

SE Practical English 1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、全学部（グローバルコミュニケーション学部英語コース以外）から選出された学生のみを対象としたクラスである。TOEIC 600点以上を目指す、きわめて実践的な英語運用能力の養成科目として位置づけられる。本科目ではSE Oral Practice 1-4で身につけた英語力を応用し、実際に英語をビジネスの場でどのように使うかを学ぶことを目的とする。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

- ・ これまで培ってきた基本的な語彙や文法の知識を長文読解に応用できる。（知識）
- ・ 英語リーディング能力向上のために積極的に予習・復習に取り組むことができる。（態度・習慣）
- ・ クラスメートと積極的に意見の共有をし、自らの考えを英語で表現できる。（態度・習慣）
- ・ 必要に応じて効果的なジェスチャーを使うなど、意思伝達のための工夫ができる。（技能）
- ・ 初出の単語や表現について辞書などで調べ、会話の中で実践することができる。（技能）

< 授業のキーワード >

リーディング・リスニング・スピーキング・ライティング

< 授業の進め方 >

ペアワークやグループワークなどを多く取り入れます。

< 履修するにあたって >

共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、全学部（グローバルコミュニケーション学部英語コース以外）から選出された学生のみを対象としたクラスである。

< 授業時間外に必要な学修 >

- 1) 簡単な小テストを授業の冒頭に行いますので、復習が必要です。（毎日30分）
- 2) 授業に関連した課題に取り組み、提出してもらいます。（1時間程度）
- 3) 積極的に図書館留学を利用して多読・多聴に取り組んでください。（毎日最低10分）

< 提出課題など >

必要に応じて課された課題を提出。課題は確認後に授業内で返却する。

< 成績評価方法・基準 >

授業内評価50%（各回の小テスト30%、レポート20%）

授業内学期末テスト50%

< テキスト >

Global Issues - An Introduction to Discussion Skills - （成美堂 2,200円 + 税）

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

Practice (1)

課題について

Quiz (1)

Reading Practice

Speaking Practice

第2回 Practice (2)

Quiz (2)

Reading Practice

Speaking Practice

第3回 Practice (3)

Quiz (3)

Reading Practice

Speaking Practice

第4回 Practice (4)

Quiz (4)

Reading Practice

Speaking Practice

第5回 Practice (5)

Quiz (5)

Reading Practice

Speaking Practice

第6回 Practice (6)

Quiz (6)

Reading Practice

Speaking Practice

第7回 Practice (7)

Quiz (7)

Reading Practice

Speaking Practice

第8回 Practice (8)

Quiz (8)

Reading Practice

Speaking Practice
第9回 Practice (9)
Quiz (9)
Reading Practice
Speaking Practice
第10回 Practice (10)
Quiz (10)
Reading Practice
Speaking Practice
第11回 Practice (11)
Quiz (11)
Reading Practice
Speaking Practice
第12回 Practice (12)
Quiz (12)
Reading Practice
Speaking Practice
第13回 Practice (13)
Quiz (13)
Reading Practice
Speaking Practice
第14回 Practice (14)
Quiz (14)
Reading Practice
Speaking Practice
第15回 Practice (15)
Quiz (15)
Reading Practice
Speaking Practice

2022年度 後期

1.0単位

SE Practical English (SE) 神戸学院カレッジ科目
安田 有紀子

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

SE Practical English 1/2は共通教育リテラシー科目群
外国語分野に属し、全学部（グローバルコミュニケーション学部英語コース以外）から選出された学生のみを対象としたクラスである。TOEIC 600点以上を目指す、
きわめて実践的な英語運用能力の養成科目として位置づけられる。本科目ではSE Oral Practice 1-4で身につけた英語力を応用し、実際に英語をビジネスの場でどのように使うかを学ぶことを目的とする。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

・ これまで培ってきた基本的な語彙や文法の知識を長文読解に活用できる。（知識）

・ 英語リーディング能力向上のために積極的に予習・復習に取り組むことができる。（態度・習慣）

・ クラスメートと積極的に意見の共有をし、自らの考えを英語で表現できる。（態度・習慣）

・ 必要に応じて効果的なジェスチャーを使うなど、意思伝達のための工夫ができる。（技能）

・ 初出の単語や表現について辞書などで調べ、会話の中で実践することができる。（技能）

< 授業のキーワード >

リーディング・リスニング・スピーキング・ライティング

< 授業の進め方 >

ペアワークやグループワークなどを多く取り入れます。

< 履修するにあたって >

共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、全学部（グローバルコミュニケーション学部英語コース以外）から選出された学生のみを対象としたクラスである。

< 授業時間外に必要な学修 >

1) 簡単な小テストを授業の冒頭に行いますので、復習が必要です。（毎日30分）

2) 授業に関連した課題に取り組み、提出してもらいます。（1時間程度）

3) 積極的に図書館留学を利用して多読・多聴に取り組んでください。（毎日最低10分）

< 提出課題など >

必要に応じて課された課題を提出。課題は確認後に授業内で返却する。

< 成績評価方法・基準 >

授業内評価50%（各回の小テスト30%、レポート20%）

授業内学期末テスト50%

< テキスト >

Global Issues - An Introduction to Discussion Skills - （成美堂 2,200円 + 税）

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

Practice (1)

課題について

Quiz (1)

Reading Practice

Speaking Practice

第2回 Practice (2)

Quiz (2)

Reading Practice

Speaking Practice

第3回 Practice (3)

Quiz (3)

Reading Practice

Speaking Practice
第4回 Practice (4)
Quiz (4)
Reading Practice
Speaking Practice
第5回 Practice (5)
Quiz (5)
Reading Practice
Speaking Practice
第6回 Practice (6)
Quiz (6)
Reading Practice
Speaking Practice
第7回 Practice (7)
Quiz (7)
Reading Practice
Speaking Practice
第8回 Practice (8)
Quiz (8)
Reading Practice
Speaking Practice
第9回 Practice (9)
Quiz (9)
Reading Practice
Speaking Practice
第10回 Practice (10)
Quiz (10)
Reading Practice
Speaking Practice
第11回 Practice (11)
Quiz (11)
Reading Practice
Speaking Practice
第12回 Practice (12)
Quiz (12)
Reading Practice
Speaking Practice
第13回 Practice (13)
Quiz (13)
Reading Practice
Speaking Practice
第14回 Practice (14)
Quiz (14)
Reading Practice
Speaking Practice
第15回 Practice (15)
Quiz (15)
Reading Practice
Speaking Practice

2022年度 後期

1.0単位

SE Presentation Skills (SE) 神戸学院カレッジ科目
E C C

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

SE Presentation Skills は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、全学部（グローバルコミュニケーション学部英語コース以外）から選出された学生のみを対象としたクラスである。TOEIC 600点以上を目指す、きわめて実践的な英語運用能力の養成科目として位置づけられる。本講義では相手の意見をしっかりと聞きながら理解し、自らの意見も発信できるスキルを身につけることを目的とする。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

- ・ これまで培ってきた基本的な語彙や文法の知識をプレゼンテーションに応用できる。（知識）
- ・ 英語コミュニケーション能力向上のために積極的に参加できる。（態度・習慣）
- ・ クラスメイトと積極的に意見の共有をし、自らの考えを英語で表現できる。（態度・習慣）
- ・ 必要に応じて効果的なジェスチャーを使うなど、意思伝達のための工夫ができる。（技能）
- ・ 初出の単語や表現について辞書などで調べ、会話の中で実践することができる。（技能）

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・語彙・文法

< 授業の進め方 >

クラスのアクティビティに積極的に参加し、?ら積極的に質問に答えることが求められます。このクラスでは英語で効果的にコミュニケーションを取ることを?指します。そのためにも、出来るだけ多く英語を話すように?掛けて下さい。

< 履修するにあたって >

共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、全学部（グローバルコミュニケーション学部英語コース以外）から選出された学生のみを対象としたクラスである。

< 授業時間外に必要な学修 >

Students should spend 20 minutes reviewing the material from the previous class.

Students should spend 20 minutes previewing the material for the following class.

Students should prepare for any course assessment with additional review of the target language

studied.

Further instruction and feedback will be given in class

< 成績評価方法・基準 >

Speaking = 25%

Participation = 25%

Final Presentation = 50%

< テキスト >

Ready to Present - A Guide to Better Presentations

Student Book ISBN978-4-86-312351-9 2,700円 (税抜)

< 授業計画 >

第1回 Essential English & Classroom English, Class Guidelines, Self-Introduction

Talk about family, school life, likes & dislikes, and experiences

第2回 Self-Introduction

Use eye-contact and voice control

第3回 An Important Person or Thing

Talk about an important person or thing;

第4回 An Important Person or Thing

The dos and don'ts while giving a presentation and Introduce your

第5回 Places

Talk about interesting places;

第6回 Places

Use graphics in a presentation and talk about the body of your

第7回 Biography

Talking about people

第8回 Biography

Use gestures in a presentation and talk further about the body of your presentation

第9回 Stories

Talk about our past experiences;

第10回 Stories

Speak with emphasis during a presentation and Conclude your

第11回 Solving Problems

Express opinions about social and global issues.

第12回 Solving Problems

Use tables and graphs in a presentation.

第13回 Final Presentations Group A

Final Presentations

第14回 Final Presentations Group B

Final Presentations

第15回 Review and Consolidation

Based on lessons 1 - 12

2022年度 前期

2.0単位

欧米の社会と文化

倉持 充希

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、全学DPに掲げられる「広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養」すること、「自分の意見を口頭や文書によって表現」することを目指し、西洋美術史における代表作を考察する。

人文学部共通教育科目のうち、リベラルアーツ科目群の人文科学分野に属する本科目では、ヨーロッパで制作された芸術作品を毎回1点を取り上げ、作品を丁寧に観察・記述する。鑑賞の要点や歴史的背景、美術史学の方法論を学び、展覧会で作品を実見することで、芸術文化をより深く理解することを目的とする。

< 到達目標 >

1. 芸術作品の分析を通じて、歴史文化に関する教養と作品鑑賞の手法を身につける。(知識・技能)
2. 芸術作品を学術的観点から分析し、それを的確に文章化する。(思考力・判断力・表現力等の能力)
3. 作品の観察や解釈について、他者と冷静な意見交換をし、考察を深める。(主体性をもって多様な人々と共同して学ぶ態度)

< 授業のキーワード >

西洋美術史 近現代美術 美術史学 美術鑑賞 ヨーロッパ史

< 授業の進め方 >

- ・プロジェクターで図版を見せながら、内容を解説する。
- ・毎回の授業内レポートで、作品記述や歴史文化に関する論述に取り組む。
- ・学期末に、各自で以下のいずれかの特別展を訪れ、レポート(3000字)を作成する

1. 「スコットランド国立美術館 THE GREATS 美の巨匠たち」

2022年7月16日(土)~2022年9月25日(日)神戸市立博物館

{<https://greats2022.jp/>,<https://greats2022.jp/>}

東京展の公式サイト

2. 「フェルメールと17世紀オランダ絵画展」

2022年7月16日(土)~2022年9月25日(日)大阪市立美術館

{<https://www.dresden-vermeer.jp/>,<https://www.dresden-vermeer.jp/>}

東京展の公式サイト

災害や新型コロナウイルス感染拡大などの影響で、特別展が中止や延期になった場合、課題や授業の内容が変更される可能性がある。適宜、授業中に指示する。

<履修するにあたって>

・各自で美術館を見学するため、交通費と観覧料（状況によっては、オンラインでチケットの事前購入・日時予約など）が必要となる。

・特に前提となる知識は必要としないが、芸術作品に興味嗜好のみならず、多角的な観点から考察することに興味がある人にぜひ受講して欲しい。専門にかかわらず、学生が美術館を訪れるとき、また将来、芸術文化に対する関心が高まったときに、この講義を受講した経験が基礎的な教養となるように設計されている。

<授業時間外に必要な学修>

事前学習（60分）

- ・授業計画に挙げられた画家の主要作例を予習する。
- ・展覧会見学に備え、概要や内容を予習する。

事後学習（60分）

・授業での解説を基に、キーワードや重要項目を整理する。

・展覧会見学を踏まえ、報告レポートの作成を進める。

<提出課題など>

・毎回、授業内レポートに取り組む。当日あるいは次回にフィードバックを行う。

・授業内試験を2回実施する。後日、解答例を示す。

・学期末に、各自で以下のいずれかの特別展を訪れ、レポート（3000字）を作成する。レポート提出後、全体への講評をまとめ、dotCampusなどでフィードバックする。

1. 「スコットランド国立美術館 THE GREATS 美の巨匠たち」

2022年7月16日（土）?2022年9月25日（日）神戸市立博物館

{<https://greats2022.jp/>,<https://greats2022.jp/>}

東京展の公式サイト

2. 「フェルメールと17世紀オランダ絵画展」

2022年7月16日（土）～2022年9月25日（日）大阪市立美術館

{<https://www.dresden-vermeer.jp/>,<https://www.dresden-vermeer.jp/>}

東京展の公式サイト

災害や新型コロナウイルス感染拡大などの影響で、特別展が中止や延期になった場合、課題や授業の内容が変更される可能性がある。適宜、授業中に指示する。

<成績評価方法・基準>

・授業内レポート 45%（到達目標1・2の達成度合い）

・期末レポート（3000字） 55%（到達目標1・3の達成度合い）

<テキスト>

レジュメや参考資料を配布する。

<参考図書>

特に使用しない。

<授業計画>

第1回 西洋美術史の概要

「授業の方法」に従って受講し、課題を行ってください。初回は、Zoomは使用しません。

まず芸術作品を自由に味わうだけでなく、様々な観点からアプローチすることで、作品の見え方がいかに変わるかを体験する。評価方法も説明する。

第2回 古代の大理石彫刻にみる力強い身体表現

古代彫刻《サモトラケのニケ》を取り上げ、大理石の彫像の見方や技法、彫刻の発掘調査について学ぶ。

第3回 イエス・キリストの生涯

14世紀初頭にイタリアで描かれたジョット「キリスト伝」（スクロヴェーニ礼拝堂）を取り上げ、イエスの生涯や最後の審判、豊かな感情表現を考察する。

第4回 古代ギリシャ・ローマ神話に基づく物語画

15世紀末にイタリアで描かれたボッティチェリ《ウェヌスの誕生》を取り上げ、古代神話を題材にした物語画の構成や、神々の表現形式を学ぶ。

第5回 肖像画における伝統と革新

16世紀初頭にイタリアで描かれたレオナルド・ダ・ヴィンチ《モナ・リザ》を取り上げ、伝統的な肖像画の形式と、芸術家による創意工夫を考察する。

第6回 人体比例の探究

16世紀初頭にドイツで描かれたデューラー《アダムとエヴァ》を取り上げ、ルネサンス期の理想的な人体比例、美術の南北交流を検討する。

第7回 明暗の対比を用いた祭壇画

17世紀初めにイタリアで描かれたカラヴァッジョ《聖マタイの召命》を取り上げ、聖堂内の礼拝堂に置かれる祭壇画の視覚的効果を考察する。

第8回 絵画技法

フェルメールに関するドキュメンタリー映画を題材に、フェルメールの技法の特色などを学ぶ。

第9回 日常を描いた風俗画

17世紀半ばにオランダで描かれたフェルメール《ワイングラス》を取り上げ、何気ない日常を切り取ったように見える風俗画に込められた、寓意的意味の読解を行う。

第10回 市民的な愛の理想を謳う雅宴画

18世紀にフランスで描かれたヴァトー《シテール島の巡礼》を取り上げ、当時の富裕市民階級の生活や、愛の表象を考察する。

第11回 展覧会の解説（1）

「スコットランド国立美術館 THE GREATS 美の巨匠たち」の趣旨と主要作品を概観し、事前学習を行う。

第12回 展覧会の解説(2)

「フェルメールと17世紀オランダ絵画展」の趣旨と主要作品を概観し、事前学習を行う。

第13回 同時代の出来事を力強く表現するロマン主義

19世紀前半にフランスで描かれたドラクロワ《民衆を導く自由の女神》を取り上げ、当時のフランスの社会状況、時事問題の絵画化について検討する。

第14回 美術作品に向けられる批評と評価の変化

19世紀後半にフランスで描かれたモネ《印象、日の出》を取り上げ、粗っぽい筆触を用いて光の効果を捉える新たな技法と、それに対する同時代批評を考察する。

第15回 芸術作品による反戦の意思表明

ピカソ《ゲルニカ》を取り上げ、第二次大戦前後のスペインの状況、爆撃後の作品の成立過程、戦後の作品受容を考察する。最後に、講義全体を総括する。

2022年度 前期

2.0単位

欧米の社会と文化

出水 孝典

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

欧米の社会と文化におけるLGBTQの捉えられ方について学ぶ

< 到達目標 >

この講義は、共通教育科目という全学部の学生が履修できる科目の1つです。全学DPのうち「共通教育等を通じて、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養している」、「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる」に関して学んでいきます。

具体的には、米国で出版されているLGBTQに関する英語文献と一緒に読んで、日本語の文献を読んでいるだけではわからない、欧米でLGBTQがどのように捉えられているかについての知識を身につけていきます。また、欧米で制作されたLGBTQの登場する映画の一部を見て、台詞の一部に反映されている見方・価値観などについて一緒に考えていきます。

なお、担当者は英語学・言語学の専門家であるだけでなく、MtFトランスジェンダーの当事者でもあるので、なるべくトランスジェンダーであるという感覚がどのようなものなのか、皆さんに自身の体験を踏まえて伝えることができると考えています。

< 授業のキーワード >

LGBTQ、性の3要素、トランスジェンダー、MtF、FtM、転向療法(矯正療法)(conversion therapy)

< 授業の進め方 >

毎回、英語の文献と一緒に読んでいきます。意識した全訳はレジユメに掲載しておきますが、英文の文法、逐語訳や内容の解説はすべて口頭で行いますので、しっかり聴いて理解してください。なお、純粋な語学の授業ではなく講義なので、英文の一部を受講者に当てて答えさせたりすることはありません。途中でLGBTQの登場する映画の一部を視聴して、台詞について考えたりもします。毎回、授業の終わりに、理解度を確認するための選択式クイズ3問に解答してもらいます。

< 履修するにあたって >

英語が苦手であっても、英文の内容についてすべて解説した上で考えてもらうので大丈夫です。英語が得意な(あるいは得意ではなくても好きでもっと学びたい)人にとっては、LGBTQに関する海外事情を学びながら、英語の学習もできるという、一石二鳥的な授業になるかと思えます。

英語の単語に疑問を持ったときに引けるよう、電子辞書やスマホのアプリで構わないので、英和辞典と国語辞典は利用できるようにしておいて下さい。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回の授業後に、内容を復習し、期末レポート作成の準備を進めること。(60分程度)

< 提出課題など >

毎回の授業終了時に、選択式の3問のクイズに解答し、その日の授業に関する感想を100字以上書いて提出する。

< 成績評価方法・基準 >

毎回の授業終了時の選択式クイズ3問(3×15=45点)、および期末レポートの評価(55点)

< テキスト >

なし。毎回レジユメを配布。

< 参考図書 >

Kelly Huegel Madrone. (2018) LGBTQ: The Survival Guide For Lesbian, Gay, Bisexual, Transgender, And Questioning Teens. (Revised & updated third edition) Minneapolis: Free Spirit Publishing Inc.

< 授業計画 >

第1回 導入

担当者自身の自己紹介を、MtFトランスジェンダーであることも含めて行います。その後、授業全体の予定、進め方、成績評価の方法などについて説明します。

第2回 LGBTQについての基本

LGBTQに関する用語を学びます。それを踏まえつつ、性の3要素、キンゼイ報告書以降LGBTQに関する理解がどのように進んできたか、LGBTQのQuestioningとはどういうことなのかなどについて、知識を深めていきます。

第3回 性自認の重要な役割

ゲイの男性とMtFトランスジェンダー（いわゆるニューハーフなど）、レズビアン女性とFtMトランスジェンダーはしばしば混同され、同一視されます。どのような点でこれが問題なのかを、FtMトランスジェンダーを主人公とする、『ボーイズ・ドント・クライ』(Boys Don't Cry)という1999年に製作されたアメリカ映画の一部を見て、理解します。

第4回 LGBTQに関するよくある誤解

LGBTQに関して見られる、よくある誤解や決めつけ（英語ではこれをmyth（神話）という語で表します）と、実際はどうかについて学びます。LGBTQの人々はLGBTQであるために不幸だ、ゲイの男性は女性を目の敵にし、どんな男性にも欲情するなど誰かが言っているのを聞いたことはありませんか？ これはよくある誤解に含まれます。またゲイの男性は女性になりたいわけでもありません。実際にはどうかを正しく理解していきます。

第5回 転向療法（矯正療法）について

アメリカでは未だに、転向療法（conversion therapy）や矯正療法（reparative therapy）と呼ばれる、心理的介入を用いて、個人の性的指向や性自認を変更しようとする「治療」が行われています。このような療法の根底にどのような考え方があるのかを、Joseph Nicolosiという提唱者の英語論文や概説書の一部を読んで理解します。そしてそれがいかに問題の多い療法であるのかを考えます。

第6回 転向療法（矯正療法）を取り上げた映画(1)

『ある少年の告白』(Boy Erased)という2018年のアメリカ合衆国の青春映画に関する英語のレビューを読み、その一部を視聴して、転向療法について考えます。この映画の主人公は、19歳の青年ジャレッド・エモンズですが、ゲイであることで両親と衝突し、家から出され、教会が支持する同性愛者の転換プログラムに参加されますが、プログラムのセラピストとも衝突します。この映画の台詞に、転向療法の根底にあるどのような価値観が含まれているのかを見ていきます。

第7回 転向療法（矯正療法）を取り上げた映画(2)

『ミスエデュケーション』(The Miseducation of Cameron Post)という2018年に公開された米英合作のドラマ映画に関して、英語のレビューを読み、その一部を視聴して、転向療法について考えます。主人公のキャメロン・ポストはレズビアンですが、車の後部座席で女性と性交に及んだことを、古い価値観の持ち主である叔母のルースに知られ、治療施設「神の約束」へと送り込まれてしまいます。この映画の台詞に、転向療法の根底にあるどのような価値観が含まれているのかを見ていきます。

第8回 ホモフォビア(homophobia)とトランスフォビア(transphobia)

ホモフォビア（同性愛嫌悪）とトランスフォビア（トランスジェンダー嫌悪）という言葉があります。このよう

な嫌悪感がどこから来るのかについて、人が外界をどのようにカテゴリー化するのかという視点から説明ができることを理解します。また、映画『ボーイズ・ドント・クライ』(Boys Don't Cry)と『ある少年の告白』(Boy Erased)で、他者からのそのような感情が当事者に投げつけられている場面を視聴し、その台詞と背後に込められている価値観について考えます。

第9回 カムアウト(coming out)とアウトイング(outing)

「カミングアウト」とは自身のセクシュアリティをだれかに伝えることです。一方、カミングアウトされたり、何らかのきっかけである人のセクシュアリティを知った人が、本人の同意なくだれかが第三者にその人のセクシュアリティを伝えてしまうことを「アウトイング」といいます。この2つの詳細や違いと、「アウトイング」がどうしてやってはいけないことなのかについて、詳しく学んでいきます。

第10回 LGBTQと学校生活

LGBTQの若者が学校生活を送る場合、様々な問題に直面することを余儀なくされます。どのような問題があるのかをまず見ていきます。その後、『Girl/ガール』(Girl)という2018年のベルギーのドラマ映画の一部を視聴します。この映画は、プロのバレリーナを目指すトランスジェンダーの女性を描いたもので、ベルギー出身のトランス女性ダンサーであり、本作の製作過程にも関わったノラ・モンスクールの人生に着想を得て制作されたものです。そこで描かれているイジメの場面を見て、一緒に考えます。

第11回 トランスジェンダーと性別移行(1)

身体の性（生物学的性）と心の性（性自認）が一致していないトランスジェンダーの人々は、心の性に身体の性を合わせるために、身体の性を心の性に近付けるための様々な治療や手術を受けたりします。性別適合治療（sex reassignment therapy）と呼ばれるホルモン療法などについて学んでいきます。それによって担当者自身にどのような変化が起こったのかについても、話をしていきます。

第12回 トランスジェンダーと性別移行(2)

性別適合治療よりもさらに進んだ段階の処置として、性別適合手術（sex reassignment surgery、略称SRS）と呼ばれる、元の外性器を利用して移行する性別の外性器に似せたものを作る手術があることなどについて学んでいきます。また、映画『Girl/ガール』の中で、性別適合治療が描かれている場面を視聴し、それを受けることにどのような心理的变化や葛藤があるのかを見ていきます。

第13回 LGBTQと性行為(1)

LGBTQの人々のセクシュアリティと性行為に関するテーマのうち、基本的なものを取り上げます。性行為はするべきなのか、どのようなタイミングでもよいのか、する際に気をつけるべきことなどについて、色々と考え

ます。また、映画『ある少年の告白』に見られる男性同士の性行為の場面を視聴し、そこで交わされている台詞がもつ意味について考えます。

第14回 LGBTQと性行為(2)

LGBTQの人々のセクシュアリティと性行為に関してのよくある誤解について見ていきます。ゲイの男の子を女性にレイプさせれば「矯正」できるとか、一度でも同性と性行為を行えば同性愛者なのだから、性行為を行って初めて自分のセクシュアリティを理解できるといった考え方が、すべて誤解に基づく誤ったものであることを理解していきます。

第15回 まとめ

全体の内容のまとめをした上で、担当者が改めて当事者として学生に伝えたいことについて話をします。

2022年度 前期

2.0単位

欧米の社会と文化

永岡 成人

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この授業では、社会における集団的意思決定について講義します。集団的意思決定において、意思集約の方法として、よく多数決ルールが用いられています。あるいは、多数決ルール以外にも様々な代替的な意思集約ルールが用いられています。この授業では、18世紀フランスの学者であるボルダとコンドルセによる集団的意思決定に関する古典的な議論を出発点として、多数決ルールを含む様々な意思集約ルールの性質を、数学モデルを用いて考察していきます。この科目では、様々な意思集約ルールの機能や問題点を考えることによって、社会における集団的意思決定の仕組みについて理解するとともに、全学のディプロマ・ポリシーにおける「広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養する」ことを目指します。

< 到達目標 >

多数決ルールを含む様々な意思集約ルールについて、その長所や問題点を具体例を挙げながら説明できる。

< 授業のキーワード >

投票、多数決、社会選択理論

< 授業の進め方 >

講義形式

< 授業時間外に必要な学修 >

授業の進行に応じて練習問題を出题しますので、講義内容を復習するとともに考えてみてください。また、予習については授業の進行と必要に応じて指示します。予習復習および学期末に出題する課題を合計して、週当たり4時間程度の授業時間外の学習時間を見込んでいます。

< 提出課題など >

課題の提出にはdotCampusを使用します。

< 成績評価方法・基準 >

学期末に出題する課題によって評価します。

< テキスト >

講義資料を配布します。配布はdotCampusで行います。

< 参考図書 >

坂井豊貴『多数決を疑う：社会的選択理論とは何か』岩波書店、2015年。

坂井豊貴『社会的選択理論への招待：投票と多数決の科学』日本評論社、2013年。

盛山和夫編『社会を数理で読み解く』有斐閣、2015年。

< 授業計画 >

第1回 授業を始めるにあたって

ガイダンスを行うとともに、この授業でどのような内容を取り扱うかを説明します。

第2回 授業で用いる数学

順列や組み合わせの場合の数の計算方法を紹介します。

第3回 授業で用いる数学（続き）

確率の考え方や計算方法を紹介します。

第4回 ペア比較

3つ以上の選択肢がある状況での集団的決定問題を取り扱い、ペア比較の考え方を紹介します。

第5回 ボルダルール

ボルダルールと呼ばれる決定方法を紹介するとともに、ボルダルールが満たす望ましい性質を紹介します。

第6回 スコアリングルール

ボルダルールを一般化したスコアリングルールを取り扱い、ボルダルールと他のスコアリングルールを比較してみます。

第7回 コンドルセの指摘

ボルダルールを含むスコアリングルールに対するコンドルセの指摘を紹介します。

第8回 ナウル共和国の選挙

これまでに紹介した意思集約ルールが実際に世の中で用いられている事例を紹介します。

第9回 戦略的投票

ボルダルールの戦略的投票への脆弱性を紹介します。

第10回 ギバード・サタスウェイトの定理

戦略的投票に関するギバード・サタスウェイトの定理を紹介します。

第11回 ギバード・サタスウェイトの定理（続き）

2人3選択肢の場合について、定理を証明します。

第12回 耐戦略性を満たすルール

選好の単峰性が成り立つ場合について、耐戦略性を満たす決定ルールを紹介します。

第13回 陪審モデル

不確実性下の二択決定問題のモデルを紹介します。

第14回 陪審定理

不確実性下の二択決定問題におけるコンドルセの陪審定

理を紹介します。

第15回 まとめ

この授業で取り扱ってきた内容をまとめます。

2022年度 前期

2.0単位

欧米の社会と文化

荒島 千鶴

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、本学のDPIに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養すること、自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができること、および、獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができることを目指す。

イギリスのEU離脱や難民問題等、EUへの関心が高まる一方で、EUの制度についてはあまり知られていない。この科目では、「不戦共同体」としてのEUの歴史、主要機関、法、政策について理解できるようになることを目的とする。また、現在EUが直面する問題に対する解決の方策について理解し、今後もEUについて学び続ける土台をつくる。それにより、EUに関する報道に関心を持って接し、EUに関する問題について適切なコメントができるようになることを目的とする。

なお、この科目の担当者は、外務省の専門調査員として2年間フィンランドに勤務していた、実務経験のある教員である。従って、必要な時には具体的な事例を交えて、分かりやすくEU法を解説したい。

< 到達目標 >

EU設立の目的を歴史的背景から説明できる。
EUの各主要機関の構成員および任務について説明できる。
EU立法過程における主要機関の役割およびその変遷について説明できる。

EU法の特徴について説明できる。

EUの各政策の特徴について説明できる。

< 授業のキーワード >

EU、EU法、国際機構、国際法、国際機構法

< 授業の進め方 >

履修生がテキストを事前に読んでいることを前提として授業を進める。

講義後にGoogle formで小テストを実施し、次回の授業で小テストの結果のフィードバックを行う。

Google formを使用するために、Gmailのメールアドレス

スを取得しておくこと。

資料配布（PPT、小テストのURL等）はMicrosoft Teamsで行う。

< 履修するにあたって >

駐日EU代表部のウェブサイト（https://eeas.europa.eu/delegations/japan_ja）を見て、EUの概観について知っておくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

テキストの該当箇所の予習と復習（1-1.5時間）

< 提出課題など >

第2回目から、講義後にGoogle formを使用したオンライン上の小テストに当日中に解答する。

第2回目の講義後の小テストは慣れるための試験的なもので、第3回目から第14回目までを成績評価の対象とする。

小テストを行うGoogle formのURLはMicrosoft Teams上で示す。

< 成績評価方法・基準 >

第3回から第14回のオンライン小テスト（語句穴埋め問題） 50%（フィードバックは次回の授業内にて行う。）

期末レポート 50%（Microsoft teams上で提出すること。フィードバックは資料配布にて行う）

< テキスト >

鷲江義勝編著『EU 欧州統合の現在[第4版]』、創元社、2020年。

< 参考図書 >

井上淳『はじめて学ぶEU』（法律文化社、2020年）（電子書籍版は、丸善雄松堂 Knowledge Workerのサイト（<https://kw.maruzen.co.jp/nfc/page.html>）にて。

商品検索にて「eBook」を指定のうえ、「はじめて学ぶEU」を検索語に入れて検索する。）

< 授業計画 >

第1回 インTRODクシヨン

授業の進め方について話し、かつ現在のEUの概要について講義する。

第2回 EUの歴史

EU史前半である、欧州統合運動からECへの発展について学修する。（テキスト第1章1節）

第3回 EUの歴史

EU史後半である、マーストリヒト条約以降現在までのEUの発展の歴史について学修する。（テキスト第1章2，3節）

第4回 EU主要機関

EU市民による直接普通選挙によって選ばれる議員によって構成される欧州議会の役割について学修する。(テキスト第3章2節)

第5回 EU主要機関

EU構成国およびEUの首脳で構成される欧州理事会の役割について学修する。(テキスト第3章3節)

第6回 EU主要機関

EU構成国の閣僚級の代表によって構成される理事会の役割について学修する。(テキスト第3章4節)

第7回 EU主要機関

EUの一般的な利益を代表する欧州委員会の役割について学修する。(テキスト第3章5節)

第8回 EU主要機関

EU法の解釈を担うEU司法裁判所の役割について学修する。(テキスト第3章6節)

第9回

EU法

EUの政策決定過程の構造の類型、および現在の主要な立法手続である通常立法手続の特徴について学修する。(テキスト第3章1節)

第10回 EU法

EU法である基本条約(一次法)およびEU自身による法(二次法)の特徴を学ぶ。(テキスト第3章10節)

第11回 EU法

EU法が加盟国の国民に直接に義務や権利を与えることから、加盟国議会のEUでの役割について学ぶ。(テキスト第3章9節)

第12回 EUの政策

EUの通貨統合政策、なかでも経済通貨同盟の設立とユーロの導入について学修する。(テキスト第4章2節)

第13回 EUの政策

ブレグジットを引き起こした理由のひとつでもあるEUの移民・難民政策について学ぶ(テキスト第2章3節)

第14回 EUの政策

マーストリヒト条約以降導入された、EUの共通外交・安全保障政策の特徴について学修する。(テキスト第5章2節)

第15回 期末レポートについて、DVD視聴

期末レポート(Microsoft teams上で提出)について説明し、難民に関するDVDを視聴する。

2022年度 前期

2.0単位

欧米の社会と文化

為村 啓二

< 授業の方法 >

パワーポイントを使った講義形式で授業を進める。

毎回の授業の終わりに、理解度を把握するために小レポートを課す。

特別警報(すべての特別警報)または暴風警報発令の場合(大雨、洪水警報等は対象外)の本科目の取扱いについて 授業を実施します。

ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

< 授業の目的 >

欧米の文化は長い歴史の中でキリスト世界とイスラム世界との対立の歴史であったと言っても過言ではない。欧米の文化や社会を理解するためにはこれらの宗教や文化を深く掘り下げて行く必要がある。本授業では世界2大宗教を歴史的に検証し、その二大勢力が今日に至った経緯を詳しく理解する。

なお、この授業の担当者は、外資系航空会社で営業、マーケティング業務を30年以上経験している、実務経験のある教員であるので、より実践的な観点から欧米の社会・文化を解説出来る。

< 到達目標 >

本授業を通じて広い教養を身に付け、豊かな人間性や社会性を養うことで、自分の意見や口頭や文章によって表現し、相手の意見を理解する事で、良好なコミュニケーションをとる事が出来る。

獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なる様々な人と議論し、学びを深め、共同して、社会に役立てる事が出来る。

二大宗教のつながりと違いを明確に理解することが出来る。

それぞれの宗教の価値観を理解することが出来る。

他の地域の文化や宗教との違いを述べる事が出来る。今後どのようにして平和的共存が出来るかを考える事が出来る。

< 授業のキーワード >

ユダヤ教 キリスト教 イスラム教 モスク 教会 十字軍 イエス ムハンマド コーラン 旧約聖書 新約聖書

< 授業の進め方 >

毎回テーマ毎に講義を行い、そこで学んだ内容について学生が意見交換する。また、テーマを決めて予習し、次の授業で発表をする。

< 履修するにあたって >

事前学習、復習は必須です。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回の授業の復習と課題に取り組む時間が必要
予習に約1時間 復習に約1時間必要とする。

< 提出課題など >

課題を授業終了後必ずdotCampusに提出することにより

出席とみなされる

<成績評価方法・基準>

授業への積極的参加や取り組み、提出課題などを総合して評価します。

課題提出 80% 最終レポート 20%

<テキスト>

特になし

<参考図書>

特になし

<授業計画>

第1回 イントロダクション

授業の進め方、留意点を解説する。

第2回 二大宗教の始まり

キリスト教とイスラム教の誕生の歴史とその背景を解説する。また同時に他の宗教との違いについてここで検証する。

第3回 ユダヤ教とキリスト教

キリスト教とユダヤ教は聖典を共有し、ごく近い関係でありながらそれ故に対外に反目し続けている。この二つの宗教の関係はその後のヨーロッパの暗い歴史に大きく影響し、また中東問題とも密接な関係を持つこととなる。

第4回 キリスト教とローマ帝国

ローマ帝国で迫害を受けてきたキリスト教が何故帝国の国教として認められたのか。その背景とその後のローマ帝国、特に西ヨーロッパの歴史に影響を及ぼしたのかを検証する。

第5回 西洋哲学との融合

プラトンは現象の背後に普遍的なアイデアを設定したが、アリストテレスはそれを修正して広く諸学問の基礎を作った。キリスト教においても両者の哲学の影響を受けて神学が成立した。9世紀にヨーロッパではスコラ神学が展開し、西洋哲学の基盤となる。

第6回 中世ヨーロッパとキリスト教

中世ヨーロッパの国家と宗教は密接な関係がある。各国家の勃興はキリスト教に大きく影響を受け、宗教とともに発展を遂げる。中世ヨーロッパの歴史を宗教の側面から検証する。

第7回 イスラムの誕生

キリスト教と同じ経典を持つイスラム教は一神教であり、互いの髪は絶対的である。ユダヤ教、キリスト教との違いを詳しく検証することにより互いに相容れない関係について理解する。

第8回 カリフの時代 軍人政権の分立

イスラムの礎を築いた預言者ムハンマドがなくなった後、後継者問題が浮上する。この時代に多数派のスニー派と少数派のシーア派が誕生し、今日に至る。その後反乱を起こしアッバース朝が誕生する。8世紀にはアッバース朝が首都バグダードを中心とした国際商業都市として繁栄し、アラブ・イスラム文化が広まっていく。

第9回 拡大、交流するイスラム

12?15世紀

強力な軍事力を背景にオスマン帝国が現在のトルコを中心に繁栄する。この時期イスラムの帝国は広大な領土を支配する。

第10回 二大勢力の戦い

十字軍 ジハード

東ローマ帝国の依頼を受けたローマ教皇がエルサレム奪回を目的として始まった十字軍遠征は旧キリスト教圏の回復・奪回、異端への討伐軍、教皇に敵対する勢力への軍事行動、異教徒への布教・征服などの目的を持つが、回を重ねるごとにその意味合いが薄れてゆく。

第11回 二大勢力の戦い (2)

計8回にわたる十字遠征でキリスト教世界は大敗を喫する。この時代から植え付けられたキリスト教世界のイスラムに対する誤解、偏見が現在も引き継がれた。十字遠征がこの2大宗教に与えた影響を検証する。

第12回 ペルシャ語文化の繁栄

13?19世紀

トルコ・モンゴルの遊牧民俗の流入により、中央アジアに遊牧国家が誕生し、イラン系で移住民がこの地域を支配する。また、オスマン帝国が支配領土を拡大し、いかに統治し発展していったかを見ていく。

第13回 ナポレオンのエジプト遠征

ヨーロッパの列強諸国の侵略活動が進んでゆく中、18世紀末のナポレオンによるエジプト遠征はイスラム世界に大きな影響を及ぼすこととなる。

第14回 植民地化とナショナリズム

西欧列強による植民地化と、これに対する抵抗運動が起きる。第一次大戦後に多くのイスラム国家が独立は果たす。しかしこの時代に生まれた多くの矛盾がこれからのイスラム世界とキリスト世界の更なる亀裂へ発展する。

第15回 グローバル化の中のキリスト・イスラム世界
シオニズム、ムスリムの問題が混在する中東問題は地域の石油エネルギー資源の覇権争いと相まってますます混沌さを増している。これからますます進んで行くグローバル化の中、イスラム世界とキリスト世界の共存は必要不可欠である。。

2022年度 後期

2.0単位

欧米の社会と文化

服部 亮祐

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

本授業は、共通教育科目に位置付けられる。全学DPが示す「共通教育等を通じて、広い教養を身につけ、豊かな

人間性や社会性を涵養している」こと、また「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ことを目指す。具体的には、アメリカやイギリスの映画をテキストに、それぞれの作品が描く歴史、習慣、人々の価値観など、欧米の社会や文化について学ぶことで、異文化について幅広い教養を身につけ、考察することを目指す。また、文化研究分野の様々な課題を通して、自分の考えや意見をわかりやすく他者に伝える練習をすることを旨とする。

<到達目標>

異なる文化や社会について理解し、考察することができる。自分の考えや意見を文章として明確に表現できる。

<授業の進め方>

基本的に、パワーポイント及びハンドアウトを使った講義形式で授業を進める。毎回の授業の終わりに、理解度を把握するために小レポートを課す。

<授業時間外に必要な学修>

毎回の授業後に、内容を復習し、期末レポート作成の準備を進めること。(60分程度)

<提出課題など>

小レポートを毎授業後(第1回?第15回)に提出すること。また、期末レポートを提出すること。

<成績評価方法・基準>

小レポート45%(各回3%)、期末レポート55%

<テキスト>

なし

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

自己紹介、講義の全体的な概要、進め方、成績の付け方等の説明。

第2回 ネット社会と大学生活

映画を題材に、アメリカのネット社会や大学生活について学ぶ。

第3回 イギリスの階級制度

20世紀のイギリスにおける階級意識について、貴族の館で働く家事使用人たちを描いた映画を通して学ぶ。

第4回 祝祭と家族観

アメリカの感謝祭を描いた映画を通して、アメリカの家族観を学ぶ。

第5回 イギリスの妖精文化

「コティングリー妖精事件」を題材にした映画を通して、イギリスにおける妖精伝説について学ぶ。

第6回 アメリカの西部開拓

アメリカの大規模農業、スーパーマーケット、バー、銃社会について、西部劇映画を通して学ぶ。

第7回 イギリスのアーサー王伝説

イギリスの伝説の君主アーサー王について、映画を通して学ぶ。

第8回 アーミッシュ

アメリカで独特の生活様式を持つアーミッシュと呼ばれる人々について、映画を通して学ぶ。

第9回 イギリスのパブとビール

映画を通して、イギリスのパブやビールの文化や歴史について学ぶ。

第10回 アメリカ先住民

「保留地(リザベーション)」を舞台にした映画を通して、現代のアメリカ先住民の実情を学ぶ。

第11回 イギリスの庭園文化

囚人たちが刑務所内で更生のために庭園をつくる姿を描いた映画を通して、イングリッシュガーデンの歴史や意味を学ぶ。

第12回 アメリカとベトナム戦争

ベトナム戦争を題材とした映画を通して、アメリカ人の愛国心、共産主義に対する危機感、反戦運動について学ぶ。

第13回 イギリスと紅茶

奴隷貿易廃止法案通過を果たしたイギリスの政治家を描いた映画を通して、イギリスの華やかな紅茶文化の裏側にある、非人道的な奴隷の歴史を学ぶ。

第14回 アメリカと黒人差別

アメリカの黒人差別の歴史と公民権運動について、映画を通して学ぶ。

第15回 まとめ

これまでの授業について、まとめる。

2022年度 後期

2.0単位

欧米の社会と文化

北村 厚

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

テーマ：ナチ・ドイツをめぐる歴史学と社会

第二次世界大戦とホロコーストをひき起こし、未曾有の大量殺戮という結果を招いたアドルフ・ヒトラー率いるナチ・ドイツ(1933~1945年)は、世界市場におけるもっとも有名な「悪」とされます。しかしヒトラーには大衆的な人気があり、ナチ党は選挙により第一党となったのちに権力を握りました。世界大戦後に瓦礫の山となった西ドイツでのアンケートでは、ヒトラーが「戦争さえなければ良い政権だった」とする世論が多数を占めていました。なぜ、ドイツ国民はヒトラーを支持していたのでしょうか。

このように民主主義の結果としてナチ政権が成立していたという事実は、民主主義国家に生きる現代の私たちにとっても、ヒトラーのような破壊的な独裁者が今後も現れるかもしれないという意味で、重要な問題を提起します。しかしそれ以上に現代ドイツ人にとっては、いつ

までも過ぎ去ろうとしない過去として、「自分たちが支持した」ヒトラーの呪縛から逃れられないという問題なのです。ドイツ人はどのようにナチ・ドイツの過去と向かい合ったのでしょうか。

この授業では以上のような問題を通じて、人間の心理、行動および文化に関する専門知識を総合的・体系的に身につけ（DP2）、多様な意見を正確に理解し、自分の考えや意見を文章で的確に表現することができること（DP5）を目的としている。

<到達目標>

1. ナチズムに関する先入観を排し、歴史学の最新の成果にアップデートすることができる。
2. ドイツ社会における歴史問題の現状について考察することができる。

<授業のキーワード>

ナチ・ドイツ ホロコースト 過去の克服 歴史認識

<授業の進め方>

スライドとプリントをもちいた講義型の授業です。毎回、授業内容に関する課題を提示し、DotCampusを通じて提出させます。次回の冒頭で優秀な課題について受講生全体で共有するフィードバックを行い、思考・論述能力の向上を図ります。

<履修するにあたって>

教室内では席を離し、マスクを着用し、会話は必要な時以外は行わないようにしてください。

<授業時間外に必要な学修>

毎回の復習と課題に取り組む時間として1時間が必要です。

<提出課題など>

毎回授業の最後に課題を設定し、DotCampusで提出してもらいます。また、第15回目には最終課題を課します。

<成績評価方法・基準>

提出課題14回×6点=84点、最終課題20点で、合計104点で成績を付けます。

<テキスト>

なし

<授業計画>

第1回 ナチ・ドイツをめぐる諸問題

1933年に成立し45年に崩壊したナチ・ドイツ。第二次世界大戦を引き起こし、ホロコーストを実行したことで、80年を経た現在においても注目され続ける歴史的対象です。ナチとヒトラーには現在どのようなイメージが持たれており、これまでどのような論点があったのかを探ります。

第2回 ヒトラーの反ユダヤ主義

なぜナチはユダヤ人を殺戮したのか？ その根本的な要因はヒトラーの反ユダヤ主義にあります。しかしそれはヒトラーのオリジナルだったのでしょうか。そしてどの程度一般的な考え方だったのでしょうか。

第3回 ナチ党の躍進

1931年9月の選挙で国会第3党に躍進したナチ党は、なぜ、どういった国民から支持されたのでしょうか？ ヒトラーとナチ党の選挙戦略について最近の研究を紹介します。

第4回 ヒトラー政権の成立

ヒトラーは選挙によって民主的に首相になったのか？ それは半分イエスであり、半分ノーです。彼を首相にするかどうかの決定権は大統領ヒンデンプルクにありました。なぜ大統領はヒトラーを首相に任命したのか、そのプロセスを徹底解剖します。

第5回 民主主義から独裁体制への移行

ヒトラー政権はナチ党の単独政権ではなく、保守派との連合政権であり、最後の国政選挙でもナチ党が単独過半数になることはありませんでした。それにもかかわらず、なぜ、どのようにヒトラーは独裁体制を築くことができたのでしょうか。

第6回 ナチ体制下におけるユダヤ人迫害

ホロコーストは戦争中に起きましたが、それ以前にヒトラー政権下で徹底的なユダヤ人迫害政策が実行に移されました。ナチ体制下でユダヤ人の人権がはく奪されるプロセスを追います。

第7回 ナチの経済政策

よく聞かれるのが、「ヒトラーは世界恐慌からドイツを救った」「失業問題を解決した」というナチ擁護論です。しかし、この言説は正しいのでしょうか？ 近年の研究ではこれらの実績は虚構に満ちており、様々なトリックがあったことが明らかとなっています。ナチ経済政策の虚像と実像を対比します。

第8回 民族共同体とドイツ国民

街頭ではユダヤ人に対する暴力が横行し、独裁体制のもと政権批判は封じられました。それにもかかわらず、多くのドイツ国民はヒトラーを熱狂的に支持し、ユダヤ人迫害を見て見ぬふりしました。それはなぜでしょうか。最近の研究上のキーワード「民族共同体」をもちいて考えます。

第9回 第二次世界大戦の勃発

第二次世界大戦の開戦責任は、明白にヒトラーの野望にありました。彼は何のために戦争を引き起こしたのか？ そしてヨーロッパ諸国はなぜ戦争を止めることができなかったのか？「ミュンヘンの教訓」の是非を問います。

第10回 独ソ戦とホロコースト1

ナチ最大の犯罪としてユダヤ人の大量殺戮（ホロコースト）がよく知られています。しかし漠然としたイメージとして「ヒトラー政権下のドイツでユダヤ人がアウシュヴィッツ強制収容所のガス室で大量殺戮された」というものがあると思います。このイメージには多くの事実関係の間違いがあります。ホロコーストの正確な事実を学びます。

第11回 独ソ戦とホロコースト2

引き続き、ホロコーストの事実関係について学び、なぜこのような前代未聞の国家的メガ犯罪が実行に移された

のかを考えます。

第12回 過去の克服への長い道

私たちは、戦後ドイツは「過去の克服」、すなわちナチの過去に対して真摯に向き合い、反省・謝罪・賠償を誠実にやったと思いがちですが、実は当初からそうだったわけではありません。西ドイツでは、日本と同様に長らく忘却や「逆コース」が続いていました。しかし1970年代に転機を迎えます。その理由は何だったのか、戦後ドイツ社会とナチとの関係を考えます。

第13回 歴史家論争

1980年代以降、ナチをめぐる歴史学者だけでなく多くの市民が関心を寄せた大論争が繰り返されます。ここでは新聞紙上で展開された「歴史家論争」など、いくつかの論争を取り上げ、ここ40年のドイツ社会と歴史との関係について考えます。

第14回 ホロコースト否定論

「ホロコーストはなかった」「アウシュヴィッツは捏造だ」といった主張は、戦後のかなり早い時期から登場しました。こうした否定論者はなぜ、何を根拠にホロコーストを否定したのか。映画にもなったアーヴィング裁判を取り上げ、否定論の問題性を考えます。

第15回 まとめ

現在、ベルリンにはナチの過去をめぐる多くの記念碑があります。それらの写真を見て、現代ドイツの社会と歴史との関係について考え、全体のまとめとします。

2022年度 後期

2.0単位

欧米の社会と文化

トーバート, A.C.

< 授業の方法 >

This class (講義) will be taught in English.

< 授業の目的 >

This class will focus on American culture through use of a textbook and DVD. Students will be able to travel "virtually" and experience famous landmarks in various parts of the USA. Listening, discussion and reading will all be skills students can improve." This course aims to give students a broad and rich knowledge about culture, society and nature and which will be useful in society.

< 到達目標 >

Students should have a critical understanding of specific Western countries and be able to understand the positives and negatives of each country studied.

< 授業のキーワード >

Western Culture, American Culture, History, Native Americans

< 授業の進め方 >

Reading about world events, in particular those in Western, English-speaking countries, is recommended. この講義は英語で教えられます

< 授業時間外に必要な学修 >

Students should expect to do about one hour of reading and vocabulary homework per week, plus one hour of revision and re-reading the assignment before class.

< 提出課題など >

Homework will consist of answering questions in the textbook and presenting those answers in class. There will be a number of short quizzes where students will be able to show what they have learned. There will also be some short written assignments and one or two longer presentations. Feedback will be given according to the effort, presentation skill and usefulness of the information.

< 成績評価方法・基準 >

Homework, presentations and participation 60%

Tests and quizzes 40%

< テキスト >

American Vibes by Todd Rucynski and Yoko Nakagawa, (2020 edition), Kinseido Publishing, ISBN 978-4-7647-4094-5

< 授業計画 >

第1回 Week 1

Introductions. What is culture? What do you know already?

第2-3回 Early History

What is America's history and how has it affected its development? What is American culture? Boston and Maine.

第4回 Economic Center

The Big Apple (NYC).

第5回 Government

Washington D.C. and American politics

第6-7回 The South

Southern history and culture.

第8回 Project #1

Independent study project #1

第9-10回 Texas

The state that was once a country and its influence today.

第11-12回 The Southwest and Rockies

Native American culture, Hispanic influence, and nature.

第13-14回 The West Coast

California (LA), Hollywood culture, and the Pacific Northwest (Seattle).

2022年度 後期

2.0単位

欧米の社会と文化

為村 啓二

< 授業の方法 >

パワーポイントを使った講義形式で授業を進める。
毎回の授業の終わりに、理解度を把握するために小レポートを課す。

各回の授業では各時代でのクラシック音楽の特徴とその歴史的背景を解説すると共にその時代を代表するクラシック音楽を鑑賞しながらそれぞれ時代、曲、作曲家等を詳しく解説しながら進める。

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）の本科目の取扱いについて 授業を実施します。

ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

< 授業の目的 >

西洋音楽が生まれたヨーロッパの歴史、文化を学習することに西洋文化の根底にあるものを読み取る。また西洋音楽がもつ本質を、様々な音楽に実際に触れつつ理解する。これまでにあまり馴染みのない音楽を学ぶことにより音楽の基礎である仕組みを具体的に理解し、その背景となる精神構造や社会そのものを理解することが目的である。また、これからグローバルな世界で活躍する教養人としてのたしなみのみならず、純粋にクラシック音楽を楽しむことが出来るようになることを目指す。

なお、この授業の担当者は、外資系航空会社で営業、マーケティング業務を30年以上経験している、実務経験のある教員であるので、より実践的な観点から西洋文化について解説出来る。

< 到達目標 >

本授業を通じて広い教養を身に付け、豊かな人間性や社会性を養う事で、自分の意見や口頭や文章によって表現し、相手の意見を理解する事で、良好なコミュニケーションをとる事が出来る。

獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なる様々な人と議論し、学びを深め、共同して、社会に役立てる事が出来る。

本授業ではヨーロッパ音楽を中世から現代に至るまで学習し、一般的にクラシック音楽と呼ばれている18?19世紀のヨーロッパ芸術音楽をこの授業で理解することにより欧米文化の基礎となる民族、宗教、社会などを理解する事が出来る。

クラシック音楽を身近な存在になり、楽しみながら鑑賞する事が出来る。

それぞれの曲が作られた時代背景を説明する事が出来る。

< 授業のキーワード >

西洋音楽史 クラシック音楽 古代?ルネサンス バロック 古典派 ロマン派 前衛音楽 ジャズ ポピュラー音楽

< 授業の進め方 >

それぞれの時代を代表する音楽をオンディマンドの為「Youtube」を利用して多くのクラシック音楽を聴くことにより西洋音楽を理解する。 また、その時代背景となる歴史なども同時に学習する。

< 履修するにあたって >

多くのクラシック音楽に触れるのでこのジャンルの音楽に興味があるものに受講を限る。

なお音楽の経験、知識は特に必要がないが、授業の性格上多くのクラシック音楽を鑑賞する必要がある。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業開催期間にはできる限りそれぞれの時代を代表する「クラシック音楽」を聴くことが必要。また、復習として授業中に紹介する音楽を聴く必要がある。 それらの学習には約1時間程度が必要となる。

< 提出課題など >

必要に応じて授業中に課題を出す。 指定したYoutubeでクラシック音楽を鑑賞しその感想、評価を提出する。

< 成績評価方法・基準 >

提出課題への取り組みを評価します。

提出課題60% 中間レポート20% 最終レポート試験20%

毎授業後に授業のコメントを記入してdotCampusにアップする。（出欠の判断はこの課題提出の有無で行う）

< テキスト >

特に指定しない。

< 参考図書 >

クラシック音楽全史 ビジネスに効く世界の教養 松田 亜有子 著

西洋音楽史 岡田暁生 著

ヨーロッパの歴史と文化- 中世から近代

クラシック音楽の歴史 中川右介 著

クラシック音楽 CD

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の進め方、留意点を解説する。

第2回 西洋音楽の歴史

クラシック音楽（西洋音楽）を現代に学ぶ意義について考える。

第3回 古代?ルネサンス

古代音楽に始まり「クラシック音楽」が誕生した背景を学ぶ

第4回 ポリフォニー音楽とクラシック音楽黎明期

中世のグレゴリオ聖歌が及ぼした影響をその時代背景とともに学ぶ。また、中世音楽の黄金期を12?13世紀のヨーロッパの歴史的背景と共に学ぶ。

第5回 ルネサンス前期

中世キリスト教の影響下、フランスで起こった音楽ルネサンスを学ぶ。

第6回 ルネサンス後期

16世紀にヨーロッパ音楽は爆発的發展を遂げる。フランスよりイタリアに移った音楽は器楽曲や世俗音楽で音楽の幅が広がる。

第7回 バロック音楽時代

現代の人々にも馴染みが深いバロック音楽は17世紀のヨーロッパの絶対王政時代に生まれた。「通奏低音」と「協奏曲」の時代と定義されるこの時代の音楽を学ぶ。

第8回 ドイツの音楽文化

プロテスタントのドイツ文化の下、バロック音楽を代表するバッハが誕生した。これまでのバロック音楽とは異なる新しい境地を開いたバッハは「神に捧げる音楽」を探求する。

第9回 ウィーン古典派と市民音楽の始まり

18世紀後半には市民階級が台頭し、これまでのバロック音楽とは違ったウィーン古典派音楽が生まれる。多くの著名な作曲家はこの時代に誕生した。

第10回 ベートーベン 新たな時代

ベートーベンによって作り上げられた新境地はウィーン古典派とその後生まれるロマン派との橋渡しの存在でもある。宮廷音楽と決別した音楽は作曲家の独創性と個性を花開かせた。

第11回 ロマン派音楽

クラシック音楽の黄金時代であるこの時代に、多くの巨匠が誕生している。また、クラシック音楽のコンサート・マネージメント、音楽学校など現在につながる多くの制度がこの時代に生まれた。西洋音楽が最も輝いた豪華絢爛な時代でもある。

第12回 ロマン派 (2)

この時代の音楽は擬似宗教的な装いを呈し、コンサートやオペラがミサ体験のような性格を持つ。その代表的ワーグナーは音楽を芸術宗教として確立する。

第13回 前衛音楽への道

20世紀初頭、これまでのクラシック音楽の伝統が崩壊する予兆が見え始め、市民音楽とは一線を画す、実験的前衛音楽が生まれた。

第14回 モダニズムとアヴァンギャルド

第一次大戦後にはシェーンベルク、ストラビンスキーなど新古典主義が生まれた。明らかにロマン派との決別を意味する新たな新境地を開く。

第15回 レポートテスト

これまでの授業内容をベースとしたレポートを提出
また、授業を通じてクラシック音楽を一曲選曲し、その感想、解説を行う。

2022年度 後期

2.0単位

欧米の社会と文化 (総領事館連携講義)

岡部 芳彦

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

・コロナ禍で海外事情を直接見る機会が減っています。本講義では、主に関西に所在する欧米の各国の外交官がそれぞれの国について講義します。その前の週は担当教員がそれぞれの国についての基礎知識について講義し、総領事講義の理解が深まるように準備します。

・総領事講義では質疑応答の時間を設けます。各国政府を代表する外交官と議論できる能力も養います。

・この科目は全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる。」を目指しています。

・この科目は、実務家を講師としてお迎えするものであることから、文部科学省の進める高等教育の

質保証の政策に応えるものであり、実践的教育から構成される授業科目です。

< 到達目標 >

・世界各国の事情を知る。

・グローバル社会で生きる力を付ける。

・国際社会で活躍する外交官と議論する能力を養う。

< 授業のキーワード >

グローバル化、国際交流、各国事情、外交官・国際機関職員養成

< 授業の進め方 >

・在阪の総領事館から総領事などがリレー講義します。総領事講義の前の週は、担当教員がその国についての基礎知識を講義します。関西に公館がない国は東京から大使が参加する場合があります。

・大使・総領事・外交官が講義をする場合は、教室での対面講義となります。両キャンパス同時開講のため、1カ国2週セットで1キャンパスで対面で行い、もう一つのキャンパスでは教室でのオンライン受講となります(例: 1・2週目アメリカ: KPCは対面、有瀬は教室でオンライン受講、3・4週目フランス: 有瀬は対面、KPCは教室でオンライン受講)。すくなくとも3カ国分は対面でお聞きいただけます。

・英語等で講義の場合は日本語通訳が入ります。

・欧米をテーマとした講義ですが、韓国総領事の講義もあり、韓国事情を知ることにくわえて、今回の欧米シリーズから将来的にはアジアやアフリカ関連講義にリンクさせる意味があります。

・講義の順番は、外部講師の都合上前後することがあり

ます。現在は仮で順番入れています。ご了承ください。

<履修するにあたって>

- ・各国を代表する外交官・高官を招聘しての講義のため私語不可。神戸学院大学を引っ張っていくような高い問題意識を持つ学生の受講を期待しています。
- ・なお、以下の各回の授業は2021年度のもので、現在日程調整ですのでシラバスにご注意ください。

<授業時間外に必要な学修>

各回(計15回)の授業のための予習・復習に1時間程度を要します。

<提出課題など>

総領事講義翌週のミニレポート

<成績評価方法・基準>

総領事講義の翌週のミニレポート(計6回)の合計100%

<テキスト>

なし。

<参考図書>

なし。

<授業計画>

第1回：9月22日 オリエンテーションならびにヴィオレッタ・ウドヴィク・ウクライナ大使館2等書記官の講義
オンラインのライブ配信の予定：第一回のため継続受講希望の場合はかならずご出席ください。

第2回：9月29日 各国事情講義(担当教員：韓国・フランス)
オンライン講義

第3回：10月6日 韓国総領事講義
KACで講義、KPCはオンライン受講

第4回：10月13日 フランス総領事講義
KPCで講義、KACはオンライン受講

第5回：10月20日 各国事情講義(担当教員)
オンライン講義

第6回：10月27日 各国事情講義(担当教員)
オンライン講義

第7回：11月10日
各国事情講義(担当教員：ドイツ)
オンライン講義

第8回：11月17日 ドイツ総領事講義
KACで講義、KPCキャンパスはオンライン受講

第9回：11月24日 各国事情講義(担当教員)
オンライン講義

第10回：12月1日 各国事情講義(アメリカ)
オンライン講義

第11回：12月8日 アメリカ総領事館講義
KPCで講義、KACはオンライン受講

第12回：12月15日 イタリア総領事講義(予定)
KPCで講義、KACキャンパスはオンライン受講

第13回：12月22日 各国事情講義

オンライン講義

第14回：1月12日 ウクライナ大使講義
KACで講義、KPCはオンライン受講、16時よりオーバルホールでコンサート

第15回 未定
総領事講義の可能性あり。その場合はKPCで講義、KACはオンライン受講

2022年度 前期

2.0単位

化学概論

岡田 学

<授業の方法>

「講義」「演習」

<授業の目的>

この科目は、全学デュプロマ・ポリシーに示す、共通教育等を通じて、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指しています。共通教育科目のリテラシー領域、高大接続分野の導入科目として位置づけられます。理系学部での専門的な知識を深めていく上で、必要な化学的基礎知識を身に付けることができます。この講義では、日常生活やテクノロジー社会を支える化学物質の性質やその変化について学ぶ中で、化学の基本概念や原理法則を理解し、科学的な見方や考え方を身に付けることを目的とします。また、化学が人間生活に果たしている役割を理解するとともに、目的意識を持って学習し、化学的に探求する能力や態度が育成されます。なお、この科目の担当者は、中学校・高等学校での化学教育に30年以上の経験を有する、実務経験がある教員です。ICTの機器を効果的に活用し、具体的な事例に基づいて講義を行うことで、深い学びへと繋げて行きます。

<到達目標>

- 1) 物質の構成やその変化などの化学に関する基本的な知識が身につけ、日常生活を支える物質の性質や構造について化学的に理解することができる。(知識)
- 2) 観察や実験データから違いや共通点を見だし、化学的な原理や法則を見つけ出すことができる。(知識・技能)
- 3) 化学的な知識や概念について自ら考え、演習に取り組み、科学的な物の見方や考え方を身に付けることができる。(態度・習慣)

<授業のキーワード>

原子の構造 周期表 物質の量 化学反応式 酸と塩基 酸化還元

<授業の進め方>

- 1) 講義を中心に進めますので、ノートをきちんと取り、わからないところは自学自習で補って下さい。
- 2) 講義の中で演習を行います。演習問題を解くことで、講義への理解を深めて下さい。

3) 毎回の授業で、演習問題の解答や感想や意見等を書いて「毎時課題」として提出して貰います。

4) 中間まとめでは、1~7回までの講義のまとめとして、総合演習を行います。

5) 新聞やインターネット等で話題になっている科学的な事柄を取り上げて解説します。

<履修するにあたって>

毎回の授業で提出して貰う「毎時課題」が評価に直結します。授業への出席を大切にしてください。

部活動での公欠や病欠などのやむを得ない欠席については、相談をして下さい。

<授業時間外に必要な学修>

講義内容をきちんとノートにまとめる工夫をして下さい。(目安として30分)

演習問題でわからなかったところは、テキスト使って復習してください。(目安として30分)

科学的な話題について新聞記事を読んだり、雑誌や本を読んで、日頃からの知識・理解を深めて下さい。

<提出課題など>

毎回の授業時に、「毎時課題」を提出して貰います。(評価し、次の授業時に講評し、質問事項に答えます)

中間まとめで行った総合演習は、模範解答を配布し、解説・講評を行います。

定期試験の模範解答を終了後に、公開します。

<成績評価方法・基準>

15回分の「毎時課題」30%、中間まとめの総合演習30%、定期試験40%の割合で総合的に評価します。

毎回の授業を大切に講義に臨んで下さい。

<テキスト>

井口洋夫・木下實・齊藤幸一ほか著『Primary大学テキスト これだけはおさえない化学』実教出版 2010年 2300円+税

<参考図書>

授業の中で適宜紹介します。

<授業計画>

第1回 物質の探求

物質の種類とその性質、混合物の分離・生成方法について学ぶ。純物質が単体と化合物に分けられること、構成元素の検出方法を学ぶ。

第2回 物質の構成粒子

原子の構造と電子配置、周期表の示す様々な元素の性質の違いや類似性について学ぶ。

第3回 物質量

原子量の定義、分子量や式量の求め方。物質量と式量・体積・粒子の個数の関係について演習を通して学ぶ。(事後学習：演習課題への取組30分)

第4回 物質量と化学反応式

化学反応式の作り方、化学反応式と物質量の関係を演習を通して学ぶ。(事後学習：演習課題への取組30分)

第5回 溶液の濃度

溶液と濃度の表し方について、質量パーセント濃度、モル濃度、モル濃度と物質量の関係について演習を通して学ぶ。(事後学習：演習課題への取組30分)

第6回 イオン結合

イオン結合の仕組みやイオン結晶の性質、組成式の作り方と命名法について演習を通して学ぶ。(事後学習：演習課題への取組30分)

第7回 共有結合と金属結合

共有結合の性質や電子対・不対電子のちがひ、分子を電子式で表すことについて学ぶ。共有結合の結晶、分子間力についても学ぶ。また、金属結合や金属結晶の性質について学ぶ。

第8回 中間まとめ

第1回から第7回までの講義のまとめ、総合演習

第9回 酸と塩基の定義

酸と塩基の性質や定義(アウレニウス、ブレンステッド・ローリー、ルイス)について、酸と塩基の価数や強弱について学ぶ。

第10回 酸と塩基、pH

電離度や弱酸・弱塩基の電離平衡、pHの計算について演習を通して学ぶ。(事後学習：演習課題への取組30分)

第11回 中和反応と塩

中和反応の化学式や量的関係、滴定曲線について学ぶ。塩の種類と性質。塩の加水分解について演習を通して学ぶ。(事後学習：演習課題への取組30分)

第12回 酸化と還元の定義

酸化・還元の定義(酸素・水素・電子の授受)について学ぶ。

第13回 酸化還元反応

酸化数の求め方、酸化還元の化学反応式の作り方について、演習を通して学ぶ。(事後学習：演習課題への取組30分)

第14回 酸化剤と還元剤

主な酸化剤と還元剤、酸化剤・還元剤のイオン反応式・酸化還元反応式の作り方について、演習を通して学ぶ。また、酸化還元反応の量的関係について学ぶ。(事後学習：演習課題への取組30分)

第15回 金属のイオン化傾向

イオン化傾向とイオン化列、金属と空気・水・酸・金属との反応について学ぶ。電池の仕組みや電気分解の原理について学ぶ。

2022年度 後期

2.0単位

化学概論

岡田 学

<授業の方法>

「講義」「演習」

< 授業の目的 >

この科目は、全学デュプロマ・ポリシーに示す、共通教育等を通じて、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指しています。共通教育科目のリテラシー領域、高大接続分野の導入科目として位置づけられます。理系学部での専門的な知識を深めていく上で、必要な化学的な応用力を身に付けることができます。この講義では、日常生活やテクノロジー社会を支える化学製品の仕組みや原理を学び、化学的な知識を活用して主体的に学び、考察・判断し、発信できる能力や態度が育成されます。

なお、この科目の担当者は、中学校・高等学校での化学教育に30年以上の経験を有する、実務経験がある教員です。ICTの機器を効果的に活用し、具体的な事例に基づいて講義を行うことで、深い学びへと繋げて行きます。

< 到達目標 >

- 1) 物質の構成やその変化などの化学に関する応用的な知識が身につけ、日常生活を支える物質について化学的に理解することが出来る。(知識)
- 2) 観察や実験データをから性質の違いや共通点を見だし、化学的な仕組みや原理を見つけ出すことが出来る。(知識・技能)
- 3) 化学的な知識や概念について自ら考え、演習に取り組み、科学的な判断力や発信力を身に付けることができる。(態度・習慣)

< 授業のキーワード >

水の特異性 水溶液 浸透圧 コロイド 物質の燃焼
ヘスの法則 反応速度 化学平衡 油脂 せっけん 放射線の化学

< 授業の進め方 >

- 1) 講義を中心に進めますので、ノートをきちんと取り、わからないところは自学自習で補って下さい。
- 2) 講義の中で演習を行います。演習問題を解くことで、講義への理解を深めて下さい。
- 3) 毎回の授業で、演習問題の解答や感想や意見等を書いて「毎時課題」として提出して貰います。
- 4) 中間まとめでは、1~7回までの講義のまとめとして、総合演習をおこないます。
- 5) 新聞やインターネットで話題になっている科学的な事柄を取り上げて解説します。

< 履修するにあたって >

化学概論 の授業内容は、高校で「化学基礎」を履修または前期「化学概論」が既習であるものとして進みます。

毎回の授業で提出して貰う「毎時課題」が評価に直結します。授業への出席を大切にして下さい。

部活動での公欠や病欠などのやむを得ない欠席については、相談して下さい。

< 授業時間外に必要な学修 >

講義内容をきちんとノートにまとめる工夫をして下さい。

(目安として30分)

演習問題でわからなかったところは、テキスト使って復習して下さい。(目安として30分)

科学的な話題について新聞記事を読んだり、雑誌や本を読んで、日頃からの知識・理解を深めて下さい。

< 提出課題など >

毎回の授業時に、「毎時課題」を提出して貰います。(評価、次の授業時に講評し、質問事項に答えます) 中間まとめで行った総合演習は、模範解答を配布し、解説・講評を行います。

定期試験の模範解答を終了後に、公開します。

< 成績評価方法・基準 >

毎時間15回分の「毎時課題」30%、中間まとめの総合演習30%、定期試験40%の割合で総合的に評価します。毎回の授業を大切に講義に臨んで下さい。

< テキスト >

井口洋夫・木下實・齊藤幸一ほか著『Primary大学テキスト これだけはおさえたい化学』実教出版 2010年 2300円+税

< 参考図書 >

「ふしぎの化学」齋藤勝裕・安藤文雄・今枝謙一共著 培風館

「環境・暮らし・いのちのための 化学のこころ」伊藤明夫著 裳華房

「身の回りから見た 化学の基礎」芝原寛泰・後藤景子著 化学同人

< 授業計画 >

第1回 水の特異性

水の特異的な構造について、混成軌道や電気陰性度、水素結合の成り立ちについて学ぶ。また、水の持つ特異的な性質、融点・沸点、比熱、比誘電率、密度、表面張力について学ぶ。

第2回 水溶液と溶解の仕組み

物質が水に溶ける仕組みや再結晶、固体の溶解度について演習を通して学ぶ。(事後学習：演習課題への取組30分)

第3回 気体の溶解度、沸点上昇と凝固点降下

気体の溶解度や沸点上昇・凝固点降下、過冷却について、演習を通して学ぶ。(事後学習：演習課題への取組30分)

第4回 浸透圧とその利用

浸透と浸透圧の定義、浸透圧を利用した食品等について、演習を通して学ぶ。(事後学習：演習課題への取組30分)

第5回 コロイドとその性質

コロイドの定義と分類、コロイド溶液が持つ様々な性質について学ぶ。

第6回 物質の燃焼

燃焼の意味、燃焼の三要素、引火点や発火点、燃焼範囲について学ぶ。

第7回 熱化学方程式とヘスの法則

熱化学方程式、ヘスの法則の定義やヘスの法則を使った

生成熱や結合エネルギーの求め方について、演習を通して学ぶ。(事後学習：演習課題への取組30分)

第8回 中間まとめ

第1回から第7回までの講義のまとめ、総合演習

第9回 化学反応と光

化学発光の原理と仕組み、光化学反応とその利用について学ぶ。

第10回 化学反応の仕組み

反応速度の表し方、速度の求め方について、演習を通して学ぶ。(事後学習：演習課題への取組30分)

第11回 化学反応の仕組み

反応速度と濃度・温度・触媒の関係について、演習を通して学ぶ。(事後学習：演習課題への取組30分)

第12回 化学平衡

化学平衡の法則について学び、その平衡移動の原理(ルシャトリエの原理)について、演習を通して学ぶ。(事後学習：演習課題への取組30分)

第13回 洗濯の化学

汚れの主成分である油脂の性質や種類について具体例を通して学ぶ。

第14回 洗濯の化学

セッケン・合成洗剤の構造や性質、その様々な作用について、シャンプーやリンスなど日常生活にあるものを通して学ぶ。

第15回 放射線の化学

放射線の種類とその性質、核分裂反応について、原子力発電所等の放射線を利用した機械や設備の仕組みを通して学ぶ。

2022年度 後期

2.0単位

歌唱・合唱演習

高橋 純

< 授業の方法 >

演習

授業形態は、感染状況や履修者数等に鑑みて決定し、変更する場合があります。

< 授業の目的 >

この科目は、クラシック音楽における声楽を通して、人間行動およびその文化所産との有機的関連を理解し、幅広い知識と教養を身につけることを目指す。

声楽とは人の声を中心とした音楽のことであり、この授業では、主に西洋のクラシック音楽における声楽について学ぶ。

クラシック音楽における声楽では、歌唱者が自分の体を最大限に生かした発声法により、マイクなどの拡声器を用いずにホール全体に響き渡る歌声を出すことを可能にしている。また、そのような発声は、歌声の音域を広げ、各音域で統一された音色と響きを保つことが可能である。

この授業では、まず、声楽についての基本的な知識を学び、授業で行われる発声指導によって、学習者自身がクラシック音楽における声楽の発声法を身に付け、実際に声楽曲を歌うことができるようになる事を目標としている。また声楽教本のコンコーネや、イタリア古典歌曲などの声楽曲に取り組み、学習者が実際に歌うことによって、声楽を実践的に学ぶ事を目標としている。

なお、この授業の担当者は、プロの演奏家として10年以上の実務経験を有する教員であり、より実践的な観点から声楽に対する知識や発声法を教えることができる。

< 到達目標 >

声楽についての基礎知識を説明できる。

声楽発声法の基本的な能力を獲得する。

声楽的な発声で様々な歌を歌うことができる。

< 授業のキーワード >

クラシック音楽 声楽 イタリア歌曲 コンコーネ 歌唱法

< 授業の進め方 >

全体で行う準備運動や発声練習を基にし、残りの時間で個人レッスンをを行い、各学習者の発声の特徴や問題点に着目して指導する。

声楽教本であるコンコーネを用いて、母音唱(同じ母音だけで歌う)による発声の訓練を行う。母音唱による発声がある程度安定してくると、イタリア古典歌曲などの声楽曲に取り組み、実際にクラシック音楽の楽曲を歌うことによって、声楽を体験的に学ぶ。その際、イタリア語の発音や歌詞の内容については授業内で説明する。

< 履修するにあたって >

授業内では発声に必要な体操や、実際に声を出して発声練習や歌唱指導を行う。

楽譜を用いて授業を行うが、楽譜を読めない生徒にもできる限り配慮する。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、授業で学んだ発声練習や、歌唱指導の復習を行うこと。(目安として1時間)

< 提出課題など >

特に提出課題はない

< 成績評価方法・基準 >

授業への積極的参加度40% 授業態度30% 試験30%

遅刻は3回で欠席1回に該当。欠席回数が5回を超えると単位は与えない。

< テキスト >

適宜プリントを配布

< 参考図書 >

適宜紹介する

< 授業計画 >

第1回 授業の概要

授業の概要を説明し、声楽についての全般的な解説を行う。また簡単な発声練習を行い、少しずつ声を出してゆ

く。

第2回 声楽についての学び

西洋音楽における声楽について学び、発声の仕組みや、歌声の音響的な特性についても学ぶ。

第3回 音楽における基礎知識と、練習曲への取り組み

音符の読み方、楽譜の読み方など、音楽の基礎知識を学ぶとともに、発声練習を行う。コンコーネ（声楽教本）などの練習曲に取り組む。

第4回 音楽における基礎知識と、練習曲への取り組み

音楽の基礎知識を学ぶとともに、表情記号についての理解を深め、コンコーネ（声楽教本）などの練習曲を通して音楽の「表現」についても学んでいく。

第5回 発声練習と、練習曲への取り組み

発声練習を通して、発声の仕組みや、歌声の出し方などを体験的に学び、練習曲を通して実践的に学んでいく。

第6回 練習曲への取り組みと音楽表現

声楽的に練習曲を歌うことにより、音楽の「表現」の仕方も学んでいく。

第7回 音楽鑑賞と楽曲への取り組み

様々な声楽作品を鑑賞し、イタリア古典歌曲に取り組む準備をする。

第8回 楽曲への取り組み(基礎)

イタリア古典歌曲に取り組むために、イタリア語の基本的な読み方、歌詞の内容について学ぶ。

第9回 楽曲への取り組み(基礎)

イタリア語の基本的な読み方、歌詞の内容について学び、楽譜を読んでいく。

第10回 楽曲への取り組み(応用)

歌詞を朗読することにより、表現することを学ぶ。朗読で学んだ表現を歌唱につなげていく。

第11回 楽曲への取り組み(応用)

イタリア語や、音楽の表現に気をつけながら、声楽的に歌唱するために、個人レッスンやグループレッスンを行う。

第12回 楽曲への取り組み(発展)

発表会に向けて、一人一人が、自身の声と表現で歌唱できるように取り組む。

第13回 発表会

試験を兼ねた発表会

第14回 発表会

試験を兼ねた発表会

第15回 まとめ

発表会および授業全体をふり返り、総括を行う。

2022年度 後期

2.0単位

環境の科学

吉村 征浩

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、全学DPのもと、社会・自然に関する広く豊かな知識を備え、社会に自ら貢献しようとする行動力の育成を目的とし、共通教育科目のリベラルアーツ領域、健康科学の導入科目として位置付けられる。とくに生命と健康、そして食科学に関連するトピックを取り上げる。

生物はその大小にかかわらず、内環境を一定に保ち、外環境から物質を取り入れ、あるいは不要になった老廃物を排出し、環境と相互作用しながら生きている。

本講義では、ヒトの内環境においてどのようなシステムが働き身体を維持しているのか、あるいは、外環境から物質を取り入れ（食品を食べて）、どのように健康状態を維持しているのか理解し、さらに、ヒトという生物が内包する環境、あるいは取り巻かれている環境について再認識し、自身の健康・栄養状態を客観的・科学的に判断できる力を身に付けることを目指す。

また、ライフステージ別や医療環境に関わる栄養学を学び、栄養マネジメントの知識を習得することで、栄養管理を理解し、栄養状態の評価・判定をする力を身に付けることを目指す。

なお、本講義の担当者は、大学・研究機関で生化学、食品機能学、基礎栄養学の分野における研究者としての実務経験のある教員であるので、本講義は、より実践的な観点から生物の内環境・外環境との相互作用について解説するものである。

< 到達目標 >

内部（中心物）から見る目、外部（環境側）から見る目の両視点から物事を観察できる。

一般教養として、基礎栄養学（食品中の栄養素の役割、消化吸収過程）の概要を説明できる。

< 授業のキーワード >

基礎栄養学、ヘルスリテラシー、健康

< 授業の進め方 >

講義を中心に進める。

< 履修するにあたって >

幅広い分野の受講者に開講するため、医学生物学の専門的知識の必要性は問わない。個々の興味に応じて理解を深め、それぞれの専門に沿う形で内容を吸収することを望む。

< 授業時間外に必要な学修 >

専門とは異なる分野の内容の一つでも興味をもち、さらに詳しい内容を自分で調べ、発展的な学習に取り組むこ

と。毎回の授業について1時間程度の復習・自己学習が望ましい。

< 提出課題など >

適宜指示する。

< 成績評価方法・基準 >

授業態度、課題・レポートの総合成績60%以上の得点で合格とする。

< テキスト >

特に指定しない。必要な際にプリントを配布する。

< 参考図書 >

講義中、適宜紹介する。

< 授業計画 >

第1回 食環境と健康（1）

食環境と健康との関係について理解する。

第2回 食品成分と代謝吸収

食品と食品成分、代謝・吸収について理解する。

第3回 腸内環境と健康

近年話題になっている腸内細菌叢を理解する。

第4回 食環境と健康（2）

消費者を取り巻く環境のうち、機能性食品の分類や制度について理解する。

第5回 最近の話題

食環境と健康に関する最近の話題について考える。

第6回 食環境と健康（3）

「たんぱく質」の栄養について理解する。

第7回 最近の話題

我々を取り巻く食環境において、「たんぱく質」商品について健康への影響を考察し、理解する。

第8回 食環境と健康（4）

「炭水化物」の栄養について理解する。

第9回 最近の話題

我々の食環境にあふれている「炭水化物」=「砂糖」について近年分かってきた健康に対する影響を考察し、理解する。

第10回 食環境と健康（5）

「脂質」の栄養について理解する。

第11回 最近の話題

食生活における「脂質」=脂についての正しい知識を身に着け健康に役立てる。

第12回 食環境と健康（6）

「ビタミン」の栄養について理解する。

第13回 食環境と健康（7）

「ミネラル」の栄養について理解する。

第14回 食環境と健康（8）

「ビタミン・ミネラル」の機能を理解し、サプリメントについて正しく理解する。

第15回 まとめ

最近の食と健康に関するニュースについて科学的に検証する術を考える。

2022年度 後期

2.0単位

環境の科学

廣田 晴行

< 授業の方法 >

対面授業（75分は講義、15分はレポート作成の演習）

< 授業の目的 >

この科目は、全学デュプロマ・ポリシーのもと、社会・自然に関する広く豊かな知識を備え、社会に自ら貢献しようとする行動力を育成することを目指すものである。共通教育科目のリベラルアーツ領域、健康科学分野の導入科目として位置づけられている。「環境科学」に関して社会人としての教養と共に、専門教科に役立つ基礎的な知識を学ぶことができる。

本授業では、「環境学」の具体的なテーマ、例えば大気汚染、酸性雨、水質汚染、土壌汚染、地球温暖化、騒音、振動などを取り上げ、定義や原因や現象、それらを防ぐ取組と課題について考え理解を深める。そして、基礎的な科学知識や様々な環境問題について、自らの考えをまとめ表現したうえで判断するとともに、それらを解決するための行動ができる力を身に付けることを目的とする。

大学での学習は、受身的に講義を聞くのではなく、講義による基礎知識を基盤に自らの考えをまとめた確に表現し、自身の考えや結論を発信することが重要であると自覚して受講することを望む。

なお、この科目の担当者は、国・公立中学校の理科の教員を経て管理職を長年務めた後、大学で教員研修を行っていた実務経験がある教員である。

< 到達目標 >

- 1) 環境に関する基本的な知識が身につく、自然現象や人間の社会活動が引き起こす様々な問題を正しく科学的に理解することが出来る。(知識)
- 2) 環境に関する様々なデータから、環境問題の解決に繋がる方法を見つけ出すことが出来る。(知識・技能)
- 3) 大気汚染を始めとする様々な地球環境問題に関して、正しい知見を持ち、問題解決につながる方法を見いだしたり、解決に繋がる行動を起すことが出来る。(態度・習慣)

< 授業のキーワード >

環境学 汚染・破壊 地球温暖化 騒音・振動 法律・条約

< 授業の進め方 >

基礎的な知識理解のためにパワーポイントを用いて講義を行った後、自身の意見や考えをまとめるためにレポート作成（毎回300字）を課す。レポートは退出時に提出すること。

普段の授業においても、意見を求めるので、ノートはきっちりと取ること。

授業内容を覚えるのではなく、自身の考えをまとめて表現する力を身に付けるための努力をして授業を受けること。

< 履修するにあたって >

本環境の科学を理解する上で、幅広い考え方を養う必要があるため地域環境科学のみの知識・理解では不十分である。

地理、物理、化学、生物、地学などの基礎的な知識は必須であるため、中学校・高校の教科書などもよく復習しておくこと。

演習を毎回授業に取り入れて行うため、課題提出とレポート作成（300字）は必須であることを十分に理解したうえで受講すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

講義内容の復習、整理のために授業終了後にノートを読み直すほか、不足事項については自身で調べて加筆すること。

講義において、興味を持った学習項目については、図書館等で専門書を見て深く調べ学習をすると共に、一般書などで幅広く学習することも重要である。

< 提出課題など >

毎回の授業時に、課題やレポートを提出してもらいます。

< 成績評価方法・基準 >

毎時（15回）の課題プリント（レポート）とテストで評価する。

課題プリント（レポート）は10点満点で評価し、回数分（15回）の合計を100点満点に換算する。

テスト（論文2問各50点満点）は100点満点です。

合計200点満点を100点満点に換算して評価する。

< テキスト >

特に使用しません。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

プロローグ（授業の受け方、成績のつけ方）&自己紹介、自己PR

第2回 授業のまとめ方

まとめ方（作文と小論文の違い）

第3回 環境の科学 1

環境学とは

第4回 環境の科学 2

大気汚染とは

第5回 環境の科学 3

酸性雨とは

第6回 環境の科学 4

水質汚染とは

第7回 環境の科学 5

土壌汚染とは
第8回 環境の科学 6
オゾン層の破壊とは
第9回 環境の科学 7
地球温暖化とは
第10回 環境の科学 8

生態系の破壊とは
第11回 環境の科学 9
生物多様性の減退とは
第12回 環境の科学 10
騒音とは
第13回 地球の科学 11
振動とは
第14回 地球の科学 12
地盤沈下とは
第15回 環境の科学 13
悪臭とは

2022年度 前期
2.0単位
環境の科学
南 久則

< 授業の方法 >
講義

< 授業の目的 >

この科目は、全学DPの、「社会・自然に関する広く豊かな知識を備え、社会に自ら貢献しようとする行動力の育成」を目的とし、共通教育科目のリベラルアーツ領域、健康科学の導入科目として位置付けられる。とくに生命・健康・科学に関連する内容を取り上げる。
本講義では、ヒトの内環境の恒常性を維持するためのシステムについて、特に「栄養」に焦点を当てて講義する。また、ライフステージや疾病、環境の変化に関わる栄養学を学び、栄養マネジメントの知識と健康的に生活する技術を習得する。

< 到達目標 >

ヒトの内環境の恒常性を維持する機構として

- 1) 栄養素と栄養
- 2) 栄養と免疫機能
- 3) 疾病時の栄養
- 4) 自然環境と栄養

につて理解し、説明できる。

< 授業のキーワード >

内部環境、栄養、食料、健康

< 授業の進め方 >

講義

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回の講義内容をA41枚程度にまとめること。

< 成績評価方法・基準 >

授業態度、課題・レポートの総合成績60%以上の得点で合格とする。

< テキスト >

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

< 授業計画 >

第1回 栄養とは何か？

栄養、栄養素、食品、食物の違いを理解する。

第2回 ライフステージと栄養

栄養素の欠乏による健康障害を理解する。

タンパク質エネルギー栄養障害

第3回

栄養素の過剰による健康障害を理解する

ビタミン欠乏症（脚気、ペラグラ。壊血病、くる病）

第4回

栄養素の過剰による健康障害を理解する

肥満と生活習慣病

第5回

栄養素の過剰による健康障害を理解する

サプリメントの功罪

第6回

世代を超えた栄養素の欠乏による健康障害を理解する

エピジェネティックと栄養・健康

第7回 免疫と栄養

栄養状態の免疫機能に及ぼす影響を理解する。

第8回

食物アレルギーについて理解する。

第9回 腸内細菌と健康

腸内環境と腸内細菌について

第10回

腸内細菌の生活習慣病に及ぼす影響を理解する。

第11回 味覚、食欲、生体リズム

味覚の認知機能を理解する。

第12回

食欲の調節機構を理解する。

第13回

生体リズムの調節機構と健康について理解する。

第14回 自然環境と健康

自然環境と食糧生産について理解する

第15回

災害と健康、栄養について理解する。

2022年度 前期

2.0単位

環境の科学

瀧本 竜哉

< 授業の方法 >

基本的に対面の講義形式で行いますが、

大学の指示に従い、オンライン形式に変更する可能性もあります。

< 授業の目的 >

環境問題とその対策法を考えることにより、DPの「学びと知の探究」を実践します。具体的には、過去から現代までの環境問題について学ぶことにより、幅広い教養を身に付け、その中で、環境汚染を引き起こす様々な問題を発見し、受講生同士で討論することにより理解を深め、本講義が受講生の環境浄化に向けた意識改善に役立つことを目指します。

< 到達目標 >

本科目は共通教育科目に属し幅広い地球環境汚染について学びます。つまり、環境汚染による健康被害やその対策、環境浄化法について学生が自主的に考えられることを目標に置きます。以下、5つの項目に対する到達目標を示します。

1. 地球環境問題に対して学生同士で議論できる。(知識)
2. 様々な廃棄物や量を把握し、その処理方法を議論することができる。(知識)
3. 日常生活において使用されている化学物質汚染を認識し、人体への影響を説明することができる。(知識)
4. 大気汚染による生態系への危険性や解決方法を議論できる。(知識)
5. 地球温暖化の原因や生態系への危険性、またその解決へ向けた世界的な取り組みを説明できる。(知識)

< 授業のキーワード >

持続可能な社会、廃棄物問題、化学物質による汚染、大気汚染、地球温暖化

< 授業の進め方 >

講義中心の授業となりますが、自発的な発表を授業中に促します。

< 履修するにあたって >

授業は資料を配布しますので、必ずしもテキストを購入する必要はありません。

また、テストは配布資料に書かれている内容から出題する予定です。

< 授業時間外に必要な学修 >

週一回、1時間程で良いので授業後、内容を復習してください。

また、授業の予習動画もしくはPDFファイルをwebへアップしていますので、授業前に確認しておいて下さい。これらの動画もしくはPDFファイルを見ておくと、小テストで好成績を取れると思います。

リンクは以下の通りです。

{https://kobegakuin-my.sharepoint.com/:f:/g/personal/pt131273_pharm_kobegakuin_ac_jp/EieKQbTxd9IKiTH6LWB109gBd3j0mLCb3sxx_sUVp8LVdw?e=SGoCeH,https://kobegakuin-my.sharepoint.com/:f:/g/personal/pt131273_pharm_kobegakuin_ac_jp/EieKQbTxd9IKiTH6LWB109gBd3j0mLCb3sxx_sUVp8LVdw?e=SGoCeH}

< 提出課題など >

毎回、授業終わりに簡単な確認テストを行います。また、80~100文字以内で書いてもらうレポート課題も出します。しかし、これらに取り組みなくても定期試験で不利になることはありません。

レポートの全課題の内容は、以下のリンクから入って、一番下に置いてあるPDFファイルに記載されています。

{https://kobegakuin-my.sharepoint.com/:f:/g/personal/pt131273_pharm_kobegakuin_ac_jp/EieKQbTxd9IKiTH6LWB109gBd3j0mLCb3sxx_sUVp8LVdw?e=SGoCeH,https://kobegakuin-my.sharepoint.com/:f:/g/personal/pt131273_pharm_kobegakuin_ac_jp/EieKQbTxd9IKiTH6LWB109gBd3j0mLCb3sxx_sUVp8LVdw?e=SGoCeH}

< 成績評価方法・基準 >

成績は三種類の方法で評価し、各生徒が一番良い点数を採用します。

一つ目は、授業後、毎回小テストを行いますので、この小テストの毎回の結果の平均点により、成績を付けます。

二つ目は、毎回授業後に簡単なレポートを課しますので、小テストとレポート点を合算した点数で、成績をつけます。その場合は、小テスト4割、レポート6割の配分となります。

三つ目は、定期試験の点数をそのまま採用します。(但し、オンライン授業にシフトした際は、実施しない)

つまり、小テストや定期試験に自信のある学生は小テスト(平均点)や定期テストの結果のみで成績をつけますので、レポートを提出する必要はありません。あくまでレポート点は、成績が伸びない学生のための救済処置です。

レポートの提出先ですが、dotCampusに提出用フォルダを作成しますので、各回の提出期間内に提出して下さい。

< テキスト >

環境科学入門 ー地球と人類の未来のためにー(川合真一郎、張野宏也、山本義和 著, 化学同人)

< 参考図書 >

やさしい環境科学 (保田仁資 著、化学同人)

< 授業計画 >

第1回 総論

現代社会における環境問題の重要性について、概説する。

第2回 総論

地域環境と地球環境の関連性および環境問題の根本的な原因について概説する。

第3回 総論

様々な毒性について解説する。

第4回 廃棄物問題

日本のごみ問題についての過去の経緯について概説する。

第5回 廃棄物問題

ゴミ問題と3R政策について解説する。

第6回 廃棄物問題

クリーン・サイクル・コントロールの考え方の重要性について考える。

第7回 廃棄物問題

廃棄物が与える人体への影響について概観する。

第8回 化学物質による汚染

公害病についての過去の経緯、および人体への影響について概説する。

第9回 化学物質による汚染

環境ホルモンについての人体への影響について生物濃縮による毒性の向上も含め概説する。

第10回 大気汚染

硫黄酸化物(SO_x)あるいは窒素酸化物(NO_x)と酸性雨との関係及びその影響について解説する。

第11回 大気汚染

地球上のオゾン層の役割とオゾン層の破壊による人への影響について概観する。

第12回 地球の温暖化

地球温暖化の原因と地球温暖化がもたらす自然環境やヒトへの影響について解説する。

第13回 地球の温暖化

まず、温室効果を示すガスの種類とその効果について解説する。また、石油消費量、二酸化炭素排出量の多い国と温暖化への取り組みについて概説する。

第14回 地球の温暖化

まず、二酸化炭素を減らす方法について概説する。また、主要国のエネルギー事情について電気エネルギーを中心に概観する。

第15回 地球の温暖化

地球温暖化防止のための国際会議と二酸化炭素の排出が多い先進国と開発途上国との調和について概観する。

2022年度 前期

1.0単位

韓国語検定対策 a カ(ハングル能力検定試験対策)

董 淑姪

< 授業の方法 >

対面授業(講義・演習)

< 授業の目的 >

この科目では、全学のDPで掲げられている「学びと知の探究を通じて、普遍的な学問体系の英知に触れる喜びを実感し、その過程で自己と他者の個性に気づき、互いの存在をこよなく尊重すること」を実践し、教育目標である自主的で個性豊かな良識ある社会人の育成を目指す。それを目標にし「共通教育等を通じて、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養して、専門分野に高い関心を持ち、専門領域の課題を考察し、解決するための知識や技能を身につけている」・「幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができ、自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」・「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立つことができる」ようになることを目指す。ハングル能力検定協会の主催する検定試験の過去問を元に作成された教材を使い、ハングル能力検定試験4級に合格できるだけの韓国語能力を養成することを目的とする。また、日常的な場面で使われる基本的な韓国・朝鮮語を理解し、それらを用いて表現できることを目的とする。

< 到達目標 >

ハングル能力検定協会の4級レベルの目安に掲げられている次の4項目を主な到達目標とする。

1. 比較的使用頻度の高い約1,070語の単語や文型からなる文を理解することができる。
2. 決まり文句を用いて様々な場面であいさつやあいづち・質問ができ、事実を伝え合うことができる。また、レストランでの注文や簡単な買い物をする際の依頼や簡単な誘いなどを行うことができる。
3. 簡単な日記や手紙、メールなどの短い文を読み、何について述べられたものなのかをつかむことができる。
4. 自分で辞書を引き、頻繁に用いられる単語の組み合わせ(連語)についても一定の知識を持ちあわせている。

< 授業のキーワード >

ハングル能力検定試験、ハン検、4級

< 授業の進め方 >

ハングル検定試験の過去問を元に作成された教材を使い、筆記問題対策と聞き取り問題対策を次のように授業を進

める。

1. 聞き取り問題、筆記問題それぞれの出題類型の内容を分析したポイントと問題例(類題)について学習。
2. 4級出題の文法(助詞・語尾・慣用表現)を学習。
3. 毎回学習した内容の確認のために模擬試験問題を解く。そうすることによって実際の試験に慣れていく。
4. 聞き取り模擬試験台本をもって教材付属のCDを聞きながら聞き取り模擬試験問題を解く。
5. 毎回授業初めに4級範囲の単語小テストを行う。

<履修するにあたって>

・履修するにあたっては1年次配当の韓国語科?を履修して単位を取得したのと同等程度の韓国語?を有していることが必要である。

・この科目の履修者は6月5日(日)に行なわれる第57回「ハングル」能力検定試験を受けなければならない。授業への出席条件を満たした上で検定試験に合格すれば、合格した級により規定の評点が与えられる。検定試験で級を取得できなかったり何らかの事情で検定試験を受けることができなかった場合は、定期試験を受けることにより規定の評点が与えられる。

・「韓国語検定対策」は a と b を一括して履修しなければならない。

<授業時間外に必要な学修>

・筆記問題対策・リスニング問題対策ともに、1時間程度の予習・復習が必須。

・筆記問題対策では、教材の「合格ポイント資料」を手書きして熟知し、模擬試験問題の語彙や文の意味を調べた上で授業に臨むこと。

・聞き取り問題対策では、教材付属のCDを使い、4級検定試験に出題される連語リスト・あいさつのことば、聞き取り模擬試験台本の語彙の意味調べなど事前に予習した上で授業に臨むこと。

授業後に1時間程度の復習をすることが重要。音声を聞きながら音読する練習を何度も繰り返して正しく発音できるように練習すること。

<提出課題など>

予習・復習の状況や授業で課題に取り組む姿勢は記録され、定期試験を受けた人に対して評点C・Dを判断する際の資料となる。提出された課題は採点を施し、次の授業で返却する。

<成績評価方法・基準>

単位を取得するためにはa・b共に10回以上の出席が必要。a・bのどちらかでも出席が10回に満たない場合は、a・bの単位を共に与えない。

6月の検定試験で4級以上に合格すれば評点Sを与える。

6月の検定試験で級を取得できなかった人は、定期試験を受けなければならない。定期試験を受けた場合の評点は相対評価によるものとし、おおむね上位から30%をA、30%をB、20~40%をC、20~0%をDとする。定

期試験の難易度は「ハングル」能力検定試験4級相当とする。

<テキスト>

李昌圭著『ハングル能力検定試験4級直前模試』白帝社 2018年 2200円+税

李昌圭著『ハングル能力検定試験3級直前模試』白帝社 2018年 2600円+税

<参考図書>

白峰子『韓国語文法辞典』三修社 2006年

油谷 幸利他『小学館 韓日辞典』小学館 2018年

<授業計画>

第1回 4級 筆記問題対策(1)

/聞き取り問題対策(1)

1. 第3章 筆記問題の出題類型(1)

2. 第1章 1. イラスト問題

第2回 4級 筆記問題対策(2)

/聞き取り問題対策(2)

1. 第3章 筆記問題の出題類型(2)

2. 第1章 2. 単語説明問題

第3回 4級 筆記問題対策(3)

/聞き取り問題対策(3)

1. 第3章 筆記問題の出題類型(3)

2. 第1章 3. 対話の応答文選択問題

第4回 4級 筆記問題対策(4)

/聞き取り問題対策(4)

1. 第3章 4級出題語彙リスト

2. 第2章 第1回聞き取り模擬試験(1)

第5回 4級 筆記問題対策(5)

/聞き取り問題対策(5)

1. 第4章 第1回筆記模擬試験

2. 第2章 第1回聞き取り模擬試験(2)

第6回 4級 筆記問題対策(6)

/聞き取り問題対策(6)

1. 第4章 第2回筆記模擬試験

2. 第2章 第2回聞き取り模擬試験(1)

第7回 4級 筆記問題対策(7)

/聞き取り問題対策(7)

1. 第4章 第3回筆記模擬試験

2. 第2章 第2回聞き取り模擬試験(2)

第8回 第5 4回 4級問題振り返り

第9回 3級 筆記問題対策(1)

/聞き取り問題対策(1)

1. 第3章 8. 文の内容把握問題(1)

2. 第1章 4. 文の内容一致選択問題(1)

第10回 3級 筆記問題対策(2)

/聞き取り問題対策(2)

1. 第3章 8. 文の内容把握問題(2)

2. 第1章 4. 文の内容一致選択問題(2)

第11回 3級 筆記問題対策(3)

/聞き取り問題対策(3)

- 1. 第3章 8. 文の内容把握問題(3)
- 2. 第1章 5. 文の内容一致選択問題(1)
- 第12回 3級筆記問題対策(4)
- / 聞き取り問題対策(4)
- 1. 第3章 9. 短文の部分訳問題(1)
- 2. 第1章 5. 文の内容一致選択問題(2)
- 第13回 3級筆記問題対策(5)
- / 聞き取り問題対策(5)
- 1. 第3章 9. 短文の部分訳問題(2)
- 2. 第1章 資料4, 5
- 第14回 3級筆記問題対策(6)
- / 聞き取り問題対策(6)
- 1. 第3章 10. 短文の部分訳問題(1)
- 2. 第1章 資料6
- 第15回 3級筆記問題対策(7)
- / 聞き取り問題対策(7)
- 1. 第3章 10. 短文の部分訳問題(2)
- 2. 第1章 資料7

2022年度 前期

1.0単位

韓国語検定対策 b 力(ハングル能力検定試験対策)

任 哉玩

< 授業の方法 >

対面授業(講義・演習)

< 授業の目的 >

この科目では、全学のDPで掲げられてる「学びと知の探究を通じて、普遍的な学問体系の英知に触れる喜びを実感し、その過程で自己と他者の個性に気づき、互いの存在をこよなく尊重すること」を実践し、教育目標である自主的で個性豊かな良識ある社会人の育成を目指す。それを目標にし「共通教育等を通じて、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養して、専門分野に高い関心を持ち、専門領域の課題を考察し、解決するための知識や技能を身につけている」・「幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができ、自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」・「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる」ようになることを目指す。

ハングル能力検定協会の主催する検定試験の過去問を元に作成された教材を使い、ハングル能力検定試験4級に合格できるだけの韓国語能力を養成することを目的とする。また、日常的な場面で使われる基本的な韓国・朝鮮語を理解し、それらを用いて表現できることを目的とする。

< 到達目標 >

ハングル能力検定協会の4級レベルの目安に掲げられている次の4項目を主な到達目標とする。

1. 比較的使用頻度の高い約1,070語の単語や文型からなる文を理解することができる。
2. 決まり文句を用いて様々な場面であいさつやあいづち・質問ができ、事実を伝え合うことができる。また、レストランでの注文や簡単な買い物をする際の依頼や簡単な誘いなどを行うことができる。
3. 簡単な日記や手紙、メールなどの短い文を読み、何について述べられたものなのかをつかむことができる。
4. 自分で辞書を引き、頻繁に用いられる単語の組み合わせ(連語)についても一定の知識を持ちあわせている。

< 授業のキーワード >

ハングル能力検定試験、ハン検、4級

< 授業の進め方 >

ハングル検定試験の過去問を元に作成された教材を使い、筆記問題対策と聞き取り問題対策を次のように授業を進める。

1. 聞き取り問題、筆記問題それぞれの出題類型の内容を分析したポイントと問題例(類題)について学習。
2. 4級出題の文法(助詞・語尾・慣用表現)を学習。
3. 毎回学習した内容の確認のために模擬試験問題を解く。そうすることによって実際の試験に慣れていく。
4. 聞き取り模擬試験台本をもって教材付属のCDを聞きながら聞き取り模擬試験問題を解く。
5. 毎回授業初めに4級範囲の単語小テストを行う。

< 履修するにあたって >

- ・履修するにあたっては1年次配当の韓国語科?を履修して単位を取得したのと同程度程度の韓国語?を有していることが必要である。
- ・この科目の履修者は6月5日(日)に行なわれる第57回「ハングル」能力検定試験を受けなければならない。授業への出席条件を満たした上で検定試験に合格すれば、合格した級により規定の評点が与えられる。検定試験で級を取得できなかったり何らかの事情で検定試験を受けることができなかった場合は、定期試験を受けることにより規定の評点が与えられる。
- ・「韓国語検定対策」は a と b を一括して履修しなければならない。

< 授業時間外に必要な学修 >

- ・筆記問題対策・リスニング問題対策ともに、1時間程度の予習・復習が必須。
- ・筆記問題対策では、教材の「合格ポイント資料」を手書きして熟知し、模擬試験問題の語彙や文の意味を調べた上で授業に臨むこと。
- ・聞き取り問題対策では、教材付属のCDを使い、4級検定試験に出題される連語リスト・あいさつのことば、聞き取り模擬試験台本の語彙の意味調べなど事前に予習した上で授業に臨むこと。

・授業後に1時間程度の復習をすることが重要。音声を聞きながら音読する練習を何度も繰り返して正しく発音できるように練習すること。

<提出課題など>

予習・復習の状況や授業で課題に取り組む姿勢は記録され、定期試験を受けた人に対して評点C・Dを判断する際の資料となる。提出された課題は採点を施し、次の授業で返却する。

<成績評価方法・基準>

単位を取得するためにはa・b共に10回以上の出席が必要。a・bのどちらかでも出席が10回に満たない場合は、a・bの単位を共に与えない。

6月の検定試験で4級以上に合格すれば評点Sを与える。

6月の検定試験で級を取得できなかった人は、定期試験を受けなければならない。定期試験を受けた場合の評点は相対評価によるものとし、おおむね上位から30%をA、30%をB、20~40%をC、20~0%をDとする。定期試験の難易度は「ハングル」能力検定試験4級相当とする。

<テキスト>

李昌圭著『ハングル能力検定試験4級直前模試』白帝社 2018年 2200円+税

李昌圭著『ハングル能力検定試験3級直前模試』白帝社 2018年 2600円+税

<参考図書>

白峰子『韓国語文法辞典』三修社 2006年

油谷 幸利他『小学館 韓日辞典』小学館 2018年

<授業計画>

第1回 4級 筆記問題対策(1)

/聞き取り問題対策(1)

1. 第3章 筆記問題の出題類型(1)

2. 第1章 4. 文の内容一致選択問題

第2回 4級 筆記問題対策(2)

/聞き取り問題対策(2)

1. 第3章 筆記問題の出題類型(2)

2. 第1章 5. 対話の内容把握問題

第3回 4級 筆記問題対策(3)

/聞き取り問題対策(3)

1. 第3章 筆記問題の出題類型(3)

2. 第2章 第3回聞き取り模擬試験(1)

第4回 4級 筆記問題対策(4)

/聞き取り問題対策(4)

1. 第3章 4級出題文法リスト(1)

2. 第2章 第3回聞き取り模擬試験(2)

第5回 4級 筆記問題対策(5)

/聞き取り問題対策(5)

1. 第3章 4級出題文法リスト(2)

2. 第2章 第4回聞き取り模擬試験(1)

第6回 4級 筆記問題対策(6)

/聞き取り問題対策(6)

1. 第3章 4級出題文法リスト(3)

2. 第2章 第4回聞き取り模擬試験(2)

第7回 4級 筆記問題対策(7)

/聞き取り問題対策(7)

1. 第4章 第4回筆記模擬試験

2. 第2章 第5回聞き取り模擬試験(1)

第8回 4級 筆記問題対策(8)

/聞き取り問題対策(8)

1. 第4章 第5回筆記模擬試験

2. 第2章 第5回聞き取り模擬試験(2)

第9回 第5 4回4級試験の振り返り

第10回 3級 筆記問題対策(1) / 聞き取り問題対策(1)

1. 第3章 1. 正しい発音選択問題(1)

2. 第1章 1. イラスト問題(1)

第11回 3級 筆記問題対策(2) / 聞き取り問題対策(2)

1. 第3章 1. 正しい発音選択問題(2)

2. 第1章 1. イラスト問題(2)

第12回 3級 筆記問題対策(3) / 聞き取り問題対策(3)

1. 第3章 2. 文の空所補充問題

2. 第1章 2. 単語説明問題(1)

第13回 3級 筆記問題対策(4) / 聞き取り問題対策(4)

1. 第3章 3. 文の空所補充問題(1)

2. 第1章 2. 単語説明問題(2)

第14回 3級 筆記問題対策(5) / 聞き取り問題対策(5)

1. 第3章 3. 文の空所補充問題(2)

2. 第1章 3. 対話の応答文選択問題(1)

第15回 3級 筆記問題対策(6) / 聞き取り問題対策(6)

1. 第3章 4. 置き換え表現選択問題

2. 第1章 3. 対話の応答文選択問題(2)

2022年度 後期

1.0単位

韓国語検定対策 a カ(ハングル能力検定試験対策)

董 淑姪

<授業の方法>

講義・演習

<授業の目的>

この科目では、全学のDPで掲げられてる「学びと知の探究を通じて、普遍的な学問体系の英知に触れる喜びを実感し、その過程で自己と他者の個性に気づき、互いの存在をこよなく尊重すること」を実践し、教育目標であ

る自主的で個性豊かな良識ある社会人の育成を目指す。それを目標にし「共通教育等を通じて、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養して、専門分野に高い関心を持ち、専門領域の課題を考察し、解決するための知識や技能を身につけている」・「幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができ、自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」・「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる」ようになることを目指す。

ハングル能力検定協会の主催する検定試験の過去問を元に作成された教材を使い、ハングル能力検定試験3級に合格できるだけの韓国語能力を養成することを目的とする。また、日常的な場面で使われる基本的な韓国・朝鮮語を理解し、それらを用いて表現できることを目的とする。

<到達目標>

ハングル能力検定試験の3級レベルの目安に掲げられている次の4項目を主な到達目標とする。

1. 決まり文句以外の表現を用いてあいさつなどができ、丁寧な依頼や誘いはもちろん、指示・命令、依頼や誘いの受諾や拒否、許可の授受など様々な意図を大まかに表現することができる。
2. 私的で身近な話題ばかりではなく、親しみのある社会的出来事についても話題にできる。
3. 日記や手紙など比較的長い文やまとまりを持った文章を読んだり聞いたりして、その大意をつかむことができる。
4. 単語の範囲にとどまらず、連語など組合せとして用いられる表現や、使用頻度の高い慣用句なども理解し、使用することができる。

<授業のキーワード>

ハングル能力検定試験、ハン検、3級、TOPIK、韓国語能力試験中級

<授業の進め方>

ハングル検定試験の過去問を元に作成された教材を使い、筆記問題対策と聞き取り問題対策を次のように授業を進める。

1. 聞き取り問題、筆記問題それぞれの出題類型の内容を分析したポイントと問題例(類題)について学習。
2. 3級出題の文法(連結語尾・終結語尾・漢字語・助詞・慣用表現)を学習。
3. 毎回学習した内容の確認のために模擬試験問題を解く。そうすることによって実際の試験に慣れていく。
4. 聞き取り模擬試験台本をもって教材付属のCDを聞きながら聞き取り模擬試験問題を解く。
5. 毎回授業初めに3級範囲の単語小テストを行う。

なお、11月の検定試験終了後は、韓国政府が公認する世界共通基準の資格試験であるTOPIK(Test of Proficiency in Korean:韓国語能力試験)(中・上級)の過去問(のうち、中級レベルの問題)を演習する。

<履修するにあたって>

・履修するにあたっては1年次配当の韓国語科?を履修して単位を取得したのと同程度程度の韓国語?を有していることが必要である。

・この科目の履修者は11月13日(日)に行なわれる第58回「ハングル」能力検定試験を受けなければならない。授業への出席条件を満たした上で検定試験に合格すれば、合格した級により規定の評点が与えられる。検定試験で級を取得できなかったり何らかの事情で検定試験を受けることができなかった場合は、定期試験を受けることにより規定の評点が与えられる。

・「韓国語検定対策」は a と b を一括して履修しなければならない。

<授業時間外に必要な学修>

・筆記問題対策・リスニング問題対策ともに、1時間程度の予習・復習が必須。

・筆記問題対策では、教材の「合格ポイント資料」を手書きして熟知し、模擬試験問題の語彙や文の意味を調べた上で授業に臨むこと。

・聞き取り問題対策では、教材付属のCDを使い、3級検定試験に出題される連語リスト・あいさつのことば、聞き取り模擬試験台本の語彙の意味調べなど事前に予習した上で授業に臨むこと。

授業後に1時間程度の復習をすることが重要。音声を聞きながら音読する練習を何度も繰り返して正しく発音できるように練習すること。

<提出課題など>

予習・復習の状況や授業で課題に取り組む姿勢は記録され、定期試験を受けた人に対して評点C・Dを判断する際の資料となる。提出された課題は採点を施し、次の授業で返却する。

<成績評価方法・基準>

単位を取得するためにはa・b共に10回以上の出席が必要。a・bのどちらかでも出席が10回に満たない場合は、a・bの単位を共に与えない。

11月の検定試験で3級以上に合格すれば評点Sを与える。

11月の検定試験で級を取得できなかった人は、定期試験を受けなければならない。定期試験を受けた場合の評点は相対評価によるものとし、おおむね上位から30%をA、30%をB、20~40%をC、20~0%をDとする。定期試験の難易度は「ハングル」能力検定試験3級相当とする。またTOPIKの内容も含む。

<テキスト>

李昌圭著 『ハングル能力検定試験 3級直前模試』 白
帝社 2018年 2600円+税
<参考図書>
白峰子『韓国語文法辞典』三修社 2006年
油谷 幸利他 『小学館 韓日辞典』 小学館 2018年

<授業計画>

第1回 3級筆記問題対策(8)
/聞き取り問題対策(8)
1.第3章 8.文の内容把握問題
2.第2章 第3回聞き取り模擬試験(1)
第2回 3級筆記問題対策(9)
/聞き取り問題対策(9)
1.第3章 9.短文の部分訳問題(1)
2.第2章 第3回聞き取り模擬試験(2)
第3回 3級筆記問題対策(10)
/聞き取り問題対策(10)
1.第3章 10.短文の部分訳問題(2)
2.第2章 第4回聞き取り模擬試験(1)
第4回 3級筆記問題対策(11)
/聞き取り問題対策(11)
1.第4章 第4回筆記模擬試験(1)
2.第2章 第4回聞き取り模擬試験(2)
第5回 3級筆記問題対策(12)
/聞き取り問題対策(12)
1.第4章 第4回筆記模擬試験(2)
2.第2章 第5回聞き取り模擬試験(1)
第6回 3級筆記問題対策(13)
/聞き取り問題対策(13)
1.第4章 第5回筆記模擬試験
2.第2章 第5回聞き取り模擬試験(2)
第7回 第5回3級試験振り返り
第8回 TOPIK 対策(1)
第60回 TOPIK 過去問の模擬テストおよび解
説(1)
第9回 TOPIK 対策(2)
第60回 TOPIK 過去問の模擬テストおよび解
説(2)
第10回 TOPIK 対策(3)
第60回 TOPIK 過去問の模擬テストおよび解
説(3)
第11回 TOPIK 対策(4)
第60回 TOPIK 過去問の模擬テストおよび解
説(4)
第12回 TOPIK 対策(5)
第47回 TOPIK 過去問の模擬テストおよび解
説(1)
第13回 TOPIK 対策(6)
第47回 TOPIK 過去問の模擬テストおよび解

説(2)
第14回 TOPIK 対策(7)
第47回 TOPIK 過去問の模擬テストおよび解
説(3)
第15回 TOPIK 対策(8)
第47回 TOPIK 過去問の模擬テストおよび解
説(4)

2022年度 後期

1.0単位

韓国語検定対策 b カ(ハングル能力検定試験対策)
任 哉玩

<授業の方法>

講義・演習

<授業の目的>

この科目では、全学のDPで掲げられてる「学びと知の探究を通じて、普遍的な学問体系の英知に触れる喜びを実感し、その過程で自己と他者の個性に気づき、互いの存在をこよなく尊重すること」を実践し、教育目標である自主的で個性豊かな良識ある社会人の育成を目指す。それを目標にし「共通教育等を通じて、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養して、専門分野に高い関心を持ち、専門領域の課題を考察し、解決するための知識や技能を身につけている」・「幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができ、自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」・「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる」ようになることを目指す。

ハングル能力検定協会の主催する検定試験の過去問を元に作成された教材を使い、ハングル能力検定試験3級に合格できるだけの韓国語能力を養成することを目的とする。また、日常的な場面で使われる基本的な韓国・朝鮮語を理解し、それらを用いて表現できることを目的とする。

<到達目標>

ハングル能力検定試験の3級レベルの目安に掲げられている次の4項目を主な到達目標とする。

1. 決まり文句以外の表現を用いてあいさつなどができ、丁寧な依頼や誘いはもちろん、指示・命令、依頼や誘いの受諾や拒否、許可の授受など様々な意図を大まかに表現することができる。

2. 私的で身近な話題ばかりではなく、親しみのある社会的出来事についても話題にできる。

3. 日記や手紙など比較的長い文やまとまりを持った文章を読んだり聞いたりして、その大意をつかむことがで

きる。

4. 単語の範囲にとどまらず、連語など組合せとして用いられる表現や、使用頻度の高い慣用句なども理解し、使用することができる。

< 授業のキーワード >

ハングル能力検定試験、ハン検、3級、TOPIK、韓国語能力試験中級

< 授業の進め方 >

ハングル検定試験の過去問を元に作成された教材を使い、筆記問題対策と聞き取り問題対策を次のように授業を進める。

1. 聞き取り問題、筆記問題それぞれの出題類型の内容を分析したポイントと問題例(類題)について学習。
2. 3級出題の文法(連結語尾・終結語尾・漢字語・助詞・慣用表現)を学習。
3. 毎回学習した内容の確認のために模擬試験問題を解く。そうすることによって実際の試験に慣れていく。
4. 聞き取り模擬試験台本をもって教材付属のCDを聞きながら聞き取り模擬試験問題を解く。
5. 毎回授業初めに3級範囲の単語小テストを行う。

なお、11月の検定試験終了後は、韓国政府が公認する世界共通基準の資格試験であるTOPIK(Test of Proficiency in Korean:韓国語能力試験)(中・上級)の過去問(のうち、中級レベルの問題)を演習する。

< 履修するにあたって >

- ・履修するにあたっては1年次配当の韓国語科?を履修して単位を取得したのと同等程度の韓国語?を有していることが必要である。
- ・この科目の履修者は11月13日(日)に行なわれる第58回「ハングル」能力検定試験を受けなければならない。授業への出席条件を満たした上で検定試験に合格すれば、合格した級により規定の評点が与えられる。検定試験で級を取得できなかったり何らかの事情で検定試験を受けることができなかった場合は、定期試験を受けることにより規定の評点が与えられる。
- ・「韓国語検定対策」は a と b を一括して履修しなければならない。

< 授業時間外に必要な学修 >

- ・筆記問題対策・リスニング問題対策ともに、1時間程度の予習・復習が必須。
- ・筆記問題対策では、教材の「合格ポイント資料」を手書きして熟知し、模擬試験問題の語彙や文の意味を調べた上で授業に臨むこと。
- ・聞き取り問題対策では、教材付属のCDを使い、3級検定試験に出題される連語リスト・あいさつのことば、聞き取り模擬試験台本の語彙の意味調べなど事前に予習した上で授業に臨むこと。

授業後に1時間程度の復習をすることが重要。音声を聞きながら音読する練習を何度も繰り返して正しく発音できるように練習すること。

< 提出課題など >

予習・復習の状況や授業で課題に取り組む姿勢は記録され、定期試験を受けた人に対して評点C・Dを判断する際の資料となる。提出された課題は採点を施し、次の授業で返却する。

< 成績評価方法・基準 >

単位を取得するためにはa・b共に10回以上の出席が必要。a・bのどちらかでも出席が10回に満たない場合は、a・bの単位を共に与えない。

11月の検定試験で3級以上に合格すれば評点Sを与える。

11月の検定試験で級を取得できなかった人は、定期試験を受けなければならない。定期試験を受けた場合の評点は相対評価によるものとし、おおむね上位から30%をA、30%をB、20~40%をC、20~0%をDとする。定期試験の難易度は「ハングル」能力検定試験3級相当とする。またTOPIKの内容も含む。

< テキスト >

李昌圭著 『ハングル能力検定試験3級直前模試』 白帝社 2018年 2600円+税

< 参考図書 >

白峰子『韓国語文法辞典』三修社 2006年
油谷 幸利他 『小学館 韓日辞典』 小学館 2018年

< 授業計画 >

- 第1回 3級筆記問題対策(7)
/ 聞き取り問題対策(7)
1. 第3章 8. 文の内容把握問題
2. 第2章 第3回聞き取り模擬試験(1)
- 第2回 3級筆記問題対策(8)
/ 聞き取り問題対策(8)
1. 第3章 5. 多義語選択問題(2)
2. 第1章 2. 単語説明問題、資料3(2)
- 第3回 3級筆記問題対策(9)
/ 聞き取り問題対策(9)
1. 第3章 6. 対話文の空所補充問題
2. 第1章 3. 対話の応答文選択問題、資料3(3)
- 第4回 3級筆記問題対策(10)
/ 聞き取り問題対策(10)
1. 第3章 7. 同音の漢字語選択問題
2. 第2章 第1回聞き取り模擬試験(1)
- 第5回 3級筆記問題対策(11)
/ 聞き取り問題対策(11)
1. 第4章 第1回筆記模擬試験
2. 第2章 第1回聞き取り模擬試験(2)
- 第6回 3級筆記問題対策(12)

/聞き取り問題対策(12)

1. 第4章 第2回筆記模擬試験

2. 第2章 第2回聞き取り模擬試験(1)

第7回 3級筆記問題対策(13)

/聞き取り問題対策(13)

1. 第4章 第3回筆記模擬試験

2. 第2章 第2回聞き取り模擬試験(2)

第8回 第55回3級問題振り返り

第9回 TOPIK 対策(1)

第52回 TOPIK 過去問の模擬テストおよび解説(1)

第10回 TOPIK 対策(2)

第52回 TOPIK 過去問の模擬テストおよび解説(2)

第11回 TOPIK 対策(3)

第52回 TOPIK 過去問の模擬テストおよび解説(3)

第12回 TOPIK 対策(4)

第52回 TOPIK 過去問の模擬テストおよび解説(4)

第13回 TOPIK 対策(5)

第41回 TOPIK 過去問の模擬テストおよび解説(1)

第14回 TOPIK 対策(6)

第41回 TOPIK 過去問の模擬テストおよび解説(2)

第15回 TOPIK 対策(7)

第41回 TOPIK 過去問の模擬テストおよび解説(3)

2022年度 前期

1.0単位

基礎英語 再

中澤 正任、ECC、西川 隆、大川 弘子

<授業の方法>

教室での対面授業。

<授業の目的>

基礎英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをする。既習の文法項目について総復習をし、日常生活に即したトピックについての発話を聞いて内容を理解し、適切な応答ができるよう練習する。また、身近な話題について書かれたパッセージを読み、自分の意見を書いたり口頭で発表したりできるよう練習する。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

<到達目標>

・ 場面設定や背景をもとに、短い会話の全体的な内容を把握できる。(知識)

・ 自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて簡単に述べるができる。(知識)

・ 300-500語の英文を読み、その内容を具体的に説明できる。(知識)

・ 相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣)

・ 読んだ英文について自分の意見や感想を仲間と共有できる。(態度・習慣)

・ 初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

<授業のキーワード>

リスニング・スピーキング・リーディング・語彙・文法

<授業の進め方>

教室での対面授業。

<履修するにあたって>

初回より小テストと授業を行うので辞書を携行のこと。

<授業時間外に必要な学修>

復習：授業終了後30分以上。

予習：授業前に30分以上。

<提出課題など>

毎週授業内で課題を課し、提出する。授業中に前回の課題を返却する。

<成績評価方法・基準>

授業内評価50%

統一学期末テスト50%

<テキスト>

Let's Read Aloud & Learn English! (成美堂 定価
本体 2,200円(税別))

<授業計画>

第1回 Unit 1前半

Unit 1前半の小テストと解説授業。

第2回 Unit 1後半

Unit 1後半の小テストと解説授業。

第3回 Unit 2前半

Unit 2前半の小テストと解説授業。

第4回 Unit 2後半

Unit 2後半の小テストと解説授業。

第5回 Unit 3前半

Unit 3前半の小テストと解説授業。

第6回 Unit 3後半

Unit 3後半の小テストと解説授業。

第7回 Unit 4前半

Unit 4前半の小テストと解説授業。

第8回 Unit 4後半

前期中間試験を行う。

Unit 4後半の小テストと解説授業。

第9回 Unit 5前半

Unit 5前半の小テストと解説授業。

第10回 Unit 5後半

Unit 5後半の小テストと解説授業。

第11回 Unit 6前半

Unit 6前半の小テストと解説授業。

第12回 Unit 6後半

Unit 6後半の小テストと解説授業。

第13回 統一学期末テスト

統一学期末テストを実施する。

第14回 Unit 7前半

前期期末試験を行う。

Unit 7前半の小テストと解説授業。

第15回 Unit 7後半

Unit 7後半の小テストと解説授業。

2022年度 前期

1.0単位

基礎英語 A【管理】

E C C

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

基礎英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをする。既習の文法項目について総復習をし、日常生活に即したトピックについての発話を聞いて内容を理解し、適切な応答ができるよう練習する。また、身近な話題について書かれたパッセージを読み、自分の意見を書いたり口頭で発表したりできるよう練習する。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

・ 場面設定や背景をもとに、短い会話の全体的な内容を把握できる。(知識) | ・ 自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて簡単に述べるができる。(知識) | ・ 300-500語の英文を読み、その内容を具体的に説明できる。(知識) | ・ 相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣) | ・ 読んだ英文について自分の意見や感想を仲間と共有できる。(態度・習慣) | ・ 初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・リーディング・語彙・文法

< 授業の進め方 >

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加型の授業です。そのため積極的な参加が必要となります。

< 履修するにあたって >

1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。 | 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。 | 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。(週30分程度)

2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。(週1時間程度)

< 提出課題など >

必要に応じて課された課題を提出。詳細は授業内で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

授業内評価(小テスト20% 復習テスト10% 授業参加度10%)

授業外評価(授業外課題30%)

統一テスト30%

< テキスト >

New Connection Book 1 出版社:成美堂 2420円(税込) ISBN:9784791934119

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。また今後の講義内容についてもお知らせします。

第2回 Unit 1-1

Meeting People (1)

第3回 Unit 1-2

Meeting People (2)

第4回 Unit 2-1

Time o Eat (1)

第5回 Unit 2-2

Time o Eat (2)

第6回 Unit 3-1

Living with Technology (1)

第7回 Unit 3-2

Living with Technology (2)

第8回 復習

Unit 1からUnit 3の復習

第9回 Unit 4-1

Shopping for Clothes (1)
第10回 Unit 4-2
Shopping for Clothes (2)
第11回 Unit 5-1
A Helping Hand at Home (1)
第12回 Unit 5-2
A Helping Hand at Home (2)
第13回 Unit 6-1
Going Places (1)
第14回 Unit 6-2
Going Places (2)
第15回 前期のまとめと復習
前期の既習項目の総復習

2022年度 前期

1.0単位

基礎英語 A【経済】

高 基秀、西川 隆、高松 琢麻、ECC

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

基礎英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをする。既習の文法項目について総復習をし、日常生活に即したトピックについての発話を聞いて内容を理解し、適切な応答ができるよう練習する。また、身近な話題について書かれたパッセージを読み、自分の意見を書いたり口頭で発表したりできるよう練習する。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

・ 場面設定や背景をもとに、短い会話の全体的な内容を把握できる。(知識) | ・ 自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて簡単に述べるができる。(知識) | ・ 300-500語の英文を読み、その内容を具体的に説明できる。(知識) | ・ 相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣) | ・ 読んだ英文について自分の意見や感想を仲間と共有できる。(態度・習慣) | ・ 初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・リーディング・語彙・文法

< 授業の進め方 >

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れ

ます。発言や発表の機会も多くある学生参加方の授業です。積極的な参加が必要となります。

< 履修するにあたって >

1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。| 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。| 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

1) 授業外で行う課題。(毎日最低10分) | 2) 授業日に学んだ内容の復習。(毎日1時間程度)

< 提出課題など >

授業内で課題の内容および提出方法・期限などについてお知らせします。

< 成績評価方法・基準 >

統一テスト30% | 授業内に実施する小テスト等40% | 授業外で実施する英語学習・課題等30%

< テキスト >

New Connection 2 (成美堂 2,420円)

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。| また今後の講義内容についてもお知らせします。

第2回 Unit 1-1

Roommates (1)

第3回 Unit 1-2

Roommates (2)

第4回 Unit 2-1

Checking Out (1)

第5回 Unit 2-2

Checking Out (2)

第6回 Unit 3-1

Get in Shape (1)

第7回 Unit 3-2

Get in Shape (2)

第8回 復習

Unit 1からUnit 3の復習

第9回 Unit 4-1

Money Management (1)

第10回 Unit 4-2

Money Management (2)

第11回 Unit 5-1

Close Ties (1)

第12回 Unit 5-2

Close Ties (2)

第13回 Unit 6-1

Time to Celebrate (1)

第14回 Unit 6-2

Time to Celebrate (2)

第15回 前期のまとめと復習

前期の既習項目の総復習

2022年度 前期

1.0単位

基礎英語 A【人文】

EC C

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

基礎英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをする。既習の文法項目について総復習をし、日常生活に即したトピックについての発話を聞いて内容を理解し、適切な応答ができるよう練習する。また、身近な話題について書かれたパッセージを読み、自分の意見を書いたり口頭で発表したりできるよう練習する。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

・ 場面設定や背景をもとに、短い会話の全体的な内容を把握できる。(知識) | ・ 自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて簡単に述べるができる。(知識) | ・ 300-500語の英文を読み、その内容を具体的に説明できる。(知識) | ・ 相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣) | ・ 読んだ英文について自分の意見や感想を仲間と共有できる。(態度・習慣) | ・ 初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・リーディング・語彙・文法

< 授業の進め方 >

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加方の授業ですので積極的な参加が必要となります。

< 履修するにあたって >

- 1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。
- 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。
- 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

- 1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。(週30分程度)
- 2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。(週1時間程度)

< 提出課題など >

必要に応じて課された課題を提出。詳細は授業内で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

授業内評価(小テスト20% 復習テスト10% 授業参加度10%)

授業外評価(授業外課題30%)

統一テスト30%

< テキスト >

New Connection Book 2 出版社:成美堂 2420円(税込)

ISBN:9784791934126

< 授業計画 >

オリエンテーション

授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。また今後の講義内容についてもお知らせします。

Unit 1-1

Roommates (1)

Unit 1-2

Roommates (2)

Unit 2-1

Checking Out (1)

Unit 2-2

Checking Out (2)

Unit 3-1

Get in Shape (1)

Unit 3-2

Get in Shape (2)

復習

Unit 1からUnit 3の復習

Unit 4-1

Money Management (1)

Unit 4-2

Money Management (2)

Unit 5-1

Close Ties (1)

Unit 5-2

Close Ties (2)

Unit 6-1

Time to Celebrate (1)

Unit 6-2

Time to Celebrate (2)

前期の総まとめ

前期の既習項目の総復習と復習テスト

2022年度 前期

1.0単位

基礎英語 A【心理】

E C C

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

基礎英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをする。既習の文法項目について総復習をし、日常生活に即したトピックについての発話を聞いて内容を理解し、適切な応答ができるよう練習する。また、身近な話題について書かれたパッセージを読み、自分の意見を書いたり口頭で発表したりできるよう練習する。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

・ 場面設定や背景をもとに、短い会話の全体的な内容を把握できる。(知識) | ・ 自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて簡単に述べるができる。(知識) | ・ 300-500語の英文を読み、その内容を具体的に説明できる。(知識) | ・ 相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣) | ・ 読んだ英文について自分の意見や感想を仲間と共有できる。(態度・習慣) | ・ 初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・リーディング・語彙・文法

< 授業の進め方 >

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加方の授業です。積極的な参加が必要となります。

< 履修するにあたって >

- 1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。
- 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。
- 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

- 1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。(週30分程度

) | 2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。(週1時間程度)

< 提出課題など >

必要に応じて課された課題を提出。詳細は授業内で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

授業内評価(小テスト20% 復習テスト10% 授業参加度10%)

授業外評価(授業外課題30%)

統一テスト30%

< テキスト >

New Connection Book 2 出版社:成美堂 2420円(税込)

ISBN:9784791934126

< 授業計画 >

オリエンテーション

授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。

また今後の講義内容についてもお知らせします。

Unit 1-1

Roommates (1)

Unit 1-2

Roommates (2)

Unit 2-1

Checking Out (1)

Unit 2-2

Checking Out (2)

Unit 3-1

Get in Shape (1)

Unit 3-2

Get in Shape (2)

復習

Unit 1からUnit 3の復習

Unit 4-1

Money Management (1)

Unit 4-2

Money Management (2)

Unit 5-1

Close Ties (1)

Unit 5-2

Close Ties (2)

Unit 6-1

Time to Celebrate (1)

Unit 6-2

Time to Celebrate (2)

前期の総まとめ

前期の既習項目の総復習と復習テスト

2022年度 前期

1.0単位

基礎英語 A【総リハ】

E C C

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

基礎英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをする。既習の文法項目について総復習をし、日常生活に即したトピックについての発話を聞いて内容を理解し、適切な応答ができるよう練習する。また、身近な話題について書かれたパッセージを読み、自分の意見を書いたり口頭で発表したりできるよう練習する。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

・ 場面設定や背景をもとに、短い会話の全体的な内容を把握できる。(知識) | ・ 自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて簡単に述べるができる。(知識) | ・ 300-500語の英文を読み、その内容を具体的に説明できる。(知識) | ・ 相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣) | ・ 読んだ英文について自分の意見や感想を仲間と共有できる。(態度・習慣) | ・ 初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・リーディング・語彙・文法

< 授業の進め方 >

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加方の授業ですので積極的な参加が必要となります。

< 履修するにあたって >

- 1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。
- 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。
- 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

- 1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。(週30分程度

)

2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。(週1時間程度)

< 提出課題など >

必要に応じて課された課題を提出。詳細は授業内で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

授業内評価(小テスト20% 復習テスト10% 授業参加度10%)

授業外評価(授業外課題30%)

統一テスト30%

< テキスト >

English Quest Plus 出版社: 桐原書店 2090円(税込)

ISBN: 9784342550072

< 授業計画 >

オリエンテーション

授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。

また今後の講義内容についてもお知らせします。

Unit 1-1

I'd like to see a Japanese matsuri. (1)

Unit 1-2

I'd like to see a Japanese matsuri. (2)

Unit 2-1

May is a Chinese-American. (1)

Unit 2-2

May is a Chinese-American. (2)

Unit 3-1

Which class would you choose? (1)

Unit 3-2

Which class would you choose? (2)

復習

Unit 1からUnit 3の復習

Unit 4-1

Why are students silent in class? (1)

Unit 4-2

Why are students silent in class? (2)

Unit 5-1

What do you eat? (1)

Unit 5-2

What do you eat? (2)

Unit 6-1

Can you eat sliced raw fish? (1)

Unit 6-2

Can you eat sliced raw fish? (2)

前期の総まとめ

前期の既習項目の総復習と復習テスト

2022年度 前期

1.0単位

基礎英語 A【法】

神谷 佳郎、高木 一幸、高 雅妃、ECC、齋藤 幸
恵、大森 幸享、日高 文代、山本 由美子、西村 瑠
里子

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

基礎英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に
属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づ
けられる。中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めを
する。既習の文法項目について総復習をし、日常生活に
即したトピックについての発話を聞いて内容を理解し、
適切な応答ができるよう練習する。また、身近な話題に
ついて書かれたパッセージを読み、自分の意見を書いた
り口頭で発表したりできるよう練習する。この科目は、
全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外に
おいて、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、
学びを深め、協働して社会に役立てることができると」を
目指す。

< 到達目標 >

- ・ 場面設定や背景をもとに、短い会話の全体的な内容を把握できる。(知識)
- ・ 自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて簡単に述べるができる。(知識)
- ・ 300-500語の英文を読み、その内容を具体的に説明できる。(知識)
- ・ 相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣)
- ・ 読んだ英文について自分の意見や感想を仲間と共有できる。(態度・習慣)
- ・ 初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・リーディング・語彙・文法

< 授業の進め方 >

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施
します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れ
ます。発言や発表の機会も多くある学生参加方の授業で
すので積極的な参加が必要となります。

< 履修するにあたって >

- 1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。
- 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。

3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

- 1) 授業外で行う課題。(毎日最低10分)
- 2) 授業日に学んだ内容の復習。(毎日1時間程度)

< 提出課題など >

授業内で課題の内容および提出方法・期限などについてお知らせします。

< 成績評価方法・基準 >

統一テスト30%

授業内に実施する小テスト等40%

授業外で実施する英語学習・課題等30%

< テキスト >

New Connection 2 (成美堂 2,420円) ISBN 978-4-7
919-3412-6

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。
また今後の講義内容についてもお知らせします。

第2回 Unit 1-1

Roommates (1)

第3回 Unit 1-2

Roommates (2)

第4回 Unit 2-1

Checking Out (1)

第5回 Unit 2-2

Checking Out (2)

第6回 Unit 3-1

Get in Shape (1)

第7回 Unit 3-2

Get in Shape (2)

第8回 Unit 4-1

Money Management (1)

第9回 Unit 4-2

Money Management (2)

第10回 Unit 5-1

Close Ties (1)

第11回 Unit 5-2

Close Ties (2)

第12回 Unit 6-1

Time to Celebrate (1)

第13回 Unit 6-2

Time to Celebrate (2)

第14回 Unit 7-1

Animals in Danger (1)

第15回 Unit 7-2

前期のまとめと復習

Animals in Danger (2)

前期の既習項目の総復習

2022年度 前期

1.0単位

基礎英語 A【経営】

ECC、高木 一幸、齋藤 幸恵、高 雅妃、大森 幸
享、山本 由美子

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

基礎英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に
属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づ
けられる。中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めを
する。既習の文法項目について総復習をし、日常生活に
即したトピックについての発話を聞いて内容を理解し、
適切な応答ができるよう練習する。また、身近な話題に
ついて書かれたパッセージを読み、自分の意見を書いた
り口頭で発表したりできるよう練習する。この科目は、
全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外に
おいて、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、
学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を
目指す。

< 到達目標 >

・ 場面設定や背景をもとに、短い会話の全体的な内容
を把握できる。(知識) | ・ 自分自身について、大学
生活や身の回りのできごとについて簡単に述べることが
できる。(知識) | ・ 300-500語の英文を読み、その内
容を具体的に説明できる。(知識) | ・ 相手の発話を
尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。
(態度・習慣) | ・ 読んだ英文について自分の意見や
感想を仲間と共有できる。(態度・習慣) | ・ 初出の
単語や表現について辞書などで調べることができる。(
技能)

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・リーディング・語彙・文法

< 授業の進め方 >

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施
します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れ
ます。発言や発表の機会も多くある学生参加方の授業で
すので積極的な参加が必要となります。

< 履修するにあたって >

- 1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情が
ない限り単位認定されません。
- 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニ
ケーション能力を高めることを目的としています。その
ため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められま
す。
- 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に
臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

1) 授業外で行う課題。(毎日最低10分)

2) 授業日に学んだ内容の復習。(毎日1時間程度)

< 提出課題など >

授業内で課題の内容および提出方法・期限などについて
お知らせします。

< 成績評価方法・基準 >

授業内評価(小テスト20% 復習テスト10% 授業参加
度10%)

授業外評価(授業外課題30%)

統一テスト30%

< テキスト >

New Connection Book 2 出版社:成美堂 2420円(税
込)

ISBN:9784791934126

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。
また今後の講義内容についてもお知らせします。

第2回 Unit 1-1

Roommates (1)

第3回 Unit 1-2

Roommates (2)

第4回 Unit 2-1

Checking Out (1)

第5回 Unit 2-2

Checking Out (2)

第6回 Unit 3-1

Get in Shape (1)

第7回 Unit 3-2

Get in Shape (2)

第8回 復習

Unit 1からUnit 3の復習

第9回 Unit 4-1

Money Management (1)

第10回 Unit 4-2

Money Management (2)

第11回 Unit 5-1

Close Ties (1)

第12回 Unit 5-2

Close Ties (2)

第13回 Unit 6-1

Time to Celebrate (1)

第14回 Unit 6-2

Time to Celebrate (2)

第15回 前期のまとめと復習

前期の既習項目の総復習

2022年度 前期

1.0単位

基礎英語 C【葉】

広部 昭子、ECC

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

基礎英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをする。既習の文法項目について総復習をし、日常生活に即したトピックについての発話を聞いて内容を理解し、適切な応答ができるよう練習する。また、身近な話題について書かれたパッセージを読み、自分の意見を書いたり口頭で発表したりできるように練習する。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

・ 場面設定や背景をもとに、短い会話の全体的な内容を把握できる。(知識) | ・ 自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて簡単に述べるができる。(知識) | ・ 300-500語の英文を読み、その内容を具体的に説明できる。(知識) | ・ 相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣) | ・ 読んだ英文について自分の意見や感想を仲間と共有できる。(態度・習慣) | ・ 初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・リーディング・語彙・文法
< 授業の進め方 >

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加方の授業です。積極的な参加が必要となります。

< 履修するにあたって >

- 1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。
- 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。
- 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

- 1) 授業外で行う課題。(毎日最低10分)

- 2) 授業日に学んだ内容の復習。(毎日1時間程度)

< 提出課題など >

授業内で課題の内容および提出方法・期限などについてお知らせします。

< 成績評価方法・基準 >

統一テスト30%

授業内に実施する小テスト等40%

授業外で実施する英語学習・課題等30%

< テキスト >

English Quest Plus (桐原書店 2090円)

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。また今後の講義内容についてもお知らせします。

第2回 Unit 1-1

I'd like to see a Japanese matsuri. (1)

第3回 Unit 1-2

I'd like to see a Japanese matsuri. (2)

第4回 Unit 2-1

May is a Chinese-American. (1)

第5回 Unit 2-2

May is a Chinese-American. (2)

第6回 Unit 3-1

Which class would you choose? (1)

第7回 Unit 3-2

Which class would you choose? (2)

第8回 Unit 4-1

Why are students silent in class? (1)

第9回 Unit 4-2

Why are students silent in class? (2)

第10回 Unit 5-1

What do you eat? (1)

第11回 Unit 5-2

What do you eat? (2)

第12回 Unit 6-1

Can you eat sliced raw fish? (1)

第13回 Unit 6-2

Can you eat sliced raw fish? (2)

第14回 Unit 7-1

How are you feeling? (1)

第15回 Unit 7-2

How are you feeling? (2)

2022年度 前期

1.0単位

基礎英語 A【現社・社防】

HORVAT JAMES ANDREW、ECC、松原 知子

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

基礎英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをする。既習の文法項目について総復習をし、日常生活に即したトピックについての発話を聞いて内容を理解し、適切な応答ができるよう練習する。また、身近な話題について書かれたパッセージを読み、自分の意見を書いたり口頭で発表したりできるよう練習する。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

・ 場面設定や背景をもとに、短い会話の全体的な内容を把握できる。(知識) | ・ 自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて簡単に述べるができる。(知識) | ・ 300-500語の英文を読み、その内容を具体的に説明できる。(知識) | ・ 相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣) | ・ 読んだ英文について自分の意見や感想を仲間と共有できる。(態度・習慣) | ・ 初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・リーディング・語彙・文法
< 授業の進め方 >

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加方の授業です。積極的な参加が必要となります。

< 履修するにあたって >

- 1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。
- 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。
- 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

- 1) 授業外で行う課題。(毎日最低10分)
- 2) 授業日に学んだ内容の復習。(毎日1時間程度)

< 提出課題など >

授業内で課題の内容および提出方法・期限などについてお知らせします。

< 成績評価方法・基準 >

統一テスト30%

授業内に実施する小テスト等40%

授業外で実施する英語学習・課題等30%

< テキスト >

New Connection 2 (成美堂 2,420円)

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。また今後の講義内容についてもお知らせします。

第2回 Unit 1-1

Roommates (1)

第3回 Unit 1-2

Roommates (2)

第4回 Unit 2-1

Checking Out (1)

第5回 Unit 2-2

Checking Out (2)

第6回 Unit 3-1

Get in Shape (1)

第7回 Unit 3-2

Get in Shape (2)

第8回 復習

Unit 1からUnit 3の復習

第9回 Unit 4-1

Money Management (1)

第10回 Unit 4-2

Money Management (2)

第11回 Unit 5-1

Close Ties (1)

第12回 Unit 5-2

Close Ties (2)

第13回 Unit 6-1

Time to Celebrate (1)

第14回 Unit 6-2

Time to Celebrate (2)

第15回 前期のまとめと復習

前期の既習項目の総復習

2022年度 前期

1.0単位

基礎英語 A【GC・中/日】

E C C

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

基礎英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをする。既習の文法項目について総復習をし、日常生活に即したトピックについての発話を聞いて内容を理解し、適切な応答ができるよう練習する。また、身近な話題について書かれたパッセージを読み、自分の意見を書いた

り口頭で発表したりできるよう練習する。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

<到達目標>

・ 場面設定や背景をもとに、短い会話の全体的な内容を把握できる。(知識) | ・ 自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて簡単に述べるができる。(知識) | ・ 300-500語の英文を読み、その内容を具体的に説明できる。(知識) | ・ 相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣) | ・ 読んだ英文について自分の意見や感想を仲間と共有できる。(態度・習慣) | ・ 初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

<授業のキーワード>

リスニング・スピーキング・リーディング・語彙・文法

<授業の進め方>

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加型の授業です。積極的な参加が必要となります。

<履修するにあたって>

- 1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。
- 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。
- 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

<授業時間外に必要な学修>

- 1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。(週30分程度)
- 2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。(週1時間程度)

<提出課題など>

授業内で課題の内容および提出方法・期限などについてお知らせします。

<成績評価方法・基準>

授業内評価(小テスト20% 復習テスト10% 授業参加度10%)

授業外評価(授業外課題30%)

統一テスト30%

<テキスト>

New Connection Book 1 出版社:成美堂 2420円(税込)

ISBN:9784791934119

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。また今後の講義内容についてもお知らせします。

第2回 Unit 1-1

Meeting People (1)

第3回 Unit 1-2

Meeting People (2)

第4回 Unit 2-1

Time o Eat (1)

第5回 Unit 2-2

Time o Eat (2)

第6回 Unit 3-1

Living with Technology (1)

第7回 Unit 3-2

Living with Technology (2)

第8回 復習

Unit 1からUnit 3の復習

第9回 Unit 4-1

Shopping for Clothes (1)

第10回 Unit 4-2

Shopping for Clothes (2)

第11回 Unit 5-1

A Helping Hand at Home (1)

第12回 Unit 5-2

A Helping Hand at Home (2)

第13回 Unit 6-1

Going Places (1)

第14回 Unit 6-2

Going Places (2)

第15回 前期のまとめと復習

前期の既習項目の総復習

2022年度 後期

1.0単位

基礎英語 再・A

中澤 正任、E C C、西川 隆、大川 弘子

<授業の方法>

教室での対面授業。

<授業の目的>

基礎英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをする。既習の文法項目について総復習をし、日常生活に即したトピックについての発話を聞いて内容を理解し、適切な応答ができるよう練習する。また、身近な話題について書かれたパッセージを読み、自分の意見を書いたり口頭で発表したりできるよう練習する。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、

学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

<到達目標>

- ・ 場面設定や背景をもとに、短い会話の全体的な内容を把握できる。(知識)
- ・ 自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて簡単に述べるができる。(知識)
- ・ 300-500語の英文を読み、その内容を具体的に説明できる。(知識)
- ・ 相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣)
- ・ 読んだ英文について自分の意見や感想を仲間と共有できる。(態度・習慣)
- ・ 初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

<授業のキーワード>

リスニング・スピーキング・リーディング・語彙・文法

<授業の進め方>

教室での対面授業。

<履修するにあたって>

受講希望者は第1回授業までにメールするように。

<授業時間外に必要な学修>

復習：授業終了後30分以上。

予習：授業前に30分以上。

<提出課題など>

毎週授業内で課題を課し、提出する。授業中に前回の課題を返却する。

<成績評価方法・基準>

授業内評価50%

統一学期末テスト50%

<テキスト>

Let's Read Aloud & Learn English! (成美堂 定価
本体 2,200円 (税別))

<授業計画>

第1回 Unit 8前半

Unit 8前半の小テストと解説授業。

第2回 Unit 8後半

Unit 8後半の小テストと解説授業。

第3回 Unit 9前半

Unit 9前半の小テストと解説授業。

第4回 Unit 9後半

Unit 9後半の小テストと解説授業。

第5回 Unit 10前半

Unit 10前半の小テストと解説授業。

第6回 Unit 10後半

Unit 10後半の小テストと解説授業。

第7回 Unit 11前半

前期の中間試験を行う。

Unit 11前半の小テストと解説授業。

第8回 Unit 11後半

Unit 11後半の小テストと解説授業。

第9回 Unit 12前半

Unit 12前半の小テストと解説授業。

第10回 Unit 12後半

Unit 12後半の小テストと解説授業。

第11回 Unit 13前半

Unit 13前半の小テストと解説授業。

第12回 Unit 13後半

Unit 13後半の小テストと解説授業。

第13回 Unit 14前半

Unit 14前半の小テストと解説授業。

第14回 Unit 14後半

後期の期末試験を行う。

Unit 14後半の小テストと解説授業。

第15回 Unit 15前半

Unit 15前半の小テストと解説授業。

2022年度 後期

1.0単位

基礎英語 A【管理】

E C C

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

基礎英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをする。既習の文法項目について総復習をし、日常生活に即したトピックについての発話を聞いて内容を理解し、適切な応答ができるよう練習する。また、身近な話題について書かれたパッセージを読み、自分の意見を書いたり口頭で発表したりできるよう練習する。この科目は、全学DPIに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

<到達目標>

・ 場面設定や背景をもとに、短い会話の全体的な内容を把握できる。(知識)

・ 自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて簡単に述べることができる。(知識)

・ 相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣)

・ 発音や発話練習に積極的に参加できる(態度・習慣)

・ 初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

<授業のキーワード>

リスニング・スピーキング・リーディング・語彙・文法
<授業の進め方>

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加方の授業ですので積極的な参加が必要となります。

<履修するにあたって>

1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。

2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。

3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

<授業時間外に必要な学修>

1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。(週30分程度) | 2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。(週1時間程度)

<提出課題など>

授業内で課題の内容および提出方法・期限などについてお知らせします。

<成績評価方法・基準>

授業内評価(小テスト20% 復習テスト10% 授業参加度10%) 授業外評価(授業外課題30%) 統一テスト30%

<テキスト>

New Connection Book 1 出版社:成美堂 2420円(税込)

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

Unit 7-1

授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。

Not Feeling So Good (1)

第2回 Unit 7-2

Not Feeling So Good (2)

第3回 Unit 8-1

The Big Screen (1)

第4回 Unit 8-2

The Big Screen (2)

第5回 Unit 9-1

How Do You Feel? (1)

第6回 Unit 9-2

How Do You Feel? (2)

第7回 Unit 10-1

All in Good Fun (1)

第8回 Unit 10-2

All in Good Fun (2)

第9回 Unit 11-1

Game Time (1)

第10回 Unit 11-2

Game Time (2)

第11回 Unit 12-1

Rain or Shine (1)

第12回 Unit 12-2

Rain or Shine (2)

第13回 Unit 13-1

Eating Out (1)

第14回 Unit 13-2

Eating Out (2)

第15回 後期のまとめと復習

後期の既習項目の総復習

2022年度 後期

1.0単位

基礎英語 A【経済】

高 基秀、西川 隆、高松 琢麻、ECC

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

基礎英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをする。既習の文法項目について総復習をし、日常生活に即したトピックについての発話を聞いて内容を理解し、適切な応答ができるよう練習する。また、身近な話題について書かれたパッセージを読み、自分の意見を書いたり口頭で発表したりできるよう練習する。この科目は、全学DPIに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

<到達目標>

・ 場面設定や背景をもとに、短い会話の全体的な内容を把握できる。(知識) | ・ 自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて簡単に述べるができる。(知識) | ・ 300-500語の英文を読み、その内容を具体的に説明できる。(知識) | ・ 相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣) | ・ 読んだ英文について自分の意見や感想を仲間と共有できる。(態度・習慣) | ・ 初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

<授業のキーワード>

リスニング・スピーキング・リーディング・語彙・文法

<授業の進め方>

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れ

ます。発言や発表の機会も多くある学生参加方の授業です。積極的な参加が必要となります。

<履修するにあたって>

1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。| 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。| 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

<授業時間外に必要な学修>

1) 授業外で行う課題。(毎日最低10分)| 2) 授業日に学んだ内容の復習。(毎日1時間程度)

<提出課題など>

授業内で課題の内容および提出方法・期限などについてお知らせします。

<成績評価方法・基準>

統一テスト30%| 授業内に実施する小テスト等40%| 授業外で実施する英語学習・課題等30%

<テキスト>

New Connection 2 (成美堂 2,420円)

<授業計画>

第1回 オリエンテーション| Unit 7-1

後期授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。|

Animals in Danger (1)|

第2回 Unit 7-2

Animals in Danger (2)

第3回 Unit 8-1

A Fine Art (1)

第4回 Unit 8-2

A Fine Art (2)

第5回 Unit 9-1

Tune In (1)

第6回 Unit 9-2

Tune In (2)

第7回 Unit 10-1

Music to Our Ears (1)

第8回 Unit 10-2

Music to Our Ears (2)

第9回 Unit 11-1

Study Abroad (1)

第10回 Unit 11-2

Study Abroad (2)

第11回 Unit 12-1

Technology and You (1)

第12回 Unit 12-2

Technology and You (2)

第13回 Unit 13-1

Right and Wrong (1)

第14回 Unit 13-2

Right and Wrong (2)

第15回 後期のまとめと復習

後期の既習項目の総復習

2022年度 後期

1.0単位

基礎英語 A【人文】

E C C

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

基礎英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをする。既習の文法項目について総復習をし、日常生活に即したトピックについての発話を聞いて内容を理解し、適切な応答ができるよう練習する。また、身近な話題について書かれたパッセージを読み、自分の意見を書いたり口頭で発表したりできるよう練習する。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

<到達目標>

・場面設定や背景をもとに、短い会話の全体的な内容を把握できる。(知識)

・自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて簡単に述べるができる。(知識)

・相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣)

・発音や発話練習に積極的に参加できる(態度・習慣)

・初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

<授業のキーワード>

リスニング・スピーキング・リーディング・語彙・文法

<授業の進め方>

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加方の授業です。積極的な参加が必要となります。

<履修するにあたって>

1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。

2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。

3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

<授業時間外に必要な学修>

1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。(週30分程度)

2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。(週1時間程度)

<提出課題など>

必要に応じて課された課題を提出。詳細は授業内で指示する。

<成績評価方法・基準>

授業内評価(小テスト20% 復習テスト10% 授業参加度10%)

授業外評価(授業外課題30%)

統一テスト30%

<テキスト>

New Connection Book 2 出版社:成美堂 2420円(税込)

ISBN:9784791934126

<授業計画>

Unit 7-1

Animals in Danger (1)

Unit 7-2

Animals in Danger (2)

Unit 8-1

A Fine Art (1)

Unit 8-2

A Fine Art (2)

Unit 9-1

Tune In (1)

Unit 9-2

Tune In (2)

復習

Unit7からUnit9の復習

Unit 10-1

Music to Our Ears (1)

Unit 10-2

Music to Our Ears (1)

Unit 11-1

Study Abroad (1)

Unit 11-2

Study Abroad (2)

Unit 12-1

Technology and You (1)

Unit 12-2

Technology and You (2)

復習

Unit10からUnit12の復習

後期の総まとめ

後期の既習項目の総復習と復習テスト

2022年度 後期

1.0単位

基礎英語 A【心理】

E C C

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

基礎英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをする。既習の文法項目について総復習をし、日常生活に即したトピックについての発話を聞いて内容を理解し、適切な応答ができるよう練習する。また、身近な話題について書かれたパッセージを読み、自分の意見を書いたり口頭で発表したりできるよう練習する。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

<到達目標>

・場面設定や背景をもとに、短い会話の全体的な内容を把握できる。(知識)

・自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて簡単に述べるができる。(知識)

・相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣)

・発音や発話練習に積極的に参加できる(態度・習慣)

・初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

<授業のキーワード>

リスニング・スピーキング・リーディング・語彙・文法

<授業の進め方>

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加方の授業です。積極的な参加が必要となります。

<履修するにあたって>

1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。

2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。

3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

<授業時間外に必要な学修>

1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。(週30分程度)

2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。(週1時間程度)

< 提出課題など >

必要に応じて課された課題を提出。詳細は授業内で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

授業内評価(小テスト20% 復習テスト10% 授業参加度10%)

授業外評価(授業外課題30%)

統一テスト30%

< テキスト >

New Connection Book 2 出版社:成美堂 2420円(税込)

ISBN:9784791934126

< 授業計画 >

Unit 7-1

Animals in Danger (1)

Unit 7-2

Animals in Danger (2)

Unit 8-1

A Fine Art (1)

Unit 8-2

A Fine Art (2)

Unit 9-1

Tune In (1)

Unit 9-2

Tune In (2)

復習

Unit7からUnit9の復習

Unit 10-1

Music to Our Ears (1)

Unit 10-2

Music to Our Ears (2)

Unit 11-1

Study Abroad (1)

Unit 11-2

Study Abroad (2)

Unit 12-1

Technology and You (1)

Unit 12-2

Technology and You (2)

復習

Unit10からUnit12の復習

後期の総まとめ

後期の既習項目の総復習と復習テスト

2022年度 後期

1.0単位

基礎英語 A【総リハ】

E C C

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

基礎英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをする。既習の文法項目について総復習をし、日常生活に即したトピックについての発話を聞いて内容を理解し、適切な応答ができるよう練習する。また、身近な話題について書かれたパッセージを読み、自分の意見を書いたり口頭で発表したりできるよう練習する。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

・場面設定や背景をもとに、短い会話の全体的な内容を把握できる。(知識)

・自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて簡単に述べるができる。(知識)

・相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣)

・発音や発話練習に積極的に参加できる(態度・習慣)

・初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・リーディング・語彙・文法

< 授業の進め方 >

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加方の授業です。積極的な参加が必要となります。

< 履修するにあたって >

1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。

2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。

3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。(週30分程度)

2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。(週1時間程度)

< 提出課題など >

必要に応じて課された課題を提出。詳細は授業内で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

授業内評価(小テスト20% 復習テスト10% 授業参加度10%)

授業外評価(授業外課題30%)

統一テスト30%

< テキスト >

English Quest Plus 出版社: 桐原書店 2090円(税込)

ISBN: 9784342550072

< 授業計画 >

Unit 7-1

How are you feeling? (1)

Unit 7-2

How are you feeling? (2)

Unit 8-1

I have sprained my ankle. (1)

Unit 8-2

I have sprained my ankle. (2)

Unit 9-1

Take me out to the movies. (1)

Unit 9-2

Take me out to the movies. (2)

復習

Unit7からUnit9の復習

Unit 10-1

To read a book, or not? (1)

Unit 10-2

To read a book, or not? (2)

Unit 11-1

From earth with love (1)

Unit 11-2

From earth with love (2)

Unit 12-1

Go with chopsticks. (1)

Unit 12-2

Go with chopsticks. (2)

復習

Unit10からUnit12の復習

後期の総まとめ

後期の既習項目の総復習と復習テスト

2022年度 後期

1.0単位

基礎英語 A【法】

神谷 佳郎、高木 一幸、高 雅妃、ECC、齋藤 幸恵、大森 幸享、日高 文代、山本 由美子、西村 瑠里子

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

基礎英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをする。既習の文法項目について総復習をし、日常生活に即したトピックについての発話を聞いて内容を理解し、適切な応答ができるよう練習する。また、身近な話題について書かれたパッセージを読み、自分の意見を書いたり口頭で発表したりできるよう練習する。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

・場面設定や背景をもとに、短い会話の全体的な内容を把握できる。(知識)

・自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて簡単に述べることができる。(知識)

・相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣)

・発音や発話練習に積極的に参加できる(態度・習慣)

・初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・リーディング・語彙・文法

< 授業の進め方 >

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加方の授業です。積極的な参加が必要となります。

< 履修するにあたって >

1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。

2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。

3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

1) 授業外で行う課題。(毎日最低10分)

2) 授業日に学んだ内容の復習。(毎日1時間程度)

<提出課題など>

授業内で課題の内容および提出方法・期限などについてお知らせします。

<成績評価方法・基準>

統一テスト30%

授業内に実施する小テスト等40%

授業外で実施する英語学習・課題等30%

<テキスト>

New Connection 2 (成美堂 2,420円) ISBN 978-4-7919-3412-6

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

Unit 8-1

後期授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。

A Fine Art (1)

第2回 Unit 8-2

A Fine Art (2)

第3回 Unit 9-1

Tune In (1)

第4回 Unit 9-2

Tune In (2)

第5回 Unit 10-1

Music to Our Ears (1)

第6回 Unit 10-2

Music to Our Ears (2)

第7回 Unit 11-1

Study Abroad (1)

第8回 Unit 11-2

Study Abroad (2)

第9回 Unit 12-1

Technology and You (1)

第10回 Unit 12-2

Technology and You (2)

第11回 Unit 13-1

Right and Wrong (1)

第12回 Unit 13-2

Right and Wrong (2)

第13回 Unit 14-1

Your Career Starts Now (1)

第14回 Unit 14-2

Your Career Starts Now (2)

第15回 後期のまとめと復習

後期の既習項目の総復習

2022年度 後期

1.0単位

基礎英語 A【経営】

E C C、高木 一幸、齋藤 幸恵、高 雅妃、大森 幸享、山本 由美子

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

基礎英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをする。既習の文法項目について総復習をし、日常生活に即したトピックについての発話を聞いて内容を理解し、適切な応答ができるよう練習する。また、身近な話題について書かれたパッセージを読み、自分の意見を書いたり口頭で発表したりできるよう練習する。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

<到達目標>

- ・場面設定や背景をもとに、短い会話の全体的な内容を把握できる。(知識)

- ・自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて簡単に述べるができる。(知識)

- ・相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣)

- ・発音や発話練習に積極的に参加できる(態度・習慣)

- ・初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

<授業のキーワード>

リスニング・スピーキング・リーディング・語彙・文法

<授業の進め方>

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加方の授業です。積極的な参加が必要となります。

<履修するにあたって>

1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。

2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。

3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

<授業時間外に必要な学修>

1) 授業外で行う課題。(毎日最低10分)

2) 授業日に学んだ内容の復習。(毎日1時間程度)

<提出課題など>

授業内で課題の内容および提出方法・期限などについてお知らせします。

<成績評価方法・基準>

授業内評価(小テスト20% 復習テスト10% 授業参加度10%)

授業外評価(授業外課題30%)

統一テスト30%

<テキスト>

New Connection Book 2 出版社:成美堂 2420円(税込)

ISBN:9784791934126

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

Unit 7-1

後期授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。

Animals in Danger (1)

第2回 Unit 7-2

Animals in Danger (2)

第3回 Unit 8-1

A Fine Art (1)

第4回 Unit 8-2

A Fine Art (2)

第5回 Unit 9-1

Tune In (1)

第6回 Unit 9-2

Tune In (2)

第7回 Unit 10-1

Music to Our Ears (1)

第8回 Unit 10-2

Music to Our Ears (2)

第9回 Unit 11-1

Study Abroad (1)

第10回 Unit 11-2

Study Abroad (2)

第11回 Unit 12-1

Technology and You (1)

第12回 Unit 12-2

Technology and You (2)

第13回 Unit 13-1

Right and Wrong (1)

第14回 Unit 13-2

Right and Wrong (2)

第15回 後期のまとめと復習

後期の既習項目の総復習

2022年度 後期

1.0単位

基礎英語 C【薬】

広部 昭子、ECC

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

基礎英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをする。既習の文法項目について総復習をし、日常生活に即したトピックについての発話を聞いて内容を理解し、適切な応答ができるよう練習する。また、身近な話題について書かれたパッセージを読み、自分の意見を書いたり口頭で発表したりできるよう練習する。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

<到達目標>

・場面設定や背景をもとに、短い会話の全体的な内容を把握できる。(知識)

・自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて簡単に述べるができる。(知識)

・相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣)

・発音や発話練習に積極的に参加できる(態度・習慣)

・初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

<授業のキーワード>

リスニング・スピーキング・リーディング・語彙・文法

<授業の進め方>

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加型の授業です。積極的な参加が必要となります。

<履修するにあたって>

1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。

2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。

3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

<授業時間外に必要な学修>

1) 授業外で行う課題。(毎日最低10分)

2) 授業日に学んだ内容の復習。(毎日1時間程度)

< 提出課題など >

授業内で課題の内容および提出方法・期限などについてお知らせします。

< 成績評価方法・基準 >

統一テスト30%

授業内に実施する小テスト等40%

授業外で実施する英語学習・課題等30%

< テキスト >

English Quest Plus (桐原書店 2090円)

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

Unit 8-1

授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。

I have sprained my ankle. (1)

第2回 Unit 8-2

I have sprained my ankle. (2)

第3回 Unit 9-1

Take me out to the movies. (1)

第4回 Unit 9-2

Take me out to the movies. (2)

第5回 Unit 10-1

To read a book, or not? (1)

第6回 Unit 10-2

To read a book, or not? (2)

第7回 Unit 11-1

From earth with love (1)

第8回 Unit 11-2

From earth with love (2)

第9回 Unit 12-1

Go with chopsticks. (1)

第10回 Unit 12-2

Go with chopsticks. (2)

第11回 Unit 13-1

Shall we dance? (1)

第12回 Unit 13-2

Shall we dance? (2)

第13回 Unit 14-1

What is "Yellow day" for? (1)

第14回 Unit 14-2

What is "Yellow day" for? (2)

第15回 後期のまとめと復習

後期の既習項目の総復習

2022年度 後期

1.0単位

基礎英語 C【現社・社防】

ECC、松原 知子

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

基礎英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをする。既習の文法項目について総復習をし、日常生活に即したトピックについての発話を聞いて内容を理解し、適切な応答ができるよう練習する。また、身近な話題について書かれたパッセージを読み、自分の意見を書いた口頭で発表したりできるよう練習する。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

- ・場面設定や背景をもとに、短い会話の全体的な内容を把握できる。(知識)
- ・自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて簡単に述べるができる。(知識)
- ・相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣)
- ・発音や発話練習に積極的に参加できる(態度・習慣)
- ・初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・リーディング・語彙・文法

< 授業の進め方 >

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加方の授業ですので積極的な参加が必要となります。

< 履修するにあたって >

- 1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。
- 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。
- 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

- 1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。(週30分程度)
- 2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。(週1時間程度)

< 提出課題など >

授業内で課題の内容および提出方法・期限などについてお知らせします。

< 成績評価方法・基準 >

授業内評価(小テスト20% 復習テスト10% 授業参加度10%)

授業外評価（授業外課題30%）

統一テスト30%

<テキスト>

TARGET! elementary 出版社：金星堂 1980円(税込)

ISBN：9784764740341

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

Unit 8-1

後期授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。

Are You into Sports? (1)

第2回 Unit 8-2

Are You into Sports? (2)

第3回 Unit 9-1

Parties Are a Lot of Fun! (1)

第4回 Unit 9-2

Parties Are a Lot of Fun! (2)

第5回 Unit 10-1

Art in Our Life (1)

第6回 Unit 10-2

Art in Our Life (2)

第7回 Unit 11-1

What Shall We Eat? (1)

第8回 Unit 11-2

What Shall We Eat? (2)

第9回 Unit 12-1

What Makes a Good Company? (1)

第10回 Unit 12-2

What Makes a Good Company? (2)

第11回 Unit 13-1

Advances in Science (1)

第12回 Unit 13-2

Advances in Science (2)

第13回 Unit 14-1

Life with Technology (1)

第14回 Unit 14-2

Life with Technology (2)

第15回 後期のまとめと復習

後期の既習項目の総復習

2022年度 後期

1.0単位

基礎英語 A【GC・中/日】

E C C

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

基礎英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に
属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づ

けられる。中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めを
する。既習の文法項目について総復習をし、日常生活に
即したトピックについての発話を聞いて内容を理解し、
適切な応答ができるよう練習する。また、身近な話題に
ついて書かれたパッセージを読み、自分の意見を書いたり
口頭で発表したりできるよう練習する。この科目は、
全学DPIに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外に
おいて、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、
学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を
目指す。

<到達目標>

・場面設定や背景をもとに、短い会話の全体的な内容を
把握できる。（知識）

・自分自身について、大学生活や身の回りのできごとにつ
いて簡単に述べるができる。（知識）

・相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示
すことができる。（態度・習慣）

・発音や発話練習に積極的に参加できる（態度・習慣）

・初出の単語や表現について辞書などで調べることがで
きる。（技能）

<授業のキーワード>

リスニング・スピーキング・リーディング・語彙・文法

<授業の進め方>

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施
します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れ
ます。発言や発表の機会も多くある学生参加方の授業で
すので積極的な参加が必要となります。

<履修するにあたって>

1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情が
ない限り単位認定されません。

2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニ
ケーション能力を高めることを目的としています。その
ため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められま
す。

3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に
臨んでください。

<授業時間外に必要な学修>

1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。（週30分程度
）

2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。（週1時間
程度）

<提出課題など>

授業内で課題の内容および提出方法・期限などについて
お知らせします。

<成績評価方法・基準>

授業内評価（小テスト20% 復習テスト10% 授業参加
度10%）

授業外評価（授業外課題30%）

統一テスト30%

<テキスト>

New Connection Book 1 出版社：成美堂 2420円（税込）

ISBN:9784791934119

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

Unit 7-1

授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。

Not Feeling So Good (1)

第2回 Unit 7-2

Not Feeling So Good (2)

第3回 Unit 8-1

The Big Screen (1)

第4回 Unit 8-2

The Big Screen (2)

第5回 Unit 9-1

How Do You Feel? (1)

第6回 Unit 9-2

How Do You Feel? (2)

第7回 Unit 10-1

All in Good Fun (1)

第8回 Unit 10-2

All in Good Fun (2)

第9回 Unit 11-1

Game Time (1)

第10回 Unit 11-2

Game Time (2)

第11回 Unit 12-1

Rain or Shine (1)

第12回 Unit 12-2

Rain or Shine (2)

第13回 Unit 13-1

Eating Out (1)

第14回 Unit 13-2

Eating Out (2)

第15回 後期のまとめと復習

後期の既習項目の総復習

2022年度 前期

1.0単位

基礎英語 C

E C C

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

基礎英語3/4は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをした基礎英語1/2をより発展した講義となる。日常生活に即したトピックについての発話を聞いて内容を理解し、

適切な応答ができるよう練習する。また、身近な話題について書かれたパッセージを読み、自分の意見を書いたり口頭で発表したりできるよう練習する。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

- ・ 場面設定や背景をもとに、会話の全体的な内容を把握できる。（知識）
- ・ 大学生活や身の回りのできごとについて述べるができる。（知識）
- ・ 500-700語の英文を読み、その内容を具体的に説明できる。（知識）
- ・ 相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。（態度・習慣）
- ・ 読んだ英文について自分の意見や感想を仲間と共有できる。（態度・習慣）
- ・ 初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。（技能）

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・リーディング・語彙・文法

< 授業の進め方 >

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加型の授業です。積極的な参加が必要となります。

< 履修するにあたって >

- 1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。 | 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。 | 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

- 1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。（週30分程度） | 2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。（週1時間程度）

< 提出課題など >

必要に応じて課された課題を提出。詳細は授業内で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

授業内評価（小テスト20% 授業参加度20%） 授業外評価（授業外課題30%） 学期末試験30%

< テキスト >

TARGET! pre-intermediate 金星堂 2,200円（税込）

ISBN : 9784764740174

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。

第2回 Unit 1-1
Small Talk
第3回 Unit 1-2
Small Talk
第4回 Unit 2-1
Human Relations
第5回 Unit 2-2
Human Relations
第6回 Unit 3-1
Culture and Globalization
第7回 Unit 3-2
Culture and Globalization
第8回 復習
Unit 1からUnit 3の復習
第9回 Unit 4-1
Healthy Life
第10回 Unit 4-2
Healthy Life
第11回 Unit 5-1
Future Careers
第12回 Unit 5-2
Future Careers
第13回 Unit 6-1
That Shirt Suits You!
第14回 Unit 6-2
That Shirt Suits You!
第15回 総復習
既習内容の総復習と学期末試験

2022年度 前期

1.0単位

基礎英語 D

中澤 正任

< 授業の方法 >

教室での対面授業。

< 授業の目的 >

基礎英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをする。既習の文法項目について総復習をし、日常生活に即したトピックについての発話を聞いて内容を理解し、適切な応答ができるよう練習する。また、身近な話題について書かれたパッセージを読み、自分の意見を書いたり口頭で発表したりできるよう練習する。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

- ・ 場面設定や背景をもとに、短い会話の全体的な内容を把握できる。(知識)
 - ・ 自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて簡単に述べるができる。(知識)
 - ・ 300-500語の英文を読み、その内容を具体的に説明できる。(知識)
 - ・ 相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣)
 - ・ 読んだ英文について自分の意見や感想を仲間と共有できる。(態度・習慣)
 - ・ 初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)
- < 授業のキーワード >
リスニング・スピーキング・リーディング・語彙・文法
< 授業の進め方 >
教室での対面授業。
< 履修するにあたって >
受講希望者は第1回授業までにgm141007@ge.kobegakuin.ac.jpにメールするように。
< 授業時間外に必要な学修 >
復習：授業終了後30分以上。
予習：授業前に30分以上。

< 提出課題など >

毎週授業内で課題を課し、提出する。授業中に前回の課題を返却する。

< 成績評価方法・基準 >

授業内評価50%

学期末テスト50%

< テキスト >

Let's Read Aloud More! (成美堂 定価 本体 2,200円 (税別))

< 授業計画 >

第1回 Unit 1前半

Unit 1前半の小テストと解説授業。

第2回 Unit 1後半

Unit 1後半の小テストと解説授業。

第3回 Unit 2前半

Unit 2前半の小テストと解説授業。

第4回 Unit 2後半

Unit 2後半の小テストと解説授業。

第5回 Unit 3前半

Unit 3前半の小テストと解説授業。

第6回 Unit 3後半

Unit 3後半の小テストと解説授業。

第7回 Unit 4前半

Unit 4前半を授業。

第8回 Unit 4後半
前期の中間試験を行う。
Unit 4後半の小テストと解説授業。
第9回 Unit 5前半
Unit 5前半の小テストと解説授業。
第10回 Unit 5後半
Unit 5後半の小テストと解説授業。
第11回 Unit 6前半
Unit 6前半の小テストと解説授業。
第12回 Unit 6後半
Unit 6後半を授業。
第13回 Unit 7前半
Unit 7前半の小テストと解説授業。
第14回 Unit 7後半
前期の期末試験を行う。
Unit 7後半の小テストと解説授業。
第15回 Unit 8前半
Unit 8前半の小テストと解説授業。

2022年度 前期

1.0単位

基礎英語 E

河野 淳子

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

基礎英語3/4は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをした基礎英語1/2をより発展した講義となる。日常生活に即したトピックについての発話を聞いて内容を理解し、適切な応答ができるよう練習する。また、身近な話題について書かれたパッセージを読み、自分の意見を書いたり口頭で発表したりできるよう練習する。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

- ・ 場面設定や背景をもとに、会話の全体的な内容を把握できる。(知識)
- ・ 大学生活や身の回りのできごとについて述べるができる。(知識)
- ・ 500-700語の英文を読み、その内容を具体的に説明できる。(知識)
- ・ 相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣)
- ・ 読んだ英文について自分の意見や感想を仲間と共有できる。(態度・習慣)

・ 初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・リーディング・語彙・文法

< 授業の進め方 >

本授業では、聴解・読解能力の向上を目指す。インプットであるリスニングは、TOEICテストリスニングのテキストを用いて、リスニングのポイントに応じた練習問題に焦点をあて学習する。また、その際に必要な文法事項についても学習するとともに、ビジネスに必要な語彙をふやすため、単語の学習も重視し、読解の基礎力を向上にも役立てる。

< 履修するにあたって >

基礎英語1/2および実用英語1/2を履修済みであることを強く推奨します。

< 授業時間外に必要な学修 >

1. 各ユニットの予習としてスクリプトを完成 1頁あたり30 - 40分

2. テキスト巻末にあるSelf-study Quizzes を使ったの復習 30-40分

リスニング力向上のためには、授業以外にも自主的な努力が必要である。授業中にわからなかったところは、そのままにせず、質問をするなどして解決し、復習を欠かさず、定着させるように。

< 提出課題など >

宿題は必ず提出すること。答え合わせの後に、各自が間違ったところを復習するのを忘れずに。

< 成績評価方法・基準 >

授業内評価 35%、まとめのテスト(授業内に2回実施) 35%、課題等の提出物 30%

< テキスト >

Successful Keys to the TOEIC Listening and Reading Test Goal 1 (500), Mark D. Stafford, 4th Edition, 桐原書店(音声はこちらからダウンロード <http://www.kirihara.co.jp/>)

< 授業計画 >

第1回

イントロダクション

Unit 1 Daily Life リスニング学習について

第2回 品詞の区別

課題学習

読解問題

第3回 address

住所作成の手順

Unit 2 Places

第4回 letter head作成

課題提示

第5回

課題学習

Unit 3 People

第6回 Eメール
つづき
第7回 まとめテスト(1)
第8回 動詞の形
Unit 4 Travel
第9回
つづき
第10回 テキストメッセージ
Unit 5 Business
第11回
つづき
第12回 語彙
Unit 6 Office
第13回
Unit 7 Technology
第14回 まとめ
試験と夏休みの課題について
第15回 まとめテスト(2)
まとめと復習

2022年度 前期
1.0単位
基礎英語 F
河内山 真理

< 授業の方法 >

教科書の章に従って、テーマに対する知識を学んだあと、様々な立場から考え、意見を交換しながら英語力を高めます。英語での表現に慣れ、英語で自分の意見を表現することを求めます。

< 授業の目的 >

基礎英語3/4は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをした基礎英語1/2をより発展した講義となる。日常生活に即したトピックについての発話を聞いて内容を理解し、適切な応答ができるよう練習する。また、身近な話題について書かれたパッセージを読み、自分の意見を書いたり口頭で発表したりできるよう練習する。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

- ・ 場面設定や背景をもとに、会話の全体的な内容を把握できる。(知識)
- ・ 大学生活や身の回りのできごとについて述べることができる。(知識)
- ・ 500-700語の英文を読み、その内容を具体的に説明で

きる。(知識)

- ・ 相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣)
- ・ 読んだ英文について自分の意見や感想を仲間と共有できる。(態度・習慣)
- ・ 初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・リーディング・語彙・文法
< 授業の進め方 >

・ 教科書本文を理解した後、グループやペアでの活動も取り入れます。具体的には、議論を行ったり、調べてもらったりします。学んだ表現を実際に使って、テーマに沿ったプレゼンを行うこともあるので、授業外での取り組みが必要な場合があります。

< 履修するにあたって >

基礎英語1/2および実用英語1/2を履修済みであることを強く推奨します。

連絡先メールアドレス

kochiyama@ge.kobegakuin.ac.jp

< 授業時間外に必要な学修 >

次の時間に扱うページに目を通し、特にReading部分の意味の分からない語句は調べておくこと(30分程度)
各章のVocabularyの項目を必要があれば辞書を調べながら埋めておくこと(20分程度)
次回進むところの問題を一通り解いておくこと(30分程度)
学んだUnitの表現をつづり・意味・発音を覚えおくこと(20分程度)

< 提出課題など >

各章で扱うテーマに関連して、グループ/個人で調べたことを発表します。発表に用いた原稿やふりかえりを提出してもらいます。発表については直後にコメントによるフィードバックを行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業内評価 (小テスト 20% 課題と発表 30%)

総括レポート 50%

< テキスト >

Arnold Arai, Kei Mihara, Yoshinori Miwa, Hiroshi Kimura著 Answers to Everyday Questions 2 <Pre-Intermediate> 南雲堂
ISBN978-4-523-17935-1 C0082

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

Unit 1

授業の進め方、課題等についての説明

What is "Black Friday"?

第2回 Unit 1

What is "Black Friday"?

第3回 Unit 2

What is a "leap year"?

第4回 Unit 2

What is a "leap year"?

第5回 Unit 3

Why do big ceremonies have a "red carpet"?

第6回 Unit 3

Why do big ceremonies have a "red carpet"?

第7回 Unit 4

Where did "mouthwash" come from?

第8回 Unit 4

Where did "mouthwash" come from?

第9回 Unit 5

What is a "Viking"?

第10回 Unit 5

What is a "Viking"?

第11回 Unit 6

Why are oranges "orange"?

第12回 Unit 6

Why are oranges "orange"?

第13回 Unit 7

Where did "Vaseline" come from?

第14回 Unit 7

Where did "Vaseline" come from?

第15回 総復習

総括

2022年度 前期

1.0単位

基礎英語 G

河内山 真理

< 授業の方法 >

教科書の章に従って、テーマに対する知識を学んだあと、様々な立場から考え、意見を交換しながら英語力を高めます。英語での表現に慣れ、英語で自分の意見を表現することを求めます。

< 授業の目的 >

基礎英語3/4は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをした基礎英語1/2をより発展した講義となる。日常生活に即したトピックについての発話を聞いて内容を理解し、適切な応答ができるよう練習する。また、身近な話題について書かれたパッセージを読み、自分の意見を書いた

り口頭で発表したりできるよう練習する。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

- ・ 場面設定や背景をもとに、会話の全体的な内容を把握できる。(知識)
- ・ 大学生活や身の回りのできごとについて述べるができる。(知識)
- ・ 500-700語の英文を読み、その内容を具体的に説明できる。(知識)
- ・ 相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣)
- ・ 読んだ英文について自分の意見や感想を仲間と共有できる。(態度・習慣)
- ・ 初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・リーディング・語彙・文法

< 授業の進め方 >

・ 教科書本文を理解した後、グループやペアでの活動も取り入れます。具体的には、議論を行ったり、調べてもらったりします。学んだ表現を実際に使って、テーマに沿ったプレゼンを行うこともあるので、授業外での取り組みが必要な場合があります。

< 履修するにあたって >

基礎英語1/2および実用英語1/2を履修済みであることを強く推奨します。

連絡先メールアドレス

kochiyama@ge.kobegakuin.ac.jp

< 授業時間外に必要な学修 >

次の時間に扱うページに目を通し、特にReading部分の意味の分からない語句は調べておくこと(30分程度)
各章のVocabularyの項目を必要があれば辞書を調べながら埋めておくこと(20分程度)
次回進むところの問題を一通り解いておくこと(30分程度)
学んだUnitの表現をつづり・意味・発音を覚えおくこと(20分程度)

< 提出課題など >

各章で扱うテーマに関連して、グループ/個人で調べたことを発表します。発表に用いた原稿やふりかえりを提出してもらいます。発表については直後にコメントによるフィードバックを行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業内評価 (小テスト 20% 課題と発表 30%)

総括レポート 50%

<テキスト>

Arnold Arao, Kei Mihara, Yoshinori Miwa, Hiroshi Kimura著 Answers to Everyday Questions 2 <Pre-Intermediate> 南雲堂

ISBN978-4-523-17935-1 C0082

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

Unit 1

授業の進め方、課題等についての説明

What is "Black Friday"?

第2回 Unit 1

What is "Black Friday"?

第3回 Unit 2

What is a "leap year"?

第4回 Unit 2

What is a "leap year"?

第5回 Unit 3

Why do big ceremonies have a "red carpet"?

第6回 Unit 3

Why do big ceremonies have a "red carpet"?

第7回 Unit 4

Where did "mouthwash" come from?

第8回 Unit 4

Where did "mouthwash" come from?

第9回 Unit 5

What is a "Viking"?

第10回 Unit 5

What is a "Viking"?

第11回 Unit 6

Why are oranges "orange"?

第12回 Unit 6

Why are oranges "orange"?

第13回 Unit 7

Where did "Vaseline" come from?

第14回 Unit 7

Where did "Vaseline" come from?

第15回 総復習

総括

2022年度 前期

1.0単位

基礎英語 A【人文】

E C C

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

基礎英語3/4は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをした基礎英語1/2をより発展した講義となる。日常生活に即したトピックについての発話を聞いて内容を理解し、適切な応答ができるよう練習する。また、身近な話題について書かれたパッセージを読み、自分の意見を書いたり口頭で発表したりできるよう練習する。この科目は、全学DPIに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

<到達目標>

- ・ 場面設定や背景をもとに、会話の全体的な内容を把握できる。(知識)
- ・ 大学生活や身の回りのできごとについて述べることができる。(知識)
- ・ 500-700語の英文を読み、その内容を具体的に説明できる。(知識)
- ・ 相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣)
- ・ 読んだ英文について自分の意見や感想を仲間と共有できる。(態度・習慣)
- ・ 初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

<授業のキーワード>

リスニング・スピーキング・リーディング・語彙・文法

<授業の進め方>

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加型の授業です。積極的な参加が必要となります。

<履修するにあたって>

- 1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。
- 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。
- 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

<授業時間外に必要な学修>

- 1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。(週30分程度)
- 2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。(週1時間程度)

<提出課題など>

必要に応じて課された課題を提出。詳細は授業内で指示する。

<成績評価方法・基準>

授業内評価(小テスト20% 授業参加度20%) 授業外評価(授業外課題30%) 学期末試験30%

<テキスト>

TARGET! intermediate 金星堂 2,200円(税込) ISBN
: 9784764740358

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。

第2回 Unit 1-1

Let's Clean Up!

第3回 Unit 1-2

Let's Clean Up!

第4回 Unit 2-1

Human Society

第5回 Unit 2-2

Human Society

第6回 Unit 3-1

Express Yourself with Emoji!

第7回 Unit 3-2

Express Yourself with Emoji!

第8回 復習

Unit 1からUnit 3の復習

第9回 Unit 4-1

Good Sleep, Good Health

第10回 Unit 4-2

Good Sleep, Good Health

第11回 Unit 5-1

Job Interview Success

第12回 Unit 5-2

Job Interview Success

第13回 Unit 6-1

Dress Your Own Way

第14回 Unit 6-2

Dress Your Own Way

第15回 総復習と試験

既習内容の総復習と学期末試験

2022年度 前期

1.0単位

基礎英語 A【GC・中/日】

ECC

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

基礎英語3/4は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをした基礎英語1/2をより発展した講義となる。日常生活に即したトピックについての発話を聞いて内容を理解し、適切な応答ができるよう練習する。また、身近な話題について書かれたパッセージを読み、自分の意見を書いたり口頭で発表したりできるよう練習する。この科目は、

全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

・ 場面設定や背景をもとに、会話の全体的な内容を把握できる。(知識)

・ 大学生活や身の回りのできごとについて述べることができる。(知識)

・ 500-700語の英文を読み、その内容を具体的に説明できる。(知識)

・ 相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣)

・ 読んだ英文について自分の意見や感想を仲間と共有できる。(態度・習慣)

・ 初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・リーディング・語彙・文法

< 授業の進め方 >

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加型の授業です。積極的な参加が必要となります。

< 履修するにあたって >

1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。| 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。| 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。(週30分程度)| 2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。(週1時間程度)

< 提出課題など >

必要に応じて課された課題を提出。詳細は授業内で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

授業内評価(小テスト20% 授業参加度20%) 授業外評価(授業外課題30%) 学期末試験30%

< テキスト >

TARGET! intermediate 金星堂 2,200円(税込) ISBN
: 9784764740358

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。

第2回 Unit 1-1

Let's Clean Up!

第3回 Unit 1-2

Let 's Clean Up!
 第4回 Unit 2-1
 Human Society
 第5回 Unit 2-2
 Human Society
 第6回 Unit 3-1
 Express Yourself with Emoji!
 第7回 Unit 3-2
 Express Yourself with Emoji!
 第8回 復習
 Unit 1からUnit 3の復習
 第9回 Unit 4-1
 Good Sleep, Good Health
 第10回 Unit 4-2
 Good Sleep, Good Health
 第11回 Unit 5-1
 Job Interview Success
 第12回 Unit 5-2
 Job Interview Success
 第13回 Unit 6-1
 Dress Your Own Way
 第14回 Unit 6-2
 Dress Your Own Way
 第15回 総復習と試験
 既習内容の総復習と学期末試験

 2022年度 後期

1.0単位
 基礎英語 C
 E C C

 < 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

基礎英語3/4は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをした基礎英語1/2をより発展した講義となる。日常生活に即したトピックについての発話を聞いて内容を理解し、適切な応答ができるよう練習する。また、身近な話題について書かれたパッセージを読み、自分の意見を書いたり口頭で発表したりできるよう練習する。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

- ・ 場面設定や背景をもとに、会話の全体的な内容を把握できる。(知識)
- ・ 大学生活や身の回りのできごとについて述べるこ

ができる。(知識)

- ・ 500-700語の英文を読み、その内容を具体的に説明できる。(知識)

- ・ 相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣)

- ・ 読んだ英文について自分の意見や感想を仲間と共有できる。(態度・習慣)

- ・ 初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・リーディング・語彙・文法

< 授業の進め方 >

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加型の授業です。積極的な参加が必要となります。

< 履修するにあたって >

1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。| 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。| 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。(週30分程度)| 2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。(週1時間程度)

< 提出課題など >

必要に応じて課された課題を提出。詳細は授業内で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

授業内評価(小テスト20% 授業参加度20%) 授業外評価(授業外課題30%) 学期末試験30%

< テキスト >

TARGET! pre-intermediate 出版社:金星堂 2,090円(税込) ISBN:9784764740174

< 授業計画 >

第1回 Unit 7-1

Taking a Trip (1)

第2回 Unit 7-2

Taking a Trip (2)

第3回 Unit 8-1

Do You Like Sports? (1)

第4回 Unit 8-2

Do You Like Sports? (2)

第5回 Unit 9-1

Let 's Do Something Fun! (1)

第6回 Unit 9-2

Let 's Do Something Fun! (2)

第7回 復習

Unit 7からUnit 9の復習

第8回 Unit 10-1

Art Appreciation (1)

第9回 Unit 10-2

Art Appreciation (2)

第10回 Unit 11-1

Let's Eat Out! (1)

第11回 Unit 11-2

Let's Eat Out! (2)

第12回 Unit 12-1

A Career in International Business (2)

第13回 Unit 12-2

A Career in International Business (3)

第14回 復習

Unit 10からUnit 12の復習

第15回 総復習と試験

既習内容の総復習と学期末試験

2022年度 後期

1.0単位

基礎英語 D

中澤 正任

< 授業の方法 >

教室での対面授業。

< 授業の目的 >

基礎英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをする。既習の文法項目について総復習をし、日常生活に即したトピックについての発話を聞いて内容を理解し、適切な応答ができるよう練習する。また、身近な話題について書かれたパッセージを読み、自分の意見を書いたり口頭で発表したりできるよう練習する。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

- ・ 場面設定や背景をもとに、短い会話の全体的な内容を把握できる。(知識)
- ・ 自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて簡単に述べるができる。(知識)
- ・ 300-500語の英文を読み、その内容を具体的に説明できる。(知識)
- ・ 相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣)
- ・ 読んだ英文について自分の意見や感想を仲間と共有できる。(態度・習慣)
- ・ 初出の単語や表現について辞書などで調べることが

できる。(技能)

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・リーディング・語彙・文法

< 授業の進め方 >

教室での対面授業。

< 履修するにあたって >

受講希望者は第1回授業までにメールするように。

< 授業時間外に必要な学修 >

復習：授業終了後30分以上。

予習：授業前に30分以上。

< 提出課題など >

毎週授業内で課題を課し、提出する。授業中に前回の課題を返却する。

< 成績評価方法・基準 >

授業内評価50%

統一学期末テスト50%

< テキスト >

Let's Read Aloud More! (成美堂 定価 本体 2,200円 (税別))

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

Unit 8を使って授業を行います。

第2回 Unit 9後半

Unit 9後半の小テストと解説授業。

第3回 Unit 10前半

Unit 10前半の小テストと解説授業。

第4回 Unit 10後半

Unit 10後半の小テストと解説授業。

第5回 Unit 11前半

Unit 11前半の小テストと解説授業。

第6回 Unit 11後半

Unit 11後半の小テストと解説授業。

第7回 Unit 12前半

前期の中間試験を行う。Unit 12前半を授業。

第8回 Unit 12後半

Unit 12後半の小テストと解説授業。

第9回 Unit 13前半

Unit 13前半の小テストと解説授業。

第10回 Unit 13後半

Unit 13後半の小テストと解説授業。

第11回 Unit 14前半

Unit 14前半の小テストと解説授業。

第12回 Unit 14後半

Unit 14後半の小テストと解説授業。

第13回 Unit 15前半

Unit 15前半の小テストと解説授業。

第14回 Unit 15後半

前期の期末試験を行う。Unit 15後半を授業。

第15回 Unit 16前半

Unit 16前半の小テストと解説授業。

2022年度 後期

1.0単位

基礎英語 E

河野 淳子

< 授業の方法 >

対面授業（演習）

< 授業の目的 >

基礎英語3/4は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをした基礎英語1/2をより発展した講義となる。日常生活に即したトピックについての発話を聞いて内容を理解し、適切な応答ができるよう練習する。また、身近な話題について書かれたパッセージを読み、自分の意見を書いたり口頭で発表したりできるよう練習する。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

- ・ 場面設定や背景をもとに、会話の全体的な内容を把握できる。（知識）
- ・ 大学生活や身の回りのできごとについて述べるができる。（知識）
- ・ 500-700語の英文を読み、その内容を具体的に説明できる。（知識）
- ・ 相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。（態度・習慣）
- ・ 読んだ英文について自分の意見や感想を仲間と共有できる。（態度・習慣）
- ・ 初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。（技能）

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・リーディング・語彙・文法

< 授業の進め方 >

本授業では、聴解・読解能力の向上を目指す。インプットであるリスニングは、TOEICテストリスニングのテキストを使って、リスニングのポイントに応じた練習問題に焦点をあて学習する。また、その際に必要な文法事項についても学習するとともに、ビジネスに関する語彙をふやすために、単語の学習も重視し、読解の基礎力向上にも役立てる。

< 履修するにあたって >

基礎英語1/2および実用英語1/2を履修済みであることを強く推奨します。

< 授業時間外に必要な学修 >

1. 各ユニットの予習としてスクリプトを完成 1頁あたり30-40分

2. テキスト巻末にあるSelf-study Quizzesを使っての復習30-40分

リスニング力向上のためには、授業以外にも自主的な努力が必要である。授業中わからなかったところは、そのままにせず、質問をするなどして解決をし、復習をして定着させることも欠かさずに。

< 提出課題など >

宿題は必ず提出すること。答え合せの後に、各自間違った箇所を復習するのを忘れずに。

< 成績評価方法・基準 >

授業内評価 30%、まとめのテスト（授業内に2回実施）35%、課題等の提出物 35%

< テキスト >

Successful Keys to the TOEIC Listening and Reading Test Goal 1 (500)、Mark D. Stafford、4th Edition、桐原書店（音声はこちらからダウンロード <http://www.kirihara.co.jp/>）

< 授業計画 >

第1回 後期の授業の進め方

Unit 8 Personnel（Introduction）

第2回

接続詞

Unit 9 Management

第3回

Unit 7-9 Review

第4回 告知

Unit 10 Purchasing

第5回

Review

第6回 時制

Unit 11 Finances

第7回

Review

第8回 まとめテスト（1）

第9回 Eメール(2)

Unit 12 Media

第10回 前置詞

Unit 13 Entertainment

第11回

Review

第12回 FAX文書

Unit 14 Health

第13回 熟語

Unit 15 Restaurants

第14回

Review Unit 12-15

第15回 まとめテスト（2）

復習とテスト

2022年度 後期

1.0単位

基礎英語 F

河内山 真理

< 授業の方法 >

教科書の章に従って、テーマに対する知識を学んだあと、様々な立場から考え、意見を交換しながら英語力を高めます。英語での表現に慣れ、英語で自分の意見を表現することを求めます。

< 授業の目的 >

基礎英語3/4は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをした基礎英語1/2をより発展した講義となる。日常生活に即したトピックについての発話を聞いて内容を理解し、適切な応答ができるよう練習する。また、身近な話題について書かれたパッセージを読み、自分の意見を書いたり口頭で発表したりできるよう練習する。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

- ・ 場面設定や背景をもとに、会話の全体的な内容を把握できる。(知識)
- ・ 大学生活や身の回りのできごとについて述べるができる。(知識)
- ・ 500-700語の英文を読み、その内容を具体的に説明できる。(知識)
- ・ 相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣)
- ・ 読んだ英文について自分の意見や感想を仲間と共有できる。(態度・習慣)
- ・ 初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・リーディング・語彙・文法

< 授業の進め方 >

・ 教科書本文を理解した後、グループやペアでの活動も取り入れます。具体的には、議論を行ったり、調べてもらったりします。学んだ表現を実際に使って、テーマに沿ったプレゼンを行うこともあるので、授業外での取り組みが必要な場合があります。

< 履修するにあたって >

基礎英語1/2および実用英語1/2を履修済みであることを強く推奨します。

連絡先メールアドレス

kochiyama@ge.kobegakuin.ac.jp

< 授業時間外に必要な学修 >

次の時間に扱うページに目を通し、特にReading部分の意味の分からない語句は調べておくこと(30分程度)
各章のVocabularyの項目を必要があれば辞書を調べながら埋めておくこと(20分程度)

次回進むところの問題を一通り解いておくこと(30分程度)

学んだUnitの表現をつづり・意味・発音を覚えおくこと(20分程度)

< 提出課題など >

各章で扱うテーマに関連して、グループ/個人で調べたことを発表します。発表に用いた原稿やふりかえりを提出してもらいます。発表については直後にコメントによるフィードバックを行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業内評価 (小テスト 20% 課題と発表 30%)

総括レポート 50%

< テキスト >

Arnold Arao, Kei Mihara, Yoshinori Miwa, Hiroshi Kimura著 Answers to Everyday Questions 2 <Pre-Intermediate> 南雲堂

ISBN978-4-523-17935-1 C0082

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

Unit 8

授業の進め方、課題等についての説明

Why are flamingos "pink"?

第2回 Unit 8

Why are flamingos "pink"?

第3回 Unit 9

What is a movie "trailer"?

第4回 Unit 9

What is a movie "trailer"?

第5回 Unit 10

Where did "bubble wrap" come from?

第6回 Unit 10

Where did "bubble wrap" come from?

第7回 Unit 11

Why is a billiard table "green"?

第8回 Unit 11

Why is a billiard table "green"?

第9回 Unit 12

Why is film called "footage"?

第10回 Unit 12

Why is film called "footage"?

第11回 Unit 13

Where did "Coca-Cola" come from?

第12回 Unit 13

Where did "Coca-Cola" come from?

第13回 Unit 14

Why are social media apps "blue"?

第14回 Unit 14

Why are social media apps "blue"?

第15回 総復習

総括

2022年度 後期

1.0単位

基礎英語 G

河内山 真理

< 授業の方法 >

教科書の章に従って、テーマに対する知識を学んだあと、様々な立場から考え、意見を交換しながら英語力を高めます。英語での表現に慣れ、英語で自分の意見を表現することを求めます。

< 授業の目的 >

基礎英語3/4は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをした基礎英語1/2をより発展した講義となる。日常生活に即したトピックについての発話を聞いて内容を理解し、適切な応答ができるよう練習する。また、身近な話題について書かれたパッセージを読み、自分の意見を書いたり口頭で発表したりできるよう練習する。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることが出来る」を目指す。

< 到達目標 >

- ・ 場面設定や背景をもとに、会話の全体的な内容を把握できる。(知識)
- ・ 大学生活や身の回りのできごとについて述べる事ができる。(知識)
- ・ 500-700語の英文を読み、その内容を具体的に説明できる。(知識)
- ・ 相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣)
- ・ 読んだ英文について自分の意見や感想を仲間と共有できる。(態度・習慣)
- ・ 初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・リーディング・語彙・文法

< 授業の進め方 >

・ 教科書本文を理解した後、グループやペアでの活動も取り入れます。具体的には、議論を行ったり、調べてもらったりします。学んだ表現を実際を使って、テーマに沿ったプレゼンを行うこともあるので、授業外での取り組みが必要な場合があります。

< 履修するにあたって >

基礎英語1/2および実用英語1/2を履修済みであることを強く推奨します。

連絡先メールアドレス

kochiyama@ge.kobegakuin.ac.jp

< 授業時間外に必要な学修 >

次の時間に扱うページに目を通し、特にReading部分の意味の分からない語句は調べておくこと(30分程度)
各章のVocabularyの項目を必要があれば辞書を調べながら埋めておくこと(20分程度)

次回進むところの問題を一通り解いておくこと(30分程度)

学んだUnitの表現をつづり・意味・発音を覚えおくこと(20分程度)

< 提出課題など >

各章で扱うテーマに関連して、グループ/個人で調べたことを発表します。発表に用いた原稿やふりかえりを提出してもらいます。発表については直後にコメントによるフィードバックを行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業内評価 (小テスト 20% 課題と発表 30%)

総括レポート 50%

< テキスト >

Arnold Arao, Kei Mihara, Yoshinori Miwa, Hiroshi Kimura著 Answers to Everyday Questions 2 <Pre-Intermediate> 南雲堂

ISBN978-4-523-17935-1 C0082

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

Unit 8

授業の進め方、課題等についての説明

Why are flamingos "pink"?

第2回 Unit 8

Why are flamingos "pink"?

第3回 Unit 9

What is a movie "trailer"?

第4回 Unit 9

What is a movie "trailer"?

第5回 Unit 10

Where did "bubble wrap" come from?

第6回 Unit 10

Where did "bubble wrap" come from?

第7回 Unit 11

Why is a billiard table "green"?

第8回 Unit 11

Why is a billiard table "green"?

第9回 Unit 12

Why is film called "footage"?

第10回 Unit 12

Why is film called "footage"?

第11回 Unit 13

Where did "Coca-Cola" come from?

第12回 Unit 13

Where did "Coca-Cola" come from?

第13回 Unit 14

Why are social media apps "blue"?

第14回 Unit 14

Why are social media apps "blue"?

第15回 総復習

総括

2022年度 後期

1.0単位

基礎英語 A【人文】

E C C

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

基礎英語3/4は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをした基礎英語1/2をより発展した講義となる。日常生活に即したトピックについての発話を聞いて内容を理解し、適切な応答ができるよう練習する。また、身近な話題について書かれたパッセージを読み、自分の意見を書いたり口頭で発表したりできるよう練習する。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

- ・ 場面設定や背景をもとに、会話の全体的な内容を把握できる。(知識)
- ・ 大学生活や身の回りのできごとについて述べる事ができる。(知識)
- ・ 500-700語の英文を読み、その内容を具体的に説明できる。(知識)
- ・ 相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を

示すことができる。(態度・習慣)

・ 読んだ英文について自分の意見や感想を仲間と共有できる。(態度・習慣)

・ 初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・リーディング・語彙・文法

< 授業の進め方 >

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加型の授業です。積極的な参加が必要となります。

< 履修するにあたって >

- 1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。| 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。| 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

- 1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。(週30分程度)
- 2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。(週1時間程度)

< 提出課題など >

必要に応じて課された課題を提出。詳細は授業内で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

授業内評価(小テスト20% 授業参加度20%) 授業外評価(授業外課題30%) 学期末試験30%

< テキスト >

TARGET! intermediate 出版社:金星堂 2,200円(税込) ISBN:9784764740358

< 授業計画 >

第1回 Unit 7-1

New Ways to Travel (1)

第2回 Unit 7-2

New Ways to Travel (2)

第3回 Unit 8-1

Sports Anytime, Anywhere (1)

第4回 Unit 8-2

Sports Anytime, Anywhere (2)

第5回 Unit 9-1

How Do You Enjoy Music? (1)

第6回 Unit 9-2

How Do You Enjoy Music? (2)

第7回 復習

Unit 7からUnit 9の復習

第8回 Unit 10-1

Choose What Color to Paint (1)

第9回 Unit 10-2

Choose What Color to Paint (2)

第10回 Unit 11-1

The Future of Food (1)

第11回 Unit 11-2

The Future of Food (2)

第12回 Unit 12-1

To Gain Experience in Business (1)

第13回 Unit 12-2

To Gain Experience in Business (2)

第14回 復習

Unit 10からUnit 12の復習

第15回 総復習と試験

既習内容の総復習と学期末試験

2022年度 後期

1.0単位

基礎英語 A【GC・中/日】

E C C

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

基礎英語3/4は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをした基礎英語1/2をより発展した講義となる。日常生活に即したトピックについての発話を聞いて内容を理解し、適切な応答ができるよう練習する。また、身近な話題について書かれたパッセージを読み、自分の意見を書いたり口頭で発表したりできるよう練習する。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができると」を目指す。

< 到達目標 >

- ・ 場面設定や背景をもとに、会話の全体的な内容を把握できる。(知識)
- ・ 大学生活や身の回りのできごとについて述べるができる。(知識)
- ・ 500-700語の英文を読み、その内容を具体的に説明できる。(知識)
- ・ 相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣)
- ・ 読んだ英文について自分の意見や感想を仲間と共有できる。(態度・習慣)
- ・ 初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・リーディング・語彙・文法

< 授業の進め方 >

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加型の授業です。積極的な参加が必要となります。

< 履修するにあたって >

1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。| 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。| 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。(週30分程度)| 2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。(週1時間程度)

< 提出課題など >

必要に応じて課された課題を提出。詳細は授業内で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

授業内評価(小テスト20% 授業参加度20%) 授業外評価(授業外課題30%) 学期末試験30%

< テキスト >

TARGET! intermediate 出版社:金星堂 2,200円(税込) ISBN:9784764740358

< 授業計画 >

第1回 Unit 7-1

New Ways to Travel (1)

第2回 Unit 7-2

New Ways to Travel (2)

第3回 Unit 8-1

Sports Anytime, Anywhere (1)

第4回 Unit 8-2

Sports Anytime, Anywhere (2)

第5回 Unit 9-1

How Do You Enjoy Music? (1)

第6回 Unit 9-2

How Do You Enjoy Music? (2)

第7回 復習

Unit 7からUnit 9の復習

第8回 Unit 10-1

Choose What Color to Paint (1)

第9回 Unit 10-2

Choose What Color to Paint (2)

第10回 Unit 11-1

The Future of Food (1)

第11回 Unit 11-2

The Future of Food (2)

第12回 Unit 12-1

To Gain Experience in Business (1)

第13回 Unit 12-2

2022年度 前期

1.0単位

基礎情報処理実習 (情報基礎とWord基礎)

寺崎 幸

< 授業の方法 >

実習

< 授業の目的 >

この科目は、全学のDPに示す、専門分野に高い関心を持ち、専門領域の課題を考察し、解決するための知識や技能を身につけること、さらにそれらを活用してさまざまな問題を発見し、解決する方策を導くことができる技術の習得を目指します。

最近では社会における高度情報化が進み、情報や情報技術を正しく取り扱うことが、社会人の全てに基本技能として要求されるようになってきました。この授業では、大学生活だけでなく、社会においても様々な分野でICTを活用できるような知識と技術を身に付けることを目標にしています。

具体的には、コンピュータやネットワークの基礎知識を学び、Windowsの基本操作とMicrosoft Wordを使用した文書作成技能の習得を目指します。

文書作成技能については、MOS (Microsoft Office Specialist) 資格試験のWord科目を視野に入れて解説します。

< 到達目標 >

1. クラウドコンピューティングを理解し、Office365を活用できる。
2. ネットワーク上のモラルを理解し、ネットワークサービスを正しく利用できる。
3. PCのハードウェアとしての構成、ファイル管理の概念を理解し、活用できる。
4. 段落、セクションの違いを理解し、書式設定に活用ができる。
5. 表や図など、文章をサポートするオブジェクトの挿入・編集ができる。
6. 索引・目次の作成、修正ができる。
7. ビジネス文書の様式を理解し、作成できる。

< 授業のキーワード >

Office365、クラウド、PC基礎、ネットモラル、文章作成、図表編集、書式設定、ビジネス文書

< 授業の進め方 >

本講義では、パソコンの基礎、インターネットの活用方

法から始め、Microsoft Wordを用いて様々な文書作成について学習します。Microsoft Wordの様々な機能を実習し、文書をスムーズに作成できるよう指導します。作成した文書は学内情報サービスに提出します。

課題やテストなどは解答を確認し、しっかりと理解できるまで実習を重ねていきます。

併せて、パソコンを使用できる環境では、タッチタイピングの習得を積極的に実施し、文書作成の効率アップを目指します。

< 履修するにあたって >

1. 授業開始時に実習内容の説明・デモンストレーションなどをします。遅刻をすると、授業の理解に支障が生じますので遅刻しないよう注意してください。

2. 原則として前回の授業内容を踏まえて、実習を進行します。そのため欠席をすると大きな不利益を被ります。極力、欠席をしないようにしてください。やむを得ない事情で欠席をした場合、次回の授業までに学習しておくようにしてください。

3. コンピュータは高度な精密機器です。取扱いには十分注意してください。取り扱いについて各自の責任を自覚していただくために、情報処理実習室では座席指定をします。また、実習室内は、禁煙、飲食禁止です。その他すべて、教員の指示に従ってください。

4. 教科書など、担当講師により異なることがあります。掲示等に注意し、自分のクラスを確認して間違いのないよう準備をしてください。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前にテキストの該当部分より、想定される操作確認をしてください。(50分程度)

授業後は、操作習得のため指示された練習問題や復習を行ってください。(70分程度)

日常的にタッチタイピングを繰り返し練習してください。(毎日30分程度)

< 提出課題など >

授業で作成したファイル、確認テスト、課題はすべてdo tCampusを使用して提出します。

確認テストは3回実施し、授業内で模範解答の提示と解説を行います。

尚、定期試験は実施しません。

< 成績評価方法・基準 >

授業における提出物 70%、確認テスト 30% の割合で総合的に評価します。

< テキスト >

FOM出版 よくわかる Microsoft Word 2016ドリル

< 参考図書 >

FOM出版 よくわかる Microsoft Word 2016 基礎・応用
情報処理センター編 「情報活用の基礎」

< 授業計画 >
第1回 ガイダンス
インターネットの活用(1)
授業の進め方・評価方法などの授業案内・課題の提出方法など
Office365の紹介と利用方法
Microsoft Wordの紹介
第2回 パソコンの基礎
インターネットの活用(2)
ディレクトリ、およびパスの概念
ネットワーク上で守るべきこと
電子メールの活用について
第3回 文書の作成
文書の書式設定
表示機能
ワード画面上における、各箇所の名称
新規作成の方法
ページ設定や表示モード
第4回 印刷と保存
文字、段落の書式設定
印刷設定の変更
プロパティの確認、および管理
行と段落の違い
第5回 復習(1)
段落、セクションの書式設定
確認テスト実施
ページ、セクション区切りの挿入
セクション単位での書式設定
第6回 表の作成
スタイルの適用
タイトルを設定
セルの設定
第7回 リストの作成
リストの作成
リストレベルの変更
リスト番号の初期化
第8回 リファレンスの作成管理
参考資料(文献、引用、図など)の管理
第9回 グラフィックの挿入・書式設定
図・スマートアートの挿入
文字列の折り返し
代替テキストの挿入
第10回 復習(2)
文書オプションの設定・管理
確認テスト実施
文書のバージョン管理
編集の制限
パスワードによる文章保護
第11回 索引、目次の作成
索引の登録・作成・更新

目次の作成・更新
第12回 差し込み印刷
宛先の作成
差し込みフィールドの作成
印刷結果の確認
第13回 便利機能
クイックパーツの作成
文書パーツの管理
第14回 ビジネス文書の基本
社内文書・社外文書の基本
第15回 総合復習
各種資格との関係について
確認テスト実施

2022年度 前期
1.0単位
基礎情報処理実習 (Power Point Mos)
佐藤 毅、岡本 有加

< 授業の方法 >
対面(実習)
< 授業の目的 >
プレゼンテーション技術について、発表に対する姿勢、資料の作成方法について学修する。
Microsoft PowerPoint2016 を主なツールとして利用し、その能力を評価する試験「Microsoft Office Specialist PowerPoint2016」の試験範囲を網羅した操作内容を学習する。
全学DPに示されるように、獲得した知識や技能を活用し、社会に役立つ情報活用力を深めることができる。また、自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手とのコミュニケーションを円滑にすることができる。
< 到達目標 >
1. 自らの考えを、他者へ正確に伝えるプレゼンテーションができる。
2. Microsoft Office Specialist PowerPointの合格レベルに達する。
< 授業のキーワード >
PowerPoint、プレゼンテーション技法、MOS
< 授業の進め方 >
情報処理実習室において実習を中心に授業を行います。
< 履修するにあたって >
授業は、実習室のPC(WindowsをOS)を利用します。自宅学習のためにも、PCを保有することを推奨します。
また、Macでも学習は可能ですが、ソフトウェアの操作方法がWindowsと異なることもあります。
< 授業時間外に必要な学修 >
各回の復習、および課題で90分を想定しています。
< 提出課題など >

dotCampusで、各種資料の配付、回収、提出を実施。
詳細については、講義において説明します。
フィードバックは、授業時、およびdotCampusで行います。

<成績評価方法・基準>

授業成果物で40%、課題で50%、確認テストで10%として評価します。

<テキスト>

Microsoft Office Specialist
Microsoft PowerPoint 2016 対策テキスト& 問題集 F0
M出版

<参考図書>

ガー・レイノルズ シンプルプレゼン (日経ビジネスアソシエ)

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

本実習の目的、到達目標について説明する。

MOS試験概要の説明

プレゼンテーションの目的について

第2回 プレゼンテーションの作成と管理 1

プレゼンテーションの作成

スライドマスターによる書式設定

オプションと表示をカスタマイズ

第3回 プレゼンテーションの作成と管理 2

印刷、保存のための設定

スライドショーの設定、実行

第4回 図形やスライドの挿入と書式設定

スライドの挿入、書式設定

図形の挿入、書式設定

図形またはスライドを並べ替え、グループ化

第5回 スライドコンテンツの作成 1

テキストの挿入、書式設定

表の挿入、書式設定

グラフの挿入、書式設定

第6回 スライドコンテンツの作成 2

SmartArtグラフィックの挿入、書式設定

図の挿入、書式設定

メディアの挿入、書式設定

第7回 第1回確認テスト

第1回確認テスト、および解答の解説

第8回 画面切り替えやアニメーションの適用

画面切り替えの適用

コンテンツへのアニメーション設定

画面切り替えとアニメーションのタイミング設定

第9回 複数のプレゼンテーションの管理

複数のプレゼンテーションからコンテンツを結合

変更履歴の校閲

プレゼンテーションの保護、共有

第10回 プレゼンテーション技法 1

総合課題

プレゼンテーションはどうあるべきか？

総合課題テーマの設定

第11回 プレゼンテーション技法 2

総合課題

プレゼンテーションの企画・構成について

総合課題ストーリーの設定

第12回 プレゼンテーション技法 3

総合課題

シンプルなスライドの作成

総合課題スライドの作成

第13回 模擬試験

試験前の注意&アドバイス、模擬試験実施&解説

第14回 総合課題

修得した知識・スキルの確認

総合課題スライドの作成

第15回 総合課題発表

総合課題の発表、および相互評価

2022年度 前期

1.0単位

基礎情報処理実習 (情報基礎とWord基礎)

三木 雅子、崔 瑛理

<授業の方法>

実習

<授業の目的>

この科目は、全学のDPに示す、広い教養を身につけること、獲得した知識や技能をもって社会に貢献する力を身につけることを目的とします。この科目は、「リテラシー科目群」の「情報分野」に属します。

最近では社会における高度情報化が進み、情報や情報技術を正しく取り扱うことが、社会人の全てに基本技能として要求されるようになってきました。この授業では、その中においてMicrosoft Wordを用いた文書処理能力に焦点を当て、社会に出てからも活用できるレベルで技能を身につけることを目的とします。そのために必要なパソコン及びネットワークの基礎知識についても学びます。

また、MOS (Microsoft Office Specialist) 資格試験のWord科目も視野に入れて解説します。

<到達目標>

1. PCのハードウェアとしての構成、ファイル管理の概念を理解し、活用できる。
2. ネットワーク上のモラルを理解し、ネットワークサービスを正しく利用できる。
3. 段落、セクションの違いを理解し、書式設定に活用ができる。
4. 表や図など、文章をサポートするオブジェクトの挿入・編集ができる。
5. 索引・目次の作成、修正ができる。

6. ビジネス文書の様式を理解し、作成できる。

<授業のキーワード>

PC基礎、ネットモラル、文章作成、図表編集、書式設定、ビジネス文書

<授業の進め方>

まず、各自、実習室のパソコンで課題に取り組んでもらいます(主にMicrosoft Word)。その後、課題の解説をします。

仕上げた課題は、USBメモリなどに保存した後、本学のe-learningシステムである dotCampus を通して提出してもらいます。

授業に必要な資料の配付は、dotCampusを用いて行います。

具体的な授業の流れは、最初の授業で説明します。

<履修するにあたって>

1. 前回の授業内容を踏まえて、実習を進行します。したがって、欠席をすると、大きな不利益を被ります。極力、欠席をしないようにして下さい。やむを得ない事情で欠席をした場合、欠席時の実習内容のフォローをすること。

2. 課題は指定された日時までにやり終え、提出期限を守ってください。期限を過ぎての提出は原則としてできません。やむをえない場合は配慮します。

3. 教科書など、担当講師により異なることがあります。掲示等に注意し、自分のクラスを確認して間違いのないよう準備をして下さい。

4. USBメモリ(容量は小さくてOK)を各自用意して下さい。

詳しいことは最初の授業で説明します。

<授業時間外に必要な学修>

各回の課題で1時間。復習で1時間を想定しています。

<提出課題など>

テキストの問題を中心に、課題をやって学内の e-learning システムを用いて提出してもらいます。課題は授業中に解答・解説します。

<成績評価方法・基準>

毎授業時間における課題毎の実習成果、確認テスト(2回実施)を総合して評価します。

授業における提出物70%、確認テスト30% として評価します。

<テキスト>

「よくわかる Microsoft Word 2019ドリル」 FOM出版
定価1100円(税込)

「情報活用の基礎 2022年度版」 神戸学院大学情報処理センター編

<参考図書>

「よくわかる Microsoft Word 2019基礎」 FOM出版
定価2200円(税込)

「よくわかる Microsoft Word 2019応用」 FOM出版

定価2200円(税込)

<授業計画>

第1回 ガイダンス

授業の進め方

評価方法

課題の提出方法など

第2回 パソコンの基礎

インターネットの活用

ディレクトリ、およびパスの概念

ネットワーク上で守るべきこと

電子メールの活用について

第3回 文書の作成

文書の書式設定

表示機能

ワード画面上における、各箇所の名称

新規作成の方法

ページ設定や表示モード

第4回 印刷と保存

文字、段落の書式設定

印刷設定の変更

プロパティの確認、および管理

行と段落の違い

第5回 表の作成

スタイルの適用

タイトルの設定

セルの設定

第6回 グラフィックの挿入・書式設定

図・スマートアートの挿入

文字列の折り返し

代替テキストの挿入

第7回 ビジネス文書の基本

社内文書・社外文書の基本

第8回 確認テスト1

前半授業の理解度確認

第9回 段落、セクションの書式設定

ページ、セクション区切りの挿入

セクション単位での書式設定

第10回 長文におけるリストの作成

リストの作成

リストレベルの変更

リスト番号の初期化

第11回 文書オプションの設定・管理

文書のバージョン管理

編集の制限

パスワードによる文章保護

第12回 索引、目次の作成

リファレンスの作成管理

索引の登録・作成・更新

目次の作成・更新

参考資料（文献、引用、図など）の管理

第13回 差し込み印刷

宛先の作成

差し込みフィールドの作成

印刷結果の確認

第14回 便利機能

クイックパーツの作成

文書パーツの管理

第15回 総合復習

確認テスト2

各種資格との関係について

後期授業の理解度確認

2022年度 前期

1.0単位

基礎情報処理実習 (A)【人文】

深田 美紀、青木 恵美、三木 洪子、富士野 克己、

岡元 直樹

< 授業の方法 >

講義・実習

< 授業の目的 >

この科目は、共通教育科目のリテラシー科目群、情報分野に属しています。

全学 DP に掲げる、広い教養を身につけること、獲得した知識や技能をもって社会に貢献する力を身につけることを目的とします。

当講義では [学業に必要と考えられるレベルの PC 操作スキル] の習得を目指します。

知識面では OS やネットワーク、セキュリティ、情報モラルに関する基礎を、技能面ではタイピングに始まり、OS の基本操作、メールやブラウザの活用、基礎的なオフィスソフトの活用を学びます。

20 世紀後半から始まった ICT (情報・通信に関連する技術一般の総称) の急激な発展は、我々の社会に劇的な変化をもたらしました。

技術的には今も変化のうねりの渦中にありますが、社会に十分に浸透し、活用されている技術は、(別の大きなブレイクスルーの出現までは) 今後も活用され続けると考えられます。

タブレットやスマートフォンなどの業務活用も広がっていますが、現時点では、PC を適切に操作できることは学業・社会生活に非常に有用な (もしくは必須の) 技能です。

他講義から一定の習熟を期待される内容でもありますので、苦手意識を捨てて取り組んでいただきたいと思います。

なお、この授業は、実務経験のある教員が担当していません。学外 (公的機関等) での情報教育業務を6年間経験しており、企業等で求められる情報に関する知識・スキルを、より実践的な観点から解説します。

< 到達目標 >

・日本語 75 文字 / 分以上のスピードでタッチタイピングができる

・Windows において基本的なファイル・フォルダー操作を行える

・基本的なショートカットキーを使用して Windows を操作できる

・Word を利用し、1 ページで完結する体裁の整った文書を作成できる

・Excel を利用し、表計算ソフトの特徴を活かした (比較的少ない件数の) 表及びグラフを作成できる

・PowerPoint を利用し、聞き手を意識したプレゼン資料を作成できる

・メールに関する基本的なマナーを知り、大学のメールシステムを活用できる

・圧縮と解凍について理解し、ファイルやフォルダーを圧縮・暗号化して受け渡しできる

・インターネットのトラブル事例を知り、安全かつ価値的なネット活用を行える

・学内・学外の Wi-Fi 環境を適切かつ安全に活用できる

< 授業のキーワード >

タッチタイピング、エクスプローラー操作、圧縮と解凍、Wi-Fi

< 授業の進め方 >

実習を中心に講義を進めます。

テキストとして eラーニング教材「nanare」を利用します。

一部の回を除き、毎回、講義内で提示された課題を提出してもらいます。

< 履修するにあたって >

(1) 遅刻について

当講義は実習が中心となるため、遅刻者対応は授業を一時的に中断させるということを認識しておいてください。講義開始直後に着席していない学生は遅刻とみなします。

(2) 欠席について

欠席した場合は、次の講義までに必ず講義内容を自習してください。

講義開始 20 分以降に入室した学生は欠席とみなします。遅刻 3 回で欠席 1 回とし、欠席回数が全講義回数の 3 分の 1 を超えた場合は評価不能とみなします。

(3) アカウントについて

手元に届いているユーザーID、パスワードが記載されたハガキを必ず持参してください。

情報処理実習室の PC を利用する際に、ログイン用のユーザー ID、パスワードが必要です。

紛失した場合は、必ず申し出てください。アカウントの貸し借りは厳禁です。

(4) 講義に臨む姿勢について

各学生の年度当初の PC 操作スキルには大きな開きがありますが、他人と比較することなく、自己のスキル向上に努めるようにしてください。

(5) タイピングについて

タイピングスピードの向上にはある程度の練習量が必要ですが、一度習得してしまえば、今後受講する様々な講義において課題やレポート作成の効率が上がります。できるだけ早い段階で練習時間を確保し、目標に達成することを勧めます。

(6) 学習環境について

eラーニング教材 nanare から試験問題も提出されますので、自宅で学習ができるような環境を整えることが望ましいです。

PC を所有していない人は購入することを推奨します。

なお、大学情報処理実習室の PC の OS は Windows であり、Windows を基本として説明を行います。

< 授業時間外に必要な学修 >

理解度確認問題（中間）と理解度確認問題（前期末）は、それぞれ eラーニング教材 nanare から出題されますので、指示された範囲を学習しておいてください。当講義ではタイピングスキルを重視しています。頭で考えなくても指が自然に動くようになるまで、そう多くの期間は必要ありません。できるだけ日を置かず集中的に練習し、早めに目標に到達してください。コツ等は講義内で説明します。

・ 学習に要する時間目安

- eラーニング教材 nanare の学習：1~2 時間/週（個人差あり）

- タイピングの練習：10 分/日（個人差あり）

一定速度に達するまで

< 提出課題など >

講義内に提出する課題と、eラーニング教材 nanare の課題があります。

eラーニング教材 nanare の課題の完了期限は 4 回に分かれています。

1. 第 04 回講義日の前日 24 時までに 001-067 の範囲を学習済みにすること

2. 第 07 回講義日の前日 24 時までに 068-104 の範囲を学習済みにすること

3. 第 10 回講義日の前日 24 時までに 105-132 の範囲

を学習済みにすること

4. 第 13 回講義日の前日 24 時までに 133-156 の範囲を学習済みにすること

eラーニング教材 nanare の課題のフィードバックは教材の自動添削機能によって行い、講義時間内に質疑応答の時間を設けます。

講義内に提出する課題のフィードバックは講義時間内に行い、講義時間外においても解説や動画を Web サイトで閲覧できるようにします。内容によっては模範解答を紹介します。

< 成績評価方法・基準 >

以下の割合で総合的に評価します。

- eラーニング教材 nanare の課題：30 %

- 講義内に提出する課題：15 %

- タイピング試験：20 %

- 理解度確認問題（中間）：10 %

- 理解度確認問題（前期末）：25 %

単位取得には、期限を遵守した各課題の提出、タイピング練習、試験対策が必要です。

普段の取り組みが評点に反映されやすくなるよう、各試験は eラーニング教材 nanare から抜粋して出題します。

< テキスト >

eラーニング教材「nanare」2021 年度版

教材費 3,500 円は初回登校日に講義内で徴収します。

忘れないように持参してください。

遠隔申請者には第 1 回の講義内で支払い方法を案内します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンスとタイピング計測

- 当講義の意義、進め方、注意事項、単位の評価基準などについて理解する。

- eラーニング教材 nanare の学習の流れ、課題の提出方法について理解する。

- タイピングスピードを測定し、今後の目標を設定する。

- nanare の主な学習内容：ウィンドウ操作など最も初歩的な PC 操作

第2回 基本的なウィンドウ操作とタッチタイピング

- タッチタイピングを習得するためのコツや練習方法について理解する。

- nanare の主な学習内容：（Word）行と段落の違いや適切な文字列の配置、画像の挿入

第3回 覚えておきたい Windows の機能と文書の新規作成

- ショートカットキーや IME 辞書の活用など、Windows の提供する作業効率向上のための機能について実習する。

- Word を利用して文書を新規作成し、ページ設定、名前を付けて保存する方法を理解する。

- nanare の主な学習内容：(Excel)セルへの値の入力
や結合といった基本的なセル操作

第4回 電子メールの活用

- 電子メールの一般的な利用方法とマナー、及び学内 Webメール環境の操作について実習する。

- nanare の主な学習内容：(PowerPoint)スライドの
作成・編集

第5回 効果的なプレゼン資料の作成(1)

- 聞き手が理解しやすいプレゼン資料のアウトラインを
作成、実習する。

- nanare の主な学習内容：(Excel)セルの書式設定、
計算式の入力

第6回 効果的なプレゼン資料の作成(2)

- 効果的なプレゼン資料作成について実習し、発表中の
スライドの切り替えやノートの利用について実践感覚を
掴む。

- nanare の主な学習内容：(Word)表の挿入、編集と
検索、置換

第7回 ネット利用に関するトラブル事例

インターネット利用に関する各種のトラブル事例を確認
し、プライバシーやセキュリティを意識した、トラブル
に巻き込まれにくいネット活用姿勢について学習する。

- nanare の主な学習内容：(Excel)関数の利用、印刷
範囲の設定

第8回 理解度確認問題(中間)

テスト形式で当該回までの理解度を確認する。

- nanare の主な学習内容：(Word)インデント・箇条
書き・段落番号といった段落の編集、書式のコピー・貼
り付けなどの操作

第9回 ファイルの圧縮と解凍

- 圧縮ファイルの形式や特徴について理解を深め、Wind
ows 標準機能や圧縮解凍アプリを用い、ファイルやフォル
ダーの圧縮・解凍、暗号化について実習する。

- nanare の主な学習内容：(Excel)簡単なグラフの作
成、各要素の表示・非表示の切り替え

第10回 エクスプローラー操作の基礎

- 階層構造の概念を理解し、ファイル・フォルダーの基
本操作を習得する。

- nanare の主な学習内容：(Word)各種オブジェクト
の追加と編集

第11回 エクスプローラー操作の応用

- ファイル・フォルダーの応用的な操作(特に多くのフ
ァイルを効率的に扱う操作)を習得する。

- nanare の主な学習内容：(Word)表の編集と効率的
な表の作成(Excel)さまざまなオートフィル

第12回 Word 印刷実習

- Word の印刷時の調整と、発生しやすいトラブル及び
その解決方法について実習する。

- PDF ファイルの特徴と活用について理解する。

- nanare の主な学習内容：(Excel)基本的な関数と
セル参照、絶対参照

第13回 問題解決実習

- 特定のテーマ(問題)について、それらを手持ちのソ
フトウェア(道具)を利用して解決する実習を行う。

- [テーマの例]家計簿

- nanare の主な学習内容：(一般知識)n進数、文字
コード、解像度

第14回 [対面]

理解度確認問題(前期末)とタイピング試験

[遠隔]

Wi-Fi の安全な利用

- [対面]

当該回までの eラーニング教材 nanare の課題の理解度
を試験形式で確認する。

タイピング試験を実施する。

- [遠隔]

無線LAN(Wi-Fi)の基本的な構成と接続方法、また公共
のWi-Fi環境を利用する際の注意事項について理解する。

第15回 [対面・遠隔申請者]

理解度確認問題(前期末)とタイピング試験

[遠隔]

Wi-Fi の安全な利用

- [対面・遠隔申請者]

当該回までの eラーニング教材 nanare の課題の理解度
を試験形式で確認する。

タイピング試験を実施する。

- [遠隔]

無線LAN(Wi-Fi)の基本的な構成と接続方法、また公共
のWi-Fi環境を利用する際の注意事項について理解する。

2022年度 前期

1.0単位

基礎情報処理実習 (A)【心理】

深田 美紀、三木 洪子、富士野 克己、岡元 直樹

<授業の方法>

講義・実習

<授業の目的>

この科目は、共通教育科目のリテラシー科目群、情報分
野に属しています。

全学 DP に掲げる、広い教養を身につけること、獲得し
た知識や技能をもって社会に貢献する力を身につけるこ
とを目的とします。

当講義では[学業に必要と考えられるレベルのPC操作
スキル]の習得を目指します。

知識面では OS やネットワーク、セキュリティ、情報モラルに関する基礎を、技能面ではタイピングに始まり、OS の基本操作、メールやブラウザの活用、基礎的なオフィスソフトの活用を学びます。

20 世紀後半から始まった ICT (情報・通信に関連する技術一般の総称) の急激な発展は、我々の社会に劇的な変化をもたらしました。

技術的には今も変化のうねりの渦中にありますが、社会に十分に浸透し、活用されている技術は、(別の大きなブレークスルーの出現までは) 今後も活用され続けると考えられます。

タブレットやスマートフォンなどの業務活用も広がっていますが、現時点では、PC を適切に操作できることは学業・社会生活に非常に有用な(もしくは必須の)技能です。

他講義から一定の習熟を期待される内容でもありますので、苦手意識を捨てて取り組んでいただきたいと思います。

なお、この授業は、実務経験のある教員が担当しています。学外(公的機関等)での情報教育業務を6年間経験しており、企業等で求められる情報に関する知識・スキルを、より実践的な観点から解説します。

<到達目標>

- ・日本語 75 文字/分以上のスピードでタッチタイピングができる
- ・Windows において基本的なファイル・フォルダー操作を行える
- ・基本的なショートカットキーを使用して Windows を操作できる
- ・Word を利用し、1 ページで完結する体裁の整った文書を作成できる
- ・Excel を利用し、表計算ソフトの特徴を活かした(比較的少ない件数の)表及びグラフを作成できる
- ・PowerPoint を利用し、聞き手を意識したプレゼン資料を作成できる
- ・メールに関する基本的なマナーを知り、大学のメールシステムを活用できる
- ・圧縮と解凍について理解し、ファイルやフォルダーを圧縮・暗号化して受け渡しできる
- ・インターネットのトラブル事例を知り、安全かつ価値的なネット活用を行える
- ・学内・学外の Wi-Fi 環境を適切かつ安全に活用できる

<授業のキーワード>

タッチタイピング、エクスプローラー操作、圧縮と解凍、Wi-Fi

<授業の進め方>

実習を中心に講義を進めます。

テキストとして eラーニング教材「nanare」を利用します。

一部の回を除き、毎回、講義内で提示された課題を提出してもらいます。

<履修するにあたって>

(1) 遅刻について

当講義は実習が中心となるため、遅刻者対応は授業を一時的に中断させるということを認識しておいてください。講義開始直後に着席していない学生は遅刻とみなします。

(2) 欠席について

欠席した場合は、次の講義までに必ず講義内容を自習してください。

講義開始 20 分以降に入室した学生は欠席とみなします。遅刻 3 回で欠席 1 回とし、欠席回数が全講義回数の 3 分の 1 を超えた場合は評価不能とみなします。

(3) アカウントについて

手元に届いているユーザーID、パスワードが記載されたハガキを必ず持参してください。

情報処理実習室の PC を利用する際に、ログイン用のユーザーID、パスワードが必要です。

紛失した場合は、必ず申し出てください。アカウントの貸し借りは厳禁です。

(4) 講義に臨む姿勢について

各学生の年度当初の PC 操作スキルには大きな開きがありますが、他人と比較することなく、自己のスキル向上に努めるようにしてください。

(5) タイピングについて

タイピングスピードの向上にはある程度の練習量が必要ですが、一度習得してしまえば、今後受講する様々な講義において課題やレポート作成の効率が上がります。できるだけ早い段階で練習時間を確保し、目標に達成することを勧めます。

(6) 学習環境について

eラーニング教材 nanare から試験問題も提出されますので、自宅で学習ができるような環境を整えることが望ましいです。

PC を所有していない人は購入することを推奨します。

なお、大学情報処理実習室の PC の OS は Windows であり、Windows を基本として説明を行います。

<授業時間外に必要な学修>

理解度確認問題(中間)と理解度確認問題(前期末)は、それぞれ eラーニング教材 nanare から出題されますので、指示された範囲を学習しておいてください。

当講義ではタイピングスキルを重視しています。頭で考

えなくても指が自然に動くようになるまで、そう多くの期間は必要ありません。できるだけ日を置かず集中的に練習し、早めに目標に到達してください。コツ等は講義内で説明します。

・学習に要する時間目安

- eラーニング教材 nanare の学習：1~2 時間/週（個人差あり）

- タイピングの練習：10 分/日（個人差あり）

一定速度に達するまで

< 提出課題など >

講義内に提出する課題と、eラーニング教材 nanare の課題があります。

eラーニング教材 nanare の課題の完了期限は 4 回に分かれています。

1. 第 04 回講義日の前日 24 時までに 001-067 の範囲を学習済みにすること

2. 第 07 回講義日の前日 24 時までに 068-104 の範囲を学習済みにすること

3. 第 10 回講義日の前日 24 時までに 105-132 の範囲を学習済みにすること

4. 第 13 回講義日の前日 24 時までに 133-156 の範囲を学習済みにすること

eラーニング教材 nanare の課題のフィードバックは教材の自動添削機能によって行い、講義時間内に質疑応答の時間を設けます。

講義内に提出する課題のフィードバックは講義時間内に行い、講義時間外においても解説や動画を Web サイトで閲覧できるようにします。内容によっては模範解答を紹介します。

< 成績評価方法・基準 >

以下の割合で総合的に評価します。

- eラーニング教材 nanare の課題：30 %

- 講義内に提出する課題：15 %

- タイピング試験：20 %

- 理解度確認問題（中間）：10 %

- 理解度確認問題（前期末）：25 %

単位取得には、期限を遵守した各課題の提出、タイピング練習、試験対策が必要です。

普段の取り組みが評点に反映されやすくなるよう、各試験は eラーニング教材 nanare から抜粋して出題します。

< テキスト >

eラーニング教材「nanare」2021 年度版

教材費 3,500 円は初回登校日に講義内で徴収します。

忘れないように持参してください。

遠隔申請者には第 1 回の講義内で支払い方法を案内します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンスとタイピング計測

- 当講義の意義、進め方、注意事項、単位の評価基準などについて理解する。

- eラーニング教材 nanare の学習の流れ、課題の提出方法について理解する。

- タイピングスピードを測定し、今後の目標を設定する。

- nanare の主な学習内容：ウィンドウ操作など最も初歩的な PC 操作

第2回 基本的なウィンドウ操作とタッチタイピング

- タッチタイピングを習得するためのコツや練習方法について理解する。

- nanare の主な学習内容：（Word）行と段落の違いや適切な文字列の配置、画像の挿入

第3回 覚えておきたい Windows の機能と文書の新規作成

- ショートカットキーや IME 辞書の活用など、Windows の提供する作業効率向上のための機能について実習する。

- Word を利用して文書を新規作成し、ページ設定、名前を付けて保存する方法を理解する。

- nanare の主な学習内容：（Excel）セルへの値の入力や結合といった基本的なセル操作

第4回 電子メールの活用

- 電子メールの一般的な利用方法とマナー、及び学内 Webメール環境の操作について実習する。

- nanare の主な学習内容：（PowerPoint）スライドの作成・編集

第5回 効果的なプレゼン資料の作成（1）

- 聞き手が理解しやすいプレゼン資料のアウトラインを作成、実習する。

- nanare の主な学習内容：（Excel）セルの書式設定、計算式の入力

第6回 効果的なプレゼン資料の作成（2）

- 効果的なプレゼン資料作成について実習し、発表中のスライドの切り替えやノートの利用について実践感覚を掴む。

- nanare の主な学習内容：（Word）表の挿入、編集と検索、置換

第7回 ネット利用に関するトラブル事例

インターネット利用に関する各種のトラブル事例を確認し、プライバシーやセキュリティを意識した、トラブルに巻き込まれにくいネット活用姿勢について学習する。

- nanare の主な学習内容：（Excel）関数の利用、印刷範囲の設定

第8回 理解度確認問題（中間）

テスト形式で当該回までの理解度を確認する。

- nanare の主な学習内容：（Word）インデント・箇条書き・段落番号といった段落の編集、書式のコピー・貼り付けなどの操作

第9回 ファイルの圧縮と解凍

- 圧縮ファイルの形式や特徴について理解を深め、Windows 標準機能や圧縮解凍アプリを用い、ファイルやフォルダーの圧縮・解凍、暗号化について実習する。
 - nanare の主な学習内容：(Excel) 簡単なグラフの作成、各要素の表示・非表示の切り替え
- 第10回 エクスプローラー操作の基礎
- 階層構造の概念を理解し、ファイル・フォルダーの基本操作を習得する。
 - nanare の主な学習内容：(Word) 各種オブジェクトの追加と編集

第11回 エクスプローラー操作の応用

- ファイル・フォルダーの応用的な操作(特に多くのファイルを効率的に扱う操作)を習得する。
- nanare の主な学習内容：(Word) 表の編集と効率的な表の作成(Excel) さまざまなオートフィル

第12回 Word 印刷実習

- Word の印刷時の調整と、発生しやすいトラブル及びその解決方法について実習する。
- PDF ファイルの特徴と活用について理解する。
- nanare の主な学習内容：(Excel) 基本的な関数とセル参照、絶対参照

第13回 問題解決実習

- 特定のテーマ(問題)について、それらを手持ちのソフトウェア(道具)を利用して解決する実習を行う。
- [テーマの例] 家計簿
- nanare の主な学習内容：(一般知識) n 進数、文字コード、解像度

第14回 [対面]

理解度確認問題(前期末)とタイピング試験

[遠隔]

Wi-Fi の安全な利用

- [対面]
- 当該回までの eラーニング教材 nanare の課題の理解度を試験形式で確認する。
タイピング試験を実施する。

- [遠隔]

無線LAN(Wi-Fi)の基本的な構成と接続方法、また公共のWi-Fi環境を利用する際の注意事項について理解する。

第15回 [対面・遠隔申請者]

理解度確認問題(前期末)とタイピング試験

[遠隔]

Wi-Fi の安全な利用

- [対面・遠隔申請者]
- 当該回までの eラーニング教材 nanare の課題の理解度を試験形式で確認する。
タイピング試験を実施する。

- [遠隔]

無線LAN(Wi-Fi)の基本的な構成と接続方法、また公共

のWi-Fi環境を利用する際の注意事項について理解する。

2022年度 前期

1.0単位

基礎情報処理実習 【総リハ】

濱本 季之、橋本 貴

<授業の方法>

対面(講義・実習)

<授業の目的>

この科目は、全学DPが示す問題を発見・解決する能力の基盤となる知識や技術を身につけることを目的とする。

今やコンピューターは、ビジネスや日常生活に欠かすことのできない存在となった。スマートフォンやタブレット、ノートパソコンといった携帯機器を当たり前で使用し、社会を動かすことのできる時代である。しかし、その便利さと合わせてコンピュータウイルスを始めとした様々な危険性も持ち合わせている。同時に情報の偏りを知り、問題解決を図るための情報活用能力を身につける必要がある。

この科目では、学生がコンピューターの利便性と危険性の両方を理解し、社会に対応できるコンピューター力を身につけることを目標とする。

さらに、この科目では、知識面と技術面からますます発展していくインターネット社会に対応できる基礎的な力を身につけ、Society 5.0の社会を理解する。

知識面では、情報の特性や情報セキュリティに関する知識を習得し、危険を未然に回避することができるようになることを目的とする。

技術面では、ビジネスメールやワープロソフトMicrosoft Wordに関する操作・技術を学び、社会でも役立つビジネススキルを習得することを目的とする。特にレポート作成ではインターネット情報の取捨選択についても学び、獲得した知識や技能を総合的に活用できるようになることを目的とする。

また、この科目の担当者は実務経験のある教員である。企業においてSE(システムエンジニア)や情報処理関連分野の研修講師として10年以上の経験がある。常に最新の情報や技術を踏まえ、時に専門分野についてもわかりやすく伝えていきたい。

<到達目標>

1. パソコンに対する苦手意識がなくなる。
2. タッチタイピングで入力できる。
3. インターネットを利用して必要な情報を取捨選択できる。
4. Society 5.0で実現する社会を説明できる。
5. クラウドサービスを活用することができる。
5. ビジネスメールを作成し、就職活動にも役立てることができる。

6. ワードプロソフトを使用して、目的に合った文書やレポート作成ができる。

< 授業のキーワード >

タッチタイピング・情報セキュリティ・ビジネスメール・クラウドサービス・Society 5.0・IoT・AI・Microsoft Word

< 授業の進め方 >

すべての講義は実習室のパソコンを使用する実習を中心とした内容である。

毎回設定されているテーマに基づく機能習得を目指し、時間の許す限り復習も行う。

毎回授業の冒頭にタイピング練習を行い、スムーズなキー入力ができるようにスキルアップを目指す。

< 履修するにあたって >

毎回、教科書と配布プリントを持参すること。

実習室のパソコンを使用する際、“ユーザー名(アカウント)”と“パスワード”が必要である。貸出用は無いので忘れないように注意すること。

遅刻するとパソコンの実習環境が整わなかったり、操作がわからなくなったりするため、遅刻しないように注意すること。

実習は原則として前回授業の受講を前提として行われる。欠席すると致命的になる場合があるため、欠席しないように注意すること。やむを得ない理由で欠席した場合は、次の授業までに自習しておくこと。

コンピューターは精密機器であるため、取り扱いについては十分注意すること。

教室内では飲食禁止。また、指定された座席に着席すること。

質問は電子メールでも受け付ける。電子メール操作は授業において実習する。

その他すべて教員の指示に従うこと。不明な点があれば遠慮なく担当教員に尋ねること。

この講義は、Microsoft Windows10とMicrosoft Office 2016の環境で行う。

推奨パソコンスペック

OS : Windows10 (Home Edition以上)

Sモードは制約が多いため推奨いたしません。

Officeアプリ (Word、Excel等) は本学学生であれば入学後、無償でインストールができます。

Microsoftとの包括契約

CPU : Intel Core i5 (第10世代以降) またはAMD Ryzen 5 (第3世代以降) 以上

Wi-Fi : 必須 (Wi-Fi5 (11ac) 以上対応)

メモリ : 8GB以上

ディスク : 256GB以上 (SSD推奨)

Webカメラ : カメラ付き必須推奨

モニタ : 13インチ以上

バッテリー : 6時間程度は稼働可能なもの

< 授業時間外に必要な学修 >

各種機能の習得には提供される教材データを利用して、2時間程度の復習を行うこと。

また、日常的にタイピング練習を実施すること。

< 提出課題など >

技能習得確認のための中間テスト (第9回) ・実技テスト (第15回) ・タイピングテスト (第8回・第14回) を授業中に実施する。また、知識習得確認のためにオンラインテスト (第5回) を実施する。提示が必要な模範解答はdotCampusにて対応する。

その他、毎回授業で作成したファイルを、学内ネットワークシステムを利用して提出する。提示が必要な模範解答は配布ファイルで対応する。

< 成績評価方法・基準 >

学習活動評価40% ・各種テスト評価60%の割合で評価する。

定期試験は実施しない。

学習活動評価は以下とする

毎回の授業で作成した成果ファイルの提出
成果ファイルの完成度
授業への参加度

各種テストは以下とする

オンラインテスト・中間テスト・実技テスト・タイピングテスト2回

その他

毎回出席確認を行う。

授業回数の3分の2以上の出席が必要。そうでない場合は、単位を認定しない。

他人データの流用や作成データのコピー等不正行為が行われた場合、単位を認定しない。

< テキスト >

神戸学院大学情報支援事務室編集「情報活用の基礎2022年度版」

その他適宜、補足教材を配布する。

< 授業計画 >

第1回 授業や評価に関する案内

学内環境の確認とe-Learningについて

授業内容や評価に関する案内を行う。

授業で使用するパソコンの使用方法を確認し、学内ネットワーク及びe-Learningシステムの使用方法を実習する。

クラウドについて学び、ファイル保存を行う。

タイピング練習を開始する。

第2回 インターネット

情報モラルと情報セキュリティ・IoT・センサ・

Society 5.0・ビッグデータ・AI

Webページの取扱方法やコンピューターネットワークを

使用する上では常識として必要な知識である情報モラルや情報セキュリティに関する講義を行う。

またセンサからの膨大な情報（ビッグデータ）を人工知能（AI）が解析するしくみを講義する。

第3回

電子メール

電子メールの操作方法を実習する。また、将来の就職活動でも役立つように、礼儀正しい文章で利用すべきビジネスメールの演習を行う。（Outlook初期設定・署名・メール送受信・連絡先）

第4回 電子メール

電子メールの操作方法を実習する。また、将来の就職活動でも役立つように、礼儀正しい文章で利用すべきビジネスメールの演習を行う。（ビジネスメール・TO/CC/BCの使い分け・敬語）

第5回 オンラインテスト（知識）

ファイル管理

Office365について

第1～4回までの習得確認のためのオンラインテストを実施する。

必要なファイル管理操作を行い、Office365サービスについて理解する。

第6回 Word基礎

文書作成に必要な機能を実習する。但し、単に編集機能の実習を行うのではなく、作成すべき内容に適した文書作成ができるようになることを目的とした実習を行う。

（文字書式・段落書式・文字の効果・オンライン画像・作表）

第7回 Word基礎

文書作成に必要な機能を実習する。但し、単に編集機能の実習を行うのではなく、作成すべき内容に適した文書作成ができるようになることを目的とした実習を行う。

（図形描画・テキストボックス・スクリーンショット）

第8回 タイピングテスト

Word基礎復習演習

タイピング技術の習得確認の為、タイピングテストを実施する。

Word基礎範囲の復習演習を実施する。

第9回 中間テスト（実技）

ここまでのWord基礎技能習得確認のための中間テストを実施する。

第10回 Web検索と参考文献

レポートや論文作成のためのWeb検索と参考文献の表記の仕方を実習する。

第11回 Word応用

レポート作成に必要な機能を実習する。他科目でも課せられるレポート作成時に役立つ機能を習得する。（ページ設定・ヘッダーフッター・表紙・スタイル・Excelデータの活用）

第12回 Word応用

レポート作成に必要な機能を実習する。他科目でも課せられるレポート作成時に役立つ機能を習得する。（図表番号・脚注・段組み・タブ）

第13回 Word応用

（Web情報利用）

Word応用の習得技術の再確認とWeb情報の利用を実習する。

第14回 タイピングテスト

Word応用復習演習

タイピング技術の習得確認の為、タイピングテストを実施する。

Word応用範囲の復習演習を実施する。

第15回 実技テスト

ここまでのWord応用技能習得確認のための実技テストを実施する。

毎回 タイピング練習

成果ファイル提出

タイピング練習ソフトやWebサイトを使用して、正しい指使いでタッチタイピングができるようにタイピング練習を行い、記録を付ける。

2022年度 前期

1.0単位

基礎情報処理実習 A - 1【栄養管理】

濱本 季之、竹内 晶子

<授業の方法>

対面(講義・実習)

<授業の目的>

この科目は、全学DPが示す問題を発見・解決する能力の基盤となる知識や技術を身につけることを目的とする。

今やコンピューターは、ビジネスや日常生活に欠かすことのできない存在となった。スマートフォンやタブレット、ノートパソコンといった携帯機器を当たり前で使用し、社会を動かすことのできる時代である。しかし、その便利さと合わせてコンピューターウイルスを始めとした様々な危険性も持ち合わせている。同時に情報の偏りを知り、問題解決を図るための情報活用能力を身につける必要がある。

この科目では、学生がコンピューターの利便性と危険性の両方を理解し、社会に対応できるコンピューター力を身につけることを目標とする。

さらに、この科目では、知識面と技術面からますます発展していくインターネット社会に対応できる基礎的な力を身につけ、Society 5.0の社会を理解する。

知識面では、情報の特性や情報セキュリティに関する知識を習得し、危険を未然に回避することができるようになることを目的とする。

技術面では、ビジネスメールやワープロソフトMicrosoft Wordに関する操作・技術を学び、社会でも役立つビジネススキルを習得することを目的とする。特にレポート作成ではインターネット情報の取捨選択についても学び、獲得した知識や技能を総合的に活用できるようになることを目的とする。

また、この科目の担当者は実務経験のある教員である。企業においてSE（システムエンジニア）や情報処理関連分野の研修講師として10年以上の経験がある。常に最新の情報や技術を踏まえ、時に専門分野についてもわかりやすく伝えていきたい。

<到達目標>

1. パソコンに対する苦手意識がなくなる。
2. タッチタイピングで入力できる。
3. インターネットを利用して必要な情報を取捨選択できる。
4. Society 5.0で実現する社会を説明できる。
5. クラウドサービスを活用することができる。
5. ビジネスメールを作成し、就職活動にも役立てることができる。
6. ワープロソフトを使用して、目的に合った文書やレポート作成ができる。

<授業のキーワード>

タッチタイピング・情報セキュリティ・ビジネスメール・クラウドサービス・Society 5.0・IoT・AI・Microsoft Word

<授業の進め方>

すべての講義は実習室のパソコンを使用する実習を中心とした内容である。

毎回設定されているテーマに基づく機能習得を目指し、時間の許す限り復習も行う。

毎回授業の冒頭にタイピング練習を行い、スムーズなキー入力ができるようにスキルアップを目指す。

<履修するにあたって>

毎回、教科書と配布プリントを持参すること。

実習室のパソコンを使用する際、“ユーザー名(アカウント)”と“パスワード”が必要である。貸出用は無いので忘れないように注意すること。

遅刻するとパソコンの実習環境が整わなかったり、操作がわからなくなったりするため、遅刻しないように注意すること。

実習は原則として前回授業の受講を前提として行われる。欠席すると致命的になる場合があるため、欠席しないように注意すること。やむを得ない理由で欠席した場合は、次の授業までに自習しておくこと。

コンピューターは精密機器であるため、取り扱いについては十分注意すること。

教室内では飲食禁止。また、指定された座席に着席すること。

質問は電子メールでも受け付ける。電子メール操作は

授業において実習する。

その他すべて教員の指示に従うこと。不明な点があれば遠慮なく担当教員に尋ねること。

この講義は、Microsoft Windows10とMicrosoft Office 2016の環境で行う。

推奨パソコンスペック

OS: Windows10 (Home Edition以上)

Sモードは制約が多いため推奨いたしません。

Officeアプリ (Word、Excel等) は本学学生であれば入学後、無償でインストールができます。

Microsoftとの包括契約

CPU: Intel Core i5 (第10世代以降) またはAMD Ryzen 5 (第3世代以降) 以上

Wi-Fi: 必須 (Wi-Fi5 (11ac) 以上対応)

メモリ: 8GB以上

ディスク: 256GB以上 (SSD推奨)

Webカメラ: カメラ付き必須推奨

モニタ: 13インチ以上

バッテリー: 6時間程度は稼働可能なもの

<授業時間外に必要な学修>

各種機能の習得には提供される教材データを利用して、2時間程度の復習を行うこと。

また、日常的にタイピング練習を実施すること。

<提出課題など>

技能習得確認のための中間テスト (第9回) ・実技テスト (第15回) ・タイピングテスト (第8回・第14回) を授業中に実施する。また、知識習得確認のためにオンラインテスト (第5回) を実施する。提示が必要な模範解答はdotCampusにて対応する。

その他、毎回授業で作成したファイルを、学内ネットワークシステムを利用して提出する。提示が必要な模範解答は配布ファイルで対応する。

<成績評価方法・基準>

学習活動評価40% ・各種テスト評価60%の割合で評価する。

定期試験は実施しない。

学習活動評価は以下とする

毎回の授業で作成した成果ファイルの提出
成果ファイルの完成度
授業への参加度

各種テストは以下とする

オンラインテスト・中間テスト・実技テスト・タイピングテスト2回

その他

毎回出席確認を行う。

授業回数の3分の2以上の出席が必要。そうでない場

合は、単位を認定しない。

他人データの流用や作成データのコピー等不正行為が行われた場合、単位を認定しない。

<テキスト>

神戸学院大学情報支援事務室編集「情報活用の基礎2022年度版」

その他適宜、補足教材を配布する。

<授業計画>

第1回 授業や評価に関する案内

学内環境の確認とe-Learningについて

授業内容や評価に関する案内を行う。

授業で使用するパソコンの使用方法を確認し、学内ネットワーク及びe-Learningシステムの使用方法を実習する。

クラウドについて学び、ファイル保存を行う。

タイピング練習を開始する。

第2回 インターネット

情報モラルと情報セキュリティ・IoT・センサ・

Society 5.0・ビッグデータ・AI

Webページの取扱方法やコンピューターネットワークを使用する上では常識として必要な知識である情報モラルや情報セキュリティに関する講義を行う。

またセンサからの膨大な情報（ビッグデータ）を人工知能（AI）が解析するしくみを講義する。

第3回

電子メール

電子メールの操作方法を実習する。また、将来の就職活動でも役立つように、礼儀正しい文章で利用すべきビジネスメールの演習を行う。（Outlook初期設定・署名・メール送受信・連絡先）

第4回 電子メール

電子メールの操作方法を実習する。また、将来の就職活動でも役立つように、礼儀正しい文章で利用すべきビジネスメールの演習を行う。（ビジネスメール・TO/CC/BCの使い分け・敬語）

第5回 オンラインテスト（知識）

ファイル管理

Office365について

第1～4回までの習得確認のためのオンラインテストを実施する。

必要なファイル管理操作を行い、Office365サービスについて理解する。

第6回 Word基礎

文書作成に必要な機能を実習する。但し、単に編集機能の実習を行うのではなく、作成すべき内容に適した文書作成ができるようになることを目的とした実習を行う。

（文字書式・段落書式・文字の効果・オンライン画像・作表）

第7回 Word基礎

文書作成に必要な機能を実習する。但し、単に編集機能

の実習を行うのではなく、作成すべき内容に適した文書作成ができるようになることを目的とした実習を行う。

（図形描画・テキストボックス・スクリーンショット）

第8回 タイピングテスト

Word基礎復習演習

タイピング技術の習得確認の為、タイピングテストを実施する。

Word基礎範囲の復習演習を実施する。

第9回 中間テスト（実技）

ここまでのWord基礎技能習得確認のための中間テストを実施する。

第10回 Web検索と参考文献

レポートや論文作成のためのWeb検索と参考文献の表記の仕方を実習する。

第11回 Word応用

レポート作成に必要な機能を実習する。他科目でも課せられるレポート作成時に役立つ機能を習得する。（ページ設定・ヘッダーフッター・表紙・スタイル・Excelデータの活用）

第12回 Word応用

レポート作成に必要な機能を実習する。他科目でも課せられるレポート作成時に役立つ機能を習得する。（図表番号・脚注・段組み・タブ）

第13回 Word応用

（Web情報利用）

Word応用の習得技術の再確認とWeb情報の利用を実習する。

第14回 タイピングテスト

Word応用復習演習

タイピング技術の習得確認の為、タイピングテストを実施する。

Word応用範囲の復習演習を実施する。

第15回 実技テスト

ここまでのWord応用技能習得確認のための実技テストを実施する。

毎回 タイピング練習

成果ファイル提出

タイピング練習ソフトやWebサイトを使用して、正しい指使いでタッチタイピングができるようにタイピング練習を行い、記録を付ける。

2022年度 前期

1.0単位

基礎情報処理実習 C【栄養生命】

上村 千里

<授業の方法>

対面(講義・実習)

<授業の目的>

この科目は、全学DPが示す問題を発見・解決する能力の基盤となる知識や技術を身につけることを目的とする。今やコンピューターは、ビジネスや日常生活に欠かすことのできない存在となった。スマートフォンやタブレット、ノートパソコンといった携帯機器を当たり前で使用し、社会を動かすことのできる時代である。しかし、その便利さと合わせてコンピュータウイルスを始めとした様々な危険性も持ち合わせている。同時に情報の偏りを知り、問題解決を図るための情報活用能力を身につける必要がある。

この科目では、学生がコンピューターの利便性と危険性の両方を理解し、社会に対応できるコンピューター力を身に付けることを目標とする。

さらに、この科目では、知識面と技術面からますます発展していくインターネット社会に対応できる基礎的な力を身につけ、Society 5.0の社会を理解する。

知識面では、情報の特性や情報セキュリティに関する知識を習得し、危険を未然に回避することができるようになることを目的とする。

技術面では、ビジネスメールやワープロソフトMicrosoft Wordに関する操作・技術を学び、社会でも役立つビジネススキルを習得することを目的とする。特にレポート作成ではインターネット情報の取捨選択についても学び、獲得した知識や技能を総合的に活用できるようになることを目的とする。

また、この科目の担当者は実務経験のある教員である。企業においてSE（システムエンジニア）や情報処理関連分野の研修講師として10年以上の経験がある。常に最新の情報や技術を踏まえ、時に専門分野についてもわかりやすく伝えていきたい。

<到達目標>

1. パソコンに対する苦手意識がなくなる。
2. タッチタイピングで入力できる。
3. インターネットを利用して必要な情報を取捨選択できる。
4. Society 5.0で実現する社会を説明できる。
5. クラウドサービスを活用することができる。
5. ビジネスメールを作成し、就職活動にも役立てることができる。
6. ワープロソフトを使用して、目的に合った文書やレポート作成ができる。

<授業のキーワード>

タッチタイピング・情報セキュリティ・ビジネスメール・クラウドサービス・Society 5.0・IoT・AI・Microsoft Word

<授業の進め方>

すべての講義は実習室のパソコンを使用する実習を中心とした内容である。

毎回設定されているテーマに基づく機能習得を目指し、

時間の許す限り復習も行う。

毎回授業の冒頭にタイピング練習を行い、スムーズなキー入力ができるようにスキルアップを目指す。

<履修するにあたって>

毎回、教科書と配布プリントを持参すること。

実習室のパソコンを使用する際、“ユーザー名(アカウント)”と“パスワード”が必要である。貸出用は無いので忘れないように注意すること。

遅刻するとパソコンの実習環境が整わなかったり、操作がわからなくなったりするため、遅刻しないように注意すること。

実習は原則として前回授業の受講を前提として行われる。欠席すると致命的になる場合があるため、欠席しないように注意すること。やむを得ない理由で欠席した場合は、次の授業までに自習しておくこと。

コンピューターは精密機器であるため、取り扱いについては十分注意すること。

教室内では飲食禁止。また、指定された座席に着席すること。

質問は電子メールでも受け付ける。電子メール操作は授業において実習する。

推奨パソコンスペック

OS: Windows10 (Home Edition以上)

Sモードは制約が多いため推奨いたしません。

Officeアプリ (Word、Excel等) は本学学生であれば入学後、無償でインストールができます。

Microsoftとの包括契約

CPU: Intel Core i5 (第10世代以降) またはAMD Ryzen 5 (第3世代以降) 以上

Wi-Fi: 必須 (Wi-Fi5 (11ac) 以上対応)

メモリ: 8GB以上

ディスク: 256GB以上 (SSD推奨)

Webカメラ: カメラ付き必須推奨

モニター: 13インチ以上

バッテリー: 6時間程度は稼働可能なもの

その他すべて教員の指示に従うこと。不明な点があれば遠慮なく担当教員に尋ねること。

この講義は、Microsoft Windows10とMicrosoft Office 2016の環境で行う。

<授業時間外に必要な学修>

各種機能の習得には提供される教材データを利用して、2時間程度の復習を行うこと。

また、日常的にタイピング練習を実施すること。

<提出課題など>

技能習得確認のための中間テスト (第9回) ・実技テスト (第15回) ・タイピングテスト (第8回・第14回) を授業中に実施する。また、知識習得確認のためにオンラインテスト (第5回) を実施する。提示が必要な模範解答はdotCampusにて対応する。

その他、毎回授業で作成したファイルを、学内ネットワークシステムを利用して提出する。提示が必要な模範解答は配布ファイルで対応する。

<成績評価方法・基準>

学習活動評価40%・各種テスト評価60%の割合で評価する。

定期試験は実施しない。

学習活動評価は以下とする

毎回の授業で作成した成果ファイルの提出
成果ファイルの完成度
授業への参加度

各種テストは以下とする

オンラインテスト・中間テスト・実技テスト・タイピングテスト2回

その他

毎回出席確認を行う。

授業回数数の3分の2以上の出席が必要。そうでない場合は、単位を認定しない。

他人データの流用や作成データのコピー等不正行為が行われた場合、単位を認定しない。

<テキスト>

神戸学院大学情報支援事務室編集「情報活用の基礎2022年度版」

その他適宜、補足教材を配布する。

<授業計画>

第1回 授業や評価に関する案内

学内環境の確認とe-Learningについて

授業内容や評価に関する案内を行う。

授業で使用するパソコンの使用方法を確認し、学内ネットワーク及びe-Learningシステムの使用を実習する。

クラウドについて学び、ファイル保存を行う。

タイピング練習を開始する。

第2回 インターネット

情報モラルと情報セキュリティ・IoT・センサ・Society 5.0・ビッグデータ・AI

Webページの取扱方法やコンピューターネットワークを使用する上では常識として必要な知識である情報モラルや情報セキュリティに関する講義を行う。

またセンサからの膨大な情報（ビッグデータ）を人工知能（AI）が解析するしくみを講義する。

第3回 電子メール

電子メールの操作方法を実習する。また、将来の就職活動でも役立つように、礼儀正しい文章で利用すべきビジネスメールの演習を行う。（Outlook初期設定・署名・メール送受信・連絡先）

第4回 電子メール

電子メールの操作方法を実習する。また、将来の就職活

動でも役立つように、礼儀正しい文章で利用すべきビジネスメールの演習を行う。（ビジネスメール・TO/CC/BCCの使い分け・敬語）

第5回 オンラインテスト（知識）

ファイル管理

Office365について

第1～4回までの習得確認のためのオンラインテストを実施する。

必要なファイル管理操作を行い、Office365サービスについて理解する。

第6回 Word基礎

文書作成に必要な機能を実習する。但し、単に編集機能の実習を行うのではなく、作成すべき内容に適した文書作成ができるようになることを目的とした実習を行う。

（文字書式・段落書式・文字の効果・オンライン画像・作表）

第7回 Word基礎

文書作成に必要な機能を実習する。但し、単に編集機能の実習を行うのではなく、作成すべき内容に適した文書作成ができるようになることを目的とした実習を行う。

（図形描画・テキストボックス・スクリーンショット）

第8回 タイピングテスト

Word基礎復習演習

タイピング技術の習得確認の為、タイピングテストを実施する。

Word基礎範囲の復習演習を実施する。

第9回 中間テスト（実技）

ここまでのWord基礎技能習得確認のための中間テストを実施する。

第10回 Web検索と参考文献

レポートや論文作成のためのWeb検索と参考文献の表記の仕方を実習する。

第11回 Word応用

レポート作成に必要な機能を実習する。他科目でも課せられるレポート作成時に役立つ機能を習得する。（ページ設定・ヘッダーフッター・表紙・スタイル・Excelデータの活用）

第12回 Word応用

レポート作成に必要な機能を実習する。他科目でも課せられるレポート作成時に役立つ機能を習得する。（図表番号・脚注・段組み・タブ）

第13回 Word応用

（Web情報利用）

Word応用の習得技術の再確認とWeb情報の利用を実習する。

第14回 タイピングテスト

Word応用復習演習

タイピング技術の習得確認の為、タイピングテストを実施する。

Word応用範囲の復習演習を実施する。

第15回 実技テスト

ここまでのWord応用技能習得確認のための実技テストを実施する。

毎回 タイピング練習

成果ファイル提出

タイピング練習ソフトやWebサイトを使用して、正しい指使いでタッチタイピングができるようにタイピング練習を行い、記録を付ける。

2022年度 前期

1.0単位

基礎情報処理実習 (A)【経済】

梯 健太郎、永岡 久美子、沈 成輔

< 授業の方法 >

講義・実習

< 授業の目的 >

この科目は、共通教育科目のリテラシー科目群、情報分野に属しています。

全学 DP に掲げる、広い教養を身につけること、獲得した知識や技能をもって社会に貢献する力を身につけることを目的とします。

当講義では[学業に必要と考えられるレベルの PC 操作スキル]の習得を目指します。

知識面では OS やネットワーク、セキュリティ、情報モラルに関する基礎を、技能面ではタイピングに始まり、OS の基本操作、メールやブラウザの活用、基礎的なオフィスソフトの活用を学びます。

20 世紀後半から始まった ICT (情報・通信に関連する技術一般の総称) の急激な発展は、我々の社会に劇的な変化をもたらしました。

技術的には今も変化のうねりの渦中にありますが、社会に十分に浸透し、活用されている技術は、(別の大きなブレークスルーの出現までは) 今後も活用され続けると考えられます。

タブレットやスマートフォンなどの業務活用も広がっていますが、現時点では、PC を適切に操作できることは学業・社会生活に非常に有用な(もしくは必須の)技能です。

他講義から一定の習熟を期待される内容でもありますので、苦手意識を捨てて取り組んでいただきたいと思います。

なお、この授業は、実務経験のある教員が担当しています。IT 企業での業務を 9 年間、情報教育業務を 7 年間経験していますので、より実践的な観点から情報に関する知識・スキル等を解説します。

< 到達目標 >

・日本語 75 文字 / 分以上のスピードでタッチタイピングができる

・Windows において基本的なファイル・フォルダー操作を行える

・基本的なショートカットキーを使用して Windows を操作できる

・Word を利用し、1 ページで完結する体裁の整った文書を作成できる

・Excel を利用し、表計算ソフトの特徴を活かした(比較的少ない件数の)表及びグラフを作成できる

・PowerPoint を利用し、聞き手を意識したプレゼン資料を作成できる

・メールに関する基本的なマナーを知り、大学のメールシステムを活用できる

・圧縮と解凍について理解し、ファイルやフォルダーを圧縮・暗号化して受け渡すことができる

・インターネットのトラブル事例を知り、安全かつ価値的なネット活用を行える

・学内・学外の Wi-Fi 環境を適切かつ安全に活用できる

< 授業のキーワード >

タッチタイピング、エクスプローラー操作、圧縮と解凍、Wi-Fi

< 授業の進め方 >

実習を中心に講義を進めます。

テキストとして eラーニング教材「nanare」を利用します。

一部の回を除き、毎回、講義内で提示された課題を提出してもらいます。

< 履修するにあたって >

(1) 遅刻について

当講義は実習が中心となるため、遅刻者対応は授業を一時的に中断させるということを認識しておいてください。講義開始直後に着席していない学生は遅刻とみなします。

(2) 欠席について

欠席した場合は、次の講義までに必ず講義内容を自習してください。

講義開始 20 分以降に入室した学生は欠席とみなします。遅刻 3 回で欠席 1 回とし、欠席回数が全講義回数の 3 分の 1 を超えた場合は評価不能とみなします。

(3) アカウントについて

手元に届いているユーザーID、パスワードが記載されたハガキを必ず持参してください。

情報処理実習室の PC を利用する際に、ログイン用のユーザーID、パスワードが必要です。

紛失した場合は、必ず申し出てください。アカウントの貸し借りは厳禁です。

(4) 講義に臨む姿勢について

各学生の年度当初の PC 操作スキルには大きな開きがありますが、他人と比較することなく、自己のスキル向上に努めるようにしてください。

(5) タイピングについて

タイピングスピードの向上にはある程度の練習量が必要ですが、一度習得してしまえば、今後受講する様々な講義において課題やレポート作成の効率が上がります。できるだけ早い段階で練習時間を確保し、目標に達成することを勧めます。

(6) 学習環境について

eラーニング教材 nanare から試験問題も提出されますので、自宅で学習ができるような環境を整えることが望ましいです。

PC を所有していない人は購入することを推奨します。

なお、大学情報処理実習室の PC の OS は Windows であり、Windows を基本として説明を行います。

< 授業時間外に必要な学修 >

理解度確認問題（中間）と理解度確認問題（前期末）は、それぞれ eラーニング教材 nanare から出題されますので、指示された範囲を学習しておいてください。

当講義ではタイピングスキルを重視しています。頭で考えなくても指が自然に動くようになるまで、そう多くの期間は必要ありません。できるだけ日を置かず集中的に練習し、早めに目標に到達してください。コツ等は講義内で説明します。

・ 学習に要する時間目安

- eラーニング教材 nanare の学習：1~2 時間 / 週（個人差あり）

- タイピングの練習：10 分 / 日（個人差あり）
一定速度に達するまで

< 提出課題など >

講義内に提出する課題と、eラーニング教材 nanare の課題があります。

eラーニング教材 nanare の課題の完了期限は 4 回に分かれています。

1. 第 04 回講義日の前日 24 時までに 001-067 の範囲を学習済みにすること

2. 第 07 回講義日の前日 24 時までに 068-104 の範囲を学習済みにすること

3. 第 10 回講義日の前日 24 時までに 105-132 の範囲を学習済みにすること

4. 第 13 回講義日の前日 24 時までに 133-156 の範囲を学習済みにすること

eラーニング教材 nanare の課題のフィードバックは教

材の自動添削機能によって行い、講義時間内に質疑応答の時間を設けます。

講義内に提出する課題のフィードバックは講義時間内に行い、講義時間外においても解説や動画を Web サイトで閲覧できるようにします。内容によっては模範解答を紹介します。

< 成績評価方法・基準 >

以下の割合で総合的に評価します。

- eラーニング教材 nanare の課題：30 %

- 講義内に提出する課題：15 %

- タイピング試験：20 %

- 理解度確認問題（中間）：10 %

- 理解度確認問題（前期末）：25 %

単位取得には、期限を遵守した各課題の提出、タイピング練習、試験対策が必要です。

普段の取り組みが評点に反映されやすくなるよう、各試験は eラーニング教材 nanare から抜粋して出題します。

< テキスト >

eラーニング教材「nanare」2021 年度版

教材費 3,500 円は初回登校日に講義内で徴収します。

忘れないように持参してください。

遠隔申請者には第 1 回の講義内で支払い方法を案内します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンスとタイピング計測

- 当講義の意義、進め方、注意事項、単位の評価基準などについて理解する。

- eラーニング教材 nanare の学習の流れ、課題の提出方法について理解する。

- タイピングスピードを測定し、今後の目標を設定する。

- nanare の主な学習内容：ウィンドウ操作など最も初歩的な PC 操作

第2回 基本的なウィンドウ操作とタッチタイピング

- タッチタイピングを習得するためのコツや練習方法について理解する。

- nanare の主な学習内容：（Word）行と段落の違いや適切な文字列の配置、画像の挿入

第3回 覚えておきたい Windows の機能と文書の新規作成

- ショートカットキーや IME 辞書の活用など、Windows の提供する作業効率向上のための機能について実習する。

- Word を利用して文書を新規作成し、ページ設定、名前を付けて保存する方法を理解する。

- nanare の主な学習内容：（Excel）セルへの値の入力や結合といった基本的なセル操作

第4回 電子メールの活用

- 電子メールの一般的な利用方法とマナー、及び学内 Web メール環境の操作について実習する。

- nanare の主な学習内容：(PowerPoint) スライドの作成・編集

第5回 効果的なプレゼン資料の作成(1)

- 聞き手が理解しやすいプレゼン資料のアウトラインを作成、実習する。

- nanare の主な学習内容：(Excel) セルの書式設定、計算式の入力

第6回 効果的なプレゼン資料の作成(2)

- 効果的なプレゼン資料作成について実習し、発表中のスライドの切り替えやノートの利用について実践感覚を掴む。

- nanare の主な学習内容：(Word) 表の挿入、編集と検索、置換

第7回 ネット利用に関するトラブル事例

インターネット利用に関する各種のトラブル事例を確認し、プライバシーやセキュリティを意識した、トラブルに巻き込まれにくいネット活用姿勢について学習する。

- nanare の主な学習内容：(Excel) 関数の利用、印刷範囲の設定

第8回 理解度確認問題(中間)

テスト形式で当該回までの理解度を確認する。

- nanare の主な学習内容：(Word) インデント・箇条書き・段落番号といった段落の編集、書式のコピー・貼り付けなどの操作

第9回 ファイルの圧縮と解凍

- 圧縮ファイルの形式や特徴について理解を深め、Windows 標準機能や圧縮解凍アプリを用い、ファイルやフォルダーの圧縮・解凍、暗号化について実習する。

- nanare の主な学習内容：(Excel) 簡単なグラフの作成、各要素の表示・非表示の切り替え

第10回 エクスプローラー操作の基礎

- 階層構造の概念を理解し、ファイル・フォルダーの基本操作を習得する。

- nanare の主な学習内容：(Word) 各種オブジェクトの追加と編集

第11回 エクスプローラー操作の応用

- ファイル・フォルダーの応用的な操作(特に多くのファイルを効率的に扱う操作)を習得する。

- nanare の主な学習内容：(Word) 表の編集と効率的な表の作成(Excel)さまざまなオートフィル

第12回 Word 印刷実習

- Word の印刷時の調整と、発生しやすいトラブル及びその解決方法について実習する。

- PDF ファイルの特徴と活用について理解する。

- nanare の主な学習内容：(Excel) 基本的な関数とセル参照、絶対参照

第13回 [対面]

理解度確認問題(前期末)とタイピング試験

[遠隔]

Wi-Fi の安全な利用

- [対面]

当該回までの eラーニング教材 nanare の課題の理解度を試験形式で確認する。

タイピング試験を実施する。

- [遠隔]

無線LAN(Wi-Fi)の基本的な構成と接続方法、また公共のWi-Fi環境を利用する際の注意事項について理解する。

- nanare の主な学習内容：(一般知識)n 進数、文字コード、解像度

第14回 [対面・遠隔申請者]

理解度確認問題(前期末)とタイピング試験

[遠隔]

Wi-Fi の安全な利用

- [対面・遠隔申請者]

当該回までの eラーニング教材 nanare の課題の理解度を試験形式で確認する。

タイピング試験を実施する。

- [遠隔]

無線LAN(Wi-Fi)の基本的な構成と接続方法、また公共のWi-Fi環境を利用する際の注意事項について理解する。

第15回 問題解決実習

- 特定のテーマ(問題)について、それらを手持ちのソフトウェア(道具)を利用して解決する実習を行う。

- [テーマの例]家計簿

2022年度 前期

1.0単位

基礎情報処理実習 (A)【経営】

上村 千里、濱本 季之、中原 伸子

<授業の方法>

対面(講義・実習)

<授業の目的>

この科目は、全学DPが示す問題を発見・解決する能力の基盤となる知識や技術を身につけることを目的とする。今やコンピューターは、ビジネスや日常生活に欠かすことのできない存在となった。スマートフォンやタブレット、ノートパソコンといった携帯機器を当たり前で使用し、社会を動かすことのできる時代である。しかし、その便利さと合わせてコンピュータウイルスを始めとした様々な危険性も持ち合わせている。同時に情報の偏りを知り、問題解決を図るための情報活用能力を身につける必要がある。

この科目では、学生がコンピューターの利便性と危険性の両方を理解し、社会に対応できるコンピューター力を身につけることを目標とする。

さらに、この科目では、知識面と技術面からますます発展していくインターネット社会に対応できる基礎的な力

を身につけ、Society 5.0の社会を理解する。

知識面では、情報の特性や情報セキュリティに関する知識を習得し、危険を未然に回避することができるようになることを目的とする。

技術面では、ビジネスメールやワープロソフトMicrosoft Wordに関する操作・技術を学び、社会でも役立つビジネススキルを習得することを目的とする。特にレポート作成ではインターネット情報の取捨選択についても学び、獲得した知識や技能を総合的に活用できるようになることを目的とする。

また、この科目の担当者は実務経験のある教員である。企業においてSE（システムエンジニア）や情報処理関連分野の研修講師として10年以上の経験がある。常に最新の情報や技術を踏まえ、時に専門分野についてもわかりやすく伝えていきたい。

<到達目標>

1. パソコンに対する苦手意識がなくなる。
2. タッチタイピングで入力できる。
3. インターネットを利用して必要な情報を取捨選択できる。
4. Society 5.0で実現する社会を説明できる。
5. クラウドサービスを活用することができる。
5. ビジネスメールを作成し、就職活動にも役立てることができる。
6. ワープロソフトを使用して、目的に合った文書やレポート作成ができる。

<授業のキーワード>

タッチタイピング・情報セキュリティ・ビジネスメール・クラウドサービス・Society 5.0・IoT・AI・Microsoft Word

<授業の進め方>

すべての講義は実習室のパソコンを使用する実習を中心とした内容である。

毎回設定されているテーマに基づく機能習得を目指し、時間の許す限り復習も行う。

毎回授業の冒頭にタイピング練習を行い、スムーズなキー入力ができるようにスキルアップを目指す。

<履修するにあたって>

毎回、教科書と配布プリントを持参すること。

実習室のパソコンを使用する際、“ユーザー名(アカウント)”と“パスワード”が必要である。貸出用は無いので忘れないように注意すること。

遅刻するとパソコンの実習環境が整わなかったり、操作がわからなくなったりするため、遅刻しないように注意すること。

実習は原則として前回授業の受講を前提として行われる。欠席すると致命的になる場合があるため、欠席しないように注意すること。やむを得ない理由で欠席した場合は、次の授業までに自習しておくこと。

コンピューターは精密機器であるため、取り扱いにつ

いては十分注意すること。

教室内では飲食禁止。また、指定された座席に着席すること。

質問は電子メールでも受け付ける。電子メール操作は授業において実習する。

推奨パソコンスペック

OS: Windows10 (Home Edition以上)

Sモードは制約が多いため推奨いたしません。

Officeアプリ (Word、Excel等) は本学学生であれば入学後、無償でインストールができます。

Microsoftとの包括契約

CPU: Intel Core i5 (第10世代以降) またはAMD Ryzen 5 (第3世代以降) 以上

Wi-Fi: 必須 (Wi-Fi5 (11ac) 以上対応)

メモリ: 8GB以上

ディスク: 256GB以上 (SSD推奨)

Webカメラ: カメラ付き必須推奨

モニタ: 13インチ以上

バッテリー: 6時間程度は稼働可能なもの

その他すべて教員の指示に従うこと。不明な点があれば遠慮なく担当教員に尋ねること。

この講義は、Microsoft Windows10とMicrosoft Office 2016の環境で行う。

<授業時間外に必要な学修>

各種機能の習得には提供される教材データを利用して、2時間程度の復習を行うこと。

また、日常的にタイピング練習を実施すること。

<提出課題など>

技能習得確認のための中間テスト (第9回) ・実技テスト (第15回) ・タイピングテスト (第8回・第14回) を授業中に実施する。また、知識習得確認のためにオンラインテスト (第5回) を実施する。提示が必要な模範解答はdotCampusにて対応する。

その他、毎回授業で作成したファイルを、学内ネットワークシステムを利用して提出する。提示が必要な模範解答は配布ファイルで対応する。

<成績評価方法・基準>

学習活動評価40% ・各種テスト評価60%の割合で評価する。

定期試験は実施しない。

学習活動評価は以下とする

毎回の授業で作成した成果ファイルの提出
成果ファイルの完成度
授業への参加度

各種テストは以下とする

オンラインテスト・中間テスト・実技テスト・タイピングテスト2回

その他

毎回出席確認を行う。

授業回数の3分の2以上の出席が必要。そうでない場合は、単位を認定しない。

他人データの流用や作成データのコピー等不正行為が行われた場合、単位を認定しない。

<テキスト>

神戸学院大学情報支援事務局編集「情報活用の基礎2022年度版」

その他適宜、補足教材を配布する。

<授業計画>

第1回 授業や評価に関する案内

学内環境の確認とe-Learningについて

授業内容や評価に関する案内を行う。

授業で使用するパソコンの使用方法を確認し、学内ネットワーク及びe-Learningシステムの使用方法を実習する。クラウドについて学び、ファイル保存を行う。

タイピング練習を開始する。

第2回 インターネット

情報モラルと情報セキュリティ・IoT・センサ・Society 5.0・ビッグデータ・AI

Webページの取扱方法やコンピューターネットワークを使用する上では常識として必要な知識である情報モラルや情報セキュリティに関する講義を行う。

またセンサからの膨大な情報（ビッグデータ）を人工知能（AI）が解析するしくみを講義する。

第3回 電子メール

電子メールの操作方法を実習する。また、将来の就職活動でも役立つように、礼儀正しい文章で利用すべきビジネスメールの演習を行う。（Outlook初期設定・署名・メール送受信・連絡先）

第4回 電子メール

電子メールの操作方法を実習する。また、将来の就職活動でも役立つように、礼儀正しい文章で利用すべきビジネスメールの演習を行う。（ビジネスメール・TO/CC/BCの使い分け・敬語）

第5回 オンラインテスト（知識）

ファイル管理

Office365について

第1～4回までの習得確認のためのオンラインテストを実施する。

必要なファイル管理操作を行い、Office365サービスについて理解する。

第6回 Word基礎

文書作成に必要な機能を実習する。但し、単に編集機能の実習を行うのではなく、作成すべき内容に適した文書作成ができるようになることを目的とした実習を行う。

（文字書式・段落書式・文字の効果・オンライン画像・作表）

第7回 Word基礎

文書作成に必要な機能を実習する。但し、単に編集機能の実習を行うのではなく、作成すべき内容に適した文書作成ができるようになることを目的とした実習を行う。

（図形描画・テキストボックス・スクリーンショット）

第8回 タイピングテスト

Word基礎復習演習

タイピング技術の習得確認の為、タイピングテストを実施する。

Word基礎範囲の復習演習を実施する。

第9回 中間テスト（実技）

ここまでのWord基礎技能習得確認のための中間テストを実施する。

第10回 Web検索と参考文献

レポートや論文作成のためのWeb検索と参考文献の表記の仕方を実習する。

第11回 Word応用

レポート作成に必要な機能を実習する。他科目でも課せられるレポート作成時に役立つ機能を習得する。（ページ設定・ヘッダーフッター・表紙・スタイル・Excelデータの活用）

第12回 Word応用

レポート作成に必要な機能を実習する。他科目でも課せられるレポート作成時に役立つ機能を習得する。（図表番号・脚注・段組み・タブ）

第13回 Word応用

（Web情報利用）

Word応用の習得技術の再確認とWeb情報の利用を実習する。

第14回 タイピングテスト

Word応用復習演習

タイピング技術の習得確認の為、タイピングテストを実施する。

Word応用範囲の復習演習を実施する。

第15回 実技テスト

ここまでのWord応用技能習得確認のための実技テストを実施する。

毎回 タイピング練習

成果ファイル提出

タイピング練習ソフトやWebサイトを使用して、正しい指使いでタッチタイピングができるようにタイピング練習を行い、記録を付ける。

2022年度 前期

1.0単位

基礎情報処理実習 (C)【現社】

河下 真佐代、寄木 知子、小野原 登美子

<授業の方法>

講義・実習

< 授業の目的 >

この科目は、共通教育科目のリテラシー科目群、情報分野に属しています。

全学 DP に掲げる、広い教養を身につけること、獲得した知識や技能をもって社会に貢献する力を身につけることを目的とします。

当講義では [学業に必要なと考えられるレベルの PC 操作スキル] の習得を目指します。

知識面では OS やネットワーク、セキュリティ、情報モラルに関する基礎を、技能面ではタイピングに始まり、OS の基本操作、メールやブラウザの活用、基礎的なオフィスソフトの活用を学びます。

20 世紀後半から始まった ICT (情報・通信に関連する技術一般の総称) の急激な発展は、我々の社会に劇的な変化をもたらしました。

技術的には今も変化のうねりの渦中にありますが、社会に十分に浸透し、活用されている技術は、(別の大きなブレークスルーの出現までは) 今後も活用され続けると考えられます。

タブレットやスマートフォンなどの業務活用も広がっていますが、現時点では、PC を適切に操作できることは学業・社会生活に非常に有用な (もしくは必須の) 技能です。

他講義から一定の習熟を期待される内容でもありますので、苦手意識を捨てて取り組んでいただきたいと思います。

なお、この授業は、実務経験のある教員が担当しています。IT 企業での業務を 20 年、情報教育業務は 10 年経験していますので、実務経験を生かした実践的な観点から情報に関する知識・スキル等を解説します。

< 到達目標 >

- ・日本語 75 文字 / 分以上のスピードでタッチタイピングができる
- ・Windows において基本的なファイル・フォルダー操作を行える
- ・基本的なショートカットキーを使用して Windows を操作できる
- ・Word を利用し、1 ページで完結する体裁の整った文書を作成できる
- ・Excel を利用し、表計算ソフトの特徴を活かした (比較的少ない件数の) 表及びグラフを作成できる
- ・PowerPoint を利用し、聞き手を意識したプレゼン資料を作成できる
- ・メールに関する基本的なマナーを知り、大学のメールシステムを活用できる
- ・圧縮と解凍について理解し、ファイルやフォルダーを圧縮・暗号化して受け渡しできる

・インターネットのトラブル事例を知り、安全かつ価値的なネット活用を行える

・学内・学外の Wi-Fi 環境を適切かつ安全に活用できる

< 授業のキーワード >

タッチタイピング、エクスプローラー操作、圧縮と解凍、Wi-Fi

< 授業の進め方 >

実習を中心に講義を進めます。

テキストとして eラーニング教材「nanare」を利用します。

一部の回を除き、毎回、講義内で提示された課題を提出してもらいます。

< 履修するにあたって >

(1) 遅刻について

当講義は実習が中心となるため、遅刻者対応は授業を一時的に中断させるということを認識しておいてください。講義開始直後に着席していない学生は遅刻とみなします。

(2) 欠席について

欠席した場合は、次の講義までに必ず講義内容を自習してください。

講義開始 20 分以降に入室した学生は欠席とみなします。遅刻 3 回で欠席 1 回とし、欠席回数が全講義回数の 3 分の 1 を超えた場合は評価不能とみなします。

(3) アカウントについて

手元に届いているユーザーID、パスワードが記載されたハガキを必ず持参してください。

情報処理実習室の PC を利用する際に、ログイン用のユーザーID、パスワードが必要です。

紛失した場合は、必ず申し出てください。アカウントの貸し借りは厳禁です。

(4) 講義に臨む姿勢について

各学生の年度当初の PC 操作スキルには大きな開きがありますが、他人と比較することなく、自己のスキル向上に努めるようにしてください。

(5) タイピングについて

タイピングスピードの向上にはある程度の練習量が必要ですが、一度習得してしまえば、今後受講する様々な講義において課題やレポート作成の効率が上がります。できるだけ早い段階で練習時間を確保し、目標に達成することを勧めます。

(6) 学習環境について

eラーニング教材 nanare から試験問題も提出されますので、自宅で学習ができるような環境を整えることが望ましいです。

PC を所有していない人は購入することを推奨します。
なお、大学情報処理実習室の PC の OS は Windows であり、Windows を基本として説明を行います。

< 授業時間外に必要な学修 >

理解度確認問題（中間）と理解度確認問題（前期末）は、それぞれ eラーニング教材 nanare から出題されますので、指示された範囲を学習しておいてください。

当講義ではタイピングスキルを重視しています。頭で考えなくても指が自然に動くようになるまで、そう多くの期間は必要ありません。できるだけ日を置かず集中的に練習し、早めに目標に到達してください。コツ等は講義内で説明します。

・ 学習に要する時間目安

- eラーニング教材 nanare の学習：1~2 時間/週（個人差あり）

- タイピングの練習：10 分/日（個人差あり）

一定速度に達するまで

< 提出課題など >

講義内に提出する課題と、eラーニング教材 nanare の課題があります。

eラーニング教材 nanare の課題の完了期限は 4 回に分かれています。

1. 第 04 回講義日の前日 24 時までに 001-067 の範囲を学習済みにすること

2. 第 07 回講義日の前日 24 時までに 068-104 の範囲を学習済みにすること

3. 第 10 回講義日の前日 24 時までに 105-132 の範囲を学習済みにすること

4. 第 13 回講義日の前日 24 時までに 133-156 の範囲を学習済みにすること

eラーニング教材 nanare の課題のフィードバックは教材の自動添削機能によって行い、講義時間内に質疑応答の時間を設けます。

講義内に提出する課題のフィードバックは講義時間内に行い、講義時間外においても解説や動画を Web サイトで閲覧できるようにします。内容によっては模範解答を紹介します。

< 成績評価方法・基準 >

以下の割合で総合的に評価します。

- eラーニング教材 nanare の課題：30 %

- 講義内に提出する課題：15 %

- タイピング試験：20 %

- 理解度確認問題（中間）：10 %

- 理解度確認問題（前期末）：25 %

単位取得には、期限を遵守した各課題の提出、タイピング練習、試験対策が必要です。

普段の取り組みが評点に反映されやすくなるよう、各試

験は eラーニング教材 nanare から抜粋して出題します。

< テキスト >

eラーニング教材「nanare」2021 年度版

教材費 3,500 円は初回登校日に講義内で徴収します。

忘れないように持参してください。

遠隔申請者には第 1 回の講義内で支払い方法を案内します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンスとタイピング計画

- 当講義の意義、進め方、注意事項、単位の評価基準などについて理解する。

- eラーニング教材 nanare の学習の流れ、課題の提出方法について理解する。

- タイピングスピードを測定し、今後の目標を設定する。

- nanare の主な学習内容： ウィンドウ操作など最も初歩的な PC 操作

第2回 基本的なウィンドウ操作とタッチタイピング

- タッチタイピングを習得するためのコツや練習方法について理解する。

- nanare の主な学習内容：（Word）行と段落の違いや適切な文字列の配置、画像の挿入

第3回 覚えておきたい Windows の機能と文書の新規作成

- ショートカットキーや IME 辞書の活用など、Windows の提供する作業効率向上のための機能について実習する。

- Word を利用して文書を新規作成し、ページ設定、名前を付けて保存する方法を理解する。

- nanare の主な学習内容：（Excel）セルへの値の入力や結合といった基本的なセル操作

第4回 電子メールの活用

- 電子メールの一般的な利用方法とマナー、及び学内 Webメール環境の操作について実習する。

- nanare の主な学習内容：（PowerPoint）スライドの作成・編集

第5回 効果的なプレゼン資料の作成（1）

- 聞き手が理解しやすいプレゼン資料のアウトラインを作成、実習する。

- nanare の主な学習内容：（Excel）セルの書式設定、計算式の入力

第6回 効果的なプレゼン資料の作成（2）

- 効果的なプレゼン資料作成について実習し、発表中のスライドの切り替えやノートの利用について実践感覚を掴む。

- nanare の主な学習内容：（Word）表の挿入・編集と検索・置換

第7回 ネット利用に関するトラブル事例

- インターネット利用に関する各種のトラブル事例を確認し、プライバシーやセキュリティを意識した、トラブルに巻き込まれにくいネット活用姿勢について学習する。

- nanare の主な学習内容：(Excel)関数の利用、印刷範囲の設定

第8回 理解度確認問題(中間)

- テスト形式で当該回までの理解度を確認する。

- nanare の主な学習内容：(Word)インデント・箇条書き・段落番号といった段落の編集、書式のコピー・貼り付けなどの操作

第9回 ファイルの圧縮と解凍

- 圧縮ファイルの形式や特徴について理解を深め、Windows 標準機能や圧縮解凍アプリを用い、ファイルやフォルダーの圧縮・解凍、暗号化について実習する。

- nanare の主な学習内容：(Excel)簡単なグラフの作成、各要素の表示・非表示の切り替え

第10回 エクスプローラー操作の基礎

- 階層構造の概念を理解し、ファイル・フォルダーの基本操作を習得する。

- nanare の主な学習内容：(Word)各種オブジェクトの追加と編集

第11回 エクスプローラー操作の応用

- ファイル・フォルダーの応用的な操作(特に多くのファイルを効率的に扱う操作)を習得する。

- nanare の主な学習内容：(Word)表の編集と効率的な表の作成(Excel)さまざまなオートフィル

第12回 Word 印刷実習

- Word の印刷時の調整と、発生しやすいトラブル及びその解決方法について実習する。

- PDF ファイルの特徴と活用について理解する。

- nanare の主な学習内容：(Excel)基本的な関数とセル参照、絶対参照

第13回 Wi-Fi の安全な利用

- 無線LAN(Wi-Fi)の基本的な構成と接続方法、また公共のWi-Fi環境を利用する際の注意事項について理解する。

- nanare の主な学習内容：(一般知識)n進数、文字コード、解像度

第14回 理解度確認問題(前期末)とタイピング試験

- 当該回までのeラーニング教材 nanare の課題の理解度を試験形式で確認する。

- タイピング試験を実施する。

第15回 問題解決実習

- 特定のテーマ(問題)について、それらを手持ちのソフトウェア(道具)を利用して解決する実習を行う。

- [テーマの例]家計簿

2022年度 前期

1.0単位

基礎情報処理実習 (A)【GC】

沈 成輔、永岡 久美子、梯 健太郎

<授業の方法>

講義・実習

<授業の目的>

この科目は、共通教育科目のリテラシー科目群、情報分野に属しています。

全学 DP に掲げる、広い教養を身につけること、獲得した知識や技能をもって社会に貢献する力を身につけることを目的とします。

当講義では[学業に必要と考えられるレベルのPC操作スキル]の習得を目指します。

知識面ではOSやネットワーク、セキュリティ、情報モラルに関する基礎を、技能面ではタイピングに始まり、OSの基本操作、メールやブラウザの活用、基礎的なオフィスソフトの活用を学びます。

20世紀後半から始まったICT(情報・通信に関連する技術一般の総称)の急激な発展は、我々の社会に劇的な変化をもたらしました。

技術的には今も変化のうねりの渦中にありますが、社会に十分に浸透し、活用されている技術は、(別の大きなブレイクスルーの出現までは)今後も活用され続けると考えられます。

タブレットやスマートフォンなどの業務活用も広がっていますが、現時点では、PCを適切に操作できることは学業・社会生活に非常に有用な(もしくは必須の)技能です。

他講義から一定の習熟を期待される内容でもありますが、苦手意識を捨てて取り組んでいただきたいと思います。

なお、この授業は、実務経験のある教員が担当しています。IT企業での業務を8年間、情報教育業務を6年間経験していますので、より実践的な観点から情報に関する知識・スキル等を解説します。

<到達目標>

・日本語 75文字/分以上のスピードでタッチタイピングができる

・Windowsにおいて基本的なファイル・フォルダー操作を行える

・基本的なショートカットキーを使用してWindowsを操作できる

・Wordを利用し、1ページで完結する体裁の整った文書を作成できる

- ・Excel を利用し、表計算ソフトの特徴を活かした（比較的少ない件数の）表及びグラフを作成できる
- ・PowerPoint を利用し、聞き手を意識したプレゼン資料を作成できる
- ・メールに関する基本的なマナーを知り、大学のメールシステムを活用できる
- ・圧縮と解凍について理解し、ファイルやフォルダーを圧縮・暗号化して受け渡しできる
- ・インターネットのトラブル事例を知り、安全かつ価値的なネット活用を行える
- ・学内・学外の Wi-Fi 環境を適切かつ安全に活用できる

< 授業のキーワード >

タッチタイピング、エクスプローラー操作、圧縮と解凍、Wi-Fi

< 授業の進め方 >

実習を中心に講義を進めます。

テキストとして eラーニング教材「nanare」を利用します。

一部の回を除き、毎回、講義内で提示された課題を提出してもらいます。

< 履修するにあたって >

(1) 遅刻について

当講義は実習が中心となるため、遅刻者対応は授業を一時的に中断させるということを認識しておいてください。講義開始直後に着席していない学生は遅刻とみなします。

(2) 欠席について

欠席した場合は、次の講義までに必ず講義内容を自習してください。

講義開始 20 分以降に入室した学生は欠席とみなします。遅刻 3 回で欠席 1 回とし、欠席回数が全講義回数の 3 分の 1 を超えた場合は評価不能とみなします。

(3) アカウントについて

手元に届いているユーザーID、パスワードが記載されたハガキを必ず持参してください。

情報処理実習室の PC を利用する際に、ログイン用のユーザーID、パスワードが必要です。

紛失した場合は、必ず申し出てください。アカウントの貸し借りは厳禁です。

(4) 講義に臨む姿勢について

各学生の年度当初の PC 操作スキルには大きな開きがありますが、他人と比較することなく、自己のスキル向上に努めるようにしてください。

(5) タイピングについて

タイピングスピードの向上にはある程度の練習量が必要ですが、一度習得してしまえば、今後受講する様々な講

義において課題やレポート作成の効率が上がります。できるだけ早い段階で練習時間を確保し、目標に達成することを勧めます。

(6) 学習環境について

eラーニング教材 nanare から試験問題も提出されますので、自宅で学習ができるような環境を整えることが望ましいです。

PC を所有していない人は購入することを推奨します。なお、大学情報処理実習室の PC の OS は Windows であり、Windows を基本として説明を行います。

< 授業時間外に必要な学修 >

理解度確認問題（中間）と理解度確認問題（前期末）は、それぞれ eラーニング教材 nanare から出題されますので、指示された範囲を学習しておいてください。

当講義ではタイピングスキルを重視しています。頭で考えなくても指が自然に動くようになるまで、そう多くの期間は必要ありません。できるだけ日を置かず集中的に練習し、早めに目標に到達してください。コツ等は講義内で説明します。

・学習に要する時間目安

- eラーニング教材 nanare の学習：1~2 時間 / 週（個人差あり）

- タイピングの練習：10 分 / 日（個人差あり）
一定速度に達するまで

< 提出課題など >

講義内に提出する課題と、eラーニング教材 nanare の課題があります。

eラーニング教材 nanare の課題の完了期限は 4 回に分かれています。

1. 第 04 回講義日の前日 24 時までに 001-067 の範囲を学習済みにすること

2. 第 07 回講義日の前日 24 時までに 068-104 の範囲を学習済みにすること

3. 第 10 回講義日の前日 24 時までに 105-132 の範囲を学習済みにすること

4. 第 13 回講義日の前日 24 時までに 133-156 の範囲を学習済みにすること

eラーニング教材 nanare の課題のフィードバックは教材の自動添削機能によって行い、講義時間内に質疑応答の時間を設けます。

講義内に提出する課題のフィードバックは講義時間内に行い、講義時間外においても解説や動画を Web サイトで閲覧できるようにします。内容によっては模範解答を紹介します。

< 成績評価方法・基準 >

以下の割合で総合的に評価します。

- eラーニング教材 nanare の課題：30 %
- 講義内に提出する課題：15 %
- タイピング試験：20 %
- 理解度確認問題（中間）：10 %
- 理解度確認問題（前期末）：25 %

単位取得には、期限を遵守した各課題の提出、タイピング練習、試験対策が必要です。

普段の取り組みが評点に反映されやすくなるよう、各試験は eラーニング教材 nanare から抜粋して出題します。

<テキスト>

eラーニング教材「nanare」2021 年度版

教材費 3,500 円は初回登校日に講義内で徴収します。

忘れないように持参してください。

遠隔申請者には第 1 回の講義内で支払い方法を案内します。

<授業計画>

第1回 ガイダンスとタイピング計測

- 当講義の意義、進め方、注意事項、単位の評価基準などについて理解する。
- eラーニング教材 nanare の学習の流れ、課題の提出方法について理解する。

- タイピングスピードを測定し、今後の目標を設定する。

- nanare の主な学習内容：ウィンドウ操作など最も初歩的な PC 操作

第2回 基本的なウィンドウ操作とタッチタイピング

- タッチタイピングを習得するためのコツや練習方法について理解する。

- nanare の主な学習内容：（Word）行と段落の違いや適切な文字列の配置、画像の挿入

第3回 覚えておきたい Windows の機能と文書の新規作成

- ショートカットキーや IME 辞書の活用など、Windows の提供する作業効率向上のための機能について実習する。

- Word を利用して文書を新規作成し、ページ設定、名前を付けて保存する方法を理解する。

- nanare の主な学習内容：（Excel）セルへの値の入力や結合といった基本的なセル操作

第4回 電子メールの活用

- 電子メールの一般的な利用方法とマナー、及び学内 Webメール環境の操作について実習する。

- nanare の主な学習内容：（PowerPoint）スライドの作成・編集

第5回 効果的なプレゼン資料の作成（1）

- 聞き手が理解しやすいプレゼン資料のアウトラインを作成、実習する。

- nanare の主な学習内容：（Excel）セルの書式設定、計算式の入力

第6回 効果的なプレゼン資料の作成（2）

- 効果的なプレゼン資料作成について実習し、発表中のスライドの切り替えやノートの利用について実践感覚を掴む。

- nanare の主な学習内容：（Word）表の挿入、編集と検索、置換

第7回 ネット利用に関するトラブル事例

インターネット利用に関する各種のトラブル事例を確認し、プライバシーやセキュリティを意識した、トラブルに巻き込まれにくいネット活用姿勢について学習する。

- nanare の主な学習内容：（Excel）関数の利用、印刷範囲の設定

第8回 理解度確認問題（中間）

テスト形式で当該回までの理解度を確認する。

- nanare の主な学習内容：（Word）インデント・箇条書き・段落番号といった段落の編集、書式のコピー・貼り付けなどの操作

第9回 ファイルの圧縮と解凍

- 圧縮ファイルの形式や特徴について理解を深め、Windows 標準機能や圧縮解凍アプリを用い、ファイルやフォルダーの圧縮・解凍、暗号化について実習する。

- nanare の主な学習内容：（Excel）簡単なグラフの作成、各要素の表示・非表示の切り替え

第10回 エクスプローラー操作の基礎

- 階層構造の概念を理解し、ファイル・フォルダーの基本操作を習得する。

- nanare の主な学習内容：（Word）各種オブジェクトの追加と編集

第11回 エクスプローラー操作の応用

- ファイル・フォルダーの応用的な操作（特に多くのファイルを効率的に扱う操作）を習得する。

- nanare の主な学習内容：（Word）表の編集と効率的な表の作成（Excel）さまざまなオートフィル

第12回 Word 印刷実習

- Word の印刷時の調整と、発生しやすいトラブル及びその解決方法について実習する。

- PDF ファイルの特徴と活用について理解する。

- nanare の主な学習内容：（Excel）基本的な関数とセル参照、絶対参照

第13回 問題解決実習

- 特定のテーマ（問題）について、それらを手持ちのソフトウェア（道具）を利用して解決する実習を行う。

- [テーマの例] 家計簿

- nanare の主な学習内容：（一般知識） n 進数、文字コード、解像度

第14回 Wi-Fi の安全な利用

無線LAN（Wi-Fi）の基本的な構成と接続方法、また公共のWi-Fi環境を利用する際の注意事項について理解する。

第15回 理解度確認問題（前期末）とタイピング試験

当該回までの eラーニング教材 nanare の課題の理解度を試験形式で確認する。

タイピング試験を実施する。

2022年度 前期

1.0単位

基礎情報処理実習 (F)【GC(日)】

三木 洪子

< 授業の方法 >

講義・実習

< 授業の目的 >

この科目は、共通教育科目のリテラシー科目群、情報分野に属しています。

全学 DP に掲げる、広い教養を身につけること、獲得した知識や技能をもって社会に貢献する力を身につけることを目的とします。

当講義では [学業に必要と考えられるレベルの PC 操作スキル] の習得を目指します。

知識面では OS やネットワーク、セキュリティ、情報モラルに関する基礎を、技能面ではタイピングに始まり、OS の基本操作、メールやブラウザの活用、基礎的なオフィスソフトの活用を学びます。

20 世紀後半から始まった ICT (情報・通信に関連する技術一般の総称) の急激な発展は、我々の社会に劇的な変化をもたらしました。

技術的には今も変化のうねりの渦中にありますが、社会に十分に浸透し、活用されている技術は、(別の大きなブレークスルーの出現までは) 今後も活用され続けると考えられます。

タブレットやスマートフォンなどの業務活用も広がっていますが、現時点では、PC を適切に操作できることは学業・社会生活に非常に有用な (もしくは必須の) 技能です。

他講義から一定の習熟を期待される内容でもありますので、苦手意識を捨てて取り組んでいただきたいと思います。

なお、この授業は、実務経験のある教員が担当しています。IT企業での業務を 10 年、情報教育業務は 15 年経験していますので、実務経験を生かした実践的な観点から情報に関する知識・スキル等を解説します。

< 到達目標 >

- ・日本語 75 文字 / 分以上のスピードでタッチタイピングができる
- ・Windows において基本的なファイル・フォルダー操作を行える
- ・基本的なショートカットキーを使用して Windows を

操作できる

・Word を利用し、1 ページで完結する体裁の整った文書を作成できる

・Excel を利用し、表計算ソフトの特徴を活かした (比較的少ない件数の) 表及びグラフを作成できる

・PowerPoint を利用し、聞き手を意識したプレゼン資料を作成できる

・メールに関する基本的なマナーを知り、大学のメールシステムを活用できる

・圧縮と解凍について理解し、ファイルやフォルダーを圧縮・暗号化して受け渡しできる

・インターネットのトラブル事例を知り、安全かつ価値的なネット活用を行える

・学内・学外の Wi-Fi 環境を適切かつ安全に活用できる

< 授業のキーワード >

タッチタイピング、エクスプローラー操作、圧縮と解凍、Wi-Fi

< 授業の進め方 >

実習を中心に講義を進めます。

テキストとして eラーニング教材「nanare」を利用します。

一部の回を除き、毎回、講義内で提示された課題を提出してもらいます。

< 履修するにあたって >

(1) 遅刻について

当講義は実習が中心となるため、遅刻者対応は授業を一時的に中断させるということを認識しておいてください。講義開始直後に着席していない学生は遅刻とみなします。

(2) 欠席について

欠席した場合は、次の講義までに必ず講義内容を自習してください。

講義開始 20 分以降に入室した学生は欠席とみなします。遅刻 3 回で欠席 1 回とし、欠席回数が全講義回数の 3 分の 1 を超えた場合は評価不能とみなします。

(3) アカウントについて

手元に届いているユーザー ID、パスワードが記載されたハガキを必ず持参してください。

情報処理実習室の PC を利用する際に、ログイン用のユーザー ID、パスワードが必要です。

紛失した場合は、必ず申し出てください。アカウントの貸し借りは厳禁です。

(4) 講義に臨む姿勢について

各学生の年度当初の PC 操作スキルには大きな開きがありますが、他人と比較することなく、自己のスキル向上に努めるようにしてください。

(5) タイピングについて

タイピングスピードの向上にはある程度の練習量が必要ですが、一度習得してしまえば、今後受講する様々な講義において課題やレポート作成の効率が上がります。できるだけ早い段階で練習時間を確保し、目標に達成することを勧めます。

(6) 学習環境について

eラーニング教材 nanare から試験問題も提出されますので、自宅で学習ができるような環境を整えることが望ましいです。

PC を所有していない人は購入することを推奨します。なお、大学情報処理実習室の PC の OS は Windows であり、Windows を基本として説明を行います。

< 授業時間外に必要な学修 >

理解度確認問題（中間）と理解度確認問題（前期末）は、それぞれ eラーニング教材 nanare から出題されますので、指示された範囲を学習しておいてください。当講義ではタイピングスキルを重視しています。頭で考えなくても指が自然に動くようになるまで、そう多くの期間は必要ありません。できるだけ日を置かず集中的に練習し、早めに目標に到達してください。コツ等は講義内で説明します。

・ 学習に要する時間目安

- eラーニング教材 nanare の学習：1～2 時間/週（個人差あり）

- タイピングの練習：10 分/日（個人差あり）
一定速度に達するまで

< 提出課題など >

講義内に提出する課題と、eラーニング教材 nanare の課題があります。

eラーニング教材 nanare の課題の完了期限は 4 回に分かれています。

1. 第 04 回講義日の前日 24 時までに 001-067 の範囲を学習済みにすること

2. 第 07 回講義日の前日 24 時までに 068-104 の範囲を学習済みにすること

3. 第 10 回講義日の前日 24 時までに 105-132 の範囲を学習済みにすること

4. 第 13 回講義日の前日 24 時までに 133-156 の範囲を学習済みにすること

eラーニング教材 nanare の課題のフィードバックは教材の自動添削機能によって行い、講義時間内に質疑応答の時間を設けます。

講義内に提出する課題のフィードバックは講義時間内に行い、講義時間外においても解説や動画を Web サイトで閲覧できるようにします。内容によっては模範解答を

紹介します。

< 成績評価方法・基準 >

以下の割合で総合的に評価します。

- eラーニング教材 nanare の課題：30 %

- 講義内に提出する課題：15 %

- タイピング試験：20 %

- 理解度確認問題（中間）：10 %

- 理解度確認問題（前期末）：25 %

単位取得には、期限を遵守した各課題の提出、タイピング練習、試験対策が必要です。

普段の取り組みが評点に反映されやすくなるよう、各試験は eラーニング教材 nanare から抜粋して出題します。

< テキスト >

eラーニング教材「nanare」2021 年度版

教材費 3,500 円は初回登校日に講義内で徴収します。

忘れないように持参してください。

遠隔申請者には第 1 回の講義内で支払い方法を案内します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンスとタイピング計画

- 当講義の意義、進め方、注意事項、単位の評価基準などについて理解する。

- eラーニング教材 nanare の学習の流れ、課題の提出方法について理解する。

- タイピングスピードを測定し、今後の目標を設定する。

- nanare の主な学習内容： ウィンドウ操作など最も初歩的な PC 操作

第2回 基本的なウィンドウ操作とタッチタイピング
- タッチタイピングを習得するためのコツや練習方法について理解する。

- nanare の主な学習内容：（Word）行と段落の違いや適切な文字列の配置、画像の挿入

第3回 覚えておきたい Windows の機能と文書の新規作成

- ショートカットキーや IME 辞書の活用など、Windows の提供する作業効率向上のための機能について実習する。

- Word を利用して文書を新規作成し、ページ設定、名前を付けて保存する方法を理解する。

- nanare の主な学習内容：（Excel）セルへの値の入力や結合といった基本的なセル操作

第4回 電子メールの活用

- 電子メールの一般的な利用方法とマナー、及び学内 Web メール環境の操作について実習する。

- nanare の主な学習内容：（PowerPoint）スライドの作成・編集

第5回 効果的なプレゼン資料の作成（1）

- 聞き手が理解しやすいプレゼン資料のアウトラインを作成、実習する。

- nanare の主な学習内容：(Excel) セルの書式設定、
計算式の入力

第6回 効果的なプレゼン資料の作成(2)

- 効果的なプレゼン資料作成について実習し、発表中の
スライドの切り替えやノートの利用について実践感覚を
掴む。

- nanare の主な学習内容：(Word) 表の挿入・編集と
検索・置換

第7回 ネット利用に関するトラブル事例

- インターネット利用に関する各種のトラブル事例を確
認し、プライバシーやセキュリティを意識した、トラブ
ルに巻き込まれにくいネット活用姿勢について学習する。

- nanare の主な学習内容：(Excel) 関数の利用、印刷
範囲の設定

第8回 理解度確認問題(中間)

- テスト形式で当該回までの理解度を確認する。

- nanare の主な学習内容：(Word) インデント・箇条
書き・段落番号といった段落の編集、書式のコピー・貼
り付けなどの操作

第9回 ファイルの圧縮と解凍

- 圧縮ファイルの形式や特徴について理解を深め、Wind
ows 標準機能や圧縮解凍アプリを用い、ファイルやフォル
ダーの圧縮・解凍、暗号化について実習する。

- nanare の主な学習内容：(Excel) 簡単なグラフの作
成、各要素の表示・非表示の切り替え

第10回 エクスプローラー操作の基礎

- 階層構造の概念を理解し、ファイル・フォルダーの基
本操作を習得する。

- nanare の主な学習内容：(Word) 各種オブジェクト
の追加と編集

第11回 エクスプローラー操作の応用

- ファイル・フォルダーの応用的な操作(特に多くのフ
ァイルを効率的に扱う操作)を習得する。

- nanare の主な学習内容：(Word) 表の編集と効率的
な表の作成(Excel) さまざまなオートフィル

第12回 Word 印刷実習

- Word の印刷時の調整と、発生しやすいトラブル及び
その解決方法について実習する。

- PDF ファイルの特徴と活用について理解する。

- nanare の主な学習内容：(Excel) 基本的な関数とセ
ル参照、絶対参照

第13回 問題解決実習

- 特定のテーマ(問題)について、それらを手持ちのソ
フトウェア(道具)を利用して解決する実習を行う。

- [テーマの例] 家計簿

- nanare の主な学習内容：(一般知識) n 進数、文字
コード、解像度

第14回 Wi-Fi の安全な利用

- 無線LAN(Wi-Fi)の基本的な構成と接続方法、また公

共のWi-Fi環境を利用する際の注意事項について理解す
る。

第15回 理解度確認問題(前期末)とタイピング試験

- 当該回までの eラーニング教材 nanare の課題の理解
度を試験形式で確認する。

- タイピング試験を実施する。

2022年度 後期

1.0単位

基礎情報処理実習 (Excelの基礎)

寺崎 幸、三木 雅子、崔 瑛理

<授業の方法>

実習

<授業の目的>

この科目は、全学のDPに示す、専門分野に高い関心を持
ち、専門領域の課題を考察し、解決するための知識や技
能を身につけること、さらにそれらを活用してさまざま
な問題を発見し、解決する方策を導くことができる技術
の習得を目指します。

データ分析は現状を把握し問題を解決する際に最も重要
で、特にビジネスシーンには不可欠な作業です。この授
業では、さまざまなデータを効率的に分析し、それを実
践的に活用できる知識と技術を習得することを目標にし
ています。

具体的には、社会人として使えることが必須と言える統
合表計算ソフトMicrosoft Excelの使い方を学びます。
また、MOS(Microsoft Office Specialist)資格試験の
Excel科目も視野に入れて解説します。

<到達目標>

1. 数値の表示形式を使い分けることができる。
2. ページレイアウトを理解し、適切な書式設定ができ
る。
3. 参照形式の違いを理解し、オートフィルを正しく利
用できる。
4. 基本的な関数を使いこなすことができる。
5. ピボットテーブルを活用し、目的の表を作成できる。
6. データを、目的に応じたグラフへと変換できる。
7. 基本的なマクロ操作を理解し、作成、編集、実行が
できる。

<授業のキーワード>

Excel、関数、データのグラフ、ピボットテーブル、マ
クロ

<授業の進め方>

本講義では、Microsoft Excelの基礎から応用までを幅
広く実習し、あらゆる状況に対応できるよう実践的な問
題にも取り組みます。授業で実習したファイルや練習問

題は学内情報サービスに提出し、しっかりと理解できるまで復習を重ねていきます。

<履修するにあたって>

1．授業開始時にその日に行う実習内容の説明・デモンストレーションなどをします。遅刻をすると、授業の理解に支障が生じますので遅刻しないよう注意してください。

2．原則として前回の授業内容を踏まえて、実習を進行します。そのため欠席をすると大きな不利益を被ります。極力、欠席をしないようにしてください。やむを得ない事情で欠席をした場合、次回の授業までに学習しておくようにしてください。

3．コンピュータは高度な精密機器です。取扱いには十分注意してください。取り扱いについて各自の責任を自覚していただくために、情報処理実習室では座席指定をします。また、実習室内は、禁煙、飲食禁止です。その他すべて、教員の指示に従ってください。

4．教科書など、クラス毎に用意するものが異なることがありますので、掲示に注意し、自分のクラスを確認して間違いの無いように準備してください。

<授業時間外に必要な学修>

事前にテキストの該当部分より、想定される操作確認をしてください。(50分程度)

授業後は、操作習得のため指示された練習問題や復習を行ってください。(70分程度)

<提出課題など>

授業で作成したファイル、確認テスト、課題はすべてdotCampusを使用して提出します。

確認テストは3回実施し、授業内で模範解答の提示と解説を行います。

尚、定期試験は実施しません。

<成績評価方法・基準>

授業における提出物 70%、確認テスト 30% の割合で総合的に評価します。

<テキスト>

よくわかる Microsoft Excel 2016ドリル (FOM出版・1,000+税)

第1回授業に必ず間に合うように準備してください。

<参考図書>

よくわかる Microsoft Excel 2016 基礎・応用 (FOM出版)

情報処理センター編 「情報活用の基礎」

<授業計画>

第1回 ガイダンス

情報処理実習室の利用について

授業の進め方

評価方法

課題の提出方法など

Microsoft Excelの紹介

第2回 Excelの基本

Microsoft Excelの起動と終了

データの種類と入力

ワークシートの保存と読み込み

整った表の作成 (罫線の活用)

第3回 Excelの設定

数値の表示形式

シリアル値と日付

ページ設定

印刷範囲の設定

第4回 数式の入力と関数の利用 1

数式の入力

絶対参照と相対参照

様々なオートフィル

第5回 復習(1)

数式の入力と関数の利用 2

確認テスト実施

基本的な関数の利用 (SUM, AVERAGE, RANK ほか)

第6回 数式の入力と関数の利用 3

関数の利用 (IF, VLOOKUP ほか)

複数シートの集計 (串刺しテクニック)

第7回 グラフの作成1

グラフ作成の基礎

グラフの編集

第8回 グラフの作成 2

グラフの作成の応用

様々なグラフ

第9回 データ操作 1

データの並べ替え

データの検索と抽出

第10回 復習(2)

データ操作 2

確認テスト実施

テーブルの利用と集計

第11回 ピボット操作

ピボットテーブルとピボットグラフ

第12回 様々な応用

名前の定義

保護機能

関数の組み合わせ (ネスト)

第13回 マクロ 1

マクロの概要

マクロの作成

マクロの記録

マクロの実行

第14回 マクロ 2 (VBA・VBE)

マクロの編集

コンパイルの実行

動作確認

第15回 総合復習

確認テスト実施

各種資格との関係について

2022年度 後期

1.0単位

基礎情報処理実習 (A)【人文】

深田 美紀、青木 恵美、三木 洪子、富士野 克己、
岡元 直樹

< 授業の方法 >

講義・実習

< 授業の目的 >

この科目は、共通教育科目のリテラシー科目群、情報分野に属しています。

全学DPに掲げる、広い教養を身につけること、獲得した知識や技能をもって社会に貢献する力を身につけることを目的とします。

当講義では [第三者による一定の評価に基づく、自信を持って実務を遂行できる Word・Excel スキル] の習得を目指します。

知識面では、主にネットワークや情報モラルに関して、個人や家庭で必要とされるレベルから企業で必要とされるレベルにまで理解を深めていきます。

近年、企業にとってコンピューターの存在は必要不可欠のものとなっており、PC 操作については習得済みという前提で業務が組み立てられている場合も多く見受けられます。

また、何らかの業務に従事し始めた当初は、業務知識（業務遂行に必要な知識）の吸収に多くの時間を割く必要があり、PC 操作の学習・習得にまではなかなか手が回らないということもありがちな話です。

是非、当講義の目標レベルにまで到達し、学業においても社会生活においても、PC 操作に手を取られることなく、取り組むべき本質に集中できるようになっていただきたいと思えます。

なお、この授業は、実務経験のある教員が担当しています。学外（公的機関等）での情報教育業務を6年間経験しており、企業等で求められる情報に関する知識・スキルを、より実践的な観点から解説します。

< 到達目標 >

1. ICTプロフィシエンシー検定協会主催の P 検試験「準 2 級以上」に合格する
2. Word を利用し、複数ページで構成された文書を効率よく作成できる
3. Excel を利用し、件数の多い表の作成と集計、及び簡単な分析を行うことができる

4. 一般的なメディアについての知識を持ち、適切な方法でデータの受け渡しを行える

5. アカウントの安全な保持手段についての理解を深める。

< 授業のキーワード >

ソフトウェア間の連携、知的財産、アカウント管理、BI

< 授業の進め方 >

実習を中心に講義を進めます。

テキストとして eラーニング教材「nanare」を利用します。

一部の回を除き、毎回、講義内で提示された課題を提出してもらいます。

< 履修するにあたって >

(1) 遅刻について

当講義は実習が中心となるため、遅刻者対応は授業を一時的に中断させるということをご認識しておいてください。

(2) 欠席について

欠席した場合は、次の講義までに必ず講義内容を自習してください。

講義開始 20 分以降に入室した学生は欠席とみなします。遅刻 3 回で欠席 1 回とし、欠席回数が全講義回数の 3 分の 1 を超えた場合は評価不能とみなします。

(3) アカウントについて

手元に届いているユーザーID、パスワードが記載されたハガキを必ず持参してください。

情報処理実習室の PC を利用する際に、ログイン用のユーザーID、パスワードが必要です。

紛失した場合は、必ず申し出てください。アカウントの貸し借りは厳禁です。

(4) 講義に臨む姿勢について

各学生の PC 操作スキルには大きな開きがありますが、他人と比較することなく、自己のスキル向上に努めるようにしてください。

(5) 学習環境について

毎回、eラーニング教材 nanare の課題が出ますので、自宅で学習できる環境を整えることが望ましいです。

PC を所有していない人は購入することを推奨します。

なお、大学情報処理実習室の PC の OS は Windows であり、Windows を基本として説明を行います。

< 授業時間外に必要な学修 >

後期理解度確認問題は eラーニング教材 nanare の課題から出題されますので、指示された範囲を学習しておいてください。

当講義ではタイピングスキルを重視しています。P 検準 2 級の合格基準（日本語 75 文字 / 分以上のスピード

でタッチタイピングができる)をクリアしていない場合、できるだけ日を置かず集中的に練習し、早めに目標に到達してください。

・学習に要する時間目安

- eラーニング教材 nanare の学習：1~2 時間/週 (個人差あり)

- タイピングの練習：10 分/日 (個人差あり)

タイピングが目標速度に達していない場合のみ

< 提出課題など >

講義内に提出する課題と、eラーニング教材 nanare の課題があります。

eラーニング教材 nanare の課題の完了期限は 4 回あります。

1. 第 04 回講義日の前日 24 時までに 157-191 までの範囲を学習済みにすること

2. 第 06 回講義日の前日 24 時までに 192-206 までの範囲を学習済みにすること

3. 第 09 回講義日の前日 24 時までに 207-224 までの範囲を学習済みにすること

4. 第 14 回講義日の前日 24 時までに 225-231 までの範囲を学習済みにすること

eラーニング教材 nanare の課題のフィードバックは教材の自動添削機能によって行い、講義時間内に質疑応答の時間を設けます。

講義内に提出する課題のフィードバックは講義時間内に行い、講義時間外においても解説や動画を Web サイトで閲覧できるようにします。内容によっては模範解答を紹介します。

< 成績評価方法・基準 >

以下の割合で総合的に評価します。

- eラーニング教材 nanare の課題：30 %

- 講義内に提出する課題：15 %

- 後期理解度確認問題：25 %

- P 検：30 %

単位取得には、各課題の提出と検定試験対策が必要です。普段の取り組みが評点に反映されやすくなるよう、後期理解度確認問題は nanare から抜粋して出題します。

< テキスト >

eラーニング教材「nanare」2021 年度版

後期からの受講生は、教材費 3,500 円を初回登校日に持参してください。

遠隔申請者には第 1 回の講義内で支払い方法を案内します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンスと前期の復習

- 当講義の意義、進め方、注意事項、単位の評価基準などについて理解する。

- eラーニング教材 nanare の学習の流れについて理解する。

- 前期の内容 (実技、知識問題) の復習をする。

- nanare の主な学習内容：(Excel) データの並べ替え、複数シートの操作

第2回 Office ソフトウェア間の連携

- Office ソフトウェアの連携 (特に Word 文書内に Excel の成果物を取り込む方法) について理解・実習する。

- nanare の主な学習内容：(Word) ヘッダーとフッターの設定、セクションの利用

第3回 アカウントの管理

- 各種オンラインサービスを利用するために個人や企業が保持するアカウントの数は増加の一途を辿っている。それらの不適切な管理が招くリスクと安全な保持手段についての理解を深める。

- nanare の主な学習内容：(Excel) ヘッダーとフッターの設定方法、グラフの構成要素

第4回 Word・Excel の実技問題、知識確認問題

主に実技問題で 3 級レベルの操作スキルのレベルを確認する。

- nanare の主な学習内容：(Word) トリミング (Excel) オートフィルター、ROUND 関数

第5回 P 検 3 級模擬演習とタイピング測定

P 検 3 級の模擬試験に取り組み、自身のレベルと得意/不得意分野を多角的に確認する。

タイピング測定を実施し、今後の目標を設定する。

第6回 Excel データのインポートと表・グラフの作成

- 区切り文字で区切られた異なるファイル形式のデータを Excel に取り込み、表やグラフを作成する方法について理解・実習する。

- nanare の主な学習内容：(Word) スタイルの利用 (Excel) RANK 関数、VLOOKUP 関数

第7回 Word レポート作成講座

- 見出しと Word のスタイル機能を活用し、複数ページに渡る文書を作成するポイントを理解する。

- nanare の主な学習内容：(Excel) 複合グラフ、COUNTIF関数、SUMIF関数

第8回 Excel 関数集中講座

- Excel の関数に対する苦手意識解消を目的とし、身近な例から関数の概念と利用方法を理解する。

- nanare の主な学習内容：(Word) 索引の作成、差し込み印刷 (Excel) ユーザー定義の表示形式

第9回 Excel 関数を使用した問題解決実習

- 特定のテーマ (問題) について、それらを手持ちのソフトウェア (道具) を利用して解決する実習を行う。

- [テーマの例] 簡易レジスター作成

- nanare の主な学習内容：(Word) 文書の保護 (Excel

) テーブル機能

第10回 P 検準 2 級 Word・Excel の実技問題、知識確認問題

準 2 級レベルの Word・Excel の操作スキルのレベルを確認する。

各自が自己分析に基づいた検定試験対策を行う。

- nanare の主な学習内容：(Excel)ピボットテーブルの作成と編集

第11回 P 検準 2 級模擬演習とタイピング測定

P 検準 2 級の模擬試験に取り組み、自身のレベルと得意/不得意分野を多角的に確認する。

タイピング測定を実施し、検定試験の受験級を判断する。

第12回 ドキュメント情報の編集とファイル形式の変換
保存したファイルの情報の編集、保護、ファイル形式の変換について実習する。

第13回 P 検本番試験

検定試験形式で自身の ICT スキルを確認する。

第14回 Excel による最も簡単な意思決定支援

実務では、データの収集 蓄積 分析を経て意思決定を行うことが多々ある(この一連の考え方を BI と呼ぶ)。アンケートを通して最も簡単な BI の流れを俯瞰する。

アンケートの集計結果からデータの分析を行う。

第15回 後期理解度確認問題

後期理解度確認問題で自身の ICT スキルを確認する。

2022年度 後期

1.0単位

基礎情報処理実習 (A)【心理】

深田 美紀、三木 洪子、富士野 克己、岡元 直樹

< 授業の方法 >

講義・実習

< 授業の目的 >

この科目は、共通教育科目のリテラシー科目群、情報分野に属しています。

全学DPに掲げる、広い教養を身につけること、獲得した知識や技能をもって社会に貢献する力を身につけることを目的とします。

当講義では[第三者による一定の評価に基づく、自信を持って実務を遂行できる Word・Excel スキル]の習得を目指します。

知識面では、主にネットワークや情報モラルに関して、個人や家庭で必要とされるレベルから企業で必要とされるレベルにまで理解を深めていきます。

近年、企業にとってコンピューターの存在は必要不可欠のものとなっており、PC 操作については習得済みという前提で業務が組み立てられている場合も多く見受けられます。

また、何らかの業務に従事し始めた当初は、業務知識(

業務遂行に必要な知識)の吸収に多くの時間を割く必要があり、PC 操作の学習・習得にまではなかなか手が回らないということもありがちな話です。

是非、当講義の目標レベルにまで到達し、学業においても社会生活においても、PC 操作に手を取られることなく、取り組むべき本質に集中できるようになっていただきたいと思います。

なお、この授業は、実務経験のある教員が担当しています。学外(公的機関等)での情報教育業務を6年間経験しており、企業等で求められる情報に関する知識・スキルを、より実践的な観点から解説します。

< 到達目標 >

1. ICTプロフィシエンシー検定協会主催の P 検試験「準 2 級以上」に合格する
2. Word を利用し、複数ページで構成された文書を効率よく作成できる
3. Excel を利用し、件数の多い表の作成と集計、及び簡単な分析を行うことができる
4. 一般的なメディアについての知識を持ち、適切な方法でデータの受け渡しを行える
5. アカウントの安全な保持手段についての理解を深める。

< 授業のキーワード >

ソフトウェア間の連携、知的財産、アカウント管理、BI

< 授業の進め方 >
実習を中心に講義を進めます。

テキストとして eラーニング教材「nanare」を利用します。

一部の回を除き、毎回、講義内で提示された課題を提出してもらいます。

< 履修するにあたって >

(1) 遅刻について

当講義は実習が中心となるため、遅刻者対応は授業を一時的に中断させるということを認識しておいてください。

(2) 欠席について

欠席した場合は、次の講義までに必ず講義内容を自習してください。

講義開始 20 分以降に入室した学生は欠席とみなします。遅刻 3 回で欠席 1 回とし、欠席回数が全講義回数の 3 分の 1 を超えた場合は評価不能とみなします。

(3) アカウントについて

手元に届いているユーザーID、パスワードが記載されたハガキを必ず持参してください。

情報処理実習室の PC を利用する際に、ログイン用のユーザーID、パスワードが必要です。

紛失した場合は、必ず申し出てください。アカウントの貸し借りは厳禁です。

(4) 講義に臨む姿勢について

各学生の PC 操作スキルには大きな開きがありますが、他人と比較することなく、自己のスキル向上に努めるようにしてください。

(5) 学習環境について

毎回、eラーニング教材 nanare の課題が出ますので、自宅で学習できる環境を整えることが望ましいです。

PC を所有していない人は購入することを推奨します。なお、大学情報処理実習室の PC の OS は Windows であり、Windows を基本として説明を行います。

< 授業時間外に必要な学修 >

後期理解度確認問題は eラーニング教材 nanare の課題から出題されますので、指示された範囲を学習しておいてください。

当講義ではタイピングスキルを重視しています。P 検準 2 級の合格基準（日本語 75 文字/分以上のスピードでタッチタイピングができる）をクリアしていない場合、できるだけ日を置かず集中的に練習し、早めに目標に到達してください。

・ 学習に要する時間目安

- eラーニング教材 nanare の学習：1~2 時間/週（個人差あり）

- タイピングの練習：10 分/日（個人差あり）

タイピングが目標速度に達していない場合のみ

< 提出課題など >

講義内に提出する課題と、eラーニング教材 nanare の課題があります。

eラーニング教材 nanare の課題の完了期限は 4 回あります。

1. 第 04 回講義日の前日 24 時までに 157-191 までの範囲を学習済みにすること

2. 第 06 回講義日の前日 24 時までに 192-206 までの範囲を学習済みにすること

3. 第 09 回講義日の前日 24 時までに 207-224 までの範囲を学習済みにすること

4. 第 14 回講義日の前日 24 時までに 225-231 までの範囲を学習済みにすること

eラーニング教材 nanare の課題のフィードバックは教材の自動添削機能によって行い、講義時間内に質疑応答の時間を設けます。

講義内に提出する課題のフィードバックは講義時間内に行い、講義時間外においても解説や動画を Web サイトで閲覧できるようにします。内容によっては模範解答を紹介します。

< 成績評価方法・基準 >

以下の割合で総合的に評価します。

- eラーニング教材 nanare の課題：30 %

- 講義内に提出する課題：15 %

- 後期理解度確認問題：25 %

- P 検：30 %

単位取得には、各課題の提出と検定試験対策が必要です。普段の取り組みが評点に反映されやすくなるよう、後期理解度確認問題は nanare から抜粋して出題します。

< テキスト >

eラーニング教材「nanare」2021 年度版

後期からの受講生は、教材費 3,500 円を初回登校日に持参してください。

遠隔申請者には第 1 回の講義内で支払い方法を案内します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンスと前期の復習

- 当講義の意義、進め方、注意事項、単位の評価基準などについて理解する。

- eラーニング教材 nanare の学習の流れについて理解する。

- 前期の内容（実技、知識問題）の復習をする。

- nanare の主な学習内容：（Excel）データの並べ替え、複数シートの操作

第2回 Office ソフトウェア間の連携

- Office ソフトウェアの連携（特に Word 文書内に Excel の成果物を取り込む方法）について理解・実習する。

- nanare の主な学習内容：（Word）ヘッダーとフッターの設定、セクションの利用

第3回 アカウントの管理

- 各種オンラインサービスを利用するために個人や企業が保持するアカウントの数は増加の一途を辿っている。それらの不適切な管理が招くリスクと安全な保持手段についての理解を深める。

- nanare の主な学習内容：（Excel）ヘッダーとフッターの設定方法、グラフの構成要素

第4回 Word・Excel の実技問題、知識確認問題

主に実技問題で 3 級レベルの操作スキルのレベルを確認する。

- nanare の主な学習内容：（Word）トリミング（Excel）オートフィルター、ROUND 関数

第5回 P 検 3 級模擬演習とタイピング測定

P 検 3 級の模擬試験に取り組み、自身のレベルと得意/不得意分野を多角的に確認する。

タイピング測定を実施し、今後の目標を設定する。

- nanare の主な学習内容：（Excel）IF関数、複数の関数の組み合わせ

第6回 Excel データのインポートと表・グラフの作成

- 区切り文字で区切られた異なるファイル形式のデータ

を Excel に取り込み、表やグラフを作成する方法について理解・実習する。

- nanare の主な学習内容：(Word)スタイルの利用 (Excel) RANK 関数、VLOOKUP 関数

第7回 Word レポート作成講座

- 見出しと Word のスタイル機能を活用し、複数ページに渡る文書を作成するポイントを理解する。

- nanare の主な学習内容：(Excel)複合グラフ、COUNTIF関数、SUMIF関数

第8回 Excel 関数集中講座

- Excel の関数に対する苦手意識解消を目的とし、身近な例から関数の概念と利用方法を理解する。

- nanare の主な学習内容：(Word)索引の作成、差し込み印刷 (Excel) ユーザー定義の表示形式

第9回 Excel 関数を使用した問題解決実習

- 特定のテーマ(問題)について、それらを手持ちのソフトウェア(道具)を利用して解決する実習を行う。

- [テーマの例] 簡易レジスター作成

- nanare の主な学習内容：(Word)文書の保護 (Excel) テーブル機能

第10回 P 検準 2 級 Word・Excel の実技問題、知識確認問題

準 2 級レベルの Word・Excel の操作スキルのレベルを確認する。

各自が自己分析に基づいた検定試験対策を行う。

- nanare の主な学習内容：(Excel)ピボットテーブルの作成と編集

第11回 P 検準 2 級模擬演習とタイピング測定

P 検準 2 級の模擬試験に取り組み、自身のレベルと得意/不得意分野を多角的に確認する。

タイピング測定を実施し、検定試験の受験級を判断する。

第12回 ドキュメント情報の編集とファイル形式の変換 保存したファイルの情報の編集、保護、ファイル形式の変換について実習する。

第13回 P 検本番試験

検定試験形式で自身の ICT スキルを確認する。

第14回 Excel による最も簡単な意思決定支援

実務では、データの収集 蓄積 分析を経て意思決定を行うことが多々ある(この一連の考え方を BI と呼ぶ)。

アンケートを通して最も簡単な BI の流れを俯瞰する。

アンケートの集計結果からデータの分析を行う。

第15回 後期理解度確認問題

後期理解度確認問題で自身の ICT スキルを確認する。

2022年度 後期

1.0単位

基礎情報処理実習 【総リハ】

濱本 季之、橋本 貴

<授業の方法>

対面授業(講義・実習)

<授業の目的>

この科目は、全学DPが示す問題を発見・解決する能力の基盤となる知識や技術を身につけることを目的とする。ビジネスシーンにおいては、プレゼンテーションスキルとコンピュータスキルが重視されており、社会ではこの2つのスキル習得を学生に求める声も多い。

この科目では、Microsoft PowerPointとMicrosoft Excelを使用して、社会に通用するプレゼンテーションスキルと必須とされているExcelスキルを身につける。

Microsoft PowerPointでは、プレゼンテーションスキルを習得する。実習ではアプリケーション操作だけでなく、聞き手に興味を持たせる構成やわかりやすいプレゼンテーションのためのビジュアル化ができるようになることを目的とし、社会に通用するプレゼンテーションスキルの習得を目指す。

Microsoft Excelでは、様々なデータを元に作表や計算、グラフ化、データベース利用などができるように基礎を習得する。その上で様々なビジネスシーンで役立つ汎用性の高いExcel関数を学び、社会で必要とされるコンピュータスキルを習得することを目指す。

また、この科目の担当者は実務経験のある教員である。企業においてSE(システムエンジニア)や情報処理関連分野の研修講師として10年以上の経験がある。常に最新の情報や技術を踏まえ、時に専門分野についてもわかりやすく伝えていきたい。

<到達目標>

1. プレゼンテーションに必要な知識を習得し、訴求力のあるプレゼンテーション資料を作成できる。

2. Excelを使用して、計算式を設定した表作成や目的に合ったグラフ作成ができる。

3. 効率的に作業を行うための使用頻度が高いExcel関数を使うことができる。

4. タッチタイピングで速く正確な入力ができる。

5. ビジネス形式のメールが作成できる。

<授業のキーワード>

プレゼンテーション・Microsoft PowerPoint・Microsoft Excel・タッチタイピング・ビジネスメール

<授業の進め方>

すべての講義は実習室のパソコンを使用する実習を中心とした内容である。

毎回、設定されているテーマに基づく機能習得を目指し、時間の許す限り復習も行う。

毎回、授業の冒頭にタイピング練習を行い、タッチタイピングができるようにスキルアップを目指す。

授業の最後に指示されたテーマに基づくメールを作成し、講師宛に送信する。

<履修するにあたって>

毎回、必ず、配布プリントと教科書を持参すること。

実習室のパソコンを使用する際、“ユーザー名(アカウント)”と“パスワード”が必要である。貸出用は無いので忘れないように注意すること。

遅刻すると自分のパソコンの実習環境が整わなかったり、操作がわからなくなったりするため、遅刻しないように注意すること。

実習は原則として前回授業の受講を前提として行われる。欠席すると大幅な遅れにつながる場合があるため、欠席しないように注意すること。やむを得ない理由で欠席した場合は、次の授業までに自習しておくこと。

コンピューターは精密機器であるため、取り扱いについては十分注意すること。

教室内では飲食禁止。また、指定された座席に着席すること。

質問は電子メールでも受け付ける。

その他すべて教員の指示に従うこと。不明な点があれば遠慮なく担当教員に尋ねること。

この講義は、Microsoft Windows 10とMicrosoft Office 2016の環境で行う。

推奨パソコンスペック

OS：Windows10（Home Edition以上）

Sモードは制約が多いため推奨いたしません。

Officeアプリ（Word、Excel等）は本学学生であれば入学後、無償でインストールができます。

Microsoftとの包括契約

CPU：Intel Core i5（第10世代以降）またはAMD Ryzen 5（第3世代以降）以上

Wi-Fi：必須（Wi-Fi5（11ac）以上対応）

メモリ：8GB以上

ディスク：256GB以上（SSD推奨）

Webカメラ：カメラ付き必須推奨

モニタ：13インチ以上

バッテリー：6時間程度は稼働可能なもの

<授業時間外に必要な学修>

各種機能の習得には提供される教材データを利用して、2時間程度の復習を行うこと。

また、日常的にタイピング練習を実施すること。

<提出課題など>

技能習得確認のための課題作成テスト（第5回）・中間テスト（第10回）・実技テスト（第15回）・タイピングテスト（第9回・第14回）を授業中に実施する。

提示が必要な模範解答はdotCampusにて対応する。

その他、毎回授業で作成したファイルを、学内ネットワ

ークシステムを利用して提出する。提示が必要な模範解答は配布ファイルで対応する。

<成績評価方法・基準>

学習活動評価40％・各種テスト評価60％の割合で評価する。

定期試験は実施しない。

学習活動評価は以下とする

毎回の授業で作成した成果ファイルの提出

成果ファイルの完成度

授業への参加度

各種テストは以下とする

課題作成テスト・中間テスト・実技テスト・タイピングテスト2回

その他

毎回出席確認を行う。

授業回数の3分の2以上の出席が必要。そうでない場合は、単位を認定しない。

他人データの流用や作成データのコピー等不正行為が行われた場合、単位を認定しない。

<テキスト>

神戸学院大学情報支援事務室編集「情報活用の基礎2022年度版」

その他適宜、補助教材を配布する。

<授業計画>

第1回 授業や評価に関する案内

Power Pointの実習

授業内容や評価に関する案内を行う。

Power Pointを使用し、スライド作成実習を行う。（テーマ・箇条書き・オンライン画像・書式設定）

第2回 Power Pointの実習

Power Pointを使用し、スライド作成実習を行う。（SmartArt・画面切り替え効果・アニメーション・リハーサル・配布資料・スライドマスタ・発表技術）

第3回 Power Pointの実習

Power Pointを使用し、ビジュアル化演習を行う。

第4回 課題作成実習

次回のテストで使用するプレゼンテーションの企画を行う。

第5回 課題作成テスト（実技）

ここまでのPowerPoint技能習得確認のための課題作成テストを実施する。

第6回 Excel基礎

（表計算）

作表・表計算・データベースの実習を行う。できるだけ多くの問題に取り組み、習得する。（数式・オートSUM・表の書式設定・表示形式）

第7回 Excel基礎

(表計算)

作表・表計算・データベースの実習を行う。できるだけ多くの問題に取り組み、習得する。(相対参照・絶対参照・データベース)

第8回 Excel基礎

(グラフ)

様々なグラフの作成実習を行う。できるだけ多くの問題に取り組み、習得する。

第9回 タイピングテスト

Excel基礎復習演習

タイピング技術の習得確認の為、タイピングテストを実施する。

Excel基礎範囲の復習演習を実施する。

第10回 中間テスト(実技)

ここまでのExcel基礎技能習得確認のための中間テストを実施する。

第11回 Excel応用

(端数処理関数)

端数処理関数と条件付き書式を習得する。基礎範囲を含め、できるだけ多くの問題に取り組み、応用力を付ける。

第12回 Excel応用

(条件分岐関数)

条件分岐関数・順位を求める関数・個数関数を習得する。前回の関数と組み合わせ、応用的な問題に取り組む。

第13回 Excel応用

(文字列検索関数)

文字列検索関数とエラー表示回避方法及び入力規則を習得する。前回、前々回の関数と組み合わせ、実践的な問題に取り組む。

第14回 タイピングテスト

Excel応用復習演習

タイピング技術の習得確認の為、タイピングテストを実施する。

Excel応用範囲の復習演習を実施する。

第15回 実技テスト(実技)

ここまでのExcel応用技能習得確認のための実技テストを実施する。

毎回 タイピング練習

成果ファイル提出

ICT実習と同様にタイピング練習を継続して行う。必要なファイルは講師の指示により提出する。

2022年度 後期

1.0単位

基礎情報処理実習 A - 1【栄養管理】

濱本 季之、竹内 晶子

<授業の方法>

対面授業(講義・実習)

<授業の目的>

この科目は、全学DPが示す問題を発見・解決する能力の基盤となる知識や技術を身につけることを目的とする。ビジネスシーンにおいては、プレゼンテーションスキルとコンピュータスキルが重視されており、社会ではこの2つのスキル習得を学生に求める声も多い。

この科目では、Microsoft PowerPointとMicrosoft Excelを使用して、社会に通用するプレゼンテーションスキルと必須とされているExcelスキルを身につける。

Microsoft PowerPointでは、プレゼンテーションスキルを習得する。実習ではアプリケーション操作だけでなく、聞き手に興味を持たせる構成やわかりやすいプレゼンテーションのためのビジュアル化ができるようになることを目的とし、社会に通用するプレゼンテーションスキルの習得を目指す。

Microsoft Excelでは、様々なデータを元に作表や計算、グラフ化、データベース利用などができるように基礎を習得する。その上で様々なビジネスシーンで役立つ汎用性の高いExcel関数を学び、社会で必要とされるコンピュータスキルを習得することを目指す。

また、この科目の担当者は実務経験のある教員である。企業においてSE(システムエンジニア)や情報処理関連分野の研修講師として10年以上の経験がある。常に最新の情報や技術を踏まえ、時に専門分野についてもわかりやすく伝えていきたい。

<到達目標>

1. プレゼンテーションに必要な知識を習得し、訴求力のあるプレゼンテーション資料を作成できる。
2. Excelを使用して、計算式を設定した表作成や目的に合ったグラフ作成ができる。
3. 効率的に作業を行うための使用頻度が高いExcel関数を使うことができる。
4. タッチタイピングで速く正確な入力ができる。
5. ビジネス形式のメールが作成できる。

<授業のキーワード>

プレゼンテーション・Microsoft PowerPoint・Microsoft Excel・タッチタイピング・ビジネスメール

<授業の進め方>

すべての講義は実習室のパソコンを使用する実習を中心とした内容である。

毎回、設定されているテーマに基づく機能習得を目指し、時間の許す限り復習も行う。

毎回、授業の冒頭にタイピング練習を行い、タッチタイピングができるようにスキルアップを目指す。

授業の最後に指示されたテーマに基づくメールを作成し、講師宛に送信する。

<履修するにあたって>

毎回、必ず、配布プリントと教科書を持参すること。実習室のパソコンを使用する際、“ユーザー名(アカ

ウント)”と“パスワード”が必要である。貸出用は無いので忘れないように注意すること。

遅刻すると自分のパソコンの実習環境が整わなかったり、操作がわからなくなったりするため、遅刻しないように注意すること。

実習は原則として前回授業の受講を前提として行われる。欠席すると大幅な遅れにつながる場合があるため、欠席しないように注意すること。やむを得ない理由で欠席した場合は、次の授業までに自習しておくこと。

コンピューターは精密機器であるため、取り扱いについては十分注意すること。

教室内では飲食禁止。また、指定された座席に着席すること。

質問は電子メールでも受け付ける。

その他すべて教員の指示に従うこと。不明な点があれば遠慮なく担当教員に尋ねること。

この講義は、Microsoft Windows 10とMicrosoft Office 2016の環境で行う。

推奨パソコンスペック

OS：Windows10（Home Edition以上）

Sモードは制約が多いため推奨いたしません。

Officeアプリ（Word、Excel等）は本学学生であれば入学後、無償でインストールができます。

Microsoftとの包括契約

CPU：Intel Core i5（第10世代以降）またはAMD Ryzen 5（第3世代以降）以上

Wi-Fi：必須（Wi-Fi5（11ac）以上対応）

メモリ：8GB以上

ディスク：256GB以上（SSD推奨）

Webカメラ：カメラ付き必須推奨

モニター：13インチ以上

バッテリー：6時間程度は稼働可能なもの

< 授業時間外に必要な学修 >

各種機能の習得には提供される教材データを利用して、2時間程度の復習を行うこと。

また、日常的にタイピング練習を実施すること。

< 提出課題など >

技能習得確認のための課題作成テスト（第5回）・中間テスト（第10回）・実技テスト（第15回）・タイピングテスト（第9回・第14回）を授業中に実施する。

提示が必要な模範解答はdotCampusにて対応する。

その他、毎回授業で作成したファイルを、学内ネットワークシステムを利用して提出する。提示が必要な模範解答は配布ファイルで対応する。

< 成績評価方法・基準 >

学習活動評価40％・各種テスト評価60％の割合で評価する。

定期試験は実施しない。

学習活動評価は以下とする

毎回の授業で作成した成果ファイルの提出

成果ファイルの完成度

授業への参加度

各種テストは以下とする

課題作成テスト・中間テスト・実技テスト・タイピングテスト2回

その他

毎回出席確認を行う。

授業回数の3分の2以上の出席が必要。そうでない場合は、単位を認定しない。

他人データの流用や作成データのコピー等不正行為が行われた場合、単位を認定しない。

< テキスト >

神戸学院大学情報支援事務室編集「情報活用の基礎2022年度版」

その他適宜、補助教材を配布する。

< 授業計画 >

第1回 授業や評価に関する案内

Power Pointの実習

授業内容や評価に関する案内を行う。

Power Pointを使用し、スライド作成実習を行う。（テーマ・箇条書き・オンライン画像・書式設定）

第2回 Power Pointの実習

Power Pointを使用し、スライド作成実習を行う。（SmartArt・画面切り替え効果・アニメーション・リハーサル・配布資料・スライドマスタ・発表技術）

第3回 Power Pointの実習

Power Pointを使用し、ビジュアル化演習を行う。

第4回 課題作成実習

次のテストで使用するプレゼンテーションの企画を行う。

第5回 課題作成テスト（実技）

ここまでのPowerPoint技能習得確認のための課題作成テストを実施する。

第6回 Excel基礎

（表計算）

作表・表計算・データベースの実習を行う。できるだけ多くの問題に取り組み、習得する。（数式・オートSUM・表の書式設定・表示形式）

第7回 Excel基礎

（表計算）

作表・表計算・データベースの実習を行う。できるだけ多くの問題に取り組み、習得する。（相対参照・絶対参照・データベース）

第8回 Excel基礎

（グラフ）

様々なグラフの作成実習を行う。できるだけ多くの問題

に取り組み、習得する。
第9回 タイピングテスト
Excel基礎復習演習

タイピング技術の習得確認の為、タイピングテストを実施する。

Excel基礎範囲の復習演習を実施する。

第10回 中間テスト(実技)

ここまでのExcel基礎技能習得確認のための中間テストを実施する。

第11回 Excel応用

(端数処理関数)

端数処理関数と条件付き書式を習得する。基礎範囲を含め、できるだけ多くの問題に取り組み、応用力を付ける。

第12回 Excel応用

(条件分岐関数)

条件分岐関数・順位を求める関数・個数関数を習得する。前回の関数と組み合わせ、応用的な問題に取り組む。

第13回 Excel応用

(文字列検索関数)

文字列検索関数とエラー表示回避方法及び入力規則を習得する。前回、前々回の関数と組み合わせ、実践的な問題に取り組む。

第14回 タイピングテスト

Excel応用復習演習

タイピング技術の習得確認の為、タイピングテストを実施する。

Excel応用範囲の復習演習を実施する。

第15回 実技テスト(実技)

ここまでのExcel応用技能習得確認のための実技テストを実施する。

毎回 タイピング練習

成果ファイル提出

ICT実習 と同様にタイピング練習を継続して行う。必要なファイルは講師の指示により提出する。

2022年度 後期

1.0単位

基礎情報処理実習 C【栄養生命】

上村 千里

<授業の方法>

対面授業(講義・実習)

<授業の目的>

この科目は、全学DPが示す問題を発見・解決する能力の基盤となる知識や技術を身につけることを目的とする。ビジネスシーンにおいては、プレゼンテーションスキルとコンピュータスキルが重視されており、社会ではこの2つのスキル習得を学生に求める声も多い。

この科目では、Microsoft PowerPointとMicrosoft Excelを使用して、社会に通用するプレゼンテーションスキルと必須とされているExcelスキルを身につける。

Microsoft PowerPointでは、プレゼンテーションスキルを習得する。実習ではアプリケーション操作だけでなく、聞き手に興味を持たせる構成やわかりやすいプレゼンテーションのためのビジュアル化ができるようになることを目的とし、社会に通用するプレゼンテーションスキルの習得を目指す。

Microsoft Excelでは、様々なデータを元に作表や計算、グラフ化、データベース利用などができるように基礎を習得する。その上で様々なビジネスシーンで役立つ汎用性の高いExcel関数を学び、社会で必要とされるコンピュータスキルを習得することを目指す。

また、この科目の担当者は実務経験のある教員である。企業においてSE(システムエンジニア)や情報処理関連分野の研修講師として10年以上の経験がある。常に最新の情報や技術を踏まえ、時に専門分野についてもわかりやすく伝えていきたい。

<到達目標>

1. プレゼンテーションに必要な知識を習得し、訴求力のあるプレゼンテーション資料を作成できる。
2. Excelを使用して、計算式を設定した表作成や目的に合ったグラフ作成ができる。
3. 効率的に作業を行うための使用頻度が高いExcel関数を使うことができる。
4. タッチタイピングで速く正確な入力ができる。
5. ビジネス形式のメールが作成できる。

<授業のキーワード>

プレゼンテーション・Microsoft PowerPoint・Microsoft Excel・タッチタイピング・ビジネスメール

<授業の進め方>

すべての講義は実習室のパソコンを使用する実習を中心とした内容である。

毎回、設定されているテーマに基づく機能習得を目指し、時間の許す限り復習も行う。

毎回、授業の冒頭にタイピング練習を行い、タッチタイピングができるようにスキルアップを目指す。

授業の最後に指示されたテーマに基づくメールを作成し、講師宛に送信する。

<履修するにあたって>

毎回、必ず、配布プリントと教科書を持参すること。

実習室のパソコンを使用する際、“ユーザー名(アカウント)”と“パスワード”が必要である。貸出用は無いので忘れないように注意すること。

遅刻すると自分のパソコンの実習環境が整わなかったり、操作がわからなくなったりするため、遅刻しないように注意すること。

実習は原則として前回授業の受講を前提として行われ

る。欠席すると大幅な遅れにつながる場合があるため、欠席しないように注意すること。やむを得ない理由で欠席した場合は、次の授業までに自習しておくこと。

コンピューターは精密機器であるため、取り扱いについては十分注意すること。

教室内では飲食禁止。また、指定された座席に着席すること。

質問は電子メールでも受け付ける。

その他すべて教員の指示に従うこと。不明な点があれば遠慮なく担当教員に尋ねること。

この講義は、Microsoft Windows 10とMicrosoft Office 2016の環境で行う。

推奨パソコンスペック

OS：Windows10（Home Edition以上）

Sモードは制約が多いため推奨いたしません。

Officeアプリ（Word、Excel等）は本学学生であれば入学後、無償でインストールができます。

Microsoftとの包括契約

CPU：Intel Core i5（第10世代以降）またはAMD Ryzen 5（第3世代以降）以上

Wi-Fi：必須（Wi-Fi5（11ac）以上対応）

メモリ：8GB以上

ディスク：256GB以上（SSD推奨）

Webカメラ：カメラ付き必須推奨

モニタ：13インチ以上

バッテリー：6時間程度は稼働可能なもの

< 授業時間外に必要な学修 >

各種機能の習得には提供される教材データを利用して、2時間程度の復習を行うこと。

また、日常的にタイピング練習を実施すること。

< 提出課題など >

技能習得確認のための課題作成テスト（第5回）・中間テスト（第10回）・実技テスト（第15回）・タイピングテスト（第9回・第14回）を授業中に実施する。

提示が必要な模範解答はdotCampusにて対応する。

その他、毎回授業で作成したファイルを、学内ネットワークシステムを利用して提出する。提示が必要な模範解答は配布ファイルで対応する。

< 成績評価方法・基準 >

学習活動評価40％・各種テスト評価60％の割合で評価する。

定期試験は実施しない。

学習活動評価は以下とする

毎回の授業で作成した成果ファイルの提出

成果ファイルの完成度

授業への参加度

各種テストは以下とする

課題作成テスト・中間テスト・実技テスト・タイピングテスト2回

その他

毎回出席確認を行う。

授業回数の3分の2以上の出席が必要。そうでない場合は、単位を認定しない。

他人データの流用や作成データのコピー等不正行為が行われた場合、単位を認定しない。

< テキスト >

神戸学院大学情報支援事務室編集「情報活用の基礎2022年度版」

その他適宜、補助教材を配布する。

< 授業計画 >

第1回 授業や評価に関する案内

Power Pointの実習

授業内容や評価に関する案内を行う。

Power Pointを使用し、スライド作成実習を行う。（テーマ・箇条書き・オンライン画像・書式設定）

第2回 Power Pointの実習

Power Pointを使用し、スライド作成実習を行う。（SmartArt・画面切り替え効果・アニメーション・リハーサル・配布資料・スライドマスタ・発表技術）

第3回 Power Pointの実習

Power Pointを使用し、ビジュアル化演習を行う。

第4回 課題作成実習

次のテストで使用するプレゼンテーションの企画を行う。

第5回 課題作成テスト（実技）

ここまでのPowerPoint技能習得確認のための課題作成テストを実施する。

第6回 Excel基礎

（表計算）

作表・表計算・データベースの実習を行う。できるだけ多くの問題に取り組み、習得する。（数式・オートSUM・表の書式設定・表示形式）

第7回 Excel基礎

（表計算）

作表・表計算・データベースの実習を行う。できるだけ多くの問題に取り組み、習得する。（相対参照・絶対参照・データベース）

第8回 Excel基礎

（グラフ）

様々なグラフの作成実習を行う。できるだけ多くの問題に取り組み、習得する。

第9回 タイピングテスト

Excel基礎復習演習

タイピング技術の習得確認の為、タイピングテストを実施する。

Excel基礎範囲の復習演習を実施する。

第10回 中間テスト(実技)

ここまでのExcel基礎技能習得確認のための中間テストを実施する。

第11回 Excel応用

(端数処理関数)

端数処理関数と条件付き書式を習得する。基礎範囲を含め、できるだけ多くの問題に取り組み、応用力を付ける。

第12回 Excel応用

(条件分岐関数)

条件分岐関数・順位を求める関数・個数関数を習得する。前回の関数と組み合わせ、応用的な問題に取り組む。

第13回 Excel応用

(文字列検索関数)

文字列検索関数とエラー表示回避方法及び入力規則を習得する。前回、前々回の関数と組み合わせ、実践的な問題に取り組む。

第14回 タイピングテスト

Excel応用復習演習

タイピング技術の習得確認の為、タイピングテストを実施する。

Excel応用範囲の復習演習を実施する。

第15回 実技テスト(実技)

ここまでのExcel応用技能習得確認のための実技テストを実施する。

毎回 タイピング練習

成果ファイル提出

ICT実習 と同様にタイピング練習を継続して行う。必要なファイルは講師の指示により提出する。

2022年度 後期

1.0単位

基礎情報処理実習 (A)【経済】

梯 健太郎、永岡 久美子、沈 成輔

< 授業の方法 >

講義・実習

< 授業の目的 >

この科目は、共通教育科目のリテラシー科目群、情報分野に属しています。

全学DPに掲げる、広い教養を身につけること、獲得した知識や技能をもって社会に貢献する力を身につけることを目的とします。

当講義では[第三者による一定の評価に基づく、自信を持って実務を遂行できる Word・Excel スキル]の習得を目指します。

知識面では、主にネットワークや情報モラルに関して、

個人や家庭で必要とされるレベルから企業で必要とされるレベルにまで理解を深めていきます。

近年、企業にとってコンピューターの存在は必要不可欠のものとなっており、PC 操作については習得済みという前提で業務が組み立てられている場合も多く見受けられます。

また、何らかの業務に従事し始めた当初は、業務知識(業務遂行に必要な知識)の吸収に多くの時間を割く必要があり、PC 操作の学習・習得にまではなかなか手が回らないということもありがちな話です。

是非、当講義の目標レベルにまで到達し、学業においても社会生活においても、PC 操作に手を取られることなく、取り組むべき本質に集中できるようになっていただきたいと思います。

なお、この授業は、実務経験のある教員が担当しています。IT 企業での業務を9年間、情報教育業務は7年間経験していますので、企業等で求められる情報に関する知識・スキルを、より実践的な観点から解説します。

< 到達目標 >

1. ICTプロフィシエンシー検定協会主催の P 検試験「準 2 級以上」に合格する
2. Word を利用し、複数ページで構成された文書を効率よく作成できる
3. Excel を利用し、件数の多い表の作成と集計、及び簡単な分析を行うことができる
4. 一般的なメディアについての知識を持ち、適切な方法でデータの受け渡しを行える
5. アカウントの安全な保持手段についての理解を深める。

< 授業のキーワード >

ソフトウェア間の連携、知的財産、アカウント管理、BI
< 授業の進め方 >

実習を中心に講義を進めます。

テキストとして eラーニング教材「nanare」を利用します。

一部の回を除き、毎回、講義内で提示された課題を提出してもらいます。

< 履修するにあたって >

(1) 遅刻について

当講義は実習が中心となるため、遅刻者対応は授業を一時的に中断させるということを認識しておいてください。

(2) 欠席について

欠席した場合は、次の講義までに必ず講義内容を自習してください。

講義開始 20 分以降に入室した学生は欠席とみなします。遅刻 3 回で欠席 1 回とし、欠席回数が全講義回数の 3 分の 1 を超えた場合は評価不能とみなします。

(3) アカウントについて

手元に届いているユーザーID、パスワードが記載されたハガキを必ず持参してください。

情報処理実習室の PC を利用する際に、ログイン用のユーザーID、パスワードが必要です。

紛失した場合は、必ず申し出てください。アカウントの貸し借りは厳禁です。

(4) 講義に臨む姿勢について

各学生の PC 操作スキルには大きな開きがありますが、他人と比較することなく、自己のスキル向上に努めるようにしてください。

(5) 学習環境について

毎回、eラーニング教材 nanare の課題が出ますので、自宅で学習できる環境を整えることが望ましいです。

PC を所有していない人は購入することを推奨します。

なお、大学情報処理実習室の PC の OS は Windows であり、Windows を基本として説明を行います。

< 授業時間外に必要な学修 >

後期理解度確認問題は eラーニング教材 nanare の課題から出題されますので、指示された範囲を学習しておいてください。

当講義ではタイピングスキルを重視しています。P 検準 2 級の合格基準（日本語 75 文字/分以上のスピードでタッチタイピングができる）をクリアしていない場合、できるだけ日を置かず集中的に練習し、早めに目標に到達してください。

・ 学習に要する時間目安

- eラーニング教材 nanare の学習：1~2 時間/週（個人差あり）

- タイピングの練習：10 分/日（個人差あり）

タイピングが目標速度に達していない場合のみ

< 提出課題など >

講義内に提出する課題と、eラーニング教材 nanare の課題があります。

eラーニング教材 nanare の課題の完了期限は 4 回あります。

1. 第 04 回講義日の前日 24 時までに 157-191 までの範囲を学習済みにすること

2. 第 06 回講義日の前日 24 時までに 192-206 までの範囲を学習済みにすること

3. 第 09 回講義日の前日 24 時までに 207-224 までの範囲を学習済みにすること

4. 第 14 回講義日の前日 24 時までに 225-231 までの範囲を学習済みにすること

eラーニング教材 nanare の課題のフィードバックは教

材の自動添削機能によって行い、講義時間内に質疑応答の時間を設けます。

講義内に提出する課題のフィードバックは講義時間内に行い、講義時間外においても解説や動画を Web サイトで閲覧できるようにします。内容によっては模範解答を紹介します。

< 成績評価方法・基準 >

以下の割合で総合的に評価します。

- eラーニング教材 nanare の課題：30 %

- 講義内に提出する課題：15 %

- 後期理解度確認問題：25 %

- P 検：30 %

単位取得には、各課題の提出と検定試験対策が必要です。普段の取り組みが評点に反映されやすくなるよう、後期理解度確認問題は nanare から抜粋して出題します。

< テキスト >

eラーニング教材「nanare」2021 年度版

後期からの受講生は、教材費 3,500 円を初回登校日に持参してください。

遠隔申請者には第 1 回の講義内で支払い方法を案内します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンスと前期の復習

- 当講義の意義、進め方、注意事項、単位の評価基準などについて理解する。

- eラーニング教材 nanare の学習の流れについて理解する。

- 前期の内容（実技、知識問題）の復習をする。

- nanare の主な学習内容：（Excel）データの並べ替え、複数シートの操作

第2回 Office ソフトウェア間の連携

- Office ソフトウェアの連携（特に Word 文書内に Excel の成果物を取り込む方法）について理解・実習する。

- nanare の主な学習内容：（Word）ヘッダーとフッターの設定、セクションの利用

第3回 アカウントの管理

- 各種オンラインサービスを利用するために個人や企業が保持するアカウントの数は増加の一途を辿っている。それらの不適切な管理が招くリスクと安全な保持手段についての理解を深める。

- nanare の主な学習内容：（Excel）ヘッダーとフッターの設定方法、グラフの構成要素

第4回 Word・Excel の実技問題、知識確認問題

主に実技問題で 3 級レベルの操作スキルのレベルを確認する。

- nanare の主な学習内容：（Word）トリミング（Excel）オートフィルター、ROUND 関数

第5回 P 検 3 級模擬演習とタイピング測定

P 検 3 級の模擬試験に取り組み、自身のレベルと得意 / 不得意分野を多角的に確認する。

タイピング測定を実施し、今後の目標を設定する。

第6回 Excel データのインポートと表・グラフの作成
- 区切り文字で区切られた異なるファイル形式のデータを Excel に取り込み、表やグラフを作成する方法について理解・実習する。

- nanare の主な学習内容：(Word)スタイルの利用 (Excel) RANK 関数、VLOOKUP 関数

第7回 Word レポート作成講座

- 見出しと Word のスタイル機能を活用し、複数ページに渡る文書を作成するポイントを理解する。

- nanare の主な学習内容：(Excel)複合グラフ、COUNTIF関数、SUMIF関数

第8回 Excel 関数集中講座

- Excel の関数に対する苦手意識解消を目的とし、身近な例から関数の概念と利用方法を理解する。

- nanare の主な学習内容：(Word)索引の作成、差し込み印刷 (Excel) ユーザー定義の表示形式

第9回 Excel 関数を使用した問題解決実習

- 特定のテーマ(問題)について、それらを手持ちのソフトウェア(道具)を利用して解決する実習を行う。

- [テーマの例] 簡易レジスター作成

- nanare の主な学習内容：(Word)文書の保護 (Excel) テーブル機能

第10回 P 検準 2 級 Word・Excel の実技問題、知識確認問題

準 2 級レベルの Word・Excel の操作スキルのレベルを確認する。

各自が自己分析に基づいた検定試験対策を行う。

- nanare の主な学習内容：(Excel)ピボットテーブルの作成と編集

第11回 P 検準 2 級模擬演習とタイピング測定

P 検準 2 級の模擬試験に取り組み、自身のレベルと得意 / 不得意分野を多角的に確認する。

タイピング測定を実施し、検定試験の受験級を判断する。

第12回 ドキュメント情報の編集とファイル形式の変換
保存したファイルの情報の編集、保護、ファイル形式の変換について実習する。

第13回 P 検本番試験

検定試験形式で自身の ICT スキルを確認する。

第14回 Excel による最も簡単な意思決定支援

実務では、データの収集 蓄積 分析を経て意思決定を行うことが多々ある(この一連の考え方を BI と呼ぶ)。

アンケートを通して最も簡単な BI の流れを俯瞰する。

アンケートの集計結果からデータの分析を行う。

第15回 後期理解度確認問題

後期理解度確認問題で自身の ICT スキルを確認する。

2022年度 後期

1.0単位

基礎情報処理実習 (A)【経営】

上村 千里、濱本 季之、中原 伸子

< 授業の方法 >

対面授業(講義・実習)

< 授業の目的 >

この科目は、全学DPが示す問題を発見・解決する能力の基盤となる知識や技術を身につけることを目的とする。ビジネスシーンにおいては、プレゼンテーションスキルとコンピュータスキルが重視されており、社会ではこの2つのスキル習得を学生に求める声も多い。

この科目では、Microsoft PowerPointとMicrosoft Excelを使用して、社会に通用するプレゼンテーションスキルと必須とされているExcelスキルを身につける。Microsoft PowerPointでは、プレゼンテーションスキルを習得する。実習ではアプリケーション操作だけでなく、聞き手に興味を持たせる構成やわかりやすいプレゼンテーションのためのビジュアル化ができるようになることを目的とし、社会に通用するプレゼンテーションスキルの習得を目指す。

Microsoft Excelでは、様々なデータを元に作表や計算、グラフ化、データベース利用などができるように基礎を習得する。その上で様々なビジネスシーンで役立つ汎用性の高いExcel関数を学び、社会で必要とされるコンピュータスキルを習得することを目指す。

また、この科目の担当者は実務経験のある教員である。企業においてSE(システムエンジニア)や情報処理関連分野の研修講師として10年以上の経験がある。常に最新の情報や技術を踏まえ、時に専門分野についてもわかりやすく伝えていきたい。

< 到達目標 >

1. プレゼンテーションに必要な知識を習得し、訴求力のあるプレゼンテーション資料を作成できる。
2. Excelを使用して、計算式を設定した表作成や目的に合ったグラフ作成ができる。
3. 効率的に作業を行うための使用頻度が高いExcel関数を使うことができる。
4. タッチタイピングで速く正確な入力ができる。
5. ビジネス形式のメールが作成できる。

< 授業のキーワード >

プレゼンテーション・Microsoft PowerPoint・Microsoft Excel・タッチタイピング・ビジネスメール

< 授業の進め方 >

すべての講義は実習室のパソコンを使用する実習を中心とした内容である。

毎回、設定されているテーマに基づく機能習得を目指す

し、時間の許す限り復習も行う。

毎回、授業の冒頭にタイピング練習を行い、タッチタイピングができるようにスキルアップを目指す。

授業の最後に指示されたテーマに基づくメールを作成し、講師宛に送信する。

<履修するにあたって>

毎回、必ず、配布プリントと教科書を持参すること。

実習室のパソコンを使用する際、“ユーザー名(アカウント)”と“パスワード”が必要である。貸出用は無いので忘れないように注意すること。

遅刻すると自分のパソコンの実習環境が整わなかったり、操作がわからなくなったりするため、遅刻しないように注意すること。

実習は原則として前回授業の受講を前提として行われる。欠席すると大幅な遅れにつながる場合があるため、欠席しないように注意すること。やむを得ない理由で欠席した場合は、次の授業までに自習しておくこと。

コンピューターは精密機器であるため、取り扱いについては十分注意すること。

教室内では飲食禁止。また、指定された座席に着席すること。

質問は電子メールでも受け付ける。

その他すべて教員の指示に従うこと。不明な点があれば遠慮なく担当教員に尋ねること。

この講義は、Microsoft Windows 10とMicrosoft Office 2016の環境で行う。

推奨パソコンスペック

OS：Windows10 (Home Edition以上)

Sモードは制約が多いため推奨いたしません。

Officeアプリ (Word、Excel等) は本学学生であれば入学後、無償でインストールができます。

Microsoftとの包括契約

CPU：Intel Core i5 (第10世代以降) またはAMD Ryzen 5 (第3世代以降) 以上

Wi-Fi：必須 (Wi-Fi5 (11ac) 以上対応)

メモリ：8GB以上

ディスク：256GB以上 (SSD推奨)

Webカメラ：カメラ付き必須推奨

モニター：13インチ以上

バッテリー：6時間程度は稼働可能なもの

< 授業時間外に必要な学修 >

各種機能の習得には提供される教材データを利用して、2時間程度の復習を行うこと。

また、日常的にタイピング練習を実施すること。

< 提出課題など >

技能習得確認のための課題作成テスト (第5回) ・ 中間テスト (第10回) ・ 実技テスト (第15回) ・ タイピングテスト (第9回・第14回) を授業中に実施する。

提示が必要な模範解答はdotCampusにて対応する。

その他、毎回授業で作成したファイルを、学内ネットワークシステムを利用して提出する。提示が必要な模範解答は配布ファイルで対応する。

< 成績評価方法・基準 >

学習活動評価40% ・ 各種テスト評価60%の割合で評価する。

定期試験は実施しない。

学習活動評価は以下とする

毎回の授業で作成した成果ファイルの提出
成果ファイルの完成度
授業への参加度

各種テストは以下とする

課題作成テスト・中間テスト・実技テスト・タイピングテスト2回

その他

毎回出席確認を行う。

授業回数の3分の2以上の出席が必要。そうでない場合は、単位を認定しない。

他人データの流用や作成データのコピー等不正行為が行われた場合、単位を認定しない。

< テキスト >

神戸学院大学情報支援事務室編集「情報活用の基礎2022年度版」

その他適宜、補助教材を配布する。

< 授業計画 >

第1回 授業や評価に関する案内

Power Pointの実習

授業内容や評価に関する案内を行う。

Power Pointを使用し、スライド作成実習を行う。(テーマ・箇条書き・オンライン画像・書式設定)

第2回 Power Pointの実習

Power Pointを使用し、スライド作成実習を行う。(SmartArt・画面切り替え効果・アニメーション・リハーサル・配布資料・スライドマスタ・発表技術)

第3回 Power Pointの実習

Power Pointを使用し、ビジュアル化演習を行う。

第4回 課題作成実習

次のテストで使用するプレゼンテーションの企画を行う。

第5回 課題作成テスト(実技)

ここまでのPowerPoint技能習得確認のための課題作成テストを実施する。

第6回 Excel基礎

(表計算)

作表・表計算・データベースの実習を行う。できるだけ多くの問題に取り組み、習得する。(数式・オートSUM

・表の書式設定・表示形式)

第7回 Excel基礎

(表計算)

作表・表計算・データベースの実習を行う。できるだけ多くの問題に取り組み、習得する。(相対参照・絶対参照・データベース)

第8回 Excel基礎

(グラフ)

様々なグラフの作成実習を行う。できるだけ多くの問題に取り組み、習得する。

第9回 タイピングテスト

Excel基礎復習演習

タイピング技術の習得確認の為、タイピングテストを実施する。

Excel基礎範囲の復習演習を実施する。

第10回 中間テスト(実技)

ここまでのExcel基礎技能習得確認のための中間テストを実施する。

第11回 Excel応用

(端数処理関数)

端数処理関数と条件付き書式を習得する。基礎範囲を含め、できるだけ多くの問題に取り組み、応用力を付ける。

第12回 Excel応用

(条件分岐関数)

条件分岐関数・順位を求める関数・個数関数を習得する。前回の関数と組み合わせ、応用的な問題に取り組む。

第13回 Excel応用

(文字列検索関数)

文字列検索関数とエラー表示回避方法及び入力規則を習得する。前回、前々回の関数と組み合わせ、実践的な問題に取り組む。

第14回 タイピングテスト

Excel応用復習演習

タイピング技術の習得確認の為、タイピングテストを実施する。

Excel応用範囲の復習演習を実施する。

第15回 実技テスト(実技)

ここまでのExcel応用技能習得確認のための実技テストを実施する。

毎回 タイピング練習

成果ファイル提出

ICT実習と同様にタイピング練習を継続して行う。必要なファイルは講師の指示により提出する。

2022年度 後期

1.0単位

基礎情報処理実習 (A)【現社・社防】

河下 真佐代、寄木 知子、小野原 登美子

<授業の方法>

講義・実習

<授業の目的>

この科目は、共通教育科目のリテラシー科目群、情報分野に属しています。

全学DPIに掲げる、広い教養を身につけること、獲得した知識や技能をもって社会に貢献する力を身につけることを目的とします。

当講義では[第三者による一定の評価に基づく、自信を持って実務を遂行できる Word・Excel スキル]の習得を目指します。

知識面では、主にネットワークや情報モラルに関して、個人や家庭で必要とされるレベルから企業で必要とされるレベルにまで理解を深めていきます。

近年、企業にとってコンピューターの存在は必要不可欠のものとなっており、PC 操作については習得済みという前提で業務が組み立てられている場合も多く見受けられます。

また、何らかの業務に従事し始めた当初は、業務知識(業務遂行に必要な知識)の吸収に多くの時間を割く必要があり、PC 操作の学習・習得にまではなかなか手が回らないということもありがちな話です。

是非、当講義の目標レベルにまで到達し、学業においても社会生活においても、PC 操作に手を取られることなく、取り組むべき本質に集中できるようになっていただきたいと思います。

なお、この授業は、実務経験のある教員が担当しています。IT 企業での業務を 19 年、情報教育業務は 3 年経験していますので、企業等で求められる情報に関する知識・スキルを、より実践的な観点から解説します。

<到達目標>

1. ICTプロフィシエンシー検定協会主催の P 検試験「準 2 級以上」に合格する
2. Word を利用し、複数ページで構成された文書を効率よく作成できる
3. Excel を利用し、件数の多い表の作成と集計、及び簡単な分析を行うことができる
4. 一般的なメディアについての知識を持ち、適切な方法でデータの受け渡しを行える
5. アカウントの安全な保持手段についての理解を深める。

<授業のキーワード>

ソフトウェア間の連携、知的財産、アカウント管理、BI
<授業の進め方>

実習を中心に講義を進めます。

テキストとして eラーニング教材「nanare」を利用します。

一部の回を除き、毎回、講義内で提示された課題を提出してもらいます。

<履修するにあたって>

(1) 遅刻について

当講義は実習が中心となるため、遅刻者対応は授業を一時的に中断させるということを認識しておいてください。

(2) 欠席について

欠席した場合は、次の講義までに必ず講義内容を自習してください。

講義開始 20 分以降に入室した学生は欠席とみなします。遅刻 3 回で欠席 1 回とし、欠席回数が全講義回数の 3 分の 1 を超えた場合は評価不能とみなします。

(3) アカウントについて

手元に届いているユーザーID、パスワードが記載されたハガキを必ず持参してください。

情報処理実習室の PC を利用する際に、ログイン用のユーザーID、パスワードが必要です。

紛失した場合は、必ず申し出てください。アカウントの貸し借りは厳禁です。

(4) 講義に臨む姿勢について

各学生の PC 操作スキルには大きな開きがありますが、他人と比較することなく、自己のスキル向上に努めるようにしてください。

(5) 学習環境について

毎回、eラーニング教材 nanare の課題が出ますので、自宅で学習できる環境を整えることが望ましいです。

PC を所有していない人は購入することを推奨します。なお、大学情報処理実習室の PC の OS は Windows であり、Windows を基本として説明を行います。

<授業時間外に必要な学修>

後期理解度確認問題は eラーニング教材 nanare の課題から出題されますので、指示された範囲を学習しておいてください。

当講義ではタイピングスキルを重視しています。P 検準 2 級の合格基準（日本語 75 文字/分以上のスピードでタッチタイピングができる）をクリアしていない場合、できるだけ日を置かず集中的に練習し、早めに目標に到達してください。

・学習に要する時間目安

- eラーニング教材 nanare の学習：1~2 時間/週（個人差あり）

- タイピングの練習：10 分/日（個人差あり）

タイピングが目標速度に達していない場合のみ

<提出課題など>

講義内に提出する課題と、eラーニング教材 nanare の課題があります。

eラーニング教材 nanare の課題の完了期限は 4 回あります。

1. 第 04 回講義日の前日 24 時までに 157-191 までの範囲を学習済みにすること

2. 第 06 回講義日の前日 24 時までに 192-206 までの範囲を学習済みにすること

3. 第 09 回講義日の前日 24 時までに 207-224 までの範囲を学習済みにすること

4. 第 14 回講義日の前日 24 時までに 225-231 までの範囲を学習済みにすること

eラーニング教材 nanare の課題のフィードバックは教材の自動添削機能によって行い、講義時間内に質疑応答の時間を設けます。

講義内に提出する課題のフィードバックは講義時間内に行い、講義時間外においても解説や動画を Web サイトで閲覧できるようにします。内容によっては模範解答を紹介します。

<成績評価方法・基準>

以下の割合で総合的に評価します。

- eラーニング教材 nanare の課題：30 %

- 講義内に提出する課題：15 %

- 後期理解度確認問題：25 %

- P 検：30 %

単位取得には、各課題の提出と検定試験対策が必要です。普段の取り組みが評点に反映されやすくなるよう、後期理解度確認問題は nanare から抜粋して出題します。

<テキスト>

eラーニング教材「nanare」2021 年度版

後期からの受講生は、教材費 3,500 円を初回登校日に持参してください。

遠隔申請者には第 1 回の講義内で支払い方法を案内します。

<授業計画>

第1回 ガイダンスと前期の復習

- 当講義の意義、進め方、注意事項、単位の評価基準などについて理解する。

- eラーニング教材 nanare の学習の流れについて理解する。

- 前期の内容（実技、知識問題）の復習をする。

- nanare の主な学習内容：（Excel）データの並べ替

え、複数シートの操作

第2回 Office ソフトウェアの連携

- Office ソフトウェアの連携（特に Word 文書内に Excel の成果物を取り込む方法）について理解・実習する。
- nanare の主な学習内容：（Word）表の編集と効率的な表の作成

第3回 アカウントの管理

- 各種オンラインサービスを利用するために個人や企業が保持するアカウントの数は増加の一途を辿っている。それらの不適切な管理が招くリスクと安全な保持手段についての理解を深める。

- nanare の主な学習内容：（Excel）ヘッダーとフッターの設定方法とグラフの構成要素

第4回 Word・Excel の実技問題、知識確認問題

- 主に実技問題で 3 級レベルの操作スキルのレベルを確認する。
- nanare の主な学習内容：（Word）ヘッダーとフッターの設定とセクションの利用

第5回 P 検 3 級模擬演習とタイピング測定

- P 検 3 級の模擬試験に取り組み、自身のレベルと得意／不得意分野を多角的に確認する。
- タイピング測定を実施し、今後の目標を設定する。
- nanare の主な学習内容：（Excel）IF関数と複数の関数の組み合わせ

第6回 Excel データのインポートと表・グラフの作成

- 区切り文字で区切られた異なるファイル形式のデータを Excel に取り込み、表やグラフを作成する方法について理解・実習する。
- nanare の主な学習内容：（Word）スタイルの利用と目次の作成

第7回 Word レポート作成講座

- 見出しと Word のスタイル機能を活用し、複数ページに渡る文書を作成するポイントを理解する。
- nanare の主な学習内容：（Excel）RANK 関数とVL00 KUP 関数

第8回 Excel 関数集中講座

- Excel の関数に対する苦手意識解消を目的とし、身近な例から関数の概念と利用方法を理解する。
- nanare の主な学習内容：（Word）索引の作成と差し込み印刷

第9回 Excel 関数を使用した問題解決実習

- 特定のテーマ（問題）について、それらを手持ちのソフトウェア（道具）を利用して解決する実習を行う。
- [テーマの例] 簡易レジスター作成
- nanare の主な学習内容：（Word）文書の保護（Excel）テーブル機能

第10回 P 検準 2 級 Word・Excel の実技問題、知識確認問題

- 準 2 級レベルの Word・Excel の操作スキルのレベルを確認する。

- 各自が自己分析に基づいた検定試験対策を行う。
- nanare の主な学習内容：（Excel）ピボットテーブルの作成と編集

第11回 P 検準 2 級模擬演習とタイピング測定

- P 検準 2 級の模擬試験に取り組み、自身のレベルと得意／不得意分野を多角的に確認する。
- 各自が自己分析に基づいた検定試験対策を行う。
- タイピング測定を実施し、検定試験の受験級を判断する。

第12回 ドキュメント情報の編集とファイル形式の変換

第13回 P 検本番試験

- 検定試験形式で自身の ICT スキルを確認する。
- 第14回 Excel による最も簡単な意思決定支援
 - 実務では、データの収集 蓄積 分析を経て意思決定を行うことが多々ある（この一連の考え方を BI と呼ぶ）。アンケートを通して最も簡単な BI の流れを俯瞰する。
 - アンケートの集計結果からデータの分析を行う。

第15回 後期理解度確認問題

- 後期理解度確認問題で自身の ICT スキルを確認する。

2022年度 後期

1.0単位

基礎情報処理実習 (A)【GC】

沈 成輔、永岡 久美子、梯 健太郎

<授業の方法>

講義・実習

<授業の目的>

この科目は、共通教育科目のリテラシー科目群、情報分野に属しています。全学DPIに掲げる、広い教養を身につけること、獲得した知識や技能をもって社会に貢献する力を身につけることを目的とします。

当講義では[第三者による一定の評価に基づく、自信を持って実務を遂行できる Word・Excel スキル]の習得を目指します。

知識面では、主にネットワークや情報モラルに関して、個人や家庭で必要とされるレベルから企業で必要とされるレベルにまで理解を深めていきます。

近年、企業にとってコンピューターの存在は必要不可欠のものとなっており、PC 操作については習得済みという前提で業務が組み立てられている場合も多く見受けられます。

また、何らかの業務に従事し始めた当初は、業務知識（業務遂行に必要な知識）の吸収に多くの時間を割く必要

があり、PC 操作の学習・習得にまではなかなか手が回らないということもありがちな話です。
是非、当講義の目標レベルにまで到達し、学業においても社会生活においても、PC 操作に手を取られることなく、取り組むべき本質に集中できるようになっていただきたいと思えます。

なお、この授業は、実務経験のある教員が担当しています。IT 企業での業務を8年間、情報教育業務は6年間経験していますので、企業等で求められる情報に関する知識・スキルを、より実践的な観点から解説します。

<到達目標>

1. ICTプロフィシエンシー検定協会主催の P 検試験「準 2 級以上」に合格する
2. Word を利用し、複数ページで構成された文書を効率よく作成できる
3. Excel を利用し、件数の多い表の作成と集計、及び簡単な分析を行うことができる
4. 一般的なメディアについての知識を持ち、適切な方法でデータの受け渡しを行える
5. アカウントの安全な保持手段についての理解を深める。

<授業のキーワード>

ソフトウェア間の連携、知的財産、アカウント管理、BI

<授業の進め方>

実習を中心に講義を進めます。

テキストとして eラーニング教材「nanare」を利用します。

一部の回を除き、毎回、講義内で提示された課題を提出してもらいます。

<履修するにあたって>

(1) 遅刻について

当講義は実習が中心となるため、遅刻者対応は授業を一時的に中断させるということを認識しておいてください。

(2) 欠席について

欠席した場合は、次の講義までに必ず講義内容を自習してください。

講義開始 20 分以降に入室した学生は欠席とみなします。遅刻 3 回で欠席 1 回とし、欠席回数が全講義回数の 3 分の 1 を超えた場合は評価不能とみなします。

(3) アカウントについて

手元に届いているユーザーID、パスワードが記載されたハガキを必ず持参してください。

情報処理実習室の PC を利用する際に、ログイン用のユーザーID、パスワードが必要です。

紛失した場合は、必ず申し出てください。アカウントの貸し借りは厳禁です。

(4) 講義に臨む姿勢について

各学生の PC 操作スキルには大きな開きがありますが、他人と比較することなく、自己のスキル向上に努めるようにしてください。

(5) 学習環境について

毎回、eラーニング教材 nanare の課題が出ますので、自宅で学習できる環境を整えることが望ましいです。

PC を所有していない人は購入することを推奨します。なお、大学情報処理実習室の PC の OS は Windows であり、Windows を基本として説明を行います。

<授業時間外に必要な学修>

後期理解度確認問題は eラーニング教材 nanare の課題から出題されますので、指示された範囲を学習しておいてください。

当講義ではタイピングスキルを重視しています。P 検準 2 級の合格基準（日本語 75 文字/分以上のスピードでタッチタイピングができる）をクリアしていない場合、できるだけ日を置かず集中的に練習し、早めに目標に到達してください。

・学習に要する時間目安

- eラーニング教材 nanare の学習：1~2 時間/週（個人差あり）

- タイピングの練習：10 分/日（個人差あり）

タイピングが目標速度に達していない場合のみ

<提出課題など>

講義内に提出する課題と、eラーニング教材 nanare の課題があります。

eラーニング教材 nanare の課題の完了期限は 4 回あります。

1. 第 04 回講義日の前日 24 時までに 157-191 までの範囲を学習済みにすること

2. 第 06 回講義日の前日 24 時までに 192-206 までの範囲を学習済みにすること

3. 第 09 回講義日の前日 24 時までに 207-224 までの範囲を学習済みにすること

4. 第 14 回講義日の前日 24 時までに 225-231 までの範囲を学習済みにすること

eラーニング教材 nanare の課題のフィードバックは教材の自動添削機能によって行い、講義時間内に質疑応答の時間を設けます。

講義内に提出する課題のフィードバックは講義時間内に行い、講義時間外においても解説や動画を Web サイトで閲覧できるようにします。内容によっては模範解答を紹介します。

<成績評価方法・基準>

以下の割合で総合的に評価します。

- eラーニング教材 nanare の課題：30 %
- 講義内に提出する課題：15 %
- 後期理解度確認問題：25 %
- P 検：30 %

単位取得には、各課題の提出と検定試験対策が必要です。普段の取り組みが評点に反映されやすくなるよう、後期理解度確認問題は nanare から抜粋して出題します。

<テキスト>

eラーニング教材「nanare」2021 年度版

後期からの受講生は、教材費 3,500 円を初回登校日に持参してください。

遠隔申請者には第 1 回の講義内で支払い方法を案内します。

<授業計画>

第1回 ガイダンスと前期の復習

- 当講義の意義、進め方、注意事項、単位の評価基準などについて理解する。
- eラーニング教材 nanare の学習の流れについて理解する。
- 前期の内容（実技、知識問題）の復習をする。

- nanare の主な学習内容：（Excel）データの並べ替え、複数シートの操作

第2回 Office ソフトウェア間の連携

- Office ソフトウェアの連携（特に Word 文書内に Excel の成果物を取り込む方法）について理解・実習する。

- nanare の主な学習内容：（Word）ヘッダーとフッターの設定、セクションの利用

第3回 アカウントの管理

- 各種オンラインサービスを利用するために個人や企業が保持するアカウントの数は増加の一途を辿っている。それらの不適切な管理が招くリスクと安全な保持手段についての理解を深める。

- nanare の主な学習内容：（Excel）ヘッダーとフッターの設定方法、グラフの構成要素

第4回 Word・Excel の実技問題、知識確認問題

主に実技問題で 3 級レベルの操作スキルのレベルを確認する。

- nanare の主な学習内容：（Word）トリミング（Excel）オートフィルター、ROUND 関数

第5回 P 検 3 級模擬演習とタイピング測定

P 検 3 級の模擬試験に取り組み、自身のレベルと得意 / 不得意分野を多角的に確認する。

タイピング測定を実施し、今後の目標を設定する。

第6回 Excel データのインポートと表・グラフの作成

- 区切り文字で区切られた異なるファイル形式のデータを Excel に取り込み、表やグラフを作成する方法について理解・実習する。

- nanare の主な学習内容：（Word）スタイルの利用（E

xcel）RANK 関数、VLOOKUP 関数

第7回 Word レポート作成講座

- 見出しと Word のスタイル機能を活用し、複数ページに渡る文書を作成するポイントを理解する。

- nanare の主な学習内容：（Excel）複合グラフ、COUNTIF関数、SUMIF関数

第8回 Excel 関数集中講座

- Excel の関数に対する苦手意識解消を目的とし、身近な例から関数の概念と利用方法を理解する。

- nanare の主な学習内容：（Word）索引の作成、差し込み印刷（Excel）ユーザー定義の表示形式

第9回 Excel 関数を使用した問題解決実習

- 特定のテーマ（問題）について、それらを手持ちのソフトウェア（道具）を利用して解決する実習を行う。

- [テーマの例] 簡易レジスター作成

- nanare の主な学習内容：（Word）文書の保護（Excel）テーブル機能

第10回 P 検準 2 級 Word・Excel の実技問題、知識確認問題

準 2 級レベルの Word・Excel の操作スキルのレベルを確認する。

各自が自己分析に基づいた検定試験対策を行う。

- nanare の主な学習内容：（Excel）ピボットテーブルの作成と編集

第11回 P 検準 2 級模擬演習とタイピング測定

P 検準 2 級の模擬試験に取り組み、自身のレベルと得意 / 不得意分野を多角的に確認する。

タイピング測定を実施し、検定試験の受験級を判断する。

第12回 ドキュメント情報の編集とファイル形式の変換
保存したファイルの情報の編集、保護、ファイル形式の変換について実習する。

第13回 P 検本番試験

検定試験形式で自身の ICT スキルを確認する。

第14回 Excel による最も簡単な意思決定支援

実務では、データの収集 蓄積 分析を経て意思決定を行うことが多々ある（この一連の考え方を BI と呼ぶ）。

アンケートを通して最も簡単な BI の流れを俯瞰する。

アンケートの集計結果からデータの分析を行う。

第15回 後期理解度確認問題

後期理解度確認問題で自身の ICT スキルを確認する。

2022年度 後期

1.0単位

基礎情報処理実習 (F)【GC(日)】

三木 洪子

<授業の方法>

講義・実習

< 授業の目的 >

この科目は、共通教育科目のリテラシー科目群、情報分野に属しています。

全学DPに掲げる、広い教養を身につけること、獲得した知識や技能をもって社会に貢献する力を身につけることを目的とします。

当講義では [第三者による一定の評価に基づく、自信を持って実務を遂行できる Word・Excel スキル] の習得を目指します。

知識面では、主にネットワークや情報モラルに関して、個人や家庭で必要とされるレベルから企業で必要とされるレベルにまで理解を深めていきます。

近年、企業にとってコンピューターの存在は必要不可欠のものとなっており、PC 操作については習得済みという前提で業務が組み立てられている場合も多く見受けられます。

また、何らかの業務に従事し始めた当初は、業務知識（業務遂行に必要な知識）の吸収に多くの時間を割く必要があり、PC 操作の学習・習得にまではなかなか手が回らないということもありがちな話です。

是非、当講義の目標レベルにまで到達し、学業においても社会生活においても、PC 操作に手を取られることなく、取り組むべき本質に集中できるようになっていただきたいと思えます。

なお、この授業は、実務経験のある教員が担当しています。IT 企業での業務を 10 年、情報教育業務は 15 年経験していますので、企業等で求められる情報に関する知識・スキルを、より実践的な観点から解説します。

< 到達目標 >

1. ICTプロフィシエンシー検定協会主催の P 検試験「準 2 級以上」に合格する
2. Word を利用し、複数ページで構成された文書を効率よく作成できる
3. Excel を利用し、件数の多い表の作成と集計、及び簡単な分析を行うことができる
4. 一般的なメディアについての知識を持ち、適切な方法でデータの受け渡しを行える
5. アカウントの安全な保持手段についての理解を深める。

< 授業のキーワード >

ソフトウェア間の連携、知的財産、アカウント管理、BI

< 授業の進め方 >

実習を中心に講義を進めます。

テキストとして eラーニング教材「nanare」を利用します。

一部の回を除き、毎回、講義内で提示された課題を提出してもらいます。

< 履修するにあたって >

(1) 遅刻について

当講義は実習が中心となるため、遅刻者対応は授業を一時的に中断させるということを認識しておいてください。

(2) 欠席について

欠席した場合は、次の講義までに必ず講義内容を自習してください。

講義開始 20 分以降に入室した学生は欠席とみなします。遅刻 3 回で欠席 1 回とし、欠席回数が全講義回数の 3 分の 1 を超えた場合は評価不能とみなします。

(3) アカウントについて

手元に届いているユーザーID、パスワードが記載されたハガキを必ず持参してください。

情報処理実習室の PC を利用する際に、ログイン用のユーザーID、パスワードが必要です。

紛失した場合は、必ず申し出てください。アカウントの貸し借りは厳禁です。

(4) 講義に臨む姿勢について

各学生の PC 操作スキルには大きな開きがありますが、他人と比較することなく、自己のスキル向上に努めるようにしてください。

(5) 学習環境について

毎回、eラーニング教材 nanare の課題が出ますので、自宅で学習できる環境を整えることが望ましいです。

PC を所有していない人は購入することを推奨します。

なお、大学情報処理実習室の PC の OS は Windows であり、Windows を基本として説明を行います。

< 授業時間外に必要な学修 >

後期理解度確認問題は eラーニング教材 nanare の課題から出題されますので、指示された範囲を学習しておいてください。

当講義ではタイピングスキルを重視しています。P 検準 2 級の合格基準（日本語 75 文字 / 分以上のスピードでタッチタイピングができる）をクリアしていない場合、できるだけ日を置かず集中的に練習し、早めに目標に到達してください。

・学習に要する時間目安

- eラーニング教材 nanare の学習：1~2 時間 / 週（個人差あり）

- タイピングの練習：10 分 / 日（個人差あり）

タイピングが目標速度に達していない場合のみ

< 提出課題など >

講義内に提出する課題と、eラーニング教材 nanare の課題があります。

eラーニング教材 nanare の課題の完了期限は 4 回あり

ます。

1. 第 04 回講義日の前日 24 時まで 157-191 までの範囲を学習済みにすること
2. 第 06 回講義日の前日 24 時まで 192-206 までの範囲を学習済みにすること
3. 第 09 回講義日の前日 24 時まで 207-224 までの範囲を学習済みにすること
4. 第 14 回講義日の前日 24 時まで 225-231 までの範囲を学習済みにすること

eラーニング教材 nanare の課題のフィードバックは教材の自動添削機能によって行い、講義時間内に質疑応答の時間を設けます。

講義内に提出する課題のフィードバックは講義時間内に行い、講義時間外においても解説や動画を Web サイトで閲覧できるようにします。内容によっては模範解答を紹介しします。

<成績評価方法・基準>

以下の割合で総合的に評価します。

- eラーニング教材 nanare の課題 : 30 %
- 講義内に提出する課題 : 15 %
- 後期理解度確認問題 : 25 %
- P 検 : 30 %

単位取得には、各課題の提出と検定試験対策が必要です。普段の取り組みが評点に反映されやすくなるよう、後期理解度確認問題は nanare から抜粋して出題します。

<テキスト>

eラーニング教材「nanare」2021 年度版

後期からの受講生は、教材費 3,500 円を初回登校日に持参してください。

遠隔申請者には第 1 回の講義内で支払い方法を案内します。

<授業計画>

第1回 ガイダンスと前期の復習

- 当講義の意義、進め方、注意事項、単位の評価基準などについて理解する。

- eラーニング教材 nanare の学習の流れについて理解する。

- 前期の内容(実技、知識問題)の復習をする。

- nanare の主な学習内容 : (Excel) データの並べ替え、複数シートの操作

第2回 - Office ソフトウェアの連携

- Office ソフトウェアの連携(特に Word 文書内に Excel の成果物を取り込む方法)について理解・実習する。

- nanare の主な学習内容 : (Word) 表の編集と効率的な表の作成

第3回 アカウントの管理

- 各種オンラインサービスを利用するために個人や企業

が保持するアカウントの数は増加の一途を辿っている。それらの不適切な管理が招くリスクと安全な保持手段についての理解を深める。

- nanare の主な学習内容 : (Excel) ヘッダーとフッターの設定方法とグラフの構成要素

第4回 Word・Excel の実技問題、知識確認問題

- 主に実技問題で 3 級レベルの操作スキルのレベルを確認する。

- nanare の主な学習内容 : (Word) ヘッダーとフッターの設定とセクションの利用

第5回 P 検 3 級模擬演習とタイピング測定

- P 検 3 級の模擬試験に取り組み、自身のレベルと得意/不得意分野を多角的に確認する。

- タイピング測定を実施し、今後の目標を設定する。

- nanare の主な学習内容 : (Excel) IF関数と複数の関数の組み合わせ

第6回 Excel データのインポートと表・グラフの作成

- 区切り文字で区切られた異なるファイル形式のデータを Excel に取り込み、表やグラフを作成する方法について理解・実習する。

- nanare の主な学習内容 : (Word) スタイルの利用と目次の作成

第7回 Word レポート作成講座

- 見出しと Word のスタイル機能を活用し、複数ページに渡る文書を作成するポイントを理解する。

- nanare の主な学習内容 : (Excel) RANK 関数とVLOOKUP 関数

第8回 Excel 関数集中講座

- Excel の関数に対する苦手意識解消を目的とし、身近な例から関数の概念と利用方法を理解する。

- nanare の主な学習内容 : (Word) 索引の作成と差し込み印刷

第9回 Excel 関数を使用した問題解決実習

- 特定のテーマ(問題)について、それらを手持ちのソフトウェア(道具)を利用して解決する実習を行う。

- [テーマの例] 簡易レジスター作成

- nanare の主な学習内容 : (Word) 文書の保護(Excel) テーブル機能

第10回 P 検準 2 級 Word・Excel の実技問題、知識確認問題

- 準 2 級レベルの Word・Excel の操作スキルのレベルを確認する。

- 各自が自己分析に基づいた検定試験対策を行う。

- nanare の主な学習内容 : (Excel) ピボットテーブルの作成と編集

第11回 P 検準 2 級模擬演習とタイピング測定

- P 検準 2 級の模擬試験に取り組み、自身のレベルと得意/不得意分野を多角的に確認する。

- 各自が自己分析に基づいた検定試験対策を行う。

- タイピング測定を実施し、検定試験の受験級を判断す

る。
第12回 ドキュメント情報の編集とファイル形式の変換
- 保存したファイルの情報の編集、保護、ファイル形式の変換について実習する。

第13回 Excel による最も簡単な意思決定支援
- 実務では、データの収集 蓄積 分析を経て意思決定を行うことが多々ある（この一連の考え方を BI と呼ぶ）。アンケートを通して最も簡単な BI の流れを俯瞰する。

- アンケートの集計結果からデータの分析を行う。

第14回 P 検本番試験

- 検定試験形式で自身の ICT スキルを確認する。

第15回 後期理解度確認問題

後期理解度確認問題で自身の ICT スキルを確認する。

2022年度 前期

1.0単位

基礎情報処理実習

崔 瑛理

< 授業の方法 >

対面授業（講義・実習）

担当講師連絡先メールアドレス：saieri1030@ge.kobegakuin.ac.jp

< 授業の目的 >

この科目は、全学DPに掲げる広い教養を身に付け豊かな人間性や社会性を涵養すること、獲得した知識や技能を活用し社会に役立てることを目指している。講義ではワープロソフトや表計算ソフトの操作スキルの習得のほか、ビジネスにおいて利用される文書や計算書の作成を実習する。実際のビジネスシーンでは、用途や目的に応じた様々な様式やルールが存在するが、これらの特性を知り、実践的なワープロ及び表計算ソフトの活用ができるようにする。この授業の最終目的は、実習した情報分野の基礎知識によって、自分の意見を文書によって表現し、周囲との良好なコミュニケーションをとる力を身につけることである。また、様々な統計を取ることで、提起された課題を考察し、解決する力を養うことである。なお、この授業の担当者は、学外でのIT業務を経験している。

情報社会を生きる上で必要な知識・スキルを、より実践的な観点から解説する。

< 到達目標 >

・ビジネスシーンにおける上司からの指示に対処したビジネス文書を作成できるようになる。

・ビジネス文書の書き方やデータの活用術を習得する。

・基礎情報処理実習 及び の前提知識を習得することができる。

< 授業のキーワード >

ビジネススキル・Microsoft Word・Microsoft Excel

< 授業の進め方 >

すべての講義は実習室のパソコンを使？ する実習を中？ とした内容である。

毎回授業において成果物課題を提出する。

本講義では、Microsoft Word及びMicrosoft Excelを用いて、ビジネスシーンにおける文書及び計算書作成について「ケーススタディ」の手法を通じて学習する。前半は様々なWord機能の実習を通じて、ビジネス文書をスムーズに作成できるよう指導する。後半はExcelの基礎から始め、徐々にレベルアップさせる。関数やグラフィックなどの様々な機能を実習し、分析力を高めていく。

< 履修するにあたって >

毎回、指定テキスト「Microsoft Word 2016&Excel 2016スキルアップ問題集 ビジネス実践編（FOM 出版）」を使用する。

実習室パソコンを利用するため「ユーザー名（アカウント）とパスワード」を必ず持参すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業での実習内容をしっかりと身につけるために、また次回の授業をスムーズに受講するために1時間程度の復習、予習時間を必要とする。

前半のWord実習ではまずビジネス文書作成に不可欠となるタイピング練習を自宅でも行う。入力スピードだけでなくミス入力のない正確な文書作成を意識して練習する。後半のExcel実習では様々な状況に合わせて効率よく統計・分析できるよう宿題を随時作成、提出する。

< 提出課題など >

授業で作成したファイルの提出のほかに、中間期に小テストを2回、最終日に最終課題を実施する。テスト実施後の授業で模範解答の掲示を行う。

< 成績評価方法・基準 >

学習活動点40%、小テスト30%、課題30%の割合で総合的に評価する。

他人データの流用や作成データのコピー等不正行為が行われた場合、単位を認定しない。

評価基準については、各テストの実施状況により若干変更となる場合がある。

< テキスト >

Microsoft Word 2016 & Microsoft Excel 2016
スキルアップ問題集 ビジネス実践編(FOM出版)

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション、授業概要、基本操作復習
今後の授業の進め方、Word基本操作の復習

第2回 ケーススタディ

Wordによるタイピング、文書作成

SmartArtグラフィックの作成実習、社内文書の書き方の

実習
プロジェクトとは、プロジェクト発足通知レポートの作成
第3回 ケーススタディ
Wordによるタイピング、文書作成
社内文書の書き方、表作成実習
会議開催通知レポートの作成、会議配布資料の作成
第4回 ケーススタディ
Wordによるタイピング、文書作成
グラフィック作成機能の実習
ポスターの役割、目的について講義
行動指針とは、行動指針通知レポート及びポスターの作成
第5回 ケーススタディ
Wordによるタイピング、文書作成
表作成の応用、Word編集機能実習
社外文書の書き方（社内文書との違いを確認）、頭語と結語、前文と主文と末文について、社外文書に必要な敬語
セミナー開催の案内レポートの作成
第6回 ケーススタディ⑤
Wordによるタイピング、文書作成
はがきの作成実習、Excelファイルの差し込み実習
セミナー受講表の作成と差込印刷
第7回 Wordによる文書作成のまとめ
Word小テスト
Microsoft Word実習内容の総復習
ビジネス文書の作成による理解度の確認
第8回 ケーススタディ
Microsoft Excelの実習開始、基本操作復習
Excelの日付の表示形式、合計・平均値の算出、表作成機能、グラフの作成
Webサイトへのアクセス数の集計及び分析
第9回 ケーススタディ
Microsoft Excelの実習
様々な関数の実習、テーブル機能の実習、グラフの作成
社内研修結果の管理
第10回 ケーススタディ
Microsoft Excelの実習
数値の表示形式、条件付き書式、計算式、グラフの作成
店舗別・商品別の売上げ集計表の作成
第11回 ケーススタディ
Microsoft Excelの実習
マスタ表の作成、関数の実習、並べ替え、数式、集計機能
セミナー開催状況の管理、マスター表とトランザクション表の作成
第12回 ケーススタディ
WordとExcelの連携
Wordによるレポートの作成

Excelによる集計・分析
売上げ見込、売上げ実績の集計
第13回 Excelによる実習内容のまとめ
Excel小テスト
Microsoft Excel実習内容の総復習
理解度の確認
第14回 実践練習
Word,Excelの連携、これまでの実習内容の総復習を実施する。
状況に応じたExcelの様々な機能の使い方を確認する。
第15回 総まとめ
Word&Excel 課題
WordとExcelの連携
Word,Excelを使用したビジネス文書作成による理解度の確認

2022年度 後期
2.0単位
基本音楽理論
宇野 文夫

< 授業の方法 >

講義主体で音楽の理論と楽譜の仕組みを説明する。楽譜を観察し、楽譜を見ながら音楽を聴く。楽譜の実践としての簡単な歌唱や演奏を行う。
受講者の実態を勘案し、それに対応しながら進める。
最初の2回は遠隔となったので、動画をZOOMで、資料をOneDriveにてアップする。追って指示する。下記「授業計画」の「内容」にURLを記します。9月19日記。10月4日の授業より、対面で行います。状況によって遠隔になる場合はdotCampusとZOOM動画を使用します。9月27日記。

< 授業の目的 >

音楽をより深く理解することが出来るようになること。
音楽は好きだが楽譜や理論を勉強したことがない、といった学生に、楽譜と基本的な音楽理論に関する知識と体験を与える。この先、更に音楽の経験を深めたい学生にとっては、基礎的な学習となる。

この授業は、全学ディプロマポリシーの2「専門分野に高い関心を持ち、専門領域の課題を考察し、解決するための知識や技能を身につけている」、及び、共通教育センター、リベラルアーツ領域、芸術分野のディプロマ・ポリシーである、「芸術面での教養、人間的な教養を身に付け、専門の学習に厚みをもたせると共に、生涯に渡るそれらへの指向を育み、真に豊かな人間の形成を目指します」に則ったものである。

< 到達目標 >

音楽の仕組みを理解が深まること。楽譜というものに慣れること。音楽をより注意深く聴くことが出来るようになること。

< 授業のキーワード >

音楽理論、楽典、楽譜、総譜（スコア）、音符、音名、和音、和声、音楽形式。

< 授業の進め方 >

講義主体で基礎的な事柄を講じる。次いで、幾つかの音楽の楽譜を参照し、質疑を通じて検討を加える。取り上げる音楽を中心に様々な音楽を録音にて鑑賞する。また本学グリーンフェスティバルにて、必ず一回は生演奏による音楽を鑑賞する。

< 履修するにあたって >

五線紙が必ず必要となる。本学売店にて販売している。担当教員のアドレス

uno@human.kobegakuin.ac.jp

< 授業時間外に必要な学修 >

1週間に2時間。

< 提出課題など >

適宜課題を与え、実施したノートを確認する。

< 成績評価方法・基準 >

授業への積極的参加度、及び課題の実施、50%。授業内での小テスト（複数回）50%。

< テキスト >

必携のものはないが、下記参考図書参照。テキストではないが五線紙は必携。

< 参考図書 >

「楽典 理論と実習」石桁真礼生他著・音楽之友社。（毎回ノートを完全に取れるのであれば必要は無いが、授業の確実な理解や今後の発展のためには所持することを勧める。学院書店にて販売している。）

< 授業計画 >

第1回 概要の説明

授業の方針と手順の説明と確認。

動画内で書いたものです。僅かですが見難いのでOneDriveに上げておきます。

https://kobegakuin-my.sharepoint.com/:f:/g/personal/hf103049_human_kobegakuin_ac_jp/EkL76ZEyoQ5Eogwha_xQrGkBVkBc_ZQWEf6CBwgavm-2Zw?e=rkxH1Y

動画（47分ほどです）

https://zoom.us/rec/share/0d314CafAVpmL_sFGa55Yc7qTB10Qp0r10jt3XCZdH1eSUnlcmgqGmEb0PyaEm5.S_cNHnxCqyZUdKsd（パスコード：m\$qn76mS）

第2回 音とは何か

音と音楽の定義。音楽とは何か。

第2回動画

https://zoom.us/rec/share/zGWRQu6Xg5d5WbMoigS_eTGLTchLg7r_N3_LcxG0Qs_yvUiG2wGYxoJ3ZwQ0JSE.1QFuXAs4z3tu5x5J（パスコード：01yavT?2）

第3回 倍音、音階、和音、その1

倍音と音階、和音の成り立ち。

第4回 倍音、和音、音階、その2

様々な音階。西洋音楽、12平均律、民族音楽、日本の伝統音楽。

第5回 楽譜について、その1

五線、音部記号、譜表。

第6回 楽譜について、その2

音の読み方としての音名。日本語、ドイツ語、英語。

第7回 楽譜について その3

音名と変化記号。

第8回 楽譜について、その4

休符、リズム、拍子。

第9回 音楽鑑賞 その1

楽譜を見ながらの音楽鑑賞はほぼ毎回行うが、前半で取り上げる予定の曲をここにまとめて記す。

モーツァルト「ピアノ・ソナタ第15番k.545」

バッハ「鍵盤楽器のためのインヴェンション第1番、第2番、第3番」

ベートーヴェン「ピアノ・ソナタ第14番『月光』」

シューベルト「歌曲『野ばら』『魔王』」

第10回 音楽鑑賞 その2

グリーンフェスティバルにて、プロの音楽会を鑑賞する。（授業回数の第何回目になるかは不明のためここに記す）

第11回 歌唱・演奏実践

音楽を実感するため、適宜簡単な歌唱や演奏を行う。ほぼ毎回おこなうが、まとめてここに記す。

第12回 楽譜について その5

2つの音の幅、音程について。様々な音程の表し方。

第13回 和音について

和音の種類。和音記号とコードネーム。

第14回 和音と和声

和音の連なった音楽表現である、和声について。

第15回 まとめと小テスト

学習内容を振り返り、獲得した知識と能力を試す。

2022年度 後期

2.0単位

基本音楽理論

松浦 伸吾

< 授業の方法 >

講義と演習

< 授業の目的 >

現在において聴かれている、または聞こえてくる様々な音楽において、西洋音楽をルーツとするもの、またはその影響を強く受けているものは極めて多い。西洋音楽の”理論”は過去より世界的規模で活用されている。音楽創作（＝作曲）はもとより、音楽作品の演奏においてもその”理論”に則って行われることが常である。「楽譜の読む」というプロセスを介する所以である。またその

聴取においても、“理論”の理解の有無によって味わい方が変わる。ちなみに、西洋音楽の影響を受けない音楽は世界各地に数多く存在する。しかし私たちの日常生活においてそれらが「聞こえてくる」機会は今現在においてそれほど多くないだろう、とも想像する。

西洋音楽の“理論”とは一体どのようなものか。その内容を幅広く掴むことによって音楽的教養を深め、音楽活動へのより能動的な参加のきっかけを提示することを目的とする。

学修を通じて、音楽という専門分野に高い関心を持ち、専門領域の課題を考察し、解決するための知識や技能を身につける。

なお、この科目の担当者は20年以上、西洋音楽のルーツに持つ音楽の作曲家・実演家として活動、専門の現代音楽はもとより、吹奏楽や合唱といった教育音楽やポピュラー音楽においても経験を持ち、また過去において在外研究生として音楽を広く調査した後民族・民俗音楽の研究所にて研究活動を行なった実務家教員である。

<到達目標>

西洋音楽における記譜の基本的なルールを理解することで、楽譜を正しく読み、書くことができるようになる。

音楽の構造を理解することで、より能動的な音楽鑑賞が可能となり、また自身の音楽表現を向上させることができるようになる。

<授業の進め方>

西洋音楽の基礎的な“理論”である楽典およびハーモニー理論を、指定テキストおよび随時配布する資料を用いて理解する。

様々な音楽やその周辺にある事象を比較し、「西洋音楽の理論とは何か」ということを多角的に検証する。

<履修するにあたって>

音楽の創作、演奏および鑑賞に対して強い興味や関心を持つ者、またはそれらの活動を向上させたいと考える者の履修が望ましい。

<授業時間外に必要な学修>

テキストと配布資料の復習および宿題の実施 30分～60分

<提出課題など>

適宜課題を実施

<成績評価方法・基準>

授業内小テスト(3回)30% 授業内小レポート40% 学習積極度30%(課題提出を含む)

<テキスト>

「新訂 楽典」 音楽之友社 発行

適宜資料を配布

<授業計画>

第1回 音楽理論と楽譜

西洋音楽およびその他の音楽における音楽理論と楽譜についての概要

第2回 音符と休符

音符、休符および連符についての理解

第3回 音高と音名 その1

様々な言語による“音の呼び方”および変化記号についての理解

第4回 音高と音名 その2

幹音および派生音の理解

第5回 音楽記号

楽譜に用いられる様々な記号や標語についての理解

第6回 リズム

音楽における時間および拍子についての理解

第7回 音楽の三要素および小テスト

旋律(メロディー)、律動(リズム)および和声(ハーモニー)についての概要

第8回 音程 その1

音程の測り方および幹音のみの音程についての理解

第9回 音程 その2

派生音を含む音程および転回音程についての理解

第10回 音階と調 その1

長音階、短音階および調号についての理解

第11回 音階と調 その2 および小テスト

調および近親調についての理解

第12回 コード記号と和音

和音の構造およびその表記方法についての理解

第13回 和声 および形式その1

和音の連結における理論と方法についての理解 および音楽の構造についての概要

第14回 形式その2 および小テスト

ポピュラー音楽の形式についての概要

第15回 総括 および小レポート

「西洋音楽の理論とは？」ということについての考察

2022年度 前期

2.0単位

近現代史概論

鶴飼 昌男

<授業の方法>

「講義」による対面授業形式で行います。

先輩からのコメント

・高校の歴史とは全く違った視点で学習することができ、ためになった。過去の事柄と現代社会での問題をリンクして考えることができたので良かった。(法)

・高校ではふわっと触っただけで深くまで学ばなかったことも学べて、初めて歴史が面白いと感じました。私は歴史が苦手だったのですが、暗記科目だと捉えていたからなのだとこの授業を受けて思います。深いところまで見て様々な視点から物事を見ることでより理解度が高まり面白いと感じることができたので、この授業でそれに気付けたことはとても良かったです。(人文)

・高校で日本史しかやっていなかったので世界から見た情勢を知ることができてよかったです。世界史を習っていなくても大丈夫だった（経済）

なお、授業アンケートで世界史を知らなかったのが難しかったと回答した人は「15.9%」でした。

特別警報(すべての特別警報)の本科目の取扱いについて休講とします。

自治体より避難指示、避難勧告が発令されている場合は、その都度授業を中断し、自身の安全を最優先に考えて対応してください。（暴風警報発令の場合は授業を実施します。）

なお、出張や会議がしばしばありますので、その際にはZoomで録画したものを視聴してもらうことになります。日時が決まり次第、dot campus のコースフィールドで連絡します。詳細はシラバス下段の「遠隔授業情報」を併せて参照して下さい。

< 授業の目的 >

人文科学・社会科学の各学部での専門的な学びの前段階として、その知識基盤となる欧米近現代史に関する国際政治・社会・文化面の知識を修得することを第1の目的とします。

そして、学修した知識・史資料を読み取る技能を活用して社会と交わり、グローバル化が進む我が国の変化の中で、課題に対する最適解を見出すための価値観を創造する能力の涵養を目指します。

講義では以下の2点に留意した授業を行う予定です。

暗記ではなく歴史事項の因果関係の理解を通して、論理的・合理的な思考に親しむ

欧米各国が抱える諸問題と文化の違いを知り、日本のグローバル化に対する各自の意見形成を図る

先輩からのコメント

・高校の歴史と大きく異なり、覚えることより知ることを重視した歴史なので、後輩に勧めたい。教養をつけることが目的なので純粋に楽しんで受けることができた。

（法）

・歴史上の出来事のつながりがよく理解できて、とてもおもしろかった。毎回の振り返りの課題は文章を書く練習になった。（人文）

この授業の担当者は、高校での20年以上にわたる地歴科教員及び管理職の実務経験を生かし、高大接続の観点から、大学入学直後の学生に大学で求められる主体的な学びの作法とその考え方も指導します。

< 到達目標 >

・欧米の歴史を理解し、日本の諸問題に対して、自分なりの考えを持つことができる。

・受講によって興味関心のあるテーマを見出し、図書館やWebで自主的な深掘りを経験する。

先輩からのコメント

・この授業を受けて、自分の中で気になった事柄から派生させて色々なものを調べていくという変化があった。

最初の頃は、授業でわからないことを調べるだけだったが、気になった事柄や疑問を調べ、そこから関連するものを調べていくことができるようになった。（社リハ）

・振り返りやプレゼンなどで自分で調べたり考えをまとめたりなど自分の考える力や情報を活用する力が必要となり今まであまり体験をしたことがなかったのでとても良い体験でした。（経営）

< 授業のキーワード >

民主主義、基本的人権、外交、多民族国家、冷戦、

< 授業の進め方 >

各国別にトピックスを選び、講義を中心に進めます。

dot campus にアップする事前配布資料を参照し、毎時間の授業後に「振り返り」をword入力してdot campus から提出してもらいます。5回以上の提出がない場合は、単位を認めません。

授業後の「振り返り」は、授業内容をまとめるのではなく、授業によって得た新しい発見や興味を抱いた事柄、もう少し深掘りしたい部分など、授業を受けて生じた自分の頭の中の変化（質問や感想）を文章で説明してください。授業のポイントをついた各自の意見、ユニークな気づきなどが、制限字数内で他人に分かりやすく書かれているかどうか、採点の重要なポイントです。

また、事前配布資料や講義中に出す設問への正解を調べて提出することによって、「振り返り」の基礎評価点に加点をします。

< 履修するにあたって >

・出席を重視しますが、部活動での公欠や病欠などは相談してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

次回のテーマに関する予備知識を持って授業に出席すると内容が分かりやすくなります。（高校の世界史の教科書程度）

授業中は事前配信資料や各自のノートにメモを取り、授業後にメモと板書を整理する作業が必要です。

したがって、授業中のメモをいかに増やすか（耳からの情報をポイントをおさえて文字化する）が鍵です。

授業中に浮かんだ疑問や興味のある出来事などは、その時にメモに取り、図書館やネット検索で追加調べをする習慣を身につけてほしいと思います。大学での自主的な学びとは、この習慣が基本的態度となります。

予習45分、事後のノート整理と追加調べ1時間半が目安です。

数回の授業を受けて、「振り返り」をどのように書いたらよいのか？と思った場合は、共通教育の「ライティング・なんでも教室」で相談してみてください。先輩たちもお世話になってました。

< 提出課題など >

現代日本の諸問題について、欧米諸国の歴史から参考となる事実や政策を選び、8分間のプレゼン発表用資料をパワーポイントで作成する。(画面6枚)

注) 作成においては、起承転結の筋道だった説明の展開、聴衆に対して発表に興味を持たせ聴かせるための工夫、画面レイアウトや色遣いなどの経験を1回生から積むことを目的とした課題です。

毎年、履修者には難しかったけれどいい経験になったと好評でした。フィードバックは授業で行います。

先輩からのコメント

・パワーポイントでの課題制作はとても良い経験になった。(経営)

・プレゼン資料の課題で、資料収集力とそれを決められた量にまとめ上げる力がついた。授業では普通の知識だとその疑問点までたどり着かない所まで深掘りする時が面白かった。(人文)

< 成績評価方法・基準 >

毎回の講義の「振り返り(60%)」、定期試験(20%)、プレゼン課題の評価(20% 5段階)の割合で総合評価します。毎回の講義の振り返りには5点を配点しますが、毎回満点とは考えずに、減点があるものと思って、自分の基礎点を積み上げていって下さい。配信した講義資料の中にいくつかの問いを設ける場合もありますので、それに解答することは加点とします。

講義の振り返りには、授業内容のまとめを記すのではなく、授業を受けて自分の中でどのような発見があったのか、何が知的興味を刺激したのか、もう少し深掘りしたい部分や疑問点などを記してください。(単に講義内容をまとめるだけのものは評価点0? 1点です。)

先輩からのコメント

・なるほどと思ったことに対して、なぜそう思ったのかを考えるのが大学に入ってから初めてのことで、難しく感じた。毎回400字強のレポートを書くのも大変だった。しかし、歴史のより専門的な内容を知ることができるし、毎回知らないことを学べるので授業の難易度は満足している。歴史好きで文章力を伸ばしたいと考えている人なら取るべき授業だと思う。(人文)

< テキスト >

特に指定しない。

< 参考図書 >

北村 厚『教養のグローバル・ヒストリー』ミネルヴァ書房

同 『20世紀のグローバル・ヒストリー』ミネルヴァ書房

(本学人文学部の先生で、大変わかり易い概説です。授業の予習や授業後の後追い学習で関係ページを読んでみてください。)

< 授業計画 >

第1回 ガイダンスと講義

「近代日本はどこ国の何を取り入れたのか？」

大学での学び方(ノートテイク術、成績評価、課題の説明)

岩倉遣欧使節団とお雇い外国人が導いた文明開化・西洋化。

第2回 工業化が変えた英国社会

英国の産業革命によって社会はどのように変わっていったのか？

工業化を初めて経験した英国で何が起こったのか。歴史は暗記物ではない、論理的に考える科目として、産業革命を題材に基本的なトレーニングをしてみましょう。

第3回 アメリカ建国史

アメリカを理解するためには、State(州)の独立性を理解する必要があります。

合衆国憲法成立の事情と南北戦争の経緯に、アメリカの特徴があらわれています。

第4回 アメリカはいつ世界一になったのか？

南北戦争の後、世界史の教科書では、突然、「第一次大戦の勝敗に影響を与える強大国」として再登場して驚きませんでしたか？...アメリカはいつどのように強大化していったのでしょうか？

第5回 ユダヤ民族史

(アメリカのユダヤ人)

ナチのユダヤ人迫害は有名ですが、そもそもなぜユダヤ人は差別されてきたのでしょうか？古く長いユダヤ迫害の歴史を知ること、私たちの知らないアメリカの姿が見えてきます。

第6回 フランス植民地帝国の矛盾

自由と平等の民主主義と人権の国家を創出した仏は、フランス革命を進めながら植民地を支配するという大きな矛盾を抱えていたのです。

インドをめぐる英との植民地争いに敗れた後、フランスはどうなったのでしょうか？

第7回 仏のアルジェリア支配

(20世紀仏の最大の危機)

仏は地中海の対岸にある植民地アルジェリアに対して、特別な関わり方をしていったことで、第二次大戦後にヒトラーによる占領以上の危機を迎えます。

第8回 多民族国家の崩壊1

「ハプスブルク帝国」

ヨーロッパの名門貴族 オーストリア=ハプスブルグ帝

国を、多民族国家という視点から第1次大戦前後を中心に見てみると、民族問題の考え方が分かります。陸続きに国境線を抱え、大国に挟まれた位置にある中欧のチェコ、スロバキア、ハンガリーが、生き残るために選択した苦渋の歴史。

第9回 多民族国家の崩壊2

「オスマン帝国」

異なる民族をどのように一つの国としてまとめるのか？オスマン帝国はイスラム教を使ってまとめていました。受講生の多くは、きっとこの国でも「言語」の重要性に気づかされると思います。親日国トルコの底流にある歴史です。

第10回 ドイツとは「地理上の名称に過ぎない」

二つの世界大戦の主役となったドイツ帝国の成立は、日本の明治維新とほぼ同じ時期でした。明治の元勳たちを敬服魅了させたビスマルク、彼が重視した外交方針は、現在のドイツにも生きています。

第11回 ヴァイマル共和国とナチ党

憲法を学ぶと必ず出てくる一つのお手本がヴァイマル憲法です。その憲法を持つ国でどのようにヒトラーのナチ党は台頭していったのか？選挙や有権者の意識を考えながら、現代の世界で台頭してきたポピュリズム（大衆迎合主義）を考えてみましょう。

第12回 第二次大戦とドイツの戦後処理

戦後の20世紀世界を決めていったヤルタ会談は、冷戦理解の基本です。

ドイツは敗戦国として戦争責任にどう向き合ったのか、日本との違いを考えます。

第13回 冷戦期の世界

アメリカが社会主義のソ連と世界を二分して覇権争いをした冷戦期。アメリカは世界の警察官として、どのように外交政策を行っていたのか？日本の復興と重ねながら後期の「近現代史概論」であつかうアジアに視点を導いていきます。

第14回 プレゼン課題講評（予定）

提出されたプレゼン課題の優秀作品を発表し、ストーリーの展開や画面レイアウト、参考資料の用い方など、パワーポイントを使ったプレゼンのアドバイスをします。

第15回 西欧の移民政策を参考にして...

少子高齢社会の日本は、外国人労働者受け入れ政策をどう構築するのかわ、将来像が大きく変化します。西欧諸国の移民政策を参考資料として、日本のこれからを考えてみましょう。

2022年度 後期

2.0単位

近現代史概論

鶴飼 昌男

< 授業の方法 >

対面授業でスライドを用いた講義で行います。

< 授業の目的 >

人文科学・社会科学の各学部での専門的な学びの基礎として、日本のグローバル化がアジア諸国との関係の増加にあるという考えの下、アジア近現代史に関する知識を修得することを第1の目的とします。（中高までの学習を振り返って、アジア諸国についてどれほど知っていますか？）

まず、「知ること」を重視し、暗記で覚えるのではなく、学修した知識・史資料を読み取る技能を活用して社会と交わり、アジア世界との共生を果たすための価値観と自己意見が持てることを目指します。

講義では以下の2点に留意した授業を行う予定です。

暗記ではなく歴史事項の理解を通して、論理的・合理的な思考に親しむ

中国・台湾・韓国および東南アジア各国の国家建設の経緯を理解し、アジア諸国と日本との関係に対する各自の意見形成を図る

先輩からのコメント

・欧米ばかりに目を向けていたが、これからは東南アジア情勢が分かっていると困るだろう。現状を知るだけでも将来の自分を助けてくれると思う。（人文）

この授業の担当者は、高校での20年以上にわたる地歴科教員及び管理職の実務経験を生かし、高大接続の観点から、大学入学直後の学生に大学で求められる主体的な学びの作法とその考え方も指導します。

< 到達目標 >

・アジア各国の近現代史を知り、日本のグローバル化で拡大するアジア諸国の人々に対して、感情と偏見に囚われない親和的で冷静な自己意見を持つことができる。

・各自の興味関心あるテーマを見出し、図書館やWebで自主的な深掘りを経験する。ネット検索では書き込み記事に対して、書き手の思考の偏りに対して頭の中で警告が出せるような「免疫力ある自立した思考」を育成する。

先輩からのコメント

・歴史に興味がある人は、基礎知識があればあるほど話のつながりが見えて、納得したり別の分野に興味広がる。（経済）

< 授業のキーワード >

アジア、民主政治、冷戦、対日感情、多様性、

< 授業の進め方 >

教室のスクリーンにPCのスライド画面（Zoomの共有）を投影し、講義します。

毎回、事前資料を dot campus にアップしますので、それを参照して受講してください。事前資料には、講義概要や史料、スライド画面、課題となる設問を掲載しま

す。講義を聴きながらメモをとり、ノートテイクスキルの向上にも役立てて下さい。

内容は、中国を中心に外国人労働者として来日の多いアジア各国をピックアップし、建国から現在までを概説的に講義します。(中国、台湾、韓国、ベトナム、フィリピン、インドネシアなど)

毎回の授業終了後に、授業の振り返りと設問に対する解答を dot campus にWordで入力し、3日以内に提出してもらいます。授業への参加はこのWordシートの提出によってカウントします。要点をついた記述、ユニークな気づき等に対して、次回の授業時にフィードバックしていきます。

毎年好評のプレゼン課題に関する優秀作品講評の時間も後半に1コマ設ける予定です。

注) 授業の振り返りでは、400字?800字の予定で、授業によって得た新しい発見や興味を抱いた事柄、もう少し深掘りしたい部分など、授業によって生じた自分の頭の中の変化(質問や感想)を文章で説明してください。授業内容を単にまとめたような記述は、0点または大幅減点となりますので自分の意見を書くようにして下さい。時には、授業においてテーマを指示し各自の意見を書いてもらう場合もあります。

先輩からのコメント

・歴史が苦手だったので授業について行けるか不安だったけど、そんな不安もなくなるくらい得られる知識が多く、新しい興味が得られた。(経営)

<履修するにあたって>

・出席を重視します。部活動での公欠や病欠、就活などは相談してください。

<授業時間外に必要な学修>

事前配布資料を読んで、高校世界史の教科書程度の予備知識を持って授業に参加すると、内容が分かりやすくなります。しかし、中国以外は驚くほどアジア諸国に関する記述は薄く羅列的です!

(先輩からのアドバイス)

授業中は各自のノートまたは事前配布資料にメモを取り、授業後にメモを整理する作業が理解のために有効です。したがって、授業中のメモをいかに増やすか(耳からの情報をポイントをおさえてメモにする)が鍵です。

授業中に浮かんだ疑問や興味を覚えた出来事などは、タイミングを逃さずにメモし、図書館やネット検索で授業後に「後追い調べ」する習慣を身につけてほしいと思います。大学での自主的な学びとは、このような習慣が基本的態度となります。予習30分、事後のノート整理と「後追い調べ」1時間半が目安です。

<提出課題など>

授業のための事前配信資料または授業中に指示した設問課題は、授業後に提出する dot campus のWordシートに解答を入力して下さい。

グローバル化が進む日本社会の諸問題に対して、アジア諸国から一国を選び対日感情の背景となる事実や政策を調べ、各自が持ったその国に対する理解について、8分間のプレゼン発表用資料をパワーポイントで作成する「プレゼン課題」を予定しています。

注) 作成においては、起承転結の筋道だった説明の展開、聴衆に対して発表に興味を持たせ聴いてもらうための工夫、画面レイアウトなどの経験を1回生から積むことを目的とした課題です。毎年、履修者には難しかったけれど良い経験になったと好評でした(3回生・4回生に好評)。フィードバックは授業でしっかり行います。

<成績評価方法・基準>

毎回の授業後に提出するWordシート(60%)、プレゼン課題(20%)、定期試験(20%)、毎回の授業中の設問に対する解答を加点材料として、総合評価します。文章による論理的な表現力、意見形成のための基礎知識、パワーポイントによる説明スキルのアップ、この3つを少しでもつけてもらうために講義しますので、自分の力をつけるために授業と課題に取り組んでください。

Wordシートには、次の2点を書いてください。

設問の解答

「授業の振り返り」= 授業によって得た新しい発見や興味を抱いた事柄、もう少し深掘りしたい部分など、授業によって生じた自分の頭の中の変化(質問や感想)を説明してください。評価のポイントは、筋道だった文の展開と簡潔に自らの考えをまとめているかどうかです。単なる授業内容のまとめを書いて、0点または大幅減点とします。

毎回の講義の振り返りには5点を配点しますが、毎回満点とは考えずに、減点があるものと思って自分の基礎点を積み上げていって下さい。

プレゼン課題の評価は、A/B/C/D/Eの5段階で採点します。優秀作品はA+アルファの加点をします。

定期試験は授業を6回以上休むと、受けることができません。

<テキスト>

特に指定はありません。

<参考図書>

北村 厚『教養のグローバル・ヒストリー』ミネルヴァ書房

同 『20世紀のグローバル・ヒストリー』ミネルヴァ書房

(著者は本学人文学部の教員です。とてもわかりやすい記

述です。授業単元に関係するページを予習で読んで、授業後に後追い学習で読んで、よい参考図書となります。)

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

「歴史は暗記モノではない」

「アジア理解が必要な日本」

授業でのノートテイク術、成績評価、課題についての説明。

ミニ講義A「歴史は暗記科目ではない」

ミニ講義B「アジア理解が必要な理由」

第2回 中国理解 1

近現代の苦難な歩みとは...辛亥革命から中華民国時代を、「第4の混乱期」と考えてみる。

第3回 中国理解 2

日中戦争から国共内戦の実像(教科書記述の違いを知る)

第4回 中国理解 3

国家建設が遅れた30年と毛沢東の失政

第5回 中国理解 4

鄧小平は何を選んだのか(改革開放政策)

第6回 中国理解 5

江沢民による方針変更と格差社会の拡大

第7回 台湾現代史

国民党が2度台湾にやってきた?

第8回 韓国の成立と「漢江の奇跡」

辛酸の建国初期と人事粛清が繰り返された政治史

第9回 ベトナム現代史

ドイモイ(刷新)政策の前後でガラッと変わる対日感情

第10回 戦場となったフィリピン

太平洋戦争の激戦地となったフィリピンを知っていますか?

第11回 フィリピンの戦後史

フィリピンの戦後史には、現代日本の政治や社会の問題を考えるための鍵があります。

第12回 世界最大の島嶼国家「インドネシア」

世界最大のイスラム教国家として、多様性を認める統一国家としての苦労。

軍事政権から民主政権への改革と開発独裁の歴史。

第13回 中国の覇権に対抗する鍵となる国「インド」

中流階層が未成熟の中で実施されている世界最大の「民主主義」の実態。

日本との関係の深さも、インドのビジネスマンのしたたかさも、再認識すべきポイント。

第14回 商店街に1軒はある「ネパール」カレー店

エベレストの登山口ばかりがネパールではない。彼らが日本で働く理由は?

第15回 プレゼン課題講評

提出されたプレゼン課題の優秀作品を発表し、論の展開や画面レイアウト、参考資料の用い方などをアドバイス

すします。

2022年度 後期

2.0単位

薬の科学

濱田 美知子

< 授業の方法 >

この授業では、講義とグループワーク、小テストを行います。

したがって授業の半分以上がアクティブラーニングです。講義と授業中の自主学習によって知識をインプットし、他の学生へプレゼンテーションし、相互学習するスタイルです。

【問い合わせ先】

濱田 : hamada@pharm.kobegakuin.ac.jp

< 授業の目的 >

この科目は、全学DPに示す4項目のうち、1を目指します。

身体の調子を崩した時、どのようなケアを行えばいいのか。ドラッグストアや薬局で市販されている薬(OTC薬)はどんな症状の時に、何を選べばいいのか。この授業では薬が効くための基礎知識と、症状から市販薬の選び方を学習します。薬のユーザーとして役に立つことは勿論、将来の選択肢として、製薬企業や登録販売者などの薬を提供する側にも興味を持てるような授業を目指します。

< 到達目標 >

資料を読み、適切なプレゼンテーションを作成して、他者に説明できる能力を養う。

健康についての自分でチェックすることが出来る。

自分や家族に生じた症状から原因を探り、簡単なプライマリケアに繋げることが出来る。

良くある病気について、その原因とよく使われる治療薬について知る。

薬に興味を持ち、日常のセルフメディケーションに寄与できる。

< 授業のキーワード >

市販薬 OTC薬 症状から薬を選ぶ 登録販売員の仕事

< 授業の進め方 >

授業の約1週間前に授業用の資料をオンラインで配布します。

配布資料に基づいて、授業開始時に10分間のプレテストを行います(オンライン)

(プレテストは講義の前に、この時間では何をどの程度分かる必要があるのかを考えるために必要な講義前に受験することに意義があります。したがって交通機関

の遅延を含めて、遅刻すると受験できません。ただし、理由のある遅刻については評価のところでは考慮しますので、授業後に申し出てください。)

約30分間、担当者による講義の後、担当者が出題した2～3の点について、2-3人のグループで分担し、プレゼン資料を作成します。

作ったプレゼン資料を用いて、リレープレゼンテーションを行います。

授業の最後にポストテストを行います(オンライン)

準備するもの

授業中にオンラインテストをするので、スマートフォン、タブレット端末、ノートPCなどのうち、何か一つ持ってきてください。

配布資料については、印刷しませんので、印刷体が必要な人は各自で印刷し、持ってきてください。

<履修するにあたって>

アクティブラーニングを行いますので、積極的に授業に参加する姿勢で臨んでください。

<授業時間外に必要な学修>

日頃から、自分や家族の健康状態に気を配り、また薬や病気に関する報道には関心をもって情報を収集し、薬を使用するときは、成分や効果効果などの記載を必ず確認するなど、実践的な取り組みをしてください

<提出課題など>

時間内に要求されるプレテスト、ポストテスト(オンライン)に解答し提出すること

毎時間、授業中に作成したプレゼン資料を写真に撮って提出すること

授業時間外の課題はありません

<成績評価方法・基準>

以下の2つの小テストと授業中に作成したプロダクト(プレゼン資料)で以下のように評価します。

プレテスト(授業開始後～10分間)は成績に関わらず解答することで10%

プレテストは講義の前に、この時間では何をどの程度分かる必要があるのかを考えることに意義があるので、交通機関の遅延を含めて遅刻すると受験できません。ただし、理由のある遅刻について評価を考慮しますので、授業後に申し出てください。

授業中に作成したプレゼン資料 50%

授業の最後に行うポストテスト(点数による評価)40%として評価します。

すべて授業中に行うため、授業に遅れずに出席し、課題の提出を忘れず、積極的な態度で取り組んでください。

なお、プレテスト、ポストテストを行う都合上、スマートフォン、タブレット端末、ノートPCのいずれかを持参してください。

定期試験は行いません。

<テキスト>

配布資料(PDFファイルで配布予定)

<参考図書>

現場で使える新人登録販売者便利帖 症状から選ぶOTC医薬品 仲宗根 恵著

OTC医薬品の比較と使い分け 児島悠史, 坂口眞弓, 神田佳典著

症状で見分ける家庭医学事典 マーク・アイゼンバーグ, クリストファー・ケリー, 府川由美恵, 福井次矢著

新版 超図解 薬はなぜ効くか 田中正敏著

<授業計画>

第1回 薬を適切に扱うために知っておきたいこと

市販薬で対応できる範囲を見極める

ドラッグストアと調剤薬局、病院の違い

薬剤師と登録販売員

セルフメディケーションをめぐる法律

第2回 薬が効くために-薬が体に入ってきて、効果を示し、出ていくまでの話-

薬の運命～吸収・分布・代謝・排泄～

剤型のいろいろと正しい薬の飲み方

子ども・高齢者と薬

薬はどのようにして効いているのか～受容体という場所～

第3回 症状別OTC薬の選び方 痛み

なぜ痛い? 痛みに効く成分

第4回 症状別OTC薬の選び方 頭痛、生理痛、歯痛

部位で違う痛みの原因と対処方法

第5回 症状別OTC薬の選び方 風邪、発熱

風邪とは何か? 発熱の仕組み 対処方法

第6回 症状別OTC薬の選び方 咳と痰、のどの痛み

上気道の炎症と対処法 コデイン類の使用上の注意について

第7回 症状別OTC薬の選び方 鼻水、くしゃみ、鼻づまりとアレルギーの話

鼻水、くしゃみ、鼻づまりとアレルギーの話

抗ヒスタミン薬

アレルギー薬の選び方

第8回 症状別OTC薬の選び方 胃のトラブル みぞおちが痛むとき

胃のトラブルの原因と対処法

みぞおちが痛むとき、どんな病気が考えられるか?

その対処法

第9回 症状別OTC薬の選び方

下痢と便秘

下痢と便秘の原因と対処法

第10回 症状別OTC薬の選び方 目のトラブル

目のトラブルは我慢ができない

目の調子が悪いと思っていたら大きな病気が隠れていることがある

第11回 症状別OTC薬の選び方 乗り物酔いと眩暈(めまい)

乗り物酔いや眩暈はなぜ起こるか? 対処法

第12回 症状別OTC薬の選び方 筋肉の痛み 関節の痛み

筋肉の痛みや関節の痛みに効く薬

第13回 症状別OTC薬の選び方 湿疹、皮膚炎

湿疹や皮膚炎の原因の見分け方

水虫は市販薬で治るか?

第14回 症状別OTC薬の選び方 発毛剤 痔の薬

困ったときに頼れるOTC薬

発毛剤や痔の薬は効くの?

更年期について考えてみよう。

第15回 妊婦、授乳中の薬の服用について

妊娠中や授乳中って薬を飲んだらいけないの?

飲める薬と飲めない薬

2022年度 後期

2.0単位

薬の科学

福島 昭二、亀井 敬泰、福島 恵造

< 授業の方法 >

対面講義とするが、COVID-19の流行状況次第でオンデマンド講義(任意の時間に各自が資料をdownloadし受講する講義)または対面・オンデマンドのハイブリッドとする場合もある。

< 授業の目的 >

(DPとの関係) 下記全学DPに関連している。

(知識・技能) 1. 共通教育を通じて、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養している。

今まで一度も薬を使ったことがない人は恐らくいないでしょう。それぞれの薬にはそれぞれ固有の効果があり、また錠剤・水剤・貼付剤など剤形も多様です。そもそも薬とは何か? 薬と食品は何が違うのか? 薬が“効く”というのはどうゆうことなのか? 薬をより効果的に使うためにはどうすれば良いのか? 皆さんも疑問に思ったことはありませんか? 当該授業を通じて“薬”について学んでいきましょう。

< 到達目標 >

- ・ 飲み薬を使いやすく効果的にする工夫を概説できる。
- ・ 目薬・吸入薬・貼付薬・塗り薬・注射薬について概説できる。
- ・ 薬と薬の相互作用について概説できる。

- ・ 遺伝子解析とそれを利用した治療について概説できる。
- ・ 風邪とインフルエンザおよびその治療薬について概説できる。

- ・ 主な生活習慣病とその薬について概説できる。
- ・ 花粉症発症のメカニズムと治療薬について概説できる。
- ・ 薬と健康食品の違いを説明できる。
- ・ 批判的観点より健康食品を吟味できる。
- ・ 薬が効くまでの流れを概説できる。
- ・ 薬の体内での動き(吸収・分布・代謝・排泄)を概説できる。

< 授業のキーワード >

薬と健康食品、薬物動態、製剤、薬の相互作用、個別化治療

< 授業の進め方 >

亀井敬泰(第1回~第5回)、福島昭二(第6回~第10回)、福島恵造(第11回~15回)で担当します。

対面講義では、当日に資料を配布し、スライドを用いて講義を行う。

オンデマンド講義となった場合は、Microsoft社のパワーポイントのプレゼンテーション機能に音声を吹き込んだものを、OneDriveまたはteamsにuploadしますので、各自講義資料をdownload後、自身のPCで”講義を受けてください。OneDriveまたはteamsにアクセスするURLは随時連絡しますので確認を忘れないようにして下さい。

< 履修するにあたって >

対面授業では、当日に講義資料を配布する。

オンデマンド講義で使用する資料は、上述のとおりMicrosoft社のパワーポイント(ppt)またはそれを動画ファイル(mp4)に変換したものを事前に(pptはOneDrive、mp4はteamに)uploadする予定である。ファイルをdownloadするには学内情報サービスにログインする必要があります。その他、何か問題等があった場合はfukushima@pharm.kobegakuin.ac.jpまで気軽に連絡下さい。

< 授業時間外に必要な学修 >

復習(30分を目安とする)

< 提出課題など >

なし。

< 成績評価方法・基準 >

各講義終了時の確認テスト(40%)および定期テスト(60%)で評価する。

定期テストが実施不可となった場合は、別途、課題(演習問題またはレポート)で評価する。

< テキスト >

講義資料は、「授業の進め方」に記載したとおり、教員独自の配布資料を用いる。

< 参考図書 >

なし

< 授業計画 >

第1回 飲み薬(1)

のみ薬の剤形とプロドラッグ化について解説する。

第2回 飲み薬(2)

薬物の放出制御について解説する。

第3回 目薬・吸入薬

目薬・吸入薬について概説する。

第4回 ぬり薬・貼り薬

塗薬・貼薬について概説する。

第5回 注射薬

注射薬について概説する。

第6回 薬の正しい使い方・間違った使い方

薬の飲み方や相互作用について解説する。

第7回 遺伝子と個別化医療

遺伝子解析とそれを利用した治療について解説する。

第8回 風邪・インフルエンザ・新型コロナと薬

風邪・インフルエンザ・新型コロナとその治療薬について解説する。

第9回 生活習慣病と薬

主な生活習慣病とその薬について解説する。

第10回 花粉症と薬

花粉症発症のメカニズムと治療薬・花粉症対策について解説する。

第11回 薬と健康食品(1)

食品・健康食品・医薬品の相違について解説する。

第12回 薬と健康食品(2)

批判的吟味の必要性とエビデンスレベルについて解説する。

第13回 薬と健康食品(3)

健康食品の批判的吟味による評価について解説する。

第14回 薬が効くまで(1)

薬力学と薬物動態について解説する。

第15回 薬が効くまで(2)

物質の吸収と飲み薬について解説する。

2022年度 前期

2.0単位

薬の科学

中本 賀寿夫

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

< 主題 >

この授業は、全学ディプロマ・ポリシー(DP)に示す5項目のうちの1および3を目指す。

薬は健康な生活を送るため、また病気になった際には健康な生活をいち早く取り戻すために、欠かすことができないものです。では、なぜ薬を服用すると、熱が下がったり、痛みが和らいだりするのでしょうか？

本講義では、薬とは何か？体内に吸収された薬がどの

ように作用し、有効な効果を発揮するかについて、代表的な疾患をあげて、その治療薬の作用メカニズムをわかりやすく解説します。さらに、今後の生活に役立つような幅広い薬の知識を習得してもらうために、食品と薬の飲み合わせ、薬の副作用などに関する話題を提供し、薬を正しく安全に使用するための基本的な知識を深めます。

< 到達目標 >

1. 医薬品、一般医薬品、ジェネリック医薬品について説明できる。2. 薬の種類や服用方法を理解できる。3. 薬と食品の飲み合わせについて、具体例をあげて説明できる。4. 代表的な疾患(風邪症候群(インフルエンザを含む)、片頭痛やがん性および神経障害性疼痛、糖尿病、花粉症や食物アレルギーなどのアレルギー疾患、うつ病などの精神疾患、慢性閉塞性肺疾患などの呼吸器疾患)に対する薬の効果(薬理作用)や副作用を説明できる。5. 緩和ケアについて説明できる。

< 授業のキーワード >

病気、薬、治療

< 授業の進め方 >

PowerPointを用いた講義形式、(概ね2時間程度の予習・復習が望ましい)

(* ただし、コロナの状況により、Zoomへ変更となる可能性あり。その際はドットキャンパスから連絡をします。)

< 履修するにあたって >

オフィスアワー: 随時受け付けます。(事前にメールで連絡すること)

メールアドレス: kazuon アットマーク pharm.kobegakuin.ac.jp

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、授業内容に関する医療関連の新聞やニュースの記事を読むこと。(目安として1時間)

事後学習として、講義の対象であった疾患や薬物治療について、復習すること。(目安として1時間)

< 提出課題など >

講義中に適宜指示します。

< 成績評価方法・基準 >

成績評価: 小テスト 20%、レポート 20%、定期試験 60% に基づいて評価する。

小テストは第8回目(験範囲: 第1回? 第7回の講義内容)と第14回目(験範囲: 第8回? 第14回の講義内容)に行う。レポート課題は、15回目の授業時に行う。

定期試験は記述式の問題(持ち込み不可)

毎回出席カードを提出してもらいます。

原則、遅刻したのものには出席カードは配りません。

授業中の私語は禁じます。

< テキスト >

プリントを配布します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス：薬とは何か？

薬とは何か？について解説する。薬の歴史、新薬誕生までのプロセス、医薬品、一般医薬品、ジェネリック医薬品について学ぶ。

第2回 なぜ薬は効くのだろうか？

薬が体の中でどのように吸収、分布、代謝、排泄されるのかについて学ぶ。また、薬の各種剤形についても学ぶ。

第3回 薬と食品の飲み合わせについて

医薬品と健康食品との相違点などについて学ぶ。また、薬と食品の相互作用について、具体例をあげながら解説する。

第4回 熱をさげる薬について

熱をさげるメカニズムについて解説し、その予防および治療薬について学ぶ。

第5回 痛みに効く薬（１）- 基礎知識-

痛みとは何か？痛みが伝わる機序やその治療薬について学ぶ。

第6回 痛みに効く薬（２）- 頭痛-

片頭痛、緊張型頭痛などが生じるメカニズムやその治療薬について学ぶ。

第7回 緩和ケアについて

がん性疼痛や神経障害性疼などの痛みについて紹介し、現時点で有効とされている治療薬について学ぶ。また、緩和ケアに関する考え方を理解し、生と死について考える。

第8回 かゆみに効く薬について

(小テストを含む、第1回? 7回の講義内容)

かゆみのメカニズムやその治療法について学ぶ。さらに、食物アレルギーについて、国内外の事例を取り上げ、予防や対応策についても学ぶ。

小テスト（試験範囲：第1回? 第7回の講義内容）

第9回 依存について（薬物、アルコール、ゲームやスマホなど）

世界の薬物乱用の現状、危険ドラッグなどの薬物中毒時の症状や対応策について学ぶ。ドーピングについて理解を深め、防止策および予防策について学ぶ。

さらに、アルコール依存や最近話題のスマホ依存やゲーム依存についても触れる

第10回 うつ病の薬物治療について

うつ病の病態、その症状およびその薬物治療について学ぶ。

第11回 生活習慣病の薬物治療について

生活習慣病（糖尿病、高血圧、脂質異常症や非アルコール性脂肪性肝炎など）の薬物治療とその予防法について学ぶ。

第12回 慢性閉塞性肺疾患（COPD）および禁煙治療薬に

ついて

タバコが主な原因で発症する慢性閉塞性肺疾患（COPD）の病態およびその治療薬について説明する。また、禁煙のための治療およびその治療薬について学ぶ。

第13回 アンチエイジングについて

市場に出ているアンチエイジング関連の医薬品について紹介し、長寿関連因子やそれを活性化する食品や薬について学ぶ。口臭、体臭や薄毛についてもふれる

第14回 インフルエンザおよび新型コロナウイルス感染症の現状について

(小テストを含む、第8回? 14回の講義内容)

インフルエンザウイルスの特徴、感染経路およびこれまでの歴史について学ぶ。また、新型インフルエンザが出現する機構についても解説します。さらに、インフルエンザ治療薬やワクチンについても学ぶ。

新型コロナウイルス感染症の現状についても触れます。

小テスト（試験範囲：第8回? 第14回の講義内容）

第15回 フィジカルアセスメントと総まとめ

(レポート課題含む)

バイタルサイン（呼吸、体温、脈拍、血圧、意識）について学ぶ。また、救急医療現場等で用いられているトリアージの意味や方法について学ぶ。

最後に、第1回目から第15回目までの総括およびレポート課題に取り組む。

2022年度 前期

2.0単位

薬の科学

北條 恵子、福留 誠

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、神戸学院大学の全学DPの元に、「健康科学」に関する幅広い知識を獲得し、医薬品やそれを取り巻く食品から健康増進のための問題発見とその解決策を探るのが目標である。また、専門科目を学前段階として、医薬品や食品に関わるmじかな問題や興味の持てるテーマを題材に、一般的に共通した学問の探究方法を理解し、技能として身につけるためのトレーニングの場とする。

< 到達目標 >

1. 私たちの健康生活を支える医薬品と食品について、色々な角度から探求する。（態度・習慣）
2. わたしたちの健康生活を支える医薬品と食品について、現在から将来に向けて私たちが伝えていくべき内容を考え、説明することができる。（知識・技能）

< 授業のキーワード >

薬、薬害、薬の歴史、機能性食品、治験

<授業の進め方>

スライドと板書を併用する。また、プリントを使用する。

<授業時間外に必要な学修>

授業計画の各回で使用したプリントを丹念に繰り返し読むこと。

<提出課題など>

毎講義ごとに課題に関するサマリーレポートを提出していただく。またグループ討論による考察、レポート作成を課することがある。

<成績評価方法・基準>

担当者で分割し、それぞれ50点ずつ配点する。

福留レポート：定期試験を1：1の割合で算出する。

北条レポート及びワークシート：定期試験を1:1の割合で算出する。

<テキスト>

使用しない。

<授業計画>

第1回 薬の分類（北条）

薬事法に従った薬の分類について学ぶ。

第2回 薬の飲み方と効き方（北条）

薬がどのように効くのか、またその生体内での運命について学ぶ。

第3回 薬効と副作用（北条）

副作用とはどのようなものか、安全に薬を使用する方法について学ぶ。

第4回 薬害を学ぶ（1）（北条）

主な薬害について学ぶ。

第5回 薬害を学ぶ（2）（北条）

薬害を防ぐための法律、制度について学ぶ。

第6回 薬の歴史（1）（福留）

古代？近世における医薬品の歴史を概説する。

第7回 薬の歴史（2）（福留）

近現代における医薬品の歴史を概説する。

第8回 薬局の歴史（福留）

薬局の歴史及び医薬分業制度が採用された経緯を学ぶ。

第9回 薬剤師の仕事（福留）

現代の薬剤師の仕事（病院・薬局・企業）について概説する。

第10回 新薬の開発（福留）

新薬開発の流れについて概説する。

第11回 公害と毒（福留）

公害と毒の分類について学ぶ。

第12回 機能性食品（北条）

機能性食品の代表としてチョコレートを取り上げ、その効能について概説する。

第13回 フェアトレード（北条）

カカオ豆、コーヒーを例にフェアトレードについて学ぶ。

第14回 お酒（福留）

お酒の種類と製造方法について概説する。

第15回 特定保健用食品（福留）

特定保健用食品について学ぶ。

2022年度 後期

2.0単位

経済と社会

安達 啓介

<授業の方法>

講義（場合によっては【遠隔授業】）

<授業の目的>

この授業は、全学のDPに示す、「広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性」を涵養することを目的としている。また、「幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方法を導く」能力の開発、向上を目指す。

この授業では、近代から現代にかけての日本の社会経済の変遷、転換点を、経済学、経営学、地政学、そして歴史学などのさまざまな知見を基礎に、それらの内実を学んでいく。前半（第1回から第7回）は江戸時代から第二次世界大戦までの日本の社会経済に関して学び、後半（第9回から第15回）は戦後の日本経済の変化、世界経済における影響力の変化を学ぶ。全体を通じて、日本の過去と、世界とのかかわり方の変遷を知ることが、現代における日本の立ち位置を明確に理解するために必要不可欠であるということを学び取ってもらう。

<到達目標>

・近代から現代にかけての日本経済の変化について基礎的な知識を身につける。

・現代の日本経済がどのように発展してきたかをキーワードに触れながら説明できる。

・日本の社会構造の変化が特異的な理由を、さまざまな視点から捉え直し、説明できる。

<授業のキーワード>

近代、後発国、輸入代替、工業化、財政・金融、世界恐慌、第二次世界大戦、戦後復興、高度経済成長期、石油危機、為替、プラザ合意、バブル崩壊、デフレーション、日本型雇用、IT革命、リーマン・ショック、気候変動問題、AI

<授業の進め方>

基本、配布資料とパワーポイントを併用する形で授業を進めていく。毎回、授業内容を短く要約し、文章化する時間を設ける。そのため、ただ単に講義を聞くのではなく、その内容をどのように自身の中に落とし込むかを常に意識して授業に臨む必要がある。

<履修するにあたって>

・予備知識は特に必要としないが、高校程度の日本史、世界史の知識があると学習しやすい。

・授業に集中して取り組み、あとで復習できるように学習内容を記録しておくこと。

・これから社会人になる身として、周りに配慮したふるまいを心がけること。

・分からない言葉に出会ったら、辞書、インターネット等を使用して自分で調べること。

・どのように学習に臨めばよいか分からなくなったら、迷わず質問すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

各回、学習した内容について、プリント、ノートなどを見直して復習すること（60分程度）。

次回の学習内容に関しては、事前に下記のリンク（OneDrive）内で配布する資料を確認しておくこと（30分程度）。

< 提出課題など >

授業中または下記のリンクで配布する資料上で、課題内容、提出方法を告知する。

課題については、授業中に受講者全体に対してフィードバックを行う。

< 成績評価方法・基準 >

毎回の要約課題（60%）と、レポート課題（40%）の成績で評価する。

< テキスト >

なし。使用する資料全般は原則、下記のリンクで配布する。

< 参考図書 >

大野健一『途上国ニッポンの歩み 江戸から平成までの経済発展』有斐閣、2005年、定価2,300円

横山和輝『日本史で学ぶ経済学』東洋経済新報社、2018年、定価1,600円

< 授業計画 >

第1回 途上国「にっぽん」の歩み

自己紹介、授業のガイダンス、日本社会の近代化について学ぶ。

第2回 江戸期のマクロ経済状態

江戸時代の農業、商業・運輸、手工業、教育、財政事情について学ぶ。

第3回 明治政府と富国強兵

明治政府による殖産興業、海外からの技術移転、外交政策を学ぶ。

第4回 輸入代替と工業化の挑戦

明治期のマクロ経済、技術水準、輸入代替、工業化について学ぶ。

第5回 明治期の主要産業の歩み

明治期に生糸、綿工業などの軽工業や、鉄道、造船、電気機械などの機械産業、重化学工業がどのように発展してきたかを学ぶ。

第6回 明治期の財政金融と世界恐慌

明治期の財政、金融システム、金融恐慌について学ぶ。

第7回 二つの大戦と日本経済

第一次世界大戦が日本に与えた影響を学び、どのような経済背景、地政的要因を背景に第二次世界大戦に突入していったかを学ぶ。

第8回 ここまでのまとめ

ここまでのまとめを行い、それに関するレポートの書き方について解説する。

第9回 戦後復興と制度改革

第二次世界大戦後の日本の復興、改革の内容について学ぶ。

第10回 高度経済成長の光と闇

1960年代の高度経済成長が日本経済にどう変え、どのような問題が生まれたかを学ぶ。

第11回 貿易摩擦とプラザ合意

アメリカとの貿易摩擦、プラザ合意の背景をさまざまな角度から学ぶ。

第12回 バブル崩壊と長期デフレ

なぜバブルが発生し、崩壊し、デフレが発生したのか、それらのメカニズムとさまざま対処法として登場した経済政策を学ぶ。

第13回 IT革命がもたらしたもの

IT革命によって、世界経済、日本経済はどう変化したかを学ぶ。

第14回 AI化がもたらすもの

少子高齢化、人口減少を背景に、AIが社会構造をどう変えるかを学ぶ。

第15回 現代日本が抱える問題

医療・介護、エネルギー、資源環境の問題について学び、考える。

2022年度 後期

2.0単位

経済と社会

高梨 薫

< 授業の方法 >

対面授業（講義）

今後の感染状況等によっては変更の可能性があります。

< 授業の目的 >

この科目は全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる。」を目指している。社会全体の働き方を見直し、誰もが働きやすい環境を整備することが、組織の生産性につながり、経済成長の機会をつくる。授業では以上のことが具体的にどのように展開され将来の発展に繋がるかを理解することが目的である。それにより獲得した知識（や技能）を社会に役立てることができる。

< 到達目標 >

人がその個性と能力を十分に発揮することができる生き

やすい社会をつくることによって、女性の活躍と男性を含めた社会全体の働き方の見直しを実現するよう行動できる。

< 授業の進め方 >

プリントを配布して講義形式ですすめる。仕事と生活の調和、次世代育成支援対策、男女共同参画社会等を理解するため、参考文献も活用してほしい。

< 履修するにあたって >

高校数学で学習したデータの分析に関する知識を有していることが望ましい。

< 授業時間外に必要な学修 >

各回（計15回）の授業のための予習・復習に1時間程度を要し、事前学習として配布している資料を読んでおくこと、事後学習としてその回の授業の展開（ストーリー）を自分で整理しておくこと。

< 成績評価方法・基準 >

授業時の課題（30%）、中間レポート（30%）、最終レポート（40%）で評価する。

< テキスト >

特に指定しません。

< 参考図書 >

「暮らしと社会」シリーズ 男女共同参画白書 内閣府
高齢者社会白書 内閣府

< 授業計画 >

第1回 本講義全体の概要

本講義全体の概要、そして授業内容を例を示して説明する。また、授業を受ける態度、注意事項、課題や提出物、評価方法を説明する。

第2回 産業革命と世界経済

資本主義と市場競争原理、社会経済的な変化が人々の生活に何をもたらすか。

第3回 資本主義と社会保障制度1

資本主義社会と社会保障制度と地域社会、家族の関係を整理する。

第4回 資本主義と社会保障制度2

経済成長と社会保障の財源の問題を整理する。

第5回 わが国の近代化、都市化、産業化と高度経済成長1

戦後のわが国の近代化、都市化、核家族化がもたらした人々の生活、および社会構造の変化と経済成長について

第6回 わが国の近代化、都市化、産業化と高度経済成長2

戦後のわが国の近代化、産業化がもたらした人々の生活、および社会構造の変化について

第7回 国民皆保険・皆年金について

日本の社会保障制度について概観する。社会保険と社会福祉の性格の違い（それぞれの仕組み）について理解する。

第8回 超高齢社会と少子化の進行

少子高齢社会における経済成長と社会保障制度の関係を整理する

第9回 前半のまとめと復習（確認）

前半とりあげたことを整理して確認します。

第10回 現代の日本社会における社会問題と政策的課題1

政府の刊行物や白書の統計資料の読み取りから社会問題について概観する。

第11回 現代の日本社会における社会問題と政策的課題2

政府の刊行物や白書の統計資料の読み取りから政策的課題について概観する。

第12回 ILOとOECD

国際的な視点から見た日本の経済と社会（国際労働機関と経済協力開発機構について）

第13回 超高齢社会における社会経済1

生涯現役社会と一億総活躍社会

第14回 超高齢社会における社会経済2

次世代育成支援対策、仕事と生活の調和、人がその個性と能力を十分に発揮することができる女性にとっても男性にとっても生きやすい社会

第15回 授業全体の総括

近年のわが国の社会経済情勢と働きやすい社会を支える社会保障

2022年度 後期

2.0単位

健康科学演習C

山本 大誠、高梨 薫

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる。」を目指しています。

授業では自己を通して他者を理解することを学ぶ。また「自立」とはどういうことなのかを考える。それにより幅広い知識に基づいて、他者（および異文化）を理解することができる。そのために各回（計15回）の授業のための予習・復習に1時間程度を要します。

< 到達目標 >

自己を通して他者を理解することを学ぶ。自己を知り、他者を知ることにより人に対して豊かな共感能力をもって接することができる。対人援助場面から障害や病気を抱えた自立について理解を深める。実践場面における援助者のあり方の基本を理解できる。

< 授業の進め方 >

前半1回～8回はワークショップスタジオ（対面）と、

遠隔オンライン（Zoom）併用にて山本が担当します。
基本的に講義と演習で進めます。身体の構造や動きを知るために簡単な運動を実施しますので、演習の際は運動できる服装で臨んでください。

山本担当の8回までの予定は以下の通りとなります。

9月30日 3限（1回）オンライン

10月7日 3限（2回）オンライン

10月14日 3～4限（3～4回）対面授業

10月21日 3限（5回）オンライン

10月28日 3～4限（6～7回）対面授業

11月6日 3限（8回）オンライン 変更になっています。

後半9回～15回はD204教室で毎週金曜3時限、高梨が担当します。

基本的に講義形式で進めますが、グループワークをすることがあります。ビデオ等の視聴覚教材を利用することもあります。

<履修するにあたって>

各回（計15回）の授業のための予習・復習に1時間程度を要します。

軽い運動（ストレッチングや太極拳など）を実施することがありますので、体調不良の場合は事前に連絡をください。

<授業時間外に必要な学修>

各回（計15回）の授業のための予習・復習に1時間程度を要し、事前学習としては配布する資料を読んでおくこと、事後学習としてその回の演習の展開（ストーリー）を自分で整理しておくこと。

<提出課題など>

授業中に課す課題での発表

<成績評価方法・基準>

授業中の発表（30%）、中間レポート（35%）、最終レポート（35%）で評価する。

<テキスト>

適時プリント・資料を配布する。

<授業計画>

第1回 身体の構造

健康を科学するために、ヒトの身体についてその構造を教授する。

第2回 身体の機能

健康を科学するために、ヒトの身体についてその働きを教授する。

第3回 身体の機能の評価

身体の機能の評価にはどのようなものがあるか、その方法論について演習を通して学ぶ。

第4回 自己感覚

自己感覚と考えられている自己存在感・自己所有感・自己主体感について教授する。

第5回 心身と健康

健康が身体のみではなく、精神・心理的に影響を受けていることを学ぶ。

第6回 健康と身体運動

健康が身体機能とどのような関係にあるのか教授する。また、健康を維持向上するための身体運動について演習を通じて学ぶ。

第7回 自己感と身体運動

自己感を改善するための身体運動を通して、自己の健康について学ぶ。また、心身の健康を改善するための身体運動（ボディーアウェアネスセラピー）を実習を通じて学ぶ。

第8回 健康とは何か

これまでの講義、演習、実習において、健康とは何かを考える。

第9回 障害や病気と共に生きることについて

病気は治療（治癒）するものばかりでなく、病気とともに生活する方法のあること、また障害をもっている生き方の可能性は障害されないことを具体的に学ぶ。（担当高梨 11月26日 第9回以降は金曜3時限 D204）

第10回 健康な生活とコミュニティ

人の生きるの場としての家族、学校、地域、職場の大切さについて再考する。

（担当高梨 金曜3時限 D204）

第11回 健康な生活とコミュニティ

健康な生活とコミュニティの関係について、WHOの健康の定義を用いながら考察してみる。（担当高梨 金曜3時限 D204）

第12回 ナラティブアプローチについて

ナラティブアプローチについて。人はそれぞれ「自分の物語」を物語る？

（担当高梨 金曜3時限 D204）

第13回 健康科学分野におけるナラティブアプローチ

健康科学分野におけるナラティブ・アプローチの有用性を知る。

（担当高梨 金曜3時限 D204）

第14回 「障害」や「病気」を抱えて生きていくということ

障害や病気を完全に無くしてしまうことはできない。障害や病気を含めて人という存在がある。障害や病気を持ちながら生きていくという考え方をいろんな面から検討する。（担当高梨 金曜3時限 D204）

第15回 「障害」や「病気」を抱えて生きていくということ 一 家族、地域社会との関係一

「障害」や「病気」を抱えて生きていくということはどういうことなのか 一 家族、地域社会との関係一（担当高梨 金曜3時限 D204）

2022年度 前期

2.0単位

健康科学入門 (1年次のみ)

長谷 和久、坂本 年将、水野 千恵

< 授業の方法 >

長谷担当回

授業の方法：対面で行います。

坂本担当回

授業の方法：対面で行います。

< 授業の目的 >

本科目は全額のDPである

1. 共通教育等を通じて、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養すること、3. 幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くこと、を目指します。

以上の指針に基づいて、健康科学入門 は、保健・医療に関わる3学部（栄養学部、総合リハビリテーション学部、心理学部）の教員がそれぞれの分野から講義を行います。講義の内容は、心身の健康や病気に関する幅広い領域の中から、3学部の専門性を通じて、“健康に過ごすこと”、“病気の予防や治療”について、それぞれの立場から分かりやすくお話しします。心身ともに健康に過ごすことは誰もの願いです。したがって、自分自身で健康に過ごすためにできることに関心を持つことは、とても大切なことです。本講座は「健康科学」について、心身両面から正しい知識をもってもらふことを目的とします。

< 到達目標 >

【長谷】・「こころ」の科学と呼ばれる心理学で明らかにされた知見を学ぶことを通して、心身の健康がいかに多様な要因から影響を受けるのかについて理解します。

【坂本】心身の健康と脳機能との関係を理解した上、脳科学に基づく健康教育の考え方を理解します。

< 授業のキーワード >

【長谷】発達、発達障害、精神疾患、判断の歪み

【坂本】脳科学、心理学、健康、教育

< 授業の進め方 >

【長谷】パワーポイントのスライドを使用し、講義形式で進めます。

【坂本】パワーポイントのスライドを使用し、講義形式で進めます。

< 履修するにあたって >

【長谷】授業で学修した内容を実？活にあてはめてみて、どんなことに応？できそうかを考えるようにしてください。

【坂本】個々の授業内容を理解した上、自分の言葉で

他の人に説明出来るようになって下さい。

< 授業時間外に必要な学修 >

【長谷】配布された資料を復習すること（目安として60分）。

【坂本】小テストに備えて、各授業終了後に学修内容の復習を行ってください（所要時間約30分～）。

< 提出課題など >

【坂本】授業内容をレポートにまとめてもらいます。

< 成績評価方法・基準 >

【長谷】各回の小レポート（60%）、最終レポート（40%）

【坂本】レポートに記載するまとめ（50%）と小テスト（50%）

< テキスト >

【坂本】授業時に資料を配布します。

< 参考図書 >

必要に応じて適宜紹介する。

< 授業計画 >

第1回 心理学研究法

？で？たり、直接ふれることができない？の「こころ」を科学的に取り扱う？理学の研究法について学びます。

第2回 発達と健康

発達？理学と呼ばれる領域でこれまでに明らかにされてきた？の成？の特徴を理解します。そして、幼少期の経験が、性格や？格といったパーソナリティの形成に与える影響、さらには不安やストレスへの対処？略に与える影響について理解します。

第3回 発達と健康

？閉症スペクトラム障害や、注意？陥/多動性障害、学習障害といったさまざまな発達障害の特徴を理解します。

第4回 精神疾患

「こころ」の問題である精神疾患の特徴や診断基準について学び、？理学で明らかにされた有効な治療？法について理解します。

第5回 身の回りのリスクの評価

健康リスク含む多様なリスクの危険性を評価する際に陥りがちな「判断の歪み」について実感をとまなつて学びます。

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回 初学者のための脳科学 (1)

人間が人間らしく考え、振る舞うのは、人間が持つ脳の働きによるものだと言っても過言ではありません。脳の働きを知ることは、人間を理解し、豊かで幸せな生活を送るための助けとなります。この講義では、脳の基本的

な構造と心を構成するその働きについて学びます。

第12回 初学者のための脳科学 (2)

この講義では、「感じる」「動く」「学ぶ」「記憶する」といった、人が健康に日々の生活を送る上で必要となる心の動き、または身体の動きを司る脳の働きについて学びます。

第13回 脳と習慣～ダイエットの認知科学

私たち人間は考える生き物ではありますが、実際には、日々の生活の大部分を習慣に頼ることで効率性の高い生活を実現しています。習慣をかたち作る働きが脳にはあります。良い習慣を作るのも悪い習慣を作るのも、実は脳をどのように働かせるかにかかっています。この講義では、体重の減少を目的としたダイエットを例に、習慣形成の脳科学的または心理学的メカニズムについて学びます。

第14回 脳とビジネス心理学? ニューロ・マーケティング

脳科学は医療や教育といった分野だけではなく、経済やビジネスといった領域にも深い関わりを持っています。人の心理と行動の理解に基づくビジネスマーケティングの手法は健康教育にも応用できるものです。この講義では、ビジネス・マーケティングについて、脳科学または心理学的な観点から考察してみたいと思います。

第15回 確認テスト

11回～15回の講義内容につき、理解度を確認するための小テストを行います。

第16回

2022年度 前期

2.0単位

健康科学入門 (1年次のみ)

田村 行識、柿花 宏信、長谷 和久

< 授業の方法 >

講義

第1回～第5回講義(担当: 柿花)

第6回～第10回講義(担当: 長谷)

第11回～第15回講義(担当: 田村)

< 授業の目的 >

第1回～5回

・総合リハビリテーション学部のDPである、「保健・医療・福祉の現場および地域社会での課題を解決し、チーム医療や総合的福祉、地域社会開発の担い手となること」と関連付けた授業を行う。

・集団としての人の健康をとらえ、運動することによる疾病予防効果を理解する。

・本教員は病院や地域にて15年の実務経験を有する教員が担当する。

第6回～10回

心理学部のDPである「心理学の専門知識を習得し、医療・福祉・教育・産業・司法などの分野で専門知識を生かすことができる」を目指して授業を進めます。? 理学の研究知? を学ぶことで、さまざまな要因が相互に影響し合うかたちで? の? の健康状態が決定されることを理解します。

第11回～15回(田村担当)

全学のディプロマ・ポリシーに示すように、共通教育等を通じて、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指している。特に本講義回では、主に栄養学を通して、食生活や食環境が人の健康にどのように影響しているのかを考察し、人の健康を保持増進するための食と環境はどうあるべきかなどの知識や技能を身につけることを目指している。

< 到達目標 >

第1回～5回

- ・基本的な疫学指標の意味を正しく述べるができる。
- ・筋肉・運動に関する基礎知識を習得し、健康増進のために適切な運動の選択を行うことができる。

第6回～10回

・「こころ」の科学と呼ばれる心理学で明らかにされた知見を学ぶことを通して、心身の健康がいかに多様な要因から影響を受けるのかについて理解します。

第11回～第15回

・科学的根拠に基づいた健康と栄養に関する情報を正しく述べるができる。

・目的の身体づくりに応じた食品選択について実践することができる。

< 授業のキーワード >

第1回～5回

疫学、運動、筋肉

第6回～10回

発達、発達障害、精神疾患、判断の歪み

第11回～15回

食品選択、肥満、筋肉、アスリート、ストレス、アルコール

< 授業の進め方 >

講義・演習を中心に進める。

< 履修するにあたって >

第1回～5回

授業で学んだことを自身の健康にどのように役立てることができるか考えるようにしてください。

第6回～10回

・授業で学修した内容を実? 活にあてはめてみて、どんなことに応? できそうかを考えるようにしてください。

第11回～15回

食と健康、人体の仕組みなどについて、高等学校で使用した教科書などを参考にすることで理解が深まる。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、シラバスに基づき書籍やインターネットを活用して予備知識を持っておくこと（目安として30分）。

事後学習として、配布された資料を再確認すること（目安として60分）。

< 提出課題など >

必要に応じて適宜指示する。

< 成績評価方法・基準 >

課題を出しレポートの提出を求める、あるいは小テストを行い評価する。

各教員がそれぞれの担当回（5回分）について100点満点で評価し、各教員による評価の平均が6割以上の学生を合格とする。

< テキスト >

プリント等を配布する。

< 参考図書 >

必要に応じて適宜指示する。

< 授業計画 >

第1回 集団として人の健康をとらえる

人の集団の健康状態をとらえるために必要な指標や考え方を学ぶ。

第2回 運動と筋の働き（1）

身体運動を起こす力源となる筋肉の種類やその特徴について学ぶ。

第3回 運動と筋の働き（2）

トレーニングによる筋力増大はどのように起こるかを学ぶ。

第4回 各種疾病と運動

運動による各種疾病への効果を予防の観点から学ぶ。

第5回 身体機能の評価と運動処方

運動処方の実際について学ぶ。

第6回 ? 理学研究法

? で? たり、直接ふれることができない? の「こころ」を科学的に取り扱う? 理学の研究法について学びます。

第7回 発達と健康

発達? 理学と呼ばれる領域でこれまでに明らかにされてきた? の成? の特徴を理解します。そして、幼少期の経験が、性格や? 格といったパーソナリティの形成に与える影響、さらには不安やストレスへの対処? 略に与える影響について理解します。

第8回 発達と健康

? 閉症スペクトラム障害や、注意? 陥/多動性障害、学習障害といったさまざまな発達障害の特徴を理解します。

第9回 精神疾患

「こころ」の問題である精神疾患の特徴や診断基準について学び、? 理学で明らかにされた有効な治療? 法について理解します。

第10回 身のまわりのリスクの評価

健康リスク含む多様なリスクの危険性を評価する際に陥りがちな「判断の歪み」について実感をともなって学びます。

第11回 個人の目的に応じた食品選択の重要性

バランスのよい食事とは何かと、肥満改善や筋肉増強など個人の目的に応じた食品選択の重要性について学ぶ。

第12回 食品選択におけるカテゴリー管理とカロリー管理

食品の機能別の分類を学び、目の前の食事のカロリーを計算する技術について学ぶ。

第13回 コンビニや外食での食品選択の注意点

コンビニでの食品購入や外食の多い一人暮らしの学生が、いかにバランスよく、目的に応じた食品選択をするにはどうすればよいかを考えながら学ぶ。

第14回 アスリートのための食品選択

筋力や持久力をつけるための食品選択について学ぶ。

第15回 社会人になる前に知っておきたい栄養学

ストレスを軽減するための食品選択や、アルコールとの上手な付き合い方などについて考えながら学ぶ。

2022年度 前期

2.0単位

健康科学入門 （1年次のみ）

坂本 年将、長谷 和久、兵頭 香苗

< 授業の方法 >

【坂本担当回】

授業の方法：対面で行います。

< 坂本年将メールアドレス >

toshis.net@gmail.com

【長谷担当回】

講義（対面で実施します）

【兵頭担当回】

講義（対面で実施します）

< 授業の目的 >

本科目では全学のディプロマ・ポリシーに示すように、共通教育等を通じて、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養すること（DP1）、専門分野に高い関心を持ち、専門領域の課題を考察し、解決するための知識や技能を身につけること（DP2）を目指す。

とくに健康に関わる3学部（心理学部、栄養学部、総合リハビリテーション学部）の教員がそれぞれの分野から講義を行い、各教員それぞれの専門性を通して健康という概念の成り立ちを理解し、人が健康な生活を送るための知識とスキルを習得する。

【各担当教員の目的】

【長谷】心理学の研究知見を学ぶことで、さまざまな要因が相互に影響し合うかたちで人の心身の健康状態が決定されることを理解する。

【坂本】心身の健康と脳機能との関係を理解した上、脳科学に基づく健康教育の考え方を理解する。

【兵頭】生活習慣病について理解し、生活習慣病を予防するためにどのような生活習慣を心がけ、どのように実践すべきか、食生活を中心に理解できるようになることを目的とする。また、健康診断等における検査結果を理解し、自身の健康維持につなげられることを目的とする。なお、この授業の担当者は、病院での検査業務を経験している実務経験のある教員です。従って、必要な時には検査と生活習慣の関りについて解説していきます。

<到達目標>

健康科学を学ぶことで、私たちが生涯にわたって健康な生活を送るために必要な知識とスキルを習得する。

<授業のキーワード>

【長谷】発達、発達障害、精神疾患、判断の歪み

【坂本】脳科学、心理学、健康、教育

【兵頭】社会保障制度、高齢社会、生活習慣病、動脈硬化症、がん、脳卒中、心臓病、糖尿病、高血圧、脂質異常症、脂質代謝、健康診断

<授業の進め方>

【長谷】パワーポイントのスライドを使用して講義形式で進めます。また適宜映像資料を交えて説明します。

【坂本】パワーポイントのスライドを使用し、講義形式で進めます。

【兵頭】パワーポイントのスライド等を使用し、講義形式で進めます。

<履修するにあたって>

【長谷】授業で学修した内容を実生活にあてはめてみて、どんなことに応用できそうかを考えるようにしてください。

【坂本】個々の授業内容を理解した上、自分の言葉で他の人に説明出来るようになって下さい。

【兵頭】普段の生活についてどれだけ考えているか、自身の生活習慣を振り返って改めて思うこと、健康診断における自身の検査値について理解しているか考えるようにしてください。

<授業時間外に必要な学修>

【長谷】配布された資料を復習すること（目安として60分）。

【坂本】配布されるプリントを予習・復習して下さい（30分程度）。

【兵頭】授業の内容を整理し、復習してください（30分程度）。

<提出課題など>

【長谷】授業終了後に毎回小レポートを提出してもらいます。

【坂本】毎回出席カードに授業内容をまとめてもらいます。

【兵頭】授業毎に出席カードに小レポート書いて提出してもらいます。

<成績評価方法・基準>

【長谷】各回の小レポート（60%）、最終レポート（40%）

【坂本】出席カードに記載するまとめ（50%）と小テスト（50%）で評価する。

【兵頭】授業毎の小レポート（50%）と最終回の小テスト（50%）で評価する。

<テキスト>

【長谷】各授業の開始時に資料を配布します。

【坂本】授業時に資料を配布します。

【兵頭】授業時に資料を配布します。

<授業計画>

第1回

兵頭 高齢化社会と生活習慣病の概念

社会の高齢化を背景に日本の医療制度並びに、医療費高騰などの問題とその対策について。また、予防医学的な見地からみた“生活習慣病”と“栄養”がどのように関わっているのか学びます。

第2回

兵頭 生活習慣病の原因と病態1

生活習慣病は特定の病気を意味するのではなく、長期間の生活習慣によりもたらされる。特に食生活における栄養学的な誤りが、その原因を形成または、重複させている。生活習慣病といわれる具体的な主疾患の原因と病態について学びます。

第3回

兵頭 生活習慣病の原因と病態2

生活習慣病といわれる具体的な主疾患の原因と病態について学び、動脈硬化症の基礎病態形成の原因と、生体内の脂質（コレステロール）代謝との関連について学びます。また、悪性腫瘍の原因と病態について学びます。

第4回

兵頭 生活習慣病の予防と栄養

生活習慣病の原因の一つである喫煙について、身体に及ぼす影響を学習します。また、食物からの栄養素の吸収の仕方を学習し、三大栄養素の役割について理解します。さらに、健康診断結果の見方を理解し、自身の健康状態の把握の仕方を学びます。

第5回

兵頭 生活習慣としての食生活
生活習慣病の各方法を学びます。そして、「食事バランスガイド」を用いて現在の自身の食事バランスを把握し、どのように改善すべきかを学びます。

第6回

坂本 初学者のための脳科学 (1)

人間が人間らしく考え、振る舞うのは、人間が持つ脳の働きによるものと言っても過言ではありません。脳の働きを知ることは、人間を理解し、豊かで幸せな生活を送るための助けとなります。この講義では、脳の基本的な構造と心を構成するその働きについて学びます。

第7回

坂本 初学者のための脳科学 (2)

この講義では、「感じる」「動く」「学ぶ」「記憶する」といった、人が健康に日々の生活を送る上で必要となる心の動き、または身体の動きを司る脳の働きについて学びます。

第8回

坂本 脳と習慣? ダイエットの認知科学

私たち人間は考える生き物ではありませんが、実際には、日々の生活の大部分を習慣に頼ることで効率性の高い生活を実現しています。習慣をかたち作る働きが脳にはあります。良い習慣を作るのも悪い習慣を作るのも、実は脳をどのように働かせるかにかかっています。この講義では、体重の減少を目的としたダイエットを例に、習慣形成の脳科学的または心理学的メカニズムについて学びます。

第9回

坂本 脳とビジネス? ニューロ・マーケティング

脳科学は医療や教育といった分野だけではなく、経済やビジネスといった領域にも深い関わりを持っています。人の心理と行動の理解に基づくビジネスマーケティングの手法は健康教育にも応用できるものです。この講義では、ビジネス・マーケティングについて、脳科学または心理学的な観点から考察してみたいと思います。

第10回

坂本 脳と心の総集編

前4回の講義で解説した、心身の健康と脳機能の関係、そしてその理解に基づく健康教育の考え方を振り返り、その習熟度をテストします。

第11回

長谷 心理学研究法

目で見たり、直接ふれることができない人の「こころ」を科学的に取り扱う心理学の研究法について学びます。

第12回

長谷 発達と健康

発達心理学と呼ばれる領域でこれまでに明らかにされてきた人の成長の特徴を理解します。そして、幼少期の経験が、性格や人格といったパーソナリティの形成に与える影響、さらには不安やストレスへの対処方略に与える

影響について理解します。

第13回

長谷 発達と健康

自閉症スペクトラム障害や、注意欠陥/多動性障害、学習障害といったさまざまな発達障害の特徴を理解します。

第14回

長谷 精神疾患

「こころ」の問題である精神疾患の特徴や診断基準について学び、心理学で明らかにされた有効な治療方法について理解します。

第15回

長谷 リスク評価

健康リスク含む多様なリスクの危険性を評価する際に陥りがちな「判断の歪み」について実感をともなって学びます。

2022年度 前期

2.0単位

健康科学入門 (1年次のみ)

内海 美保、平岡 義範、山口 孝子

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

神戸学院大学は総合大学であり、色々な学部が集まっていることが特徴です。それぞれの学部ではどんなことが研究されているのか、そしてその研究は私達の生活とどのようにかかわっているのか、どんな面白いことがあるのかなどを皆さんに是非知ってもらいたいと考えて、共通教育のリベラルアーツ科目群は作られています。健康科学入門(クラス)では、健康にかかわる学問を取り扱う学部のひとつである薬学部の3名の教員が、それぞれの専門分野の紹介をします。健康にかかわる話を聴きながら、自分はどんなことに興味があるのかを発見し、健康科学についての基本的な知識を得ることを目標とします。

なお、この科目では、全学ディプロマポリシー(DP)のうち、DP1(共通教育等を通じて、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養している。)、及びDP2(専門分野に高い関心を持ち、専門領域の課題を考察し、解決するための知識や技能を身につけている。)の修得を目指します。

< 到達目標 >

第1?5回目:

1. 医薬品の適切な使用方法や特徴について、例を挙げて説明することができる。(知識)

2. 身近な医薬品について関心を持ち、セルフメディケーションの意義や注意点について認識できる(態度・習慣)

第6?10回目:

1. 体内時計を制御する分子機構について説明することができる。(知識)
2. 体内時計の乱れと疾患とのかわりについて、例を挙げて説明することができる。(知識)
3. 体内時計の整え方について説明することができ、自らの生活習慣に照らし合わせて考えることができる。(知識、態度)

第11?15回目：

1. 健康に影響する環境要因を列挙し、説明できる。(知識)
2. 様々な環境要因の健康影響に関心を持ち、病気とその影響要因について考えることができる。(態度・知識・習慣)

<授業の進め方>

第1?5回目：

Power PointやDVDを用いて解説をするとともに、受講生に質問をするなど、双方向の授業を実施する。

第6?10回目：

主にPower Pointを用いた講義であるが、受講生にアンケートや質問をするなど、積極的な授業への参加を期待する。

第11?15回目：

主にPower Pointを用いた講義であるが、受講生にアンケートや質問をするなど、積極的な授業への参加を期待する。

<履修するにあたって>

第1?5回目：

オフィスアワー：金曜日11:00?13:45

第6?10回目：

オフィスアワー：木曜日16:00~18:00

第11?15回目：

オフィスアワー：月曜日13:00?15:30

<授業時間外に必要な学修>

授業終了後に、課題、またはテキストの予習・復習箇所および目安となる時間を提示する。

<成績評価方法・基準>

この授業は3名の教員で担当し、全15回の授業への取り組み姿勢を総合的に評価する。

各授業終了後には、授業内容に関連した小テストまたはレポートを課す。小テストまたはレポートは指定された期間内にドットキャンパスから提出をする。課題に関する詳細は、ドットキャンパス及びOneDriveから案内をする。

<授業計画>

第1回 くすりの知識(1) 担当 内海

医薬品、医療機器等法では、医薬品を取扱う国民自身も、医薬品にかかわる知識を深め、適切に取り扱うことが求められている。医薬品は、正しい使い方をしてはじめて有効に作用する。逆に、服用方法や保存法などが誤っていると、思わぬ事態を招くことがある。そこで、第1?2

回目の授業では、薬局で購入できる薬や病院で処方される薬について、適切な使用方法等を学ぶ。また、汎用される代表的な医薬品を例に、薬の作用するしくみや生体への影響など、幅広い視点から医薬品についての知識を身につける。

第2回 くすりの知識(2) 担当 内海

第1回目の授業につづき、医薬品についての知識を身につける。

第3回 くすりの歴史 担当 内海

古代より、人は、植物や動物など、様々なものを医薬品として活用してきた。また、単に薬の作用を発現させるだけではなく、生活の質(QOL)を高めるために、薬の副作用を最小限に抑えるなどの改良を加えてきた。第3回目の授業では、医薬品の歴史を振り返るとともに、現在の医薬品の開発、製造についてその概要を知る。

第4回 薬剤師の役割とセルフメディケーション(1)

担当 内海

現在、医療費の高騰化等を背景に、セルフメディケーション(自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てすること)が推進されている。薬局やドラッグストアでは、健康を保持するための様々な医薬品やサプリメント等が販売されており、国民はそれらを容易に入手することができる。安全なセルフメディケーションを行うために、薬のスペシャリストである薬剤師の仕事や役割を理解するとともに、薬局や薬剤師との上手な付き合い方について学ぶ。

第5回 薬剤師の役割とセルフメディケーション(2)

担当 内海

第4回目の授業につづき、薬剤師の仕事や役割を理解するとともに、薬局や薬剤師との上手な付き合い方について学ぶ。

第6回 体内時計と健康(1)?体内時計の制御機構?

担当 平岡

地球上のほとんど全ての生物には体内時計が存在し、約24時間周期のリズム(概日リズム)を刻んでいる。ヒトの体内時計は、睡眠・覚醒、体温、血圧、ホルモン分泌、代謝、免疫などの様々な生理機能を調節しており、体内時計の乱れは、睡眠障害、糖尿病などの生活習慣病や癌など様々な疾患と関連している。本授業では、体内時計と健康についての理解を深めることを目的とし、第6回目の授業では、体内時計の制御機構について学ぶ。

第7回 体内時計と健康(2)?体内時計と睡眠? 担当

平岡

テレビやスマホによる夜更かしは体内時計の乱れにつながる。第7回目の授業では、体内時計の乱れと睡眠障害・うつとのかわり、さらには、体内時計の整え方について学ぶ。

第8回 体内時計と健康(3)?体内時計と時間栄養学?

担当 平岡

夜遅い食事は肥満につながる。第8回目の授業では、な

ぜ規則正しい食生活が大切なのか、栄養学に時間的要素を加えた時間栄養学について学ぶ。

第9回 体内時計と健康(4)? 体内時計と生活習慣病?

担当 平岡

シフトワーカーは肥満や糖尿病などの生活習慣病の発症リスクが高いことが報告されている。第9回目の授業では、体内時計の乱れと生活習慣病とのかかわりについて学ぶ。

第10回 体内時計と健康(5)? 体内時計と時間治療?

担当 平岡

疾患の発症や症状の悪化には日内変動が見られる。第10回目の授業では、薬を投与する時刻によって薬の効果を高める、または、薬の副作用を最小限に抑える「時間治療」について学ぶ。

第11回 環境と健康(1) - 健康にかかわる環境要因の概要 担当 山口

薬学は、主に薬物を用いた治療による疾病の排除に大きな役割を果たしているが、疾病原因を明らかにし、それを除去することによって生活環境を改善して疾病を未然に防ぐ役割も担っており、今後は、その重要性が特に増すと考えられる。私たちを取り巻く環境は、健康と深くかかわっており、生活と切り離せない空気、水、土壌、食物などに存在する物質、栄養状態、ライフスタイルなど、多くの私たちの身の回りの「環境」が健康状態に影響を及ぼすことがある。本授業では、健康障害の原因となる様々な環境要因の概要を紹介し、環境と健康のかかわりを学ぶ。

第12回 環境と健康(2) - 物理・化学的環境要因 担当 山口

私たちの身の回りに存在している化学物質等の健康影響について、具体的な事例から学ぶ。

第13回 環境と健康(3) - 生物学的・社会文化的環境要因 担当 山口

感染症、ライフスタイル、心の健康など、生活に密着した様々な環境が及ぼす健康影響について考える。

第14回 環境と健康(4) - タバコの健康影響 担当 山口

タバコには、多くの有害物質とともに依存性物質であるニコチンが含まれている。また最近では、新型タバコが急速に利用者を増やしている。みなさんは、これまで複数回の喫煙防止教育の経験があると思われませんが、タバコや喫煙についての認識はどのようなものでしょうか? 今一度、タバコや喫煙に対する認識と健康影響について考えてみよう。

第15回 環境と健康(5) - 健康食品の正しい知識と問題点 担当 山口

近年、高齢化社会などを背景に健康志向食品の市場が成長している。それに伴い、悪質・違法な商品の販売、医薬品との相互作用や過剰摂取などの危険性、健康被害の報告も増加している。健康食品の正しい知識と問題点を

学ぶ。

2022年度 前期

2.0単位

健康科学入門 (1年次のみ)

平岡 義範、内海 美保、山口 孝子

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

神? 学院? 学は総合? 学であり、? 々な学部が集まっていることが特徴です。それぞれの学部ではどんなことが研究されているのか、そしてその研究は私達の? 活とどのようにかかわっているのか、どんな? ? いことがあるのかなどを皆さんに是? 知ってもらいたいと考えて、共通教育のリベラルアーツ科? 群は作られています。健康科学? ? では、健康にかかわる学問を取り扱う学部のひとつである薬学部の3名の教員が、それぞれの専? 分野の紹介をします。健康にかかわる話を聴きながら、? 分はどんなことに興味があるのかを発? し、健康科学についての基本的な知識を得ることを? 標とします。なお、この科? では、全学ディプロマポリシー(DP)のうち、DP1(共通教育等を通じて、広い教養を? につけ、豊かな? 問性や社会性を涵養している。)、及びDP2(専? 分野に? い関? を持ち、専? 領域の課題を考察し、解決するための知識や技能を? につけている。)の修得を? 指します。

<到達目標>

第1?5回? ?

1. 体内時計を制御する分? 機構について説明することができる。(知識)
2. 体内時計の乱れと疾患とのかかわりについて、例を挙げて説明することができる。(知識)
3. 体内時計の整え? について説明することができ、? らの? 活習慣に照らし合わせて考えることができる。(知識、態度)

第6?10回? ?

1. 健康に影響する環境要因を列挙し、説明できる。(知識)
2. 様々な環境要因の健康影響に関? を持ち、病気とその影響 要因について考えることができる。(態度・知識・習慣)

第11?15回? ?

1. 医薬品の適切な使? ? 法や特徴について、例を挙げて説明することができる。(知識)
2. ? 近な医薬品について関? を持ち、セルフメディケーションの意義や注意点について認識できる(態度・習

慣)

< 授業の進め方 >

第1?5回??

主にPower Pointを?いた講義であるが、受講?にアンケートや質問をするなど、積極的な授業への参加を期待する。

第6?10回??

主にPower Pointを?いた講義であるが、受講?にアンケートや質問をするなど、積極的な授業への参加を期待する。

第11?15回??

Power PointやDVDを?いて解説をするとともに、受講?に質問をするなど、双?向の授業を実施する。

< 履修するにあたって >

第1?5回??

オフィスアワー ?? 曜?16:00?18:00

第6?10回??

オフィスアワー?? 曜?13:00?15:30

第11?15回??

オフィスアワー ?? 曜?11:00?13:45

< 授業時間外に必要な学修 >

授業終了後に、課題、またはテキストの予習・復習箇所および目安となる時間を提示する。

< 成績評価方法・基準 >

この授業は3名の教員で担当し、全15回の授業への取り組み姿勢を総合的に評価する。

各授業終了後には、授業内容に関連した?テストまたはレポートを課す。?テストまたはレポート

は指定された期間内にドットキャンパスから提出をする。

課題に関する詳細は、ドットキャンパス及びOneDriveから案内をする。

< 授業計画 >

第1回

担当：平岡 体内時計と健康(1)

~ 体内時計の制御機構 ~

地球上のほとんど全ての生物には体内時計が存在し、約24時間周期のリズム(概日リズム)を刻んでいる。ヒトの体内時計は、睡眠・覚醒、体温、血圧、ホルモン分泌、代謝、免疫などの様々な生理機能を調節しており、体内時計の乱れは、睡眠障害、糖尿病などの生活習慣病や癌など様々な疾患と関連している。本授業では、体内時計と健康についての理解を深めることを目的とし、第1回目の授業では、体内時計の制御機構について学ぶ。

第2回

担当：平岡 体内時計と健康(2)

~ 体内時計と睡眠 ~

テレビやスマホによる夜更かしは体内時計の乱れにつな

がる。第2回目の授業では、体内時計の乱れと睡眠障害・うつとのかかわり、さらには、体内時計の整え方について学ぶ。

第3回

担当：平岡 体内時計と健康(3)

~ 体内時計と時間栄養学 ~

夜遅い食事は肥満につながる。第3回目の授業では、なぜ規則正しい食生活が大切なのか、栄養学に時間的要素を加えた時間栄養学について学ぶ。

第4回

担当：平岡 体内時計と健康(4)

~ 体内時計と生活習慣病 ~

シフトワーカーは肥満や糖尿病などの生活習慣病の発症リスクが高いことが報告されている。第4回目の授業では、体内時計の乱れと生活習慣病とのかかわりについて学ぶ。

第5回

担当：平岡 体内時計と健康(5)

~ 体内時計と時間治療 ~

疾患の発症や症状の悪化には日内変動が見られる。第5回目の授業では、薬を投与する時刻によって薬の効果を高める、または、薬の副作用を最小限に抑える「時間治療」について学ぶ。

第6回

担当：山口 環境と健康(1)

- 健康にかかわる環境要因の概要

薬学は、主に薬物を?いた治療による疾病の排除に?きな役割を果たしているが、疾病原因を明らかにし、それを除去することによって?活環境を改善して疾病を未然に防ぐ役割も担っており、今後は、その重要性が特に増すと考えられる。私たちを取り巻く環境は、健康と深くかかわっており、?活と切り離せない空気、?、?壤、?物などに存在する物質、栄養状態、ライフスタイルなど、多くの私たちの?の回りの「環境」が健康状態に影響を及ぼすことがある。本授業では、健康障害の原因となる様々な環境要因の概要を紹介し、環境と健康のかかわりを学ぶ。

第7回

担当：山口 環境と健康(2)

- 物理・化学的環境要因

私たちの身の回りに存在している化学物質等の健康影響について、具体的な事例から学ぶ。

第8回

担当：山口 環境と健康(3)

- 生物学的・社会文化的環境要因

感染症、ライフスタイル、心の健康など、生活に密着した様々な環境が及ぼす健康影響について考える。

第9回

担当：山口 環境と健康（4）

- 喫煙による健康影響

タバコには、多くの有害物質とともに依存性物質であるニコチンが含まれている。また最近では、新型タバコが急速に利用者を増やしている。みなさんは、これまで複数回の喫煙防止教育の経験があると思われますが、タバコや喫煙についての認識はどのようなものでしょうか？今度、タバコや喫煙に対する認識と健康影響について考えてみよう。

第10回

担当：山口 環境と健康（5）

- 健康食品の正しい知識と問題点

近年、高齢化社会などを背景に健康志向食品の市場が成長している。それに伴い、悪質・違法な商品の販売、医薬品との相互作用や過剰摂取などの危険性、健康被害の報告も増加している。健康食品の正しい知識と問題点を学ぶ。

第11回

担当：内海 くすりの知識（1）

医薬品、医療機器等法では、医薬品を取扱う国々も、医薬品にかかわる知識を深め、適切に取り扱うことが求められている。医薬品は、正しい使い方をしてはじめて有効に作用する。逆に、服薬法や保存法などが誤っていると、思わぬ事態を招くことがある。そこで、第11・12回の授業では、薬局で購取できる薬や病院で処方される薬について、適切な使用法等を学ぶ。また、処方される代表的な医薬品を例に、薬の作用するしくみや身体への影響など、幅広い視点から医薬品についての知識を身につける。

第12回

担当：内海 くすりの知識（2）

第11回目の授業につづき、医薬品についての知識を身につける。

第13回

担当：内海 くすりの歴史

古代より、人は、植物や動物など、様々なものを医薬品として活用してきた。また、単に薬の作用を発現させるだけではなく、生活の質（QOL）を高めるために、薬の副作用を最小限に抑えるなどの様々な改良を加えてきた。第8回目の授業では、医薬品の歴史を振り返るとともに、現在の医薬品の開発、製造についてその概要を知る。

第14回

担当：内海 薬剤師の役割とセルフメディケーション（1）

現在、医療費の増大等を背景に、セルフメディケーシ

ョン（分々の健康に責任を持ち、軽度な体の不調は自分で当てること）が推進されている。薬局やドラッグストアでは、健康を保持するための様々な医薬品やサプリメント等が販売されており、国々はそれらを容易に利用することができる。安全なセルフメディケーションをうため、薬のスペシャリストである薬剤師の仕事や役割を理解するとともに、薬局や薬剤師との上手な付き合い方について学ぶ。

第15回

担当：内海 薬剤師の役割とセルフメディケーション（2）

第14回目の授業につづき、薬剤師の仕事や役割を理解するとともに、薬局や薬剤師との上手な付き合い方について学ぶ。

2022年度 後期

1.0単位

健康・生活支援指導論実習（ポ）（11:10～12:40）

賀屋 光晴

<授業の方法>

実習，実技

<授業の目的>

自分の体力を知る。

スポーツ実践を通して、スポーツの楽しさを体感するとともに、運動習慣を身につけるための基礎を身につける。障害者スポーツなど様々なスポーツを体験することでスポーツの持つ奥深さや多様性を知るとともに、思いやりの心やコミュニケーションの大切さを知る。身体表現（創作ダンス）の実践などにより、表現力を身につける。

<到達目標>

- (1) スポーツに関する幅広い知識と技術が習得できる。
- (2) 健康づくりと運動との関係に関する知識を身につけることができる。
- (3) 状況や対象に合わせた行動をとることができる。
- (4) 状況に応じて適切にコミュニケーションをとることができる。
- (5) 自分たちの考えや思いを周囲に伝えることができる。

<授業のキーワード>

身体表現、健康、コミュニケーション

<授業の進め方>

全体を3グループに分け、それぞれのグループで指定の種目の運動を一定期間実施する。一定期間実施した後、ローテーションして実施種目を変更する。

<履修するにあたって>

- (1) 授業時は、兵庫医科大学神戸キャンパスG棟アリーナ2階のアリーナに直接集合すること。
- (2) 得手・不得手に関わらず、また失敗を恐れず積極

的に取り組むこと。

(3) 運動服に着替えて受講する事。またアリーナ内では必ず体育館シューズを着用すること。なお更衣は兵庫医科大学神戸キャンパスG棟アリーナの1階更衣室を利用してもよい。

(4) ピアス、ネックレスなどの装飾品は身につけない。

(5) その他、必要な注意事項に関しては随時指示を与える。(授業場所の変更等)

< 授業時間外に必要な学修 >

各回の授業内容や感想などをまとめておくこと。

新聞や雑誌などで発表された、健康やスポーツに関する記事に目を通しておくこと。

積極的に体を動かし、自分の生活に見合った運動の仕方を探求してみること(活動実施内容を記録し、振り返りを行なう事が望ましい)。

5分程度のストレッチを毎日行なう。

< 提出課題など >

授業期間の終盤に期間全体の内容を踏まえたレポートを課す(必須)

< 成績評価方法・基準 >

実施内容に対する積極的な参加はもちろんだが、自己中心的でないこと、周囲との積極的な関わりに対する努力も評価対象とする。

参加態度(35%)、協調性(25%)、習熟度(20%)、レポート(20%)

< テキスト >

なし

< 参考図書 >

「新版 生活健康科学」 小田切陽一, 小山勝弘, 石原逸子 共著, (三共出版) 2011年

「運動処方指針: 運動負荷試験と運動プログラム(原書第8版)」 編: アメリカスポーツ医学会, 日本体力医学会(南江堂) 2011年

「健康・スポーツ科学講義 第2版」 出村慎一監修, (杏林書院) 2011年

「運動生理学 生理学の基礎から疾病予防まで(第2版)」 小山勝弘, 安藤大輔 編著(三共出版) 2021年

< 授業計画 >

第1回 スポーツ実践

オリエンテーション

身体表現(各グループ毎にダンス内容を創作)

第2回 スポーツ実践

身体表現(各グループ毎にダンス内容を創作)

第3回 スポーツ実践

身体表現(各グループ毎にダンス内容を創作)

第4回 スポーツ実践・評価

身体表現の発表(発表会)と評価

第5回 スポーツ科学理論

スポーツ実践

健康と身体活動(運動の調節, 運動処方など)

バスケットボール・ショートテニスなどの実施

第6回 スポーツ実践

バスケットボール・ショートテニス・障害者スポーツなどの実施

第7回 スポーツ実践

バスケットボール・ショートテニス・障害者スポーツなどの実施

第8回 スポーツ科学理論

スポーツ実践

健康と身体活動(運動の調節, 運動処方など)

バスケットボール・ショートテニスなどの実施

第9回 スポーツ実践

バスケットボール・ショートテニス・障害者スポーツなどの実施

第10回 スポーツ実践

バスケットボール・ショートテニス・障害者スポーツなどの実施

第11回 体力の測定・評価

体力測定の実施と体力の評価

第12回 体力の測定・評価

体力測定の実施と体力の評価

第13回 スポーツ科学理論

スポーツ実践

健康と身体活動(運動の調節, 運動処方など)

バスケットボール・ショートテニスなどの実施

第14回 スポーツ実践

バスケットボール・ショートテニス・障害者スポーツなどの実施

第15回 スポーツ実践

全体のまとめ

バスケットボール・ショートテニス・障害者スポーツなどの実施

後期全体のまとめ

2022年度 前期

2.0単位

健康・体力づくり演習

坂井 隆秀

< 授業の方法 >

対面授業(実技 講義)

< 授業の目的 >

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

健康・体力づくり演習では、ウォーキングやレクリエーション等のライト・スポーツを中心とした実践を通じてスポーツの楽しさや効果を体感し、健康・体力づくりの方法を学ぶことで運動習慣をつけるための基礎を身に

つける。1年次前期に担当する事により、学びと実践を通じて自身の健康や体力を改めて見つめ直す機会としたい。

<到達目標>

生涯スポーツの意義を説明できる。

健康・体力づくりの方法を説明できる。

運動習慣を身につける。

<授業の進め方>

講義と実習により進める。

<履修するにあたって>

参加する学生や人数によって内容を変更する場合があります。

<授業時間外に必要な学修>

授業内容やキーワードについて事前・事後学習をうこと。

(各30分)

授業外でもウォーキング等の運動を日常生活に取り入れて運動習慣を身につけるよう心がけること。

<成績評価方法・基準>

授業への参加度50%、実技試験20%、レポート30%で評価する。

<テキスト>

適宜資料等を配布する。

<参考図書>

「健康・スポーツ科学の基礎知識」スポーツサイエンスフォーラム編、道和書院

<授業計画>

第1回 (講義) ガイダンス

授業目的、到達目標、内容、評価基準等について理解する。

第2回 ストレッチング

ストレッチングの実際と取り入れ方を理解する。

第3回 (講義+実習) ウォーキング1

ウォーキングの基本動作の説明とウォーキング運動の実践。活動量計を用い、活動量と歩数との関係を理解する。

第4回 (講義+実習) ウォーキング2

中等度の運動強度について理解し、運動前中後の心拍数を計測し、運動強度と心拍数の関係を理解する。

第5回 体力テスト1

上体起こし、20mシャトルラン、体重、体脂肪率、血圧測定

第6回 体力テスト2

握力、長座体前屈、反復横跳び、立ち幅跳び測定

第7回 (講義) 体力テストの自己評価1

身体計測、血圧測定の結果を基に自己評価する。

第8回 (講義) 体力テストの自己評価2

体力テストの結果を、資料を基に点数化し自己評価する。

第9回 ビーチボールバレー1

簡易ルールの説明と基本的な技能、戦術の理解と実践。

第10回 ビーチボールバレー2

得点を付けたリーグ戦ゲームの実践。

第11回 ソフトバレーボール1

簡易ルールの説明と基本的な技能、戦術の理解と実践。

第12回 ソフトバレーボール2

得点を付けたリーグ戦ゲームの実践。

第13回 バドミントン1

基本的な技術の理解と実践。

第14回 バドミントン2

簡易ルールの試合形式でのゲーム。

第15回 (講義) まとめ

生涯スポーツの意義と、その方法について確認する。

2022年度 前期

2.0単位

健康・体力づくり演習

今井 啓介

<授業の方法>

対面授業とオンデマンド授業で行ないます。

非登学申請者はオンデマンド授業

<授業の目的>

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

健康・体力づくり演習では、ウォーキングやレクリエーション等のライト・スポーツを中心とした実践を通じてスポーツの楽しさや効果を体感し、健康・体力づくりの方法を学ぶことで運動習慣をつけるための基礎を身につける。1年次前期に担当する事により、学びと実践を通じて自身の健康や体力を改めて見つめ直す機会としたい。

<到達目標>

- ・生涯スポーツの意義を説明できる。
- ・健康・体力づくりの方法を説明できる。
- ・運動習慣を身につける。

<授業の進め方>

実技と講義で進めます。

<履修するにあたって>

実技、授業内容、方法を変更することもある。

<授業時間外に必要な学修>

インターネット等で放映されている授業で行なうスポーツの試合を見て、そのスポーツに興味をもってもらいたい(30分程度)。

<提出課題など>

適宜指示する。

<成績評価方法・基準>

授業への参加度50%、実技試験20%、レポート課題30%で100%で評価する。

非登学の学生についてはレポート課題等100%で評価す

る。

< 授業計画 >

第1回 講義

授業の目的、注意事項、成績評価方法・基準などについて理解する。

第2回 実技

ウォーキング・ジョギング 運動習慣を身につける。

第3回 講義

スポーツと健康の概念を理解する。

第4回 実技

ウォーキング・ジョギング 運動習慣を身につける。

第5回 実技

アルティメット フリスビーを使用してライトスポーツを楽しむ。

第6回 実技

アルティメット フリスビーを使用してライトスポーツを楽しむ。

第7回 実技

ポートボール 球技を通してコミュニケーション力・協調性を養う。

第8回 実技

ポートボール 球技を通してコミュニケーション力・協調性を養う。

第9回 実技

ポートボール 球技を通してコミュニケーション力・協調性を養う。

第10回 実技

バドミントン 球技を通して生涯スポーツの意義を学び、スポーツを楽しむ。

第11回 実技

バドミントン 球技を通して生涯スポーツの意義を学び、スポーツを楽しむ。

第12回 講義

スポーツ科学の現状を学び理解する。

第13回 実技

ソフトバレー 球技を通して生涯スポーツの意義を学び、スポーツを楽しむ。

第14回 実技

ソフトバレー 球技を通して生涯スポーツの意義を学び、スポーツを楽しむ。

第15回 講義

授業全体のまとめ、総括を行なう。

2022年度 前期

2.0単位

健康・体力づくり演習

今井 啓介

< 授業の方法 >

対面授業とオンデマンド授業で行ないます。

非登学申請者はオンデマンド授業

< 授業の目的 >

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

健康・体力づくり演習では、ウォーキングやレクリエーション等のライト・スポーツを中心とした実践を通じてスポーツの楽しさや効果を体感し、健康・体力づくりの方法を学ぶことで運動習慣をつけるための基礎を身につける。1年次前期に配当する事により、学びと実践を通じて自身の健康や体力を改めて見つめ直す機会としたい。

< 到達目標 >

- ・生涯スポーツの意義を説明できる。
- ・健康・体力づくりの方法を説明できる。
- ・運動習慣を身につける。

< 授業の進め方 >

実技と講義で進めます。

< 履修するにあたって >

実技、授業内容、方法を変更することもある。

< 授業時間外に必要な学修 >

インターネット等で放映されている授業で行なうスポーツの試合を見て、そのスポーツに興味をもってもらいたい(30分程度)。

< 提出課題など >

適宜指示する。

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度50%、実技試験20%、レポート課題30%で100%で評価する。

非登学の学生についてはレポート課題等100%で評価する。

< 授業計画 >

第1回 講義

授業の目的、注意事項、成績評価方法・基準などについて理解する。

第2回 実技

ウォーキング・ジョギング 運動習慣を身につける。

第3回 講義

スポーツと健康の概念を理解する。

第4回 実技

ウォーキング・ジョギング 運動習慣を身につける。

第5回 実技

アルティメット フリスビーを使用してライトスポーツを楽しむ。

第6回 実技

アルティメット フリスビーを使用してライトスポーツを楽しむ。

第7回 実技

ポートボール 球技を通してコミュニケーション力・協調性を養う。

第8回 実技
ポートボール 球技を通してコミュニケーション力・協調性を養う。

第9回 実技
ポートボール 球技を通してコミュニケーション力・協調性を養う。

第10回 実技
バドミントン 球技を通して生涯スポーツの意義を学び、スポーツを楽しむ。

第11回 実技
バドミントン 球技を通して生涯スポーツの意義を学び、スポーツを楽しむ。

第12回 講義
スポーツ科学の現状を学び理解する。

第13回 実技
ソフトバレー 球技を通して生涯スポーツの意義を学び、スポーツを楽しむ。

第14回 実技
ソフトバレー 球技を通して生涯スポーツの意義を学び、スポーツを楽しむ。

第15回 講義
授業全体のまとめ、総括を行なう。

2022年度 前期
2.0単位
健康・体力づくり演習
赤坂 美月

< 授業の方法 >
演習

< 授業の目的 >
この科目は、共通教育科目のスポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

健康・体力づくり演習では、ウォーキングやレクリエーション等のライト・スポーツを中心とした実践を通じてスポーツの楽しさや効果を体感し、健康・体力づくりの方法を学ぶことで運動習慣をつけるための基礎を身につける。1年次前期に配当することにより、学びと実践を通じて自身の健康や体力をあらためて見つめ直す機会としたい。

< 到達目標 >
生涯スポーツの意義を説明できる。
健康・体力づくりの方法を説明できる。
運動習慣を身につける。

< 授業のキーワード >
健康づくり、体力づくり、身体活動・運動

< 授業の進め方 >

授業計画にそって授業を行う。
DVDも使用する。

< 履修するにあたって >
屋外用、屋内用の運動靴を用意すること。
< 授業時間外に必要な学修 >
講義や実技の授業後は、内容を整理しておくこと。(30分程度)
理解が不十分な点があれば、質問すること。
< 提出課題など >
健康・体力づくりに関するレポートを数回提出していただき、コメントを返す。
< 成績評価方法・基準 >
授業への参加度50%、実技試験20%、レポート30%で評価する。

< テキスト >
適宜資料を配布する。

< 参考図書 >
必要に応じて紹介する。

< 授業計画 >
第1回 (講義)
ガイダンス
スポーツ・健康とは
授業の方法、授業の目的、到達目標、授業の進め方、授業計画、成績評価方法・基準などについて理解する。
スポーツ・健康とは何かについて理解する。

第2回 (講義)
生涯スポーツ
健康づくりと身体活動・運動
生涯スポーツについて理解する。
健康づくりと身体活動・運動について理解する。

第3回 (講義、実技) 体育館
からだほぐし運動
ウォーキング1
からだほぐし運動について理解するとともに、実践する。
ウォーキングについて理解するとともに、実践する。

第4回 (実技) 第1グラウンド
ウォーキング2
ウォーキングを実践する。

第5回 (講義、実技) 第1グラウンド
有酸素性運動
ウォーキング3
有酸素性運動について理解する。
ウォーキングを実践する。

第6回 (講義、実技) 第1グラウンド
ライトスポーツ
アルティメット、ペタンク
ライトスポーツについて理解する。
フライングディスク、アルティメット、ペタンクについて理解するとともに、実践する。

第7回 (講義)

癒しと身体活動・運動

こころとからだの癒しと身体活動・運動について理解する。

第8回 (講義、実技) 体育館

レクリエーションバドミントン1

レクリエーションとしてのバドミントンについて理解するとともに、実践する。

第9回 (実技) 体育館

レクリエーションバドミントン2

レクリエーションバドミントンを実践する。

第10回 (講義、実技) 体育館

ショートテニス1

ショートテニスについて理解するとともに、実践する。

第11回 (実技) 体育館

ショートテニス2

ショートテニスを実践する。

第12回 (講義)

体力とは

体力づくりと身体活動・運動

体力について理解する。

体力づくりと身体活動・運動について理解する。

第13回 (講義、実技) 体育館

レジスタンス運動

レクリエーション卓球1

レジスタンス運動について理解するとともに、実践する。

レクリエーションとしての卓球について理解するとともに、実践する。

第14回 (実技) 体育館

レクリエーション卓球2

レクリエーション卓球を実践する。

第15回 (講義、実技) 体育館

こころほぐし・からだほぐしとライトスポーツ

講義と実技を楽しめたかを確認するとともに、こころほぐし・からだほぐしと身体活動・運動や関心をもったライトスポーツを実践するなかで、自身の健康や体力を見つめ直す。

2022年度 前期

2.0単位

健康・体力づくり演習

林 直也

< 授業の方法 >

対面授業形式で行う。

担当者(林直也)メールアドレス gn151232@ge.kobega

kuin.ac.jp

特別警報(すべての特別警報)または暴風警報発令の場合(大雨、洪水警報等は対象外)の本科目の取扱いについて

授業を実施します。ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

< 授業の目的 >

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

健康・体力づくり演習では、ウォーキングやレクリエーション等のライト・スポーツを中心とした実践を通じてスポーツの楽しさや効果を体感し、健康・体力づくりの方法を学ぶことで運動習慣をつけるための基礎を身につける。1年次前期に配当する事により、学びと実践を通じて自身の健康や体力を改めて見つめ直す機会としたい。

< 到達目標 >

- ・生涯スポーツの意義を説明できる。
- ・健康・体力づくりの方法を説明できる。
- ・運動習慣を身につける。

< 授業の進め方 >

対面形式で実施する。

< 授業時間外に必要な学修 >

生涯スポーツに関する新聞記事、ネットでの情報等を積極的に読んでおくこと。

提出課題など

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度50%、実技試験20%、レポート30%で評価する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス・評価説明

オンライン授業で行う授業内容について理解する。

第2回 ライトスポーツ

ラケットスポーツに挑戦しよう

バドミントンを通し、ラケットスポーツの基礎技術を身に付ける。ハイクリア、ドライブ、ドロップ

第3回 ライトスポーツ

ラケットスポーツに挑戦しよう

バドミントン：ダブルスゲームのルール理解とゲーム

第4回 ライトスポーツ

ネット型スポーツに挑戦しよう

ソフトバレーボールの基礎知識、基礎技術について学ぶ。

第5回 ライトスポーツ

ネット型スポーツに挑戦しよう
ソフトバレーボール。サーブ、スパイク。

第6回 ライトスポーツ

ネット型スポーツに挑戦しよう
ソフトバレーボールのゲーム。

第7回 ライトスポーツ

ウォーキング

ウォーキングを通し、健康づくり、本来の人の移動方法について学ぶ。消費カロリー、心拍数について考える。

第8回 ライトスポーツ

ウォーキング

課題を与え、グループごとに歩く。

第9回 ライトスポーツ

縄とびに挑戦しよう

長なわ、短なわを用い、さまざまな跳び方にチャレンジすることで、跳ぶ、縄をまわす、タイミングを合わせる等について学ぶ。

第10回 ライトスポーツ

キンボールに挑戦しよう

キンボールの歴史とルールについて学ぶ。キンボールを通し、走る、打つ、声を出す、チームワークなどの技能を身に付ける。

第11回 ライトスポーツ

ペタンクに挑戦しよう。

ペタンクのルール、技術を理解する。

第12回 生涯スポーツについて学ぶ

生涯スポーツの意味と意義について講義形式で学ぶ。
生涯スポーツの現状と課題について学ぶ。

第13回 講義

生涯スポーツ促進についてのアイデア創出

ここまで取り組んできた生涯スポーツ（ライトスポーツ）を振り返り、生涯スポーツ人口増加のためのアイデアについて考える。

第14回 講義

グループ発表

前週で考えたアイデアについて、グループごとに発表し合いアイデアを共有する。伝える能力、質問能力を身に付ける。

第15回 講義

グループ発表

前週で考えたアイデアについて、グループごとに発表し合いアイデアを共有する。伝える能力、質問能力を身に付ける。

2022年度 前期

2.0単位

健康・体力づくり演習

吉田 美智子

< 授業の方法 >

対面での実技・講義の両方形式

< 授業の目的 >

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

健康・体力づくり演習では、ウォーキングやレクリエーション等のライト・スポーツを中心とした実践を通じてスポーツの楽しさや効果を体感し、健康・体力づくりの方法を学ぶことで運動習慣をつけるための基礎を身につける。1年次前期に配当する事により、学びと実践を通じて自身の健康や体力を改めて見つめ直す機会としたい。

< 到達目標 >

- ・生涯スポーツの意義を説明できる。
- ・健康・体力づくりの方法を説明できる。
- ・運動習慣を身につける。

< 授業の進め方 >

実技授業と講義授業とで行う

< 履修するにあたって >

スポーツに適した服装とシューズ（必要な場合）で参加すること

< 授業時間外に必要な学修 >

日頃から健康についての進軍や雑誌記事、テレビ番組、インターネットなどで情報を集めておくこと（約20分程度）

< 提出課題など >

必要に応じて指示

< 成績評価方法・基準 >

レポート課題 30%

授業への参加度 50%

実技試験 20%

ただし、種目によっては評価が変わる場合もある

< テキスト >

適宜 資料配布

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

初日はガイダンスです

指定教室に集合してください

授業の進め方 受講における諸注意など

第2回 講義

健康と運動の関係性について

第3回 実技

身体ほぐし ストレッチ

第4回 実技

ストレッチ(ヨガ)

第5回 実技

ストレッチ(ヨガ)

第6回 講義

有酸素運動(エアロビクスエクササイズ)と健康について

第7回 実技

ウォーキング (有酸素運動)

第8回 講義

生活習慣病と運動

第9回 実技

卓球

第10回 実技

卓球

第11回 実技

バドミントン

第12回 実技

バドミントン

第13回 実技

キンボール

第14回 実技

キンボール

第15回 講義

総論

2022年度 前期

2.0単位

健康・体力づくり演習

吉田 美智子

< 授業の方法 >

対面式の実技で行う

必要に応じて講義に時間も設ける

< 授業の目的 >

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

健康・体力づくり演習では、ウォーキングやレクリエーション等のライト・スポーツを中心とした実践を通じてスポーツの楽しさや効果を体感し、健康・体力づくりの方法を学ぶことで運動習慣をつけるための基礎を身につける。1年次前期に配当する事により、学びと実践を通じて自身の健康や体力を改めて見つめ直す機会としたい。

< 到達目標 >

- ・生涯スポーツの意義を説明できる。
- ・健康・体力づくりの方法を説明できる。
- ・運動習慣を身につける。

< 授業の進め方 >

対面授業で行う

< 履修するにあたって >

スポーツに適した服装とシューズ(必要な場合)で参加すること

< 授業時間外に必要な学修 >

日頃から健康についての進軍や雑誌記事、テレビ番組、インターネットなどで情報を集めておくこと(約20分程度)

< 提出課題など >

必要に応じて指示

< 成績評価方法・基準 >

レポート課題 30%

授業への参加度 50%

実技試験 20%

ただし、種目によっては評価が変わる場合もある

< テキスト >

適宜 資料配布

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

指定の教室で対面ガイダンスです

・授業の進め方について説明

・競技に必要な施設、用具等

第2回 講義

健康と運動の関係性について

第3回 実技

身体ほぐし ストレッチ

第4回 実技

遠隔授業 dot Campus 使用

ストレッチ(ヨガ)

第5回 実技

遠隔授業 dot Campus 使用

ストレッチ(ヨガ)

第6回 実技

遠隔授業 dot Campus 使用

有酸素運動(エアロビクスエクササイズ)と健康について

て
第7回 実技
遠隔授業 dot Campus 使用

ウォーキングor ソフトエアロビクス (有酸素運動)
第8回 実技
遠隔授業 dot Campus 使用

生活習慣病と運動

第9回 実技
卓球
第10回 実技
卓球
第11回 実技
バドミントン
第12回 実技
バドミントン
第13回 実技
キンボール
第14回 実技
キンボール
第15回 講義
総論

2022年度 前期

2.0単位

健康・体力づくり演習
坂手 比呂志

<授業の方法>

主に実習形式の展開と講義で実施する。

<授業の目的>

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

健康・体力づくり演習では、ウォーキングやレクリエーション等のライト・スポーツを中心とした実践を通じてスポーツの楽しさや効果を体感し、健康・体力づくりの方法を学ぶことで運動習慣をつけるための基礎知識を身につける。1年次前期に配当する事により、学びと実践を通じて自身の健康や体力を改めて見つめ直す機会としたい。

<到達目標>

- ・生涯スポーツの意義を説明できる。
- ・健康・体力づくりの方法を説明できる。
- ・運動習慣を身につける。

<授業の進め方>

実技と講義で進める。

<履修するにあたって>

毎回、授業開始時に出席をとる。

遅刻は授業の特性上、他の出席者の迷惑になるので厳につつしむこと。

教場では積極的な態度で受講すること。授業中は通信機器および電子機器(スマートフォン、カメラ等)の使用を禁止とする。

出席状況が悪く単位認定できない場合がある。

<授業時間外に必要な学修>

展開される実施種目の特性や競技方法等を理解するために、Webサイトを利用して事前・事後の予習と復習を各々30分程度すること。また各種目で必要な資料は適宜配布する。

<提出課題など>

健康・体力づくりについてのレポート提出を義務づける(詳細は講義中に説明する)。また、講義室でおこなう課題についても出席して提出すること(評価に反映する)。

レポートおよび課題等については、適宜「解答例」を示してコメントする。

<成績評価方法・基準>

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート30%で評価する(競技種目などによって評価基準が異なることもある)。

<テキスト>

適宜プリント(資料)を配布する。

<参考図書>

必要に応じて紹介する。

<授業計画>

第1回 (講義)

- ・授業の進め方について説明する。
- ・生涯スポーツの意義、健康・体力づくりの方法、運動習慣を身につける方法等について学ぶ。

第2回 (講義)

入学してこれからの大学生活に必要な健康・体力づくりについて説明し、前半の実施種目について学んで、実施方法(楽しみ方)を理解する。

第3回 (実技)

レクリエーションとしての仲間づくり方法：アイスブレーキング

第4回 (実技)

レクリエーションとしての仲間づくり方法：アイスブレーキング

第5回 (実技)

ウォーキングの方法 「歩く」と「走る」の比較および歩くスピードと歩幅の関係

第6回 (実技)

ウォーキングの方法 インターバル速歩

第7回 (講義)

健康・体力づくり後半の実施種目について学んで、実施

方法（楽しみ方）を理解する。

第8回（実技）

キンボール

第9回（実技）

フライングディスク（アルティメット）

第10回（実技）

室内ペタンク

第11回（実技）

リングゴルフ

第12回（実技）

健康・体力づくり実施種目で、学んだ内容をグループで発表できるように準備する。

第13回（実技）

健康・体力づくりの方法についてグループで発表

第14回（実技）

健康・体力づくりの方法についてグループで発表

第15回（講義）

・まとめ（ふり返り）

【授業計画について】

実施種目については変更になる場合がある。

2022年度 前期

2.0単位

健康・体力づくり演習

今井 啓介

< 授業の方法 >

対面授業とオンデマンド授業で行ないます。

非登学申請者はオンデマンド授業

< 授業の目的 >

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

健康・体力づくり演習では、ウォーキングやレクリエーション等のライト・スポーツを中心とした実践を通じてスポーツの楽しさや効果を体感し、健康・体力づくりの方法を学ぶことで運動習慣をつけるための基礎を身につける。1年次前期に配当する事により、学びと実践を通じて自身の健康や体力を改めて見つめ直す機会としたい。

< 到達目標 >

- ・生涯スポーツの意義を説明できる。
- ・健康・体力づくりの方法を説明できる。
- ・運動習慣を身につける。

< 授業の進め方 >

実技と講義で進めます。

< 履修するにあたって >

実技、授業内容、方法を変更することもある。

< 授業時間外に必要な学修 >

インターネット等で放映されている授業で行なうスポーツの試合を見て、そのスポーツに興味をもってもらいたい（30分程度）。

< 提出課題など >

適宜指示する。

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度50%、実技試験20%、レポート課題30%で100%で評価する。

非登学の学生についてはレポート課題等100%で評価する。

< 授業計画 >

第1回 講義

授業の目的、注意事項、成績評価方法・基準などについて理解する。

第2回 実技

ウォーキング・ジョギング 運動習慣を身につける。

第3回 講義

スポーツと健康の概念を理解する。

第4回 実技

ウォーキング・ジョギング 運動習慣を身につける。

第5回 実技

アルティメット フリスビーを使用してライトスポーツを楽しむ。

第6回 実技

アルティメット フリスビーを使用してライトスポーツを楽しむ。

第7回 実技

ポートボール 球技を通してコミュニケーション力・協調性を養う。

第8回 実技

ポートボール 球技を通してコミュニケーション力・協調性を養う。

第9回 実技

ポートボール 球技を通してコミュニケーション力・協調性を養う。

第10回 実技

バドミントン 球技を通して生涯スポーツの意義を学び、スポーツを楽しむ。

第11回 実技

バドミントン 球技を通して生涯スポーツの意義を学び、スポーツを楽しむ。

第12回 講義

スポーツ科学の現状を学び理解する。

第13回 実技

ソフトバレー 球技を通して生涯スポーツの意義を学び、スポーツを楽しむ。

第14回 実技

ソフトバレー 球技を通して生涯スポーツの意義を学び、スポーツを楽しむ。

第15回 講義

授業全体のまとめ、総括を行なう。

2022年度 前期

2.0単位

健康・体力づくり演習

今井 啓介

< 授業の方法 >

対面授業とオンデマンド授業で行ないます。

非登学申請者はオンデマンド授業

< 授業の目的 >

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

健康・体力づくり演習では、ウォーキングやレクリエーション等のライト・スポーツを中心とした実践を通じてスポーツの楽しさや効果を体感し、健康・体力づくりの方法を学ぶことで運動習慣をつけるための基礎を身につける。1年次前期に配当する事により、学びと実践を通じて自身の健康や体力を改めて見つめ直す機会としたい。

< 到達目標 >

- ・生涯スポーツの意義を説明できる。
- ・健康・体力づくりの方法を説明できる。
- ・運動習慣を身につける。

< 授業の進め方 >

実技と講義で進めます。

< 履修するにあたって >

実技、授業内容、方法を変更することもある。

< 授業時間外に必要な学修 >

インターネット等で放映されている授業で行なうスポーツの試合を見て、そのスポーツに興味をもってもらいたい(30分程度)。

< 提出課題など >

適宜指示する。

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度50%、実技試験20%、レポート課題30%で100%で評価する。

非登学の学生についてはレポート課題等100%で評価する。

< 授業計画 >

第1回 講義

授業の目的、注意事項、成績評価方法・基準などについて理解する。

第2回 実技

ウォーキング・ジョギング 運動習慣を身につける。

第3回 講義

スポーツと健康の概念を理解する。

第4回 実技

ウォーキング・ジョギング 運動習慣を身につける。

第5回 実技

アルティメット フリスビーを使用してライトスポーツを楽しむ。

第6回 実技

アルティメット フリスビーを使用してライトスポーツを楽しむ。

第7回 実技

ポートボール 球技を通してコミュニケーション力・協調性を養う。

第8回 実技

ポートボール 球技を通してコミュニケーション力・協調性を養う。

第9回 実技

ポートボール 球技を通してコミュニケーション力・協調性を養う。

第10回 実技

バドミントン 球技を通して生涯スポーツの意義を学び、スポーツを楽しむ。

第11回 実技

バドミントン 球技を通して生涯スポーツの意義を学び、スポーツを楽しむ。

第12回 講義

スポーツ科学の現状を学び理解する。

第13回 実技

ソフトバレー 球技を通して生涯スポーツの意義を学び、スポーツを楽しむ。

第14回 実技

ソフトバレー 球技を通して生涯スポーツの意義を学び、スポーツを楽しむ。

第15回 講義

授業全体のまとめ、総括を行なう。

2022年度 前期

2.0単位

健康・体力づくり演習

田路 秀樹

< 授業の方法 >

授業方法：演習（対面授業）

< 授業の目的 >

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。

全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

健康・体力づくり演習では、ウォーキングやレクリエーション等のライト・スポーツを中心とした実践を通じてスポーツの楽しさや効果を体感し、健康・体力づくりの

方法を学ぶことで運動習慣をつけるための基礎を身につける。1年次前期に配当することにより、学びと実践を通じて自身の健康や体力をあらためて見つめ直す機会とすることを目的とする。

<到達目標>

生涯スポーツの意義を説明できる。
健康・体力づくりの方法を説明できる。
運動習慣を身につける。

<授業のキーワード>

からだほぐし、からだづくり、ライトスポーツ、レクリエーションスポーツ

<授業の進め方>

講義と実技で進める。

<履修するにあたって>

資料を事前に読んでおいてください

<授業時間外に必要な学修>

- ・事前にルール等の情報を収集し理解しておく。
- ・学習したことを日常生活の中で実践すること。

<提出課題など>

- ・身体組成、ウォーキング、五感オリエンテーリング、筋力づくりについて測定した結果をまとめる。
- ・提出されたレポートに対しては、教員よりコメントをフィードバックする。

<成績評価方法・基準>

成績基準：健康・体力づくりの方法を理解し、運動習慣の基礎を身につけたものに単位を与える。

到達目標に記載する能力の到達度に応じて成績を与える。

成績評価の方法：授業への参加度50%、実技試験10%、授業中に与えた課題40%を基準とし

て、受講態度含めて総合的に判断する。

<テキスト>

資料を配布する。

<授業計画>

第1回（講義）

ガイダンス、健康づくり1

授業の目的、到達目標、成績評価方法・基準と健康づくり理論

第2回（講義+実技）

健康づくり2

身体組成の理解と測定

第3回（講義+実技）

ライトスポーツ1

ソフトバレーボール

第4回（実技）

ライトスポーツ1

ソフトバレーボール

第5回（講義+実技）

からだほぐし運動1

からだほぐし運動の理論と実践

第6回（講義+実技）

ライトスポーツ2

フライングディスク

第7回（実技）

ライトスポーツ2

フライングディスク

第8回（講義+実技）

からだづくり1

ウォーキングを用いた有酸素運動の理解と実践

第9回（講義+実技）

レクリエーションスポーツ1

ショートテニス

第10回（実技）

レクリエーションスポーツ1

ショートテニス

第11回（講義+実技）

からだづくり2

からだづくりの理解と自重トレーニング

第12回（講義+実技）

レクリエーションスポーツ2

バドミントン

第13回（実技）

レクリエーションスポーツ2

バドミントン

第14回（講義+実技）

からだほぐし運動2

五感オリエンテーリング

第15回（講義+実技）

まとめ

ソフトバレーボール、ショートテニス、バドミントン、授業の振り返り

2022年度 前期

2.0単位

健康・体力づくり演習

上谷 聡子

<授業の方法>

講義・実技

<授業の目的>

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身に付け、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

健康・体力づくり演習では、ウォーキングやレクリエーション等のライトスポーツを中心とした実践を通じてスポーツの楽しさや効果を体感し、健康・体力づくりの方法を学ぶことで運動習慣をつけるための基礎を身に付ける。1年次前期に配当することにより、学びと実践を通

じて自身の健康や体力を改めて見つめなおす機会とした
い。

<到達目標>

生涯スポーツの意義を説明できる。

健康・体力づくりの方法を説明できる。

運動習慣を身に付ける。

<授業のキーワード>

生涯スポーツ、新体力テスト、レクリエーションスポ
ーツ、ウォーキング

<授業の進め方>

講義と実技とで進めます。

授業の進行状況によって、授業計画を変更する場
合があります。

<履修するにあたって>

屋外用、屋内用の運動靴を用意すること。

<授業時間外に必要な学修>

講義や実技後、配布した資料等で内容を整理して
おくこと(60分程度)。

<提出課題など>

講義時に、健康・体力づくりに関するレポートの
提出を課す。また、提出したレポートは、コメン
トを付けて返却する。

<成績評価方法・基準>

授業への参加度(出席や授業態度を総合的に評
価) 50%

実技試験 20%

課題レポート 30%

<テキスト>

適宜資料を配布する。

<参考図書>

必要に応じて紹介する。

<授業計画>

第1回 (講義)

ガイダンス

健康とは

授業の目的、到達目標、成績評価方法・基準
について理解する。

健康の定義について理解する。

第2回 (実技)

新体力テストの実施

体重・体脂肪測定、握力、長座体前屈、上体
起こし、立ち幅跳び

第3回 (実技)

新体力テストの実施

ハンドボール投げ、反復横とび、持久走
(男性1500m、女性1000m)

第4回 (講義)

体力テストの評価

体力を構成する要素について理解する。

体力テストの結果から、運動習慣について
考える。

第5回 (講義・実技)

バドミントン

バドミントンのルールを知る。

バドミントンの基礎的な技術を身に付ける。

第6回 (実技)

バドミントン

簡単なゲームを実施する。

第7回 (実技・講義)

ウォーキングの基礎

ウォーキングの理論を理解し、実践する。

第8回 (実技)

ウォーキングの実践

撮影した自分のウォーキングフォームを
観察する。

正しいウォーキングフォームを身に
付ける。

第9回 (実技)

フライングディスク

フライングディスクの方法について
理解する。

第10回 (実技)

フライングディスク

フライングディスクを使った簡単な
ゲームを実施する。

第11回 (実技・講義)

筋力トレーニング

筋力トレーニングの処方と効果
について理解する。

筋力トレーニングを実践する。

第12回 (実技・講義)

ストレッチング

ストレッチングの理論と効果
について理解する。

ストレッチングを実践する。

第13回 (実技)

ソフトバレーボール

ソフトバレーボールの方法
について理解する。

第14回 (実技)

ソフトバレーボール

簡易なルールでのゲーム
を実施する。

第15回 (講義・実技)

ふりかえり

これまで実施してきた健康
のための運動・スポーツや
レクリエーションスポーツ
を実施する。

2022年度 前期

2.0単位

健康・体力づくり演習

津田 真一郎

<授業の方法>

実習、講義

<授業の目的>

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学
ディプロマポリシーに示す、広い教養を身に
つけ、豊かな人間性や社会性を涵養
することを旨とする。

健康・体力づくり演習では、ウォーキングやレクリエーション等のライト・スポーツを中心とした実践を通じてスポーツの楽しさや効果を体感し、健康・体力づくりの方法を学ぶことで運動習慣をつけるための基礎を身につける。1年次前期に配当する事により、学びと実践を通じて自身の健康や体力を改めて見つめ直す機会としたい。

<到達目標>

- ・生涯スポーツの意義を説明できる。
- ・健康・体力づくりの方法を説明できる。
- ・運動習慣を身につける。

<授業のキーワード>

生涯スポーツ、生活習慣病、運動処方、ウォーキング、最大心拍数法、メンタルヘルス、エネルギー供給システム、ATP、有・無酸素運動、新体力テスト、スタティック・ストレッチング、ダイナミック・ストレッチング

<授業の進め方>

講義と実習により進める

<履修するにあたって>

授業のキーワードについて事前に学習し、説明できるようにしておくこと

<授業時間外に必要な学修>

授業の内容やキーワードについて事前・事後学習を行うこと(各30分)

授業外でもウォーキング等の運動を日常生活に取り入れて運動習慣を身につけるよう心がけること。

<提出課題など>

・ウォーキング運動前後の心拍数とメンタルヘルスの変化

・運動処方の要点とその方法について

各課題について、授業中に講評及び解説を加えてフィードバックを行う。

<成績評価方法・基準>

授業への参加度50%、実技テスト20%、レポート課題30%で評価する。

<テキスト>

適宜資料等を配布する。

<参考図書>

健康・スポーツ科学の基礎知識 第3版, スポーツサイエンスフォーラム編, 道和書院, 2019.

<授業計画>

第1回 (講義) ガイダンス

授業目的、到達目標、内容、評価基準等について理解する

第2回 ストレッチング

ジャンケンゲームを交えたアイスブレイキングを行う。ストレッチングの説明と実践

第3回 ウォーキング1

ウォーキングの基本動作の説明と30分間の自己快適ペースのウォーキング運動の実践。運動前後の心拍数を計測し、運動強度と心拍数の関係を理解する。

第4回 (講義+実習) ウォーキング2

30分間の自己快適ペースのウォーキング運動前後に心拍数の計測とメンタルヘルス検査を実施し、その変化を確認する。

第5回 (講義) 運動処方の基本

健康・体力づくりのための運動処方の基本を理解する。

第6回 体力テスト1

上体起こし、20mシャトルラン

第7回 体力テスト2

握力、長座体前屈、反復横跳び、立ち幅跳び

第8回 (講義) 体力テストの自己評価

体力テストの結果を資料を基に点数化し自己評価する

第9回 キンボール1

簡易ルールの説明と基本的な技能、戦術の理解と実践

第10回 キンボール2

得点を付けたリーグ戦ゲームの実践

第11回 ソフトバレーボール1

簡易ルールの説明と基本的な技能、戦術の理解と実践

第12回 ソフトバレーボール2

得点を付けたリーグ戦ゲームの実践

第13回 バドミントン1

基本的な技能を理解と実践。できるだけラリーを継続させる練習

第14回 バドミントン2

簡易ルールの試合形式でのゲーム

第15回 (講義) まとめ

生涯スポーツの意義とその方法について確認する

2022年度 前期

2.0単位

健康・体力づくり演習

山下 新樹

<授業の方法>

実習(対面授業および遠隔授業併用)

<授業の目的>

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

健康・体力づくり演習では、ウォーキングやレクリエーション等のライト・スポーツを中心とした実践を通じてスポーツの楽しさや効果を体感し、健康・体力づくりの方法を学ぶことで運動習慣をつけるための基礎を身につける。1年次前期に配当する事により、学びと実践を通じて自身の健康や体力を改めて見つめ直す機会としたい。

<到達目標>

- ・生涯スポーツの意義を説明できる。
- ・健康・体力づくりの方法を説明できる。
- ・運動習慣を身につける。

<授業の進め方>

実技と講義で行う

<履修するにあたって>

毎回、授業開始時に出席をとる。

遅刻は授業の特性上、他の出席者の迷惑になるので厳につつしむこと。

教場では積極的な態度で受講すること。授業中は通信機器および電子機器（スマートフォン、カメラ等）の使用を禁止とする。

出席状況が悪く単位認定できない場合がある。

<授業時間外に必要な学修>

展開される実施種目の特性や競技方法を理解するために、Webサイトを利用して事前・事後の予習と復習を各々30分程度すること。また各種目で必要な資料は適宜配布する。

<提出課題など>

必要に応じて指示

<成績評価方法・基準>

授業への参加度（授業出席と、映像視聴、レポート提出等の課題に対する回答）100%で評価する。

<テキスト>

適宜 資料配布

<授業計画>

第1回 講義

授業の進め方、成績評価基準、受講に際しての心構えを説明する

第2回 講義

スポーツと健康の概念

第3回 実技

ウォーキング 有酸素運動の実践

第4回 実技

ウォーキング 有酸素運動の実践 万歩計使用

第5回 講義

生活習慣病と運動

第6回 実技

卓球

第7回 実技

卓球

第8回 実技

バドミントン

第9回 実技

バドミントン

第10回 講義

スポーツ科学の現状

第11回 実技

ソフトバレーボール

第12回 実技

ソフトバレーボール

第13回 実技

キンボール

第14回 実技

フライングディスク（アルティメット）

第15回 講義

授業全体の総括およびまとめ

2022年度 前期

2.0単位

健康・体力づくり演習

木谷 織信

<授業の方法>

「実技」と「講義」と「演習」

<授業の目的>

この科目は、スポーツ科学分野のひとつである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

健康・体力づくり演習では、ウォーキングやレクリエーション等のライト・スポーツを中心とした実践を通じてスポーツの楽しさや効果を体感し、健康・体力づくりの方法を学ぶことで運動習慣をつけるための基礎を身につける。1年次前期に担当する事により、学びと実践を通じて自身の健康や体力を改めて見つめ直す機会としたい。

<到達目標>

・生涯スポーツの意義を説明できる。

・健康・体力づくりの方法を説明できる。

・運動習慣を身につける。

<授業の進め方>

講義と実技で進めます。

<履修するにあたって>

毎回、授業開始時に出席をとる。

遅刻は授業の特性上、他の出席者に迷惑がかかるので慎むこと。

単元においての準備・後片付け等を積極的に行うこと。

出席状況によっては、単位を認定できない場合がある。

この科目は、屋内や屋外で授業を行うためスポーツウェアと体育館シューズやアウトドアシューズを着用して参加すること。

教場では、積極的な態度で受講すること。授業中は通信機器および電子機器（スマートフォン・カメラ）等の使用を禁止とする。

<授業時間外に必要な学修>

展開される実施種目の競技特性や競技補法等を理解するために、WEBサイトを利用して事前・事後の予習と復習を各30分程度すること。

< 提出課題など >

適宜に連絡します。

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度50%、実技試験20%、レポート30%で評価する。左記の項目は必須。

非登校学生についてはレポート課題等100%で評価する。

< テキスト >

適宜資料を配布する。

< 参考図書 >

(財)健康・体力づくり事業財団(2011)、健康運動実践指導者養成テキスト、南江堂

鈴木一行(2007)、基礎から学ぶ体育・スポーツの科学、大修館書店

< 授業計画 >

第1回 講義

(ガイダンス)

授業の目的、到達目標、授業の進め方、成績評価方法・基準などについて理解する。

第2回 実技(アリーナ)

・身体ほぐし(ストレッチングの説明と実践)とアイスブレーキングを実施する。

*自身の外履きシューズをシューズケースに入れアリーナに置くこと。

第3回 実技:アリーナ

(体力テスト1)

長座体前屈、握力、上体起こし、反復横跳び、立ち幅跳びの種目を実施する。

第4回 実技:アリーナ

(体力テスト2)

体脂肪計を用い身体組成を測定および20mシャトルラン種目を実施する。

第5回 講義

(生活習慣病と健康)

健康の維持・増進、生活習慣病と運動のDVDを視聴し、生活習慣病と健康の関係を理解する。

第6回 講義・実技(ウォーキング1)

ウォーキングの実践で万歩計を使用する。

「歩く」と「ウォーキング」の違いについて理解する。

第7回 実技(ウォーキング2)

ウォーキングの実践で万歩計を使用する。

「ジョギング」について理解する。

第8回 実技(からだづくり)

自宅のできるからだづくりの理解と自体重を用いたレジスタンス運動を考える。

第9回 講義

(体力テストの自己評価)

体力テストの結果に対して、判定基準の資料を基に自己評価する。

・体力テストの結果から、健康・体力づくりのための運動処方の基本を理解する。

第10回 実技:アリーナ

(アルティメット)

フライングディスク(アルティメット)

スローとキャッチの方法について理解しライトスポーツを実施する。

球技を通してコミュニケーション力・協調性を養い、スポーツを楽しむ。

第11回 実技:アリーナ

(ショートテニス)

スポンジボールを使用したライトスポーツを実施する。

球技を通してコミュニケーション力・協調性を養い、スポーツを楽しむ。

第12回 実技:アリーナ

(卓球)

卓球の進め方について理解し、ゲームを実施する。

球技を通してコミュニケーション力・協調性を養い、スポーツを楽しむ。

第13回 実技:アリーナ

(バドミントン)

バドミントンの進め方について理解し、ゲームを実施する。

球技を通してコミュニケーション力・協調性を養い、スポーツを楽しむ。

第14回 実技:アリーナ

(ソフトバレーボール)

簡易ルールでのゲームを実践する。

この球技を通してコミュニケーション力・協調性を養い、スポーツを楽しむ。

第15回 実技:アリーナ

(キンボール)

簡易ルールの説明と得点を付けたゲームを実践する。

この球技を通してコミュニケーション力・協調性を養い、スポーツを楽しむ。

第16回

2022年度 後期

2.0単位

健康づくり・生活支援ワークショップ(ポ)(15:20~16:50)

片田 千尋、石原 あや、岡本 恵

< 授業の方法 >

講義、グループディスカッション、プレゼンテーション

第3・10・13・16回の講義時間は17:00~18:30となります。

< 授業の目的 >

< 子育てと文化 >

本科目はDPに示されている、地域社会や国際社会に至る多様な文化を持つ人々の生き方や価値観を尊重し、医療

・保健・福祉の課題と看護職の役割を考えることを目的として開講される。

履修学生は、子育てをめぐる社会状況・社会システムの変化、地域社会の変化に伴う子ども観や育児観の変遷を追いながら、現代の子育ての問題や課題についての理解を深める。

なお、この科目は看護師としての実務経験を持つ教員が担当し、実際の経験も交えて授業を行う。

<ヒューマンセクシュアリティと看護>

本科目では、DPで求められる「豊かな人間性や社会性を涵養し」、「価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し」、「さまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる」ようになるために、様々な環境や立場、価値観をもつ人におけるセクシュアリティの多様性や課題について理解する。

また、セクシュアルマイノリティへのピアサポートや当事者運動を実践している特別講師から、性の多様性、LGBTのおかれる現状、当事者運動、HIVなどについて講義を受け、セクシュアリティを基本的人権として捉え、その意味や課題、セクシュアルヘルスについて考える。

上記の考えを通して、自己のセクシュアリティについて改めて考え、他者のセクシュアリティを尊重するための態度や支援について考える。

なお、この科目は看護師・助産師として臨床経験をもつ教員と、LGBTのピアサポートや当事者運動を実践している実務経験のある教員が担当し、実際の経験も交えて授業を行う。

<到達目標>

- (1) 子育ての営みに関係する事柄が列記できる。
- (2) 文化について具体的に述べることができる。
- (3) 現代の子育ての特徴が説明できる。
- (4) 現代の子育ての問題、課題、解決のための対策について考えることができる。
- (5) 子育てについて、自分の考えを述べることができる。
- (6) 課題のグループワークに積極的に参加し、自分の意見を述べることができる。
- (7) 各ライフステージにおけるセクシュアリティの意味と課題について議論し、自己の考えを述べるができる。
- (8) 様々な健康レベルにおけるセクシュアリティの意味と課題について議論し、自己の考えを述べるができる。
- (9) ピアサポート活動や当事者運動を通して、HIVに関する知識を獲得し、セクシュアルヘルスについて考えることができる。
- (10) セクシュアルマイノリティの当事者運動や社会の動向を通し、LGBTQに関する知識を獲得し、課題を考えることができる。

(11) 様々なライフステージや健康レベルにある人のセクシュアリティに関する支援について議論し、自己の考えを述べるができる。

(12) 各テーマについてのグループワークに参加し、他者の意見を聞くことで、自己の考えとの違いを理解し、より深く思考することができる。

<授業のキーワード>

子育て、しつけ、母性、文化的慣習、性の多様性、LGBT、ライフステージ、障害、セクシュアリティ

<授業の進め方>

この講義は、<子育てと文化>と<ヒューマンセクシュアリティと看護>の2つから成る。

<子育てと文化>

本授業は、事前学習、グループワークの発表、発表に対する質疑応答、講評で構成される。グループワークは、各テーマについて担当グループ(1回につき2グループ)を決め、各回の授業でグループワークの成果をパワーポイントで発表してもらい、それに対する質疑応答、講評・解説という形式ですすめていく。

<ヒューマンセクシュアリティと看護>

本授業は、事前学習、グループディスカッション、ディスカッションの成果の発表、振り返りで構成される。当該授業の1週間前に提示するグループワークの議題に沿って、事前学習を行う。事前学習の内容をもとにグループディスカッションを行い、成果発表、質疑応答、講評・解説という形式ですすめていく。

<履修するにあたって>

本授業はグループワークと学生の発表によって進行するため、事前学習なしでは参加できません。事前学習を行い、積極的に授業およびグループワークに参加してください。

また、日頃から新聞、テレビニュース、雑誌等で子育て、育児、虐待、暴力、人権、セクシュアルマイノリティ、セクシュアリティ、障害等に関連するトピックスに関心を払うように心がけてください。

<授業時間外に必要な学修>

<事前学習(子育てと文化)>

グループワークのテーマおよび担当については、第1回の授業で提示する。担当の回までに、事前にグループワークを行い、発表用のパワーポイントを作成する【4時間】

発表にあたっていない回は、各自テーマに関する基礎的な知識について予習を行い授業に参加する【1時間】

<事後学習(子育てと文化)>

グループワークの中で出た疑問や、もう少し深めたい点について追加学習を行う【1時間】

全授業終了後に、各自が関心を持った現在の子育てに関する問題・課題を1つ取り上げ、まとめのレポートを作成する【4時間】

<事前学習（ヒューマンセクシュアリティと看護）>
講義内容やディスカッションのテーマを該当授業の1週間前に提示する。そのテーマについて事前学習を行い、自分の考えをまとめてレポートを作成すること【3.5時間】

その事前学習をもとに、グループディスカッションを行う。事前学習レポートは、該当授業の終了時に提出すること。

<事後学習（ヒューマンセクシュアリティと看護）>
各授業の終了後、授業をもとに各テーマについての自己の考えを再考すること【0.5時間】

また、全授業の終了後は、自己の考えるセクシュアリティについて、授業内でのグループディスカッションの内容から各自でテーマを抽出し、最終レポートを作成すること【4時間】

<提出課題など>

事前学習レポート、グループワーク時間に関する授業内レポート、講義の感想、最終レポート

課題のフィードバックの方法は、グループワークについては各授業内で、講義の感想やレポートについては最終授業のまとめでフィードバックを行い、より深い思考につなげる。

<成績評価方法・基準>

<子育てと文化>

- ・映画鑑賞後のレポート 20%
- ・グループワークの課題（グループ単位で評価） 20%
- ・授業カード 30%
- ・最終レポート 20%
- ・グループワークの参加状況（自己評価、ピア評価）10%
- ・試験、再試験はしない。

<ヒューマンセクシュアリティと看護>

- ・事前学習レポート、 25%
- ・特別講義後のレポート 20%
- ・最終レポート 30%
- ・グループワークの課題、参加状況 25%
- ・試験、再試験はしない。

<テキスト>

適宜、資料を配布する

<参考図書>

授業内で紹介する

<授業計画>

第1回

9/20(火)15:20~16:50 子育てと文化
ガイダンス

授業の進め方、グループワークの進め方（石原）

第2回

9/27(火)15:20~16:50 子育ての実際

映画「ママをやめてもいいですか」鑑賞（石原）

第3回

9/27(火)17:00~18:30 子育ての実際

映画「ママをやめてもいいですか」鑑賞、グループワーク打合せ（石原）

第4回

10/11(火)15:20~16:50 現代の子育て事情

子育てに関する調査からみる現代の子育て事情、身近な地域の子育て支援対策（グループワーク）（石原）

第5回

10/18(火)15:20~16:50 子育てにまつわる文化的慣習

子育てにまつわる通過儀礼と子ども観の変遷（グループワーク）（石原）

第6回

10/25(火)15:20~16:50 母性愛神話・3歳児神話

母性愛神話、3歳児神話（グループワーク）（石原）

第7回

11/1(火)15:20~16:50 海外の子育て

海外の子育て事情（グループワーク）（石原）

第8回

11/8(火)15:20~16:50 子育てについての悩み

しつけ、育児不安（グループワーク）（石原）

第9回

11/29(火)15:20~16:50 ヒューマンセクシュアリティと看護

ガイダンス

セクシュアリティ概論：セクシュアリティの要素、性的指向と性自認について（片田）

第10回

11/29(火)17:00~18:30 セクシュアルマイノリティ
セクシュアルマイノリティの理解と政策動向（ゲストスピーカーによる特別講義）

第11回

12/6(火)15:20~16:50 ジェンダーとセクシュアリティ

ジェンダーに関する事例について（グループワーク）（片田）

第12回

12/13(火)15:20~16:50 ライフステージとセクシュアリティ

セクシュアリティについて悩みを抱える青年期女性の事例について（グループワーク）

第13回

12/13(火)17:00~18:30 セクシュアルヘルス

HIVに関する治療の現状や政策動向、ピアサポート（片田）

第14回

12/20(火)15:20~16:50 障害者とセクシュアリティ

障害者におけるセクシュアリティ（グループワーク）（片田）

第15回

12/27(火)15:20~16:50 まとめ

セクシュアリティの多様性の理解とセクシュアリティに関する支援
(グループワーク、プレゼンテーション) (片田)

第16回

12/27(火)17:00~18:30 まとめ

セクシュアリティに関する考えの統合 (片田)

2022年度後期

2.0単位

現代社会と人権

岡本 篤尚

＜授業の方法＞

講義 演習

＜授業の目的＞

この授業科目は、全学DPに掲げる「幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる」ようになること、「さまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる」ようになること及び「生涯にわたって学び続けることができる」ようになることを目指すものです。

二つの世界大戦を経験した20世紀は「戦争の世紀」と呼ばれ、9/11テロとそれへの報復戦争で始まった21世紀は「テロと国際内戦の世紀」とも呼ばれています。そして、「戦場」こそ、人間の尊厳と人権が最も過酷な試練にさらされる場にほかなりません。そこで、この授業では、「現代の戦場」における人間の尊厳と人権のあり方について考えていきたいと思っています。

＜到達目標＞

「現代の戦場」における人間の尊厳と人権の問題状況について説明することができる。

＜授業のキーワード＞

戦争 戦場 帰還兵とPTSD 汚い戦争 人間の尊厳 人権

＜授業の進め方＞

1つの主題(テーマ)について2~3回の授業で取り上げていきます。1回目の授業で主題に関連する映像資料を視聴したり、文献資料を読み込んでもらい、資料を視聴したり読んだりした感想を述べてもらい、2回目ないし3回目の授業で主題について担当教員が解説した後、質疑応答や受講生同士の意見交換をしてもらいます。

＜履修するにあたって＞

- ① この授業は履修制限の対象となっていますので、この授業の履修を希望される方は注意してください(詳しくは、教務事務にご確認ください)。
- ② この授業は、教員と受講生、受講生相互の質疑応答や討論によって授業を進めていきますので、各回の授

業までに、受講生自身が各回の授業テーマに関しても十分な予習をしていただくことが強く求められます。

③ この授業では、授業内容(授業で使用するレジュメやパワーポイントの内容や資料映像の内容、板書の内容等を含む)について、スマートフォンやモバイル機器、カメラ等を用いて録画・録音・撮影等を行うことや、インターネット上で閲覧可能状態にすることを厳禁します。これらに違反した場合は、定期試験や課題レポート等の成績の如何にかかわらず、単位を認定しない場合があります。障害等のため授業内容の録画・録音等を行う特段の必要がある場合には、事前に必ず担当教員の許可を得てください。

＜授業時間外に必要な学修＞

各回の主題(テーマ)に関する「事前学習課題」で指定された図書や文献を授業までに読んできておいてください。そのためには、一日平均30分~1時間程度の事前学修(予習)が必要です。

＜提出課題など＞

各回の主題(テーマ)に関連する映像資料等を視聴した感想を書いたリアクション・ペーパー(各テーマごと)と、課題レポート(1回)を提出してください。リアクション・ペーパーは次回の授業の際に取り上げます。課題レポートは、成績評価後、希望する受講生には個別に講評します。

＜成績評価方法・基準＞

成績評価は、課題レポート70%、リアクション・ペーパー、質疑応答、受講生同士の意見交換など授業への積極的な貢献度30%で行います。

課題レポートの成績評価基準は、「現代の戦場」における人間の尊厳と人権の問題状況について説明することができるかどうか、です。

ただし、課題レポートが提出されなかった場合には、いっさい単位を認定しません。また、課題レポートを作成するに当たって、他人の著作(著書・論文)やインターネット上のコンテンツの内容等を無断で引用(=盗作)したことが判明した場合には、無条件で「D評価(不可)」としますのでよく注意してください。

＜テキスト＞

特に指定しません。各回の主題(テーマ)に関する「事前学習課題」で指定された図書や文献を授業までに読んで着ておいてください。

＜参考図書＞

この授業全体に係る参考書として、ジョン・W・ダワー『容赦なき戦争——太平洋戦争における人種差別』(平凡社ライブラリー、2001年)、大木毅『独ソ戦—絶滅戦争の惨劇』(岩波新書、2019年)をあげておきます。「戦場」の過酷さについてよく理解できると思います。

各回の主題(テーマ)に関連する参考文献は、授業開始後、適宜指示します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

この授業で取り扱う主題(テーマ)と、この授業の進め方、注意事項などについて説明します。

第2回・第3回 さあ、戦争をはじめよう！～戦争と情報

ベトナム戦争、アフガニスタン戦争(2001年)、イラク戦争(2003年)などを素材に、戦争がどのようにして始まるのかについて学んでいきます。

第4回・第5回 誰が戦争を煽るのか？～戦争とメディア

ボスニア・ヘルツェゴビナ紛争やウクライナ紛争などを素材に、戦争を煽るメディアの実態について学んでいきます。

第6回・第7回 戦争とジャーナリズム

「戦争」と「報道の自由」の関係について考えていきます。

第8回・第9回 さまよえる英雄(ヒーロー)たち～帰還兵とPTSD

ベトナム戦争、アフガニスタン戦争やイラク戦争などを素材として、帰還兵とPTSDの問題について考えていきます。

第10回・第11回 標的にされる学校・病院

現代の戦争において、学校や病院が、そして、子どもや女性が主な標的とされる実態について学んでいきます。

第12回・第13回 拷問と虐待

捕らえた「敵」に対して過酷な拷問や虐待を行うという問題について学んでいきます。

第14回 「付随的損害」は、付随的か？

「付随的損害」であった(＝誤爆であった、本来の攻撃目標ではなかった)と唱えるだけで、なぜ、無辜の、非武装の市民を殺戮することが許されるのかについて考えていきたいと思えます。

第15回 境界なき戦争

現代の戦争は、「軍事」と「経済活動」、「軍需」と「民需」などの境界が完全になくなる「境界なき戦争」となっています。「境界なき戦争」の時代に、どのようにして人間の尊厳と人権を守っていくのかについて考えていきます。

2022年度前期

2.0単位

現代社会と心理学

竹田 剛

----- <
授業の方法>

講義

< 授業の目的 >

メインテーマ: 現代社会を生き抜く上で有用な「自信」を高める
本講義は全学のDPに示す, ①共通教育等を通じて、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養していること, ②獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立つことができるようになることを目的とする。

2006年に経済産業省が「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の重要性を提唱した。ただし心理学の観点から付言すると、これらの力をより高め、維持していくためには、“自分の能力や価値などを信じること(日本国語大辞典)”である「自信」を高めることが有益であると考えられる。この講義では、3つのテーマに関する学びを通して、「自信」を高めるための基礎的な理論を理解することを目的とする。具体的には①まず心理学とはどういう学問なのかという基礎的な観点を得る。これは特に「自信」に関わる側面について扱う。②次に「自信」とは心理学的にどのように捉えられているのかについて理解する。③最後に「自信」を高め、それを維持していくためにカウンセリング現場で実際に用いられている方法について、簡単なワークへの取り組みを通して理解する。

なお、この科目の担当者は公認心理師であり、約10年の臨床経験を有している。現在も病院の心療内科でカウンセリングを行う、実務経験のある教員です。演習の中では、心の病気のありようやカウンセリングの実際の観点からもコメントを返し、実践的な研究へと方向づけていく。

< 到達目標 >

・「自信」(自尊感情など)とその向上・維持に関する基礎的な理解を得る

・自分について振り返り、自分自身に対する理解を深め

る
・コミュニケーションについて考える

<授業のキーワード>

自尊感情, 自己効力感, 自己肯定感, 臨床心理学, パーソナリティ心理学

<授業の進め方>

基本的には講義形式で行い, 一部セルフワークを行う。また, 理解の確認のために小テストもしくは小レポートを課す。

<授業時間外に必要な学修>

事後学習として授業計画の各回の配布資料をよく読んでおくこと(目安として45分)。課題に取り組む際にはさらに授業のポイントを整理し, 理解を深めておくこと(目安として30分)。

<提出課題など>

毎回の授業の内容に関する小テストへの解答もしくは小レポートの提出を求める。またそれらの代替として大レポートも課す。課題総数のうち2/3以上の提出を単位認定の要件とする。なお小テストの正答およびレポートのフィードバックについては次回以降の講義で行うとともに補足の解説を行う。

<成績評価方法・基準>

課題総数のうち2/3以上の提出を単位認定の要件とする。小テスト・小レポート等100%

<テキスト>

「エッセンシャル心理学」長谷川千洋編 ナカニシヤ出版(第2回~第5回で使用する)

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

はじめに, 授業の進め方, 全体的な諸注意, 成績評価などについて説明する。

第2回 心理学の発想を身につける パーソナリティ心理学

「自信」に関わる基礎的な観点として, パーソナリティ心理学の概要を説明する。

第3回 心理学の発想を身につける 対人心理学

「自信」に関わる基礎的な観点として, 対人心理学の概要を説明する。

第4回 心理学の発想を身につける 集団心理学

「自信」に関わる基礎的な観点として, 集団心理学の概要を説明する。

第5回 心理学の発想を身につける 臨床心理学

「自信」に関わる基礎的な観点として, 臨床心理学の概要を説明する。

第6回 自信とは何かを知る 自尊感情の基礎的理論

「自信」に関する心理学的構成概念の一つである自尊感情を取り上げ, その基礎的な理論について説明する。具体的にはどのようなパーソナリティと捉えられているのか, 身体-心理-社会の3側面にどのような影響を与えるのか等について解説する。

第7回 自信とは何かを知る 自己受容・自己本来感など

「自信」に関する心理学的構成概念である自己受容・自己本来感・自己肯定感などを取り上げ, その基礎的な理論について説明する。併せて自己愛や仮想的有能感なども取り上げ, 「自信」のなかにも心身の健康向上に寄与するものとそうでないものがあることを解説する。

第8回 自信とは何かを知る 自己効力感

「自信」に関する心理学的構成概念の一つである自己効力感を取り上げ, その基礎的な理論について説明する。具体的にはどのようなパーソナリティと捉えられているのか, 身体-心理-社会の3側面にどのような影響を与えるのか等について解説する。

第9回 自信とは何かを知る 自尊感情の発展的理論

「自信」に関する心理学的構成概念の一つである自尊感情について, その発展的理論について説明する。具体的には自尊感情の状態性や変動性, 潜在性について紹介し, 近年様々な角度から自尊感情が捉えられていることについて解説する。

第10回 自信を高める パーソナリティを見直す 自尊感情を向上するための臨床心理学的アプローチの一つとして, パーソナリティを見直すことについて説明する。具体的には, 自尊感情を低めてしまう要因として自己批判や恥, 完全主義などを取り上げ, それらのパーソナリティとどう付き合っていくことができるかについて解説する。

第11回 自信を高める 新たな考え方を身につける 自尊感情を向上するための臨床心理学的アプローチの一つとして, 認知再構成法について説明する。具体的には, 自尊感情を低めてしまう要因として認知の歪みや中核信念などを取り上げ, どのように新しい認知も兼ね備えてゆくことができるかを解説する。

第12回 自信を高める 「今ここで」を大切にす 自尊感情を向上するための臨床心理学的アプローチの一つとして, マインドフルネスについて説明する。具体的には, 「今・ここで」自分が感じていることに注目して受け留めることの意義について説明し, どのようにそれを実践してゆくかについて解説する。

第13回 自信を高める 譲れない何かを見つける 自尊感情を向上するための臨床心理学的アプローチの一つとして, 価値の明確化について説明する。具体的には, 人生において自分が抱く様々な「価値」を明確にすることの意義について説明し, どのようにそれに気づいて大切にすかについて解説する。

第14回 自信を高める 一歩踏み出す 自尊感情を向上するための臨床心理学的アプローチとして, コミットメントおよびアサーションについて説明する。具体的には, 成功体験を積み上げるために行動すること・他者と交渉することの意義について説明し, それらを行う上での留意点について解説する。

第15回 自信を保つ

これまでの講義の振り返りを行うとともに、認知・行動面において変容した自己をどのように維持するかについて解説する。

2022年度 前期

2.0単位

現代社会と心理学

定政 由里子

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

本科目は、心理学部のDPが示す、2. 社会人として幅広い教養を身につけている、4. 社会の中で身の回りにある事象を観察し、問題の有無を適切に判断し、それを解決することができる、ことを目的としています。

現代社会においては、人は様々なストレスに曝され、心の健康を維持することがますます重要な課題になってきています。日常生活において関わりを持つ可能性のあるメンタルヘルス上の問題を知り、どのように対応するのかを身につけることが大切です。具体的には、うつ病、統合失調症、気分障害、発達障害、認知症などに関して学びます。

また心の健康のためには、自分自身について知ること、人との関わり方を知ることでも大切になってきます。いくつかの実習を通して、自分の対人関係や自分のストレスのパターンなどを知りましょう。なお、この演習は心理専門職として15年以上の経験があり、現在も実務携わっている教員による授業科目であるため、授業の中で実際の臨床現場における事例などを取り上げることがあります。

< 到達目標 >

・日常生活で出会う可能性のあるメンタルヘルス上の問題について理解する

・自分について振り返り、自分自身に対する理解を深める

< 授業のキーワード >

メンタルヘルス、自己理解、対人関係

< 授業の進め方 >

基本的には講義形式で行います。一部実習を行います。また、理解の確認のために小テストを行い、小テスト終了後に授業の復習も兼ねて答え合わせを行います。他の受講生の迷惑になるため、私語・携帯電話の使用は厳禁とします。何度か注意を受けた場合は、退席を求めることがあります。

< 履修するにあたって >

適宜、映像資料なども交えての講義が中心になります。一部、ご自身で行うことのできるワークも実施します。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回の授業の後に復習をして下さい（およそ1時間）。

レポート作成（およそ1時間）。

< 提出課題など >

毎回の授業の後に、小テストや課題を提出して頂きます。授業の中でワークを行ったときは、それに関するレポートの提出を求めます。

< 成績評価方法・基準 >

毎回の授業後に小テストか課題レポートの提出を求めます。全授業の3分の2以上の小テスト・課題の提出ををした受講生を評価対象とします。

毎回の小テスト・課題の点数の合計を成績とします。小テストは、次回に答え合わせのスライドを提示致します。また授業で行ったワークについては、感想や自分の考えたことなどをまとめた課題レポートを提出してもらいます。

成績評価は、小テストを70%、課題レポートを30%として評価します。

< テキスト >

特に指定しません。

< 参考図書 >

特に指定しません。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

はじめに、授業の進め方、全体的な諸注意、成績評価などについて説明します。

第2回 メンタルヘルスとは何か

メンタルヘルスとは何かについて解説を行います。

第3回 うつ病とメンタルヘルス

うつ病の概要とその予防・対処について説明を行います。

第4回 うつ病とメンタルヘルス

うつ病の概要とその予防・対処について説明を行います。

第5回 統合失調症とメンタルヘルス

統合失調症の概要と支援について説明を行います。

第6回 統合失調症とメンタルヘルス

統合失調症の概要と支援について説明を行います。

第7回 自分を知るワーク

自分自身を振り返り、自分の対人関係について考えるワークを行います。

第8回 気分障害とメンタルヘルス

不安などの気分障害に関連した精神疾患の概要とその予防・対処について説明を行います。

第9回 気分障害とメンタルヘルス

不安などの気分障害に関連した精神疾患の概要とその予防・対処について説明を行います。

第10回 摂食障害とメンタルヘルス

摂食障害の概要について説明を行います。

第11回 発達障害とメンタルヘルス

発達障害の概要について説明を行います。

第12回 発達障害とメンタルヘルス

発達障害の概要について説明を行います。

第13回 ストレス・マネジメント

ストレス・マネジメントのワークを行います。

第14回 認知症とメンタルヘルス

認知症の概略について説明を行います。

第15回 認知症とメンタルヘルス

認知症の概略について説明を行います。

2022年度 前期

2.0単位

現代社会と心理学

田端 拓哉

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、全学ディプロマ・ポリシーに示す、「広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養している」ことを目指す。

人間は社会的動物といわれるように、他者との交わりの中で生き、生かされている。そのために人は様々な人間関係や自分と社会の関わり、文化的現象に常に関心を寄せ、それらに影響を受けている。そこで、本講では社会心理学の知見を基に、人が人や社会といかに結びつき、その相互作用の中で起こる文化の再生産と変容にどのように関わっているのかを考察する。人間が一般的にもつ社会心理的特徴を教養として身につけることで、差別的、偏見的ではない人間観に裏付けられた社会性を涵養する。

< 到達目標 >

- 1)社会心理学の基本的な考え方を説明できる。
- 2)現代社会で広く見られる人の行動や、人々の関係について社会心理学的な見方ができる。
- 3)他者の心理について慎重な、決めつけない見方ができる。

< 授業のキーワード >

自己とアイデンティティ、印象、対人関係、コミュニケーション、対人行動、文化

< 授業の進め方 >

オンライン授業。授業スライドを視聴した後で、課題としてトピックの要点についての問題に回答してもらいます。質疑は原則として授業時間とその前後15分に行います（変更がある場合は都度通知します）。

< 履修するにあたって >

高校までの教科で言えば、理科（生物）や社会に近い内容であり、勉強方法はそれに近いと考えられる。受講前に心理学について知っている必要はないが、言葉の意味が分からないときは誰かに質問したり辞書等で調べたりすることを厭わないことが求められる。講義の一回一回の内容はそれぞれに独立とは限らず、関連し合っている点もあるため、一度内容を聞き逃すとその後の理解も難

しくなる可能性がある。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、インターネットや書籍で読むことができる雑学のような記事にある、自己分析や人間関係の理解といった種類の話を読んでみる。ただし、その雑学を正確な知識として覚えるのではなく、授業の中で知ったことと照らし合わせて、雑学と異なる点や同じ点を知ることが重要。（目安として1時間）

事後学習として、授業で紹介された社会心理学の知識が、自分の身の回りでもあてはまることを確認できるか考えてみる。また、自分の身の回りの人々について、その印象やその人々と自分の関係、人々同士の関係が自分が思ってきたとおりのものであるか、社会心理学の知識をふまえて考え直してみる。（目安として1時間）

< 提出課題など >

トピックの区切りごとに、そのトピックが理解できているかを問う問題を解いてもらう。

< 成績評価方法・基準 >

課題の提出15%、定期試験85%。

全授業回数の3分の2の出席をもって、単位の認定・評価の対象者とする。

< テキスト >

使用しない。スライドによって資料を提示する。

< 参考図書 >

サトウタツヤ・若林宏輔・木戸彩恵(編著) (2012)

「社会と向き合う心理学」 新曜社

M. R. バナージ・A. G. グリーンワルド(著) 北村英哉・小林知博(訳) (2015) 「心の中のブラインド・スポット：善良な人々に潜む非意識のバイアス」 北大路書房

新谷優 (2017) 「自尊心からの解放：幸福をかなえる心理学」 誠信書房

< 授業計画 >

第1回 社会心理学の考え方

授業の到達目標、進め方、成績評価等の説明を行う。そして心理学史や社会心理学の基本的な考え方について紹介する。

第2回 社会心理学から心の文化差へ

社会心理学の基礎知識について説明する。また、文化差について考慮する必要について説明する。

第3回 文化心理学

心理学における文化のとらえ方について研究例を挙げて紹介する。

第4回 法と心理学

心理学から見た司法制度の特徴について説明する。

第5回 冤罪を防ぐ心理学

冤罪を防ぐために必要と考えられることについて、心理学の研究を紹介する。

第6回 正義と公正

公正さについて心理学の考え方を紹介する。

第7回 QOLと対人援助職の問題

健康についての問題として、QOLと対人援助職それぞれの問題について心理学の考え方を紹介する。

第8回 現代社会と血液型性格判断

血液型性格判断の問題など、迷信を信じる理由と問題について心理学の考え方を紹介する。

第9回 現代社会と差別

差別の実態についてとらえること、そして差別をなくすことの困難さと心理学研究の取組みについて紹介する。

第10回 現代社会とうつ病の治め方

主にうつ病の診断基準の問題について紹介する。

第11回 現代社会と青年期

青年期、いわば「大人」となる時期について、心理学の考え方と問題を紹介する。

第12回 現代社会と自尊心(1)

「自尊心」について心理学の基本的な考え方を紹介する。

第13回 現代社会と自尊心(2)

「自尊心」を高める必要性について、心理学の考え方を説明する。

第14回 現代社会とゲーミング

ゲーミングを利用した教育について、心理学の考え方を紹介する。

第15回 現代社会と心理学

これまでの授業内容をふりかえり、現代社会における心理学の活用について概説する。

2022年度 後期

2.0単位

現代社会と人類学

三田 牧

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

人は誰も「文化」を身に着けており、その文化の目線からしか世界を理解しません。この授業では、そのような自文化中心主義に気づき、世界を異なる視点から見ることを試みます。

なお、本授業は全学ディプロマ・ポリシーの「共通教育等を通じて、広い教養を身に着け、豊かな人間性や社会性を涵養している」、および「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なる様々な人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる」をめざしています。

< 到達目標 >

自文化（自民族）中心主義について、理解することができる

世界の事象について、様々な見方があることを理解することができる

< 授業のキーワード >

他者、自己、自文化中心主義

< 授業の進め方 >

講義形式ですが、最後の20分?30分は議論したり、自分の考えをアウトプットする時間です。15回のうち約6-7回は、小論文を作成してもらいます（それ以外の回においてはリアクションペーパー）。基本的に毎回出席していないと対応できません。

< 履修するにあたって >

自分の思考を深め、それを言葉にして表すことを求める授業です。主体的な参加を求めます。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業で扱うテーマに関連して、新聞や関連書籍を読み、見聞を広げること（1日約20分、1週間約2時間程度を目安に）。この学修をもとに、期末課題を作成してもらいます。

< 提出課題など >

1) 学期末に課題の提出を求めます。これに関しては、評価基準をあらかじめ提示します。

2) 15回のうち6-7回ほど授業中に小論文を課します。これについては、採点して返却する場合と、授業中に総評する場合があります。

3) 小論文を課さない回も、授業内に考えたことをリアクション・ペーパーなどとして提出してもらいます。これについては、授業内で紹介あるいは総評します。

< 成績評価方法・基準 >

評価方法：授業中に課す小論文およびリアクションペーパー（60点）、期末課題（40点）

評価基準： 課題の理解20%、思考の深さ40%、独自性20%、記述の充実度20%

< テキスト >

指定しません

< 参考図書 >

授業内で適宜紹介します

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

自己と他者へのまなざし

人は「他者」をどのように理解してきたのか。世界のさまざまな事例と自分たちの経験から考えます。とくに、「未開」と「文明」をキーワードに考えます。

第2回 他者との出会い

他者とその世界に出会う経験について人類学のフィールドワークの事例から考えます

第3回 「世界を理解する方法」の差異(1)

世界を理解するあり方は、文化によって異なります。私たちは西洋科学を唯一の真実と考えがちですが、果たしてそれでよいのでしょうか。世界にはさまざまな「科学」があります。エスノ・サイエンス（民族の科学）と呼ばれる知の奥深さを学ぶとともに、それらが投げかける問題について考えます。

第4回 「世界を理解する方法」の差異(2)

世界を理解するあり方は、文化によって異なります。私たちは西洋科学を唯一の真実と考えがちですが、はたしてそれでよいのでしょうか。世界にはさまざまな「科学」があります。エスノ・サイエンス（民族の科学）と呼ばれる知の奥深さを学ぶとともに、それらが投げかける問題について考えます。

第5回 「世界を理解する方法」の差異(3)

世界を理解するあり方は、文化によって異なります。私たちは西洋科学を唯一の真実と考えがちですが、はたしてそれでよいのでしょうか。世界にはさまざまな「科学」があります。エスノ・サイエンス（民族の科学）と呼ばれる知の奥深さを学ぶとともに、それらが投げかける問題について考えます。

第6回 合理と非合理の境界で(1)

私たちは、「文明的」であることの尺度に合理性を用いることがあります。では、「非合理的」とみなされるものは退けられてよいのでしょうか？ここでは呪術や幽霊について考えます。

第7回 合理と非合理の境界で(2)

私たちは、「文明的」であることの尺度に合理性を用いることがあります。では、「非合理的」とみなされるものは退けられてよいのでしょうか？ここでは呪術や幽霊について考えます。

第8回 合理と非合理の境界で(3)

私たちは、「文明的」であることの尺度に合理性を用いることがあります。では、「非合理的」とみなされるものは退けられてよいのでしょうか？ここでは呪術や幽霊について考えます。

第9回 信仰と生き方(1)

信仰は、しばしば合理性とはかけ離れた信念をもたらしますが、それは人間が人間として生きていくうえで大切な要素です。ここでは、信仰が人が生きるあり方にどのように影響しているかを考えます。

第10回 信仰と生き方(2)

信仰は、しばしば合理性とはかけ離れた信念をもたらしますが、それは人間が人間として生きていくうえで大切な要素です。ここでは、信仰が人が生きるあり方にどのように影響しているかを考えます。

第11回 信仰と生き方(3)

信仰は、しばしば合理性とはかけ離れた信念をもたらしますが、それは人間が人間として生きていくうえで大切な要素です。ここでは、信仰が人が生きるあり方にどのように影響しているかを考えます。

第12回 信仰と生き方(4)

信仰は、しばしば合理性とはかけ離れた信念をもたらしますが、それは人間が人間として生きていくうえで大切な要素です。ここでは、信仰が人が生きるあり方にどのように影響しているかを考えます。

第13回 正義とは何か(1)

テロとはなにか。それはなぜ起こるか。パレスチナの事

例から考えます

第14回 正義とは何か(2)

テロとはなにか。それはなぜ起こるか。パレスチナの事例から考えます

第15回 世界に開かれているために

他者を知ることと自分の常識を揺さぶられる経験の重要性について考えます。

2022年度 後期

2.0単位

現代社会と人類学

行木 敬

<授業の方法>

対面形式でおこなう。

<授業の目的>

世界は多様な文化で満ちあふれており、そしてその数だけの多様な日常が私たちの現在と同時進行している。そのような日常へ分け入る道具として文化人類学の様々な理論を学ぶこと、そして人間にとって文化とは何かという大きな問いを手探りしていくことが、本講義の目的である。

これにより、全学のDPに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性・社会性を涵養することを目指す。

<到達目標>

- ・文化を記述・分析するための理論が身につく（知識）
- ・それらを使い、何らかの文化的事象を分析、レポートにまとめることができる。（技能）
- ・新聞等で報道される文化的問題（移民をめぐる文化摩擦や、外国人観光客への文化的対応など）について、論点を把握し、自身の意見を示せるようになる（態度・習慣）

<授業のキーワード>

文化、異文化理解、宗教、神話、ポップカルチャー

<授業の進め方>

本講義では、はるか遠い異文化の事例とごく身近な自文化の事例を往復しながら、その双方をともに解釈できるような枠組みとして、文化人類学の諸理論を解説していく。事例の提示にあたっては、映像資料や自作教材などを用いて、できるかぎり現場の具体的なイメージを伝えていきたい。

<履修するにあたって>

1 / 3以上欠席した者は、レポート提出の有無にかかわらず不合格とする。

<授業時間外に必要な学修>

・その日配布したレジメを元に、1時間半以上の復習をすること。

<提出課題など>

・レジメの空欄（毎回10個程度）に入るキーワードを、講義を受けて書き取り、指定されたフォームに入力して

送信すること。これが出席確認を兼ねている。

・小テストを8回おこなう。問題は上記フォームに付いている。

・期末レポートとして、授業で解説してきた分析概念を一つ使って、何らかの文化的事象についての記述・分析をおこなってもらう。採点のポイントや配点については授業内で明示する。

・レポートに対するコメントや、その他成績評価の材料をまとめた「採点明細」を、一人一人に作成している。2月半ばにOneDriveにアップするので各人ダウンロードしてほしい。

<成績評価方法・基準>

・成績は、毎回のミニテスト40%、期末レポート60%の割合で評価する。

・期末テストの3つの評価ポイント、およびそれぞれの配点は、授業内で明示する。

<テキスト>

・用いない。必要な解説や資料を記載した4～8ページのレジメを毎回配布する。

<授業計画>

第1回 《イントロダクション》

相対主義編 1：異文化理解の難しさ

第1部（第1～8回）では、異文化理解の出発点となる文化相対主義について解説する。

初回では授業の進め方や期末レポートについてのガイダンスの後、ある海外援助の失敗を例に、異文化理解についての授業全体にわたる問題提起をおこなう。

第2回 《不思議の国の昼休み》

相対主義編 2：自文化の相対化と異文化理解

異文化理解の第1ステップとなる「自文化の相対化」について、身近な文化の地域差、世代差、性差などを例にあげながらその必要性を論じる。

第3回 《一神教における「神」とは何か？》

相対主義編 3：信仰をめぐる初期理論

異文化理解の第2ステップとなる「意味のシステムとしての文化」という考え方について、以下5回にわたり、文化人類学における信仰研究の変遷を例にとりながら解説していく。この回では19世紀における信仰の定義（初期理論）を解説する。

第4回 《私は世界で世界は私》

相対主義編 4：初期理論の問題点 1 アジアの宗教をめぐる

仏教やヒンドゥー教などアジアの宗教には初期理論ではうまく取り扱えない点がある。そこを手掛かりに、初期理論がヨーロッパ固有の文化や歴史を暗黙の前提にした理論であったことを解説する。

第5回 《鬼はソト、福はウチ》

相対主義編 5：初期理論の問題点 2 呪術をめぐる中国の道教や日本におけるその展開などを紹介する。こうした除災招福のための技法を手掛かりに、初期理論に

おける呪術と宗教の区別が、当時のヨーロッパの「進歩主義」思想を背景にしていたことを解説する。

第6回 《魔法少女とメラネシア》

相対主義編 6：初期理論の問題点 3 移動する呪力をめぐる

呪術の中でも、特に太平洋の島々から報告された「物や身体を移動する呪力」の観念が、ヨーロッパの学者たちに大きな衝撃を与え、やがて新しい研究手法の萌芽になっていった過程を解説する。

第7回 《お父さんのいない島》

相対主義編 7：フィールドワークと新しい文化観

新しい研究手法である「参与観察型のフィールドワーク」は、人類者たちの間に「いかなる慣習・観念も、現地の文化全体の中では合理的な意味を持つ」という文化観を共有させていく。この過程を、ある母系社会の島の調査を例に解説する。

第8回 《魂を落とした話を理解する》

相対主義編 8：異文化理解の方法

上記の文化観が、さらに理論的に整備されていくことで「意味のシステムとしての文化」という考え方、そして文化人類学における異文化理解の基盤となる「文化相対主義」が確立されていく。この回が第1部のまとめとなる。

第9回 《妖怪たちの社会的機能》

分析理論編 1：機能主義

第2部（第9～15回）では、文化相対主義を基盤とした各種の分析理論を解説していく。第9回では「機能主義」について、妖怪を事例に、また神話や伝説、民話の語りを事例に解説する。

また「分析理論編 2：構造主義」をビデオ講義のかたちで公開する。難易度が高いことから正規の授業には含まなかったが、関心のある学生はぜひ見てほしい。

第10回 《オバケの作り方・神さまの作り方》

分析理論編 3：境界論

分類不可能な境界的な事象に人が禁忌をかける理由、そしてそれが異形の神々や妖怪を、また死者や神々の住む異世界を作り出していく仕組みを「境界論」から解説する。

第11回 《そうだ、カップのせいにしよう。》

分析理論編 4：解釈論 1 解釈を通じた文化の変化

文化というものが、様々な観念・慣習が互い互いを意味づける形で組み合わさったシステムだとしたら、それはどうやって新しい要素を取り込んで変化していくのか。この点について「解釈論」の立場から説明する。

第12回 《日本の寿司とアメリカのSUSHI》

分析理論編 4：解釈論 2 解釈を通じた異文化の受容

解釈論を用いた文化の変化の説明は、ある文化が外来の異文化を受容していく過程の説明にも有効である。植民地時代に生じた変化としての、またポストコロナ状況におけるクレオール文化としての、また経済の領域の

グローバル化に並行する文化の領域のローカライズとしての異文化の受容過程を、解釈論から説明する。

第13回 《病を投げ捨てる方法》

分析理論編5：治癒儀礼の論理1 象徴論

操作できないものを操作するために、人は「象徴」を用いてきた。そこには人間を、世界に従属する存在ではなく、世界を操作できる主体に語り変えるための、各文化固有の論理がある。そのことを私自身のニューギニアの調査事例から解説する。

第14回 《呪医は何を治したのか？》

分析理論編6：治癒儀礼の論理2 癒しとコミュニティ

儀礼で病気が治るはずはない。にもかかわらず治癒儀礼が行われるのはなぜか。

ある悪魔払いの儀礼を事例に、呪医がおこなった儀礼の目的が、病気になってしまった患者を受け入れられるよう、患者と村人の関係を作り直すことにあったことを紹介する。

第15回 《私を世界につなぎ直すための物語》

分析理論編7：治癒儀礼の論理3 物語論

治癒儀礼ではまた、患者の身体にどうしてそのような痛みや苦しみが現れたのか、その理由を患者個人の経験に、またその社会の信仰体系に結び付ける物語が作成される。その物語は、病によって引き起こされた孤独を解消する有効な手段となる。

2022年度 後期

2.0単位

現代の医療と福祉

小坂 享子、尾寄 遠見、西尾 久英

< 授業の方法 >

講義を中心に進める。

< 授業の目的 >

この科目は、全学DP 1,2,3,4 を達成することを目指す。現代社会の医療と福祉を理解するための基礎的知識を習得したうえで、高齢者や障害者の生活を困難にしている現況について明らかにする。さらに、リハビリテーションの視点で医療と福祉を取り巻く問題点と今後の展望を考察する。

この科目の担当者には、実務経験のある教員が複数含まれている。

< 到達目標 >

社会福祉や医療についての基本的な考え方を知り、医療や福祉、さらにはリハビリテーションの諸制度や利用できる社会資源について説明できるようになる。すべての人が生活しやすい環境とはどのようなものかについて自分の意見を言うことができる。医療、在宅、地域におけるリハビリテーションの流れを説明できる。

< 授業のキーワード >

福祉的課題・リハビリテーション・最新小児医学・感染症・精神疾患

< 授業の進め方 >

講義を中心に進めるが、アクティブ・ラーニングも取り入れる。毎回、最後に確認テストを行う。

< 授業時間外に必要な学修 >

各回の講義で実施される内容について、予習と復習を行うこと（各60分程度）。

< 成績評価方法・基準 >

毎回、講義の最後にその内容に関わる小テストを行う。最終的に3人の教員が実施した小テストの成績を総合して評価する。

< 参考図書 >

上好昭孝、田島文博/編著『リハビリテーション概論 医学生・メディカルのための手引書-』永井書店
2014年 3240円（税込）

< 授業計画 >

第1回 社会福祉の概念

(担当：小坂)

社会福祉の概念と、その拡大について理解する。

第2回 現代社会と貧困

(担当：小坂)

現代社会における貧困問題の諸相について理解する。

第3回 障害と社会

(担当：小坂)

障害と社会の関わりについて歴史的変遷を踏まえたうえで、現在の福祉的課題を理解する。

第4回 現代社会と福祉的課題

(担当：小坂)

高齢者と子どもを取り巻く福祉的課題を理解する。

第5回 現代社会と福祉的課題

(担当：小坂)

地域社会の変化に伴う福祉的課題を理解する。

第6回 医療保障制度

(担当：小坂)

医療保障制度のありようによって、国民の健康の状態がどのように左右されるかについて理解する。

第7回 医療供給体制

(担当：小坂)

医療供給体制について、日本における医療法上の規定、さらにその現状を理解する。

第8回 健康を守る専門職

(担当：小坂)

医師、看護師をはじめとする医療専門職者の準拠する法律をみながら、それらの身分、権利義務について理解する。

第9回 小児の発達 1

(担当：西尾)

小児の成長、運動発達、精神発達に関する基本的な考え

方について理解し、概説できるようにする。

第10回 小児の発達 2

(担当：西尾)

小児の食事行動の発達、排泄行動の発達、社会性の発達に関する基本的な考え方について理解し、概説できるようにする。

第11回 感染症

(担当：西尾)

現在も続く感染症の脅威を理解し、宿主の免疫機能を補強するワクチン療法の基本的な考え方を理解し、概説できるようにする。

第12回 医療安全管理

(担当：尾寄)

医療における安全管理（リスクマネジメント）について、その歴史や医療事故の発生原因及び対策を理解する。

第13回 リハビリテーション概論

(担当：尾寄)

リハビリテーションの理念や、各リハビリテーション職の専門領域について理解する。

第14回 精神疾患

(担当：尾寄)

統合失調症や気分障害等の精神疾患の基礎、並びにその治療・支援を理解する。

第15回 認知症 / 軽度認知障害

(担当：尾寄)

認知症 / 軽度認知障害について、疫学・原因疾患・治療・ケア・地域支援を理解する。

2022年度 後期

2.0単位

現代の医療と福祉

脇田 吉隆、小川 真寛

< 授業の方法 >

講義を中心にしてアクティブラーニングを取り入れた授業を行う。

< 授業の目的 >

この科目は、全学のディプロマポリシー 1 . 2 . 3 . 4 . を達成することを目指し、現代の医療と福祉を理解するために、専門的知識がなくても医療と福祉をどのようにとらえ、どのように対処すればよいかを考える基礎の知識を習得できることを目的とする。また、医療と福祉に関するそれぞれの分野における問題点を発見し、それを解決する方策を導くことができることを目的とする。さらに、この講義で習得した知識や技術を社会に役立てることができ、生涯にわたって学び続けることができること

を目的とする。

< 到達目標 >

障がい者・高齢者等の医療と福祉をリハビリテーションの視点で分析することによって、その問題点と今後の展望について議論できることを到達目標とする。

< 授業のキーワード >

リハビリテーション、障がい者、高齢者、福祉、医療

< 授業の進め方 >

各教員がアクティブラーニングを取り入れた講義を行う。各教員から課題があります。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業の最後に次回のテーマを知らせるので、シラバスの主題と内容の部分を読んで、30分程度の事前学習をして、授業に参加すること。

< 提出課題など >

講義中に提示する課題についてレポートの提出を求められることがある。

授業担当者の授業の最終回でそれまでの授業の振り返りを行い、受講生の学習到達度を確認する。

< 成績評価方法・基準 >

教員の課題レポート（10%）、定期試験（90%）。

< テキスト >

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。

< 参考図書 >

特になし

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション（担当教員 脇田吉隆）

講義概要を説明するのでそれを理解することができる。

第2回 現代社会と医療と福祉に関する法制度（担当教員 脇田吉隆）

在宅医療と法、医療過誤と法について説明するので、それらを理解することができる。

第3回 現代社会と福祉に関する法制度（1）（担当教員 脇田吉隆）

障がいを持つ人々の社会参加と参政権について説明するので、それらを理解することができる。

第4回 現代社会と福祉に関する法制度（2）（担当教員 脇田吉隆）

個人の尊厳と自己決定、貧困問題と法について説明するので、それらを理解することができる。

第5回 現代社会と福祉に関する法制度（3）（担当教員 脇田吉隆）

高齢者、障害者等に関する法について説明するので、それらを理解することができる。

第6回 現代社会と社会リハビリテーション（1）（担当教員 脇田吉隆）

社会リハビリテーションの視点からの医療の法制度を説明するので、それを理解することができる。

第7回 現代社会と社会リハビリテーション（2）（

担当教員 脇田吉隆)

社会リハビリテーションの視点からの福祉の法制度を説明するので、それを理解することができる。

第8回 リハビリテーションと作業療法 (担当教員 小川 真寛)

リハビリテーションや作業療法の歴史、医療や社会での位置付けを理解することができる。

第9回 医療・福祉における人の身体機能・認知・心理能力や見方 (担当教員 小川 真寛)

リハビリテーション分野で行われる身体や認知や心理に関わる機能の概要、加齢や疾病による影響、そしてそれらの簡単な測り方を学ぶことで、専門家の視点と実践を概観できる。

第10回 医療・福祉における人の活動・生活の見方 (担当教員 小川 真寛)

リハビリテーション分野で扱う人の活動・生活について見方、加齢や疾病による影響、そしてそれらの簡単な測り方を学ぶことで、専門家の視点と実践を概観できる。

第11回 医療・福祉の仕組みと脳卒中のリハビリテーション (担当教員 小川 真寛)

脳卒中医療から現代における医療福祉制度とその背景に基づき脳卒中のリハビリテーションを学ぶことで、疾病と制度を理解できる。

第12回 医療の発展とがんのリハビリテーション (担当教員 小川 真寛)

がん医療を取り上げ、医療の発展について知るとともに、その中でのがんのリハビリテーションを学ぶことで、疾病と医療情勢を理解することができる。

第13回 超高齢社会と認知症のリハビリテーション (担当教員 小川 真寛)

超高齢化社会というトピックスを取り上げ、認知症のある人や家族の社会的、医療的支援やリハビリテーションについて学ぶことで、疾病と社会情勢を理解することができる。

第14回 医療の質と安全 (担当教員 小川 真寛)

医療は質の向上と安全性の担保という背反する概念をマネジメントして成り立つ。それらの歴史や取り組みについて学び、物事の質と安全性の概念を理解することができる。

第15回 医療・福祉における経営・経済的視点 (担当教員 小川 真寛)

医療・福祉における経営や運営の一端を知り、経済学的視点がどのように活用されているかについて学ぶことができる。

2022年度 前期

2.0単位

現代の医療と福祉

脇田 吉隆、小川 真寛

< 授業の方法 >

今年度は授業は講義を中心にして行う。

< 授業の目的 >

この科目は、全学のディプロマポリシー 1 . 2 . 3 . 4 . を達成することを目指し、現代の医療と福祉を理解するために、専門的知識がなくても医療と福祉をどのようにとらえ、どのように対処すればよいかを考える基礎と応用の知識を習得できることを目的とする。また、医療と福祉に関するそれぞれの分野における問題点を発見し、それを解決する方策を導くことができることを目的とする。さらに、この講義で習得した知識や技術を社会に役立てることができ、生涯にわたって学び続けることができることを目的とする。

< 到達目標 >

障がい者・高齢者等の医療と福祉をリハビリテーションの視点で分析することによって、その問題点と今後の展望について議論できることを到達目標とする。

< 授業のキーワード >

リハビリテーション、障がい者、高齢者、福祉、医療

< 授業の進め方 >

講義を中心にしてアクティブラーニングを取り入れた授業を行う。各自の教員から課題があります。

< 履修するにあたって >

毎回出席をとる。

出席回数が授業総時数の3分の2に達しないときは、特別の事情がない限り、この科目の単位を与えない。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業の最後に次回のテーマを知らせるので、シラバスの主題と内容の部分を読んで、30分程度の事前学習をして、授業に参加すること。

< 提出課題など >

講義中に提示する課題についてレポートの提出を求められることがある。

授業担当者の授業の最終回でそれまでの授業の振り返りを行い、受講生の学習到達度を確認する。

< 成績評価方法・基準 >

出席カードの記載内容と課題レポート(10%)、定期試験(90%)。

< テキスト >

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。

< 参考図書 >

特になし

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション (担当教員 脇田吉隆)

講義概要を説明するのでそれを理解することができる。

第2回 現代社会と医療と福祉に関する法制度（担当教員 脇田吉隆）

在宅医療と法、医療過誤と法について説明するので、それらを理解することができる。

第3回 現代社会と福祉に関する法制度（1）（担当教員 脇田吉隆）

障がいを持つ人々の社会参加と参政権について説明するので、それらを理解することができる。

第4回 現代社会と福祉に関する法制度（2）（担当教員 脇田吉隆）

個人の尊厳と自己決定、貧困問題と法について説明するので、それらを理解することができる。

第5回 現代社会と福祉に関する法制度（3）（担当教員 脇田吉隆）

高齢者、障がい者等に関する法について説明するので、それらを理解することができる。

第6回 現代社会と社会リハビリテーション（1）（担当教員 脇田吉隆）

社会リハビリテーションの視点からの医療の法制度を説明するので、それを理解することができる。

第7回 現代社会と社会リハビリテーション（2）（担当教員 脇田吉隆）

社会リハビリテーションの視点からの福祉の法制度を説明するので、それを理解することができる。

第8回 リハビリテーションと作業療法（担当教員 小川 真寛）

リハビリテーションや作業療法の歴史、医療や社会での位置付けを理解することができる。

第9回 医療・福祉における人の身体機能・認知・心理能力や見方（担当教員 小川 真寛）

リハビリテーション分野で行われる身体や認知や心理に関わる機能の概要、加齢や疾病による影響、そしてそれらの簡単な測り方を学ぶことで、専門家の視点と実践を概観できる。

第10回 医療・福祉における人の活動・生活の見方（担当教員 小川 真寛）

リハビリテーション分野で扱う人の活動・生活について見方、加齢や疾病による影響、そしてそれらの簡単な測り方を学ぶことで、専門家の視点と実践を概観できる。

第11回 医療・福祉の仕組みと脳卒中のリハビリテーション（担当教員 小川 真寛）

脳卒中医療から現代における医療福祉制度とその背景に基づき脳卒中のリハビリテーションを学ぶことで、疾病と制度を理解できる。

第12回 医療の発展とがんのリハビリテーション（担当教員 小川 真寛）

がん医療を取り上げ、医療の発展について知るとともに、その中でのがんのリハビリテーションを学ぶことで、疾病と医療情勢を理解することができる。

第13回 超高齢社会と認知症のリハビリテーション（担当教員 小川 真寛）

超高齢化社というトピックスを取り上げ、認知症のある人や家族の社会的、医療的支援やリハビリテーションについて学ことで、疾病と社会情勢を理解することができる。

第14回 医療の質と安全（担当教員 小川 真寛）

医療は質の向上と安全性の担保という背反する概念をマネジメントして成り立つ。それらの歴史や取り組みについて学び、物事の質と安全性の概念を理解することができる。

第15回 医療・福祉における経営・経済的視点（担当教員 小川 真寛）

医療・福祉における経営や運営の一端を知り、経済学的視点がどのように活用されているかについて学ぶことができる。

2022年度 前期

2.0単位

現代の医療と福祉

高梨 薫、中前 智通、古田 恒輔

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

この科目は、全学のディプロマポリシー1・2・3・4を達成することを目指し、現代の医療と福祉を理解するために、専門的知識がなくても医療と福祉をどのようにとらえ、どのように対処すればよいかを考える基礎と応用の知識を習得できることを目的とする。また、医療と福祉に関するそれぞれの分野における問題点を発見し、それを解決する方策を導くことができることを目的とする。さらに、この講義で習得した知識や技術を社会に役立てることができること、生涯にわたって学び続けることができることを目的とする。

<到達目標>

障がい者・高齢者等の医療と福祉をリハビリテーションの視点で分析することによって、その問題点と今後の展望について議論できることを到達目標とする。

<授業のキーワード>

リハビリテーション、障がい者、高齢者、福祉、医療

<授業の進め方>

資料配布：dotCampus

(下記ワンドライブを使用することもあります、基本的にdotCampusに保存しています。)

one drive共有ファイルリンク

第1回、5回～第11回

<https://kobegakuin-my.sharepoint.com/:f:/g/persona>

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報などは対象外）の本科目の取り扱いについて 対面授業は休講です。

避難指示、避難警報が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従ってください。

<履修するにあたって>

出席回数が授業総時数の3分の2に達しないときは、特別の事情がない限り、この科目の単位を与えない。

<授業時間外に必要な学修>

授業の最後に次回のテーマを知らせるので、シラバスの主題と内容の部分を読んで、30分程度の事前学習をして、授業に参加すること。

<提出課題など>

授業を通じて課題レポートを提出してもらいます。

<成績評価方法・基準>

課題レポートの提出と

<テキスト>

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。

<参考図書>

特になし。

<授業計画>

第1回 オリエンテーションと講義の概要（担当教員 高梨 薫）

講義概要の説明をする。

授業を受ける際の注意事項、課題や提出物、評価方法を説明する。

第2回 リハビリテーションの概念の理解（1）（担当教員 古田恒輔）

リハビリテーションを考える上での概念について

WHO(世界保健機構)によるICIDH(国際障害分類)と歴史的経緯について理解することができる。

第3回 リハビリテーションの概念の理解（2）（担当教員 古田恒輔）

WHO(世界保健機関)が改訂したICF(国際生活機能分類)の解説と利用について理解することができる。

第4回 生活を支援する方法の一つとしての道具について（古田恒輔）

医療と道具の世界（福祉用具とは）について理解することができる。

第5回 現代社会の医療と福祉に関する法制度（担当教員 高梨 薫）

社会保障制度は国民生活の安定や、国民の健康の確保を目的としたものであり、国や地方公共団体といった公的部門による保健医療、社会福祉が、個人や家庭の地域社

会での生活の安定、健康の確保のために大きな役割を担っていることを知る。

第6回 現代社会の医療と福祉に関する法制度（担当教員 高梨 薫）

社会保障の2本の柱である1)医療保険と医療の提供体制、そして2)年金保険、国民年金と厚生年金（基礎年金、障害年金、遺族年金 第1~3号被保険）日本年金機構について

また、社会保障の費用を賄う税・社会保険料の国民負担費について人口高齢化の影響を理解する。

第7回 現代社会の医療に関する法制度（担当教員 高梨 薫）

医療保険制度（診療報酬制度を除く）の概要 健康保険はじめ4種類

保険者 被保険者 保険給付（現物給付と現金給付）について

第8回 現代社会の福祉に関する法制度（担当教員 高梨 薫）

年金は国民年金と厚生年金の2階建て 1)国民年金と厚生年金（基礎年金、障害年金、遺族年金）について

2)年金の支給年齢について（原則65歳であるが） 全世代型社会保障 医療保険制度も年金保険もサービス（給付）は高齢者に、負担（保険料）は現役世代に偏ることについて

第9回 国民皆保険・皆年金について（担当教員 高梨 薫）

日本では国民誰もが医療を受ける機会や老後の生活の保障を実現させている。

国民全てが公的な医療保険に加入し、病気や怪我をした場合に「誰でも」「どこでも」「いつでも」保険を使って医療を受けることができる。

国民皆保険

老後の生活保障については、自営業者や無業者を含め、国民全てが国民年金制度に加入し、基礎年金の給付を受けるという仕組みになっている。

国民皆年金

第10回 現代の医療と福祉 リハビリテーションとノーマライゼーション（担当教員 高梨 薫）

地域社会における共生の実現に向けた障害者総合支援法、障害者の日常生活および社会生活の総合的な支援を図るノーマライゼーションの理念について

第11回 リハビリテーションとノーマライゼーション 障害者総合支援法と障害者の雇用促進（担当教員 高梨 薫）

障害者総合支援法 と 障害者雇用促進 就労支援 就労継続支援

第12回 精神障がいに関する歴史について（担当教員

中前智通)

日本及び海外において、人々の精神障がい者に対する捉え方や治療、法律がどのように変化を遂げてきたかを理解することができる。

第13回 精神障がいに関するリハビリテーションについて(担当教員 中前智通)

精神障がい者とそのリハビリテーションの概要を理解することができる。

第14回 高齢者の認知症とリハビリテーションについて(担当教員 中前智通)

高齢者が患う認知症とそのリハビリテーションの概要を理解することができる。

第15回 高齢者のうつ病とリハビリテーションについて(担当教員 中前智通)

高齢者が患ううつ病とそのリハビリテーションの概要を理解することができる。

2022年度 後期

2.0単位

現代の経済

大塚 英美

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

本講義では、経済学の理論を扱ったミクロ経済学およびマクロ経済学の基本的な用語と内容を学んでいきます。

ミクロ経済学では、消費者や生産者の経済活動を対象とし、どのような資源配分が実現するかを分析します。講義では、市場の働きについて理解するとともに、独占および市場の失敗や政府の役割についても取り扱います。

マクロ経済学では経済に存在する資源全体としての利用度、その結果としてもたらされる生産されるモノやサービスの大きさに焦点を当てて分析方法について学んでいきます。また、雇用や失業、金融システム、景気変動といったマクロ経済政策に関する内容を取扱います。

講義では、演習問題を解くことによって、基本的なミクロ経済学とマクロ経済学理論の知識を習得することを目指します。

共通教育科目(リベラルアーツ科目群の社会科学分野)の一つであるこの科目を履修することで、全学のDPに掲げる「広い教養を身に着け、豊かな人間性や社会性を涵養」することを目指します。

<到達目標>

マクロ経済学とミクロ経済学の基本的な考え方を理解する。

簡単な数式やグラフを用いて現実経済を説明、分析できる初歩的な能力を身につける。

<授業のキーワード>

ミクロ経済学 マクロ経済学

<授業の進め方>

講義note資料を配布しますので、メモを取りながら学修してください。講義中に練習問題を解きます。

<授業時間外に必要な学修>

講義内容の復習をテキスト、参考文献を使って必ず行ってください。講義中に実施した問題演習の復習も行ってください(1時間程度)。

講義で理解できないことがあれば直接質問をしてください。

<成績評価方法・基準>

レポート課題と期末テストで100%評価します。

課題1(15%)、課題2(15%)、期末テスト(70%)

*上記すべてを提出して評価の対象となります。

<テキスト>

中村保・大内田康則編(2017)『経済学』入門』,ミネルバ書房

<参考図書>

『入門経済学アクセモレイブソンリスト』ダロン・アセモグル,デヴィッド・レイブソン,ジョン・リスト,東洋経済新報社

小川光・家森信善(2016)『ベーシックプラス ミクロ経済学の基礎』,中央経済社

塩路悦郎(2019)『やさしいマクロ経済学』,日本経済新聞出版社

<授業計画>

第1回 経済学の基本的な考え方

ミクロ経済学・マクロ経済学で用いられる経済学の基本的な考え方について理解する。

第2回 消費者行動と需要

需要曲線の性質について理解する。(テキスト第2章)

第3回 消費者行動と需要

消費者余剰の概念について学修する。(テキスト第2章)

第4回 生産者行動と供給

企業の費用と供給曲線について理解する。(テキスト第3章)

第5回 生産者行動と供給

供給曲線と生産者余剰について理解する。(テキスト第3章)

第6回 市場の理論

市場原理のメカニズムを理解する。(テキスト第4章)

第7回 外部性と公共財

市場の失敗について理解する。(第6章)

第8回 中間まとめ

前半の内容についてのまとめを行う。課題1を実施する。

第9回 総所得

国内総生産(GDP)の測定について理解する。(テキス

ト第7章)

第10回 経済成長

経済成長の要因について理解する。(テキスト第12章)

第11回 雇用と失業

失業率の測定と労働市場について理解する。(配布資料)

第12回 貨幣と物価

貨幣、物価、金融に関する基礎的概念を理解する。(テキスト第13章)

第13回 国際経済

外国為替レートについて理解する。(テキスト第11章)

第14回 経済学の可能性

経済学の理論を用いて現実の経済を分析する。(演習)

第15回 総まとめ

後半の内容についてのまとめを行う。課題2を実施する。

2022年度 後期

2.0単位

現代の経済

永岡 成人

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

経済学(ミクロ経済学およびマクロ経済学)の入門的な内容を講義します。この授業では、主にミクロ経済学を取り扱います。共通教育科目(リベラルアーツ科目群・社会科学分野)のひとつであるこの科目を履修することで、全学のディプロマ・ポリシーにおける「広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養する」ことを目指します。

< 到達目標 >

簡単なモデルを用いた経済学的分析を行うことができる。

< 授業のキーワード >

ミクロ経済学

< 授業の進め方 >

講義形式

< 履修するにあたって >

この授業では数学を用います。必要に応じて解説する予定ですが、中学校から高等学校1年生程度までの数学を復習しておくとう理解しやすいと思います。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業の進行に応じて練習問題を出题しますので、講義内容を復習するとともに考えてみてください。また、予習については授業の進行と必要に応じて指示します。予習復習および学期末に出題する課題を合計して、週当たり4時間程度の授業時間外の学習時間を見込んでいます。

< 提出課題など >

課題の提出にはdotCampusを使用します。

< 成績評価方法・基準 >

学期末に出題する課題によって評価します。

< テキスト >

講義資料を配布します。配布はdotCampusで行います。

< 参考図書 >

中谷武・中村保『1からの経済学』碩学舎、2010年。
伊藤元重『入門経済学(第4版)』日本評論社、2015年。
安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣、2013年。

< 授業計画 >

第1回 授業を始めるにあたって

ガイダンスを行うとともに、この授業でどのような内容を取り扱うかを説明します。

第2回 分業の利益

数値例を用いて、2人で2つの仕事を分業する場合に、全体でできる成果を大きくする分業方法を調べてみます。

第3回 比較優位

比較優位の考え方を紹介します。

第4回 社会的分業

比較優位の考え方に基づく社会的分業と交換による利益を紹介します。

第5回 需要曲線

財の価格と買い手の需要量の関係を表す需要曲線を紹介します。

第6回 供給曲線

財の価格と売り手の供給量の関係を表す供給曲線を紹介します。

第7回 市場均衡理論

多数の買い手と売り手が取引に参加する市場で、どのような取引が行われるかを説明する理論として、市場均衡理論を紹介します。

第8回 授業で用いる数学

この授業で用いる数学を紹介します。

第9回 比較静学分析

何らかの要因によって市場の需要・供給の様子が変化したときに、市場均衡がどのように変化するかを調べてみます。

第10回 消費者余剰

取引に参加した買い手とその取引から得た余剰の大きさを測る消費者余剰の考え方を紹介します。

第11回 生産者余剰

取引に参加した売り手とその取引から得た余剰の大きさを測る生産者余剰の考え方を紹介します。

第12回 市場均衡における総余剰

数値例を用いて、様々な価格で様々な取引が行われたときの消費者余剰と生産者余剰を計算してみて、それらを合計した総余剰がどうなっているかを調べてみます。

第13回 市場均衡の効率性

市場均衡では総余剰が最大化されていることを確かめてみます。

第14回 ミクロ経済学の実験研究

ミクロ経済学の実験研究を紹介します。

第15回 まとめ

この授業で取り扱ってきた内容をまとめます。

2022年度 前期

2.0単位

現代の経済

圓生 和之

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

(「現代の経済」を履修していなくても、履修することができます。)

「現代の経済」が経済学の基礎的・一般的な理論を網羅的に学修するのに対して、この「現代の経済」は経済学の応用として、現代社会のさまざまな問題を取り上げて講義する科目です。

本年度のこの講義では、「公務員の人事」を取り上げ、経済学の視点から、公務員の制度と実態を概説します。

公務員志望の学生や公務員に関心のある学生に最適な講義です。また、民間企業志望の学生にも適した講義です。というのは、あらゆる組織の運営に重要な「人事」(新入社員の採用など)に関する最新の情報や研究内容を紹介する講義だからです。

全学のDPに掲げる「広い教養を身に付け、豊かな人間性や社会性を涵養」することを目指します。

この科目は共通教育科目で、リベラルアーツ科目群の社会科学分野に位置づけられています。

なお、この科目の担当教員は、行政に二十数年携わっていた実務経験のある教員ですので、必要に応じて行政の現実を交えて解説したいと思います。

< 到達目標 >

- ・ 経済問題について基礎的・一般的な論点を説明できる(知識)、
- ・ 現代の経済問題について日頃から高い関心を持つことができる(態度・習慣)、
- ・ 経済問題について自分の考えを述べる(技能)、ことを目指します。

< 授業のキーワード >

経済学、組織、人事、公務員、人事の経済学

< 授業の進め方 >

講義を中心に進めますが、学生の積極的な発言も歓迎します。

講義の講義の進め方や成績評価方法について、第1回の講義で説明しますので、

受講する学生は必ず第1回の講義を受講してください。

< 履修するにあたって >

下記の「テキスト(教科書)」を入手してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

必要となる時間は、一律ではないものの、他の科目と同様、平均的には90分程度が目安となります。

< 提出課題など >

定期試験は実施せず、講義時間中に「期末テスト」を実施しますが、下記のテキストの持込ができます。このほか、講義中に「小テスト」を行います。講義資料やノート等を見て解答してもらいます。暗記でなく理解に努めましょう。いずれも講義の中で解説と講評(フィードバック)を行います。

< 成績評価方法・基準 >

講義中の「期末テスト」50%、「小テスト」50%、で評価します。

(このほか、講義中の発言等講義への貢献、受講態度で、加点または減点することがあります。)

< テキスト >

圓生和之(2020)『地方公務員の人事がわかる本』学陽書房

第4週から、このテキストに沿って講義をしますので、それまでに入手しておいてください。

期末テストは、このテキストの持ち込みができます。

< 参考図書 >

神取道宏(2014)『ミクロ経済学の力』日本評論社

マンキュー(2017)『マンキュー マクロ経済学入門篇(第4版)』東洋経済新報社

ラジア(2017)『人事と組織の経済学』日本経済新聞出版社

樋口美雄(2001)『人事経済学』生産性出版

大湾秀雄(2017)『日本の人事を科学する』日本経済新聞出版社

< 授業計画 >

第1回

経済学 入門

ガイダンス、経済学の全体像、現代の経済学

第2回 ミクロ経済学から

経済主体(企業・家計・政府)の行動、政府の行動

第3回 マクロ経済学から

マクロ経済分析、経済政策とアベノミクス

第4回 公務員の人事

第1章 公務員の実像

第5回 公務員の人事

第2章 さまざまな種類の公務員

第6回 公務員の人事

第3章 「人事」のしくみと実際

第8回 公務員の人事

第4章 人事評価

第9回 公務員の人事

第5章 公務員法による決まり

第10回 公務員の人事

第6章 地方公務員の変わりゆく勤務条件

第11回 公務員の人事

第7章 「給与」の大変革

第7回 公務員の人事・特別編

講義内容の理解を深めるため、公務員の採用における近年の情勢を紹介する。

第12回 公務員の人事

第8章 地方公務員の労働基本権

第13回 公務員の人事

終章 地方創生・分権時代の地方公務員

第14回 まとめ

人事の経済学のまとめとして、若者の労働の現状を概説

第15回 期末テスト

期末テストと その解説

2022年度 前期

2.0単位

現代の経済

永岡 成人

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

経済学（ミクロ経済学およびマクロ経済学）の入門的な内容を講義します。この授業では、主にマクロ経済学を取り扱います。共通教育科目（リベラルアーツ科目群・社会科学分野）のひとつであるこの科目を履修することで、全学のディプロマ・ポリシーにおける「広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養する」ことを目指します。

< 到達目標 >

簡単なモデルを用いた経済学的分析を行うことができる。

< 授業のキーワード >

マクロ経済学

< 授業の進め方 >

講義形式

< 履修するにあたって >

この授業では数学を用います。必要に応じて解説する予定ですが、中学校から高等学校1年生程度までの数学を復習しておくとう理解しやすいと思います。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業の進行に応じて練習問題を出题しますので、講義内容を復習するとともに考えてみてください。また、予習

については授業の進行と必要に応じて指示します。予習復習および学期末に出題する課題を合計して、週当たり4時間程度の授業時間外の学習時間を見込んでいます。

< 提出課題など >

課題の提出にはdotCampusを使用します。

< 成績評価方法・基準 >

学期末に出題する課題によって評価します。

< テキスト >

講義資料を配布します。配布はdotCampusで行います。

< 参考図書 >

平口良司・稲葉大『マクロ経済学：入門の一手手前から応用まで』有斐閣、2015年。

福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門（第5版）』

有斐閣、2016年。

中谷巖『入門マクロ経済学（第5版）』日本評論社、2007年。

< 授業計画 >

第1回 授業を始めるにあたって

ガイダンスを行うとともに、この授業でどのような内容を取り扱うかを説明します。

第2回 マクロ経済の測り方

マクロ経済を測る方法として、総生産に関する指標を紹介します。

第3回 マクロ経済の循環図

マクロ経済分析に登場する経済主体を紹介するとともに、それぞれの経済主体が市場を通じてどのように関係しているかを紹介します。

第4回 物価の測り方

物価の動きを測る方法として、物価に関する指標を紹介します。

第5回 需要曲線

財の価格と買い手の需要量の関係を表す需要曲線を紹介します。

第6回 供給曲線

財の価格と売り手の供給量の関係を表す供給曲線を紹介します。

第7回 市場均衡理論

多数の買い手と売り手が取引に参加する市場で、どのような取引が行われるかを説明する理論として、市場均衡理論を紹介します。

第8回 マクロ経済の分析枠組み

マクロ経済の総需要・総供給の均衡分析を紹介します。

第9回 財市場の均衡分析

マクロ経済における財市場の均衡分析を紹介します。

第10回 乗数メカニズム

マクロ経済における財政政策の効果を、財市場の均衡分析に基づいて考えてみます。

第11回 政府支出乗数

政府支出乗数を導出します。

第12回 投資乗数

投資乗数を導出します。

第13回 租税乗数

租税乗数を導出します。

第14回 経済成長

経済成長の理論と成長会計分析を紹介します。

第15回 まとめ

この授業で取り扱ってきた内容をまとめます。

2022年度 後期

2.0単位

現代の経営

大塚 英美

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

【目的】

経営学の基礎的な理論と近年の経営現象を取り上げながら、
プレ社会人として通用する基礎知識が身に付きます。

【ディプロマポリシーとの関連】

共通教育科目（リベラルアーツ科目群の社会科学分野）
の一つであるこの科目を履修することで、全学のDPに掲げる
「広い教養を身に付け、豊かな人間性や社会性を涵養」することを
目指します。

< 到達目標 >

経営学の諸理論を理解し、企業での現象を説明することが
できるようになる。

< 授業のキーワード >

株式会社、SDGs、経営戦略、マーケティング、企業会計

< 授業の進め方 >

講義資料と企業データ検索を用いて授業を進める。必要
に応じて、情報処理教室を利用する。

企業と連携した講義を実施する場合もある。

< 履修するにあたって >

・レポートの提出方法についてはガイダンスで説明しま
す。

< 授業時間外に必要な学修 >

レポート課題、ケース分析のための資料は講義内でお渡
ししますので予習・復習をしてください。レポートの書き
方とケース分析のための論理的な導き方については、
講義内で行いますが、参考書を紹介しますので、自身の
日々の学習で身につけておいてください。（1時間）。

< 成績評価方法・基準 >

レポート課題とケース研究と理解度テストで100%評価し
ます。

課題1（20%）、課題2（20%）、ケース研究（30%）、テ
スト（30%）

* 上記すべてを提出して評価の対象となります。

評価の目安

S評価：課題レポート、ケース研究、本講義内での発言
すべてにおいて優れている。

A評価：課題レポートとケース研究において、すべての
要件を満たしており、本講義での学習を踏まえた上で、
創意工夫が多く施されている。

B評価：課題レポートとケース研究において、すべての
要件を満たしており、本講義で学習した内容を適切に活
用している。

C評価：課題レポートとケース研究において、すべての
要件を満たしており、本講義で学習した内容を部分的に
活用している。

< テキスト >

なし

< 参考図書 >

・「考える経営学」中川功一、佐々木将人、服部泰宏（
2021年）有斐閣

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義の概要と進め方、評価について

第2回 経営学の基本

ビジネスキーワード

第3回 企業と多様な働き方

企業における多様な働き方を実現する人事施策

第4回 社会的企業

SDGs、CSR、CSV

第5回 経営戦略

経営戦略の基礎的な理論と分析枠組み

第6回 経営戦略

ビジネス・ケース研究

第7回 経営戦略

イノベーションの歴史、イノベーターのジレンマ

第8回 マーケティング

マーケティングの基礎的な理論

第9回 マーケティング

マーケティング戦略

第10回 中間まとめ

前半のまとめと課題を実施する

第11回 企業会計

財務諸表を読む

企業のIR情報を閲覧

第12回 企業会計

財務諸表の閲覧、経営分析

第13回 企業研究

企業の採用情報

企業のサステナビリティ・レポートの閲覧と分析

第14回 企業研究

サステナビリティ・レポートの比較、分析、発表

第15回 総まとめ

現代の経営に関する理解度テスト

2022年度 後期

2.0単位

現代の経営

永岡 成人

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

経営の経済分析（ビジネス・エコノミクス）の入門的な内容を講義します。まずは市場を分析するためのミクロ経済学に関する入門的な内容を解説し、ミクロ経済学を用いて経営の問題を取り扱ってみます。共通教育科目（リベラルアーツ科目群・社会科学分野）のひとつであるこの科目を履修することで、全学のディプロマ・ポリシーにおける「広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養する」ことを目指します。

< 到達目標 >

簡単なモデルを用いた経済学的分析を行うことができる。

< 授業のキーワード >

ミクロ経済学、ビジネス・エコノミクス

< 授業の進め方 >

講義形式

< 履修するにあたって >

この授業では数学を用います。必要に応じて解説する予定ですが、中学校から高等学校1年生程度までの数学を復習しておくとう理解しやすいと思います。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業の進行に応じて練習問題を出题しますので、講義内容を復習するとともに考えてみてください。また、予習については授業の進行と必要に応じて指示します。予習復習および学期末に出題する課題を合計して、週当たり4時間程度の授業時間外の学習時間を見込んでいます。

< 提出課題など >

課題の提出にはdotCampusを使用します。

< 成績評価方法・基準 >

学期末に出題する課題によって評価します。

< テキスト >

講義資料を配布します。配布はdotCampusで行います。

< 参考図書 >

神戸伸輔・寶多康弘・濱田弘潤『ミクロ経済学をつかむ』有斐閣、2006年。

神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社、2014年。

丸山雅祥『経営の経済学（第3版）』有斐閣、2017年。

< 授業計画 >

第1回 授業を始めるにあたって

ガイダンスを行うとともに、この授業でどのような内容を取り扱うかを説明します。

第2回 需要曲線

財の価格と買い手の需要量の関係を表す需要曲線を紹介します。

第3回 供給曲線

財の価格と売り手の供給量の関係を表す供給曲線を紹介します。

第4回 市場均衡理論

多数の買い手と売り手が取引に参加する市場で、どのような取引が行われるかを説明する理論として、市場均衡理論を紹介します。

第5回 授業で用いる数学

この授業で用いる数学を紹介します。

第6回 比較静学分析

何らかの要因によって市場の需要・供給の様子が変化したときに、市場均衡がどのように変化するかを調べてみます。

第7回 生産関数

生産関数の考え方を紹介します。

第8回 費用関数

費用関数の考え方を紹介します。

第9回 限界生産力と限界費用

数値例を用いて、費用関数を導出するとともに、その特徴を調べてみます。

第10回 微分概念

今後の分析に必要なとなる数学の解説として、微分の考え方を紹介します。

第11回 微分の計算

今後の分析に必要なとなる数学の解説として、微分の計算方法を紹介します。

第12回 損益分岐点分析

損益分岐点分析の考え方を紹介します。

第13回 限界分析

限界分析の考え方を紹介します。

第14回 最適生産量

限界分析の考え方をを用いて、利益を最大にする生産量を分析してみます。

第15回 まとめ

この授業で取り扱ってきた内容をまとめます。

2022年度 前期

2.0単位

現代の経営

大塚 英美

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

【目的】

経営学の基礎的な理論と近年の経営現象を取り上げながら、プレ社会人として通用するビジネスの基礎知識が身に付きます。

【ディプロマポリシーとの関連】

共通教育科目（リベラルアーツ科目群の社会科学分野）の一つであるこの科目を履修することで、全学のDPに掲げる「広い教養を身に着け、豊かな人間性や社会性を涵養」することを目指します。

<到達目標>

経営学の諸理論を理解し、企業での現象を説明することができるようになる。

<授業の進め方>

各回レジュメを配布する。

<履修するにあたって>

・レポートの提出方法についてはガイダンスで説明します。

<授業時間外に必要な学修>

レポート課題、ケース分析のための資料は講義内でお渡ししますので予習・復習をしてください。レポートの書き方とケース分析のための論理的な導き方については、講義内で行いますが、参考書を紹介しますので、自身の日々の学習で身につけておいてください。（1時間）。

<成績評価方法・基準>

レポート課題とケース研究と理解度テストで100%評価します。

課題1（20%）、課題2（20%）、ケース研究（30%）、テスト（30%）

*上記すべてを提出して評価の対象となります。

評価の目安

S評価：課題レポート、ケース研究、本講義内での発言すべてにおいて優れている。

A評価：課題レポートとケース研究において、すべての要件を満たしており、本講義での学習を踏まえた上で、創意工夫が多く施されている。

B評価：課題レポートとケース研究において、すべての要件を満たしており、本講義で学習した内容を適切に活用している。

C評価：課題レポートとケース研究において、すべての要件を満たしており、本講義で学習した内容を部分的に活用している。

<テキスト>

なし

<参考図書>

・「考える経営学」中川功一、佐々木将人、服部泰宏（

2021年）有斐閣

<授業計画>

第1回 ガイダンス

講義の概要と進め方、評価について

第2回 経営学の基本

ビジネスキーワード

第3回 会社のしくみ

株式会社、官僚制組織、多角化、ホールディングス

第4回 社会的企業

持続可能な開発目標（SDGs）、社会的責任（CSR）、共有価値の創造（CSV）

第5回 ビデオ視聴

企業における人材育成に関するビデオを視聴しレポートを作成する

第6回 経営戦略

業界研究

SWOT分析

第7回 経営戦略

イノベーション

第8回 マーケティング

製品-市場マトリックス、補完財

CRM、オムニチャネル戦略

第9回 ビジネスモデル

ビジネスエコシステム

第10回 中間まとめ

前半のまとめを行い、課題を実施する。

第11回 経営組織

PDCA、リーダーシップ、組織行動論

第12回 企業会計

経営分析

第13回 多様性の管理

・ダイバーシティ・マネジメント、インクルージョン
・企業のサステナビリティ・レポートの閲覧と分析

第14回 経営戦略の発表

1つの企業を選び、その企業のSWOT分析を行い発表する

第15回 総まとめ

現代の経営に関する理解度テスト

2022年度 前期

2.0単位

現代の経営

永岡 成人

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

経営の経済分析（ビジネス・エコノミクス）の入門的な内容を講義します。まずは市場を分析するためのミクロ経済学に関する入門的な内容を解説し、ミクロ経済学を用いて経営の問題を取り扱ってみます。共通教育科目（リベラルアーツ科目群・社会科学分野）のひとつであるこの科目を履修することで、全学のディプロマ・ポリシーにおける「広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養する」ことを目指します。

<到達目標>

簡単なモデルを用いた経済学的分析を行うことができる。

<授業のキーワード>

ミクロ経済学、ビジネス・エコノミクス

<授業の進め方>

講義形式

<授業時間外に必要な学修>

授業の進行に応じて練習問題を出題しますので、講義内容を復習するとともに考えてみてください。また、予習については授業の進行と必要に応じて指示します。予習復習および学期末に出題する課題を合計して、週当たり4時間程度の授業時間外の学習時間を見込んでいます。

<提出課題など>

課題の提出にはdotCampusを使用します。

<成績評価方法・基準>

学期末に出題する課題によって評価します。

<テキスト>

講義資料を配布します。配布はdotCampusで行います。

<参考図書>

神戸伸輔・竇多康弘・濱田弘潤『ミクロ経済学をつかむ』有斐閣、2006年。

丸山雅祥『経営の経済学（第3版）』有斐閣、2017年。

花蘭誠『産業組織とビジネスの経済学』有斐閣、2018年。

<授業計画>

第1回 授業を始めるにあたって

ガイダンスを行うとともに、この授業でどのような内容を取り扱うかを説明します。

第2回 需要曲線

財の価格と買い手の需要量の関係を表す需要曲線を紹介します。

第3回 供給曲線

財の価格と売り手の供給量の関係を表す供給曲線を紹介します。

第4回 市場均衡理論

多数の買い手と売り手が取引に参加する市場で、どのような取引が行われるかを説明する理論として、市場均衡理論を紹介します。

第5回 授業で用いる数学

この授業で用いる数学を紹介します。

第6回 生産関数

生産関数の考え方を紹介します。

第7回 費用関数

費用関数の考え方を紹介します。

第8回 費用関数の導出

生産関数から費用関数を導出してみます。

第9回 独占市場の分析

独占市場を分析するモデルを紹介します。

第10回 消費者余剰

取引に参加した買い手とその取引から得た余剰の大きさを測る消費者余剰の考え方を紹介します。

第11回 独占市場の分析の応用

独占市場の分析を経営の問題に応用してみます。

第12回 ゲーム理論

複数の経済主体の間に戦略的相互依存関係がある状況を分析するために、ゲーム理論の考え方を紹介します。

第13回 寡占市場の分析

寡占市場を分析するモデルを紹介します。

第14回 寡占市場の分析の応用

寡占市場の分析を経営の問題に応用してみます。

第15回 まとめ

この授業で取り扱ってきた内容をまとめます。

2022年度 前期

2.0単位

現代の国際関係

清水 亮

<授業の方法>

講義 演習

<授業の目的>

国際関係の主要な見方、理論、観点について、国際関係のあゆみや重要な事象とともに学ぶ。国際関係の変容に伴う、アクター（行為主体）やパワー（国力）の考え方の変遷を知り、国際関係の仕組みやプロセス、国際関係の課題について理解し、これからの国際関係と日本の関わり方、地球市民としての世界との関わり方について考えることができるようになることを目的とする。

神戸学院大学のDP（ディプロマポリシー）つまり皆さんが卒業時に「何ができるようになるか」との関連では、（知識・技能）では、専門領域の課題を考察するのに必要な知識を身につけられるようになることを目的とします。（思考力・判断力・表現力等の能力）では、身につけた広い教養をもとに、さまざまな問題を発見し、解決のための方策を導くことができること、そしてグループディスカッション、グループプレゼンテーションを通じて、自分の意見を表現するだけでなく、相手の意見を理解し、コミュニケーションの中で、より包括的で優れている解決の方策を考えられるようになること目的とします。（主体性を持って多様な人々と共同して学ぶ態度）では、獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なる人々と議論でき、学びを深め、よりよい地球市民社会を創るのに役立つ態度を育成、修

得できることを目的とします。

<到達目標>

1. 国際関係論がどのように誕生し、国際関係のあゆみと国際関係論がどのように展開してきたか説明できる。
2. 国際関係の見方の枠組みとなっている国際関係のイメージや国際関係論の理論について、例を挙げて説明できる。
3. 国際関係のさまざまな事象の中で、国際関係のアクターと国際関係の制度とプロセスが、どのように相互に作用してきたか、具体的な例を挙げ系統立てて示すことできる。
4. 国際関係のニュースに関心を持ち、日本が国際社会の将来のためにどんな貢献ができるか自分の考えを説明し、ディスカッションができる。

<授業のキーワード>

リアリズム、リベラリズム、安全保障、国際経済関係、地球環境、人権

<授業の進め方>

- ・ 2回から12回までの授業は、講義、ワークシート、シャトルカードの記入の流れで進めます。
 - ・ 13回、14回、15回は、授業で取り上げたテーマについて、グループで興味を持ったテーマを選び、内容を掘り下げ、パワーポイントを作成し、クラス全体の前でプレゼンテーションをします。
- <履修するにあたって>
- ・ テレビ、ラジオ、Webでのいずれかで、1日1回はニュースに触れる習慣を身につけてください。
 - ・ 授業内・外でしっかりサポートしますが、頑張るみなさんを歓迎します。
 - ・ 学びに真剣な人の迷惑になる、遅刻、授業中の私語は、厳禁です。
 - ・ スマホ、タブレット、携帯は、カバンにしまってください。
 - ・ 使用発見の場合は、イエローカードを出します。

<授業時間外に必要な学修>

授業中のワークシート記入に備えて、あらかじめ毎週テキストの該当の章をしっかりと読んでくること。

(60分程度)

授業後、テキストとノートを基に、授業の内容を振り返り、ワークシートの問題に適切に

解答できたか再確認すること。(60分程度)

毎週、予習と復習を積み重ねると、どのテーマで、最後のグループ・プレゼンテーションをするか考える際に役立ちます。

<提出課題など>

シャトルカード(みなさんと私のコミュニケーションカード) 毎回

ワークシート 2回から12回授業中に記入

ワークシートは、記入・提出してもらった翌週の授業で、

どこがポイントだったのかについて説明しますので、参考にしてください。大変よくわかっていて自分の考えも反映している5点、

わかっている4点、どちらかというわかっている3点、どちらかというわかっていない2点、わかっていない1点で採点します

パワーポイントのファイル 14回、15回グループの発表後にメール添付で提出

<成績評価方法・基準>

シャトルカード(1x15=15%)

ワークシート(5x11=55%)

グループプレゼンテーション(30%)

出席、ワークシート、シャトルカードの提出、グループによるプレゼンテーションが単位取得の最低要件です

<テキスト>

山田高敬・大矢根 聡編 『グローバル社会の国際関係論 [新版]』 有斐閣 2011年

<参考図書>

村田晃嗣、君塚直隆、石川 卓、栗栖薫子、秋山信将 『国際政治学をつかむ [新版]』

有斐閣 2015年

中西 寛、岩田 淳、田所昌幸 『国際政治学』 有斐閣 2013年

<授業計画>

第1回 イントロダクション:

国際関係論とは

どんな学問か?

授業の目的と到達目標、授業の進め方、授業でカバーするテーマ、評価基準、

最終回のグループプレゼンテーションについて説明します。

国際関係論とはどんな学問か?

「平和」とは、どんな状態?:日本は「平和»?世界は「平和»?か考えます。

第2回 世界を分析する

四つの見方

国際社会の基本的な性格と世界を分析する四つの見方について学びます。

テキスト 序章 「世界を分析する四つの見方」

第3回 国際関係の見方:

リアリズム

国際関係の見方の中で、主要な見方の1つであるリアリズムについて学びます。

テキスト 第1章 「リアリズム」

第4回 国際関係の見方:

リベラリズム

国際関係の見方の中で、主要な見方の1つであるリベラリズムについて学びます。 テキスト 第2章 「リベラリズム」

第5回 国際社会のすがた：

安全保障

国際関係における安全保障の歴史的展開について学びます。

テキスト 第3章 「安全保障」

第6回 国際社会のすがた：

安全保障

国際関係の安全保障の事例を考えます。 テキスト 第3章 「安全保障」

第7回 国際社会のすがた：

国際経済関係

国際関係における国際経済関係の歴史的展開について学びます。

テキスト 第4章 「国際経済関係」

第8回 国際社会のすがた：

国際経済関係

国際経済関係の事例を考えます。 テキスト 第4章 「国際経済関係」

第9回 国際社会のすがた：

地球環境

国際関係における地球環境の歴史的展開について学びます。

テキスト 第5章 「地球環境」

第10回 国際社会のすがた：

地球環境

人権

国際社会における地球環境の事例を考え、人権の歴史的展開について学びます。

テキスト 第5章 「地球環境」 第6章 「人権」

第11回 国際社会のすがた：

人権

人権の歴史的展開について学び、人権の事例を考えます。

テキスト 第6章 「人権」

第12回 世界の行方と

理論的な見方

世界の行方と四つの見方、国際関係の方向性、国際関係の基本的構造の変化、理論的な見方の運用の観点から、これからの世界のゆくえについて考えます。

テキスト 終章 「世界のゆくえと理論的な見方」

第13回 グループ・

プレゼンテーション・

プリパレーション

授業で取り上げたテーマについて、グループで興味を持ったテーマを選び、内容を掘り下げ、パワーポイントを作成し、プレゼンテーションをしてもらいます。

2022年度 前期

2.0単位

現代の国際関係

清水 亮

< 授業の方法 >

講義 演習

< 授業の目的 >

国際関係の主要な見方、理論、観点について、国際関係のあゆみや重要な事象とともに学ぶ。国際関係の変容に伴う、アクター(行為主体)やパワー(国力)の考え方の変遷を知り、国際関係の仕組みやプロセス、国際関係の課題について理解し、これからの国際関係と日本の関わり方、地球市民としての世界との関わり方について考えることができるようになることを目的とする。

神戸学院大学のDP(ディプロマポリシー)つまり皆さんが卒業時に「何ができるようになるか」との関連では、(知識・技能)では、専門領域の課題を考察するのに必要な知識を身につけられるようになることを目的とします。(思考力・判断力・表現力等の能力)では、身につけた広い教養をもとに、さまざまな問題を発見し、解決のための方策を導くことができること、そしてグループディスカッション、グループプレゼンテーションを通じて、自分の意見を表現するだけでなく、相手の意見を理解し、コミュニケーションの中で、より包括的で優れている解決の方策を考えられるようになることを目的とします。(主体性を持って多様な人々と共同して学ぶ態度)では、獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なる人々と議論でき、学びを深め、よりよい地球市民社会を創るのに役立つ態度を育成、修得できることを目的とします。

< 到達目標 >

1. 国際関係論がどのように誕生し、国際関係のあゆみと国際関係論がどのように展開してきたか説明できる。
2. 国際関係の見方の枠組みとなっている国際関係のイメージや国際関係論の理論について、例を挙げて説明できる。
3. 国際関係のさまざまな事象の中で、国際関係のアクターと国際関係の制度とプロセスが、どのように相互に作用してきたか、具体的な例を挙げ系統立てて示すことできる。
4. 国際関係のニュースに関心を持ち、日本が国際社会の将来のためにどんな貢献ができるか自分の考えを説明し、ディスカッションができる。

< 授業のキーワード >

リアリズム、リベラリズム、安全保障、国際経済関係、地球環境、人権

< 授業の進め方 >

・ 2回から12回までの授業は、講義、ワークシート、シャトルカードの記入の流れで進めます。

・ 13回、14回、15回は、授業で取り上げたテーマについて、グループで興味を持ったテーマを選び、内容を掘り下げ、パワーポイントを作成し、クラス全体の前でプレゼンテーションをします。

<履修するにあたって>

・ テレビ、ラジオ、Webでのいずれかで、1日1回はニュースに触れる習慣を身につけてください。

・ 授業内・外でしっかりサポートしますが、頑張るみなさんを歓迎します。

・ 学びに真剣な人の迷惑になる、遅刻、授業中の私語は、厳禁です。

・ スマホ、タブレット、携帯は、カバンにしまってください。

・ 使用発見の場合は、イエローカードを出します。

<授業時間外に必要な学修>

授業中のワークシート記入に備えて、あらかじめ毎週テキストの該当の章をしっかりと読んでくること。(60分程度)

授業後、テキストとノートを基に、授業の内容を振り返り、ワークシートの問題に適切に解答できたか再確認すること。(60分程度)

毎週、予習と復習を積み重ねると、どのテーマで、最後のグループ・プレゼンテーションをするか考える際に役立ちます。

<提出課題など>

シャトルカード(みなさんと私のコミュニケーションカード) 毎回

ワークシート 2回から12回授業中に記入

ワークシートは、記入・提出してもらった翌週の授業で、どこがポイントだったのかについて説明しますので、参考にしてください。大変よくわかっていて自分の考えも反映している5点、わかっている4点、どちらかというわかっている3点、どちらかというわかっていない2点、わかっていない1点で採点します

パワーポイントのファイル 14回、15回グループの発表後にメール添付で提出

<成績評価方法・基準>

シャトルカード(1x15=15%)

ワークシート(5x11=55%)

グループプレゼンテーション(30%)

出席、ワークシート、シャトルカードの提出、グループによるプレゼンテーションが単位取得の最低要件です

<テキスト>

山田高敬・大矢根 聡編 『グローバル社会の国際関係論 [新版]』 有斐閣 2011年

<参考図書>

村田晃嗣、君塚直隆、石川 卓、栗栖薫子、秋山信将 『国際政治学をつかむ [新版]』

有斐閣 2015年

中西 寛、岩田 淳、田所昌幸 『国際政治学』 有斐閣 2013年

<授業計画>

第1回 イントロダクション：
国際関係論とは
どんな学問か？
授業の目的と到達目標、授業の進め方、授業でカバーするテーマ、評価基準、
最終回のグループプレゼンテーションについて説明します。

国際関係論とはどんな学問か？
「平和」とは、どんな状態？：日本は「平和」？世界は「平和」？か考えます。

第2回 世界を分析する
四つの見方
国際社会の基本的な性格と世界を分析する四つの見方について学びます。
テキスト 序章 「世界を分析する四つの見方」

第3回 国際関係の見方：
リアリズム
国際関係の見方の中で、主要な見方の1つであるリアリズムについて学びます。
テキスト 第1章 「リアリズム」

第4回 国際関係の見方：
リベラリズム
国際関係の見方の中で、主要な見方の1つであるリベラリズムについて学びます。 テキスト 第2章 「リベラリズム」

第5回 国際社会のすがた：
安全保障
国際関係における安全保障の歴史的展開について学びます。
テキスト 第3章 「安全保障」

第6回 国際社会のすがた：
安全保障
国際関係の安全保障の事例を考えます。 テキスト 第3章 「安全保障」

第7回 国際社会のすがた：
国際経済関係
国際関係における国際経済関係の歴史的展開について学びます。
テキスト 第4章 「国際経済関係」

第8回 国際社会のすがた：
国際経済関係
国際経済関係の事例を考えます。 テキスト 第4章 「国際経済関係」

第9回 国際社会のすがた：

地球環境

国際関係における地球環境の歴史的展開について学びます。

テキスト 第5章 「地球環境」

第10回 国際社会のすがた：

地球環境

人権

国際社会における地球環境の事例を考え、人権の歴史的展開について学びます。

テキスト 第5章 「地球環境」 第6章 「人権」

第11回 国際社会のすがた：

人権

人権の歴史的展開について学び、人権の事例を考えます。

テキスト 第6章 「人権」

第12回 世界の行方と

理論的な見方

世界の行方と四つの見方、国際関係の方向性、国際関係の基本的構造の変化、理論的な見方の運用の観点から、これからの世界のゆくえについて考えます。

テキスト 終章 「世界のゆくえと理論的な見方」

第13回 グループ・

プレゼンテーション・

プリパレーション

授業で取り上げたテーマについて、グループで興味を持ったテーマを選び、

内容を掘り下げ、パワーポイントを作成し、プレゼンテーションをしてもらいます。

2022年度 後期

2.0単位

現代の社会（消費者教育）

高梨 薫

< 授業の方法 >

15名の講師によるオムニバス形式の「講義」

< 授業の目的 >

この科目は全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる。」を目指しています。

私たちは、日常、さまざまな物やサービスを購入して生活している。現代では、商品の製造・流通・販売が高度に発達しており、消費生活が便利になった反面、商品の購入や使用に関して消費者が思わぬトラブルに巻き込まれることもある。身近な例を1つ挙げると、インターネットでの販売を利用する場合、自宅にいて物が購入できるという便利さがある一方で、商品を手取ることなく購入することから、送られてきた商品が希望したものと違っていたなどのトラブルが生じることがある。

本講義は、安心して、安全に生活をするために必要な知識や情報を増やし、消費者としての能力を高めることを目標とする。

それにより、さまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができ、獲得した知識や技能を社会に役立てることができる。そのために各回（計15回）の授業のための予習・復習に1時間程度を要します。

< 到達目標 >

- (1) 現代の社会で生じている様々な消費者トラブルの特徴を知る。
- (2) 消費者トラブルの予防法および対処法の基本を知る。
- (3) 消費者市民社会の一員として自らが何を心がけるべきかを知る。

< 授業の進め方 >

この講義は、学外から招いた講師によるリレー講義を中心とする。学外講師（約10名）は、行政、企業、消費生活センターなど、多様な職域において消費者問題に携わっている方々により構成される。なお、下記の「授業計画」は学外講師の都合などにより一部変更されることがある。

< 履修するにあたって >

本講義は、担当者が交代するオムニバス形式をとるので、各講義終了後に、受講者にミニッツペーパーを作成してもらい（オンラインとなった場合はドットキャンパスで提出）、講義の感想・意見などを集約する。

< 授業時間外に必要な学修 >

さまざまな問題を発見し解決する方策を導くため、獲得した知識や技能を役立てる授業を進める上で、60分程度の自己学習時間が必要である。

< 成績評価方法・基準 >

授業毎回のミニッツペーパー（感想・意見）の提出（60%）と、レポート課題2回（40%）により評価する。

< テキスト >

概ね各回、資料を配布します（オンラインとなった場合はドットキャンパスに保存予定）。資料は各自で自分のPC等に保存して授業（録画教材学習）の際、いつでも参照できるようにしておいて下さい。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス 本講義の概要の理解

本講義の概要を説明する。

第2回 消費者行政 消費者行政の理解

国・都道府県・市町村等が行う消費者行政の内容を説明する。

第3回 消費者トラブルの特徴1 消費者トラブルの特徴の理解（契約）

社会経験の少ない若者を狙う消費者トラブルが多様化・複雑化する中、契約について考える機会を設ける。

第4回 消費者契約と法 消費者契約に関する法律の理解

消費者が事業者との間で結んだ契約に関し、消費者の利

益を擁護する法律を説明する。

第5回 消費生活相談の現状 消費生活相談の理解
消費生活相談の実態からみた、消費者の行動を理解する。

第6回 消費者トラブルの特徴1 消費者トラブルの特徴の理解（金融）
消費者が遭遇するトラブルの実態からみた、消費者の行動を説明する。

第7回 特殊詐欺被害を生み出す心理 なぜ騙されるのか？ 特殊詐欺被害を生み出す心理プロセスを考える。悪質商法の心理学的特長を説得的コミュニケーション研究などにもとづき、以下の観点から整理し、消費者とのコミュニケーションについて考えていきます。 1. 恐怖喚起コミュニケーション 2. 時間的切迫 3. メッセージ送信者の信憑性 4. 確証バイアス

第8回 消費者トラブルの特徴2 消費者トラブルの特徴の理解（一般）
消費者が遭遇するトラブルの実態からみだし、消費者の行動を説明する。

第9回 消費者行動と商品選択 消費者行動の理解
消費者として行動し、商品を選択することの意味・背景等を説明する。

第10回 企業の消費者対応 企業の対応の理解
取引の相手方である企業が消費者に対して対応している内容について説明する。

第11回 消費者トラブルの特徴3 消費者トラブルの特徴の理解（ネット）
消費者が遭遇するトラブルの実態から見た、消費者の行動を説明する。

第12回 企業と生活者をつなぐ 企業と生活者をつなぐシステムの理解
取引の当事者である企業が消費者に対して対応している内容について説明する。

第13回 これからの消費者教育 これからの消費者教育の理解
国の消費者教育をめぐる動きを中心に最新の取り組み内容を説明する。

第14回 企業経営と消費社会 企業経営と消費の関係について理解
産業基盤の進化によって、企業と消費の関係はどのように発展しているのかについて考察していく。

第15回 まとめ 本講義の総括
講義全般にわたり概略を振り返り、各自が消費者として考え、行動していくことを確認する。

2022年度 後期

2.0単位

現代の社会

山口 真紀

< 授業の方法 >

対面授業です。

講義と、ディスカッション（意見交換）を行う予定です。感染対策を行った上で進める予定ですが、安全が確保できないと判断した場合には変更します。

< 授業の目的 >

この科目はこれから社会に出て、どのような人生を歩むべきか考えていく必要のある大学生に、現代社会の諸事情を知り、関心を持ち、どのような大学生活を送るべきかという問いに対して答えを出せるようになることを目的としている。

特に本科目では、全ての人の生にかかわりながら、私的領域に位置付けられているために語られることの少ない性的な出来事あるいはセクシュアリティについて中心的にとりあげ、正しい知識と、それらをめぐる偏見や差別について理解することを通して、自身と他者のセクシュアリティが侵害されることのない社会構想を得ることを目的とする。

この科目は神戸学院大学のDPである「幅広い知識を活用して問題を発見し、解決する方策を導くことができる」ことを目指し、「学びを深め、協働して社会に役立てる」ようになることを促す科目である。

< 到達目標 >

- ・セクシュアリティの概念、歴史について正確な知識に基づいて説明することができる
- ・セクシュアリティをめぐる現代の諸問題について理解し、自分の言葉で論じることができる

< 授業のキーワード >

セクシュアリティ、セクシュアル・マイノリティ、同性愛、性暴力、性教育

< 授業の進め方 >

- ・資料の掲示や課題の提出はdotCampasにて行います。
- ・時勢および受講生の関心を優先するため、必ずしもシラバス通りに進むものではありません。

< 履修するにあたって >

- ・共通科目等「ジェンダー論」を修了した者であることが望ましい
- ・身近な性にまつわる問題について扱うが、茶化すことなく真摯に取り組む意欲のあるひとの受講を歓迎します
- ・授業内で取り扱うテーマやディスカッションの方向性が自身に侵入的であると思われた場合は、どのようなタイミングであっても退席を認めます

・ディスカッションと発表への参加を求めます

< 授業時間外に必要な学修 >

- ・講義の予習・復習として指定した課題（文献講読や映像視聴など）については必ず取り組んでください
- ・セクシュアリティと社会のかかわりについて、日頃から知るうとしてください
- ・自身の身の周りの出来事とセクシュアリティとのかかわりについて考え、ニュースや新聞、誰かの書き物に対して批評を試みてください

(事前・事後学習各1時間程度)

<成績評価方法・基準>

ミニレポート・ディスカッション等における主体的参加
:80%

最終課題(レポート):20%

*ミニレポートやディスカッションについては授業内で
フィードバックを行います

<参考図書>

・風間孝・河口和也・守如子・赤枝香奈子 『教養のた
めのセクシュアリティ・スタディーズ』法律文化社 20
18年 2,570円

・橋本紀子・池谷壽夫・田代美江子 『教科書にみる世界
の性教育』かもがわ出版 2018年 2,200円

・牧野雅子 『痴漢とはなにか 被害と冤罪をめぐる社会
学』エトセトラブックス 2019年 2,640円

<授業計画>

第1回 ガイダンス/セクシュアリティの概念

授業の進め方、成績評価について説明する。セクシュア
リティの概念について確認する。

第2回 セクシュアリティをめぐる諸問題

セクシュアリティの概念を学び、身近な問題についての
ディスカッションを行う。

同性婚についての映像を視聴する。

第3回 同性婚

同性婚についてのディスカッションを行う。

レズビアニズムについての映像を視聴する。

第4回 レズビアニズム

レズビアニズムについての歴史を学び、ディスカッショ
ンを行う。

同性愛カップルと家族についての映像を視聴する。

第5回 同性愛と家族

生殖医療をめぐる倫理について補講し、ディスカッショ
ンを行う。

第6回 異性愛規範

異性愛規範について学び、日本社会のそれについて議論
する。

第7回 現代日本における性暴力

性暴力被害を訴えた女性のドキュメンタリーを視聴する。

第8回 現代日本における性暴力

日本の性暴力をめぐる司法システムと社会のあり方につ
いて学び、ディスカッションを行う。

第9回 戦時下における性暴力

戦時下における性暴力についてのドキュメンタリーを視
聴する。

第10回 戦時下における性暴力

日本軍「慰安婦」問題をめぐる歴史と現状を学ぶ。

第11回 性的モノ化

性暴力をめぐる問題のまとめとして、「性的モノ化」に
ついてディスカッションを行う。

第12回 性教育

日本と海外の性教育をめぐるドキュメンタリーを視聴す
る。

第13回 性教育バッシング

日本の性教育バッシングの歴史を学び、ディスカッショ
ンを行う。

第14回 映像視聴

最終課題のための映像を視聴する。

第15回 課題への取り組み

これまでの議論をまとめ、最終課題についてのレポート
を作成する。

2022年度 後期

2.0単位

現代の社会

川内 亜希子

<授業の方法>

対面授業で実施する。

アクティブラーニングを実施するため、積極的な参加を
求める。

<授業の目的>

この科目はこれから社会に出て、どのような人生を歩む
べきか考えていく大学生に、日本を取り巻く現代社会の
諸事情を知り、関心を持ち、どのような大学生活を送る
べきかという問いに対して答えを出せるようになること
を目的としている。

この科目は神戸学院大学のDPである「幅広い知識を活用
して問題を発見し、解決する方策を導くことができる」
ことを目指し、「学びを深め、協働して社会に役立てる」
ようになることを促す科目である。

<到達目標>

この科目では3つの目標達成を目指す。

1. 現代日本を取り巻く現代社会の諸事情についてイン
プットする
2. 自らの関心を学問的に位置づけられる
3. 自らの大学生活の指針を立てる

<授業のキーワード>

国際関係(日米関係、日中関係、日韓関係)、EUおよび
地域統合、AIと仕事、大学生活

<授業の進め方>

授業は講義形式で進める。

理解度をチェックするため、ピアアセスメントないしは
ミニツレポートを課す場合がある。

(受講者数によって変更の可能性有り)

<履修するにあたって>

私語、携帯電話の使用、途中入室および途中退室は認め
ない。

こうした行為を行った場合には以後の出席をお断りし、
テストの採点も行わない。

なお講義で配布するプリントは自身でファイリングする

などの管理を徹底すること。
毎回これまでに配布されたプリントは持参すること。
プリントの再配布は行わない。
< 授業時間外に必要な学修 >
次の授業で扱うテーマについて授業終了時に話すので、次の授業内容に関連して自らが関心を持っている事柄について30秒程度で話せるよう、1時間程度予習しまとめておくこと。
次回授業の最初にコメントとして求める場合がある。
< 提出課題など >
授業終了時にはミニツッパーパーを提出する必要がある。
< 成績評価方法・基準 >
小テスト3回(30%)
期末テスト(70%)
により評価する。
この小テストおよび期末テストにどれか一つでも未受験があった場合には単位を認定しない。
< テキスト >
近田正博『学びのティップス』玉川大学出版部2016年, 1200円
< 授業計画 >
第1回 ガイダンス
授業の進め方、成績評価について説明する。
第2回 ティップス1
大学での学びをイメージする
第3回 ティップス2
大学での学びを体感する。
第4回 ティップス3
大学での学びの指針を考える。
第5回 国際関係1
日米関係
第6回 国際関係2
日中関係
第7回 国際関係3
日韓関係
第8回 まとめ1
第5回～第7回の内容を復習し、小テストを行う。
第9回 国際関係4
EUと地域統合
第10回 国際関係5
冷戦
第11回 まとめ2
第9回～第10回の内容を復習し、小テストを行う。
第12回 日本経済1
バブル経済とテーマパーク論
第13回 日本経済2
外資企業とホスピタリティ
第14回 日本経済3
組織論と人的資源管理
第15回 まとめ3

第12回～第14回の内容を復習し、小テストを行う。

2022年度 後期

2.0単位

現代の社会 (消費者とリスク)

高梨 薫

< 授業の方法 >

「講義」8～10名の講師(予定)によるオムニバス形式です。

対面授業(講義)

今後の感染状況等によっては変更の可能性があります。

< 授業の目的 >

この科目は全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる。」を目指しています。

私たちは、日常、さまざまな物やサービスを購入して生活している。現代では、商品の製造・流通・販売が高度に発達しており、消費生活が便利になった反面、商品の購入や使用に関して消費者が思わぬトラブルに巻き込まれることもある。身近な例を1つ挙げると、インターネットでの販売を利用する場合、自宅にいて物が購入できるという便利さがある一方で、商品を手にとることなく購入することから、送られてきた商品が希望したものや違っていたなどのトラブルが生じることがある。

本講義は、成年年齢引下げ(2022年4月)に向け大学においては自立した若年消費者の育成が文部科学省から指導され、またコロナ禍により「新しい生活様式」への移行も余儀なくされる現代社会において、入学時から養うべき大学生に必要なリスク管理能力を、保険事業の実例も交えることで確かな消費者能力を身に付け、延いてはSDGsの達成にも意識を高めることを目標とする。

それにより、さまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができ、獲得した知識や技能を社会に役立てることができる。そのために各回(計15回)の授業のための予習・復習に1時間程度を要します。

< 到達目標 >

- (1) 現代の社会で生じている様々な消費者トラブルの特徴を知る。
- (2) 消費者トラブルの予防法および対処法の基本を知る。
- (3) 消費者市民社会の一員として自らが何を心がけるべきかを知る。

< 授業の進め方 >

この講義は、学外から招いた講師によるリレー講義を中心とする。学外講師(約8～10名)は、行政、企業、消費生活センターなど、多様な職域において消費者問題に携わっている方々により構成される。なお、下記の「授業計画」は学外講師の都合などにより一部変更されるこ

とがある。

<履修するにあたって>

本講義は、担当者が交代するオムニバス形式をとるので、各講義終了後に、受講者にミニッツペーパー（出席カードに記入）を作成してもらい、講義の感想・意見などを集約する。

<授業時間外に必要な学修>

さまざまな問題を発見し解決する方策を導くため、獲得した知識や技能を役立てる授業を進める上で、60分程度の自己学習時間が必要である。

<成績評価方法・基準>

客員教授によるオムニバス講義であり、毎回小レポートを課します。評価は毎回のレポート評価の総計とします。

<テキスト>

概ね各回、資料を配布します。資料はファイルして授業の際、いつでも振り返りができるようにしておいて下さい。

<授業計画>

第1回 ガイダンス 本講義の概要

本講義の概要を説明する。

第2回 消費者問題とは 消費者問題 背景と歴史

消費者問題の背景と歴史「消費者保護から自立した消費者へ」(消費者教育アドバイザーから)

第3回 消費者の実情 消費行動と相談事例

消費者の消費行動と相談事例の紹介(消費者教育アドバイザー)

第4回 企業経営と消費社会(1) 企業経営と消費の関係について理解

産業基盤の進化によって、企業と消費の関係はどのように発展しているのかについて考察していく。(1)

第5回 企業の消費者対応(ACAP) 企業の消費者対応取引の相手方である企業が消費者に対して対応している内容について説明する。

第6回 消費社会の最新トピック(ネット) 消費者トラブルの特徴の理解(ネット)

ネット社会とどう向き合っていけばいいか、トラブル事例を参考に考えていく。

第7回 消費社会の最新トピック(金融) 消費者トラブルの特徴の理解(金融)

消費者が遭遇するトラブルの実態から見た、消費者の行動を説明する。

第8回 リスクに備える1 リスクに備える保険事業

リスクへの対応方法の一つに、損害の発生を予想して、損害額を補てんする「リスクファイナンス」があり、損害保険がこれに該当します。損害保険の観点から、個人としてどのような備えができるのかについて考えます。

第9回 企業経営と消費社会(2) 企業経営と消費の関

係について理解

企業と消費の関係はどのように発展しているのかについて考察していく。(2)

第10回 リスクに備える2 企業が行うリスクマネジメント

企業が自社を取り巻く様々なリスクを予見し、そのリスクがもたらす損失を予防するための対策や不幸にして損害が発生した場合の事後処理対策等を、効果的・効率的に講じることによって、事業の継続・安定的発展を確保していく企業経営上の手法をリスクマネジメントと言います。リスクマネジメントの重要性や具体的な手法、各社の取り組み状況等について考えます。

第11回 消費社会の最新トピック(消費者教育の推進)

これからの消費者教育

国の消費者教育をめぐる動きを中心に最新の取り組み内容を説明する。

第12回 リスクに備える3 サプライチェーンのリスクマネジメント

消費者の利益を実現するためには、サプライチェーンに関わるすべての企業が協力し合い、サプライチェーン上で生じるリスクを軽減させる取り組み等を行う必要があります。

サプライチェーンにおけるリスクマネジメントの重要性について解説します。

第13回 消費社会の最新トピック(ヒープ協議会) 企業と生活者をつなぐ

消費者の声で改善された事例や、商品開発・改善の流れから、消費者・企業のとるべき行動を考える。

第14回 消費社会の最新トピック(消費者教育アドバイザー) 消費者教育について(展望)

消費社会を生き抜く(ワークショップ)

第15回 まとめ 本講義の総括

講義全般にわたり概略を振り返り、各自が消費者として考え、行動していくことを確認する。

2022年度 後期

2.0単位

現代の障がい者問題

藤原 瑞穂、糟谷 佐紀、南 哲

<授業の方法>

講義を主として行う。

<授業の目的>

本科目は、全学のDPに示される以下4つの指針を目指し、現代の障害者問題について3つの分野(理学・作業・社

会)を通して学ぶことを目的とする。

1. 幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる。
2. さまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる。
3. 生涯にわたって学び続けることができる。
4. 獲得した知識や技能を社会に役立てることができる。

【社会】現代の障害者がおかれている状況を、社会保障、政策、生活環境などについて、歴史的背景も含め、理解することを目的とする。

【理学】現代の障害者にかかる、身体、制度、ケアの実際について様々な側面から理解することを目的とする。

【作業】現代社会における主な疾患や加齢現象について紹介し、その身体機能や精神心理機能の変化について解説する。障害のある人の生活や社会生活における問題や課題について学ぶ。

また、この科目担当者は、医師・作業療法士などとして十数年以上の経験がある専門職経験者が講義を担当する。さらにそれら担当者は現在も医療施設や福祉施設へ関わる実務経験のある教員である。医療福祉における社会問題を解説して実践的に役立つ学びへ繋がります。

<到達目標>

【社会】現代の障害者がおかれている状況を、社会保障、政策、生活環境などについて、考えることができる。(知識・態度)

【理学】現代の障害者にかかる、身体、制度、ケアなどについて理解し、自ら将来に向けた展望を描くことができる。(知識・態度)

【作業】各々の障害特性を知り、障害のある人も障害のない人も互いに豊かに暮らすための社会的問題点や課題について知ることができる。(知識・態度)

<授業のキーワード>

障害、障害者制度、障害者の生活

<授業の進め方>

総合リハビリテーション学部の3学科(理学療法/作業療法/社会リハ)の教員によるオムニバス講義で進める。初回に本科目のオリエンテーションを実施予定である。

<履修するにあたって>

授業開始までにリハビリテーションに関する資料を調べ、障害者について様々な視点から考えられる準備をしておいてください。

<授業時間外に必要な学修>

各回の講義で実施される内容について、予習と復習行うこと(各60分程度)

<提出課題など>

各担当者から出される課題(テストやレポート)を提出していただきます。

<成績評価方法・基準>

各担当者から出される課題(テストやレポート)の評価

を100%とする。

ただし、出席回数が講義回数の3分の2に満たない場合は、成績評価の対象から外す。

<参考図書>

各回担当者から関係資料が配付される予定です(e-learningを使用する場合があります)。

<授業計画>

第1回 障害者について(社会・糟谷)

障害者の定義、人数、種別などを把握する。海外と比較することで、日本の障害者がおかれている状況を理解する。

第2回 障害者を取り巻く社会問題(社会・糟谷)

近年、障害者を対象とした社会的な問題が多くみられる。これらの問題について、背景を把握し課題を考える。

第3回 障害者とユニバーサルデザインの変化(社会・糟谷)

近年、障害者を対象とした社会的な問題が多くみられる。これらの問題について、背景を把握し課題を考える。

第4回 障害者の住宅環境(社会・糟谷)

障害者の住宅環境、住宅政策の実態について理解する。

第5回 障害者の暮らし(社会・糟谷)

障害のあるゲストスピーカーから、日常生活、住環境、旅行など生活全般について話を聞く。

第6回 発達と健康について(理学・南)

ヒトの発生と胎生期の発達(発育)について学び、人の健康における重要性や障害との関連性について理解する。

第7回 発達と健康について(理学・南)

病気の出生前診断における、障がいとの関連性や問題点について考える。

第8回 発達と健康について(理学・南)

運動発達について学び、子どもたちが抱える様々な疾患が発達や健康に及ぼす影響について学ぶ。

第9回 健康と障がいについて(理学・南)

脳性麻痺などの疾患をもつ子どもたちの事例をもとに、健康と障害の関連性などについて考える。

第10回 子どもの障がいとリハビリテーションについて(理学・南)

先天性疾患に対するリハビリテーションの実際を学び、子どもたちの健康を支えるコメディカル役割について紹介する。また、様々な疾患をもつ子どもたちとの具体的な関わり方などについて考える。

第11回 作業療法(作業・藤原)

作業とはなにか、作業に焦点をあてた実践とは何かを理解する。

第12回 認知症の人々とその家族(作業・藤原)

認知症当事者と家族の暮らし、その支援を理解する。

第13回 精神障害のある人々(作業・藤原)

精神科医療の歴史と現代の課題について理解する。

第14回 在宅で最後を迎える人々(作業・藤原)

在宅での看取りについて理解する。

第15回 働く人々（作業・藤原）

障害のある人々の就労支援について理解する。

2022年度 後期

2.0単位

現代の障がい者問題

高梨 薫

< 授業の方法 >

「講義」

< 授業の目的 >

この科目は、全学のディプロマポリシー 1 . 2 . 3 . 4 . を達成することを目指し、現代の障害者問題を理解するために、専門的知識がなくても障害者問題をどのようにとらえ、どのように対処すればよいかを考える基礎と応用の知識を習得できることを目的とする。障害者が本人の意向と状態に応じて日常的な医療やサービスを受け、加えてノーマライゼーションの理念のもと、地域生活支援や就労に向けた支援など福祉サービスを受けながら、地域で自立した生活を送ることができる地域社会（を構築していくことの大切さ）を理解する。

< 到達目標 >

障害者の福祉をノーマライゼーションの視点で分析することによって、その問題点と今後の展望について議論できることを到達目標とする。

< 授業の進め方 >

対面授業「講義」

今後の感染状況等によっては変更の可能性があります。

資料を配布して講義形式ですすめる。わが国の障害者福祉の施策を理解するため、参考文献も活用してほしい。

< 授業時間外に必要な学修 >

各回（計15回）の授業のための予習・復習に1時間程度を要し、事前学習として配布している資料を読んでおくこと、事後学習としてその回の授業の展開（ストーリー）を自分で整理しておくこと。

< 成績評価方法・基準 >

授業時間内不定期の課題（35%）と複数のレポート課題、提出物（65%）で評価する。

< テキスト >

概ね各回、資料を配布します。資料はファイルして授業の際、いつでも振り返りができるようにしておいて下さい。

< 参考図書 >

厚生労働白書 厚生労働省編

国民の福祉と介護の動向 厚生労働統計協会

< 授業計画 >

第1回 本講義全体の概要

本講義全体の概要、そして授業内容を例を示して説明する。また、授業を受ける際の注意事項、課題や提出物、評価方法を説明する。

第2回 社会保障制度の社会福祉（6つの法）について
3 障害（身体障害、知的障害、精神障害）と、社会福祉全般 福祉六法、自立の支援と自己実現（社会福祉は自立の支援）

第3回 ノーマライゼーションとリハビリテーション
機能回復訓練、社会復帰、ICIDHとノーマライゼーションの考え方の違いについて

第4回 ノーマライゼーションとリハビリテーション
地域社会における共生の実現に向け、障害者の日常生活および社会生活の総合的な支援を図るノーマライゼーションの理念について

第5回 障害者福祉（社会福祉）と家族、地域社会の関係

これまでの社会保障（社会福祉）と家族、地域社会の関係の矛盾について。

第6回 障害者福祉（社会福祉）と家族、地域社会の関係

これまでの社会保障（社会福祉）と家族、地域社会の関係の矛盾。家族、地域社会の再生と地域包括ケアシステムの考え方。

第7回 心身障害者対策基本法から障害者基本法へ
広く「障害者」についての基本的な考え方や方針を定めるとい改正の趣旨から、心身障害者対策基本法は「心身障害者」を「障害者」に、そして新しい内容が盛り込まれ、それまでにない根本的な改正となったことを学ぶ。

第8回 心身障害者対策基本法から障害者基本法へ
心身障害者対策基本法からは「対策」は削られた。障害者福祉施策の変遷を理解するうえでその背景を検討する。

第9回 大きな改正となった障害者福祉施策
3 障害（身体障害、知的障害、精神障害）を対象としてひとつの大きな理念のもとに支援していくこと、「心身障害者」を「障害者」に、また「対策」は削られた。障害者福祉施策の変遷をふりかえる。

第10回 障害者の就労と雇用
働くということは、社会的役割の遂行や経済的な自立はもとより、人が個性を発揮するという。障害者の就労支援と就労による社会参加の意義について考える。

第11回 障害者の就労と雇用
適正と能力に応じた仕事に就き、それに生きがいを感じて充実した毎日を過ごせる、と同時に社会の存続発展に貢献する人間の継続的な活動であり、障害者の就労と雇用は障害者支援の基本的な考え方。

第12回 障害者の就労と雇用（地域で生活するということ）
わが国では障害者、生活保護世帯、高齢者などに対して就労のための支援を展開してきており、その具体的な例を学ぶ。

第13回 障害者総合支援法について

自立支援法に代わる障害者総合支援法の制定。

第14回 障害者総合支援法について

制度の谷間をなく新たな障害保健福祉施策を推進し、地域社会における共生を実現していく障害者総合支援法について。

第15回 地域で生活するということ（総括）

新たな障害保健福祉施策を推進し、地域社会における共生を実現していくために地域生活支援体系を構築、障害福祉計画によるサービス基盤の計画的整備など、障害者総合支援法の骨子を確認し、目的と理念を理解する。

2022年度 後期

2.0単位

現代の政治

清水 亮

< 授業の方法 >

対面授業と遠隔授業の複合形式（ハイブリッド形式）

「講義」・「演習」・「実習」

< 授業の目的 >

政治と経済、政治と社会、政治のしくみ、政治と世界の4つのテーマで、政治活動が

どのような特徴を持つのか、どういう場合に政治が登場してくるのか、どのような制度や決まりの中で政治が行われているのかを知り、現代の政治を理解することにより、これからの政治のあり方、自らの政治への関わり方について考察することができるようになることを目的とします。

神戸学院大学のDP（ディプロマポリシー）つまり皆さんが卒業時に「何ができるようになるか」との関連では、（知識・技能）では、専門領域の課題を考察するのに必要な知識を身につけられるようになることを目的とします。（思考力・判断力・表現力等の能力）では、身につけた広い教養をもとに、さまざまな問題を発見し、解決のための方策を導くことができること、そしてグループディスカッション、グループプレゼンテーションを通じて、自分の意見を表現するだけでなく、相手の意見を理解し、コミュニケーションの中で、より包括的で優れている解決の方策を考えられるようになること目的とします。（主体性を持って多様な人々と共同して学ぶ態度）では、獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なる人々と議論でき、学びを深め、よりよい地球市民社会を創るのに役立つの態度を育成、修得できることを目的とします。

< 到達目標 >

1. 政治活動がどのような特徴を持つのか、政治と経済、政治と社会、政治のしくみ、政治と世界

のテーマから、1つ例を挙げて説明できる。

2. どういう場合に政治が登場してくるのか、政治と経

済、政治と社会、政治のしくみ、

政治と世界のテーマから、1つ例を挙げて説明できる。

3. どのような制度や決まりの中で政治が行われているのか、政治と経済、政治と社会、

政治のしくみ、政治と世界のテーマから、1つ例を挙げて説明できる。

4. 政治のニュースに関心を持ち、これからの政治のあり方について、自らの政治への関わり方を

含めプレゼンテーションができる。

< 授業のキーワード >

政治と経済、政治と社会、政治のしくみ、政治と世界

< 授業の進め方 >

・ 2回から12回までの授業は、講義、ワークシート、シャトルカードの記入の流れで進めます。

・ 13回、14回、15回は、授業で取り上げたテーマについて、グループがそれぞれ興味を持った

テーマを選び、該当の章のおわりの演習問題から1つを選び、パワーポイントで

プレゼンテーションを作成し、クラス全体の前で、プレゼンテーションをします。

< 履修するにあたって >

・ テレビ、ラジオ、Webでのいずれかで、1日1回はニュースに触れる習慣を

身につけてください。

・ 授業内・外でしっかりサポートしますが、頑張るみなさんを歓迎します。

・ 学びに真剣な人の迷惑になる、遅刻、授業中の私語は、厳禁です。

・ スマホ、タブレット、携帯は、カバンにしまってください。

・ 使用発見の場合は、イエローカードを出します。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業中のワークシート記入に備えて、あらかじめテキストの該当の章を読み、

章のおわりの3題の演習問題に答えられるように準備してくる。（60分程度）

授業後、テキストとノートを基に、授業の内容を振り返り、ワークシートの演習問題に

適切に解答できたか再確認すること。（60分程度）

毎週、予習と復習を積み重ねると、最後のグループ・プレゼンテーションで

取り上げる章を決め、どの演習問題を選ぶか考える際に役立ちます。

< 提出課題など >

バーチャル・シャトルカード（みなさんと私のコミュニケーションツール） 毎回

ワークシート（各章の演習問題から1題を出題） 2回から12回授業中に記入

ワークシートは、記入・提出してもらった翌週の授業で、どこがポイントだったのかについて説明しますので、参

考にしてください。大変よくわかっていて自分の考えも反映している5点、
わかっている4点、どちらかというわかっている3点、
どちらというわかっていない2点、
わかっていない1点で採点します
パワーポイントのファイル 14回、15回グループの発表後にメール添付で提出
<成績評価方法・基準>
バーチャル・シャトルカード(1x15=15%)
ワークシート(5x11=55%)
グループプレゼンテーション(30%)
出席、ワークシート、シャトルカードの提出、グループによるプレゼンテーションが単位取得の最低要件です
<テキスト>
北山 俊哉、久米 郁男、真淵 勝 『はじめて出会う政治学 第3版』 有斐閣 2009年
<参考図書>
久米郁男、川出良枝、古城佳子、田中愛治、真淵 勝 『政治学 補訂版』 有斐閣 2011年
川出 良枝、谷口 将紀 『政治学』 東京大学出版会 2012年
<授業計画>
第1回 イントロダクション・政治とは何か？
第1回の授業は、Zoomで行います。登学の必要はありません。
第2 回以降の授業についての対応について説明します。授業の目的と到達目標、授業の進め方、授業でカバーするテーマ、評価基準、最終回のグループプレゼンテーションについて説明します。
政治とは何か？統治の正当性について考えます。
第2回 組織された集団が、政治を仕切る
鉄の三角同盟について考え、政治を支配しているのは、少数者なのか、多数の国民なのか考える。テキスト 第1章 「組織された集団」
第3回 政府・官僚と民間の関係
規制緩和で何が変わったかについて考えると同時に、市場の失敗と政府の失敗について考える。テキスト 第2章 「官と民の関係」
第4回 大企業と政治
大企業と政治の関係について、大企業の構造的な影響力と政治的紛争を中心に考える。テキスト 第3章 「大企業と政治」
第5回 選挙と政治
選挙への立候補者は、政策で選挙を戦えるのか？
私たち有権者は、政策で候補者を選んでいるのだろうか考えます。
テキスト 第4章 「選挙と政治」

第6回 地方分権
自治体の2つの役割と、国と地方自治体の相互依存について考えます。
テキスト 第5章 「地方分権」
第7回 マスメディアと政治
マスメディアは、政治を動かす力を持っているのか？
マスメディアは、誰の味方かについて考えます。
テキスト 第6章 「マスメディアと政治」
第8回 国会
ねじれ国会と国会の影響力について考えます。
テキスト 第7章 「国会」
第9回 内閣と内閣総理大臣
総理大臣と大統領の権力を比較しながら、総理大臣の影響力について考えます。テキスト 第8章 「内閣と総理大臣」
第10回 官僚
鉄の三角同盟の一角をなす官僚について、大臣と官僚のバトルと
キャリア官僚のキャリアを中心に考えます。テキスト 第9章 「官僚」
第11回 冷戦の終わりとはテロとの戦いへ
第2次世界大戦後の国際環境と戦後の日本の対外政策について考えます。
テキスト 第10章 「冷戦の終わりからテロとの戦いへ」
第12回 経済交渉
国境を越える政治
貿易は世界を幸せにするか？経済交渉はどう行われるのかについて
考えます。テキスト 第11章 「経済交渉」
ビリヤード・ゲームのような国際政治の状況と裸にされる国家について
考えます。テキスト 第12章 「国境を越える政治」
第13回 グループ・
プレゼンテーション・
プリパレーション
授業でカバーした12のテーマの中から、グループで、テーマを選び、
該当の章のおわりの演習問題から1つを選び、グループで、
プレゼンテーションのパワーポイントを作成します。
第14回 グループ・
プレゼンテーション
授業でカバーした12のテーマの中から、グループで、選んだテーマの
該当の章のおわりの演習問題から1つを選び、パワーポイントを使って、
クラス全体の前でプレゼンテーションをします。
第15回 グループ・
プレゼンテーション

授業でカバーした12のテーマの中から、グループで、選んだテーマの該当の章のおわりの演習問題から1つを選び、パワーポイントを使って、クラス全体の前でプレゼンテーションをします。

2022年度 後期

2.0単位

こころの科学

田中 秀男

< 授業の方法 >

対面授業

< 授業の目的 >

この科目は、全学ディプロマ・ポリシーに示す、「広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養している」ことを目指す。「こころ」の要素は、心理学によれば、感覚、知覚、認知、感情、欲求、学習、記憶、言語、思考、性格、知能といったものがあると考えられる。それらについて「科学」的に研究しようと取り組み続けてきたのが心理学の歴史ともいえる。本講義は、心理学の歴史といくつかの領域を概観することで、「こころ」の仕組みについて「科学」的に調べるとはどういうことが、そうすることで何が分かるのかを理解することを目的とする。また、それを理解することで、巷にあふれている「心理学」の知識として紹介されている記事の内容がどの程度「科学」的かも疑うことができるようになることも目的とする。人間が一般的にもつ心の特徴を教養として身につけることで、差別的ではない人間観に裏付けられた社会性を涵養する。

< 到達目標 >

1. 心理学の考え方や方法を知る。
2. 素朴な「こころ」の見方、考え方について疑いを持ち、「こころ」について慎重な、すぐには決めつけられない見方ができるようになる。
3. 講義を通じて身につけた知識を用いて人（や動物）の行動について考えることができるようになる。

< 授業のキーワード >

心理学の研究手法、記憶、学習、動機、心の発達、集団、心理療法

< 授業の進め方 >

講義形式で行います。授業最後に小レポートを課します。

< 履修するにあたって >

毎回、授業に関する資料を配付します。

< 授業時間外に必要な学修 >

事後学習として授業計画の各回の配布資料をよく読んでおくこと（目安として45分）。課題に取り組む際にはさらに授業のポイントを整理し、理解を深めておくこと（目安として30分）。

< 提出課題など >

毎回の授業の内容に関する小レポートの提出を求める。なお小テストの正答およびレポートのフィードバックについては次回の講義冒頭で行うとともに補足の解説を行う。

< 成績評価方法・基準 >

授業課題の提出40%、2回の小テスト20%、最終授業日の確認テスト定期試験40%。

全授業回数の3分の2の出席をもって、単位の認定・評価の対象者とする。

出席は課題の提出をもって出席とみなす。

< テキスト >

使用しない。スライドによって資料を提示する。

< 参考図書 >

二宮克美編（2016）「ベーシック心理学」第2版
歯葉出版社

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション&心理学の歴史

授業の進め方、全般的な諸注意、成績評価などについて説明する。マスメディアを通じて広められている「心理学の知識」についてその問題点を示す。学問としての心理学について知る必要を理解する。

第2回 心理学の研究法

心理学の研究方法を知る

第3回 知覚

我々が通常どのように物事を見て、聞いているのかを概観する

第4回 学習、記憶

「パブロフのイヌ」や条件反射などで知られる学習心理学の条件づけについて概観し、ヒトに限らない生物の行動を生じさせる仕組みについて理解する。人の基本的な機能である記憶について概観する。

第5回 感情・動機づけ

感情の成り立ちを概観する。また、いわゆる「やる気」ともいえる動機の種類とそれらを高めたり低めたりする動機づけの要因について概観する。

第6回 パーソナリティ、知能

一般に「性格」言われる人間の感情・意志的な側面と「知能」と言われる知的側面がどのように研究されてきたかを概観する。

第7回 発達 : 概論

人間関係を形成する基盤となる愛着について概観し、年齢とともに発達する心理を理解する。

第8回 発達 : 各論

ピアジェやエリクソンら代表的な心理学者の発達段階論を概観する。

第9回 社会 : 対人認知・原因帰属・集団

どのように他人を認知しているか・物事の原因をどこに求めるか・集団において個人とは異なった心理状態になるかを学ぶ。

第10回 社会 : 態度・説得・リーダーシップ・流言
人のものの見方がどのように変容するか、いかに人は説
得されるか、優れたリーダーシップに必要な条件とは、
うわさはどのように拡散するかを概観する。

第11回 心理検査

人の性格・作業能力・知能などが今までどのように測定
されてきたかを概観する。

第12回 心理的障害

心理的不健康にはどのような種類があるか、また、こう
した不健康に心理学者は取り組むスタンスを概観する。

第13回 心理療法とカウンセリング

心理学の知見に基づいた心の援助の実際を解説する

第14回 思考・応用分野

人は何をどのように考えるのかを学ぶ

第15回 確認テスト

今までの授業のまとめのテストを行う

2022年度 後期

2.0単位

こころの科学

田端 拓哉

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

授業の目的 この科目は、全学ディプロマ・ポリシーに
示す、「広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を
涵養している」ことを目指す。

「こころ」の要素は、心理学によれば、感覚、知覚、認
知、感情、欲求、学習、記憶、言語、思考、性格、知能
といったものがあると考えられる。それらについて「科
学」的に研究しようと取り組み続けてきたのが心理学の
歴史ともいえる。本講義は、心理学の歴史といくつかの
領域を概観することで、「こころ」の仕組みについて「
科学」的に調べるとはどういうことか、そうすることで
何が分かるのかを理解することを目的とする。また、そ
れを理解することで、巷にあふれている「心理学」の知
識として紹介されている記事の内容がどの程度「科学」
的かも疑うことができるようになることも目的とする。
人間が一般的にもつ心の特徴を教養として身につけるこ
とで、差別的ではない人間観に裏付けられた社会性を涵
養する。

< 到達目標 >

1. 心理学の考え方と方法を知る。
2. 素朴な「こころ」の見方、考え方について疑いを持
ち、「こころ」について慎重な、すぐには決めつけない
見方ができるようになる。
3. 講義を通じて身につけた知識を用いて人（や動物）
の行動について考えることができるようになる。

< 授業のキーワード >

心理学の研究方法

記憶

脳(神経)

学習

動機

心の発達

心理療法

< 授業の進め方 >

講義を中心に進めます。課題としてトピックの要点につ
いての問題に回答してもらいます。

< 履修するにあたって >

高校までの教科で言えば、理科（生物）や社会に近い内
容であり、勉強方法はそれに近いと考えられる。受講前
に心理学について知っている必要はないが、言葉の意味
が分からないときは誰かに質問したり辞書等で調べたり
することを厭わないことが求められる。講義の一回一回
の内容はそれぞれに独立ではなく、関連し合っているた
め、一度内容を聞き逃すとその後の理解も難しくなる可
能性がある。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、インターネットや書籍で読むことがで
きる雑学のような記事にある、性格のタイプや「本当の
」「深層心理」が分かるといった種類の話を読んでみる
こと。ただし、その雑学を正確な知識として覚えるので
はなく、授業の中で知ったことと照らし合わせて、雑学
と異なる点や同じ点を知ることが重要。(目安として1時
間)

事後学習として、授業で紹介された心理学の知識が、自
分の身の回りでもあてはまるか考えてみる。また、自分
の身の回りの人々の心について、自分が思ってきたとお
りのものであるか、心理学の知識をふまえて考え直して
みる。(目安として1時間)

< 提出課題など >

トピックの区切りごとに、そのトピックが理解できてい
るかを問う問題を解いてもらう。

< 成績評価方法・基準 >

課題の提出15%、定期試験85%。

全授業回数の3分の2の出席をもって、単位の認定・評価
の対象者とする。

< テキスト >

使用しない。スライドによって資料を提示する。

< 参考図書 >

無藤隆他編 (2009) 「よくわかる心理学」 ミネル
ヴァ書房

大山正・上村保子編著 (1998) 「新訂 心理学史」
放送大学教育振興会

戸田山和久著 (2005) 「科学哲学の冒険 サイエ
ンスの目的と方法をさぐる」 NHKブックス

< 授業計画 >

第1回 「こころ」についての一般知識について疑

マスメディアを通じて広められている「心理学の知識」についてその問題点を示す。学問としての心理学について知る必要を理解する。

第2～5回 心理学研究の歴史と方法

現代心理学の歴史を概観し、現在の心理学の前提となる、心についての考え方を知る。心理学の考え方が一通りではないことを理解する。

第6回 記憶

人の基本的な機能である記憶について概観する。「覚える」という機能について知ることによって「忘れる」「思い出せない」とはどういうことかも考える。

第7回 脳と「こころ」

脳と「こころ」の関係を探究してきた神経心理学の歴史を概観し、特に脳の構造と記憶の関係について説明する

第8～9回 学習、条件づけ

「パブロフのイヌ」や条件反射などで知られる学習心理学の条件づけについて概観し、ヒトに限らない生物の行動を生じさせる仕組みについて理解する。

第10～11回 動機づけ

いわゆる「やる気」ともいえる動機。その種類とそれらを高めたり低めたりする動機づけの要因について概観する。

第12回 発達

人間関係を形成する基盤となる愛着について概観し、年齢とともに発達する心理を理解する。

第13～14回 臨床

「こころ」の問題の解決を目指す心理療法について、心理学の歴史を反映した多様な方法のいくつかを紹介する。

第15回 心理学の知識の利用

最終課題を通じて、心理学の知識を日常生活で役立てる上で、注意すべき点について紹介する。

2022年度 前期

2.0単位

産業界等連携講義

中村 光宏

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、全学のDPに示す、主体性を持って多様な人々と共同して学ぶ態度を修得することを目指しています。

将来の進路決定に自信を持って立ち向かう為、全国で活躍されている7万7千人の同窓生の中から15名を選抜し“人間力”をいかに養うか、社会へ羽ばたいていただく為に同窓会が企画し大学と連携した特別な科目です。就職を考える上で実際の社会・業界・業種で活躍されている卒業生が本音で語りかけ職業選択の参考にして頂きます。その為、幅広い知識を習得することができ、それ

に基づいて、他者を理解する能力を身につけることができ、実践的教育から構成される授業科目である。

< 到達目標 >

就職活動を行う又は社会人として人々と接する上での心構えの習得。

< 授業のキーワード >

学生時代にすべき活動、就職活動の体験談、現在勤めている業界・業種の過去・現在・未来の展望、社会人としての成功及び失敗談

< 授業の進め方 >

15回様々な卒業生（講師）が登壇致しますので、自己紹介・学生時代の思い出、就職活動、業界・業種の紹介、社会人としての成功体験・失敗談等をお話しさせていただきます。

講義終了間際には質問頂く時間を設け、卒業生だから皆様に言える又は皆様に伝えておきたい本音の話をさせていただきます。

< 履修するにあたって >

私語、途中からの出席及び退出等は禁止させていただきます。講師は変更になる可能性もあります。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前に各回1時間以上の時間をかけて登壇予定者の会社・業種等を調べる。

< 提出課題など >

各登壇者から返却された質問等の回答がある場合は次回以降の授業で該当者に配布する。

< 成績評価方法・基準 >

出席カード及びレポートを提出。

各授業での出席カードで感想（2点×1回、3点×14回）、レポート（4点×14回）

レポートは、出席カードが提出されているときのみ採点対象

< テキスト >

適宜、プリントを配布

< 参考図書 >

特になし

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

講義の進め方について

第2回 講演

大槻佐智子

第3回 講演

川廷尚弘【公益財団法人日本テニス協会】

第4回 講演

今岡健一【ソニー生命保険(株)】

第5回 講演

香山真希【フリーアナウンサー】

第6回 講演

若林聡【株式会社堀場テクノサービス】

第7回 講演

浪花功【協愛株式会社】

第8回 講演

今岡健一【ソニー生命保険株式会社】

松尾紀明【ラポール株式会社】

第9回 講演

大塚真也【(株)GLOBO】

第10回 講演

鶴身友也【丹波市役所】

第11回 講演

肥田雅之【コクヨ株式会社】

第12回 講演

藤谷有紗【和田興産株式会社】

第13回 講演

栗原理哲【東洋証券株式会社】

眞鍋英三【東洋証券株式会社】

第14回 講演

進藤優子【一般財団法人キャリアエール】

第15回 講演

松尾紀明【ラポール株式会社】

2022年度 前期

2.0単位

ジェンダー論

山口 真紀

< 授業の方法 >

対面授業（予定）

< 授業の目的 >

本講義では、私たちが長いあいだにつくりあげてきたジェンダー意識（社会的、文化的につくられた性差）について理解し、それがいかに人々を束縛しているかを捉え、どうすればそれらを変えることができるかについて考えることを目的とします。性差をめぐる「常識」や「当たり前」を問い直す視角を得ることは、自分自身の生活や未来を考える上で役に立つだけでなく、周りの人たちの生きやすさを考える手立てともなります。

・本科目は、全学DPにおける、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性の涵養を促す科目に位置付けられるものです。

< 到達目標 >

・ジェンダーとは何か、また性別をめぐる「常識」に対する客観的な視点と、なぜそのような「常識」が生まれてきたのか/維持されてきたのかを考察する視点を身につけることができる

・ジェンダーやセクシュアリティをめぐる概念、歴史について正確な知識を得ることができる

・ジェンダーをめぐる現代社会の諸問題について理解し、自分の言葉で論じることができるようになる

< 授業のキーワード >

ジェンダー、セクシュアリティ、ジェンダー・アイデン

ティティ

< 授業の進め方 >

・授業資料およびミニレポートは、dotCampusにて提示
・回収します。

・時勢および受講生の関心を優先するため、必ずしもシラバスとおりに進むものではありません

< 履修するにあたって >

レポート課題は、授業日を含めて3日目の23:59を締め切りとします。

締め切り後の提出は、いかなる場合であっても受け付けません。

< 授業時間外に必要な学修 >

・講義の予習・復習として指定した課題（文献講読や映像視聴など）については必ず取り組んでください

・講義の予習・復習として、日頃から、自身の身の周りの出来事とジェンダーとのかかわりについて考え、ニュースや新聞、誰かの書き物に対してジェンダーの視点から批評を試みてください。

（事前・事後学習各1時間程度）

< 成績評価方法・基準 >

授業参加：50%

中間試験：20%

最終試験：30%

< テキスト >

講義では考えるきっかけやヒントとして、下記の素材を使用します。

- 1) ニュースなどの現代的なトピック
- 2) ドキュメンタリーなどの映像資料
- 3) 論文・小説・漫画などのテキスト資料

講義内で指示した素材については、必ず予習をしてください。

< 授業計画 >

第1回 インTRODクション

ジェンダーとは何か。身体と性差を考える際に、ジェンダー概念が明らかにした視座について確認する。

第2回 ジェンダー概念

私たちの身の周りで「常識」となっているジェンダー・ステレオタイプについて確認し、性別二元論、性別役割分業意識から生じる性差別について考える。

第3回 フェミニズムの思想と実践

第一派フェミニズムの潮流を確認する。欧米および日本における女性参政権運動を概観し、運動と社会の関係について考える。

第4回 フェミニズムの思想と実践

第二派フェミニズムの潮流について確認する。日本のウーマン・リブの運動及び主張がどのようなクリティカルな視点を持っていたのか、当時の女性たちの言葉をもとに考察する。

第5回 近代家族・ケア労働

こんにち私たちが標準的であるとイメージする家族の形

態が成立した過程と、その特徴について確認し、性別役割分業における家事労働の不可視化について理解する。

第6回 ジェンダーと表象 広告

身の周りのメディアにおける広告でどのようなジェンダー表象がなされているか考察する。特に、性差別的であると批判された最近の事例について、それがなぜ性差別であると言えるのか考える。

第7回 ジェンダー表象 物語

映画やおとぎばなしを題材に、私たちの馴染みのある物語のなかでどのようなジェンダー表象がなされているか考察する。

第8回 映像視聴

ジェンダー・セクシュアリティに関わる概念や事象にまつわる映像を視聴する。

第9回 映像視聴

ジェンダー・セクシュアリティに関わる概念や事象にまつわる映像を視聴し、ミニレポートを作成する。

第10回 セクシュアリティ

ジェンダー・アイデンティティおよびセクシュアル・オリエンテーションの概念を理解する。

第11回 セクシュアリティ

同性愛をめぐる歴史を確認し、ゲイ・スタディーズおよびレズビアンスタディーズの主張と議論を理解する。

第12回 男性学

女性学を経由して近年興隆している「男性学」の諸概念について知り、現代における「男らしさ」について考える。

第13回 性暴力・性労働

性暴力の実態と、それを明らかにすることの難しさ、女性の被害経験について考える。性労働について、当事者から提示されている知見を学ぶ。

第14回 インターセクショナルリティ/マイクロアグレッション

ジェンダーやセックスだけでなく、人種、社会階層や経済的階層、セクシュアリティ、能力、障害の有無、身体的特徴などのさまざまなカテゴリーが「交差する」こと（インターセクショナルリティ）によって生じうる問題について理解する。また、私たちの日常に潜むマイクロアグレッション（偏見や差別に基づく見下しや侮辱、否定的な態度）について考察する。

第15回 共生

共生のための社会構想について、受講者とディスカッションを行う。

2022年度 前期

2.0単位

自己発見・大学生活

吉澤 飛鳥

< 授業の方法 >

対面授業（講義）

< 授業の目的 >

この科目は、全学のDPに示す、主体性をもって多様な人々と共同して学ぶ態度を習得することを目指します。これから始まる大学生活を主体的にデザインしていきます。いろいろな学部からの、多様な視点や、考えを持つ人たちが集まる場で、個人ワーク・グループワーク行い、内省することで、自らの特徴について考えます。未来のために、自らを成長させるために、今、何が出来るのか？何を学ぶべきか？を考えて、行動することを目的としています。この科目の担当者は、外資系の企業でマーケティングを担当し、新卒採用にも携わってきた実務経験のある教員です。キャリアコンサルタント・産業カウンセラーの資格保有もしており、社会人として必要なスキルや能力を、実例を交えて、解説します。

< 到達目標 >

- ・大学生活に持つべきマインドセットを学び、能動的な学習スタイルを身に付けて行きます。
- ・自分の特徴に気づき、キャリアデザインシートを作成し、行動出来るようになります。

< 授業のキーワード >

キャリアデザイン・コミュニケーション

< 授業の進め方 >

ワークシートによる自己探求、グループでの相互共有、研究を行い、自己理解を深めて行きます。先輩へのインタビューや周囲の人達とコミュニケーションを行い、他者から得た知見から、自らの大学生活の計画を考えて行きます。

< 履修するにあたって >

ドットキャンパスでのお知らせ欄を注意してみてください。

< 授業時間外に必要な学修 >

テキストには毎回ワークシートが用意されていますので、各回1時間以上をかけて授業前には前回のワークの振り返りと、次のワークの準備をお願いします。

< 提出課題など >

出席ミニレポート（毎回）：授業内容・感想・意見など
提出課題：（中間と最終回）：レポート

希望者は提出課題のフィードバックを個別面談にて実施します。

< 成績評価方法・基準 >

授業への取り組み姿勢10% 毎回の授業での振り返りミ

ニレポート45% 中間・期末レポート課題による評価45%

<テキスト>

オリジナルテキスト、ワークシート、その他新書で900円程度の書籍を使用します。別途、授業で伝えます。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション・授業の目的と進め方の共有

授業の目的やゴールを理解します。シラバスを確認し、15回の進め方・グループワークの進行の仕方を知る。

第2回 大学に入学した理由と大学での学び、高校生との違い

自分が神戸学院大学に入学した理由を再度認識し、大学での学びと高校での学び方の違いを確認する

第3回 自己発見・他者理解(過去から今の自分を見つめる)

過去の自分から、今の自分を見つめて、成長の軌跡を確認する

第4回 自己紹介・グループワーク

これから多くの機会があるであろう自分の自己紹介文を作って、グループで発表する。学びの仲間の多様性を知る。

第5回 大学生活でやりたいこととやるべきこと(1) 大学で自分が「やりたいこと」と「やるべきこと」について考えて行く。

第6回 学生へのインタビュー

神戸学院大学に在籍している学生に、どんな思いで入学して、どんな大学生活を送っているのか、インタビューする。

第7回 学生インタビューの振り返り

学生にインタビューした内容の振り返りをし、自分はどんな大学生活を送っているのかをイメージしていく。

第8回 社会が求める人材

大学生活で自分がやるべきことに焦点を絞り、社会がどんな人材を求めているのかを知る。

第9回 自己の特徴について考える

アセスメントツールの結果を用いながら、自分の行動特性について知る。他者との違いについても確認をする。

第10回 協力と共有・チームワーク

協力・共有がなぜ、これから求められていくのか?協力と共有をしていくには、自分自身がどうあるべきなのかを知る。

第11回 コミュニケーションの仕組みと意味を考える 協力・共有に必要なコミュニケーションの仕組みと意味を、グループワークの中から学んでいく。

第12回 大学生活のグランドデザインシートの個人研究(検討・作成)

大学生活において、自らがやりたいこと、やるべきことを、どのタイミングで、どう行動していくかを考えて行く。

第13回 大学生活のグランドデザインシートの個人研究(相互研究)

大学生活のグランドデザインシートを、グループ内で発表し、更に目標に近づけるように、相互にアドバイスしあう。

第14回 大学生活のグランドデザインシートの発表

大学生活のグランドデザインシートについて、A3一枚に自分の意見をまとめて、

発表していく。自らのデザインを発表するとともに、他者へのエールも送る。

第15回 全体の振り返り(最終レポート作成など)

15回を振り返り、これからの自分の目標を設定する。

2022年度 前期

2.0単位

自己発見・大学生活

棚橋 浩樹

<授業の方法>

対面授業(講義)

<授業の目的>

この科目は、全学のDPに示す、主体性をもって多様な人々と共同して学ぶ態度を習得することを目指します。これから始まる大学生活を主体的にデザインしていきます。いろいろな学部からの、多様な視点や、考えを持つ人たちが集まる場で、個人ワーク・グループワーク行い、内省することで、自らの特徴について考えます。未来のために、自らを成長させるために、今、何が出来るのか?何を学ぶべきか?を考えて、行動することを目的としています。

この科目の担当者は、人材を扱う企業で約10年間新卒採用に携わってきた実務経験のある教員です。社会人として必要なスキルや能力を、実例を交えて、解説します。

<到達目標>

・大学生活に持つべきマインドセットを学び、能動的な学習スタイルを身に付けて行きます。

・自分の特徴に気づき、キャリアデザインシートを作成し、行動出来るようになります。

<授業のキーワード>

キャリアデザイン・コミュニケーション

<授業の進め方>

ワークシートによる自己探求、グループでの相互共有、研究を行い、自己理解を深めて行きます。先輩へのインタビューや周囲の人達とコミュニケーションを行い、他者から得た知見から、自らの大学生活の計画を考えて行きます。

<履修するにあたって>

ドットキャンパスでのお知らせ欄を注意してみてください。

< 授業時間外に必要な学修 >

テキストには毎回ワークシートが用意されていますので、各回1時間以上をかけて授業前には前回のワークの振り返りと、次のワークの準備をお願いします。

< 提出課題など >

出席ミニレポート（毎回）：授業内容・感想・意見など
提出課題：（中間と最終回）：レポート

希望者は提出課題のフィードバックを個別面談にて実施します。

< 成績評価方法・基準 >

授業への取り組み姿勢10% 毎回の授業での振り返りミニレポート45% 中間・期末レポート課題による評価45%

< テキスト >

オリジナルテキスト、ワークシート、その他新書で900円程度の書籍を使用します。別途、授業で伝えます。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション・授業の目的と進め方の共有

授業の目的やゴールを理解します。シラバスを確認し、15回の進め方・グループワークの進行の仕方を知る。

第2回 大学に入学した理由と大学での学び、高校生との違い

自分が神戸学院大学に入学した理由を再度認識し、大学での学びと高校での学び方の違いを確認する

第3回 自己発見・他者理解(過去から今の自分を見つめる)

過去の自分から、今の自分を見つめて、成長の軌跡を確認する

第4回 自己紹介・グループワーク

これから多くの機会があるであろう自分の自己紹介文を作って、グループで発表する。学びの仲間の多様性を知る。

第5回 大学生活でやりたいこととやるべきこと(1)
大学で自分が「やりたいこと」と「やるべきこと」について考えて行く。

第6回 学生へのインタビュー

神戸学院大学に在籍している学生に、どんな思いで入学して、どんな大学生活を送っているのか、インタビューする。

第7回 学生インタビューの振り返り

学生にインタビューした内容の振り返りをし、自分はどうな大学生活を送っているのかをイメージしていく。

第8回 社会が求める人材

大学生活で自分がやるべきことに焦点を絞り、社会がどんな人材を求めているのかを知る。

第9回 自己の特徴について考える

アセスメントツールの結果を用いながら、自分の行動特性について知る。他者との違いについても確認をする。

第10回 協力と共有・チームワーク

協力・共有がなぜ、これから求められていくのか?協力と共有をしていくには、自分自身がどうあるべきなのかを知る。

第11回 コミュニケーションの仕組みと意味を考える
協力・共有に必要なコミュニケーションの仕組みと意味を、グループワークの中から学んでいく。

第12回 大学生生活のグランドデザインシートの個人研究(検討・作成)

大学生活において、自らがやりたいこと、やるべきことを、どのタイミングで、どう行動していくかを考えて行く。

第13回 大学生生活のグランドデザインシートの個人研究(相互研究)

大学生生活のグランドデザインシートを、グループ内で発表し、更に目標に近づけるように、相互にアドバイスしあう。

第14回 大学生生活のグランドデザインシートの発表
大学生生活のグランドデザインシートについて、A3一枚に自分の意見をまとめて、

発表していく。自らのデザインを発表するとともに、他者へのエールも送る。

第15回 全体の振り返り(最終レポート作成など)

15回を振り返り、これからの自分の目標を設定する。

2022年度 前期

2.0単位

自己理解・将来展望

吉澤 飛鳥

< 授業の方法 >

対面授業(講義)

< 授業の目的 >

この科目は、全学のDPに示す、主体性をもって多様な人々と共同して学ぶ態度を習得することを目指します。就業力を高めるために、自己理解や自己分析を通して自分自身のキャリアデザインを考えます。大学生活を振り返り、出来たこと、出来なかったことを基に、今後の大学生活を考えます。自分の特徴(興味・関心、志向、能力)について考え、将来の職業として、様々な業界・業種があることを理解し、自分の将来・進路について検討を行います。この科目の担当者は、外資系企業でマーケティングや人材を扱う企業で約5年間新卒採用に携わってきた実務経験のある教員です。キャリアコンサルタントや産業カウンセラーの資格も保持しており、社会に出るにあたり必要なスキルや能力を、実例を交えて、解説します。

< 到達目標 >

・ワークシート等の作成を通じて自己の特徴を理解している。

・自分の進路について大きな方向付けができています。

<授業のキーワード>

キャリアデザイン、就職、グループワーク、業界・業種・職種研究、目標と行動計画、プレゼンテーション、コミュニケーション

<授業の進め方>

大学生活を振り返り、大学での活動を通じて気づいた自分の特徴について、ワークシートにより、自己研究、グループでの相互研究を行います。また将来の職業について、グループで調査を行い、クラスに持ち寄って相互教授を行います。

<履修するにあたって>

この授業では、座学だけでなく、個別ワーク、ペアワーク、グループワークといった場面が毎回のように用意されています。始めは自分の考えをアウトプットすることができない、初対面の学生と話すことが難しいと感じる人が多くいますが、繰り返して慣れてくると、教員や他の学生から学べる楽しさや役立ち感を感じられるようになります。授業は是非、受け身でなく、積極的に参加しましょう。

注意：ドットキャンパスのお知らせ欄を注意して見ておいてください。遠隔授業になった場合には、様々なワークシートなどは、ドットキャンパスを通して配布します。

<授業時間外に必要な学修>

各回1時間以上をかけて授業前には前回のワークの振り返りをお願いします。

<提出課題など>

出席コメント（毎回）：授業内容・感想・行動計画・意見・質問について、課題：大学生活レビュー、キャリアデザインシート、期末レポート等

<成績評価方法・基準>

授業内で作成、提出されるワークシート40%、チーム員によるプレゼン評価20%、レポート課題による評価40%

希望者は提出課題のフィードバックを個別面談にて実施します。

<テキスト>

オリジナルテキスト、ワークシート

<参考図書>

0

<授業計画>

第1回 オリエンテーション・授業の目的、進め方
シラバスについて確認するとともに、各回の内容をダイジェストで説明する

第2回 大学生活のレビュー・自己理解（個人研究）
これまでの大学生活を振り返り、整理することで自身の今の立ち位置を把握する

第3回 大学生活のレビュー・自己理解（相互研究）

他者の大学生生活の過ごし方を聞いたり、これまでに生じた疑問を共有することでこれからの大学生生活のヒントや気づきを得る

第4回 コミュニケーション力のトレーニング

相手の立場に合わせた伝え方・聴き方を考える

第5回 社会人基礎力を考える

社会でどのような力が求められているのか、またそれはどのようにすれば磨けるのかについて考える

第6回 変化を考える

社会や就職環境が今後どのように変化していくかについて考える

第7回 就職に必要なスキル

現時点で就職に向けてどの程度力が備わっているのか、これからの学生生活でどのように身につけていくのかを考える

第8回 就職活動の流れ

就職活動がどのように進むのか大きな流れをつかむ

第9回 業界・業種・職種について考える

業界・業種・職種について理解する。企業研究に必要なことを知る

第10回 業界・業種・職種について考える（グループ研究）

グループに分かれ、それぞれで決めた業界・業種・職種について研究する

第11回 業界・業種・職種について考える（相互教授）

グループで研究した内容をクラス内でプレゼンテーションする

第12回 ダイバーシティ

ダイバーシティについて、社会や企業の現状を知ることによって理解を深める

第13回 キャリアデザインシートの個人研究

今までのワークを振り返り、これからの大学生活において自らがやりたいこと、やるべきことを、どのタイミングで、どう行動していくのかを個人で考え自身のキャリアデザインシートを作成する

第14回 キャリアデザインシートの相互研究

キャリアデザインシートを、グループ内で発表し、更に目標に近づけるように、相互にアドバイスする。

第15回 全体の振り返り

全体の振り返りと最終レポートの提示

0 0

0

0 0

0

0 0

0

0 0

0

0 0

0

0 0
0
0 0
0
0 0
0
0 0
0
0 0
0
0 0
0
0 0
0
0 0
0
0 0
0
0 0
0
0 0
0
0 0
0

2022年度 前期
2.0単位
自己理解・将来展望
棚橋 浩樹

< 授業の方法 >
対面授業（講義）

< 授業の目的 >
この科目は、全学のDPに示す、主体性をもって多様な人々と共同して学ぶ態度を習得することを目指します。就業力を高めるために、自己理解や自己分析を通して自分自身のキャリアデザインを考えます。大学生活を振り返り、出来たこと、出来なかったことを基に、今後の大学生活を考えます。自分の特徴（興味・関心、志向、能力）について考え、将来の職業として、様々な業界・業種があることを理解し、自分の将来・進路について検討を行います。
この科目の担当者は、人材を扱う企業で約10年間新卒採用に携わってきた実務経験のある教員です。社会人として必要なスキルや能力を、実例を交えて、解説します。
< 到達目標 >
・ワークシート等の作成を通じて自己の特徴を理解している。
・自分の進路について大きな方向付けができています。
< 授業のキーワード >
キャリアデザイン、就職、グループワーク、業界・業種・職種研究、目標と行動計画、プレゼンテーション、コミュニケーション

< 授業の進め方 >
大学生活を振り返り、大学での活動を通じて気づいた自分の特徴について、ワークシートにより、自己研究、グループでの相互研究を行います。また将来の職業について、グループで調査を行い、クラスに持ち寄って相互教授を行います。

< 履修するにあたって >
この授業では、座学だけでなく、個別ワーク、ペアワーク、グループワークといった場面が毎回のように用意されています。始めは自分の考えをアウトプットすることができない、初対面の学生と話すことが難しいと感じる人が多くいますが、繰り返しで慣れてくると、教員や他の学生から学べる楽しさや役立ち感を感じられるようになります。授業は是非、受け身でなく、積極的に参加しましょう。

注意：ドットキャンパスのお知らせ欄を注意して見ておいてください。遠隔授業になった場合には、様々なワークシートなどは、ドットキャンパスを通して配布します。

< 授業時間外に必要な学修 >
各回1時間以上をかけて授業前には前回のワークの振り返りをお願いします。
< 提出課題など >
出席コメント（毎回）：授業内容・感想・行動計画・意見・質問について、課題：大学生活レビュー、キャリアデザインシート、期末レポート等
< 成績評価方法・基準 >
授業内で作成、提出されるワークシート40%、チーム員によるプレゼン評価20%、レポート課題による評価40%

希望者は提出課題のフィードバックを個別面談にて実施します。

< テキスト >
オリジナルテキスト、ワークシート
< 参考図書 >
0
< 授業計画 >
第1回 オリエンテーション・授業の目的、進め方
シラバスについて確認するとともに、各回の内容をダイジェストで説明する
第2回 大学生活のレビュー・自己理解（個人研究）
これまでの大学生活を振り返り、整理することで自身の今の立ち位置を把握する
第3回 大学生活のレビュー・自己理解（相互研究）
他者の大学生活の過ごし方を聞いたり、これまでに生じた疑問を共有することでこれからの大学生活のヒントや気づきを得る
第4回 コミュニケーション力のトレーニング
相手の立場に合わせた伝え方・聴き方を考える

第5回 社会人基礎力を考える	0
社会でどのような力が求められているのか、またそれはどのようにすれば磨けるのかについて考える	0 0
第6回 変化を考える	0
社会や就職環境が今後どのように変化していくかについて考える	0 0
第7回 就職に必要なスキル	0
現時点で就職に向けてどの程度力が備わっているのか、これからの大学生活でどのように身につけていくのかを考える	0 0
第8回 就職活動の流れ	0
就職活動がどのように進むのか大きな流れをつかむ	0 0
第9回 業界・業種・職種について考える	0
業界・業種・職種について理解する。企業研究に必要なことを知る	0 0
第10回 業界・業種・職種について考える（グループ研究）	-----
グループに分かれ、それぞれで決めた業界・業種・職種について研究する	2022年度 前期
第11回 業界・業種・職種について考える（相互教授）	2.0単位
グループで研究した内容をクラス内でプレゼンテーションする	自己理解・将来展望
第12回 ダイバーシティ	前川 明
ダイバーシティについて、社会や企業の現状を知ること	-----
で理解を深める	<授業の方法>
第13回 キャリアデザインシートの個人研究	対面授業（講義）
今までのワークを振り返り、これからの大学生活において自らがやりたいこと、やるべきことを、どのタイミングで、どう行動していくのかを個人で考え自身のキャリアデザインシートを作成する	教員の連絡先：mekw0925@ge.kobegakuin.ac.jp
第14回 キャリアデザインシートの相互研究	対面を予定していますが、コロナの状況に応じて、オンラインになる可能性があります。
キャリアデザインシートを、グループ内で発表し、更に目標に近づけるように、相互にアドバイスする。	その場合には下記からアクセスください。
第15回 全体の振り返り	授業アクセス情報：
全体の振り返りと最終レポートの提示	https://zoom.us/j/92662709988?pwd=0VY4SjNydmxXZ3hvWEQ2ZWVtWDNydz09
0 0	ミーティングID: 926 6270 9988
0	パスコード: 110267
0 0	<授業の目的>
0	大学生活を振り返り、出来たこと、出来なかったことを
0 0	基に、今後の大学生活を考える。自分の特徴（興味・関心、志向、能力）について考え、将来の職業として、様々な業界・業種があることを理解し、自分の将来・進路について検討を行う。この科目の担当者は、企業人事担当やキャリアコンサルタントとして、約20年間採用活動や就職支援を行っていた実務経験のある教員です。大学での学びや大学生活（課外活動など）での経験が、どのように社会で役に立つのかを実例を交えて解説します。
0 0	
0	<到達目標>
0 0	・ワークシート等の作成を通じて自己の特徴を理解している。
0	
0 0	

・自分の進路について大きな方向付けができています。

< 授業のキーワード >

キャリアデザイン、就職、グループワーク、業界・業種・職種研究、目標と行動計画、プレゼンテーション、コミュニケーション

< 授業の進め方 >

大学生活を振り返り、大学での活動を通じて気づいた自分の特徴について、ワークシートにより、自己研究、グループでの相互研究を行います。また将来の職業について、グループで調査を行い、クラスに持ち寄って相互教授を行います。

< 履修するにあたって >

この授業では、座学だけでなく、個別ワーク、ペアワーク、グループワークといった場面が毎回のように用意されています。始めは自分の考えをアウトプットすることができない、初対面の学生と話すことが難しいと感じる人が多くいますが、繰り返して慣れてくると、教員や他の学生から学べる楽しさや役立ち感を感じられるようになります。授業は是非、受け身でなく、積極的に参加しましょう。

注意：ドットキャンパスのお知らせ欄を注意してみてください。今後のオンライン授業の案内を掲載していきます。

< 授業時間外に必要な学修 >

各回1時間以上をかけて授業前には前回のワークの振り返りをお願いします。

< 提出課題など >

出席コメント（毎回）：授業内容・感想・行動計画・意見・質問について、課題：大学生活レビュー、キャリアデザインシート、期末レポート等

< 成績評価方法・基準 >

授業内で作成、提出されるワークシート40%、チーム員によるプレゼン評価20%、レポート課題による評価40%

希望者は提出課題のフィードバックを個別面談にて実施します。

< テキスト >

オリジナルテキスト、ワークシート

< 参考図書 >

0

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション・授業の目的、進め方
シラバスについて確認するとともに、各回の内容をダイジェストで説明する

第2回 大学生活のレビュー・自己理解（個人研究）
これまでの大学生活を振り返り、整理することで自身の今の立ち位置を把握する

第3回 大学生活のレビュー・自己理解（相互研究）

他者の大学生生活の過ごし方を聞いたり、これまでに生じた疑問を共有することでこれからの大学生生活のヒントや気づきを得る

第4回 コミュニケーション力のトレーニング

相手の立場に合わせた伝え方・聴き方を考える

第5回 社会人基礎力を考える

社会でどのような力が求められているのか、またそれはどのようにすれば磨けるのかについて考える

第6回 変化を考える

社会や就職環境が今後どのように変化していくかについて考える

第7回 就職に必要なスキル

現時点で就職に向けてどの程度力が備わっているのか、これからの学生生活でどのように身につけていくのかを考える

第8回 就職活動の流れ

就職活動がどのように進むのか大きな流れをつかむ

第9回 業界・業種・職種について考える

業界・業種・職種について理解する。企業研究に必要なことを知る

第10回 業界・業種・職種について考える（グループ研究）

グループに分かれ、それぞれで決めた業界・業種・職種について研究する

第11回 業界・業種・職種について考える（相互教授）

グループで研究した内容をクラス内でプレゼンテーションする

第12回 ダイバーシティ

ダイバーシティについて、社会や企業の現状を知ることによって理解を深める

第13回 キャリアデザインシートの個人研究

今までのワークを振り返り、これからの大学生活において自らがやりたいこと、やるべきことを、どのタイミングで、どう行動していくのかを個人で考え自身のキャリアデザインシートを作成する

第14回 キャリアデザインシートの相互研究

キャリアデザインシートを、グループ内で発表し、更に目標に近づけるように、相互にアドバイスします

第15回 全体の振り返り

全体の振り返りと最終レポートの提示

0 0

0

0 0

0

0 0

0

0 0

0

0 0

0

答を出し尽くすつもりで臨むこと。

十分な理解のためには、時事の前後の知識、注意点の補足、関係性の捕捉などが必要なので、これらを補う。具体的には、資料の飛ばし読みをしたり、要約の練習をしたり、問題を解いたりすることになる。

特に、単純な問題で足固めをし、より複合的な問題へと進んでゆく。

毎回の講義の目標は、学んだ内容を簡単に家族や知人に話せるようになることである。講義の最後には簡単な小レポートを作成することで話の組み立てを練習する。

期末レポートは小レポートの内容が参考になるので、小レポートのコピーをとっておくこと。

本講義の性質上、講義計画に記載された内容は最低限の経由点であり、追加の内容を大量に含む。

<履修するにあたって>

時事・現代用語I、II、III はどの順番で履修しても構わない。

本講義は以下のように段階を踏んで学習するように設計されている。

「予習は受講の助けとなる。毎回の講義のゴールは小レポートにある。小レポートを足場に期末レポートを作成する。」

課題はweb上での提出となるため、スマートフォン等のwebにつながる媒体を持参すること。

<授業時間外に必要な学修>

事前に次週取り扱う分野の時事問題の資料を読んでおくこと。小1時間程度を費やすことが望ましい。

<提出課題など>

授業内での小レポートは、原則として授業時間内に提出すること。期限が切れた提出物も最終週まで受理するので、精力的に取り組むこと。

小レポートの評価は基本的に練習量と抽出による評価による。

期末レポートは基本的に最終回に提出すること。

期末レポートの内容は、小レポートの総合・発展的な内容となることに留意すること。

期末レポートは多数の設問からなるため、その評価は抽出による評価となる。

<成績評価方法・基準>

小レポート(50%)

提出数と、提出物を抽出・採点し計算された点数により評価する。

期末レポート(50%)

半期に学習した内容を問うレポート。評価項目はレポート課題に直接示す。

授業内での質問に対する加点がある。(+20%まで)

他、加点・減点がある。

小レポート数が過少・期末レポートの必須条件を満たさ

ない場合には、減点とする。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

本講義の概要、評価基準、履修方法の説明などを行う。講義の練習として短い時事問題を取り扱う。

第2回 食品小売業界の変化

日本の食品小売業界について基本的な事項を抑えた後その変化を概観する。同時に、簡潔な記述方法についても学ぶ。

第3回 農林水産業

6次産業化をはじめとする農林水産業を取り巻く情勢の変化も扱う。

第4回 地方再生・地方創生

さまざまな事例を交えながら、地方再生・地方創生についての官民の動きについて学ぶ。同時に、網羅することの重要性についても学ぶ。

第5回 労働・雇用問題

ここでは、下請け、派遣とは何かという基本的な事項、二重派遣と偽装請負などの問題を押さえ、非正規雇用についての問題と限定正社員等について理解する。

また、経緯を押さえることの重要性についても触れる。

第6回 保険と年金、社会保障と税の一体改革

成人し働き始めるまでは馴染みは薄いですが、生活するにあたって非常に重要な要素である保険、年金、福利厚生などについて、その実際をまず知ることから始める。さらにこれらにまつわる時事について学ぶ。

第7回 カイゼン、ルールメイキング、標準化

日本人は既存のルールの下で非常に勤勉であるとされている。近年自らルールを作ることに徐々に光が当てられつつある。ルールメイキングとは何か、それがどのような分野でどのように展開されつつあるのかを読み解く。

第8回 最新時事と復習

当授業計画に含まれない最新の時事から、重要と思われるものを取り上げる。

またここまでの復習を行う。

第9回 エネルギー問題

国内外のエネルギー安定供給について学ぶ。1次エネルギー・2次エネルギーの安定供給に分けて、歴史的背景を学び、そこからエネルギー問題の要点を見抜く。

第10回 先進テクノロジーとハイブ・サイクル

米ガートナー社の先進テクノロジーに関するハイブ・サイクルを読み解きながら、テクノロジーに関する時事問題を幅広く知る。基本的なグラフの読み方もここで学ぶ

第11回 さらに情報化、ビットの世界からアトムの世界へ

IoT、ユビキタス、クラウド、共に耳にしたことがある単語ではあると思う。しかしながら、その実体は我々ユーザーには見えづらいものだ。

ここではこの2つの語が指すものは何なのかを紐解き、

どのような新しいことが、どのように可能となったのかを明確にした上で、さらにそれらのコンセプトにまで遡りより豊かな理解に至る経験をすることとしよう。また、最近一般紙にも登場する「ビッグデータ」「データサイエンス」であるが、これによって一体何が変わるのか。そこに至るまでの長い歴史を概観し、通底する普遍的なアイデアに到達する。

第12回 広告とEコマースにまつわる諸問題

電子商取引、広告業、電子決済とこれらに関連する事項について基本的理解をした後、さまざまな関連性を見出しながら、幅広く問題点を発見することとしたい。

第13回 先進的な自動車と道路交通、物流

日本は世界に名だたる自動車立国であるが、ここにも変革の波が存在する。今回は高度道路交通システム（ITS）、自律運転、及びこれらについてのプロジェクト等に触れ、来るべき未来についてのシナリオを知ることとしよう。この回ではICT業界と自動車業界、2つの分野を結びつけて時事問題を理解するという点にも着目する。

また、日本は世界に冠たるインフラをもつ国である。物流の観点から幾つかの時事を読み解く。

第14回 自然科学の進展

しばしば混同される科学と技術ではあるが、ここでは応用的な技術ではなく、自然科学の最近の進展とその重要性について理解してゆく。

第15回 最新時事・まとめ

当授業計画に含まれない最新の時事から、重要と思われるものを取り上げる。

また、当授業のまとめを行う

2022年度 前期

2.0単位

時事・現代用語

中西 久雄

< 授業の方法 >

『オンデマンド』・『オンライン』・『対面』どれかで講義を行ないます。

いずれかの形で講義は行ないますが、どのような形になるかは社会情勢・大学の決定に依ります。

質問等は基本dotCampusにて行うこと

尚dotCampusがアクセスできない場合は以下にメールをあなたの所属・学籍番号・氏名・講義時間を明らかにして送信すること

h_nakanishi@ge.kobegakuin.ac.jp

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）

の本科目の取扱いについて

通常授業時の取扱いと同様に、休講とします。解除・発令時刻と授業・試験開始時限等、取扱いの詳細については大学ホームページの以下の場所に記載されているので、確認してください。

{大学ホームページで確認,URL: <https://www.kobegakuin.ac.jp/students/toriatsukai.html>}

< 授業の目的 >

主題:

時事問題・現代用語の理解を深める

社会と自分の関連性の理解ができるようになる

時事・現代用語 では国内時事問題を中心に講義を行ないます

< 到達目標 >

時事問題・現代用語の時代背景・歴史を修得できるようになる

他科目での学習に際して、時事問題を理解する事により、習得知識に厚みを持つことができるようになる

各種資格試験にも対応できる基礎的な知識の修得ができるようになる

< 授業のキーワード >

時事、現代用語、歴史、文化、環境

< 授業の進め方 >

授業のトピックに沿って解説を行ないます。

また、その週に起こった主要な時事案件、もしくは注目する時事案件を題材に解説を行なっていくこともあります。

情報端末を利用した参加型の授業を実施する場合があります。

< 履修するにあたって >

新聞を読んだり、地図を見たりする習慣を身につけてもらいたい、少なくともテレビのニュースは出来る限り見ておいてほしい。時事・現代用語は、今の問題を扱うので主題のところに書いてある内容以外にも、どんどん取り上げていきたい。また、時事・現代用語は、政治・経済・社会のトピックスのみではないので、科学技術、スポーツ、文化などの話題も盛り込んでいきます。このため主題や内容が変更する可能性があります。

エントリーシートや履歴書等にも記載できる全国統一評価であるニュース検定の受験を強く推奨します。目標は2級合格です。

< 授業時間外に必要な学修 >

新聞・ニュース・インターネットニュースなどでの情報収集を必ず行なう事

講義内容の復習・わからなかった言葉は必ず調べること
情報端末を利用した参加型授業を展開する場合は、少し予習を必要とする場合があります。

< 提出課題など >

授業内に指示し、授業内に提出する課題があります（不

定期・事前通知無)

<成績評価方法・基準>

オンデマンド・オンラインの場合

70%レポート課題(数回実施予定で授業内課題を含)+30%小テストとして評価します。(ニュース時事能力検定の合格者は加点を受けることができる)

対面の場合

30%レポート課題(数回実施予定で授業内課題を含)+70%期末テストとして評価します。(ニュース時事能力検定の合格者は加点を受けることができる)

<テキスト>

使用しません。配布プリントや映像教材などを使用します。

<参考図書>

2022年度版 ニュース検定 公式テキスト 「時事力」発展編(1・2・準2級対応)

2022年度版 ニュース検定 公式問題集 1・2・準2級

2022年度版 ニュース検定 公式テキスト&問題集 「時事力」基礎編(3級・4級対応)

<授業計画>

第1回 授業オリエンテーション

はじめに

ニュースに触れてみよう

新聞、ニュースの見方や各メディアの特徴を学習する

第2回 マスコミュニケーションとパーソナルコミュニケーション(1)

コミュニケーションの種類とそれぞれの特徴を学習しよう

第3回 マスコミュニケーションとパーソナルコミュニケーション(2)

コミュニケーションの種類とそれぞれの特徴を学習しよう

第4回 地球温暖化の問題を考えよう

なぜ今CO2削減と言われているのか、もし何もしなければどうなるのか。

どのような機関、システムが地球温暖化対策を行なっているのか理解しよう

第5回 日本の医療を考えよう

我々が受ける事の出来る基本的な医療システムを理解すると共に国民皆保険制度への理解、医師不足の現状などを学習しよう

第6回 食の安全を考えよう

産地偽装、食品添加物、残留農薬濃度、BSE、0157など様々な要因で我々の食の安全は脅かされている。過去にあった食に関する事件・事故を振り返り、食の安全について考えてみよう

第7回 農業について考えよう

就農の問題、食の自給率の問題など

農業にスポットライトを当てて様々な事を考えてみよう

第8回 人口問題・・・?(1)

日本は現在、少子高齢化が進んでいます。

この状態が続けば、どのような問題が起こるのか。

今までどのような対策がなされていたのか、振り返りながら今後の事を考えてみましょう

第9回 人口問題・・・?(2)

日本は現在、少子高齢化が進んでいます。

この状態が続けば、どのような問題が起こるのか。

今までどのような対策がなされていたのか、振り返りながら今後の事を考えてみましょう

第10回 商店街はどうなってる?(1)

空き店舗・店主の高齢化・跡継ぎ問題などで揺れる商手街。そんな商店街にスポットを当てて、商店街が担ってきたまちでの役割、今後の展開などを考えてみましょう

第11回 商店街はどうなってる?(2)

空き店舗・店主の高齢化・跡継ぎ問題などで揺れる商手街。そんな商店街にスポットを当てて、商店街が担ってきたまちでの役割、今後の展開などを考えてみましょう

第12回 住みやすいまちとは

住みやすいまちについてちょっと考えて見ましょう

第13回 練習問題練習

様々な時事の練習問題を練習します

第14回 2022年上半期振り返り

2022年上半期の出来事を振り返ります

第15回 まとめ

まとめ講義

2022年度 前期

2.0単位

時事・現代用語

中川 万喜子

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

この科目は、共通教育センターが「学生の到達目標」に掲げる、文化・社会・自然に関する広く豊かな知識を備え、それを社会に役立てること、自立的な学習基盤を備え、生涯学び続けていくことを目指しています。

専門を超えて将来社会人として必要とされる基礎思考力を育成するため、時事問題についての基礎知識を修得し、

新聞やテレビ、インターネットなどのニュースに関心をもって、近年話題になったキーワードやトピックスについて適切なコメントができるようになることを目的としています。

<到達目標>

受講生に身に付けて欲しい目標は、時事に関する読み取り・表現能力の修得です。

1. まず、新聞やテレビ、インターネットなどで報道されるニュースに関心を持ち、日々触れるようにする。(態度・習慣)

2. そして、世の中で起こっている事象に問題意識を持ち、その事象の背景にある仕組みや制度または歴史を理解できる。(知識)

3. その上で、問題点を抽出し、要約することができる。(技能)

4. 加えて、自身の考えも含め自らの言葉で表現できる。(技能)

<授業のキーワード>

政治・経済・社会の仕組み、国際情勢、社会問題

<授業の進め方>

講義中心で授業を進めますが、受講生からの意見や疑問点について積極的な発言を歓迎します。

具体的には、出席カードのコメント欄やdotCampus内の「コースフィード」を利用して、質問、自身の意見・感想などを記入してもらいます。

その内容を次の授業で共有するなどして、双方向型の授業を目指します。

各回、授業終了後、dotCampusにて、その日の授業内容に関しての小テスト形式の課題を出します。課題の提出期間は、授業終了後～5日間です。

時事問題として、最新の事象も盛り込んでいくので、授業計画の内容が変更される可能性があります。

<履修するにあたって>

受講生は、各人の専門性を常に意識し、大学での研究を進めていくための知的好奇心を高揚するよう努めてください。

<授業時間外に必要な学修>

日々、新聞やテレビ、インターネットなどで報道されるニュースをチェックするよう心掛けてください。

エントリーシートや履歴書等にも記載できる全国統一評価であるニュース時事能力検定の受験を推奨します。目標は準2級合格です。(授業内で詳細をお知らせします。)

<提出課題など>

各回、授業終了後、受講生には、dotCampusにて、その日の授業内容に関しての小テスト形式の課題を出します。

課題の提出方法：dotCampus内の「テスト」機能を利用して提出(提出期間：授業終了後～5日間)。また、出席カードのコメント欄やdotCampus内の「コースフィード」を利用して、質問、自身の意見・感想などを任意で

記入してください。

学生に対するフィードバック方法：dotCampusでは、テスト提出後に正解と解説が表示されます。これにもとづいて各自で復習をしてください。また、必要があれば、次の授業でテストの全体総括などを行います。

<成績評価方法・基準>

毎回出される授業後の課題(課題は、dotCampus内の「テスト」機能を利用して提出)の内容によって60%、定期試験によって40%の評価を行います。

毎回出される課題は、基本的に小テスト形式で、その日の授業で学修した知識の理解を問います。提出期限を守って、毎回課題に取り組むようにしてください。

定期試験は、本学期中に学修してきた知識の理解を問います。

本学期中に、ニュース時事能力検定に合格した者は加点を受けることができます。

<テキスト>

本授業では、テキストの指定はありません。

毎回資料を配付します。

<参考図書>

日本ニュース時事能力検定協会

『ニュース検定公式テキスト「時事力」発展編(1・2・準2級対応)』

『ニュース検定公式問題集 1・2・準2級』

<授業計画>

第1回 はじめに

本授業の概要、授業の進め方、評価方法の説明を行います。

第2回 情報収集とメディアの活用(1)

新聞記事・資料を読み解く能力を鍛えよう!

新聞の読み方、新聞記事の読解力チェック

第3回 情報収集とメディアの活用(2)

新聞記事・資料を読み解く能力を鍛えよう!

統計・データの読み方・使い方、図・表の読み取り度チェック

第4回 政治参加と選挙制度

「若者の政治離れ」が叫ばれて久しい。選挙年齢が「20歳以上」から「18歳以上」に引き下げられ、若者の政治への関心が高まるなどの期待があったものの、国政選挙での若者の投票率は伸び悩んでいる。若者は本当に政治への関心が希薄なのだろうか? そうだとすると、どうして関心が薄いのだろうか?

日本の政治と選挙の仕組みについて考えてみましょう。

第5回 領土と近隣の国々との外交(1)

領土問題とは何か? なぜ領土問題がおこるのか? 日本の抱える領土問題について、近隣の国々との関係について、歴史を踏まえて考えてみましょう。

第6回 領土と近隣の国々との外交(2)

領土問題とは何か？なぜ領土問題がおこるのか？日本の抱える領土問題について、近隣の国々との関係について、歴史を踏まえて考えてみましょう。

第7回 日本の安全保障

近年、「安全保障関連法」の成立、北朝鮮の核開発・ミサイル問題、中国の海洋進出など、日本の安全保障の在り方やそれを取り巻く環境が大きく変化してきました。さらに米国での政権交代は、日本の安全保障にどのような影響を与えるのでしょうか。

戦後日本の安全保障体制から安全保障関連法に至るまで、日本の安全保障について考えてみましょう。

第8回 憲法改正に向けた動き

改憲の国会議論は足踏み状態、国民の間では議論にすらならない。日本国憲法の成立過程と改正に向けた動き、憲法改正の手続きについて考えてみましょう。

第9回 日本の経済と経済政策（１）

GDP、中央銀行の役割、金融政策、インフレとデフレなど、日本の経済・経済政策についての基礎を学びましょう。

第10回 日本の経済と経済政策（２）

GDP、中央銀行の役割、金融政策、インフレとデフレなど、日本の経済・経済政策についての基礎を学びましょう。

第11回 グローバル化と日本の産業

グローバル経済が進展する中で、日本の製造業の凋落が叫ばれて久しい。しかし、大手はもちろん中小企業でも、日々独自の技術開発を進め、世界を相手に技術力で勝負する会社が日本にはひしめいている。日本の産業について考えてみましょう。

第12回 目指せ！観光立国（１）

経済波及効果の大きい観光は、急速に成長するアジアをはじめとする世界の観光需要を取り込むことにより、地域活性化、雇用機会の増大などの効果が期待できる。さらに、世界中の人々が日本の魅力を発見し、伝播することによる諸外国との相互理解の増進も同時に期待できる。観光立国を目指す取り組みについてみていきましょう。

第13回 目指せ！観光立国（２）

2020年、オリンピックでこれまでになく観光業界は活気づくはずであった。ところが、世界中でコロナウィルスが蔓延、観光を目的とする海外への移動ができなくなった。大打撃を受ける観光業界について、データをもとにみていきましょう。

第14回 エネルギー問題

脱原発、再生可能エネルギー、電力自由化など、日本のエネルギー政策について近年の動きを追ってみましょう。

第15回 まとめ

これまでの授業を振り返って、総括を行います。

2022年度 後期

2.0単位

時事・現代用語

植村 仁

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

主題：時事用語を軸とした、私たちの生きるこの社会の諸相、諸問題の把握。

目的：当科目は共通教育センター基礎思考分野に属し、この社会に関する基礎知識の修得と専門教育の基盤となる論述等の技術を磨くことを目的としている。具体的には以下の通りである。

1．講義中に取り上げる時事用語、ニュース、基礎知識などの知識を吸収し、これらについて簡潔に口頭・記述両面で表現できるようになること。人に説明できるようになること。

2．個々の時事・現代用語だけではなく、この世の様々な問題の奥底に流れている鍵となる、大枠となる概念や問題を知ること。

3．資料収集、論述についての初歩的かつ実践的な技能を身につけること。

全学のディプロマポリシーとの関係

1. 幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる。

幅広く主要な時事問題の理解をすることにより、視点を身の回りの世界から我々の住む社会全体へと広げ、広範な他者理解を推し進める。

2. さまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる。

問題解決のためには主要な問題を広範に知り、取り組むべき問題を選択する必要がある。当講義では広範な問題点の理解よりこれに貢献する。

3. 生涯にわたって学び続けることができる。

当講義では、情報収集能力、要約能力、論述能力を含む、ミニマムな諸リテラシー能力を伸長しつつ時事問題を能動的に読み解く。

4. 獲得した知識や技能を社会に役立てることができる。状況把握・判断・処理の第一歩、状況把握の最初の糸口を提供する。つまり、身の回りに起こっている問題はどのような大問題に繋がっているのかを提供する。

当科目担当者はソフトウェア開発の請負の経験を複数持つ実務経験のある教員である。また大学外での技術教育の経験を持つ。当科目では高度にIT化する社会についての事項をしばしば取り扱うが、この点で実際に即した解説をすることができる。また当科目は共通教育リテラシ

一科目群に属するが、担当者は中等教育、大学以外での高等教育においても長年のリテラシー教育に携わっており、中等教育から大学初年次教育への橋渡しをする者である。

<到達目標>

時事用語、ニュース、関連する基礎知識、諸時事・概念の関連性について理解し、簡明に口頭で答えられるようになる。自分の言葉で答えられるようになる。

理解した内容を、正確・簡潔に記述できるようになる。

副次的な目標:

基本的な資料収集ができるようになる。

<授業のキーワード>

時事、現代用語、社会問題

<授業の進め方>

授業中に調べ物をする必要が度々出てくるので、ネットワークに接続できる電子機器(スマートフォン等)を持参すること。

授業前に簡単にニュースを見ておくことを推奨する。日頃からニュースを見ることを少し習慣づけるとより楽しく受講できると思われる。

授業中では、まず私達が今持っている知識や知っているニュースを共有する。ここからスタートする。

次は基本的な記事を読み、最初の【とりあえずの】理解を試みる。この段階ではまだ十分な理解に至らない。正解を出すことに固執せず、質問や議論の中で理解を深める態度が望ましい。この講義ではありがちな間違いをしっかりと見ておくことを重視しているから、むしろ誤答を出し尽くすつもりで臨むこと。

十分な理解のためには、時事の前後の知識、注意点の補足、関係性の捕捉などが必要なので、これらを補う。具体的には、資料の飛ばし読みをしたり、要約の練習をしたり、問題を解いたりすることになる。

特に、単純な問題で足固めをし、より複合的な問題へと進んでゆく。

毎回の講義の目標は、学んだ内容を簡単に家族や知人に話せるようになることである。講義の最後には簡単な小レポートを作成することで話の組み立てを練習する。

期末レポートは小レポートの内容が参考になるので、小レポートのコピーをとっておくこと。

本講義の性質上、講義計画に記載された内容は最低限の経由点であり、追加の内容を大量に含む。

<履修するにあたって>

時事・現代用語I、II、III はどの順番で履修しても構わない。

本講義は以下のように段階を踏んで学習するように設計されている。

「予習は受講の助けとなる。毎回の講義のゴールは小レポートにある。小レポートを足場に期末レポートを作成する。」

エントリーシートや履歴書等にも記載できる全国統一評価であるニュース検定の受験を強く推奨する。目標は2級の合格としたい。

課題はweb上での提出となるため、スマートフォン等のwebにつながる媒体を持参すること。

<授業時間外に必要な学修>

事前に次週取り扱う分野の時事問題の資料を読んでおくこと。小1時間程度を費やすことが望ましい。

<提出課題など>

授業内での小レポートは、原則として授業時間内に提出すること。期限が切れた提出物も最終週まで受理するので、精力的に取り組むこと。

小レポートの評価は基本的に練習量と抽出による評価による。

期末レポートは基本的に最終回に提出すること。

期末レポートの内容は、小レポートの総合・発展的な内容となることに留意すること。

期末レポートは多数の設問からなるため、その評価は抽出による評価となる。

<成績評価方法・基準>

小レポート(50%)

提出数と、提出物を抽出・採点し計算された点数により評価する。

期末レポート(50%)

半期に学習した内容を問うレポート。評価項目はレポート課題に直接示す。

授業内での質問に対する加点がある。(+20%まで)

他、加点・減点がある。

小レポート数が過少・期末レポートの必須条件を満たさない場合には、減点とする。

<テキスト>

なし

<参考図書>

なし

<授業計画>

第1回 ガイダンス

本講義の概要、評価基準、履修方法の説明などを行う。講義の練習として短い時事問題を取り扱う。

第2回 日本人の生産性

よく働くとされている日本人であるが、実はその働き方には問題があるとされている。この観点から国内問題を概観してみよう。

第3回 日本と貿易

貿易に関する基本的事項を踏まえた後、EPA / FTAについて特徴を捕まえて理解し、貿易などに関連する時事を読み解くこととしたい。

第4回 日本のエネルギー問題、電力問題

まず火力発電、再生可能エネルギー、原子力発電について

て、数値データとともに理解する。

その後日本のエネルギー安全保障問題を基礎において、電力自由化の問題について議論する。

第5回 アジア・オセアニア情勢

主として極東・東南アジア情勢を概観する。日中、ASEAN諸国に関する経済・外交・安全保障問題を扱う。

第6回 日本の安全保障の問題とは何か

ここでは主に日米を中心とした安全保障問題を取り扱う。そのために広く安全保障問題とは何かについて理解を深める。

第7回 中東情勢

代表的な時事を簡単に理解した後、中東地域に存在する国家・勢力の関係を把握し、それに基づいて可能な限り網羅的に時事問題を学ぶ。

第8回 東欧・ロシア情勢

まずウクライナ騒乱、クリミア危機について取り扱う。そこから天然ガスにまつわる問題、東西冷戦構造、ソビエト連邦崩壊について学び、ロシア連邦の現在について考える。

第9回 最新時事・復習

当授業計画に含まれない最新の時事から、重要と思われるものを取り上げる。

またここまでの復習を行う。

第10回 石油からみる時事

下落が続く原油価格から、ここまでで学んだ内容を捉え直すのがこの回の目的である。

第11回 核問題

核軍縮に向かう大国と、核開発をする北朝鮮やイラン。ここから世界の動向を見てみよう。

第12回 情報を握る者が世界を握るのか

ここでは情報収集力とインテリジェンス、要約・編集された情報とは何か、ということについて学ぶ。

また、国家安全保障会議(日本版NSC)についても触れる。

第13回 米国・西欧情勢

米国・西欧情勢について、概況を踏まえた後、米国、EU、NATOと周辺諸国の間にある問題、EU内の問題について議論し、関係性を捕まえる。

第14回 アフリカ

開発途上国と先進国の関わりを中心に、主にサブサハラアフリカについての時事を取り扱う。

第15回 最新時事・まとめ

当授業計画に含まれない最新の時事から、重要と思われるものを取り上げる。

また、当授業のまとめを行う

2022年度 後期

2.0単位

時事・現代用語

中西 久雄

< 授業の方法 >

『オンデマンド』・『オンライン』・『対面』どれかで講義を行ないます。

いずれかの形で講義は行ないますが、どのような形になるかは社会情勢・大学の決定に依ります。

質問等は基本dotCampusにて行うこと

尚dotCampusがアクセスできない場合は以下にメールをあなたの所属・学籍番号・氏名・講義時間を明らかにして送信すること

h_nakanishi@ge.kobegakuin.ac.jp

特別警報(すべての特別警報)または暴風警報発令の場合(大雨、洪水警報等は対象外)

の本科目の取扱いについて

通常授業時の取扱いと同様に、休講とします。

解除・発令時刻と授業・試験開始時限等、取扱いの詳細については大学ホームページの

以下の場所に記載されているので、確認してください。

{大学ホームページで確認,URL: <https://www.kobegakuin.ac.jp/students/toriatsukai.html>}

< 授業の目的 >

主題:

時事問題・現代用語の理解を深める

社会と自分の関連性の理解ができるようになる

時事・現代用語 では国際時事問題を中心に講義を行ないます

< 到達目標 >

時事問題・現代用語の時代背景・歴史を修得できるようになる

他科目での学習に際して、時事問題を理解する事により、習得知識に厚みを持つことができるようになる

各種資格試験にも対応できる基礎的な知識の修得ができるようになる

< 授業のキーワード >

時事、現代用語、歴史、文化、環境、地理、政治

< 授業の進め方 >

授業のトピックに沿って解説を行ないます。

また、その週に起こった主要な事、もしくは注目する事を題材に解説を行なったりします。

情報端末を利用した参加型の授業を実施する場合があります。

<履修するにあたって>

新聞を読んだり、地図を見たりする習慣を身につけてもらいたいが、少なくともテレビのニュースや携帯・スマートフォンからアクセスできるニュース情報源は出来る限り見ておいてほしい。時事・現代用語は、今の問題を扱うので主題のところに書いてある内容以外にも、どんどん取り上げていきたい。また、時事・現代用語は、政治・経済・社会のトピックスのみではないので、科学技術、スポーツ、文化などの話題も盛り込んでいきます。このため主題や内容が変更する可能性があります。

エントリーシートや履歴書等にも記載できる全国统一評価であるニュース検定の受験を強く推奨します。目標は2級合格です。

<授業時間外に必要な学修>

新聞・ニュース・インターネットニュースなどでの情報収集を必ず行なう事。

情報端末を利用した参加型授業を展開する場合は、少し予習を必要とする場合があります。

<提出課題など>

レポート・授業内意見メモ等を予定しています(内容については授業内に発表します)

<成績評価方法・基準>

レポート課題(数回実施予定)90%・学習進捗状況10%として評価します。

(ニュース時事能力検定の合格者は加点を受けることができる)

<テキスト>

使用しません。配布プリントや映像教材などを使用します。

<参考図書>

2022年度版 ニュース検定 公式テキスト 「時事力」発展編(1・2・準2級対応)

2022年度版 ニュース検定 公式問題集 1・2・準2級

2022年度版 ニュース検定 公式テキスト&問題集 「時事力」基礎編(3級・4級対応)

<授業計画>

第1回 はじめに

授業の評価方法説明、ニュースの読み方・考え方

第2回 世界から見た日本

外国から日本はどのように見られているのでしょうか、みんなで考えて見ましょう

第3回 コンピューターの進化

コンピューターはどうやって発展し、何を我々にもたらしたのか考えてみましょう

第4回 情報社会の中の我々

情報社会は何をもたらしているのか、そして我々の生活は情報社会の中でどうなっていくのか考えてみましょう

第5回 コンピューターと情報社会

コンピューターは何をもたらしたのか、また情報社会は何をもたらしているのか考えてみましょう

第6回 民族問題

世界でおこっている様々な民族問題を考えてみましょう

第7,8回 中東の問題を考えて見よう

イラン、イラク、イスラエル、エジプトなど中近東諸国の問題を考えてみましょう

第9回 EU、ASEANなどの諸国連合

国の枠を超えた諸国連合が誕生してきています。それらの背景を考えてみましょう

第10回 世界経済の発展

一国の経済破綻が世界中に瞬時に影響を及ぼす時代となりました。その経済の歴史を顧みてみましょう

第11回 地域経済の重要性

世界経済を支えているのは地域経済であるということをつまえて、地域経済のことを考えてみましょう

第12回 就職試験(時事問題など)をやってみよう!

過去問題(社会分野)と最新時事問題を学習しながら、今起きている事を確認していこう

第13回 2022年下半期の出来事を振り返ろう

みんなで世界で起きた出来事を考えて見ましょう

第14回 2022年を振り返って、注目のトピックを深く見てみましょう

授業時まで注目されたトピックを深く掘り下げてみよう

第15回 まとめ

まとめ講義

2022年度 後期

2.0単位

時事・現代用語

中川 万喜子

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

この科目は、共通教育センターが「学生の到達目標」に掲げる、文化・社会・自然に関する広く豊かな知識を備え、それを社会に役立てること、自立的な学習基盤を備え、生涯学び続けていくことを目指しています。

専門を超えて将来社会人として必要とされる基礎思考力を育成するため、時事問題についての基礎知識を修得し、新聞やテレビ、インターネットなどのニュースに関心をもって、近年話題になったキーワードやトピックスについて適切なコメントができるようになることを目的としています。

<到達目標>

受講生に身に付けて欲しい目標は、時事に関する読み取り・表現能力の修得です。

1. まず、新聞やテレビ、インターネットなどで報道されるニュースに関心を持ち、日々触れるようにする。(態度・習慣)

2. そして、世の中で起こっている事象に問題意識を持ち、その事象の背景にある仕組みや制度または歴史を理解できる。(知識)

3. その上で、問題点を抽出し、要約することができる。(技能)

4. 加えて、自身の考えも含め自らの言葉で表現できる。(技能)

< 授業のキーワード >

政治・経済・社会の仕組み、国際情勢、社会問題

< 授業の進め方 >

講義中心で授業を進めますが、受講生からの意見や疑問点について積極的な発言を歓迎します。

具体的には、出席カードのコメント欄やdotCampus内の「コースフィード」を利用して、質問、自身の意見・感想などを記入してもらいます。

その内容を次の授業で共有するなどして、双方向型の授業を目指します。

各回、授業終了後、dotCampusにて、その日の授業内容に関しての小テスト形式の課題を出します。課題の提出期間は、授業終了後～5日間です。

時事問題として、最新の事象も盛り込んでいくので、授業計画の内容が変更される可能性があります。

< 履修するにあたって >

受講生は、各人の専門性を常に意識し、大学での研究を進めていくための知的好奇心を高揚するよう努めてください。

< 授業時間外に必要な学修 >

日々、新聞やテレビ、インターネットなどで報道されるニュースをチェックするよう心掛けてください。

エントリーシートや履歴書等にも記載できる全国統一評価であるニュース時事能力検定の受験を推奨します。目標は準2級合格です。(授業内で詳細をお知らせします。)

< 提出課題など >

各回、授業終了後、受講生には、dotCampusにて、その日の授業内容に関しての小テスト形式の課題を出します。

課題の提出方法：dotCampus内の「テスト」機能を利用して提出(提出期間：授業終了後～5日間)。また、出席カードのコメント欄やdotCampus内の「コースフィード」を利用して、質問、自身の意見・感想などを任意で記入してください。

学生に対するフィードバック方法：dotCampusでは、テスト提出後に正解と解説が表示されます。これにもとづいて各自で復習をしてください。また、必要があれば、次の授業でテストの全体総括などを行います。

< 成績評価方法・基準 >

毎回出される授業後の課題(課題は、dotCampus内の「

テスト」機能を利用して提出)の内容によって60%、定期試験によって40%の評価を行います。

毎回出される課題は、基本的に小テスト形式で、その日の授業で学修した知識の理解を問います。提出期限を守って、毎回課題に取り組むようにしてください。

定期試験は、本学期中に学修してきた知識の理解を問います。

本学期中に、ニュース時事能力検定に合格した者は加点を受けることができます。

< テキスト >

本授業では、テキストの指定はありません。

毎回資料を配付します。

< 参考図書 >

日本ニュース時事能力検定協会

『ニュース検定公式テキスト「時事力」発展編(1・2・準2級対応)』

『ニュース検定公式問題集 1・2・準2級』

< 授業計画 >

第1回 はじめに

本授業の概要、授業の進め方、評価方法の説明を行います。

第2回 グローバル化とは何か

今期のテーマは「グローバル化について」、グローバル化とは?グローバル化が及ぼす影響について考えてみましょう。

第3回 あなたの着ている服はどこ製?

国際的分業の進展、安い輸入品の増加、私たちの生活に何をもたらしたのでしょうか。

第4回 貿易と外国為替

貿易に大きくかわる外国為替相場の仕組み、対外収支の動きについて学びましょう。

第5回 ネクスト・ポリウムゾーン

BOP(Base of the Pyramid)ビジネスについて学びましょう。

映像を観てBOPビジネスへの関心を深めます。

第6回 最後のフロンティア「アフリカ」(1)

豊かな資源に支えられ経済成長を遂げるアフリカは、今後の主力製造地および消費地を担う「最後のフロンティア」として注目が集まっている。アフリカの成長可能性と課題、日本の援助・投資について考えてみましょう。

第7回 最後のフロンティア「アフリカ」(2)

豊かな資源に支えられ経済成長を遂げるアフリカは、今後の主力製造地および消費地を担う「最後のフロンティア」として注目が集まっている。アフリカの成長可能性と課題、日本の援助・投資について考えてみましょう。

第8回 グローバル化とリージョナル化

「グローバル化」に対する「リージョナル化」とは? WTOのラウンド交渉が機能不全を起こす中、国の枠を超えた地域経済連携が進み、自由貿易協定(FTA)、

経済連携協定（EPA）が増加しています。その背景と現状についてみていきましょう。

第9回 進む経済連携と揺らぐ自由貿易体制

近年、多数国間での自由貿易協定（FTA）、経済連携協定（EPA）の締結が増えている。日本がかかわるTPP、日欧EPA、RCEPなどの経済圏構想について、また覇権を争う米中貿易対立についてみていきましょう。

第10回 グローバル経済と農業・食料問題（1）

グローバル化が進む中で、生存にとってもっとも基本的な問題「食」について考えてみましょう。

映像を観て農業・食料問題への関心を深めます。

第11回 グローバル経済と農業・食料問題（2）

グローバル化が進む中で、生存にとってもっとも基本的な問題「食」について考えてみましょう。

映像を観て農業・食料問題への関心を深めます。

第12回 限りある地球と環境問題

SDGs、地球温暖化対策、プラスチックゴミ問題、生物多様性など、限りある地球における環境問題について考え、持続可能な未来へ向けた取り組みをみていきましょう。

第13回 険しい平和への道

テロ、人種・民族・宗教問題など、世界で紛争が絶えることはない。国際平和への取り組みと課題について考えてみましょう。

第14回 核なき世界への道のり

核兵器を違法とする初の条約「核兵器禁止条約」が2017年、採択された。だが、核保有国やその同盟国は参加せず、核廃絶への道のりは遠い。核兵器を規制する3つの条約の経緯を概観し、核廃絶に対する各国のスタンスをみていきましょう。

第15回 まとめ

これまでの授業を振り返って、総括を行います。

2022年度 前期

2.0単位

時事・現代用語

中川 万喜子

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、共通教育センターが「学生の到達目標」に掲げる、文化・社会・自然に関する広く豊かな知識を備え、それを社会に役立てること、自立的な学習基盤を備え、生涯学び続けていくことを目指しています。

専門を超えて将来社会人として必要とされる基礎思考力を育成するため、時事問題についての基礎知識を修得し、新聞やテレビ、インターネットなどのニュースに関心をもって、近年話題になったキーワードやトピックスについて適切なコメントができるようになることを目的とし

ています。

< 到達目標 >

受講生に身に付けて欲しい目標は、時事に関する読み取り・表現能力の修得です。

1. まず、新聞やテレビ、インターネットなどで報道されるニュースに関心を持ち、日々触れるようにする。（態度・習慣）

2. そして、世の中で起こっている事象に問題意識を持ち、その事象の背景にある仕組みや制度または歴史を理解できる。（知識）

3. その上で、問題点を抽出し、要約することができる。（技能）

4. 加えて、自身の考えも含め自らの言葉で表現できる。（技能）

当科目では、特に3、4を重視します。

< 授業のキーワード >

政治・経済・社会の仕組み、国際情勢、社会問題

< 授業の進め方 >

講義中心で授業を進めますが、受講生からの意見や疑問点について積極的な発言を歓迎します。

具体的には、出席カードのコメント欄を利用して、質問、自身の意見・感想などを記入してもらいます。

その内容を次の授業で共有するなどして、双方向型の授業を目指します。

時事問題として、最新の事象も盛り込んでいくので、授業計画の内容が変更される可能性があります。

< 履修するにあたって >

受講生は、各人の専門性を常に意識し、大学での研究を進めていくための知的好奇心を高揚するよう努めてください。

< 授業時間外に必要な学修 >

日々、新聞やテレビ、インターネットなどで報道されるニュースをチェックするよう心掛けてください。

エントリーシートや履歴書等にも記載できる全国統一評価であるニュース時事能力検定の受験を推奨します。目標は2級合格です。（授業内で詳細をお知らせします。）

< 提出課題など >

各回の授業の終わりに、受講生には、その日の授業内容に関しての小テストやコメントを求める課題を出します。次の授業で、その内容を共有するなどして総括を行います。

学期中にレポート課題を出します（dotCampus内の「レポート」機能を利用して提出）。

< 成績評価方法・基準 >

定期試験はありません。

毎回出される小テストやコメントを求める課題によって60%、レポート課題によって40%で総合的に評価します。

レポートでは、この授業で学修したレポートのフォーム、知識を用い、自らの調査内容、到達目標4.の自身の考えを含め、自らの言葉で表現できているかどうかといった点から評価を行います。

本学期中に、ニュース時事能力検定に合格した者は加点を受けることができます。

<テキスト>

本授業では、テキストの指定はありません。

毎回資料を配付します。

<参考図書>

山田 昌弘『新型格差社会』（朝日新書）新書，2021/4/13

山田 昌弘『日本の少子化対策はなぜ失敗したのか？結婚・出産が回避される本当の原因』（光文社新書）新，，2020/5/19

日本ニュース時事能力検定協会

『ニュース検定公式テキスト「時事力」発展編(1・2・準2級対応)』

『ニュース検定公式問題集 1・2・準2級』

<授業計画>

第1回 はじめに

本授業の概要、授業の進め方、評価方法の説明を行います。

第2回 読むスキル・書くスキル

新聞記事の読み方、インターネットでの情報収集の注意点を学びましょう。

レポートを書くための情報収集とメディアの活用方法、レポートの書き方を紹介します。

主要紙の読み比べをしてみましょう。

第3回 人口の変化と私たちの未来(1)

今期のテーマは「少子高齢社会における社会政策のあり方を考える」、少子高齢社会における諸問題と新たな社会経済システムについて考えていきましょう。

まずは人口の変化について、少子高齢社会から多死社会へ向かう中、人口減少問題に関する基本的な事柄について学びましょう。

第4回 人口の変化と私たちの未来(2)

今期のテーマは「少子高齢社会における社会政策のあり方を考える」、少子高齢社会における諸問題と新たな社会経済システムについて考えていきましょう。

映像を観て「超高齢クライシス」といわれる超高齢社会時代の問題について考えてみましょう。

第5回 財政と社会保障制度

超高齢社会において、福祉国家として重くのしかかる社会保障関連の負担。財政、社会保障について理解を深めましょう。

第6回 持続できるか!?社会保障

超高齢社会で増える医療費・介護費。医療制度、介護高

齢者福祉について考えましょう。

第7回 変わりゆく働き方

少子高齢化、人口減少社会では、労働力人口の減少という切実な課題がある。そのような中、女性や高齢者の活躍が期待される。働き方、家族のあり方、待機児童問題、高齢者の能力を社会に還元する仕組みなどについて考えましょう。

第8回 世代ごとに見た問題と貧困

少子高齢社会における諸問題は、世代ごとに異なっている。また豊かな社会に潜む「貧困」は、日本の現状と先行きを考える上では避けて通れない問題である。なぜ「格差」や「貧困」が生まれてしまうのか、格差是正や貧困の解消に向けた取り組みについてみていきましょう。

第9回 縮小ニッポンの衝撃

映像を観て、人口減少が進む日本で起こっている労働力不足問題について、高齢者労働力、外国人労働力の観点から考えていきましょう。

第10回 外国人労働者

少子高齢化が進む日本の将来を考えると、外国人労働者への依存は避けて通れず、日本はより多くの外国人労働者の受け入れに舵を切った。外国人労働者の受け入れについて、制度的変遷と実態についてみていきましょう。

第11回 超高齢社会の地方(1)

2040年には、全国の自治体の半数が人口減少によって消滅する可能性があると言われる。超高齢社会における地方はどのような問題に直面しているのか？東京一極集中を是正し、地方の人口減少に歯止めをかけるため、地域の活性化や雇用の創出などを目指す「地方創生」政策とはどのようなものなのか？これまでも様々な地方活性化策がとられてきた。これらの経緯も踏まえ、人口減少に悩む地方の活性化について考えてみましょう。

第12回 超高齢社会の地方(2)

2040年には、全国の自治体の半数が人口減少によって消滅する可能性があると言われる。超高齢社会における地方はどのような問題に直面しているのか？東京一極集中を是正し、地方の人口減少に歯止めをかけるため、地域の活性化や雇用の創出などを目指す「地方創生」政策とはどのようなものなのか？これまでも様々な地方活性化策がとられてきた。これらの経緯も踏まえ、人口減少に悩む地方の活性化について考えてみましょう。

第13回 買い物難民

地方では、自動車社会の進展、少子高齢化の進行等の影響により、鉄道、バスといった公共交通の利用者が年々減少、公共交通、地域小売商業の衰退により、モノがあふれるこの時代に日々の買い物に困る人々が増えています。

「移動販売」の事例の映像を観て、買い物支援の取り組みについて考えましょう。

第14回 住宅政策とまちづくり

総住宅数に占める空き家の割合は増加の一途とたどり、社会問題化しつつある。「新築ありき」の政策や人口減

少との関連、対応策について考えてみましょう。

第15回 まとめ

これまでの授業を振り返って、総括を行います。

2022年度 後期

2.0単位

思想の科学

平光 哲朗

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

主題 私たちが生きていることについて考える。

目的 授業全体を通して、私たちがいま生きている
ということを考えていきます。

前半ではまず、「考える」とはどうすることなのかを
見つめ直します。そのために、「問題とはどのようなも
のか」、「ことばは何をしているのか」など、さまざま
な視点から「考えること」を見直していきます。

後半では、いくつかの哲学的な問いに取り組みます。
「これは夢なのか現実なのか」、「私が死んだら世界は
終わるのか」、「心と体は同じものなのか」、「なんの
ために生きているのか」...、これらの問いかけから出発
して、私たちが生きていることを考えていきます。

この講義は全学DP1、3、4に対応しています。

< 到達目標 >

目標

- ・問いをもつ。
- ・いまより上手に考えることができるようになる。
- ・自分の考えを展開することができる。
- ・自分の考えを適切にことばに定着できる。
- ・自分のものの見方の前提を、疑ってみることができる。
- ・哲学的な問いを自分の身に引き付けて問い直す。

< 授業の進め方 >

これは講義です。受講者は講義を受けて考えたことを毎
回コメントとして記述します。その内容を、教員が次回
講義の冒頭で紹介します。それにより、受講者のみなさん
が考えたことを、受講者全体で共有します。そうする
ことで、受講者がさらなる考察への刺激と啓発を互いに
与え合うことができるようにします。こうした双方向的
で相互的な授業過程をとおして、受講者のみなさんが問
題の理解を深め、自発的に考察を続けていくよう促しま
す。

< 授業時間外に必要な学修 >

事後学習として、講義内容について自らの考察を深める
(目安として1時間程度)。

< 提出課題など >

講義各回についてのコメント記述とレポート課題。

< 成績評価方法・基準 >

講義内容の理解度と考察(60%)、レポート課題(4
0%)

< テキスト >

『はじめて考えるときのように 「わかる」ための哲
学的道案内』、野矢茂樹(文)植田真(絵)、PHP文
庫、2004年。

『哲学ってどんなこと? とっても短い哲学入門
』、トマス・ネーゲル著、岡本裕一郎・若松良樹訳、昭
和堂、1993年。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義全体の概要を理解する。

第2回 考えるってどうすること?

問題について考える。

第3回 問いのカタチ

アルキメデスは何を考えなければならなかったか。

第4回 論理ってなんだ?

論理的であることと考えることの違い。

第5回 ことばは何をしているのか?

否定の不思議、「この部屋にはパンダがいない」。

第6回 常識ってなんだ?

R2D1の悲劇。

第7回 考えるためのヒント

つめこんで、ゆさぶって、からっぽにする。

第8回 夢と現実について

私はいま夢を見ているのではないと確実に言えるのか。

第9回 他人の心について

あなたが味わうチョコの味は、彼が味わうチョコの味と
同じかどうか。

第10回 死について

私が死んだら世界は終わるのか。

第11回 正義について

私たちの抱える不平等はどうやって生まれるのか。

第12回 心と体の関係は?

あなたの心で起こっていることと、あなたの脳で生じて
いること。

第13回 選択の自由について

「私はケーキの代わりに桃を食べることができた」、の
か。

第14回 人生の意味について

私たちは何のために生きているのか。

第15回 総括

講義のまとめ。

2022年度 後期

2.0単位

思想の科学

金 瑛

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

全学DPにある「幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる」という目標を達成するために、特に資本主義や国家といったテーマを中心に現代社会の問題についての基礎知識を身につけてもらう。また、それらの問題に対してどのような取り組みが行われているのかについても解説し、現代社会の問題への向き合い方についても理解を深めてもらう。

< 到達目標 >

資本主義というシステム・思想が現代社会にどのような問題をもたらしているのかについて説明できる（知識）。「政治経済」という言葉への拒否感をなくし、社会問題への関心を持つことができる（態度・習慣）。講義をつうじて現代社会の問題について自ら問いを立て、考える力を養う（態度・習慣）

< 授業のキーワード >

資本主義、ナショナリズム、グローバリズム

< 授業の進め方 >

パワーポイントや映像資料を用いた講義を中心に進める。授業の最後にコメントカードを記入してもらい（遠隔授業はレポート提出）、質問やよいコメントがある場合には、次回の授業冒頭で解説を行うことがある。

< 履修するにあたって >

授業妨害となる私語などがあった場合は注意のうえ、改善されなければ失格扱いとする。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎授業後、復習として1時間程度、配布資料の見直しや関連資料を参照して理解を深めること。

< 提出課題など >

面接授業では毎回コメントカードを200字～400字程度記入してもらい、授業の理解度や参加度を判断する。白紙や配布資料の文章をそのまま写したコメント（考察が見られないコメント）は評価しないため注意すること。コメントカードには講義内容についての感想や質問を書いてもらうが、こちらから記入内容を指定する回もある。平常授業時のコメントカード（レポート）にて質問やよいコメントがある場合には、次回の授業の冒頭で解説を行うか、補足資料にて解説を行うことがある。最終レポートについては、講義期間中のフィードバックは行わない。

< 成績評価方法・基準 >

上記の授業内の提出課題（毎回のコメントカード）の記述内容による評価40%、最終レポート60%。評価の基準は、授業内の提出課題については、上記の「提出課題など」の項目を参照。

最終レポートでは、講義内容の理解と考察を総合的に評価する。詳細は授業期間の中盤に改めてアナウンスする。

< テキスト >

プリント資料を配布する。

< 参考図書 >

友枝敏雄・山田真茂留編『Do! ソシオロジー（改訂版）』有斐閣アルマ、2013年。

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

講義概要・採点方法などについて説明する。講義の前提となる社会学や社会思想史という学問についても概要を知ってもらう。

第2回 近代化を支える思想

現代社会の根本にある近代化を支えた資本主義とグローバリズムという思想についての理解を深める。

第3回 金融資本主義の問題点

貨幣中心で社会が回るようになるるとどのような問題が生じるのかについて、金融資本主義をキーワードに知識を深めてもらう。

第4回 資本主義とリスク

社会学のリスク社会論を中心に、経済活動に伴うリスクについて考えてもらう。

第5回 資本主義とジェンダー

資本主義という発想にジェンダー意識がどう関わっているのか理解を深めてもらう。

第6回 消費社会とは何か

経済成長を支えた消費社会というシステムや思想の問題点について考えてもらう。

第7回 脱消費という思想

消費社会の問題点や限界が明らかになるにつれて生まれた「脱消費」という思想の潮流について知ってもらい、資本主義との向き合い方について考えてもらう。

第8回 ナショナリズムとは何か

グローバル資本主義の発展に伴い生じるナショナリズムの問題について理解を深めてもらう。

第9回 ナショナリズムとカリスマ的支配

ナショナリズムという問題が現代の国際社会において持つ意味について知ってもらい、ナショナリズムの問題点についての理解を深めてもらう。

第10回 資本主義と再分配

資本主義への対抗策としての再分配の意義と限界について知ってもらう。

第11回 資本主義と互酬性

資本主義への対抗策としての互酬性の意義と限界について知ってもらう。

第12回 国家と市場の狭間

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・リーディング・語彙・文法

< 授業の進め方 >

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加方の授業です。積極的な参加が必要となります。

履修するにあたって

- 1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。
- 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。
- 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

毎回授業では、各Unit を2回（前半と後半）に分けて学修します。前期はUnit 1-7まで進みます。

Unit（前半）では、WARM-UPで対話の中に出てくる重要単語や表現、文法項目の説明と問題があります。LET'S LISTEN! ではキャンパスライフを舞台にした対話を聴き、大意把握問題をします。LET'S CHECK & READ ALOUD!では、LET'S LISTEN!で聴いた対話をもう一度聴き、対話文の空所補充問題の空欄を埋めます。そして日本語訳完成シートで台詞を確認し、対話文を音読、そしてパートナーとロールプレイ（役割演習）します。

Unit（後半）では、GRAMMARでWARM-UPで取り挙げられた文法項目の確認問題を解きます。LET'S READ!では、英米の大学や異文化理解に関する英文を読みます。大意把握問題に答えます。再度読んで日本語訳完成シートで内容を確認します。CHALLENGE YOURSELF!では、TOEIC Bridge形式のリスニング問題に挑戦します。最後、LET'S READ ALOUD & WRITE!で、授業のまとめとして学修した英語の対話文を音読筆写しましょう。これは授業時間外の課題として提出してもらいます。

授業始めに「前回授業の確認クイズ」と授業終わりに「授業振り返りクイズ」を行います。そして、「今回授業で学んだこと・まだ良く分からないかもしれないこと」を記入してもらいます。疑問点を解決することが大切です。授業で学んだ基本的な語彙、文法、リスニング、スピーキング、リーディングを確実に身につけましょう。

< 履修するにあたって >

必ず辞書を用意しておきましょう。

< 授業時間外に必要な学修 >

各回授業で学んだことを復習：標準0.5時間、次週学ぶことを予習：標準0.5時間してから授業に臨むこと。

< 成績評価方法・基準 >

* 定期試験は実施しません。

* 統一テスト（VELC）30%、授業内に実施する小テスト等40%、授業外で実施する英語学習・課題等30%

・大切な事柄は授業始めに伝えることが多い為、遅刻しないよう気をつけること。

・「授業内まとめテスト（1回目）」、「授業内まとめテスト（2回目）」に出席できないことが前もってわかっている場合は事前に連絡すること。

・「授業内まとめテスト（1回目）」は7週目に実施予定。欠席した場合は正当な理由がある場合にのみ翌週再実施。

・「授業内まとめテスト（2回目）」は14週目に実施予定。欠席した場合は正当な理由がある場合にのみ翌週再実施。

< テキスト >

『English Contrasts（イングリッシュ・ガイドー基本文法で学ぶ英語の使い方）』

著者：Robert Hickling

出版社：金星堂（¥1,900.-）

ISBN：978-4-7647-4143-0

< 授業計画 >

第1回 ・オリエンテーション

・発音練習

・Unit 1（前半）(pp. 6-8)：What's your major? スモールトーク

授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。

また今後の講義内容についてもお知らせします。

[* 第1回授業への自習：教科書を購入した際にpp. 6-8の重要単語・表現、文法、リスニング・スピーキングを読んで新出単語や問題に目を通しておく。疑問点を質問できるようにしておく（標準0.5時間）。]

・オリエンテーション：授業の進め方、テストと成績評価方法、教科書の予習・復習の進め方等を説明する。

・発音練習（母音、子音）

・Unit 1（前半）(pp. 6-8)：重要単語・表現、文法：be動詞、リスニング・スピーキング：話しかける表現 / 自己紹介

[* 第1回授業の復習：教科書pp. 6-8を見直し、間違った箇所を確認する（標準0.5時間）。 * 第2回授業への自習：教科書pp. 9-11の語彙、文法、リスニング、スピーキング、リーディングの発展問題の分からない単語は辞書で調べ、問題を解いておく。リスニング発展問題に関しては目を通しておく。疑問点を質問できるようにしておく（標準0.5時間）。]

第2回 Unit 1（後半）(pp. 9-11)：What's your major? スモールトーク

Unit 1（後半）(pp. 9-11)：文法発展問題、リーディング、リスニング発展問題

[* 第2回授業の復習：教科書pp. 9~11を見直し、間違っ
た箇所を確認する（標準0.5時間）。 * 第3回授業への自
習：教科書pp. 12~14の語彙、文法、リスニング、スピー
キング、リーディングの発展問題の分からない単語は
辞書で調べ、問題を解いておく。リスニング発展問題に
関しては目を通しておく。疑問点を質問できるようにし
ておく（標準0.5時間）。]

第3回 Unit 2（前半）(pp. 12~14): How do you like
your new school? クラブ活動

Unit 2（前半）(pp. 12~14): 重要単語・表現、文法：
一般動詞（現在形）、リスニング・スピーキング：人を
誘う / 別れ際の挨拶

[* 第3回授業の復習：教科書pp. 12~14を見直し、間違
った箇所を確認する（標準0.5時間）。 * 第4回授業への
自習：教科書pp. 15~17の語彙、文法、リスニング、ス
ピーキング、リーディングの発展問題の分からない単語
は辞書で調べ、問題を解いておく。リスニング発展問題
に関しては目を通しておく。疑問点を質問できるように
しておく（標準0.5時間）。]

第4回 Unit 2（後半）(pp. 15~17): How do you like
your new school? クラブ活動

Unit 2（後半）(pp. 15~17): 文法発展問題、リーディ
ング、リスニング発展問題

[* 第4回授業の復習：教科書pp. 15~17を見直し、間違
った箇所を確認する（標準0.5時間）。 * 第5回授業への
自習：教科書pp. 18~20の語彙、文法、リスニング、ス
ピーキング、リーディングの発展問題の分からない単語
は辞書で調べ、問題を解いておく。リスニング発展問題
に関しては目を通しておく。疑問点を質問できるように
しておく（標準0.5時間）。]

第5回 Unit 3（前半）(pp. 18~20): Let me introduce
a new member to you. 専攻

Unit 3（前半）(pp. 18~20): 重要単語・表現、文法：
一般動詞（過去形）、リスニング・スピーキング：人を
紹介する / 驚きを示す

[* 第5回授業の復習：教科書pp. 18~20を見直し、間違
った箇所を確認する（標準0.5時間）。 * 第6回授業への
自習：教科書pp. 21~23の語彙、文法、リスニング、ス
ピーキング、リーディングの発展問題の分からない単語
は辞書で調べ、問題を解いておく。リスニング発展問題
に関しては目を通しておく。疑問点を質問できるように
しておく（標準0.5時間）。]

第6回 Unit 3（後半）(pp. 21~23): Let me introduce
a new member to you. 専攻

Unit 3（後半）(pp. 21~23): 文法発展問題、リーディ
ング、リスニング発展問題

[* 第6回授業の復習：教科書pp. 21~23を見直し、間違
った箇所を確認する（標準0.5時間）。 * 第7回授業への
自習：「授業内まとめテスト（1回目）(Unit 1~3: pp.
6~23)」に備え、教科書pp. 6~23での総復習をしておく
（標準0.5時間）。教科書pp. 24~26の語彙、文法、リス
ニング、スピーキング、リーディングの発展問題の分か
らない単語は辞書で調べ、問題を解いておく。リスニン
グ発展問題に関しては目を通しておく。疑問点を質問で
きるようにしておく（標準0.5時間）。]

第7回 ・Units 1-3(pp. 6~23)までの授業総復習、
・「授業内まとめテスト（1回目）(Units 1-3: pp. 6~2
3)」、

・Unit 4（前半）(pp. 24~26): How was your Golden W
eek? 日本事象・休日

・前半総復習：Units 1-3(pp. 6~23)
・「授業内まとめテスト1回目（Units 1~3: pp. 6~23）
」、
・Unit 4（前半）(pp. 24~26): 重要単語・表現、文法
：未来形、リスニング・スピーキング：予定を述べえる
/ 説明する

[* 第7回授業の復習：教科書pp. 6~23とpp. 24~26を見
直し、間違った箇所を確認する（標準0.5時間）。 * 第8
回授業への自習：教科書pp. 27~29の語彙、文法、リス
ニング、スピーキング、リーディングの発展問題の分か
らない単語は辞書で調べ、問題を解いておく。リスニン
グ発展問題に関しては目を通しておく。疑問点を質問で
きるようにしておく（標準0.5時間）。]

第8回 ・「授業内まとめテスト（1回目）(pp. 6~23)」
の振り返り、

・Unit 4（後半）(pp. 27~29): How was your Golden W
eek? 日本事象・休日

・「授業内まとめテスト1回目(Unit 1~3: pp. 6~23)」
の振り返り：テスト採点結果を提示、間違った箇所を復
習する。答案の原本は回収する。

・Unit 4（後半）(pp. 27~29): 文法発展問題、リー
ディング、リスニング発展問題
[* 第8回授業の復習：教科書pp. 27~29を見直し、間違
った箇所を確認する（標準0.5時間）。 * 第9回授業への
自習：教科書pp. 30~32の語彙、文法、リスニング、
スピーキング、リーディングの発展問題の分からない単
語は辞書で調べ、問題を解いておく。リスニング発展問
題に関しては目を通しておく。疑問点を質問できるよ
うにしておく（標準0.5時間）。]

第9回 Unit 5（前半）(pp. 30~32): I'm looking for
a part-time job. アルバイト

Unit 5: (前半) (pp. 30~32): 重要単語・表現、文法：進行形、リスニング・スピーキング：詳細を尋ねる/理由を述べる

[*第9回授業の復習：教科書pp. 30~32を見直し、間違った箇所を確認する(標準0.5時間)。*第10回授業への自習：教科書pp. 33~35の語彙、文法、リスニング、スピーキング、リーディングの発展問題の分からない単語は辞書で調べ、問題を解いておく。リスニング発展問題に関しては目を通しておく。疑問点を質問できるようにしておく(標準0.5時間)。]

第10回 Unit 5(後半) (pp. 33~35): I'm looking for a part-time job. アルバイト

Unit 5: (後半) (pp. 33~35): 重要単語・表現、文法：進行形、リスニング・スピーキング：詳細を尋ねる/理由を述べる

[*第10回授業の復習：教科書pp. 33~35を見直し、間違った箇所を確認する(標準0.5時間)。*第11回授業への自習：教科書pp. 36~38の語彙、文法、リスニング、スピーキング、リーディングの発展問題の分からない単語は辞書で調べ、問題を解いておく。リスニング発展問題に関しては目を通しておく。疑問点を質問できるようにしておく(標準0.5時間)。]

第11回 Unit 6(前半) (pp. 36~38): What do you call this in Japanese? 学生食堂

Unit 6: (前半) (pp. 36~38): 重要単語・表現、文法：進行形、リスニング・スピーキング：詳細を尋ねる/理由を述べる

[*第11回授業の復習：教科書pp. 36~38を見直し、間違った箇所を確認する(標準0.5時間)。*第12回授業への自習：教科書pp. 39~41の語彙、文法、リスニング、スピーキング、リーディングの発展問題の分からない単語は辞書で調べ、問題を解いておく。リスニング発展問題に関しては目を通しておく。疑問点を質問できるようにしておく(標準0.5時間)。]

第12回 Unit 6(後半) (pp. 39~41): What do you call this in Japanese? 学生食堂

Unit 6: (後半) (pp. 39~41): 重要単語・表現、文法：進行形、リスニング・スピーキング：詳細を尋ねる/理由を述べる

[*第12回授業の復習：教科書pp. 39~41を見直し、間違った箇所を確認する(標準0.5時間)。*第13回授業への自習：教科書pp. 42~44の語彙、文法、リスニング、スピーキング、リーディングの発展問題の分からない単語は辞書で調べ、問題を解いておく。リスニング発展問題に関しては目を通しておく。疑問点を質問できるようにしておく(標準0.5時間)。]

第13回 Unit 7(前半) (pp. 42~44): Have you been there? パーティー企画

Unit 7: (前半) (pp. 42~44): 重要単語・表現、文法：進行形、リスニング・スピーキング：詳細を尋ねる/理由を述べる

[*第13回授業の復習：教科書pp. 42~44を見直し、間違った箇所を確認する(標準0.5時間)。*第14回授業への自習：教科書pp. 45~47の語彙、文法、リスニング、スピーキング、リーディングの発展問題の分からない単語は辞書で調べ、問題を解いておく。リスニング発展問題に関しては目を通しておく。疑問点を質問できるようにしておく(標準0.5時間)。 「授業内まとめテスト(2回目)(Unit 1~7: pp. 6~47)」に備え、教科書pp. 6~47までの総復習をしておく(標準0.5時間)。]

第14回 ・Unit 7(後半) (pp. 45~47): Have you been there? パーティー企画、

・Units 1-7(pp. 6~47)までの授業総復習、
・「授業内まとめテスト(2回目)(Units 1-7: pp. 6~47)」

・Unit 7: (後半) (pp. 45~47): 重要単語・表現、文法：進行形、リスニング・スピーキング：詳細を尋ねる/理由を述べる

・授業総復習(Units 1-7: pp. 6~47)
・「授業内まとめテスト(2回目)(Units 1-7: pp. 6~47)」

[*第14回授業の復習：教科書pp. 6~47を見直し、間違った箇所を確認する(標準0.5時間)。*第15回授業への自習：教科書pp. 6~47の疑問点を質問できるようにしておく(標準0.5時間)。]

第15回 ・「授業内まとめテスト(2回目)(Unit 1~7: pp. 6~47)」の振り返り

・授業総復習(Unit 1~7: pp. 6~47)
・「授業内まとめテスト2回目)(Unit 1~7: pp. 6~47)」の振り返り：テスト採点結果を提示、間違った箇所を復習する。答案の原本は回収する。

・授業総復習(Unit 1~7: pp. 6~47)
[*第15回授業の復習：教科書pp. 6~47を見直し、間違った箇所を確認する(標準0.5時間)。]

2022年度 前期

1.0単位

実用英語 A【管理】

E C C、廣重 尚実

<授業の方法>

演習

< 授業の目的 >

実用英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。学部での学びが必要となるリーディング技能を中心に学習する。その中で中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをする。既習の文法項目について総復習をし、様々な技能の基礎となる能力を育てる。この科目は、全学DPIに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

・ 300-500語の英文を読み、その内容を具体的に説明できる。(知識) | ・ 読んだ英文について自分の意見や感想を仲間と共有できる。(態度・習慣) | ・ 英文の内容に関心を持ち、その内容と自らと比較し、内容を深めることができる。(態度・習慣) | ・ 様々なリーディングの技法(スキミング、スキニングなど)を応用できる。(技能) | ・ 初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

< 授業のキーワード >

リーディング・語彙・文法

< 授業の進め方 >

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加型の授業ですので積極的な参加が必要となります。

< 履修するにあたって >

- 1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。
- 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。
- 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

- 1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。(週30分程度)
- 2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。(週1時間程度)

< 提出課題など >

授業内で課題の内容および提出方法・期限などについてお知らせします。

< 成績評価方法・基準 >

授業内評価(小テスト20% プレゼンテーション10% 授業参加度10%)
授業外評価(授業外課題30%)
統一テスト30%

< テキスト >

A Matter of Taste 出版社:南雲堂 1870円(税込)
ISBN: 9784523177067

< 授業計画 >

- 第1回 オリエンテーション
授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。
また今後の講義内容についてもお知らせします。
- 第2回 Unit 1-1
エネルギー産生栄養素 Energy-Providing Nutrients (1)
- 第3回 Unit 1-2
エネルギー産生栄養素 Energy-Providing Nutrients (2)
- 第4回 Unit 2-1
栄養学: 略史 Nutrition Science: A Brief History (1)
- 第5回 Unit 2-2
栄養学: 略史 Nutrition Science: A Brief History (2)
- 第6回 Unit 3-1
主食 Staple Foods (1)
- 第7回 Unit 3-2
主食 Staple Foods (2)
- 第8回 Unit 4-1
食の文化遺産 The Cultural Heritage of Food (1)
- 第9回 Unit 4-2
食の文化遺産 The Cultural Heritage of Food (2)
- 第10回 Unit 5-1
弁当箱のアート The Art of the Bento Box (1)
- 第11回 Unit 5-2
弁当箱のアート The Art of the Bento Box (2)
- 第12回 Unit 6-1
日本の給食制度 Kyushoku: The Japanese School Lunch (1)
- 第13回 Unit 6-2
日本の給食制度 Kyushoku: The Japanese School Lunch (2)
- 第14回 Unit 7-1
こども食堂 Kodomo Shokudo (1)
- 第15回 Unit 7-2
こども食堂 Kodomo Shokudo (2)

2022年度 前期

1.0単位
実用英語 C【臨検】
高松 琢麻

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

実用英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づ

けられる。学部での学びが必要となるリーディング技能を中心に学習する。その中で中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをする。既習の文法項目について総復習をし、様々な技能の基礎となる能力を育てる。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

<到達目標>

・ 300-500語の英文を読み、その内容を具体的に説明できる。(知識) | ・ 読んだ英文について自分の意見や感想を仲間と共有できる。(態度・習慣) | ・ 英文の内容に関心を持ち、その内容と自らと比較し、内容を深めることができる。(態度・習慣) | ・ 様々なリーディングの技法(スキミング、スキミングなど)を応用できる。(技能) | ・ 初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

<授業のキーワード>

リーディング・語彙・文法

<授業の進め方>

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加型の授業です。積極的な参加が必要となります。

<履修するにあたって>

- 1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。
- 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。
- 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

<授業時間外に必要な学修>

- 1) 授業外で行う課題。(毎日最低10分)
- 2) 授業日に学んだ内容の復習。(毎日1時間程度)

<提出課題など>

授業内で課題の内容および提出方法・期限などについてお知らせします。

<成績評価方法・基準>

統一テスト30%

授業内に実施する小テスト等40%

授業外で実施する英語学習・課題等30%

<テキスト>

The Earth and Our Health (成美堂 1980円)

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。また今後の講義内容についてもお知らせします。

第2回 Unit 1

A Good Night's Sleep: How Sleep Improves Learning
第3回 Unit 2

Walking Your Way to Better Health

第4回 Unit 3

An Unhealthy Choice: Smoking

第5回 復習 (1)

Unit 1からUnit 3の復習

第6回 Unit 4

I'm Stressed Out! Stress and Illness

第7回 Unit 5

Hahhhhhchu! Allergies

第8回 Unit 6

Preventing Cancer: Knowing the Warning Signs

第9回 復習 (2)

Unit 4からUnit 6の復習

第10回 Unit 7

Is a Little Alcohol Healthy?

第11回 Unit 8

Playing Mother Nature: Genetically Engineering Crops

第12回 復習 (3)

Unit 7 & Unit 8の復習

第13回 Unit 9

What's Really in My Food? Organic Food Labeling

第14回 Unit 10

Getting an Extra Boost: Sports Supplements

第15回 前期のまとめと復習

前期の既習項目の総復習

2022年度 前期

1.0単位

実用英語 A【経済】

安田 有紀子、立花 千尋、藤井 晶宏、ECC、高基秀、廣重 尚実

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

実用英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。学部での学びが必要となるリスニングやスピーキングの技能を中心に学習する。その中で中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをする。既習の文法項目について総復習をし、様々な技能の基礎となる能力を育てる。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

<到達目標>

・ 場面設定や背景をもとに、短い会話の全体的な内容を

把握できる。(知識)

・自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて簡単に述べるができる。(知識)

・相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣)

・発音や発話練習に積極的に参加できる(態度・習慣)

・初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

<授業のキーワード>

リスニング・スピーキング・語彙・文法

<授業の進め方>

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加方の授業ですので積極的な参加が必要となります。

<履修するにあたって>

1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。

2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。

3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

<授業時間外に必要な学修>

1) 授業外で行う課題。(毎日最低10分)

2) 授業日に学んだ内容の復習。(毎日1時間程度)

<提出課題など>

授業内で課題の内容および提出方法・期限などについてお知らせします。

<成績評価方法・基準>

統一テスト30%

授業内に実施する小テスト等40%

授業外で実施する英語学習・課題等30%

<テキスト>

English Listening and Speaking Patterns 3 (南雲堂 2, 200円)

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。

また今後の講義内容についてもお知らせします。

第2回 Unit 1

Family: Adding information and clarifying comments

第3回 Unit 2

Friends: Cheering people up and offering support

第4回 Unit 3

Culture: Asking for agreement and showing agreement

第5回 Unit 4

Unit 1からUnit 3の復習

第6回 Unit 5

Education: Talking about what's possible and impossible

第7回 #REF!

Sports: Asking if someone is serious and adding afterthoughts

第8回 unit 6

Work: Positive emphasis and unfortunate events

第9回 復習 (2)

Unit 4からUnit 6の復習

第10回 Unit 7

Food: Asking and explaining why something happened

第11回 Unit 8

Studying English: Giving mixed answers and strong statements

第12回 復習 (3)

Unit 7 & Unit 8の復習

第13回 Unit 9

Health: Thanking someone and responding to thanks

第14回 Unit 10

Clothes: Admitting and denying things

第15回 前期のまとめと復習

前期の既習項目の総復習

2022年度 前期

1.0単位

実用英語 A【人文】

E C C

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

実用英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。学部での学びで必要となる英語4技能を包括的に学習する。その中で中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをする。既習の文法項目について総復習をし、様々な技能の基礎となる能力を育てる。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

<到達目標>

・場面設定や背景をもとに、短い会話の全体的な内容を把握できる。(知識)

・自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて簡単に述べるができる。(知識)

・相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣)

・発音や発話練習に積極的に参加できる(態度・習慣)

・初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

<授業のキーワード>

リスニング・スピーキング・リーディング・語彙・文法

<授業の進め方>

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加型の授業です。積極的な参加が必要となります。

<履修するにあたって>

1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。

2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。

3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

<授業時間外に必要な学修>

1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。(週30分程度)

2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。(週1時間程度)

<提出課題など>

必要に応じて課された課題を提出。詳細は授業内で指示する。

<成績評価方法・基準>

授業内評価(小テスト20% プレゼンテーション10%

授業参加度10%)

授業外評価(授業外課題30%)

統一テスト30%

<テキスト>

ECC ENGLISH CLINIC Orion 出版社:ECC 4580円(税込)

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。

また今後の講義内容についてもお知らせします。

第2回 Unit 1

What's today's special?

第3回 Unit 2

How often do you take lessons?

第4回 Unit 3

Do you feel like going out for a drink?

第5回 復習

Unit 1 ~ Unit 3の復習

第6回 Unit 4

Could I go on a business trip?

第7回 Unit 5

I'd like a one-way ticket to Santa Barbara, please

e.

第8回 Unit 6

Are you a researcher?

第9回 復習

Unit 4 ~ Unit 6の復習

第10回 Unit 7

How was your day?

第11回 Unit 8

Can I get a refund?

第12回 Unit 9

I like Jean's Jewels better.

第13回 Unit 10

Where is it exactly?

第14回 プレゼンテーション準備

プレゼンテーションの準備を行います。

第15回 前期のまとめとプレゼンテーション

前期の既習項目の総復習とプレゼンテーション

2022年度 前期

1.0単位

実用英語 A【心理】

ECC

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

実用英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。学部での学びで必要となるリーディング技能を中心に学習する。その中で中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをする。既習の文法項目について総復習をし、様々な技能の基礎となる能力を育てる。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

<到達目標>

・場面設定や背景をもとに、短い会話の全体的な内容を把握できる。(知識)

・自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて簡単に述べるができる。(知識)

・相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣)

・発音や発話練習に積極的に参加できる(態度・習慣)

・初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

<授業のキーワード>

リーディング・語彙・文法

<授業の進め方>

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加型の授業です。積極的な参加が必要となります。

<履修するにあたって>

- 1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。
- 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。
- 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

<授業時間外に必要な学修>

- 1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。(週30分程度)
- 2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。(週1時間程度)

<提出課題など>

必要に応じて課された課題を提出。詳細は授業内で指示する。

<成績評価方法・基準>

授業内評価(小テスト20% プレゼンテーション10%
授業参加度10%)

授業外評価(授業外課題30%)

統一テスト30%

<テキスト>

Everyday Psychology 出版社:南雲堂 1760円(税込)

ISBN: 9784523174691

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。

また今後の講義内容についてもお知らせします。

第2回 Unit 1-1

Do good luck charms really work?

第3回 Unit 1-2

信じれば花開くのがお守り

第4回 Unit 2-1

Are people born shy?

第5回 Unit 2-2

シャイな性格は生まれつき?

第6回 Unit 3-1

Does the way you sleep show your personality?

第7回 Unit 3-2

寝相は人の性格を表す!?

第8回 Unit 4-1

Do too many choices make us unhappy?

第9回 Unit 4-2

品数の多いのは消費者泣かせ

第10回 Unit 5-1

Can positive thinking lead to longer, happier lives?

第11回 Unit 5-2

長生きには本人の積極性と周囲のやさしさが不可欠

第12回 Unit 6-1

Why are music and singing so important?

第13回 Unit 6-2

音楽は最高の治療薬

第14回 プレゼンテーション準備

プレゼンテーションの準備を行います

第15回 前期のまとめとプレゼンテーション

前期の既習項目の総復習とプレゼンテーション

2022年度 前期

1.0単位

実用英語 A【総リハ】

E C C

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

実用英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。学部での学びで必要となる英語4技能を包括的に学習する。その中で中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをする。既習の文法項目について総復習をし、様々な技能の基礎となる能力を育てる。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

<到達目標>

・場面設定や背景をもとに、短い会話の全体的な内容を把握できる(知識)

・自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて簡単に述べるができる(知識)

・相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる(態度・習慣)

・発音や発話練習に積極的に参加できる(態度・習慣)

・初出の単語や表現について辞書などで調べることができる(技能)

<授業のキーワード>

リスニング・スピーキング・リーディング・語彙・文法

<授業の進め方>

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加型の授業です。積極的な参加が必要となります。

<履修するにあたって>

1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。

2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。

3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。(週30分程度)

2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。(週1時間程度)

< 提出課題など >

必要に応じて課された課題を提出。詳細は授業内で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

授業内評価(小テスト20% プレゼンテーション10%
授業参加度10%)

授業外評価(授業外課題30%)

統一テスト30%

< テキスト >

Discoverer 1 出版社:ECC 2970円(税込)

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション
授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。
また今後の講義内容についてもお知らせします。

第2回 Conversation 1
Your Childhood

第3回 Conversation 2
Your Background

第4回 復習
About your past self

第5回 Conversation 3
Your Routines

第6回 Conversation 4
Routines

第7回 復習
Routines

第8回 Focus 1
Would you like to go to the Arctic?

第9回 Conversation 5
Fantasies

第10回 復習
Future Travel

第11回 Focus 2
What can you do in Nagasaki?

第12回 Conversation 6
Cities

第13回 総復習

総復習

第14回 プレゼンテーション準備

プレゼンテーションの準備を行います

第15回 前期のまとめとプレゼンテーション

前期の既習項目の総復習とプレゼンテーション

2022年度 前期

1.0単位

実用英語 A【法】

神谷 佳郎、ECC、OTC、竹中 美奈子、栢木 敦子、和田 憲明

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

実用英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。学部での学びで必要となるリーディング技能を中心に学習する。その中で中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをする。既習の文法項目について総復習をし、様々な技能の基礎となる能力を育てる。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

・場面設定や背景をもとに、短い会話の全体的な内容を把握できる。(知識)

・自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて簡単に述べるができる。(知識)

・相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣)

・発音や発話練習に積極的に参加できる(態度・習慣)

・初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

< 授業のキーワード >

リーディング・語彙・文法

< 授業の進め方 >

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加方の授業です。積極的な参加が必要となります。

< 履修するにあたって >

1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。

2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。

3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に

臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

- 1) 授業外で行う課題。(毎日最低10分)
 - 2) 授業日に学んだ内容の復習。(毎日1時間程度)
- < 提出課題など >
- 授業内で課題の内容および提出方法・期限などについてお知らせします。

< 成績評価方法・基準 >

統一テスト30%

授業内に実施する小テスト等40%

授業外で実施する英語学習・課題等30%

< テキスト >

Reading Explorer 2, 3rd Edition Text Only (センゲ
ージャーニング 3,025円) ISBN 978-0-35-711626-5

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。
また今後の講義内容についてもお知らせします。

第2回 Unit 1-1

Reading A: Sweet Love

第3回 Unit 1-2

Reading B: Food for the Future

第4回 Unit 2-1

Reading A: Songs of the Humpback

第5回 Unit 2-2

Reading B: The 1,000-Year Bird Song

第6回 Unit 3-1

Reading A: Was King Tut Murdered?

第7回 Unit 3-2

Reading B: Who Killed the Iceman?

第8回 前半のまとめ

Unit 1からUnit 3の復習

第9回 Unit 4-1

Reading A: Living Treasures

第10回 Unit 4-2

Reading B: The Changing Face of Kung Fu

第11回 Unit 5-1

Reading A: The Secrets in the Sand

第12回 Unit 5-2

Reading B: The Stories in the Rocks

第13回 Unit 6-1

Reading A: Cities Beneath the Sea

第14回 Unit 6-2

Reading B: The Truth about Great Whites

第15回 前期のまとめと復習

前期の既習項目の総復習

2022年度 前期

1.0単位

実用英語 B【経営】

日高 文代、山本 由美子、西村 瑠里子、高 雅妃、
ECC

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

実用英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に
属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づ
けられる。学部での学びで必要となるリーディング技能
を中心に学習する。その中で中学・高校で培ってきた英
語力の基礎固めをする。既習の文法項目について総復習
をし、様々な技能の基礎となる能力を育てる。この科目
は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内
外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論
し、学びを深め、協働して社会に役立てることができ
る」を目指す。

< 到達目標 >

・場面設定や背景をもとに、短い会話の全体的な内容を
把握できる。(知識)

・自分自身について、大学生活や身の回りのできごとにつ
いて簡単に述べるができる。(知識)

・相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示
すことができる。(態度・習慣)

・発音や発話練習に積極的に参加できる(態度・習慣)

・初出の単語や表現について辞書などで調べることがで
きる。(技能)

< 授業のキーワード >

リーディング・語彙・文法

< 授業の進め方 >

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施
します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れ
ます。発言や発表の機会も多くある学生参加方の授業で
すので積極的な参加が必要となります。

< 履修するにあたって >

1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情が
ない限り単位認定されません。

2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニ
ケーション能力を高めることを目的としています。その
ため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められま
す。

3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に
臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

1) 授業外で行う課題。(毎日最低10分)

2) 授業日に学んだ内容の復習。(毎日1時間程度)

< 提出課題など >

授業内で課題の内容および提出方法・期限などについてお知らせします。

< 成績評価方法・基準 >

統一テスト30%

授業内に実施する小テスト等40%

授業外で実施する英語学習・課題等30%

< テキスト >

Success with reading Book 2 (成美堂 2750円)

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。

また今後の講義内容についてもお知らせします。

第2回 Unit 1-1

The Pencil (1)

第3回 Unit 1-2

The Pencil (2)

小テスト

第4回 Unit 2-1

Running Marathons (1)

第5回 Unit 2-2

Running Marathons (2)

小テスト

第6回 Unit 3-1

Supestition (1)

第7回 Unit 3-2

Superstition (2)

小テスト

第8回 Unit 4-1

The Printing Press (1)

第9回 Unit 4-2

The Printing Press (2)

小テスト

第10回 Unit 5-1

How Safe Is Air Travel? (1)

第11回 Unit 5-2

How Safe Is Air Travel? (2)

小テスト

第12回 Unit 6-1

Jazz Music (1)

第13回 Unit 6-2

Jazz Music (2)

小テスト

第14回 Unit 7-1

Inflation (1)

第15回 復習テスト

学習した内容を確認する筆記試験を行います。試験範囲、内容は授業内で伝えます。

2022年度 前期

1.0単位

実用英語 A【薬】

E C C

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

実用英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。学部での学びで必要となるリーディングやスピーキングの技能を中心に学習する。また、この学部ではTOEICでの高得点を取得するための学習をする。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

・場面設定や背景をもとに、短い会話の全体的な内容を把握できる。(知識)

・自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて簡単に述べるができる。(知識)

・相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣)

・発音や発話練習に積極的に参加できる(態度・習慣)

・初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・リーディング・語彙・文法・TOEIC

< 授業の進め方 >

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加方の授業です。積極的な参加が必要となります。

< 履修するにあたって >

1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。

2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。

3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

1) 授業外で行う課題。(毎日最低10分)

2) 授業日に学んだ内容の復習。(毎日1時間程度)

< 提出課題など >

授業内で課題の内容および提出方法・期限などについて

お知らせします。

<成績評価方法・基準>

授業内評価（小テスト20% プレゼンテーション10%
授業参加度10%） 授業外評価（授業外課題30%） 統一テスト30%

<テキスト>

Talking with Your Patients in English 出版社：成美堂 2750円(税込) ISBN:9784791971930

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。
また今後の講義内容についてもお知らせします。

第2回 Unit 1-1

Welcomng a Patient (1)

第3回 Unit 1-2

Welcomng a Patient (2)

第4回 Unit 2-1

Taking Vital Signs (1)

第5回 Unit 2-2

Taking Vital Signs (2)

第6回 Unit 3-1

Pain Assessment (1)

第7回 Unit 3-2

Pain Assessment (2)

第8回 Unit 4-1

Feeling So Sick! (1)

第9回 Unit 4-2

Feeling So Sick! (2)

第10回 Unit 5-1

Transferring a Patient (1)

第11回 Unit 5-2

Transferring a Patient (2)

第12回 Unit 6-1

Medical Departments (1)

第13回 Unit 6-2

Medical Departments (2)

第14回 プレゼンテーション準備

プレゼンテーションの準備を行います

第15回 前期のまとめと試験

前期の既習項目の総復習とプレゼンテーション

2022年度 前期

1.0単位

実用英語 A【現社・社防】

広部 昭子、ECC

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

実用英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に

属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。学部での学びで必要となるリスニングやスピーキングの技能を中心に学習する。その中で中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをする。既習の文法項目について総復習をし、様々な技能の基礎となる能力を育てる。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

<到達目標>

・場面設定や背景をもとに、短い会話の全体的な内容を把握できる。（知識）

・自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて簡単に述べるができる。（知識）

・相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。（態度・習慣）

・発音や発話練習に積極的に参加できる（態度・習慣）

・初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。（技能）

<授業のキーワード>

リスニング・スピーキング・語彙・文法

<授業の進め方>

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加型の授業です。積極的な参加が必要となります。

<履修するにあたって>

1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。

2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。

3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

<授業時間外に必要な学修>

1) 授業外で行う課題。（毎日最低10分）

2) 授業日に学んだ内容の復習。（毎日1時間程度）

<提出課題など>

授業内で課題の内容および提出方法・期限などについてお知らせします。

<成績評価方法・基準>

統一テスト30%

授業内に実施する小テスト等40%

授業外で実施する英語学習・課題等30%

<テキスト>

Which Side Are You On?（成美堂 2310円）

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。

また今後の講義内容についてもお知らせします。

第2回 Unit 1-1

Cell phones: Do we use them too much? (1)

第3回 Unit 1-2

Cell phones: Do we use them too much? (2)

第4回 Unit 2-1

"Freeters": Can people be satisfied with a freeter lifestyle in the long term? (1)

第5回 Unit 2-2

"Freeters": Can people be satisfied with a freeter lifestyle in the long term? (2)

第6回 Unit 3-1

The Olympic Games: Have they lost their meaning? (1)

第7回 Unit 3-2

The Olympic Games: Have they lost their meaning? (2)

第8回 Unit 4-1

Marriage: Should people get married earlier? (1)

第9回 Unit 4-2

Marriage: Should people get married earlier? (2)

第10回 Unit 5-1

Smoking and drinking: Should we do more to stop people smoking and drinking? (1)

第11回 Unit 5-2

Smoking and drinking: Should we do more to stop people smoking and drinking? (2)

第12回 Unit 6-1

English: Should everyone learn it? (1)

第13回 Unit 6-2

English: Should everyone learn it? (2)

第14回 Unit 7-1

Exercise: Is it good for everyone? (1)

第15回 Unit 7-2

Exercise: Is it good for everyone? (2)

2022年度 前期

1.0単位

実用英語 A【GC・中/日】

OTC

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

実用英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。学部での学びで必要となるリスニングやスピーキングの技能を中心に学習する。その中で中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをする。既習の文法項目について総復習をし、様々な技能の基礎となる能力を育

てる。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

尚、この授業の担当者は企業内英語研修を複数年経験している実務経験のある教員で、より実践的な観点から英語学習を指導する。

< 到達目標 >

・場面設定や背景をもとに、短い会話の全体的な内容を把握できる。(知識)

・自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて簡単に述べる事ができる。(知識)

・相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣)

・発音や発話練習に積極的に参加できる(態度・習慣)

・初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・語彙・文法

< 授業の進め方 >

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加型の授業です。積極的な参加が必要となります。

< 履修するにあたって >

1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。

2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。

3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

1) 授業外で行う課題。(毎日最低10分)

2) 授業日に学んだ内容の復習。(毎日1時間程度)

< 提出課題など >

授業内で課題の内容および提出方法・期限などについてお知らせします。

< 成績評価方法・基準 >

統一テスト30%

授業内に実施する小テスト等40%

授業外で実施する英語学習・課題等30%

< テキスト >

World Wide English on DVD Volume 1 -Revised Edition- (成美堂 2750円)

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。

また今後の講義内容についてもお知らせします。

第2回 Unit 1-1
Los Angeles: Living the Dream (1)
第3回 Unit 1-2
Los Angeles: Living the Dream (2)
第4回 Unit 2-1
Los Angeles: Meetig Differend Kinds of People (1)
第5回 Unit 2-2
Los Angeles: Meetig Differend Kinds of People (2)
第6回 Unit 3-1
Scotland: A Country Filled with Imagination and New Ideas (1)
第7回 Unit 3-2
Scotland: A Country Filled with Imagination and New Ideas (2)
第8回 Unit 4-1
Scotland: Being a Typical Scot, and Proud of It (1)
第9回 Unit 4-2
Scotland: Being a Typical Scot, and Proud of It (2)
第10回 Unit 5-1
Canada: Living in Harmony with Nature (1)
第11回 Unit 5-2
Canada: Living in Harmony with Nature (2)
第12回 Unit 6-1
Canada: A Young Adventurer in Ottawa (1)
第13回 Unit 6-2
Canada: A Young Adventurer in Ottawa (2)
第14回 Unit 7-1
Review Section 1 (1)
第15回 Unit 7-2
Review Section 1 (2)

2022年度 前期

1.0単位

実用英語 再・A

ECC、竹中 美奈子

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

実用英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。学部での学びが必要となる英語4技能を包括的に学習する。その中で中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをする。既習の文法項目について総復習をし、様々な技能の基礎となる能力を育てる。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

指す。

< 到達目標 >

- ・場面設定や背景をもとに、短い会話の全体的な内容を把握できる(知識)
- ・自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて簡単に述べるができる(知識)
- ・相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる(態度・習慣)
- ・発音や発話練習に積極的に参加できる(態度・習慣)
- ・初出の単語や表現について辞書などで調べることができる(技能)

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・リーディング・語彙・文法
< 授業の進め方 >

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加型の授業です。積極的な参加が必要となります。

< 履修するにあたって >

- 1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。
- 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。
- 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

- 1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。(週30分程度)
- 2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。(週1時間程度)

< 提出課題など >

必要に応じて課された課題を提出。詳細は授業内で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

授業内評価(小テスト20% プレゼンテーション10%
授業参加度10%)
授業外評価(授業外課題30%)
統一テスト30%

< テキスト >

Challenger 2 出版社:ECC 2970円(税込)

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。また今後の講義内容についてもお知らせします。

第2回 Focus 1

What does your father look like?

第3回 Conversation 1

Describing People

第4回 復習

Describing Others

第5回 Situation 1

Explaining Food

第6回 Conversation 2

Cooking

第7回 復習

Talking about Food

第8回 Conversation 3

Restaurants

第9回 Conversation 4

Eating Out

第10回 復習

Restaurants

第11回 Focus 2

What did you clean?

第12回 Focus 3

Where did you go shopping?

第13回 総復習

総復習

第14回 プレゼンテーション準備

プレゼンテーションの準備を行います

第15回 前期のまとめとプレゼンテーション

前期の既習項目の総復習とプレゼンテーション

2022年度 後期

1.0単位

実用英語 再・A

ECC、竹中 美奈子、OTC、大川 弘子、廣重 尚実

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

実用英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。学部での学びで必要となる英語4技能を包括的に学習する。その中で中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをする。既習の文法項目について総復習をし、様々な技能の基礎となる能力を育てる。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

- ・ 場面設定や背景をもとに、短い会話の全体的な内容を把握できる。(知識)
- ・ 自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて簡単に述べるができる。(知識)
- ・ 300-500語の英文を読み、その内容を具体的に説明で

きる。(知識)

・ 相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣)

・ 読んだ英文について自分の意見や感想を仲間と共有できる。(態度・習慣)

・ 初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・リーディング・語彙・文法

< 授業の進め方 >

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加方の授業です。積極的な参加が必要となります。

< 履修するにあたって >

1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。| 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。| 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。(週30分程度)| 2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。(週1時間程度)

< 提出課題など >

必要に応じて課された課題を提出。詳細は授業内で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

授業内評価(小テスト20% プレゼンテーション10% 授業参加度10%) 授業外評価(授業外課題30%) 統一テスト30%

< テキスト >

Challenger 2 出版社:ECC 2970円(税込)

< 授業計画 >

第1回 Conversation 5

Places

第2回 Conversation 6

Dream Vacations

第3回 復習

Future Travel Desires

第4回 Focus 4

Do you like festivals?

第5回 Conversation 7

Free Time

第6回 復習

Free time activities

第7回 Situation 2

Giving Gifts

第8回 Conversation 8

Presents

第9回 復習

Gifts

第10回 Situation 3

Shopping at a Drugstore

第11回 Situation 4

Paying for Things

第12回 復習

At the Cash Register

第13回 総復習

総復習

第14回 プレゼンテーション準備

プレゼンテーションの準備を行います

第15回 後期のまとめとプレゼンテーション

後期の既習項目の総復習とプレゼンテーション

2022年度 後期

1.0単位

実用英語 A【管理】

ECC、廣重 尚実

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

実用英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。学部での学びが必要となるリーディング技能を中心に学習する。その中で中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをする。既習の文法項目について総復習をし、様々な技能の基礎となる能力を育てる。この科目は、全学DPIに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

・場面設定や背景をもとに、短い会話の全体的な内容を把握できる。(知識)

・自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて簡単に述べるができる。(知識)

・相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣)

・発音や発話練習に積極的に参加できる(態度・習慣)

・初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

< 授業のキーワード >

リーディング・語彙・文法

< 授業の進め方 >

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加方の授業で

すので積極的な参加が必要となります。

< 履修するにあたって >

1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。

2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。

3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。(週30分程度)

2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。(週1時間程度)

< 提出課題など >

授業内で課題の内容および提出方法・期限などについてお知らせします。

< 成績評価方法・基準 >

授業内評価(小テスト20% プレゼンテーション10% 授業参加度10%)

授業外評価(授業外課題30%)

統一テスト30%

< テキスト >

A Matter of Taste 出版社:南雲堂 1870円(税込)

ISBN: 9784523177067

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

Unit 8-1

後期の授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。

スーパーフード Can Foods Be Super? (1)

第2回 Unit 8-2

スーパーフード Can Foods Be Super? (2)

第3回 Unit 9-1

ハラールフード Halal Food (1)

第4回 Unit 9-2

ハラールフード Halal Food (2)

第5回 Unit 10-1

味が肝心 How We Taste (1)

第6回 Unit 10-2

味が肝心 How We Taste (2)

第7回 Unit 11-1

機内食 Airline Food (1)

第8回 Unit 11-2

機内食 Airline Food (2)

第9回 Unit 12-1

砂糖: 知っておくべきこと Suger: What You Need to Know now (1)

第10回 Unit 12-2

砂糖: 知っておくべきこと Suger: What You Need to Know

now (2)

第11回 Unit 13-1

砂糖税 Sugar Tax (1)

第12回 Unit 13-2

砂糖税 Sugar Tax (2)

第13回 Unit 14-1

抗酸化物質 Antioxidants (1)

第14回 Unit 14-2

抗酸化物質 Antioxidants (2)

第15回 後期のまとめと復習

後期の既習項目の総復習

2022年度 後期

1.0単位

実用英語 C【臨検】

高松 琢麻

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

実用英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。学部での学びが必要となるリーディング技能を中心に学習する。その中で中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをする。既習の文法項目について総復習をし、様々な技能の基礎となる能力を育てる。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

- ・場面設定や背景をもとに、短い会話の全体的な内容を把握できる。(知識)
- ・自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて簡単に述べるができる。(知識)
- ・相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣)
- ・発音や発話練習に積極的に参加できる(態度・習慣)
- ・初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

< 授業のキーワード >

リーディング・語彙・文法

< 授業の進め方 >

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加型の授業ですので積極的な参加が必要となります。

< 履修するにあたって >

1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。

2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。

3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

1) 授業外で行う課題。(毎日最低10分)

2) 授業日に学んだ内容の復習。(毎日1時間程度)

< 提出課題など >

授業内で課題の内容および提出方法・期限などについてお知らせします。

< 成績評価方法・基準 >

統一テスト30%

授業内に実施する小テスト等40%

授業外で実施する英語学習・課題等30%

< テキスト >

The Earth and Our Health (成美堂 1980円)

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション | Unit 11

後期の授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。

| Better than Chicken Soup? A New Cold Medicine

第2回 Unit 12

Drug-resistant Superbugs

第3回 Unit 13

Global Warming: A Global Warning

第4回 復習 (1)

Unit 11からUnit 13の復習

第5回 Unit 14

Solar Energy: A Gift from the Sun

第6回 Unit 15

A Drop in the Bucket: Storing Drinking Water

第7回 Unit 16

A Brown Cloud over Asia

第8回 復習 (2)

Unit 14からUnit 16の復習

第9回 Unit 17

Cleaning up the Mess: Oil Spills

第10回 Unit 18

Building a Nuclear Mountain

第11回 Uni6 19

Where Have All the Forests Gone?

第12回 復習 (3)

Unit 17からUnit 19 の復習

第13回 Unit 20

Dust in the Wind

第14回 Unit 21

Keeping the Dead Sea Alive

第15回 後期のまとめと復習

後期の既習項目の総復習

2022年度 後期

1.0単位

実用英語 A【経済】

安田 有紀子、立花 千尋、藤井 晶宏、ECC、高基秀、廣重 尚実

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

実用英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。学部での学びが必要となるリスニングやスピーキングの技能を中心に学習する。その中で中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをする。既習の文法項目について総復習をし、様々な技能の基礎となる能力を育てる。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

- ・場面設定や背景をもとに、短い会話の全体的な内容を把握できる。(知識)
- ・自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて簡単に述べるができる。(知識)
- ・相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣)
- ・発音や発話練習に積極的に参加できる(態度・習慣)
- ・初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・語彙・文法

< 授業の進め方 >

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加方の授業です。積極的な参加が必要となります。

< 履修するにあたって >

- 1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。
- 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。
- 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

- 1) 授業外で行う課題。(毎日最低10分)
- 2) 授業日に学んだ内容の復習。(毎日1時間程度)

< 提出課題など >

授業内で課題の内容および提出方法・期限などについてお知らせします。

< 成績評価方法・基準 >

統一テスト30%

授業内に実施する小テスト等40%

授業外で実施する英語学習・課題等30%

< テキスト >

English Listening and Speaking Patterns 3 (南雲堂 2, 200円)

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

後期授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。

第2回 Unit 11

Traveling: Returning a favor and saving money

第3回 Unit 12

Music: Making direct and indirect requests

第4回 Unit 13

Movie: Talking about what people are saying and not saying

第5回 Unit 14

Unit 11からUnit 13の復習

第6回 Unit 15

Shopping: Giving and choosing options

第7回 #REF!

Internet: Expressing and dealing with worries

第8回 Unit 16

Weather: Asking for a comment and making balanced comments

第9回 復習 (2)

Unit 14からUnit 16の復習

第10回 Unit 17

Feelings: Confident statements and uncertain statements

第11回 Unit 18

Government: Persuading with negative questions

第12回 復習 (3)

Unit 17 & Unit 18の復習

第13回 Unit 19

Art: Talking about what we can and can't imagine

第14回 Unit 20

The Future: Talking about similar experiences

第15回 後期のまとめと復習

後期の既習項目の総復習

2022年度 後期

1.0単位

実用英語 A【人文】

ECC

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

実用英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。学部での学びが必要となる英語4技能を包括的に学習する。その中で中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをする。既習の文法項目について総復習をし、様々な技能の基礎となる能力を育てる。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

- ・場面設定や背景をもとに、短い会話の全体的な内容を把握できる。(知識)
- ・自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて簡単に述べるができる。(知識)
- ・相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣)
- ・発音や発話練習に積極的に参加できる(態度・習慣)
- ・初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・リーディング・語彙・文法
< 授業の進め方 >

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加型の授業ですので積極的な参加が必要となります。

< 履修するにあたって >

- 1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。
- 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。
- 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

- 1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。(週30分程度)
- 2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。(週1時間程度)

< 提出課題など >

必要に応じて課された課題を提出。詳細は授業内で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

授業内評価(小テスト20% プレゼンテーション10% 授業参加度10%) 授業外評価(授業外課題30%) 統一テスト30%

< テキスト >

ECC ENGLISH CLINIC Orion 出版社 : ECC 4580円(税込)

< 授業計画 >

第1回 Unit 11

Is there anything I can do to help?

第2回 Unit 12

Why don't you call her and apologize?

第3回 Unit 13

It's on the fifth floor, next to the swimming pool

第4回 復習

Unit 11 ~ Unit 13の復習

第5回 Unit 14

I'm going to go sightseeing.

第6回 Unit 15

It happened on Wednesday.

第7回 Unit 16

May I speak to Mr. Biggle, please?

第8回 復習

Unit 14 ~ Unit 16の復習

第9回 Unit 17

Did you have a good time in Taiwan?

第10回 Unit 18

I was so moved.

第11回 Unit 19

What's going on?

第12回 Unit 20

That's very nice of you.

第13回 復習

Unit 17 ~ Unit 20の復習

第14回 プレゼンテーション準備

プレゼンテーションの準備を行います

第15回 後期のまとめとプレゼンテーション

後期の既習項目の総復習とプレゼンテーション

2022年度 後期

1.0単位

実用英語 A【心理】

ECC

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

実用英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。学部での学びが必要となるリーディング技能を中心に学習する。その中で中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをする。既習の文法項目について総復習をし、様々な技能の基礎となる能力を育てる。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内

外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

<到達目標>

・場面設定や背景をもとに、短い会話の全体的な内容を把握できる。(知識)

・自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて簡単に述べるができる。(知識)

・相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣)

・発音や発話練習に積極的に参加できる(態度・習慣)

・初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

<授業のキーワード>

リーディング・語彙・文法

<授業の進め方>

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加型の授業です。積極的な参加が必要となります。

<履修するにあたって>

1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。

2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。

3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

<授業時間外に必要な学修>

1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。(週30分程度) | 2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。(週1時間程度)

<提出課題など>

必要に応じて課された課題を提出。詳細は授業内で指示する。

<成績評価方法・基準>

授業内評価(小テスト20% プレゼンテーション10% 授業参加度10%) 授業外評価(授業外課題30%) 統一テスト30%

<テキスト>

Everyday Psychology 出版社:南雲堂 1760円(税込)

ISBN: 9784523174691

<授業計画>

第1回 Unit 7-1

Do good luck charms really work?

第2回 Unit 7-2

信じれば花開くのがお守り

第3回 Unit 8-1

Are people born shy?

第4回 Unit 8-2

シャイな性格は生まれつき?

第5回 Unit 9-1

Does the way you sleep show your personality?

第6回 Unit 9-2

寝相は人の性格を表す!?

第7回 復習

Unit7からUnit9の復習

第8回 Unit 10-1

Do too many choices make us unhappy?

第9回 Unit 10-2

品数の多いのは消費者泣かせ

第10回 Unit 11-1

Can positive thinking lead to longer, happier lives?

第11回 Unit 11-2

長生きには本人の積極性と周囲のやさしさが不可欠

第12回 Unit 12-1

Why are music and singing so important?

第13回 Unit 12-2

音楽は最高の治療薬

第14回 プレゼンテーション準備

プレゼンテーションの準備を行います

第15回 後期のまとめとプレゼンテーション

後期の既習項目の総復習とプレゼンテーション

2022年度 後期

1.0単位

実用英語 A【総リハ】

E C C

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

実用英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。学部での学びで必要となる英語4技能を包括的に学習する。その中で中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをする。既習の文法項目について総復習をし、様々な技能の基礎となる能力を育てる。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

<到達目標>

・場面設定や背景をもとに、短い会話の全体的な内容を把握できる。(知識)

・自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて簡単に述べるができる。(知識)

・相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示

することができる。(態度・習慣)

・発音や発話練習に積極的に参加できる(態度・習慣)
・初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

<授業のキーワード>

リスニング・スピーキング・リーディング・語彙・文法
<授業の進め方>

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加型の授業です。積極的な参加が必要となります。

<履修するにあたって>

- 1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。
- 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。
- 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

<授業時間外に必要な学修>

- 1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。(週30分程度)
- 2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。(週1時間程度)

<提出課題など>

必要に応じて課された課題を提出。詳細は授業内で指示する。

<成績評価方法・基準>

授業内評価(小テスト20% プレゼンテーション10%
授業参加度10%) 授業外評価(授業外課題30%) 統一テスト30%

<テキスト>

Discoverer 1 出版社:ECC 2970円(税込)

<授業計画>

第1回 Situation 1

Talking about Health

第2回 Situation 2

At the Doctor's

第3回 復習

Health

第4回 Situation 3

Sharing News

第5回 Situation 4

Asking How Others Are Doing

第6回 復習

Talking About Others

第7回 Focus 3

What's your new coworker like?

第8回 Conversation 7

People You Know

第9回 復習

Describing Others

第10回 Situation 5

Making Appointments

第11回 Situation 6

Arranging a Meeting

第12回 復習

On the Phone

第13回 総復習

総復習

第14回 プレゼンテーション準備

プレゼンテーションの準備を行います

第15回 後期のまとめとプレゼンテーション

後期の既習項目の総復習とプレゼンテーション

2022年度 後期

1.0単位

実用英語 A【法】

神谷 佳郎、ECC、OTC、竹中 美奈子、栢木 敦子、和田 憲明

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

実用英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。学部での学びで必要となるリーディング技能を中心に学習する。その中で中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをする。既習の文法項目について総復習をし、様々な技能の基礎となる能力を育てる。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

<到達目標>

・場面設定や背景をもとに、短い会話の全体的な内容を把握できる。(知識)

・自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて簡単に述べるができる。(知識)

・相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣)

・発音や発話練習に積極的に参加できる(態度・習慣)

・初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

<授業のキーワード>

リーディング・語彙・文法

<授業の進め方>

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加型の授業で

すので積極的な参加が必要となります。

<履修するにあたって>

- 1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。
- 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。
- 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

<授業時間外に必要な学修>

- 1) 授業外で行う課題。(毎日最低10分)
- 2) 授業日に学んだ内容の復習。(毎日1時間程度)

<提出課題など>

授業内で課題の内容および提出方法・期限などについてお知らせします。

<成績評価方法・基準>

統一テスト30%

授業内に実施する小テスト等40%

授業外で実施する英語学習・課題等30%

<テキスト>

Reading Explorer 2, 3rd Edition Text Only (センゲージラーニング 3,025円) ISBN 978-0-35-711626-5

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

後期の授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。

第2回 Unit 7-1

Reading A: The Flower Trade

第3回 Unit 7-2

Reading B: The Power of Perfume

第4回 Unit 8-1

Reading A: An Incredible Journey

第5回 Unit 8-2

Reading B: The Travels of Ibn Battuta

第6回 Unit 9-1

Reading A: The Teenage Brain

第7回 Unit 9-2

Reading B: Seeing Double

第8回 Unit 10-1

Reading A: The Big Thaw

第9回 Unit 10-2

Reading B: Life on the Edge

第10回 Unit 11-1

Reading A: The Knowledge Illusion

第11回 Unit 11-2

Reading B: The Limits of Lying

第12回 Unit 12-1

Reading A: The Dream of Flight

第13回 Unit 12-2

Reading B: Dark Descent

第14回 Reading Practice

Reading Practice for TOEIC Test

第15回 後期のまとめと復習

後期の既習項目の総復習

2022年度 後期

1.0単位

実用英語 B【経営】

日高 文代、山本 由美子、西村 瑠里子、高 雅妃、ECC

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

実用英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。学部での学びが必要となるリーディング技能を中心に学習する。その中で中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをする。既習の文法項目について総復習をし、様々な技能の基礎となる能力を育てる。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

<到達目標>

・場面設定や背景をもとに、短い会話の全体的な内容を把握できる。(知識)

・自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて簡単に述べるができる。(知識)

・相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣)

・発音や発話練習に積極的に参加できる(態度・習慣)

・初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

<授業のキーワード>

リーディング・語彙・文法

<授業の進め方>

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加型の授業です。積極的な参加が必要となります。

<履修するにあたって>

1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。

2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。

3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

- 1) 授業外で行う課題。(毎日最低10分)
- 2) 授業日に学んだ内容の復習と予習。(毎回1時間程度)

< 提出課題など >

授業内で課題の内容および提出方法・期限などについてお知らせします。

< 成績評価方法・基準 >

統一テスト30%

授業内に実施する復習テスト 30%

授業内で実施する小テスト 20%

授業外の課題 20%

< テキスト >

Success with reading Book 2 (成美堂 2750円)

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

Unit 8-1

前期授業の振り返りと後期授業の進め方や成績評価を説明します。

The Word "Hello" (1)

第2回 Unit 8-2

The Word "Hello" (2)

小テスト

第3回 Unit 9-1

Trans Fats (1)

第4回 Unit 9-2

Trans Fats (2)

小テスト

第5回 Unit 10-1

Braille (1)

第6回 Unit 10-2

Braille (2)

小テスト

第7回 Unit 11-1

Nightmares (1)

第8回 Unit 11-2

Nightmares (2)

小テスト

第9回 Unit 12-1

The Power of Positive Thinking (1)

第10回 Unit 12-2

The Power of Positive Thinking (2)

小テスト

第11回 Unit 13-1

The Andes Mountain Range (1)

第12回 Unit 13-2

The Andes Mountain Range (2)

小テスト

第13回 Unit 14-1

Freedom Riders (1)

第14回 Unit 14-2

Freedom Riders (2)

小テスト

第15回 復習テスト

学習した内容の理解を確認する筆記試験を行います。試験範囲、内容は授業内で伝えます。

2022年度 後期

1.0単位

実用英語 A【薬】

EC C

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

実用英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。学部での学びで必要となるリーディングやスピーキングの技能を中心に学習する。また、この学部ではTOEICでの高得点を取得するための学習をする。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

- ・場面設定や背景をもとに、短い会話の全体的な内容を把握できる。(知識)
- ・自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて簡単に述べるができる。(知識)
- ・相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣)
- ・発音や発話練習に積極的に参加できる(態度・習慣)
- ・初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・リーディング・語彙・文法・TOEIC

< 授業の進め方 >

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加型の授業です。積極的な参加が必要となります。

< 履修するにあたって >

- 1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。
- 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。
- 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に

臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

- 1) 授業外で行う課題。(毎日最低10分)
 - 2) 授業日に学んだ内容の復習。(毎日1時間程度)
- < 提出課題など >

授業内で課題の内容および提出方法・期限などについてお知らせします。

< 成績評価方法・基準 >

授業内評価(小テスト20% プレゼンテーション10%
授業参加度10%) 授業外評価(授業外課題30%) 統一テスト30%

< テキスト >

Talking with Your Patients in English 出版社:成美堂 2750円(税込) ISBN:9784791971930

< 授業計画 >

- 第1回 Unit 7-1
Review & Medical Terminology(1)
- 第2回 Unit 7-2
Review & Medical Terminology(2)
- 第3回 Unit 8-1
Personal Care(1)
- 第4回 Unit 8-2
Personal Care(2)
- 第5回 Unit 9-1
Giving Medication to a Patient(1)
- 第6回 Unit 9-2
Giving Medication to a Patient(2)
- 第7回 復習
Unit7からUnit9の復習
- 第8回 Unit 10-1
Elimination (Bowel movement / Urination)(1)
- 第9回 Unit 10-2
Elimination (Bowel movement / Urination)(2)
- 第10回 Unit 11-1
Chronic Diseases(1)
- 第11回 Unit 11-2
Chronic Diseases(2)
- 第12回 Unit 12-1
Critical Care / Operating Room(1)
- 第13回 Unit 12-2
Critical Care / Operating Room(2)
- 第14回 プレゼンテーション準備
プレゼンテーションの準備を行います
- 第15回 後期のまとめと試験
後期の既習項目の総復習とプレゼンテーション

2022年度 後期

1.0単位

実用英語 A【現社・社防】

広部 昭子、ECC

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

実用英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。学部での学びで必要となるリスニングやスピーキングの技能を中心に学習する。その中で中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをする。既習の文法項目について総復習をし、様々な技能の基礎となる能力を育てる。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

- ・場面設定や背景をもとに、短い会話の全体的な内容を把握できる。(知識)
- ・自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて簡単に述べるができる。(知識)
- ・相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣)
- ・発音や発話練習に積極的に参加できる(態度・習慣)
- ・初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・語彙・文法

< 授業の進め方 >

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加方の授業です。積極的な参加が必要となります。

< 履修するにあたって >

- 1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。
- 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。
- 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

- 1) 授業外で行う課題。(毎日最低10分)
 - 2) 授業日に学んだ内容の復習。(毎日1時間程度)
- < 提出課題など >

授業内で課題の内容および提出方法・期限などについて

お知らせします。

<成績評価方法・基準>

統一テスト30%

授業内に実施する小テスト等40%

授業外で実施する英語学習・課題等30%

<テキスト>

Which Side Are You On? (成美堂 2310円)

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

Unit 8-1

後期の授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。

Divorce: Is it better than an unhappy marriage? (1)

第2回 Unit 8-2

Divorce: Is it better than an unhappy marriage? (2)

第3回 Unit 9-1

Cars: Should we try to limit traffic in city centers? (1)

第4回 Unit 9-2

Cars: Should we try to limit traffic in city centers? (2)

第5回 Unit 10-1

Working parents: Should both parents work? (1)

第6回 Unit 10-2

Working parents: Should both parents work? (2)

第7回 Unit 11-1

Computers: Should we continue to develop computer technology? (1)

第8回 Unit 11-2

Computers: Should we continue to develop computer technology? (2)

第9回 Unit 12-1

Television: Who should we take responsibility for what children watch on television? (1)

第10回 Unit 12-2

Television: Who should we take responsibility for what children watch on television? (2)

第11回 Unit 13-1

Gambling: Should we do more to stop people gambling? (1)

第12回 Unit 13-2

Gambling: Should we do more to stop people gambling? (2)

第13回 Unit 14-1

Gender gap: Should men and women be treated equally? (1)

第14回 Unit 14-2

Gender gap: Should men and women be treated equally? (2)

第15回 後期のまとめと復習

後期の既習項目の総復習

2022年度 後期

1.0単位

実用英語 A【GC・中/日】

OTC

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

実用英語1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、大学初年次における英語の基礎科目として位置づけられる。学部での学びで必要となるリスニングやスピーキングの技能を中心に学習する。その中で中学・高校で培ってきた英語力の基礎固めをする。既習の文法項目について総復習をし、様々な技能の基礎となる能力を育てる。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

尚、この授業の担当者は企業内英語研修を複数年経験している実務経験のある教員で、より実践的な観点から英語学習を指導する。

<到達目標>

・場面設定や背景をもとに、短い会話の全体的な内容を把握できる。(知識)

・自分自身について、大学生活や身の回りのできごとについて簡単に述べるができる。(知識)

・相手の発話を尊重し、じっくりと耳を傾ける姿勢を示すことができる。(態度・習慣)

・発音や発話練習に積極的に参加できる(態度・習慣)

・初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

<授業のキーワード>

リスニング・スピーキング・語彙・文法

<授業の進め方>

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加方の授業です。積極的な参加が必要となります。

<履修するにあたって>

1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。

2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。

3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

- 1) 授業外で行う課題。(毎日最低10分)
- 2) 授業日に学んだ内容の復習。(毎日1時間程度)

< 提出課題など >

授業内で課題の内容および提出方法・期限などについてお知らせします。

< 成績評価方法・基準 >

統一テスト30%

授業内に実施する小テスト等40%

授業外で実施する英語学習・課題等30%

< テキスト >

World Wide English on DVD Volume 1 -Revised Edition- (成美堂 2750円)

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

Unit 8-1

後期の授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。

New Zealand: Into the Peacefulness (1)

第2回 Unit 8-2

New Zealand: Into the Peacefulness (2)

第3回 Unit 9-1

New Zealand: An Interesting Walk with Sophie (1)

第4回 Unit 9-2

New Zealand: An Interesting Walk with Sophie (2)

第5回 Unit 10-1

England: Having a Big Influence on the World (1)

第6回 Unit 10-2

England: Having a Big Influence on the World (2)

第7回 Unit 11-1

England: Living Your Life to the Maximum (1)

第8回 Unit 11-2

England: Living Your Life to the Maximum (2)

第9回 Unit 12-1

The Bahamas: Developed Tourism Industry (1)

第10回 Unit 12-2

The Bahamas: Developed Tourism Industry (2)

第11回 Unit 13-1

The Bahamas: Making Steps to Achieve Your Goals (1)

第12回 Unit 13-2

The Bahamas: Making Steps to Achieve Your Goals (2)

第13回 Unit 14-1

Review Section 2 (1)

第14回 Unit 14-2

Review Section 2 (2)

第15回 後期のまとめと復習

後期の既習項目の総復習

2022年度 前期

2.0単位

社会科学入門A (1年次のみ)

川内 亜希子

< 授業の方法 >

対面授業で開講する。

アクティブラーニングを行うため、受講生には積極的な授業への参加を求める。

< 授業の目的 >

この科目では、神戸学院大学のDPに示す「幅広い知識を活用して問題を発見し、解決する方策を導く」ことの一環として、社会科学に関する幅広い知識を身につけ、自身の関心を発見することを目指す。そのため各界の授業終了時には復習を1時間半程度要し、知識の習得のため、一定程度のインプットを必要とする。

なおこの科目の担当者は、大学時代より多くの文系学部および研究科に在籍しており、受講生を対象としたアンケート結果を参考に、受講生の関心を反映させながら授業を運営する。

< 到達目標 >

当該授業履修後、社会科学とは何かという問いに対して、受講生一人ひとりが解を述べるようになることが目標である。

その上で、授業を通してインプットした知識を利用し、自身の関心のあるテーマについて、正確に述べるようになることも目標としている。

< 授業のキーワード >

近代法、近代政治、近代経済、冷戦

< 授業の進め方 >

プリント等を配布して講義形式ですすめる。

受講人数によってはピアアセスメント等のアクティブラーニングを実施する。

< 履修するにあたって >

特別な予備知識は必要ではなく、高校で現代社会を履修していない学生も受講可能である。

私語、携帯電話の使用、途中入室および途中退室は認めない。

こうした行為を行った場合には以後の出席を断り、テストの採点も行わない。

なお講義で配布するプリントは自身でファイリングするなどの管理を徹底すること。

毎回これまでに配られたプリントは持参すること。

再配布は行わない。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業後一週間以内に配布プリントを読み返し、授業内容を復習すること。(1時間程度)

できれば次の授業に参加する前日が望ましい。

またそれまでに関心を持ったテーマについては、プリン

トにコメントを書いて、何故そのテーマに関心を持ったのか説明できるようにしておくこと。(30分程度)

<提出課題など>

レポートを課す授業ではないが、各回授業終了時にミニツツペーパーの提出が必要となる。

<成績評価方法・基準>

小テスト3回(30%)

期末テスト(70%)

出席は評価対象とはしないが、毎回ミニツツペーパーを課しており、成績評価の最終的な判断には使用する。

小テストおよび期末テストのどれか一つでも受験していない場合には、単位を認定しない。

<テキスト>

プリントを配布する。

<参考図書>

各回授業時に指示する。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

授業の進め方、成績評価について説明する。

第2回 社会科学とは何か

社会の科学的な見方を学ぶ。

第3回 近代科学の成り立ち

近代にいたるまでの過程を学び、近代と現代の特徴を学ぶ。

第4回 近代法1

近代法とは何か、近代法の特徴を知り、近代憲法の確立過程を学ぶ。

第5回 近代法2

近代の国際法と国際関係について学ぶ。

第6回 第一部まとめ

第2回～第5回で学んだ内容を復習し、小テストを実施する。

第7回 近代政治1

国家とは何か、国家の定義を学ぶ。

第8回 近代政治2

国家の成立過程を学ぶ。

第9回 第二部まとめ

第7回～第8回で学んだ内容を復習し、小テストを実施する。

第10回 近代経済1

市場経済と資本主義の性質について学ぶ。

第11回 近代経済2

代表的な経済学者の諸説に触れる。

第12回 第三部まとめ

第10回～第11回に学んだ内容を復習し、小テストを実施する。

第13回 応用編「冷戦」1

何故冷戦が始まったのか、どのような時代だったのかを

学ぶ。

第14回 応用編「冷戦」2

冷戦は何故終わったのかについて学ぶ。

第15回 総括

これまでの総括を行い、小テストを用いて振り返り学習を行う。

2022年度 前期

2.0単位

社会科学入門A (1年次のみ)

高梨 薫

<授業の方法>

「講義」

<授業の目的>

この科目は全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる。」を目指している。また社会科学に関する幅広い知識を身につけ、自身の関心を発見することを目指す。授業では、少子高齢社会、人口減少社会の何が具体的に問題となっているのか整理、検討することで「科学的にものを考える」経験をすることを目的にします。それにより獲得した知識(や技能)を社会に役立てることができる。そのために各回(計15回)の授業のための予習・復習に1時間程度を要し、予定している小テスト(授業時間内)は授業終了までに模範解答を返却します。

<到達目標>

科学的にものを考える、社会科学のアプローチ(方法)を理解できるようになることが目標です。その上で学生は、少子高齢化・人口減少社会への対応施策をテーマとし、物事を合理的に説明できるようになる。われわれの社会で現在、問題となっていることを、社会科学のアプローチで捉え、合理的に説明できるようになる。

<授業の進め方>

プリントを配布して講義形式ですすめる(オンラインとなった場合はLMSを利用して電子ファイルを配布)。少子高齢社会、超高齢社会や、わが国の社会保障、施策を理解するため、参考文献も活用してほしい。

<授業時間外に必要な学修>

授業の目的のためには、各回の授業のための予習・復習に1時間程度を要します。

<成績評価方法・基準>

授業時間内不定期の小レポート、複数の課題、提出物(40%)と定期試験(60%)で評価する。

<テキスト>

概ね各回、資料を配布します(オンラインとなった場合

はLMSを利用して電子ファイルを配布)。資料はファイルして授業の際、いつでも振り返りができるようにしておいて下さい。

<参考図書>

高齢社会基礎資料 エイジング総合研究センター編著
中央法規
厚生労働白書 厚生労働省編
国民の福祉と介護の動向 厚生労働統計協会

<授業計画>

第1回 ガイダンス

(本講義全体の概要)

本講義全体の概要、そして授業内容を例を示して説明する。また、授業を受ける態度、注意事項、課題や提出物、評価方法を説明する。

第2回 社会科学とは

社会科学と呼ばれている学問分野について、高齢社会白書や厚生労働白書といった統計資料を使い、私たちの生活にどのように役立っているのか、みてる。

第3回 人口高齢化と人口変化の研究 1

日本の人口高齢化は、社会経済の近代的発展と生活環境、生活の質の向上があることを理解する。

第4回 人口高齢化と人口変化の研究 2

物質的に豊かになった生活の下、人口高齢化が出生率と死亡率の低下によって起こっていることを説明する。

第5回 人口高齢化と人口変化の研究 3

近代社会において出生率と死亡率の低下がともに進む状況は多くの先進諸国で見られ、人口転換という言葉で表現されることを紹介・検討する。

第6回 家族、世帯の変化 1

人口高齢化が家族という集団に与える影響は極めて大きいことを図表(統計資料)で理解する。

第7回 家族、世帯の変化 2

家族は親族によって構成される集団で、社会を構成する最も基礎的な集団であることを理解する。

第8回 高齢者の生活状況

超高齢社会となった現在、高齢者と家族との関係はどのように変化しているかみていく。

第9回 前半のまとめと復習(確認)

基本が分からないと、積み重ね、応用ができないのは数学や物理ではありません。社会科学も基本的なことがきちんと理解できていないと学習は前進しません。

9回までにとりあげたことを整理して確認します。

第10回 高齢社会対策と社会保障 1

高齢化に関するわが国の施策、年金保険、健康福祉

第11回 高齢社会対策と社会保障 2

高齢化に関するわが国の施策、医療保険、介護保険

第12回 高齢社会対策と社会保障 3

高齢化に関するわが国の施策、高齢社会対策大綱について

第13回 老化の社会的側面とは

近年の長寿社会においては、多くの人が生物学的に老化する前に社会から老人として扱われてしまうという「老化の社会的側面」を紹介して検討する。

第14回 高齢者の離脱と活動の理論

高齢者のウェルビーイングについて、高齢者の「離脱理論」と「活動理論」を紹介して検討する。

第15回 社会科学の未来

授業全体の総括と近年、社会科学分野で関心を持たれている事柄について

2022年度 前期

2.0単位

社会科学入門B (1年次のみ)

安達 啓介

<授業の方法>

講義(場合によっては【遠隔授業】)

<授業の目的>

この授業は、全学のDPに示す「広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性」を涵養することを目的としている。また「幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方法を導く」能力の開発、向上を目指す。

この授業では、歴史や社会、政治、地理、文化などさまざまな視点から世界経済の変遷、転換点を学び、捉え直すことで、対象を分野横断的に分析する方法を身につける。

<到達目標>

・世界経済、社会科学に関する基礎的な知識と理論を身につける。

・社会事象を、一つの専門分野だけでなく、複合的、または総合的に捉えることができる。

・今後、現代社会が抱える問題を考える際に、社会科学と結び付けて考えることができる。

<授業のキーワード>

世界経済、社会科学、西洋史、東洋史、哲学、地理学、経済学、社会学、政治学

<授業の進め方>

各回の授業に関する情報は、授業中、または事前配布する各回の授業資料上で告知する。各自でしっかり確認してから授業に臨むようにすること。

毎回、授業内容に関する復習課題を課し、提出してもらう。そのため、ただ単に授業を聞くのではなく、その内容をどのように自身の中に落とし込むか常に意識して臨む必要がある。

<履修するにあたって>

・予備知識は特に必要としないが、高校程度の世界史の知識があると学習しやすい。

・授業に集中して取り組み、あとで復習できるように学

習内容を記録しておくこと。

・これから社会人になる身として、周りに配慮したふるまいを心がけること。

・分からない言葉に出会ったら、辞書、インターネット等を使用して自分で調べること。

・どのように学習に臨めばよいか分からなくなったら、迷わず質問すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

各回、学習した内容について、プリント、ノートなどを見直して復習すること（60分程度）。

次回の学習内容に関しては、事前に下記のリンク（OneDrive）で配布する資料を必ず確認しておくこと（30分程度）。

< 提出課題など >

授業中または下記のURLで配布する資料で課題内容、提出方法を告知する。

提出課題については、授業冒頭で受講者全体にフィードバックを行う。

< 成績評価方法・基準 >

毎回の復習課題（60%）と、レポート（40%）の成績で評価する。

< テキスト >

なし。授業資料は下記のリンクで配布する。

< 参考図書 >

宮崎正勝『世界 経済 全史』日本実業出版社、2017年、定価1,600円

< 授業計画 >

第1回 社会科学の基礎

自己紹介、授業のガイダンス、社会科学を学ぶ意義について解説する。

第2回 貨幣から世界経済を見る

貨幣が歴史を説明しつつ、それが社会経済をどう変えたか学ぶ。

第3回 イスラーム経済とモンゴル帝国

ユーラシア大陸を舞台にした資本主義経済の発展の変遷を学ぶ。

第4回 大航海時代から始まる資本主義経済

大航海時代が世界経済に与えた影響について学ぶ。

第5回 チューリップバブルと株式会社

オランダが切り開いた海の経済について学ぶ。

第6回 資本主義と金融商品

戦争を背景とした金融の時代の幕開けについて学ぶ。

第7回 ユダヤ人と金融経済

金融の時代におけるロスチャイルド一族の台頭の意味を学ぶ。

第8回 中間まとめ

ここまでの内容に関する振り返りとまとめを行う。

第9回 産業革命と西欧経済の拡大

2つの産業革命が西欧経済にもたらした成長を学ぶ。

第10回 国際金本位制とポンド

戦前の国際通貨としてのポンドの影響力について学ぶ。

第11回 アメリカ経済の台頭

新興国アメリカの19世紀末以降の急激な経済成長の背景を学ぶ。

第12回 世界大戦がもたらしたもの

世界大戦が欧米経済に与えた影響、アメリカの覇権について学ぶ。

第13回 世界恐慌とケインズ政策

各国経済への世界恐慌の影響とケインズ政策について学ぶ。

第14回 アジア経済の急激な成長

第2次世界大戦後のアメリカとアジアの経済情勢の内実を学ぶ。

第15回 全体のまとめ

全体の講義内容を振り返る。

2022年度 前期

2.0単位

社会科学入門B（1年次のみ）

松田 裕之

< 授業の方法 >

オンライン授業: オンデマンド授業

< 授業の目的 >

科学3分野〔自然、社会、人文〕のなかの社会科学の基礎を演習形式で学修します。科学の目的は「原因 結果」=因果の仕組みの解明ですが、社会科学は個人や組織が起こす社会現象を分析対象とします。この授業では、私たちの生活に関わりの深い社会現象をピックアップし、その因果の仕組みを「比較」と「歴史」の手法を使って解読していくことにします。1年次に私の人文科学入門を履修した方には、そのとき扱ったテーマの幾つかの「掘り下げ」と「論理の応用」になります。

< 到達目標 >

科学の役割が理解できる。

科学の種類とその夫々の特徴が理解できる。

社会科学の基本的な用語や考え方を知ることができる。

社会科学の代表的な論者とその著作物を知ることができる。

< 授業のキーワード >

科学、社会、国家、文化、文明、宗教、民族性、貨幣、グローバル化、格差・差別

< 授業の進め方 >

講義は事前に録画した授業映像をONE DRIVEにアップし、オンデマンド配信します。URLはこのシラバス上でお知らせします。配布資料=本科目のテキストはもONE DRIVEに第1回講義開始前までにアップしておきます。それをもちいて毎回の授業を進めますので、上記「授業の方法

」に記載したURLからダウンロードしてください。定期的（3回に1回程度）にdotCampusにレポート課題をアップし、講義録画内で講評を行い、併せて疑問点や指摘点についての回答を行います。

<履修するにあたって>

連絡はdotCampusより行います。

<授業時間外に必要な学修>

授業後には1時間程度の復習を行い、自身の関心を整理してください。

<提出課題など>

配布資料 = オリジナルテキストに設けられた空所の補充や論述課題の解答を記したレポートをdotCampusで毎回提出してもらいます。

<成績評価方法・基準>

4回dotCampusで提出するレポートの記載内容で評価します。

<テキスト>

上記「授業の方法」に記載したURLでONE DRIVEにアクセスし、そこにアップされた配布資料 = テキストをダウンロードしてください。

<参考図書>

とくにありません。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

授業全体の説明と模擬講義をおこなう。

第2～3回 科学の内容を考える

「科学」の意味と役割を説明し、自然科学・社会科学・人文科学それぞれの特徴をあきらかにする。

第4～5回 社会科学の作法

社会科学の重要な対象である政治・法制・経済・経営の意味と機能を考える。

第6～7回 グローバル化を考える

【社会学編】日本と欧米の接触を歴史的に振り返り、グローバル化の原風景を読み解く。

第8～9回 お金の意味を考える

【経済学編】貨幣という「万能商品」が人間の倫理に与えた巨大な衝撃を振り返る。

第10～11回 宗教を事業として考える

【経営学編】キリスト教と資本主義企業の発展の関係を読み解く。

第12～13回 「正義」という論理を考える

【政治学編】「戦争」を題材として、国家の「論理」と「正義」の真実をあきらかにする。

第14回 社会科学の技法

社会科学を人文科学・自然科学とどのようにリンクさせればいいのかを考える。

第15回 総括と小テスト

今回の授業の感想を発表後、全参照可の簡単な小テスト（30分）を行う。

2022年度 前期

2.0単位

社会科学演習B

安達 啓介

<授業の方法>

演習（場合によっては【遠隔授業】）

<授業の目的>

この授業は、全学のDPに示す、「広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性」を涵養することを目的としている。また、「幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方法を導く」能力の開発、向上を目指す。さらに、「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」能力の養成する。

この授業では、「これまでの働き方」、「これからの働き方」をテーマに、「労働」とは何か、「仕事」とは何か、それらとどのように向き合っていくかについて、さまざまな研究分野での知見を学びつつ、受講者自身も考え、自分なりの社会の見方を形成していく。端的に言えば、「労働」を哲学し、考え詰めていく。これらの思考訓練、思考実験を通じて、自身で物事を考えることの楽しさ、大変さ、大切さを、各自に学び取ってもらうことが最大の目的である。

<到達目標>

- ・答えを出すことが難しい問題を考えることの楽しさ、大変さ、大切さを知る。
- ・自分の頭で物事を考え、それを自分の言葉で伝えることができる。
- ・他者からの意見、批判を建設的に取り入れ、自身の見方をより強化することができる。

<授業のキーワード>

労働、仕事、経済、社会、幸福、哲学、思考実験

<授業の進め方>

各回の授業に関する情報は、授業中、または事前配布する各回の授業資料上で告知する。各自でしっかり確認してから授業に臨むようにすること。

受講者の人数によっては複数のグループに分けてディスカッションを行う。さらに、毎回、授業内容に関する要約課題を課す。それらを通して、授業の題材に対する自身の意見を形成し、文章化する力を養成する。そのため、ただ単に授業を聞くのではなく、その内容をどのように自身の中に落とし込むかを常に意識して臨む必要がある。

<履修するにあたって>

- ・予備知識は特に必要としない。一人で考え抜く意思とその実践だけが必要。
- ・授業に集中して取り組み、あとで復習できるように学

習内容を記録しておくこと。

・これから社会人になる身として、周りに配慮したふるまいを心がけること。

・分からない言葉に出会ったら、辞書、インターネット等を使用して自分で調べること。

・どのように学習に臨めばよいか分からなくなったら、迷わず質問すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

各回、学習した内容について、プリント、ノートなどを見直して復習すること（60分程度）。

次回の学習内容に関しては、事前に下記のリンク（OneDrive）で配布する資料を必ず確認しておくこと（30分程度）。

< 提出課題など >

授業中、または下記のリンクで配布する資料で課題内容、提出方法を告知する。

提出課題については、授業中にフィードバックを行う。

< 成績評価方法・基準 >

毎回の課題（要約課題、ディスカッション：60%）とレポート（40%）の成績で評価する。

< テキスト >

なし。授業資料は下記のリンクで配布する。

< 参考図書 >

ラス・スヴェンソン（小須田健訳）『働くことの哲学』紀伊国屋書店、2016年、定価1,700円

< 授業計画 >

第1回 「働く」とは何か

自己紹介、授業のガイダンス、「働く」ことを考える意味を学ぶ。

第2回 労働の哲学

アダム・スミス、ヘーゲル、マルクス、アーレント、二宮尊徳らの労働論を学び、考える。

第3回 労働と仕事の違い

アーレントらを引き合いに仕事と労働の違いについて学び、考える。

第4回 働く理由

働く理由について学び、自身の働く理由を考える。

第5回 労働と報酬

労働と報酬の関係について学び、日々生きる為の労働について考える。

第6回 競争社会と資本主義

資本主義の性質を学び、競争社会の功罪を考える。

第7回 過労死を哲学する

なぜ人は働き過ぎてしまうかについて哲学的に考える。

第8回 労働とレジャー

働くことと遊ぶことのバランスについて学び、その重要性を考える。

第9回 人生設計を考える

就職とキャリア形成について学び、人生設計の意義と限界を考える。

第10回 転職と天職

仕事のやりがい、適正、転職について学び、考える。

第11回 少子高齢化と労働力不足

少子高齢社会における労働のあり方について学び、考える。

第12回 仕事とグローバル化

グローバル化が働き方を変化させる現状を学び、その意味を考える。

第13回 AIは労働を奪うか

AIの有用性と問題を学び、それが社会経済、働き方どのような影響を与えるか考える。

第14回 「ゆたかな社会」とは

ガルブレイスを引き合いに「ゆたかな社会」「成熟社会」とは何か考える。

第15回 君たちはどう生きるか

自身の仕事、社会、経済への向き合い方を書きまとめる。

2022年度 後期

2.0単位

社会科学演習D

安達 啓介

< 授業の方法 >

演習（場合によっては【遠隔授業】）

< 授業の目的 >

この授業は、全学のDPに示す、「広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性」を涵養することを目的としている。また、「幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方法を導く」能力の開発、向上を目指す。さらに、「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」能力の養成する。

この授業では、日本の文化、物語、宗教、経済、政治などの社会人として知っておいてほしい教養的知識を足がかりに、日本と世界がどのように違い、どのような点で似通っているのか学んでいく。また、文化や宗教、芸術など、人が作り上げ、洗練してきたもの背景には、さまざまな人々による個人または集団での情報の編集が存在することを学ぶ。

< 到達目標 >

・得られた情報を編集し、他者に正確に伝える方法を習得する。

・他者からの意見、批判を建設的に取り入れ、自身の主張を強化することができる。

・自分の知識、経験を踏まえ、自身の日本と世界の見方を説明することができる。

< 授業のキーワード >

情報、文化、生命、感覚、物語、仏教、キリスト教、日本神話、もののあはれ、仮名文字、わびさび、ヨーロツ

パ文化、国民国家、資本主義、列強、文学、戦争、民主主義、大衆主義、デフレーション、経済成長

< 授業の進め方 >

基本、配布資料とパワーポイントを併用する形で授業を進めていく。毎回の課題として、授業内容の要約を行う。それを通して、題材に対する自身の意見を形成し、文章化する力を養成する。そのため、ただ単に講義を聞くのではなく、いかにその内容を自身の見方と結びつけて考えることができるかが重要となる。

< 履修するにあたって >

・予備知識は特に必要としないが、日本文化、宗教、世界経済に心得があると学習しやすい。

・授業に集中して取り組み、あとで復習できるように学習内容を記録しておくこと。

・これから社会人になる身として、周りに配慮したふるまいを心がけること。

・分からない言葉に出会ったら、辞書、インターネット等を使用して自分で調べること。

・どのように学習に臨めばよいか分からなくなったら、迷わず質問すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

各回、学習した内容について、プリント、ノートなどを見直して復習すること（60分程度）。

次回の学習内容に関しては、事前に下記のリンク内で配布する資料を必ず確認しておくこと（30分程度）。

< 提出課題など >

授業中または下記のリンクで配布する資料上で、課題内容、提出方法を告知する。

課題については、授業中に受講者全体に対してフィードバックを行う。

< 成績評価方法・基準 >

毎週の課題（要約課題、ディスカッション：40％）とレポート（60％）の成績で評価する。

< テキスト >

なし。使用する資料全般は原則、下記のリンクで配布する。

< 参考図書 >

松岡正剛『17歳のための世界と日本の見方』春秋社、2006年、定価1,700円

松岡正剛『誰も知らない世界と日本の間違い 自由と国家の資本主義』春秋社、2007年、定価1,800円

その他は授業中に提示していく。

< 授業計画 >

第1回 社会科学から見る「関係」

「社会科学」とは何かを学び、それを通して社会に存在するさまざまな「関係」について考える。

第2回 情報と編集

人間と文化の関係を、「情報」と「編集」の観点から捉え、考える。

第3回 文化感覚距離

物語の仕組みを学び、宗教の「編集」において

第4回 生命と情報と編集

生命と情報、さらに生物進化について「情報編集」の観点から学ぶ。

第5回 物語・宗教・哲学

「物語」と「宗教」と「哲学」の関係について学ぶ。

第6回 ゴロアスター教とユダヤ教の関係

ゴロアスター教とユダヤ教の関係から、二元論的なものの見方の起源について考える。

第7回 キリスト教と死海文書

キリスト教の成立において、どのような情報編集が行われ、それが以降のヨーロッパ社会にどのような影響を与えたかについて学ぶ。

第8回 宗教対立がもたらすもの

イスラム教とキリスト教、ユダヤ教などの、宗教対立が、現代社会、世界経済にどのような影響、問題を引き起こしているか学び、考える。

第9回 「日本文化」とは何か

日本神話を出発点に、日本の歴史と自然観、宗教観について考える。

第10回 「日本的感覚」とは何か

日本以外にはない「日本的感覚」とは何か考え、その根底にあるものは何か議論する。

第11回 ヨーロッパ文化と日本のかかわり

ルネッサンス以降のヨーロッパ文化が日本にどのような変化をもたらしてきたか学ぶ。

第12回 資本主義と国民国家の発展

「資本主義」「国民国家」について学び、マルクスの経済思想、ダーウィンの進化論をもとに、社会と国家がどのように変化してきたか考える。

第13回 社会と国家の進化

マルクスの経済思想、ダーウィンの進化論の視点から、社会と国家がどのように変化してきたかを考える。

第14回 大衆主義と資本主義

大衆主義、新植民地主義、世界の均質化について学び、考える。

第15回 日本の「失われた20年」

「失われた20年」とは何かを学び、本当に失われたのは何か考える。

2022年度 後期

1.0単位

Japanese Culture and Language in English A
E C C

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

Japanese Culture and Language in Englishは共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、海外留学を目指す

学生のためのクラスである。生きた英語を身につけ、相手の意見をしっかりと聞きながら理解し、また、合わせて日本文化や言語についても英語で深く学び、それらを発信できるスキルを身につけることを目的とする。中級者以上を対象とした講義である。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

<到達目標>

- ・ これまで培ってきた基本的な語彙や文法の知識を英会話に応用できる。(知識)
- ・ 日本文化や言語に対する理解を深め、聞いたり読んだりした内容について積極的に意見を述べるができる。(知識)
- ・ 英語コミュニケーション能力向上のために積極的に参加できる。(態度・習慣)
- ・ クラスメートと積極的に意見の共有をし、自らの考えを英語で表現できる。(態度・習慣)
- ・ 必要に応じて効果的なジェスチャーを使うなど、意思伝達のための工夫ができる。(技能)

<授業のキーワード>

日本文化・スピーキング・リーディング・リスニング

<授業の進め方>

原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加型の授業です。積極的な参加が必要となります。

<履修するにあたって>

このクラスは中級者以上を対象とした科目となります。

<授業時間外に必要な学修>

1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。(週30分程度)| 2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。(週1時間程度)

<提出課題など>

必要に応じて課された課題を提出。詳細は授業内で指示する。

<成績評価方法・基準>

授業内評価(小テスト20% 授業参加度20%) 授業外評価(授業外課題30%) 期末試験(資料10% プレゼンテーション20%)

<テキスト>

Touring Japan in English 南雲堂 ¥2,200(税込) | ISBN:9784523177883

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。

第2回 Chapter1-1

Japan's Top Three Castles

第3回 Chapter1-2

Nagoya Castle, Osaka Castle, Kumamoto Castle

第4回 Chapter2-1

Japan's Top Three Festivals

第5回 Chapter2-2

The Gion Festival, the Tenjin Festival, the Kanda Festival

第6回 Chapter3-1

Japan's Top Three Mountains

第7回 Chapter3-2

Fujisan, Tateyama, Hakusan

第8回 Chapter4-1

Japan's Top Three Oldest Hot Springs

第9回 Chapter4-2

Dogo Onsen, Arima Onsen, Shirahama Onsen

第10回 Chapter5-1

Japan's Top Three Gardens

第11回 Chapter5-2

Kenrokuen, Korakuen, Kairakuen

第12回 Chapter6-1

Japan's Top Three Pottery Styles

第13回 Chapter6-2

Raku Ware, Hagi Ware, Karatsu Ware

第14回 プレゼンテーション準備

次回のプレゼンテーションの準備を行います

第15回 総復習と期末試験

日本文化のうち自分が興味のある分野を取り上げ、それについてのプレゼンテーションを行います

2022年度 前期

2.0単位

Japanese Culture in Historical Perspective (交換留学生対応科目)

清水 亮

<授業の方法>

講義 演習 日英両語を使用して授業を進めます。

<授業の目的>

この授業は、共通教育科目のうち、リテラシー領域に属し、その中でも国際化推進分野に位置づけられる授業の一つです。全学のディプロマ・ポリシー「獲得した知識や技術を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる」ようになることを目的としています。具体的には、日本や世界におけるさまざまな問題について、自分が生まれ育った慣習に基づく画一的な考え方からではなく、グローバルな視点から考え、なんでこうなるのだろうと自問しながら理解し、他者と意見を交換し、全体像を把握できるようになることを目的とします。つまり、現代日本の多様で動的な状況を、グローバルな視点から考察しながら理解し、より良き未来の

ために何ができるかを考え、行動に移せるようになることを目指します。そうするなかで、生涯にわたり他者理解および異文化理解に関心を持ち続けることができ、修得した知識や技能を社会や世界で役立てられることを到達目標とします。

授業で得た知識を鵜呑みにすることなく、なんでこうなるのだらうと考えながら、日本人学生が日本についてどのように考え、留学生は日本で何を考え発信しようとしているのか、外国人学生が今、日本の何について知りたがっているのか等についてお互いに学び、グローバルな視点を持ちながら、相互理解を深め、よりよい明日の世界を希求します。

<到達目標>

1. 現代日本に関する基礎的な知識を身につけ、それを踏まえて自らの経験を基に、日本の文化、社会等について意見を述べ、他者の意見を踏まえ、理解を深めることができる。
2. 現代日本に関する情報を主体的に収集し、自らの経験と照らし合わせながら整理する中で、他者の視点を踏まえて、現代日本の多様かつ動的な状況を理解し、説明することができる。

<授業のキーワード>

異文化理解、日本の文化・習慣、日本人のライフスタイル、日本の社会、異文化交流

<授業の進め方>

テキストをベースにしたイントロダクションを基に、グループでのディスカッションを通じて、テーマを掘り下げ、さまざまな視点から、日本の現状について考えていきます。

2021年度の本科目は、主に韓国の交換留学生を中心に、韓国と教室をZoomでつないで授業を行います。

本学学生は対面授業です。

科目の特性上、Zoomでは韓国の学生、本学の学生ともに顔を映して授業を進めます。

なお、交換留学生が入国可能になれば、通常の対面授業になる可能性があります。

<履修するにあたって>

日本に関する？について、授業でスピークアウトして？の解決の糸口を是非見つけてください。

<授業時間外に必要な学修>

毎週、授業前に、1時間ほど時間をかけて、毎週のテーマのキーワードを検索して、どんな内容か調べて、テーマとどう関連するのかと思うか考えてきてください。

そして、わかるところ、不明はところを、示せるようにしてきてください。

わからない言葉等があったら、読み方、意味を調べてきてください。

授業後、テキストとノートを基に、テーマと授業内容を

1時間ほどかけて振り返り、その週のテーマのまとめを行ってください。

<提出課題など>

シャトルカード（毎回） ワークシート（Week 2からWeek 14）

ファイナル・プレゼンテーション

<成績評価方法・基準>

シャトルカード 1ポイント x 15回 = 15ポイント

ワークシート 5ポイント x 13回 = 65ポイント

ファイナル・プレゼンテーション 20ポイント

<テキスト>

毎週、テーマに沿ったプリントを配布。

<参考図書>

佐々木瑞枝『クローズアップ日本事情15 日本語で学ぶ社会と文化』The Japan Times 2017

金津日出美・桂島宣弘 アジアにおける日本研究ゼミナール

『留学生のための日本事情入門 1冊で分かる最新日本の総合的紹介』文理閣 2017

<授業計画>

Week 1 Introduction: Welcome to Japan

コースオリエンテーション 自己紹介 日本のファーストインプレッション

Week 2 戦後日本の歴史と社会

戦後日本の歩みと社会 人間関係社会と原則関係社会 家族の変遷

核家族化と少子・高齢化

Week 3 都市の暮らし・

地方の暮らし

都市と地方：男女格差 住宅事情 生活事情 交通事情

Week 4 日本の四季・暦

日本の四季 しきたり 観光 初詣 恵方巻 お花見 七五三 お中元 花火

お盆 秋祭り 歳末 お歳暮 大晦日 初詣 福袋 地域の伝統

Week 5 日本の芸術・文化・

年中行事

日本の古典芸能の今 現代日本のアートシーン

Week 6 日本人の服装・

若者文化の変遷

着物文化 トラッド カジュアル

Week 7 日本の食生活の変遷

給食 お弁当 駅弁 立ち食い カップヌードル ファストフード 居酒屋

Week 8 インターナショナル

フード・リカーとしての

和食・日本の酒

伝統的な和食 ラーメン・お好み焼きの台頭 日本酒（

杜氏とAI)

ビール ウイン ウイスキー

Week 9 ショッピング事情

個人経営小売店 大店法 ホールディングス ショッピングモール

アウトレット 月賦 現金 クレジットカード デビットカード

キャッシュレス決済

Week 10 現代日本の社会と教育

高等教育の変遷 大学進学率の変遷 男女格差 女性の社会進出

就職活動と留学

Week 11 Made in Japanの製品

と世界

自動車 電化製品 カメラ 音響製品 海産物

Week 12 Made in Japanの芸術

と世界

歌舞伎 アニメーション 映画 音楽 キャラクター

Week 13 日本と世界

コロナの蔓延 日本人プレイヤーの海外進出 オリンピック延期 万博

2022年度 前期

2.0単位

Japanese Culture in Historical Perspective 【G C 日】

下岡 邦子

< 授業の方法 >

講義、演習

< 授業の目的 >

この授業は、共通教育科目のうち、リテラシー領域に属し、その中でも国際化推進分野に位置づけられる授業の一つです。全学DPに示す「幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる」ようになることを目的としています。具体的には、現代日本に関する基礎知識を身につけること、ただし、画一的な理解ではなく、多様で動的な現代日本の側面を捉えることを目指します。そのために、教員から情報を受け取るだけでなく、インターネットなどを用いた情報の収集や授業での発表といった活動を行います。

< 到達目標 >

1. 現代日本に関する基礎的な知識を身につけ、それを踏まえて自らの経験や意見を述べることができる。

2. 現代日本に関する情報を主体的に収集し、整理することで、現代日本の多様かつ動的な側面を理解し、説明することができる。

< 授業のキーワード >

日本の環境、日本の食文化、日本の歴史、日本の伝統文化、日本のサブカルチャー

< 授業の進め方 >

講義のほか、情報収集や発表などの活動を取り入れます。

< 履修するにあたって >

扱うトピックは、学生の興味・関心に応じて適宜変更します。

< 授業時間外に必要な学修 >

情報の収集、発表準備など、授業時間外で行ってもらう活動がいくつかあります。

予習・復習も合わせて、1時間程度の学修を行ってください。

< 提出課題など >

授業中に課題を実施します。課題のフィードバックは、授業内で行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業への取り組み(20%)、課題(60%)、発表(20%)によって成績を評価します。

3分の1以上の欠席は評価の対象外とします。遅刻3回で欠席1回とみなします。

< テキスト >

『クローズアップ日本事情15 日本語で学ぶ社会と文化』佐々木瑞枝 The Japan Times

2,750円(税込)

< 参考図書 >

『留学生のための日本事情入門 1冊で分かる最新日本の総合的紹介』桂島宣弘編 文理閣

< 授業計画 >

第1回 日本の環境(1)

日本の面積と人口、自然・気候
課題

第2回 日本の環境(2)

日本の都市、地方での暮らし
課題

第3回 日本の環境(3)

日本の交通、交通サービス
課題

第4回 日本の食文化(1)

日本の食料自給率、地産地消、和食文化
課題

第5回 日本の食文化(2)

道の駅、日本の飲料水、B級グルメとご当地グルメ
課題

第6回 日本の年中行事

四季ごとの日本の行事
課題

第7回 日本の歴史

日本の時代区分、歴史上の人物、歴史的建造物
課題

第8回 日本の伝統文化(1)

和歌・俳句・川柳、雅楽・盆踊り、歌舞伎
課題

第9回 日本の伝統文化(2)

能楽、茶道、華道

課題

第10回 日本のサブカルチャー

スマートフォンの普及、日本のアニメ、音楽、キャラクター

課題

第11回 日本のスポーツ

相撲、野球、世界で活躍する日本人選手・日本で活躍する外国人選手

課題

第12回 発表準備

テーマを決めて情報を収集する

発表資料を作成する

第13回 発表(1)

収集した情報や分析結果を発表する

第14回 発表(2)

収集した情報や分析結果を発表する

第15回 まとめ

これまでの授業内容を総括する

課題

2022年度 前期

2.0単位

Japanese Politics and Economy (交換留学生対応科目)

清水 亮

< 授業の方法 >

演習 日英両語を使用して授業を進めます。

< 授業の目的 >

この授業は、共通教育科目のうち、リテラシー領域に属し、その中でも国際化推進分野に位置づけられる授業の一つです。全学のディプロマ・ポリシー「獲得した知識や技術を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる」ようになることを目的としています。現代の世界では、24/7で人、モノ、金、情報が世界を瞬時に駆け巡り、ある国の政府の政策や企業の活動は、その国の国内の政治・経済に変化をもたらすだけでなく、同時に、世界の政治・経済状況にさまざまな影響を与えます。つまり、政府、企業には、政策や経済活動を推進する際に、国内の視点だけでなく、全世界への影響をも想定し行動するグローバルな視点が不可欠になっています。

この授業では、21世紀にいたる日本の政治・経済の変遷をたどりながら、日本の政治経済と世界との関係について、国際関係を考える際の3つのレベル(国際システム、国家、個人)が、それぞれの時代で、日本の政治・経済にどのように影響を与えてきたのか考えていきます。そ

れぞれの時代の考え方を知り、グローバルな視点を加えて考え、なんでこうなるのだろうと自問しながら理解し、日本の政治・経済の変遷について、他者と意見を交換し、全体像を把握できるようになることを目的とします。つまり、現代日本の多様で動的な状況を、グローバルな視点から考察しながら理解し、日本の政治・経済の変遷とこれからの日本の政治・経済のあり方について、自論を構築し、他者と考えを分かちあう中で、自分の視点をブラッシュアップし、日本の政治・経済の将来に思いを馳せ、修得した知識や技能を社会や世界で役立てられることを到達目標とします。

< 到達目標 >

1. 日本の政治・経済の変遷に関する基礎的な知識を身につけ、それを踏まえて自らの経験を基に、日本の政治、経済の歴史と今後について意見を述べ、他者の意見を踏まえ、理解を深めることができる。

2. 現代日本の政治・経済に関する情報を主体的に収集し、自らの経験と照らし合わせながら整理する中で、他者の視点を踏まえて、現代日本の政治・経済の多様かつ動的な状況を理解し、説明することができる。

< 授業のキーワード >

日本の政治、日本の経済、日本の社会、日本の歴史

< 授業の進め方 >

テキストをベースにしたイントロダクションを基に、グループでのディスカッションを通じて、テーマを掘り下げ、さまざまな視点から、日本の政治・経済の変遷について考えていきます。

2021年度の本科目は、主に韓国の交換留学生を中心に、韓国と教室をZoomでつないで授業を行います。

本学学生は対面授業です。

科目の特性上、Zoomでは韓国の学生、本学の学生ともに顔を映して授業を進めます。

なお、交換留学生が入国可能になれば、通常の対面授業になる可能性があります。

< 履修するにあたって >

日本の政治・経済に関する?について、授業でスピークアウトして?の解決の糸口をつかみ、日本の政治・経済についての知識を深め、他者と自分の考えを分かちあう中で、自論をブラッシュアップし展開できるよう頑張ってください。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎週、授業前に、1時間ほど時間をかけて、テキストの該当の部分に事前に目を通し、わかるところ、不明はところは、どこか示せるようにしてきてください。

授業後、テキストとノートを基に、テーマと授業内容を1時間ほどかけて振り返り、その週のテーマのまとめを行ってください。

< 提出課題など >

シャトルカード (毎回) ワークシート (Week 2 から Week 14)

ファイナル・プレゼンテーション

< 成績評価方法・基準 >

シャトルカード 1ポイント x 15回 = 15ポイント

ワークシート 5ポイント x 13回 = 65ポイント

ファイナル・プレゼンテーション 20ポイント

< テキスト >

毎週、テーマに沿ったプリントを配布。

< 参考図書 >

デイビッド セイン 『デイビッド・セインの日本紹介
政治・経済・歴史・社会編』

IBC パブリッシング 2014年

< 授業計画 >

第1回 Introduction:

Welcome to Japan

コースオリエンテーション 自己紹介 日本のファースト
インプレッション

第2回 Chapter 1

Japanese Politics

from Meiji to early Showa

明治から昭和初期までの歴史について学びます。

第3回 Chapter 2

Japan's Occupation

and aftermath

第二次世界大戦後の占領とその後について学びます。

第4回 Chapter 3

Post-war Politics

The Rise and Fall of

the 1955 system

55年体制の確立と崩壊について学びます。

第5回 Chapter 4

Hosokawa to Abe

From system breakdown

to revitalizing Japan

55年体制の崩壊による細川連立政権の誕生から

現在の安倍政権による体制の再活性化について学びます。

第6回 Chapter 5

The Diet:

Japan's Parliament

国会について学びます。

第7回 Chapter 6

Bureaucratic Structures

and its reform

官僚機構と機構改革について学びます。

第8回 Chapter 7

Local Government

地方自治体、地方公共団体について学びます。

第9回 Chapter 8

Non-state actors

非国家主体について学びます。

第10回 Chapter 9

Foreign and Security

Policy

外交政策・安全保障政策について学びます。

第11回 Chapter 10

Industrial Policy

経済政策・産業政策について学びます。

第12回 Chapter 11

From Pollution Control

to Environment Policy

公害防止から環境政策について学びます。

第13回 Chapter 12

Social Welfare Policies

社会福祉政策について学びます。

第14回 Chapter 13

Human Rights

人権について学びます。

第15回 Final Presentation

Chapter 1からChapter 13のテーマの中から1つを選び、
テーマを掘り下げて、
プレゼンテーションをしてもらいます。

2022年度 前期

1.0単位

上級韓国語 ア (時事・総合)

金 錦花

< 授業の方法 >

対面授業 (講義・演習)

< 授業の目的 >

本授業では、韓国語の初級・中級で学んだ知識を踏まえながら、「より細かい表現ができる・より韓国語らしい表現ができる」ようになると同時に、言葉を通して韓国の社会、文化、人間の考え方を学び、理解を深めることにその目的をおく。

それに伴って、全学のDPIに掲げられている「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションを取ることができる」・「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協同して、社会に役立てることができる」ようになることを目指す。

< 到達目標 >

・以下の単語・文法知識を身に付け、ハンゲルで書かれた文章 (新聞・物語など) の読む力を付ける。

－ ぞんざいな文末表現即ち、 体・ 体を習得し、運用できる。

－ 体をベースにする引用形を習得し、運用できる。

ー第1課～第5課における単語及び漢字語の発音ルールを身に付け、運用できる。

ー辞書を用いて、単文・重文・複文レベルでの正しい日韓対訳ができる。

・上級レベルの韓国語を運用して、日記や手紙などを書く力を付ける。

<授業のキーワード>

体 体 引用形 漢字語

<授業の進め方>

・講義中心であるが、授業内容に従ってグループワークの方法も適宜取り入れる。

<履修するにあたって>

・週2コマの韓国語の授業をすでに2年間学習しているか、またはそれと同等の能力を有している方を対象とする。

・授業において、あくまでも皆様が主体であるので、しっかりと目標を持ちつつ、主体性・積極性を発揮しながら、授業に臨むこと。

なお、この科目は前期の または後期の だけを履修することが可能であるが、学力を向上させるため、前期の と後期の を併せて履修することが望ましい。

<授業時間外に必要な学修>

1.課題は、しっかりとやり遂げる。

2.授業時間外における1時間ほどの予習・復習が必要である。(各課の本文・例文は、意味を理解しながら、繰り返し読んでみよう)

3.常に韓国・韓国語に関わる情報に触れること。(テレビ・ラジオ講座やK-pop・韓国ドラマ・映画そして新聞等)

<提出課題など>

テキストの練習問題・本文の和訳・作文等を課題とし、提出を求める。提出された課題に対しては、次回の授業で答え合わせなり、解説をする等フィードバックを行う。

<成績評価方法・基準>

出席回数が10回以上の場合、下記の割合で総合的に評価する。(10回未満の場合は、評価できかねる。)

・課題完成度と授業の参加態度が評価の70%を占める。

・期末試験の成績が評価の30%を占める。

* 定期試験なし

<テキスト>

『ことばの架け橋』 (中級表現編) 生越直樹
白帝社

ISBN978-4-89174-962-0

¥2200+税

<参考図書>

・辞書必携

小学館、韓国・金星出版社 共同編集 『朝鮮語辞典』 小学館

油谷幸利 門脇誠一 松尾勇 高島淑朗 『ポケット プログレッシブ 韓日・日韓辞典』 小学館

(これ以外の辞書でも、電子辞書でも可)

<授業計画>

第1回 ・本授業について

・第1課 中級文法復習(1)

・この授業における学習目的、到達目標、授業の内容と進め方、そして評価方法などについて情報を共有する。

・学習内容：用言の連用形・連体形について復習する。

第2回 第2課 中級文法復習

・≒語幹用言：

・変則用言(1)

・変則用言(2)

第3回 第3課 ぞんざいな文末表現

・ 体 (平叙・疑問・命令・勧誘・詠嘆)

第4回 第3課 ぞんざいな文末表現

・ 体 (平叙・疑問・命令・勧誘)

第5回 第3課 ぞんざいな文末表現

・さまざまな実用的な表現ー推量表現など

・漢字の発音(1)

第6回 第3課 ぞんざいな文末表現

・文法と表現のまとめと練習

・会話と読解「 (図書館で)」

第7回 第4課 未来連体形を使う表現

・未来連体形を使う慣用的な表現(1~6)

第8回 第4課 未来連体形を使う表現

・未来連体形を使う慣用的な表現(7~9)

第9回 第4課 未来連体形を使う表現

・さまざまな実用的な表現「 - / 」等

第10回 第4課 未来連体形を使う表現

・文法表現のまとめと練習

・漢字の発音(2)

・会話と読解「 (引っ越し祝い)」

第11回 第5課 引用形

・引用形(平叙・疑問・勧誘・命令・依頼における引用形)

第12回 第5課 引用形

・引用語尾の縮約形(体・ 体)

第13回 第5課 引用形

・さまざまな実用的な表現「 - 」等

第14回 第5課 引用形

・文法表現のまとめと練習

・漢字の発音(3)

・会話と読解「 (手紙)」

第15回 前期学習内容のまとめ

2022年度 前期

1.0単位

上級韓国語 タ(時事・総合)

李 姪炫

< 授業の方法 >

対面授業(講義・演習)

< 授業の目的 >

この科目では、共通教育センターが掲げる学生の到達目標である「調和のとれた心身のもとに文化・社会・自然に関する広く豊かな知識を備えている」・「学習した知識・技能を活用して夜会と交わり、新しい価値を創造することができる」・「生涯にわたって自発的に学び続けていくことができる」ようになることを目的とする。

「外国人のための韓国文化読本」を参考に韓国の衣食住・朝鮮半島の分断事情・大衆文化・韓国語と韓国文学など幅広い分野で韓国についての知識を得て理解していくようになることを目指す。

なお、この科目では、全学のDPに揚げられている「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになることを目指す。

< 到達目標 >

1. 韓国人が関心を持っていることを知ることができる。(知識)
2. 市民の暮らしや関心事に注意を向けることができる。(態度・習慣)
3. 難易度の高い読本を読み取り、理解することができる。(技能)
4. 日本の文化と比較して他国の文化を理解することができる。(態度・習慣)

< 授業のキーワード >

韓国、韓国文化、韓国の歴史、韓国の大衆文化

< 授業の進め方 >

「外国人のための韓国文化読本」を材料にする。

1. テーマを決めて韓国についてのウォーミングアップ(簡単な質問での会話練習)
2. テーマについての読本の聞き取り
3. テーマについての読本の読解
4. 内容についての質疑応答、要約
5. 小テストを受ける、または課題を提出する。

< 履修するにあたって >

授業では中上級程度の韓国語読本を材料とするため、履修するに当たっては2年次配当の韓国語科目を履修して単位を取得したのと同程度程度の韓国語力を有していることが必要。ただし、高度な韓国語力は必要ない。意味の解説や音読の指導はすべて教師が行う。

この科目は前期の だけを履修することも可能である。ただし、学力を向上させるため、また、より多くの情報

を接するため、後期の も併せて履修することが望ましい。

< 授業時間外に必要な学修 >

読本の新出語彙の予習や授業で学習した内容を授業後に1時間程度の時間をかけて復習しておくことが望ましい。

< 提出課題など >

毎回の授業で読解した文章をノートに書いて提出してもらう。

5月6日(木)から5月29日(土)までの遠隔授業では小テストを行わず、毎回の授業で全ての学生に課題を提出させ、これに対する評価を以て小テストに代える。また、課題を提出したことにより授業に出席したと見做す。課題の内容は担当教員の指示に従う。

なお、課題の提出は【Teams】を通して行う。

< 成績評価方法・基準 >

- ・単位を取得するためには10回以上の出席が必要。
- ・学期中の授業で実施する小テストの結果で成績を評価する。
- ・評点S・Aの取得者の割合は、おおむね単位取得者の50%を超えないものとする。

< テキスト >

使用しない。毎回資料を配布する。

< 授業計画 >

- 第1回 衣食住 1
韓国の代表的な食べ物、キムチ
- 第2回 衣食住 2
韓国固有の暖房システム、オンドル
- 第3回 衣食住 3
韓国の伝統衣装、韓服
- 第4回 衣食住 4
健康ブーム、Well Being
- 第5回 衣食住 5
伝統と現代が調和した都市、ソウル
- 第6回 人間関係 1
何年ですか
- 第7回 人間関係 2
家族関係、兄弟
- 第8回 人間関係 3
家族のあり方
- 第9回 人間関係 4
趣味
- 第10回 人間関係 5
帰省、名節
- 第11回 競争社会 1
財産管理
- 第12回 競争社会 2
韓国人の教育ブーム
- 第13回 競争社会 3
就職事情

第14回 競争社会 4

健康管理

第15回 まとめ

2022年度 後期

1.0単位

上級韓国語 ア(時事・総合)

金 錦花

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

本授業では、韓国語の初級・中級で学んだ知識を踏まえながら、「より細かい表現ができる・より韓国語らしい表現ができる」ようになると同時に、言葉を通して韓国の社会、文化、人間の考え方を学び、理解を深めることにその目的をおく。

それに伴って、全学のDPに掲げられている「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションを取ることができる」・「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協同して、社会に役立てることができる」ようになることを目指す。

< 到達目標 >

・以下の単語・文法知識を身に付け、ハングルで書かれた文章(新聞・物語など)の読む力を付ける。

－受身形・使役形を習得し、運用できる。

－さまざまな慣用句を身に付け、運用できる。

－第6課～第9課に用いる単語及び漢字語の発音ルールを身に付け、運用できる。

－辞書を用いて、単文・重文・複文レベルでの正しい日韓対訳をすることができる。

・上級レベルの韓国語を運用して、自分の考えを文章化できる。

< 授業のキーワード >

受身形 使役形 慣用句 漢字語

< 授業の進め方 >

・講義中心であるが、授業内容に従ってグループワークの方法も適宜取り入れる。

< 履修するにあたって >

・週2コマの韓国語の授業をすでに2年間学習しているか、またはそれと同等の能力を有している方を対象とする。

・授業において、あくまでも皆様が主体であるので、しっかりと目標を持ちつつ、主体性・積極性を発揮しながら、授業に臨むこと。

なお、この科目は前期の または後期の だけを履修することが可能であるが、学力を向上させるため、前期の と後期の を併せて履修することが望ましい。

< 授業時間外に必要な学修 >

1.課題は、しっかりとやり遂げる。

2.授業時間外における1時間ほどの予習・復習が必要である。(各課の本文・例文は、意味を理解しながら、繰り返し読んでみよう)

3.常に韓国・韓国語に関わる情報に触れること。(テレビ・ラジオ講座やK-pop・韓国ドラマ・映画そして新聞等)

< 提出課題など >

テキストの練習問題・本文の和訳・作文等を課題とし、提出を求める。提出された課題に対しては、次回の授業で答え合わせなり、解説をする等フィードバックを行う。

< 成績評価方法・基準 >

出席回数が10回以上の場合、下記の割合で総合的に評価する。(10回未満の場合は、評価できかねる。)

・課題完成度と授業の参加態度が評価の70%を占める。

・期末試験の成績が評価の30%を占める。

* 定期試験なし

< テキスト >

『ことばの架け橋』 (中級表現編) 生越直樹

白帝社

ISBN978-4-89174-962-0

¥2200+税

< 参考図書 >

・辞書必携

小学館、韓国・金星出版社 共同編集 『朝鮮語辞典』 小学館

油谷幸利 門脇誠一 松尾勇 高島淑朗 『ポケット プログレッシブ 韓日・日韓辞典』 小学館
(これ以外の辞書でも、電子辞書でも可)

< 授業計画 >

第1回 ・後期について

・第6課 名詞化語尾- を使う慣用句

・後期授業における学習目的、到達目標、授業の内容と進め方、そして評価方法などについて情報を共有する。

・名詞化語尾- を使う慣用句(1-6)

第2回 第6課 名詞化語尾- を使う慣用句

・名詞化語尾- を使う慣用句 (7-11)

第3回 第6課 名詞化語尾- を使う慣用句

・さまざまな実用的な表現「- 」等

・文法と表現のまとめと練習

第4回 第6課 名詞化語尾- を使う慣用句

・漢字の発音(4)

・会話と読解「 (映画) 」

第5回 第7課 受身形

・一般動詞の受身形「 , , , 」

第6回 第7課 受身形

・「 」動詞の受身形「 , , , 」

第7回 第7課 受身形

・さまざまな実用的な表現「- / 」等

第8回 第7課 受身形

- ・文法表現のまとめと練習
- ・漢字の発音(5)
- ・会話と読解「 (東大門市場で)」

第9回 第8課 さまざまな慣用句

- ・さまざまな慣用句「 - 」等

第10回 第8課 さまざまな慣用句

- ・さまざまな実用的な表現「 - 」等

第11回 第8課 さまざまな慣用句

- ・文法表現のまとめと練習
- ・漢字の発音(6)

- ・会話と読解「 (民族村)」

第12回 第9課 使役形

- ・一般動詞の使役形「 , , , 」
- ・ 動詞の使役形「 」

第13回 第9課 使役形

- ・名詞に続く慣用句「 - , - , - / 」等

- ・文法表現のまとめと練習

第14回 第9課 使役形

- ・漢字の発音(7)
- ・会話と読解「 (秋夕)」

第15回 後期学習内容のまとめ

2022年度 後期

1.0単位

上級韓国語 夕(時事・総合)

李 姪炫

<授業の方法>

対面授業(講義・演習)

<授業の目的>

この科目では、共通教育センターが掲げる学生の到達目標である「調和のとれた心身のもとに文化・社会・自然に関する広く豊かな知識を備えている」・「学習した知識・技能を活用して夜会と交わり、新しい価値を創造することができる」・「生涯にわたって自発的に学び続けていくことができる」ようになることを目的とする。

「外国人のための韓国文化読本」を参考に韓国の衣食住・朝鮮半島の分断事情・大衆文化・韓国語と韓国文学など幅広い分野で韓国についての知識を得て理解していくようになることを目指す。

なお、この科目では、全学のDPに揚げられている「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになることを目指す。

<到達目標>

1. 韓国人が関心を持っていることを知ることができる。(知識)
2. 市民の暮らしや関心事に注意を向けることができる。(態度・習慣)

3. 難易度の高い読本を読み取り、理解することができる。(技能)

4. 日本の文化と比較して他国の文化を理解することができる。(態度・習慣)

<授業のキーワード>

韓国、韓国文化、韓国の歴史、韓国の大衆文化

<授業の進め方>

「外国人のための韓国文化読本」を材料にする。

1. テーマを決めて韓国についてのウォーミングアップ(簡単な質問での会話練習)
2. テーマについての読本の聞き取り
3. テーマについての読本の読解
4. 内容についての質疑応答、要約
5. 小テストを受ける、または課題を提出する。

<履修するにあたって>

授業では中上級程度の韓国語読本を材料とするため、履修するにあたっては2年次配当の韓国語科目を履修して単位を取得したのと同程度程度の韓国語力を有していることが必要。ただし、高度な韓国語力は必要ない。意味の解説や音読の指導はすべて教師が行う。

<授業時間外に必要な学修>

読本の新出語彙の予習や授業で学習した内容を授業後に1時間程度の時間をかけて復習しておくことが望ましい。

<提出課題など>

毎回の授業で読解した文章をノートに書いて提出してもらう。

<成績評価方法・基準>

- ・単位を取得するためには10回以上の出席が必要。
- ・授業で実施する小テストの結果で成績を評価する。
- ・評点S・Aの取得者の割合は、おおむね単位取得者の50%を超えないものとする。

<テキスト>

使用しない。毎回資料を配布する。

<授業計画>

- 第1回 朝鮮半島の分断、その後1 歴史を変えたその日
- 第2回 朝鮮半島の分断、その後2 金剛山ホテルの涙
- 第3回 朝鮮半島の分断、その後3 散在する韓国の文化財
- 第4回 朝鮮半島の分断、その後4 平和な多文化社会を目指して
- 第5回 韓国人の結婚事情1 20代女性の一日
- 第6回 韓国人の結婚事情2 恋愛は必須、結婚は選択?
- 第7回 韓国人の結婚事情3 若者の恋愛観
- 第8回 韓国人の結婚事情4 結婚式

第9回 日常、余暇、大衆文化 1

韓国のカラオケ文化

第10回 日常、余暇、大衆文化 2

韓国ドラマの魅力

第11回 日常、余暇、大衆文化 3

韓国のネット事情 1

第12回 日常、余暇、大衆文化 4

韓国のネット事情 2

第13回 韓国語と韓国文学 1

ハンゲルの歴史

第14回 韓国語と韓国文学 2

韓国語の方言

第15回 韓国語と韓国文学 3

韓国の詩

2022年度 前期

1.0単位

上級中国語 C ア

池田 磨左文

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

この科では、全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて、広い教養を身につけ、豊かな感性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活かしてさまざまな問題を発見し、それを解決する策を導くことができる」ようになること・「自分の意見を頭や書によって表現し、相手の意を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること、そして「獲得した知識や技能を活かし、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな者と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる」ようになることを目的とする。

中国の国有ラジオ局「北京人民广播电台」(ラジオ北京)にニュース専用チャンネル「北京新聞廣播」(北京ニュースラジオ)がある。「主播在線」(メインキャスターオンライン)は「北京新聞廣播」が2018年1月1日から新たに始めた、北京時間毎朝7時30分から1時間30分放送される情報番組で、経済・生活・文化・娯楽・旅・レジャーなど市民の生活に密着した実証ニュースを地域の様々な人々の暮らしに密接にかかわる事柄であり、そこにしばしば論評が加えられるのも番組の特徴である。

この科では、「主播在線」冒頭約2分間のヘッドラインを材料に、市民の回りで何が起きているのか、市民が何に関心を持っているのかを、その本日のマスコミによる報道を通さず自分の目で直接知り、その本日の状況とも比べながら、あるべき社会の姿を自分なりに考えることができるようになることを目指す。

< 到達目標 >

- 1.日本ではあまり伝えられることのない、中国の一般市民の身の回りで実際に起きていることや、彼ら・彼女らが関心を持っていることを知ることができる。(知識)
- 2.市民の暮らしや関心事に注意を向けることができる。(態度・習慣)
- 3.ナマのニュースを聴き取ったり読み取ったりすることができる。(技能)
- 4.日本の状況とも比べながら、あるべき社会の姿を自分なりに考えることができる。(態度・習慣)

< 授業のキーワード >

生活ニュース、市民の関心事、シンクロ・リーディング

< 授業の進め方 >

授業前に放送された「主播在線」のヘッドラインを材料にする。

【授業までの準備】

授業の前に放送された「主播在線」のヘッドラインについて、MP3に変換した音声データとそのスクリプトをその日のうちにOneDrive置いておくので、授業に臨むまでに各自でそれを自分の環境にダウンロードしておく。

【授業】

1. 声を元の速度のまま聴く。(授業)
2. スクリプトを読み、ニュースの背景も含めて意味を理解する。(授業)
3. 速度を少し落としたり声に合わせてスクリプトを読む(シンクロリーディング)。(授業・復習)
4. テスト(空所補充)を実施する。(授業)

< 履修するにあたって >

授業ではナマの中国語を材料とするため、履修するにあたっては2年次配当の中国語科を履修して単位を取得したのと同程度程度の中国語を有していることが必要。ただし、程度の中国語は必要ない。意味の解説や読書の指導はすべて教員がなう。ナマの中国を知りたい、ナマの中国を自分の視点から理解したいという思いのある人の履修を歓迎する。

この科は前期のだけを履修することも可能である。ただし、中国語を向上させるため、また、中国に関する情報により多く接し、中国についてより深く理解し、中国に対する自分の考えをより鋭く磨くことができるようにするため、後期の も併せて履修することが望ましい。

< 授業時間外に必要な学修 >

- ・授業の前に放送された「主播在線」のヘッドラインについて、MP3に変換した音声データとそのスクリプトをその日のうちにOneDrive置いておくので、授業に臨むまでに各自でそれを自分の環境にダウンロードしておく。
- ・予習をする必要はないが、それを妨げるものでもない。
- ・授業で学習した内容を授業後に1時間程度の時間をか

けて深く掘り下げ、復習しておくことが望ましい。また？読(シンクローディング)を何度も繰り返し、中国語の正しい発音？を？につけながら中国語そのものを？分のものにしてほしい。

<提出課題など>

毎回の授業で「空所補充」形式の？テストを実施する。授業で使？したスクリプトを元にした内容のため、？テストに対する解答・解説などは？なわない。

<成績評価方法・基準>

- ・単位を取得するためには10回以上の出席が必要。
- ・毎回の授業で実施する？テストの結果を60%、定期試験の結果を40%の割合で成績を評価する。

<テキスト>

使？しない。

授業の前？に放送された「主播在線」のヘッドラインについて、MP3に変換した？声データとそのスクリプトをその？のうちにOneDrive置いておくので、授業に臨むまでに各？でそれを？分の環境にダウンロードしておくこと。

<参考図書>

北京・商務印書館？学館『中？辞典 第3版』？学館
2016年 7500円+税

<授業計画>

第1回 4月13日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・？読(シンクローディング)・？テスト

第2回 4月20日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・？読(シンクローディング)・？テスト

第3回 4月27日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・？読(シンクローディング)・？テスト

第4回 5月11日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・？読(シンクローディング)・？テスト

第5回 5月18日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・？読(シンクローディング)・？テスト

第6回 5月25日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・？読(シンクローディング)・？テスト

第7回 6月1日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・？読(シンクローディング)・？テスト

第8回 6月8日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・？読(シンクローディング)・？テスト

第9回 6月15日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・？読(シンクローディング)・？テスト

第10回 6月22日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・？読(シンクローディング)・？テスト

第11回 6月29日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・？読(シンクローディング)・？テスト

第12回 7月6日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・？読(シンクローディング)・？テスト

第13回 7月13日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・？読(シンクローディング)・？テスト

第14回 7月20日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・？読(シンクローディング)・？テスト

第15回 7月24日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・？読(シンクローディング)・？テスト

2022年度 前期

1.0単位

上級中国語 C タ(時事・総合)

池田 磨左文

<授業の方法>

講義・演習

<授業の目的>

この科？では、全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて、広い教養を？につけ、豊かな？間性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活？してさまざまな問題を発？し、それを解決する？策を導くことができる」ようになること・「？分の意？を？頭や？書によって表現し、相？の意？を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること、そして「獲得した知識や技能を活？し、国内外において、価値観や意？の異なるさまざまな？と議論し、学びを深め、協働して、社会に役？てることことができる」ようになることを？的とする。

中国の国有ラジオ局「北京？？広播電台」(ラジオ北京)にニュース専？チャンネル「北京新聞広播」(北京ニュースラジオ)がある。「主播在線」(メインキャスターオンライン)は「北京新聞広播」が2018年1？1？から新たに始めた、北京時間毎朝7時30分から1時間30分放送される情報番組で、経済・？活・？化娯楽・旅？レジャーなど市？の？活に密着した実？ニュースを地域の？々伝えることを趣旨としている。伝えられる内容の多くは？々の？々の暮らしに密接にかかわる事柄であり、そこにしばしば論評が加えられるのも番組の特徴である。

この科？では、「主播在線」冒頭約2分間のヘッドラインを材料に、市？の回りで何が起きているのか、市？

が何に関? を持っているのかを、? 本のマスコミによる報道を通さず? 分の? と? で直接知り、? 本の状況とも? べながら、あるべき社会の姿を? 分なりに考えることができるようになることを? 指す。

<到達目標>

- 1.日本ではあまり伝えられることのない、中国の一般市民の身の回りで実際に起きていることや、彼ら・彼女らに関心を持っていることを知ることができる。(知識)
- 2.市民の暮らしや関心事に注意を向けることができる。(態度・習慣)
- 3.ナマのニュースを聴き取ったり読み取ったりすることができる。(技能)
- 4.日本の状況とも比べながら、あるべき社会の姿を自分なりに考えることができる。(態度・習慣)

<授業のキーワード>

生活ニュース、市民の関心事、シンクロ・リーディング

<授業の進め方>

授業前? に放送された「主播在線」のヘッドラインを材料にする。

【授業までの準備】

授業の前? に放送された「主播在線」のヘッドラインについて、MP3に変換した? 声データとそのスクリプトをその? のうちにOneDrive置いておくので、授業に臨むまでに各? でそれを? 分の環境にダウンロードしておく。

【授業】

- 1.? 声を元の速度のまま聴く。(授業)
- 2.スクリプトを読み、ニュースの背景も含めて意味を理解する。(授業)
- 3.速度を少し落とした? 声に合わせてスクリプトを? 読(シンクロリーディング)。(授業・復習)
- 4.? テスト(空所補充)を実施する。(授業)

<履修するにあたって>

授業ではナマの中国語を材料とするため、履修するに当たっては2年次配当の中国語科? を履修して単位を取得したのと同程度程度の中国語? を有していることが必要。ただし、? 度な中国語? は必要ない。意味の解説や? 読の指導はすべて教員が? なう。ナマの中国を知りたい、ナマの中国を? 分の視点から理解したいという思いのある? の履修を歓迎する。

この科? は前期の だけを履修することも可能である。ただし、中国語? を向上させるため、また、中国に関する情報により多く接し、中国についてより深く理解し、中国に対する? 分の? ? をより鋭く磨くことができるようにするため、後期の も併せて履修することが望ましい。

<授業時間外に必要な学修>

・授業の前? に放送された「主播在線」のヘッドラインについて、MP3に変換した? 声データとそのスクリプト

をその? のうちにOneDrive置いておくので、授業に臨むまでに各? でそれを? 分の環境にダウンロードしておく。
・予習をする必要はないが、それを妨げるものでもない。
・授業で学習した内容を授業後に1時間程度の時間をかけて深く掘り下げ、復習しておくことが望ましい。また? 読(シンクロリーディング)を何度も繰り返し、中国語の正しい発? を? につけながら中国語そのものを? 分のものにしてほしい。

<提出課題など>

毎回の授業で「空所補充」形式の? テストを実施する。授業で使? したスクリプトを元にした内容のため、? テストに対する解答・解説などは? なわない。

<成績評価方法・基準>

- ・単位を取得するためには10回以上の出席が必要。
- ・毎回の授業で実施する? テストの結果を60%、定期試験の結果を40%の割合で成績を評価する。

<テキスト>

使? しない。

授業の前? に放送された「主播在線」のヘッドラインについて、MP3に変換した? 声データとそのスクリプトをその? のうちにOneDrive置いておくので、授業に臨むまでに各? でそれを? 分の環境にダウンロードしておくこと。

<参考図書>

北京・商務印書館? 学館 『中? 辞典 第3版』? 学館 2016年 7500円+税

<授業計画>

第1回 4月12日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・? 読(シンクロリーディング)・? テスト

第2回 4月19日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・? 読(シンクロリーディング)・? テスト

第3回 4月26日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・? 読(シンクロリーディング)・? テスト

第4回 5月10日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・? 読(シンクロリーディング)・? テスト

第5回 5月17日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・? 読(シンクロリーディング)・? テスト

第6回 5月24日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・? 読(シンクロリーディング)・? テスト

第7回 5月31日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・? 読(シンクロリーディング)・? テスト

第8回 6月7日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・? 読(シンクロリー

ディング)・? テスト

第9回 6月14日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・? 読(シンクロリーディング)・? テスト

第10回 6月21日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・? 読(シンクロリーディング)・? テスト

第11回 6月28日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・? 読(シンクロリーディング)・? テスト

第12回 7月5日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・? 読(シンクロリーディング)・? テスト

第13回 7月12日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・? 読(シンクロリーディング)・? テスト

第14回 7月19日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・? 読(シンクロリーディング)・? テスト

第15回 7月22日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・? 読(シンクロリーディング)・? テスト

2022年度 後期

1.0単位

上級中国語 C ア

池田 磨左文

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

この科? では、全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて、広い教養を? につけ、豊かな? 問性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活? してさまざまな問題を発? し、それを解決する? 策を導くことができる」ようになること・「? 分の意? を? 頭や? 書によって表現し、相? の意? を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること、そして「獲得した知識や技能を活? し、国内外において、価値観や意? の異なるさまざまな? と議論し、学びを深め、協働して、社会に役? てることができる」ようになることを? 的とする。

中国の国有ラジオ局「北京? ? 広播電台」(ラジオ北京)にニュース専? チャンネル「北京新聞広播」(北京ニュースラジオ)がある。「主播在線」(メインキャスターオンライン)は「北京新聞広播」が2018年1?1? から新たに始めた、北京時間毎朝7時30分から1時間30分放送される情報番組で、経済・? 活・? 化娯楽・旅? レジャーなど市? の? 活に密着した実? ニュースを地域の? 々伝えることを趣旨としている。伝えられる内容の多くは

? 々の? 々の暮らしに密接にかかわる事柄であり、そこにしばしば論評が加えられるのも番組の特徴である。

この科? では、「主播在線」冒頭約2分間のヘッドラインを材料に、市? の回りで何が起きているのか、市? が何に関? を持っているのかを、? 本のマスコミによる報道を通さず? 分の? と? で直接知り、? 本の状況とも? べながら、あるべき社会の姿を? 分なりに考えることができるようになることを? 指す。

<到達目標>

- 1.日本ではあまり伝えられることのない、中国の一般市民の身の回りで実際に起きていることや、彼ら・彼女らが関心を持っていることを知ることができる。(知識)
- 2.市民の暮らしや関心事に注意を向けることができる。(態度・習慣)
- 3.ナマのニュースを聴き取ったり読み取ったりすることができる。(技能)
- 4.日本の状況とも比べながら、あるべき社会の姿を自分なりに考えることができる。(態度・習慣)

<授業のキーワード>

生活ニュース、市民の関心事、シンクロ・リーディング

<授業の進め方>

授業前? に放送された「主播在線」のヘッドラインを材料にする。

【授業までの準備】

授業の前? に放送された「主播在線」のヘッドラインについて、MP3に変換した? 声データとそのスクリプトをその? のうちにOneDrive置いておくので、授業に臨むまでに各? でそれを? 分の環境にダウンロードしておく。

【授業】

- 1.? 声を元の速度のまま聴く。(授業)
- 2.スクリプトを読み、ニュースの背景も含めて意味を理解する。(授業)
- 3.速度を少し落としたり? 声に合わせてスクリプトを? 読する(シンクロリーディング)。(授業・復習)
- 4.? テスト(空所補充)を実施する。(授業)

<履修するにあたって>

授業ではナマの中国語を材料とするため、履修するに当たっては2年次配当の中国語科? を履修して単位を取得したのと同程度程度の中国語? を有していることが必要。ただし、? 度な中国語? は必要ない。意味の解説や? 読の指導はすべて教員が? なる。ナマの中国を知りたい、ナマの中国を? 分の視点から理解したいという思いのある? の履修を歓迎する。

この科? は後期の? だけを履修することも可能である。ただし、中国語? を向上させるため、また、中国に関する情報により多く接し、中国についてより深く理解し、中国に対する? 分の? ? をより鋭く磨くことができるようにするため、前期の? も併せて履修しておくことが望

ましい。

< 授業時間外に必要な学修 >

・授業の前? に放送された「主播在線」のヘッドラインについて、MP3に変換した? 声データとそのスクリプトをその? のうちにOneDrive置いておくので、授業に臨むまでに各? でそれを? 分の環境にダウンロードしておく。
・予習をする必要はないが、それを妨げるものでもない。
・授業で学習した内容を授業後に1時間程度の時間をかけて深く掘り下げ、復習しておくことが望ましい。また? 読(シンクローディング)を何度も繰り返し、中国語の正しい発? を? につけながら中国語そのものを? 分のものにしてほしい。

< 提出課題など >

毎回の授業で「空所補充」形式の? テストを実施する。授業で使? したスクリプトを元にした内容のため、? テストに対する解答・解説などは? なわない。

< 成績評価方法・基準 >

・単位を取得するためには10回以上の出席が必要。
・毎回の授業で実施する? テストの結果を60%、定期試験の結果を40%の割合で成績を評価する。

< テキスト >

使? しない。

授業の前? に放送された「主播在線」のヘッドラインについて、MP3に変換した? 声データとそのスクリプトをその? のうちにOneDrive置いておくので、授業に臨むまでに各? でそれを? 分の環境にダウンロードしておくこと。

< 参考図書 >

北京・商務印書館 ? 学館 『中? 辞典 第3版』 ? 学館
2016年 7500円 + 税

< 授業計画 >

第1回 9月21日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・? 読(シンクローディング)・? テスト

第2回 9月28日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・? 読(シンクローディング)・? テスト

第3回 10月5日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・? 読(シンクローディング)・? テスト

第4回 10月12日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・? 読(シンクローディング)・? テスト

第5回 10月19日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・? 読(シンクローディング)・? テスト

第6回 10月26日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・? 読(シンクローディング)・? テスト

第7回 11月9日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・? 読(シンクローディング)・? テスト

第8回 11月16日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・? 読(シンクローディング)・? テスト

第9回 11月23日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・? 読(シンクローディング)・? テスト

第10回 11月30日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・? 読(シンクローディング)・? テスト

第11回 12月7日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・? 読(シンクローディング)・? テスト

第12回 12月14日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・? 読(シンクローディング)・? テスト

第13回 12月21日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・? 読(シンクローディング)・? テスト

第14回 1月11日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・? 読(シンクローディング)・? テスト

第15回 1月18日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・? 読(シンクローディング)・? テスト

2022年度 後期

1.0単位

上級中国語 C タ(時事・総合)

池田 磨左文

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

この科? では、全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて、広い教養を? につけ、豊かな? 間性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活? してさまざまな問題を発? し、それを解決する? 策を導くことができる」ようになること・「? 分の意? を? 頭や? 書によって表現し、相? の意? を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること、そして「獲得した知識や技能を活? し、国内外において、価値観や意? の異なるさまざまな? と議論し、学びを深め、協働して、社会に役? てることことができる」ようになることを? 的とする。

中国の国有ラジオ局「北京? ? 広播電台」(ラジオ北京)にニュース専? チャンネル「北京新聞広播」(北京ニュースラジオ)がある。「主播在線」(メインキャスターオンライン)は「北京新聞広播」が2018年1?1? から新

たに始めた、北京時間毎朝7時30分から1時間30分放送される情報番組で、経済・活・化・娯楽・旅・レジャーなど市の活に密着した実・ニュースを地域の々々伝えることを趣旨としている。伝えられる内容の多くは々の暮らしに密接にかかわる事柄であり、そこにしばしば論評が加えられるのも番組の特徴である。

この科では、「主播在線」冒頭約2分間のヘッドラインを材料に、市の回りで何が起きているのか、市が何に関を持っているのかを、本のマスコミによる報道を通さず分のとで直接知り、本の状況ともべながら、あるべき社会の姿を分なりに考えることができるようになることを指す。

<到達目標>

- 1.日本ではあまり伝えられることのない、中国の一般市民の身の回りで実際に起きていることや、彼ら・彼女らが関心を持っていることを知ることができる。(知識)
- 2.市民の暮らしや関心事に注意を向けることができる。(態度・習慣)
- 3.ナマのニュースを聴き取ったり読み取ったりすることができる。(技能)
- 4.日本の状況とも比べながら、あるべき社会の姿を自分なりに考えることができる。(態度・習慣)

<授業のキーワード>

生活ニュース、市民の関心事、シンクロ・リーディング
<授業の進め方>

授業前に放送された「主播在線」のヘッドラインを材料にする。

【授業までの準備】

授業の前に放送された「主播在線」のヘッドラインについて、MP3に変換した声データとそのスクリプトをそののうちにOneDrive置いておくので、授業に臨むまでに各でそれを分の環境にダウンロードしておく。

【授業】

- 1.声を元の速度のまま聴く。(授業)
- 2.スクリプトを読み、ニュースの背景も含めて意味を理解する。(授業)
- 3.速度を少し落とした声に合わせてスクリプトを読む(シンクロリーディング)。(授業・復習)
- 4.テスト(空所補充)を実施する。(授業)

<履修するにあたって>

授業ではナマの中国語を材料とするため、履修するに当たっては2年次配当の中国語科を履修して単位を取得したのと同程度程度の中国語を有していることが必要。ただし、度な中国語は必要ない。意味の解説や読の指導はすべて教員がなう。ナマの中国を知りたい、ナマの中国を分の視点から理解したいという思いのあるの履修を歓迎する。

この科は後期のだけを履修することも可能である。

ただし、中国語を向上させるため、また、中国に関する情報により多く接し、中国についてより深く理解し、中国に対する分のをより鋭く磨くことができるようにするため、前期のをも併せて履修しておくことが望ましい。

<授業時間外に必要な学修>

- ・授業の前に放送された「主播在線」のヘッドラインについて、MP3に変換した声データとそのスクリプトをそののうちにOneDrive置いておくので、授業に臨むまでに各でそれを分の環境にダウンロードしておく。
- ・予習をする必要はないが、それを妨げるものでもない。
- ・授業で学習した内容を授業後に1時間程度の時間をかけて深く掘り下げ、復習しておくことが望ましい。また読(シンクロリーディング)を何度も繰り返し、中国語の正しい発音をにつけながら中国語そのものをものにしてほしい。

<提出課題など>

毎回の授業で「空所補充」形式のテストを実施する。授業で使ったスクリプトを元にした内容のため、テストに対する解答・解説などはなわない。

<成績評価方法・基準>

- ・単位を取得するためには10回以上の出席が必要。
- ・毎回の授業で実施するテストの結果を60%、定期試験の結果を40%の割合で成績を評価する。

<テキスト>

使しない。

授業の前に放送された「主播在線」のヘッドラインについて、MP3に変換した声データとそのスクリプトをそののうちにOneDrive置いておくので、授業に臨むまでに各でそれを分の環境にダウンロードしておくこと。

<参考図書>

北京・商務印書館 学館 『中辞典 第3版』 学館
2016年 7500円 + 税

<授業計画>

第1回 9月20日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・読(シンクロリーディング)・テスト

第2回 9月27日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・読(シンクロリーディング)・テスト

第3回 10月4日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・読(シンクロリーディング)・テスト

第4回 10月11日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・読(シンクロリーディング)・テスト

第5回 10月18日の放送

ヘッドラインのリスニング・理解・読(シンクロリーディング)・テスト

第6回 10月25日の放送
 ヘッドラインのリスニング・理解・? 読(シンクロリーディング)・? テスト
 第7回 11月1日の放送
 ヘッドラインのリスニング・理解・? 読(シンクロリーディング)・? テスト
 第8回 11月8日の放送
 ヘッドラインのリスニング・理解・? 読(シンクロリーディング)・? テスト
 第9回 11月15日の放送
 ヘッドラインのリスニング・理解・? 読(シンクロリーディング)・? テスト
 第10回 11月29日の放送
 ヘッドラインのリスニング・理解・? 読(シンクロリーディング)・? テスト
 第11回 12月6日の放送
 ヘッドラインのリスニング・理解・? 読(シンクロリーディング)・? テスト
 第12回 12月13日の放送
 ヘッドラインのリスニング・理解・? 読(シンクロリーディング)・? テスト
 第13回 12月20日の放送
 ヘッドラインのリスニング・理解・? 読(シンクロリーディング)・? テスト
 第14回 1月10日の放送
 ヘッドラインのリスニング・理解・? 読(シンクロリーディング)・? テスト
 第15回 1月17日の放送
 ヘッドラインのリスニング・理解・? 読(シンクロリーディング)・? テスト

 2022年度 前期

1.0単位

上級中国語 B ア

岩田 弥生

 < 授業の方法 >

対面授業 (講義・演習)

< 授業の目的 >

・少人数のクラスで、上級レベルの中国語会話に習熟する

・配布テキストの文章を練習しながら、表現を自分のものにする

・テキストの内容に対して自分の意見、感想が言える

・中国の文化、習慣について理解する

< 到達目標 >

・中国語の自然なイントネーションで文章を発音することができる (技能)

・中国語らしい自然な表現ができる (知識・技能)

・実践的な中国語会話ができる (技能)

・中国に対する関心を深めることができている (態度・習慣)

< 授業のキーワード >

中国語会話 コミュニケーション 双方向

< 授業の進め方 >

・配布テキストの文章を滞りなく発音できるよう繰り返し音読する

・文章に出てくる重要表現を説明し、聞き取り、問答練習を行う

・重要表現、文型について置き換え練習を行う

・教師と学生、または学生同士でロールプレイを行う

・テキストの内容について意見を述べる

< 履修するにあたって >

この授業は中級中国語や中国語検定対策を終了した、またはそれと同等以上の学力をもつ人を対象とした科目です。授業は中国語を母語とする先生によって行なわれます。一定の話題をめぐって中国語で簡単な会話ができるようになることを学修の目標とします。 と は連続した内容なのでともに履修することが望ましいのですが、 と をそれぞれ個別に履修してもかまいません。

< 授業時間外に必要な学修 >

・授業前に読めない漢字を調べる

・テキストの音声を繰り返し聴く

・復習を含め、1時間を必要とする

< 提出課題など >

三回に一回テキストを音読した音声を提出する

< 成績評価方法・基準 >

・定期試験は行わない

・授業中の発表 70%

・課題 30%

・それぞれに対する評価の基準は「到達目標」に従う

< テキスト >

配付資料で授業を進める

< 参考図書 >

ガイダンスの時に説明する

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス・自己紹介

・ガイダンス

・自己紹介

第2回 第一課

音読・読解

第3回 第一課

会話練習

第4回 第一課

実践練習

第5回 第二課

音読・読解

第6回 第二課

会話練習

第7回 第二課
実践練習
第8回 第三課
音読・読解
第9回 第三課
会話練習
第10回 第三課
実践練習
第11回 第四課
音読・読解
第12回 第四課
会話練習
第13回 第四課
実践練習
第14回 第五課
音読・読解
第15回 第五課
会話練習・実践練習

2022年度 前期

1.0単位

上級中国語 B タ(会話)

松岡 依文

< 授業の方法 >

対面授業(講義・演習)

< 授業の目的 >

(知識・技能)

共通教育等を通じて、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養している。

専門分野に高い関心を持ち、専門領域の課題を考察し、解決するための知識や技能を身につけている。

(思考力・判断力・表現力等の能力)

幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる。

自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる。

(主体性を持って多様な人々と共同して学ぶ態度)

獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる。

< 到達目標 >

1. 個々の音節が正確に発音できるだけでなく、中国語の自然なイントネーションで文や文章を発音することができる。(技能)

2. 中国の文化的要素を含んだ中国語らしい自然な表現ができる。(知識; 技能)

3. 日常生活の中で、その場に相応しい実践的で役立つ中国語会話ができる。(知識; 技能)

4. 日常生活の中で、自分の言いたいことを相手に伝えることができる。(技能)

5. 授業中だけでなく、日常的に、自発的に中国語会話を学ぶノウハウが身につけている。(態度・習慣)

6. 中国語の学習を通して、中国に対する関心・興味を深めることができている。(態度・習慣)

7. 積極的に双方向のコミュニケーションをとることができる。(態度・習慣)

< 授業のキーワード >

中国語会話 コミュニケーション 中級 双方向
< 授業の進め方 >

・教科書の配列に従って段階的に、自然で自発的なコミュニケーションができるように授業を進めていく。先生が学生に一方的に言葉を投げかけるのではなく、先生と学生、あるいは学生同士の双方向の会話を重視する。

・文法の説明したのちに、本文の日本語訳を確認。練習問題及びリスニングは出来るだけ実力でトライをしていただく。

< 履修するにあたって >

・中国語会話は初級～中級段階を終えた学習者の会話力を高めるために開設された科目である。初級中国語・中国語入門会話など1年次配当の中国語科目や中級中国語

・中国語基礎会話など2年次配当の中国語科目の履修を前提としないが、この科目の履修に当たっては2年次配当の中国語科目を履修して単位を取得したのと同程度

の基礎力を有していることが必要である。全くの初心者を対象とした科目でないことに留意してほしい。ただし、

高度な中国語力は必要ない。すでに基礎的な中国語を身につけた上で会話力をさらに伸ばしたいという意欲のある人の履修を歓迎する。

・会話の授業は会話を覚えるためにあるのではない。授業を離れて会話をするようになるようになって始めて会話の授業は存在する価値を有する。授業で行なった訓練を授業を離れても自分自身でおさらいし、機会を見つけて実践するように心がけてほしい。

・中国語会話は前期に開講されるこの「中国語会話」のほか、後期にも「中国語会話」が開講される。それぞれ単独で履修することが可能だが、中国語の会話力をより充実させるため、後期の「中国語会話」も併せて履修することが望ましい。

・発音はひとたび身につけてしまうと、たとえそれが間違ったものであったとしてもあとから矯正することは非常に困難である。中国語の発音に不安のある人は、参考書の3に挙げられている『CDムック 発音マスター! 読めて書ける中国語』を使って自習すると良い。

< 授業時間外に必要な学修 >
・この授業で使用する教科書は、本来は中級段階での使用を想定したものである。予習の段階で未知あるいは未習熟の語句などに遭遇したときは、辞書を引くなりして自分自身で問題を解決した上で授業に臨んでほしい。新

しい知識を注入することにこの授業の本旨があるのではない。この授業は訓練の場である。授業で訓練を十分に行なうことができるよう、授業前の準備体操(=予習)を怠らないこと。

・また、会話の授業は会話を覚えるためにあるのではない。授業を離れて会話をすることができるようになって始めて会話の授業は存在する価値を有する。授業で訓練したことを自分の血肉にしようとするれば、授業を離れてもそれを繰り返し練習することが必要である。そもそも週に1度程度の授業に出ることによって外国語での会話ができるようになるはずもない。授業で行なった訓練を授業を離れても自分自身でおさらいし、機会を見つけて実践するように心がけてほしい。

・以上のことをしっかり行なおうとすれば、授業の前後で2時間程度の予習・復習が必要である。

<成績評価方法・基準>

定期試験は行なわない。授業を通じて行なわれた遣り取りの様子やdotCampusやOffice365に提出された課題に対する評価などを以て成績を評価するための材料とする。授業での様子に対する評価の割合を40%、提出された課題に対する評価の割合を60%とする。

それぞれに対する評価の基準は「到達目標」に従う。

<テキスト>

陳淑梅・陸薇 『言葉と文化 一挙両得 中級中国語』
朝日出版社 2017年 2200円+税

<参考図書>

- 1.北京・商務印書館 小学館 『中日辞典 第3版』
小学館 2016年 7500円+税
- 2.相原茂・石田知子・戸沼市子 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』 同学社 2016年 2500円+税
- 3.荒川清秀 『CDムック 発音マスター! 読めて書ける中国語』 NHK出版 2010年 952円+税

<授業計画>

第1回 第1課 1回目/全2回

大学生生活

- ・課文(1)(2)
- ・ポイント

第2回 第1課 2回目/全2回

大学生生活

- ・ドリル
- ・課文(1)(2)を材料にした対話練習
- ・Column

第3回 第2課 1回目/全2回

大学的作息时间

- ・課文(1)(2)
- ・ポイント

第4回 第2課 2回目/全2回

大学的作息时间

- ・ドリル

・課文(1)(2)を材料にした対話練習

・Column

第5回 第3課 1回目/全2回

早饭

- ・課文(1)(2)
- ・ポイント

第6回 第3課 2回目/全2回

早饭

- ・ドリル
- ・課文(1)(2)を材料にした対話練習
- ・Column

第7回 第4課 1回目/全2回

喝茶

- ・課文(1)(2)
- ・ポイント

第8回 第4課 2回目/全2回

喝茶

- ・ドリル
- ・課文(1)(2)を材料にした対話練習
- ・Column

第9回 第5課 1回目/全2回

饮食

- ・課文(1)(2)
- ・ポイント

第10回 第5課 2回目/全2回

饮食

- ・ドリル
- ・課文(1)(2)を材料にした対話練習
- ・Column

第11回 第6課 1回目/全2回

生活习惯

- ・課文(1)(2)
- ・ポイント

第12回 第6課 2回目/全2回

生活习惯

- ・ドリル
- ・課文(1)(2)を材料にした対話練習
- ・Column

第13回 第7課 2回目/全2回

交通

- ・課文(1)(2)
- ・ポイント

第14回

第7課 2回目/全2回

交通

- ・ドリル
- ・課文(1)(2)を材料にした対話練習
- ・Column

第15回 到達確認

第1課~第7課の課文を材料に中国語で語り合う

2022年度 後期

1.0単位

上級中国語 B ア

岩田 弥生

< 授業の方法 >

対面授業（講義・演習）

< 授業の目的 >

- ・ 少人数のクラスで、上級レベルの中国語会話に習熟する
- ・ 配布テキストの文章を練習しながら、表現を自分のものにする
- ・ テキストの内容に対して自分の意見、感想が言える
- ・ 中国の文化、習慣について理解する

< 到達目標 >

- ・ 中国語の自然なイントネーションで文章を発音することができる（技能）
- ・ 中国語らしい自然な表現ができる（知識・技能）
- ・ 実践的な中国語会話ができる（技能）
- ・ 中国に対する関心を深めることができている（態度・習慣）

< 授業のキーワード >

中国語会話 コミュニケーション 双方向

< 授業の進め方 >

- ・ 配布テキストの文章を滞りなく発音できるよう繰り返し音読する
- ・ 文章に出てくる重要表現を説明し、聞き取り、問答練習を行う
- ・ 重要表現、文型について置き換え練習を行う
- ・ 教師と学生、または学生同士でロールプレイを行う
- ・ テキストの内容について意見を述べる

< 履修するにあたって >

この授業は中級中国語や中国語検定対策を終了した、またはそれと同等以上の学力をもつ人を対象とした科目です。授業は中国語を母語とする先生によって行なわれます。一定の話題をめぐって中国語で簡単な会話ができるようになることを学修の目標とします。 と は連続した内容なのでとも履修することが望ましいのですが、 と をそれぞれ個別に履修してもかまいません。

< 授業時間外に必要な学修 >

- ・ 授業前に読めない漢字を調べる
- ・ テキストの音声を繰り返し聴く
- ・ 復習を含め、1時間を必要とする

< 提出課題など >

三回に一回テキストを音読した音声を提出する

< 成績評価方法・基準 >

- ・ 定期試験は行わない
- ・ 授業中の発表 70%
- ・ 課題 30%
- ・ それぞれに対する評価の基準は「到達目標」に従う

< テキスト >

配付資料で授業を進める

< 参考図書 >

ガイダンスの時に説明する

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス・自己紹介

- ・ ガイダンス
- ・ 自己紹介

第2回 第六課

音読・読解

第3回 第六課

会話練習

第4回 第六課

実践練習

第5回 第七課

音読・読解

第6回 第七課

会話練習

第7回 第七課

実践練習

第8回 第八課

音読・読解

第9回 第八課

会話練習

第10回 第八課

実践練習

第11回 第九課

音読・読解

第12回 第九課

会話練習

第13回 第九課

実践練習

第14回 第十課

音読・読解

第15回 第十課

会話練習、実践練習

第16回

2022年度 後期

1.0単位

上級中国語 B タ(会話)

松岡 依文

< 授業の方法 >

対面授業(講義・演習)

< 授業の目的 >

(知識・技能)

共通教育等を通じて、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養している。

専門分野に高い関心を持ち、専門領域の課題を考察し、解決するための知識や技能を身につけている。

(思考力・判断力・表現力等の能力)

幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる。

自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる。

(主体性を持って多様な人々と共同して学ぶ態度)

獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる。

< 到達目標 >

1. 個々の音節が正確に発音できるだけでなく、中国語の自然なイントネーションで文や文章を発音することができる。(技能)

2. 中国の文化的要素を含んだ中国語らしい自然な表現ができる。(知識；技能)

3. 日常生活の中で、その場に相応しい実践的で役立つ中国語会話ができる。(知識；技能)

4. 日常生活の中で、自分の言いたいことを相手に伝えることができる。(技能)

5. 授業中だけでなく、日常的に、自発的に中国語会話を学ぶノウハウが身につけている。(態度・習慣)

6. 中国語の学習を通して、中国に対する関心・興味を深めることができる。(態度・習慣)

7. 積極的に双方向のコミュニケーションをとることができる。(態度・習慣)

< 授業のキーワード >

中国語会話 コミュニケーション 中級 双方向

< 授業の進め方 >

・教科書の配列に従って段階的に、自然で自発的なコミュニケーションができるように授業を進めていく。先生が学生に一方的に言葉を投げかけるのではなく、先生と学生、あるいは学生同士の双方向の会話を重視する。

・課文・ポイント・ドリルなどを単になぞるのではなく、それらの文や文章などを自分の状況に置き換えて表現し直すことができるよう、応用練習を繰り返し行なう。

< 履修するにあたって >

・中国語会話は初級～中級段階を終えた学習者の会話力を高めるために開設された科目である。初級中国語・中国語入門会話など1年次配当の中国語科目や中級中国語・中国語基礎会話など2年次配当の中国語科目の履修を前提としないが、この科目の履修に当たっては2年次配当の中国語科目を履修して単位を取得したのと同程度程度の基礎力を有していることが必要である。全くの初心者を対象とした科目でないことに留意してほしい。ただし、高度な中国語力は必要ない。すでに基礎的な中国語を身につけた上で会話力をさらに伸ばしたいという意欲のある人の履修を歓迎する。

・会話の授業は会話を覚えるためにあるのではない。授業を離れて会話をするようになって始めて会話の授業は存在する価値を有する。授業で行なった訓練を授業を離れても自分自身でおさらいし、機会を見つけて実践するように心がけてほしい。

・中国語会話は後期に開講されるこの「中国語会話」のほか、前期にも「中国語会話」が開講される。それぞれ単独で履修することが可能だが、中国語の会話力をより充実させるため、前期の「中国語会話」も併せて履修しておくことが望ましい。

・発音はひとたび身につけてしまうと、たとえそれが間違ったものであったとしてもあとから矯正することは非常に困難である。中国語の発音に不安のある人は、参考書の3に挙げられている『CDムック 発音マスター！ 読めて書ける中国語』を使って自習すると良い。

< 授業時間外に必要な学修 >

・この授業で使用する教科書は、本来は中級段階での使用を想定したものである。予習の段階で未知あるいは未習熟の語句などに遭遇したときは、辞書を引くなりして自分自身で問題を解決した上で授業に臨んでほしい。新しい知識を注入することにこの授業の本旨があるのではない。この授業は訓練の場である。授業で訓練を十分に行なうことができるよう、授業前の準備体操(=予習)を怠らないこと。

・また、会話の授業は会話を覚えるためにあるのではない。授業を離れて会話をするようになって始めて会話の授業は存在する価値を有する。授業で訓練したことを自分の血肉にしようとするれば、授業を離れてもそれを繰り返し練習することが必要である。そもそも週に1度程度の授業に出ることによって外国語での会話ができるようになるはずもない。授業で行なった訓練を授業を離れても自分自身でおさらいし、機会を見つけて実践するように心がけてほしい。

・以上のことをしっかり行なおうとすれば、授業の前後で2時間程度の予習・復習が必要である。

< 成績評価方法・基準 >

・単位を取得するためには10回以上の出席が必要。
・定期試験は行なわない。授業中に口頭・筆記の形式で

行なわれる訓練や、授業中に先生と学生との間で、あるいは学生同士で行われる会話などの状況を見て、成績を判断する。

- ・評点S・A取得者の割合は、おおむね単位取得者の50%を超えないものとする。
- ・それぞれに対する評価の基準は「到達目標」に従う。

<テキスト>

陳淑梅・陸薇 『言葉と文化 一挙両得 中級中国語』
朝日出版社 2017年 2200円＋税

<参考図書>

- 1.北京・商務印書館 小学館 『中日辞典 第3版』
小学館 2016年 7500円＋税
- 2.相原茂・石田知子・戸沼市子 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』 同学社 2016年 2500円＋税
- 3.荒川清秀 『CDムック 発音マスター！ 読めて書ける中国語』 NHK出版 2010年 952円＋税
- 4.白井恭弘 『外国語学習の科学 第二言語習得論とは何か』 岩波書店 2008年 760円＋税

<授業計画>

第1回 第8課 1回目/全2回

(1)授業中に後期の授業方法について説明する

校园节

- ・課文(1)(2)
- ・ポイント

第2回 第8課 2回目/全2回

校园节

- ・ドリル
- ・課文(1)(2)を材料にした対話練習
- ・Column

第3回 第9課 1回目/全2回

体育

- ・課文(1)(2)
- ・ポイント

第4回 第9課 2回目/全2回

体育

- ・ドリル
- ・課文(1)(2)を材料にした対話練習
- ・Column

第5回 第10課 1回目/全2回

歌舞伎和京剧

- ・課文(1)(2)
- ・ポイント

第6回 第10課 2回目/全2回

歌舞伎和京剧

- ・ドリル
- ・課文(1)(2)を材料にした対話練習
- ・Column

第7回 第11課 1回目/全2回

方言

・課文(1)(2)

・ポイント

第8回 第11課 2回目/全2回

方言

- ・ドリル
- ・課文(1)(2)を材料にした対話練習
- ・Column

第9回 第12課 1回目/全2回

饭桌上的习惯

- ・課文(1)(2)
- ・ポイント

第10回 第12課 2回目/全2回

饭桌上的习惯

- ・ドリル
- ・課文(1)(2)を材料にした対話練習
- ・Column

第11回 第13課 1回目/全2回

过年

- ・課文(1)(2)
- ・ポイント

第12回 第13課 2回目/全2回

过年

- ・ドリル
- ・課文(1)(2)を材料にした対話練習
- ・Column

第13回 第14課 1回目/全2回

年轻人的婚事

- ・課文(1)(2)
- ・ポイント

第14回 第14課 2回目/全2回

年轻人的婚事

- ・ドリル
- ・課文(1)(2)を材料にした対話練習
- ・Column

第15回 第8課～第14課の総仕上げ

第8課～第14課の課文を材料に中国語で語り合う

2022年度 前期

1.0単位

上級中国語 A ア

山本 透江

<授業の方法>

対面授業(講義・演習)

9月20日(月)～10月2日(土)までの授業形態

遠隔授業(Zoomによるリアルタイム授業)

10月4日(月)から対面授業を実施いたします

10月04日(月)以降は授業形態を対面形式に戻すことを予定していますが、新型コロナウイルス感染症の蔓延状況によっては遠隔授業を継続せざるを得ないかも知れま

せん。これについては大学の方針が決まり次第あらためてお知らせします。

何らかの事情によりZoomによるリアルタイム授業を受けることのできない学生に対しては、授業の録画データまたは音声データを授業後にOneDriveなどを通して提供します。具体的な方法は授業科目担当教員がdotCampusなどを通じて指示します。これについて不明の点があれば、授業科目担当教員にメールで尋ねてください。

Zoomに関する情報・OneDriveへのリンクや授業科目担当教員のメールアドレスなどは 遠隔授業情報 欄に記載してあります。

< 授業の目的 >

長い歴史の中、日本と中国との間には人や文化の交流が絶えることなくつづいている。ここ数年は両国の間に冷たい空気が流れ、中国を観光で訪れる日本人は減少してしまっている。しかし、反対に日本を観光で訪れる中国人の数はいまなお増え続けており、日本政府観光局HPの統計によると、2018年訪日外客数累計は前年比8.7パーセント増の3119万1800人、内中国からは同13.9%増で838万100人と、実に37.2%を占めている。これに台湾からの475万7300人(同+4.2%)、香港からの220万7900人(同-1.1%)を合わせると、昨年日本を訪れた中華圏の人は訪日客全体の約半数を占めたことになる。顕著なのは、春節(旧正月)を含む1、2月の日本を訪れた中国人は確かに多いものの、年間を通じて来訪者にそれほど差がない点であるのと、台湾、香港からの来訪客数は安定しているという点である。中国国内では、ECの整備により最近日本でわざわざ日本製品を購入する必要もなくなり、またSNS等で日本の芸能、文化等の情報を取り入れる層も増加しており、よってリピーターの増加が考えられる。そして買い物目的というよりはむしろ文化体験を目的とする観光が増え、反日でも親日でもない「知日」という言葉まで現れている。

2020年以降は往来が困難になり、ネットからの情報入手が主流となっている。

この授業では、一般の中国人が読む書籍やインターネットサイト、さらにはそれに対する中国人のネットへの書き込みなどを通して、中国人がなぜ日本に興味を示すのかを理解する。そして同時に、中国で話題となっているニュースを読むことで、日本と中国との観念の違いを知ることが目的とする。また周辺の国、地域(韓国、台湾、香港など)との関係性についても触れたい。

この授業を履修することにより、全学DP(ディプロマ・ポリシー)に掲げられている「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協同して、社会に役立てることができる」ようになる。

< 到達目標 >

1.辞書を使って発音を確認し、ピンインのない文章の音読ができる。

2.まとまりのある文章全体を辞書を使って自力で翻訳することができる。

3.中国人の日本への関心事に興味を持つことで、中国人への理解を増すことができている。

4.さらには、自国の文化を相手にアピールする手段としての中国語を身につけることができている。

< 授業のキーワード >

中国語、中国時事、中国文化、日本文化、訪日中国人

< 授業の進め方 >

後期のみ履修者がいる場合は、まずはピンインのない簡体字の長文に慣れるため、こちらで準備した中国の報道やコラムなどを丁寧に読む。4回目の授業を目安に授業で扱うテーマを皆で話し合って決め、あらかじめひとまとまりの文章をそれぞれに割り当て、担当者がその日本語訳などを発表することで授業を進めていく。受講人数によっては何度もあたる可能性がある。対話型の授業にしたいと考えているので、担当者以外の受講生からの積極的な発言も期待している。

< 履修するにあたって >

2年次に中国語科目を履修した学生と同等レベルの基礎力が必要。

この科目は前期の を履修せず後期の だけを履修することも可能である。ただし、授業内容が と とで連続するため、前期の も併せて履修しておくことが望ましい。

受講生の興味・要望に応じてスポットを当てる話題の変更も可能である。中国について特に興味を持っていることがあれば、積極的に提案してほしい。

受講人数や受講生のレベルによって、授業内容や進度が変わることがある。

中日辞典を携帯して授業に臨むこと。紙の辞書が望ましいが、電子辞書でも良い。またPCやスマートフォンなどをインターネットに繋いで検索してもかまわない。"

< 授業時間外に必要な学修 >

発表者であるかどうかにかかわらず、授業には積極的に参加しなければならない。そのためには全員が教材・資料を予習し、授業の中で教員から不意に発せられる質問に答えたり、自ら発言したりするための準備を十分しておく必要がある。この授業では、一人の発表者だけが教員と受け答えをし、他の学生はそれをただ黙って聞いていることに終始するような状況を作ることには、絶対ではない。さらに、毎回の授業でその内容に関する課題が提示され、その提出が求められる。また小テストも随時行なわれる。これら全てに備えようとするれば、最低でも授業時間と同じ1時間30分程度の学修時間は必要となるだろう。"

< 成績評価方法・基準 >

定期試験は行なわない。次を以て成績を評価する：

- ・担当者・発表者として発表した内容に対する評価 40%
- ・担当者・発表者としてでなく発言したことに対する評

価 20%

・提出された課題に対する評価 20%

・小テストの結果に対する評価 20%

それぞれに対する評価の基準は「到達目標」に従う。

単位を取得するためには10回以上の出席が必要である。

出席が10回に満たない者には単位を与えない。

「評点S・A取得者の割合は、おおむね単位取得者の50%を超えないものとする」は削除してください。

<テキスト>

教科書は使用しない。主題に応じて資料を事前に配付し、それを教材とする。

<授業計画>

第1回 ガイダンスと力だめし

授業の進め方の説明後、中国語の基本文法をチェック、今年話題となっているニュースの概要を捉える。

各自、中国について興味のあるテーマを発表。

第2回 今年の春夏における中国人の旅行事情

この春や夏に起こった旅行に関する現象や傾向を中国のニュースで確認する。

各自、興味のあるテーマを発表。

第3回 国慶節について(1)

中国の建国記念日である10月1日の国慶節では、1週間休みとなる。その間の中国人の旅行事情を報道記事などで確認する。

日本紹介記事について割り当て、長文読解の割り当てを決める。

第4回 国慶節について(2)

中国の建国記念日である10月1日の国慶節では、1週間休みとなる。その間の中国人の動向を報道記事などで確認する。

第5回 国慶節について(3)

中国の建国記念日である10月1日の国慶節では、1週間休みとなる。その間の中国人の動向について考察する。

第6回 日本紹介記事を読む(1)

事前に提出された記事について、各担当者からの発表に基づき授業を進める。

第7回 日本紹介記事を読む(2)

事前に提出された記事について、各担当者からの発表に基づき授業を進める。

第8回 日本紹介記事を読む(3)

事前に提出された記事について、各担当者からの発表に基づき授業を進める。

第9回 日本紹介記事を読む(4)

事前に提出された記事について、各担当者からの発表に基づき授業を進める。意見交換。

第10回 東アジアの文化(1)

中国だけでなく、韓国、香港、台湾をも巻き込んだ文化・芸能事情について。映画や書籍などの波及についての

資料を読む。

第11回 東アジアの文化(2)

中国だけでなく、韓国、香港、台湾をも巻き込んだ文化・芸能事情について。映画や書籍などの波及についての資料を読んでから、意見交換を行う。

第12回 長文読解(1)

少し改まった文章の概要をどのくらい正確にとらえられるかを見る。

資料を配布し、各担当者の発表によって授業を進める。

第13回 長文読解(2)

少し改まった文章の概要をどのくらい正確にとらえられるかを見る。

資料を配布し、各担当者の発表によって授業を進める。

第14回 長文読解(3)

少し改まった文章の概要をどのくらい正確にとらえられるかを見る。

資料を配布し、各担当者の発表によって授業を進める。

また意見交換を行う。

第15回 まとめ

これまで扱った文章から重要表現をピックアップ、定期試験対策とする。

2022年度 前期

1.0単位

上級中国語 A タ(読解)

傍島 史奈

<授業の方法>

講義・演習

<授業の目的>

この授業の履修を通じて、全学DP(ディプロマ・ポリシー)に掲げられている「1 共通教育等を通じて、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養している」「3 幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる」を達成できる。

台湾の絵本作家ジミー・リャオ(幾米)の作品を読む。

1998年に絵本創作を開始すると、その翌年には『君のいる場所(原題: 向左走・向右走)』がベストセラーとなり、台湾で「大人の絵本」ブームが巻き起こった。これまでに50を超える作品を発表、日本はもちろん15か国以上で翻訳出版されている。また、日本のカルチャー雑誌『STUDIO VOICE VOL.333』(INFASパブリケーションズ 2003年8月6日発売)の「次のアジアを創るA-VIP 55人」に選ばれ、2006年にはディスカバリー・チャンネル「台湾人物誌2(英語: Portraits Taiwan)」に取り上げられた6名のうちの1人に選ばれ、世界各国の文学賞も受賞している。さらに、台湾・香港・中国(大陸)で映画化やテレビドラマ化、舞台化がなされ、中華圏では知らない人がいないほどの人気絵本作家である。

この授業では、鮮やかな色彩で少し不思議な感覚になる幾米の絵を鑑賞するとともに、簡単ではあるが情感豊かな彼の文章を読むことで、中国語の多様な表現を学び身につけることを目的とする。また、台湾や香港では繁体字を使用しており、将来的にその地域とかがかわることも考えられる。そのため、希望があれば簡体字と繁体字の両方を扱い、簡体字だけではなく繁体字にも対応できるような訓練をしたいと考えている。

<到達目標>

- 1.辞書を使って発音を確認し、ピンインのない文章の音読ができる。
- 2.まとまりのある文章全体を辞書を使って自力で翻訳することができる。
- 3.直訳にとどまらず、登場人物の行動や心情などを踏まえた上での適切な訳を考える姿勢を身につけている。
- 4.簡体字のみならず繁体字も読める。

<授業のキーワード>

台湾、中国、絵本、中国語、繁体字、簡体字、読解、中華圏文化

<授業の進め方>

受講学生の興味に応じてどの作品を読むかを決定する。受講人数によっては授業内で何度もあたる可能性がある。対話型の授業にしたいと考えているので、当たっている学生以外の積極的な発言も期待している。

簡体字（希望があれば繁体字併記）にピンインをつけて打ち直したものを配る。ただし、一度出てきた漢字に関してはピンインは振らないので、読めない場合はあらかじめ辞書で調べておくこと。

絵本に描かれている絵を鑑賞しつつ、皆で音読、翻訳、朗読をして登場人物の心の動きを丁寧に読み取りながら授業を進める。絵と文章から主人公の行動や心情について皆で想像・推測し、それを踏まえた日本語訳と一緒に話し合ってみる。

<履修するにあたって>

2年次に中国語科目を履修した学生と同等レベルの基礎力が必要。

この科目は前期の だけを履修することも可能である。ただし、学力を向上させるため、後期の も併せて履修することが望ましい。

受講生の興味・要望に応じて余った時間などに扱う話題を決めることも可能である。中華圏について特に興味を持っていることがあれば、積極的に提案してほしい。

受講人数や受講生のレベルによって、授業内容や進度が変わることがある。

<授業時間外に必要な学修>

予習としてひととおり発音練習しておくこと（20分以上）。

わからない発音の漢字にはあらかじめピンインを調べて読めるようになっておくこと（20分以上）。

復習として、朗読練習をすること（20分以上）。

授業前に前回の内容を理解しておくこと（20分以上）、前回の内容解説担当者はさらに皆の前で発表できるように準備しておくこと（+20分、計40分以上）。

<成績評価方法・基準>

授業内発表・自発的な発言 40%

小テスト(漢字に関するものを毎回出題する) 20%

定期試験 40%

それぞれに対する評価の基準は「到達目標」に従う。

単位取得には10回以上の出席が必要。

<テキスト>

教科書は使用しない。主題に応じて資料を配付し、それを教材とする。

<授業計画>

第1回 ガイダンスと力だめし

授業の進め方の説明後、中国語の基本文法をチェックする。

各自、中国について興味のあるテーマを発表。

第2回 幾米という作家について

第1回で行った基礎の再確認。

幾米の略歴を中国語で読む。

授業で扱う作品を決定。

第3回 幾米という作家について

幾米の略歴を中国語で読む（前回の続き）。

第4回 翻訳・読解

第2回の授業で決めた作品を読む。

絵を鑑賞しつつ、音読、登場人物の心の動きを丁寧に読み取りながらの翻訳、朗読といった手順で進めていく。

第5回 翻訳・読解

前回内容の確認後、続きを読み進める。

なお、前回の内容の解説は受講生にお願いする。

第6回 翻訳・読解

前回内容の確認後、続きを読み進める。

なお、前回の内容の解説は受講生にお願いする。

第7回 翻訳・読解

前回内容の確認後、続きを読み進める。

なお、内容の解説は受講生にお願いする。

第8回 まとめ

作品に対する感想など発表。

重要表現をピックアップして覚える。

朗読チェック

2作品目決定。

第9回 C-popに挑戦

まずは歌詞の内容把握、朗読。

中華圏の歌では、若者に人気のある歌手の歌であっても、韻を意識した歌詞のものが多。また、中国古典を典故とした歌詞も多い。現代の歌から、中国の文学的伝統を味わう。

第10回 C-popに挑戦

歌詞の朗読。実際に歌ってみる。

第11回 翻訳・読解

絵を鑑賞しつつ、音読、登場人物の心の動きを丁寧に読み取りながらの翻訳、朗読といった手順で進めていく。

第12回 翻訳・読解

前回内容の確認後、続きを読み進める。

なお、前回の内容の解説は受講生にお願いする。

第13回 翻訳・読解

前回内容の確認後、続きを読み進める。

なお、前回の内容の解説は受講生にお願いする。

第14回 翻訳・読解

前回内容の確認後、続きを読み進める。

なお、前回の内容の解説は受講生にお願いする。

第15回 まとめ

作品に対する感想など発表。

重要表現をピックアップして覚える。

朗読チェック

2022年度 後期

1.0単位

上級中国語 A ア

山本 透江

< 授業の方法 >

毎回提案する資料の内容を見たのち、各受講者の中国に関する意見を交わす。

講義、演習、実習をもとに、対面授業と遠隔授業併用とする。

< 授業の目的 >

長い歴史の中、日本と中国との間には人や文化の交流が絶えることなくつづいている。ここ数年は両国の間に冷たい空気が流れ、中国を観光で訪れる日本人は減少してしまっている。しかし、反対に日本を観光で訪れる中国人の数はいまなお増え続けており、日本政府観光局HPの統計によると、2018年訪日外客数累計は前年比8.7パーセント増の3119万1800人、内中国からは同13.9%増で38万100人と、実に37.2%を占めている。これに台湾からの475万7300人（同+4.2%）、香港からの220万7900人（同-1.1%）を合わせると、昨年日本を訪れた中華圏の人は訪日客全体の約半数を占めたことになる。顕著なのは、春節（旧正月）を含む1、2月の日本を訪れた中国人は確かに多いものの、年間を通じて来訪者にそれほど差がない点であるのと、台湾、香港からの来訪客数は安定しているという点である。中国国内では、ECの整備により最近日本でわざわざ日本製品を購入する必要もなくなり、またSNS等で日本の芸能、文化等の情報を取り入れる層も増加しており、よってリピーターの増加が考えられる。そして買い物目的というよりはむしろ文化体験を目的とする観光が増え、反日でも親日でもない「知日」という言葉まで現れている。

この授業では、一般の中国人が読む書籍やインターネットサイト、さらにはそれに対する中国人のネットへの書

き込みなどを通して、中国人がなぜ日本に興味を示すのかを理解する。そして同時に、中国で話題となっているニュースを読むことで、日本と中国との視点の違いを知ることが目的とする。また周辺の国、地域（韓国、台湾、香港など）との関係性についても触れたい。

この授業を履修することにより、全学DP(ディプロマ・ポリシー)に掲げられている「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協同して、社会に役立てることができる」ようになる。

< 到達目標 >

- 1.辞書を使って発音を確認し、ピンインのない文章の音読ができる。
- 2.まとまりのある文章全体を辞書を使って自力で翻訳することができる。
- 3.中国人の日本への関心事に興味を持つことで、中国人への理解を増すことができている。
- 4.さらには、自国の文化を相手にアピールする手段としての中国語を身につけることができている。

< 授業のキーワード >

中国語、中国時事、中国文化、日本文化、訪日中国人

< 授業の進め方 >

後期のみ履修者がいる場合は、まずはピンインのない簡体字の長文に慣れるため、こちらで準備した中国の報道やコラムなどを丁寧に読む。4回目の授業を目安に授業で扱うテーマを皆で話し合って決め、あらかじめひとまとまりの文章をそれぞれに割り当て、担当者がその日本語訳などを発表することで授業を進めていく。受講人数によっては何度もあたる可能性がある。対話型の授業にしたいと考えているので、担当者以外の受講生からの積極的な発言も期待している。

< 履修するにあたって >

2年次に中国語科目を履修した学生と同等レベルの基礎力が必要。

この科目は前期の を履修せず後期の だけを履修することも可能である。ただし、授業内容が と とで連続するため、前期の も併せて履修しておくことが望ましい。

受講生の興味・要望に応じてスポットを当てる話題の変更も可能である。中国について特に興味を持っていることがあれば、積極的に提案してほしい。

受講人数や受講生のレベルによって、授業内容や進度が変わることがある。

中日辞典持参。

< 授業時間外に必要な学修 >

「授業のすすめ方」の欄にも書いたとおり、日本語訳などの担当を決めて授業を進めますので、担当にあたった場合は予習が必要となります（1時間以上）。

また、毎回の授業でその日の内容に関する小テスト（課題も含む）を行うので、担当者以外の受講生も、資料に

はあらかじめ目を通しておくようにしてください(20分以上)。

<成績評価方法・基準>

授業内担当発表 40%

小テスト(課題も含む) 20%

その他提出物 40%

単位取得には10回以上の出席が必要。

評点S・Aの取得者の割合は、おおむね単位取得者の50%を超えないものとする。

<テキスト>

教科書は使用しない。主題に応じて資料を事前に配付し、それを教材とする。

<参考図書>

辞書は必ず用意してください。

<授業計画>

第1回 ガイダンスと力だめし

授業の進め方の説明後、中国語の基本文法をチェック、今年話題となっているニュースの概要を捉える。

各自、中国について興味のあるテーマを発表。

第2回 今年の春夏における中国人の旅行事情

この春や夏に起こった旅行に関する現象や傾向を中国のニュースで確認する。

各自、興味のあるテーマを発表。

第3回 国慶節について(1)

中国の建国記念日である10月1日の国慶節では、1週間休みとなる。その間の中国人の旅行事情を報道記事などで確認する。

日本紹介記事について割り当て、長文読解の割り当てを決める。

第4回 国慶節について(2)

中国の建国記念日である10月1日の国慶節では、1週間休みとなる。その間の中国人の動向を報道記事などで確認する。

第5回 国慶節について(3)

中国の建国記念日である10月1日の国慶節では、1週間休みとなる。その間の中国人の動向について考察する。

第6回 日本紹介記事を読む(1)

事前に提出された記事について、各担当者からの発表に基づき授業を進める。

第7回 日本紹介記事を読む(2)

事前に提出された記事について、各担当者からの発表に基づき授業を進める。

第8回 日本紹介記事を読む(3)

事前に提出された記事について、各担当者からの発表に基づき授業を進める。

第9回 日本紹介記事を読む(4)

事前に提出された記事について、各担当者からの発表に基づき授業を進める。意見交換。

第10回 東アジアの文化(1)

中国だけでなく、韓国、香港、台湾をも巻き込んだ文化

・芸能事情について。映画や書籍などの波及についての資料を読む。

第11回 東アジアの文化(2)

中国だけでなく、韓国、香港、台湾をも巻き込んだ文化・芸能事情について。映画や書籍などの波及についての資料を読んでから、意見交換を行う。

第12回 長文読解(1)

少し改まった文章の概要をどのくらい正確にとらえられるかを見る。

資料を配布し、各担当者の発表によって授業を進める。

第13回 長文読解(2)

少し改まった文章の概要をどのくらい正確にとらえられるかを見る。

資料を配布し、各担当者の発表によって授業を進める。

第14回 長文読解(3)

少し改まった文章の概要をどのくらい正確にとらえられるかを見る。

資料を配布し、各担当者の発表によって授業を進める。

また意見交換を行う。

第15回 まとめ

これまで扱った文章から重要表現をピックアップ、定期試験対策とする。

2022年度 後期

1.0単位

上級中国語 A タ(読解)

傍島 史奈

<授業の方法>

講義・演習

<授業の目的>

この授業の履修を通じて、全学DP(ディプロマ・ポリシー)に掲げられている「1 共通教育等を通じて、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養している」「3 幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる」を達成できる。

台湾の絵本作家ジミー・リャオ(幾米)の作品を読む。

1998年に絵本創作を開始すると、その翌年には『君のいる場所(原題: 向左走・向右走)』がベストセラーとなり、台湾で「大人の絵本」ブームが巻き起こった。これまでに50を超える作品を発表、日本はもちろん15か国以上で翻訳出版されている。また、日本のカルチャー雑誌『STUDIO VOICE VOL.333』(INFASパブリケーションズ 2003年8月6日発売)の「次のアジアを創るA-VIP 55人」に選ばれ、2006年にはディスカバリー・チャンネル「台湾人物誌2(英語: Portraits Taiwan)」に取り上げられた6名のうちの1人に選ばれ、世界各国の文学賞も受賞している。さらに、台湾・香港・中国(大陸)で映画化やテレビドラマ化、舞台化がなされ、中華圏では

知らない人がいないほどの人気絵本作家である。

この授業では、鮮やかな色彩で少し不思議な感覚になる幾米の絵を鑑賞するとともに、簡単ではあるが情感豊かな彼の文章を読むことで、中国語の多様な表現を学び身につけることを目的とする。また、台湾や香港では繁体字を使用しており、将来的にその地域とかわることも考えられる。そのため、希望があれば簡体字と繁体字の両方を扱い、簡体字だけではなく繁体字にも対応できるような訓練をしたいと考えている。

<到達目標>

- 1.辞書を使って発音を確認し、ピンインのない文章の音読ができる。
- 2.まとまりのある文章全体を辞書を使って自力で翻訳することができる。
- 3.直訳にとどまらず、登場人物の行動や心情などを踏まえた上での適切な訳を考える姿勢を身につけている。
- 4.簡体字のみならず繁体字も読める。

<授業のキーワード>

台湾、中国、絵本、中国語、繁体字、簡体字、読解、中華圏文化

<授業の進め方>

受講学生の興味に応じてどの作品を読むかを決定する。前期から受講している学生がいる場合は、前期で読んだ作品は除く。5回で一作品を目途に、合わせて二作品読むつもりである。受講人数によっては授業内で何度もあたる可能性がある。対話型の授業にしたいと考えているので、当たっている学生以外の積極的な発言も期待している。

簡体字（希望があれば繁体字併記）にピンインをつけて打ち直したものを配る。ただし、一度出てきた漢字に関してはピンインは振らないので、読めない場合はあらかじめ辞書で調べておくこと。

絵本に描かれている絵を鑑賞しつつ、皆で音読、翻訳、朗読をして登場人物の心の動きを丁寧に読み取りながら授業を進める。絵と文章から主人公の行動や心情について皆で想像・推測し、それを踏まえた日本語訳と一緒に話し合ってみる。

<履修するにあたって>

2年次に中国語科目を履修した学生と同等レベルの基礎力が必要。

この科目は後期の だけを履修することも可能である。ただし、学力を向上させるため、前期の も併せて履修しておくことが望ましい。

受講生の興味・要望に応じて余った時間などに扱う話題を決めることも可能である。中国について特に興味を持っていることがあれば、積極的に提案してほしい。

受講人数や受講生のレベルによって、授業内容や進度が変わることがある。

<授業時間外に必要な学修>

予習としてひととおり発音練習しておくこと（20分以上

）

わからない発音の漢字にはあらかじめピンインを調べて読めるようになっておくこと（20分以上）

復習として、朗読練習をすること（20分以上）。

授業前に前回の内容を理解しておくこと（20分以上）、前回の内容解説担当者はさらに皆の前で発表できるように、準備しておくこと（+20分、計40分以上）。

<成績評価方法・基準>

授業内発表・自発的な発言 40%

漢字の知識を問う問題（毎回出題する）20%

定期試験 40%

それぞれに対する評価の基準は「到達目標」に従う。

単位取得には10回以上の出席が必要。

<テキスト>

教科書は使用しない。主題に応じて資料を配付し、それを教材とする。

<授業計画>

第1回 ガイダンスと力だめし

後期の授業の進め方を説明する。

その後中国語の基本文法をチェックする。

各自、中国について興味のあるテーマを発表。

第2回 幾米作品の映画化

第1回で行った基礎の再確認。

幾米作品を原作として映画化されたものに関する記事を読む。

授業で扱う作品を決定。

第3回 幾米作品の映画化

幾米作品を原作として映画化されたものに関する記事を読む（前回の続き）。

第4回 翻訳・読解

第2回の授業で決めた作品を読む。

絵を鑑賞しつつ、音読、登場人物の心の動きを丁寧に読み取りながらの翻訳、朗読といった手順で進めていく。

第5回 翻訳・読解

前回内容の確認後、続きを読み進める。

なお、前回の内容の解説は受講生にお願いする。

第6回 翻訳・読解

前回内容の確認後、続きを読み進める。

なお、前回の内容の解説は受講生にお願いする。

第7回 翻訳・読解

前回内容の確認後、続きを読み進める。

なお、内容の解説は受講生にお願いする。

第8回 まとめ（一作品目）

作品に対する感想など発表。

重要表現をピックアップ、定期試験対策とする。

二作品目を決定。

第9回 C-popに挑戦

まずは歌詞の内容把握、朗読。

中華圏の歌では、若者に人気のある歌手の歌であっても、韻を意識した歌詞のものが多い。また、中国古典を典故

とした歌詞も多い。現代の歌から、中国の文学的伝統を味わう。

第10回 C-popに挑戦

歌詞の朗読。実際に歌ってみる。

第11回 翻訳・読解

第8回の授業で決めた作品を読む。

絵を鑑賞しつつ、音読、登場人物の心の動きを丁寧に読み取りながらの翻訳、朗読といった手順を進めていく。

第12回 翻訳・読解

前回内容の確認後、続きを読み進める。

なお、前回の内容の解説は受講生にお願いする。

第13回 翻訳・読解

前回内容の確認後、続きを読み進める。

なお、前回の内容の解説は受講生にお願いする。

第14回 翻訳・読解

前回内容の確認後、続きを読み進める。

なお、前回の内容の解説は受講生にお願いする。

第15回 まとめ(二作品目)

作品に対する感想など発表。

これまで扱った文章から重要表現をピックアップ、定期試験対策とする。

2022年度 前期

1.0単位

上級ドイツ語 ア

森田 昌美

< 授業の方法 >

対面授業(演習)

< 授業の目的 >

ドイツ語圏事情を紹介する教科書を通して、ドイツ語圏と日本との比較について読んだり、聴いたり、話したり、作文したりできるようになることを第一の目的とします。また、場面や状況に合わせて平易なドイツ語で自分の意見が主張できるようになることを第二の目的とします。これは、全学ディプロマ・ポリシー「1. 幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる」、「2. さまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる」にそったものです。

< 到達目標 >

1. ドイツ語圏事情に関する知識を得ることができる。
2. ドイツ語圏事情と日本事情について、自らの視点からドイツ語で表現することができる。
3. ドイツ語圏事情と日本事情を比較・考察し、両者の相違を認識することができる。
4. ドイツ語を読み、聴き、話し、書く能力をバランス良く習得することができる。

< 授業のキーワード >

コミュニケーション能力の育成、複数の言語・文化の多様性を理解する国際性の習得

< 授業の進め方 >

4つの言語運用能力、すなわち「読む、書く、聴く、話す」能力を有機的・効果的に身に付けるために、2年次で使用した教科書の続編後半を使います。ドイツ語圏の社会や文化についての理解も深めていきましょう。教科書の他に、『ワークブック』も使います。受講者の希望を聞きながら、ドイツ語圏(ドイツ・オーストリア・スイス)に関する教材も適宜補充して使います。なお、音声データは、出版社(三修社)音声サイトから、ダウンロードならびにストリーミング再生可能です。文字ばかりに頼らず、音声を聴き取る習慣をつけましょう。聴解力の育成に役立ちます。

< 履修するにあたって >

この科目を履修するにあたって、宿題にきちんと取り組むことはもちろんですが、前回の授業内容をしっかり復習した上で授業に臨む習慣をつけるようにしてください。授業は、初級・中級段階で学んだ文法事項や表現を復習しながら進めていきます。教科書を必ず購入してください。

この科目は、ドイツ語をすでに学習した経験のある人を対象としたものです。1・2年次でドイツ語科目を履修したかどうかは問いませんが、中級ドイツ語 と を履修したのと同程度の基礎力が必要です。また「上級ドイツ語Ⅰ」と「上級ドイツ語 」はいずれか一つを履修することが可能ですが、授業内容・授業方法は連続していません。前期・後期とも履修する方が、ドイツ語の力を伸ばすためには、より効果的です。

< 授業時間外に必要な学修 >

原則として、毎回宿題があります。次回の授業までに取り組みしておいてください。また授業で学んだ学習事項を復習する習慣を身に付けましょう。宿題と復習で1時間くらいを目安に、授業時間外の学習時間を取ってください。

< 提出課題など >

原則として、毎回宿題があります。次回の授業までに取り組みしておいてください。提出物については、添削や解答例の提示など、宿題の内容にそってフィードバックします。なお課題として出される宿題の提出状況も、成績評価の対象になります。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の自発的な発言回数とその内容など、授業への積極的な参加 20% + 宿題の提出とその内容20% + 小テスト20% + 定期試験40%

出席10回以上の者の成績はS・A・B・C・D、出席10回未満の者は「/」。

A評価以上の者の割合は、D評価以上の者を母数として合わせて概ね30%以内とする。

S評価は、A評価相当の中でも特に優れた者に対してのみ、これを与える。

<テキスト>

藤原三枝子他著 『スタート! 2 コミュニケーション活動で学ぶドイツ語』(三修社 2019年) 2600円+税
藤原三枝子他著 『スタート! 2 ワークブック コミュニケーション活動で学ぶドイツ語』(三修社 2019年) 800円+税

<参考図書>

参考書 授業の内容・進度に合わせて、適宜紹介します

<授業計画>

第1回 復習

中級段階で学んだ学習事項を確認する。

第2回 復習

中級段階で学んだ学習事項を確認する。

第3回 学校と専門教育

<5課の言語行為> なりたかった職業について話す、その理由を述べる(2)、職業の長所・短所を話す、将来の職業について話す、ドイツの教育制度を理解する、大学生活について話す、電話で訪問の約束をとりつける

<5課の文法項目> 話法の助動詞の過去形、従属接続詞: weil, da, dass, es - dass、時間表現と前置詞

第4回 学校と専門教育

<5課の言語行為> なりたかった職業について話す、その理由を述べる(2)、職業の長所・短所を話す、将来の職業について話す、ドイツの教育制度を理解する、大学生活について話す、電話で訪問の約束をとりつける

<5課の文法項目> 話法の助動詞の過去形、従属接続詞: weil, da, dass, es - dass、時間表現と前置詞

第5回 学校と専門教育

<5課の言語行為> なりたかった職業について話す、その理由を述べる(2)、職業の長所・短所を話す、将来の職業について話す、ドイツの教育制度を理解する、大学生活について話す、電話で訪問の約束をとりつける

<5課の文法項目> 話法の助動詞の過去形、従属接続詞: weil, da, dass, es - dass、時間表現と前置詞

第6回 学校と専門教育

<5課の言語行為> なりたかった職業について話す、その理由を述べる(2)、職業の長所・短所を話す、将来の職業について話す、ドイツの教育制度を理解する、大学生活について話す、電話で訪問の約束をとりつける

<5課の文法項目> 話法の助動詞の過去形、従属接続詞: weil, da, dass, es - dass、時間表現と前置詞

第7回 学校と専門教育

<5課の言語行為> なりたかった職業について話す、その理由を述べる(2)、職業の長所・短所を話す、将来の職業について話す、ドイツの教育制度を理解する、大学生活について話す、電話で訪問の約束をとりつける

<5課の文法項目> 話法の助動詞の過去形、従属接続詞: weil, da, dass, es - dass、時間表現と前置詞

第8回 学校と専門教育

<5課の言語行為> なりたかった職業について話す、その理由を述べる(2)、職業の長所・短所を話す、将来の職業について話す、ドイツの教育制度を理解する、大学生活について話す、電話で訪問の約束をとりつける

<5課の文法項目> 話法の助動詞の過去形、従属接続詞: weil, da, dass, es - dass、時間表現と前置詞

<ドイツ事情> Schulsystem in Deutschland

第9回 復習

5課の学習内容が理解できているかどうか、復習する。

第10回 サービス業

<6課の言語行為> Web 広告を読む、何に関心があるかを述べる、スクールに問い合わせる、申し込みをする、日常生活で困ったことについて話す、修理を依頼する、購入品の苦情を言う・希望を伝える・メールに書く

<6課の文法項目> 再帰動詞: sich interessieren / anmelden、従属接続詞: als、丁寧な依頼表現: w?rde gern + Infinitiv / h?tte gern + Nomen

第11回 サービス業

<6課の言語行為> Web 広告を読む、何に関心があるかを述べる、スクールに問い合わせる、申し込みをする、日常生活で困ったことについて話す、修理を依頼する、購入品の苦情を言う・希望を伝える・メールに書く

<6課の文法項目> 再帰動詞: sich interessieren / anmelden、従属接続詞: als、丁寧な依頼表現: w?rde gern + Infinitiv / h?tte gern + Nomen

第12回 サービス業

<6課の言語行為> Web 広告を読む、何に関心があるかを述べる、スクールに問い合わせる、申し込みをする、日常生活で困ったことについて話す、修理を依頼する、購入品の苦情を言う・希望を伝える・メールに書く

<6課の文法項目> 再帰動詞: sich interessieren /

anmelden、従属接続詞:

als、丁寧な依頼表現: w?rde gern + Infinitiv / h?tte gern + Nomen

第13回 サービス業

<6課の言語行為> Web 広告を読む、何に関心があるかを述べる、スクールに問い合わせる、申し込みをする、日常生活で困ったことについて話す、修理を依頼する、購入品の苦情を言う・希望を伝える・メールに書く

<6課の文法項目> 再帰動詞: sich interessieren / anmelden、従属接続詞:

als、丁寧な依頼表現: w?rde gern + Infinitiv / h?tte gern + Nomen

第14回 サービス業

<6課の言語行為> Web 広告を読む、何に関心があるかを述べる、スクールに問い合わせる、申し込みをする、日常生活で困ったことについて話す、修理を依頼する、購入品の苦情を言う・希望を伝える・メールに書く

<6課の文法項目> 再帰動詞: sich interessieren / anmelden、従属接続詞: als、丁寧な依頼表現: w?rde g

ern + Infinitiv / h?tte gern + Nomen

第15回 サービス業 / これまでのまとめ

これまで学んだ内容のまとめとして、総復習となる課題を行う。

<6課の言語行為> Web 広告を読む、何に関心があるかを述べる、スクールに問い合わせる、申し込みをする、日常生活で困ったことについて話す、修理を依頼する、購入品の苦情を言う・希望を伝える・メールに書く

<6課の文法項目> 再帰動詞: sich interessieren / anmelden、従属接続詞:

als、丁寧な依頼表現: w?rde gern + Infinitiv / h?tte gern + Nomen

<ドイツ事情> Beliebte Studentenjobs in Deutschland

2022年度 後期

1.0単位

上級ドイツ語 ア

森田 昌美

<授業の方法>

対面授業(演習)

<授業の目的>

授業の目的 ドイツ語圏事情を紹介する教科書を通して、ドイツ語圏と日本との比較について読んだり、聴いたり、話したり、作文したりできるようになることを第一の目

的とします。また、場面や状況に合わせて平易なドイツ語で自分の意見が主張できるようになることを第二の目的とします。

これは、全学ディプロマ・ポリシー「1. 幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる」、「2. さまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる」にそったものです。

<到達目標>

1. ドイツ語圏事情に関する知識を得ることができる。
2. ドイツ語圏事情と日本事情について、自らの視点からドイツ語で表現することができる。
3. ドイツ語圏事情と日本事情を比較・考察し、両者の相違を認識することができる。
4. ドイツ語を読み、聴き、話し、書く能力をバランス良く習得することができる。

<授業のキーワード>

コミュニケーション能力の育成、複数の言語・文化の多様性を理解する国際性の習得

<授業の進め方>

4つの言語運用能力、すなわち「読む、書く、聴く、話す」能力を有機的・効果的に身に付けるために、2年次で使用した教科書の続編後半を使います。ドイツ語圏の社会や文化についての理解も深めていきましょう。教科書の他に、『ワークブック』も使います。受講者の希望を聞きながら、ドイツ語圏(ドイツ・オーストリア・スイス)に関する教材も適宜補充して使用します。なお、音声データは、出版社(三修社)音声サイトから、ダウンロードならびにストリーミング再生可能です。文字ばかりに頼らず、音声を聴き取る習慣をつけましょう。聴解力の育成に役立ちます。

<履修するにあたって>

この科目を履修するにあたって、宿題にきちんと取り組むことはもちろんですが、前回の授業内容をしっかり復習した上で授業に臨む習慣をつけるようにしてください。授業は、初級・中級段階で学んだ文法事項や表現を復習しながら進めていきます。教科書を必ず購入してください。

この科目は、ドイツ語をすでに学習した経験のある人を対象としたものです。1・2年次でドイツ語科目を履修したかどうかは問いませんが、中級ドイツ語 と を履修したのと同程度の基礎力が必要です。また「上級ドイツ語Ⅰ」と「上級ドイツ語」はいずれか一つを履修することが可能ですが、授業内容・授業方法は連続していません。前期・後期とも履修する方が、ドイツ語の力を伸ばすためには、より効果的です。

<授業時間外に必要な学修>

原則として、毎回宿題があります。次回の授業までに取り組んでおいてください。また授業で学んだ学習事項を復習する習慣を身に付けましょう。宿題と復習で1時間くらいを目安に、授業時間外の学習時間を取ってください。

< 提出課題など >

原則として、毎回宿題があります。次回の授業までに取り組んでおいてください。提出物については、添削や解答例の提示など、宿題の内容にそってフィードバックします。なお課題として出される宿題の提出状況も、成績評価の対象になります。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の自発的な発言回数とその内容など、授業への積極的な参加 20% + 宿題の提出とその内容20% + 小テスト20% + 定期試験40%

出席10回以上の者の成績はS・A・B・C・D、出席10回未満の者は「/」。

A評価以上の者の割合は、D評価以上の者を母数として合わせて概ね30%以内とする。

S評価は、A評価相当の中でも特に優れた者に対してのみ、これを与える。

< テキスト >

藤原三枝子他著 『スタート! 2 コミュニケーション活動で学ぶドイツ語』(三修社 2019年) 2600円 + 税
藤原三枝子他著 『スタート! 2 ワークブック コミュニケーション活動で学ぶドイツ語』(三修社 2019年) 800円 + 税

< 参考図書 >

参考書 授業の内容・進度に合わせて、適宜紹介します

< 授業計画 >

第1回 復習

中級段階で学んだ学習事項を確認する。

第2回 復習

中級段階で学んだ学習事項を確認する。

第3回 学校と専門教育

< 5課の言語行為 > なりたかった職業について話す、その理由を述べる (2)、職業の長所・短所を話す、将来の職業について話す、ドイツの教育制度を理解する、大学生活について話す、電話で訪問の約束をとりつける

< 5課の文法項目 > 話法の助動詞の過去形、従属接続詞 : weil, da, dass, es - dass、時間表現と前置詞

第4回 学校と専門教育

< 5課の言語行為 > なりたかった職業について話す、その理由を述べる (2)、職業の長所・短所を話す、将来の職業について話す、ドイツの教育制度を理解する、大学生活について話す、電話で訪問の約束をとりつける

< 5課の文法項目 > 話法の助動詞の過去形、従属接続詞 : weil, da, dass, es - dass、時間表現と前置詞

第5回 学校と専門教育

< 5課の言語行為 > なりたかった職業について話す、その理由を述べる (2)、職業の長所・短所を話す、将来の職業について話す、ドイツの教育制度を理解する、大学生活について話す、電話で訪問の約束をとりつける

< 5課の文法項目 > 話法の助動詞の過去形、従属接続詞 : weil, da, dass, es - dass、時間表現と前置詞

第6回 学校と専門教育

< 5課の言語行為 > なりたかった職業について話す、その理由を述べる (2)、職業の長所・短所を話す、将来の職業について話す、ドイツの教育制度を理解する、大学生活について話す、電話で訪問の約束をとりつける

< 5課の文法項目 > 話法の助動詞の過去形、従属接続詞 : weil, da, dass, es - dass、時間表現と前置詞

第7回 学校と専門教育

< 5課の言語行為 > なりたかった職業について話す、その理由を述べる (2)、職業の長所・短所を話す、将来の職業について話す、ドイツの教育制度を理解する、大学生活について話す、電話で訪問の約束をとりつける

< 5課の文法項目 > 話法の助動詞の過去形、従属接続詞 : weil, da, dass, es - dass、時間表現と前置詞

第8回 サービス業

< 6課の言語行為 > Web 広告を読む、何に関心があるかを述べる、スクールに問い合わせる、申し込みをする、日常生活で困ったことについて話す、修理を依頼する、購入品の苦情を言う・希望を伝える・メールに書く

< 6課の文法項目 > 再帰動詞 : sich interessieren / anmelden、従属接続詞 :

als、丁寧な依頼表現 : w?rde gern + Infinitiv / h?tte gern + Nomen

第9回 サービス業

< 6課の言語行為 > Web 広告を読む、何に関心があるかを述べる、スクールに問い合わせる、申し込みをする、日常生活で困ったことについて話す、修理を依頼する、購入品の苦情を言う・希望を伝える・メールに書く

< 6課の文法項目 > 再帰動詞 : sich interessieren / anmelden、従属接続詞 :

als、丁寧な依頼表現 : w?rde gern + Infinitiv / h?tte gern + Nomen

第10回 サービス業

<6課の言語行為> Web 広告を読む、何に関心があるかを述べる、スクールに問い合わせる、申し込みをする、日常生活で困ったことについて話す、修理を依頼する、購入品の苦情を言う・希望を伝える・メールに書く

<6課の文法項目> 再帰動詞：sich interessiren / anmelden、従属接続詞：

als、丁寧な依頼表現：w?rde gern + Infinitv / h?tte gern + Nomen

第11回 サービス業

<6課の言語行為> Web 広告を読む、何に関心があるかを述べる、スクールに問い合わせる、申し込みをする、日常生活で困ったことについて話す、修理を依頼する、購入品の苦情を言う・希望を伝える・メールに書く

<6課の文法項目> 再帰動詞：sich interessiren / anmelden、従属接続詞：

als、丁寧な依頼表現：w?rde gern + Infinitv / h?tte gern + Nomen

第12回 サービス業

<6課の言語行為> Web 広告を読む、何に関心があるかを述べる、スクールに問い合わせる、申し込みをする、日常生活で困ったことについて話す、修理を依頼する、購入品の苦情を言う・希望を伝える・メールに書く

<6課の文法項目> 再帰動詞：sich interessiren / anmelden、従属接続詞：

als、丁寧な依頼表現：w?rde gern + Infinitv / h?tte gern + Nomen

第13回 祝祭

<7課の言語行為> お祝い事について読む・話す、服装・色について好みを言う、モットー・パーティーを計画する・発表する、SMSの招待状を読む・返事を書く、正月の行動について話す

<7課の文法項目> 形容詞の変化：不定冠詞 + 形容詞 + 名詞（目的格） /

定冠詞 + 形容詞 + 名詞（目的格） / 定冠詞 + 形容詞 + 名詞（主格）

第14回 祝祭

<7課の言語行為> お祝い事について読む・話す、服装・色について好みを言う、モットー・パーティーを計画する・発表する、SMSの招待状を読む・返事を書く、正月の行動について話す

<7課の文法項目> 形容詞の変化：不定冠詞 + 形容詞 + 名詞（目的格） /

定冠詞 + 形容詞 + 名詞（目的格） / 定冠詞 + 形容詞 + 名詞（主格）

第15回 祝祭

<7課の言語行為> お祝い事について読む・話す、服

装・色について好みを言う、モットー・パーティーを計画する・発表する、SMSの招待状を読む・返事を書く、正月の行動について話す

<7課の文法項目> 形容詞の変化：不定冠詞 + 形容詞 + 名詞（目的格） /

定冠詞 + 形容詞 + 名詞（目的格） / 定冠詞 + 形容詞 + 名詞（主格）

<ドイツ事情> Weihnachten in Deutschland

2022年度 前期

1.0単位

上級フランス語 ア

安田 晋也

<授業の方法>

対面授業（演習）

5月06日から5月30日（日）までの期間、Zoomによるリアルタイム授業に変更します。

なお、移行期となる4月後半の授業は、4月22日は対面授業を続け、4月29日はオンデマンド方式の授業へ変更します。具体的な授業方法については、シラバスの一番下の「遠隔授業情報」で確認してください。

<授業の目的>

大学でのフランス語学習の総仕上げとして 読む> <聞く> <話す> <書く>の総復習をおこなう。

多言語社会EUの中心にあるフランスの文化を様々な側面から理解する。英語圏を中心とした時事情報を客観的に評価できるフランス語の実力をつける。本学で3年間フランス語を学んだ知識を生かして大学院進学、フランス留学、旅行社就職、欧州観光に役立ててもらいたい。このことは、全学ディプロマ・ポリシー「 様々な問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる」、「 幅広い知識に基づいて他者および異文化を理解することができる」、「 生涯にわたって学び続けることができる」、「 獲得した知識や技能を社会に役立つことができる」などの実現であり、本学では仏検1級、2級の合格者を輩出している。実際に通訳、実業家として活躍している。とりあえずこの段階では2、3級合格をめざす。

<到達目標>

実用フランス語検定試験2級、準2級、3級に合格する。日常生活で、レストランで注文したり、シャンソンを聞いたり、映画を見て理解できるフランス語を涵養する。授業での時事や会話に取り組む。自己紹介ができ、友達とフランス語で会話ができる。

<授業のキーワード>

フランス語、フランス文化の総合的理解。

<授業の進め方>

テキストに添付されたCDを聞き取りながら、読解とその基礎になる文法を復習し、時折、作文や本文のレジュメ

をする。
<履修するにあたって>
楽しく、総合的にフランス語を続けよう！Bon courage
！
継続は力なり。

<授業時間外に必要な学修>
インターネットでフランスの時事情報を収集する。予習
復習に一時間以上かけて下さい。
NHKのフランス語放送も利用して下さい。

<成績評価方法・基準>
単位取得には3分の2の出席が必要。の成績70% 授業
記録の提出とその内容：30%によって評価します。

<テキスト>
石井洋二郎、ミシェル・サガズ編著『時事フランス語
2021年度版』¥1900（朝日出版社）

<参考図書>
授業中に紹介します。
<授業計画>
第1回 名前と姓（1）
授業に使うテキストの説明と学習の仕方の説明、参考書
などの紹介。

第2回 名前と姓（2）
複合過去と過去分詞
第3回 ジャック・シラク（1）
複合過去と半過去

第4回 ジャック・シラク（2）
受動態
第5回 黄色いヴェスト運動（1）
最上級

第6回 黄色いヴェスト運動（2）
Covid-19
第7回 気候変動（1）
環境問題

第8回 気候変動（2）
接続法
第9回 電動キックスケーター（1）
直接目的補語

第10回 電動キックスケーター（2）
permettreを用いる構文
第11回 アンヌ・イダルゴ（1）
数詞の読み方

第12回 アンヌ・イダルゴ（2）
受動態の複合過去
第13回 L214

条件法
第14回 本物のカマンベール

C'est-queの構文
第15回 睡眠不足
3人称複数の主語

2022年度 前期
1.0単位
上級フランス語 タ
南 コニー

<授業の方法>
オンデマンド授業

<授業の目的>
大学でのフランス語学習の総仕上げとして 読む><聞く>
<話す> 書く>の総復習をおこなう。
多言語社会EUの中心にあるフランスの文化を様々な側
面から理解する。英語圏を中心とした時事情報を客観的
に評価できるフランス語の実力をつける。本学で3年間
フランス語を学んだ知識を生かして大学院進学、フラン
ス留学、旅行社就職、欧州観光に役立ててもらいたい。
このことは、全学ディプロマ・ポリシー「 様々な問題
を発見し、それを解決する方策を導くことができる」、
「 幅広い知識に基づいて他者および異文化を理解する
ことができる」、「 生涯にわたって学び続けることが
できる」、「 獲得した知識や技能を社会に役立つこと
ができる」などの実現であり、本学では仏検1級、2級の
合格者を輩出している。実際に通訳、実業家として活躍
している。とりあえずこの段階では2、3級合格をめざす。

<到達目標>
実用フランス語検定試験2級、準2級、3級に合格する。
日常生活で、レストランで注文したり、シャンソンを聞
いたり、映画を見て理解できるフランス語を涵養する。
授業での時事や会話に取り組む。自己紹介ができ、友達
とフランス語で会話ができる。

<授業のキーワード>
フランス語、フランス文化の総合的理解。
<授業の進め方>
テキストに添付されたCDを聞き取りながら、読解とその
基礎になる文法を復習し、時折、作文や本文のレジュメ
をする。

<履修するにあたって>
楽しく、総合的にフランス語を続けよう！Bon courage
！
継続は力なり。

<授業時間外に必要な学修>
インターネットでフランスの時事情報を収集する。予習
復習に一時間以上かけて下さい。
NHKのフランス語放送も利用して下さい。

<成績評価方法・基準>

単位取得には3分の2の出席が必要。定期試験の成績70% 授業記録の提出とその内容：30%によって評価します。

<テキスト>

石井洋二郎、ミシェル・サガズ編著『時事フランス語2021年度版』¥1900（朝日出版社）

<参考図書>

授業中に紹介します。

<授業計画>

第1回 名前と姓（1）

授業に使うテキストの説明と学習の仕方の説明、参考書などの紹介。

第2回 名前と姓（2）

複合過去と過去分詞

第3回 ジャック・シラク（1）

複合過去と半過去

第4回 ジャック・シラク（2）

受動態

第5回 黄色いヴェスト運動（1）

最上級

第6回 黄色いヴェスト運動（2）

Covid-19

第7回 気候変動（1）

環境問題

第8回 気候変動（2）

接続法

第9回 電動キックスケーター（1）

直接目的補語

第10回 電動キックスケーター（2）

permettreを用いる構文

第11回 アンヌ・イダルゴ（1）

数詞の読み方

第12回 アンヌ・イダルゴ（2）

受動態の複合過去

第13回 L214

条件法

第14回 本物のカマンベール

C'est-queの構文

第15回 睡眠不足

3人称複数の主語

2022年度 後期

1.0単位

上級フランス語 ア

安田 晋也

<授業の方法>

オンデマンド授業

<授業の目的>

上級フランス語 の継続と進化、完成。本学で3年間フランス語を学んだ知識を活かして大学院進学、フランス留学、旅行社やマスコミ報道会社への就職、欧州観光に役立ててもらいたい。

特に本学でのディプロマ・ポリシー「幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することが出来る」「さまざまな問題を発見し、それを解決する方策をみちびくことができる」「生涯にわたって学び続けることができる」「獲得した知識や技能を社会にやくだてることができる」などの能力を授業のみならず旅行やホームステイなどで幅広くフランス語を理解する。テキストと並行して仏検1、2級に合格する。

<到達目標>

テレビや映画の会話を楽しみ、新聞記事、小説などの文章を読解し、日記、手紙を書いてみるなどの授業のレッスンを通じて、実用フランス語検定試験2級に合格する。大学院の試験やアパレル産業、ファッション産業、マスコミ産業に就職することも可能である。実際、本学では仏検一級、二級に合格して通訳、実業家として活躍している先輩がいる。フランスへ留学する学生もやがて輩出するでしょう。フランス語と生涯付き合い日本とフランスのよき理解者になる。

<授業のキーワード>

フランス語フランス文化の総合的理解

<授業の進め方>

テキストに添付されたCDを聞き取りながら、読解とその基礎になる文法を復習し、時折、作文や本文のレジюмеをする。

<授業時間外に必要な学修>

インターネットのフランス語サイトを見る習慣をつける。予習復習に一時間以上かけて下さい。NHKのフランス語放送も利用してください。

<提出課題など>

毎回の提出課題を添削して返却する。

<成績評価方法・基準>

単位取得には3分の2の出席が必要。定期試験の成績70% 授業記録の提出とその内容：30%によって評価します。

<テキスト>

石井洋二郎、ミシェル・サガズ 『時事フランス語』20

21年度版 ¥ 1 9 0 0 (朝日出版社)

< 授業計画 >

第1回 ケンゾー (1)

授業方法の説明

第2回 ケンゾー (2)

分詞構文

第3回 コロナウイルス (1)

代名動詞

第4回 コロナウイルス (2)

複合過去と半過去

第5回 学校での携帯電話禁止 (1)

直接目的補語

第6回 学校での携帯電話禁止 (2)

直接目的補語と間接目的補語

第7回 共和政と君主政 (1)

ヨーロッパの政治体制

第8回 共和政と君主政 (2)

フランスの政治体制

第9回 マルセル・ブルースト

ブルーストの生涯

第10回 レフェットリオ

受動態

第11回 理想宮殿

半過去

第12回 カンカド

関係代名詞

第13回 パリ万国博覧会

中性代名詞 y

第14回 雲仙

最上級

第15回 モンレアル

指示代名詞

2022年度 後期

1.0単位

上級フランス語 タ

南 コニー

< 授業の方法 >

遠隔授業 (オンデマンド授業)

< 授業の目的 >

上級フランス語 の継続と進化、完成。本学で3年間フランス語を学んだ知識を活かして大学院進学、フランス留学、旅行社やマスコミ報道会社への就職、欧州観光に役立ててもらいたい。

特に本学でのディプロマ・ポリシー「幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することが出来る」「さまざまな問題を発見し、それを解決する方策をみちびくことができる」「生涯にわたって学び続けることができる」「獲得した知識や技能を社会にやくだてることができる」などの能力を授業のみならず旅行やホームステイなどで幅広くフランス語を理解する。テキストと並行して仏検 1、2級に合格する。

< 到達目標 >

テレビや映画の会話を楽しみ、新聞記事、小説などの文章を読解し、日記、手紙を書いてみるなどの授業のレッスンを通じて、実用フランス語検定試験 2 級に合格する。大学院の試験やアパレル産業、ファッション産業、マスコミ産業に就職することも可能である。実際、本学では仏検一級、二級に合格して通訳、実業家として活躍している先輩がいる。フランスへ留学する学生もやがて輩出するでしょう。フランス語と生涯付き合い日本とフランスのよき理解者になる。

< 授業のキーワード >

フランス語フランス文化の総合的理解

< 授業の進め方 >

テキストに添付されたCDを聞き取りながら、読解とその基礎になる文法を復習し、時折、作文や本文のレジюмеをする。

< 授業時間外に必要な学修 >

インターネットのフランス語サイトを見る習慣をつける。予習復習に一時間以上かけて下さい。NHKのフランス語放送も利用してください。

< 提出課題など >

毎回の提出課題を添削して返却する。

< 成績評価方法・基準 >

単位取得には3分の2の出席が必要。定期試験の成績70% 授業記録の提出とその内容：30%によって評価します。

< テキスト >

石井洋二郎、ミシェル・サガズ 『時事フランス語』2021年度版 ¥1900 (朝日出版社)

< 授業計画 >

第1回 ケンゾー (1)

授業方法の説明

第2回 ケンゾー (2)

分詞構文

第3回 コロナウイルス (1)

代名動詞

第4回 コロナウイルス (2)

複合過去と半過去

第5回 学校での携帯電話禁止 (1)

直接目的補語

第6回 学校での携帯電話禁止 (2)

直接目的補語と間接目的補語

第7回 共和政と君主政 (1)

ヨーロッパの政治体制

第8回 共和政と君主政 (2)

フランスの政治体制

第9回 マルセル・ブルースト

ブルーストの生涯

第10回 レフェットリオ

受動態

第11回 理想宮殿

半過去

第12回 カンカド

関係代名詞

第13回 パリ万国博覧会

中性代名詞 y

第14回 雲仙

最上級

第15回 モンレアル

指示代名詞

2022年度 後期

1.0単位

情報処理応用 (Webページ作成)

寺崎 幸

< 授業の方法 >

実習

< 授業の目的 >

この科目は、全学のDPに示す、専門分野に高い関心を持ち、解決するための知識や技能を身につけること、さらに自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる技術の習得を目指します。

情報処理応用 では、情報発信能力の養成を目標として、Webページ作成方法の基礎を学びます。具体的には、Webページの作成手順と、Webページを構成するHTMLのしくみについて学び、HTMLエディタを用いてWebページを作成します。また、Webページ作成を通じて、コンピュータネットワークに対する理解を深めます。おおむねウェブデザイン技能検定3級(国家検定)程度の内容です。

< 到達目標 >

- ・Webサイトの基本的な構成を理解し、作成の流れを把握できる。
- ・HTMLのタグを理解し、基本的なHTMLファイルを作成できる。
- ・CSSの基本文法を理解し、基本的なWebデザインをCSSで行うことができる。
- ・複数のファイルからなるオリジナルのWebサイトを作成することができる。

< 授業のキーワード >

HTML、CSS、Webデザイン、Webサイト、Webページ

< 授業の進め方 >

Webサイトの基本から様々なツールまで最新の情報を交えて学んでいきます。HTMLとCSSの基本をしっかりと習得し、実際にWebサイトが作成できるように実習を重ねていきます。

授業の後半には、実際に自分でWebサイト作成を行います。作成の際は適時個別にアドバイスを行い、オリジナリティを重視しながらも、技術の習得ができるように指導します。

さらに、Webページの最新技術やトレンドを意識して、便利なツールやアプリなどを紹介したり、使用していきます。

< 履修するにあたって >

1. 授業開始時に実習内容の説明・デモンストレーションなどをします。遅刻をすると、授業の理解に支障が生じますので遅刻しないよう注意してください。

2. 原則として前回の授業内容を踏まえて、実習を進行します。そのため欠席をすると大きな不利益を被ります。極力、欠席をしないようにしてください。やむを得ない事情で欠席をした場合、次回の授業までに学習しておくようにしてください。

3. コンピュータは高度な精密機器です。取扱いには十分注意してください。取り扱いについて各自の責任を自覚していただくために、情報処理実習室では座席指定をします。また、実習室内は、禁煙、飲食禁止です。その他すべて、教員の指示に従ってください。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前にテキストの該当部分より、想定される操作確認をしてください。(60分程度)

授業後は、操作習得のため指示された課題や復習を行ってください。(80分程度)

< 提出課題など >

授業内で作成したファイルをdotCampusもしくはOneDrive共有機能を利用して提出します。理解を深めるために繰り返し学習を行います。課題作成時には適時質疑に対応し、さらに個々のスキルアップを含めて完成を目指します。

< 成績評価方法・基準 >

授業における提出物 40%、最終課題と発表 60% の割合で総合的に評価します。

< テキスト >

1冊ですべて身につくHTML&CSSとWebデザイン入門講座 (SBクリエイティブ・2,260円+税)

第1回授業に必ず間に合うように早めに準備してください。

< 参考図書 >

よくわかるマスター ウェブデザイン技能検定3級 過去問題集 (FOM出版)

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

HTMLの基礎

- ・よいWebデザインとは
- ・Webサイトのしくみ(デバイス、ブラウザの種類)
- ・制作、公開の流れ
- ・HTML基本文法と記述の仕方

第2回 HTML(1)

- ・見出しと段落
- ・画像の挿入
- ・リンクの設定
- ・HTMLファイルの骨組み・ルール

- ・属性の指定
- ・ファイルパス(相対パス・絶対パス)
- ・様々なリンクの行い方

第3回 HTML(2)

- ・箇条書き
- ・その他紹介
- ・HTML復習

- ・リストの表示2種

- ・テーブルやフォームについて
- ・復習問題

第4回 CSS(1)

- ・CSSの基本
- ・文字や文章の装飾
- ・CSS基本ルール・記述の仕方
- ・文字の大きさ・フォント・Webフォント・配置など

第5回 CSS(2)

- ・色の設定
- ・背景画像の設置
- ・文字色や背景色の設定
- ・背景画像の設置や画像の繰り返し
- ・画像のサイズ指定

第6回 CSS(3)

- ・ブロック要素の設定
- ・ブロック要素を使用したレイアウト
- ・余白・幅、高さ・線
- ・Flexboxを使用したレイアウト

第7回 CSS(4)

- ・CSS復習
- ・HTML&CSSの復習問題(応用内容の補足含む)

第8回 Web作成実践練習(1)

- ・Webサイト構成の確認
- ・ページ共通部分の作成
- ・ファビコンの設定
- ・フルスクリーンページの作成

第9回 Web作成実践練習(2)

- ・マルチカラムレイアウトについて
- ・2カラムレイアウトページの作成

第10回 Web作成実践練習(3)

- ・タイル型レイアウトページの作成

第11回 Web作成実践練習(4)

- ・外部メディアを利用したページの作成
- ・GoogleマップやYoutube動画の表示

第12回 Webサイト作成(1)

- ・ユーザビリティについて
- ・Webページ作成課題詳細説明
- ・オリジナルWebページ作成作業開始

第13回 Webサイト作成(2)

- ・オリジナルWebページ作成作業

第14回 Webサイト作成(3)

・オリジナルWebページ作成作業・提出
第15回 Webサイト公開と発表
相互評価

・完成したWebページの公開と発表
・他者作品の閲覧と評価

2022年度 前期

1.0単位

情報処理実習A (文書作成)

寺崎 幸、田中 敦子、三木 雅子、崔 瑛理

< 授業の方法 >

実習

< 授業の目的 >

この科目は、全学のDPに示す、専門分野に高い関心を持ち、専門領域の課題を考察し、解決するための知識や技能を身につけること、さらにそれらを活用してさまざまな問題を発見し、解決する方策を導くことができる技術の習得を目指します。

最近では社会における高度情報化が進み、情報や情報技術を正しく取り扱うことが、社会人の全てに基本技能として要求されるようになってきました。この授業では、大学生活だけでなく、社会においても様々な分野でICTを活用できるような知識と技術を身に付けることを目標にしています。

具体的には、コンピュータやネットワークの基礎知識を学び、Windowsの基本操作とMicrosoft Wordを使用した文書作成技能の習得を目指します。

文書作成技能については、MOS (Microsoft Office Specialist) 資格試験のWord科目を視野に入れて解説します。

< 到達目標 >

1. クラウドコンピューティングを理解し、Office365を活用できる。
2. ネットワーク上のモラルを理解し、ネットワークサービスを正しく利用できる。
3. PCのハードウェアとしての構成、ファイル管理の概念を理解し、活用できる。
4. 段落、セクションの違いを理解し、書式設定に活用ができる。
5. 表や図など、文章をサポートするオブジェクトの挿入・編集ができる。
6. 索引・目次の作成、修正ができる。
7. ビジネス文書の様式を理解し、作成できる。

< 授業のキーワード >

Office365、クラウド、PC基礎、ネットモラル、文章作成、図表編集、書式設定、ビジネス文書

< 授業の進め方 >

本講義では、パソコンの基礎、インターネットの活用方法から始め、Microsoft Wordを用いて様々な文書作成について学習します。Microsoft Wordの様々な機能を実習し、文書をスムーズに作成できるよう指導します。作成した文書は学内情報サービスに提出します。

課題やテストなどは解答を確認し、しっかりと理解できるまで実習を重ねていきます。

併せて、パソコンを使用できる環境では、タッチタイピングの習得を積極的に実施し、文書作成の効率アップを目指します。

< 履修するにあたって >

1. 授業開始時に実習内容の説明・デモンストレーションなどをします。遅刻をすると、授業の理解に支障が生じますので遅刻しないよう注意してください。

2. 原則として前回の授業内容を踏まえて、実習を進行します。そのため欠席をすると大きな不利益を被ります。極力、欠席をしないようにしてください。やむを得ない事情で欠席をした場合、次回の授業までに学習しておくようにしてください。

3. コンピュータは高度な精密機器です。取扱いには十分注意してください。取り扱いについて

各自の責任を自覚していただくために、情報処理実習室では座席指定をします。また、実習室内は、禁煙、飲食禁止です。その他すべて、教員の指示に従ってください。

4. 教科書など、担当講師により異なることがあります。掲示等に注意し、自分のクラスを確認して間違いのないよう準備をしてください。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前にテキストの該当部分より、想定される操作確認をしてください。(50分程度)

授業後は、操作習得のため指示された練習問題や復習を行ってください。(70分程度)

日常的にタッチタイピングを繰り返し練習してください。(毎日30分程度)

< 提出課題など >

授業で作成したファイル、確認テスト、課題はすべてdotCampusを使用して提出します。

確認テストは3回実施し、授業内で模範解答の提示と解説を行います。

尚、定期試験は実施しません。

< 成績評価方法・基準 >

授業における提出物 70%、確認テスト 30% の割合で総合的に評価します。

< テキスト >

FOM出版 よくわかる Microsoft Word 2016ドリル

< 参考図書 >

FOM出版 よくわかる Microsoft Word 2016 基礎・応用

情報処理センター編 「情報活用の基礎」

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

インターネットの活用(1)

授業の進め方・評価方法などの授業案内・課題の提出方法など

Office365の紹介と利用方法

Microsoft Wordの紹介

第2回 パソコンの基礎

インターネットの活用(2)

ディレクトリ、およびパスの概念

ネットワーク上で守るべきこと

電子メールの活用について

第3回 文書の作成

文書の書式設定

表示機能

ワード画面上における、各箇所の名称

新規作成の方法

ページ設定や表示モード

第4回 印刷と保存

文字、段落の書式設定

印刷設定の変更

プロパティの確認、および管理

行と段落の違い

第5回 復習(1)

段落、セクションの書式設定

確認テスト実施

ページ、セクション区切りの挿入

セクション単位での書式設定

第6回 表の作成

スタイルの適用

タイトルの設定

セルの設定

第7回 リストの作成

リストの作成

リストレベルの変更

リスト番号の初期化

第8回 リファレンスの作成管理

参考資料(文献、引用、図など)の管理

第9回 グラフィックの挿入・書式設定

図・スマートアートの挿入

文字列の折り返し

代替テキストの挿入

第10回 復習(2)

文書オプションの設定・管理

確認テスト実施

文書のバージョン管理

編集の制限

パスワードによる文章保護

第11回 索引、目次の作成

索引の登録・作成・更新

目次の作成・更新

第12回 差し込み印刷

宛先の作成

差し込みフィールドの作成

印刷結果の確認

第13回 便利機能

クイックパーツの作成

文書パーツの管理

第14回 ビジネス文書の基本

社内文書・社外文書の基本

第15回 総合復習

各種資格との関係について

確認テスト実施

2022年度 前期

1.0単位

情報処理実習 B (表計算)

河野 幸、寺崎 幸、三木 雅子、崔 瑛理

< 授業の方法 >

対面授業(実習)

< 授業の目的 >

この科目は、全学のDPに示す、広い教養を身につけること、獲得した知識や技能をもって社会に貢献する力を身につけることを目的とします。この科目は、「リテラシー科目群」の「情報分野」に属します。

最近では社会における高度情報化が進み、情報や情報技術を正しく取り扱うことが、社会人の全てに基本技能として要求されるようになってきました。この授業では、その中において総合表計算ソフトであるMicrosoft Excelを用いたデータ処理能力に焦点を当て、社会に出てからも活用できるレベルで技能を身につけることを目的とします。また、MOS(Microsoft Office Specialist)資格試験のExcel科目も視野に入れて解説します。

< 到達目標 >

1. 数値の表示形式を使い分けることができる。
2. ページレイアウトを理解し、適切な書式設定ができる。
3. 参照形式の違いを理解し、オートフィルを正しく利用できる。
4. 基本的な関数を使いこなすことができる。
5. ピボットテーブルを活用し、目的の表を作成できる。
6. データを、目的に応じたグラフへと変換できる。
7. 基本的なマクロ操作を理解し、作成、編集、実行ができる。

< 授業のキーワード >

Excel、関数、データのグラフ、ピボットテーブル、マクロ

< 授業の進め方 >

情報処理実習室のPCを利?して、実習を中?に講義を進めます。授業成果物または総合課題のデータの提出があります。

<履修するにあたって>

1. 授業開始時に実習内容の説明などをします。遅刻をすると、授業の理解に支障が生じます。遅刻しないよう注意すること。

2. 原則として前回の授業内容を踏まえて、実習を進行します。したがって、欠席をすると、大きな不利益を被ります。極力、欠席をしないようにして下さい。やむを得ない事情で欠席をした場合、欠席時の実習内容のフォローをすること。

3. 教科書など、担当講師により異なることがあります。掲示等に注意し、自分のクラスを確認して間違いのないよう準備をして下さい。

<授業時間外に必要な学修>

各回の予習で1時間。復習と課題で1時間を想定しています。

<提出課題など>

授業内で作成した成果物または総合課題のデータの提出があります。

また、宿題を出すこともあります。

提出方法は、授業内で説明します。

<成績評価方法・基準>

授業における提出物70%、確認テスト30%。

<テキスト>

「よくわかる Microsoft Excel 2016 ドリル」 FOM出版

<参考図書>

よくわかる Microsoft Excel 2016 基礎 FOM出版

よくわかる Microsoft Excel 2016 応用 FOM出版

<授業計画>

第1回 ガイダンス

情報処理実習室の利用について

授業の進め方

評価方法

課題の提出方法など

Microsoft Excelの紹介

第2回 Excelの基本

Microsoft Excelの起動と終了

データの種類と入力

ワークシートの保存と読み込み

整った表の作成(罫線の活用)

第3回 Excelの設定

数値の表示形式

シリアル値と日付

ページ設定

印刷範囲の設定

第4回 数式の入力と関数の利用 1

数式の入力

絶対参照と相対参照

様々なオートフィル

第5回 数式の入力と関数の利用 2

基本的な関数の利用(SUM, AVERAGE, RANK ほか)

第6回 数式の入力と関数の利用 3

関数の利用(IF, VLOOKUP ほか)

複数シートの集計(串刺しテクニック)

第7回 グラフの作成1

グラフ作成の基礎

グラフの編集

第8回 グラフの作成 2

グラフの作成の応用

様々なグラフ

第9回 データ操作 1

データの並べ替え

データの検索と抽出

第10回 データ操作 2

テーブルの利用と集計

第11回 ピボット操作

ピボットテーブルとピボットグラフ

第12回 様々な応用

名前の定義

保護機能

関数の組み合わせ(ネスト)

第13回 マクロ 1

マクロの概要

マクロの作成

マクロの記録

マクロの実行

第14回 マクロ 2 (VBA・VBE)

マクロの編集

コンパイルの実行

動作確認

第15回 総合練習・まとめ

総合練習

実技テスト

2022年度 前期

1.0単位

情報処理実習C (プレゼンテーション)

佐藤 毅、岡本 有加

<授業の方法>

対面(実習)

<授業の目的>

プレゼンテーション技術について、発表に対する姿勢、資料の作成方法について学修する。

Microsoft PowerPoint2016 を主なツールとして利用し、その能力を評価する試験「Microsoft Office Specialis

t PowerPoint2016」の試験範囲を網羅した操作内容を学習する。

全学DPに示されるように、獲得した知識や技能を活用し、社会に役立つ情報活用力を深めることができる。また、自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手とのコミュニケーションを円滑にすることができる。

<到達目標>

1. 自らの考えを、他者へ正確に伝えるプレゼンテーションができる。
2. Microsoft Office Specialist PowerPointの合格レベルに達する。

<授業のキーワード>

PowerPoint、プレゼンテーション技法、MOS

<授業の進め方>

情報処理実習室において実習を中心に授業を行います。

<履修するにあたって>

授業は、実習室のPC (WindowsをOS) を利用します。自宅で学習するためにも、PCを保有することを推奨します。

また、Macでも学習は可能ですが、ソフトウェアの操作方法がWindowsと異なることもあります。

<授業時間外に必要な学修>

各回の復習、および課題で90分を想定しています。

<提出課題など>

dotCampusで、各種資料の配付、回収、提出を実施。

詳細については、講義において説明します。

フィードバックは、授業時、およびdotCampusで行います。

<成績評価方法・基準>

授業成果物で40%、課題で50%、確認テストで10%として評価します。

<テキスト>

Microsoft Office Specialist

Microsoft PowerPoint 2016 対策テキスト& 問題集 F0 M出版

<参考図書>

ガー・レイノルズ シンプルプレゼン (日経ビジネスアソシエ)

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

本実習の目的、到達目標について説明する。

MOS試験概要の説明

プレゼンテーションの目的について

第2回 プレゼンテーションの作成と管理 1

プレゼンテーションの作成

スライドマスターによる書式設定

オプションと表示をカスタマイズ

第3回 プレゼンテーションの作成と管理 2

印刷、保存のための設定

スライドショーの設定、実行

第4回 図形やスライドの挿入と書式設定

スライドの挿入、書式設定

図形の挿入、書式設定

図形またはスライドを並べ替え、グループ化

第5回 スライドコンテンツの作成 1

テキストの挿入、書式設定

表の挿入、書式設定

グラフの挿入、書式設定

第6回 スライドコンテンツの作成 2

SmartArtグラフィックの挿入、書式設定

図の挿入、書式設定

メディアの挿入、書式設定

第7回 第1回確認テスト

第1回確認テスト、および解答の解説

第8回 画面切り替えやアニメーションの適用

画面切り替えの適用

コンテンツへのアニメーション設定

画面切り替えとアニメーションのタイミング設定

第9回 複数のプレゼンテーションの管理

複数のプレゼンテーションからコンテンツを結合

変更履歴の校閲

プレゼンテーションの保護、共有

第10回 プレゼンテーション技法 1

総合課題

プレゼンテーションはどうあるべきか?

総合課題テーマの設定

第11回 プレゼンテーション技法 2

総合課題

プレゼンテーションの企画・構成について

総合課題ストーリーの設定

第12回 プレゼンテーション技法 3

総合課題

シンプルなスライドの作成

総合課題スライドの作成

第13回 模擬試験

試験前の注意& アドバイス、模擬試験実施& 解説

第14回 総合課題

修得した知識・スキルの確認

総合課題スライドの作成

第15回 総合課題発表

総合課題の発表、および相互評価

2022年度 後期

1.0単位

情報処理実習 D (データベース)

寺崎 幸

<授業の方法>

実習

< 授業の目的 >

この科目は、全学のDPに示す、専門分野に高い関心を持ち、専門領域の課題を考察し、解決するための知識や技能を身につけること、さらにそれらを活用してさまざまな問題を発見し、解決する方策を導くことができる技術の習得を目指します。

現在ビジネスシーンにおいて、データベースは不可欠なものとなっています。データベースを活用したデータ分析により多くの企業が効率的に現状把握や問題解決に役立てています。

この授業では、実際に受注管理のデータベースを作成し、リレーショナルデータベースの仕組みや活用法について学び、基本的なデータベースの作成と操作方法を習得することを目標にしています。具体的には、データの管理や保存に優れ、多くのビジネスシーンで利用されているデータベース管理ソフトMicrosoft Accessの使い方を学びます。

< 到達目標 >

1. リレーショナルデータベースの基礎的な仕組みと活用法について説明できる。
2. Microsoft Accessを用いて、テーブル、クエリ、フォーム、レポートの作成と操作ができる。
3. Microsoft Accessを用いて、適切なリレーションシップを設定できる。
4. Microsoft Accessを用いて、簡単なマクロの作成、メイン・サブフォームの作成、入力しやすいフォームの作成、メインパネルの作成ができる。

< 授業のキーワード >

データベース、Microsoft Access、リレーションシップ、リレーショナルデータベース

< 授業の進め方 >

情報処理実習室のPCを利用して、実習を中心に講義を進めます。

テキスト『誰でも使えるデータベース！ Access? 』を毎回の授業で使用します。

授業内で作成した成果物または課題のデータの提出があります。

実技による確認テストを授業内で3回実施します。

< 履修するにあたって >

1. データベース初心者でもわかるように基礎から解説していきます。尚、Excelの基本的な操作（入力、簡単な計算）はできることが望ましいです。
2. 授業開始時に実習内容の説明・デモンストレーションなどをします。遅刻をすると、授業の理解に支障が生じますので遅刻しないよう注意してください。
3. 原則として前回の授業内容を踏まえて、実習を進行します。そのため欠席をすると大きな不利益を被ります。

極力、欠席をしないようにしてください。やむを得ない事情で欠席をした場合、次回の授業までに学習しておくようにしてください。

4. コンピュータは高度な精密機器です。取扱いには十分注意してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前にテキストの該当部分より、想定される操作確認をしてください。（60分程度）

授業後は、操作習得のため指示された課題や復習を行ってください。（80分程度）

< 提出課題など >

授業で作成したファイル、確認テスト、総合演習、課題はすべてdotCampusを使用して提出します。

確認テストは3回実施し、授業内で模範解答の提示と解説を行います。

尚、定期試験は実施しません。

< 成績評価方法・基準 >

授業における提出物40%、総合課題及び課題30%、確認テスト30%の割合で総合的に評価します。

< テキスト >

誰でも使えるデータベース！ Access?（noa出版・1,905円＋税）

第1回授業に必ず間に合うように早めに準備してください。

< 授業計画 >

第1回 Accessの概要

データベースの作成

テーブル機能

授業ガイダンス

データベースとは

Accessの基本操作

データベースの作成

テーブルの概要

テーブルの作成

第2回 テーブル機能

フィールドの設定

データの入力

データのインポート

データの編集

検索と置換

第3回 フォーム機能

フォームの概要

フォームの作成

レコードの追加

第4回 フォーム機能

フォームのデザインの変更

第5回 第1回 確認テスト
第1回 確認テスト実施
テスト解説とここまでの復習

第6回 クエリ機能
クエリの概要
選択クエリの作成
単一条件による抽出条件の設定

第7回 クエリ機能
様々な抽出条件を設定したクエリの作成

第8回 レポート機能
レポートの概要
様々な形式のレポートの作成

第9回 レポート機能
レポートのデザインの変更
コントロールの編集
レポートの印刷

第10回 第2回 確認テスト
第2回 確認テスト実施
テスト解説とここまでの復習

第11回 リレーションシップ
リレーションシップとは
リレーションシップと参照整合性の設定

第12回 リレーションシップ
総合演習
リレーションシップ設定後のクエリ作成
総合演習

第13回 高度な機能
メイン・サブフレームの作成
入力しやすいフォームの作成
マクロの作成

第14回 高度な機能
メインパネルの作成
総合演習

第15回 第3回 確認テスト
第3回 確認テスト実施
テスト解説と総括

2022年度 前期

2.0単位
情報と社会
高梨 薫

< 授業の方法 >
「講義」

< 授業の目的 >

われわれの日々の生活（社会）を詳しくみていくのに、経験や生活感覚だけに頼るのではなく、データ（という情報）を活用することでよりよく理解できること、日常の社会現象は科学的な方法によって詳細に分析でき、深い考察を加えることが可能になることを紹介する。この授業は政府刊行物である多くの白書（のデータ）や、国勢調査等の社会調査によって得られるデータ（という情報）により、われわれの社会をよりよく理解できるようになることを学ぶ。それにより神戸学院大学DPである「学びを深め、協働して社会に役立てる」ようになることを促す科目である。

< 到達目標 >

1 教養としての幅広い知識を習得し、問題解決の基礎とする。

現代社会において、情報（データ）を活用したいいくつかの分野における社会的な制度や施策を俯瞰し、データという情報のもつ意味、応用（分析）の可能性について議論することを目的とする。

2 習得した知識や技術を役立てる。人（社会）を対象としたデータには様々な情報が含まれるが、個人情報についてはそれを保護するため倫理的な側面について理解しておくことが必須である。それにより倫理的な側面からの情報リテラシーの向上をめざす。

< 授業の進め方 >

授業は情報処理実習室にてパソコンを操作し、実際に統計ソフト（SPSS）を使った分析を体験していただきます。資料を配布（OneDrive、dotCampusなどオンラインで配布）して講義形式ですすめる。（より理解を深めたいひとは参考図書も活用してほしい。）

< 履修するにあたって >

授業は講義が主となりますが、パソコンを操作し、実際に統計ソフト（SPSS）を使い初歩的な分析を数回体験していただきます。毎回ではありませんがパソコンを操作していただきますので、教室は情報処理実習室で行うこととなります。情報処理実習室を使用するにあたり（定員があるため）人数制限（抽選）があります。

< 授業時間外に必要な学修 >

各授業において、講義ノートの作成に60分程度の時間を想定しています。

< 成績評価方法・基準 >

授業時間内不定期の小レポート（35%）と複数の課題、提出物（65%）で評価する。

<テキスト>

概ね各回、資料を配布します。資料はファイルして授業の際、いつでも振り返りができるようにしておいて下さい。

<参考図書>

厚生統計テキストブック 財団法人厚生統計協会

<授業計画>

第1回 社会科学と自然科学1

社会をみていくのに数学は必要ないか？社会的な事柄をデータ（数値）で提示する

第2回 社会科学と自然科学2

データという情報について 神戸市をデータでみる。人口、産業、財政、面積、etc.

第3回 データ（数値）で捉えた社会1

データという情報（続き） 主要国の人口とその推移、経済成長と成長率

第4回 データ（数値）で捉えた社会2

わが国の人口の推移、年少人口・老年人口・生産年齢人口、従属人口指数

第5回 データ（数値）で捉えた社会3

平均寿命、死亡率、罹病率 感染症と慢性疾患（生活習慣病） 変化する疾病構造

第6回 社会現象を統計的に提示する方法について1

ヒストグラム、正規分布、平均値から分散、標準偏差、みなさん自身でパソコンを操作してもらい、統計ソフトSPSSを使用して学習する予定です。

第7回 社会現象を統計的に提示する方法について2

変数（variable、value）と尺度水準（量的変数、質的変数）

みなさん自身でパソコンを操作してもらい、統計ソフトSPSSを使用して学習する予定です。

第8回 社会現象を分析する1

データの収集（社会調査） サンプルと標本の代表性

第9回 社会現象を分析する2

データの収集（社会調査） 質問紙と調査の倫理

第10回 社会現象を分析する3

推測統計について 検定、危険率（有意差）

みなさん自身でパソコンを操作してもらい、統計ソフトSPSSを使用して学習する予定です。

第11回 社会現象の分析例1

ソーシャルサポート（社会的支援）とメンタルヘルス（精神保健）

みなさん自身でパソコンを操作してもらい、統計ソフトSPSSを使用して学習する予定です。

第12回 社会現象の分析例2

ソーシャルサポート（社会的支援）とジェンダー

第13回 社会現象の分析例3

ソーシャル・キャピタル（社会資本）とメンタルヘルス（精神保健）

第14回 社会科学における実証研究

社会を研究対象とする実証研究について紹介し、調査等による情報（データ）がなくてはならないものであること、また情報を扱う際の倫理について説明する。

第15回 社会生活におけるデータの活用

われわれの日々の生活において、データに基づかない行動は考えられなくなりつつある。われわれに生活（社会）にとってのデータの意味とは。

2022年度 前期

2.0単位

情報と社会

麻生 裕貴

<授業の方法>

対面による講義

<授業の目的>

この講義では、情報と社会との関りについて、今後求められるデータサイエンス・AIの基本的事項と情報を活用した社会の様々な活動について理解することを目的とする。また、エビデンスに基づく経済政策について学び、データリテラシーを養うことを目的とする。

この科目は、神戸学院大学DPである「幅広い知識を活用して問題を発見し、解決する方策を導くことができる」ことを目指し、「学びを深め、協働して社会に役立てる」ようになることを促す科目である。

<到達目標>

1. データサイエンス・AIに関する基本的事項を理解する
2. 情報を活用した社会の様々な活動について理解する
3. 因果関係とは何か、そして、エビデンスに基づく経済政策について理解する

<授業のキーワード>

データサイエンス・AI、情報化社会、エビデンスに基づく経済政策

<授業の進め方>

対面による講義

<履修するにあたって>

講義内容の進捗状況に応じて、一部内容が変更になる場合がある。

<授業時間外に必要な学修>

予習と復習に1時間30分の学習時間が必要である。

<提出課題など>

講義ごとに小レポートを課す。

小レポートの解説は次週の講義で行なう。

<成績評価方法・基準>

? レポート(30%)、定期試験(70%)で評価する。

講義中に小レポートを課す。

小レポートの提出が講義回数の2/3に満たない者については成績評価は行わない。

<テキスト>

講義資料を配布する。

<参考図書>

『データサイエンス講座1 データサイエンス基礎』, 齋藤政彦・? 澤誠? ・? 森茂之・南知恵? 編, 培? 館
<授業計画>

第1回 オリエンテーション

本科目の目的、講義の進め方、現代の情報社会などについて説明

第2回 社会におけるデータ・AI活用

社会におけるデータやAIの活用事例について理解する

第3回 社会におけるデータ・AI活用

社会におけるデータやAIの活用と私たちの関りについて理解を深める

第4回 データリテラシー

データリテラシーについて理解する

第5回 データリテラシー

データリテラシーについて理解して、私たちの関りについて理解を深める

第6回 データ・AIを扱う上での留意事項

データやAIを扱う上での留意事項について理解する

第7回 統計学の基礎

データを読み取る上で最低限必要な統計学の基礎について説明する

第8回 社会における数理・データサイエンス・AI

社会における数理・データサイエンス・AIに関して説明する

第9回 社会における数理・データサイエンス・AI

社会における数理・データサイエンス・AIが生活にもたらす影響について理解する

第10回 経済指標とデータ

新聞やニュースで扱われる経済指標・データについて説明する

第11回 経済指標とデータ

近年の経済問題をデータを使って説明する

第12回 エビデンスに基づく経済政策

エビデンスとは何か、そして、それに基づく政策について説明する

第13回 エビデンスに基づく経済政策

実証分析の手法とその実例について説明する

第14回 エビデンスに基づく経済政策

操作変数法とそれを用いた経済政策分析について説明する

第15回 確認と整理

講義内容を整理して、学習成果の定着を図る

2022年度 前期

1.0単位

初級韓国語 a 再・サ

董 淑姪

<授業の方法>

対面授業(講義・演習)

<授業の目的>

ハングル文字の仕組みと読み書きを学び、日常会話に必要な基本語彙や表現を通して韓国語文法の基礎を理解し、コミュニケーションに必要な最低限の語彙力と表現力を身につけることを目的とする。なお、この科目では、全学のDPに揚げられている「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになることを目指す。

<到達目標>

1. ハングル文字と発音の変化を理解し、文字の読み書きができる。
2. 韓国語の基礎文法を理解し、簡単な文章の読み書きができる。
3. 日常会話に必要な基本語彙と表現を覚え、自己紹介と簡単な挨拶ができる。

<授業の進め方>

授業は読み書きを中心にテキストに沿って行われ、日常会話に必要な基本語彙と表現を学ぶ。

毎回、文字と発音の変化など韓国語学習の要になる項目を理解したうえで、基礎文法の学習へと進む。さらに、

練習問題を通して短文読解力と作文力を養い、コミュニケーション能力の向上を図る。

<履修するにあたって>

・初級韓国語は、再履修クラスに限り a・ b・ a
・ b それぞれを単独で履修することが可能である。

<授業時間外に必要な学修>

原則毎回の授業の冒頭に小テストを行うので、必ず新出語彙と新出表現の復習を1時間以上してから授業に参加すること。

<提出課題など>

毎回の授業で、その回の授業内容に関連した課題を課す。筆記の課題については、次回の授業で提出しなければならない。提出された筆記の課題に対しては教員が採点を施し、必要に応じて講評を加えて、課題の提出された次の回の授業で返却する。

口頭の課題については、次回の授業までにこれを練習し、次回の授業でそれに対する検査を受ける。教員はその場でこれに採点を施し、必要に応じて講評を加える。

<成績評価方法・基準>

筆記または口頭の課題に対する評価10%・授業に参加する態度に対する評価10%・授業中に行なわれる小テストの結果に対する評価20%・定期試験の結果に対する評価60%の割合で成績を評価する。

出席10回以上の者の成績はS・ A・ B・ C・ D, 出席10回未満の者は「/」。

最終的な成績は中央値補正法を応用して補正を行ない、算出する。

<テキスト>

長谷川由起子 『コミュニケーション韓国語 読んで書こう』 白帝社 2013年 2300円+税

<授業計画>

第1回 韓国語とハングル

第1課： 文字と発音1 韓国語の特徴とハングルのしくみ

第2回 基本的な母音字母とその発音

第2課： 文字と発音2 ハングルの「あいうえお」
; ㅏ・ㅑ・ㅓ・ㅕ・ㅗ・ㅛ・ㅜ・ㅠ・ㅡ・ㅣ・ㅝ・ㅞ・ㅟ

第3回 基本的な子音字母とその発音

第3課： 文字と発音3 ハングルの「あかさたな」
; ㄱ・ㄴ・ㄷ・ㄹ・ㅂ・ㅅ・ㅇ

第4回 基本的な子音字母とその発音

第4課： 文字と発音4 ハングルの「あかさたな」
; ㅈ・ㅊ・ㅌ・ㅍ・ㅍ・ㅍ・ㅍ

第5回 無声子音の有声音化

発展形の子音字母(激音と濃音)・

第5課： 文字と発音5 ハングルの濁り音; ㄱ・ㄴ
・ㄷ・ㄹ

第7課： 文字と発音7 激しい「か」と硬い「か」

; ㅋ・ㆁ・ㆁ・ㆁ ㄱ・ㄷ・ㅈ・ㅊ・ㅌ・ㅍ

第6回 発展形の母音字母とその発音

第6・8課： 文字と発音6 ハングルの「や行」; ㅑ
・ㅓ・ㅕ・ㅗ・ㅛ・ㅜ・ㅠ

文字と発音8 ハングルの「わ行」; ㅘ・ㅙ・

ㅞ・ㅟ・ㅠ・ㅡ

第7回 パッチムとその発音

第9課： 文字と発音9 ハングルの「ん」と「っ」; ㄹ
・ㄴ・ㅇ・ㅇ・ㅇ・ㅇ・ㅇの終声

第8回 発音のルール

第10課： 文字と発音10 ; パッチムがスライド(連音)、「ㅎ」と「ㄱ・ㄷ・ㄹ・ㅅ」の一体化(激音化)、「ㅎ」の弱音化、「ㄴ」の[ㄹ]化(流音化)、消えるパッチムの響くパッチム化(鼻音化)、[ㄴ]挿入

第9回 一人称代名詞、主題を表す助詞、指定詞

第11課： 国際学部1年生です
新しい「語句」と「学習のポイント」を確認し、「本文」の読解と朗読をする。

第10回 自己紹介表現 (名前と所属)

「学習のポイント」の用例文と練習問題を通して理解を深め、「総合練習」で習得の程度を確認する。

第11回 漢字語数詞と固有語数詞、アルファベットと外来語

第12課： 趣味は音楽を聴くことです

新しい「語句」と「学習のポイント」を確認し、「本文」の読解と朗読をする。

第12回 自己紹介表現 (年齢と趣味)

「学習のポイント」の用例文と練習問題を通して理解を深め、「総合練習」で習得の程度を確認する。

第13回 固有語数詞と単位名詞、有無を表す表現、主語・添加・場所・時等を表す助詞

第13課： 我が家は4人家族です(家族紹介の表現)

新しい「語句」と「学習のポイント」を確認し、「本文」の読解と朗読をする。

家族紹介の表現

「学習のポイント」の用例文と練習問題を通して理解を深め、「総合練習」で習得の程度を確認する。

まとめ

総復習と確認テスト

2022年度 前期

1.0単位

初級韓国語 a (読解)ア【経済】

鄭 惠遠

<授業の方法>

対面授業(講義・演習)

<授業の目的>

ハングル文字の仕組みと読み書きを学び、日常会話に必要な基本語彙や表現を通して韓国語文法の基礎を理解し、

コミュニケーションに必要な最低限の語彙力と表現力を身につけることを目的とする。なお、この科目では、全学のDPに揚げられている「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになることを目指す。

<到達目標>

1 ハングル文字と発音の変化を理解し、その文字の読み書きができる。

2 韓国語の基礎文法を理解し、簡単な文章の読み書きができる。

3 日常会話に必要な基本語彙と表現を覚え、自己紹介と簡単な挨拶ができる。

<授業のキーワード>

ハングル文字、発音の変化、基礎文法

<授業の進め方>

この授業は、「初級韓国語 b」と連動している。

授業は読み書きを中心にテキストに沿って行われ、日常会話に必要な基本語彙と表現を学ぶ。

毎回の授業では、文字と発音の変化など韓国語学習の要になる項目を理解したうえで、基礎文法の学習へと進む。さらに、活用練習と文型練習を通して、短文作文能力とコミュニケーション能力の向上を図る。

<履修するにあたって>

高校までに学んだ国語の文法を復習しておくこと。

<授業時間外に必要な学修>

原則毎回の授業の冒頭に小テストを行うので、必ず新出語彙と新出表現の復習を1時間以上してから授業に参加すること。

<提出課題など>

毎回の授業で、その回の授業内容に関連した課題を課す。筆記の課題については、次回の授業で提出しなければならない。提出された筆記の課題に対しては教員が採点を施し、必要に応じて講評を加えて、課題の提出された次の回の授業で返却する。

口頭の課題については、次回の授業までにこれを練習し、次回の授業でそれに対する検査を受ける。教員はその場でこれに採点を施し、必要に応じて講評を加える。

<成績評価方法・基準>

筆記または口頭の課題に対する評価20%・授業に参加する態度に対する評価20%・定期試験の結果に対する評価60%の割合で成績を評価する。

出席10回以上の者の成績はS・A・B・C・D、出席10回未満の者は「/」。

最終的な成績は中央値補正法を応用して補正を行ない、算出する。

<テキスト>

李昌圭 『韓国語を学ぼう(初級)』 朝日出版社 2

006年 2300円+税

李昌圭 『韓国語を学ぼう(初級) - 別冊練習帳 - 』

朝日出版社 2006年 1000円+税

<参考図書>

『韓日辞典』小学館

<授業計画>

第1回 韓国語とハングル

文字と発音1: 韓国語の特徴とハングル文字の構成

第2回 ハングル文字の組み合わせ

文字と発音2: 子音字+母音字、子音字+母音字

第3回 基本母音字

文字と発音3: 基本母音字の構成原理とその発音の違いを理解し、日本語の母音との違いを認識し、正しい書き方で文字を書く練習。

第4回 基本子音字(1)

文字と発音4: 基本子音字14個を確認し、うち5個の子音字の成り立ちを理解し、正しい書き方で文字と新出語彙を書く練習。

第5回 基本子音字(2)

文字と発音5: 既習の基本母音字と子音字を資料5・6の調音図で確認し、さらに5個の子音字の成り立ちを理解し、正しい書き方で文字と新出語彙を書く練習。

第6回 基本子音字(3)

文字と発音6: 既習の資料6の調音図を確認しつつ、さらに4個の子音字(激音)の成り立ちを理解し、正しい書き方で文字と新出語彙を書く練習。

第7回 合成子音字と合成母音字

文字と発音7・8: さらに、5個の子音字(濃音)と11個の母音字の合成原理を理解し、平音と激音と濃音の発音の違いに注意を払いながら、正しい書き方で文字と新出語彙を書く練習。

第8回 終声子音字(パッチム)と連音化

文字と発音9・10: 終声子音字27個の合成原理と代表音7個の発音や連音化との関係を理解し、正しい書き方で文字と新出語彙を書く練習。

第9回 文章の基本形式と自己紹介

第1課: 学習目標と新出語彙・表現を確認し、本文の読解と朗読をする。資料16の基本文法用語解説を参考に韓国語の基本形式を理解する。

第10回 肯定文・疑問文

文法と表現を理解し、用例文と文型練習を通して理解を深め、活用練習で習得の程度を確認する。

第11回 事物・場所の指示代名詞

第2課: 学習目標と新出語彙・表現を確認し、本文の読解と朗読をする。

第12回 否定文

文法と表現を理解し、用例文と文型練習を通して理解を深め、活用練習で習得の程度を確認する。

第13回 指示語と人称代名詞

第3課: 学習目標と新出語彙・表現を確認し、本文の読

解と朗読をする。

第14回 所有格と指示文

文法と表現を理解し、用例文と文型練習を通して理解を深め、活用練習で習得の程度を確認する。

第15回 まとめ

総復習

2022年度 前期

1.0単位

初級韓国語 b 再・サ

任 哉玩

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

ハングル文字の仕組みを理解したうえで、主に音声のシャドウィングとディクテーションを通して韓国語の日常会話に必要な基本語彙と表現を習得し、最低限のコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。なお、この科目では、全学のDPに揚げられている「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになることを目指す。

< 到達目標 >

- 1 ハングル文字と発音の変化を理解し、簡単な会話のディクテーションができる。
- 2 シャドウィングを通して韓国語の基本的文型を習得し、正確に発音できる。
- 3 日常会話に必要な基本語彙と表現を使い自己紹介と簡単な挨拶ができる。

< 授業の進め方 >

授業は聞く・話すを中心にテキストに沿って行われ、日常会話に必要な基本語彙と表現を学ぶ。

毎回の授業では、「本文」対話文の和訳・発音練習とシャドウィングの後、ディクテーションと和訳で習得の程度を確認し、正確な発音と聴解の力を高め、コミュニケーション能力の向上を図る。

< 履修するにあたって >

- ・初級韓国語は、再履修クラスに限り a・ b・ a
- ・ b それぞれを単独で履修することが可能である。

< 授業時間外に必要な学修 >

原則毎回の授業の最後にディクテーションを行うので、必ずCDを使った予習と復習を1時間以上してから授業に参加すること。

< 提出課題など >

毎回の授業で、その回の授業内容に関連した課題を課す。筆記の課題については、次回の授業で提出しなければならない。提出された筆記の課題に対しては教員が採点を施し、必要に応じて講評を加えて、課題の提出された次の回の授業で返却する。

口頭の課題については、次回の授業までにこれを練習し、次回の授業でそれに対する検査を受ける。教員はその場でこれに採点を施し、必要に応じて講評を加える。

< 成績評価方法・基準 >

筆記または口頭の課題に対する評価10%・授業に参加する態度に対する評価10%・授業中に行なわれる小テストの結果に対する評価20%・定期試験の結果に対する評価60%の割合で成績を評価する。

出席10回以上の者の成績はS・ A・ B・ C・ D, 出席10回未満の者は「/」。

最終的な成績は中央値補正法を応用して補正を行ない、算出する。

< テキスト >

長谷川由起子 『コミュニケーション韓国語 聞いて話そう』 白帝社 2012年 2300円+税

< 授業計画 >

第1回 母音と母音字母 ・半母音と母音字母

第1課： 文字と発音1 出会い ; ハングルの「あ行」・「や行」

第2回 子音と子音字母

第2課： 文字と発音2 出会い ; ハングルの「あかさたな」

第3回 無声子音の有声音化

第3課： 文字と発音3 別れ ; ハングルの濁り音

第4回 激音と子音字母

第4課： 文字と発音4 別れ ; 激しい「か」

第5回 濃音と子音字母

第5課： 文字と発音5 尋ねる・答える ; 硬い「か」

第6回 半母音と母音字母 ・終声とパッチム

第6・7課： 文字と発音6 感謝 ; ハングルの「わ行」

文字と発音7 感謝 ; ハングルの「ん」と「っ」

第7回 疑問詞・感嘆詞

第8課： 何ですか

語彙と表現 プレゼントの表現、疑問詞、感嘆表現

文法 名詞文~ /

発音のルール 連音 ・

第8回 謝罪の表現、

発音のルール

第9課： 申し訳ありません

語彙と表現 ; 謝罪の表現

発音のルール 「ㅎ」の弱音化、鼻音化

第9回 一人称代名詞、

主題を表す助詞

第10課： 私は山崎未来です

語彙と表現 自己紹介の表現と 一人称代名詞

文法 主題を表す助詞~ /~ 、
疑問文~ / 疑問詞 ?

第10回 趣味を表す表現、
自己紹介

文法 名前紹介表現~ /
語彙と表現 趣味の表現と自己紹介

第11回 日付を尋ねる疑問詞、
日時を表す表現

第11課: 誕生日はいつですか
発音のルール 激音化
語彙と表現 月日の言い表し方

第12回 種類を尋ねる疑問詞

第12課: 何学科ですか
語彙と表現 学科専攻を尋ねる疑問詞 ~
文法 追加を表す助詞~

第13回 用言、
対象を表す助詞

第13課: 僕は音楽が大好きです
語彙と表現 用言
文法 対象を表す助詞~ /

第14回 好みの表現、
サークル活動の紹介

文法 好みの表現~ / とサークル活動の
紹介

第15回 まとめ
総復習と確認テスト

2022年度 後期

1.0単位

初級韓国語 b 再・シ

文 春琴

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

ハングル文字の仕組みを理解したうえで、主に音声のシャドウイングとディクテーションを通して韓国語の日常会話に必要な基本語彙と表現を習得し、最低限のコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。なお、この科目では、全学のDPに揚げられている「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになることを目指す。

< 到達目標 >

1 ハングル文字と発音の変化を理解し、簡単な会話のディクテーションができる。

2 シャドウイングを通して韓国語の基本的文型を習得し、正確に発音できる。

3 日常会話に必要な基本語彙と表現を使い自己紹介と簡単な挨拶ができる。

< 授業の進め方 >

授業は聞く・話すを中心にテキストに沿って行われ、日常会話に必要な基本語彙と表現を学ぶ。

毎回の授業では、「本文」対話文の和訳・発音練習とシャドウイングの後、ディクテーションと和訳で習得の程度を確認し、正確な発音と聴解の力を高め、コミュニケーション能力の向上を図る。

< 履修するにあたって >

・初級韓国語は、再履修クラスに限り a・b・a

・bそれぞれを単独で履修することが可能である。

・これは後期に開講される科目であるが、「初級韓国語 b」という名のとおり、内容は前期用のものである。履修登録を間違わないよう気を付けること。

< 授業時間外に必要な学修 >

原則毎回の授業の最後にディクテーションを行うので、必ずCDを使った予習と復習を1時間以上してから授業に参加すること。

< 提出課題など >

毎回の授業で、その回の授業内容に関連した課題を課す。筆記の課題については、次回の授業で提出しなければならない。提出された筆記の課題に対しては教員が採点を施し、必要に応じて講評を加えて、課題の提出された次の回の授業で返却する。

口頭の課題については、次回の授業までにこれを練習し、次回の授業でそれに対する検査を受ける。教員はその場でこれに採点を施し、必要に応じて講評を加える。

< 成績評価方法・基準 >

筆記または口頭の課題に対する評価10%・授業に参加する態度に対する評価10%・授業中に行なわれる小テストの結果に対する評価20%・定期試験の結果に対する評価60%の割合で成績を評価する。

出席10回以上の者の成績はS・A・B・C・D, 出席10回未満の者は「/」。

最終的な成績は中央値補正法を応用して補正を行ない、算出する。

< テキスト >

長谷川由起子 『コミュニケーション韓国語 聞いて話そう』 白帝社 2012年 2300円+税

< 授業計画 >

第1回 母音と母音字母 ・半母音と母音字母

第1課: 文字と発音1 出会い ; ハングルの「あ行」・「や行」

第2回 子音と子音字母

第2課: 文字と発音2 出会い ; ハングルの「あかさたな」

第3回 無声子音の有声音化

第3課: 文字と発音3 別れ ; ハングルの濁り音

第4回 激音と子音字母

第4課： 文字と発音4 別れ ; 激しい「か」
 第5回 濃音と子音字母
 第5課： 文字と発音5 尋ねる・答える ; 硬い「か」
 第6回 半母音と母音字母 ・終声とパッチム
 第6・7課： 文字と発音6 感謝 ; ハングルの「わ行」
 文字と発音7 感謝 ; ハングルの「ん」と「っ」
 第7回 疑問詞・感嘆詞
 第8課： 何ですか
 語彙と表現 プレゼントの表現、疑問詞、感嘆表現
 文法 名詞文~ /
 発音のルール 連音・
 第8回 謝罪の表現、
 発音のルール
 第9課： 申し訳ありません
 語彙と表現 ; 謝罪の表現
 発音のルール 「ㄹ」の弱音化、鼻音化
 第9回 一人称代名詞、
 主題を表す助詞
 第10課： 私は山崎未来です
 語彙と表現 自己紹介の表現と 一人称代名詞、
 文法 主題を表す助詞~ /~、
 疑問文~ / 疑問詞 ?
 第10回 趣味を表す表現、
 自己紹介
 文法 名前紹介表現~ /
 語彙と表現 趣味の表現と自己紹介
 第11回 日付を尋ねる疑問詞、
 日時を表す表現
 第11課： 誕生日はいつですか
 発音のルール 激音化
 語彙と表現 月日の言い表し方
 第12回 種類を尋ねる疑問詞
 第12課： 何学科ですか
 語彙と表現 学科専攻を尋ねる疑問詞 ~
 文法 追加を表す助詞~
 第13回 用言、
 対象を表す助詞
 第13課： 僕は音楽が大好きです
 語彙と表現 用言
 文法 対象を表す助詞~ /
 第14回 好みの表現、
 サークル活動の紹介
 文法 好みの表現~ / とサークル活動の

紹介
 第15回 まとめ
 総復習と確認テスト

 2022年度 前期

1.0単位

初級韓国語 b 再・ラ
 魯 恵英

 <授業の方法>

講義・演習

<授業の目的>

ハングル文字の仕組みを理解したうえで、主に音声のシャドウィングとディクテーションを通して韓国語の日常会話に必要な基本語彙と表現を習得し、最低限のコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。なお、この科目では、全学のDPに揚げられている「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになることを目指す。

<到達目標>

- 1 ハングル文字と発音の変化を理解し、簡単な会話のディクテーションができる。
- 2 シャドウィングを通して韓国語の基本的文型を習得し、正確に発音できる。
- 3 日常会話に必要な基本語彙と表現を使い自己紹介と簡単な挨拶ができる。

<授業の進め方>

授業は聞く・話すを中心にテキストに沿って行われ、日常会話に必要な基本語彙と表現を学ぶ。

毎回の授業では、「本文」対話文の和訳・発音練習とシャドウィングの後、ディクテーションと和訳で習得の程度を確認し、正確な発音と聴解の力を高め、コミュニケーション能力の向上を図る。

<履修するにあたって>

- ・初級韓国語は、再履修クラスに限り a・b・a
- ・bそれぞれを単独で履修することが可能である。

<授業時間外に必要な学修>

原則毎回の授業の最後にディクテーションを行うので、必ずCDを使った予習と復習を1時間以上してから授業に参加すること。

<提出課題など>

毎回の授業で、その回の授業内容に関連した課題を課す。筆記の課題については、次回の授業で提出しなければならない。提出された筆記の課題に対しては教員が採点を施し、必要に応じて講評を加えて、課題の提出された次の回の授業で返却する。

口頭の課題については、次回の授業までにこれを練習し、次回の授業でそれに対する検査を受ける。教員はその場でこれに採点を施し、必要に応じて講評を加える。

<成績評価方法・基準>

筆記または口頭の課題に対する評価10%・授業に参加する態度に対する評価10%・授業中に行なわれる小テストの結果に対する評価20%・定期試験の結果に対する評価60%の割合で成績を評価する。

出席10回以上の者の成績はS・A・B・C・D,出席10回未満の者は「/」。

最終的な成績は中央値補正法を応用して補正を行ない、算出する。

<テキスト>

長谷川由起子 『コミュニケーション韓国語 聞いて話そう』 白帝社 2012年 2300円+税

<授業計画>

第1回 母音と母音字母・半母音と母音字母

第1課： 文字と発音1 出会い ; ハングルの「あ行」・「や行」

第2回 子音と子音字母

第2課： 文字と発音2 出会い ; ハングルの「あかさたな」

第3回 無声子音の有声音化

第3課： 文字と発音3 別れ ; ハングルの濁り音

第4回 激音と子音字母

第4課： 文字と発音4 別れ ; 激しい「か」

第5回 濃音と子音字母

第5課： 文字と発音5 尋ねる・答える ; 硬い「か」

第6回 半母音と母音字母・終声とパッチム

第6・7課： 文字と発音6 感謝 ; ハングルの「わ行」

文字と発音7 感謝 ; ハングルの

の「ん」と「っ」

第7回 疑問詞・感嘆詞

第8課： 何ですか

語彙と表現 プレゼントの表現、疑問詞

、感嘆表現

文法 名詞文~ /

発音のルール 連音・

第8回 謝罪の表現、

発音のルール

第9課： 申し訳ありません

語彙と表現 ; 謝罪の表現

発音のルール 「ㅎ」の弱音化、鼻音化

第9回 一人称代名詞、

主題を表す助詞

第10課： 私は山崎未来です

語彙と表現 自己紹介の表現と 一人称代

名詞 ,

文法 主題を表す助詞~ /~、

疑問文~ / 疑問詞 ?

第10回 趣味を表す表現、

自己紹介

文法 名前紹介表現~ /

語彙と表現 趣味の表現と自己紹介

第11回 日付を尋ねる疑問詞、

日時を表す表現

第11課： 誕生日はいつですか

発音のルール 激音化

語彙と表現 月日の言い表し方

第12回 種類を尋ねる疑問詞

第12課： 何学科ですか

語彙と表現 学科専攻を尋ねる疑問詞 ~

文法 追加を表す助詞~

第13回 用言、

対象を表す助詞

第13課： 私は音楽が大好きです

語彙と表現 用言

文法 対象を表す助詞~ /

第14回 好みの表現、

サークル活動の紹介

文法 好みの表現~ / とサークル活動の

紹介

第15回 まとめ

総復習と確認テスト

2022年度 後期

1.0単位

初級韓国語 b 再・リ

魯 恵英

<授業の方法>

講義・演習

<授業の目的>

ハングル文字の仕組みを理解したうえで、主に音声のシャドウイングとディクテーションを通して韓国語の日常会話に必要な基本語彙と表現を習得し、最低限のコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。なお、この科目では、全学のDPに揚げられている「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになることを目指す。

<到達目標>

1 ハングル文字と発音の変化を理解し、簡単な会話のディクテーションができる。

2 シャドウイングを通して韓国語の基本的文型を習得し、正確に発音できる。

3 日常会話に必要な基本語彙と表現を使い自己紹介と簡単な挨拶ができる。

<授業の進め方>

授業は聞く・話すを中心にテキストに沿って行われ、日常会話に必要な基本語彙と表現を学ぶ。

毎回の授業では、「本文」対話文の和訳・発音練習とシャドウイングの後、ディクテーションと和訳で習得の程度を確認し、正確な発音と聴解の力を高め、コミュニケーション能力の向上を図る。

<履修するにあたって>

- ・初級韓国語は、再履修クラスに限り a・ b・ a
 - ・ b それぞれを単独で履修することが可能である。
 - ・これは後期に開講される科目であるが、「初級韓国語 b」という名のとおり、内容は前期用のものである。
- 履修登録を間違わないよう気を付けること。

<授業時間外に必要な学修>

原則毎回の授業の最後にディクテーションを行うので、必ずCDを使った予習と復習を1時間以上してから授業に参加すること。

<提出課題など>

毎回の授業で、その回の授業内容に関連した課題を課す。筆記の課題については、次回の授業で提出しなければならない。提出された筆記の課題に対しては教員が採点を施し、必要に応じて講評を加えて、課題の提出された次の回の授業で返却する。

口頭の課題については、次回の授業までにこれを練習し、次回の授業でそれに対する検査を受ける。教員はその場でこれに採点を施し、必要に応じて講評を加える。

<成績評価方法・基準>

筆記または口頭の課題に対する評価10%・授業に参加する態度に対する評価10%・授業中に行なわれる小テストの結果に対する評価20%・定期試験の結果に対する評価60%の割合で成績を評価する。

出席10回以上の者の成績はS・ A・ B・ C・ D, 出席10回未満の者は「/」。

最終的な成績は中央値補正法を応用して補正を行ない、算出する。

<テキスト>

長谷川由起子 『コミュニケーション韓国語 聞いて話そう』 白帝社 2012年 2300円+税

<授業計画>

第1回 母音と母音字母 ・半母音と母音字母

第1課： 文字と発音1 出会い ; ハングルの「あ行」・「や行」

第2回 子音と子音字母

第2課： 文字と発音2 出会い ; ハングルの「あかさたな」

第3回 無声子音の有声音化

第3課： 文字と発音3 別れ ; ハングルの濁り音

第4回 激音と子音字母

第4課： 文字と発音4 別れ ; 激しい「か」

第5回 濃音と子音字母

第5課： 文字と発音5 尋ねる・答える ; 硬い「か

」

第6回 半母音と母音字母 ・終声とパッチム

第6・7課： 文字と発音6 感謝 ; ハングルの「わ行」

文字と発音7 感謝 ; ハングルの

の「ん」と「っ」

第7回 疑問詞・感嘆詞

第8課： 何ですか

語彙と表現 プレゼントの表現、疑問詞

, , 感嘆表現

文法 名詞文~ /

発音のルール 連音 ・

第8回 謝罪の表現、

発音のルール

第9課： 申し訳ありません

語彙と表現 ; 謝罪の表現

発音のルール 「ㅎ」の弱音化、鼻音化

・

第9回 一人称代名詞、

主題を表す助詞

第10課： 私は山崎未来です

語彙と表現 自己紹介の表現と 一人称代

名詞 ,

文法 主題を表す助詞~ /~ 、

疑問文~ / 疑問詞 ?

第10回 趣味を表す表現、

自己紹介

文法 名前紹介表現~ /

語彙と表現 趣味の表現と自己紹介

第11回 日付を尋ねる疑問詞、

日時を表す表現

第11課： 誕生日はいつですか

発音のルール 激音化

語彙と表現 月日の言い表し方

第12回 種類を尋ねる疑問詞

第12課： 何学科ですか

語彙と表現 学科専攻を尋ねる疑問詞 ~

文法 追加を表す助詞~

第13回 用言、

対象を表す助詞

第13課： 僕は音楽が大好きです

語彙と表現 用言

文法 対象を表す助詞~ /

第14回 好みの表現、

サークル活動の紹介

文法 好みの表現~ /

とサークル活動の

紹介

第15回 まとめ

総復習と確認テスト

2022年度 前期

1.0単位

初級韓国語 b (会話)ア【経済】

文 春琴

< 授業の方法 >

対面授業(講義・演習)

< 授業の目的 >

ハングル文字の仕組みを理解したうえで、主に音声のシャドウイングとディクテーションを通して韓国語の日常会話に必要な基本語彙と表現を習得し、最低限のコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。なお、この科目では、全学のDPに揚げられている「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになることを目指す。

< 到達目標 >

- 1 ハングル文字と発音の変化を理解し、簡単な会話のディクテーションができる。
- 2 シャドウイングを通して韓国語の基本的文型を習得し、正確に発音できる。
- 3 日常会話に必要な基本語彙と表現を使い自己紹介と簡単な挨拶ができる。

< 授業のキーワード >

韓国語、初級、発音・会話

< 授業の進め方 >

この授業は、「初級韓国語 a」と連動している。

授業は聞く・話すを中心にテキストに沿って行われ、日常会話に必要な基本語彙と表現を学ぶ。

毎回の授業では、シャドウイングとディクテーションを通して正確な発音と聴解の力を高め、コミュニケーション能力の向上を図る。

< 履修するにあたって >

高校までに学んだ国語の文法を復習しておくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

原則毎回の授業ではディクテーションを行うので、必ずCDを使った予習と復習を1時間以上してから授業に参加すること。

< 提出課題など >

毎回の授業で、その回の授業内容に関連した課題を課す。筆記の課題については、次回の授業で提出しなければならない。提出された筆記の課題に対しては教員が採点を施し、必要に応じて講評を加えて、課題の提出された次の回の授業で返却する。

口頭の課題については、次回の授業までにこれを練習し、次回の授業でそれに対する検査を受ける。教員はその場でこれに採点を施し、必要に応じて講評を加える。

< 成績評価方法・基準 >

授業に参加する態度に対する評価40%・筆記または口頭の課題に対する評価20%・定期試験の結果に対する評価40%の割合で成績を評価する。

出席10回以上の者の成績はS・A・B・C・D,出席10回未満の者は「/」。

最終的な成績は中央値補正法を応用して補正を行ない、算出する。

< テキスト >

李昌圭 『韓国語を学ぼう(初級)』 朝日出版社 2006年 2300円+税

李昌圭 『韓国語を学ぼう(初級) - 別冊練習帳 - 』朝日出版社 2006年 1000円+税

< 参考図書 >

『韓日辞典』小学館

< 授業計画 >

第1回 韓国語とハングル、ハングル文字の組み合わせ文字と発音1: 韓国語の特徴とハングル文字、資料1. ハングル表の発音練習。

第2回 かなのハングル表記法

文字と発音2: 資料2. かなのハングル表記法を参考に、ハングルの子音字+母音字、子音字+母音字+子音字の組み合わせの練習。日本語をハングル文字で書いて読む練習。

第3回 基本母音字

文字と発音3: 基本母音字の発音の違いを音声を通して確認し、シャドウイングとディクテーションで、日本語の母音との違いを認識し、正しい読み方で文字を読む練習。

第4回 基本子音字(1)

文字と発音4: 基本子音字14個の音声を確認し、うち5個の子音字の新出語彙をシャドウイング正しい読み方で読む練習とディクテーションで理解の程度を確認する。

第5回 基本子音字(2)

文字と発音5: 基本子音字14個の音声を確認し、新出語彙のシャドウイング練習の後、ディクテーションで理解の程度を確認する。

第6回 基本子音字(3)

文字と発音6: 4個の子音字(激音)の音声を確認し、新出語彙のシャドウイング練習の後、ディクテーションで理解の程度を確認する。

第7回 合成子音字と合成母音字

文字と発音7・8: 5個の子音字(濃音)と11個の母音字の音声を確認し、平音と激音と濃音の発音の違いに注意を払いながら、新出語彙のシャドウイング練習の後、ディクテーションで理解の程度を確認する。

第8回 終声子音字(パッチム)と連音化等

文字と発音9・10: 終声子音字27個とそれらの代表音7個の発音と連音化の音声を確認し、資料13-15.韓国の童謡とあいさつのことばの音声も確認し、新出語彙のシャ

ドウィングの後、ディクテーションで理解の程度を確認する。

第9回 文章の基本形式と自己紹介

第1課： 本文の対話文の和訳と「発音練習」、「発音規則」のシャドウィングの後、ディクテーション及び和訳で習得の程度を確認する。

第10回 肯定文・疑問文

テキストの「文法と表現」の例文と「文型練習」のシャドウィングの後、ディクテーション及び和訳で習得の程度を確認する。

第11回 事物・場所の指示代名詞

第2課： 本文の対話文の和訳と「発音練習」、「発音規則」のシャドウィングの後、ディクテーション及び和訳で習得の程度を確認する。

第12回 否定文

テキストの「文法と表現」の例文と「文型練習」のシャドウィングの後、ディクテーション及び和訳で習得の程度を確認する。

第13回 指示語と人称代名詞

第3課： 本文の対話文の和訳と「発音練習」、「発音規則」のシャドウィングの後、ディクテーション及び和訳で習得の程度を確認する。

第14回 所有格と指示文

テキストの「文法と表現」の例文と「文型練習」のシャドウィングの後、ディクテーション及び和訳で習得の程度を確認する。

第15回 まとめ

総復習と確認テスト

2022年度 後期

1.0単位

初級韓国語 a 再・サ

董 淑姪

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

ハングル文字の仕組みと読み書きを学び、日常会話に必要な基本語彙や表現を通して韓国語文法の基礎を理解し、コミュニケーションに必要な最低限の語彙力と表現力を身につけることを目的とする。なお、この科目では、全学のDPに揚げられている「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになることを目指す。

< 到達目標 >

1 ハングル文字と発音の変化を理解し、文字の読み書きができる。

2 韓国語の基礎文法を理解し、簡単な文章の読み書きができる。

3 日常会話に必要な基本語彙と表現を覚え、自己紹介と簡単な挨拶ができる。

< 授業の進め方 >

授業は読み書きを中心にテキストに沿って行われ、日常会話に必要な基本語彙と表現を学ぶ。

毎回、文字と発音の変化など韓国語学習の要になる項目を理解したうえで、基礎文法の学習へと進む。

さらに、練習問題を通して短文読解力と作文力を養い、コミュニケーション能力の向上を図る。

< 履修するにあたって >

・初級韓国語は、再履修クラスに限り a・b・a・bそれぞれを単独で履修することが可能である。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習をしておけば授業での理解がさらに深まるだろうし、復習をすれば獲得した知識や技能をさらに固めることができる。役に立つ韓国語を身につけたいと思うのであれば、予習・復習を欠かすことはできない。少なくとも30分程度の時間を毎回の予習・復習それぞれに充てて欲しい。

< 提出課題など >

毎回の授業で、その回の授業内容に関連した課題を課す。筆記の課題については、次回の授業で提出しなければならない。提出された筆記の課題に対しては教員が採点を施し、必要に応じて講評を加えて、課題の提出された次の回の授業で返却する。

口頭の課題については、次回の授業までにこれを練習し、次回の授業でそれに対する検査を受ける。教員はその場でこれに採点を施し、必要に応じて講評を加える。

< 成績評価方法・基準 >

筆記または口頭の課題に対する評価10%・授業に参加する態度に対する評価10%・授業中に行なわれる小テストの結果に対する評価20%・定期試験の結果に対する評価60%の割合で成績を評価する。

出席10回以上の者の成績はS・A・B・C・D, 出席10回未満の者は「/」。

最終的な成績は中央値補正法を応用して補正を行ない、算出する。

< テキスト >

長谷川由起子 『コミュニケーション韓国語 読んで書こう』 白帝社 2013年 2300円+税

< 授業計画 >

第1回 (1)後期授業方法の説明

(2)用言の語幹と語尾、

丁寧・並列・逆説の接続語尾

(1)Zoomを用い、後期の授業方法について説明する。

(2)第14課： 学校の近くはコンビニもあります

新しい「語句」と「学習のポイント」を確認し、「本文」の読解と朗読をする。

第2回 学校紹介の表現

「学習のポイント」の用例文と練習問題を通して理解を深め、「総合練習」で習得の程度を確認する。

第3回 対象、場所、手段、限定を表す助詞

第15課： スーパーでアルバイトをしています

新しい「語句」と「学習のポイント」を確認し、「本文」の読解と朗読をする。

第4回 日常生活を語る表現

「学習のポイント」の用例文と練習問題を通して理解を深め、「総合練習」で習得の程度を確認する。

第5回 羅列の助詞、好み表現、否定表現、比較の基準の助詞

第16課： 冷麺はあまり好きではありません

新しい「語句」と「学習のポイント」を確認し、「本文」の読解と朗読をする。

第6回 好き嫌いを語る表現

「学習のポイント」の用例文と練習問題を通して理解を深め、「総合練習」で習得の程度を確認する。

第7回 用言・陽語幹用言・陰語幹用言、過去形、行き来の目的を表す接続語尾

第17課： 昨日、友人たちがうちに遊びに来ました

新しい「語句」と「学習のポイント」を確認し、「本文」の読解と朗読をする。

第8回 身近なでき事を語る表現

「学習のポイント」の用例文と練習問題を通して理解を深め、「総合練習」で習得の程度を確認する。

第9回 期間・範囲を表す助詞、現在連体形、否定の副詞、予想以下であることを表す助詞

第18課： 肌にいい化粧品を買いました

新しい「語句」と「学習のポイント」を確認し、「本文」の読解と朗読をする。

第10回 旅行経験を語る表現

「学習のポイント」の用例文と練習問題を通して理解を深め、「総合練習」で習得の程度を確認する。

第11回 不可能の副詞、原因・先行動作を表す接続語尾、口変則用言

第19課： キムチチゲなんかはあまり食べられません

新しい「語句」と「学習のポイント」を確認し、「本文」の読解と朗読をする。

第12回 好き嫌いの理由を語る表現

「学習のポイント」の用例文と練習問題を通して理解を深め、「総合練習」で習得の程度を確認する。

第13回 希望・進行・転成表現、関連付けの助詞、条件を表す接続語尾

第20課： 卒業したら中学の先生になりたいです

新しい「語句」と「学習のポイント」を確認し、「本文」の読解と朗読をする。

第14回 将来の目標を語る表現

「学習のポイント」の用例文と練習問題を通して理解を深め、「総合練習」で習得の程度を確認する。

第15回 まとめ

総復習と確認テスト

2022年度 後期

1.0単位

初級韓国語 a (読解)ア【経済】

鄭 惠遠

<授業の方法>

対面授業(講義・演習)

<授業の目的>

前期に引き続き、ハングル文字の仕組みと読み書きを学び、日常会話に必要な基本語彙や表現を通して韓国語文法の基礎を理解し、コミュニケーションに必要な最低限の語彙力と表現力を身につけることを目的とする。なお、この科目では、全学のDPに揚げられている「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになることを目指す。

<到達目標>

1 ハングル文字と発音の変化を理解し、文字の読み書きができる。

2 韓国語の基礎文法を理解し、簡単な文章の読み書きができる。

3 日常会話に必要な基本語彙と表現を覚え、自己紹介と簡単な挨拶ができる。

<授業のキーワード>

ハングル文字、発音の変化、基礎文法

<授業の進め方>

この授業は、「初級韓国語 b」と連動している。

授業は読み書きを中心にテキストに沿って行われ、日常会話に必要な基本語彙と表現を学ぶ。

毎回の授業では、文字と発音の変化など韓国語学習の要になる項目を理解したうえで、基礎文法の学習へと進む。さらに、活用練習と文型練習を通して、短文作文能力とコミュニケーション能力の向上を図る。

<履修するにあたって>

前期までに学んだハングル文字と韓国語の文法を復習しておくこと。

<授業時間外に必要な学修>

原則毎回の授業の冒頭に小テストを行うので、必ず新出語彙と新出表現の復習を1時間以上してから授業に参加すること。

<提出課題など>

毎回の授業で、その回の授業内容に関連した課題を課す。筆記の課題については、次回の授業で提出しなければならない。提出された筆記の課題に対しては教員が採点を施し、必要に応じて講評を加えて、課題の提出された次の回の授業で返却する。

口頭の課題については、次回の授業までにこれを練習し、次回の授業でそれに対する検査を受ける。教員はその場でこれに採点を施し、必要に応じて講評を加える。

<成績評価方法・基準>

筆記または口頭の課題に対する評価20%・授業に参加する態度に対する評価20%・定期試験の結果に対する評価60%の割合で成績を評価する。

出席10回以上の者の成績はS・A・B・C・D,出席10回未満の者は「/」。

最終的な成績は中央値補正法を応用して補正を行ない、算出する。

<テキスト>

李昌圭 『韓国語を学ぼう(初級)』朝日出版社 2006年 2300円+税

李昌圭 『韓国語を学ぼう(初級)-別冊練習帳-』朝日出版社 2006年 1000円+税

<参考図書>

『韓日辞典』小学館

<授業計画>

第1回 前期の復習、存在詞

前期学習内容のおさらいと第4課の学習目標と新出語彙・表現を確認し、本文の読解と朗読をする。

第2回 並列の助詞と位置・方位の表現

文法と表現を理解し、用例文と文型練習を通して理解を深め、活用練習で習得の程度を確認する。

第3回 動詞・形容詞の丁寧形と文末表現

第5課：学習目標と新出語彙・表現を確認し、本文の読解と朗読をする。

第4回 用言の否定形と目的語を含む文作り

文法と表現を理解し、用例文と文型練習を通して理解を深め、活用練習で習得の程度を確認する。

第5回 曜日や時間関係表現と尊敬語

第6課：学習目標と新出語彙・表現を確認し、本文の読解と朗読をする。

第6回 尊敬形の作り方と動作の目的の表現

文法と表現を理解し、用例文と文型練習を通して理解を深め、活用練習で習得の程度を確認する。

第7回 過去時制の表現と過去形の作り方

第7課：学習目標と新出語彙・表現を確認し、本文の読解と朗読をする。

第8回 生活関連語彙と連結語尾

文法と表現を理解し、用例文と文型練習を通して理解を深め、活用練習で習得の程度を確認する。

第9回 漢数詞と電話番号の読み方

第8課：学習目標と新出語彙・表現を確認し、本文の読解と朗読をする。

第10回 漢数字を用いた表現と比較の表現

文法と表現を理解し、用例文と文型練習を通して理解を

深め、活用練習で習得の程度を確認する。

第11回 固有語の数詞と時刻や年齢の表現

第9課：学習目標と新出語彙・表現を確認し、本文の読解と朗読をする。

第12回 一日の日課の表現と手段・道具の表現

文法と表現を理解し、用例文と文型練習を通して理解を深め、活用練習で習得の程度を確認する。

第13回 連用形の作り方と非格式体の活用表現

第10課：学習目標と新出語彙・表現を確認し、本文の読解と朗読をする。

第14回 助数詞と値段の言い方、

買い物と否定形の表現

文法と表現を理解し、用例文と文型練習を通して理解を深め、活用練習で習得の程度を確認する。

第15回 まとめ

総復習

2022年度 後期

1.0単位

初級韓国語 b 再・サ

任 哉玩

<授業の方法>

講義・演習

<授業の目的>

ハングル文字の仕組みを理解したうえで、主に音声のシャドウイングとディクテーションを通して韓国語の日常会話に必要な基本語彙と表現を習得し、最低限のコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。なお、この科目では、全学のDPに揚げられている「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになることを目指す。

<到達目標>

1 ハングル文字と発音の変化を理解し、簡単な会話のディクテーションができる。

2 シャドウイングを通して韓国語の基本的文型を習得し、正確に発音できる。

3 日常会話に必要な基本語彙と表現を使い自己紹介と簡単な挨拶ができる。

<授業の進め方>

授業は聞く・話すを中心にテキストに沿って行われ、日常会話に必要な基本語彙と表現を学ぶ。

毎回の授業では、「本文」対話文の和訳・発音練習とシャドウイングの後、ディクテーションと和訳で習得の程度を確認し、正確な発音と聴解の力を高め、コミュニケーション能力の向上を図る。

<履修するにあたって>

・初級韓国語は、再履修クラスに限り a・b・a

・bそれぞれを単独で履修することが可能である。

< 授業時間外に必要な学修 >

原則毎回の授業の最後にディクテーションを行うので、必ずCDを使った予習と復習を1時間以上してから授業に参加すること。

< 提出課題など >

毎回の授業で、その回の授業内容に関連した課題を課す。筆記の課題については、次回の授業で提出しなければならない。提出された筆記の課題に対しては教員が採点を施し、必要に応じて講評を加えて、課題の提出された次の回の授業で返却する。

口頭の課題については、次回の授業までにこれを練習し、次回の授業でそれに対する検査を受ける。教員はその場でこれに採点を施し、必要に応じて講評を加える。

< 成績評価方法・基準 >

筆記または口頭の課題に対する評価10%・授業に参加する態度に対する評価10%・授業中に行なわれる小テストの結果に対する評価20%・定期試験の結果に対する評価60%の割合で成績を評価する。

出席10回以上の者の成績はS・A・B・C・D, 出席10回未満の者は「/」。

最終的な成績は中央値補正法を応用して補正を行ない、算出する。

< テキスト >

長谷川由起子 『コミュニケーション韓国語 聞いて話そう』 白帝社 2012年 2300円+税

< 授業計画 >

第1回 指し示す言葉、

所有・所属表現

第14課：未来さんの携帯じゃありませんか

語彙と表現 指し示す言葉、所有・所

属表現

第2回 名詞文の否定

文法 名詞文の否定~(/)

第3回 存在表現、二重パッチム

第15課：彼女はいますか？

語彙と表現 存在の表現 ,

発音のルール 二重パッチムの読み方

のルール

第4回 丁寧形の語尾、

場所・時・方向を表す助詞

文法 丁寧形(形)の語尾 - /

場所・時・方向を表す助詞 ~

第5回 年齢の言い表し方

第16課：満では19です

語彙と表現 年齢の表現；固有語数詞、

年齢の尋ね方

第6回 発見・気づき表現、

手段・方法を表す助詞

文法 発見・気づき表現 ~ /

手段・方法を表す助詞 ~ /

第7回 流音化と二重パッチム、

主語を表す助詞

第17課：K-POPに大いに関心があります

発音のルール 流音化と二重パッチムの読み

方

文法 主語を表す助詞 ~ / とつなぎの

助詞 ~ /

第8回 丁寧なニュアンスの助詞、

並列の接続語尾

文法 丁寧なニュアンスの助詞 ~ /

並列の接続語尾 -

第9回 否定表現と縮約形

第18課：大学で習っています

語彙と表現 これまで出た否定表現の

整理

文法 縮約を伴う 形

第10回 逆接の接続語尾、

場所を表す助詞

文法 逆接の接続語尾 -

場所を表す助詞 ~

第11回 過去の 形

第19課：先週末、何しましたか

文法 過去の 形 - / ,

第12回 行き来の目的を表す接続語尾

文法 行き来の目的を表す接続語尾 -

/

第13回 予定・つもりの表現

第20課：ソウルに旅行しようと思っています

語彙と表現 - = /

第14回 希望表現

語彙と表現 希望表現 -

第15回 まとめ

総復習と確認テスト

2022年度 前期

1.0単位

初級韓国語 b 再・シ

文 春琴

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

ハングル文字の仕組みを理解したうえで、主に音声のシャドウイングとディクテーションを通して韓国語の日常会話に必要な基本語彙と表現を習得し、最低限のコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。なお、この科目では、全学のDPに揚げられている「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解する

ことで、良好なコミュニケーションをとることができる
」ようになることを目指す。

<到達目標>

1 ハングル文字と発音の変化を理解し、簡単な会話の
ディクテーションができる。

2 シャドウイングを通して韓国語の基本的文型を習得
し、正確に発音できる。

3 日常会話に必要な基本語彙と表現を使い自己紹介と
簡単な挨拶ができる。

<授業の進め方>

授業は聞く・話すを中心にテキストに沿って行われ、日
常会話に必要な基本語彙と表現を学ぶ。

毎回の授業では、「本文」対話文の和訳・発音練習とシ
ャドウイングの後、ディクテーションと和訳で習得の程
度を確認し、正確な発音と聴解の力を高め、コミュニケ
ーション能力の向上を図る。

<履修するにあたって>

・初級韓国語は、再履修クラスに限り a・ b・ a
・ bそれぞれを単独で履修することが可能である。

<授業時間外に必要な学修>

原則毎回の授業の最後にディクテーションを行うので、
必ずCDを使った予習と復習を1時間以上してから授業に
参加すること。

<提出課題など>

毎回の授業で、その回の授業内容に関連した課題を課す。
筆記の課題については、次回の授業で提出しなければなら
ない。提出された筆記の課題に対しては教員が採点を
施し、必要に応じて講評を加えて、課題の提出された次
の回の授業で返却する。

口頭の課題については、次回の授業までにこれを練習し、
次回の授業でそれに対する検査を受ける。教員はその場
でこれに採点を施し、必要に応じて講評を加える。

<成績評価方法・基準>

筆記または口頭の課題に対する評価10%・授業に参加す
る態度に対する評価10%・授業中に行なわれる小テスト
の結果に対する評価20%・定期試験の結果に対する評価6
0%の割合で成績を評価する。

出席10回以上の者の成績はS・ A・ B・ C・ D, 出席1
0回未満の者は「/」。

最終的な成績は中央値補正法を応用して補正を行ない、
算出する。

<テキスト>

長谷川由起子 『コミュニケーション韓国語 聞いて話
そう』 白帝社 2012年 2300円+税

<授業計画>

第1回 指し示す言葉、
所有・所属表現

第14課：未来さんの携帯じゃありませんか

語彙と表現 指し示す言葉、所有・所
属表現

第2回 名詞文の否定

文法 名詞文の否定~(/)

第3回 存在表現、二重パッチム

第15課：彼女はいますか？

語彙と表現 存在の表現
発音のルール 二重パッチムの読み方

のルール

第4回 丁寧形の語尾、

場所・時・方向を表す助詞

文法 丁寧形(形)の語尾 - /
場所・時・方向を表す助詞 ~

第5回 年齢の言い表し方

第16課：満では19です

語彙と表現 年齢の表現；固有語数詞、
年齢の尋ね方

第6回 発見・気づき表現、

手段・方法を表す助詞

文法 発見・気づき表現 ~ /

手段・方法を表す助詞 ~ /

第7回 流音化と二重パッチム、

主語を表す助詞

第17課：K-POPに大いに興味があります

発音のルール 流音化と二重パッチムの読み
方

文法 主語を表す助詞 ~ / とつなぎの
助詞 ~ /

第8回 丁寧なニュアンスの助詞、

並列の接続語尾

文法 丁寧なニュアンスの助詞 ~ /
並列の接続語尾 -

第9回 否定表現と縮約形

第18課：大学で習っています

語彙と表現 これまで出た否定表現の
整理

文法 縮約を伴う 形

第10回 逆接の接続語尾、

場所を表す助詞

文法 逆接の接続語尾 -
場所を表す助詞 ~

第11回 過去の 形

第19課：先週末、何しましたか

文法 過去の 形 - / ,

第12回 行き来の目的を表す接続語尾

文法 行き来の目的を表す接続語尾 -
/

第13回 予定・つもりの表現

第20課：ソウルに旅行しようと思っています

語彙と表現 -ㄹ/

第14回 希望表現

語彙と表現 希望表現 -

第15回 まとめ

総復習と確認テスト

2022年度 後期

1.0単位

初級韓国語 b 再・ラ

魯 恵英

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

ハングル文字の仕組みを理解したうえで、主に音声のシャドウイングとディクテーションを通して韓国語の日常会話に必要な基本語彙と表現を習得し、最低限のコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。なお、この科目では、全学のDPに揚げられている「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになることを目指す。

< 到達目標 >

- 1 ハングル文字と発音の変化を理解し、簡単な会話のディクテーションができる。
- 2 シャドウイングを通して韓国語の基本的文型を習得し、正確に発音できる。
- 3 日常会話に必要な基本語彙と表現を使い自己紹介と簡単な挨拶ができる。

< 授業の進め方 >

授業は聞く・話すを中心にテキストに沿って行われ、日常会話に必要な基本語彙と表現を学ぶ。

毎回の授業では、「本文」対話文の和訳・発音練習とシャドウイングの後、ディクテーションと和訳で習得の程度を確認し、正確な発音と聴解の力を高め、コミュニケーション能力の向上を図る。

< 履修するにあたって >

- ・初級韓国語は、再履修クラスに限り a・b・a
- ・ b それぞれを単独で履修することが可能である。

< 授業時間外に必要な学修 >

原則毎回の授業の最後にディクテーションを行うので、必ずCDを使った予習と復習を1時間以上してから授業に参加すること。

< 提出課題など >

毎回の授業で、その回の授業内容に関連した課題を課す。筆記の課題については、次回の授業で提出しなければならない。提出された筆記の課題に対しては教員が採点を施し、必要に応じて講評を加えて、課題の提出された次の回の授業で返却する。

口頭の課題については、次回の授業までにこれを練習し、次回の授業でそれに対する検査を受ける。教員はその場

でこれに採点を施し、必要に応じて講評を加える。

< 成績評価方法・基準 >

筆記または口頭の課題に対する評価10%・授業に参加する態度に対する評価10%・授業中に行なわれる小テストの結果に対する評価20%・定期試験の結果に対する評価60%の割合で成績を評価する。

出席10回以上の者の成績はS・A・B・C・D, 出席10回未満の者は「/」。

最終的な成績は中央値補正法を応用して補正を行ない、算出する。

< テキスト >

長谷川由起子 『コミュニケーション韓国語 聞いて話そう』 白帝社 2012年 2300円+税

< 授業計画 >

第1回 指し示す言葉、

所有・所属表現

第14課：未来さんの携帯じゃありませんか

語彙と表現 指し示す言葉、所有・所

属表現

第2回 名詞文の否定

文法 名詞文の否定~(/)

第3回 存在表現、二重パッチム

第15課：彼女はいますか？

語彙と表現 存在の表現 ,

発音のルール 二重パッチムの読み方

のルール

第4回 丁寧形の語尾、

場所・時・方向を表す助詞

文法 丁寧形(形) の語尾 - /

場所・時・方向を表す助詞 ~

第5回 年齢の言い表し方

第16課：満では19です

語彙と表現 年齢の表現；固有語数詞、

年齢の尋ね方

第6回 発見・気づき表現、

手段・方法を表す助詞

文法 発見・気づき表現 ~ /

手段・方法を表す助詞 ~ /

第7回 流音化と二重パッチム、

主語を表す助詞

第17課：K-POPに大いに興味があります

発音のルール 流音化と二重パッチムの読み方

方

文法 主語を表す助詞 ~ / とつなぎの

助詞 ~ /

第8回 丁寧なニュアンスの助詞、

並列の接続語尾

文法 丁寧なニュアンスの助詞 ~ /

並列の接続語尾 -

第9回 否定表現と縮約形

第18課：大学で習っています

語彙と表現 これまで出た否定表現の

整理

文法 縮約を伴う 形

第10回 逆接の接続語尾、

場所を表す助詞

文法 逆接の接続語尾 -

場所を表す助詞 ~

第11回 過去の 形

第19課：先週末、何しましたか

文法 過去の 形 - / ,

第12回 行き来の目的を表す接続語尾

文法 行き来の目的を表す接続語尾 -

/

第13回 予定・つもりの表現

第20課：ソウルに旅行しようと思っています

語彙と表現 -ㄹ /

第14回 希望表現

語彙と表現 希望表現 -

第15回 まとめ

総復習と確認テスト

2022年度 前期

1.0単位

初級韓国語 b 再・リ

魯 恵英

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

ハングル文字の仕組みを理解したうえで、主に音声のシャドウィングとディクテーションを通して韓国語の日常会話に必要な基本語彙と表現を習得し、最低限のコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。なお、この科目では、全学のDPに揚げられている「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになることを目指す。

< 到達目標 >

1 ハングル文字と発音の変化を理解し、簡単な会話のディクテーションができる。

2 シャドウィングを通して韓国語の基本的文型を習得し、正確に発音できる。

3 日常会話に必要な基本語彙と表現を使い自己紹介と簡単な挨拶ができる。

< 授業の進め方 >

授業は聞く・話すを中心にテキストに沿って行われ、日常会話に必要な基本語彙と表現を学ぶ。

毎回の授業では、「本文」対話文の和訳・発音練習とシャドウィングの後、ディクテーションと和訳で習得の程度を確認し、正確な発音と聴解の力を高め、コミュニケーション能力の向上を図る。

< 履修するにあたって >

・初級韓国語は、再履修クラスに限り a・b・a・b それぞれを単独で履修することが可能である。

< 授業時間外に必要な学修 >

原則毎回の授業の最後にディクテーションを行うので、必ずCDを使った予習と復習を1時間以上してから授業に参加すること。

< 提出課題など >

毎回の授業で、その回の授業内容に関連した課題を課す。筆記の課題については、次回の授業で提出しなければならない。提出された筆記の課題に対しては教員が採点を施し、必要に応じて講評を加えて、課題の提出された次の回の授業で返却する。

口頭の課題については、次回の授業までにこれを練習し、次回の授業でそれに対する検査を受ける。教員はその場でこれに採点を施し、必要に応じて講評を加える。

< 成績評価方法・基準 >

筆記または口頭の課題に対する評価10%・授業に参加する態度に対する評価10%・授業中に行なわれる小テストの結果に対する評価20%・定期試験の結果に対する評価60%の割合で成績を評価する。

出席10回以上の者の成績はS・A・B・C・D, 出席10回未満の者は「/」。

最終的な成績は中央値補正法を応用して補正を行ない、算出する。

< テキスト >

長谷川由起子 『コミュニケーション韓国語 聞いて話そう』 白帝社 2012年 2300円+税

< 授業計画 >

第1回 指し示す言葉、

所有・所属表現

第14課：未来さんの携帯じゃありませんか

語彙と表現 指し示す言葉、所有・所

属表現

第2回 名詞文の否定

文法 名詞文の否定~(/)

第3回 存在表現、二重パッチム

第15課：彼女はいますか？

語彙と表現 存在の表現 ,

発音のルール 二重パッチムの読み方

のルール

第4回 丁寧形の語尾、

場所・時・方向を表す助詞

文法 丁寧形(形) の語尾 - /

場所・時・方向を表す助詞 ~

第5回 年齢の言い表し方

第16課：満では19 です

語彙と表現 年齢の表現；固有語数詞、

年齢の尋ね方

第6回 発見・気づき表現、

手段・方法を表す助詞

文法 発見・気づき表現 ~ /

手段・方法を表す助詞 ~ /

第7回 流音化と二重パッチム、

主語を表す助詞

第17課：K-POPに大いに興味があります

発音のルール 流音化と二重パッチムの読み

方

文法 主語を表す助詞 ~ / と つなぎの

助詞 ~ /

第8回 丁寧なニュアンスの助詞、

並列の接続語尾

文法 丁寧なニュアンスの助詞 ~ /

並列の接続語尾 -

第9回 否定表現と縮約形

第18課：大学で習っています

語彙と表現 これまで出た否定表現の

整理

文法 縮約を伴う 形

第10回 逆接の接続語尾、

場所を表す助詞

文法 逆接の接続語尾 -

場所を表す助詞 ~

第11回 過去の 形

第19課：先週末、何しましたか

文法 過去の 形 - / ,

第12回 行き来の目的を表す接続語尾

文法 行き来の目的を表す接続語尾 -

/

第13回 予定・つもりの表現

第20課：ソウルに旅行しようと思っています

語彙と表現 -ㄹ /

第14回 希望表現

語彙と表現 希望表現 -

第15回 まとめ

総復習と確認テスト

2022年度 後期

1.0単位

初級韓国語 b (会話)ア【経済】

文 春琴

<授業の方法>

対面授業(講義・演習)

<授業の目的>

前期に引き続き、ハングル文字の仕組みを理解したうえで、主に音声のシャドウィングとディクテーションを通して韓国語の日常会話に必要な基本語彙と表現を習得し、最低限のコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。なお、この科目では、全学のDPに揚げられている「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになることを目指す。

<到達目標>

1 ハングル文字と発音の変化を理解し、簡単な会話のディクテーションができる。

2 シャドウィングを通して韓国語の基本的文型を習得し、正確に発音できる。

3 日常会話に必要な基本語彙と表現を使い自己紹介と簡単な挨拶ができる。

<授業のキーワード>

会話のシャドウィングとディクテーション、コミュニケーション能力

<授業の進め方>

この授業は、「初級韓国語 a」と連動している。

授業は聞く・話すを中心にテキストに沿って行われ、日常会話に必要な基本語彙と表現を学ぶ。

毎回の授業では、シャドウィングとディクテーションを通して正確な発音と聴解の力を高め、コミュニケーション能力の向上を図る。

<履修するにあたって>

前期までに学んだハングル文字と韓国語の文法を復習しておくこと。

<授業時間外に必要な学修>

原則毎回の授業ではディクテーションを行うので、必ずCDを使った予習と復習を1時間以上してから参加すること。

<提出課題など>

毎回の授業で、その回の授業内容に関連した課題を課す。筆記の課題については、次回の授業で提出しなければならない。提出された筆記の課題に対しては教員が採点を施し、必要に応じて講評を加えて、課題の提出された次の回の授業で返却する。

口頭の課題については、次回の授業までにこれを練習し、次回の授業でそれに対する検査を受ける。教員はその場でこれに採点を施し、必要に応じて講評を加える。

<成績評価方法・基準>

筆記または口頭の課題に対する評価10%・授業に参加する態度に対する評価10%・授業中に行なわれる小テストの結果に対する評価20%・定期試験の結果に対する評価60%の割合で成績を評価する。

出席10回以上の者の成績はS・A・B・C・D,出席10回未満の者は「/」。

最終的な成績は中央値補正法を応用して補正を行ない、算出する。

<テキスト>

李昌圭 『韓国語を学ぼう(初級)』 朝日出版社 2006年 2300円+税

李昌圭 『韓国語を学ぼう(初級) - 別冊練習帳 -』 朝日出版社 2006年 1000円+税

<参考図書>

『韓日辞典』小学館

<授業計画>

第1回 前期の復習、存在詞

前期学習内容のおさらいをし、第4課の本文の対話文の和訳と「発音練習」、「発音規則」のシャドウィングの後、ディクテーション及び和訳で理解の程度を確認する。

第2回 並列の助詞と位置・方位の表現

テキストの「文法と表現」の例文と「文型練習」のシャドウィングの後、ディクテーション及び和訳で習得の程度を確認する。

第3回 動詞・形容詞の丁寧形と文末表現

第5課： 本文の対話文の和訳と「発音練習」、「発音規則」のシャドウィングの後、ディクテーション及び和訳で理解の程度を確認する。

第4回 用言の否定形と目的語を含む文作り

テキストの「文法と表現」の例文と「文型練習」のシャドウィングの後、ディクテーション及び和訳で習得の程度を確認する。

第5回 曜日や時間関係表現と尊敬語

第6課： 本文の対話文の和訳と「発音練習」、「発音規則」のシャドウィングの後、ディクテーション及び和訳で理解の程度を確認する。

第6回 尊敬形の作り方と動作の目的の表現

テキストの「文法と表現」の例文と「文型練習」のシャドウィングの後、ディクテーション及び和訳で習得の程度を確認する。

第7回 過去時制の表現と過去形の作り方

第7課： 本文の対話文の和訳と「発音練習」、「発音規則」のシャドウィングの後、ディクテーション及び和訳で理解の程度を確認する。

第8回 生活関連語彙と連結語尾

テキストの「文法と表現」の例文と「文型練習」のシャドウィングの後、ディクテーション及び和訳で習得の程度を確認する。

第9回 漢数詞と電話番号の読み方

第8課： 本文の対話文の和訳と「発音練習」、「発音規則」のシャドウィングの後、ディクテーション及び和訳で理解の程度を確認する。

第10回 漢数詞を用いた表現と比較の表現

テキストの「文法と表現」の例文と「文型練習」のシャドウィングの後、ディクテーション及び和訳で習得の程度を確認する。

第11回 固有語の数詞と時刻や年齢の表現

第9課： 本文の対話文の和訳と「発音練習」、「発音規則」のシャドウィングの後、ディクテーション及び和訳で理解の程度を確認する。

第12回 一日の日課の表現と手段・道具の表現

テキストの「文法と表現」の例文と「文型練習」のシャドウィングの後、ディクテーション及び和訳で習得の程度を確認する。

第13回 連用形の作り方と非格式体の活用表現

第10課： 本文の対話文の和訳と「発音練習」、「発音規則」のシャドウィングの後、ディクテーション及び和訳で理解の程度を確認する。

第14回 助数詞と値段の言い方、買い物と否定形の表現

テキストの「文法と表現」の例文と「文型練習」のシャドウィングの後、ディクテーション及び和訳で習得の程度を確認する。

第15回 まとめ

総復習と確認テスト

2022年度 後期

1.0単位

初級中国語 a 再・ソ

西尾 和子

<授業の方法>

講義・演習

<授業の目的>

共通教育科目に属する「初級中国語 a」では、同じく共通教育科目に属する「初級中国語 b」と共に、全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる」ようになること・「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること、そして「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる」ようになることを目的とする。

中国や中国語の使われる地域の文化や社会に関するさまざまな情報を中国語で受信し、自分の立場から情報を中国語で発信することができるようにするため、この科目では文章体の中国語を材料に、主に中国語を読む・聴く・書くための初歩的能力を身につけることを目指す。

<到達目標>

- 1.中国語のすべての音節を聞分け、発音することができる。(技能)
- 2.簡単な日常挨拶ができる。(知識・技能)
- 3.中国語の発音記号であるピンイン(表音ローマ字)を読む

んで中国語を発音することができる。(知識・技能)

4. 中国語の常用漢字である簡体字で書かれた最も基礎的な単語約500を正しく読み、自分でも書くことができる。(知識・技能)

5. 中国語の基本文法を把握し、自分の力で文章を読解し、自分の力で文を書くことができる。(知識・技能)

6. 日本中国語検定協会の実施する中国語検定試験(以下、中検と略称)で最も初歩の級である準4級に合格することができる。また、中国教育部(日本の文部科学省に相当)に直属する国家漢語国際推進指導小組弁公室(国家中国語国際推進普及指導グループ事務局)の認定する漢語水平考試(中国語レベル試験, Hanyu Shuiping Kaoshi, 以下, HSKと略称)で最も初歩の級である1級または2級に合格することができる。(技能)

ちなみにHSKの公式サイトに拠れば、HSKの試験の程度は
・1級は「中国語の非常に簡単な単語とフレーズを理解、使用することができる。大学の第二外国語における第一年度前期履修程度」

・2級は「中国語を用いた簡単な日常会話を行うことができ、初級中国語優秀レベルに到達している。大学の第二外国語における第一年度履修程度」とされている。

中検の級とHSKの級とをCEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)に当てはめれば、おおよそ次のようになる。

・中検「準4級」 HSK「1~2級」 CEFR「A1~A2」(6等級あるうちの上から6~5番目)

・中検「4級」 HSK「2~3級」 CEFR「A2~B1」(6等級あるうちの上から5~4番目)

CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)とはヨーロッパにおいて外国語学習者の能力評価時に共通の基準となるものであり、現在のHSKはこれに合致するように設計されている。CEFRの内容は次のとおりである。

・A1: 具体的な欲求を満足させるため、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いかが、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け舟を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

・A2: ごく基本的な個人的情報や家族情報、買い物、住所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。

・B1: 仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいいてい事態に対処することができる。身

近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈略のあるテキストを作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。

<授業のキーワード>

中国語、初級、文法、読解、中検準4級、HSK1・2級

<授業の進め方>

1. 教科書の文章を漢字だけでノートに書き写す。(予習・授業)
2. 文章の解説を聴いて文章の内容を理解し、発音練習を繰り返す。(授業・復習)
3. 文法の説明を聴いて文法を理解する。(授業)
4. 練習を行ない、理解を確認し知識を定着させる。(授業・復習)
5. 小テストを随時実施する。(授業・復習)

<履修するにあたって>

- ・初級中国語の再履修クラスは、 a・ b・ a・ bそれぞれを個別に履修することができる。
- ・中国語(漢族語・漢語)は、日本語とは異なる語族に属する、日本語とは異なる言語である。このことを常に意識しながら学習して欲しい。

・発音はひとたび身につけてしまうと、たとえそれが間違ったものであったとしてもあとから矯正することは非常に困難である。中国語の発音に不安のある人は、参考書の3に挙げられている『CDムック 発音マスター! 読めて書ける中国語』などを使って自習すると良い。

<授業時間外に必要な学修>

予習をしておけば授業での理解がさらに深まるだろうし、復習をすれば獲得した知識や技能をさらに固めることができる。役に立つ中国語を身につけたいと思うのであれば、予習・復習を欠かすことはできない。少なくとも30分程度の時間を毎回の予習・復習それぞれに充ててほしい。

<提出課題など>

授業では? テストを随時実施する。形式は「指定された? 節の音読」・「空所補充」・「単語整序」・「中? ? 訳」・「?? 中訳」などとする。

また、学期末の授業時間内で漢字試験を実施する。これは定期試験が全問マークシート? 式で? なわれることに対応するためである。

? 頭による? テストに対しては、授業の中で個別また全体的に指導を? なう。筆記による? テストに対しては、採点し次回の授業で返却する。ただし、学期末に? なわれる漢字試験に対しては、講評等の指導を? なわない。答えは全て教科書にある。

<成績評価方法・基準>

- ・単位を取得するためには10回以上の出席が必要。
- ・授業中に随時? なう? テストの結果を20%、学期末の授業時間内で? なう漢字試験の結果を20%、定期試験の結果を60%の割合で成績を評価する。

・定期試験は全問マークシート? 式で, 全クラス統? 試験として? なう。

<テキスト>

中山文・池田磨左文・于耀明・傍島史奈・山本透江 『みんなの中国語 読物編』
白帝社 2012年 2500円+税

<参考図書>

1. 北京・商務印書館 小学館 『中日辞典 第3版』
小学館 2016年 7500円+税
2. 相原茂・石田知子・戸沼市子 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』
同学社 2016年 2500円+税
3. 荒川清秀 『CDムック 発音マスター! 読めて書ける中国語』
NHK出版 2010年 952円+税

<授業計画>

第1回 導入・発音篇 [その1]

1. 中国語の音節について
2. 声調
3. 中国の漢字について
4. 7個の単母音

おぼえてつかおう かんたんな中国語 1

第2回 発音篇 [その2]

1. 子音(1)
2. 子音(2)
3. 子音(3)

おぼえてつかおう かんたんな中国語 2

第3回 発音篇 [その3]

1. 複母音
2. 鼻音を伴う母音

おぼえてつかおう かんたんな中国語 3

第4回 発音篇 [その4]

1. r化
2. 声調変化
3. 親族の呼称
4. 99までの数

5. 年月日・曜日の言い方

第5回 発音篇 [その5]

1. 100以上の数

漢詩を朗読してみましょう

おぼえてつかおう かんたんな中国語 総集篇

第6回 第1課 わたしは神戸一郎と申します

1. 人称代名詞・指示代名詞・疑問詞; 名前のたずね方・こたえ方
2. 断定を表わす文; 名詞を修飾する方法(1)
3. 副詞“也”と“都”

[練習1]

第7回 第2課 わたしの家は6人家族です

1. 量詞
2. 形容詞述語文; 時点を表わす語句の位置; 主述述

語文

第8回 第3課 わたしの誕生日は5月5日です

1. 生まれた年を干支で言う

2. 名詞述語文; 曜日

3. 比較を表わす文(1)

第9回 第1-3課 復習

第1-3課の復習; 肯定否定疑問文(1)

法定の休日となる主な祝祭日

第10回 第4課 わたしの家は大阪にあります

1. 場所の言い方

2. 所在を表わす文

3. 所有・存在を表わす文

4. 動詞述語文; 「乗る」の言い方

5. 基点からの隔たりを表わす文 前置詞“离”

6. 起点からの移動を表わす文; 時間の長さ・期間の言い方; 前置詞“从”

第11回 第5課 わたしは中学と高校で6年間英語を勉強しました

1. 「...(をすること)が好きだ」を表わす文 動詞“喜欢”

2. 動作が完成していることを表わす文 動態助詞“了”; 動作の持続時間を表わす語句の位置

3. 可能や能力を表わす文 助動詞“能”; 状況が变化した(している・する)ことを表わす文 語気助詞“了”

第12回 第6課 わたしたちはいっしょにカラオケに行きます

1. 連動文

2. 二重目的語文

3. 指示詞と名詞とを組み合わせる言い方

4. 時刻の言い方

第13回 第4-6課 復習

第4-6課の復習; 肯定否定疑問文(2)

いろいろなスポーツ

第14回 漢字試験

第1課から第6課までの本? で使われている漢字を書くことができるかどうかを試験する。? 本語の常? 漢字を中国語の簡体字で書くことができるかどうかを問う問題が10問, ピンインで書かれた? 節を簡体字で書くことができるかどうかを問う問題が10問で, 合計20点。

第15回 総合復習

発? 篇から第6課までで学習した内容をすべておさらいし, 理解の確認と記憶の定着を図る。

2022年度 前期

1.0単位

初級中国語 a 再・ラ

山内 一恵

<授業の方法>

講義・演習

< 授業の目的 >

共通教育科目に属する「初級中国語 a」では、同じく共通教育科目に属する「初級中国語 b」と共に、全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる」ようになること・「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること、そして「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる」ようになることを目的とする。

中国や中国語の使われる地域の文化や社会に関するさまざまな情報を中国語で受信し、自分の立場から情報を中国語で発信することができるようにするため、この科目では文章体の中国語を材料に、主に中国語を読む・聴く・書くための初歩的能力を身につけることを目指す。

< 到達目標 >

1. 中国語のすべての音節を聞分け、発音することができる。(技能)
2. 簡単な日常挨拶ができる。(知識・技能)
3. 中国語の発音記号であるピンイン(表音ローマ字)を読んで中国語を発音することができる。(知識・技能)
4. 中国語の常用漢字である簡体字で書かれた最も基礎的な単語約500を正しく読み、自分でも書くことができる。(知識・技能)
5. 中国語の基本文法を把握し、自分の力で文章を読解し、自分の力で文を書くことができる。(知識・技能)
6. 日本中国語検定協会の実施する中国語検定試験(以下、中検と略称)で最も初歩の級である準4級に合格することができる。また、中国教育部(日本の文部科学省に相当)に直属する国家漢語国際推進指導小組弁公室(国家中国語国際推進普及指導グループ事務室)の認定する漢語水平考試(中国語レベル試験, Hanyu Shuiping Kaoshi, 以下, HSKと略称)で最も初歩の級である1級または2級に合格することができる。(技能)

ちなみにHSKの公式サイトに拠れば、HSKの試験の程度は・1級は「中国語の非常に簡単な単語とフレーズを理解、使用することができる。大学の第二外国語における第一年度前期履修程度」

・2級は「中国語を用いた簡単な日常会話を行うことができ、初級中国語優秀レベルに到達している。大学の第二外国語における第一年度履修程度」とされている。

中検の級とHSKの級とをCEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)に当てはめれば、おおよそ次のようになる。

・中検「準4級」 HSK「1~2級」 CEFR「A1~A2」(6等級あるうちの上から6~5番目)

・中検「4級」 HSK「2~3級」 CEFR「A2~B1」(6等級あるうちの上から5~4番目)

CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)とはヨーロッパにおいて外国語学習者の能力評価時に共通の基準となるものであり、現在のHSKはこれに合致するように設計されている。CEFRの内容は次のとおりである。

・A1: 具体的な欲求を満足させるため、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け舟を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

・A2: ごく基本的な個人的情報や家族情報、買い物、住所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。

・B1: 仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈略のあるテキストを作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。

< 授業のキーワード >

中国語、初級、文法、読解、中検準4級、HSK1・2級

< 授業の進め方 >

1. 教科書の文章を漢字だけでノートに書き写す。(予習・授業)
2. 文章の解説を聴いて文章の内容を理解し、発音練習を繰り返す。(授業・復習)
3. 文法の説明を聴いて文法を理解する。(授業)
4. 練習を行ない、理解を確認し知識を定着させる。(授業・復習)
5. 小テストを随時実施する。(授業・復習)

< 履修するにあたって >

・初級中国語の再履修クラスは、 a・ b・ a・ bそれぞれを個別に履修することができる。

・中国語(漢族語・漢語)は、日本語とは異なる語族に属する、日本語とは異なる言語である。このことを常に意識しながら学習してほしい。

・発音はひとたび身につけてしまうと、たとえそれが間違ったものであったとしてもあとから矯正することは非常に困難である。中国語の発音に不安のある人は、参考書の3に挙げられている『CDムック 発音マスター!』

読めて書ける中国語』などを使って自習すると良い。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習をしておけば授業での理解がさらに深まるだろうし、復習をすれば獲得した知識や技能をさらに固めることができる。役に立つ中国語を身につけたいと思うのであれば、予習・復習を欠かすことはできない。少なくとも30分程度の時間を毎回の予習・復習それぞれに充ててほしい。

< 提出課題など >

授業では? テストを随時実施する。形式は「指定された? 節の音読」・「空所補充」・「単語整序」・「中? ? 訳」・「? ? 中訳」などとする。

また、学期末の授業時間内で漢字試験を実施する。これは定期試験が全問マークシート? 式で? なわれることに対応するためである。

? 頭による? テストに対しては、授業の中で個別また全体的に指導を? なく。筆記による? テストに対しては、採点し次回の授業で返却する。ただし、学期末に? なわれる漢字試験に対しては、講評等の指導を? なわない。答えは全て教科書にある。

< 成績評価方法・基準 >

・単位を取得するためには10回以上の出席が必要。
・授業中に随時? なく? テストの結果を20%、学期末の授業時間内で? なく漢字試験の結果を20%、定期試験の結果を60%の割合で成績を評価する。
・定期試験は全問マークシート? 式で、全クラス統? 試験として? なく。

< テキスト >

中山文・池田磨左文・于耀明・傍島史奈・山本透江 『みんなの中国語 読物編』
白帝社 2012年 2500円+税

< 参考図書 >

1. 北京・商務印書館 小学館 『中日辞典 第3版』
小学館 2016年 7500円+税
2. 相原茂・石田知子・戸沼市子 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』
同学社 2016年 2500円+税
3. 荒川清秀 『CDムック 発音マスター! 読めて書ける中国語』
NHK出版 2010年 952円+税

< 授業計画 >

第1回 導入・発音篇 [その1]

1. 中国語の音節について
2. 声調
3. 中国の漢字について
4. 7個の単母音

おぼえてつかおう かんたんな中国語 1

第2回 発音篇 [その2]

1. 子音(1)
2. 子音(2)

3. 子音(3)

おぼえてつかおう かんたんな中国語 2

第3回 発音篇 [その3]

1. 複母音
2. 鼻音を伴う母音

おぼえてつかおう かんたんな中国語 3

第4回 発音篇 [その4]

1. r化
2. 声調変化
3. 親族の呼称
4. 99までの数

5. 年月日・曜日の言い方

第5回 発音篇 [その5]

1. 100以上の数

漢詩を朗読してみましょ

おぼえてつかおう かんたんな中国語 総集篇

第6回 第1課 わたしは神戸一郎と申します

1. 人称代名詞・指示代名詞・疑問詞; 名前のたずね方
・こたえ方

2. 断定を表わす文; 名詞を修飾する方法(1)

3. 副詞“也”と“都”

[練習1]

第7回 第2課 わたしの家は6人家族です

1. 量詞

2. 形容詞述語文; 時点を表わす語句の位置; 主述述語文

第8回 第3課 わたしの誕生日は5月5日です

1. 生まれた年を干支で言う

2. 名詞述語文; 曜日

3. 比較を表わす文(1)

第9回 第1-3課 復習

第1-3課の復習; 肯定否定疑問文(1)

法定の休日となる主な祝祭日

第10回 第4課 わたしの家は大阪にあります

1. 場所の言い方

2. 所在を表わす文

3. 所有・存在を表わす文

4. 動詞述語文; 「乗る」の言い方

5. 基点からの隔たりを表わす文 前置詞“离”

6. 起点からの移動を表わす文; 時間の長さ・期間の言い方; 前置詞“从”

第11回 第5課 わたしは中学と高校で6年間英語を勉強しました

1. 「...(をすること)が好きだ」を表わす文 動詞“喜欢”

2. 動作が完成していることを表わす文 動態助詞“了”; 動作の持続時間を表わす語句の位置

3. 可能や能力を表わす文 助動詞“能”; 状況が变化した(している・する)ことを表わす文 語気助詞“了”

第12回 第6課 わたしたちはいっしょにカラオケに行

きます

1. 連動文

2. 二重目的語文

3. 指示詞と名詞とを組み合わせる言い方

4. 時刻の言い方

第13回 第4-6課 復習

第4-6課の復習； 肯定否定疑問文(2)

いろいろなスポーツ

第14回 漢字試験

第1課から第6課までの本? で使われている漢字を書くことができるかどうかを試験する。? 本語の常? 漢字を中国語の簡体字で書くことができるかどうかを問う問題が10問、ピンインで書かれた? 節を簡体字で書くことができるかどうかを問う問題が10問で、合計20点。

第15回 総合復習

発? 篇から第6課までで学習した内容をすべておさらいし、理解の確認と記憶の定着を図る。

2022年度 前期

1.0単位

初級中国語 a (読解)ク【法】

池田 磨左文

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

共通教育科目に属する「初級中国語 a」では、同じく共通教育科目に属する「初級中国語 b」と共に、全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる」ようになること・「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること、そして「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる」ようになることを目的とする。

中国や中国語の使われる地域の文化や社会に関するさまざまな情報を中国語で受信し、自分の立場から情報を中国語で発信することができるようにするため、この科目では文章体の中国語を材料に、主に中国語を読む・聴く・書くための初歩的能力を身につけることを目指す。

< 到達目標 >

1. 中国語のすべての音節を聞分け、発音することができる。(技能)

2. 簡単な日常挨拶ができる。(知識・技能)

3. 中国語の発音記号であるピンイン(表音ローマ字)を読

んで中国語を発音することができる。(知識・技能)

4. 中国語の常用漢字である簡体字で書かれた最も基礎的な単語約500を正しく読み、自分でも書くことができる。(知識・技能)

5. 中国語の基本文法を把握し、自分の力で文章を読解し、自分の力で文を書くことができる。(知識・技能)

6. 日本中国語検定協会の実施する中国語検定試験(以下、中検と略称)で最も初歩の級である準4級に合格することができる。また、中国教育部(日本の文部科学省に相当)に直属する国家漢語国際推進指導グループ事務室(国家中国語国際推進普及指導グループ事務室)の認定する漢語水平考試(中国語レベル試験, Hanyu Shuiping Kaoshi, 以下, HSKと略称)で最も初歩の級である1級または2級に合格することができる。(技能)

ちなみにHSKの公式サイトに拠れば、HSKの試験の程度は・1級は「中国語の非常に簡単な単語とフレーズを理解、使用することができる。大学の第二外国語における第一年度前期履修程度」

・2級は「中国語を用いた簡単な日常会話を行うことができ、初級中国語優秀レベルに到達している。大学の第二外国語における第一年度履修程度」とされている。

中検の級とHSKの級とをCEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)に当てはめれば、おおよそ次のようになる。

・中検「準4級」 HSK「1~2級」 CEFR「A1~A2」(6等級あるうちの上から6~5番目)

・中検「4級」 HSK「2~3級」 CEFR「A2~B1」(6等級あるうちの上から5~4番目)

CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)とはヨーロッパにおいて外国語学習者の能力評価時に共通の基準となるものであり、現在のHSKはこれに合致するように設計されている。CEFRの内容は次のとおりである。

・A1: 具体的な欲求を満足させるため、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け舟を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

・A2: ごく基本的な個人的情報や家族情報、買い物、住所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。

・B1: 仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいいていの事態に対処することができる。身

近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈略のあるテキストを作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。

< 授業のキーワード >

中国語、初級、文法、読解、中検準4級、HSK1・2級

< 授業の進め方 >

- 1.教科書の文章を漢字だけでノートに書き写す。(予習・授業)
- 2.文章の解説を聴いて文章の内容を理解し、発音練習を繰り返す。(授業・復習)
- 3.文法の説明を聴いて文法を理解する。(授業)
- 4.練習を行ない、理解を確認し知識を定着させる。(授業・復習)
- 5.小テストを随時実施する。(授業・復習)

< 履修するにあたって >

・初級中国語は、一部学部と再履修クラスを除き a・b・a・bの全てを一括して履修しなければならない。

・中国語(漢族語・漢語)は、日本語とは異なる語族に属する、日本語とは異なる言語である。このことを常に意識しながら学習して欲しい。

・発音はひとたび身につけてしまうと、たとえそれが間違ったものであったとしてもあとから矯正することは非常に困難である。中国語の発音に不安のある人は、参考書の3に挙げられている『CDムック 発音マスター! 読めて書ける中国語』などを使って自習すると良い。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習をしておけば授業での理解がさらに深まるだろうし、復習をすれば獲得した知識や技能をさらに固めることができる。役に立つ中国語を身につけたいと思うのであれば、予習・復習を欠かすことはできない。少なくとも30分程度の時間を毎回の予習・復習それぞれに充ててほしい。

< 提出課題など >

授業では? テストを随時実施する。形式は「指定された? 節の音読」・「空所補充」・「単語整序」・「中?? 訳」・「?? 中訳」などとする。

また、学期末の授業時間内で漢字試験を実施する。これは定期試験が全問マークシート? 式で? なわれることに対応するためである。

? 頭による? テストに対しては、授業の中で個別また全体的に指導を? 行う。筆記による? テストに対しては、採点し次回の授業で返却する。ただし、学期末に? なわれる漢字試験に対しては、講評等の指導を? 行わない。答えは全て教科書にある。

< 成績評価方法・基準 >

- ・単位を取得するためには10回以上の出席が必要。
- ・授業中に随時? 行う? テストの結果を20%、学期末の授業時間内で? 行う漢字試験の結果を

20%、定期試験の結果を60%の割合で成績を評価する。

・定期試験は全問マークシート? 式で、全クラス統? 試験として? 行う。

< テキスト >

中山文・池田磨左文・于耀明・傍島史奈・山本透江 『みんなの中国語 読物編』
白帝社 2012年 2500円+税

< 参考図書 >

- 1.北京・商務印書館 小学館 『中日辞典 第3版』
小学館 2016年 7500円+税
- 2.相原茂・石田知子・戸沼市子 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』
同学社 2016年 2500円+税
- 3.荒川清秀 『CDムック 発音マスター! 読めて書ける中国語』
NHK出版 2010年 952円+税

< 授業計画 >

第1回 導入・発音篇 [その1]

- 1.中国語の音節について
- 2.声調
- 3.中国の漢字について
- 4.7個の単母音
おぼえてつかおう かんたんな中国語 1

第2回 発音篇 [その2]

- 1.子音(1)
- 2.子音(2)
- 3.子音(3)
おぼえてつかおう かんたんな中国語 2

第3回 発音篇 [その3]

- 1.複母音
- 2.鼻音を伴う母音
おぼえてつかおう かんたんな中国語 3

第4回 発音篇 [その4]

- 1.r化
- 2.声調変化
- 3.親族の呼称
おぼえてつかおう かんたんな中国語 総集篇

第5回 発音篇 [その5]

- 1.100以上の数
漢詩を朗読してみよう
おぼえてつかおう かんたんな中国語 総集篇

第6回 第1課 わたしは神戸一郎と申します

- 1.人称代名詞・指示代名詞・疑問詞; 名前のたずね方
・こたえ方
- 2.断定を表わす文; 名詞を修飾する方法(1)
- 3.副詞“也”と“都”
[練習1]

第7回 第2課 わたしは6人家族です

- 1.量詞

2.形容詞述語文； 時点を表わす語句の位置； 主述述語文

第8回 第3課 わたしの誕生日は5月5日です

1.生まれた年を干支で言う

2.名詞述語文； 曜日

3.比較を表わす文(1)

第9回 第1-3課 復習

第1-3課の復習； 肯定否定疑問文(1)

法定の休日となる主な祝祭日

第10回 第4課 わたしの家は大阪にあります

1.場所の言い方

2.所在を表わす文

3.所有・存在を表わす文

4.動詞述語文； 「乗る」の言い方

5.基点からの隔たりを表わす文 前置詞“离”

6.起点からの移動を表わす文； 時間の長さ・期間の言い方； 前置詞“从”

第11回 第5課 わたしは中学と高校で6年間英語を勉強しました

1.「... (をすること) が好きだ」を表わす文 動詞“喜欢”

2.動作が完成していることを表わす文 動態助詞“了”； 動作の持続時間を表わす語句の位置

3.可能や能力を表わす文 助動詞“能”； 状況が変化した(している・する)ことを表わす文 語気助詞“了”

第12回 第6課 わたしたちはいっしょにカラオケに行きます

1.連動文

2.二重目的語文

3.指示詞と名詞とを組み合わせる言い方

4.時刻の言い方

第13回 第4-6課 復習

第4-6課の復習； 肯定否定疑問文(2)

いろいろなスポーツ

第14回 漢字試験

第1課から第6課までの本? で使われている漢字を書くことができるかどうかを試験する。? 本語の常? 漢字を中国語の簡体字で書くことができるかどうかを問う問題が10問、ピンインで書かれた? 節を簡体字で書くことができるかどうかを問う問題が10問で、合計20点。

第15回 総合復習

発? 篇から第6課までで学習した内容をすべておさらいし、理解の確認と記憶の定着を図る。

2022年度 前期

1.0単位

初級中国語 b 再・サ

藤井 宏

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

共通教育科目に属する「初級中国語 b」では、同じく共通教育科目に属する「初級中国語 a」と共に、全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて、広い教養を? につけ、豊かな? 間性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活? してさまざまな問題を発? し、それを解決する? 策を導くことができる」ようになること・「? 分の意? を? 頭や? 書によって表現し、相? の意? を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること、そして「獲得した知識や技能を活? し、国内外において、価値観や意? の異なるさまざまな? と議論し、学びを深め、協働して、社会に役? てることができる」ようになることを? 的とする。

中国や中国語の使われる地域の? 化や社会に関するさまざまな情報を中国語で受信し、? 分の? 場から情報を中国語で発信するすることができるようにするため、この科? では会話体の中国語を材料に、主に中国語を聴く・話すための初歩的能? を? につけることを? 指す。

< 到達目標 >

- 1.中国語のすべての音節を聞分け、発音することができる。(技能)
- 2.簡単な日常挨拶ができる。(知識・技能)
- 3.中国語の発音記号であるピンイン(表音ローマ字)を読んで中国語を発音することができる。(知識・技能)
- 4.中国語の常用漢字である簡体字で書かれた最も基礎的な単語約500を正しく読み、自分でも書くことができる。(知識・技能)
- 5.中国語の基本文型を把握し、自分の力で文を理解し、自分の力で文を聴取り、話し、書くことができる。(知識・技能)
- 6.日本中国語検定協会の実施する中国語検定試験(以下、中検と略称)で最も初歩の級である準4級に合格することができる。また、中国教育部(日本の文部科学省に相当)に直属する国家漢語国際推進指導小組弁公室(国家中国語国際推進普及指導グループ事務局)の認定する漢語水平考試(中国語レベル試験, Hanyu Shuiping Kaoshi, 以下, HSKと略称)で最も初歩の級である1級または2級に合格することができる。(技能)

ちなみにHSKの公式サイトに拠れば、HSKの試験の程度は・1級は「中国語の非常に簡単な単語とフレーズを理解、使用することができる。大学の第二外国語における第一

年度前期履修程度」

・2級は「中国語を用いた簡単な日常会話を行うことができ、初級中国語優秀レベルに到達している。大学の第二外国語における第一年度履修程度」

とされている。

中検の級とHSKの級とをCEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)に当てはめれば、おおよそ次のようになる。

・中検「準4級」 HSK「1～2級」 CEFR「A1～A2」(6等級あるうちの上から6～5番目)

・中検「4級」 HSK「2～3級」 CEFR「A2～B1」(6等級あるうちの上から5～4番目)

CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)とはヨーロッパにおいて外国語学習者の能力評価時に共通の基準となるものであり、現在のHSKはこれに合致するように設計されている。CEFRの内容は次のとおりである。

・A1: 具体的な欲求を満足させるため、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いかが、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け舟を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

・A2: ごく基本的な個人的情報や家族情報、買い物、住所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。

・B1: 仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいいていの事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈略のあるテキストを作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。

<授業のキーワード>

中国語、初級、文法、会話、中検準4級、HSK1・2級

<授業の進め方>

1. 教科書の会話を漢字だけでノートに書き写す。(予習・授業)
2. 解説を聴いて会話の内容を理解し、発音練習を繰り返す。(授業・復習)
3. 置替え練習を中心とした練習を行ない、文型を把握し定着させる。(授業・復習)
4. 小テストを随時実施する。(授業・復習)

<履修するにあたって>

- ・初級中国語の再履修クラスは、 a・ b・ a・ bそれぞれを個別に履修することができる。
- ・中国語(漢族語・漢語)は、日本語とは異なる語族に属

する、日本語とは異なる言語である。このことを常に意識しながら学習して欲しい。

・発音はひとたび身につけてしまうと、たとえそれが間違ったものであったとしてもあとから矯正することは非常に困難である。中国語の発音に不安のある人は、参考書の3に挙げられている『CDムック 発音マスター！

読めて書ける中国語』などを使って自習すると良い。

・初学者向けの中国語科目には、初級中国語の他に中国語入門会話も設けられている。すべて中国語を母語とする先生によって授業が担当され、理屈・説明を少なくし、実践・会話に特化して授業が進められる。会話練習をさらに充実させたい人は、中国語入門会話も併せて履修することを薦める。

<授業時間外に必要な学修>

・予習をしておけば授業での理解がさらに深まるだろうし、復習をすれば獲得した知識や技能をさらに固めることができる。役に立つ中国語を身につけたいと思うのであれば、予習・復習を欠かすことはできない。少なくとも30分程度の時間を毎回の予習・復習それぞれに充ててほしい。

・「参考図書」欄に挙げられている『みんなの中国語 会話編』電子教材は教科書の内容をスマートフォン・タブレット端末やコンピューターなどでも学習することができるように作られたものであり、インターネットに接続できる環境であればいつでもどこでも無料で使うことができる。個別の箇所ごとに音声のオン・オフ、日本語訳を含む文字のオン・オフを切り替えることもできる。これを大いに活用してほしい。

<提出課題など>

授業では? テストを随時実施する。形式は「聴き取り」・「指定された? 節の音読」・「空所補充」・「単語整序」・「?? 中訳」などとする。? 頭による? テストに対しては、授業の中で個別また全体的に指導を? 行う。筆記による? テストに対しては、採点し次回の授業で返却する。

また定期試験とは別に、リスニング問題と音読問題とから成る授業内試験を2回行なう。これに対しては講評等を行なわない。

<成績評価方法・基準>

- ・単位を取得するためには10回以上の出席が必要。
- ・授業中に随時? 行う? テストの結果を20%、授業時間内で2回? 行う試験の結果を40%、定期試験の結果を40%の割合で成績を評価する。
- ・定期試験は全問マークシート方式で、全クラス統一試験として行なう。

<テキスト>

中山文・池田磨左文・于耀明・傍島史奈・山本透江 『みんなの中国語 会話編』
白帝社 2013年 2500円+税

<参考図書>

1. {『みんなの中国語 会話編』電子教材, <http://www.ge.kobegakuin.ac.jp/~hanyuhuihua/index.html>}へのリンク

2. 北京・商務印書館 小学館 『中日辞典 第3版』

小学館 2016年 7500円 + 税

3. 相原茂・石田知子・戸沼市子 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』

同学社 2016年 2500円 + 税

4. 荒川清秀 『CDムック 発音マスター! 読めて書ける中国語』

NHK出版 2010年 952円 + 税

< 授業計画 >

第1回 導入

発音篇 1 声調と単母音

1. 中国語の音節

2. 声調

3. 単母音

4. ピンインのつづり方(1)

5. 声調符号とそのつけ方

6. そり舌母音

中国語で挨拶してみましよう

第2回 発音篇 2 複母音と子音(1)

1. 複母音

2. ピンインのつづり方(2)

3. 子音(1)

4. ピンインのつづり方(3)

中国語で挨拶してみましよう

第3回 発音篇(3) 子音(2)と鼻音を伴う母音

1. 子音(2)

2. ピンインのつづり方(4)

3. 鼻音を伴う母音

4. ピンインのつづり方(5)

中国語で挨拶してみましよう

第4回 発音篇(4) “r化”と声調の変化など

1. “r化”

2. 声調の変化

3. 隔音符号“ ’ ”

4. 数

中国語で挨拶してみましよう 総集編

漢詩を朗読してみましよう

第5回 第1回授業内試験

発音篇についてリスニング試験と音読試験とを? なう。

配点はそれぞれ5点ずつで、合計10点。

試験内容は次の通りとする。

・リスニング試験は10種類のピンインが正しく聴き取れるかどうかを問う。

・音読試験は10種類のピンインが正しく発音できるかどうかを問う。

第6回 第1課 您贵姓?

1. 動詞述語? ?名前の尋ね? ・答え?

2. 「動詞“是”+名詞」 「...だ」

3. 形容詞述語?

第7回 第2課 你家有? ? ? ?

1. 動詞“有”?数詞と量詞

2. 動詞述語? ? 「はい」/ 「いいえ」を尋ねる疑問? ? 否定?

3. 疑問? 「...は?」

第8回 単元复习(1) 第1課、第2課

1. ? 称代名詞

2. 指? 代名詞

3. 名詞を修飾する語句の作り?(1)

4. 動詞述語?

5. 形容詞述語?

6. 疑問?(1)

[練習]

第9回 第3課 你今年多? ?

1. 名詞述語? ? ? ね年・年齢の? い?

2. 誕? ? の? い?

3. 補充表現

(1)形容詞述語? での副詞“很”と、形容詞が名詞を修飾するときの構造助詞“的”

(2)副詞“也”と“都”

第10回 第4課 你家在哪? ?

1. 動詞“在”

2. 前置詞“离”?副詞“有点?”

第11回 単元复习(2) 第3課、第4課

1. 名詞を修飾する語句の作り?(2)

2. 年? ? ・曜? ・時刻と時間

3. 名詞述語?

4. ? 位を表す名詞と場所を表わす代名詞

5. 存在を表す“有”と“在”

6. 隔たりの基点を表す前置詞“离”と動きの起点を表す前置詞“从”

[練習]

第12回 第5課 你学了? 年英语了?

1. 助詞“了”

2. ? 較を表す?

第13回 第6課 你的爱好是什么?

1. 動詞“喜欢”

2. 連動?

3. ? 重? 的語?

第14回 単元复习(3) 第5課、第6課

1. 名詞を修飾する語句の作り?(3)

2. 動詞句などが主語や? 的語になる?

3. 助詞“了”

4. ? 較を表す?

5. 連動?(1)(2)

6. ? 重? 的語?

[練習]

第15回 第2回授業内試験

第1課から第6課, および単元復習(1)(2)(3)について, リスニング試験と音読試験とを? なく。配点はそれぞれ15点ずつで, 合計30点。

試験内容は次の通りとする。

・リスニング試験は第1課から第6課の置替え練習の問答が完成できるかどうかを問う。

・音読試験は漢字だけで書かれた単元復習(1)(2)(3)の課? が正しく音読できるかどうかを問う。

2022年度 後期

1.0単位

初級中国語 b 再・ソ

姜 暁麗

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

共通教育科目に属する「初級中国語 b」では, 同じく共通教育科目に属する「初級中国語 a」と共に, 全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて, 広い教養を? につけ, 豊かな? 問性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活? してさまざまな問題を発? し, それを解決する? 策を導くことができる」ようになること・「? 分の意? を? 頭や? 書によって表現し, 相? の意? を理解することで, 良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること, そして「獲得した知識や技能を活? し, 国内外において, 価値観や意? の異なるさまざまな? と議論し, 学びを深め, 協働して, 社会に役? てることができる」ようになることを? 的とする。

中国や中国語の使われる地域の? 化や社会に関するさまざまな情報を中国語で受信し, ? 分の? 場から情報を中国語で発信するすることができるようにするため, この科? では会話体の中国語を材料に, 主に中国語を聴く・話すための初歩的能? を? につけることを? 指す。

< 到達目標 >

1. 中国語のすべての音節を聞分け, 発音することができる。(技能)

2. 簡単な日常挨拶ができる。(知識・技能)

3. 中国語の発音記号であるピンイン(表音ローマ字)を読んで中国語を発音することができる。(知識・技能)

4. 中国語の常用漢字である簡体字で書かれた最も基礎的な単語約500を正しく読み, 自分でも書くことができる。(知識・技能)

5. 中国語の基本文型を把握し, 自分の力で文を理解し, 自分の力で文を聴取り, 話し, 書くことができる。(知識・技能)

6. 日本中国語検定協会の実施する中国語検定試験(以下, 中検と略称)で最も初歩の級である準4級に合格することができる。また, 中国教育部(日本の文部科学省に相当)に直属する国家漢語国際推進指導小組弁公室(国家中国語国際推進普及指導グループ事務局)の認定する漢語水平考試(中国語レベル試験, Hanyu Shuiping Kaoshi, 以下, HSKと略称)で最も初歩の級である1級または2級に合格することができる。(技能)

ちなみにHSKの公式サイトに拠れば, HSKの試験の程度は
・1級は「中国語の非常に簡単な単語とフレーズを理解, 使用することができる。大学の第二外国語における第一年度前期履修程度」

・2級は「中国語を用いた簡単な日常会話を行うことができ, 初級中国語優秀レベルに到達している。大学の第二外国語における第一年度履修程度」とされている。

中検の級とHSKの級とをCEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)に当てはめれば, おおよそ次のようになる。

・中検「準4級」 HSK「1~2級」 CEFR「A1~A2」(6等級あるうちの上から6~5番目)

・中検「4級」 HSK「2~3級」 CEFR「A2~B1」(6等級あるうちの上から5~4番目)

CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)とはヨーロッパにおいて外国語学習者の能力評価時に共通の基準となるものであり, 現在のHSKはこれに合致するように設計されている。CEFRの内容は次のとおりである。

・A1: 具体的な欲求を満足させるため, よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し, 用いることもできる。自分や他人を紹介することができ, どこに住んでいるか, 誰と知り合いか, 持ち物などの個人的情報について, 質問をしたり, 答えたりできる。もし, 相手がゆっくり, はっきりと話して, 助け舟を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

・A2: ごく基本的な個人的情報や家族情報, 買い物, 住所, 仕事など, 直接的関係がある領域に関する, よく使われる文や表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら, 身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。自分の背景や身の回りの状況や, 直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。

・B1: 仕事, 学校, 娯楽で普段出会うような身近な話題について, 標準的な話し方であれば主要点を理解できる。その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな, たいいていの事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について, 単純な方法で結びつけられた, 脈略のあるテキストを作ることができる。経験, 出来事, 夢, 希望, 野心を説明し, 意見や計画の理由, 説明を短く述べるることができる。

< 授業のキーワード >

中国語, 初級, 文法, 会話, 中検準4級, HSK1・2級

< 授業の進め方 >

- 1.教科書の会話を漢字だけでノートに書き写す。(予習・授業)
- 2.解説を聴いて会話の内容を理解し、発音練習を繰り返す。(授業・復習)
- 3.置替え練習を中心とした練習を行ない、文型を把握し定着させる。(授業・復習)
- 4.小テストを随時実施する。(授業・復習)

< 履修するにあたって >

- ・初級中国語の再履修クラスは、 a・ b・ a・ bそれぞれを個別に履修することができる。
- ・中国語(漢族語・漢語)は、日本語とは異なる語族に属する、日本語とは異なる言語である。このことを常に意識しながら学習してほしい。
- ・発音はひとたび身につけてしまうと、たとえそれが間違ったものであったとしてもあとから矯正することは非常に困難である。中国語の発音に不安のある人は、参考書の3に挙げられている『CDムック 発音マスター! 読めて書ける中国語』などを使って自習すると良い。
- ・初学者向けの中国語科目には、初級中国語の他に中国語入門会話も設けられている。すべて中国語を母語とする先生によって授業が担当され、理屈・説明を少なくし、実践・会話に特化して授業が進められる。会話練習をさらに充実させたい人は、中国語入門会話も併せて履修することを薦める。

< 授業時間外に必要な学修 >

- ・予習をしておけば授業での理解がさらに深まるだろうし、復習をすれば獲得した知識や技能をさらに固めることができる。役に立つ中国語を身につけたいと思うのであれば、予習・復習を欠かすことはできない。少なくとも30分程度の時間を毎回の予習・復習それぞれに充ててほしい。
- ・「参考図書」欄に挙げられている『みんなの中国語 会話編』電子教材は教科書の内容をスマートフォン・タブレット端末やコンピューターなどでも学習することができるように作られたものであり、インターネットに接続できる環境であればいつでもどこでも無料で使うことができる。個別の箇所ごとに音声のオン・オフ、日本語訳を含む文字のオン・オフを切り替えることもできる。これを大いに活用してほしい。

< 提出課題など >

授業では? テストを随時実施する。形式は「聴き取り」・「指定された? 節の音読」・「空所補充」・「単語整序」・「?? 中訳」などとする。? 頭による? テストに対しては、授業の中で個別また全体的に指導を? 行う。筆記による? テストに対しては、採点し次回の授業で返却する。

また定期試験とは別に、リスニング問題と音読問題とから成る授業内試験を2回行う。これに対しては講評等を行わない。

< 成績評価方法・基準 >

- ・単位を取得するためには10回以上の出席が必要。
- ・授業中に随時? 行う? テストの結果を20%、授業時間内で2回? 行う? 試験の結果を40%、定期試験の結果を40%の割合で成績を評価する。
- ・定期試験は個別試験として行う。

< テキスト >

中山文・池田磨左文・于耀明・傍島史奈・山本透江 『みんなの中国語 会話編』
白帝社 2013年 2500円+税

< 参考図書 >

- 1.{『みんなの中国語 会話編』電子教材, <http://www.ge.kobegakuin.ac.jp/~hanyuhuihua/index.html>}へのリンク
- 2.北京・商務印書館 小学館 『中日辞典 第3版』
小学館 2016年 7500円+税
- 3.相原茂・石田知子・戸沼市子 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』
同学社 2016年 2500円+税
- 4.荒川清秀 『CDムック 発音マスター! 読めて書ける中国語』
NHK出版 2010年 952円+税

< 授業計画 >

第1回 導入

発音篇 1 声調と単母音

- 1.中国語の音節
- 2.声調
- 3.単母音
- 4.ピンインのつづり方(1)
- 5.声調符号とそのつけ方
- 6.そり舌母音

中国語で挨拶してみよう

第2回 発音篇 2 複母音と子音(1)

- 1.複母音
- 2.ピンインのつづり方(2)
- 3.子音(1)
- 4.ピンインのつづり方(3)

中国語で挨拶してみよう

第3回 発音篇(3) 子音(2)と鼻音を伴う母音

- 1.子音(2)
- 2.ピンインのつづり方(4)
- 3.鼻音を伴う母音
- 4.ピンインのつづり方(5)

中国語で挨拶してみよう

第4回 発音篇(4) “r化”と声調の変化など

- 1.“r化”
- 2.声調の変化
- 3.隔音符号“ ’ ”
- 4.数

中国語で挨拶してみよう 総集編

漢詩を朗読してみましょう

第5回 第1回授業内試験

発? 篇についてリスニング試験と音読試験とを? なう。

配点はそれぞれ5点ずつで、合計10点。

試験内容は次の通りとする。

・リスニング試験は10種類のピンインが正しく聴き取れるかどうかを問う。

・音読試験は10種類のピンインが正しく発? できるかどうかを問う。

第6回 第1課 您贵姓?

1. 動詞述語? ?名前の尋ね? ・答え?

2. 「動詞“是”+名詞」「...だ」

3. 形容詞述語?

第7回 第2課 你家有? ? ? ?

1. 動詞“有”?数詞と量詞

2. 動詞述語? ? 「はい」/ 「いいえ」を尋ねる疑問? ? 否定?

3. 疑問? 「...は?」

第8回 単元复习(1) 第1課、第2課

1.? 称代名詞

2. 指? 代名詞

3. 名詞を修飾する語句の作り?(1)

4. 動詞述語?

5. 形容詞述語?

6. 疑問?(1)

[練習]

第9回 第3課 你今年多? ?

1. 名詞述語? ? ? 年・年齢の? い?

2. 誕? ? の? い?

3. 補充表現

(1) 形容詞述語? ? での副詞“很”と、形容詞が名詞を修飾するときの構造助詞“的”

(2) 副詞“也”と“都”

第10回 第4課 你家在哪? ?

1. 動詞“在”

2. 前置詞“离”?副詞“有点”

第11回 単元复习(2) 第3課、第4課

課

1. 名詞を修飾する語句の作り?(2)

2. 年? ? ・曜? ・時刻と時間

3. 名詞述語?

4.? 位を表す名詞と場所を表わす代名詞

5. 存在を表す“有”と“在”

6. 隔たりの基点を表す前置詞“离”と動きの起点を表す前置詞“从”

[練習]

第12回 第5課 你学了? 年英语

了?

1. 助詞“了”

2.? 較を表す?

第13回 第6課 你的爱好是什么?

1. 動詞“喜欢”

2. 連動?

3.? 重? 的語?

第14回 単元复习(3) 第5課、第6課

1. 名詞を修飾する語句の作り?(3)

2. 動詞句などが主語や? 的語になる?

3. 助詞“了”

4.? 較を表す?

5. 連動?(1)(2)

6.? 重? 的語?

[練習]

第15回 第2回授業内試験

第1課から第6課、および単元復習(1)(2)(3)について、リスニング試験と音読試験とを? なう。配点はそれぞれ15点ずつで、合計30点。

試験内容は次の通りとする。

・リスニング試験は第1課から第6課の置替え練習の問答が完成できるかどうかを問う。

・音読試験は漢字だけで書かれた単元復習(1)(2)(3)の課? が正しく音読できるかどうかを問う。

2022年度 前期

1.0単位

初級中国語 b (会話)ア【総リ八】

陳 鳳

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

共通教育科目に属する「初級中国語 b」では、同じく共通教育科目に属する「初級中国語 a」と共に、全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて、広い教養を? につけ、豊かな? 間性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活? してさまざまな問題を発? し、それを解決する? 策を導くことができる」ようになること・「? 分の意? を? 頭や? 書によって表現し、相? の意? を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること、そして「獲得した知識や技能を活? し、国内外において、価値観や意? の異なるさまざまな? と議論し、学びを深め、協働して、社会に役? てることができる」ようになることを? 的とする。

中国や中国語の使われる地域の? 化や社会に関するさまざまな情報を中国語で受信し、? 分の? 場から情報を中国語で発信するすることができるようにするため、この科? では会話体の中国語を材料に、主に中国語を聴く・話すための初歩的能? を? につけることを? 指す。

< 到達目標 >

1. 中国語のすべての音節を聞分け、発音することができる。(技能)
2. 簡単な日常挨拶ができる。(知識・技能)
3. 中国語の発音記号であるピンイン(表音ローマ字)を読んで中国語を発音することができる。(知識・技能)
4. 中国語の常用漢字である簡体字で書かれた最も基礎的な単語約500を正しく読み、自分でも書くことができる。(知識・技能)
5. 中国語の基本文型を把握し、自分の力で文を理解し、自分の力で文を聴取り、話し、書くことができる。(知識・技能)
6. 日本中国語検定協会の実施する中国語検定試験(以下、中検と略称)で最も初歩の級である準4級に合格することができる。また、中国教育部(日本の文部科学省に相当)に直属する国家漢語国際推進指導小組弁公室(国家中国語国際推進普及指導グループ事務局)の認定する漢語水平考試(中国語レベル試験, Hanyu Shuiping Kaoshi, 以下, HSKと略称)で最も初歩の級である1級または2級に合格することができる。(技能)

ちなみにHSKの公式サイトに拠れば、HSKの試験の程度は

- ・1級は「中国語の非常に簡単な単語とフレーズを理解、使用することができる。大学の第二外国語における第一年度前期履修程度」

- ・2級は「中国語を用いた簡単な日常会話を行うことができ、初級中国語優秀レベルに到達している。大学の第二外国語における第一年度履修程度」とされている。

中検の級とHSKの級とをCEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)に当てはめれば、おおよそ次のようになる。

- ・中検「準4級」 HSK「1～2級」 CEFR「A1～A2」(6等級あるうちの上から6～5番目)

- ・中検「4級」 HSK「2～3級」 CEFR「A2～B1」(6等級あるうちの上から5～4番目)

CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)とはヨーロッパにおいて外国語学習者の能力評価時に共通の基準となるものであり、現在のHSKはこれに合致するように設計されている。CEFRの内容は次のとおりである。

- ・A1: 具体的な欲求を満足させるため、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け舟を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

- ・A2: ごく基本的な個人的情報や家族情報、買い物、住所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性

のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。

- ・B1: 仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈略のあるテキストを作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。

<授業のキーワード>

中国語、初級、文法、会話、中検準4級、HSK1・2級

<授業の進め方>

1. 教科書の会話を漢字だけでノートに書き写す。(予習・授業)
2. 解説を聴いて会話の内容を理解し、発音練習を繰り返す。(授業・復習)
3. 置替え練習を中心とした練習を行ない、文型を把握し定着させる。(授業・復習)
4. 小テストを随時実施する。(授業・復習)

<履修するにあたって>

- ・初級中国語は、? 部学部と再履修クラスを除き a・b・a・bの全てを? 括して履修しなければならない。

- ・中国語(漢族語・漢語)は、日本語とは異なる語族に属する、日本語とは異なる言語である。このことを常に意識しながら学習して欲しい。

- ・発音はひとたび身につけてしまうと、たとえそれが間違ったものであったとしてもあとから矯正することは非常に困難である。中国語の発音に不安のある人は、参考書の3に挙げられている『CDムック 発音マスター! 読めて書ける中国語』などを使って自習すると良い。

- ・初学者向けの中国語科目には、初級中国語の他に中国語入門会話も設けられている。すべて中国語を母語とする先生によって授業が担当され、理屈・説明を少なくし、実践・会話に特化して授業が進められる。会話練習をさらに充実させたい人は、中国語入門会話も併せて履修することを薦める。

<授業時間外に必要な学修>

- ・予習をしておけば授業での理解がさらに深まるだろうし、復習をすれば獲得した知識や技能をさらに固めることができる。役に立つ中国語を身につけたいと思うのであれば、予習・復習を欠かすことはできない。少なくとも30分程度の時間を毎回の予習・復習それぞれに充ててほしい。

- ・「参考図書」欄に挙げられている『みんなの中国語 会話編』電子教材は教科書の内容をスマートフォン・タブレット端末やコンピューターなどでも学習することができるように作られたものであり、インターネットに接続できる環境であればいつでもどこでも無料で使うことができる。個別の箇所ごとに音声のオン・オフ、日本

語訳を含む文字のオン・オフを切り替えることもできる。
これを大いに活用してほしい。

< 提出課題など >

授業では? テストを随時実施する。形式は「聴き取り」・「指定された? 節の音読」・「空所補充」・「単語整序」・「?? 中訳」などとする。? 頭による? テストに対しては、授業の中で個別また全体的に指導を? 行う。筆記による? テストに対しては、採点し次回の授業で返却する。

また定期試験とは別に、リスニング問題と音読問題とから成る授業内試験を2回行なう。これに対しては講評等を行なわない。

< 成績評価方法・基準 >

・単位を取得するためには10回以上の出席が必要。
・授業中に随時? 行う? テストの結果を20%、授業時間内で2回? 行う試験の結果を40%、定期試験の結果を40%の割合で成績を評価する。
・定期試験は全問マークシート方式で、全クラス統一試験として行なう。

< テキスト >

中山文・池田磨左文・于耀明・傍島史奈・山本透江 『みんなの中国語 会話編』
白帝社 2013年 2500円 + 税

< 参考図書 >

1. {『みんなの中国語 会話編』電子教材, <http://www.ge.kobegakuin.ac.jp/~hanyuhuihua/index.html>}へのリンク
2. 北京・商務印書館 小学館 『中日辞典 第3版』
小学館 2016年 7500円 + 税
3. 相原茂・石田知子・戸沼市子 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』
同学社 2016年 2500円 + 税
4. 荒川清秀 『CDムック 発音マスター! 読めて書ける中国語』
NHK出版 2010年 952円 + 税

< 授業計画 >

第1回 導入

発音篇 1 声調と単母音

1. 中国語の音節
2. 声調
3. 単母音
4. ピンインのつづり方(1)
5. 声調符号とそのつけ方
6. そり舌母音

中国語で挨拶してみましよう

第2回 発音篇 2 複母音と子音(1)

1. 複母音
2. ピンインのつづり方(2)
3. 子音(1)
4. ピンインのつづり方(3)

中国語で挨拶してみましよう

第3回 発音篇(3) 子音(2)と鼻音を伴う母音

1. 子音(2)
2. ピンインのつづり方(4)
3. 鼻音を伴う母音
4. ピンインのつづり方(5)

中国語で挨拶してみましよう

第4回 発音篇(4) “r化”と声調の変化など

1. “r化”
2. 声調の変化
3. 隔音符号“ ’ ”
4. 数

中国語で挨拶してみましよう 総集編

漢詩を朗読してみましよう

第5回 第1回授業内試験

発音篇についてリスニング試験と音読試験とを? 行う。
配点はそれぞれ5点ずつで、合計10点。

試験内容は次の通りとする。

- ・リスニング試験は10種類のピンインが正しく聴き取れるかどうかを問う。
- ・音読試験は10種類のピンインが正しく発音できるかどうかを問う。

第6回 第1課 您贵姓?

1. 動詞述語? 名前尋ね? 答え?
2. 「動詞“是” + 名詞」 「...だ」
3. 形容詞述語?

第7回 第2課 你家有????

1. 動詞“有”? 数詞と量詞
2. 動詞述語? 「はい」/「いいえ」を尋ねる疑問? 否定?
3. 疑問? 「...は?」

第8回 単元复习(1) 第1課、第2課

1. ? 称代名詞
2. 指? 代名詞
3. 名詞を修飾する語句の作り?(1)
4. 動詞述語?
5. 形容詞述語?
6. 疑問?(1)

[練習]

第9回 第3課 你今年多??

1. 名詞述語??? ね年・年齢の? い?
2. 誕? ? の? い?
3. 補充表現

(1) 形容詞述語? での副詞“很”と、形容詞が名詞を修飾するときの構造助詞“的”

(2) 副詞“也”と“都”

第10回 第4課 你家在哪??

1. 動詞“在”
2. 前置詞“离”? 副詞“有点”

第11回 単元復習(2) 第3課、第4課

- 1.名詞を修飾する語句の作り?(2)
- 2.年? ?・曜?・時刻と時間
- 3.名詞述語?
- 4.? 位を表す名詞と場所を表わす代名詞
- 5.存在を表す“有”と“在”
- 6.隔たりの基点を表す前置詞“离”と動きの起点を表す前置詞“从”

[練習]

第12回 第5課 你学了? 年英语了?

- 1.助詞“了”
- 2.? 較を表す?

第13回 第6課 你的爱好是什么?

- 1.動詞“喜欢”
- 2.連動?
- 3.? 重? 的語?

第14回 単元復習(3) 第5課、第6課

- 1.名詞を修飾する語句の作り?(3)
- 2.動詞句などが主語や? 的語になる?
- 3.助詞“了”
- 4.? 較を表す?
- 5.連動?(1)(2)
- 6.? 重? 的語?

[練習]

第15回 第2回授業内試験

第1課から第6課, および単元復習(1)(2)(3)について, リスニング試験と音読試験とを? なく。配点はそれぞれ15点ずつで, 合計30点。

試験内容は次の通りとする。

・リスニング試験は第1課から第6課の置替え練習の問答が完成できるかどうかを問う。

・音読試験は漢字だけで書かれた単元復習(1)(2)(3)の課? が正しく音読できるかどうかを問う。

2022年度 前期

1.0単位

初級中国語 a 再・ソ

西尾 和子

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

共通教育科? に属する「初級中国語 a」では, 同じく共通教育科? に属する「初級中国語 b」と共に, 全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて, 広い教養を? につけ, 豊かな? 問性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活? してさまざまな問題を発? し, それ

を解決する

? 策を導くことができる」ようになること・「? 分の意? を? 頭や? 書によって表現し, 相? の意? を理解することで, 良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること, そして「獲得した知識や技能を活? し, 国内外において, 価値観や意? の異なるさまざまな? と議論し, 学びを深め, 協働して, 社会に役? てることができる」ようになることを? 的とする。

中国や中国語の使われる地域の? 化や社会に関するさまざまな情報を中国語で受信し, ? 分の? 場から情報を中国語で発信するすることができるようにするため, この科? では? 章体の中国語を材料に, 主に中国語を読む・聴く・書くための基礎的能? を? につけることを? 指す。

< 到達目標 >

- 1.中国語のすべての音節を聞分け, 発音することができる。(技能)
- 2.簡単な日常挨拶ができる。(知識・技能)
- 3.中国語の発音記号であるピンイン(表音ローマ字)を読んで中国語を発音することができる。(知識・技能)
- 4.中国語の常用漢字である簡体字で書かれた最も基礎的な単語約500を正しく読み, 自分でも書くことができる。(知識・技能)
- 5.中国語の基本文法を把握し, 自分の力で文章を読解し, 自分の力で文を書くことができる。(知識・技能)
- 6.日本中国語検定協会の実施する中国語検定試験(以下, 中検と略称)で最も初歩の級である準4級または4級に合格することができる。また, 中国教育部(日本の文部科学省に相当)に直属する国家漢語国際推進指導小組弁公室(国家中国語国際推進普及指導グループ事務局)の認定する漢語水平考試(中国語レベル試験, Hanyu Shuiping Kaoshi, 以下, HSKと略称)で2級または3級に合格することができる。(技能)

ちなみにHSKの公式サイトに拠れば, HSKの試験の程度は・2級は「中国語を用いた簡単な日常会話を行うことができ, 初級中国語優秀レベルに到達している。大学の第二外国語における第一年度履修程度」・3級は「生活・学習・仕事などの場面で基本的なコミュニケーションをとることができ, 中国旅行の際にも大部分のことに対応できる」とされている。

中検の級とHSKの級とをCEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)に当てはめれば, おおよそ次のようになる。

- ・中検「準4級」 HSK「1~2級」 CEFR「A1~A2」(6等級あるうちの上から6~5番目)
 - ・中検「4級」 HSK「2~3級」 CEFR「A2~B1」(6等級あるうちの上から5~4番目)
- CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)とはヨーロッパにおい

て外国語学習者の能力評価時に共通の基準となるものであり、現在のHSKはこれに合致するように設計されている。CEFRの内容は次のとおりである。

・A1：具体的な欲求を満足させるため、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け舟を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

・A2：ごく基本的な個人的情報や家族情報、買い物、住所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。

・B1：仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいいていの事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈略のあるテキストを作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。

< 授業のキーワード >

中国語、初級、文法、読解、中検準4級・4級、HSK2・3級

< 授業の進め方 >

- 1.教科書の？章を漢字だけでノートに書き写す。(予習・授業)
- 2.？章の解説を聴いて？章の内容を理解し、発？練習を繰り返す。(授業・復習)
- 3.？法の説明を聴いて？法を理解する。(授業)
- 4.練習を？ない、理解を確認し知識を定着させる。(授業・復習)
- 5.？テストを随時実施する。(授業・復習)

< 履修するにあたって >

- ・初級中国語の再履修クラスは、 a・ b・ a・ bそれぞれを個別に履修することができる。
- ・中国語(漢族語・漢語)は、日本語とは異なる語族に属する、日本語とは異なる言語である。このことを常に意識しながら学習してほしい。

・発音はひとたび身につけてしまうと、たといそれが間違ったものであったとしてもあとから矯正することは非常に困難である。中国語の発音に不安のある人は、参考図書の3に挙げられている『CDムック 発音マスター！ 読めて書ける中国語』などを使って自習すると良い。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習をしておけば授業での理解がさらに深まるだろうし、復習をすれば獲得した知識や技能をさらに固めることが

できる。役に立つ中国語を身につけたいと思うのであれば、予習・復習を欠かすことはできない。少なくとも30分程度の時間を毎回の予習・復習それぞれに充ててほしい。

< 提出課題など >

授業では？テストを随時実施する。形式は「指定された？節の音読」・「空所補充」・「単語整序」・「中??訳」・「??中訳」などとする。

また、学期末の授業時間内で漢字試験を実施する。これは定期試験が全問マークシート？式で？なわれることに対応するためである。

？頭による？テストに対しては、授業の中で個別また全体的に指導を？なう。筆記による？テストに対しては、採点し次回の授業で返却する。ただし、学期末に？なわれる漢字試験に対しては、講評等の指導を？なわない。答えは全て教科書にある。

< 成績評価方法・基準 >

- ・単位を取得するためには10回以上の出席が必要。
- ・授業中に随時？なう？テストの結果を20%、学期末の授業時間内で？なう漢字試験の結果を20%、定期試験の結果を60%の割合で成績を評価する。
- ・定期試験は個別試験として？なう。

< テキスト >

中山文・池田磨左文・于耀明・傍島史奈・山本透江 『みんなの中国語 読物編』
白帝社 2012年 2500円+税

< 参考図書 >

- 1.北京・商務印書館？学館 『中？辞典 第3版』
？学館 2016年 7500円+税
- 2.相原茂・??知?・?沼市? 『Why?にこたえるはじめての中国語の?法書 新訂版』
同学社 2016年 2500円+税
- 3.荒川清秀 『CDムック 発?マスター?読めて書ける中国語』
NHK出版 2010年 952円+税

< 授業計画 >

第1回 教科書前半内容の復習

発? 篇から第6課まで教科書前半の内容をすべておさらいし、記憶を呼び覚ます。?声を聴きながら?章を読む聴読や、?章を?ずに?声を聴きながら発?するシャドウイングなどの練習を?なう。

第2回 第7課 わたしは日本料理もイタリア料理も作ることができます

1.願望を表わす文 助動詞“想”； 一定の場所で動作を行なうことを表わす文 前置詞“在”

2.訓練を経て初歩的技能を身につけていることを表わす文 助動詞“会”

3.動作を行なった様子や動作を行なって到達した程度を表わす文 程度補語

第3回 第8課 わたしはインターネットをしているとこ

ろです

- 1.動作が進行していることを表わす文
- 2.事態が間もなく発生することを表わす文
- 3.「...する予定・計画だ」を表わす文 動詞“打算”
- 4.「...に...してほしい」を表わす文 兼語文(1) 動詞“请”

第4回 第9課 わたしは母といっしょに韓国へ行ったことがあります

- 1.名詞を修飾する方法(2); 動作を経験したことを表わす文 動態助詞“过”
- 2.動作の結果を表わす複合動詞 結果補語; 可能や許可を表わす文 助動詞“可以”; 「...だけでなく,しかも...」を表わす文

第5回 第7-9課 復習

第7-9課の復習; 肯定否定疑問文(3)

いろいろな国

第6回 第10課 “長城に到らざれば好漢に非ず”と書いてあります

- 1.程度を強調する言い方
- 2.場所を表わす語句; 動作を行なって残った結果が持続していることを表わす文 動態助詞“着”; 未知の人や物が存在・出現・消失することを表わす文 存現文

第7回 第11課 わたしは少しも理解できませんでした

- 1.動作の結果が実現できるかどうかを表わす文 可能補語; 「すこしも...ない」を表わす文
- 2.「...なので,だから...」を表わす文
- 3.特定の対象に対して処置を施すことを表わす文 処置文 前置詞“把”; 禁止を表わす文 副詞“别”

第8回 第12課 もう少しで雨に濡れるところでした

- 1.動作の始まる時を表わす文 前置詞“从”; 事態の発生が早いことを表わす文 副詞“就”; 「...しながら...する」を表わす文 動態助詞“着”
- 2.危うく難を逃れたことを表わす文 副詞“差点儿”; 受身を表わす文 前置詞“被”

第9回 第10-12課 復習

第10-12課の復習; 肯定否定疑問文(4); 動作の行なわれた時や場所などを強調する文

万里の長城

第10回 第13課 母と姉にシルクのスカーフを2枚買いました

- 1.「...することになっている」(単純未来・予定)・「...するつもりだ」(意志未来)・「...しなければならない」(義務・必要)を表わす文 助動詞“要”; 「...しなくてもよい」を表わす文 副詞“不用”; 「...してはいけない」を表わす文 副詞“不要”
- 2.物や利益の受手を表わす文 前置詞“给”
- 3.比較を表わす文(2)
- 4.数量の少ないことを表わす文 副詞“才”

中国のお金

第11回 第14課 日本に持って帰って家族に味わっても

らいたい

1.動作の方向を表わす文 方向補語 方向補語を伴う動詞と目的語の位置

2.「...に...させる」を表わす文 兼語文(2) 動詞“让”・“叫”

3.「ちょっと...してみる」を表わす文 動詞の重ね型

第12回 第15課 地下鉄を出て右に曲がります

- 1.「...に向かって...する」を表わす文 前置詞“向”・“往”
- 2.「...しながら...する」を表わす文 副詞“边”
- 3.「...すればするほど...だ」を表わす文 副詞“越”

第13回 第13-15課 復習

第13-15課の復習

第14回 漢字試験

第7課から第15課までの本? で使われている漢字を書くことができるかどうかを試験する。? 本語の常? 漢字を中国語の簡体字で書くことができるかどうかを問う問題が10問,ピンインで書かれた? 節を簡体字で書くことができるかどうかを問う問題が10問で,合計20点。

第15回 総合復習

第7課から第15課までで学習した内容をすべておさらいし,理解の確認と記憶の定着を図る。

2022年度 後期

1.0単位

初級中国語 a 再・ラ

山内 一恵

<授業の方法>

講義・演習

<授業の目的>

共通教育科? に属する「初級中国語 a」では,同じく共通教育科? に属する「初級中国語 b」と共に,全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて,広い教養を? につけ,豊かな? 間性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活? してさまざまな問題を発? し,それを解決する

? 策を導くことができる」ようになること・「? 分の意? を? 頭や? 書によって表現し,相? の意? を理解することで,良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること,そして「獲得した知識や技能を活? し,国内外において,価値観や意? の異なるさまざまな? と議論し,学びを深め,協働して,社会に役? てることができる」ようになることを? 的とする。

中国や中国語の使われる地域の? 化や社会に関するさまざまな情報を中国語で受信し,? 分の? 場から情報を中国語で発信するすることができるようにするため,この科? では? 章体の中国語を材料に,主に中国語を読む・聴く・書くための基礎的能? を? につけることを? 指

す。

<到達目標>

1. 中国語のすべての音節を聞分け、発音することができる。(技能)
2. 簡単な日常挨拶ができる。(知識・技能)
3. 中国語の発音記号であるピンイン(表音ローマ字)を読んで中国語を発音することができる。(知識・技能)
4. 中国語の常用漢字である簡体字で書かれた最も基礎的な単語約500を正しく読み、自分でも書くことができる。(知識・技能)
5. 中国語の基本文法を把握し、自分の力で文章を読解し、自分の力で文を書くことができる。(知識・技能)
6. 日本中国語検定協会の実施する中国語検定試験(以下、中検と略称)で最も初歩の級である準4級または4級に合格することができる。また、中国教育部(日本の文部科学省に相当)に直属する国家漢語国際推進指導小組弁公室(国家中国語国際推進普及指導グループ事務室)の認定する漢語水平考試(中国語レベル試験, Hanyu Shuipin g Kaoshi, 以下、HSKと略称)で2級または3級に合格することができる。(技能)

ちなみにHSKの公式サイトに拠れば、HSKの試験の程度は
・2級は「中国語を用いた簡単な日常会話を行うことができ、初級中国語優秀レベルに到達している。大学の第二外国語における第一年度履修程度」

・3級は「生活・学習・仕事などの場面で基本的なコミュニケーションをとることができ、中国旅行の際にも大部分のことに対応できる」とされている。

中検の級とHSKの級とをCEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)に当てはめれば、おおよそ次のようになる。

・中検「準4級」 HSK「1~2級」 CEFR「A1~A2」(6等級あるうちの上から6~5番目)

・中検「4級」 HSK「2~3級」 CEFR「A2~B1」(6等級あるうちの上から5~4番目)

CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)とはヨーロッパにおいて外国語学習者の能力評価時に共通の基準となるものであり、現在のHSKはこれに合致するように設計されている。CEFRの内容は次のとおりである。

・A1: 具体的な欲求を満足させるため、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け舟を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

・A2: ごく基本的な個人的情報や家族情報、買い物、住所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることがで

きる。自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。

・B1: 仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈略のあるテキストを作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べるることができる。

<授業のキーワード>

中国語、初級、文法、読解、中検準4級・4級、HSK2・3級

<授業の進め方>

1. 教科書の?章を漢字だけでノートに書き写す。(予習・授業)
2. ?章の解説を聴いて?章の内容を理解し、発?練習を繰り返す。(授業・復習)
3. ?法の説明を聴いて?法を理解する。(授業)
4. 練習を?ない、理解を確認し知識を定着させる。(授業・復習)
5. ?テストを随時実施する。(授業・復習)

<履修するにあたって>

・初級中国語の再履修クラスは、 a・ b・ a・ bそれぞれを個別に履修することができる。
・中国語(漢族語・漢語)は、日本語とは異なる語族に属する、日本語とは異なる言語である。このことを常に意識しながら学習してほしい。

・発音はひとたび身につけてしまうと、たといそれが間違ったものであったとしてもあとから矯正することは非常に困難である。中国語の発音に不安のある人は、参考図書3に挙げられている『CDムック 発音マスター! 読めて書ける中国語』などを使って自習すると良い。

<授業時間外に必要な学修>

予習をしておけば授業での理解がさらに深まるだろうし、復習をすれば獲得した知識や技能をさらに固めることができる。役に立つ中国語を身につけたいと思うのであれば、予習・復習を欠かすことはできない。少なくとも30分程度の時間を毎回の予習・復習それぞれに充ててほしい。

<提出課題など>

授業では?テストを随時実施する。形式は「指定された?節の音読」・「空所補充」・「単語整序」・「中??訳」・「??中訳」などとする。

また、学期末の授業時間内で漢字試験を実施する。これは定期試験が全問マークシート?式で?なわれることに対応するためである。

?頭による?テストに対しては、授業の中で個別また全体的に指導を?なう。筆記による?テストに対しては、採点し次回の授業で返却する。ただし、

学期末に? なわれる漢字試験に対しては、
講評等の指導を? なわない。答えは全て教科書にある。

<成績評価方法・基準>

- ・単位を取得するためには10回以上の出席が必要。
- ・授業中に随時? なく? テストの結果を20%、学期末の授業時間内で? なく漢字試験の結果を20%、定期試験の結果を60%の割合で成績を評価する。
- ・定期試験は全問マークシート? 式で、全クラス統? 試験として? なく。

<テキスト>

中山文・池田磨左文・于耀明・傍島史奈・山本透江 『
みんなの中国語 読物編』
白帝社 2012年 2500円+税

<参考図書>

- 1.北京・商務印書館? 学館 『中? 辞典 第3版』
? 学館 2016年 7500円+税
- 2.相原茂・? ? 知? ・? 沼市? 『Why?にこたえるはじめての中国語の? 法書 新訂版』
同学社 2016年 2500円+税
- 3.荒川清秀 『CDムック 発? マスター? 読めて書ける中国語』
NHK出版 2010年 952円+税

<授業計画>

第1回 前期学習内容の復習

発? 篇から第6課まで前期で学習した内容をすべておさらいし、記憶を呼び覚ます。? 声を聴きながら? 章を読む聴読や、? 章を? ずに? 声を聴きながら発? するシャドウイングなどの練習を? なく。

第2回 第7課 わたしは日本料理もイタリア料理も作ることができます

- 1.願望を表わす文 助動詞“想”; 一定の場所で動作を行なうことを表わす文 前置詞“在”
- 2.訓練を経て初歩的技能を身につけていることを表わす文 助動詞“会”
- 3.動作を行なった様子や動作を行なって到達した程度を表わす文 程度補語

第3回 第8課 わたしはインターネットをしているところです

- 1.動作が進行していることを表わす文
- 2.事態が間もなく発生することを表わす文
- 3.「...する予定・計画だ」を表わす文 動詞“打算”
- 4.「...に...してほしい」を表わす文 兼語文(1) 動詞“请”

第4回 第9課 わたしは母といっしょに韓国へ行ったことがあります

- 1.名詞を修飾する方法(2); 動作を経験したことを表わす文 動態助詞“过”
- 2.動作の結果を表わす複合動詞 結果補語; 可能や許可を表わす文 助動詞“可以”; 「...だけでなく、しかも...」を表わす文

第5回 第7-9課 復習

第7-9課の復習; 肯定否定疑問文(3)

いろいろな国

第6回 第10課 “長城に到らざれば好漢に非ず”と書いてあります

- 1.程度を強調する言い方
- 2.場所を表わす語句; 動作を行なって残った結果が持続していることを表わす文 動態助詞“着”; 未知の人や物が存在・出現・消失することを表わす文 存現文

第7回 第11課 わたしは少しも理解できませんでした

- 1.動作の結果が実現できるかどうかを表わす文 可能補語; 「すこしも...ない」を表わす文
- 2.「...なので、だから...」を表わす文
- 3.特定の対象に対して処置を施すことを表わす文 処置文 前置詞“把”; 禁止を表わす文 副詞“别”

第8回 第12課 もう少しで雨に濡れるところでした

- 1.動作の始まる時を表わす文 前置詞“从”; 事態の発生が早いことを表わす文 副詞“就”; 「...しながら...する」を表わす文 動態助詞“着”
- 2.危うく難を逃れたことを表わす文 副詞“差点儿”; 受身を表わす文 前置詞“被”

第9回 第10-12課 復習

第10-12課の復習; 肯定否定疑問文(4); 動作の行なわれた時や場所などを強調する文

万里の長城

第10回 第13課 母と姉にシルクのスカーフを2枚買いました

- 1.「...することになっている」(単純未来・予定)・「...するつもりだ」(意志未来)・「...しなければならない」(義務・必要)を表わす文 助動詞“要”; 「...しなくてもよい」を表わす文 副詞“不用”; 「...してはいけない」を表わす文 副詞“不要”
- 2.物や利益の受手を表わす文 前置詞“给”
- 3.比較を表わす文(2)
- 4.数量の少ないことを表わす文 副詞“才”

中国のお金

第11回 第14課 日本に持って帰って家族に味わってもらいたい

- 1.動作の方向を表わす文 方向補語 方向補語を伴う動詞と目的語の位置
- 2.「...に...させる」を表わす文 兼語文(2) 動詞“让”・“叫”
- 3.「ちょっと...してみる」を表わす文 動詞の重ね型

第12回 第15課 地下鉄を出て右に曲がります

- 1.「...に向かって...する」を表わす文 前置詞“向”・“往”
- 2.「...しながら...する」を表わす文 副詞“边”
- 3.「...すればするほど...だ」を表わす文 副詞“越”

第13回 第13-15課 復習

第13-15課の復習

第14回 漢字試験

第7課から第15課までの本? で使われている漢字を書くことができるかどうかを試験する。? 本語の常? 漢字を中国語の簡体字で書くことができるかどうかを問う問題が10問、ピンインで書かれた? 節を簡体字で書くことができるかどうかを問う問題が10問で、合計20点。

第15回 総合復習

第7課から第15課までで学習した内容をすべておさらいし、理解の確認と記憶の定着を図る。

2022年度 後期

1.0単位

初級中国語 a (読解)キ【法】

池田 磨左文

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

共通教育科? に属する「初級中国語 a」では、同じく共通教育科? に属する「初級中国語 b」と共に、全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて、広い教養を? につけ、豊かな? 問性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活? してさまざまな問題を発? し、それを解決する

? 策を導くことができる」ようになること・「? 分の意? を? 頭や? 書によって表現し、相? の意? を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること、そして「獲得した知識や技能を活? し、国内外において、価値観や意? の異なるさまざまな? と議論し、学びを深め、協働して、社会に役? てることができる」ようになることを? 的とする。

中国や中国語の使われる地域の? 化や社会に関するさまざまな情報を中国語で受信し、? 分の? 場から情報を中国語で発信するすることができるようにするため、この科? では? 章体の中国語を材料に、主に中国語を読む・聴く・書くための基礎的能? を? につけることを? 指す。

< 到達目標 >

1. 中国語のすべての音節を聞分け、発音することができる。(技能)
2. 簡単な日常挨拶ができる。(知識・技能)
3. 中国語の発音記号であるピンイン(表音ローマ字)を読んで中国語を発音することができる。(知識・技能)
4. 中国語の常用漢字である簡体字で書かれた最も基礎的な単語約500を正しく読み、自分でも書くことができる。(知識・技能)
5. 中国語の基本文法を把握し、自分の力で文章を読解し、自分の力で文を書くことができる。(知識・技能)
6. 日本中国語検定協会の実施する中国語検定試験(以下、

中検と略称)で最も初歩の級である準4級または4級に合格することができる。また、中国教育部(日本の文部科学省に相当)に直属する国家漢語国際推進指導小組弁公室(国家中国語国際推進普及指導グループ事務局)の認定する漢語水平考試(中国語レベル試験, Hanyu Shuiping Kaoshi, 以下, HSKと略称)で2級または3級に合格することができる。(技能)

ちなみにHSKの公式サイトに拠れば、HSKの試験の程度は
・2級は「中国語を用いた簡単な日常会話を行うことができ、初級中国語優秀レベルに到達している。大学の第二外国語における第一年度履修程度」

・3級は「生活・学習・仕事などの場面で基本的なコミュニケーションをとることができ、中国旅行の際にも大部分のことに対応できる」とされている。

中検の級とHSKの級とをCEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)に当てはめれば、おおよそ次のようになる。

・中検「準4級」 HSK「1~2級」 CEFR「A1~A2」(6等級あるうちの上から6~5番目)

・中検「4級」 HSK「2~3級」 CEFR「A2~B1」(6等級あるうちの上から5~4番目)

CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)とはヨーロッパにおいて外国語学習者の能力評価時に共通の基準となるものであり、現在のHSKはこれに合致するように設計されている。CEFRの内容は次のとおりである。

・A1: 具体的な欲求を満足させるため、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け舟を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

・A2: ごく基本的な個人的情報や家族情報、買い物、住所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。

・B1: 仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈略のあるテキストを作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。

< 授業のキーワード >

中国語、初級、文法、読解、中検準4級・4級、HSK2・3級

< 授業の進め方 >

- 1.教科書の? 章を漢字だけでノートに書き写す。(予習・授業)
- 2.? 章の解説を聴いて? 章の内容を理解し, 発? 練習を繰り返す。(授業・復習)
- 3.? 法の説明を聴いて? 法を理解する。(授業)
- 4.練習を? ない, 理解を確認し知識を定着させる。(授業・復習)
- 5.? テストを随時実施する。(授業・復習)

< 履修するにあたって >

・初級中国語は, 一部学部と再履修クラスを除き a・b・a・bの全てを一括して履修しなければならない。

・中国語(漢族語・漢語)は, 日本語とは異なる語族に属する, 日本語とは異なる言語である。このことを常に意識しながら学習してほしい。

・発音はひとたび身につけてしまうと, たといそれが間違ったものであったとしてもあとから矯正することは非常に困難である。中国語の発音に不安のある人は, 参考図書3に挙げられている『CDムック 発音マスター! 読めて書ける中国語』などを使って自習すると良い。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習をしておけば授業での理解がさらに深まるだろうし, 復習をすれば獲得した知識や技能をさらに固めることができる。役に立つ中国語を身につけたいと思うのであれば, 予習・復習を欠かすことはできない。少なくとも30分程度の時間を毎回の予習・復習それぞれに充ててほしい。

< 提出課題など >

授業では? テストを随時実施する。形式は「指定された? 節の音読」・「空所補充」・「単語整序」・「中? ? 訳」・「?? 中訳」などとする。

また, 学期末の授業時間内で漢字試験を実施する。これは定期試験が全問マークシート? 式で? 行われることに対応するためである。

? 頭による? テストに対しては, 授業の中で個別また全体的に指導を? 行う。筆記による? テストに対しては, 採点し次回の授業で返却する。ただし, 学期末に? 行われる漢字試験に対しては, 講評等の指導を? 行わない。答えは全て教科書にある。

< 成績評価方法・基準 >

- ・単位を取得するためには10回以上の出席が必要。
- ・授業中に随時? 行う? テストの結果を20%, 学期末の授業時間内で? 行う漢字試験の結果を20%, 定期試験の結果を60%の割合で成績を評価する。
- ・定期試験は全問マークシート? 式で, 全クラス統? 試験として? 行う。

< テキスト >

中山文・池田磨左文・于耀明・傍島史奈・山本透江 『みんなの中国語 読物編』

白帝社 2012年 2500円 + 税

< 参考図書 >

- 1.北京・商務印書館 ? 学館 『中? 辞典 第3版』
? 学館 2016年 7500円 + 税
- 2.相原茂・?? 知? ・? 沼市? 『Why?にこたえるはじめての中国語の? 法書 新訂版』
同学社 2016年 2500円 + 税
- 3.荒川清秀 『CDムック 発? マスター? 読めて書ける中国語』
NHK出版 2010年 952円 + 税

< 授業計画 >

第1回 前期学習内容の復習

発? 篇から第6課まで前期で学習した内容をすべておさらいし, 記憶を呼び覚ます。? 声を聴きながら? 章を読む聴読や, ? 章を? ずに? 声を聴きながら発? するシャドウイングなどの練習を? 行う。

第2回 第7課 わたしは日本料理もイタリア料理も作ることができます

- 1.願望を表わす文 助動詞“想”; 一定の場所で動作を行なうことを表わす文 前置詞“在”
- 2.訓練を経て初歩的技能を身につけていることを表わす文 助動詞“会”
- 3.動作を行なった様子や動作を行なって到達した程度を表わす文 程度補語

第3回 第8課 わたしはインターネットをしているところです

- 1.動作が進行していることを表わす文
- 2.事態が間もなく発生することを表わす文
- 3.«...する予定・計画だ»を表わす文 動詞“打算”
- 4.«...に...してほしい»を表わす文 兼語文(1) 動詞“请”

第4回 第9課 わたしは母といっしょに韓国へ行ったことがあります

- 1.名詞を修飾する方法(2); 動作を経験したことを表わす文 動態助詞“过”
- 2.動作の結果を表わす複合動詞 結果補語; 可能や許可を表わす文 助動詞“可以”; 「...だけでなく, しかも...»を表わす文

第5回 第7-9課 復習

第7-9課の復習; 肯定否定疑問文(3)

いろいろな国

第6回 第10課 “長城に到らざれば好漢に非ず”と書いてあります

- 1.程度を強調する言い方
 - 2.場所を表わす語句; 動作を行なって残った結果が持続していることを表わす文 動態助詞“着”; 未知の人や物が存在・出現・消失することを表わす文 存現文
- 第7回 第11課 わたしは少しも理解できませんでした

1.動作の結果が実現できるかどうかを表わす文 可能補語; 「すこしも...ない»を表わす文

2. 「...なので、だから...」を表わす文
 3. 特定の対象に対して処置を施すことを表わす文 処置文 前置詞“把”； 禁止を表わす文 副詞“別”
 第8回 第12課 もう少しで雨に濡れるところでした
 1. 動作の始まる時を表わす文 前置詞“从”； 事態の発生が早いことを表わす文 副詞“就”； 「...しながら...する」を表わす文 動態助詞“着”
 2. 危うく難を逃れたことを表わす文 副詞“差点儿”； 受身を表わす文 前置詞“被”
 第9回 第10-12課 復習
 第10-12課の復習； 肯定否定疑問文(4)； 動作の行なわれた時や場所などを強調する文
 万里の長城
 第10回 第13課 母と姉にシルクのスカーフを2枚買いました
 1. 「...することになっている」(単純未来・予定)・「...するつもりだ」(意志未来)・「...しなければならない」(義務・必要)を表わす文 助動詞“要”； 「...しなくてもよい」を表わす文 副詞“不用”； 「...してはいけない」を表わす文 副詞“不要”
 2. 物や利益の受手を表わす文 前置詞“给”
 3. 比較を表わす文(2)
 4. 数量の少ないことを表わす文 副詞“才”
 中国のお金
 第11回 第14課 日本に持って帰って家族に味わってもらいたい
 1. 動作の方向を表わす文 方向補語 方向補語を伴う動詞と目的語の位置
 2. 「...に...させる」を表わす文 兼語文(2) 動詞“让”・“叫”
 3. 「ちょっと...してみる」を表わす文 動詞の重ね型
 第12回 第15課 地下鉄を出て右に曲がります
 1. 「...に向かって...する」を表わす文 前置詞“向”・“往”
 2. 「...しながら...する」を表わす文 副詞“边”
 3. 「...すればするほど...だ」を表わす文 副詞“越”
 第13回 第13-15課 復習
 第13-15課の復習
 第14回 漢字試験
 第7課から第15課までの本? で使われている漢字を書くことができるかどうかを試験する。? 本語の常? 漢字を中国語の簡体字で書くことができるかどうかを問う問題が10問、ピンインで書かれた? 節を簡体字で書くことができるかどうかを問う問題が10問で、合計20点。
 第15回 総合復習
 第7課から第15課までで学習した内容をすべておさらいし、理解の確認と記憶の定着を図る。

 2022年度 後期

1.0単位

初級中国語 b 再・サ

藤井 宏

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

共通教育科目に属する「初級中国語 b」では、同じく共通教育科? に属する「初級中国語 a」と共に、全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて、広い教養を? につけ、豊かな? 間性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活? してさまざまな問題を発? し、それを解決する? 策を導くことができる」ようになること・「? 分の意? を? 頭や? 書によって表現し、相? の意? を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること、そして「獲得した知識や技能を活? し、国内外において、価値観や意? の異なるさまざまな? と議論し、学びを深め、協働して、社会に役? てることができる」ようになることを? 的とする。

中国や中国語の使われる地域の? 化や社会に関するさまざまな情報を中国語で受信し、? 分の? 場から情報を中国語で発信するすることができるようにするため、この科? では会話体の中国語を材料に、主に中国語を聴く・話すための基礎的能? を? につけることを目指す。

< 到達目標 >

1. 中国語のすべての音節を聞分け、発音することができる。(技能)
2. 簡単な日常挨拶ができる。(知識・技能)
3. 中国語の発音記号であるピンイン(表音ローマ字)を読んで中国語を発音することができる。(知識・技能)
4. 中国語の常用漢字である簡体字で書かれた最も基礎的な単語約500を正しく読み、自分でも書くことができる。(知識・技能)
5. 中国語の基本文型を把握し、自分の力で文を理解し、自分の力で文を聴取り、話し、書くことができる。(知識・技能)
6. 日本中国語検定協会の実施する中国語検定試験(以下、中検と略称)で最も初歩の級である準4級または4級に合格することができる。また、中国教育部(日本の文部科学省に相当)に直属する国家漢語国際推進指導グループ事務室(国家中国語国際推進普及指導グループ事務室)の認定する漢語水平考試(中国語レベル試験, Hanyu Shuiping Kaoshi, 以下, HSKと略称)で2級または3級に合格することができる。(技能)

ちなみにHSKの公式サイトに拠れば、HSKの試験の程度は・2級は「中国語を用いた簡単な日常会話を行うことができ、初級中国語優秀レベルに到達している。大学の第

二外国語における第一年度履修程度」

・3級は「生活・学習・仕事などの場面で基本的なコミュニケーションをとることができ、中国旅行の際にも大部分のことに対応できる」とされている。

中検の級とHSKの級とをCEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)に当てはめれば、おおよそ次のようになる。

・中検「準4級」 HSK「1～2級」 CEFR「A1～A2」(6等級あるうちの上から6～5番目)

・中検「4級」 HSK「2～3級」 CEFR「A2～B1」(6等級あるうちの上から5～4番目)

CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)とはヨーロッパにおいて外国語学習者の能力評価時に共通の基準となるものであり、現在のHSKはこれに合致するように設計されている。CEFRの内容は次のとおりである。

・A1: 具体的な欲求を満足させるため、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いかが、持ち物などの個人情報について、質問をしたり、答えたりできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け舟を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

・A2: ごく基本的な個人的情報や家族情報、買い物、住所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。

・B1: 仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいいていの事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈略のあるテキストを作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。

<授業のキーワード>

中国語、初級、文法、会話、中検準4級・4級、HSK2・3級

<授業の進め方>

- 1.教科書の会話を漢字だけでノートに書き写す。(予習・授業)
- 2.解説を聴いて会話の内容を理解し、発音練習を繰り返す。(授業・復習)
- 3.置替え練習を中?とした練習を?ない、?型を把握し定着させる。(授業・復習)
- 4.?テストを随時実施する。(授業・復習)

<履修するにあたって>

・初級中国語の再履修クラスは、 a・ b・ a・ bそれぞれを個別に履修することができる。

・中国語(漢族語・漢語)は、日本語とは異なる語族に属する、日本語とは異なる言語である。このことを常に意識しながら学習していったほしい。

・発音はひとたび身につけてしまうと、たとえそれが間違ったものであったとしてもあとから矯正することは非常に困難である。中国語の発音に不安のある人は、参考図書3に挙げられている『CDムック 発音マスター！

読めて書ける中国語』などを使って自習すると良い。

・初学者向けの中国語科目には、初級中国語の他に中国語入門会話も設けられている。すべて中国語を母語とする先生によって授業が担当され、理屈・説明を少なくし、実践・会話に特化して授業が進められる。会話練習をさらに充実させたい人は、中国語入門会話も併せて履修すること薦める。

<授業時間外に必要な学修>

予習をしておけば授業での理解がさらに深まるだろうし、復習をすれば獲得した知識や技能をさらに固めることができる。役に立つ中国語を身につけたいと思うのであれば、予習・復習を欠かすことはできない。少なくとも30分程度の時間を毎回の予習・復習それぞれに充ててほしい。

「参考図書」欄に挙げられている『みんなの中国語 会話編』電?教材は教科書の内容をスマートフォン・タブレット端末やコンピューターなどでも学習することができるように作られたものであり、インターネットに接続できる環境であればいつでもどこでも無料で使うことができる。個別の箇所ごとに?声のオン・オフ、?本語訳を含む?字のオン・オフを切り替えることもできる。

これを?いに活?してほしい。

<提出課題など>

授業では?テストを随時実施する。形式は「聴き取り」・「指定された?節の?読」・「空所補充」・「単語整序」・「??中訳」などとする。?頭による?テストに対しては、授業の中で個別また全体的に指導を?なう。筆記による?テストに対しては、採点し次回の授業で返却する。

また定期試験とは別に、リスニング問題と?読問題とから成る授業内試験を2回?なう。これに対しては講評等を?なわない。

<成績評価方法・基準>

- ・単位を取得するためには10回以上の出席が必要。
- ・授業中に随時?なう?テストの結果を20%、授業時間内で2回?なう試験の結果を40%、定期試験の結果を40%の割合で成績を評価する。
- ・定期試験は全問マークシート?式で、全クラス統?試験として?なう。

<テキスト>

中山文・池田磨左文・于耀明・傍島史奈・山本透江 『みんなの中国語 会話編』

白帝社 2013年 2500円 + 税

<参考図書>

1. {『みんなの中国語 会話編』電子教材, <http://www.ge.kobegakuin.ac.jp/~hanyuhuihua/index.html>}へのリンク

2. 北京・商務印書館 小学館 『中日辞典 第3版』

小学館 2016年 7500円 + 税

3. 相原茂・石田知子・戸沼市子 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』

同学社 2016年 2500円 + 税

4. 荒川清秀 『CDムック 発音マスター! 読めて書ける中国語』

NHK出版 2010年 952円 + 税

<授業計画>

第1回 第7課 我想吃拉?。

1. 助動詞: “想” “会” “能”

2. 程度補語

3. 「“不但” + A, “而且” + B」

第2回 第8課 你在干什么呢?

1. 動作の進行

2. 前置詞“和”

3. 助動詞“要”

第3回 単元復習(4) 第7課、第8課

1. 助動詞の使い方

2. 程度補語を伴う文

3. 動作が進行中であることを表す文

[練習]

第4回 第9課 你去过其他国家吗?

1. 過去の経験を表す表現

2. 動作の回数を表す表現

3. 動作を行なう場所を表す表現

第5回 第10課 我们坐缆车还是自己爬?

1. 選択疑問文

2. 方向補語

3. 動作や状態の持続を表す表現

第6回 単元復習(5) 第9課、第10課

1. 名詞を修飾する語句の作り方(4)

2. 過去の経験を表す文「...したことがある」

3. 動作の回数を表す語句の使い方

4. 時[とき]や範囲を表わす語句と動作に関する量を表す語句との位置

5. 選択疑問文

6. 方向補語を伴う複合動詞

7. 動作や状態の持続を表す文「動詞 + “着”」

8. 存現文

[練習]

第7回 第1回授業内試験

第7課から第10課, および単元復習(4)(5)について, リスニング試験と音読試験とを? なう。配点はそれぞれ10点ずつで, 合計20点。

試験内容は次の通りとする。

・リスニング試験は第7課から第10課の置替え練習の問答が完成できるかどうかを問う。

・音読試験は漢字だけで書かれた単元復習(4)(5)の課? が正しく音読できるかどうかを問う。

第8回 第11課 你在日本看过京剧吗?

1. 結果補語

2. 可能補語

3. 処置文

第9回 第12課 故宫怎么样?

1. 動作を行なった時・所・方式などを強調する表現

2. 兼語文

3. 近い未来を表す表現

第10回 単元復習(6) 第11課、第12課

1. 結果補語を伴う複合動詞

2. 可能補語を伴う複合動詞

3. 物や情報の受け手や, 利益を受ける対象を示す前置詞“给”の使い方

4. 動詞の重ね型 「ちょっと...してみる」

5. 処置文

6. 兼語文

7. 強調文

8. 近い未来を表す文

[練習]

第11回 第13課 这儿就是王府井大街。

1. 受身文

2. 副詞“就”と“才”

3. 「...と比べると」の言い方

お金の数え方

第12回 第14課 咱们去逛夜市吧。

1. 連動文

2. 前置詞“在”

3. 名詞を修飾する動詞句

第13回 第15課 阿姨, 您包的饺子真好吃。

1. “多 + 動詞 + 数量” 「たくさん...しなさい」

2. 範囲を強く限定する副詞“就”と動詞“爱”

3. 「前置詞“为”」 「...のために」

第14回 単元復習(7) 第13課、第14課、第15課

1. 連動文(3)

2. 受身文「...される」

3. 動詞“爱”の使い方

4. 動詞“比”の使い方

5. 助動詞“得dei”の使い方

6. 前置詞の使い方: “往”・“为了”・“为”・“给”

7. 副詞“就”と“才”の使い方

8. 副詞“好”の使い方

[練習]

第15回 第2回試験

第11課から第15課, および単元復習(6)(7)について, リスニング試験と音読試験とを? なう。配点はそれぞれ10

点ずつで、合計20点。

試験内容は次の通りとする。

・リスニング試験は第11課から第15課の置替え練習の問答が完成できるかどうかを問う。

・音読試験は漢字だけで書かれた単元復習(6)(7)の課? が正しく音読できるかどうかを問う。

2022年度 前期

1.0単位

初級中国語 b 再・ソ

姜 曉麗

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

共通教育科目に属する「初級中国語 b」では、同じく共通教育科? に属する「初級中国語 a」と共に、全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて、広い教養を? につけ、豊かな? 間性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活? してさまざまな問題を発? し、それを解決する? 策を導くことができる」ようになること・「? 分の意? を? 頭や? 書によって表現し、相? の意? を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること、そして「獲得した知識や技能を活? し、国内外において、価値観や意? の異なるさまざまな? と議論し、学びを深め、協働して、社会に役? てることができる」ようになることを? 的とする。

中国や中国語の使われる地域の? 化や社会に関するさまざまな情報を中国語で受信し、? 分の? 場から情報を中国語で発信するすることができるようにするため、この科? では会話体の中国語を材料に、主に中国語を聴く・話すための基礎的能? を? につけることを目指す。

< 到達目標 >

1. 中国語のすべての音節を聞分け、発音することができる。(技能)

2. 簡単な日常挨拶ができる。(知識・技能)

3. 中国語の発音記号であるピンイン(表音ローマ字)を読んで中国語を発音することができる。(知識・技能)

4. 中国語の常用漢字である簡体字で書かれた最も基礎的な単語約500を正しく読み、自分でも書くことができる。(知識・技能)

5. 中国語の基本文型を把握し、自分の力で文を理解し、自分の力で文を聴取り、話し、書くことができる。(知識・技能)

6. 日本中国語検定協会の実施する中国語検定試験(以下、中検と略称)で最も初歩の級である準4級または4級に合格することができる。また、中国教育部(日本の文部科学省に相当)に直属する国家漢語国際推進指導小組弁公室(国家中国語国際推進普及指導グループ事務室)の認定する漢語水平考試(中国語レベル試験, Hanyu Shuipin

g Kaoshi, 以下, HSKと略称)で2級または3級に合格することができる。(技能)

ちなみにHSKの公式サイトに抛れば、HSKの試験の程度は
・2級は「中国語を用いた簡単な日常会話を行うことができ、初級中国語優秀レベルに到達している。大学の第二外国語における第一年度履修程度」

・3級は「生活・学習・仕事などの場面で基本的なコミュニケーションをとることができ、中国旅行の際にも大部分のことに対応できる」とされている。

中検の級とHSKの級とをCEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)に当てはめれば、おおよそ次のようになる。

・中検「準4級」 HSK「1~2級」 CEFR「A1~A2」(6等級あるうちの上から6~5番目)

・中検「4級」 HSK「2~3級」 CEFR「A2~B1」(6等級あるうちの上から5~4番目)

CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)とはヨーロッパにおいて外国語学習者の能力評価時に共通の基準となるものであり、現在のHSKはこれに合致するように設計されている。CEFRの内容は次のとおりである。

・A1: 具体的な欲求を満足させるため、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け舟を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

・A2: ごく基本的な個人的情報や家族情報、買い物、住所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。

・B1: 仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈略のあるテキストを作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べるることができる。

< 授業のキーワード >

中国語、初級、文法、会話、中検準4級・4級、HSK2・3級

< 授業の進め方 >

1. 教科書の会話を漢字だけでノートに書き写す。(予習・授業)

2. 解説を聴いて会話の内容を理解し、発? 練習を繰り返す。(授業・復習)

3.置替え練習を中? とした練習を? ない, ? 型を把握し
定着させる。(授業・復習)

4.? テストを随時実施する。(授業・復習)

<履修するにあたって>

・初級中国語の再履修クラスは, a・ b・ a・
bそれぞれを個別に履修することができる。

・中国語(漢族語・漢語)は, 日本語とは異なる語族に属
する, 日本語とは異なる言語である。このことを常に意
識しながら学習して欲しい。

・発音はひとたび身につけてしまうと, たとえそれが間
違ったものであったとしてもあとから矯正することは非
常に困難である。中国語の発音に不安のある人は, 参考
図書の3に挙げられている『CDムック 発音マスター!

読めて書ける中国語』などを使って自習すると良い。

・初学者向けの中国語科目には, 初級中国語の他に中国
語入門会話も設けられている。すべて中国語を母語とし
る先生によって授業が担当され, 理屈・説明を少なくし,
実践・会話に特化して授業が進められる。会話練習をさ
らに充実させたい人は, 中国語入門会話も併せて履修す
ること薦める。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習をしておけば授業での理解がさらに深まるだろうし,
復習をすれば獲得した知識や技能をさらに固めることが
できる。役に立つ中国語を身につけたいと思うのであれば,
予習・復習を欠かすことはできない。少なくとも30
分程度の時間を毎回の予習・復習それぞれに充ててほし
い。

「参考図書」欄に挙げられている『みんなの中国語
会話編』電? 教材は教科書の内容をスマ
ートフォン・タブレット端末やコンピューターなどでも
学習することができるように作られたもの
であり, インターネットに接続できる環境であればいつ
でもどこでも無料で使うことができる。個
別の箇所ごとに? 声のオン・オフ, ? 本語訳を含む? 字
のオン・オフを切り替えることもできる。

これを? いに活? して欲しい。

< 提出課題など >

授業では? テストを随時実施する。形式は「聴き取り
」・「指定された? 節の? 読」・「空所補充」・「単語
整序」・「?? 中訳」などとする。? 頭による? テスト
に対しては, 授業の中で個別また全体的に指導を? 行う。
筆記による? テストに対しては, 採点し次回の授業で返
却する。

また定期試験とは別に, リスニング問題と? 読問題と
から成る授業内試験を2回? 行う。これに対しては講評
等を? 行わない。

< 成績評価方法・基準 >

・単位を取得するためには10回以上の出席が必要。

・授業中に随時? 行う? テストの結果を20%, 授業時間
内で2回? 行う試験の結果を40%, 定期試験の結果を40%

の割合で成績を評価する。

・定期試験は個別試験として? 行う。

< テキスト >

中山文・池田磨左文・于耀明・傍島史奈・山本透江 『
みんなの中国語 会話編』
白帝社 2013年 2500円+税

< 参考図書 >

1.{『みんなの中国語 会話編』電子教材, <http://www.ge.kobegakuin.ac.jp/~hanyuhuihua/index.html>}への
リンク

2.北京・商務印書館 小学館 『中日辞典 第3版』
小学館 2016年 7500円+税

3.相原茂・石田知子・戸沼市子 『Why?にこたえるはじ
めての中国語の文法書 新訂版』

同学社 2016年 2500円+税

4.荒川清秀 『CDムック 発音マスター! 読めて書け
る中国語』

NHK出版 2010年 952円+税

< 授業計画 >

第1回 第7課 我想吃拉?。

1.助動詞: “想” “会” “能”

2.程度補語

3.「“不但” + A, “而且” + B」

第2回 第8課 你在干什么呢?

1.動作の進行

2.前置詞“和”

3.助動詞“要”

第3回 单元复习(4) 第7課、第8課

1.助動詞の使い方

2.程度補語を伴う文

3.動作が進行中であることを表す文

[練習]

第4回 第9課 你去过其他国家吗?

1.過去の経験を表す表現

2.動作の回数を表す表現

3.動作を行なう場所を表す表現

第5回 第10課 我们坐缆车还是自己爬?

1.選択疑問文

2.方向補語

3.動作や状態の持続を表す表現

第6回 单元复习(5) 第9課、第10課

1.名詞を修飾する語句の作り方(4)

2.過去の経験を表す文「...したことがある」

3.動作の回数を表す語句の使い方

4.時[とき]や範囲を表わす語句と動作に関する量を表す
語句との位置

5.選択疑問文

6.方向補語を伴う複合動詞

7.動作や状態の持続を表す文「動詞 + “着”」

8.存現文

[練習]

第7回 第1回授業内試験

第7課から第10課，および単元復習(4)(5)について，リスニング試験と音読試験とを? なく。配点はそれぞれ10点ずつで，合計20点。

試験内容は次の通りとする。

・リスニング試験は第7課から第10課の置替え練習の問答が完成できるかどうかを問う。

・音読試験は漢字だけで書かれた単元復習(4)(5)の課? が正しく音読できるかどうかを問う。

第8回 第11課 你在日本看过京剧吗?

1. 結果補語

2. 可能補語

3. 処置文

第9回 第12課 故宫怎么样?

1. 動作を行なった時・所・方式などを強調する表現

2. 兼語文

3. 近い未来を表す表現

第10回 単元復習(6) 第11課、第12課

1. 結果補語を伴う複合動詞

2. 可能補語を伴う複合動詞

3. 物や情報の受け手や，利益を受ける対象を示す前置詞“给”の使い方

4. 動詞の重ね型 「ちょっと...してみる」

5. 処置文

6. 兼語文

7. 強調文

8. 近い未来を表す文

[練習]

第11回 第13課 这儿就是王府井大街。

1. 受身文

2. 副詞“就”と“才”

3. 「...と比べると」の言い方

お金の数え方

第12回 第14課 咱们去逛夜市吧。

1. 連動文

2. 前置詞“在”

3. 名詞を修飾する動詞句

第13回 第15課 阿姨，您包的饺子真好吃。

1. “多+動詞+数量” 「たくさん...しなさい」

2. 範囲を強く限定する副詞“就”と動詞“爱”

3. 「前置詞“为”」「...のために」

第14回 単元復習(7) 第13課、第14課、第15課

1. 連動文(3)

2. 受身文「...される」

3. 動詞“爱”の使い方

4. 動詞“比”の使い方

5. 助動詞“得děi”の使い方

6. 前置詞の使い方：“往”・“为了”・“为”・“给”

7. 副詞“就”と“才”の使い方

8. 副詞“好”の使い方

[練習]

第15回 第2回授業内試験

第11課から第15課，および単元復習(6)(7)について，リスニング試験と音読試験とを? なく。配点はそれぞれ10点ずつで，合計20点。

試験内容は次の通りとする。

・リスニング試験は第11課から第15課の置替え練習の問答が完成できるかどうかを問う。

・音読試験は漢字だけで書かれた単元復習(6)(7)の課? が正しく音読できるかどうかを問う。

2022年度 後期

1.0単位

初級中国語 b (会話)ア【総リハ】

池田 磨左文

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

共通教育科目に属する「初級中国語 b」では，同じく共通教育科? に属する「初級中国語 a」と共に，全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて，広い教養を? につけ，豊かな? 問性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活? してさまざまな問題を発? し，それを解決する? 策を導くことができる」ようになること・「? 分の意? を? 頭や? 書によって表現し，相? の意? を理解することで，良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること，そして「獲得した知識や技能を活? し，国内外において，価値観や意? の異なるさまざまな? と議論し，学びを深め，協働して，社会に役? てることができる」ようになることを? 的とする。

中国や中国語の使われる地域の? 化や社会に関するさまざまな情報を中国語で受信し，? 分の? 場から情報を中国語で発信するすることができるようにするため，この科? では会話体の中国語を材料に，主に中国語を聴く・話すための基礎的能? を? につけることを目指す。

< 到達目標 >

1. 中国語のすべての音節を聞分け，発音することができる。(技能)
2. 簡単な日常挨拶ができる。(知識・技能)
3. 中国語の発音記号であるピンイン(表音ローマ字)を読んで中国語を発音することができる。(知識・技能)
4. 中国語の常用漢字である簡体字で書かれた最も基礎的な単語約500を正しく読み，自分でも書くことができる。(知識・技能)
5. 中国語の基本文型を把握し，自分の力で文を理解し，自分の力で文を聴取り，話し，書くことができる。(知識・技能)
6. 日本中国語検定協会の実施する中国語検定試験(以下，

中検と略称)で最も初歩の級である準4級または4級に合格することができる。また、中国教育部(日本の文部科学省に相当)に直属する国家漢語国際推進指導小組弁公室(国家中国語国際推進普及指導グループ事務室)の認定する漢語水平考試(中国語レベル試験, Hanyu Shuiping Kaoshi, 以下, HSKと略称)で2級または3級に合格することができる。(技能)

ちなみにHSKの公式サイトに拠れば, HSKの試験の程度は・2級は「中国語を用いた簡単な日常会話を行うことができ, 初級中国語優秀レベルに到達している。大学の第二外国語における第一年度履修程度」

・3級は「生活・学習・仕事などの場面で基本的なコミュニケーションをとることができ, 中国旅行の際にも大部分のことに対応できる」とされている。

とされている。

中検の級とHSKの級とをCEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)に当てはめれば, おおよそ次のようになる。

・中検「準4級」 HSK「1~2級」 CEFR「A1~A2」(6等級あるうちの上から6~5番目)

・中検「4級」 HSK「2~3級」 CEFR「A2~B1」(6等級あるうちの上から5~4番目)

CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)とはヨーロッパにおいて外国語学習者の能力評価時に共通の基準となるものであり, 現在のHSKはこれに合致するように設計されている。CEFRの内容は次のとおりである。

・A1: 具体的な欲求を満足させるため, よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し, 用いることもできる。自分や他人を紹介することができ, どこに住んでいるか, 誰と知り合いか, 持ち物などの個人的情報について, 質問をしたり, 答えたりできる。もし, 相手がゆっくり, はっきりと話して, 助け舟を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

・A2: ごく基本的な個人的情報や家族情報, 買い物, 住所, 仕事など, 直接的関係がある領域に関する, よく使われる文や表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら, 身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。自分の背景や身の回りの状況や, 直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。

・B1: 仕事, 学校, 娯楽で普段出会うような身近な話題について, 標準的な話し方であれば主要点を理解できる。その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな, たいいていの事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について, 単純な方法で結びつけられた, 脈略のあるテキストを作ることができる。経験, 出来事, 夢, 希望, 野心を説明し, 意見や計画の理由, 説明を短く述べることができる。

<授業のキーワード>

中国語, 初級, 文法, 会話, 中検準4級・4級, HSK2・3級

<授業の進め方>

- 1.教科書の会話を漢字だけでノートに書き写す。(予習・授業)
- 2.解説を聴いて会話の内容を理解し, 発音練習を繰り返す。(授業・復習)
- 3.置替え練習を中? とした練習を? ない, ? 型を把握し定着させる。(授業・復習)
- 4.? テストを随時実施する。(授業・復習)

<履修するにあたって>

・初級中国語は, 一部学部と再履修クラスを除き a・b・a・bの全てを一括して履修しなければならない。

・中国語(漢族語・漢語)は, 日本語とは異なる語族に属する, 日本語とは異なる言語である。このことを常に意識しながら学習して欲しい。

・発音はひとたび身につけてしまうと, たとえそれが間違ったものであったとしてもあとから矯正することは非常に困難である。中国語の発音に不安のある人は, 参考図書に3に挙げられている『CDムック 発音マスター! 読めて書ける中国語』などを使って自習すると良い。

・初学者向けの中国語科目には, 初級中国語の他に中国語入門会話も設けられている。すべて中国語を母語とする先生によって授業が担当され, 理屈・説明を少なくし, 実践・会話に特化して授業が進められる。会話練習をさらに充実させたい人は, 中国語入門会話も併せて履修すること薦める。

<授業時間外に必要な学修>

予習をしておけば授業での理解がさらに深まるだろうし, 復習をすれば獲得した知識や技能をさらに固めることができる。役に立つ中国語を身につけたいと思うのであれば, 予習・復習を欠かすことはできない。少なくとも30分程度の時間を毎回の予習・復習それぞれに充ててほしい。

「参考図書」欄に挙げられている『みんなの中国語 会話編』電? 教材は教科書の内容をスマートフォン・タブレット端末やコンピューターなどでも学習することができるように作られたものであり, インターネットに接続できる環境であればいつでもどこでも無料で使うことができる。個別の箇所ごとに? 声のオン・オフ, ? 本語訳を含む? 字のオン・オフを切り替えることもできる。これを? いに活? してほしい。

<提出課題など>

授業では? テストを随時実施する。形式は「聴き取り」・「指定された? 節の? 読」・「空所補充」・「単語整序」・「?? 中訳」などとする。? 頭による? テストに対しては, 授業の中で個別また全体的に指導を? 行う。筆記による? テストに対しては, 採点し次回の授業で返却する。

また定期試験とは別に, リスニング問題と? 読問題と

から成る授業内試験を2回? なる。これに対しては講評等を? なわない。

<成績評価方法・基準>

- ・単位を取得するためには10回以上の出席が必要。
- ・授業中に随時? なる? テストの結果を20%, 授業時間内で2回? なる試験の結果を40%, 定期試験の結果を40%の割合で成績を評価する。
- ・定期試験は全問マークシート? 式で, 全クラス統? 試験として? なる。

<テキスト>

中山文・池田磨左文・于耀明・傍島史奈・山本透江 『みんなの中国語 会話編』
白帝社 2013年 2500円+税

<参考図書>

1. 『みんなの中国語 会話編』電子教材, <http://www.ge.kobegakuin.ac.jp/~hanyuhuihua/index.html>へのリンク
2. 北京・商務印書館 小学館 『中日辞典 第3版』
小学館 2016年 7500円+税
3. 相原茂・石田知子・戸沼市子 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』
同学社 2016年 2500円+税
4. 荒川清秀 『CDムック 発音マスター! 読めて書ける中国語』
NHK出版 2010年 952円+税

<授業計画>

第1回 第7課 我想吃拉?。

1. 助動詞: “想” “会” “能”
2. 程度補語
3. 「“不但” + A, “而且” + B」

第2回 第8課 你在干什么呢?

1. 動作の進行
2. 前置詞“和”
3. 助動詞“要”

第3回 単元復習(4) 第7課、第8課

1. 助動詞の使い方
2. 程度補語を伴う文
3. 動作が進行中であることを表す文

[練習]

第4回 第9課 你去过其他国家吗?

1. 過去の経験を表す表現
2. 動作の回数を表す表現
3. 動作を行なう場所を表す表現

第5回 第10課 我们坐缆车还是自己爬?

1. 選択疑問文
2. 方向補語
3. 動作や状態の持続を表す表現

第6回 単元復習(5) 第9課、第10課

1. 名詞を修飾する語句の作り方(4)
2. 過去の経験を表す文「...したことがある」

3. 動作の回数を表す語句の使い方

4. 時[とき]や範囲を表わす語句と動作に関する量を表す語句との位置

5. 選択疑問文

6. 方向補語を伴う複合動詞

7. 動作や状態の持続を表す文「動詞 + “着”」

8. 存現文

[練習]

第7回 第1回授業内試験

第7課から第10課, および単元復習(4)(5)について, リスニング試験と音読試験とを? なる。配点はそれぞれ10点ずつで, 合計20点。

試験内容は次の通りとする。

・リスニング試験は第7課から第10課の置替え練習の問答が完成できるかどうかを問う。

・音読試験は漢字だけで書かれた単元復習(4)(5)の課? が正しく音読できるかどうかを問う。

第8回 第11課 你在日本看过京剧吗?

1. 結果補語

2. 可能補語

3. 処置文

第9回 第12課 故宫怎么样?

1. 動作を行なった時・所・方式などを強調する表現

2. 兼語文

3. 近い未来を表す表現

第10回 単元復習(6) 第11課、第12課

1. 結果補語を伴う複合動詞

2. 可能補語を伴う複合動詞

3. 物や情報の受け手や, 利益を受ける対象を示す前置詞“给”の使い方

4. 動詞の重ね型 「ちょっと...してみる」

5. 処置文

6. 兼語文

7. 強調文

8. 近い未来を表す文

[練習]

第11回 第13課 这儿就是王府井大街。

1. 受身文

2. 副詞“就”と“才”

3. 「...と比べると」の言い方

お金の数え方

第12回 第14課 咱们去逛夜市吧。

1. 連動文

2. 前置詞“在”

3. 名詞を修飾する動詞句

第13回 第15課 阿姨, 您包的饺子真好吃。

1. “多 + 動詞 + 数量” 「たくさん...しなさい」

2. 範囲を強く限定する副詞“就”と動詞“爱”

3. 「前置詞“为”」 「...のために」

第14回 単元復習(7) 第13課、第14課、第15課

1. 連動文(3)
2. 受身文「...される」
3. 動詞“愛”の使い方
4. 動詞“比”の使い方
5. 助動詞“得děi”の使い方
6. 前置詞の使い方：“往”・“为了”・“为”・“给”
7. 副詞“就”と“才”の使い方
8. 副詞“好”の使い方

[練習]

第15回 第2回授業内試験

第11課から第15課，および単元復習(6)(7)について，リスニング試験と音読試験とを？なう。配点はそれぞれ10点ずつで，合計20点。

試験内容は次の通りとする。

- ・リスニング試験は第11課から第15課の置替え練習の問答が完成できるかどうかを問う。
- ・音読試験は漢字だけで書かれた単元復習(6)(7)の課？が正しく音読できるかどうかを問う。

2022年度 前期

1.0単位

初級ドイツ語 a 再・ラ

村上 嘉希

< 授業の方法 >

対面授業(演習)

< 授業の目的 >

ドイツ語の言語運用能力を育成しながら、日常生活を中心にドイツ語圏の文化に触れていきましょう。その学習過程で、受講者自身の文化を客観的、相対的にとらえる態度や観点を育てます。異なる文化背景を持つ人たちとのコミュニケーションのあり方を考え、みずからの行動にフィードバックする能力を身につけ付けましょう。これは、全学ディプロマ・ポリシーの「1. 幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる」にそっています。

< 到達目標 >

この授業は半期のドイツ語学習を通して、ごく簡単な表現が聴き取れ、基本的な語句で自分の名前や気持ちが伝えられるようになること、さらに日常生活での基本的な表現を理解し、ごく簡単なやり取りができるようになることを目的とします。これは、『ヨーロッパ言語共通参照枠』(略称CEFR)に照らせば、A1/1レベルに相当するドイツ語運用能力です。

1. よく使われる日常的表現と基本的な言い回しを理解し、用いることができる。
2. 自分や他人を紹介することができる。
3. どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物など

の個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。
4. もし相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

CEFR「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠」は、ゲーテ・インスティトゥートの公式HPによれば以下ようになります。

A1: まず、日常生活の場面で短く簡単なドイツ語表現が理解でき、自分でも言えるようになります。例えば自己紹介ができ、相手に簡単な質問をしたり、それに答えたりできます。食事や買い物や旅行の場面で、相手がゆっくり明瞭に話してくれるなら、コミュニケーションが図れます。

A2: 毎日の生活で頻繁に使われる言葉や表現に慣れ、仕事や家族や故郷など、自分に関する事や日常的で具体的な生活に関する事なら、ドイツ語でコミュニケーションが図れます。また日常的に必要な事柄が、簡単な文章の形で表現できるようになります。

B1: 明瞭な通常のドイツ語であれば、仕事や趣味や生活など日常的な事柄についてのドイツ語の発言や文章が理解できます。例えば、旅行中に会おうさまざまな出来事に対して、必要な対応ができ、また、自分の経験や夢・希望・目標などについて話すことができます。さらに、自分に身近なテーマあれば、意見を述べたり、その論拠を説明したりできます。

B2: 抽象的で複雑なドイツ語で表現されても、その趣旨が理解できます。自分の仕事や専門分野に関する事柄なら、ドイツ語で行われる議論の内容が理解できるだけでなく、自分の立場や意見を述べたり、あるいはひとつの意見に対する利点と不利点を論述したりできます。日常的ないくつかのテーマでは、広い範囲にわたって明確に意見と情報が交換でき、ドイツ語を母国語とする人との間で、相互に困難を感じずに自然な会話が成立します。

C1: ほとんどのテーマで、高度なドイツ語表現や長い文章が理解でき、また、その言外のニュアンスも感じ取れます。ドイツ人社会で、社会人として職業についてたり大学で学んだりするのに必要十分な語彙と表現を使いこなす、複雑で微妙な内容を正確なドイツ語で表現することができます。

C2: 社会生活上、不自由なくすべてのことに対応できるドイツ語力があります。さまざまな分野の多様なテーマに関して、読む、書く、話す、聞くことが困難なくでき、また、ニュアンスにとんだ自然なドイツ語を正確に使うことができます。

< 授業のキーワード >

コミュニケーション能力の育成、複数の言語・文化の多様性を理解する国際性の習得

< 授業の進め方 >

初級ドイツ語の再履修クラスでは a・bとも共通の教科書を使用しますが、リレー形式では授業を行ないません。aとbとで扱う領域を分け、それぞれを独立させた形で授業を進めて行きます。初級ドイツ語 aでは文法学習の練習問題を入れながら、まとまったテキストを読む力を養成します。

ドイツ語圏の社会や文化についての理解も深めていきましょう。

授業中に随時小テストを行ないます。小テストの成績は成績評価の対象になります。

< 履修するにあたって >

この科目を履修するにあたって、宿題にきちんと取り組むことはもちろんですが、前回の授業内容をしっかり復習した上で授業に臨む習慣をつけるようにしてください。新しい課に入る前には、教科書巻末にある「自己チェックリスト」を使って、すでに学習した内容が理解できているかどうかを自己診断しておきましょう。ワークブックが付いていない方の教科書を購入してください。

課題として出される宿題の提出状況や随時行なわれる小テストの成績は、成績評価の対象になります。

< 授業時間外に必要な学修 >

原則として、毎回宿題があります。次回の授業までに取り組んでおいてください。また授業で学んだ学習事項を復習する習慣を身に付けましょう。宿題と復習で1時間くらいを目安に、授業時間外の学習時間を取ってください。

< 提出課題など >

宿題は必ず期限までに提出してください。宿題に取り組んでいることを前提として、授業は進められます。宿題の提出状況は、成績評価の対象になります。提出物については解答例の提示など、宿題の内容にそってフィードバックします。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の自発的な発言回数とその内容など、授業への積極的な参加 20% + 宿題の提出とその内容 20% + 小テストの成績 20% + 定期試験 40%

定期試験では、「初級ドイツ語 a 再」は、文法知識とその運用能力、テキストを読む力を測ります。

出席10回以上の者の成績はS・A・B・C・D、出席10回未満の者は「/」。

A評価以上の者の割合は、D評価以上の者を母数として合わせて概ね30%以内とする。

S評価は、A評価相当の中でも特に優れた者に対してのみ、これを与える。

< テキスト >

藤原三枝子他著『スタート! 1 コミュニケーション活

動で学ぶドイツ語』(三修社 2019年) 定価2600円 + 税

< 参考図書 >

授業の内容・進度に合わせて、適宜紹介します

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

ドイツ語を話す国々と主要都市、挨拶

第2回 あいさつする、自己紹介する

<1課の言語行為> あいさつする、自分と他者を紹介する (名前・出身・住まい・言語・専攻)

<1課の文法項目> 人称代名詞(1)、動詞の現在人称変化: 規則動詞、疑問詞付き疑問文、Ja/Neinで答える疑問文、語順(1)

第3回 自己と他者を紹介する

<1課の言語行為>あいさつする、自分と他者を紹介する (名前・出身・住まい・言語・専攻)

<1課の文法項目> 人称代名詞(1)、動詞の現在人称変化: 規則動詞、疑問詞付き疑問文、Ja/Neinで答える疑問文、語順(1)

第4回 プロフィールを聴く、書く

<1課の言語行為>あいさつする、自分と他者を紹介する (名前・出身・住まい・言語・専攻)

<1課の文法項目> 人称代名詞(1)、動詞の現在人称変化: 規則動詞、疑問詞付き疑問文、Ja/Neinで答える疑問文、語順(1)

第5回 体調をたずねる、答える

<1課の言語行為>あいさつする、自分と他者を紹介する (名前・出身・住まい・言語・専攻)

<1課の文法項目> 人称代名詞、動詞の現在人称変化、規則動詞、疑問詞付き疑問文、Ja/Neinで答える疑問文、語順(1)

第6回 余暇の過ごし方を話す

<2課の言語行為> 自由時間の過ごし方について話す、年齢・住所・電話番号を伝える 申込用紙を書く、つづりを言う、職業を言う、自己紹介のメールを書く、統計を読む(1)

<2課の文法項目> 人称代名詞(2)、動詞の現在人称変化: 不規則動詞、gernの使い方、nichtの使い方、男性形と女性形

第7回 申込書を書く

<2課の言語行為> 自由時間の過ごし方について話す、年齢・住所・電話番号を伝える 申込用紙を書く、つづりを言う、職業を言う、自己紹介のメールを書く、統計を読む(1)

<2課の文法項目> 人称代名詞(2)、動詞の現在人称変化: 不規則動詞、gernの使い方、nichtの使い方、男性形と女性形

第8回 復習

1課・2課の前半で学習した内容について、復習する。

第9回 数字を学ぶ

<2課の言語行為> 自由時間の過ごし方について話す、年齢・住所・電話番号を伝える 申込用紙を書く、つづりを言う、職業を言う、自己紹介のメールを書く、統計を読む(1)

<2課の文法項目> 人称代名詞(2)、動詞の現在人称変化：不規則動詞、gernの使い方、nichtの使い方、男性形と女性形

第10回 Eメールを書く、ドイツ人の余暇の過ごし方について読み取る

<2課の言語行為> 自由時間の過ごし方について話す、年齢・住所・電話番号を伝える 申込用紙を書く、つづりを言う、職業を言う、自己紹介のメールを書く、統計を読む(1)

<2課の文法項目> 人称代名詞(2)、動詞の現在人称変化：不規則動詞、gernの使い方、nichtの使い方、男性形と女性形

<ドイツ事情> Was machen die Deutschen gern?

第11回 時刻を学ぶ

<3課の言語行為>時間表現を使う、日常の行動について表現する、一週間の予定を述べる、会う約束をする、できること・しなければならないこと・したいことを表現する

<3課の文法項目>分離動詞、語順(2)、話法の助動詞

k?nnen / m?ssen /

m?chten

第12回 一日の過ごし方について話す・書く

<3課の言語行為>時間表現を使う、日常の行動について表現する、一週間の予定を述べる、会う約束をする、できること・しなければならないこと・したいことを表現する

<3課の文法項目>分離動詞、語順(2)、話法の助動詞

k?nnen / m?ssen /

m?chten

第13回 一週間の予定について話す・書く

<3課の言語行為>時間表現を使う、日常の行動について表現する、一週間の予定を述べる、会う約束をする、できること・しなければならないこと・したいことを表現する

<3課の文法項目>分離動詞、語順(2)、話法の助動詞

k?nnen / m?ssen /

m?chten

第14回 理想の1日について読む・書く、小学生の日常生活について読み解く

<3課の言語行為>時間表現を使う、日常の行動について表現する、一週間の予定を述べる、会う約束をする、できること・しなければならないこと・したいことを表現する

<3課の文法項目>分離動詞、語順(2)、話法の助動詞

k?nnen / m?ssen /

m?chten

<ドイツ事情> Mein Tag: Eine Sch?lerin erz?hlt.

第15回 総復習

1課から3課を総復習し、学習した内容の定着を図る。

2022年度 後期

1.0単位

初級ドイツ語 a 再・ル

志田 章

<授業の方法>

対面授業(演習)

<授業の目的>

ドイツ語の言語運用能力を育成しながら、日常生活を中心にドイツ語圏の文化に触れていきましょう。その学習過程で、受講者自身の文化を客観的、相対的にとらえる態度や観点を育てます。異なる文化背景を持つ人たちとのコミュニケーションのあり方を考え、みずからの行動にフィードバックする能力を身につけ付けましょう。これは、全学ディプロマ・ポリシーの「1. 幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる」にそっています。

<到達目標>

この授業は半期のドイツ語学習を通して、ごく簡単な表現が聞き取れ、基本的な語句で自分の名前や気持ち伝えられるようになること、さらに日常生活での基本的な表現を理解し、ごく簡単なやり取りができるようになることを目的とします。これは、『ヨーロッパ言語共通参照枠』(略称CEFR)に照らせば、A1/1レベルに相当するドイツ語運用能力です。

1. よく使われる日常的表現と基本的な言い回しを理解し、用いることができる。
2. 自分や他人を紹介することができる。
3. どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。
4. もし相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

CEFR「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠」は、ゲーテ・インスティトゥートの公式HPによれば以下ようになります。

A1: まず、日常生活の場面で短く簡単なドイツ語表現が理解でき、自分でも言えるようになります。例えば自己紹介ができ、相手に簡単な質問をしたり、それに答えたりできます。食事や買い物や旅行の場面で、相手がゆっくり明瞭に話してくれるなら、コミュニケーションが図れます。

A2: 毎日の生活で頻繁に使われる言葉や表現に慣れ、仕事や家族や故郷など、自分に関する事や日常的で具体的な生活に関する事なら、ドイツ語でコミュニケーションが図れます。また日常的に必要な事柄が、簡単な文章の形で表現できるようになります。

B1: 明瞭な通常のドイツ語であれば、仕事や趣味や生活など日常的な事柄についてのドイツ語の発言や文章が理解できます。例えば、旅行中に会うさまざまな出来事に対して、必要な対応ができ、また、自分の経験や夢・希望・目標などについて話すことができます。さらに、自分に身近なテーマがあれば、意見を述べたり、その論拠を説明したりできます。

B2: 抽象的で複雑なドイツ語で表現されても、その趣旨が理解できます。自分の仕事や専門分野に関する事柄なら、ドイツ語で行われる議論の内容が理解できるだけでなく、自分の立場や意見を述べたり、あるいはひとつの意見に対する利点と不利点を論述したりできます。日常的ないくつかのテーマでは、広い範囲にわたって明確に意見と情報が交換でき、ドイツ語を母国語とする人との間で、相互に困難を感じずに自然な会話が成立します。

C1: ほとんどのテーマで、高度なドイツ語表現や長い文章が理解でき、また、その言外のニュアンスも感じ取れます。ドイツ人社会で、社会人として職業についたり大学で学んだりするのに必要十分な語彙と表現を使いこなす、複雑で微妙な内容を正確なドイツ語で表現することができます。

C2: 社会生活上、不自由なくすべてのことに対応できるドイツ語力があります。さまざまな分野の多様なテーマに関して、読む、書く、話す、聞くことが困難なくでき、また、ニュアンスにとんだ自然なドイツ語を正確に使うことができます。

< 授業のキーワード >

コミュニケーション能力の育成、複数の言語・文化の多様性を理解する国際性の習得

< 授業の進め方 >

初級ドイツ語の再履修クラスでは a・bとも共通の教科書を使用しますが、リレー形式では授業を行ないません。aとbとで扱う領域を分け、それぞれを独立させた形で授業を進めて行きます。再履修初級ドイツ語 aでは文法学習の練習問題を入れながら、まとまったテキストを読む力を養成します。ビデオやDVD等を通じてドイツ語圏の社会や文化についての理解も深めていきましょう。

授業中に随時小テストを行ないます。小テストの成績は成績評価の対象になります。

< 履修するにあたって >

この科目を履修するにあたって、宿題にきちんと取り組むことはもちろんですが、前回の授業内容をしっかり復習した上で授業に臨む習慣をつけるようにしてください。新しい課に入る前には、教科書巻末にある「自己チェックリスト」を使って、すでに学習した内容が理解できているかどうかを自己診断しておきましょう。ワークブックが付いていない方の教科書を購入してください。課題として出される宿題の提出状況や随時行なわれる小テストの成績は、成績評価の対象になります。授業への欠席回数が三分の一を超えた場合、単位は認められません。

第一回目の授業には必ず出席すること。授業内容・授業方法、評価基準についての全体的な説明があります。

< 授業時間外に必要な学修 >

原則として、毎回宿題があります。次回の授業までに取り組んでおいてください。また授業で学んだ学習事項を復習する習慣を身に付けましょう。宿題と復習で1時間くらいを目安に、授業時間外の学習時間を取ってください。

< 提出課題など >

宿題は必ず期限までに提出してください。宿題に取り組んでいることを前提として、授業は進められます。宿題の提出状況は、成績評価の対象になります。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の自発的な発言回数とその内容など、授業への積極的な参加 20% + 宿題の提出とその内容 20% + 小テストの成績 20% + 定期試験 40%

定期試験では、「初級ドイツ語 a 再」は、文法知識とその運用能力、テキストを読む力を測ります。

出席10回以上の者の成績はS・A・B・C・D、出席10回未満の者は「/」。

A評価以上の者の割合は、D評価以上の者を母数として合わせて概ね30%以内とする。

S評価は、A評価相当の中でも特に優れた者に対してのみ、これを与える。

< テキスト >

藤原三枝子他著『スタート! 1 コミュニケーション活動で学ぶドイツ語』(三修社 2019年) 定価2600円 + 税

< 参考図書 >

授業の内容・進度に合わせて、適宜紹介します

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

ドイツ語を話す国々と主要都市、挨拶

第2回 あいさつする、自己紹介する

<1課の言語行為> あいさつする、自分と他者を紹介する(名前・出身・住まい・言語・専攻)

<1課の文法項目> 人称代名詞(1)、動詞の現在人称変化: 規則動詞、疑問詞付き疑問文、Ja/Neinで答える疑

問文、語順 (1)

第3回 自己と他者を紹介する

<1課の言語行為>あいさつする、自分と他者を紹介する
(名前・出身・住まい・言語・専攻)

<1課の文法項目> 人称代名詞 (1)、動詞の現在人称変化：規則動詞、疑問詞付き疑問文、Ja/Neinで答える疑問文、語順 (1)

第4回 プロフィールを聴く、書く

<1課の言語行為>あいさつする、自分と他者を紹介する
(名前・出身・住まい・言語・専攻)

<1課の文法項目> 人称代名詞 (1)、動詞の現在人称変化：規則動詞、疑問詞付き疑問文、Ja/Neinで答える疑問文、語順 (1)

第5回 体調をたずねる、答える

<1課の言語行為>あいさつする、自分と他者を紹介する
(名前・出身・住まい・言語・専攻)

<1課の文法項目> 人称代名詞、動詞の現在人称変化、規則動詞、疑問詞付き疑問文、Ja/Neinで答える疑問文、語順 (1)

第6回 余暇の過ごし方を話す

<2課の言語行為> 自由時間の過ごし方について話す、年齢・住所・電話番号を伝える 申込用紙を書く、つづりを言う、職業を言う、自己紹介のメールを書く、統計を読む(1)

<2課の文法項目> 人称代名詞 (2)、動詞の現在人称変化：不規則動詞、gernの使い方、nichtの使い方、男性形と女性形

第7回 申込書を書く

<2課の言語行為> 自由時間の過ごし方について話す、年齢・住所・電話番号を伝える 申込用紙を書く、つづりを言う、職業を言う、自己紹介のメールを書く、統計を読む(1)

<2課の文法項目> 人称代名詞 (2)、動詞の現在人称変化：不規則動詞、gernの使い方、nichtの使い方、男性形と女性形

第8回 復習と中間試験

1課・2課の前半で学習した内容について、おもに文法と読解の面における定着度を測る。

第9回 中間試験の結果とフィードバック、数字を学ぶ

<2課の言語行為> 自由時間の過ごし方について話す、年齢・住所・電話番号を伝える 申込用紙を書く、つづりを言う、職業を言う、自己紹介のメールを書く、統計を読む(1)

<2課の文法項目> 人称代名詞 (2)、動詞の現在人称変化：不規則動詞、gernの使い方、nichtの使い方、男性形と女性形

第10回 Eメールを書く、ドイツ人の余暇の過ごし方について読み取る

<2課の言語行為> 自由時間の過ごし方について話す、年齢・住所・電話番号を伝える 申込用紙を書く、つづ

りを言う、職業を言う、自己紹介のメールを書く、統計を読む(1)

<2課の文法項目> 人称代名詞 (2)、動詞の現在人称変化：不規則動詞、gernの使い方、nichtの使い方、男性形と女性形

<ドイツ事情> Was machen die Deutschen gern?

第11回 時刻を学ぶ

<3課の言語行為>時間表現を使う、日常の行動について表現する、一週間の予定を述べる、会う約束をする、できること・しなければならないこと・したいことを表現する

<3課の文法項目>分離動詞、語順 (2)、話法の助動詞 k?nnen / m?ssen / m?chten

第12回 一日の過ごし方について話す・書く

<3課の言語行為>時間表現を使う、日常の行動について表現する、一週間の予定を述べる、会う約束をする、できること・しなければならないこと・したいことを表現する

<3課の文法項目>分離動詞、語順 (2)、話法の助動詞 k?nnen / m?ssen / m?chten

第13回 一週間の予定について話す・書く

<3課の言語行為>時間表現を使う、日常の行動について表現する、一週間の予定を述べる、会う約束をする、できること・しなければならないこと・したいことを表現する

<3課の文法項目>分離動詞、語順 (2)、話法の助動詞 k?nnen / m?ssen / m?chten

第14回 理想の1日について読む・書く、小学生の日常生活について読み解く

<3課の言語行為>時間表現を使う、日常の行動について表現する、一週間の予定を述べる、会う約束をする、できること・しなければならないこと・したいことを表現する

<3課の文法項目>分離動詞、語順 (2)、話法の助動詞 k?nnen / m?ssen / m?chten

<ドイツ事情> Mein Tag: Eine Sch?lerin erz?hlt.

第15回 総復習

1課から3課を総復習し、学習した内容の定着を図る。

2022年度 前期

1.0単位

初級ドイツ語 a (総合的コミュニケーション)E【人文】

森田 昌美

< 授業の方法 >

対面授業(演習)

< 授業の目的 >

ドイツ語の言語運用能力を育成しながら、日常生活を中心にドイツ語圏の文化に触れていきましょう。その学習過程で、受講者自身の文化を客観的、相対的にとらえる態度や観点を育てます。異なる文化背景を持つ人たちのコミュニケーションのあり方を考え、みずからの行動にフィードバックする能力を身につけ付けましょう。これは、全学ディプロマ・ポリシーの「1. 幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる」にそっています。

< 到達目標 >

この授業は、初級ドイツ語 bと緊密に連携した半期のドイツ語学習を通して、ごく簡単な表現が聴き取れ、基本的な語句で自分の名前や気持ちが伝えられるようになること、さらに日常生活での基本的な表現を理解し、ごく簡単なやり取りができるようになることを目的とします。これは、『ヨーロッパ言語共通参照枠』(略称CEFR)に照らせば、A1/1レベルに相当するドイツ語運用能力です。

1. よく使われる日常的表現と基本的な言い回しを理解し、用いることができる。
2. 自分や他人を紹介することができる。
3. どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。
4. もし相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

CEFR「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠」は、ゲーテ・インスティトゥートの公式HPによれば以下ようになります。

A1: まず、日常生活の場面で短く簡単なドイツ語表現が理解でき、自分でも言えるようになります。例えば自己紹介ができ、相手に簡単な質問をしたり、それに答えたりできます。食事や買い物や旅行の場面で、相手がゆっくり明瞭に話してくれるなら、コミュニケーションが図れます。

A2: 毎日の生活で頻繁に使われる言葉や表現に慣れ、仕

事や家族や故郷など、自分に関する事や日常的で具体的な生活に関する事なら、ドイツ語でコミュニケーションが図れます。また日常的に必要な事柄が、簡単な文章の形で表現できるようになります。

B1: 明瞭な通常のドイツ語であれば、仕事や趣味や生活など日常的な事柄についてのドイツ語の発言や文章が理解できます。例えば、旅行中に出会うさまざまな出来事に対して、必要な対応ができ、また、自分の経験や夢・希望・目標などについて話すことができます。さらに、自分に身近なテーマがあれば、意見を述べたり、その論拠を説明したりできます。

B2: 抽象的で複雑なドイツ語で表現されても、その趣旨が理解できます。自分の仕事や専門分野に関する事柄なら、ドイツ語で行われる議論の内容が理解できるだけでなく、自分の立場や意見を述べたり、あるいはひとつの意見に対する利点と不利点を論述したりできます。日常的ないくつかのテーマでは、広い範囲にわたって明確に意見と情報が交換でき、ドイツ語を母国語とする人との間で、相互に困難を感じずに自然な会話が成立します。

C1: ほとんどのテーマで、高度なドイツ語表現や長い文章が理解でき、また、その言外のニュアンスも感じ取れます。ドイツ人社会で、社会人として職業についたり大学で学んだりするのに必要十分な語彙と表現を使いこなす、複雑で微妙な内容を正確なドイツ語で表現することができます。

C2: 社会生活上、不自由なくすべてのことに対応できるドイツ語力があります。さまざまな分野の多様なテーマに関して、読む、書く、話す、聞くことが困難なくでき、また、ニュアンスにとんだ自然なドイツ語を正確に使うことができます。

< 授業のキーワード >

コミュニケーション能力の育成、複数の言語・文化の多様性を理解する国際性の習得

< 授業の進め方 >

初級ドイツ語では a・bとも共通の教科書を使用します。aとbで2名の担当教員が授業内容について緊密に連絡を取り合いながら、リレー形式で授業を進めていきます。ドイツ語圏の社会や文化についての理解も深めていきましょう。

授業中に随時小テストを行いません。小テストの成績は成績評価の対象になります。

< 履修するにあたって >

この科目を履修するにあたって、宿題にきちんと取り組むことはもちろんですが、前回の授業内容をしっかり復習した上で授業に臨む習慣をつけるようにしてください。新しい課に入る前には、教科書巻末にある「自己チェッ

クリスト」を使って、すでに学習した内容が理解できているかどうかを自己診断しておきましょう。教科書とワークブックを必ず購入してください。

課題として出される宿題の提出状況や随時行なわれる小テストの成績は、成績評価の対象になります。なお、第一回目の授業には必ず出席すること。授業内容・授業方法、評価基準についての全体的な説明があります。

< 授業時間外に必要な学修 >

原則として、毎回宿題があります。次回の授業までに取り組んでおいてください。また授業で学んだ学習事項を復習する習慣を身に付けましょう。宿題と復習で1時間くらいを目安に、授業時間外の学習時間を取ってください。

< 提出課題など >

宿題は必ず期限までに提出してください。宿題に取り組んでいることを前提として、授業は進められます。提出物については、添削や解答例の提示など、宿題の内容にそってフィードバックします。なお宿題の提出状況は、成績評価の対象になります。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の自発的な発言回数とその内容など、授業への積極的な参加 20% + 宿題の提出とその内容 20% + 小テストの成績 20% + 定期試験 40%

定期試験では、「初級ドイツ語 a」は、文法知識とその運用能力、テキストを読む力を測ります。

出席10回以上の者の成績はS・A・B・C・D、出席10回未満の者は「/」。

A評価以上の者の割合は、D評価以上の者を母数として合わせて概ね30%以内とする。

S評価は、A評価相当の中でも特に優れた者に対してのみ、これを与える。

< テキスト >

1. 藤原三枝子他著『スタート! 1 コミュニケーション活動で学ぶドイツ語』(三修社 2019年) 定価2600円 + 税

2. 『スタート! 1 ワークブック コミュニケーション活動で学ぶドイツ語』(三修社 2019年) 定価1000円 + 税

なお、セット購入価格があります。購入時に確認してください。

< 参考図書 >

授業の内容・進度に合わせて、適宜紹介します

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

ドイツ語を話す国々と主要都市、挨拶

第2回 あいさつする、自己紹介する

<1課の言語行為> あいさつする、自分と他者を紹介する (名前・出身・住まい・言語・専攻)

<1課の文法項目> 人称代名詞(1)、動詞の現在人称変化: 規則動詞、疑問詞付き疑問文、Ja/Neinで答える疑

問文、語順(1)

第3回 自己と他者を紹介する

<1課の言語行為> あいさつする、自分と他者を紹介する (名前・出身・住まい・言語・専攻)

<1課の文法項目> 人称代名詞(1)、動詞の現在人称変化: 規則動詞、疑問詞付き疑問文、Ja/Neinで答える疑問文、語順(1)

第4回 プロフィールを聴く、書く

<1課の言語行為> あいさつする、自分と他者を紹介する (名前・出身・住まい・言語・専攻)

<1課の文法項目> 人称代名詞(1)、動詞の現在人称変化: 規則動詞、疑問詞付き疑問文、Ja/Neinで答える疑問文、語順(1)

第5回 体調をたずねる、答える

<1課の言語行為> あいさつする、自分と他者を紹介する (名前・出身・住まい・言語・専攻)

<1課の文法項目> 人称代名詞、動詞の現在人称変化、規則動詞、疑問詞付き疑問文、Ja/Neinで答える疑問文、語順(1)

第6回 余暇の過ごし方を話す

<2課の言語行為> 自由時間の過ごし方について話す、年齢・住所・電話番号を伝える 申込用紙を書く、つづりを言う、職業を言う、自己紹介のメールを書く、統計を読む(1)

<2課の文法項目> 人称代名詞(2)、動詞の現在人称変化: 不規則動詞、gernの使い方、nichtの使い方、男性形と女性形

第7回 申込書を書く

<2課の言語行為> 自由時間の過ごし方について話す、年齢・住所・電話番号を伝える 申込用紙を書く、つづりを言う、職業を言う、自己紹介のメールを書く、統計を読む(1)

<2課の文法項目> 人称代名詞(2)、動詞の現在人称変化: 不規則動詞、gernの使い方、nichtの使い方、男性形と女性形

第8回 復習

1課・2課の前半で学習した内容について復習する。

第9回 数字を学ぶ

<2課の言語行為> 自由時間の過ごし方について話す、年齢・住所・電話番号を伝える 申込用紙を書く、つづりを言う、職業を言う、自己紹介のメールを書く、統計を読む(1)

<2課の文法項目> 人称代名詞(2)、動詞の現在人称変化: 不規則動詞、gernの使い方、nichtの使い方、男性形と女性形

第10回 Eメールを書く、ドイツ人の余暇の過ごし方について読み取る

<2課の言語行為> 自由時間の過ごし方について話す、年齢・住所・電話番号を伝える 申込用紙を書く、つづりを言う、職業を言う、自己紹介のメールを書く、統計

を読む(1)

<2課の文法項目> 人称代名詞(2)、動詞の現在人称変化：不規則動詞、gernの使い方、nichtの使い方、男性形と女性形

<ドイツ事情> Was machen die Deutschen gern?

第11回 時刻を学ぶ

<3課の言語行為>時間表現を使う、日常の行動について表現する、一週間の予定を述べる、会う約束をする、できること・しなければならないこと・したいことを表現する

<3課の文法項目>分離動詞、語順(2)、話法の助動詞

k?nnen / m?ssen /

m?chten

第12回 一日の過ごし方について話す・書く

<3課の言語行為>時間表現を使う、日常の行動について表現する、一週間の予定を述べる、会う約束をする、できること・しなければならないこと・したいことを表現する

<3課の文法項目>分離動詞、語順(2)、話法の助動詞

k?nnen / m?ssen /

m?chten

第13回 一週間の予定について話す・書く

<3課の言語行為>時間表現を使う、日常の行動について表現する、一週間の予定を述べる、会う約束をする、できること・しなければならないこと・したいことを表現する

<3課の文法項目>分離動詞、語順(2)、話法の助動詞

k?nnen / m?ssen /

m?chten

第14回 理想の1日について読む・書く、小学生の日常生活について読み解く

<3課の言語行為>時間表現を使う、日常の行動について表現する、一週間の予定を述べる、会う約束をする、できること・しなければならないこと・したいことを表現する

<3課の文法項目>分離動詞、語順(2)、話法の助動詞

k?nnen / m?ssen /

m?chten

<ドイツ事情> Mein Tag: Eine Sch?lerin erz?hlt.

第15回 総復習

1課から3課を総復習し、学習した内容の定着を図る。

2022年度 後期

1.0単位

初級ドイツ語 b 再・シ

井口 真一

<授業の方法>

対面授業(演習)

<授業の目的>

ドイツ語の言語運用能力を育成しながら、日常生活を中心にドイツ語圏の文化に触れていきましょう。その学習過程で、受講者自身の文化を客観的、相対的にとらえる態度や観点を育てます。異なる文化背景を持つ人たちとのコミュニケーションのあり方を考え、みずからの行動にフィードバックする能力を身につけ付けましょう。これは、全学ディプロマ・ポリシーの「1. 幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる」にそっています。

<到達目標>

この授業は半期のドイツ語学習を通して、ごく簡単な表現が聴き取れ、基本的な語句で自分の名前や気持ちが伝えられるようになること、さらに日常生活での基本的な表現を理解し、ごく簡単なやり取りができるようになることを目的とします。これは、『ヨーロッパ言語共通参照枠』(略称CEFR)に照らせば、A1/1レベルに相当するドイツ語運用能力です。

1. よく使われる日常的表現と基本的な言い回しを理解し、用いることができる。
2. 自分や他人を紹介することができる。
3. どこに住んでいるか、誰と知り合いが、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。
4. もし相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

CEFR「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠」は、ゲーテ・インスティトゥートの公式HPによれば以下ようになります。

A1: まず、日常生活の場面で短く簡単なドイツ語表現が理解でき、自分でも言えるようになります。例えば自己紹介ができ、相手に簡単な質問をしたり、それに答えたりできます。食事や買い物や旅行の場面で、相手がゆっくり明瞭に話してくれるなら、コミュニケーションが図れます。

A2: 毎日の生活で頻繁に使われる言葉や表現に慣れ、仕事や家族や故郷など、自分に関する事や日常的で具体的な生活に関する事なら、ドイツ語でコミュニケーションが図れます。また日常的に必要な事柄が、簡単な文章の形で表現できるようになります。

B1: 明瞭な通常のドイツ語であれば、仕事や趣味や生活など日常的な事柄についてのドイツ語の発言や文章が理解できます。例えば、旅行中に出会うさまざまな出来事に対して、必要な対応ができ、また、自分の経験や夢・希望・目標などについて話すことができます。さらに、自分に身近なテーマがあれば、意見を述べたり、その論拠

を説明したりできます。

B2: 抽象的で複雑なドイツ語で表現されても、その趣旨が理解できます。自分の仕事や専門分野に関する事柄なら、ドイツ語で行われる議論の内容が理解できるだけでなく、自分の立場や意見を述べたり、あるいはひとつの意見に対する利点と不利点を論述したりできます。日常的ないくつかのテーマでは、広い範囲にわたって明確に意見と情報が交換でき、ドイツ語を母国語とする人との間で、相互に困難を感じずに自然な会話が成立します。

C1: ほとんどのテーマで、高度なドイツ語表現や長い文章が理解でき、また、その言外のニュアンスも感じ取れます。ドイツ人社会で、社会人として職業についたり大学で学んだりするのに必要十分な語彙と表現を使いこなす、複雑で微妙な内容を正確なドイツ語で表現することができます。

C2: 社会生活上、不自由なくすべてのことに対応できるドイツ語力があります。さまざまな分野の多様なテーマに関して、読む、書く、話す、聞くことが困難なくでき、また、ニュアンスにとんだ自然なドイツ語を正確に使うことができます。

< 授業のキーワード >

コミュニケーション能力の育成、複数の言語・文化の多様性を理解する国際性の習得

< 授業の進め方 >

初級ドイツ語 bの再履修クラスでは a・ bとも共通の教科書を使用しますが、リレー形式では授業を行いません。 aと bとで扱う領域を分け、それぞれを独立させた形で授業を進めて行きます。初級ドイツ語 bでは、会話・コミュニケーション能力の育成に重点を置きます。会話と言っても、双方向のコミュニケーションと考えてください。会話は話すことに留まりません。相手の意図をくみ取るためには、聴く力を伸ばすこと、ポイントをメモしたり、相手のメッセージに、返事のメールを送ることも必要になってきます。広い視野から、会話・コミュニケーション能力を捉えてください。

授業中に随時小テストを行いません。小テストの成績は成績評価の対象になります。

< 履修するにあたって >

この科目を履修するにあたって、宿題にきちんと取り組むことはもちろんですが、前回の授業内容をしっかり復習した上で授業に臨む習慣をつけるようにしてください。新しい課に入る前には、教科書巻末にある「自己チェックリスト」を使って、すでに学習した内容が理解できているかどうかを自己診断しておきましょう。ワークブックが付いていない方の教科書を購入してください。課題として出される宿題の提出状況や随時行なわれる小テストの成績は、成績評価の対象になります。

第一回目の授業には必ず出席すること。授業内容・授業方法、評価基準についての全体的な説明があります。

< 授業時間外に必要な学修 >

原則として、毎回宿題があります。次回の授業までに取り組んでおいてください。また授業で学んだ学習事項を復習する習慣を身に付けましょう。宿題と復習で1時間くらいを目安に、授業時間外の学習時間を取ってください。

< 提出課題など >

宿題は必ず期限までに提出してください。宿題に取り組んでいることを前提として、授業は進められます。宿題の提出状況は、成績評価の対象になります。

提出された課題については、次回授業時に解答例の提示と全体のフィードバックを行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の自発的な発言回数とその内容など、授業への積極的な参加 20% + 宿題の提出とその内容 20% + 小テストの成績 20% + 定期試験 40%

定期試験では、「初級ドイツ語 b 再」は、聴き取り能力と書く力を測ります。音声聴きながら、ポイントをメモしたり、相手のメッセージに、返事のメールを送ることも必要になってきます。

出席10回以上の者の成績はS・A・B・C・D、出席10回未満の者は「/」。

A評価以上の者の割合は、D評価以上の者を母数として合わせて概ね30%以内とする。

S評価は、A評価相当の中でも特に優れた者に対するのみ、これを与える。

< テキスト >

藤原三枝子他著『スタート! 1 コミュニケーション活動で学ぶドイツ語』(三修社 2019年)定価2600円+税

< 参考図書 >

授業の内容・進度に合わせて、適宜紹介します

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

ドイツ語を話す国々と主要都市、挨拶

第2回 あいさつする、自己紹介する

<1課の言語行為> あいさつする、自分と他者を紹介する(名前・出身・住まい・言語・専攻)

<1課の文法項目> 人称代名詞(1)、動詞の現在人称変化: 規則動詞、疑問詞付き疑問文、Ja/Neinで答える疑問文、語順(1)

第3回 自己と他者を紹介する

<1課の言語行為> あいさつする、自分と他者を紹介する(名前・出身・住まい・言語・専攻)

<1課の文法項目> 人称代名詞(1)、動詞の現在人称変化: 規則動詞、疑問詞付き疑問文、Ja/Neinで答える疑問文、語順(1)

第4回 プロフィールを聴く、書く

<1課の言語行為>あいさつする、自分と他者を紹介する
(名前・出身・住まい・言語・専攻)
<1課の文法項目> 人称代名詞(1)、動詞の現在人称変化：規則動詞、疑問詞付き疑問文、Ja/Neinで答える疑問文、語順(1)
第5回 体調をたずねる、答える
<1課の言語行為>あいさつする、自分と他者を紹介する
(名前・出身・住まい・言語・専攻)
<1課の文法項目> 人称代名詞、動詞の現在人称変化、規則動詞、疑問詞付き疑問文、Ja/Neinで答える疑問文、語順(1)
第6回 余暇の過ごし方を話す
<2課の言語行為> 自由時間の過ごし方について話す、年齢・住所・電話番号を伝える 申込用紙を書く、つづりを言う、職業を言う、自己紹介のメールを書く、統計を読む(1)
<2課の文法項目> 人称代名詞(2)、動詞の現在人称変化：不規則動詞、gernの使い方、nichtの使い方、男性形と女性形
第7回 申込書を書く
<2課の言語行為> 自由時間の過ごし方について話す、年齢・住所・電話番号を伝える 申込用紙を書く、つづりを言う、職業を言う、自己紹介のメールを書く、統計を読む(1)
<2課の文法項目> 人称代名詞(2)、動詞の現在人称変化：不規則動詞、gernの使い方、nichtの使い方、男性形と女性形
第8回 復習と中間試験
1課・2課の前半で学習した内容について、おもに文法と読解の面における定着度を測る。
第9回 中間試験の結果とフィードバック、数字を学ぶ
<2課の言語行為> 自由時間の過ごし方について話す、年齢・住所・電話番号を伝える 申込用紙を書く、つづりを言う、職業を言う、自己紹介のメールを書く、統計を読む(1)
<2課の文法項目> 人称代名詞(2)、動詞の現在人称変化：不規則動詞、gernの使い方、nichtの使い方、男性形と女性形
第10回 Eメールを書く、ドイツ人の余暇の過ごし方について読み取る
<2課の言語行為> 自由時間の過ごし方について話す、年齢・住所・電話番号を伝える 申込用紙を書く、つづりを言う、職業を言う、自己紹介のメールを書く、統計を読む(1)
<2課の文法項目> 人称代名詞(2)、動詞の現在人称変化：不規則動詞、gernの使い方、nichtの使い方、男性形と女性形
<ドイツ事情> Was machen die Deutschen gern?
第11回 時刻を学ぶ
<3課の言語行為>時間表現を使う、日常の行動について

表現する、一週間の予定を述べる、会う約束をする、できること・しなければならないこと・したいことを表現する
<3課の文法項目>分離動詞、語順(2)、話法の助動詞 k?nnen / m?ssen / m?chten
第12回 一日の過ごし方について話す・書く
<3課の言語行為>時間表現を使う、日常の行動について表現する、一週間の予定を述べる、会う約束をする、できること・しなければならないこと・したいことを表現する
<3課の文法項目>分離動詞、語順(2)、話法の助動詞 k?nnen / m?ssen / m?chten
第13回 一週間の予定について話す・書く
<3課の言語行為>時間表現を使う、日常の行動について表現する、一週間の予定を述べる、会う約束をする、できること・しなければならないこと・したいことを表現する
<3課の文法項目>分離動詞、語順(2)、話法の助動詞 k?nnen / m?ssen / m?chten
第14回 理想の1日について読む・書く、小学生の日常生活について読み解く
<3課の言語行為>時間表現を使う、日常の行動について表現する、一週間の予定を述べる、会う約束をする、できること・しなければならないこと・したいことを表現する
<3課の文法項目>分離動詞、語順(2)、話法の助動詞 k?nnen / m?ssen / m?chten
<ドイツ事情> Mein Tag: Eine Sch?lerin erz?hlt.
第15回 総復習
1課から3課を総復習し、学習した内容の定着を図る。

2022年度 前期
1.0単位
初級ドイツ語 b 再・リ
奥田 誠司

<授業の方法>
対面授業(演習)
<授業の目的>
ドイツ語の言語運用能力を育成しながら、日常生活を中心にドイツ語圏の文化に触れていきましょう。その学習過程で、受講者自身の文化を客観的、相対的にとらえる態度や観点を育てます。異なる文化背景を持つ人たちとのコミュニケーションのあり方を考え、みずからの行動

にフィードバックする能力を身につけ付けましょう。これは、全学ディプロマ・ポリシーの「1. 幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる」にそっています。

<到達目標>

この授業は、半期のドイツ語学習を通して、ごく簡単な表現が聴き取れ、基本的な語句で自分の名前や気持ちが伝えられるようになること、さらに日常生活での基本的な表現を理解し、ごく簡単なやり取りができるようになることを目的とします。これは、『ヨーロッパ言語共通参照枠』(略称CEFR)に照らせば、A1/1レベルに相当するドイツ語運用能力です。

1. よく使われる日常的表現と基本的な言い回しを理解し、用いることができる。
2. 自分や他人を紹介することができる。
3. どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。
4. もし相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

CEFR「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠」は、ゲーテ・インスティトゥートの公式HPによれば以下のようになります。

A1: まず、日常生活の場面で短く簡単なドイツ語表現が理解でき、自分でも言えるようになります。例えば自己紹介ができ、相手に簡単な質問をしたり、それに答えたりできます。食事や買い物や旅行の場面で、相手がゆっくり明瞭に話してくれるなら、コミュニケーションが図れます。

A2: 毎日の生活で頻繁に使われる言葉や表現に慣れ、仕事や家族や故郷など、自分に関する事や日常的で具体的な生活に関する事なら、ドイツ語でコミュニケーションが図れます。また日常的に必要な事柄が、簡単な文章の形で表現できるようになります。

B1: 明瞭な通常のドイツ語であれば、仕事や趣味や生活など日常的な事柄についてのドイツ語の発言や文章が理解できます。例えば、旅行中に会おうさまざまな出来事に対して、必要な対応ができ、また、自分の経験や夢・希望・目標などについて話すことができます。さらに、自分に身近なテーマがあれば、意見を述べたり、その論拠を説明したりできます。

B2: 抽象的で複雑なドイツ語で表現されても、その趣旨が理解できます。自分の仕事や専門分野に関する事柄なら、ドイツ語で行われる議論の内容が理解できるだけでなく、自分の立場や意見を述べたり、あるいはひとつの

意見に対する利点と不利点を論述したりできます。日常的ないくつかのテーマでは、広い範囲にわたって明確に意見と情報が交換でき、ドイツ語を母国語とする人との間で、相互に困難を感じずに自然な会話が成立します。

C1: ほとんどのテーマで、高度なドイツ語表現や長い文章が理解でき、また、その言外のニュアンスも感じ取れます。ドイツ人社会で、社会人として職業についたり大学で学んだりするのに必要十分な語彙と表現を使いこなし、複雑で微妙な内容を正確なドイツ語で表現することができます。

C2: 社会生活上、不自由なくすべてのことに対応できるドイツ語力があります。さまざまな分野の多様なテーマに関して、読む、書く、話す、聞くことが困難なくでき、また、ニュアンスにとんだ自然なドイツ語を正確に使うことができます。

<授業のキーワード>

コミュニケーション能力の育成、複数の言語・文化の多様性を理解する国際性の習得

<授業の進め方>

初級ドイツ語の再履修クラスでは a・bとも共通の教科書を使用しますが、リレー形式では授業を行いません。aとbで扱う領域を分け、それぞれを独立させた形で授業を進めていきます。初級ドイツ語 bでは、会話・コミュニケーション能力の育成に重点を置きます。会話と言っても、双方向のコミュニケーションと考えてください。会話は話すことに留まりません。相手の意図をくみ取るためには、聴く力を伸ばすこと、ポイントをメモしたり、相手のメッセージに、返事のメールを送ることも必要になってきます。広い視野から、会話・コミュニケーション能力を捉えてください。

授業中に随時小テストを行ないます。小テストの成績は成績評価の対象になります。

<履修するにあたって>

この科目を履修するにあたって、宿題にきちんと取り組むことはもちろんですが、前回の授業内容をしっかり復習した上で授業に臨む習慣をつけるようにしてください。新しい課に入る前には、教科書巻末にある「自己チェックリスト」を使って、すでに学習した内容が理解できているかどうかを自己診断しておきましょう。ワークブックが付いていない方の教科書を購入してください。

課題として出される宿題の提出状況や随時行なわれる小テストの成績は、成績評価の対象になります。

<授業時間外に必要な学修>

原則として、毎回宿題があります。次回の授業までに取り組んでおいてください。また授業で学んだ学習事項を復習する習慣を身につけましょう。宿題と復習で1時間くらいを目安に、授業時間外の学習時間を取ってください。

< 提出課題など >

宿題は必ず期限までに提出してください。宿題に取り組んでいることを前提として、授業は進められます。宿題の提出状況は、成績評価の対象になります。提出物については、添削や解答例の提示など、宿題の内容にそってフィードバックします。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の自発的な発言回数とその内容など、授業への積極的な参加 20% + 宿題の提出とその内容 20% + 小テストの成績 20% + 定期試験 40%

定期試験では、「初級ドイツ語 b 再」は、聴き取り能力と書く力を測ります。音声を聴きながら、ポイントをメモしたり、相手のメッセージに、返事のメールを送ることも必要になってきます。

出席10回以上の者の成績はS・A・B・C・D、出席10回未満の者は「/」。

A評価以上の者の割合は、D評価以上の者を母数として合わせて概ね30%以内とする。

S評価は、A評価相当の中でも特に優れた者に対してのみ、これを与える。

< テキスト >

藤原三枝子他著『スタート! 1 コミュニケーション活動で学ぶドイツ語』(三修社 2019年) 定価2600円 + 税

< 参考図書 >

授業の内容・進度に合わせて、適宜紹介します

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

ドイツ語を話す国々と主要都市、挨拶

第2回 あいさつする、自己紹介する

<1課の言語行為> あいさつする、自分と他者を紹介する (名前・出身・住まい・言語・専攻)

<1課の文法項目> 人称代名詞(1)、動詞の現在人称変化: 規則動詞、疑問詞付き疑問文、Ja/Neinで答える疑問文、語順(1)

第3回 自己と他者を紹介する

<1課の言語行為> あいさつする、自分と他者を紹介する (名前・出身・住まい・言語・専攻)

<1課の文法項目> 人称代名詞(1)、動詞の現在人称変化: 規則動詞、疑問詞付き疑問文、Ja/Neinで答える疑問文、語順(1)

第4回 プロフィールを聴く、書く

<1課の言語行為> あいさつする、自分と他者を紹介する (名前・出身・住まい・言語・専攻)

<1課の文法項目> 人称代名詞(1)、動詞の現在人称変化: 規則動詞、疑問詞付き疑問文、Ja/Neinで答える疑問文、語順(1)

第5回 体調をたずねる、答える

<1課の言語行為> あいさつする、自分と他者を紹介する (名前・出身・住まい・言語・専攻)

<1課の文法項目> 人称代名詞、動詞の現在人称変化、

規則動詞、疑問詞付き疑問文、Ja/Neinで答える疑問文、語順(1)

第6回 余暇の過ごし方を話す

<2課の言語行為> 自由時間の過ごし方について話す、年齢・住所・電話番号を伝える 申込用紙を書く、つづりを言う、職業を言う、自己紹介のメールを書く、統計を読む(1)

<2課の文法項目> 人称代名詞(2)、動詞の現在人称変化: 不規則動詞、gernの使い方、nichtの使い方、男性形と女性形

第7回 申込書を書く

<2課の言語行為> 自由時間の過ごし方について話す、年齢・住所・電話番号を伝える 申込用紙を書く、つづりを言う、職業を言う、自己紹介のメールを書く、統計を読む(1)

<2課の文法項目> 人称代名詞(2)、動詞の現在人称変化: 不規則動詞、gernの使い方、nichtの使い方、男性形と女性形

第8回 復習

1課・2課の前半で学習した内容について復習する。

第9回 数字を学ぶ

<2課の言語行為> 自由時間の過ごし方について話す、年齢・住所・電話番号を伝える 申込用紙を書く、つづりを言う、職業を言う、自己紹介のメールを書く、統計を読む(1)

<2課の文法項目> 人称代名詞(2)、動詞の現在人称変化: 不規則動詞、gernの使い方、nichtの使い方、男性形と女性形

第10回 Eメールを書く、ドイツ人の余暇の過ごし方について読み取る

<2課の言語行為> 自由時間の過ごし方について話す、年齢・住所・電話番号を伝える 申込用紙を書く、つづりを言う、職業を言う、自己紹介のメールを書く、統計を読む(1)

<2課の文法項目> 人称代名詞(2)、動詞の現在人称変化: 不規則動詞、gernの使い方、nichtの使い方、男性形と女性形

<ドイツ事情> Was machen die Deutschen gern?

第11回 時刻を学ぶ

<3課の言語行為> 時間表現を使う、日常の行動について表現する、一週間の予定を述べる、会う約束をする、できること・しなければならないこと・したいことを表現する

<3課の文法項目> 分離動詞、語順(2)、話法の助動詞 k?nnen / m?ssen / m?chten

第12回 一日の過ごし方について話す・書く

<3課の言語行為> 時間表現を使う、日常の行動について表現する、一週間の予定を述べる、会う約束をする、で

きること・しなければならないこと・したいことを表現する

<3課の文法項目>分離動詞、語順 (2)、話法の助動詞
k?nnen / m?ssen /

m?chten

第13回 一週間の予定について話す・書く

<3課の言語行為>時間表現を使う、日常の行動について表現する、一週間の予定を述べる、会う約束をする、できること・しなければならないこと・したいことを表現する

<3課の文法項目>分離動詞、語順 (2)、話法の助動詞
k?nnen / m?ssen /

m?chten

第14回 理想の1日について読む・書く、小学生の日常生活について読み解く

<3課の言語行為>時間表現を使う、日常の行動について表現する、一週間の予定を述べる、会う約束をする、できること・しなければならないこと・したいことを表現する

<3課の文法項目>分離動詞、語順 (2)、話法の助動詞
k?nnen / m?ssen /

m?chten

<ドイツ事情> Mein Tag: Eine Sch?lerin erz?hlt.

第15回 総復習

1課から3課を総復習し、学習した内容の定着を図る。

2022年度 前期

1.0単位

初級ドイツ語 b (総合的コミュニケーション)ア【経済】

森田 昌美

<授業の方法>

対面授業(演習)

<授業の目的>

ドイツ語の言語運用能力を育成しながら、日常生活を中心にドイツ語圏の文化に触れていきましょう。その学習過程で、受講者自身の文化を客観的、相対的にとらえる態度や観点を育てます。異なる文化背景を持つ人たちのコミュニケーションのあり方を考え、みずからの行動にフィードバックする能力を身につけ付けましょう。これは、全学ディプロマ・ポリシーの「1. 幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる」にそっています。

<到達目標>

この授業は、初級ドイツ語 aと緊密に連携した半期のドイツ語学習を通して、ごく簡単な表現が聴き取れ、基本的な語句で自分の名前や気持ちが伝えられるようになる

ること、さらに日常生活での基本的な表現を理解し、ごく簡単なやり取りができるようになることを目的とします。これは、『ヨーロッパ言語共通参照枠』(略称CEFR)に照らせば、A1/1レベルに相当するドイツ語運用能力です。

1. よく使われる日常的表現と基本的な言い回しを理解し、用いることができる。
2. 自分や他人を紹介することができる。
3. どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。
4. もし相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

CEFR「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠」は、ゲーテ・インスティトゥートの公式HPによれば以下ようになります。

A1: まず、日常生活の場面で短く簡単なドイツ語表現が理解でき、自分でも言えるようになります。例えば自己紹介ができ、相手に簡単な質問をしたり、それに答えたりできます。食事や買い物や旅行の場面で、相手がゆっくり明瞭に話してくれるなら、コミュニケーションが図れます。

A2: 毎日の生活で頻繁に使われる言葉や表現に慣れ、仕事や家族や故郷など、自分に関する事や日常的で具体的な生活に関する事なら、ドイツ語でコミュニケーションが図れます。また日常的に必要な事柄が、簡単な文章の形で表現できるようになります。

B1: 明瞭な通常のドイツ語であれば、仕事や趣味や生活など日常的な事柄についてのドイツ語の発言や文章が理解できます。例えば、旅行中に出会うさまざまな出来事に対して、必要な対応ができ、また、自分の経験や夢・希望・目標などについて話すことができます。さらに、自分に身近なテーマあれば、意見を述べたり、その論拠を説明したりできます。

B2: 抽象的で複雑なドイツ語で表現されても、その趣旨が理解できます。自分の仕事や専門分野に関する事柄なら、ドイツ語で行われる議論の内容が理解できるだけでなく、自分の立場や意見を述べたり、あるいはひとつの意見に対する利点と不利点を論述したりできます。日常的ないくつかのテーマでは、広い範囲にわたって明確に意見と情報が交換でき、ドイツ語を母国語とする人との間で、相互に困難を感じずに自然な会話が成立します。

C1: ほとんどのテーマで、高度なドイツ語表現や長い文章が理解でき、また、その言外のニュアンスも感じ取れる

ます。ドイツ人社会で、社会人として職業についたり大学で学んだりするのに必要十分な語彙と表現を使いこなす、複雑で微妙な内容を正確なドイツ語で表現することができます。

C2: 社会生活上、不自由なくすべてのことに対応できるドイツ語力があります。さまざまな分野の多様なテーマに関して、読む、書く、話す、聞くことが困難なくでき、また、ニュアンスにとんだ自然なドイツ語を正確に使うことができます。

<授業のキーワード>

コミュニケーション能力の育成、複数の言語・文化の多様性を理解する国際性の習得

<授業の進め方>

初級ドイツ語では a・bとも共通の教科書を使用します。aとbで2名の担当教員が授業内容について緊密に連絡を取り合いながら、リレー形式で授業を進めていきます。ドイツ語圏の社会や文化についての理解も深めていきましょう。

授業中に随時小テストを行いません。小テストの成績は成績評価の対象になります。

<履修するにあたって>

この科目を履修するにあたって、宿題にきちんと取り組むことはもちろんですが、前回の授業内容をしっかり復習した上で授業に臨む習慣をつけるようにしてください。新しい課に入る前には、教科書巻末にある「自己チェックリスト」を使って、すでに学習した内容が理解できているかどうかを自己診断しておきましょう。教科書とワークブックを必ず購入してください。

課題として出される宿題の提出状況や随時行なわれる小テストの成績は、成績評価の対象になります。

<授業時間外に必要な学修>

原則として、毎回宿題があります。次回の授業までに取り組んでおいてください。また授業で学んだ学習事項を復習する習慣を身に付けましょう。宿題と復習で1時間くらいを目安に、授業時間外の学習時間を取ってください。

<提出課題など>

宿題は必ず期限までに提出してください。宿題に取り組んでいることを前提として、授業は進められます。提出物については、添削や解答例の提示など、宿題の内容にそってフィードバックします。なお宿題の提出状況は、成績評価の対象になります。

<成績評価方法・基準>

授業中の自発的な発言回数とその内容など、授業への積極的な参加 20% + 宿題の提出とその内容 20% + 小テストの成績 20% + 定期試験 40%

定期試験では、「初級ドイツ語 b」は、聴き取り能力と書く力を測ります。音声を聴きながら、ポイントをメモしたり、相手のメッセージに、返事のメールを送るこ

とも必要になってきます。

出席10回以上の者の成績はS・A・B・C・D、出席10回未満の者は「/」。

A評価以上の者の割合は、D評価以上の者を母数として合わせて概ね30%以内とする。

S評価は、A評価相当の中でも特に優れた者に対してのみ、これを与える。

<テキスト>

1. 藤原三枝子他著『スタート! 1 コミュニケーション活動で学ぶドイツ語』(三修社 2019年) 定価2600円+税

2. 『スタート! 1 ワークブック コミュニケーション活動で学ぶドイツ語』(三修社 2019年) 定価1000円+税

なお、セット購入価格があります。購入時に確認してください。

<参考図書>

授業の内容・進度に合わせて、適宜紹介します

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

ドイツ語を話す国々と主要都市、挨拶

第2回 あいさつする、自己紹介する

<1課の言語行為> あいさつする、自分と他者を紹介する(名前・出身・住まい・言語・専攻)

<1課の文法項目> 人称代名詞(1)、動詞の現在人称変化: 規則動詞、疑問詞付き疑問文、Ja/Neinで答える疑問文、語順(1)

第3回 自己と他者を紹介する

<1課の言語行為> あいさつする、自分と他者を紹介する(名前・出身・住まい・言語・専攻)

<1課の文法項目> 人称代名詞(1)、動詞の現在人称変化: 規則動詞、疑問詞付き疑問文、Ja/Neinで答える疑問文、語順(1)

第4回 プロフィールを聴く、書く

<1課の言語行為> あいさつする、自分と他者を紹介する(名前・出身・住まい・言語・専攻)

<1課の文法項目> 人称代名詞(1)、動詞の現在人称変化: 規則動詞、疑問詞付き疑問文、Ja/Neinで答える疑問文、語順(1)

第5回 体調をたずねる、答える

<1課の言語行為> あいさつする、自分と他者を紹介する(名前・出身・住まい・言語・専攻)

<1課の文法項目> 人称代名詞、動詞の現在人称変化、規則動詞、疑問詞付き疑問文、Ja/Neinで答える疑問文、語順(1)

第6回 余暇の過ごし方を話す

<2課の言語行為> 自由時間の過ごし方について話す、年齢・住所・電話番号を伝える 申込用紙を書く、つづりを言う、職業を言う、自己紹介のメールを書く、統計を読む(1)

<2課の文法項目> 人称代名詞(2)、動詞の現在人称変化：不規則動詞、gernの使い方、nichtの使い方、男性形と女性形

第7回 申込書を書く

<2課の言語行為> 自由時間の過ごし方について話す、年齢・住所・電話番号を伝える 申込用紙を書く、つづりを言う、職業を言う、自己紹介のメールを書く、統計を読む(1)

<2課の文法項目> 人称代名詞(2)、動詞の現在人称変化：不規則動詞、gernの使い方、nichtの使い方、男性形と女性形

第8回 復習

1課・2課の前半で学習した内容について復習する。

第9回 数字を学ぶ

<2課の言語行為> 自由時間の過ごし方について話す、年齢・住所・電話番号を伝える 申込用紙を書く、つづりを言う、職業を言う、自己紹介のメールを書く、統計を読む(1)

<2課の文法項目> 人称代名詞(2)、動詞の現在人称変化：不規則動詞、gernの使い方、nichtの使い方、男性形と女性形

第10回 Eメールを書く、ドイツ人の余暇の過ごし方について読み取る

<2課の言語行為> 自由時間の過ごし方について話す、年齢・住所・電話番号を伝える 申込用紙を書く、つづりを言う、職業を言う、自己紹介のメールを書く、統計を読む(1)

<2課の文法項目> 人称代名詞(2)、動詞の現在人称変化：不規則動詞、gernの使い方、nichtの使い方、男性形と女性形

<ドイツ事情> Was machen die Deutschen gern?

第11回 時刻を学ぶ

<3課の言語行為>時間表現を使う、日常の行動について表現する、一週間の予定を述べる、会う約束をする、できること・しなければならないこと・したいことを表現する

<3課の文法項目>分離動詞、語順(2)、話法の助動詞
k?nnen / m?ssen /
m?chten

第12回 一日の過ごし方について話す・書く

<3課の言語行為>時間表現を使う、日常の行動について表現する、一週間の予定を述べる、会う約束をする、できること・しなければならないこと・したいことを表現する

<3課の文法項目>分離動詞、語順(2)、話法の助動詞
k?nnen / m?ssen /
m?chten

第13回 一週間の予定について話す・書く

<3課の言語行為>時間表現を使う、日常の行動について表現する、一週間の予定を述べる、会う約束をする、で

きること・しなければならないこと・したいことを表現する

<3課の文法項目>分離動詞、語順(2)、話法の助動詞
k?nnen / m?ssen /
m?chten

第14回 理想の1日について読む・書く、小学生の日常生活について読み解く

<3課の言語行為>時間表現を使う、日常の行動について表現する、一週間の予定を述べる、会う約束をする、できること・しなければならないこと・したいことを表現する

<3課の文法項目>分離動詞、語順(2)、話法の助動詞
k?nnen / m?ssen /
m?chten

<ドイツ事情> Mein Tag: Eine Sch?lerin erz?hlt.

第15回 総復習

1課から3課を総復習し、学習した内容の定着を図る。

2022年度 前期

1.0単位

初級ドイツ語 b (総合的コミュニケーション)ア【薬】

森田 昌美

<授業の方法>
対面授業(演習)

<授業の目的>
ドイツ語の言語運用能力を育成しながら、日常生活を中心にドイツ語圏の文化に触れていきましょう。その学習過程で、受講者自身の文化を客観的、相対的にとらえる態度や観点を育てます。異なる文化背景を持つ人たちとのコミュニケーションのあり方を考え、みずからの行動にフィードバックする能力を身につけ付けましょう。これは、全学ディプロマ・ポリシーの「1. 幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる」にそっています。

<到達目標>

この授業は、初級ドイツ語 aと緊密に連携した半期のドイツ語学習を通して、ごく簡単な表現が聴き取れ、基本的な語句で自分の名前や気持ちが伝えられるようになること、さらに日常生活での基本的な表現を理解し、ごく簡単なやり取りができるようになることを目的とします。これは、『ヨーロッパ言語共通参照枠』(略称CEFR)に照らせば、A1/1レベルに相当するドイツ語運用能力です。

1. よく使われる日常的表現と基本的な言い回しを理解し、用いることができる。
2. 自分や他人を紹介することができる。

3. どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。
4. もし相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

CEFR「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠」は、ゲーテ・インスティトゥートの公式HPによれば以下のようになります。

A1: まず、日常生活の場面で短く簡単なドイツ語表現が理解でき、自分でも言えるようになります。例えば自己紹介ができ、相手に簡単な質問をしたり、それに答えたりできます。食事や買い物や旅行の場面で、相手がゆっくり明瞭に話してくれるなら、コミュニケーションが図れます。

A2: 毎日の生活で頻繁に使われる言葉や表現に慣れ、仕事や家族や故郷など、自分に関する事や日常的で具体的な生活に関する事なら、ドイツ語でコミュニケーションが図れます。また日常的に必要な事柄が、簡単な文章の形で表現できるようになります。

B1: 明瞭な通常のドイツ語であれば、仕事や趣味や生活など日常的な事柄についてのドイツ語の発言や文章が理解できます。例えば、旅行中に会おうさまざまな出来事に対して、必要な対応ができ、また、自分の経験や夢・希望・目標などについて話すことができます。さらに、自分に身近なテーマがあれば、意見を述べたり、その論拠を説明したりできます。

B2: 抽象的で複雑なドイツ語で表現されても、その趣旨が理解できます。自分の仕事や専門分野に関する事柄なら、ドイツ語で行われる議論の内容が理解できるだけでなく、自分の立場や意見を述べたり、あるいはひとつの意見に対する利点と不利点を論述したりできます。日常的ないくつかのテーマでは、広い範囲にわたって明確に意見と情報が交換でき、ドイツ語を母国語とする人との間で、相互に困難を感じずに自然な会話が成立します。

C1: ほとんどのテーマで、高度なドイツ語表現や長い文章が理解でき、また、その言外のニュアンスも感じ取れます。ドイツ人社会で、社会人として職業についたり大学で学んだりするのに必要十分な語彙と表現を使いこなす、複雑で微妙な内容を正確なドイツ語で表現することができます。

C2: 社会生活上、不自由なくすべてのことに対応できるドイツ語力があります。さまざまな分野の多様なテーマに関して、読む、書く、話す、聞くことが困難なくでき、また、ニュアンスにとんだ自然なドイツ語を正確に使う

ことができます。

<授業のキーワード>

コミュニケーション能力の育成、複数の言語・文化の多様性を理解する国際性の習得

<授業の進め方>

初級ドイツ語では a・bとも共通の教科書を使用します。aとbで2名の担当教員が授業内容について緊密に連絡を取り合いながら、リレー形式で授業を進めていきます。ドイツ語圏の社会や文化についての理解も深めていきましょう。

授業中に随時小テストを行ないます。小テストの成績は成績評価の対象になります。

<履修するにあたって>

この科目を履修するにあたって、宿題にきちんと取り組むことはもちろんですが、前回の授業内容をしっかり復習した上で授業に臨む習慣をつけるようにしてください。新しい課に入る前には、教科書巻末にある「自己チェックリスト」を使って、すでに学習した内容が理解できているかどうかを自己診断しておきましょう。教科書とワークブックを必ず購入してください。

課題として出される宿題の提出状況や随時行なわれる小テストの成績は、成績評価の対象になります。

<授業時間外に必要な学修>

原則として、毎回宿題があります。次回の授業までに取り組んでおいてください。また授業で学んだ学習事項を復習する習慣を身に付けましょう。宿題と復習で1時間くらいを目安に、授業時間外の学習時間を取ってください。

<提出課題など>

宿題は必ず期限までに提出してください。宿題に取り組んでいることを前提として、授業は進められます。提出物については、添削や解答例の提示など、宿題の内容にそってフィードバックします。なお宿題の提出状況は、成績評価の対象になります。

<成績評価方法・基準>

授業中の自発的な発言回数とその内容など、授業への積極的な参加 20% + 宿題の提出とその内容 20% + 小テストの成績 20% + 定期試験 40%

定期試験では、「初級ドイツ語 b」は、聴き取り能力と書く力を測ります。音声を聴きながら、ポイントをメモしたり、相手のメッセージに、返事のメールを送ることも必要になってきます。

出席10回以上の者の成績はS・A・B・C・D、出席10回未満の者は「/」。

A評価以上の者の割合は、D評価以上の者を母数として合わせて概ね30%以内とする。

S評価は、A評価相当の中でも特に優れた者に対するのみ、これを与える。

<テキスト>

1. 藤原三枝子他著『スタート! 1 コミュニケーショ

ン活動で学ぶドイツ語 』（三修社 2019年）定価2600円＋税

2. 『スタート！1 ワークブック コミュニケーション活動で学ぶドイツ語 』（三修社 2019年）定価1000円＋税

なお、セット購入価格があります。購入時に確認してください。

<参考図書>

授業の内容・進度に合わせて、適宜紹介します

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

ドイツ語を話す国々と主要都市、挨拶

第2回 あいさつする、自己紹介する

<1課の言語行為> あいさつする、自分と他者を紹介する（名前・出身・住まい・言語・専攻）

<1課の文法項目> 人称代名詞（1）、動詞の現在人称変化：規則動詞、疑問詞付き疑問文、Ja/Neinで答える疑問文、語順（1）

第3回 自己と他者を紹介する

<1課の言語行為>あいさつする、自分と他者を紹介する（名前・出身・住まい・言語・専攻）

<1課の文法項目> 人称代名詞（1）、動詞の現在人称変化：規則動詞、疑問詞付き疑問文、Ja/Neinで答える疑問文、語順（1）

第4回 プロフィールを聴く、書く

<1課の言語行為>あいさつする、自分と他者を紹介する（名前・出身・住まい・言語・専攻）

<1課の文法項目> 人称代名詞（1）、動詞の現在人称変化：規則動詞、疑問詞付き疑問文、Ja/Neinで答える疑問文、語順（1）

第5回 体調をたずねる、答える

<1課の言語行為>あいさつする、自分と他者を紹介する（名前・出身・住まい・言語・専攻）

<1課の文法項目> 人称代名詞、動詞の現在人称変化、規則動詞、疑問詞付き疑問文、Ja/Neinで答える疑問文、語順（1）

第6回 余暇の過ごし方を話す

<2課の言語行為> 自由時間の過ごし方について話す、年齢・住所・電話番号を伝える 申込用紙を書く、つづりを言う、職業を言う、自己紹介のメールを書く、統計を読む（1）

<2課の文法項目> 人称代名詞（2）、動詞の現在人称変化：不規則動詞、gernの使い方、nichtの使い方、男性形と女性形

第7回 申込書を書く

<2課の言語行為> 自由時間の過ごし方について話す、年齢・住所・電話番号を伝える 申込用紙を書く、つづりを言う、職業を言う、自己紹介のメールを書く、統計を読む（1）

<2課の文法項目> 人称代名詞（2）、動詞の現在人称変

化：不規則動詞、gernの使い方、nichtの使い方、男性形と女性形

第8回 復習

1課・2課の前半で学習した内容について復習する。

第9回 数字を学ぶ

<2課の言語行為> 自由時間の過ごし方について話す、年齢・住所・電話番号を伝える 申込用紙を書く、つづりを言う、職業を言う、自己紹介のメールを書く、統計を読む（1）

<2課の文法項目> 人称代名詞（2）、動詞の現在人称変化：不規則動詞、gernの使い方、nichtの使い方、男性形と女性形

第10回 Eメールを書く、ドイツ人の余暇の過ごし方について読み取る

<2課の言語行為> 自由時間の過ごし方について話す、年齢・住所・電話番号を伝える 申込用紙を書く、つづりを言う、職業を言う、自己紹介のメールを書く、統計を読む（1）

<2課の文法項目> 人称代名詞（2）、動詞の現在人称変化：不規則動詞、gernの使い方、nichtの使い方、男性形と女性形

<ドイツ事情> Was machen die Deutschen gern?

第11回 時刻を学ぶ

<3課の言語行為>時間表現を使う、日常の行動について表現する、一週間の予定を述べる、会う約束をする、できること・しなければならないこと・したいことを表現する

<3課の文法項目>分離動詞、語順（2）、話法の助動詞 k?nnen / m?ssen / m?chten

第12回 一日の過ごし方について話す・書く

<3課の言語行為>時間表現を使う、日常の行動について表現する、一週間の予定を述べる、会う約束をする、できること・しなければならないこと・したいことを表現する

<3課の文法項目>分離動詞、語順（2）、話法の助動詞 k?nnen / m?ssen / m?chten

第13回 一週間の予定について話す・書く

<3課の言語行為>時間表現を使う、日常の行動について表現する、一週間の予定を述べる、会う約束をする、できること・しなければならないこと・したいことを表現する

<3課の文法項目>分離動詞、語順（2）、話法の助動詞 k?nnen / m?ssen / m?chten

第14回 理想の1日について読む・書く、小学生の日常生活について読み解く

<3課の言語行為>時間表現を使う、日常の行動について表現する、一週間の予定を述べる、会う約束をする、で

きること・しなければならないこと・したいことを表現する

<3課の文法項目>分離動詞、語順 (2)、話法の助動詞

k?nnen / m?ssen /

m?chten

<ドイツ事情> Mein Tag: Eine Sch?lerin erz?hlt.

第15回 総復習

1課から3課を総復習し、学習した内容の定着を図る。

2022年度 後期

1.0単位

初級ドイツ語 a 再・ラ

村上 嘉希

<授業の方法>

対面授業(演習)

<授業の目的>

ドイツ語の言語運用能力を育成しながら、日常生活を中心にドイツ語圏の文化に触れていきましょう。その学習過程で、受講者自身の文化を客観的、相対的にとらえる態度や観点を育てます。異なる文化背景を持つ人たちとのコミュニケーションのあり方を考え、みずからの行動にフィードバックする能力を身につけ付けましょう。これは、全学ディプロマ・ポリシーの「1. 幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる」にそっています。

<到達目標>

この授業は半期のドイツ語学習を通して、ごく簡単な表現が聴き取れ、基本的な語句で自分の名前や気持ちが伝えられるようになること、さらに日常生活での基本的な表現を理解し、ごく簡単なやり取りができるようになることを目的とします。これは、『ヨーロッパ言語共通参照枠』(略称CEFR)に照らせば、A1/1レベルに相当するドイツ語運用能力です。

1. よく使われる日常的表現と基本的な言い回しを理解し、用いることができる。
2. 自分や他人を紹介することができる。
3. どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。
4. もし相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

CEFR「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠」は、ゲーテ・インスティトゥートの公式HPによれば以下のようになります。

A1: まず、日常生活の場面で短く簡単なドイツ語表現が理解でき、自分でも言えるようになります。例えば自己

紹介ができ、相手に簡単な質問をしたり、それに答えたりできます。食事や買い物や旅行の場面で、相手がゆっくり明瞭に話してくれるなら、コミュニケーションが図れます。

A2: 毎日の生活で頻繁に使われる言葉や表現に慣れ、仕事や家族や故郷など、自分に関する事や日常的で具体的な生活に関する事なら、ドイツ語でコミュニケーションが図れます。また日常的に必要な事柄が、簡単な文章の形で表現できるようになります。

B1: 明瞭な通常のドイツ語であれば、仕事や趣味や生活など日常的な事柄についてのドイツ語の発言や文章が理解できます。例えば、旅行中に出会うさまざまな出来事に対して、必要な対応ができ、また、自分の経験や夢・希望・目標などについて話すことができます。さらに、自分に身近なテーマあれば、意見を述べたり、その論拠を説明したりできます。

B2: 抽象的で複雑なドイツ語で表現されても、その趣旨が理解できます。自分の仕事や専門分野に関する事柄なら、ドイツ語で行われる議論の内容が理解できるだけでなく、自分の立場や意見を述べたり、あるいはひとつの意見に対する利点と不利点を論述したりできます。日常的ないくつかのテーマでは、広い範囲にわたって明確に意見と情報が交換でき、ドイツ語を母国語とする人との間で、相互に困難を感じずに自然な会話が成立します。

C1: ほとんどのテーマで、高度なドイツ語表現や長い文章が理解でき、また、その言外のニュアンスも感じ取れます。ドイツ人社会で、社会人として職業についたり大学で学んだりするのに必要十分な語彙と表現を使いこなす、複雑で微妙な内容を正確なドイツ語で表現することができます。

C2: 社会生活上、不自由なくすべてのことに対応できるドイツ語力があります。さまざまな分野の多様なテーマに関して、読む、書く、話す、聞くことが困難なくでき、また、ニュアンスにとんだ自然なドイツ語を正確に使うことができます。

<授業のキーワード>

コミュニケーション能力の育成、複数の言語・文化の多様性を理解する国際性の習得

<授業の進め方>

初級ドイツ語の再履修クラスでは a・bとも共通の教科書を使用しますが、リレー形式では授業を行いません。aとbで扱う領域を分け、それぞれを独立させた形で授業を進めて行きます。初級ドイツ語 aでは文法学習の練習問題を入れながら、まとまったテキストを読む力を養成します。ドイツ語圏の社会や文化について

の理解も深めていきましょう。

授業中に随時小テストを行いません。小テストの成績は成績評価の対象になります。

<履修するにあたって>

この科目を履修するにあたって、宿題にきちんと取り組むことはもちろんですが、前回の授業内容をしっかり復習した上で授業に臨む習慣をつけるようにしてください。新しい課に入る前には、教科書巻末にある「自己チェックリスト」を使って、すでに学習した内容が理解できているかどうかを自己診断しておきましょう。ワークブックが付いていない方の教科書を購入してください。

課題として出される宿題の提出状況や随時行なわれる小テストの成績は、成績評価の対象になります。

<授業時間外に必要な学修>

原則として、毎回宿題があります。次回の授業までに取り組んでおいてください。また授業で学んだ学習事項を復習する習慣を身に付けましょう。宿題と復習で1時間くらいを目安に、授業時間外の学習時間を取ってください。

<提出課題など>

宿題は必ず期限までに提出してください。宿題に取り組んでいることを前提として、授業は進められます。宿題の提出状況は、成績評価の対象になります。

<成績評価方法・基準>

授業中の自発的な発言回数とその内容など、授業への積極的な参加 20% + 宿題の提出とその内容 20% + 小テストの成績 20% + 定期試験 40%

定期試験では、「初級ドイツ語 a 再」は、文法知識とその運用能力、テキストを読む力を測ります。

出席10回以上の者の成績はS・A・B・C・D、出席10回未満の者は「/」。

A評価以上の者の割合は、D評価以上の者を母数として合わせて概ね30%以内とする。

S評価は、A評価相当の中でも特に優れた者に対してのみ、これを与える。

<テキスト>

藤原三枝子他著『スタート! 1 コミュニケーション活動で学ぶドイツ語』(三修社 2019年)定価2600円+税

<参考図書>

授業の内容・進度に合わせて、適宜紹介します

<授業計画>

第1回 部屋について表現する

<4課の言語行為> 家、部屋の様子を説明する・意見を述べる、住居の広告を理解する

<4課の文法項目> 名詞の性と格、定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の主格・目的格、所有冠詞の主格・目的格(1)

第2回 家具・身の回りの物の名前を学ぶ

<4課の言語行為> 家、部屋の様子を説明する・意見を述べる、住居の広告を理解する

<4課の文法項目> 名詞の性と格、定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の主格・目的格、所有冠詞の主格・目的格(1)

第3回 住まいについて表現する

<4課の言語行為> 家、部屋の様子を説明する・意見を述べる、住居の広告を理解する

<4課の文法項目> 名詞の性と格、定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の主格・目的格、所有冠詞の主格・目的格(1)

第4回 ドイツでの大学生の住まいについてのテキストを選択的に読む

<4課の言語行為> 家、部屋の様子を説明する・意見を述べる、住居の広告を理解する

<4課の文法項目> 名詞の性と格、定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の主格・目的格、所有冠詞の主格・目的格(1)

<ドイツ事情> Wie wohnen Studenten in Deutschland?

第5回 食べ物・飲み物の名前を学ぶ

<5課の言語行為> 食習慣について話す、カフェで注文する・支払う

<5課の文法項目> m?gen、不定冠詞と定冠詞の目的格、無冠詞、名詞と3人称の人称代名詞

第6回 レストランで注文する、味について表現する

<5課の言語行為> 食習慣について話す、カフェで注文する・支払う

<5課の文法項目> m?gen、不定冠詞と定冠詞の目的格、無冠詞、名詞と3人称の人称代名詞

第7回 レストランで支払いする

<5課の言語行為> 食習慣について話す、カフェで注文する・支払う

<5課の文法項目> m?gen、不定冠詞と定冠詞の目的格、無冠詞、名詞と3人称の人称代名詞

第8回 復習

4課・5課の前半で学習した内容について、おもに文法と読解の面における定着度を測る。

第9回 ドイツ人の食習慣についてのテキストを読み解く

<5課の言語行為> 食習慣について話す、カフェで注文する・支払う

<5課の文法項目> m?gen、不定冠詞と定冠詞の目的格、無冠詞、名詞と3人称の人称代名詞

<ドイツ事情> Was essen die Deutschen?

第10回 店や品物の名前を学ぶ

<6課の言語行為> どこで何を買うことができるかを話す、スーパーの広告を理解する、何がどこにあるかを表現する、営業時間を理解する

<6課の文法項目> 場所を表す前置詞、不定冠詞・
定冠詞：与格、指示代名詞：主格・目的格

第11回 場所を表す表現を学ぶ

<6課の言語行為> どこで何を買い物ができるところを
話す、スーパーの広告を理解する、何がどこにあるかを
表現する、営業時間を理解する

<6課の文法項目> 場所を表す前置詞、不定冠詞・
定冠詞：与格、指示代名詞：主格・目的格

第12回 商品の値段を表す表現を学ぶ

<6課の言語行為> どこで何を買い物ができるところを
話す、スーパーの広告を理解する、何がどこにあるかを
表現する、営業時間を理解する

<6課の文法項目> 場所を表す前置詞、不定冠詞・
定冠詞：与格、指示代名詞：主格・目的格

第13回 服装について学ぶ

<6課の言語行為> どこで何を買い物ができるところを
話す、スーパーの広告を理解する、何がどこにあるかを
表現する、営業時間を理解する

<6課の文法項目> 場所を表す前置詞、不定冠詞・
定冠詞：与格、指示代名詞：主格・目的格

第14回 ドイツの店舗の営業時間についてのテキストを 読み解く

<6課の言語行為> どこで何を買い物ができるところを
話す、スーパーの広告を理解する、何がどこにあるかを
表現する、営業時間を理解する

<6課の文法項目> 場所を表す前置詞、不定冠詞・
定冠詞：与格、指示代名詞：主格・目的格

<ドイツ事情> Ladeneöffnungszeiten in Japan und
Deutschland

第15回 総復習

4課から6課を総復習し、学習した内容の定着を図る。

2022年度 前期

1.0単位

初級ドイツ語 a 再・ル

志田 章

<授業の方法>

遠隔授業(演習)

<授業の目的>

ドイツ語の言語運用能力を育成しながら、日常生活を中心
にドイツ語圏の文化に触れていきましょう。その学習
過程で、受講者自身の文化を客観的、相対的にとらえる
態度や観点を育てます。異なる文化背景を持つ人たちと
のコミュニケーションのあり方を考え、みずからの行動
にフィードバックする能力を身に付けましょう。これは、
全学ディプロマ・ポリシーの「1. 幅広い知識に基づいて、
他者および異文化を理解することができる」にそっ
ています。

<到達目標>

この授業は半期のドイツ語学習を通して、ごく簡単な表
現が聞き取れ、基本的な語句で自分の名前や気持ちが伝
えられるようになること、さらに日常生活での基本的な
表現を理解し、ごく簡単なやり取りができるようになる
ことを目的とします。これは、『ヨーロッパ言語共通参
照枠』(略称CEFR)に照らせば、A1/1レベルに相当するド
イツ語運用能力です。

1. よく使われる日常的表現と基本的な言い回しを理解
し、用いることができる。
2. 自分や他人を紹介することができる。
3. どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物など
の個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。
4. もし相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を
出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

CEFR「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共
通参照枠」は、ゲーテ・インスティトゥートの公式HPに
よれば以下ようになります。

A1: まず、日常生活の場面で短く簡単なドイツ語表現が
理解でき、自分でも言えるようになります。例えば自己
紹介ができ、相手に簡単な質問をしたり、それに答えら
れます。食事や買い物や旅行の場面で、相手がゆっ
くり明瞭に話してくれるなら、コミュニケーションが図
れます。

A2: 毎日の生活で頻繁に使われる言葉や表現に慣れ、仕
事や家族や故郷など、自分に関する事や日常的で具体的
な生活に関する事なら、ドイツ語でコミュニケーション
が図れます。また日常的に必要な事柄が、簡単な文章の
形で表現できるようになります。

B1: 明瞭な通常のドイツ語であれば、仕事や趣味や生活
など日常的な事柄についてのドイツ語の発言や文章が理
解できます。例えば、旅行中に会うさまざまな出来事
に対して、必要な対応ができ、また、自分の経験や夢・
希望・目標などについて話すことができます。さらに、
自分に身近なテーマがあれば、意見を述べたり、その論拠
を説明したりできます。

B2: 抽象的で複雑なドイツ語で表現されても、その趣旨
が理解できます。自分の仕事や専門分野に関する事柄な
ら、ドイツ語で行われる議論の内容が理解できるだけで
なく、自分の立場や意見を述べたり、あるいはひとつの
意見に対する利点と不利点を論述したりできます。日常
的ないくつかのテーマでは、広い範囲にわたって明確に
意見と情報が交換でき、ドイツ語を母国語とする人との
間で、相互に困難を感じずに自然な会話が成立します。

C1: ほとんどのテーマで、高度なドイツ語表現や長い文章が理解でき、また、その言外のニュアンスも感じ取れます。ドイツ人社会で、社会人として職業についたり大学で学んだりするのに必要十分な語彙と表現を使いこなし、複雑で微妙な内容を正確なドイツ語で表現することができます。

C2: 社会生活上、不自由なくすべてのことに対応できるドイツ語力があります。さまざまな分野の多様なテーマに関して、読む、書く、話す、聞くことが困難なくでき、また、ニュアンスにとんだ自然なドイツ語を正確に使うことができます。

< 授業のキーワード >

コミュニケーション能力の育成、複数の言語・文化の多様性を理解する国際性の習得

< 授業の進め方 >

再履修初級ドイツ語では a・bとも共通の教科書を使用しますが、リレー形式では授業を行ないません。aとbで扱う領域を分け、それぞれを独立させた形で授業を進めていきます。再履修初級ドイツ語 aでは文法学習の練習問題を入れながら、まとまったテキストを読む力を養成します。ドイツ語圏の社会や文化についての理解も深めていきましょう。

授業中に随時小テストを行ないます。小テストの成績は成績評価の対象になります。

< 履修するにあたって >

この科目を履修するにあたって、宿題にきちんと取り組むことはもちろんですが、前回の授業内容をしっかり復習した上で授業に臨む習慣をつけるようにしてください。新しい課に入る前には、教科書巻末にある「自己チェックリスト」を使って、すでに学習した内容が理解できているかどうかを自己診断しておきましょう。ワークブックが付いていない方の教科書を購入してください。課題として出される宿題の提出状況や随時行なわれる小テストの成績は、成績評価の対象になります。

< 授業時間外に必要な学修 >

原則として、毎回宿題があります。次回の授業までに取り組んでおいてください。また授業で学んだ学習事項を復習する習慣を身に付けましょう。宿題と復習で1時間くらいを目安に、授業時間外の学習時間を取ってください。

< 提出課題など >

宿題は必ず期限までに提出してください。宿題に取り組んでいることを前提として、授業は進められます。宿題の提出状況は、成績評価の対象になります。宿題などの提出物はその内容に応じて、授業中に解答および解説を行う、または添削したものを返却することによりフィードバックします。

< 成績評価方法・基準 >

「授業記録」の提出と内容30% + 「課題」の提出と内容30% + 5回の小テスト40%

出席10回以上の者の成績はS・A・B・C・D、出席10回未満の者は「/」。

A評価以上の者の割合は、D評価以上の者を母数として合わせて概ね30%以内とする。

S評価は、A評価相当の中でも特に優れた者に対するのみ、これを与える。

< テキスト >

藤原三枝子他著『スタート! 1 コミュニケーション活動で学ぶドイツ語』(三修社 2019年) 定価2600円 + 税

< 参考図書 >

授業の内容・進度に合わせて、適宜紹介します

< 授業計画 >

第1回 部屋について表現する

< 4課の言語行為 > 家、部屋の様子を説明する・意見を述べる、住居の広告を理解する

< 4課の文法項目 > 名詞の性と格、定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の主格・目的格、所有冠詞の主格・目的格(1)

第2回 家具・身の回りの物の名前を学ぶ

< 4課の言語行為 > 家、部屋の様子を説明する・意見を述べる、住居の広告を理解する

< 4課の文法項目 > 名詞の性と格、定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の主格・目的格、所有冠詞の主格・目的格(1)

第3回 住まいについて表現する

< 4課の言語行為 > 家、部屋の様子を説明する・意見を述べる、住居の広告を理解する

< 4課の文法項目 > 名詞の性と格、定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の主格・目的格、所有冠詞の主格・目的格(1)

第4回 ドイツでの大学生の住まいについてのテキストを選択的に読む

< 4課の言語行為 > 家、部屋の様子を説明する・意見を述べる、住居の広告を理解する

< 4課の文法項目 > 名詞の性と格、定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の主格・目的格、所有冠詞の主格・目的格(1)

< ドイツ事情 > Wie wohnen Studenten in Deutschland?

第5回 食べ物・飲み物の名前を学ぶ

< 5課の言語行為 > 食習慣について話す、カフェで注文する・支払う

< 5課の文法項目 > m?gen、不定冠詞と定冠詞の目的格、無冠詞、名詞と3人称の人称代名詞

第6回 レストランで注文する、味について表現する

<5課の言語行為> 食習慣について話す、カフェで注文する・支払う

<5課の文法項目> m?gen、不定冠詞と定冠詞の目的格、無冠詞、名詞と3人称の人称代名詞

第7回 レストランで支払いする

<5課の言語行為> 食習慣について話す、カフェで注文する・支払う

<5課の文法項目> m?gen、不定冠詞と定冠詞の目的格、無冠詞、名詞と3人称の人称代名詞

第8回 復習

4課・5課の前半で学習した内容について復習する。

第9回 ドイツ人の食習慣についてのテキストを読み解く

<5課の言語行為> 食習慣について話す、カフェで注文する・支払う

<5課の文法項目> m?gen、不定冠詞と定冠詞の目的格、無冠詞、名詞と3人称の人称代名詞

<ドイツ事情> Was essen die Deutschen?

第10回 店や品物の名前を学ぶ

<6課の言語行為> どこで何を買い物ができるかを話す、スーパーの広告を理解する、何がどこにあるかを表現する、営業時間を理解する

<6課の文法項目> 場所を表す前置詞、不定冠詞・定冠詞：与格、指示代名詞：主格・目的格

第11回 場所を表す表現を学ぶ

<6課の言語行為> どこで何を買い物ができるかを話す、スーパーの広告を理解する、何がどこにあるかを表現する、営業時間を理解する

<6課の文法項目> 場所を表す前置詞、不定冠詞・定冠詞：与格、指示代名詞：主格・目的格

第12回 商品の値段を表す表現を学ぶ

<6課の言語行為> どこで何を買い物ができるかを話す、スーパーの広告を理解する、何がどこにあるかを表現する、営業時間を理解する

<6課の文法項目> 場所を表す前置詞、不定冠詞・定冠詞：与格、指示代名詞：主格・目的格

第13回 服装について学ぶ

<6課の言語行為> どこで何を買い物ができるかを話す、スーパーの広告を理解する、何がどこにあるかを表現する、営業時間を理解する

<6課の文法項目> 場所を表す前置詞、不定冠詞・定冠詞：与格、指示代名詞：主格・目的格

第14回 ドイツの店舗の営業時間についてのテキストを読み解く

<6課の言語行為> どこで何を買い物ができるかを話す、スーパーの広告を理解する、何がどこにあるかを表現する、営業時間を理解する

<6課の文法項目> 場所を表す前置詞、不定冠詞・定冠詞：与格、指示代名詞：主格・目的格

<ドイツ事情> Ladenöffnungszeiten in Japan und D

utschland

第15回 総復習

4課から6課を総復習し、学習した内容の定着を図る。

2022年度 後期

1.0単位

初級ドイツ語 a (総合的コミュニケーション)E【人文】

森田 昌美

<授業の方法>

対面授業(演習)

<授業の目的>

ドイツ語の言語運用能力を育成しながら、日常生活を中心にドイツ語圏の文化に触れていきましょう。その学習過程で、受講者自身の文化を客観的、相対的にとらえる態度や観点を育てます。異なる文化背景を持つ人たちとのコミュニケーションのあり方を考え、みずからの行動にフィードバックする能力を身につけ付けましょう。これは、全学ディプロマ・ポリシーの「1. 幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる」にそっています。

<到達目標>

この授業は、初級ドイツ語 bと緊密に連携した半期のドイツ語学習を通して、ごく簡単な表現が聴き取れ、基本的な語句で自分の名前や気持ちが伝えられるようになること、さらに日常生活での基本的な表現を理解し、ごく簡単なやり取りができるようになることを目的とします。これは、『ヨーロッパ言語共通参照枠』(略称CEFR)に照らせば、A1/1レベルに相当するドイツ語運用能力です。

1. よく使われる日常的表現と基本的な言い回しを理解し、用いることができる。
2. 自分や他人を紹介することができる。
3. どこに住んでいるか、誰と知り合いかが、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。
4. もし相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

CEFR「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠」は、ゲーテ・インスティトゥートの公式HPによれば以下ようになります。

A1: まず、日常生活の場面で短く簡単なドイツ語表現が理解でき、自分でも言えるようになります。例えば自己紹介ができ、相手に簡単な質問をしたり、それに答えたりできます。食事や買い物や旅行の場面で、相手がゆっくり明瞭に話してくれるなら、コミュニケーションが図

れます。

A2: 毎日の生活で頻りに使われる言葉や表現に慣れ、仕事や家族や故郷など、自分に関する事や日常的で具体的な生活に関する事なら、ドイツ語でコミュニケーションが図れます。また日常的に必要な事柄が、簡単な文章の形で表現できるようになります。

B1: 明瞭な通常のドイツ語であれば、仕事や趣味や生活など日常的な事柄についてのドイツ語の発言や文章が理解できます。例えば、旅行中に出会うさまざまな出来事に対して、必要な対応ができ、また、自分の経験や夢・希望・目標などについて話すことができます。さらに、自分に身近なテーマがあれば、意見を述べたり、その論拠を説明したりできます。

B2: 抽象的で複雑なドイツ語で表現されても、その趣旨が理解できます。自分の仕事や専門分野に関する事柄なら、ドイツ語で行われる議論の内容が理解できるだけでなく、自分の立場や意見を述べたり、あるいはひとつの意見に対する利点と不利点を論述したりできます。日常的ないくつかのテーマでは、広い範囲にわたって明確に意見と情報が交換でき、ドイツ語を母国語とする人との間で、相互に困難を感じずに自然な会話が成立します。

C1: ほとんどのテーマで、高度なドイツ語表現や長い文章が理解でき、また、その言外のニュアンスも感じ取れます。ドイツ人社会で、社会人として職業についたり大学で学んだりするのに必要十分な語彙と表現を使いこなす、複雑で微妙な内容を正確なドイツ語で表現することができます。

C2: 社会生活上、不自由なくすべてのことに対応できるドイツ語力があります。さまざまな分野の多様なテーマに関して、読む、書く、話す、聞くことが困難なくでき、また、ニュアンスにとんだ自然なドイツ語を正確に使うことができます。

< 授業のキーワード >

コミュニケーション能力の育成、複数の言語・文化の多様性を理解する国際性の習得

< 授業の進め方 >

初級ドイツ語では a・bとも共通の教科書を使用します。aとbで二名の担当教員が授業内容について緊密に連絡を取り合いながら、リレー形式で授業を進めていきます。

< 履修するにあたって >

この科目を履修するにあたって、宿題にきちんと取り組むことはもちろんですが、前回の授業内容をしっかり復習した上で授業に臨む習慣をつけるようにしてください。新しい課に入る前には、教科書巻末にある「自己チェッ

クリスト」を使って、すでに学習した内容が理解できているかどうかを自己診断しておきましょう。教科書とワークブックを必ず購入してください。

課題として出される宿題の提出状況や随時行なわれる小テストの成績は、成績評価の対象になります。なお、第一回目の授業には必ず出席すること。授業内容・授業方法、評価基準についての全体的な説明があります。

< 授業時間外に必要な学修 >

原則として、毎回宿題があります。次回の授業までに取り組んでおいてください。また授業で学んだ学習事項を復習する習慣を身に付けましょう。宿題と復習で1時間くらいを目安に、授業時間外の学習時間を取ってください。

< 提出課題など >

宿題は必ず期限までに提出してください。提出されたものは、添削して返却し、注意事項を授業で伝えます。宿題に取り組んでいることを前提として、授業は進められます。宿題の提出状況は、成績評価の対象になります。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の自発的な発言回数とその内容など、授業への積極的な参加 20% + 宿題の提出とその内容 20% + 小テストの成績 20% + 定期試験 40%

定期試験では、「初級ドイツ語 a」では、文法知識とその運用能力、テキストを読む力を評価します。

出席10回以上の者の成績はS・A・B・C・D、出席10回未満の者は「/」。

A評価以上の者の割合は、D評価以上の者を母数として合わせて概ね30%以内とする。

S評価は、A評価相当の中でも特に優れた者に対するのみ、これを与える。

< テキスト >

1. 藤原三枝子他著『スタート! 1 コミュニケーション活動で学ぶドイツ語』(三修社 2019年) 定価2600円 + 税

2. 『スタート! 1 ワークブック コミュニケーション活動で学ぶドイツ語』(三修社 2019年) 定価1000円 + 税

なお、セット購入価格があります。購入時に確認してください。

< 参考図書 >

授業の内容・進度に合わせて、適宜紹介します

< 授業計画 >

第1回 部屋について表現する

< 4課の言語行為 > 家、部屋の様子を説明する・意見を述べる、住居の広告を理解する

< 4課の文法項目 > 名詞の性と格、定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の主格・目的格、所有冠詞の主格・目的格(1)

第2回 家具・身の回りの物の名前を学ぶ

< 4課の言語行為 > 家、部屋の様子を説明する・意見を

述べる、住居の広告を理解する

<4課の文法項目> 名詞の性と格、定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の主格・目的格、所有冠詞の主格・目的格(1)

第3回 住まいについて表現する

<4課の言語行為> 家、部屋の様子を説明する・意見を述べる、住居の広告を理解する

<4課の文法項目> 名詞の性と格、定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の主格・目的格、所有冠詞の主格・目的格(1)

第4回 ドイツでの大学生の住まいについてのテキストを選択的に読む

<4課の言語行為> 家、部屋の様子を説明する・意見を述べる、住居の広告を理解する

<4課の文法項目> 名詞の性と格、定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の主格・目的格、所有冠詞の主格・目的格(1)

<ドイツ事情> Wie wohnen Studenten in Deutschland?

第5回 食べ物・飲み物の名前を学ぶ

<5課の言語行為> 食習慣について話す、カフェで注文する・支払う

<5課の文法項目> m?gen、不定冠詞と定冠詞の目的格、無冠詞、名詞と3人称の人称代名詞

第6回 レストランで注文する、味について表現する

<5課の言語行為> 食習慣について話す、カフェで注文する・支払う

<5課の文法項目> m?gen、不定冠詞と定冠詞の目的格、無冠詞、名詞と3人称の人称代名詞

第7回 レストランで支払う

<5課の言語行為> 食習慣について話す、カフェで注文する・支払う

<5課の文法項目> m?gen、不定冠詞と定冠詞の目的格、無冠詞、名詞と3人称の人称代名詞

第8回 復習

4課・5課の前半で学習した内容について復習する。

第9回 ドイツ人の食習慣についてのテキストを読み解く

<5課の言語行為> 食習慣について話す、カフェで注文する・支払う

<5課の文法項目> m?gen、不定冠詞と定冠詞の目的格、無冠詞、名詞と3人称の人称代名詞

<ドイツ事情> Was essen die Deutschen?

第10回 店や品物の名前を学ぶ

<6課の言語行為> どこで何を買い物ができるかを話す、スーパーの広告を理解する、何がどこにあるかを表現する、営業時間を理解する

<6課の文法項目> 場所を表す前置詞、不定冠詞・定冠詞：与格、指示代名詞：主格・目的格

第11回 場所を表す表現を学ぶ

<6課の言語行為> どこで何を買い物ができるかを話す、スーパーの広告を理解する、何がどこにあるかを表現する、営業時間を理解する

<6課の文法項目> 場所を表す前置詞、不定冠詞・定冠詞：与格、指示代名詞：主格・目的格

第12回 商品の値段を表す表現を学ぶ

<6課の言語行為> どこで何を買い物ができるかを話す、スーパーの広告を理解する、何がどこにあるかを表現する、営業時間を理解する

<6課の文法項目> 場所を表す前置詞、不定冠詞・定冠詞：与格、指示代名詞：主格・目的格

第13回 服装について学ぶ

<6課の言語行為> どこで何を買い物ができるかを話す、スーパーの広告を理解する、何がどこにあるかを表現する、営業時間を理解する

<6課の文法項目> 場所を表す前置詞、不定冠詞・定冠詞：与格、指示代名詞：主格・目的格

第14回 ドイツの店舗の営業時間についてのテキストを読み解く

<6課の言語行為> どこで何を買い物ができるかを話す、スーパーの広告を理解する、何がどこにあるかを表現する、営業時間を理解する

<6課の文法項目> 場所を表す前置詞、不定冠詞・定冠詞：与格、指示代名詞：主格・目的格

<ドイツ事情> Laden?ffnungszeiten in Japan und Deutschland

第15回 総復習

4課から6課を総復習し、学習した内容の定着を図る。

2022年度 前期

1.0単位

初級ドイツ語 b 再・シ

井口 真一

<授業の方法>

対面授業(演習)

<授業の目的>

ドイツ語の言語運用能力を育成しながら、日常生活を中心にドイツ語圏の文化に触れていきましょう。その学習過程で、受講者自身の文化を客観的、相対的にとらえる態度や観点を育てます。異なる文化背景を持つ人たちとのコミュニケーションのあり方を考え、みずからの行動にフィードバックする能力を身に付けましょう。これは、全学ディプロマ・ポリシーの「1. 幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる」にそっています。

<到達目標>

この授業は半期のドイツ語学習を通して、ごく簡単な表現が聞き取れ、基本的な語句で自分の名前や気持ちが伝えられるようになること、さらに日常生活での基本的な

表現を理解し、ごく簡単なやり取りができるようになることを目的とします。これは、『ヨーロッパ言語共通参照枠』(略称CEFR)に照らせば、A1/1レベルに相当するドイツ語運用能力です。

1. よく使われる日常的表現と基本的な言い回しを理解し、用いることができる。
2. 自分や他人を紹介することができる。
3. どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。
4. もし相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

CEFR「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠」は、ゲーテ・インスティトゥートの公式HPによれば以下のようになります。

A1: まず、日常生活の場面で短く簡単なドイツ語表現が理解でき、自分でも言えるようになります。例えば自己紹介ができ、相手に簡単な質問をしたり、それに答えたりできます。食事や買い物や旅行の場面で、相手がゆっくり明瞭に話してくれるなら、コミュニケーションが図れます。

A2: 毎日の生活で頻繁に使われる言葉や表現に慣れ、仕事や家族や故郷など、自分に関する事や日常的で具体的な生活に関する事なら、ドイツ語でコミュニケーションが図れます。また日常的に必要な事柄が、簡単な文章の形で表現できるようになります。

B1: 明瞭な通常のドイツ語であれば、仕事や趣味や生活など日常的な事柄についてのドイツ語の発言や文章が理解できます。例えば、旅行中に会おうさまざまな出来事に対して、必要な対応ができ、また、自分の経験や夢・希望・目標などについて話すことができます。さらに、自分に身近なテーマがあれば、意見を述べたり、その論拠を説明したりできます。

B2: 抽象的で複雑なドイツ語で表現されても、その趣旨が理解できます。自分の仕事や専門分野に関する事柄なら、ドイツ語で行われる議論の内容が理解できるだけでなく、自分の立場や意見を述べたり、あるいはひとつの意見に対する利点と不利点を論述したりできます。日常的ないくつかのテーマでは、広い範囲にわたって明確に意見と情報が交換でき、ドイツ語を母国語とする人との間で、相互に困難を感じずに自然な会話が成立します。

C1: ほとんどのテーマで、高度なドイツ語表現や長い文章が理解でき、また、その言外のニュアンスも感じ取れます。ドイツ人社会で、社会人として職業についたり大

学で学んだりするのに必要十分な語彙と表現を使いこなし、複雑で微妙な内容を正確なドイツ語で表現することができます。

C2: 社会生活上、不自由なくすべてのことに対応できるドイツ語力があります。さまざまな分野の多様なテーマに関して、読む、書く、話す、聞くことが困難なくでき、また、ニュアンスにとんだ自然なドイツ語を正確に使うことができます。

<授業のキーワード>

コミュニケーション能力の育成、複数の言語・文化の多様性を理解する国際性の習得

<授業の進め方>

初級ドイツ語の再履修クラスでは a・bとも共通の教科書を使用しますが、リレー形式では授業を行いません。aとbで扱う領域を分け、それぞれを独立させた形で授業を進めて行きます。初級ドイツ語 bでは、会話・コミュニケーション能力の育成に重点を置きます。会話と言っても、双方向のコミュニケーションと考えてください。会話は話すことに留まりません。相手の意図をくみ取るためには、聴く力を伸ばすこと、ポイントをメモしたり、相手のメッセージに、返事のメールを送ることも必要になってきます。広い視野から、会話・コミュニケーション能力を捉えてください。

授業中に随時小テストを行いません。小テストの成績は成績評価の対象になります。

<履修するにあたって>

この科目を履修するにあたって、宿題にきちんと取り組むことはもちろんですが、前回の授業内容をしっかり復習した上で授業に臨む習慣をつけるようにしてください。新しい課に入る前には、教科書巻末にある「自己チェックリスト」を使って、すでに学習した内容が理解できているかどうかを自己診断しておきましょう。ワークブックが付いていない方の教科書を購入してください。課題として出される宿題の提出状況や随時行なわれる小テストの成績は、成績評価の対象になります。

<授業時間外に必要な学修>

原則として、毎回宿題があります。次回の授業までに取り組んでおいてください。また授業で学んだ学習事項を復習する習慣を身に付けましょう。宿題と復習で1時間くらいを目安に、授業時間外の学習時間を取ってください。

<提出課題など>

宿題は必ず期限までに提出してください。宿題に取り組んでいることを前提として、授業は進められます。宿題の提出状況は、成績評価の対象になります。

提出された課題については、次回授業時に解答例の提示と全体のフィードバックを行います。

<成績評価方法・基準>

授業中の自発的な発言回数とその内容など、授業への積極的な参加 20% + 宿題の提出とその内容 20% + 小テストの成績 20% + 定期試験 40%

定期試験では、「初級ドイツ語 b 再」は、聴き取り能力と書く力を測ります。音声を聴きながら、ポイントをメモしたり、相手のメッセージに、返事のメールを送ることも必要になってきます。

出席10回以上の者の成績はS・A・B・C・D、出席10回未満の者は「/」。

A評価以上の者の割合は、D評価以上の者を母数として合わせて概ね30%以内とする。

S評価は、A評価相当の中でも特に優れた者に対してのみ、これを与える。

<テキスト>

藤原三枝子他著『スタート! 1 コミュニケーション活動で学ぶドイツ語』(三修社 2019年)定価2600円 + 税

<参考図書>

授業の内容・進度に合わせて、適宜紹介します

<授業計画>

第1回 部屋について表現する

<4課の言語行為> 家、部屋の様子を説明する・意見を述べる、住居の広告を理解する

<4課の文法項目> 名詞の性と格、定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の主格・目的格、所有冠詞の主格・目的格(1)

第2回 家具・身の回りの物の名前を学ぶ

<4課の言語行為> 家、部屋の様子を説明する・意見を述べる、住居の広告を理解する

<4課の文法項目> 名詞の性と格、定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の主格・目的格、所有冠詞の主格・目的格(1)

第3回 住まいについて表現する

<4課の言語行為> 家、部屋の様子を説明する・意見を述べる、住居の広告を理解する

<4課の文法項目> 名詞の性と格、定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の主格・目的格、所有冠詞の主格・目的格(1)

第4回 ドイツでの大学生の住まいについてのテキストを選択的に読む

<4課の言語行為> 家、部屋の様子を説明する・意見を述べる、住居の広告を理解する

<4課の文法項目> 名詞の性と格、定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の主格・目的格、所有冠詞の主格・目的格(1)

<ドイツ事情> Wie wohnen Studenten in Deutschland?

第5回 食べ物・飲み物の名前を学ぶ

<5課の言語行為> 食習慣について話す、カフェで注

文する・支払う

<5課の文法項目> m?gen、不定冠詞と定冠詞の目的格、無冠詞、名詞と3人称の人称代名詞

第6回 レストランで注文する、味について表現する

<5課の言語行為> 食習慣について話す、カフェで注文する・支払う

<5課の文法項目> m?gen、不定冠詞と定冠詞の目的格、無冠詞、名詞と3人称の人称代名詞

第7回 レストランで支払いする

<5課の言語行為> 食習慣について話す、カフェで注文する・支払う

<5課の文法項目> m?gen、不定冠詞と定冠詞の目的格、無冠詞、名詞と3人称の人称代名詞

第8回 復習

4課・5課の前半で学習した内容について復習する

第9回 ドイツ人の食習慣についてのテキストを読み解く

<5課の言語行為> 食習慣について話す、カフェで注文する・支払う

<5課の文法項目> m?gen、不定冠詞と定冠詞の目的格、無冠詞、名詞と3人称の人称代名詞

<ドイツ事情> Was essen die Deutschen?

第10回 店や品物の名前を学ぶ

<6課の言語行為> どこで何を買うことができるかを話す、スーパーの広告を理解する、何がどこにあるかを表現する、営業時間を理解する

<6課の文法項目> 場所を表す前置詞、不定冠詞・定冠詞：与格、指示代名詞：主格・目的格

第11回 場所を表す表現を学ぶ

<6課の言語行為> どこで何を買うことができるかを話す、スーパーの広告を理解する、何がどこにあるかを表現する、営業時間を理解する

<6課の文法項目> 場所を表す前置詞、不定冠詞・定冠詞：与格、指示代名詞：主格・目的格

第12回 商品の値段を表す表現を学ぶ

<6課の言語行為> どこで何を買うことができるかを話す、スーパーの広告を理解する、何がどこにあるかを表現する、営業時間を理解する

<6課の文法項目> 場所を表す前置詞、不定冠詞・定冠詞：与格、指示代名詞：主格・目的格

第13回 服装について学ぶ

<6課の言語行為> どこで何を買うことができるかを話す、スーパーの広告を理解する、何がどこにあるかを表現する、営業時間を理解する

<6課の文法項目> 場所を表す前置詞、不定冠詞・定冠詞：与格、指示代名詞：主格・目的格

第14回 ドイツの店舗の営業時間についてのテキストを読み解く

<6課の言語行為> どこで何を買うことができるかを話す、スーパーの広告を理解する、何がどこにあるかを

表現する、営業時間を理解する

<6課の文法項目> 場所を表す前置詞、不定冠詞・
定冠詞：与格、指示代名詞：主格・目的格

<ドイツ事情> Ladenöffnungszeiten in Japan und D
eutschland

第15回 総復習

定期試験に備えて4課から6課を総復習する。

2022年度 後期

1.0単位

初級ドイツ語 b 再・リ

奥田 誠司

<授業の方法>

対面授業(演習)

<授業の目的>

ドイツ語の言語運用能力を育成しながら、日常生活を中心
にドイツ語圏の文化に触れていきましょう。その学習
過程で、受講者自身の文化を客観的、相対的にとらえる
態度や観点を育てます。異なる文化背景を持つ人たちと
のコミュニケーションのあり方を考え、みずからの行動
にフィードバックする能力を身につけ付けましょう。こ
れは、全学ディプロマ・ポリシーの「1. 幅広い知識に
基づいて、他者および異文化を理解することができる」
にそっています。

<到達目標>

この授業は半期のドイツ語学習を通して、ごく簡単な表
現が聴き取れ、基本的な語句で自分の名前や気持ちが伝
えられるようになること、さらに日常生活での基本的な
表現を理解し、ごく簡単なやり取りができるようになる
ことを目的とします。これは、『ヨーロッパ言語共通参
照枠』(略称CEFR)に照らせば、A1/1レベルに相当するド
イツ語運用能力です。

1. よく使われる日常的表現と基本的な言い回しを理解し、用いることができる。
2. 自分や他人を紹介することができる。
3. どこに住んでいるか、誰と知り合いが、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。
4. もし相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

CEFR「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共
通参照枠」は、ゲーテ・インスティトゥートの公式HPに
よれば以下ようになります。

A1: まず、日常生活の場面で短く簡単なドイツ語表現が
理解でき、自分でも言えるようになります。例えば自己
紹介ができ、相手に簡単な質問をしたり、それに答えた

りできます。食事や買い物や旅行の場面で、相手がゆっ
くり明瞭に話してくれるなら、コミュニケーションが図
れます。

A2: 毎日の生活で頻繁に使われる言葉や表現に慣れ、仕
事や家族や故郷など、自分に関する事や日常的で具体的
な生活に関する事なら、ドイツ語でコミュニケーション
が図れます。また日常的に必要な事柄が、簡単な文章の
形で表現できるようになります。

B1: 明瞭な通常のドイツ語であれば、仕事や趣味や生活
など日常的な事柄についてのドイツ語の発言や文章が理
解できます。例えば、旅行中に会うさまざまな出来事
に対して、必要な対応ができ、また、自分の経験や夢・
希望・目標などについて話すことができます。さらに、
自分に身近なテーマがあれば、意見を述べたり、その論拠
を説明したりできます。

B2: 抽象的で複雑なドイツ語で表現されても、その趣旨
が理解できます。自分の仕事や専門分野に関する事柄な
ら、ドイツ語で行われる議論の内容が理解できるだけで
なく、自分の立場や意見を述べたり、あるいはひとつの
意見に対する利点と不利点を論述したりできます。日常
的ないくつかのテーマでは、広い範囲にわたって明確に
意見と情報が交換でき、ドイツ語を母国語とする人との
間で、相互に困難を感じずに自然な会話が成立します。

C1: ほとんどのテーマで、高度なドイツ語表現や長い文
章が理解でき、また、その言外のニュアンスも感じ取れ
ます。ドイツ人社会で、社会人として職業についたり大
学で学んだりするのに必要十分な語彙と表現を使いこな
し、複雑で微妙な内容を正確なドイツ語で表現するこ
とができます。

C2: 社会生活上、不自由なくすべてのことに対応できる
ドイツ語力があります。さまざまな分野の多様なテーマ
に関して、読む、書く、話す、聞くことが困難なくでき、
また、ニュアンスにとんだ自然なドイツ語を正確に使う
ことができます。

<授業のキーワード>

コミュニケーション能力の育成、複数の言語・文化の多
様性を理解する国際性の習得

<授業の進め方>

初級ドイツ語の再履修クラスではIIa・IIbとも共通の教
科書を使用しますが、リレー形式では授業を行ないませ
ん。IIaとIIbで扱う領域を分け、それぞれを独立させた
形で授業を進めて行きます。再履修初級ドイツ語IIbで
は、会話・コミュニケーション能力の育成に重点を置き
ます。会話と言っても、双方向のコミュニケーションと
考えてください。会話は話すことに留まりません。相手

の意図をくみ取るためには、聴く力を伸ばすこと、ポイントをメモしたり、相手のメッセージに、返事のメールを送ることも必要になってきます。広い視野から、会話・コミュニケーション能力を捉えてください。

授業中に随時小テストを行いません。小テストの成績は成績評価の対象になります。

<履修するにあたって>

この科目を履修するにあたって、宿題にきちんと取り組むことはもちろんですが、前回の授業内容をしっかり復習した上で授業に臨む習慣をつけるようにしてください。新しい課に入る前には、教科書巻末にある「自己チェックリスト」を使って、すでに学習した内容が理解できているかどうかを自己診断しておきましょう。ワークブックが付いていない方の教科書を購入してください。

課題として出される宿題の提出状況や随時行なわれる小テストの成績は、成績評価の対象になります。なお、第一回目の授業には必ず出席すること。授業内容・授業方法、評価基準についての全体的な説明があります。

<授業時間外に必要な学修>

原則として、毎回宿題があります。次回の授業までに取り組んでおいてください。また授業で学んだ学習事項を復習する習慣を身に付けましょう。宿題と復習で1時間くらいを目安に、授業時間外の学習時間を取ってください。

<提出課題など>

宿題は必ず期限までに提出してください。宿題に取り組んでいることを前提として、授業は進められます。宿題の提出状況は、成績評価の対象になります。

<成績評価方法・基準>

授業中の自発的な発言回数とその内容など、授業への積極的な参加 20% + 宿題の提出とその内容 20% + 小テストの成績 20% + 定期試験 40%

定期試験では、「初級ドイツ語 b 再」は、聴き取り能力と書く力を測ります。音声を聴きながら、ポイントをメモしたり、相手のメッセージに、返事のメールを送ることも必要になってきます。

出席10回以上の者の成績はS・A・B・C・D、出席10回未満の者は「/」。

A評価以上の者の割合は、D評価以上の者を母数として合わせて概ね30%以内とする。

S評価は、A評価相当の中でも特に優れた者に対してのみ、これを与える。

<テキスト>

藤原三枝子他著『スタート! 1 コミュニケーション活動で学ぶドイツ語』(三修社 2019年)定価2600円+税

<参考図書>

授業の内容・進度に合わせて、適宜紹介します

<授業計画>

第1回 部屋について表現する

<4課の言語行為> 家、部屋の様子を説明する・意見を述べる、住居の広告を理解する

<4課の文法項目> 名詞の性と格、定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の主格・目的格、所有冠詞の主格・目的格(1)

第2回 家具・身の回りの物の名前を学ぶ

<4課の言語行為> 家、部屋の様子を説明する・意見を述べる、住居の広告を理解する

<4課の文法項目> 名詞の性と格、定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の主格・目的格、所有冠詞の主格・目的格(1)

第3回 住まいについて表現する

<4課の言語行為> 家、部屋の様子を説明する・意見を述べる、住居の広告を理解する

<4課の文法項目> 名詞の性と格、定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の主格・目的格、所有冠詞の主格・目的格(1)

第4回 ドイツでの大学生の住まいについてのテキストを選択的に読む

<4課の言語行為> 家、部屋の様子を説明する・意見を述べる、住居の広告を理解する

<4課の文法項目> 名詞の性と格、定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の主格・目的格、所有冠詞の主格・目的格(1)

<ドイツ事情> Wie wohnen Studenten in Deutschland?

第5回 食べ物・飲み物の名前を学ぶ

<5課の言語行為> 食習慣について話す、カフェで注文する・支払う

<5課の文法項目> m?gen、不定冠詞と定冠詞の目的格、無冠詞、名詞と3人称の人称代名詞

第6回 レストランで注文する、味について表現する

<5課の言語行為> 食習慣について話す、カフェで注文する・支払う

<5課の文法項目> m?gen、不定冠詞と定冠詞の目的格、無冠詞、名詞と3人称の人称代名詞

第7回 レストランで支払いする

<5課の言語行為> 食習慣について話す、カフェで注文する・支払う

<5課の文法項目> m?gen、不定冠詞と定冠詞の目的格、無冠詞、名詞と3人称の人称代名詞

第8回 復習

4課・5課の前半で学習した内容について復習する。

第9回 ドイツ人の食習慣についてのテキストを読み解く

<5課の言語行為> 食習慣について話す、カフェで注文する・支払う

<5課の文法項目> m?gen、不定冠詞と定冠詞の目的格、無冠詞、名詞と3人称の人称代名詞

<ドイツ事情> Was essen die Deutschen?

第10回 店や品物の名前を学ぶ

<6課の言語行為> どこで何を買うことができるかを話す、スーパーの広告を理解する、何がどこにあるかを表現する、営業時間を理解する

<6課の文法項目> 場所を表す前置詞、不定冠詞・定冠詞：与格、指示代名詞：主格・目的格

第11回 場所を表す表現を学ぶ

<6課の言語行為> どこで何を買うことができるかを話す、スーパーの広告を理解する、何がどこにあるかを表現する、営業時間を理解する

<6課の文法項目> 場所を表す前置詞、不定冠詞・定冠詞：与格、指示代名詞：主格・目的格

第12回 商品の値段を表す表現を学ぶ

<6課の言語行為> どこで何を買うことができるかを話す、スーパーの広告を理解する、何がどこにあるかを表現する、営業時間を理解する

<6課の文法項目> 場所を表す前置詞、不定冠詞・定冠詞：与格、指示代名詞：主格・目的格

第13回 服装について学ぶ

<6課の言語行為> どこで何を買うことができるかを話す、スーパーの広告を理解する、何がどこにあるかを表現する、営業時間を理解する

<6課の文法項目> 場所を表す前置詞、不定冠詞・定冠詞：与格、指示代名詞：主格・目的格

第14回 ドイツの店舗の営業時間についてのテキストを読み解く

<6課の言語行為> どこで何を買うことができるかを話す、スーパーの広告を理解する、何がどこにあるかを表現する、営業時間を理解する

<6課の文法項目> 場所を表す前置詞、不定冠詞・定冠詞：与格、指示代名詞：主格・目的格

<ドイツ事情> Ladenöffnungszeiten in Japan und Deutschland

第15回 総復習

4課から6課を総復習し、学習した内容の定着を図る。

2022年度 後期

1.0単位

初級ドイツ語 b (総合的コミュニケーション)A【経済】

森田 昌美

<授業の方法>

対面授業(演習)

<授業の目的>

ドイツ語の言語運用能力を育成しながら、日常生活を中心にドイツ語圏の文化に触れていきましょう。その学習過程で、受講者自身の文化を客観的、相対的にとらえる

態度や観点を育てます。異なる文化背景を持つ人たちとのコミュニケーションのあり方を考え、みずからの行動にフィードバックする能力を身につけ付けましょう。これは、全学ディプロマ・ポリシーの「1. 幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる」にそっています。

<到達目標>

この授業は、初級ドイツ語 aと緊密に連携した半期のドイツ語学習を通して、ごく簡単な表現が聞き取れ、基本的な語句で自分の名前や気持ちが伝えられるようになること、さらに日常生活での基本的な表現を理解し、ごく簡単なやり取りができるようになることを目的とします。これは、『ヨーロッパ言語共通参照枠』(略称CEFR)に照らせば、A1/1レベルに相当するドイツ語運用能力です。

1. よく使われる日常的表現と基本的な言い回しを理解し、用いることができる。
2. 自分や他人を紹介することができる。
3. どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。
4. もし相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

CEFR「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠」は、ゲーテ・インスティトゥートの公式HPによれば以下ようになります。

A1: まず、日常生活の場面で短く簡単なドイツ語表現が理解でき、自分でも言えるようになります。例えば自己紹介ができ、相手に簡単な質問をしたり、それに答えたりできます。食事や買い物や旅行の場面で、相手がゆっくり明瞭に話してくれるなら、コミュニケーションが図れます。

A2: 毎日の生活で頻繁に使われる言葉や表現に慣れ、仕事や家族や故郷など、自分に関する事や日常的で具体的な生活に関する事なら、ドイツ語でコミュニケーションが図れます。また日常的に必要な事柄が、簡単な文章の形で表現できるようになります。

B1: 明瞭な通常のドイツ語であれば、仕事や趣味や生活など日常的な事柄についてのドイツ語の発言や文章が理解できます。例えば、旅行中に会うさまざまな出来事に対して、必要な対応ができ、また、自分の経験や夢・希望・目標などについて話すことができます。さらに、自分に身近なテーマがあれば、意見を述べたり、その論拠を説明したりできます。

B2: 抽象的で複雑なドイツ語で表現されても、その趣旨

が理解できます。自分の仕事や専門分野に関する事柄なら、ドイツ語で行われる議論の内容が理解できるだけでなく、自分の立場や意見を述べたり、あるいはひとつの意見に対する利点と不利点を論述したりできます。日常的ないくつかのテーマでは、広い範囲にわたって明確に意見と情報が交換でき、ドイツ語を母国語とする人との間で、相互に困難を感じずに自然な会話が成立します。

C1: ほとんどのテーマで、高度なドイツ語表現や長い文章が理解でき、また、その言外のニュアンスも感じ取れます。ドイツ人社会で、社会人として職業についたり大学で学んだりするのに必要十分な語彙と表現を使いこなす、複雑で微妙な内容を正確なドイツ語で表現することができます。

C2: 社会生活上、不自由なくすべてのことに対応できるドイツ語力があります。さまざまな分野の多様なテーマに関して、読む、書く、話す、聞くことが困難なくでき、また、ニュアンスにとんだ自然なドイツ語を正確に使うことができます。

< 授業のキーワード >

コミュニケーション能力の育成、複数の言語・文化の多様性を理解する国際性の習得

< 授業の進め方 >

初級ドイツ語では a・bとも共通の教科書を使用します。aとbで二名の担当教員が授業内容について緊密に連絡を取り合いながら、リレー形式で授業を進めていきます。

授業中に随時小テストを行いません。小テストの成績は成績評価の対象になります。

< 履修するにあたって >

この科目を履修するにあたって、宿題にきちんと取り組むことはもちろんですが、前回の授業内容をしっかり復習した上で授業に臨む習慣をつけるようにしてください。新しい課に入る前には、教科書巻末にある「自己チェックリスト」を使って、すでに学習した内容が理解できているかどうかを自己診断しておきましょう。教科書とワークブックを必ず購入してください。

課題として出される宿題の提出状況や随時行なわれる小テストの成績は、成績評価の対象になります。なお、第一回目の授業には必ず出席すること。授業内容・授業方法、評価基準についての全体的な説明があります。

< 授業時間外に必要な学修 >

原則として、毎回宿題があります。次回の授業までに取り組んでおいてください。また授業で学んだ学習事項を復習する習慣を身に付けましょう。宿題と復習で1時間くらいを目安に、授業時間外の学習時間を取ってください。

< 提出課題など >

宿題は必ず期限までに提出してください。提出されたも

のは、添削して返却し、注意事項を授業で伝えます。宿題に取り組んでいることを前提として、授業は進められます。宿題の提出状況は、成績評価の対象になります。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の自発的な発言回数とその内容など、授業への積極的な参加 20% + 宿題の提出とその内容 20% + 小テストの成績 20% + 定期試験 40%

定期試験では、「初級ドイツ語 b」は、聴き取り能力と書く力を測ります。音声を聴きながら、ポイントをメモしたり、相手のメッセージに、返事のメールを送ることも必要になってきます。

出席10回以上の者の成績はS・A・B・C・D、出席10回未満の者は「/」。

A評価以上の者の割合は、D評価以上の者を母数として合わせて概ね30%以内とする。

S評価は、A評価相当の中でも特に優れた者に対するのみ、これを与える。

< テキスト >

1. 藤原三枝子他著『スタート! 1 コミュニケーション活動で学ぶドイツ語』(三修社 2019年) 定価2600円+税

2. 『スタート! 1 ワークブック コミュニケーション活動で学ぶドイツ語』(三修社 2019年) 定価1000円+税

なお、セット購入価格があります。購入時に確認してください。

< 参考図書 >

授業の内容・進度に合わせて、適宜紹介します

< 授業計画 >

第1回 部屋について表現する

<4課の言語行為> 家、部屋の様子を説明する・意見を述べる、住居の広告を理解する

<4課の文法項目> 名詞の性と格、定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の主格・目的格、所有冠詞の主格・目的格(1)

第2回 家具・身の回りの物の名前を学ぶ

<4課の言語行為> 家、部屋の様子を説明する・意見を述べる、住居の広告を理解する

<4課の文法項目> 名詞の性と格、定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の主格・目的格、所有冠詞の主格・目的格(1)

第3回 住まいについて表現する

<4課の言語行為> 家、部屋の様子を説明する・意見を述べる、住居の広告を理解する

<4課の文法項目> 名詞の性と格、定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の主格・目的格、所有冠詞の主格・目的格(1)

第4回 ドイツでの大学生の住まいについてのテキストを選択的に読む

<4課の言語行為> 家、部屋の様子を説明する・意見を

述べる、住居の広告を理解する

<4課の文法項目> 名詞の性と格、定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の主格・目的格、所有冠詞の主格・目的格(1)

<ドイツ事情> Wie wohnen Studenten in Deutschland?

第5回 食べ物・飲み物の名前を学ぶ

<5課の言語行為> 食習慣について話す、カフェで注文する・支払う

<5課の文法項目> m?gen、不定冠詞と定冠詞の目的格、無冠詞、名詞と3人称の人称代名詞

第6回 レストランで注文する、味について表現する

<5課の言語行為> 食習慣について話す、カフェで注文する・支払う

<5課の文法項目> m?gen、不定冠詞と定冠詞の目的格、無冠詞、名詞と3人称の人称代名詞

第7回 レストランで支払いする

<5課の言語行為> 食習慣について話す、カフェで注文する・支払う

<5課の文法項目> m?gen、不定冠詞と定冠詞の目的格、無冠詞、名詞と3人称の人称代名詞

第8回 復習

4課・5課の前半で学習した内容について、復習する

第9回 ドイツ人の食習慣についてのテキストを読み解く

<5課の言語行為> 食習慣について話す、カフェで注文する・支払う

<5課の文法項目> m?gen、不定冠詞と定冠詞の目的格、無冠詞、名詞と3人称の人称代名詞

<ドイツ事情> Was essen die Deutschen?

第10回 店や品物の名前を学ぶ

<6課の言語行為> どこで何を買うことができるかを話す、スーパーの広告を理解する、何がどこにあるかを表現する、営業時間を理解する

<6課の文法項目> 場所を表す前置詞、不定冠詞・定冠詞：与格、指示代名詞：主格・目的格

第11回 場所を表す表現を学ぶ

<6課の言語行為> どこで何を買うことができるかを話す、スーパーの広告を理解する、何がどこにあるかを表現する、営業時間を理解する

<6課の文法項目> 場所を表す前置詞、不定冠詞・定冠詞：与格、指示代名詞：主格・目的格

第12回 商品の値段を表す表現を学ぶ

<6課の言語行為> どこで何を買うことができるかを話す、スーパーの広告を理解する、何がどこにあるかを表現する、営業時間を理解する

<6課の文法項目> 場所を表す前置詞、不定冠詞・定冠詞：与格、指示代名詞：主格・目的格

第13回 服装について学ぶ

<6課の言語行為> どこで何を買うことができるかを

話す、スーパーの広告を理解する、何がどこにあるかを表現する、営業時間を理解する

<6課の文法項目> 場所を表す前置詞、不定冠詞・定冠詞：与格、指示代名詞：主格・目的格

第14回 ドイツの店舗の営業時間についてのテキストを読み解く

<6課の言語行為> どこで何を買うことができるかを話す、スーパーの広告を理解する、何がどこにあるかを表現する、営業時間を理解する

<6課の文法項目> 場所を表す前置詞、不定冠詞・定冠詞：与格、指示代名詞：主格・目的格

<ドイツ事情> Laden?ffnungszeiten in Japan und Deutschland

第15回 総復習

4課から6課を総復習し、学習した内容の定着を図る。

2022年度 後期

1.0単位

初級ドイツ語 b (総合的コミュニケーション)ア【薬】

森田 昌美

<授業の方法>

対面授業(演習)

<授業の目的>

ドイツ語の言語運用能力を育成しながら、日常生活を中心にドイツ語圏の文化に触れていきましょう。その学習過程で、受講者自身の文化を客観的、相対的にとらえる態度や観点を育てます。異なる文化背景を持つ人たちとのコミュニケーションのあり方を考え、みずからの行動にフィードバックする能力を身につけ付けましょう。これは、全学ディプロマ・ポリシーの「1. 幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる」にそっています。

<到達目標>

この授業は、初級ドイツ語 aと緊密に連携した半期のドイツ語学習を通して、ごく簡単な表現が聴き取れ、基本的な語句で自分の名前や気持ちが伝えられるようになること、さらに日常生活での基本的な表現を理解し、ごく簡単なやり取りができるようになることを目的とします。これは、『ヨーロッパ言語共通参照枠』(略称CEFR)に照らせば、A1/1レベルに相当するドイツ語運用能力です。

1. よく使われる日常的表現と基本的な言い回しを理解し、用いることができる。
2. 自分や他人を紹介することができる。
3. どこに住んでいるか、誰と知り合いかが、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。

4. もし相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができます。

CEFR「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠」は、ゲーテ・インスティトゥートの公式HPによれば以下ようになります。

A1: まず、日常生活の場面で短く簡単なドイツ語表現が理解でき、自分でも言えるようになります。例えば自己紹介ができ、相手に簡単な質問をしたり、それに答えたりできます。食事や買い物や旅行の場面で、相手がゆっくり明瞭に話してくれるなら、コミュニケーションが図れます。

A2: 毎日の生活で頻繁に使われる言葉や表現に慣れ、仕事や家族や故郷など、自分に関する事や日常的で具体的な生活に関する事なら、ドイツ語でコミュニケーションが図れます。また日常的に必要な事柄が、簡単な文章の形で表現できるようになります。

B1: 明瞭な通常のドイツ語であれば、仕事や趣味や生活など日常的な事柄についてのドイツ語の発言や文章が理解できます。例えば、旅行中に会おうさまざまな出来事に対して、必要な対応ができ、また、自分の経験や夢・希望・目標などについて話すことができます。さらに、自分に身近なテーマがあれば、意見を述べたり、その論拠を説明したりできます。

B2: 抽象的で複雑なドイツ語で表現されても、その趣旨が理解できます。自分の仕事や専門分野に関する事柄なら、ドイツ語で行われる議論の内容が理解できるだけでなく、自分の立場や意見を述べたり、あるいはひとつの意見に対する利点と不利点を論述したりできます。日常的ないくつかのテーマでは、広い範囲にわたって明確に意見と情報が交換でき、ドイツ語を母国語とする人との間で、相互に困難を感じずに自然な会話が成立します。

C1: ほとんどのテーマで、高度なドイツ語表現や長い文章が理解でき、また、その言外のニュアンスも感じ取れます。ドイツ人社会で、社会人として職業についたり大学で学んだりするのに必要十分な語彙と表現を使いこなす、複雑で微妙な内容を正確なドイツ語で表現することができます。

C2: 社会生活上、不自由なくすべてのことに対応できるドイツ語力があります。さまざまな分野の多様なテーマに関して、読む、書く、話す、聞くことが困難なくでき、また、ニュアンスにとんだ自然なドイツ語を正確に使うことができます。

< 授業のキーワード >

コミュニケーション能力の育成、複数の言語・文化の多様性を理解する国際性の習得

< 授業の進め方 >

初級ドイツ語では a・bとも共通の教科書を使用します。aとbで二名の担当教員が授業内容について緊密に連絡を取り合いながら、リレー形式で授業を進めていきます。

授業中に随時小テストを行いません。小テストの成績は成績評価の対象になります。

< 履修するにあたって >

この科目を履修するにあたって、宿題にきちんと取り組むことはもちろんですが、前回の授業内容をしっかり復習した上で授業に臨む習慣をつけるようにしてください。新しい課に入る前には、教科書巻末にある「自己チェックリスト」を使って、すでに学習した内容が理解できているかどうかを自己診断しておきましょう。教科書とワークブックを必ず購入してください。

課題として出される宿題の提出状況や随時行なわれる小テストの成績は、成績評価の対象になります。なお、第一回目の授業には必ず出席すること。授業内容・授業方法、評価基準についての全体的な説明があります。

< 授業時間外に必要な学修 >

原則として、毎回宿題があります。次回の授業までに取り組んでおいてください。また授業で学んだ学習事項を復習する習慣を身に付けましょう。宿題と復習で1時間くらいを目安に、授業時間外の学習時間を取ってください。

< 提出課題など >

宿題は必ず期限までに提出してください。提出されたものは、添削して返却し、注意事項を授業で伝えます。宿題に取り組んでいることを前提として、授業は進められます。宿題の提出状況は、成績評価の対象になります。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の自発的な発言回数とその内容など、授業への積極的な参加 20% + 宿題の提出とその内容 20% + 小テストの成績 20% + 定期試験 40%

定期試験では、「初級ドイツ語 b」は、聴き取り能力と書く力を測ります。音声を聴きながら、ポイントをメモしたり、相手のメッセージに、返事のメールを送ることも必要になってきます。

出席10回以上の者の成績はS・A・B・C・D、出席10回未満の者は「/」。

A評価以上の者の割合は、D評価以上の者を母数として合わせて概ね30%以内とする。

S評価は、A評価相当の中でも特に優れた者に対してのみ、これを与える。

< テキスト >

1. 藤原三枝子他著『スタート! 1 コミュニケーション活動で学ぶドイツ語』(三修社 2019年) 定価2600円+税

2. 『スタート！1 ワークブック コミュニケーション活動で学ぶドイツ語』（三修社 2019年）定価1000円＋税

なお、セット購入価格があります。購入時に確認してください。

<参考図書>

授業の内容・進度に合わせて、適宜紹介します

<授業計画>

第1回 部屋について表現する

<4課の言語行為> 家、部屋の様子を説明する・意見を述べる、住居の広告を理解する

<4課の文法項目> 名詞の性と格、定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の主格・目的格、所有冠詞の主格・目的格（1）

第2回 家具・身の回りの物の名前を学ぶ

<4課の言語行為> 家、部屋の様子を説明する・意見を述べる、住居の広告を理解する

<4課の文法項目> 名詞の性と格、定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の主格・目的格、所有冠詞の主格・目的格（1）

第3回 住まいについて表現する

<4課の言語行為> 家、部屋の様子を説明する・意見を述べる、住居の広告を理解する

<4課の文法項目> 名詞の性と格、定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の主格・目的格、所有冠詞の主格・目的格（1）

第4回 ドイツでの大学生の住まいについてのテキストを選択的に読む

<4課の言語行為> 家、部屋の様子を説明する・意見を述べる、住居の広告を理解する

<4課の文法項目> 名詞の性と格、定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の主格・目的格、所有冠詞の主格・目的格（1）

<ドイツ事情> Wie wohnen Studenten in Deutschland?

第5回 食べ物・飲み物の名前を学ぶ

<5課の言語行為> 食習慣について話す、カフェで注文する・支払う

<5課の文法項目> m?gen、不定冠詞と定冠詞の目的格、無冠詞、名詞と3人称の人称代名詞

第6回 レストランで注文する、味について表現する

<5課の言語行為> 食習慣について話す、カフェで注文する・支払う

<5課の文法項目> m?gen、不定冠詞と定冠詞の目的格、無冠詞、名詞と3人称の人称代名詞

第7回 レストランで支払う

<5課の言語行為> 食習慣について話す、カフェで注文する・支払う

<5課の文法項目> m?gen、不定冠詞と定冠詞の目的格、無冠詞、名詞と3人称の人称代名詞

第8回 復習

4課・5課の前半で学習した内容について、復習する

第9回 ドイツ人の食習慣についてのテキストを読み解く

<5課の言語行為> 食習慣について話す、カフェで注文する・支払う

<5課の文法項目> m?gen、不定冠詞と定冠詞の目的格、無冠詞、名詞と3人称の人称代名詞

<ドイツ事情> Was essen die Deutschen?

第10回 店や品物の名前を学ぶ

<6課の言語行為> どこで何を買うことができるかを話す、スーパーの広告を理解する、何がどこにあるかを表現する、営業時間を理解する

<6課の文法項目> 場所を表す前置詞、不定冠詞・定冠詞：与格、指示代名詞：主格・目的格

第11回 場所を表す表現を学ぶ

<6課の言語行為> どこで何を買うことができるかを話す、スーパーの広告を理解する、何がどこにあるかを表現する、営業時間を理解する

<6課の文法項目> 場所を表す前置詞、不定冠詞・定冠詞：与格、指示代名詞：主格・目的格

第12回 商品の値段を表す表現を学ぶ

<6課の言語行為> どこで何を買うことができるかを話す、スーパーの広告を理解する、何がどこにあるかを表現する、営業時間を理解する

<6課の文法項目> 場所を表す前置詞、不定冠詞・定冠詞：与格、指示代名詞：主格・目的格

第13回 服装について学ぶ

<6課の言語行為> どこで何を買うことができるかを話す、スーパーの広告を理解する、何がどこにあるかを表現する、営業時間を理解する

<6課の文法項目> 場所を表す前置詞、不定冠詞・定冠詞：与格、指示代名詞：主格・目的格

第14回 ドイツの店舗の営業時間についてのテキストを読み解く

<6課の言語行為> どこで何を買うことができるかを話す、スーパーの広告を理解する、何がどこにあるかを表現する、営業時間を理解する

<6課の文法項目> 場所を表す前置詞、不定冠詞・定冠詞：与格、指示代名詞：主格・目的格

<ドイツ事情> Laden?ffnungszeiten in Japan und Deutschland

第15回 総復習

4課から6課を総復習し、学習した内容の定着を図る。

2022年度 後期

1.0単位

初級フランス語 a 再・シ

玉置 良行

< 授業の方法 >

対面授業（演習）

< 授業の目的 >

全学のディプロマシー・ポリシーで示されるなかでも、とりわけ「広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養」することと、「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」フランス語の表現力を得ることを目的とします。

また、修得した言語能力を使って、同DPにある「国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てる」態度を養うことも重要です。

一連のフランス語科目の中では入門にあたり、フランス語の概略を知ること。具体的には、フランス語の綴りと音の関係、主要な構文、状況に応じた簡単な会話を理解し使えるようになることが目的ですが、特に本講義においては、フランス語の基本文法、すなわちフランス語という言葉のしくみを理解することを目指します。

< 到達目標 >

実用フランス語技能検定試験（仏検）5級相当のフランス語運用能力習得を目標とします。仏検5級の内容は、フランス語への入り口として「初歩的な日常的フランス語を理解し、読み、聞き、書くことができる。」とされています。

より具体的な目標として；

- ・フランス語の初歩的な単文を読んで理解する
- ・文章や口頭で日常的な応答ができる
- ・初歩的な文書のための文法知識を理解する

などがあげられます。

< 授業のキーワード >

フランス語、フランス語文法、フランス文化、フランス社会

< 授業の進め方 >

まず教科書付属の録音を聞き、音読を繰り返します。さらに各回の主要な文法項目について解説を聞いた上で、例文の読解や練習問題といった演習をおこないます。場合によっては補足教材や応用問題を使用します。課題の提出や小テストを適宜求めます。

また、授業中のやりとり、あるいはコメントペーパーやdotCampusなどを使って、質問とそのフィードバックを行い疑問点を解消しつつ理解を深めていきます。

< 履修するにあたって >

2年次以上で初めてフランス語を学ぶ場合は、この授業「初級フランス語I」再履修クラスから始めてください（「初級フランス語II」再履修クラスは、フランス語を半期程度学んだレベルの既習者が対象です）。

なお、再履修クラスはペアクラスではなく、aとbを単独で受講することもできます。

< 授業時間外に必要な学修 >

録音を繰り返し聴く、繰り返し読む、例文を繰り返し書く、といった復習が極めて重要です。

音源は出版社のホームページからダウンロードすることができます。また、受講生が自習に使うことを想定したWeb教材も用意されているので、積極的に理解度を試し補完することもできます。これらの情報は教科書に詳細が記載されています。約1時間の事前・事後学習が必要です。

< 提出課題など >

授業の進行と理解度にあわせて、和訳や練習問題・補足問題を課題とします。

課題は授業での直接提出、またはメールやdotCampusでの提出を基本として、それぞれに対するコメントを個別、または授業中の解説に含める形でフィードバックします。小テストを実施します。小テストは受講生の理解度や質問内容を踏まえて学期中に数回実施し、次の授業で採点・返却します。授業での講評もおこないます。

定期試験を実施します。解説と講評を提示します。

< 成績評価方法・基準 >

全15回のうち3分の2以上の授業に出席しなければ単位は認められません。

点数配分は、定期試験：50%、課題提出＋小テスト：30%、授業のアクティビティ：20%です。

< テキスト >

有富智世ほか『なびぶんせ1』朝日出版社、2016年
定価2,500円＋税

< 参考図書 >

授業中に適宜紹介します。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

フランス語の紹介とフランス語を学ぶにあたっての留意事項

・授業履修上の注意事項、授業の進め方や成績評価方法の説明

・教科書や辞書、参考書についての説明。

・Lecon 0より「フランス（パリ）の紹介」

・Lecon 1より「アルファベの紹介」

第2回 Lecon 1

フランス語のルール

・アルファベ

・綴り字と発音

・リエゾン、アンシェヌマン、エリジオン

・フランス語の挨拶

・フランス語の数
 第3回 Lecon 2(1)
 例文音読と読解・文法解説・練習問題
 Lecon 2の主要文法項目

- ・名詞の性
- ・不定冠詞、定冠詞
- ・提示の表現

第4回 Lecon 2(2)
 例文音読と読解・文法解説・練習問題
 Lecon 2の主要文法項目

- ・名詞の性
- ・不定冠詞、定冠詞
- ・提示の表現

第5回 Lecon 3(1)
 例文音読と読解・文法解説・練習問題
 Lecon 3の主要文法項目

- ・主語人称代名詞
- ・動詞 *etre / avoir*

第6回 Lecon 3(2)
 例文音読と読解・文法解説・練習問題
 Lecon 3の主要文法項目

- ・主語人称代名詞
- ・動詞 *etre / avoir*

第7回 これまでの復習・補足練習
 例文の音読や和訳、補足の解説や練習問題、小テストなどを通じて、ここまでの学習内容を振り返る。
 各課の語彙と表現を確認する。

第8回 Lecon 4(1)
 例文音読と読解・文法解説・練習問題
 Lecon 4の主要文法項目

- ・第1群規則動詞
- ・疑問文と答え方

第9回 Lecon 4(2)
 例文音読と読解・文法解説・練習問題
 Lecon 4の主要文法項目

- ・第1群規則動詞
- ・疑問文と答え方

第10回 Lecon 5(1)
 例文音読と読解・文法解説・練習問題
 Lecon 5の主要文法項目

- ・部分冠詞
- ・複数形の作り方
- ・否定文と否定疑問文

第11回 Lecon 5(2)
 例文音読と読解・文法解説・練習問題
 Lecon 5の主要文法項目

- ・部分冠詞
- ・複数形の作り方
- ・否定文と否定疑問文

第12回 Lecon 6(1)

例文音読と読解・文法解説・練習問題
 Lecon 6の主要文法項目

- ・形容詞
- ・指示形容詞
- ・所有形容詞

第13回 Lecon 6(2)
 例文音読と読解・文法解説・練習問題
 Lecon 6の主要文法項目

- ・形容詞
- ・指示形容詞
- ・所有形容詞

第14回 これまでの復習・補足問題
 例文の音読や和訳、補足の解説や練習問題、小テストなどを通じて、ここまでの学習内容を振り返る。
 各課の語彙と表現を確認する。

第15回 総合練習
 前期内容の総復習

- ・フランス語のルール
- ・各文法事項のチェック
- ・定期試験に向けて表現と文法の整理

 2022年度 前期

1.0単位

初級フランス語 a 再・ラ

釣 馨

 <授業の方法>

演習

<授業の目的>

全学のディプロマシー・ポリシーで示されるなかでも、とりわけ「広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養」することと、「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」フランス語の表現力を得ることを目的とします。

また、修得した言語能力を使って、同DPにある「国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てる」態度を養うことも重要です。

一連のフランス語科目の中では入門にあたり、フランス語の概略を知ること。具体的には、フランス語の綴りと音の関係、主要な構文、状況に応じた簡単な会話を理解し使えるようになることが目的ですが、特に本講義においては、フランス語の基本文法、すなわちフランス語という言葉のしくみを理解することを目指します。

<到達目標>

実用フランス語技能検定試験（仏検）5級相当のフランス語運用能力習得を目標とします。仏検5級の内容は、フランス語への入り口として「初歩的な日常的フランス語を理解し、読み、聞き、書くことができる。」とさ

れています。

より具体的な目標として；

- ・フランス語の初歩的な単文を読んで理解する
- ・文章や口頭で日常的な応答ができる
- ・初歩的な文書のための文法知識を理解する

などがあげられます。

< 授業のキーワード >

フランス語、フランス語文法、フランス文化、フランス社会

< 授業の進め方 >

まず教科書付属の録音を聞き、音読を繰り返します。さらに各回の主要な文法項目について解説を聞いた上で、例文の読解や練習問題といった演習をおこないます。場合によっては補足教材や応用問題を使用します。課題の提出や小テストを適宜求めます。

また、授業中のやりとり、あるいはコメントペーパーやdotCampusなどを使って、質問とそのフィードバックを行い疑問点を解消しつつ理解を深めていきます。

< 履修するにあたって >

2年次以上で初めてフランス語を学ぶ場合は、この授業「初級フランス語I」再履修クラスから始めてください（「初級フランス語II」再履修クラスは、フランス語を半期程度学んだレベルの既習者が対象です）。

なお、再履修クラスはペアクラスではなく、aとbを単独で受講することもできます。

< 授業時間外に必要な学修 >

録音を繰り返し聴く、繰り返し読む、例文を繰り返し書く、といった復習が極めて重要です。

音源は出版社のホームページからダウンロードすることができます。また、受講生が自習に使うことを想定したWeb教材も用意されているので、積極的に理解度を試し補完することもできます。これらの情報は教科書に詳細が記載されています。約1時間の事前・事後学習が必要です。

< 提出課題など >

授業の進行と理解度にあわせて、和訳や練習問題・補足問題を課題とします。

課題は授業での直接提出、またはメールやdotCampusでの提出を基本として、それぞれに対するコメントを個別、または授業中の解説に含める形でフィードバックします。小テストを実施します。小テストは受講生の理解度や質問内容を踏まえて学期中に数回実施し、次の授業で採点

・返却します。授業での講評もおこないます。定期試験を実施します。解説と講評を提示します。

< 成績評価方法・基準 >

全15回のうち3分の2以上の授業に出席しなければ単位は認められません。

点数配分は、定期試験：50%、課題提出+小テスト：30%、授業のアクティビティ：20%です。

< テキスト >

有富智世ほか『なびふらんせ1』朝日出版社、2016年
定価2,500円+税

< 参考図書 >

授業中に適宜紹介します。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

フランス語の紹介とフランス語を学ぶにあたっての留意事項

・授業履修上の注意事項、授業の進め方や成績評価方法の説明

- ・教科書や辞書、参考書についての説明。
- ・Lecon 0より「フランス（パリ）の紹介」
- ・Lecon 1より「アルファベの紹介」

第2回 Lecon 1

フランス語のルール

- ・アルファベ
- ・綴り字と発音
- ・リエゾン、アンシェヌマン、エリジオン
- ・フランス語の挨拶
- ・フランス語の数

第3回 Lecon 2(1)

例文音読と読解・文法解説・練習問題

Lecon 2の主要文法項目

- ・名詞の性
- ・不定冠詞、定冠詞
- ・提示の表現

第4回 Lecon 2(2)

例文音読と読解・文法解説・練習問題

Lecon 2の主要文法項目

- ・名詞の性
- ・不定冠詞、定冠詞
- ・提示の表現

第5回 Lecon 3(1)

例文音読と読解・文法解説・練習問題

Lecon 3の主要文法項目

- ・主語人称代名詞
- ・動詞 *etre / avoir*

第6回 Lecon 3(2)

例文音読と読解・文法解説・練習問題

Lecon 3の主要文法項目

- ・主語人称代名詞
- ・動詞 *etre / avoir*

第7回 これまでの復習・補足練習

例文の音読や和訳、補足の解説や練習問題、小テストなどを通じて、ここまでの学習内容を振り返る。

各課の語彙と表現を確認する。

第8回 Lecon 4(1)

例文音読と読解・文法解説・練習問題

Lecon 4の主要文法項目

- ・第1群規則動詞

・疑問文と答え方
第9回 Lecon 4 (2)
例文音読と読解・文法解説・練習問題

Lecon 4の主要文法項目

- ・第1群規則動詞
- ・疑問文と答え方

第10回 Lecon 5 (1)
例文音読と読解・文法解説・練習問題

Lecon 5の主要文法項目

- ・部分冠詞
- ・複数形の作り方
- ・否定文と否定疑問文

第11回 Lecon 5 (2)
例文音読と読解・文法解説・練習問題

Lecon 5の主要文法項目

- ・部分冠詞
- ・複数形の作り方
- ・否定文と否定疑問文

第12回 Lecon 6 (1)
例文音読と読解・文法解説・練習問題

Lecon 6の主要文法項目

- ・形容詞
- ・指示形容詞
- ・所有形容詞

第13回 Lecon 6 (2)
例文音読と読解・文法解説・練習問題

Lecon 6の主要文法項目

- ・形容詞
- ・指示形容詞
- ・所有形容詞

第14回 これまでの復習・補足問題
例文の音読や和訳、補足の解説や練習問題、小テストなどを通じて、ここまでの学習内容を振り返る。

各課の語彙と表現を確認する。

第15回 総合練習
前期内容の総復習

- ・フランス語のルール
- ・各文法事項のチェック
- ・定期試験に向けて表現と文法の整理

2022年度 前期

1.0単位

初級フランス語 a (総合的コミュニケーション)イ【法】

池端 妙子

< 授業の方法 >

対面授業 (演習)

< 授業の目的 >

この科目の受講生は、フランス語の正しい発音、文法の

基礎や表現を学び、フランス語の基本的なコミュニケーション能力 (聞く、読む、話す、書く力) をバランスよく養うことを目的とします。

授業中に受講生は、各課で習う文法事項に関連したビデオを視聴し、クイズ形式の文法問題を解き、ペア・グループで表現を練習することにより、フランス語の基礎的な知識を主体的に獲得していきます。ビデオでは、買い物や道案内等「使える」フランス語の表現に視聴覚的に触れます。また、練習問題では、適宜インターネットで調べ学習を行ってクラスで情報を共有することで、フランスでの暮らしを仮想体験することができるでしょう。各課の最後では、メールや食文化等に関するテキストを読んだり、自分で文章を書いたりする練習にもチャレンジします。

授業を通して、実践的な言語能力に加え、フランス語圏の文化や社会に関する知識も身につけることで、異文化体験をしながら、汎用性の高いフランス語の力を習得することを目的とします。これは、全学ディプロマ・ポリシー「1. 幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる」、「2. さまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる」に沿ったものです。

< 到達目標 >

受講生は、「初級フランス語 I a, I b, II a, II b」修了時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) A1レベルに到達することを目指します。ヨーロッパ言語共通参照枠とは、言語の枠や国境を越えて、外国語の運用能力を同一の基準で測ることが出来る国際標準のことです。ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) の6つのレベルは、日本フランス語試験管理センターによれば以下のようになります。

A1 : 簡単なやりとりが可能で、自分や、身近な物事について話すことができます。

A2 : 日常生活に関わる簡単な課題を実行できます。丁寧表現を用いたり、もっとも日常的なやり取りを交わしたりすることができます。

B1 : やりとりを維持すること、議論を理解、継続し、自分の見解や意見を述べるすることができます。日常生活の予期せぬ状況にも対処できます。

B2 : 自分の意見を主張するために筋道の通った議論の流れを作ることができ、自分の見解を展開し、交渉することができます。このレベルの受験者は、社交的な談話の中で流暢に会話を交わし、自分の間違いを自分で修正することができるようになっています。

C1 : 流暢で自然なコミュニケーションを成立させることが可能です。豊富な語彙があり、自分の意見を伝える際に適切な表現を選択できます。明瞭で構成の整った話を滑らかに発し、様々な構文に習熟した使用者であるこ

とが見て取れます。

C2：言語への熟練が、表現の正確さや適切さ、流暢さに現われます。受験者は学術的な、あるいは高度な課題を実現することができます。

< 授業のキーワード >

コミュニケーション能力の獲得、異文化体験、フランス語圏の社会・文化

< 授業の進め方 >

「初級フランス語1a」「初級フランス語1b」合わせて、4回の授業で1課を終わらせるペースで教科書を進めていきます。

まず、各課で習う文法事項に関連したビデオを見て、教師の質問や教科書の設問に答えて、ビデオの大まかな内容を推測します。

それから、文法ルールを受講生が自ら発見する形で学び取り、ペア・グループワークを活用することで、学習事項を定着させ、自分でも応用できるようにします。

適宜、文化的要素が取り入れられたある程度の文章を読んだり、文を書いたりする練習もします。

授業の理解度を把握するために、必要に応じて小テストに挑戦します。

< 履修するにあたって >

・「初級フランス語1b」を並行して受講する必要があります。

・単位を取得するためには10回以上の出席が必要です。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業後には新しく習ったことを中心に、1時間ほど復習を行いましょう。少しずつ学修を継続することで、確実に力がついていくのを実感できるでしょう。

< 提出課題など >

授業で課された課題は添削後コメントをつけて返却します。課題は成績評価の対象になります。

実施したテストについては、授業のなかで解説したり、dotCampusを通してフィードバックしたりします。

< 成績評価方法・基準 >

・授業への積極的な参加 20% + 宿題の提出とその内容 20% + 小テストの成績 20% + 定期試験 40%

・定期試験を受けるには、全15回の授業のうち10回以上の授業の出席日数が必要です。

*なお、定期試験において、「初級フランス語1a」の科目では文法のルールの理解と文章の読解力を問う出題がされます。

*評価がSとAの人数の割合は、合格者（つまり評価C以上）全体の30%程度と定められています。

< テキスト >

北村亜矢子、Durrenberger Vincent 『マエストロ1』（朝日出版社 2020年）定価2,700円 + 税

< 参考図書 >

授業の内容に応じて、授業中に適宜指示します。

< 授業計画 >

第1回 Introduction
Premiers contacts

オリエンテーション：授業履修の注意事項、成績評価方法・基準の説明、フランス語を学ぶ上でのアドバイス。

テキスト1課：挨拶をする

アルファベ

第2回 Premiers contacts

テキスト1課：名前を言う、名前のスペルを言う

名詞の性、不定冠詞（1）un, une

第3回 se pr?senter

テキスト2課：国籍を言う、職業を言う、出身地を言う

主語人称代名詞、動詞?tre

第4回 se pr?senter

テキスト2課：国籍を言う、職業を言う、出身地を言う

女性形の作り方：国籍、職業

第5回 Parler de soi et des autres 1

テキスト3課：話せる言語を言う、専攻を言う、好きなことを言う

定冠詞le, la, les、名詞の複数形

第6回 Parler de soi et des autres 1

テキスト3課：話せる言語を言う、専攻を言う、好きなことを言う

動詞-er（1）

第7回 Parler de soi et des autres 2

テキスト4課：住んでいる国や都市を言う

国名 / 都市名の前の前置詞

第8回 Parler de soi et des autres 2

テキスト4課：否定する

否定形ne...pas

第9回 Parler de soi et des autres 3

テキスト5課：持ち物を言う

不定冠詞（2）un, une, des、動詞avoir

第10回 Parler de soi et des autres 3

テキスト5課：年齢を言う

il y a、否定のde

第11回 Parler de son quotidien

テキスト6課：行き先を言う、家事について話す
動詞faire, aller、動詞-er (2)

第12回 Parler de son quotidien

テキスト6課：普段することを語る
前置詞?と定冠詞の縮約

第13回 D?crire une personne et un objet

テキスト7課：人や物を描写する
形容詞の性、数、位置、

第14回 D?crire une personne et un objet

テキスト7課：所有を言う、電話番号を言う
所有形容詞、疑問形容詞quel

第15回 総復習

前期に学習した内容の総復習をします。

2022年度 前期

1.0単位

初級フランス語 a (総合的コミュニケーション)ウ【
法】

南 コニー

< 授業の方法 >

授業携帯：対面もしくは感染状況によりオンデマンド
遠隔授業

< 授業の目的 >

この科目は全学のDPにあるように、「幅広い知識に基づ
いて、他者および異文化を理解することができる / 獲得
した知識や技能を社会に役立てることができる」ことを
目指す。

フランス語文法の基礎を学ぶことにより、練習問題など
を通して、基本的なフランス語表現がわかるようにする。
日常でよく使われる単語を覚え、それを用いて例文を理
解したり、簡単な文を自分で作る、またフランス語特有
の発音を身につけることで、それらの文を自分で言える
ようにすることを目指す。

< 到達目標 >

初級フランス語1a, b, 11a, b修了時点で仏検 (実用フラ
ンス語技能検定試験) の5級に合格できる水準、欧州言
語共通参照枠ではA1レベルを目指す。

1. フランス語の簡単な表現を理解し、発音できる。
2. 規則動詞と重要な不規則動詞を現在時制で活用 (そ
れぞれの人称に合わせて変化させること) させて文を作
れる。
3. 名詞の数や性別に応じて変化する表現 (冠詞・形容詞

など) の仕組みを理解する

4. 簡単な文の意味を考えたり、作ったりできる。

< 授業の進め方 >

対面授業で行なう予定です。

語学の学習なので、発音練習や隣の人とグループになっ
て発音練習してもらうこともあります。

教科書の文法事項を説明し、それを理解したうえで、簡
単な練習問題を解く。場合によって、応用問題を出した
り、プリントなどの配布物で補足する。単語や動詞の活
用を覚えるにあたり、各自で発音練習する。必要に応じ
て小テストを行い、学習の理解度をチェックする。

< 履修するにあたって >

1. 初級フランス語1bを並行して受講することが必要です。
2. 遅刻や欠席がないようにする。
3. 教科書、辞書、筆記用具を持参してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

教科書に出てきた単語・表現を自分でも確認し、理解し
ておくようにする。

テキストにはwebの「なびふらんせ」があるので、積極
的に利用してもらいたい。

<http://navifr.fj.tokoha-u.ac.jp/wnf/index.html>

1時間程度の学習はすること。

< 提出課題など >

教科書の内容にそったレポート等

授業の最初に添削したものを返却します。

< 成績評価方法・基準 >

定期テストと授業内の小テストや取り組み：定期テスト
の成績 60%、授業内小テストなどの評価40%

出席については、15回あるなかで、3分の2以上の出
席が必要です。

< テキスト >

有富智世他『なびふらんせ 1』(朝日出版 2016年)

定価2,500円+税

< 参考図書 >

清岡智比古『フラ語入門、わかりやすいにもホドがある
!』白水社

< 授業計画 >

第1回 introduction

オリエンテーション：授業履修の注意事項、成績評価方
法・基準の説明、フランス語を学ぶ上でのアドバイス。

テキスト0課：フランスってどんな国?

テキスト1課：アルファベ (pp. 2-17)

第2回 Je m'appelle...

テキスト1課：アルファベ復習、自分の名前を言ってみ
よう、綴り字記号、綴り字と発音、リエゾン、アンシェ
ヌマン、エリジオン、フランス語の挨拶、フランス語
の数、Exercices (pp. 16-19)

第3回 Une baguette, s'il vous pla?t !

テキスト2課：「これは何ですか? / これは? です? /
をください」

会話教材を用いた学習

<2課の文法項目> 名詞の性、冠詞（不定冠詞、定冠詞）、提示の表現

Exercices (pp. 20-23)

第4回 Une baguette, s'il vous pla?t !

テキスト2課：「これは何ですか？ / これは？ です / ? をください」

会話教材を用いた学習

<2課の文法項目> 名詞の性、冠詞（不定冠詞、定冠詞）、提示の表現

Exercices (pp. 20-23)

第5回 これまでのまとめ

1課、2課で学習した内容について、おもに文法面と読解面における習熟度を測る。

第6回 Nous sommes maintenant ? Paris.

テキスト3課：職業と国籍 / 旅に関する語 / 数、「私は？ です / 私は？ を持っています」

会話教材を用いた学習

<3課の文法項目> 主語人称代名詞、動詞 ?treとavoir
Exercices (pp. 24-27)

第7回 Nous sommes maintenant ? Paris.

テキスト3課：職業と国籍 / 旅に関する語 / 数、「私は？ です / 私は？ を持っています」

会話教材を用いた学習

<3課の文法項目> 主語人称代名詞、動詞 ?treとavoir
Exercices (pp. 24-27)

第8回 J'aime la tour Eiffel.

テキスト4課：様々な動詞 / 都市 / 言語、「? (すること) が好きです / ? に住んでいます」

会話教材を用いた学習

<4課の文法項目> 第1群規則動詞 (-er動詞)、疑問文と答え方、Exercices (pp. 28-31)

第9回 J'aime la tour Eiffel.

テキスト4課：様々な動詞 / 都市 / 言語、「? (すること) が好きです / ? に住んでいます」

会話教材を用いた学習

<4課の文法項目> 第1群規則動詞 (-er動詞)、疑問文と答え方、Exercices (pp. 28-31)

第10回 これまでのまとめ

3課、4課で学習した内容について、おもに文法面と読解面における定着度を測る。

第11回 J'ach?te du fromage.

テキスト5課：食べ物 / 飲み物 (数えられる名詞、数えられない名詞)、「? がある」

会話教材を用いた学習

<5課の文法項目> 冠詞（部分冠詞）、複数形の作り方、否定文と否定疑問文、Exercices (pp. 32-35)

第12回 J'ach?te du fromage.

テキスト5課：食べ物 / 飲み物 (数えられる名詞、数えられない名詞)、「? がある」

会話教材を用いた学習

<5課の文法項目> 冠詞（部分冠詞）、複数形の作り方、否定文と否定疑問文、Exercices (pp. 32-35)

第13回 C'est magnifique !

テキスト6課：基本的な形容詞 / 家族 / 色 / 人についていう / 状態を言う / 所有を言う

会話教材を用いた学習

<6課の文法項目> 形容詞、指示形容詞、所有形容詞、Exercices (pp. 32-35)

第14回 C'est magnifique !

テキスト6課：基本的な形容詞 / 家族 / 色 / 人についていう / 状態を言う / 所有を言う

会話教材を用いた学習

<6課の文法項目> 形容詞、指示形容詞、所有形容詞、Exercices (pp. 32-35)

第15回 総復習

5、6 課を中心に総復習する

2022年度 前期

1.0単位

初級フランス語 a (総合的コミュニケーション)イ【経営】

南 コニー

<授業の方法>

授業携帯：対面もしくは感染状況によりオンデマンド遠隔授業

<授業の目的>

この科目は全学のDPにあるように、「幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる / 獲得した知識や技能を社会に役立てることができる」ことを目指す。

フランス語文法の基礎を学ぶことにより、練習問題などを通して、基本的なフランス語表現がわかるようにする。日常でよく使われる単語を覚え、それを用いて例文を理解したり、簡単な文を自分で作る、またフランス語特有の発音を身につけることで、それらの文を自分で言えるようにすることを目指す。

<到達目標>

初級フランス語1a, b, 11a, b修了時点で仏検(実用フランス語技能検定試験)の5級に合格できる水準、欧州言語共通参照枠ではA1レベルを目指す。

1. フランス語の簡単な表現を理解し、発音できる。
2. 規則動詞と重要な不規則動詞を現在時制で活用(それぞれの人称に合わせて変化させること)させて文を作れる。
3. 名詞の数や性別に応じて変化する表現(冠詞・形容詞など)の仕組みを理解する
4. 簡単な文の意味を考えたり、作ったりできる。

<授業の進め方>

対面授業で行なう予定です。

語学の学習なので、発音練習や隣の人とグループになって発音練習してもらうこともあります。

教科書の文法事項を説明し、それを理解したうえで、簡単な練習問題を解く。場合によって、応用問題を出したり、プリントなどの配布物で補足する。単語や動詞の活用を覚えるにあたり、各自で発音練習する。必要に応じて小テストを行い、学習の理解度をチェックする。

<履修するにあたって>

- 1.初級フランス語1bを並行して受講することが必要です。
- 2.遅刻や欠席がないようにする。
- 3.教科書、辞書、筆記用具を持参してください。

<授業時間外に必要な学修>

教科書に出てきた単語・表現を自分でも確認し、理解しておくようにする。

テキストにはwebの「なびふらんせ」があるので、積極的に利用してもらいたい。

<http://navifr.fj.tokoha-u.ac.jp/wnf/index.html>

1時間程度の学習はすること。

<提出課題など>

教科書の内容にそったレポート等

授業の最初に添削したものを返却します。

<成績評価方法・基準>

定期テストと授業内の小テストや取り組み：定期テストの成績 60%、授業内小テストなどの評価40%

出席については、15回あるなかで、3分の2以上の出席が必要です。

<テキスト>

有富智世他『なびふらんせ 1』（朝日出版 2016年）

定価2,500円＋税

<参考図書>

清岡智比古『フラ語入門、わかりやすいにもホドがある!』白水社

<授業計画>

第1回 introduction

オリエンテーション：授業履修の注意事項、成績評価方法・基準の説明、フランス語を学ぶ上でのアドバイス。

テキスト0課：フランスってどんな国？

テキスト1課：アルファベ（pp. 2-17）

第2回 Je m'appelle...

テキスト1課：アルファベ復習、自分の名前を言ってみよう、綴り字記号、綴り字と発音、リエゾン、アンシェヌマン、エリジオン、フランス語の挨拶、フランス語の数、Exercices (pp. 16-19)

第3回 Une baguette, s'il vous pla?t !

テキスト2課：「これは何ですか？ / これは？ ですか？ / をください」

会話教材を用いた学習

<2課の文法項目> 名詞の性、冠詞（不定冠詞、定冠詞）、提示の表現

Exercices (pp. 20-23)

第4回 Une baguette, s'il vous pla?t !

テキスト2課：「これは何ですか？ / これは？ ですか？ / をください」

会話教材を用いた学習

<2課の文法項目> 名詞の性、冠詞（不定冠詞、定冠詞）、提示の表現

Exercices (pp. 20-23)

第5回 これまでのまとめ

1課、2課で学習した内容について、おもに文法面と読解面における習熟度を測る。

第6回 Nous sommes maintenant ? Paris.

テキスト3課：職業と国籍 / 旅に関する語 / 数、「私は？ ですか / 私は？ を持っています」

会話教材を用いた学習

<3課の文法項目> 主語人称代名詞、動詞 ?treとavoir
Exercices (pp. 24-27)

第7回 Nous sommes maintenant ? Paris.

テキスト3課：職業と国籍 / 旅に関する語 / 数、「私は？ ですか / 私は？ を持っています」

会話教材を用いた学習

<3課の文法項目> 主語人称代名詞、動詞 ?treとavoir
Exercices (pp. 24-27)

第8回 J'aime la tour Eiffel.

テキスト4課：様々な動詞 / 都市 / 言語、「?（すること）が好きですか？ / に住んでいます」

会話教材を用いた学習

<4課の文法項目> 第1群規則動詞（-er動詞）、疑問文と答え方、Exercices (pp. 28-31)

第9回 J'aime la tour Eiffel.

テキスト4課：様々な動詞 / 都市 / 言語、「?（すること）が好きですか？ / に住んでいます」

会話教材を用いた学習

<4課の文法項目> 第1群規則動詞（-er動詞）、疑問文と答え方、Exercices (pp. 28-31)

第10回 これまでのまとめ

3課、4課で学習した内容について、おもに文法面と読解面における定着度を測る。

第11回 J'ach?te du fromage.

テキスト5課：食べ物 / 飲み物（数えられる名詞、数えられない名詞）、「? がある」

会話教材を用いた学習

<5課の文法項目> 冠詞（部分冠詞）、複数形の作り方、否定文と否定疑問文、Exercices (pp. 32-35)

第12回 J'ach?te du fromage.

テキスト5課：食べ物 / 飲み物（数えられる名詞、数えられない名詞）、「? がある」

会話教材を用いた学習

<5課の文法項目> 冠詞（部分冠詞）、複数形の作り方、否定文と否定疑問文、Exercices (pp. 32-35)

第13回 C'est magnifique !

テキスト6課：基本的な形容詞 / 家族 / 色 / 人について
いう / 状態を言う / 所有を言う

会話教材を用いた学習

<6課の文法項目> 形容詞、指示形容詞、所有形容詞、E
xercices (pp. 32-35)

第14回 C'est magnifique !

テキスト6課：基本的な形容詞 / 家族 / 色 / 人について
いう / 状態を言う / 所有を言う

会話教材を用いた学習

<6課の文法項目> 形容詞、指示形容詞、所有形容詞、E
xercices (pp. 32-35)

第15回 総復習

5、6課を中心に総復習する

2022年度 前期

1.0単位

初級フランス語 a (総合的コミュニケーション)A【現
社・社防】

池端 妙子

<授業の方法>

対面授業(演習)

<授業の目的>

この科目の受講生は、フランス語の正しい発音、文法の基礎や表現を学び、フランス語の基本的なコミュニケーション能力(聞く、読む、話す、書く力)をバランスよく養うことを目的とします。

授業中に受講生は、各課で習う文法事項に関連したビデオを視聴し、クイズ形式の文法問題を解き、ペア・グループで表現を練習することにより、フランス語の基礎的な知識を主体的に獲得していきます。ビデオでは、買い物や道案内等「使える」フランス語の表現に視聴覚的に触れます。また、練習問題では、適宜インターネットで調べ学習を行ってクラスで情報を共有することで、フランスでの暮らしを仮想体験することができるでしょう。各課の最後では、メールや食文化等に関するテキストを読んだり、自分で文章を書いたりする練習にもチャレンジします。

授業を通して、実践的な言語能力に加え、フランス語圏の文化や社会に関する知識も身につけることで、異文化体験をしながら、汎用性の高いフランス語の力を習得することを目的とします。これは、全学ディプロマ・ポリシー「1. 幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる」、「2. さまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる」に沿ったものです。

<到達目標>

受講生は、「初級フランス語 I a, I b, II a, II b」

修了時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR) A1レベルに到達することを目指します。ヨーロッパ言語共通参照枠とは、言語の枠や国境を越えて、外国語の運用能力を同一の基準で測ることが出来る国際標準のことです。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)の6つのレベルは、日本フランス語試験管理センターによれば以下のようになります。

A1 : 簡単なやりとりが可能で、自分や、身近な物事について話すことができます。

A2 : 日常生活に関わる簡単な課題を実行できます。丁寧表現を用いたり、もっとも日常的なやり取りを交わしたりすることができます。

B1 : やりとりを維持すること、議論を理解、継続し、自分の見解や意見を述べるすることができます。日常生活の予期せぬ状況にも対処できます。

B2 : 自分の意見を主張するために筋道の通った議論の流れを作ることができ、自分の見解を展開し、交渉することができます。このレベルの受験者は、社交的な談話の中で流暢に会話を交わし、自分の間違いを自分で修正することができるようになっています。

C1 : 流暢で自然なコミュニケーションを成立させることが可能です。豊富な語彙があり、自分の意見を伝える際に適切な表現を選択できます。明瞭で構成の整った話を滑らかに発し、様々な構文に習熟した使用者であることが見て取れます。

C2 : 言語への熟練が、表現の正確さや適切さ、流暢さに現われます。受験者は学術的な、あるいは高度な課題を実現することができます。

<授業のキーワード>

コミュニケーション能力の獲得、異文化体験、フランス語圏の社会・文化

<授業の進め方>

「初級フランス語Ia」「初級フランス語Ib」合わせて、4回の授業で1課を終わらせるペースで教科書を進めていきます。

まず、各課で習う文法事項に関連したビデオを見て、教師の質問や教科書の設問に答えて、ビデオの大まかな内容を推測します。

それから、文法ルールを受講生が自ら発見する形で学び取り、ペア・グループワークを活用することで、学習事項を定着させ、自分でも応用できるようにします。適宜、文化的要素が取り入れられたある程度の文章を読んだり、文を書いたりする練習もします。

授業の理解度を把握するために、必要に応じて小テストに挑戦します。

<履修するにあたって>

・「初級フランス語Ib」を並行して受講する必要がある

ます。

・単位を取得するためには10回以上の出席が必要です。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業後には新しく習ったことを中心に、1時間ほど復習を行いましょう。少しずつ学修を継続することで、確実に力がついていくのを実感できるでしょう。

< 提出課題など >

授業で課された課題は添削後コメントをつけて返却します。課題は成績評価の対象になります。

実施したテストについては、授業のなかで解説したり、dotCampusを通してフィードバックしたりします。

< 成績評価方法・基準 >

・授業への積極的な参加 20% + 宿題の提出とその内容 20% + 小テストの成績 20% + 定期試験 40%
・定期試験を受けるには、全15回の授業のうち10回以上の授業の出席日数が必要です。

*なお、定期試験において、「初級フランス語1a」の科目では文法のルールを理解と文章の読解力を問う出題がされます。

*評価がSとAの人数の割合は、合格者（つまり評価C以上）全体の30%程度と定められています。

< テキスト >

北村亜矢子、Durrenberger Vincent 『マエストロ1』（朝日出版社 2020年）定価2,700円 + 税

< 参考図書 >

授業の内容に応じて、授業中に適宜指示します。

< 授業計画 >

第1回 Introduction
Premiers contacts

オリエンテーション：授業履修の注意事項、成績評価方法・基準の説明、フランス語を学ぶ上でのアドバイス。

テキスト1課：挨拶をする
アルファベ

第2回 Premiers contacts

テキスト1課：名前を言う、名前のスペルを言う
名詞の性、不定冠詞（1）un, une

第3回 se pr?senter

テキスト2課：国籍を言う、職業を言う、出身地を言う
主語人称代名詞、動詞?tre

第4回 se pr?senter

テキスト2課：国籍を言う、職業を言う、出身地を言う
女性形の作り方：国籍、職業

第5回 Parler de soi et des autres 1

テキスト3課：話せる言語を言う、専攻を言う、好きなことを言う

定冠詞le, la, les、名詞の複数形

第6回 Parler de soi et des autres 1

テキスト3課：話せる言語を言う、専攻を言う、好きなことを言う

動詞-er（1）

第7回 Parler de soi et des autres 2

テキスト4課：住んでいる国や都市を言う
国名 / 都市名の前の前置詞

第8回 Parler de soi et des autres 2

テキスト4課：否定する
否定形ne...pas

第9回 Parler de soi et des autres 3

テキスト5課：持ち物を言う
不定冠詞（2）un, une, des、動詞avoir

第10回 Parler de soi et des autres 3

テキスト5課：年齢を言う
il y a、否定のde

第11回 Parler de son quotidien

テキスト6課：行き先を言う、家事について話す
動詞faire, aller、動詞-er（2）

第12回 Parler de son quotidien

テキスト6課：普段することを語る
前置詞?と定冠詞の縮約

第13回 D?crire une personne et un objet

テキスト7課：人や物を描写する
形容詞の性、数、位置、

第14回 D?crire une personne et un objet

テキスト7課：所有を言う、電話番号を言う
所有形容詞、疑問形容詞quel

第15回 総復習

前期に学習した内容の総復習をします。

2022年度 前期

1.0単位

初級フランス語 b 再・ラ

藤本 智成

< 授業の方法 >

対面授業（演習）

< 授業の目的 >

この科目は全学のDP（ディプロマ・ポリシー）にあるように、「幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる／獲得した知識や技能を社会に役立てることができる」ことを目指す。

フランス語文法の基礎を学ぶことにより、練習問題などを通して、基本的なフランス語表現がわかるようにする。日常でよく使われる単語を覚え、それを用いて例文を理解したり、簡単な文を自分で作る、またフランス語特有の発音を身につけることで、それらの文を自分で言えるようにすることを目指す。

< 到達目標 >

「フランス語 a, b, a, b」修了時点で仏検（実用フランス語技能検定試験）の5級に合格できる水準を目指す。仏検の受験要項によれば、5級の検定基準は「初歩的なフランス語を理解し、聞き、話すことができる。学習50時間以上」である。なお、欧州言語共通参照枠ではA1レベル。

内容的にはフランス語の簡単な表現を理解し、発音できる。規則動詞と重要な不規則動詞を現在時制で活用（それぞれの人称に合わせて変化させること）ができる。名詞の数や性別に応じて変化する表現（冠詞・形容詞など）の仕組みを理解できる。簡単な文の意味を考え、作成できる。

< 授業のキーワード >

フランス語、フランス語会話、フランス文化、フランス社会

< 授業の進め方 >

教科書の文法事項を口頭や板書で説明し、それを理解したうえで、簡単な練習問題を解く。場合によって、応用問題を出したり、プリントなどの配布物で補足する。単語や動詞の活用を覚えるにあたり、口頭で発音練習する。必要に応じて小テストを行い、学習の理解度をチェックする。

< 履修するにあたって >

教科書、仏和辞書、筆記用具を用意すること。辞書は特に指定しない。電子辞書でも書籍の辞書でも、現在入手可能な最新のものであれば、どのメーカーや出版社のもの

のでも構わない。

< 授業時間外に必要な学修 >

教科書に出てくる新出単語や表現の説明については、受講者の予習を前提に進めるので、各自で確認し、理解しておくようにする。

下記の使用教科書には、特典として、Web上で公開されている副教材がある。大いに活用して、1時間程度の予習・復習をすること。

< 提出課題など >

授業で消化できなかった練習問題や、独自の課題の提出を求める場合がある。

< 成績評価方法・基準 >

単位取得には3分の2の出席が必要。定期試験の成績70% 小テストや課題の提出状況など：30%によって評価する。

< テキスト >

有富智世他『なびぶんせ 1』（朝日出版 2016年）

定価2,500円＋税

< 参考図書 >

授業の内容・進度に合わせて、適宜紹介する。

< 授業計画 >

第1回 introduction

オリエンテーション：授業履修の注意事項、成績評価方法・基準の説明、フランス語を学ぶ上でのアドバイス。

テキスト0課：フランスってどんな国？

テキスト1課：アルファベ（pp. 2-17）

第2回 Je m'appelle...

テキスト1課：アルファベ復習、自分の名前を言ってみよう、綴り字記号、綴り字と発音、リエゾン、アンシェヌマン、エリジオン、フランス語の挨拶、フランス語の数、Travaux Pratiques (pp. 16-19)

第3回 Une baguette, s'il vous plait !

テキスト2課：「これは何ですか？ / これは？ ですか？ / をください」

会話教材を用いた学習

< 2課の文法項目 > 名詞の性、冠詞（不定冠詞、定冠詞）、提示の表現、Travaux Pratiques (pp. 20-23)

第4回 Une baguette, s'il vous plait !

テキスト2課：「これは何ですか？ / これは？ ですか？ / をください」

会話教材を用いた学習

< 2課の文法項目 > 名詞の性、冠詞（不定冠詞、定冠詞）、提示の表現、Travaux Pratiques (pp. 20-23)

第5回 小テスト

1課、2課で学習した内容について、ペアまたはグループの形式で口頭試験を実施する。

第6回 Nous sommes maintenant a Paris.

テキスト3課：職業と国籍／旅に関する語／数、「私は？です／私は？を持っています」

会話教材を用いた学習

<3課の文法項目> 主語人称代名詞、動詞etreとavoir、Travaux Pratiques (pp. 24-27)

第7回 Nous sommes maintenant a Paris.

テキスト3課：職業と国籍／旅に関する語／数、「私は？です／私は？を持っています」

会話教材を用いた学習

<3課の文法項目> 主語人称代名詞、動詞etreとavoir、Travaux Pratiques (pp. 24-27)

第8回 J'aime la tour Eiffel.

テキスト4課：様々な動詞／都市／言語、「？（すること）が好

です／？に住んでいます」

会話教材を用いた学習

<4課の文法項目> 第1群規則動詞（-er動詞）、疑問文と答え方、Travaux Pratiques (pp. 28-31)

第9回 J'aime la tour Eiffel.

テキスト4課：様々な動詞／都市／言語、「？（すること）が好きです／？に住んでいます」

会話教材を用いた学習

<4課の文法項目> 第1群規則動詞（-er動詞）、疑問文と答え方、Travaux Pratiques (pp. 28-31)

第10回 小テスト

3課、4課で学習した内容について、ペアまたはグループの形式で口頭試験を実施する。

第11回 J'achete du fromage.

テキスト5課：食べ物／飲み物（数えられる名詞、数えられない名詞）、「？がある」

会話教材を用いた学習

<5課の文法項目> 冠詞（部分冠詞）、複数形の作り方、否定文と否定疑問文、Travaux Pratiques (pp. 32-35)

第12回 J'achete du fromage.

テキスト5課：食べ物／飲み物（数えられる名詞、数えられない名詞）、「？がある」

会話教材を用いた学習

<5課の文法項目> 冠詞（部分冠詞）、複数形の作り方、否定文と否定疑問文、Travaux Pratiques (pp. 32-35)

第13回 C'est magnifique !

テキスト6課：基本的な形容詞／家族／色／人についていう／状態を言う／所有を言う

会話教材を用いた学習

<6課の文法項目> 形容詞、指示形容詞、所有形容詞、Travaux Pratiques (pp. 32-35)

第14回 C'est magnifique !

テキスト6課：基本的な形容詞／家族／色／人についていう／状態を言う／所有を言う

会話教材を用いた学習

<6課の文法項目> 形容詞、指示形容詞、所有形容詞、Travaux Pratiques (pp. 32-35)

第15回 小テスト

5課、6課で学習した内容について、ペアまたはグループの形式で口頭試験を実施する。

2022年度 後期

1.0単位

初級フランス語 b 再・リ

釣 馨

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

この科目は全学のDPにあるように、「幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる／獲得した知識や技能を社会に役立てることができる」ことを目指す。

フランス語文法の基礎を学ぶことにより、練習問題などを通して、基本的なフランス語表現がわかるようにする。日常でよく使われる単語を覚え、それを用いて例文を理解したり、簡単な文を自分で作る、またフランス語特有の発音を身につけることで、それらの文を自分で言えるようにすることを目指す。

<到達目標>

初級フランス語1a, b, 11a, b修了時点で仏検（実用フランス語技能検定試験）の5級に合格できる水準、欧州言語共通参照枠ではA1レベル。

内容的にはフランス語の簡単な表現を理解し、発音できること。規則動詞と重要な不規則動詞を現在時制で活用

(それぞれの人称に合わせて変化させること)ができること、名詞の数や性別に応じて変化する表現(冠詞・形容詞など)の仕組みを理解すること、簡単な文の意味を考えたり、作ったりできるようになること。

<授業のキーワード>

フランス語、フランス語文法、フランス文化、フランス社会

<授業の進め方>

語学の学習なので、発音練習や隣の人とグループになって発音練習してもらうこともあります。

教科書の文法事項を説明し、それを理解したうえで、簡単な練習問題を解く。場合によって、応用問題を出したり、プリントなどの配布物で補足する。単語や動詞の活用を覚えるにあたり、各自で発音練習する。必要に応じて小テストを行い、学習の理解度をチェックする。

<履修するにあたって>

1.再履修クラスはペアクラスではなく、aとbを単独で受講することもできます。

2.遅刻や欠席がないようにする。

3.教科書、辞書、筆記用具を持参してください。

<授業時間外に必要な学修>

教科書に出てきた単語・表現を自分でも確認し、理解しておくようにする。

ポートフォリオなどを活用し、1時間程度の学習はすること。

<提出課題など>

教科書の内容にそった練習問題をプリント(ネット)で配布し、提出させることがある。

回答は授業中に確認し、理解の補足となるようにする。

<成績評価方法・基準>

・定期試験(あるいは小テスト)を行なう。成績評価の方法・割合は、定期試験(小テストのみの場合もある)で70%、授業中の小テストや課題の評価で30%とする。

・出席確認:全15回の授業のうち10回以上の授業に出席しなければ単位は認めません。

また評価がSとAの人数の割合は、合格者(つまり評価C以上)全体の30%程度とする。

<テキスト>

有富智世他『なびふらんせ 1』(朝日出版 2016年)

定価2,500円+税

<参考図書>

授業の内容・進度に合わせて、適宜紹介します。

<授業計画>

第1回 introduction

オリエンテーション:授業履修の注意事項、成績評価方法・基準の説明、フランス語を学ぶ上でのアドバイス。

テキスト0課:フランスってどんな国?

テキスト1課:アルファベ(pp. 2-17)

第2回 Je m'appelle...

テキスト1課:アルファベ復習、自分の名前を言ってみよう、綴り字記号、綴り字と発音、リエゾン、アンシェヌマン、エリジオン、フランス語の挨拶、フランス語の数、Exercices(pp. 16-19)

第3回 Une baguette, s'il vous pla?t !

テキスト2課:「これは何ですか? /これは? です/? をください」

会話教材を用いた学習

<2課の文法項目>名詞の性、冠詞(不定冠詞、定冠詞)、提示の表現

Exercices(pp. 20-23)

第4回 Une baguette, s'il vous pla?t !

テキスト2課:「これは何ですか? /これは? です/? をください」

会話教材を用いた学習

<2課の文法項目>名詞の性、冠詞(不定冠詞、定冠詞)、提示の表現

Exercices(pp. 20-23)

第5回 小テスト

1課、2課で学習した内容について、おもに文法面と読解面における習熟度を測る。

第6回 Nous sommes maintenant ? Paris.

テキスト3課:職業と国籍/旅に関する語/数、「私は? です/私は? を持っています」

会話教材を用いた学習

<3課の文法項目>主語人称代名詞、動詞 ?treとavoir
Exercices(pp. 24-27)

第7回 Nous sommes maintenant ? Paris.

テキスト3課:職業と国籍/旅に関する語/数、「私は? です/私は? を持っています」

会話教材を用いた学習

<3課の文法項目>主語人称代名詞、動詞 ?treとavoir
Exercices(pp. 24-27)

第8回 J'aime la tour Eiffel.

テキスト4課:様々な動詞/都市/言語、「?(すること)が好きです/?に住んでいます」

会話教材を用いた学習

<4課の文法項目>第1群規則動詞(-er動詞)、疑問文と答え方、Exercices(pp. 28-31)

第9回 J'aime la tour Eiffel.

テキスト4課:様々な動詞/都市/言語、「?(すること)が好きです/?に住んでいます」

会話教材を用いた学習

<4課の文法項目>第1群規則動詞(-er動詞)、疑問文と答え方、Exercices(pp. 28-31)

第10回 復習と小テスト

3課、4課で学習した内容について、おもに文法面と読解

面における定着度を測る。

第11回 J'ach?te du fromage.

テキスト5課：食べ物／飲み物（数えられる名詞、数えられない名詞）、「?がある」

会話教材を用いた学習

<5課の文法項目> 冠詞（部分冠詞）、複数形の作り方、否定文と否定疑問文、Exercices (pp. 32-35)

第12回 J'ach?te du fromage.

テキスト5課：食べ物／飲み物（数えられる名詞、数えられない名詞）、「?がある」

会話教材を用いた学習

<5課の文法項目> 冠詞（部分冠詞）、複数形の作り方、否定文と否定疑問文、Exercices (pp. 32-35)

第13回 C'est magnifique !

テキスト6課：基本的な形容詞／家族／色／人についていう／状態を言う／所有を言う

会話教材を用いた学習

<6課の文法項目> 形容詞、指示形容詞、所有形容詞、Exercices (pp. 32-35)

第14回 C'est magnifique !

テキスト6課：基本的な形容詞／家族／色／人についていう／状態を言う／所有を言う

会話教材を用いた学習

<6課の文法項目> 形容詞、指示形容詞、所有形容詞、Exercices (pp. 32-35)

第15回 総復習

5、6課を中心に総復習する

2022年度 前期

1.0単位

初級フランス語 b (総合的コミュニケーション)ア【経済】

寺尾 佳子

<授業の方法>

対面授業（演習）

<授業の目的>

この科目の受講生は、フランス語の正しい発音、文法の基礎や表現を学び、フランス語の基本的なコミュニケーション能力（聞く、読む、話す、書く力）をバランスよく養うことを目的とします。

授業中に受講生は、各課で習う文法事項に関連したビデオを視聴し、クイズ形式の文法問題を解き、ペア・グループで表現を練習することにより、フランス語の基礎的な知識を主体的に獲得していきます。ビデオでは、買い物や道案内等「使える」フランス語の表現に視聴覚的に触れます。また、練習問題では、適宜インターネットで調べ学習を行ってクラスで情報を共有することで、フランスでの暮らしを仮想体験することができるでしょう。各課の最後では、メールや食文化等に関するテキストを

読んだり、自分で文章を書いたりする練習にもチャレンジします。

授業を通して、実践的な言語能力に加え、フランス語圏の文化や社会に関する知識も身につけることで、異文化体験をしながら、汎用性の高いフランス語の力を習得することを目的とします。これは、全学ディプロマ・ポリシー「1. 幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる」、「2. さまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる」に沿ったものです。

<到達目標>

受講生は、「初級フランス語 I a, I b, II a, II b」修了時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) A1レベルに到達することを目指します。ヨーロッパ言語共通参照枠とは、言語の枠や国境を越えて、外国語の運用能力を同一の基準で測ることが出来る国際標準のことです。ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) の6つのレベルは、日本フランス語試験管理センターによれば以下のようになります。

A1 : 簡単なやりとりが可能で、自分や、身近な物事について話すことができます。

A2 : 日常生活に関わる簡単な課題を実行できます。丁寧な表現を用いたり、もっとも日常的なやり取りを交わしたりすることができます。

B1 : やりとりを維持すること、議論を理解、継続し、自分の見解や意見を述べるすることができます。日常生活の予期せぬ状況にも対処できます。

B2 : 自分の意見を主張するために筋道の通った議論の流れを作ることができ、自分の見解を展開し、交渉することができます。このレベルの受験者は、社交的な談話の中で流暢に会話を交わし、自分の間違いを自分で修正することができるようになっています。

C1 : 流暢で自然なコミュニケーションを成立させることが可能です。豊富な語彙があり、自分の意見を伝える際に適切な表現を選択できます。明瞭で構成の整った話を滑らかに発し、様々な構文に習熟した使用者であることが見て取れます。

C2 : 言語への熟練が、表現の正確さや適切さ、流暢さに現われます。受験者は学術的な、あるいは高度な課題を実現することができます。

<授業のキーワード>

コミュニケーション能力の獲得、異文化体験、フランス語圏の社会・文化

<授業の進め方>

「初級フランス語Ia」「初級フランス語Ib」合わせて、4回の授業で1課を終わらせるペースで教科書を進めていきます。

まず、各課で習う文法事項に関連したビデオを見て、教師の質問や教科書の設問に答えて、ビデオの大きな内容を推測します。

それから、文法ルールを受講生が自ら発見する形で学び取り、ペア・グループワークを活用することで、学習事項を定着させ、自分でも応用できるようにします。適宜、文化的要素が取り入れられたある程度の文章を読んだり、文を書いたりする練習もします。

授業の理解度を把握するために、必要に応じて小テストに挑戦します。

<履修するにあたって>

- ・「初級フランス語1a」を並行して受講する必要があります。
- ・単位を取得するためには10回以上の出席が必要です。

<授業時間外に必要な学修>

授業後には新しく習ったことを中心に、1時間ほど復習を行いましょう。少しずつ学修を継続することで、確実に力がついていくのを実感できるでしょう。

<提出課題など>

授業で課された課題は添削後コメントをつけて返却します。課題は成績評価の対象になります。

実施したテストについては、授業のなかで解説したり、dotCampusを通してフィードバックしたりします。

<成績評価方法・基準>

- ・授業への積極的な参加 20% + 宿題の提出とその内容 20% + 小テストの成績 20% + 定期試験 40%
- ・定期試験を受けるには、全15回の授業のうち10回以上の授業の出席日数が必要です。

*なお、定期試験において、「初級フランス語1b」の科目では聴解と（相手を想定して）書く能力を試みます。
*評価がSとAの人数の割合は、合格者（つまり評価C以上）全体の30%程度と定められています。

<テキスト>

北村亜矢子、Durrenberger Vincent 『マエストロ1』（朝日出版社 2020年）定価2,700円 + 税

<参考図書>

授業の内容に応じて、授業中に適宜指示します。

<授業計画>

第1回 Introduction
Premiers contacts

オリエンテーション：授業履修の注意事項、成績評価方法・基準の説明、フランス語を学ぶ上でのアドバイス。
テキスト1課：挨拶をする

アルファベ

第2回 Premiers contacts

テキスト1課：名前を言う、名前のスペルを言う
名詞の性、不定冠詞（1）un, une

第3回 se pr?senter

テキスト2課：国籍を言う、職業を言う、出身地を言う
主語人称代名詞、動詞?tre

第4回 se pr?senter

テキスト2課：国籍を言う、職業を言う、出身地を言う
女性形の作り方：国籍、職業

第5回 Parler de soi et des autres 1

テキスト3課：話せる言語を言う、専攻を言う、好きなことを言う
定冠詞le, la, les、名詞の複数形

第6回 Parler de soi et des autres 1

テキスト3課：話せる言語を言う、専攻を言う、好きなことを言う
動詞-er（1）

第7回 Parler de soi et des autres 2

テキスト4課：住んでいる国や都市を言う
国名 / 都市名の前の前置詞

第8回 Parler de soi et des autres 2

テキスト4課：否定する
否定形ne...pas

第9回 Parler de soi et des autres 3

テキスト5課：持ち物を言う
不定冠詞（2）un, une, des、動詞avoir

第10回 Parler de soi et des autres 3

テキスト5課：年齢を言う
il y a、否定のde

第11回 Parler de son quotidien

テキスト6課：行き先を言う、家事について話す
動詞faire, aller、動詞-er（2）

第12回 Parler de son quotidien

テキスト6課：普段することを語る
前置詞?と定冠詞の縮約

第13回 D?crire une personne et un objet

テキスト7課：人や物を描写する

形容詞の性、数、位置

第14回 D?crire une personne et un objet

テキスト7課：所有を言う、電話番号を言う

所有形容詞、疑問形容詞quel

第15回 総復習

前期に学習した内容の総復習をします。

2022年度 前期

1.0単位

初級フランス語 a 再・シ

玉置 良行

< 授業の方法 >

対面授業（演習）

< 授業の目的 >

全学のディプロマシー・ポリシーで示されるなかでも、とりわけ「広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養」することと、「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」フランス語の表現力を得ることを目的とします。

また、修得した言語能力を使って、同DPにある「国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てる」態度を養うことも重要です。

一連のフランス語科目の中では入門にあたり、フランス語の概略を知ること。具体的には、フランス語の綴りと音の関係、主要な構文、状況に応じた簡単な会話を理解し使えるようになることが目的ですが、特に本講義においては、フランス語の基本文法、すなわちフランス語という言葉のしくみを理解することを目指します。

< 到達目標 >

実用フランス語技能検定試験（仏検）5級相当のフランス語運用能力習得を目標とします。仏検5級の内容は、フランス語のへの入り口として「初歩的な日常的フランス語を理解し、読み、聞き、書くことができる。」とされています。

より具体的な目標として；

- ・フランス語の初歩的な単文を読んで理解する
- ・文章や口頭で日常的な応答ができる
- ・初歩的な文書のための文法知識を理解する

などがあげられます。

< 授業のキーワード >

フランス語、フランス語文法、フランス文化、フランス社会

< 授業の進め方 >

まず教科書付属の録音を聞き、音読を繰り返します。

さらに各回の主要な文法項目について解説を聞いた上で、例文の読解や練習問題といった演習をおこないます。場合によっては補足教材や応用問題を使用します。

課題の提出や小テストを適宜求めます。

また、授業中のやりとり、あるいはコメントペーパーやdotCampusなどを使って、質問とそのフィードバックを行い疑問点を解消しつつ理解を深めていきます。

< 履修するにあたって >

2年次以上で初めてフランス語を学ぶ場合は、「初級フランス語I」再履修クラスから始めてください。このクラスは、フランス語を半期程度学んだレベルの既習者が対象です。

なお、再履修クラスはペアクラスではなく、aとbを単独で受講することもできます。

< 授業時間外に必要な学修 >

録音を繰り返し聴く、繰り返し読む、例文を繰り返し書く、といった復習が極めて重要です。

音源は出版社のホームページからダウンロードすることができます。また、受講生が自習に使うことを想定したWeb教材も用意されているので、積極的に理解度を試し補完することもできます。これらの情報は教科書に詳細が記載されています。約1時間の事前・事後学習が必要です。

< 提出課題など >

授業の進行と理解度にあわせて、和訳や練習問題・補足問題を課題とします。

課題は授業での直接提出、またはメールやdotCampusでの提出を基本として、それぞれに対するコメントを個別、または授業中の解説に含める形でフィードバックします。小テストを実施します。小テストは受講生の理解度や質問内容を踏まえて学期中に数回実施し、次の授業で採点・返却します。授業での講評もおこないます。

定期試験を実施します。解説と講評を提示します。

< 成績評価方法・基準 >

全15回のうち3分の2以上の授業に出席しなければ単位は認められません。

点数配分は、定期試験：50%、課題提出＋小テスト：30%、授業のアクティビティ：20%です。

定期試験が実施できない場合は、小テストとして対応します。

< テキスト >

有富智世ほか『なびふらんせ1』朝日出版社、2016年
定価2,500円＋税

< 参考図書 >

授業中に適宜紹介します。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

フランス語を学ぶにあたっての留意事項

・授業履修上の注意事項、授業の進め方や成績評価方法の説明

・教科書や辞書、参考書についての説明
初級フランス語Iaの内容を踏まえた復習

- ・綴り字と発音の関係
- ・名詞、動詞、基本構文の確認

第2回 Lecon 7(1)

例文音読と読解・文法解説・練習問題

Lecon 7の主要文法項目

- ・不規則動詞 aller / venir
- ・近接未来と近接過去
- ・人称代名詞の強勢形

第3回 Lecon 7(2)

例文音読と読解・文法解説・練習問題

Lecon 7の主要文法項目

- ・不規則動詞 aller / venir
- ・近接未来と近接過去
- ・人称代名詞の強勢形

第4回 Lecon 8(1)

例文音読と読解・文法解説・練習問題

Lecon 8の主要文法項目

- ・疑問代名詞
- ・疑問副詞
- ・不規則動詞 prendre / faire

第5回 Lecon 8(2)

例文音読と読解・文法解説・練習問題

Lecon 8の主要文法項目

- ・疑問代名詞
- ・疑問副詞
- ・不規則動詞 prendre / faire

第6回 Lecon 9(1)

例文音読と読解・文法解説・練習問題

Lecon 9の主要文法項目

- ・第2群規則動詞
- ・不規則動詞 partir
- ・疑問形容詞
- ・非人称構文

第7回 Lecon 9(2)

例文音読と読解・文法解説・練習問題

Lecon 9の主要文法項目

- ・第2群規則動詞
- ・不規則動詞 partir
- ・疑問形容詞
- ・非人称構文

第8回 これまでの復習・補足練習

例文の音読や和訳、補足の解説や練習問題、小テストなどを通じて、ここまでの学習内容を振り返る。

各課の語彙と表現を確認する。

第9回 Lecon 10(1)

例文音読と読解・文法解説・練習問題

Lecon 10の主要文法項目

- ・準助動詞 vouloir / pouvoir / savoir / devoir

・形容詞の比較級

・副詞の比較級

第10回 Lecon 10(2)

例文音読と読解・文法解説・練習問題

Lecon 10の主要文法項目

- ・準助動詞 vouloir / pouvoir / savoir / devoir
- ・形容詞の比較級
- ・副詞の比較級

第11回 Lecon 11(1)

例文音読と読解・文法解説・練習問題

Lecon 11の主要文法項目

- ・命令法
- ・目的語人称代名詞
- ・代名動詞

第12回 Lecon 11(2)

例文音読と読解・文法解説・練習問題

Lecon 11の主要文法項目

- ・命令法
- ・目的語人称代名詞
- ・代名動詞

第13回 Lecon 12(1)

例文音読と読解・文法解説・練習問題

Lecon 12の主要文法項目

- ・複合過去
- ・指示代名詞

第14回 Lecon 12(2)

例文音読と読解・文法解説・練習問題

Lecon 12の主要文法項目

- ・複合過去
- ・指示代名詞

第15回 これまでの復習・補足問題

例文の音読や和訳、補足の解説や練習問題、小テストなどを通じて、ここまでの学習内容を振り返る。

各課の語彙と表現を確認する。

後期内容の総復習と定期試験に向けて表現と文法を整理する。

2022年度 後期

1.0単位

初級フランス語 a 再・ラ

釣 馨

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

全学のディプロマシー・ポリシーで示されるなかでも、とりわけ「広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養」することと、「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」フランス語の表現力

を得ることを目的とします。

また、修得した言語能力を使って、同DPにある「国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てる」態度を養うことも重要です。

一連のフランス語科目の中では入門にあたり、フランス語の概略を知ること。具体的には、フランス語の綴りと音の関係、主要な構文、状況に応じた簡単な会話を理解し使えるようになることが目的ですが、特に本講義においては、フランス語の基本文法、すなわちフランス語という言葉のしくみを理解することを目指します。

<到達目標>

実用フランス語技能検定試験（仏検）5級相当のフランス語運用能力習得を目標とします。仏検5級の内容は、フランス語への入り口として「初歩的な日常的フランス語を理解し、読み、聞き、書くことができる。」とされています。

より具体的な目標として；

- ・フランス語の初歩的な単文を読んで理解する
- ・文章や口頭で日常的な応答ができる
- ・初歩的な文書のための文法知識を理解する

などがあげられます。

<授業のキーワード>

フランス語、フランス語文法、フランス文化、フランス社会

<授業の進め方>

まず教科書付属の録音を聞き、音読を繰り返します。さらに各回の主要な文法項目について解説を聞いた上で、例文の読解や練習問題といった演習をおこないます。場合によっては補足教材や応用問題を使用します。課題の提出や小テストを適宜求めます。

また、授業中のやりとり、あるいはコメントペーパーやdotCampusなどを使って、質問とそのフィードバックを行い疑問点を解消しつつ理解を深めていきます。

<履修するにあたって>

2年次以上で初めてフランス語を学ぶ場合は、「初級フランス語I」再履修クラスから始めてください。このクラスは、フランス語を半期程度学んだレベルの既習者が対象です。

なお、再履修クラスはペアクラスではなく、aとbを単独で受講することもできます。

<授業時間外に必要な学修>

録音を繰り返し聴く、繰り返し読む、例文を繰り返し書く、といった復習が極めて重要です。

音源は出版社のホームページからダウンロードすることができます。また、受講生が自習に使うことを想定したWeb教材も用意されているので、積極的に理解度を試し補完することもできます。これらの情報は教科書に詳細が記載されています。約1時間の事前・事後学習が必要です。

<提出課題など>

授業の進行と理解度にあわせて、和訳や練習問題・補足問題を課題とします。

課題は授業での直接提出、またはメールやdotCampusでの提出を基本として、それぞれに対するコメントを個別、または授業中の解説に含める形でフィードバックします。小テストを実施します。小テストは受講生の理解度や質問内容を踏まえて学期中に数回実施し、次の授業で採点・返却します。授業での講評もおこないます。

定期試験を実施します。解説と講評を提示します。

<成績評価方法・基準>

全15回のうち3分の2以上の授業に出席しなければ単位は認められません。

点数配分は、定期試験：50%、課題提出+小テスト：30%、授業のアクティビティ：20%です。

定期試験が実施できない場合は、小テストとして対応します。

<テキスト>

有富智世ほか『なびふらんせ1』朝日出版社、2016年
定価2,500円+税

<参考図書>

授業中に適宜紹介します。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

フランス語を学ぶにあたっての留意事項

・授業履修上の留意事項、授業の進め方や成績評価方法の説明

・教科書や辞書、参考書についての説明

初級フランス語Iaの内容を踏まえた復習

・綴り字と発音の関係

・名詞、動詞、基本構文の確認

第2回 Lecon 7(1)

例文音読と読解・文法解説・練習問題

Lecon 7の主要文法項目

・不規則動詞 aller / venir

・近接未来と近接過去

・人称代名詞の強勢形

第3回 Lecon 7(2)

例文音読と読解・文法解説・練習問題

Lecon 7の主要文法項目

・不規則動詞 aller / venir

・近接未来と近接過去

・人称代名詞の強勢形

第4回 Lecon 8(1)

例文音読と読解・文法解説・練習問題

Lecon 8の主要文法項目

・疑問代名詞

・疑問副詞

・不規則動詞 prendre / faire

第5回 Lecon 8(2)

例文音読と読解・文法解説・練習問題

Lecon 8の主要文法項目

- ・疑問代名詞
- ・疑問副詞
- ・不規則動詞 prendre / faire

第6回 Lecon 9(1)

例文音読と読解・文法解説・練習問題

Lecon 9の主要文法項目

- ・第2群規則動詞
- ・不規則動詞 partir
- ・疑問形容詞
- ・非人称構文

第7回 Lecon 9(2)

例文音読と読解・文法解説・練習問題

Lecon 9の主要文法項目

- ・第2群規則動詞
- ・不規則動詞 partir
- ・疑問形容詞
- ・非人称構文

第8回 これまでの復習・補足練習

例文の音読や和訳、補足の解説や練習問題、小テストなどを通じて、ここまでの学習内容を振り返る。

各課の語彙と表現を確認する。

第9回 Lecon 10(1)

例文音読と読解・文法解説・練習問題

Lecon 10の主要文法項目

- ・準助動詞 vouloir / pouvoir / savoir / devoir
- ・形容詞の比較級
- ・副詞の比較級

第10回 Lecon 10(2)

例文音読と読解・文法解説・練習問題

Lecon 10の主要文法項目

- ・準助動詞 vouloir / pouvoir / savoir / devoir
- ・形容詞の比較級
- ・副詞の比較級

第11回 Lecon 11(1)

例文音読と読解・文法解説・練習問題

Lecon 11の主要文法項目

- ・命令法
- ・目的語人称代名詞
- ・代名動詞

第12回 Lecon 11(2)

例文音読と読解・文法解説・練習問題

Lecon 11の主要文法項目

- ・命令法
- ・目的語人称代名詞
- ・代名動詞

第13回 Lecon 12(1)

例文音読と読解・文法解説・練習問題

Lecon 12の主要文法項目

・複合過去

・指示代名詞

第14回 Lecon 12(2)

例文音読と読解・文法解説・練習問題

Lecon 12の主要文法項目

・複合過去

・指示代名詞

第15回 これまでの復習・補足問題

例文の音読や和訳、補足の解説や練習問題、小テストなどを通じて、ここまでの学習内容を振り返る。

各課の語彙と表現を確認する。

後期内容の総復習と定期試験に向けて表現と文法を整理する。

2022年度 後期

1.0単位

初級フランス語 a (総合的コミュニケーション)イ【法】

池端 妙子

<授業の方法>

対面授業(演習)

<授業の目的>

この科目の受講生は、フランス語の正しい発音、文法の基礎や表現を学び、フランス語の基本的なコミュニケーション能力(聞く、読む、話す、書く力)をバランスよく養うことを目的とします。

授業中に受講生は、各課で習う文法事項に関連したビデオを視聴し、クイズ形式の文法問題を解き、ペア・グループで表現を練習することにより、フランス語の基礎的な知識を主体的に獲得していきます。ビデオでは、パーティや等「使える」フランス語の表現に視聴覚的に触れます。また、練習問題では、適宜インターネットで調べ学習を行ってクラスで情報を共有することで、フランスでの暮らしを仮想体験することができるでしょう。各課の最後では、観光案内や芸術等に関するテキストを読んだり、自分で文章を書いたりする練習にもチャレンジします。

授業を通して、実践的な言語能力に加え、フランス語圏の文化や社会に関する知識も身につけることで、異文化体験をしながら、汎用性の高いフランス語の力を習得することを目的とします。これは、全学ディプロマ・ポリシー「1. 幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる」、「2. さまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる」に沿ったものです。

<到達目標>

受講生は、「初級フランス語 I a, I b, II a, II b」修了時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR) A1レベ

ルに到達することを目指します。ヨーロッパ言語共通参照枠とは、言語の枠や国境を越えて、外国語の運用能力を同一の基準で測ることが出来る国際標準のことです。ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）の6つのレベルは、日本フランス語試験管理センターによれば以下のようになります。

A1：簡単なやりとりが可能で、自分や、身近な物事について話すことができます。

A2：日常生活に関わる簡単な課題を実行できます。丁寧表現を用いたり、もっとも日常的なやり取りを交わしたりすることができます。

B1：やりとりを維持すること、議論を理解、継続し、自分の見解や意見を述べることができます。日常生活の予期せぬ状況にも対処できます。

B2：自分の意見を主張するために筋道の通った議論の流れを作ることができ、自分の見解を展開し、交渉することができます。このレベルの受験者は、社交的な会話の中で流暢に会話を交わし、自分の間違いを自分で修正することができるようになっていきます。

C1：流暢で自然なコミュニケーションを成立させることが可能です。豊富な語彙があり、自分の意見を伝える際に適切な表現を選択できます。明瞭で構成の整った話を滑らかに発し、様々な構文に習熟した使用者であることが見て取れます。

C2：言語への熟練が、表現の正確さや適切さ、流暢さに現われます。受験者は学術的な、あるいは高度な課題を実現することができます。

< 授業のキーワード >

コミュニケーション能力の獲得、異文化体験、フランス語圏の社会・文化

< 授業の進め方 >

「初級フランスIIa」「初級フランス語IIb」合わせて、4回の授業で1課を終わらせるペースで教科書を進めていきます。

まず、各課で習う文法事項に関連したビデオを見て、教師の質問や教科書の設問に答えて、ビデオの大まかな内容を推測します。

それから、文法ルールを受講生が自ら発見する形で学び取り、ペア・グループワークを活用することで、学習事項を定着させ、自分でも応用できるようにします。適宜、文化的要素が取り入れられたある程度の文章を読んだり、文を書いたりする練習もします。

授業の理解度を把握するために、必要に応じて小テストに挑戦します。

< 履修するにあたって >

・「初級フランス語IIb」を並行して受講する必要があります。

・単位を取得するためには10回以上の出席が必要です。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業後には新しく習ったことを中心に、1時間ほど復習を行いましょう。少しずつ学修を継続することで、確実に力がついていくのを実感できるでしょう。

< 提出課題など >

授業で課された課題は添削後コメントをつけて返却します。課題は成績評価の対象になります。

実施したテストについては、授業のなかで解説したり、dotCampusを通してフィードバックしたりします。

< 成績評価方法・基準 >

授業への積極的な参加 20% + 宿題の提出とその内容 20% + 小テストの成績 20% + 定期試験 40%

・定期試験を受けるには、全15回の授業のうち10回以上の授業の出席日数が必要です。

* なお、定期試験において、「初級フランス語IIa」の科目では文法のルールの理解と文章の読解力を問う出題がされます。

* 評価がSとAの人数の割合は、合格者（つまり評価C以上）全体の30%程度と定められています。

< テキスト >

北村亜矢子、Durrenberger Vincent 『マエストロ1』（朝日出版社 2020年）定価2,700円 + 税

< 参考図書 >

授業の内容に応じて、授業中に適宜指示します。

< 授業計画 >

第1回 Acheter des vêtements dans un magasin

テキスト8課：欲しいものを言う

動詞vouloir, prendre

第2回 Acheter des vêtements dans un magasin

テキスト8課：色、サイズ、支払方法を言う、値段を尋ねる

指示形容詞ce, cette, ces、直接目的補語人称代名詞le, la, les

第3回 Parler de ce qu'on mange, situation au marché?

テキスト9課：食事でとるものを言う

部分冠詞du, de la

第4回 Parler de ce qu'on mange, situation au marché?

テキスト9課：食料品を買う、値段を言う

中性代名詞en

第5回 Situation dans l'espace

テキスト10課：位置関係を言う、家の図面を説明する
前置詞deと定冠詞の縮約

第6回 Situation dans l'espace

テキスト10課：位置関係を言う、家の図面を説明する
前置詞deと定冠詞の縮約

第7回 Demander son chemin

テキスト11課：道順を説明する、命令する
命令形

第8回 Demander son chemin

テキスト11課：道順を説明する、命令する
中性代名詞y

第9回 Poser des questions, faire des projets

テキスト12課：質問をする
疑問文の作り方

第10回 Poser des questions, faire des projets

テキスト12課：予定について語る
近接未来、動詞partir

第11回 Révisions, le temps, les heures

テキスト13課：12課までの復習

第12回 Révisions, le temps, les heures

テキスト13課：天候について話す、時刻を言う
非人称構文il fait~, il est... heures

第13回 Parler de sa journée

テキスト14課：自分の1日を語る、別の言語でどう言うか、どう書くか、どう発音するか尋ねる
代名動詞(1)再帰的用法(2)受動的用法(3)相互的用法

第14回 Parler de sa journée

テキスト14課：自分の1日を語る、別の言語でどう言うか、どう書くか、どう発音するか尋ねる
代名動詞の否定形、否定ne-plus

第15回 総復習

後期に学習した内容の総復習をします。

2022年度 後期

1.0単位

初級フランス語 a (総合的コミュニケーション)ウ【法】

南 コニー

<授業の方法>

教科書を使ったフランス語演習

<授業の目的>

この科目は全学のDPにあるように、「幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる/獲得した知識や技能を社会に役立てることができる」ことを目指す。

フランス語文法の基礎を学ぶことにより、練習問題などを通して、基本的なフランス語表現がわかるようにする。日常でよく使われる単語を覚え、それをういて例文を理解したり、簡単な文を自分で作る、またフランス語特有の発音を身につけることで、それらの文を自分で言えるようにすることを旨す。

<到達目標>

初級フランス語1a, b, 11a, b修了時点で仏検(実用フランス語技能検定試験)の5級に合格できる水準、欧州言語共通参照枠ではA1レベル。

内容的にはフランス語の簡単な表現を理解し、発音できること。規則動詞と重要な不規則動詞を現在時制で活用(それぞれの人称に合わせて変化させること)ができること、名詞の数や性別に応じて変化する表現(冠詞・形容詞など)の仕組みを理解すること、簡単な文の意味を考えたり、作ったりできるようになること。

<授業のキーワード>

フランス語、フランス語文法、フランス文化、フランス社会

<授業の進め方>

遠隔授業(オンデマンド授業)

第一回目授業はzoomで行います

(zoom情報は前期と同じです)

<履修するにあたって>

1.初級フランス語1bを並行して受講することが必要です
2.教科書、辞書、筆記用具を持参してください

<授業時間外に必要な学修>

教科書に出てきた単語・表現を自分でも確認し、理解しておくようにする。

ポートフォリオなどを活用し、1時間程度の学習はすること。

<提出課題など>

教科書の内容にそった練習問題をプリントで配布し、提出させることがある。

回答は授業中に確認し、理解の補足となるようにする。

<成績評価方法・基準>

宿題の提出とその内容 + 小テストの成績 : 70%、「授業記録」の提出とその内容 : 30%

< テキスト >

有富智世他『なびふらんせ 1』(朝日出版 2016年)

定価2,500円 + 税

< 参考図書 >

有富智世他『なびふらんせ 1』(朝日出版 2016年)

定価2,500円 + 税

< 授業計画 >

第1回 On va au jardin des Tuileries?

不規則動詞aller/venir(前置詞と定冠詞の縮約)

・近接未来と近接過去

・人称代名詞の強勢形

・語彙と表現: 場所に関する語

「これから? します」/「? したところです」

第2回 On va au jardin des Tuileries?

不規則動詞aller/venir(前置詞と定冠詞の縮約)

・近接未来と近接過去

・人称代名詞の強勢形

・語彙と表現: 場所に関する語

「これから? します」/「? したところです」

第3回 La carte, s'il vous pla?t!

・疑問代名詞

・疑問副詞

・不規則動詞prendre/faire

・語彙と表現: カフェやレストランで使う語

prendre/faireを使った表現

第4回 La carte, s'il vous pla?t!

・疑問代名詞

・疑問副詞

・不規則動詞prendre/faire

・語彙と表現: カフェやレストランで使う語

prendre/faireを使った表現

第5回 復習と小テスト

7課、8課の復習テスト

第6回 Quelle heure est-il?

・第二群規則動詞(-ir動詞)

・不規則動詞partir

・疑問形容詞

・非人称構文

・語彙と表現: 天候を言う/時刻を言う/四季/曜日

第7回 Quelle heure est-il?

・第二群規則動詞(-ir動詞)

・不規則動詞partir

・疑問形容詞

・非人称構文

・語彙と表現: 天候を言う/時刻を言う/四季/曜日

第8回 Je voudrais cette jolie jupe blanche.

・準助動詞 vouloir/pouvoir/savoir/devoir

・形容詞の比較級

・副詞の比較級

・語彙と表現: 衣類/商品/階の言い方(序数)

買い物での表現/「? が欲しいのですが...」

第9回 Je voudrais cette jolie jupe blanche.

・準助動詞 vouloir/pouvoir/savoir/devoir

・形容詞の比較級

・副詞の比較級

・語彙と表現: 衣類/商品/階の言い方(序数)

買い物での表現/「? が欲しいのですが...」

第10回 復習と小テスト

9課、10課の復習テスト

第11回 Prenez la premi?re rue ? droite.

・命令法

・目的語人称代名詞

・代名動詞

・語彙と表現: 位置表現/場所の尋ね方/道案内の表現

第12回 Prenez la premi?re rue ? droite.

・命令法

・目的語人称代名詞

・代名動詞

・語彙と表現: 位置表現/場所の尋ね方/道案内の表現

第13回 Je suis all?(e) ? Paris

・複合過去

・指示代名詞

・語彙と表現: 様々な動詞の過去分詞/時の表現

「? した」/「しなかった」

第14回 Je suis all?(e) ? Paris

・複合過去

・指示代名詞

・語彙と表現: 様々な動詞の過去分詞/時の表現

「? した」/「しなかった」

第15回 総復習

11、12課を中心に総復習

2022年度 後期

1.0単位

初級フランス語 a (総合的コミュニケーション)イ【
経営】

南 コニー

< 授業の方法 >

遠隔授業(オンデマンド授業)

第1回目授業はzoomで行います

(zoom情報は前期と同じです)

< 授業の目的 >

この科目は全学のDPIにあるように、「幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる/獲得した知識や技能を社会に役立てることができる」ことを

目指す。

フランス語文法の基礎を学ぶことにより、練習問題などを通して、基本的なフランス語表現がわかるようにする。日常でよく使われる単語を覚え、それを用いて例文を理解したり、簡単な文を自分で作る、またフランス語特有の発音を身につけることで、それらの文を自分で言えるようにすることを目指す。

<到達目標>

初級フランス語1a, b, 11a, b修了時点で仏検(実用フランス語技能検定試験)の5級に合格できる水準、欧州言語共通参照枠ではA1レベル。

内容的にはフランス語の簡単な表現を理解し、発音できること。規則動詞と重要な不規則動詞を現在時制で活用(それぞれの人称に合わせて変化させること)ができること、名詞の数や性別に応じて変化する表現(冠詞・形容詞など)の仕組みを理解すること、簡単な文の意味を考えたり、作ったりできるようになること。

<授業のキーワード>

フランス語、フランス語文法、フランス文化、フランス社会

<授業の進め方>

教科書の文法事項を口頭や板書で説明し、それを理解したうえで、簡単な練習問題を解く。場合によって、応用問題を出したり、プリントなどの配布物や資料で補足する。単語や動詞の活用を覚えるにあたり、口頭で発音練習する。必要に応じて小テストを行い、学習の理解度をチェックする。

<履修するにあたって>

1.初級フランス語1bを並行して受講することが必要です
2.教科書、辞書、筆記用具を持参してください

<授業時間外に必要な学修>

教科書に出てきた単語・表現を自分でも確認し、理解しておくようにする。

ポर्टフォリオなどを活用し、1時間程度の学習はすること。

<提出課題など>

教科書の内容にそった練習問題をプリントで配布し、提出させることがある。

回答は授業中に確認し、理解の補足となるようにする。

<成績評価方法・基準>

宿題の提出とその内容 + 小テストの成績 : 70%、「授業記録」の提出とその内容 : 30%

<テキスト>

有富智世他『なびふらんせ 1』(朝日出版 2016年)
定価2,500円 + 税

<参考図書>

有富智世他『なびふらんせ 1』(朝日出版 2016年)
定価2,500円 + 税

<授業計画>

第1回 On va au jardin des Tuileries?

不規則動詞aller/venir(前置詞と定冠詞の縮約)

- ・近接未来と近接過去
- ・人称代名詞の強勢形
- ・語彙と表現: 場所に関する語

「これから? します」/「? したところです」

第2回 On va au jardin des Tuileries?

不規則動詞aller/venir(前置詞と定冠詞の縮約)

- ・近接未来と近接過去
- ・人称代名詞の強勢形
- ・語彙と表現: 場所に関する語

「これから? します」/「? したところです」

第3回 La carte, s'il vous pla?t!

- ・疑問代名詞
- ・疑問副詞
- ・不規則動詞prendre/faire
- ・語彙と表現: カフェやレストランで使う語

prendre/faireを使った表現

第4回 La carte, s'il vous pla?t!

- ・疑問代名詞
- ・疑問副詞
- ・不規則動詞prendre/faire
- ・語彙と表現: カフェやレストランで使う語

prendre/faireを使った表現

第5回 復習と小テスト

7課、8課の復習テスト

第6回 Quelle heure est-il?

- ・第二群規則動詞(-ir動詞)
- ・不規則動詞partir
- ・疑問形容詞
- ・非人称構文
- ・語彙と表現: 天候を言う/時刻を言う/四季/曜日

第7回 Quelle heure est-il?

- ・第二群規則動詞(-ir動詞)
- ・不規則動詞partir
- ・疑問形容詞
- ・非人称構文
- ・語彙と表現: 天候を言う/時刻を言う/四季/曜日

第8回 Je voudrais cette jolie jupe blanche.

- ・準助動詞 vouloir/pouvoir/savoir/devoir
- ・形容詞の比較級
- ・副詞の比較級
- ・語彙と表現: 衣類/商品/階の言い方(序数) 買い物での表現/「? が欲しいのですが...」

第9回 Je voudrais cette jolie jupe blanche.

- ・準助動詞 vouloir/pouvoir/savoir/devoir
- ・形容詞の比較級
- ・副詞の比較級
- ・語彙と表現: 衣類/商品/階の言い方(序数)

買い物での表現/「? が欲しいのですが...」

第10回 復習と小テスト

9課、10課の復習テスト

第11回 Prenez la premi?re rue ? droite.

- ・命令法
- ・目的語人称代名詞
- ・代名動詞
- ・語彙と表現：位置表現/場所の尋ね方/道案内の表現

第12回 Prenez la premi?re rue ? droite.

- ・命令法
- ・目的語人称代名詞
- ・代名動詞
- ・語彙と表現：位置表現/場所の尋ね方/道案内の表現

第13回 Je suis all?(e) ? Paris

- ・複合過去
- ・指示代名詞
- ・語彙と表現：様々な動詞の過去分詞/時の表現
「? した」/「しなかった」

第14回 Je suis all?(e) ? Paris

- ・複合過去
- ・指示代名詞
- ・語彙と表現：様々な動詞の過去分詞/時の表現
「? した」/「しなかった」

第15回 総復習

11、12課を中心に総復習

2022年度 後期

1.0単位

初級フランス語 a (総合的コミュニケーション)A【現社・社防】

池端 妙子

< 授業の方法 >

対面授業 (演習)

< 授業の目的 >

この科目の受講生は、フランス語の正しい発音、文法の基礎や表現を学び、フランス語の基本的なコミュニケーション能力 (聞く、読む、話す、書く力) をバランスよく養うことを目的とします。

授業中に受講生は、各課で習う文法事項に関連したビデオを視聴し、クイズ形式の文法問題を解き、ペア・グループで表現を練習することにより、フランス語の基礎的な知識を主体的に獲得していきます。ビデオでは、パーティや等「使える」フランス語の表現に視聴覚的に触れます。また、練習問題では、適宜インターネットで調べ学習を行ってクラスで情報を共有することで、フランスでの暮らしを仮想体験することができるでしょう。各課の最後では、観光案内や芸術等に関するテキストを読んだり、自分で文章を書いたりする練習にもチャレンジします。

授業を通して、実践的な言語能力に加え、フランス語圏の文化や社会に関する知識も身につけることで、異文化体験をしながら、汎用性の高いフランス語の力を習得することを目的とします。これは、全学ディプロマ・ポリシー「1. 幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる」、「2. さまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる」に沿ったものです。

< 到達目標 >

受講生は、「初級フランス語 I a, I b, II a, II b」修了時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) A1レベルに到達することを目指します。ヨーロッパ言語共通参照枠とは、言語の枠や国境を越えて、外国語の運用能力を同一の基準で測ることが出来る国際標準のことです。ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) の6つのレベルは、日本フランス語試験管理センターによれば以下のようになります。

A1 : 簡単なやりとりが可能で、自分や、身近な物事について話すことができます。

A2 : 日常生活に関わる簡単な課題を実行できます。丁寧表現を用いたり、もっとも日常的なやり取りを交わしたりすることができます。

B1 : やりとりを維持すること、議論を理解、継続し、自分の見解や意見を述べるすることができます。日常生活の予期せぬ状況にも対処できます。

B2 : 自分の意見を主張するために筋道の通った議論の流れを作ることができ、自分の見解を展開し、交渉することができます。このレベルの受験者は、社会的な談話の中で流暢に会話を交わし、自分の間違いを自分で修正することができるようになっています。

C1 : 流暢で自然なコミュニケーションを成立させることが可能です。豊富な語彙があり、自分の意見を伝える際に適切な表現を選択できます。明瞭で構成の整った話を滑らかに発し、様々な構文に習熟した使用者であることが見て取れます。

C2 : 言語への熟練が、表現の正確さや適切さ、流暢さに現われます。受験者は学術的な、あるいは高度な課題を実現することができます。

< 授業のキーワード >

コミュニケーション能力の獲得、異文化体験、フランス語圏の社会・文化

< 授業の進め方 >

「初級フランスIIa」「初級フランス語IIb」合わせて、4回の授業で1課を終わらせるペースで教科書を進めていきます。

まず、各課で習う文法事項に関連したビデオを見て、教師の質問や教科書の設問に答えて、ビデオの大まかな

内容を推測します。

それから、文法ルールを受講生が自ら発見する形で学び取り、ペア・グループワークを活用することで、学習事項を定着させ、自分でも応用できるようにします。適宜、文化的要素が取り入れられたある程度の文章を読んだり、文を書いたりする練習もします。

授業の理解度を把握するために、必要に応じて小テストに挑戦します。

<履修するにあたって>

- ・「初級フランス語IIb」を並行して受講する必要があります。
- ・単位を取得するためには10回以上の出席が必要です。

<授業時間外に必要な学修>

授業後には新しく習ったことを中心に、1時間ほど復習を行いましょ。少しずつ学修を継続することで、確実に力がついていくのを実感できるでしょう。

<提出課題など>

授業で課された課題は添削後コメントをつけて返却します。課題は成績評価の対象になります。実施したテストについては、授業のなかで解説したり、dotCampusを通してフィードバックしたりします。

<成績評価方法・基準>

授業への積極的な参加 20% + 宿題の提出とその内容 20% + 小テストの成績 20% + 定期試験 40%

・定期試験を受けるには、全15回の授業のうち10回以上の授業の出席日数が必要です。

*なお、定期試験において、「初級フランス語IIa」の科目では文法のルールの理解と文章の読解力を問う出題がされます。

*評価がSとAの人数の割合は、合格者（つまり評価C以上）全体の30%程度と定められています。

<テキスト>

北村亜矢子、Durrenberger Vincent 『マエストロ1』（朝日出版社 2020年）定価2,700円 + 税

<参考図書>

授業の内容に応じて、授業中に適宜指示します。

<授業計画>

第1回 Acheter des v?tements dans un magasin

テキスト8課：欲しいものを言う

動詞vouloir, prendre

第2回 Acheter des v?tements dans un magasin

テキスト8課：色、サイズ、支払方法を言う、値段を尋ねる

指示形容詞ce, cette, ces、直接目的補語人称代名詞le,

la, les

第3回 Parler de ce qu' on mange, situation au march?

テキスト9課：食事でとるものを言う

部分冠詞du, de la

第4回 Parler de ce qu' on mange, situation au march?

テキスト9課：食料品を買う、値段を言う

中性代名詞en

第5回 Situation dans l' espace

テキスト10課：位置関係を言う、家の図面を説明する

前置詞deと定冠詞の縮約

第6回 Situation dans l' espace

テキスト10課：位置関係を言う、家の図面を説明する

前置詞deと定冠詞の縮約

第7回 Demander son chemin

テキスト11課：道順を説明する、命令する

命令形

第8回 Demander son chemin

テキスト11課：道順を説明する、命令する

中性代名詞y

第9回 Poser des questions, faire des projets

テキスト12課：質問をする

疑問文の作り方

第10回 Poser des questions, faire des projets

テキスト12課：予定について語る

近接未来、動詞partir

第11回 R?visions, le temps, les heures

テキスト13課：12課までの復習

第12回 R?visions, le temps, les heures

テキスト13課：天候について話す、時刻を言う

非人称構文il fait~, il est... heures

第13回 Parler de sa journ?e

テキスト14課：自分の1日を語る、別の言語でどう言うか、どう書くか、どう発音するか尋ねる

代名動詞（1）再帰的用法（2）受動的用法（3）相互的用法

第14回 Parler de sa journ?e

テキスト14課：自分の1日を語る、別の言語でどう言う

か、どう書くか、どう発音するか尋ねる
代名動詞の否定形、否定ne-plus

第15回 総復習

後期に学習した内容の総復習をします。

2022年度 後期

1.0単位

初級フランス語 b 再・ラ

藤本 智成

< 授業の方法 >

対面授業 (演習)

< 授業の目的 >

この科目は全学のDP (ディプロマ・ポリシー) にあるように、「幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる / 獲得した知識や技能を社会に役立てることができる」ことを目指す。

フランス語文法の基礎を学ぶことにより、練習問題などを通して、基本的なフランス語表現がわかるようにする。日常でよく使われる単語を覚え、それを用いて例文を理解したり、簡単な文を自分で作る、またフランス語特有の発音を身につけることで、それらの文を自分で言えるようにすることを目指す。

< 到達目標 >

「フランス語 a, b, a, b」修了時点で仏検 (実用フランス語技能検定試験) の5級に合格できる水準を目指す。仏検の受験要項によれば、5級の検定基準は「初歩的なフランス語を理解し、聞き、話すことができる。学習50時間以上」である。なお、欧州言語共通参照枠ではA1レベル。

内容的にはフランス語の簡単な表現を理解し、発音できる。規則動詞と重要な不規則動詞を現在時制で活用 (それぞれの人称に合わせて変化させること) ができる。名詞の数や性別に応じて変化する表現 (冠詞・形容詞など) の仕組みを理解できる。簡単な文の意味を考え、作成できる。

< 授業のキーワード >

フランス語、フランス語会話、フランス文化、フランス社会

< 授業の進め方 >

教科書の文法事項を口頭や板書で説明し、それを理解したうえで、簡単な練習問題を解く。場合によっては、応用問題を出したり、プリントなどの配布物で補足する。単語や動詞の活用を覚えるにあたり、口頭で発音練習する。必要に応じて小テストを行い、学習の理解度をチェックする。

< 履修するにあたって >

教科書、仏和辞書、筆記用具を持参すること。辞書は特

に指定しない。電子辞書でも書籍の辞書でも、現在、入手可能な辞書であれば、どのメーカーや出版社のものでも構わない。

< 授業時間外に必要な学修 >

教科書に出てくる新出単語や表現の説明は、受講者の予習を前提に進めるので、各自で確認し、理解しておくようにする。

下記の使用教科書には、特典として、Web上で公開されている副教材がある。大いに活用して、1時間程度の予習・復習をすること。

< 提出課題など >

授業で未消化となった練習問題の提出や、独自の課題の提出を求める場合がある。

< 成績評価方法・基準 >

単位取得には3分の2の出席が必要。定期試験の成績70% 小テストや課題の提出状況など：30%によって評価します。

< テキスト >

有富智世他『なびふらんせ 1』(朝日出版 2016年)
定価2,500円 + 税

< 参考図書 >

授業の内容・進度に合わせて適宜、紹介する。

< 授業計画 >

第1回 On va au jardin des Tuileries ?

テキスト7課：成績評価方法・基準の説明、場所に関する語、「これから？ します / ? したところです」
会話教材を用いた学習

< 7課の文法項目 > 不規則動詞 aller / venir (前置詞と定冠詞の縮約)、近接未来と近接過去、人称代名詞の強勢形、Travaux Pratiques (pp. 40-43)

第2回 On va au jardin des Tuileries ?

テキスト7課：成績評価方法・基準の説明、場所に関する語、「これから？ します / ? したところです」
会話教材を用いた学習

< 7課の文法項目 > 不規則動詞 aller / venir (前置詞と定冠詞の縮約)、近接未来と近接過去、人称代名詞の強勢形、Travaux Pratiques (pp. 40-43)

第3回 La carte, s'il vous plait !

テキスト8課：カフェやレストランで使う語 prendre / faireを使った表現
会話教材を用いた学習

< 8課の文法項目 > 疑問代名詞、疑問副詞、不規則動詞 prendre / faire、Travaux Pratiques (pp. 44-47)

第4回 La carte, s'il vous plait !

テキスト8課：カフェやレストランで使う *prendre / faire*を使った表現

会話教材を用いた学習

<8課の文法項目> 疑問代名詞、疑問副詞、不規則動詞 *prendre / faire*、Travaux Pratiques (pp. 44-47)

第5回 小テスト

7課、8課で学習した内容について、ペアまたはグループの形式で口頭試験を実施する。

第6回 Quelle heure est-il ?

テキスト9課：天候を言う / 時刻を言う / 四季 / 曜日

会話教材を用いた学習

<9課の文法項目> 第2群規則動詞 (-ir動詞)、不規則動詞 *partir*、疑問形容詞、非人称構文、Travaux Pratiques (pp. 48-51)

第7回 Quelle heure est-il ?

テキスト9課：天候を言う / 時刻を言う / 四季 / 曜日

会話教材を用いた学習

<9課の文法項目> 第2群規則動詞 (-ir動詞)、不規則動詞 *partir*、疑問形容詞、非人称構文、Travaux Pratiques (pp. 48-51)

第8回 Je voudrais cette jolie jupe blanche.

テキスト10課：衣料 / 商品 / 序数 / 買い物での表現、「? が欲しいのですが」

会話教材を用いた学習

<10課の文法項目> 準助動詞 *vouloir / pouvoir / savoir / devoir*、形容詞の比較級、副詞の比較級、Travaux Pratiques (pp. 52-55)

第9回 Je voudrais cette jolie jupe blanche.

テキスト10課：衣料 / 商品 / 序数 / 買い物での表現、「? が欲しいのですが」

会話教材を用いた学習

<10課の文法項目> 準助動詞 *vouloir / pouvoir / savoir / devoir*、形容詞の比較級、副詞の比較級、Travaux Pratiques (pp. 52-55)

第10回 小テスト

9課、10課で学習した内容について、ペアまたはグループの形式で口頭試験を実施する。

第11回 Prenez la premiere rue a droite.

テキスト11課：位置表現 / 場所の尋ね方 / 道案内の表現
会話教材を用いた学習

<11課の文法項目> 命令法、目的語人称代名詞、代名動詞、Travaux Pratiques (pp. 56-59)

第12回 Prenez la premiere rue a droite.

テキスト11課：位置表現 / 場所の尋ね方 / 道案内の表現
会話教材を用いた学習

<11課の文法項目> 命令法、目的語人称代名詞、代名動詞、Travaux Pratiques (pp. 56-59)

第13回 je suis alle(e) a Paris.

テキスト12課：様々な動詞の過去分詞 / 時の表現、「? した / ? しなかった」

会話教材を用いた学習

<12課の文法項目> 複合過去、指示代名詞、Travaux Pratiques (pp. 60-63)

第14回 je suis alle(e) a Paris.

テキスト12課：様々な動詞の過去分詞 / 時の表現、「? した / ? しなかった」

会話教材を用いた学習

<12課の文法項目> 複合過去、指示代名詞、Travaux Pratiques (pp. 60-63)

第15回 小テスト

11課、12課で学習した内容について、ペアまたはグループの形式で口頭試験を実施する。

2022年度 前期

1.0単位

初級フランス語 b 再・リ

釣 馨

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

この科目は全学のDPIにあるように、「幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる / 獲得した知識や技能を社会に役立てることができる」ことを目指す。

フランス語文法の基礎を学ぶことにより、練習問題などを通して、基本的なフランス語表現がわかるようにする。日常でよく使われる単語を覚え、それを用いて例文を理解したり、簡単な文を自分で作る、またフランス語特有の発音を身につけることで、それらの文を自分で言えるようにすることを目指す。

<到達目標>

初級フランス語 a, b, a, b 修了時点で仏検(実用フ

ランス語技能検定試験)の5級に合格できる水準、欧州言語共通参照枠ではA1レベル。

内容的にはフランス語の簡単な表現を理解し、発音できること。規則動詞と重要な不規則動詞を現在時制で活用(それぞれの人称に合わせて変化させること)ができること、名詞の数や性別に応じて変化する表現(冠詞・形容詞など)の仕組みを理解すること、簡単な文の意味を考えたり、作ったりできるようになること。

<授業のキーワード>

フランス語、フランス語文法、フランス文化、フランス社会

<授業の進め方>

語学の学習なので、発音練習や隣の人とグループになって発音練習してもらうこともあります。

教科書の文法事項を説明し、それを理解したうえで、簡単な練習問題を解く。場合によって、応用問題を出したり、プリントなどの配布物で補足する。単語や動詞の活用を覚えるにあたり、各自で発音練習する。必要に応じて小テストを行い、学習の理解度をチェックする。

<履修するにあたって>

1.再履修クラスはペアクラスではなく、aとbを単独で受講することもできます

2.遅刻や欠席がないようにする

3.授業中の私語、飲食、携帯電話の使用を禁止します

4.教科書、辞書、筆記用具を持参してください

<授業時間外に必要な学修>

教科書に出てきた単語・表現を自分でも確認し、理解しておくようにする。

ポートフォリオなどを活用し、1時間程度の学習はすること。

<提出課題など>

教科書の内容にそった練習問題をプリント(ネット)で配布し、提出させることがある。

回答は授業中に確認し、理解の補足となるようにする。

<成績評価方法・基準>

・定期試験(あるいは小テスト)を行なう。成績評価の方法・割合は、定期試験(小テストのみの場合もある)で70%、授業中の小テストの評価で30%とする。

・出席確認:全15回の授業のうち10回以上の授業に出席しなければ単位は認めません。

また評価がSとAの人数の割合は、合格者(つまり評価C以上)全体の30%程度とする。

<テキスト>

有富智世他『なびふらんせ 1』(朝日出版 2016年)
定価2,500円+税

<参考図書>

授業の内容・進度に合わせて、適宜紹介します。

<授業計画>

第1回 On va au jardin des Tuileries?

不規則動詞aller/venir(前置詞と定冠詞の縮約)

- ・近接未来と近接過去
- ・人称代名詞の強勢形
- ・語彙と表現:場所に関する語
- 「これから? します」/「? したところです」

第2回 On va au jardin des Tuileries?

不規則動詞aller/venir(前置詞と定冠詞の縮約)

- ・近接未来と近接過去
- ・人称代名詞の強勢形
- ・語彙と表現:場所に関する語
- 「これから? します」/「? したところです」

第3回 La carte, s'il vous pla?t!

- ・疑問代名詞
- ・疑問副詞
- ・不規則動詞prendre/faire
- ・語彙と表現:カフェやレストランで使う語
- prendre/faireを使った表現

第4回 La carte, s'il vous pla?t!

- ・疑問代名詞
- ・疑問副詞
- ・不規則動詞prendre/faire
- ・語彙と表現:カフェやレストランで使う語
- prendre/faireを使った表現

第5回 復習と小テスト

7課、8課の復習テスト

第6回 Quelle heure est-il?

- ・第二群規則動詞(-ir動詞)
- ・不規則動詞partir
- ・疑問形容詞
- ・非人称構文
- ・語彙と表現:天候を言う/時刻を言う/四季/曜日

第7回 Quelle heure est-il?

- ・第二群規則動詞(-ir動詞)
- ・不規則動詞partir
- ・疑問形容詞
- ・非人称構文
- ・語彙と表現:天候を言う/時刻を言う/四季/曜日

第8回 Je voudrais cette jolie jupe blanche.

- ・準助動詞 vouloir/pouvoir/savoir/devoir
- ・形容詞の比較級
- ・副詞の比較級
- ・語彙と表現:衣類/商品/階の言い方(序数)
- 買い物での表現/「? が欲しいのですが...」

第9回 Je voudrais cette jolie jupe blanche.

- ・準助動詞 vouloir/pouvoir/savoir/devoir
- ・形容詞の比較級
- ・副詞の比較級
- ・語彙と表現:衣類/商品/階の言い方(序数)
- 買い物での表現/「? が欲しいのですが...」

第10回 復習と小テスト

9課、10課の復習テスト

第11回 Prenez la premi?re rue ? droite.

- ・命令法
- ・目的語人称代名詞
- ・代名動詞
- ・語彙と表現：位置表現/場所の尋ね方/道案内の表現

第12回 Prenez la premi?re rue ? droite.

- ・命令法
- ・目的語人称代名詞
- ・代名動詞
- ・語彙と表現：位置表現/場所の尋ね方/道案内の表現

第13回 Je suis all?(e) ? Paris

- ・複合過去
- ・指示代名詞
- ・語彙と表現：様々な動詞の過去分詞/時の表現
「? した」/「しなかった」

第14回 Je suis all?(e) ? Paris

- ・複合過去
- ・指示代名詞
- ・語彙と表現：様々な動詞の過去分詞/時の表現
「? した」/「しなかった」

第15回 総復習

11、12課を中心に総復習

2022年度 後期

1.0単位

初級フランス語 b (総合的コミュニケーション)ア【
経済】

寺尾 佳子

< 授業の方法 >

対面授業 (演習)

< 授業の目的 >

この科目の受講生は、フランス語の正しい発音、文法の基礎や表現を学び、フランス語の基本的なコミュニケーション能力 (聞く、読む、話す、書く力) をバランスよく養うことを目的とします。

授業中に受講生は、各課で習う文法事項に関連したビデオを視聴し、クイズ形式の文法問題を解き、ペア・グループで表現を練習することにより、フランス語の基礎的な知識を主体的に獲得していきます。ビデオでは、パーティや等「使える」フランス語の表現に視聴覚的に触れます。また、練習問題では、適宜インターネットで調べ学習を行ってクラスで情報を共有することで、フランスでの暮らしを仮想体験することができるでしょう。各課の最後では、観光案内や芸術等に関するテキストを読んだり、自分で文章を書いたりする練習にもチャレンジします。

授業を通して、実践的な言語能力に加え、フランス語

圏の文化や社会に関する知識も身につけることで、異文化体験をしながら、汎用性の高いフランス語の力を習得することを目的とします。これは、全学ディプロマ・ポリシー「1. 幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる」、「2. さまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる」に沿ったものです。

< 到達目標 >

受講生は、「初級フランス語 I a, I b, II a, II b」修了時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) A1レベルに到達することを目指します。ヨーロッパ言語共通参照枠とは、言語の枠や国境を越えて、外国語の運用能力を同一の基準で測ることが出来る国際標準のことです。

ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) の6つのレベルは、日本フランス語試験管理センターによれば以下のようになります。

A1 : 簡単なやりとりが可能で、自分や、身近な物事について話すことができます。

A2 : 日常生活に関わる簡単な課題を実行できます。丁寧表現を用いたり、もっとも日常的なやり取りを交わしたりすることができます。

B1 : やりとりを維持すること、議論を理解、継続し、自分の見解や意見を述べるすることができます。日常生活の予期せぬ状況にも対処できます。

B2 : 自分の意見を主張するために筋道の通った議論の流れを作ることができ、自分の見解を展開し、交渉することができます。このレベルの受験者は、社会的な談話の中で流暢に会話を交わし、自分の間違いを自分で修正することができるようになっています。

C1 : 流暢で自然なコミュニケーションを成立させることが可能です。豊富な語彙があり、自分の意見を伝える際に適切な表現を選択できます。明瞭で構成の整った話を滑らかに発し、様々な構文に習熟した使用者であることが見て取れます。

C2 : 言語への熟練が、表現の正確さや適切さ、流暢さに現われます。受験者は学術的な、あるいは高度な課題を実現することができます。

< 授業のキーワード >

コミュニケーション能力の獲得、異文化体験、フランス語圏の社会・文化

< 授業の進め方 >

「初級フランス語IIa」「初級フランス語IIb」合わせて、4回の授業で1課を終わらせるペースで教科書を進めていきます。

まず、各課で習う文法事項に関連したビデオを見て、教師の質問や教科書の設問に答えて、ビデオの大まかな内容を推測します。

それから、文法ルールを受講生が自ら発見する形で学び取り、ペア・グループワークを活用することで、学習事項を定着させ、自分でも応用できるようにします。適宜、文化的要素が取り入れられたある程度の文章を読んだり、文を書いたりする練習もします。

授業の理解度を把握するために、必要に応じて小テストに挑戦します。

<履修するにあたって>

- ・「初級フランス語IIa」を並行して受講する必要があります。
- ・単位を取得するためには10回以上の出席が必要です。

<授業時間外に必要な学修>

授業後には新しく習ったことを中心に、1時間ほど復習を行いましょ。少しずつ学修を継続することで、確実に力がついていくのを実感できるでしょう。

<提出課題など>

授業で課された課題は添削後コメントをつけて返却します。課題は成績評価の対象になります。実施したテストについては、授業のなかで解説したり、dotCampusを通してフィードバックしたりします。

<成績評価方法・基準>

授業への積極的な参加 20% + 宿題の提出とその内容 20% + 小テストの成績 20% + 定期試験 40%
・定期試験を受けるには、全15回の授業のうち10回以上の授業の出席日数が必要です。

*なお、定期試験において、「初級フランス語1b」の科目では聴解と(相手を想定して)書く能力を試します。
*評価がSとAの人数の割合は、合格者(つまり評価C以上)全体の30%程度と定められています。

<テキスト>

北村亜矢子、Durrenberger Vincent 『マエストロ1』(朝日出版社 2020年) 定価2,700円 + 税

<参考図書>

授業の内容に応じて、授業中に適宜指示します。

<授業計画>

第1回 Introduction

Acheter des vêtements dans un magasin

オリエンテーション: 授業履修の注意事項、成績評価方法・基準の説明、フランス語を学ぶ上でのアドバイス。

テキスト8課: 欲しいものを言う

動詞vouloir, prendre

第2回 Acheter des vêtements dans un magasin

テキスト8課: 色、サイズ、支払方法を言う、値段を尋

ねる

指示形容詞ce, cette, ces、直接目的補語人称代名詞le, la, les

第3回 Parler de ce qu'on mange, situation au marché?

テキスト9課: 食事でとるものを言う

部分冠詞du, de la

第4回 Parler de ce qu'on mange, situation au marché?

テキスト9課: 食料品を買う、値段を言う

中性代名詞en

第5回 Situation dans l'espace

テキスト10課: 位置関係を言う、家の図面を説明する
前置詞deと定冠詞の縮約

第6回 Situation dans l'espace

テキスト10課: 位置関係を言う、家の図面を説明する
前置詞deと定冠詞の縮約

第7回 Demander son chemin

テキスト11課: 道順を説明する、命令する
命令形

第8回 Demander son chemin

テキスト11課: 道順を説明する、命令する
中性代名詞y

第9回 Poser des questions, faire des projets

テキスト12課: 質問をする

疑問文の作り方

第10回 Poser des questions, faire des projets

テキスト12課: 予定について語る

近接未来、動詞partir

第11回 R?visions, le temps, les heures

テキスト13課: 12課までの復習

第12回 R?visions, le temps, les heures

テキスト13課: 天候について話す、時刻を言う

非人称構文il fait~, il est... heures

第13回 Parler de sa journée

テキスト14課: 自分の1日を語る、別の言語でどう言うか、どう書くか、どう発音するか尋ねる

代名動詞(1)再帰的用法(2)受動的用法(3)相互的用法

第14回 Parler de sa journée

テキスト14課：自分の1日を語る、別の言語でどう言うか、どう書くか、どう発音するか尋ねる
代名動詞の否定形、否定ne~plus

第15回 総復習

後期に学習した内容の総復習をします。

2022年度 後期

2.0単位

食の科学

吉川 美子

< 授業の方法 >

対面授業を行う

ただし、新型コロナウイルス感染拡大の対策に応じた場合、オンデマンド授業形式で行う

履修者はOneDriveに接続し、講義名のファイルを開きアップされている講義動画を見る

< 授業の目的 >

食は、健康な体を保ち、生命の営みを発展させていくためのものである。授業を通して自らが健康であるために安全な食を選ぶ力を高め、食への意識を深めていくことを学習の目的とする。

講義で学んだ知識を社会へ貢献できるように、食生活における功罪を示し、学生がそれを理解し、応用や工夫する能力を開発する。なお、この講義は、臨床において4年間の実務経験のある管理栄養士資格を有する教員が担当することから、より実践的な観点から解説する。

< 到達目標 >

以下の諸項目について概略を理解し、説明することができる。

現代に至るまでの食文化の歴史を学び、食への関心を高める。

栄養の基礎を知り、自らの健康な体づくりに役立たせる知識を得る。

安全な調理、衛生の大切さを感じ、食による社会貢献のための一助とする。

< 授業のキーワード >

食文化、食生活、生活習慣病、栄養、食の安全

< 授業の進め方 >

毎回、パワーポイントを用いる。

< 履修するにあたって >

社会で食に関する話題に興味をもっておく。

< 授業時間外に必要な学修 >

食と健康にまつわるニュースに関心をもつ。

事柄に対しては、エビデンスのある情報で検討する。

各講義の目的を自分で理解できたか授業時間以外で各自検証することが重要です。また、講義で取り上げる内容は、全てを網羅するものではありません。講義で述べられたこと以外の内容や、関連する事項を各自で調べることが重要です。

< 提出課題など >

授業ごとにレポートを実施する

< 成績評価方法・基準 >

講義中に提示する課題の提出および内容に対する確に
応えられている70%

小論文の記述内容で栄養に関する知識向上がうかがえる30%

< テキスト >

特になし。

< 授業計画 >

第1回 講義の概要説明

食生活の栄養的な考え

講義全般の流れ

食を通して健康や文化の小論文作成の説明

第2回 食文化1

食文化の成り立ち

食文化の多様性、調理の起源と役割、食の環境と食文化の未来像

第3回 食文化2

日本の食文化について

時代と共に変化していく料理文化、伝統料理、郷土料理

第4回 食文化3

世界の料理の特色

フランス料理の地域別の特徴

第5回 栄養学の基礎1

栄養素の種類・はたらき(1)

糖質、脂質、タンパク質

第6回 栄養学の基礎2

栄養素の種類・はたらき(2)

ビタミン、ミネラル、その他の栄養素

第7回 栄養と疾患1

生活習慣病の説明(1)

肥満、糖尿病など

第8回 栄養と疾患2

生活習慣病の説明(2)

高血圧、脂質異常症、骨粗鬆症など

第9回 栄養と疾患3

生活習慣病の説明(3)
メタボリックシンドロームなど

第10回 食品科学1
健康食品(特定保健用食品・栄養機能食品)
食事摂取基準、食品成分表、栄養表示など

第11回 食品科学2
調理の科学、美味しさの科学

第12回 食品科学3
食の安全、食物アレルギー

第13回 食品科学4
食中毒
細菌性・ウイルス性・化学性

第14回 補完講義・小論文作成
衛生管理、栄養とバランス、小論文の作成

第15回 総括
全体の振り返り、小論文の紹介

2022年度 前期

2.0単位
食の科学
石井 剛志

< 授業の方法 >

【講義】【対面授業】

< 授業の目的 >

本科目は、全学DPIに示す共通教育等を通じて、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを念頭に、獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができることを目指している。

本科目では、我々が生きていくうえで重要な「食」について「科学」の視点をもって教授するが、特に食品の「おいしさ」と「健康増進効果」をテーマに、食素材、食事、食文化、食生活、調理・加工、開発、製造および販売に至る幅広い分野で講義を展開し、文系・理系や将来の職業等にとらわれず社会生活で実践的に活用できる食に関する一般教養の習得を目指す。担当教員と外部講師は、大学や食品企業にて食品科学分野における研究者、食品製造・販売に関わる技術者や経営者としての実務経験を有しており、実践的な情報や知識を基に「食」について解説する。

< 到達目標 >

- ・ 食の科学に関わる基礎的な用語・知識を身につける
- ・ 身につけた用語・知識をいかして、食に関する情報を収集・分析し正しく利用できる
- ・ 食事・食文化と美味しさや健康増進効果との関係に

ついて意見の提案や議論ができる

- ・ 調理・加工・製造・販売と美味しさや健康増進効果との関係について意見の提案や議論ができる

< 授業のキーワード >

食品、おいしさ、健康増進効果、食事、食文化、食生活、食と健康、食品の開発・製造・販売

< 授業の進め方 >

担当教員：スライドやプリントを用いる「講義」を中心に進める。

外部講師：スライドを用いる「講義」のほか「講演会」や「演習」の形式をとる場合がある

< 履修するにあたって >

本科目は幅広い分野の受講者に開講するため、食品科学等の専門知識や化学、生物、物理などの理系科目の素養は特に必要としない。「食」を対象とする様々なトピックスを教授するが、興味をもった内容については情報を収集・分析したうえで、実生活や自身の専門分野で活用してほしい。全15回の講義のなかでは、大学や企業で食品関係の実務に携わる外部講師による特別講義も予定している。なお特別講義に実施日(回)や講義内容は先方の都合や社会情勢の変化により変更・中止する場合があります(その際は事前に連絡)。

< 授業時間外に必要な学修 >

講義の内容について適宜メモを取り、次回の講義まで(忘れないうち)に復習し(30分程度)、食に関わる基礎的な科学用語や知識を身につけること。日頃から「食」に関する情報に関心を持ち、収集・分析するよう努めること(適宜)。特に、本科目のメインテーマとなる食品の「おいしさ」に関しては、内容に科学的な根拠があったとしても、受け止め方や感じ方は個人で異なるため、収集した情報を分析し、自身の考えとして整理することが望ましい(適宜)。

< 提出課題など >

講義の最後に講義内容に関する簡単な小課題を課すことがある(適宜)。

< 成績評価方法・基準 >

講義中の小課題と定期試験の結果から到達目標の達成度を総合的に評価する。配点は小課題(40%)定期試験(60%)として100点満点に換算し、60点以上を合格とする。出席点(加点)は設けていないが、出席3分の2未満の場合は評価の対象とせず不合格とする。また正当性のない理由により20分以上遅刻あるいは途中退室した場合には欠席とする。定期試験が実施できない場合には、講義中の小課題(50%)期末レポート(50%)として評価する。

< テキスト >

レジュメやプリントを講義当日に適宜配布する。

非対面での講義が予想される場合にはdotCampus等により適宜配布する。

< 参考図書 >

適宜紹介する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

【オリエンテーション】

・シラバスをもとに講義の進め方や取り組み方について説明する

第2回 食の科学の基礎 1

【食文化と食生活】

・食文化や食生活の変遷と現在の食に関する課題について理解する

第3回 食の科学の基礎 2

【食品の機能】

・食品の機能（栄養機能・嗜好機能・生体調節機能）について理解する。

第4回 おいしさの科学 1

【おいしさの構成因子と評価法】

・食品のおいしさの構成因子とおいしさの評価法に関する基礎を理解する

第5回 おいしさの科学 2

【色とおいしさ】

・食品の色とおいしさの関係について理解する

第6回 おいしさの科学 3

【味とおいしさ】

・食品の味とおいしさの関係について理解する

第7回 おいしさの科学 4

【香りとおいしさ】

・食品の香りとおいしさの関係について理解する

第8回 おいしさの科学 5

【食感とおいしさ】

・食品の食感（テクスチャー）とおいしさの関係について理解する

第9回 おいしさの科学 6

【食肉のおいしさ】

・食肉のおいしさを色・味・香り・食感等の観点から紹介する

第10回 嗜好飲料の科学 1

【紅茶のおいしさ】

・紅茶のおいしさに関する様々な事象について科学的な観点から紹介する

第11回 嗜好飲料の科学 2

【紅茶の生理機能】

・紅茶の生理機能に関する様々な事象について科学的な観点から紹介する

第12回 嗜好飲料の科学 3

【食事と飲料の相性】

・食事と飲料の相性について研究成果を踏まえ科学的な観点から紹介する

第13回 外部講師による特別講義

【食に関する実践的な話題 1】

・食品企業の視点から「食」に関する取り組みについて紹介いただく

第14回 外部講師による特別講義

【食に関する実践的な話題2】

・食品研究者の視点から食品の生体調節機能について紹介いただく

第15回 総合学習

【総合学習】

・収集した食に関する情報を総合的に分析し自身の知識として整理する

2022年度 前期

2.0単位

食の科学

吉川 美子

< 授業の方法 >

対面授業形式で行う

ただし、新型コロナウイルス感染拡大の対策に応じた場合、オンデマンド形式で行う

オンデマンド授業形式

履修者はOneDriveに接続し、講義名のファイルを開きアップされている講義動画を見る

< 授業の目的 >

食事は、体に取り入れると様々な栄養素となり吸収される。食品の特徴を知り、物質代謝の仕組みを学習することにより、健康維持に必要な「食に関する知識」が身につくと考える。

講義では、食品の栄養素の基礎知識やその組合せにより、機能性を高め、美味しさを引き出す工夫を実践できる力を育成する。なお、この講義は、臨床において4年間の実務経験のある管理栄養士資格を有する教員が担当することから、より実践的な観点から解説する。

< 到達目標 >

以下の諸項目について概略を理解し、説明することができる。

食生活を科学的に捉え、バランスの良い理想的な食品の組合せができる力を養う

栄養学の基礎を活かし、心と体の健康づくりに取り組む

食を通して得た幅広い地域文化に対する知識を社会活動の糧とする

< 授業のキーワード >

食文化、食生活、臨床栄養、献立のバランス、マナー

< 授業の進め方 >

毎回、パワーポイントを用いる。

< 履修するにあたって >

社会で食に関する話題に興味をもっておく。

< 授業時間外に必要な学修 >

食と健康にまつわる情報に関心をもつ。
事柄に関しては、エビデンスのある情報で検討する。
各講義の目的を理解するために、授業以外で各自検証する。また、講義で取り上げる内容は、全てを網羅するものではなく、関連する事項を各自で調べることを重要とする。

< 提出課題など >

毎回の授業で食に関する質問及びアンケート、レポートを実施する

< 成績評価方法・基準 >

講義中に提示する課題の提出と内容に関する確にのべられている70%

最終課題とする小論文の記述内容で栄養知識の向上がうかがえる30%

提出物に関しては、講義中に注意点をあげているので期限内に提出することとする

< テキスト >

特になし。

< 授業計画 >

第1回 講義の概要説明

健康のための食生活と知識

講義内容の目的

提出物の説明

美味しさの表現

食事のマナー

第2回 食品に関する知識

栄養素の機能と健康

食品の分類と加工方法

遺伝子組み換え食品について

栄養バランス (PFC)

献立の立て方

第3回 栄養と調理の関係

調理による食品成分の変化

水と調理

ビタミンの性質と調理

第4回 食品の調理科学

植物性食品の特徴と性質

第5回 食品の調理科学

動物性食品の特徴と性質

第6回 食と文化

日本の食文化 (和食)

特徴、様式、食事作法、盛り付け、地域文化、献立例

第7回 食と文化 - 1

江戸時代の食事情

食品と調理法

歴史人物の食事内容、江戸野菜、海の幸

第8回 食と文化 - 2

江戸時代の食事情

食の楽しみ

江戸料理

第9回 食と文化

西洋の食文化 (洋食)

特徴、様式、食事作法、盛り付け、地域文化、献立例

第10回 食と文化

中国の食文化 (中華)

特徴、様式、食事作法、盛り付け、地域文化、献立例

第11回 高齢期の食事

健康を支える食生活

介護食の内容とポイント

第12回 薬膳の基本

陰陽五行論、食養生、食物の組合せ

第13回 臨床栄養

コレステロールと中性脂肪について

血液の質の向上

第14回 臨床栄養

肝機能低下、腎機能低下、高尿酸血症

第15回 まとめ (復習)

小論文 (レポート) 作成

講義全般の復習

小論文の説明

質疑応答

2022年度 前期

2.0単位

食薬文化論

森脇 優司

< 授業の方法 >

パワーポイントを使用した講義形式で授業を進めていきますが、途中で意見や質問などがあるようでしたら、自由に発言してください。講義終了後でも結構です。

遠隔授業になった場合：Zoomを使用します。以下のURLから参加してください。

講義資料は、Office365のOneDrive上にuploadします。

いずれも遠隔情報を参照してください。

< 授業の目的 >

ディプロマポリシーとの関係：季節や体質に合わせたものを食べて、未然に病気を防ぐ。食事はいわば「薬」のようなものと考えられ、これを中医学では「薬食同源」といいます。健康的な生活を送るための「食」と「薬」について、医学的見地からお話しします。食事と薬についての知識を修得し、正しいとされる食事、誤った食生活によってもたらされる生活習慣病、食事の各成分・栄養素の働き、正しい薬の使用法、食事と薬の相互作用、薬と毒の関係、食中毒、さらには、食事の成分と

しての、砂糖・塩・酢・油脂やビタミン、ミネラル、嗜好品としてのお酒、健康食品などについての理解を深めることを目的としています。

なお、本講義は臨床医学に関する業務を40年以上経験している、実務経験を有する教員によって行われるので、より実践的観点から、食事と薬、嗜好品に関しての役割やその害などを解説するものです。

<到達目標>

「食」と「薬」に関する知識を、1) 教養として修得し、また2) 実生活で活用できることを、目標に学習します。

<授業のキーワード>

食品、栄養素、薬、毒性、生活習慣

<授業の進め方>

パワーポイントで講義のファイルを作成し、そのファイルに沿って、講義を進めてゆきます。授業の展開によって、話の内容に若干の変更があるかもしれません。

<履修するにあたって>

単位を取るために履修するのではなく、少しでも健康に関する「食」や「薬」に関心を持って、みずから考えてみましょう。

<授業時間外に必要な学修>

特に必要ありませんが、自身で課題をみつけて、関連図書を読んで食事や薬についての教養を深めるよう努めてください(60分~)。

<提出課題など>

ありません。

<成績評価方法・基準>

最終回に行う、学習到達度確認のためのMCQの結果で100%評価します。

<テキスト>

指定しません。

<参考図書>

指定しません。何か興味のある本があれば・・・

<授業計画>

第1回 正しい食事とは何か?

「医食同源」と言われるが、病気を予防・治療するための食事はあるのか? 誤った食生活を送っていないかなど、改めて一緒に考えてみます。

第2回 生活習慣病とその対策

生活習慣病とは何か? 生活習慣病を予防あるいは治療するための食事療法などについて、学びます。

第3回 生活習慣病としての痛風・高尿酸血症

生活習慣病の1つとしての痛風・高尿酸血症についての理解を深めます。

第4回 食事と薬の相互作用

薬の正しい服用方法、食事と薬、薬と薬、食事と食事などの相互作用について、考えてみます。

第5回 食中毒の話

食中毒の原因や予防法について、学習します。

第6回 自然の恵み?- 薬と毒

自然界に存在する様々な毒。薬は毒をどのように利用しているのか? また毒をどのように避けるのか? などについて、紹介します。

第7回 甘くない砂糖の話

砂糖の種類と働き、砂糖の摂取は身体にどう影響するのか? 砂糖の適切摂取と、過剰摂取による健康への影響などについて、言及します。

第8回 塩分は必要か?

塩の種類、塩の生成法、塩分の重要性や、過剰摂取による高血圧以外の健康障害についても、考えてみます。

第9回 酢はすごい! 酢の効用

酢とは何か? 酢の種類、作り方やその働きと、健康効果について、学習します。

第10回 酒は百薬の長か?

アルコール摂取の功罪について、考えてみます。

第11回 ビタミンの働き

ビタミンの種類とその作用、欠乏症・過剰症について、学びます。

第12回 ミネラルと微量元素

生体の恒常性(ホメオスターシス)の維持のために、必要不可欠なミネラルと微量元素の作用について、学習します。

第13回 油と脂について

日常生活で摂る油と脂の違い、脂の種類やその作用などについて、学習します。

第14回 健康食品とは-健康食品で健康になるか?

健康食品とは何か? 健康食品は本当に健康によいのだろうか? 健康食品の賢い利用の仕方、健康食品やサプリメントの健康被害についても、考えてみます。

第15回 食薬文化論の理解を深める- MCQ

第1回~第14回の講義を振り返り、MCQ形式の演習問題を解くことによって、改めて講義内容の習得度などを確認して見ます。

2022年度 前期

2.0単位

人文科学入門A (1年次のみ)

服部 亮祐

<授業の方法>

講義

< 授業の目的 >

本授業は、共通教育科目に位置付けられる。全学DPが示す「共通教育等を通じて、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養している」こと、また「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ことを目指す。具体的には、言語とは何か、「言語を研究する」とはどういうことか、について言語学の様々な分野の基礎を概観しながら幅広く考えることで教養を身につけ、また、言語学分野の様々な課題を通して、自分の考えや意見をわかりやすく他者に伝える練習をすることを旨とする。

< 到達目標 >

言語について理解し、科学的に考察することができる。自分の考えや意見を文章として明確に表現できる。

< 授業の進め方 >

基本的に、パワーポイント及びハンドアウトを使った講義形式で授業を進める。毎回の授業の終わりに、理解度を把握するために小テストを課す。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回の授業後に内容を復習し、小テストや最終課題に備える。(60分程度)

< 提出課題など >

毎回、授業の内容について小テストを行い、提出してもらう。小テストの解答は授業中に解説する。

< 成績評価方法・基準 >

授業内での取り組み：10%、小テスト：60%、最終課題：30%

< テキスト >

なし

< 参考図書 >

授業内で適宜紹介する。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

自己紹介、講義の全体的な概要、進め方、成績の付け方等の説明。

第2回 音声学

人がどうやって様々な音声を発し、どう知覚するのか。また、その音声にどのような物理的特性があるのか、を考える。

第3回 音韻論

特定の言語の体系の中で一つ一つの音の違いがどのように意味を区別しているのかという視点から、言語の音について考える。

第4回 形態論 1

語とは何か。意味を持つ最小の単位について、様々な言語の例から考える。

第5回 形態論 2

語がどのように形成されるのか、また、語の内部にどの

ような構造があるのか、について考える。

第6回 統語論 1

どのように語がまとまって文を形成するのか、文の構造について考える。

第7回 統語論 2

文の中での振る舞いによって語がいくつかの種類に分かれることを、様々な言語の例をみながら考える。

第8回 意味論

意味とは何か。語のレベルと文のレベル両方の視点から考える。また、認知意味論における基本的な概念について紹介する。

第9回 語用論

文字通りの意味ではなく、場面や文脈、常識によって変化する実際の発話における意味について考察し、言葉の使われ方について考える。

第10回 歴史言語学 1

言語が地域によって少しずつ変化していくことで別の言語ができていく過程について、音の変化を中心に考える。

第11回 歴史言語学 2

言語が地域によって少しずつ変化していくことで別の言語ができていく過程について、語彙や語順、意味の変化を中心に考える。

第12回 比較言語学

いくつかの言語に共通の祖先である元の言語があるという考えに基づいて、言語の同系関係を証明し、それらが共通の祖先からどのように変化してきたのかを考える。

第13回 社会言語学

同じ言語を話している社会においても年齢や性別、地域などによって言葉が変異する現象について考える。

第14回 言語獲得論

子供がどのように母語を獲得しているのか、子供の母語の知識はどこから来るのか、について考える。

第15回 まとめ

これまで学んだことについて、まとめる。

2022年度 前期

2.0単位

人文科学入門 A (1年次のみ)

梅川 由紀

< 授業の方法 >

講義形式で行います。

< 授業の目的 >

本科目は共通教育科目(リベラルアーツ領域)の一つです。ディプロマ・ポリシー(全学学部)の、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等の能力」に関連する科目です。

本授業は「つながり」「環境」「地域社会」という三つのキーワードから、現代社会をめぐる様々な問題(子

もの貧困、ごみ屋敷、ごみ、自然保護、景観問題など）について社会的に検討します。社会学の基本的な考え方を理解し、物事を多角的に考察できるようになることを目的とします。なかでも受講者の関心のある内容に関しては、自らの考えを社会的に展開できるようになることを目指します。

なお、本授業の担当者は経営コンサルタントとして働いた経験を持つ、実務経験のある教員です。実務に関連したテーマや事例などを用い、より実践的な指導を行うことが可能です。

<到達目標>

1. 授業で扱う問題について、現状・論点・解決策などを説明できるようになること。
2. 授業で扱った問題のうち受講生の関心のある内容に関しては、自らの考えを社会的に論じることができるようになること。

<授業のキーワード>

つながり、環境、地域社会

<授業の進め方>

授業はパワーポイントを使用した講義形式で行います。受講者の理解を深めるために、積極的に映像資料を活用します。毎回授業の最後にコメントシートを記入してもらいます。コメントシートには、授業を受けて考えたことなどを書いてもらいます。

<授業時間外に必要な学修>

各回の事前・事後に2時間程度とします。特に授業後は、授業内容を振り返るとともに、関心を持った内容に関しては積極的に本・論文・ニュースなどに目を通し、理解を深めるようにしてください。

<提出課題など>

1. 毎回授業の最後にコメントシートを記入してもらいます。フィードバックは、次回授業開始時にクラス全体に向けて行います。
2. 学期末には期末レポートを課します。フィードバックは、クラス全体に向けて行います。

<成績評価方法・基準>

コメントシート：30%、期末レポート：70%で評価します。

<テキスト>

なし。

<参考図書>

授業時に適宜提示します。

<授業計画>

第1回 イントロダクション：社会学の視点
授業の進め方について説明します。また社会学とはどのような学問かについて学びます。

第2回 子どもの貧困（つながり）
子どもの貧困やその対策から、地域社会における「つながり」のあり方を検討します。

第3回 高齢者と無縁社会（つながり）
社会的に孤立する高齢者の状況と、無縁社会について学びます。

第4回 女性と子育て（つながり）
女性のライフスタイルの変化と、「つながり」の希薄化による子育てをめぐる問題について検討します。

第5回 ごみ屋敷（つながり）
いわゆる「ごみ屋敷」問題とはどのような問題なのか、その基礎について学びます。

第6回 ごみ屋敷（つながり）
「ごみ屋敷」の当事者の目線に寄り添って、ごみ屋敷問題について考察します。

第7回 ごみ処理場（環境）
「ごみ処理場が自宅近くに建設されること」をめぐる問題について検討します。

第8回 不法投棄（環境）
なぜ不法投棄は生じてしまうのか、その仕組みについて考察します。

第9回 自然保護（環境）
「自然を守る」とはどのようなことなのか、検討します。

第10回 野生動物の保護（環境）
野生動物をめぐる問題点と、保護することの難しさについて検討します。

第11回 コモンズ（環境）
「コモンズ」という自然とのかかわりかたについて学びます。

第12回 歴史的環境（地域社会）
歴史的遺産などを保存すること、取り壊すことの論点について検討します。

第13回 景観（地域社会）
望ましい景観とは何か、景観問題の難しさについて考察します。

第14回 観光（地域社会）
まちづくりや観光と、自然の関係について学びます。

第15回 まとめ：現代社会が抱える問題
これまでの内容を振り返り、現代社会の抱える問題について考察します。

2022年度 前期

2.0単位

人文科学入門A（1年次のみ）

梅川 由紀

< 授業の方法 >

講義形式で行います。

< 授業の目的 >

本科目は共通教育科目（リベラルアーツ領域）の一つです。ディプロマ・ポリシー（全学学部）の、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等の能力」に関連する科目です。

本授業は「つながり」「環境」「地域社会」という三つのキーワードから、現代社会をめぐる様々な問題（子どもの貧困、ごみ屋敷、ごみ、自然保護、景観問題など）について社会的に検討します。社会学の基本的な考え方を理解し、物事を多角的に考察できるようになることを目的とします。なかでも受講者の関心のある内容に関しては、自らの考えを社会的に展開できるようになることを目指します。

なお、本授業の担当者は経営コンサルタントとして働いた経験を持つ、実務経験のある教員です。実務に関連したテーマや事例などを用い、より実践的な指導を行うことが可能です。

< 到達目標 >

1. 授業で扱う問題について、現状・論点・解決策などを説明できるようになること。
2. 授業で扱った問題のうち受講生の関心のある内容に関しては、自らの考えを社会的に論じることができるようになること。

< 授業のキーワード >

つながり、環境、地域社会

< 授業の進め方 >

授業はパワーポイントを使用した講義形式で行います。受講者の理解を深めるために、積極的に映像資料を活用します。毎回授業の最後にコメントシートを記入してもらいます。コメントシートには、授業を受けて考えたことなどを書いてもらいます。

< 授業時間外に必要な学修 >

各回の事前・事後に2時間程度とします。特に授業後は、授業内容を振り返るとともに、関心を持った内容に関しては積極的に本・論文・ニュースなどに目を通し、理解を深めるようにしてください。

< 提出課題など >

1. 毎回授業の最後にコメントシートを記入してもらいます。フィードバックは、次回授業開始時にクラス全体に向けて行います。
2. 学期末には期末レポートを課します。フィードバックは、クラス全体に向けて行います。

< 成績評価方法・基準 >

コメントシート：30%、期末レポート：70%で評価します。

< テキスト >

なし。

< 参考図書 >

授業時に適宜提示します。

< 授業計画 >

- 第1回 イントロダクション：社会学の視点
授業の進め方について説明します。また社会学とはどのような学問かについて学びます。
- 第2回 子どもの貧困（つながり）
子どもの貧困やその対策から、地域社会における「つながり」のあり方を検討します。
- 第3回 高齢者と無縁社会（つながり）
社会的に孤立する高齢者の状況と、無縁社会について学びます。
- 第4回 女性と子育て（つながり）
女性のライフスタイルの変化と、「つながり」の希薄化による子育てをめぐる問題について検討します。
- 第5回 ごみ屋敷（つながり）
いわゆる「ごみ屋敷」問題とはどのような問題なのか、その基礎について学びます。
- 第6回 ごみ屋敷（つながり）
「ごみ屋敷」の当事者の目線に寄り添って、ごみ屋敷問題について考察します。
- 第7回 ごみ処理場（環境）
「ごみ処理場が自宅近くに建設されること」をめぐる問題について検討します。
- 第8回 不法投棄（環境）
なぜ不法投棄は生じてしまうのか、その仕組みについて考察します。
- 第9回 自然保護（環境）
「自然を守る」とはどのようなことなのか、検討します。
- 第10回 野生動物の保護（環境）
野生動物をめぐる問題点と、保護することの難しさについて検討します。
- 第11回 コモンズ（環境）
「コモンズ」という自然とのかかわりかたについて学びます。

第12回 歴史的環境（地域社会）

歴史的遺産などを保存すること、取り壊すことの論点について検討します。

第13回 景観（地域社会）

望ましい景観とは何か、景観問題の難しさについて考察します。

第14回 観光（地域社会）

まちづくりや観光と、自然の関係について学びます。

第15回 まとめ：現代社会が抱える問題

これまでの内容を振り返り、現代社会の抱える問題について考察します。

2022年度 前期

2.0単位

人文科学入門A（1年次のみ）

岩本 茂樹

<授業の方法>

対面の講義形式の授業の予定です

（ただし、新型コロナウイルスの状況でオンデマンドとなる可能性があります。その場合は、シラバス等に追加連絡をします。）

担当教員のメールアドレス：iwamoto@css.kobegakuin.ac.jp

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）の本科目の取扱いについて 授業を実施します。ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

<授業の目的>

本講義は、現代社会学科における専門分野科目の「地域と文化」に位置づけられている。文学、さらに絵画や音楽、映像を素材として、人間が紡ぎだしてきた社会と文化が社会的価値観や文化構造の枠組みのなかで創造されてきたことを理解するとともに、現代社会学科ディプロマ・ポリシー1に準じて、文化の形成に係る諸事象を多面的、総合的に理解し、その知識を活用することができることを目的とする。

なお、この授業の担当者は、小学・中学・高校と約30年間教育に携わってきた実務経験のある教員であるため、より実践的な観点から社会と文化について解説するものである。

<到達目標>

1. 自己を取り巻く日常生活に関心を持ち、人と人の関係、人と社会の関係における諸問題を、基礎的な専門用語を用いて、解決を導くことができる。
2. 文学や映画が取り上げるテーマについて関心を持ち、時代ごとの主要な論点を踏まえ、自らの人文科学的な見

解を示すことができる。

3. 文学や映像を通して、時代や地域によって異なる価値観を知ることから、異文化理解の重要性を説明することができる。

<授業のキーワード>

メタメッセージ モデルライバル論 コミュ障

<授業の進め方>

講義形式ではあるが、映像を取り入れた授業を展開する。また、受講生の意見や感想を書いてもらい、次回の授業で披露することから双方向の授業を進める。

<履修するにあたって>

映像視聴をとり入れた講義を行う。なお、受講者の意見や感想も授業にフィードバックさせながら共に学ぶ授業を目指す。

<授業時間外に必要な学修>

ニュースに関して常に関心を持ち、授業でとりあげる文学や映画などを視聴すること。予習1時間、復習1時間程度を行うこと。

<提出課題など>

双方向の授業を展開するため、授業後のコメントを求めます。受講生のコメントを次回の授業でフィードバックし、授業内容の充実と深化をはかる。

<成績評価方法・基準>

授業内の小テスト(80%) レポート(・コメント(20%))

* テストは教科書のみ持ち込み可

レポートは教科書からの課題

<テキスト>

岩本茂樹『コミュ障のための社会学入門 - 「生きづらさ」の正体を探る』中央公論新社、2022年出版予定（1500円+税）

<参考図書>

岩本茂樹『自分を知るための社会学入門』中央公論新社、2015年

岩本茂樹『思考力を磨くための社会学』中央公論新社、2018年

<授業計画>

第1回 ガイダンス

授業の進め方と授業概要の説明を受け、講義の全体像を把握する。

第2回 異性からの告白：ホント/ウソ

メッセージの内容とその内容に隠れた意味を考える。

第3回 社会に囲まれている

ミクロな世界で生じた問題がマクロな世界とどのように繋がっているのかについて考える。

第4回 ボディランゲージ

私たちの身体表現によるメッセージの裏に潜む文化を理解する。

第5回 流行

ファッションを主とした流行現象を社会学的なアプローチで考える。

第6回 予言による結果とは

希望を持つことで実現することの現象を学ぶ。

第7回 セクシーさとは

セクシーなしぐさや行為を通して、しぐさに刻まれた文化を学ぶ。

第8回 映像を読み解く(1)

映像を視聴することを通して人間の行為とその意味解釈を考える。

第9回 映像を読み解く(2)

映像を視聴することを通して人間の行為とその意味解釈を考える。

第10回 シンボルに動かされる

シンボルによる欲望などの現象を、映像を視聴しながら考える。

第11回 社会的人間になるために

文学を通して、人間の社会化について学ぶ。

第12回 私探しゲーム

文学を通して、現代社会のアイデンティティの揺らぎを考える。

第13回 欲望のメカニズム

小説の世界から、人間の欲望について考える。

第14回 三角関係の世界

<授業内テスト>

文学の世界にえがかれた人間社会について学んだことを振り返る。

第15回 まとめ

講義全体を振り返ると共に、要点を整理する。

2022年度 前期

2.0単位

人文科学入門B (1年次のみ)

金 瑛

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

全学DPにある「幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる」という目標を達成するために、「記憶」というテーマを中心に現代社会の問題についての基礎知識や、人文社会科学の基礎知識を身につけてもらう。

<到達目標>

「記憶」というテーマを切り口にして、現代社会におけるさまざまな問題について人文社会科学的な視点から説明できる(知識)。社会問題への関心を持つことができる(態度・習慣)。講義をつうじて現代社会の問題について自ら問いを立て、考える力を養う(態度・習慣)

<授業のキーワード>

記憶、集合的記憶

<授業の進め方>

パワーポイントや映像資料を用いた講義を中心に進める。授業の最後にコメントカードを記入してもらい、質問やよいコメントがある場合には、次回の授業冒頭で解説を行うことがある。

<履修するにあたって>

授業妨害となる私語などがあった場合は注意のうえ、改善されなければ失格扱いとする。

<授業時間外に必要な学修>

毎授業後、復習として1時間程度、配布資料の見直しや関連資料の参照をして理解を深めること。

<提出課題など>

毎回コメントカードを200字~400字程度記入してもらい、授業の理解度や参加度を判断する。

<成績評価方法・基準>

毎回の授業で提出するコメントカードの記述内容による評価40%、最終レポート60%。最終レポートでは講義内容の理解を基に自身の考察をどの程度展開できているかを総合的に評価する。最終レポートの詳細は授業期間の中盤に改めてアナウンスする。

<テキスト>

なし。プリント資料を配布する。

<参考図書>

アン・ホワイトヘッド『記憶をめぐる人文学』彩流社、2017年。

その他の参考資料は各授業回にて提示する。

<授業計画>

第1回 イントロダクション

講義概要・採点方法などについて説明する。講義の前提となる人文社会科学についても概要を知ってもらう。

第2回 過去の再構成

人文社会科学における記憶論の基本的な発想である「過去の再構成」という考え方について知ってもらう。

第3回 アイデンティティと記憶

アイデンティティという観点から記憶についての理解を深めてもらう。

第4回 メディアと記憶

メディアと記憶との関係について理解を深めてもらう。

第5回 小括：記憶と人文社会科学

第4回までの講義を振り返り、人文社会科学的な発想から記憶をどう論じられるのかについて理解を深めてもらう。

第6回 アルヴァックスの集合的記憶論

集合的記憶論の古典であるモーリス・アルヴァックスの記憶論について知ってもらう。

第7回 記憶と多元的現実

「多元的現実」という概念を切り口に、記憶の対立をめぐる問題について考えてもらう。

第8回 過去の伝わり方(1)：証言

「証言」という過去の伝わり方の意義や問題点について理解を深めてもらう。

第9回 過去の伝わり方(2)：モノと場所

「モノと場所」という過去の伝わり方の意義と問題点について理解を深めてもらう。

第10回 空間と集合的記憶

空間のあり方が集合的記憶にどのように影響するのかについて考えを深めてもらう。

第11回 過去との向き合い方(1)：ノスタルジーをめぐって

ノスタルジーという記憶現象について知識を深めてもらう。

第12回 過去との向き合い方(2)：負の記憶をめぐって

負の記憶をめぐると対立の問題に関する考察を通じて、負の記憶とどう向き合うべきか考えを深めてもらう。

第13回 過去の伝わり方(3)：メディア

記録技術が発展した現代社会におけるメディアと記憶との関係について考えを深めてもらう。

第14回 忘却と社会

過去を忘却することの意義や問題点について考えを深めてもらう。

第15回 全体の振り返り

これまでの講義の振り返りと、未回答の質問事項についての解説などを行う。

2022年度 前期

2.0単位

人文科学入門B (1年次のみ)

新堂 粧子

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、共通教育センターのDPに掲げる「学修した知識・技能を活かして社会と交わり、新しい価値を創造する」力を身につけることを目指します。共通教育科目のひとつで、1年次のみ履修可能な入門科目です。科学3分野(自然、社会、人文)のなかの人文科学の基礎を学修します。科学は「原因 結果」=因果律を解明しようとしませんが、人間は因果律に従って行動すると同時に、因果律では説明できない次元をも生きています。なぜそのような振る舞いをしたのか、合理的な説明のできない場合のあることを、私たちはしばしば経験します。そのような非合理性をほらむ人間や、人間の生み出した思想や文化を、いかにして学問的に探求することができるのか。その試みのひとつとして作田啓一の人間学(『三次元の人間』)を学び、従来の科学的思考を超える人文科学の可能性や面白さに触れることが、この授業の目的です。

< 到達目標 >

人間の合理性と非合理性、社会性と超社会性についての思索が深まる。

作田人間学の基本用語である「拡大体験」と「溶解体験」の違いを把握し、それぞれに関して自らの体験を思い起こすことができる。

自我の3次元 - 社会我・独立我・超個体我 - の理論を学び、自他の価値観と性格を論じることができる。

生命の充溢感、真の自己を生きるとはどういうことかを考察し、これからの生き方に活かすことができる。

< 授業のキーワード >

自己と外界、生命感、生成の人間学、作田啓一

< 授業の進め方 >

講義中心の授業です。テーマの区切りごとにコメントカードにて質問や感想を提出してもらい、理解度を確かめ必要な補足を行います。

< 履修するにあたって >

授業のさまたげになるような私語は慎むこと。

受講前および受講期間を通して、各自が最も生き生きとした実感をもつのはどのような時か、その時の感覚はどのようなものか、を問い続けてみること。

< 授業時間外に必要な学修 >

ノートを見直ししながら、毎回指示するテキストの該当箇所を読むことで、授業の復習・予習をすること。(1時間程度)

< 提出課題など >

テーマごとに数回、コメントカードに質問・感想・設定した問いへの回答などを書いて提出してもらいます。

その他、期末にレポートを課します。

< 成績評価方法・基準 >

コメントカードの記載内容(40%)、期末レポート(60%)で評価します。

< テキスト >

作田啓一『三次元の人間 - 生成の思想を語る』行路社、1998年再版

< 参考図書 >

作田啓一『生成の社会学をめざして - 価値観と性格』有斐閣、1993年

< 授業計画 >

第1回

はじめに

- 人間の非合理性

授業全体の方向性と基本的な考え方を説明する。
人間の二重性について考える。

第2回

自己と外界

(1) 自己の拡大と溶解

拡大体験と溶解体験について解説する。
『三次元の間』4-8頁

第3回
自己と外界
(1) 自己の拡大と溶解

拡大体験と溶解体験について解説する。
『三次元の間』4-8頁
E. イヨネスコの溶解体験ほか
『生成の社会学をめざして』36-43頁

第4回
自己と外界
(2) 主体-客体関係の3類型

E.G. シャハテルの発達段階理論を解説する。
『三次元の間』8-17頁

第5回
自己と外界
(2) 主体-客体関係の3類型

E.G. シャハテルの発達段階理論を解説する。
『三次元の間』8-17頁

第6回
自己と外界
(3) 生命感について

対象中心性(シャハテル)と生命感について考える。
『三次元の間』18-28頁
関心の2タイプ - オクノフィリアとフィロバティズム
(M.バリント)ほか

第7回
自己意識論
(1) 向自意識と対他意識

根源的存在の次元から派生する自己意識と社会的関係性の次元から派生する自己および他者意識とを区別する視角を解説する。
『三次元の間』71-92頁
深い自我と表層の自我(H.ベルクソン)ほか

第8回
自己意識論
(1) 向自意識と対他意識

根源的存在の次元から派生する自己意識と社会的関係性の次元から派生する自己および他者意識とを区別する視角を解説する。
『三次元の間』71-92頁
動機語彙論(C.W.ミルズ)ほか

第9回
自己意識論
(2) 真の自己

真の自己がわからないという悩みについて考える。

第10回
自己意識論
(3) 人間関係論への展開

他者との関係の中で向自意識と対他意識がどのように関係し合うかを、精神医学の見解を参照しながら検討する。
『三次元の間』93-105頁

第11回 価値観と性格
(1) 自我の3次元

自我の3つの志向性に関する作田理論を解説する。
『三次元の間』序文、152-184頁

第12回
価値観と性格
(2) 行為の選択基準

自我の3次元が形成する価値観、行為選択の3基準について解説する。
『三次元の間』152-184頁
『生成の社会学をめざして』123-140頁

第13回
価値観と性格
(3) 性格類型論

自我の3次元の相対的強さによる作田の性格類型論を紹介・解説したうえで、現実ないしはフィクションにおける人間関係への理論適用を試みる。
『三次元の間』152-184頁
『生成の社会学をめざして』141-164頁

第14回
価値観と性格
(3) 性格類型論

自我の3次元の相対的強さによる作田の性格類型論を紹介

介・解説したうえで、現実ないしはフィクションにおける人間関係への理論適用を試みる。

『三次元の人間』152-184頁

『生成の社会学をめざして』141-164頁

第15回

おわりに

－ 社会化と超社会化

はじめに呈示した人間の二重性に由来する人間形成の2つの方向性について論じ、その軸にそって本講義で扱った議論の位置づけと整理を行う。

2022年度 前期

2.0単位

人文科学入門B (1年次のみ)

新堂 粧子

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、共通教育センターのDPIに掲げる「学修した知識・技能を活かして社会と交わり、新しい価値を創造する」力を身につけることを目指します。共通教育科目のひとつで、1年次のみ履修可能な入門科目です。科学3分野(自然、社会、人文)のなかの人文科学の基礎を学修します。科学は「原因 結果」=因果律を解明しようとしませんが、人間は因果律に従って行動すると同時に、因果律では説明できない次元をも生きています。なぜそのような振る舞いをしたのか、合理的な説明のできない場合のあることを、私たちはしばしば経験します。そのような非合理性をはらむ人間や、人間の生み出した思想や文化を、いかにして学問的に探求することができるのか。その試みのひとつとして作田啓一の人間学(『三次元の人間』)を学び、従来の科学的思考を超える人文科学の可能性や面白さに触れることが、この授業の目的です。

< 到達目標 >

人間の合理性と非合理性、社会性と超社会性についての思索が深まる。

作田人間学の基本用語である「拡大体験」と「溶解体験」の違いを把握し、それぞれに関して自らの体験を思い起こすことができる。

自我の3次元 - 社会我・独立我・超個体我 - の理論を学び、自他の価値観と性格を論じることができる。

生命の充溢感、真の自己を生きるとはどういうことかを考察し、これからの生き方に活かすことができる。

< 授業のキーワード >

自己と外界、生命感、生成の人間学、作田啓一

< 授業の進め方 >

講義中心の授業です。テーマの区切りごとにコメントカードにて質問や感想を提出してもらい、理解度を確かめ必要な補足を行います。

< 履修するにあたって >

授業のさまたげになるような私語は慎むこと。

受講前および受講期間を通して、各自が最も生き生きとした実感をもつのはどのような時か、その時の感覚はどのようなものか、を問い続けてみること。

< 授業時間外に必要な学修 >

ノートを見直ししながら、毎回指示するテキストの該当箇所を読むことで、授業の復習・予習をすること。(1時間程度)

< 提出課題など >

テーマごとに数回、コメントカードに質問・感想・設定した問いへの回答などを書いて提出してもらいます。

その他、期末にレポートを課します。

< 成績評価方法・基準 >

コメントカードの記載内容(40%)、期末レポート(60%)で評価します。

< テキスト >

作田啓一『三次元の人間 - 生成の思想を語る』行路社、1998年再版

< 参考図書 >

作田啓一『生成の社会学をめざして - 価値観と性格』有斐閣、1993年

< 授業計画 >

第1回

はじめに

－ 人間の非合理性

授業全体の方向性と基本的な考え方を説明する。
人間の二重性について考える。

第2回

自己と外界

(1) 自己の拡大と溶解

拡大体験と溶解体験について解説する。

『三次元の人間』4-8頁

第3回

自己と外界

(1) 自己の拡大と溶解

拡大体験と溶解体験について解説する。

『三次元の人間』4-8頁

E.イヨネスコの溶解体験ほか

『生成の社会学をめざして』36-43頁

第4回

自己と外界

(2) 主体-客体関係の3類型

E.G. シャハテルの発達段階理論を解説する。

『三次元の間』8-17頁

第5回

自己と外界

(2) 主体-客体関係の3類型

E.G. シャハテルの発達段階理論を解説する。

『三次元の間』8-17頁

第6回

自己と外界

(3) 生命感について

対象中心性(シャハテル)と生命感について考える。

『三次元の間』18-28頁

関心の2タイプ - オクノフィリアとフィロパティズム
(M.バリント)ほか

第7回

自己意識論

(1) 向自意識と対他意識

根源的存在の次元から派生する自己意識と社会的関係性の次元から派生する自己および他者意識とを区別する視角を解説する。

『三次元の間』71-92頁

深い自我と表層の自我(H.ベルクソン)ほか

第8回

自己意識論

(1) 向自意識と対他意識

根源的存在の次元から派生する自己意識と社会的関係性の次元から派生する自己および他者意識とを区別する視角を解説する。

『三次元の間』71-92頁

動機語彙論(C.W.ミルズ)ほか

第9回

自己意識論

(2) 真の自己

真の自己がわからないという悩みについて考える。

第10回

自己意識論

(3) 人間関係論への展開

他者との関係の中で向自意識と対他意識がどのように関係し合うかを、精神医学の見解を参照しながら検討する。

『三次元の間』93-105頁

第11回 価値観と性格

(1) 自我の3次元

自我の3つの志向性に関する作田理論を解説する。

『三次元の間』序文、152-184頁

第12回

価値観と性格

(2) 行為の選択基準

自我の3次元が形成する価値観、行為選択の3基準について解説する。

『三次元の間』152-184頁

『生成の社会学をめざして』123-140頁

第13回

価値観と性格

(3) 性格類型論

自我の3次元の相対的強さによる作田の性格類型論を紹介・解説したうえで、現実ないしはフィクションにおける人間関係への理論適用を試みる。

『三次元の間』152-184頁

『生成の社会学をめざして』141-164頁

第14回

価値観と性格

(3) 性格類型論

自我の3次元の相対的強さによる作田の性格類型論を紹介・解説したうえで、現実ないしはフィクションにおける人間関係への理論適用を試みる。

『三次元の間』152-184頁

『生成の社会学をめざして』141-164頁

第15回

おわりに

- 社会化と超社会化

はじめに呈示した人間の二重性に由来する人間形成の2つの方向性について論じ、その軸にそって本講義で扱った議論の位置づけと整理を行う。

2022年度 前期

2.0単位

人文科学入門 (1年次のみ)

服部 亮祐

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

本授業は、共通教育科目に位置付けられる。全学DPが示す「共通教育等を通じて、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養している」こと、また「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ことを目指す。具体的には、言語とは何か、「言語を研究する」とはどういうことか、について言語学の様々な分野の基礎を概観しながら幅広く考えることで教養を身につけ、また、言語学分野の様々な課題を通して、自分の考えや意見をわかりやすく他者に伝える練習をすることを旨とする。

< 到達目標 >

言語について理解し、科学的に考察することができる。自分の考えや意見を文章として明確に表現できる。

< 授業の進め方 >

基本的に、パワーポイント及びハンドアウトを使った講義形式で授業を進める。毎回の授業の終わりに、理解度を把握するために小テストを課す。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回の授業後に内容を復習し、小テストや最終課題に備える。(60分程度)

< 提出課題など >

毎回、授業の内容について小テストを行い、提出してもらう。小テストの解答は授業中に解説する。

< 成績評価方法・基準 >

授業内での取り組み：10%、小テスト：60%、最終課題：30%

< テキスト >

なし

< 参考図書 >

授業内で適宜紹介する。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

自己紹介、講義の全体的な概要、進め方、成績の付け方等の説明。

第2回 音声学

人がどうやって様々な音声を発し、どう知覚するのか。また、その音声にどのような物理的特性があるのか、を考える。

第3回 音韻論

特定の言語の体系の中で一つ一つの音の違いがどのよう

に意味を区別しているのかという視点から、言語の音について考える。

第4回 形態論 1

語とは何か。意味を持つ最小の単位について、様々な言語の例から考える。

第5回 形態論 2

語がどのように形成されるのか、また、語の内部にどのような構造があるのか、について考える。

第6回 統語論 1

どのように語がまとまって文を形成するのか、文の構造について考える。

第7回 統語論 2

文の中での振る舞いによって語がいくつかの種類に分かれることを、様々な言語の例をみながら考える。

第8回 意味論

意味とは何か。語のレベルと文のレベル両方の視点から考える。また、認知意味論における基本的な概念について紹介する。

第9回 語用論

文字通りの意味ではなく、場面や文脈、常識によって変化する実際の発話における意味について考察し、言葉の使われ方について考える。

第10回 歴史言語学 1

言語が地域によって少しずつ変化していくことで別の言語ができていく過程について、音の変化を中心に考える。

第11回 歴史言語学 2

言語が地域によって少しずつ変化していくことで別の言語ができていく過程について、語彙や語順、意味の変化を中心に考える。

第12回 比較言語学

いくつかの言語に共通の祖先である元の言語があるという考えに基づいて、言語の同系関係を証明し、それらが共通の祖先からどのように変化してきたのかを考える。

第13回 社会言語学

同じ言語を話している社会においても年齢や性別、地域などによって言葉が変異する現象について考える。

第14回 言語獲得論

子供がどのように母語を獲得しているのか、子供の母語の知識はどこから来るのか、について考える。

第15回 まとめ

これまで学んだことについて、まとめる。

2022年度 前期

2.0単位

人文科学入門 (1年次のみ)

横原 千史

< 授業の方法 >

対面授業(講義)

< 授業の目的 >

本講義では、西洋音楽の歴史を概観することで、音楽芸術と人間の歴史の変遷をたどる。時代はバロックから後期ロマン派までとし、毎回代表的な作曲家をとりあげて、その生涯と作品を論じる。場合によっては、作品の構造に深く立ち入ることもあり、周辺の作曲家、時代様式、美術、文芸、社会状況などに言及することもある。これらの学修によって、建学の精神「真理愛好・個性尊重」、及びディプロマ・ポリシーにある「豊かな人間性や社会性を涵養する」という目的に迫る。

<到達目標>

授業の目的で述べた西洋音楽の諸論点の総体的に学修することによって、西洋芸術音楽を深く理解し、楽しめるようになる。

そして、西洋音楽芸術の享受を通して幅広い教養を身につけ、人間性の基礎を形作る。

<授業の進め方>

毎回視聴した音楽について考えたことや感想をミニ・レポートに書いて提出する。

<授業時間外に必要な学修>

毎回視聴した音楽についてYouTubeなどで再度全曲を視聴し吟味する。

1週間に2時間程度。

<提出課題など>

毎回出席し、ミニ・レポートを提出する。

<成績評価方法・基準>

最終試験（70%）ミニ・レポート（30%）

<テキスト>

毎回プリント配布

<参考図書>

横原千史『ベートーヴェン ピアノ・ソナタ全作品解説』（アルテス・パブリッシング）

高橋・中村・本岡・網干編著『西洋音楽の歴史』（東京書籍）

<授業計画>

第1回 J.S.バッハ

バロック音楽

第2回 モーツァルト

ウィーン古典派1

第3回 ベートーヴェン

ウィーン古典派2

第4回 シューベルト

リートと器楽

第5回 ウェーバー、シューマン

文学とロマン主義

第6回 ベルリオーズ、リスト

標題音楽

第7回 パガニーニ、ショパン

ヴィルトゥオーソの始まり

第8回 ヴァーグナー

楽劇と総合芸術

第9回 ブルックナー、フランク

宗教と音楽

第10回 ブラームス

伝統と革新

第11回 ヴェルディ、プッチーニ

イタリア近代オペラ

第12回 チャイコフスキー

国民楽派1

第13回 ドヴォルジャーク

国民楽派2

第14回 マーラー

後期ロマン派1

第15回 R.シュトラウス

後期ロマン派2

2022年度 前期

2.0単位

人文科学入門 （1年次のみ）

梅川 由紀

<授業の方法>

講義形式で行います。

<授業の目的>

本科目は共通教育科目（リベラルアーツ科目群）の一つです。ディプロマ・ポリシー（全学学部）の、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等の能力」に関連する科目です。

本授業は「つながり」「環境」「地域社会」という三つのキーワードから、現代社会をめぐる様々な問題（子どもの貧困、ごみ屋敷、ごみ、自然保護、景観問題など）について社会的に検討します。社会学の基本的な考え方を理解し、物事を多角的に考察できるようになることを目的とします。なかでも受講者の関心のある内容に関しては、自らの考えを社会的に展開できるようになることを目指します。

なお、本授業の担当者は経営コンサルタントとして働いた経験を持つ、実務経験のある教員です。実務に関連したテーマや事例などを用い、より実践的な指導を行うことが可能です。

<到達目標>

1. 授業で扱う問題について、現状・論点・解決策などを説明できるようになること。
2. 授業で扱った問題のうち受講生の関心のある内容に関しては、自らの考えを社会的に論じることができるようになること。

<授業のキーワード>

つながり、環境、地域社会

< 授業の進め方 >

授業はパワーポイントを使用した講義形式で行います。受講者の理解を深めるために、積極的に映像資料を活用します。毎回授業の最後にコメントシートを記入してもらいます。コメントシートには、授業を受けて考えたことなどを書いてもらいます。

< 授業時間外に必要な学修 >

各回の事前・事後に2時間程度とします。特に授業後は、授業内容を振り返るとともに、関心を持った内容に関しては積極的に本・論文・ニュースなどに目を通し、理解を深めるようにしてください。

< 提出課題など >

1. 毎回授業の最後にコメントシートを記入してもらいます。フィードバックは、次回授業開始時にクラス全体に向けて行います。
2. 学期末には期末レポートを課します。フィードバックは、クラス全体に向けて行います。

< 成績評価方法・基準 >

コメントシート：30%、期末レポート：70%で評価します。

< テキスト >

なし。

< 参考図書 >

授業時に適宜提示します。

< 授業計画 >

- 第1回 イン트로ダクション：社会学の視点
授業の進め方について説明します。また社会学とはどのような学問かについて学びます。
- 第2回 子どもの貧困（つながり）
子どもの貧困やその対策から、地域社会における「つながり」のあり方を検討します。
- 第3回 高齢者と無縁社会（つながり）
社会的に孤立する高齢者の状況と、無縁社会について学びます。
- 第4回 女性と子育て（つながり）
女性のライフスタイルの変化と、「つながり」の希薄化による子育てをめぐる問題について検討します。
- 第5回 ごみ屋敷（つながり）
いわゆる「ごみ屋敷」問題とはどのような問題なのか、その基礎について学びます。
- 第6回 ごみ屋敷（つながり）
「ごみ屋敷」の当事者の目線に寄り添って、ごみ屋敷問題について考察します。
- 第7回 ごみ処理場（環境）

「ごみ処理場が自宅近くに建設されること」をめぐる問題について検討します。

第8回 不法投棄（環境）

なぜ不法投棄は生じてしまうのか、その仕組みについて考察します。

第9回 自然保護（環境）

「自然を守る」とはどのようなことなのか、検討します。

第10回 野生動物の保護（環境）

野生動物をめぐる問題点と、保護することの難しさについて検討します。

第11回 コモンズ（環境）

「コモンズ」という自然とのかかわりかたについて学びます。

第12回 歴史的環境（地域社会）

歴史的遺産などを保存すること、取り壊すことの論点について検討します。

第13回 景観（地域社会）

望ましい景観とは何か、景観問題の難しさについて考察します。

第14回 観光（地域社会）

まちづくりや観光と、自然の関係について学びます。

第15回 まとめ：現代社会が抱える問題

これまでの内容を振り返り、現代社会の抱える問題について考察します。

2022年度 前期

2.0単位

人文科学入門（1年次のみ）

梅川 由紀

< 授業の方法 >

講義形式で行います。

< 授業の目的 >

本科目は共通教育科目（リベラルアーツ科目群）の一つです。ディプロマ・ポリシー（全学学部）の、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等の能力」に関連する科目です。

本授業は「つながり」「環境」「地域社会」という三つのキーワードから、現代社会をめぐる様々な問題（子どもの貧困、ごみ屋敷、ごみ、自然保護、景観問題など）について社会的に検討します。社会学の基本的な考え方を理解し、物事を多角的に考察できるようになることを目的とします。なかでも受講者の関心のある内容に関しては、自らの考えを社会的に展開できるようになることを目指します。

なお、本授業の担当者は経営コンサルタントとして働いた経験を持つ、実務経験のある教員です。実務に関連したテーマや事例などを用い、より実践的な指導を行うことが可能です。

<到達目標>

1. 授業で扱う問題について、現状・論点・解決策などを説明できるようになること。
2. 授業で扱った問題のうち受講生の関心のある内容に関しては、自らの考えを社会的に論じることができるようになること。

<授業のキーワード>

つながり、環境、地域社会

<授業の進め方>

授業はパワーポイントを使用した講義形式で行います。受講者の理解を深めるために、積極的に映像資料を活用します。毎回授業の最後にコメントシートを記入してもらいます。コメントシートには、授業を受けて考えたことなどを書いてもらいます。

<授業時間外に必要な学修>

各回の事前・事後に2時間程度とします。特に授業後は、授業内容を振り返るとともに、関心を持った内容に関しては積極的に本・論文・ニュースなどに目を通し、理解を深めるようにしてください。

<提出課題など>

1. 毎回授業の最後にコメントシートを記入してもらいます。フィードバックは、次回授業開始時にクラス全体に向けて行います。
2. 学期末には期末レポートを課します。フィードバックは、クラス全体に向けて行います。

<成績評価方法・基準>

コメントシート：30%、期末レポート：70%で評価します。

<テキスト>

なし。

<参考図書>

授業時に適宜提示します。

<授業計画>

- 第1回 インTRODクシヨン：社会学の視点
授業の進め方について説明します。また社会学とはどのような学問かについて学びます。
- 第2回 子どもの貧困（つながり）
子どもの貧困やその対策から、地域社会における「つながり」のあり方を検討します。
- 第3回 高齢者と無縁社会（つながり）
社会的に孤立する高齢者の状況と、無縁社会について学びます。

第4回 女性と子育て（つながり）

女性のライフスタイルの変化と、「つながり」の希薄化による子育てをめぐる問題について検討します。

第5回 ごみ屋敷（つながり）

いわゆる「ごみ屋敷」問題とはどのような問題なのか、その基礎について学びます。

第6回 ごみ屋敷（つながり）

「ごみ屋敷」の当事者の目線に寄り添って、ごみ屋敷問題について考察します。

第7回 ごみ処理場（環境）

「ごみ処理場が自宅近くに建設されること」をめぐる問題について検討します。

第8回 不法投棄（環境）

なぜ不法投棄は生じてしまうのか、その仕組みについて考察します。

第9回 自然保護（環境）

「自然を守る」とはどのようなことなのか、検討します。

第10回 野生動物の保護（環境）

野生動物をめぐる問題点と、保護することの難しさについて検討します。

第11回 コモンズ（環境）

「コモンズ」という自然とのかかわりかたについて学びます。

第12回 歴史的環境（地域社会）

歴史的遺産などを保存すること、取り壊すことの論点について検討します。

第13回 景観（地域社会）

望ましい景観とは何か、景観問題の難しさについて考察します。

第14回 観光（地域社会）

まちづくりや観光と、自然の関係について学びます。

第15回 まとめ：現代社会が抱える問題

これまでの内容を振り返り、現代社会の抱える問題について考察します。

2022年度 前期

2.0単位

人文科学入門（1年次のみ）

岩本 茂樹

<授業の方法>

対面の講義形式の授業の予定です

（ただし、新型コロナウイルスの状況でオンデマンドとなる可能性があります。その場合は、シラバス等に追加連絡をします。）

担当教員のメールアドレス：iwamoto@css.kobegakuin.ac.jp

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合

合（大雨、洪水警報等は対象外）の本科目の取扱いについて 授業を実施します。ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

< 授業の目的 >

本講義は、現代社会学科における専門分野科目の「地域と文化」に位置づけられている。文学、さらに絵画や音楽、映像を素材として、人間が紡ぎだしてきた社会と文化が社会的価値観や文化構造の枠組みのなかで創造されてきたことを理解するとともに、現代社会学科ディプロマ・ポリシー 1 に準じて、文化の形成に係る諸事象を多面的、総合的に理解し、その知識を活用することができることを目的とする。

なお、この授業の担当者は、小学・中学・高校と約30年間教育に携わってきた実務経験のある教員であるため、より実践的な観点から社会と文化について解説するものである。

< 到達目標 >

1. 自己を取り巻く日常生活に関心を持ち、人と人の関係、人と社会の関係における諸問題を、基礎的な専門用語を用いて、解決を導くことができる。

2. 文学や映画が取り上げるテーマについて関心を持ち、時代ごとの主要な論点を踏まえ、自らの人文科学的な見解を示すことができる。

3. 文学や映像を通して、時代や地域によって異なる価値観を知ることから、異文化理解の重要性を説明することができる。

< 授業のキーワード >

メタメッセージ モデルライバル論 コミュ障

< 授業の進め方 >

講義形式ではあるが、映像を取り入れた授業を展開する。また、受講生の意見や感想を書いてもらい、次回の授業で披露することから双方向の授業を進める。

< 履修するにあたって >

映像視聴をとり入れた講義を行う。なお、受講者の意見や感想も授業にフィードバックさせながら共に学ぶ授業を目指す。

< 授業時間外に必要な学修 >

ニュースに関して常に関心を持ち、授業でとりあげる文学や映画などを視聴すること。予習 1 時間、復習 1 時間程度を行うこと。

< 提出課題など >

双方向の授業を展開するため、授業後のコメントを求めます。受講生のコメントを次回の授業でフィードバックし、授業内容の充実と深化をはかる。

< 成績評価方法・基準 >

授授業内の小テスト(80%) レポート(・コメント(20%))

* テストは教科書のみ持ち込み可

レポートは教科書からの課題

< テキスト >

岩本茂樹『コミュ障のための社会学入門 - 「生きづらさ」の正体を探る』中央公論新社、2022年出版予定（1500円+税）

< 参考図書 >

岩本茂樹『自分を知るための社会学入門』中央公論新社、2015年

岩本茂樹『思考力を磨くための社会学』中央公論新社、2018年

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の進め方と授業概要の説明を受け、講義の全体像を把握する。

第2回 異性からの告白：ホント/ウソ

メッセージの内容とその内容に隠れた意味を考える。

第3回 社会に囲まれている

ミクロな世界で生じた問題がマクロな世界とどのように繋がっているのかについて考える。

第4回 ボディランゲージ

私たちの身体表現によるメッセージの裏に潜む文化を理解する。

第5回 流行

ファッションを主とした流行現象を社会学的なアプローチで考える。

第6回 予言による結果とは

希望を持つことで実現することの現象を学ぶ。

第7回 セクシーさとは

セクシーなしぐさや行為を通して、しぐさに刻まれた文化を学ぶ。

第8回 映像を読み解く(1)

映像を視聴することを通して人間の行為とその意味解釈を考える。

第9回 映像を読み解く(2)

映像を読み解くことから、意味解釈の理論について理解する。

第10回 シンボルに動かされる

シンボルによる欲望などの現象を、映像を視聴しながら考える。

第11回 社会的人間になるために

文学を通して、人間の社会化について学ぶ。

第12回 私探しゲーム

文学を通して、現代社会のアイデンティティの揺らぎを考える。

第13回 欲望のメカニズム

小説の世界から、人間の欲望について考える。

第14回 三角関係の世界

< 授業内テスト >

文学の世界にえがかれた人間社会について学んだことを振り返る。

第15回 まとめ

講義全体を振り返ると共に、要点を整理する。

2022年度 前期

2.0単位

人文科学入門 (1年次のみ)

横原 千史

< 授業の方法 >

対面授業(講義)

< 授業の目的 >

本講義では、西洋音楽の歴史を概観することで、音楽芸術と人間の歴史の変遷をたどる。時代はバロックから後期ロマン派までとし、毎回代表的な作曲家をとりあげて、その生涯と作品を論じる。場合によっては、作品の構造に深く立ち入ることもあり、周辺の作曲家、時代様式、美術、文芸、社会状況などに言及することもある。これらの学修によって、建学の精神「真理愛好・個性尊重」、及びディプロマ・ポリシーにある「豊かな人間性や社会性を涵養する」という目的に迫る。

< 到達目標 >

授業の目的で述べた西洋音楽の諸論点の総体的に学修することによって、西洋芸術音楽を深く理解し、楽しめるようになる。

そして、西洋音楽芸術の享受を通して幅広い教養を身につけ、人間性の基礎を形作る。

< 授業の進め方 >

毎回視聴した音楽について考えたことや感想をミニ・レポートに書いて提出する。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回視聴した音楽についてYouTubeなどで再度全曲を視聴し吟味する。

1週間に2時間程度。

< 提出課題など >

毎回出席し、ミニ・レポートを提出する。

< 成績評価方法・基準 >

最終試験(70%)ミニ・レポート(30%)

< テキスト >

毎回プリント配布

< 参考図書 >

横原千史『ベートーヴェン ピアノ・ソナタ全作品解説』(アルテス・パブリッシング)

高橋・中村・本岡・網干編著『西洋音楽の歴史』(東京書籍)

< 授業計画 >

第1回 J.S.バッハ

バロック音楽

第2回 モーツァルト

ウィーン古典派1

第3回 ベートーヴェン

ウィーン古典派2

第4回 シューベルト

リートと器楽

第5回 ウェーバー、シューマン

文学とロマン主義

第6回 ベルリオーズ、リスト

標題音楽

第7回 パガニーニ、ショパン

ヴィルトゥオーソの始まり

第8回 ヴァーグナー

楽劇と総合芸術

第9回 ブルックナー、フランク

宗教と音楽

第10回 ブラームス

伝統と革新

第11回 ヴェルディ、プッチーニ

イタリア近代オペラ

第12回 チャイコフスキー

国民楽派1

第13回 ドヴォルジャーク

国民楽派2

第14回 マラー

後期ロマン派1

第15回 R.シュトラウス

後期ロマン派2

2022年度 前期

2.0単位

人文科学入門 (1年次のみ)

金 瑛

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

全学DPIにある「幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる」という目標を達成するために、「記憶」というテーマを中心に現代社会の問題についての基礎知識や、人文社会科学の基礎知識を身につけてもらう。

< 到達目標 >

「記憶」というテーマを切り口にして、現代社会におけるさまざまな問題について人文社会科学的な視点から説明できる(知識)。社会問題への関心を持つことができる(態度・習慣)。講義をつうじて現代社会の問題について自ら問いを立て、考える力を養う(態度・習慣)

< 授業のキーワード >

記憶、集合的記憶

< 授業の進め方 >

パワーポイントや映像資料を用いた講義を中心に進める。授業の最後にコメントカードを記入してもらい、質問やよいコメントがある場合には、次回の授業冒頭で解説を

行うことがある。

<履修するにあたって>

授業妨害となる私語などがあった場合は注意のうえ、改善されなければ失格扱いとする。

<授業時間外に必要な学修>

毎授業後、復習として1時間程度、配布資料の見直しや関連資料の参照をして理解を深めること。

<提出課題など>

毎回コメントカードを200字～400字程度記入してもらい、授業の理解度や参加度を判断する。

<成績評価方法・基準>

毎回の授業で提出するコメントカードの記述内容による評価40%、最終レポート60%。最終レポートでは講義内容の理解を基に自身の考察をどの程度展開できているかを総合的に評価する。最終レポートの詳細は授業期間の中盤に改めてアナウンスする。

<テキスト>

なし。プリント資料を配布する。

<参考図書>

アン・ホワイトヘッド『記憶をめぐる人文学』彩流社、2017年。

その他の参考資料は各授業回にて提示する。

<授業計画>

第1回 イン트로ダクション

講義概要・採点方法などについて説明する。講義の前提となる人文社会科学についても概要を知ってもらう。

第2回 過去の再構成

人文社会科学における記憶論の基本的な発想である「過去の再構成」という考え方について知ってもらう。

第3回 アイデンティティと記憶

アイデンティティという観点から記憶についての理解を深めてもらう。

第4回 メディアと記憶

メディアと記憶との関係について理解を深めてもらう。

第5回 小括：記憶と人文社会科学

第4回までの講義を振り返り、人文科学的な発想から記憶をどう論じられるのかについて理解を深めてもらう。

第6回 アルヴァックスの集合的記憶論

集合的記憶論の古典であるモーリス・アルヴァックスの記憶論について知ってもらう。

第7回 記憶と多元的現実

「多元的現実」という概念を切り口に、記憶の対立をめぐる問題について考えてもらう。

第8回 過去の伝わり方(1)：証言

「証言」という過去の伝わり方の意義や問題点について理解を深めてもらう。

第9回 過去の伝わり方(2)：モノと場所

「モノと場所」という過去の伝わり方の意義と問題点について理解を深めてもらう。

第10回 空間と集合的記憶

空間のあり方が集合的記憶にどのように影響するのかについて考えを深めてもらう。

第11回 過去との向き合い方(1)：ノスタルジーをめぐって

ノスタルジーという記憶現象について知識を深めてもらう。

第12回 過去との向き合い方(2)：負の記憶をめぐって

負の記憶をめぐる対立の問題に関する考察を通じて、負の記憶とどう向き合うべきか考えを深めてもらう。

第13回 過去の伝わり方(3)：メディア

記録技術が発展した現代社会におけるメディアと記憶との関係について考えを深めてもらう。

第14回 忘却と社会

過去を忘却することの意義や問題点について考えを深めてもらう。

第15回 全体の振り返り

これまでの講義の振り返りと、未回答の質問事項についての解説などを行う。

2022年度 前期

2.0単位

人文科学入門 (1年次のみ)

新堂 粧子

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

この科目は、共通教育センターのDPに掲げる「学修した知識・技能を活かして社会と交わり、新しい価値を創造する」力を身につけることを目指します。共通教育科目のひとつで、1年次のみ履修可能な入門科目です。科学3分野(自然、社会、人文)のなかの人文科学の基礎を学修します。科学は「原因 結果」=因果律を解明しようとしませんが、人間は因果律に従って行動すると同時に、因果律では説明できない次元をも生きています。なぜそのような振る舞いをしたのか、合理的な説明のできない場合のあることを、私たちはしばしば経験します。そのような非合理性をはらむ人間や、人間の生み出した思想や文化を、いかにして学問的に探求することができるのか。その試みのひとつとして作田啓一の人間学(『三次元の人間』)を学び、従来の科学的思考を超える人文科学の可能性や面白さに触れることが、この授業の目的です。

<到達目標>

人間の合理性と非合理性、社会性と超社会性についての思索が深まる。

作田人間学の基本用語である「拡大体験」と「溶解体験」の違いを把握し、それぞれに関して自らの体験を思

い起こすことができる。

自我の3次元 - 社会我・独立我・超個体我 - の理論を学び、自他の価値観と性格を論じることができる。

生命の充溢感、真の自己を生きるとはどういうことかを考察し、これからの生き方に活かすことができる。

<授業のキーワード>

自己と外界、生命感、生成の人間学、作田啓一

<授業の進め方>

講義中心の授業です。テーマの区切りごとにコメントカードにて質問や感想を提出してもらい、理解度を確かめ必要な補足を行います。

<履修するにあたって>

授業のさまたげになるような私語は慎むこと。

受講前および受講期間を通して、各自が最も生き生きとした実感をもつのはどのような時か、その時の感覚はどのようなものか、を問い続けてみることに。

<授業時間外に必要な学修>

ノートを見直ししながら、毎回指示するテキストの該当箇所を読むことで、授業の復習・予習をすること。(1時間程度)

<提出課題など>

テーマごとに数回、コメントカードに質問・感想・設定した問いへの回答などを書いて提出してもらいます。

その他、期末にレポートを課します。

<成績評価方法・基準>

コメントカードの記載内容(40%)、期末レポート(60%)で評価します。

<テキスト>

作田啓一『三次元の間 - 生成の思想を語る』行路社、1998年再版

<参考図書>

作田啓一『生成の社会学をめざして - 価値観と性格』有斐閣、1993年

<授業計画>

第1回

はじめに

- 人間の非合理性

授業全体の方向性と基本的な考え方を説明する。

人間の二重性について考える。

第2回

自己と外界

(1) 自己の拡大と溶解

拡大体験と溶解体験について解説する。

『三次元の間』4-8頁

第3回

自己と外界

(1) 自己の拡大と溶解

拡大体験と溶解体験について解説する。

『三次元の間』4-8頁

E.イヨネスコの溶解体験ほか

『生成の社会学をめざして』36-43頁

第4回

自己と外界

(2) 主体-客体関係の3類型

E.G.シャハテルの発達段階理論を解説する。

『三次元の間』8-17頁

第5回

自己と外界

(2) 主体-客体関係の3類型

E.G.シャハテルの発達段階理論を解説する。

『三次元の間』8-17頁

第6回

自己と外界

(3) 生命感について

対象中心性(シャハテル)と生命感について考える。

『三次元の間』18-28頁

関心の2タイプ - オクノフィリアとフィロバティズム(M.パリント)ほか

第7回

自己意識論

(1) 向自意識と対他意識

根源的存在の次元から派生する自己意識と社会的関係性の次元から派生する自己および他者意識とを区別する視角を解説する。

『三次元の間』71-92頁

深い自我と表層の自我(H.ベルクソン)ほか

第8回

自己意識論

(1) 向自意識と対他意識

根源的存在の次元から派生する自己意識と社会的関係性の次元から派生する自己および他者意識とを区別する視角を解説する。

『三次元の間』71-92頁

動機語彙論(C.W.ミルズ)ほか

第9回

自己意識論

(2) 真の自己

真の自己がわからないという悩みについて考える。

第10回

自己意識論

(3) 人間関係論への展開

他者との関係の中で向自意識と対他意識がどのように関係し合うかを、精神医学の見解を参照しながら検討する。

『三次元の人間』93-105頁

第11回 価値観と性格

(1) 自我の3次元

自我の3つの志向性に関する作田理論を解説する。

『三次元の人間』序文、152-184頁

第12回

価値観と性格

(2) 行為の選択基準

自我の3次元が形成する価値観、行為選択の3基準について解説する。

『三次元の人間』152-184頁

『生成の社会学をめざして』123-140頁

第13回

価値観と性格

(3) 性格類型論

自我の3次元の相対的強さによる作田の性格類型論を紹介・解説したうえで、現実ないしはフィクションにおける人間関係への理論適用を試みる。

『三次元の人間』152-184頁

『生成の社会学をめざして』141-164頁

第14回

価値観と性格

(3) 性格類型論

自我の3次元の相対的強さによる作田の性格類型論を紹介・解説したうえで、現実ないしはフィクションにおける人間関係への理論適用を試みる。

『三次元の人間』152-184頁

『生成の社会学をめざして』141-164頁

第15回

おわりに

－ 社会化と超社会化

はじめに呈示した人間の二重性に由来する人間形成の2つの方向性について論じ、その軸にそって本講義で扱った議論の位置づけと整理を行う。

2022年度 前期

2.0単位

人文科学入門 (1年次のみ)

新堂 粧子

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、共通教育センターのDPに掲げる「学修した知識・技能を活かして社会と交わり、新しい価値を創造する」力を身につけることを目指します。共通教育科目のひとつで、1年次のみ履修可能な入門科目です。科学3分野(自然、社会、人文)のなかの人文科学の基礎を学修します。科学は「原因 結果」=因果律を解明しようとしませんが、人間は因果律に従って行動すると同時に、因果律では説明できない次元をも生きています。なぜそのような振る舞いをしたのか、合理的な説明のできない場合のあることを、私たちはしばしば経験します。そのような非合理性をはらむ人間や、人間の生み出した思想や文化を、いかにして学問的に探求することができるのか。その試みのひとつとして作田啓一の人間学(『三次元の人間』)を学び、従来の科学的思考を超える人文科学の可能性や面白さに触れることが、この授業の目的です。

< 到達目標 >

人間の合理性と非合理性、社会性と超社会性についての思索が深まる。

作田人間学の基本用語である「拡大体験」と「溶解体験」の違いを把握し、それぞれに関して自らの体験を思い起こすことができる。

自我の3次元 - 社会我・独立我・超个体我 - の理論を学び、自他の価値観と性格を論じることができる。

生命の充溢感、真の自己を生きるとはどういうことかを考察し、これからの生き方に活かすことができる。

< 授業のキーワード >

自己と外界、生命感、生成の人間学、作田啓一

< 授業の進め方 >

講義中心の授業です。テーマの区切りごとにコメントカードにて質問や感想を提出してもらい、理解度を確かめ必要な補足を行います。

< 履修するにあたって >

授業のさまたげになるような私語は慎むこと。

受講前および受講期間を通して、各自が最も生き生きとした実感をもつのはどのような時か、その時の感覚はどのようなものか、を問い続けてみること。

< 授業時間外に必要な学修 >

ノートを見直しながら、毎回指示するテキストの該当箇所を読むことで、授業の復習・予習をすること。(1時間程度)

< 提出課題など >

テーマごとに数回、コメントカードに質問・感想・設定した問いへの回答などを書いて提出してもらいます。

その他、期末にレポートを課します。

< 成績評価方法・基準 >

コメントカードの記載内容(40%)、期末レポート(60%)で評価します。

< テキスト >

作田啓一『三次元の人間 - 生成の思想を語る』行路社、1998年再版

< 参考図書 >

作田啓一『生成の社会学をめざして - 価値観と性格』

有斐閣、1993年

< 授業計画 >

第1回

はじめに

ー 人間の非合理性

授業全体の方向性と基本的な考え方を説明する。
人間の二重性について考える。

第2回

自己と外界

(1) 自己の拡大と溶解

拡大体験と溶解体験について解説する。

『三次元の人間』4-8頁

第3回

自己と外界

(1) 自己の拡大と溶解

拡大体験と溶解体験について解説する。

『三次元の人間』4-8頁

E. イヨネスコの溶解体験ほか

『生成の社会学をめざして』36-43頁

第4回

自己と外界

(2) 主体-客体関係の3類型

E.G. シャハテルの発達段階理論を解説する。

『三次元の人間』8-17頁

第5回

自己と外界

(2) 主体-客体関係の3類型

E.G. シャハテルの発達段階理論を解説する。

『三次元の人間』8-17頁

第6回

自己と外界

(3) 生命感について

対象中心性(シャハテル)と生命感について考える。

『三次元の人間』18-28頁

関心の2タイプ - オクノフィリアとフィロバティズム
(M.パリント)ほか

第7回

自己意識論

(1) 向自意識と対他意識

根源的存在の次元から派生する自己意識と社会的関係性の次元から派生する自己および他者意識とを区別する視角を解説する。

『三次元の人間』71-92頁

深い自我と表層の自我(H.ベルクソン)ほか

第8回

自己意識論

(1) 向自意識と対他意識

根源的存在の次元から派生する自己意識と社会的関係性の次元から派生する自己および他者意識とを区別する視角を解説する。

『三次元の人間』71-92頁

動機語彙論(C.W.ミルズ)ほか

第9回

自己意識論

(2) 真の自己

真の自己がわからないという悩みについて考える。

第10回

自己意識論

(3) 人間関係論への展開

他者との関係の中で向自意識と対他意識がどのように関係し合うかを、精神医学の見解を参照しながら検討する。

『三次元の人間』93-105頁

第11回 価値観と性格

(1) 自我の3次元

自我の3つの志向性に関する作田理論を解説する。

『三次元の人間』序文、152-184頁

第12回

価値観と性格

(2) 行為の選択基準

自我の3次元が形成する価値観、行為選択の3基準について解説する。

『三次元の人間』152-184頁

『生成の社会学をめざして』123-140頁

第13回

価値観と性格

(3) 性格類型論

自我の3次元の相対的強さによる作田の性格類型論を紹介・解説したうえで、現実ないしはフィクションにおける人間関係への理論適用を試みる。

『三次元の人間』152-184頁

『生成の社会学をめざして』141-164頁

第14回

価値観と性格

(3) 性格類型論

自我の3次元の相対的強さによる作田の性格類型論を紹介・解説したうえで、現実ないしはフィクションにおける人間関係への理論適用を試みる。

『三次元の人間』152-184頁

『生成の社会学をめざして』141-164頁

第15回

おわりに

一 社会化と超社会化

はじめに呈示した人間の二重性に由来する人間形成の2つの方向性について論じ、その軸にそって本講義で扱った議論の位置づけと整理を行う。

2022年度 前期

2.0単位

数的思考 (総論)

中村 光宏

< 授業の方法 >

講義 演習

< 授業の目的 >

この科目は、全学のDPに示す、幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができることを目指す。

数的思考の導入の位置づけで、数的思考以降で論理的思考力を積み上げていくための基礎を作る。

また、この科目の担当者は資格試験予備校で講師を務めた、実務経験のある教員である。従って、公務員試験、SPI等適性試験で必要となる数的処理の考え方や処理方法について、就職試験の対策も兼ねた講義を進めていく。

< 到達目標 >

数的処理の基本的な解法を身につける。(知識)

継続的な学習習慣を身に着ける(習慣)

図や表を使い、論理的に考えて解決することができる。

(技能)

< 授業のキーワード >

数的処理 公務員 論理 キャリア教育

< 授業の進め方 >

演習中心の授業で、自ら考え積極的な参加を求める。

< 履修するにあたって >

講義を受けるにあたって以下のことは学習効果が無くなるため一切禁止する。

・私語や内職

・スマートフォンや携帯電話の操作

・授業時に筆記具、テキストを持ってこない

・うつ伏して寝る居眠り

授業に受けるにあたって、ノートを用意して積極的に授業に参加し、復習に重点を置くように心がけること。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業でやった内容の復習や板書ノートをまとめることに、各回1時間以上の学習を必要とする。

< 提出課題など >

授業時に小テストの解説及びポイントを説明する

< 成績評価方法・基準 >

授業中の確認テスト70%(10点×1回, 15点×4回)、問題演習レポート30%

< テキスト >

特に指定をせずに、授業のときに配布するレジュメを使用する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の進め方や論理の中での数字の役割を考える。

第2回 操作手順

単純操作や規則性について考える。

第3回 操作手順

移動問題や判別問題について考える。

第4回 図形を使った数的思考

一筆書きや平面図形の分割や構成について考える。

第5回 図形を使った数的思考

簡単な数学の公式を使って図形の計量について考える。

第6回 試合の中の数的思考

試合の中に含まれる論理を表や図を使ってまとめる。

第7回 真偽の中での数的思考

真偽について考える。

第8回 場合の数

場合の数の基本原則を習得する。

第9回 場合の数

場合の数の基本原則を利用して、論理的思考を養う。

第10回 確率

確率の基本定理を習得する。

第11回 確率

確率の基本定理を利用して、論理的思考を養う。

第12回 覆面算

覆面算を使って整数の組合せを考える。

第13回 魔方陣

魔方陣の性質を理解し、使えるようにする。

第14回 規則性 (暗号)

暗号を使って論理的に推理する力をつける。

第15回 規則性 (数列)

数列を含めた数の規則性について考える。

2022年度 前期

2.0単位

数的思考 (総論)

有田 文男

< 授業の方法 >

対面授業(講義・演習)

< 授業の目的 >

問題演習の中で論理的思考力を養うことにより、問題を発見しそれを解決する方策を導く能力、生涯にわたって考え続け学び続けていく能力を身につけることを目指す。この科目の担当者は資格試験予備校で講師を務めた、実務経験のある教員である。公務員試験、SPI等で必要となる数的処理の考え方や処理方法について、就職試験の対策も兼ねた講義を進めていく。

< 到達目標 >

- ・ 数的処理の基本的な解法を身につける。(知識)
- ・ 図や表を使って論理的に考え、解決できるようになる。(技能)
- ・ 頭を使って考えることを楽しみながら、継続的な学習習慣を身につける(習慣)

< 授業のキーワード >

数的処理 公務員試験 論理 キャリア教育

< 授業の進め方 >

- ・ 主に公務員試験の過去問を素材として、問題演習・解

説を行う。

・ 解説の時間の私語は厳禁。ただし、演習中は互いに教え合い、理解を深めることを認める。

・ 私語、SNS、ゲーム、マンガ、内職、居眠りといった行為は、学問に取り組む教室の雰囲気にとって有害であるため、懲戒の上、退室を命じることがある。

< 履修するにあたって >

理解スピードは人によってバラバラ。全員のペースに合わせることは不可能。よって、わからない場合は必ず個別に質問にきて解決すること。自分のペースに合わせてもらうことを求めているわけではない。自分自身を講義のスピードについていけるように高める努力をしよう。

< 授業時間外に必要な学修 >

講義1コマにつき、当日又は翌日、1週間後、及び確認テスト前の3回
計90分の復習時間をとること(時間はあくまで目安である)。

< 提出課題など >

テストの結果については、翌週の授業時に正解を提示し、正答率の低い問題を中心に必要に応じて解説を行う。

< 成績評価方法・基準 >

授業中に実施する4回の確認テスト(各回20%)、レポート(20%)

< テキスト >

授業中に配布するレジュメを使用。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

自己紹介・授業方針の説明後、各回で扱う問題を例示する

第2回 試合

リーグ戦の問題演習・解説を行う

第3回 真偽

条件や発言の中に「うそ」が混じっているタイプの問題の演習・解説を行う。真偽のグループ分け等を使用した思考力を求めるもの、場合分けの基礎を中心に

第4回 操作手順

川渡り問題、ハノイの塔、油分け算などの問題演習・解説を行う

第5回 操作手順

二セコイン、必勝法などの問題演習・解説を行う

第6回 魔方陣

正方形の方陣に数字を配置し、縦・横・対角線のいずれについても、その和が等しくなる問題の演習・解説を行う

第7回 数列

数列の問題演習・解説を行う

第1回確認テスト(範囲第2?5回)

第8回 場合の数

順列の問題演習・解説を行う

第9回 場合の数

組合せなどの問題演習・解説を行う

第2回確認テスト（範囲第6? 8回）

第10回 暗号

暗号の意味を解説する問題の演習・解説を行う

第11回 確率

加法定理・乗法定理・余事象の問題演習・解説を行う

第12回 確率

反復試行・条件付確率などの問題演習・解説を行う

第3回確認テスト（範囲第9? 11回）

第13回 平面計量

扇型等の面積の問題演習・解説を行う

第14回 平面分割

一筆書きの問題演習・解説を行う

第15回 覆面算

いくつかの数字が隠されている計算式を復元する問題の演習・解説を行う。

第4回確認テスト（範囲第12? 14回）

2022年度 前期

2.0単位

数的思考 （総論）

田名加 忠

< 授業の方法 >

講義 演習

< 授業の目的 >

1. この科目は、論理的思考、数学的思考を活用して、筋道を立てて様々な問題を解決できるようになることを目指す。

2. 公務員に興味がある人、あるいは就職先の選択肢の1つとして公務員を考えている人に公務員試験の必須科目である数的処理の基礎中の基礎を確立することを目指す。

< 到達目標 >

1. 数的処理の基本的な解法が身に付く。（知識）
2. 数学の知識、図や表を用い、論理的かつ数学的に考えて解決することができる。（技能）

< 授業のキーワード >

論理的思考、数学的思考、図形、公務員試験

< 授業の進め方 >

基礎的内容の講義を行い、例題を示し、その解法の解説を中心に授業を進め、所々で演習を行う。

演習に際しては、自ら考え積極的な参加を求める。

< 履修するにあたって >

1. 中学で学習する数学および数列の基礎知識を必要とする。

2. 復習に重点を置くことを心がけること。

3. 私語厳禁

4. 原則としてスマートフォンの操作禁止

< 授業時間外に必要な学修 >

1. 授業で行った内容の復習を1時間程度行うこと。
2. 数的思考 で必要な数学の基礎知識を再学習すること。

< 成績評価方法・基準 >

授業時間内に確認小テスト（概ね4問）を3回行う。

予定：

第7回授業の前半35分（30点）

第12回授業の前半35分（40点）

第15回授業の後半35分（30点）

3回の確認小テストを100点満点で評価いたします。ただし平均点が極端に低い場合は、平均点を加味して総合評価いたします。

確認小テストはdotCampus経由でのwebテストで実施いたします。

< テキスト >

特に使用せず、授業時に配布するレジユメを使用する。

< 参考図書 >

必要に応じて、その都度紹介する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

数的思考 のテーマの紹介、授業の進め方や公務員試験における位置づけ等についての説明を行う。

第2回 操作手順

移動問題について解法・解説および演習を行う。

第3回 操作手順

選別問題、ゲーム必勝法について解法・解説および演習を行う。

第4回 図形を使った数的思考

一筆書きや平面図形の分割・構成について解法・解説および演習を行う。

第5回 図形を使った数的思考

図形の計量（長さや面積）について解法・解説および演習を行う。

第6回 試合

リーグ戦、トーナメント戦について解法・解説および演習を行う。

第7回 真偽

真偽（本当と嘘）問題について解法・解説および演習を行う。

第8回 場合の数

場合の数（何通り）の基本法則について解説および演習を行う。

第9回 場合の数

場合の数（何通り）の基本法則について解説および演習を行う。

第10回 確率

確率の基本法則について解説および演習を行う。

第11回 確率

確率の基本法則について解説および演習を行う。

第12回 覆面算・虫食い算

覆面算および虫食い算について解法・解説および演習を行う。

第13回 魔方陣

魔方陣について解法・解説および演習を行う。

第14回 規則性

暗号について解法・解説および演習を行う。

第15回 規則性

数列について解法・解説および演習を行う。

2022年度 後期

2.0単位

数的思考 A (数的推理)

有田 文男

< 授業の方法 >

対面授業(講義・演習)

< 授業の目的 >

問題演習の中で論理的思考力を養うことにより、問題を発見しそれを解決する方策を導く能力、生涯にわたって考え続け学び続けてく能力を身につけることを目指す。この科目の担当者は資格試験予備校で講師を務めた、実務経験のある教員である。公務員試験、SPI等で必要となる数的処理の考え方や処理方法について就職試験の対策も兼ねた講義を進めていく。

< 到達目標 >

- ・ 数的処理の基本的な解法(数的推理) を身につける。(知識)
- ・ 図や表を使って論理的に考え、解決できるようになる。(技能)
- ・ 頭を使って考えることを楽しみながら、継続的な学習習慣を身につける(習慣)

< 授業のキーワード >

数的処理 公務員試験 論理 キャリア教育

< 授業の進め方 >

- ・ 主に公務員試験の過去問を素材として、問題演習・解説を行う。
- ・ 解説の時間の私語は厳禁。ただし、解説中及びテスト中以外の時間については、理解を深めるための質問・教え合いを認める。
- ・ 授業と無関係な私語、SNS、ゲーム、マンガ、内職、居眠りといった行為は、学問に取り組む教室の雰囲気にとって有害であるため、懲戒の上、退室を命じることがある。

< 履修するにあたって >

方程式・因数分解など中学校で学習する数学に不安のあ

る方へ。事前に「畑中敦子の算数・数学キソキソ55」(エクシア出版) 等で小中学校レベルの算数・数学を復習してから受講すると、スムーズに理解できます。なお、中学の内容を覚えていたとしても、たいていの学生は計算スピードが落ちています。必ず講義までに勘を取り戻しておいてください。講義では中学レベルの計算を丁寧に説明することはしませんが、質問があれば個別に受け付けます。積極的な質問を歓迎します。授業中は徹底的に手を動かして授業に参加し、復習の際はノートを元に繰り返し解き直しましょう。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業でやった内容の復習や板書ノートをまとめることに、各回1時間以上の学習を必要とする。

< 提出課題など >

確認テストを実施する。翌週の授業時に正解を提示し、正答率の低い問題を中心に必要に応じて解説を行う。

< 成績評価方法・基準 >

授業中に実施する4回の確認テスト(各回20%) , レポート(20%)

< テキスト >

授業中に配布するレジユメを使用。

< 参考図書 >

「大卒程度公務員試験畑中敦子の数的推理の大革命令和版」(東京リーガルマインド)

「畑中敦子の算数・数学キソキソ55」(エクシア出版)

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

自己紹介・授業方針の説明後、各回で扱う問題を例示し、演習・解説を行う

第2回 整数解

不定方程式、連立不等式の平易な問題の演習・解説を行う

第3回 方程式

方程式の作り方など、SPIや公務員試験初級レベルの平易な問題の演習・解説を行う

第4回 比と割合

比と割合の平易な問題の演習・解説を行う

第5回 記数法

記数法の問題演習・解説を行う

第6回 数量推理

数に関する条件を、表を使って整理する問題の演習・解説を行う

第1回確認テスト(範囲2-5回)

第7回 数量推理

カードを使った数量推理、選挙の投票等の問題演習・解説を行う

第8回 集合

ベン図を使用した集合問題演習・解説を行う

第9回 集合

表や線分図を使用した集合の問題演習・解説を行う。第2回確認テスト(範囲6-8回)

第10回 平面図形の計量

三角形の性質に関する問題の演習・解説を行う

第11回 平面図形の計量

相似比と面積比の関係を利用した問題の演習・解説を行う

第12回 平面図形の計量

円の性質に関する問題などの演習・解説を行う。第3回確認テスト(範囲9-11回)

第13回 立体図形の計量

立体の基本公式を使った問題の演習・解説を行う

第14回 立体図形の計量

相似比と体積比の関係を使った問題の演習・解説を行う

第15回 その他の推理

時計の推理など、数量的要素の強い問題の演習・解説を行う

第4回確認テスト(範囲12-14回)

2022年度 後期

2.0単位

数的思考 A (数的推理)

中村 光宏

<授業の方法>

講義・演習

<授業の目的>

この科目は、全学のDPに示す、幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができることを目指す。

数的推理の基礎を習得し、数的思考Aへと繋げる。

また、この科目の担当者は資格試験予備校で講師を務めた、実務経験のある教員である。従って、公務員試験、SPI等適性試験で必要となる数的処理の考え方や処理方法について、就職試験の対策も兼ねた講義を進めていく。

<到達目標>

数的処理の基本的な解法を身につける。(知識)

継続的な学習習慣を身に着ける(習慣)

図や表を使い、論理的に考えて解決することができる。

(技能)

<授業のキーワード>

数的処理 公務員 論理 キャリア教育

<授業の進め方>

演習中心の授業で、自ら考え積極的な参加を求める。

<履修するにあたって>

講義を受けるにあたって以下のことは学習効果が無くなるため一切禁止する。

・私語や内職

・スマートフォンや携帯電話の操作

・授業時に筆記具、テキストを持ってこない

・うつ伏して寝る居眠り

授業に受けるにあたって、ノートを用意して積極的に授業に参加し、復習に重点を置くように心がけること。

<授業時間外に必要な学修>

授業でやった内容の復習や板書ノートをまとめることに、各回1時間以上の学習を必要とする。

<提出課題など>

確認テストを実施し、次週に解説を行う。

<成績評価方法・基準>

授業中に実施する確認テスト(70%)【15点×4回、10点×1回】、レポート(30%)

<テキスト>

特に指定をせずに、授業のときに配布するレジュメを使用する。

<参考図書>

『畑中敦子の算数・数学キソキソ55』 エクシア出版

<授業計画>

第1回 ガイダンス

授業の進め方や論理の中での数字の役割を考える。

第2回 数量推理

表を使用した情報処理を考える。

第3回 数量推理

図を使用した情報処理を考える。

第4回 数量推理

合計数の使い方について考える。

第5回 集合算

ベン図を使用した情報処理を考える。

第6回 集合算

表や線分図を使用した情報処理を考える。

第7回 記数法

記数法の基本性質を理解し、使い方を考える。

第8回 方程式・不等式

方程式・不等式の作り方を習得する。

第9回 整数解

整数解の考え方を習得する。

第10回 比・割合

比・割合の使い方を習得する。

第11回 平面図形の計量

図形を使用した、論理について考える。

第12回 平面図形の計算

三平方の定理、相似を利用した図形問題について考える。

第13回 平面図形の計量

円を利用した平面図形について考える。

第14回 立体図形の計量

立体図形の基本公式について考える。

第15回 立体図形の計量

立体図形の様々な長さや面積を求める。

2022年度 後期

2.0単位

数的思考 A (数的推理)

田名加 忠

< 授業の方法 >

講義 演習

< 授業の目的 >

1. この科目は、数学的思考や図形を活用して、筋道を立てて様々な問題を解決できるようになることを目指す。
2. 公務員を目指す人、あるいは就職先の1つとして公務員を考えている人に公務員試験の必須科目である数的処理の基礎を確立することを目指す。

< 到達目標 >

1. 数的処理の基本的な解法が身に付く。(知識)
2. 数学の知識、図や表を用いて、論理的かつ数学的に考えて解決することができる。(技能)

< 授業のキーワード >

数学的思考、図形、公務員試験

< 授業の進め方 >

基礎的内容の講義を行い、例題を示し、その解法の解説を中心に授業を進め、所々で演習を行う。

演習に際しては、自ら考え積極的な参加を求める。

< 履修するにあたって >

1. 中学で学習する数学および不等式の基礎知識を必要とする。
2. 復習に重点を置くことを心がけること。
3. 私語厳禁
4. 原則としてスマートフォンの操作禁止

< 授業時間外に必要な学修 >

1. 授業で行った内容の復習を1時間30分程度行うこと。
2. 数的思考 Aで必要な数学の基礎知識を再学習すること。

< 成績評価方法・基準 >

授業時間内に確認小テスト(概ね4問)を3回行う。

予定 :

第7回授業の前半35分(30点)

第11回授業の前半35分(40点)

第15回授業の後半35分(30点)

3回の確認小テストを100点満点で評価いたします。ただし平均点が極端に低い場合は、平均点を加味して総合評価いたします。

確認小テストはdotCampus経由でのwebテストで実施いたします。

< テキスト >

特に使用せず、授業時に配布するレジュメを使用する。

< 参考図書 >

「大卒程度 公務員試験 畑中敦子の数的推理の大革命

! 令和版」 東京リーガルマインド

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

数的思考 Aのテーマの紹介、授業の進め方や公務員試験における位置づけ等について説明を行う。

第2回 数量推理

表や図を利用して、数量推理の問題の解法・解説および演習を行う。

第3回 数量推理

表や図を利用して、数量推理の問題の解法・解説および演習を行う。

第4回 数量推理

合計数を利用して、数量推理の問題の解法・解説および演習を行う。

第5回 集合算

ベン図を利用して、集合算の問題の解法・解説および演習を行う。

第6回 集合算

表、樹形図、線分図を利用して、集合算の問題の解法・解説および演習を行う。

第7回 記数法

記数法の解説を行い、記数法を利用した問題の解法・解説および演習を行う。

第8回 方程式・不等式・整数解

方程式・不等式の演習を行う。次に方程式や不等式を利用して、整数解についての問題の解法・解説および演習を行う。

第9回 比・割合

比・割合を利用して、問題の解法・解説および演習を行う。

第10回 比・割合

比・割合を利用して、問題の解法・解説および演習を行う。

第11回 平面図形の計量

角度、三角形や四角形を利用した基礎問題の解法・解説および演習を行う。

第12回 平面図形の計量

多角形を利用した基礎問題の解法・解説および演習を行う。

第13回 平面図形の計量

円を利用した基礎問題の解法・解説および演習を行う。

第14回 立体図形の計量

立体図形を利用した基礎問題の解法・解説および演習を行う。

第15回 立体図形の計量

立体図形を利用した基礎問題の解法・解説および演習を行う。

2022年度 前期

2.0単位

数的思考 B (判断推理)

中村 光宏

< 授業の方法 >

講義 演習

< 授業の目的 >

この科目は、全学のDPに示す、幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができることを目指す。

また、この科目の担当者は資格試験予備校で講師を務めた、実務経験のある教員である。従って、公務員試験、SPI等適性試験で必要となる数的処理の考え方や処理方法について、就職試験の対策も兼ねた講義を進めていく。

< 到達目標 >

数的処理の基本的な解法を身につける。(知識)

継続的な学習習慣を身につける(習慣)

図や表を使い、論理的に考えて解決することができる。

(技能)

< 授業のキーワード >

数的処理、公務員試験、論理的思考 キャリア教育

< 授業の進め方 >

演習中心の授業で、受講生からの積極的な参加を求める。

< 履修するにあたって >

演習講義の為以下のことは一切禁止する。

- ・私語や内職
- ・携帯電話の操作
- ・筆記具、テキストを持たないでの授業参加
- ・うつ伏して寝る居眠り

授業に受けるにあたって、ノートを用意して積極的に授業に参加し、復習に重点を置くように心がける。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業でやった内容の復習や板書ノートをまとめることに、各回1時間以上の学習を必要とする。

< 提出課題など >

授業時に小テストの解説及びポイントを説明する

< 成績評価方法・基準 >

授業中の確認テスト70%(10点×1回, 15点×4回)、問題演習レポート30%

< テキスト >

特に指定をせずに、授業のときに配布するレジユメを使用する。

< 参考図書 >

『大卒程度 公務員試験 畑中敦子の判断推理の新兵器! 令和版』 東京リーガルマインド

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス、論理の基礎

授業の進め方、論理式の基礎

第2回 論理

論理式の使い方を習得する。

第3回 論理

ベン図を使用して論理をまとめる。

第4回 対応関係

対応表を使用して2集合の対応を考える。

第5回 対応関係

2集合以上の対応関係のまとめ方を考える。

第6回 順序関係

数量を伴わない順序関係について考える。

第7回 順序関係

数量を伴う順序関係について考える。

第8回 位置関係

配置や円卓の位置関係のまとめ方について考える。

第9回 真偽

真偽表や真偽の場合分けについて。

第10回 真偽

順序関係や位置関係などの分野の中での真偽の使い方について考える。

第11回 試合

リーグ戦のまとめ方について考える。

第12回 試合

トーナメント戦を使用した論理について考える。

第13回 融合問題

有向的対応について考える。

第14回 融合問題

組合せる対応表を使用して論理を考える。

第15回 融合問題

順序が絡む対応関係について考える。

2022年度 前期

2.0単位

数的思考 B (判断推理)

有田 文男

< 授業の方法 >

対面授業(講義・演習)

< 授業の目的 >

問題演習の中で論理的思考力を養うことにより、問題を発見しそれを解決する方策を導く能力、生涯にわたって考え続け学び続けてく能力を身につけることを目指す。この科目の担当者は、資格試験予備校で講師を務めた、実務経験のある教員である。公務員試験、SPI等で必要となる数的処理の考え方や処理方法について、就職試験の対策も兼ねた講義を進めていく。

< 到達目標 >

・数的処理の基本的な解法(判断推理)を身につける。

(知識)

・図や表を使って論理的に考え、解決できるようになる。

(技能)

・頭を使って考えることを楽しみながら、継続的な学習習慣を身につける(習慣)

<授業のキーワード>

数的処理 公務員試験 論理的思考 キャリア教育

<授業の進め方>

・主に公務員試験の過去問を素材として、問題演習・解説を行う。

・解説の時間の私語は厳禁。ただし、演習中は互いに教え合い、理解を深めることを認める。

・私語、SNS、ゲーム、マンガ、内職、居眠りといった行為は、学問に取り組む教室の雰囲気にとって有害であるため、懲戒の上、退室を命じることがある。

<履修するにあたって>

理解スピードは人によってバラバラ。全員のペースに合わせることは不可能。よって、わからない場合は必ず個別に質問にきて解決すること。自分のペースに合わせてもらうことを求めているわけではない。自分自身を講義のスピードについていけるように高める努力をしよう。

<授業時間外に必要な学修>

講義1コマにつき、当日又は翌日、1週間後、及び確認テスト前の3回

計90分の復習時間をとること(時間はあくまで目安である)。

<提出課題など>

テストの結果については、授業時に正解を提示し、正答率の低い問題を中心に必要に応じて解説を行う。

<成績評価方法・基準>

授業中に実施する4回の確認テスト(各回20%)、レポート(20%)

<テキスト>

授業中に配布するレジユメを使用。

<参考図書>

「大卒程度公務員試験畑中敦子の判断推理の新兵器令和版」(東京リーガルマインド)

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

自己紹介・授業方針の説明後、各回で扱う問題を例示する。

第2回 対応関係

1対1対応の問題演習・解説を行う。

第3回 対応関係

1対2対応、多対応の問題演習・解説を行う。

第4回 順序関係

数量を伴わない順序関係問題演習・解説を行う。

第5回 順序関係

数量を伴う順序関係問題演習・解説を行う。

第6回 位置関係

部屋や座席の配置の問題の演習・解説を行う。

第7回 位置関係 試合

円卓の位置関係、方位に関する問題、リーグ戦の問題の演習・解説を行う。第1回確認テスト(範囲2?5回)

第8回 試合

トーナメント戦、試合数の問題演習・解説を行う。

第9回 対応(応用)

有向性対応の問題の演習・解説を行う。

第2回確認テスト(範囲第6-8回)

第10回 対応(応用)

対応関係に順序や位置の考え方を組合わせた問題の演習・解説を行う。

第11回 真偽

対応関係と真偽の融合問題の演習・解説を行う。

第12回 真偽・論理

順序関係と真偽の融合問題、論理式の問題演習・解説を行う。

第3回確認テスト(範囲第9-11回)

第13回 論理

ベン図・真理表を使った問題の演習・解説を行う。

第14回 論理

論理式・ベン図・真理表を使った問題の演習・解説を行う。

第15回 その他の推理

判断推理のうち、上記の分野に当てはまらない論理的要素の強い推理(前者の発言からの推理等)問題の演習・解説を行う。

第4回確認テスト(範囲第12-14回)

2022年度 前期

2.0単位

数的思考 B (判断推理)

田名加 忠

<授業の方法>

講義 演習

<授業の目的>

1. この科目は、論理的思考を活用して、筋道を立てて様々な問題を解決できるようになることを目指す。

2. 公務員を目指す人、あるいは就職先の1つとして公務員を考えている人に公務員試験の必須科目である数的処理の基礎を確立することを目指す。

<到達目標>

1. 数的処理の基本的な解法が身に付く。(知識)

2. 図や表を用いて、論理的に考えて解決することができる。(技能)

< 授業のキーワード >

論理的思考、公務員試験

< 授業の進め方 >

基礎的内容の講義を行い、例題を示し、その解法の解説を中心に授業を進め、所々で演習を行う。

演習に際しては、自ら考え積極的な参加を求める。

< 履修するにあたって >

1. 復習に重点を置くことを心がけること。
2. 私語厳禁
3. 原則としてスマートフォンの操作禁止。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業で行った内容の復習を1時間30分程度行うこと。

< 成績評価方法・基準 >

授業時間内に確認小テスト（概ね4問）を3回行う。

予定：

第6回授業の前半35分（32点）

第10回授業の前半35分（32点）

第15回授業の後半35分（36点）

3回の確認小テストを100点満点で評価いたします。ただし平均点が極端に低い場合は、平均点を加味して総合評価いたします。

確認小テストはdotCampus経由でのwebテストで実施いたします。

< テキスト >

特に使用せず、授業時に配布するレジュメを使用する。

< 参考図書 >

「大卒程度 公務員試験 畑中敦子の判断推理の新兵器！ 令和版」 東京リーガルマインド

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

数的思考 Bのテーマの紹介、授業の進め方や公務員試験における位置づけ等についての説明を行う。

第2回 論理

論理式、ベン図の解説および、これらを利用して、問題の解法・解説および演習を行う。

第3回 論理

真理表の解説および、真理表を利用して、問題の解法・解説および演習を行う。

第4回 対応関係

対応表の解説および、対応表を利用して、基礎問題の解法・解説および演習を行う。

第5回 対応関係

対応表を利用して、応用問題の解法・解説および演習を行う。

第6回 順序関係

数量を伴わない場合についての問題の解法・解説および演習を行う。

第7回 順序関係

数量を伴う場合についての問題の解法・解説および演習

を行う。

第8回 位置関係

位置関係についての問題の解法・解説および演習を行う。

第9回 試合

数的思考（総論）よりレベルアップした試合の問題の解法・解説および演習を行う。

第10回 試合

数的思考（総論）よりレベルアップした試合の問題の解法・解説および演習を行う。

第11回 融合問題

有向的（方向性がある）対応についての問題の解法・解説および演習を行う。

第12回 融合問題

組み合わせる対応についての問題の解法・解説および演習を行う。

第13回 融合問題

時の流れが絡む対応についての問題の解法・解説および演習を行う。

第14回 真偽

数的思考（総論）よりレベルアップした真偽（本当と嘘）問題の解法・解説および演習を行う。

第15回 真偽

数的思考（総論）よりレベルアップした真偽（本当と嘘）問題の解法・解説および演習を行う。

2022年度 後期

2.0単位

数的思考 A（数的推理）

有田 文男

< 授業の方法 >

対面授業(講義・演習)

< 授業の目的 >

問題演習の中で論理的思考力を養うことにより、問題を発見しそれを解決する方策を導く能力、生涯にわたって考え続け学び続けてく能力を身につけることを目指す。この科目の担当者は資格試験予備校で講師を務めた、実務経験のある教員である。公務員試験、SPI等で必要となる数的処理の考え方や処理方法について就職試験の対策も兼ねた講義を進めていく。

< 到達目標 >

- ・ 数的処理の基本的な解法を身につける。（知識）
- ・ 図や表を使って論理的に考え、解決できるようになる。（技能）
- ・ 頭を使って考えることを楽しみながら、継続的な学習習慣を身につける（習慣）

< 授業のキーワード >

数的処理 公務員試験 SPI キャリア教育

< 授業の進め方 >

・主に公務員試験の過去問を素材として、問題演習・解説を行う。

・解説の時間の私語は厳禁。ただし、解説中及びテスト中以外の時間であれば、理解を深めるための質問・教え合いを認める。

・授業と無関係な私語、SNS、ゲーム、マンガ、内職、居眠りといった行為は、学問に取り組む教室の雰囲気にとって有害であるため、懲戒の上、退室を命じることがある。

< 履修するにあたって >

方程式・因数分解など中学校で学習する数学に不安のある方へ。事前に「畑中敦子の算数・数学キソキソ55」（エクシア出版）等で小中学校レベルの算数・数学を復習してから受講すると、スムーズに理解できます。なお、中学の内容を覚えていたとしても、たいていの学生は計算スピードが落ちています。必ず講義までに勘を取り戻しておいてください。講義では中学レベルの計算を丁寧に説明することはしませんが、質問があれば個別に受け付けます。積極的な質問を歓迎します。授業中は徹底的に手を動かして授業に参加し、復習の際はノートを元に繰り返し解き直しましょう（最低3回以上）。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業でやった内容の復習や板書ノートをまとめることに、各回1時間以上の学習を必要とする。

< 提出課題など >

確認テストを実施し、翌週に正解を提示し、正答率の低い問題を中心に必要に応じて解説を行う。

< 成績評価方法・基準 >

授業中に実施する4回の確認テスト（各回20%）、レポート（20%）

< テキスト >

授業中に配布するレジュメを使用。

< 参考図書 >

「大卒程度公務員試験畑中敦子の数的推理の大革命命令版」（東京リーガルマインド）

「畑中敦子の算数・数学キソキソ55」（エクシア出版）

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

自己紹介・授業方針の説明後、各回で扱う問題を例示し、演習・解説を行う

第2回 数の性質

約数・倍数、商と余りの問題演習・解説を行う

第3回 数の性質

剰余系、曜日推理の問題演習・解説を行う

第4回 方程式

大卒公務員試験レベルの方程式の文章題のまとめ方について、問題演習・解説を行う

第5回 方程式 整数解

先週の続きをやった後、不定方程式、連立不等式の融合問題の問題演習・解説を行う

第6回 整数解

不定方程式、連立不等式の融合問題の演習・解説を行う
第1回確認テスト（範囲2? 5回）

第7回 整数

近年の国家公務員試験で問われるような整数問題の演習・解説を行う

第8回 比と割合

利益算の問題演習・解説を行う

第9回 比と割合

濃度の問題演習・解説を行う。第2回確認テスト（範囲第6-8回）

第10回 比と割合

人口の増減・金利の問題演習・解説を行う

第11回 速さ

速さの基本公式と比の使い方に関する問題演習・解説を行う

第12回 速さ

旅人算・時計算の問題演習・解説を行う。第3回確認テスト（範囲第9-11回）

第13回 速さ

通貨算・流水算の問題演習・解説を行う

第14回 定型問題

仕事算・年齢算の問題演習・解説を行う。

第15回 定型問題

平均算・ニュートン算の問題演習・解説を行う。第4回確認テスト（範囲12-14回）

2022年度 後期

2.0単位

数的思考 A（数的推理）

中村 光宏

< 授業の方法 >

講義 演習

< 授業の目的 >

この科目は、全学のDPに示す、幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができることを目指す。

また、この科目の担当者は資格試験予備校で講師を務めた、実務経験のある教員である。従って、公務員試験、SPI等適性試験で必要となる数的処理の考え方や処理方法について、就職試験の対策も兼ねた講義を進めていく。

< 到達目標 >

数的処理の基本的な解法を身につける。（知識）

数字に対して苦手意識をなくす。(習慣)
図や表を使い、論理的に考えて解決することができる。

(技能)

<授業のキーワード>

数的処理 公務員 SPI キャリア教育

<授業の進め方>

演習中心の授業で、自ら考え積極的な参加を求める。

<履修するにあたって>

演習講義の為以下のことは一切禁止する。

- ・私語や内職
- ・携帯電話の操作
- ・筆記具、テキストを持たないでの授業参加
- ・うつ伏して寝る居眠り

授業に受けるにあたって、ノートを用意して積極的に授業に参加し、復習に重点を置くように心がけること

<授業時間外に必要な学修>

授業でやった内容の復習や板書ノートをまとめることに、各回1時間以上の学習を必要とする。

<提出課題など>

確認テストを実施し、次週に解説を行う。

<成績評価方法・基準>

授業中に実施する確認テスト(70%)【15点×4回、10点×1回】、レポート(30%)

<テキスト>

特に指定をせずに、授業のときに配布するレジユメを使用する。

<参考図書>

『大卒程度 公務員試験 畑中敦子の数的推理の大革命! 令和版』 東京リーガルマインド

<授業計画>

第1回 ガイダンス

授業の進め方、数的推理の範囲と式の考え方やまとめ方の総論

第2回 数の性質

倍数と約数を使用して文章題を考える。

第3回 数の性質

商と余り、剰余系、曜日推理について考える。

第4回 整数問題

整数に関する応用問題について考える。

第5回 式の作り方

問題文のまとめ方、式の作り方について考える。

第6回 整数解

不定方程式と連立不等式の使い方を習得する。

第7回 比・割合

比の使い方とまとめ方について考える。

第8回 比・割合

割合の変換とまとめ方について考える。

第9回 濃度算

濃度算について考える。

第10回 利益算

割合の考え方を、利益算に応用させる。

第11回 速さ

速さの基本公式と比の使い方について考える。

第12回 速さ

旅人算・時計算について考える。

第13回 速さ

通過算・流水算について考える。

第14回 定型問題

速さの考え方を仕事算に応用させる。

第15回 定型問題

ニュートン算や年齢算について考える。

2022年度 後期

2.0単位

数的思考 A (数的推理)

田名加 忠

<授業の方法>

講義 演習

<授業の目的>

1. この科目は、数学的思考を活用して、筋道を立てて様々な問題を解決できるようになることを目指す。
2. 公務員を目指す人、あるいは就職先の1つとして公務員を考えている人に公務員試験の必須科目である数的処理の基礎を確立することを目指す。

<到達目標>

1. 数的処理の基本的な解法が身に付く。(知識)
2. 数学の知識を用いて、論理的かつ数学的に考えて解決することができる。(技能)

<授業のキーワード>

数学的思考、公務員試験

<授業の進め方>

基礎的内容の講義を行い、例題を示し、その解法の解説を中心に授業を進め、所々で演習を行う。
演習に際しては、自ら考え積極的な参加を求める。

<履修するにあたって>

1. 中学で学習する数学および不等式の基礎知識を必要とする。
2. 復習に重点を置くことを心がけること。
3. 私語厳禁
4. 原則としてスマートフォンの操作禁止

<授業時間外に必要な学修>

1. 授業で行った内容の復習を1時間30分程度行うこと。
2. 数的思考 Aで必要な数学の基礎知識を再学習すること。

<成績評価方法・基準>

授業時間内に確認小テスト(概ね4問)を3回行う。

予定:

第7回授業の前半35分(30点)

第12回授業の前半35分(40点)

第15回授業の後半35分（30点）

3回の確認小テストを100点満点で評価いたします。ただし平均点が極端に低い場合は、平均点を加味して総合評価いたします。

確認小テストはdotCampus経由でのwebテストで実施いたします。

<テキスト>

特に使用せず、授業時に配布するレジユメを使用する。

<参考図書>

「大卒程度 公務員試験 畑中敦子の数的推理の大革命！ 令和版」 東京リーガルマインド

「畑中敦子の算数・数学キソキソ」 エクシア出版

<授業計画>

第1回 ガイダンス

数的思考 Aのテーマの紹介、授業の進め方や公務員試験における位置づけ等についての説明を行う。

第2回 数の性質

倍数と約数について解説を行い、倍数と約数についての問題の解法・解説および演習を行う。

第3回 数の性質

商と余りについて解説を行い、商と余りについての問題の解法・解説および演習を行う。

第4回 数の性質

整数問題の解法・解説および演習を行う。

第5回 式の作り方・整数解

不定方程式（答えが1つに決まらない方程式）や連立不等式について解説を行い、これらを利用して解く整数解の問題の解法・解説および演習を行う。

第6回 式の作り方・整数解

数的思考 Aよりレベルアップした整数解についての問題の解法・解説および演習を行う。

第7回 比・割合

数的思考 Aよりレベルアップした比・割合の問題の解法・解説および演習を行う。

第8回 比・割合

数的思考 Aよりレベルアップした比・割合の問題の解法・解説および演習を行う。

第9回 濃度

濃度に関する問題について解法・解説および演習を行う。

第10回 速さ

速さに関する基本問題について解法・解説および演習を行う。

第11回 速さ

旅人算、通過算の問題について解法・解説および演習を行う。

第12回 速さ

流水算、時計算の問題について解法・解説および演習を行う。

第13回 定型問題

仕事算、ニュートン算の問題について解法・解説および演習を行う。

第14回 定型問題

ニュートン算、年齢算の問題について解法・解説および演習を行う。

第15回 定型問題

利益算の問題について解法・解説および演習を行う。

2022年度 前期

2.0単位

数的思考 B（判断推理分野図形と資料解釈）

中村 光宏

<授業の方法>

講義 演習

<授業の目的>

この科目は、全学のDPに示す、幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができることを目指す。

また、この科目の担当者は資格試験予備校で講師を務めた、実務経験のある教員である。従って、公務員試験、SPI等適性試験で必要となる数的処理の考え方や処理方法について、就職試験の対策も兼ねた講義を進めていく。

<到達目標>

数的処理の基本的な解法を身につける。（知識）

図形や資料に対して苦手意識をなくす。（習慣）

図や表を使い、論理的に考えて解決することができる。

（技能）

<授業のキーワード>

公務員試験 図形 資料解釈

<授業の進め方>

演習中心の授業で、自ら考え積極的な参加を求める。

<履修するにあたって>

演習講義の為以下のことは一切禁止する。

- ・私語や内職
- ・携帯電話の操作
- ・筆記具、テキストを持たないでの授業参加
- ・うつ伏して寝る居眠り

授業に受けるにあたって、ノートを用意して積極的に授業に参加し、復習に重点を置くように心がけること

<授業時間外に必要な学修>

授業でやった内容の復習や板書ノートをまとめることに、各回1時間以上の学習を必要とする。

<提出課題など>

授業時に小テストの解説及びポイントを説明する

<成績評価方法・基準>

授業中に実施する確認テスト（100%）【15点×6回、10点×1回】

<テキスト>

特に指定をせずに、授業のときに配布するレジュメを使用する。

<参考図書>

『大卒程度 公務員試験 畑中敦子の判断推理の新兵器！令和版』 東京リーガルマインド

<授業計画>

第1回 ガイダンス

図形問題の全体構造と考え方。

第2回 平面図形の分割構成

図形の組合せ問題について考える。

第3回 軌跡

直線上を動く軌跡と図形の周りを回る軌跡の考え方。

第4回 軌跡

軌跡の長さの求め方や軌跡の応用問題について考える。

第5回 円の回転数・領域

円の内側と外側を回る円の回転数について考える。

第6回 立体図形の分割構成

立体を平面に変換する方法を習得する。

第7回 立体図形の分割構成

前回の授業の応用問題について考える。

第8回 投影図

投影図と影の問題について考える。

第9回 立体図形の切断

立体の切断面の形と立体図形の分割構成との関連について考える。

第10回 正多面体の性質

正多面体の性質を理解し、辺と頂点と面の数の使い方について習得する。

第11回 展開図

展開図の基礎と正六面体、正八面体の展開図の見方を習得する。

第12回 展開図

正十二面体、正二十面体の展開図と展開図の応用問題について考える。

第13回 資料解釈

資料解釈の考え方について。

第14回 資料解釈

計算の簡易化について。

第15回 資料解釈

特殊な資料の読み方について。

2022年度 前期

2.0単位

数的思考 B

中村 光宏

<授業の方法>

講義 演習

<授業の目的>

この科目は、全学のDPに示す、幅広い知識を活用して

さまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができることを目指す。

また、この科目の担当者は資格試験予備校で講師を務めた、実務経験のある教員である。従って、公務員試験、SPI等適性試験で必要となる数的処理の考え方や処理方法について、就職試験の対策も兼ねた講義を進めていく。

<到達目標>

数的処理の基本的な解法を身につける。(知識)

図形や資料に対して苦手意識をなくす。(習慣)

図や表を使い、論理的に考えて解決することができる。

(技能)

<授業のキーワード>

公務員試験 図形 資料解釈

<授業の進め方>

演習中心の授業で、自ら考え積極的な参加を求める。

<履修するにあたって>

演習講義の為以下のことは一切禁止する。

・私語や内職

・携帯電話の操作

・筆記具、テキストを持たないでの授業参加

・うつ伏して寝る居眠り

授業に受けるにあたって、ノートを用意して積極的に授業に参加し、復習に重点を置くように心がけること

<授業時間外に必要な学修>

授業でやった内容の復習や板書ノートをまとめることに、各回1時間以上の学習を必要とする。

<提出課題など>

授業時に小テストの解説及びポイントを説明する

<成績評価方法・基準>

授業中に実施する確認テスト(100%)【15点×6回、10点×1回】

<テキスト>

特に指定をせずに、授業のときに配布するレジュメを使用する。

<参考図書>

『大卒程度 公務員試験 畑中敦子の判断推理の新兵器！令和版』 東京リーガルマインド

<授業計画>

第1回 ガイダンス

図形問題の全体構造と考え方。

第2回 平面図形の分割構成

図形の組合せ問題について考える。

第3回 軌跡

直線上を動く軌跡と図形の周りを回る軌跡の考え方。

第4回 軌跡

軌跡の長さの求め方や軌跡の応用問題について考える。

第5回 円の回転数・領域

円の内側と外側を回る円の回転数について考える。

第6回 立体図形の分割構成

立体を平面に変換する方法を習得する。

第7回 立体図形の分割構成

前回の授業の応用問題について考える。

第8回 投影図

投影図と影の問題について考える。

第9回 立体図形の切断

立体の切断面の形と立体図形の分割構成との関連について考える。

第10回 正多面体の性質

正多面体の性質を理解し、辺と頂点と面の数の使い方について習得する。

第11回 展開図

展開図の基礎と正六面体、正八面体の展開図の見方を習得する。

第12回 展開図

正十二面体、正二十面体の展開図と展開図の応用問題について考える。

第13回 資料解釈

資料解釈の考え方について。

第14回 資料解釈

計算の簡易化について。

第15回 資料解釈

特殊な資料の読み方について。

2022年度 後期

2.0単位

数的思考 (総合演習)

中村 光宏

< 授業の方法 >

演習・講義

< 授業の目的 >

この科目は、全学のDPに示す、幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができることを目指す。

また、この科目の担当者は資格試験予備校で講師を務めた、実務経験のある教員である。従って、公務員試験、SPI等適性試験で必要となる数的処理の考え方や処理方法について、就職試験の対策も兼ねた講義を進めていく。

< 到達目標 >

今年公務員試験で出題された数的処理の問題を解き、数的思考 ? で学んだ内容を応用させる。

< 授業のキーワード >

数的処理、公務員試験、過去問演習

< 授業の進め方 >

演習形式で今年度の問題を解いていき、その後グループワークを行い解答を作成する。

< 履修するにあたって >

数的思考 ? のうちいくつかは履修していることを前

提とする。

講義を受けるにあたって以下のことは学習効果が無くなるため一切禁止する。

- ・私語や内職
- ・スマートフォンや携帯電話の操作
- ・授業時に筆記具、テキストを持ってこない
- ・うつ伏して寝る居眠り

授業に受けるにあたって、ノートを用意して積極的に授業に参加し、復習に重点を置くように心がけること。

< 授業時間外に必要な学修 >

各授業でレポートの宿題が課され、その作成および授業の復習に2時間程度の学習が必要。

< 提出課題など >

各授業毎に解答作成のレポートを提出し、添削する。レポートを使用して解答集を作成する。

< 成績評価方法・基準 >

授業中に実施する解答作成・レポート (100%)

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス、論理問題

授業での進め方を理解する。論理の基礎を習得する。

第2回? 3回 特別区の問題分析

特別区の採用試験問題を利用し、論理的思考力を身につける。

第4回? 5回 東京都の問題分析

東京都の採用試験問題を利用し、論理的思考力を身につける。

第6回? 8回 裁判所職員の問題分析

裁判所職員の採用試験問題を利用し、論理的思考力を身につける。

第9回? 10回 国家専門職の問題分析

国家専門職の採用試験問題を利用し、論理的思考力を身につける。

第11回? 12回 国家一般職の問題分析

国家一般職の採用試験問題を利用し、論理的思考力を身につける。

第13回? 15回 国家総合職の問題分析

国家総合職の採用試験問題を利用し、論理的思考力を身につける。

2022年度 後期

2.0単位

数的思考

中村 光宏

< 授業の方法 >

演習・講義

< 授業の目的 >

この科目は、全学のDPに示す、幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができることを目指す。

また、この科目の担当者は資格試験予備校で講師を務めた、実務経験のある教員である。従って、公務員試験、SPI等適性試験で必要となる数的処理の考え方や処理方法について、就職試験の対策も兼ねた講義を進めていく。

<到達目標>

今年公務員試験で出題された数的処理の問題を解き、数的思考 ? で学んだ内容を応用させる。

<授業のキーワード>

数的処理、公務員試験、過去問演習

<授業の進め方>

演習形式で今年度の問題を解いていき、その後グループワークを行い解答を作成する。

<履修するにあたって>

数的思考 ? のうちいくつかは履修していることを前提とする。

講義を受けるにあたって以下のことは学習効果が無くなるため一切禁止する。

- ・私語や内職
- ・スマートフォンや携帯電話の操作
- ・授業時に筆記具、テキストを持ってこない
- ・うつ伏して寝る居眠り

授業に受けるにあたって、ノートを用意して積極的に授業に参加し、復習に重点を置くように心がけること。

<授業時間外に必要な学修>

各授業でレポートの宿題が課され、その作成および授業の復習に2時間程度の学習が必要。

<提出課題など>

各授業毎に解答作成のレポートを提出し、添削する。レポートを使用して解答集を作成する。

<成績評価方法・基準>

授業中に実施する解答作成・レポート(100%)

<授業計画>

第1回 ガイダンス、論理問題

授業での進め方を理解する。論理の基礎を習得する。

第2回? 3回 特別区の問題分析

特別区の採用試験問題を利用し、論理的思考力を身につける。

第4回? 5回 東京都の問題分析

東京都の採用試験問題を利用し、論理的思考力を身につける。

第6回? 8回 裁判所職員の問題分析

裁判所職員の採用試験問題を利用し、論理的思考力を身につける。

第9回? 10回 国家専門職の問題分析

国家専門職の採用試験問題を利用し、論理的思考力を身につける。

第11回? 12回 国家一般職の問題分析

国家一般職の採用試験問題を利用し、論理的思考力を身につける。

第13回? 15回 国家総合職の問題分析

国家総合職の採用試験問題を利用し、論理的思考力を身につける。

2022年度 前期

2.0単位

数理科学基礎

中空 大幸

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

この科目は、全学のDPに掲げる、獲得した知識を専門分野に活用する力を身につけることを目的とする。

この科目は、共通教育科目の高大接続分野のひとつで、高校までに学習してきた数学を総復習して、基礎的な数学の知識・能力の確立を目指す。そして、社会に使われている数学、自然現象の解明に使われている数学について学び、大学における専門分野に活用できる数学の知識を得ることを目的とする。

<到達目標>

1. 四則演算の基礎的な計算ができる。
2. 方程式・不等式の解を求めることができる。
3. 場合の数と確率の計算ができる。
4. 高校で習った関数の説明ができて、グラフをかくことができる。
5. 実際に社会に使われている数学を知る。

<授業のキーワード>

方程式・不等式、黄金比、ベイズの定理、関数、符号理論

<授業の進め方>

授業は、前回の復習を兼ねた小テストから始めて、講義を中心に進めます。毎回演習課題があります。

<履修するにあたって>

高校数学の「数学・A」を基に講義をします。この中で高校の時に学習していない内容があっても、授業で説明するのでノートを取ってしっかりと学習してください。わからないことがあれば積極的に質問してください。

<授業時間外に必要な学修>

授業の冒頭に前回の授業内容を確認する小テストを行いますので、目安として毎回1時間程度復習してください。

<提出課題など>

毎回の授業に出席票を配ります。出席票には授業内に出した演習課題の答えを記入して提出してください。次の授業時に演習課題の総評、また必要に応じて補足説明をします。

<成績評価方法・基準>

? テスト10%、授業中の演習30%、中間試験20%、定期試験40%の割合で総合的に評価します。

<テキスト>

なし

<参考図書>

高校までの数学の教科書、問題集、参考書

<授業計画>

第1回 ガイダンス

基本的な計算

授業内容を確認する。中学・高校数学の基礎的な計算の確認をする。

第2回 平方根、連立方程式

平方根の計算、連立方程式の解法を確認する。

第3回 2次方程式

2次方程式の解法の確認をする。黄金比について学ぶ。

第4回 場合の数、順列、組合せ

順列、組合せの計算の方法の確認をする。

第5回 確率

確率の計算の基礎を確認する。

第6回 条件付き確率

条件付き確率の内容を確認して、ベイズの定理を学ぶ。

第7回 2次関数とグラフ

2次関数の基本事項とグラフのかき方を確認する。

第8回 中間試験と前半講義の復習

試験形式で前半講義の内容の確認と復習をします。

第9回 指数関数とグラフ

指数の計算を確認して、グラフの書き方を学習します。

第10回 対数

対数の概念と基本的な計算の？法の確認をします。

第11回 対数関数とグラフ

対数関数の基本事項とグラフの書き方を確認します。

第12回 三角比

三？の定義と基本的な計算の確認をします。

第13回 三角関数とグラフ

三？関数の基本事項とグラフの書き方を確認します。

第14回 2進法、2元体

2進法について確認して、2元体について学びます。

第15回 情報化、符号

情報の符号化、誤り訂正符号の原理について学ぶ。

2022年度 後期

2.0単位

数理科学基礎

中空 大幸

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

この科目は、全学のDPに掲げる、獲得した知識を専門分野に活用する力を身につけることを目的とする。

この科目は、共通教育科目の高大接続分野のひとつで、

高校までに学習してきた数学を総復習して、基礎的な数学の知識・能力の確立を目指す。そして、社会に使われている数学、自然現象の解明に使われている数学について学び、大学における専門分野に活用できる数学の知識を得ることを目的とする。

<到達目標>

1. 数列の基礎的な計算ができる。
2. 微分・積分の基礎的な計算ができる。
3. 正規分布についての知識を得る。
4. 事象に対して統計的に考えることができる。
5. 実際に社会に使われている数学を知る。

<授業のキーワード>

複利計算、極限、微分・積分、正規分布、中心極限定理

<授業の進め方>

授業は、前回の復習を兼ねた小テストから始めて、講義を中心に進めます。毎回演習課題があります。

<履修するにあたって>

高校数学の「数学・B」を基に講義をします。高校の時に学習していない内容があっても、授業で説明するのでノートを取ってしっかりと学習してください。わからないことがあれば積極的に質問してください。

<授業時間外に必要な学修>

授業の冒頭に前回の授業内容を確認する小テストを行いますので、目安として毎回1時間程度復習してください。

<提出課題など>

毎回の授業に出席票を配ります。出席票には授業内に出した演習課題の答えを記入して提出してください。次回の授業時に演習課題の総評、また必要に応じて補足説明をします。

<成績評価方法・基準>

小テスト10%、授業中の演習30%、中間試験20%、定期試験40%の割合で総合的に評価します。

<テキスト>

なし

<参考図書>

高校までの数学の教科書、問題集、参考書

<授業計画>

第1回 ガイダンス、等差数列

授業内容を確認する。等差数列の内容を確認する。

第2回 等比数列と複利計算

等比数列の内容について確認する。複利計算について学ぶ。

第3回 いろいろな数列

シグマの計算を学習する。フィボナッチ数列について学ぶ。

第4回 極限

極限の概念と簡単な計算を学習する。ネイピア数について学ぶ。

第5回 微分1

微分の概念と計算を学習する。

第6回 微分2

3次関数の増減表とグラフのかき方を学習する。

第7回 積分

積分の概念と不定積分の計算を学習する。

第8回 中間試験と前半講義の復習

試験形式で前半講義の内容の確認をする。前半講義の復習をする。

第9回 定積分と面積

定積分の計算と図形の面積の求め方を学習する。

第10回 確率分布

確率分布についての基本事項を学ぶ。

第11回 2項分布と連続型確率分布

2項分布を利用した確率の計算を学習する。離散型と連続型の確率分布の違いを理解する。

第12回 正規分布

正規分布の概念と定義を学習する。

第13回 標準正規分布

正規分布の標準化を学ぶ。標準正規分布を利用した確率の計算を学習する。

第14回 中心極限定理

統計的な考え方を学ぶ。中心極限定理について学習する。

第15回 グラフ理論

一筆書きについて理解し、グラフ理論について学ぶ。

2022年度 前期

1.0単位

Speaking C

E C C

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

Speaking1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、英語4技能の中でも特にスピーキングに特化した技能を育てることを目標としている。本科目は中級者以上を対象としたクラスである。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

- ・ これまで培ってきた基本的な語彙や文法の知識を活用し、簡単な英会話をすることができる。(知識)
- ・ 英語コミュニケーション能力向上のために積極的に参加できる。(態度・習慣)
- ・ スピーキングに必要な語彙学習やその他の学習を授業外でも行うことができる。(態度・習慣)
- ・ 初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

< 授業のキーワード >

スピーキング・リスニング・英会話・語彙・文法

< 授業の進め方 >

クラスのアクティビティに積極的に参加し、?ら積極的に質問に答えることが求められます。このクラスでは英語で効果的にコミュニケーションを取ることを?指します。そのためにも、出来るだけ多く英語を話すように?掛けて下さい。

< 履修するにあたって >

本科目は中級者以上を対象としたクラスです。課題が多くあります。英語が不得意な学生は基礎英語3/4および英語コミュニケーション1/2を履修することを勧めます。

< 授業時間外に必要な学修 >

Students should spend 20 minutes reviewing the material from the previous class.

Students should spend 20 minutes previewing the material for the following class.

Students should prepare for any course assessment with additional review of the target language studied.

Further instruction and feedback will be given in class.

< 成績評価方法・基準 >

Daily Speaking = 35%, Unit Challenges = 15%,

Speaking Evaluations = 15%, Participation = 35%

<テキスト>

Active Skills for Communication 2 出版社:Cengage 3, 410円(税抜) ISBN: 9781424009091

<授業計画>

第1回 Introduction & Orientation, Expectations, Introducing yourself and greet people

第2回 Class Facebook

Share personal information

第3回 Personal Motto

Express opinion

第4回 Personal Motto

Explain what something means

第5回 Tall Tales

Tell a story

第6回 Tall Tales

Describe the past in detail

第7回 Midterm Speaking Evaluation

Based on lessons 2 - 7

第8回 Keep Sakes

Describe something in detail

第9回 Keep Sakes

Talk about the past

第10回 Team Spirit

Make suggestions

第11回 Team Spirit

Express opinions

第12回 Hot Spots

Talk about likes and dislikes

第13回 Hot Spots

Recommending places

第14回 Final Speaking Evaluation

Based on lessons 9-14

第15回 Review and consolidation

Based on lessons 1 - 13

2022年度 後期

2.0単位

スポーツ科学演習 A (ゴルフ)

坂井 隆秀

<授業の方法>

対面授業(実技 講義)

<授業の目的>

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則及び戦

術などを理解する。

Aでは多様なスポーツの経験を養う機会となっている。スポーツ種目の競技特性を主体的に理解し、スポーツの楽しさや喜びを味わう。個人的・集団的活動の中で自主性・自律性を養うことができる。

<到達目標>

競技特性を理解する。

スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。

運動習慣を身につける。

<授業の進め方>

実技と講義で進めます。

<履修するにあたって>

ゴルフ手袋(右利きは左手用、左利きは右手用)を各自持参すること。

授業内容は、状況に応じ変更する場合があります。

<授業時間外に必要な学修>

ゴルフプレー中の移動方法は基本「歩行」である。そのため、ウォーキングやジョギングを行い、基礎体力の維持増進に努めること。(30分程度)

<提出課題など>

ゴルフプレーを円滑に実施するためのルール・マナーについて理解し、習得しているかレポートの提出を課します。提出されたレポートに対してコメントをつけて返却します。

<成績評価方法・基準>

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート30%で評価する。(競技種目などによって評価基準が異なることもある。)

<テキスト>

適宜プリント(資料)を配布する。

<参考図書>

必要に応じて紹介する。

<授業計画>

第1回 (講義)ガイダンス

授業の目的、到達目標、成績評価方法・基準などについて理解する。

その他受講についての諸注意について理解する。

天候により授業内容を変更することもある。

第2回 (講義)ゴルフの歴史、用具、マナーなど

ゴルフの歴史、用具、ルール、マナーなどについて学ぶ。

第3回 正しいゴルフスウィングの定義

1.スウィングの原理、2.グリップ、3.エイムとセットアップなどについて学び実践する。

第4回 正しいゴルフスウィングの定義

1.スウィングの原理、2.グリップ、3.エイムとセットアップなどについて学び実践する。

第5回 (講義)スウィングの理論

正しいスウィング理論について学ぶ。

第6回 (実技)スウィングのマスター
1. クラブの機能、2. アイアンクラブ、3. ウッドクラブについて学び実践する。

第7回 (実技)スウィングのマスター
1. クラブの機能、2. アイアンクラブ、3. ウッドクラブについて学び実践する。

第8回 (実技)スウィングのマスター
1. クラブの機能、2. アイアンクラブ、3. ウッドクラブについて学び実践する。

第9回 (講義)イメージトレーニング
のプロゴルファーレッスンビデオを見て技術を習得する。

第10回 (実技)スウィングのマスター
1. フルスウィング (1) ショートアイアン (2) ミドルアイアン (3) ドライバー
2. コントロールスウィング (1) アプローチショット (2) パンカーショット (3) パッティングを経験する。

第11回 (実技)スウィングのマスター
1. フルスウィング (1) ショートアイアン (2) ミドルアイアン (3) ドライバー
2. コントロールスウィング (1) アプローチショット (2) パンカーショット (3) パッティングを経験する。

第12回 (実技)スウィングのマスター
1. フルスウィング (1) ショートアイアン (2) ミドルアイアン (3) ドライバー
2. コントロールスウィング (1) アプローチショット (2) パンカーショット (3) パッティングを経験する。

第13回 (実技)スウィングのマスター
1. フルスウィング (1) ショートアイアン (2) ミドルアイアン (3) ドライバー
2. コントロールスウィング (1) アプローチショット (2) パンカーショット (3) パッティングを経験する。

第14回 (実技)スウィングのマスター
1. フルスウィング (1) ショートアイアン (2) ミドルアイアン (3) ドライバー
2. コントロールスウィング (1) アプローチショット (2) パンカーショット (3) パッティングを経験する。

第15回 (講義)ゴルフの特性など
この授業の総括を行う。特に、講義と実技を通して、ゴルフの特性を理解することができたかを確認する。

2022年度 後期

2.0単位

スポーツ科学演習 A (卓球)

林 直也

< 授業の方法 >

実習 (対面授業)

< 授業の目的 >

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集团的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Aでは多様なスポーツ経験を養う機会となっている。スポーツ種目の競技特性を主体的に理解し、スポーツの楽しさや喜びを味わう。個人的・集团的活動の中で自主性・自律性を養うことができる。

< 到達目標 >

・競技特性を理解する。

・スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。

・運動習慣を身につける。

< 授業の進め方 >

対面形式で行う。

< 履修するにあたって >

第1回目の授業はガイダンスを行います。

質問等は、gn151232@ge.kobegakuin.ac.jp まで

< 授業時間外に必要な学修 >

TV中継やインターネット上の動画などで卓球の試合、基本技術を視聴する機会を設け、ゲーム展開や競技特性、ルールなどについて予習・復習を行う。

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート30%で評価する。競技種目などによって評価基準が異なることもある。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス・評価説明

注意事項の説明、原簿記入を行う。

第2回 卓球の基本技術

基本技術 (フォアハンド、バックハンド)

第3回 卓球の基本技術

基本技術 (スマッシュ・レシーブ)

第4回 シングルスゲーム

チャンピオンゲームを行う。

できるだけ多くの履修生とゲームをすることでコミュニケーションを図る。

第5回 シングルスゲーム

技能レベル別のグループ分けのためのゲームを行う。

第6回 シングルスゲーム

競技レベルごとに分かれ、シングルのゲームを行う。

第7回 シングルスゲーム

競技レベルごとに分け、シングルのゲームを行う。この結果を踏まえて、再度グループ分けを行う。

第8回 卓球のルール、審判法、現状説明

講義形式で卓球のルール、審判法を学ぶ。また、卓球の競技人口、観戦者数等の現状について学ぶ。

第9回 講義、グループワーク

卓球の競技人口を増加させるためのアイデア、企画をグループワークを通して考える。

第10回 講義、グループワーク

卓球の競技人口増加のためのアイデア、企画について発表を行い、考えたアイデアを共有する。

第11回 ダブルスゲーム

グループ内でペアを組み、他グループのペアとダブルスのゲームを行う。

第12回 ダブルスゲーム

グループ内でペアを組み、他グループのペアとダブルスのゲームを行う。

第13回 ダブルスゲーム

グループ内でペアを組み、他グループのペアとダブルスのゲームを行う。

第14回 ダブルスゲーム

グループ内でペアを組み、他グループのペアとダブルスのゲームを行う。

第15回 実技試験

実技試験を行う。

2022年度 後期

2.0単位

スポーツ科学演習 A (バレーボール)

渡邊 和香

< 授業の方法 >

対面授業 (実技or演習)

< 授業の目的 >

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術

などを理解する。

Aでは多様なスポーツ経験を養う機会となっている。スポーツ種目の競技特性を主体的に理解し、スポーツの楽しさや喜びを味わう。個人的・集団的活動の中で自主性・自律性を養うことができる。

< 到達目標 >

- ・競技特性を理解する。
- ・スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。
- ・運動習慣を身につける。

< 授業の進め方 >

基本的に実技授業を中心におこないます。

< 履修するにあたって >

毎回、授業開始時に出席をとる。
遅刻は授業の特性上、他の出席者に迷惑がかかるので慎むこと。

ボール、ゼッケンの準備・後片付け等を積極的に行うこと。

出席状況によっては、単位を認定できない場合がある。

実技ではスポーツウェア、室内用シューズを必ず着用する。服装違反者は受講させない場合がある。

貴金属類 (アクセサリー、ピアス、時計等) は着用しないこと。

授業計画は、履修者の状況によって変更する場合がある。

< 授業時間外に必要な学修 >

バレーの特性を理解するために、積極的にバレーボールゲームの観戦及び審判のジャッジに注目する。また、ルールブック (ルールとシグナル) を熟読すること。授業終了後には、各自の反省点を見つけ技能を高めるための対策を考えて次回の授業へ備えること。(60分)

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート30%で評価する。

競技種目などによって評価基準が異なることもある。

非登学の学生は、レポート課題の提出100%で評価します。

< テキスト >

適宜プリント配布します。

< 参考図書 >

「わかりやすいバレーボールのルール」(成美堂出版)

「バレーボール6人制競技規則」(財団法人日本バレーボール協会)

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス・評価説明 (講義)

資料配布を行い、授業の評価方法や内容、進め方について説明をおこなう。

第2回 バレーボールの歴史と発展 (講義)

歴史的側面からバレーボール競技の特徴を理解する。

第3回 様々なバレーボール (講義: 第1体育館)

様々なバレーボール（9人制、ビーチバレー、シッティングバレーボール等）について学ぶ

第4回 基礎技術の習得

コートづくりとボールハンドリング

第5回 基礎技術の習得

パス技術・レシーブとトス技術の獲得 簡易ゲーム

第6回 基礎技術の習得

スパイク及びサーブ・サーブレシーブ技術の獲得 簡易ゲーム

第7回 組織プレイの習得

1対1、2対2、3対3のミニゲーム

第8回 組織プレイの習得

3対3、6対6のミニゲーム

第9回 組織プレイの習得

コンビネーション攻撃を使った6対6のゲーム

第10回 応用技術の習得

スパイクレシーブとブロック技術の獲得

第11回 運営計画と審判技術の獲得（講義）

大会運営についてと主審・副審・線審の役割について理解する。

第12回 大会運営の実際（リーグ戦）

グループによる試合及び試合運営

第13回 大会運営の実際（リーグ戦）

グループによる試合及び試合運営

第14回 大会運営の実際（リーグ戦）

グループによる試合及び試合運営

第15回 まとめ及び実技テスト

授業の総括、スキルテスト及びレポート課題

2022年度 後期

2.0単位

スポーツ科学演習 A（ヨガ）

雄谷 昌子

< 授業の方法 >

対面授（業実技、講義）

< 授業の目的 >

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Aでは多様なスポーツ経験を養う機会となっている。スポーツ種目の競技特性を主体的に理解し、スポーツの楽しさや喜びを味わう。個人的・集団的活動の中で自主性・自律性を養うことができる。

< 到達目標 >

- ・競技特性を理解する。
- ・スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。
- ・運動習慣を身につける。

< 授業の進め方 >

ライブレッスン形式で、講師の実技デモとイントロダクションで全員一斉に実技を行う。実技とドリルで気付きをシェアリングしながらアクティブラーニングを行う。理論は、実技理論の他に、フィットネス知識や筋解剖学、整体、リハビリ、東洋医学、アーユルベダなどの知識を要約し、一回の授業で一項目を解説する。

< 履修するにあたって >

トレーニングウェアを着用する。携帯電話は片付けて（実技）授業に集中する。原則的には見学は無し、やむを得ない理由がある場合は要相談。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業での内容を復習し、実技を自己のコンディションワークとして活用する。

dotcampasより参考資料（実技解説動画、理論まとめコラム）を確認する

< 提出課題など >

気付き感想などをまとめレポート提出（授業中又はdotcampasより提出）

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート30%で評価する。競技種目などによって評価基準が異なることもある。

（ヨガ授業では、実技試験を実施せず、毎回の授業での取り組みを重視する）

< テキスト >

実技、理論の要点をまとめた動画をdotcampasより確認する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業受講における注意事項、評価ポイントなど、確認

第2回 ?ヨガとは(概論)

理論

?ヨガの歴史

?現代にも繋がるヨガの知恵(アシュタンガ八支則)

?伝統的ヨガの種類

実技

?フィットネス的な観点で段階的な全身運動

第3回 トラディショナルなヨガを現代人に活かす為のポイント

理論

?フィットネス、リハビリ、医療、企業など色々な分野
に活用されるヨガの要素

実技

?フィットネス的な観点、体の構造を踏まえたリズムカ
ルな全身運動

第4回 ヨガの運動による体、メンタル、脳への効果01
理論

?背骨、骨盤、肩甲帯のニュートラルと動き

実技

?ニュートラルな姿勢 01

?3S(スタミナ、ストレンクス、ストレッチ)バランス良
いリズムカルな全身運動 01

第5回 ヨガの運動による体、メンタル、脳への効果02
理論

?呼吸と自律神経

実技

?ニュートラルな姿勢(背骨、骨盤、肩甲帯)02

?3Sバランス良いリズムカルな全身運動02

第6回 ヨガの運動による体、メンタル、脳への効果03
理論

?ヨガの運動による体、メンタル、脳への効果03

実技

?ニュートラルな姿勢(背骨、骨盤、肩甲帯)03

?3S バランス良いリズムカルな全身運動

第7回 整体、コンディショニングワークとしてのヨガ01
理論

?骨盤、股関節、腰椎のメカニズム

実技

?骨盤調整を踏まえた全身運動

第8回 整体、コンディショニングワークとしてのヨガ02
理論

?背骨のメカニズム

実技

?背骨コンディショニングを踏まえたリズムカルな全身運動

第9回 整体、コンディショニングワークとしてのヨガ03
理論

?肩甲帯のメカニズム

実技

?肩甲帯コンディショニングを踏まえたリズムカルな全身運
動

第10回 整体、コンディショニングワークとしてのヨガ 04
理論

?体質学

実技

?背骨、骨盤、肩甲帯のコンディショニングワークを踏ま
えリズムカルな全身運動

第11回 1～10回目までのまとめ

理論

1～10回目までのレビュー

実技

1～10回目までのレビュー

第12回 グローバル時代におけるヨガの活用01

理論

フィットネス、セルフケア、コンディショニング、アーティ
スティック、コミュニケーションなどと融合するヨガの
活用方法。(五感、クリエイティブな発想力、フレキシ
ブルな編集力、適応力) 01

実技

?多様なアプローチ(運動スタイル)の動作。01

?身体の構造的アプローチと機能的動作 01

第13回 グローバル時代におけるヨガの活用02

理論

フィットネス、セルフケア、コンディショニング、アーティ
スティック、コミュニケーションなどと融合するヨガの
活用方法。(五感、クリエイティブな発想力、フレキシ
ブルな編集力、適応力、)02

実技

?色んなアプローチ(運動スタイル)で楽しく動きながら
気付き深める。02

?身体の構造的なことを踏まえ全身バランス良く機能的
に動く 02

第14回 グローバル時代におけるヨガの活用03

理論

フィットネス、セルフケア、コンディショニング、アーティ
スティック、コミュニケーションなどと融合するヨガの
活用方法。(五感、クリエイティブな発想力、フレキシ
ブルな編集力、適応力、) 03

実技

?色んなアプローチ(運動スタイル)で楽しく動きながら
気付き深める。03

?身体の構造的なことを踏まえ全身バランス良く機能的
に動く 03

15回目 まとめ

まとめ

(第1～14回目の内容は、受講反応により一部変更するこ
ともある)

2022年度 後期

2.0単位

スポーツ科学演習A (ヨガ)

雄谷 昌子

<授業の方法>

対面授業(実技、講義)

<授業の目的>

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディ

プロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Aでは多様なスポーツ経験を養う機会となっている。スポーツ種目の競技特性を主体的に理解し、スポーツの楽しさや喜びを味わう。個人的・集団的活動の中で自主性・自律性を養うことができる。

<到達目標>

- ・競技特性を理解する。
- ・スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。
- ・運動習慣を身につける。

<授業の進め方>

ライブレッスン形式で、講師の実技デモとイントロダクションで全員一斉に実技を行う。実技とドリルで気付きをシェアリングしながらアクティブラーニングを行う。理論は、実技理論の他に、フィットネス知識や筋解剖学、整体、リハビリ、東洋医学、アーユルベダなどの知識を要約し、一回の授業で一項目を解説する。

<履修するにあたって>

トレーニングウェアを着用する。携帯電話は片付けて(実技)授業に集中する。原則的には見学は無し、やむを得ない理由がある場合は要相談。

<授業時間外に必要な学修>

授業での内容を復習し、実技を自己のコンディションワークとして活用する。

dotcampasより参考資料(実技解説動画、理論まとめコラム)を確認する

<提出課題など>

気付き感想などをまとめレポート提出(授業中又はdotcampasより提出)

<成績評価方法・基準>

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート30%で評価する。競技種目などによって評価基準が異なることもある。

(ヨガ授業では、実技試験を実施せず、毎回の授業での取り組みを重視する)

<テキスト>

実技、理論の要点をまとめた動画をdotcampasより確認する。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

授業受講における注意事項、評価ポイントなど、確認

第2回 ?ヨガとは(概論)

理論

?ヨガの歴史

?現代にも繋がるヨガの知恵(アシュタンガ八支則)

?伝統的ヨガの種類

実技

?フィットネス的な観点で段階的な全身運動

第3回 トラディショナルなヨガを現代人に活かす為のポイント

理論

?フィットネス、リハビリ、医療、企業など色々な分野に活用されるヨガの要素

実技

?フィットネス的な観点、体の構造を踏まえたリズムカルな全身運動

第4回 ヨガの運動による体、メンタル、脳への効果01

理論

?背骨、骨盤、肩甲骨のニュートラルと動き

実技

?ニュートラルな姿勢 01

?3S(スタミナ、ストレングス、ストレッチ)バランス良いリズムカルな全身運動 01

第5回 ヨガの運動による体、メンタル、脳への効果02

理論

?呼吸と自律神経

実技

?ニュートラルな姿勢(背骨、骨盤、肩甲骨)02

?3Sバランス良いリズムカルな全身運動02

第6回 ヨガの運動による体、メンタル、脳への効果03

理論

?ヨガの運動による体、メンタル、脳への効果03

実技

?ニュートラルな姿勢(背骨、骨盤、肩甲骨)03

?3S バランス良いリズムカルな全身運動

第7回 整体、コンディションワークとしてのヨガ01

理論

?骨盤、股関節、腰椎のメカニズム

実技

?骨盤調整を踏まえた全身運動

第8回 整体、コンディションワークとしてのヨガ02

理論

?背骨のメカニズム

実技

?背骨コンディションを踏まえたリズムカルな全身運動

第9回 整体、コンディションワークとしてのヨガ03

理論

?肩甲骨のメカニズム

実技

?肩甲帯コンディションを踏まえたりズミカルな全身運動

第10回 整体、コンディショニングワークとしてのヨガ 04
理論

?体質学

実技

?背骨、骨盤、肩甲帯のコンディショニングワークを踏まえたりズミカルな全身運動

第11回 1～10回目までのまとめ

理論

1～10回目までのレビュー

実技

1～10回目までのレビュー

第12回 グローバル時代におけるヨガの活用01

理論

フィットネス、セルフケア、コンディショニング、アーティスティック、コミュニケーションなどと融合するヨガの活用方法。(五感、クリエイティブな発想力、フレキシブルな編集力、適応力) 01

実技

?多様なアプローチ(運動スタイル)の動作。01

?身体の構造的アプローチと機能的動作 01

第13回 グローバル時代におけるヨガの活用02

理論

フィットネス、セルフケア、コンディショニング、アーティスティック、コミュニケーションなどと融合するヨガの活用方法。(五感、クリエイティブな発想力、フレキシブルな編集力、適応力、)02

実技

?色んなアプローチ(運動スタイル)で楽しく動きながら気付き深める。02

?身体の構造的なことを踏まえ全身バランス良く機能的に動く 02

第14回 グローバル時代におけるヨガの活用03

理論

フィットネス、セルフケア、コンディショニング、アーティスティック、コミュニケーションなどと融合するヨガの活用方法。(五感、クリエイティブな発想力、フレキシブルな編集力、適応力、) 03

実技

?色んなアプローチ(運動スタイル)で楽しく動きながら気付き深める。03

?身体の構造的なことを踏まえ全身バランス良く機能的に動く 03

15回目 まとめ

まとめ

(第1～14回目の内容は、受講反応により一部変更することもある)

2022年度 後期

2.0単位

スポーツ科学演習 A (バドミントン)

坂井 隆秀

<授業の方法>

対面授業(実技 講義)

<授業の目的>

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則及び戦術などを理解する。

Aでは多様なスポーツの経験を養う機会となっている。スポーツ種目の競技特性を主体的に理解し、スポーツの楽しさや喜びを味わう。個人的・集団的活動の中で自主性・自律性を養うことができる。

<到達目標>

競技特性を理解する。

スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。

運動習慣を身につける。

<授業の進め方>

実技と講義で進めます。

<履修するにあたって>

ビデオ等を使用する場合がある。

授業内容は、状況に応じて変更する場合があります。

<授業時間外に必要な学修>

バドミントンを行うために必要な基礎体力の維持増進のため、ウォーキングやジョギングを行い、また柔軟性の確保のためストレッチングを実施すること。(30分程度)

<提出課題など>

ゲームを円滑に実施するためのルール・マナーについて理解し、習得しているかレポートの提出を課します。提出された課題・レポートに対してコメントをつけて返却します。

<成績評価方法・基準>

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート30%で評価する。(競技種目などによって評価基準が異なることもある。)

<テキスト>

適宜プリント(資料)を配布する。

<参考図書>

必要に応じて紹介する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の目的、到達目標、成績評価方法・基準などについて理解する。

その他受講についての諸注意について理解する。

第2回 (講義) バドミントンの歴史、競技特性など
バドミントンの歴史、競技特性などについて学ぶ。

第3回 (実技) 基礎技術

競技施設、用具、競技の概要について学び実践する。

第4回 (実技) 基礎技術

バドミントンの基礎技術 フォアハンドストローク、バックハンドストロークの技術を習得する。

第5回 (実技) 基礎技術

バドミントンの基礎技術 サービスとフライト等の技術を習得する。

第6回 (講義)

実践に役立つ練習法と主なルール及び試合の進め方などについて学ぶ。

第7回 (実技) 応用技術

シングルス、ダブルスのゲーム展開(班分けの試合及びリーグ戦方式)

第8回 (実技) 応用技術

シングルス、ダブルスのゲーム展開(班分けの試合及びリーグ戦方式)

第9回 (実技) 応用技術

シングルス、ダブルスのゲーム展開(班分けの試合及びリーグ戦方式)

第10回 (実技) 応用技術

シングルス、ダブルスのゲーム展開(班分けの試合及びリーグ戦方式)

第11回 (実技) 応用技術

団体戦のゲーム展開(シングルス、ダブルス、混合ダブルスを含む)

第12回 (実技) 応用技術

団体戦のゲーム展開(シングルス、ダブルス、混合ダブルスを含む)

第13回 (実技) 応用技術

団体戦のゲーム展開(シングルス、ダブルス、混合ダブルスを含む)

第14回 (実技) 応用技術

団体戦のゲーム展開(シングルス、ダブルス、混合ダブルスを含む)

第15回 (講義) まとめ

この授業の総括を行う。特に、講義と実技を通して、バドミントンの特性を理解することができたかを確認する。

2022年度 後期

2.0単位

スポーツ科学演習 A (ソフトボール)

西脇 満

< 授業の方法 >

実習、講義

< 授業の目的 >

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Aでは多様なスポーツの経験を養う機会となっている。スポーツ種目の競技特性を主体的に理解し、スポーツの楽しさや喜びを味わう。個人的・集団的活動の中で自主性・自律性を養うことができる。

< 到達目標 >

- ・競技特性を理解する。
- ・スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。
- ・運動習慣を身につける。

< 授業の進め方 >

実技と講義で進める

< 履修するにあたって >

毎回、授業開始時に出席をとる。

遅刻は授業の特性上、他の出席者の迷惑になるので厳につつしむこと。

教場では積極的な態度で受講すること。授業中は通信機器および電子機器(スマートフォン、カメラ等)の使用を禁止とする。

出席状況が悪く単位認定できない場合がある。

雨天の場合は授業計画の実技と講義を入れ替える場合があるので、注意して対応すること。

新型コロナウイルス感染予防のためマスク、軍手(滑り止めのあるものが良い)は必ず持参。

できればフェイスシールド、携帯用アルコールジェルなどの消毒液も準備できればなお良い。(アルコール消毒液は準備されているが、非常用に)

< 授業時間外に必要な学修 >

ソフトボールのゲームについて実際の試合やテレビおよびWebサイト等で「みる」機会を多くすることが、ひいては試合の競技特性と技術および戦術・ルール等について理解できるようになる。そのための予習・復習を各々

30分程度すること（配布資料等も参考にすること）。

<提出課題など>

ソフトボールについてのレポート提出を行う（詳細は講義中に説明する）。また、講義室でおこなう課題についても出席して提出すること（評価に反映する）。

<成績評価方法・基準>

レポート・課題への取り組み方と提出物の学修内容で100%評価する。

【配点】課題提出（運動用）60点、課題提出（予習復習用）30点、最終レポート10点。

<テキスト>

必要に応じて、適宜プリント（資料）を配布する。

<授業計画>

第1回 講義

（ガイダンス、基礎知識）

・授業の進め方について説明する。

・ソフトボールの歴史と発展、競技特性、攻防の原則、戦術の原則、安全に対する留意点とマナーについて学ぶ。

第2回 講義（基礎知識）

ソフトボールの技術向上や攻防および戦術等について、資料を配布して説明する。またその技術や戦術についてDVDを活用して学ぶ。

第3回 実技（基礎技術）

ボールの握り方と送球および捕球

ピッチャーとキャッチャーの技術と練習

内野手の技術と練習

外野手の技術と練習

打撃の技術と走塁、盗塁の練習

第4回 実技（基礎技術）

ボールの握り方と送球および捕球

ピッチャーとキャッチャーの技術と練習

内野手の技術と練習

外野手の技術と練習

打撃の技術と走塁、盗塁の練習

第5回 実技（基礎技術）

ボールの握り方と送球および捕球

ピッチャーとキャッチャーの技術と練習

内野手の技術と練習

外野手の技術と練習

打撃の技術と走塁、盗塁の練習

第6回 実技（基礎技術）

ボールの握り方と送球および捕球

ピッチャーとキャッチャーの技術と練習

内野手の技術と練習

外野手の技術と練習

打撃の技術と走塁、盗塁の練習

第7回 講義

ゲームの進め方とルールおよび審判法について学び、正式なゲームに備える。

第8回 実技

チーム編成をして対抗戦の実施。

第9回 実技

チーム編成をして対抗戦の実施。

第10回 実技

チーム編成をして対抗戦の実施。

第11回 実技

チーム編成をして対抗戦の実施。

第12回 実技

チーム編成をして対抗戦の実施。

第13回 実技

実技テスト（内容については授業中に、事前に説明する）

第14回 実技

実技テスト（内容については授業中に、事前に説明する）

第15回 講義（ふりかえり）

まとめ（ふり回り）

2022年度 後期

2.0単位

スポーツ科学演習A（テニス）

坂手 比呂志

<授業の方法>

主に実習形式の展開と講義で実施する。

<授業の目的>

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Aでは多様なスポーツの経験を養う機会となっている。スポーツ種目の競技特性を主体的に理解し、スポーツの楽しさや喜びを味わう。個人的・集団的活動の中で自主性・自律性を養うことができる。

<到達目標>

- ・競技特性を理解する。
- ・スポーツの意義や楽しさを理解する。
- ・運動習慣を身につける。
- ・種目の基礎知識と基礎体力等を身につける。

<授業の進め方>

実技と講義で進める。

<履修するにあたって>

毎回、授業開始時に出席をとる。

遅刻は授業の特性上、他の出席者の迷惑になるので厳につつまむこと。

教場では積極的な態度で受講すること。授業中は通信機器および電子機器（スマートフォン、カメラ等）の使用を禁止とする。

出席状況が悪く単位認定できない場合がある。

雨天の場合は授業計画の実技と講義を入れ替える場合があるので、注意して対応すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

テニスのゲームについて実際の試合やテレビおよびWebサイト等で「みる」機会を多くすることが、ひいては試合の競技特性と技術および戦術・ルール等について理解できるようになる。そのための予習・復習を各々30分程度すること（配布資料等も参考にすること）。

< 提出課題など >

テニスについてのレポート提出を義務づける（詳細は講義中に説明する）。また、講義室でおこなう課題についても出席して提出すること（評価に反映する）。

レポートおよび課題等については、適宜「解答例」を示してコメントする。

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート30%で評価する（競技種目などによって評価基準が異なることもある）。

< テキスト >

使用しない。適宜プリント（資料）を配布する。

< 参考図書 >

必要に応じて紹介する。

< 授業計画 >

第1回（講義・ガイダンス）

・授業の進め方について説明する。

・テニスの歴史と発展、競技特性、プレーの原則的な考え方、戦術の基本的な考え方、テニスのマナー、安全に対する留意点等について学ぶ。

第2回（講義）

テニスの技術向上や攻防および戦術等について、資料を配布して説明する。またその技術や戦術についてDVDを活用して学ぶ。

第3回（実技）

講義で説明した技術の実際（グループで活動）

・基礎技術：グリップの理解 [ウェスタングリップ・イースタングリップ・コンチネンタルグリップ]、グランドストローク [フォアハンド・バックハンド]。

第4回（実技）

講義で説明した技術の実際（グループで活動）

・基礎技術：ボールのコントロール [トップスピン系・スライス系] ボールの回転。

第5回（実技）

技術の実際（ と の復習）。

第6回（実技）

技術の実際

・サービス [フラットサービス・スピンサービス、サー

ビスダッシュ]。

・アプローチ、スマッシュ、ボレー。

第7回（講義）

ゲームの進め方とルールおよび審判法について学び、正式なゲームに備える。

第8回（実技）

ゲーム シングルス1回目の実施。

第9回（実技）

ゲーム シングルス2回目の実施。

：次回からのダブルスに必要な攻防について、予習しておくこと。

第10回（実技）

ゲーム ダブルス1回目の実施。

第11回（実技）

ゲーム ダブルス2回目の実施。

第12回（実技）

ゲーム ダブルス総当たり戦の実施。

第13回（実技）

実技テスト（内容については授業中に、事前に説明する）。

第14回（実技）

ゲームシングルスおよびダブルスの実施。

第15回（講義）

・まとめ（ふり返し）。

（授業計画について）

授業計画は履修者の到達度に応じて、授業計画を変更する場合がある。

また、雨天の場合は実技と講義を入れ替えて、実施する場合がある。

2022年度 後期

2.0単位

スポーツ科学演習 A（バレーボール）

林 直也

< 授業の方法 >

実習（対面授業）

< 授業の目的 >

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Aでは多様なスポーツ経験を養う機会となっている。スポーツ種目の競技特性を主体的に理解し、スポーツの楽しさや喜びを味わう。個人的・集団的活動の中で自主性・自律性を養うことができる。

<到達目標>

- ・競技特性を理解する。
- ・スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。
- ・運動習慣を身につける。

<授業の進め方>

対面形式で行う。

<履修するにあたって>

第1回目の授業はガイダンスを行います。

質問等は、gn151232@ge.kobegakuin.ac.jp まで

<授業時間外に必要な学修>

TV中継などでバレーボールの試合を観戦する機会を設け、ゲーム展開や競技特性、ルールなどについて予習・復習を30分程度行う。

<成績評価方法・基準>

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート30%で評価する。競技種目などによって評価基準が異なることもある。

<授業計画>

第1回 ガイダンス・評価説明

注意事項の説明、原簿記入を行う。

第2回 バレーボールの基礎技術

ソフトバレーボールを使ったゲームを行うことにより、つなぐ意識を養う。

第3回 バレーボールの基礎技術

トスとスパイクを習得する。

第4回 バレーボールの基礎技術

トスとスパイクを習得する。

第5回 バレーボールの基礎技術

サーブとスパイクを習得する。

第6回 ゲーム

グループに分かれ、リーグ戦を行う。

第7回 ゲーム

グループに分かれ、リーグ戦を行う。

第8回 講義

スポーツの歴史、体育との違い、バレーボールのルールや競技人口について講義を行う。

第9回 講義・グループワーク

バレーボールの現状（実施者人口、観戦者人口）改善のためのアイディア検討

第10回 グループ発表

バレーボールの現状（実施者人口、観戦者人口）改善のためのアイディアの発表

第11回 ゲーム

1回目のリーグ戦を踏まえ、グループを再編成した上でリーグ戦を行う。

第12回 ゲーム

グループに分かれ、リーグ戦を行う。

第13回 ゲーム

グループに分かれ、リーグ戦を行う。

第14回 実技試験に向けた練習

実技試験の課題について、各自練習を行う。

第15回 実技試験・まとめ

実技試験および授業全体のまとめ、総括を行う。

2022年度 後期

2.0単位

スポーツ科学演習A（バスケットボール）

伊藤 淳

<授業の方法>

対面授業：実技・講義

<授業の目的>

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Bでは、主体的により高い技能の習得を目指し、競技規則を理解し、攻防の仕方を考えてゲームを行えるようにする。個人的・集団的活動の中で協調性・責任感を養うことができる。

<到達目標>

- ・技能を向上させるとともに競技規則および戦術を理解する。
- ・スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。
- ・運動習慣を身につける。

<授業の進め方>

実技と講義で進めます。

<授業時間外に必要な学修>

授業内容について、図書館やインターネットから情報を収集し、次回の授業へ備えてください（1時間程度）。

また、授業終了後は、実施内容と次回の課題をまとめてください（1時間程度）。

<提出課題など>

レポート課題については、コメントをつけて返却する。

<成績評価方法・基準>

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート30%で評価する。競技種目などによって評価基準が異なることも

ある。

非登学の学生についてはレポート課題等100%で評価する。

<授業計画>

第1回 講義

ガイダンス

第2回 実技

ボールハンドリング1

- ・パス系のボールハンドリング
- ・ドリブルシュート
- ・アウトナンバープレイ

第3回 実技

ボールハンドリング2

- ・2ボールでのボールハンドリング
- ・ドリブルシュート
- ・アウトナンバープレイ(2対1)

第4回 実技

ドリブル1

- ・各種ドリブルチェンジ
- ・ランニングシュート
- ・アウトナンバープレイ

第5回 実技

ドリブル2

- ・ドリブルチェンジの連動
- ・ランニングシュート
- ・アウトナンバープレイ

第6回 実技

アウトナンバープレイ1

- ・2対1
- ・ランニングシュート
- ・ゲーム

第7回 実技

アウトナンバープレイ2

- ・3対2
- ・ランニングシュート
- ・ゲーム

第8回 講義

バスケットボールのルールと審判法、歴史

第9回 講義

映像から見る、技術、戦術

第10回 実技

オープンナンバープレイ1

- ・1対1、2対2
- ・各種レイアップシュート
- ・セットシュート
- ・ゲーム

第11回 実技

オープンナンバープレイ2

- ・2対2、3対3
- ・各種レイアップシュート
- ・セットシュート
- ・ゲーム

第12回 実技

オープンナンバープレイ3

- ・3対3、4対4
- ・各種レイアップシュート
- ・ジャンプシュート
- ・ゲーム

第13回 実技

ゲーム1

- ・フリーランスオフェンス
- ・各種レイアップシュート
- ・シュート練習

第14回 実技

ゲーム1

- ・セットオフェンス
- ・各種レイアップシュート
- ・シュート練習

第15回 講義

授業全体のまとめ、総括。

2022年度 後期

2.0単位

スポーツ科学演習A (バドミントン)

田路 秀樹

<授業の方法>

演習(対面授業)

<授業の目的>

この科目は、健康科学分野のひとつである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体的運動の実践による技術の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Aでは多様なスポーツ経験を養う機会となっている。スポーツ種目の競技特性を主体的に理解し、スポーツの楽しさや喜びを味わう。個人的・集団的活動の中で、自主性・自律性なども養うことができる。

<到達目標>

- ・競技特性を理解する。
- ・スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。
- ・運動習慣を身につける。

<授業の進め方>

基本的に実技を中心に授業を進めますが、理論について講義も行います。

<履修するにあたって>

毎回、授業開始時に出席をとる。

遅刻は授業の特性上、他の出席者に迷惑がかかるので慎むこと。

実技の授業は、積極的に参加すること。

出席状況によっては、単位を認定できない場合がある。

<授業時間外に必要な学修>

バドミントンのゲームを見る機会を増やし、試合の戦術について理解する。

また、前回学んだの技術を30分程度復習し授業に臨む。

<提出課題など>

・バドミントンに対する課題についてレポートを提出してもらおう。

・提出されたレポートに対しては、教員よりコメントをフィードバックする。

・与えられた実技課題を習得する。

・積極的に試合を行う。

<成績評価方法・基準>

成績基準：授業目的、到達目標に記載する能力の到達度に応じて成績を与える。

成績評価の方法：レポート課題（25%）、実技テスト（25%）、試合への取り組み（50%）で

評価する。

<テキスト>

資料を配布する。

<参考図書>

大束忠司 『見るだけでうまくなるバドミントンの基礎』 ベースボールマガジン社 2019年

藤本ホセマリ 『バドミントンの戦い方』 ベースボールマガジン社 2018年

<授業計画>

第1回 ガイダンス（講義）

授業の進め方を説明する

第2回 個人技術習得1（講義+実技）

バドミントンにおける基礎技術について解説する

第3回 個人技術の習得2（実技）

ドライブとハイクリア技術の習得

第4回 個人技術の習得3（実技）

スマッシュ技術の習得

第5回 個人技術の習得4（実技）

ドロップ技術の習得

第6回 個人技術の習得5（実技）

ヘアピン技術の習得

第7回 個人技術の応用1（実技）

ハイクリアとスマッシュの連続技術の習得

第8回 個人技術の応用2（実技）

ドロップとヘアピンの連続技術の習得

第9回 個人技術の応用3（実技）

サーブ技術の習得とシングルでのゲーム説明

第10回 個人技術の応用4（実技）

ハーフコートを使ったシングルでのゲーム

第11回 ダブルス技術の習得1（講義+実技）

ダブルスのゲーム方法及び戦術を解説する

第12回 ダブルス技術の習得2（実技）

ダブルスの攻撃・守備の習得、ドロップ、ヘアピン連続のテスト

第13回 ダブルス技術の習得3（実技）

ダブルスでのリーグ戦、ドロップ、ヘアピン連続のテスト

第14回 ダブルス技術の習得4（実技）

ダブルスでのリーグ戦

第15回 授業のまとめ（講義）

試合における個人成績等の発表及びまとめ

2022年度 後期

2.0単位

スポーツ科学演習 A（サッカー）

木谷 織信

<授業の方法>

「実技」と「講義」

<授業の目的>

この科目は、スポーツ科学分野のひとつである。全学ディプロマポリシーに示す。広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義内容を実技で実践する形式をとっている。科目構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Aでは多様なスポーツ経験を養う機会となっている。スポーツ種目の競技特性を主体的に理解し、スポーツを楽しむことや喜びを味わう。個人的。集団的活動の中で自主的・自律性を養う。

<到達目標>

1. 競技特性を理解する。

2. スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。

3. 運動習慣を身につける。

<授業の進め方>

実技と講義で進めます。

<履修するにあたって>

1. 毎回、授業開始時に出席をとる。

2. 遅刻は授業の特性上、他の出席者に迷惑がかかるので慎むこと。

3. 実技ではスポーツウェアを着用する。服装違反者は受講させない場合がある。

4. 準備・後片付けやボールの回収を行なうこと。

5. 出席状況によっては、単位を認定できない場合があ

る。
6. 教場では、積極的な態度で受講すること。授業中は通信機器および電子機器（スマートフォン・カメラ）等の使用を禁止とする。

7. 天候により教場や授業内容を変更することもあるので、注意して対応すること。

*雨天の場合は、教室で基礎知識（歴史、ルール、審判法）について理解する。

8. 動画およびDVD等で基本技術や戦術を理解する。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業終了後に各自の反省点を見つけ技能を高めるための対策を考えて次回の授業へ備えること。図書館やインターネットから情報を収集するための予習・復習を30分程度すること。

< 提出課題など >

適宜に連絡します。

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート30%で評価する。左記は必須である。

競技種目によって評価基準が異なる場合がある。

< テキスト >

適宜プリントを配布する。

< 参考図書 >

（財）日本サッカー協会（2002）、サッカー指導教本、サンメッセ印刷

< 授業計画 >

開講科目概要

「チームで働く」共通の目標のもと一人一人が、それぞれの役割（攻撃・守備の戦術）と責任を果たすことで、一丸となって取り組みれば（協働体制）ひとりが行うより、はるかな大きな業績を残すことができる。

第1回 講義

授業の目的、到達目標、授業の進め方、成績評価方法・基準などについて理解する。

第2回 実技

身体ほぐしと基本技術および施設用具等について理解する。

第3回 実技

（ボールに慣れる）

ボール慣れに慣れることを主題にし、ゲームを実施する。

第4回 実技

（基礎技術）

キック・ドリブル、パスコントロール等の技術を習得することを目指す。ゲームを実施する。

第5回 実技

（ゲーム）

習得した技能を生かし、ハーフコートでゲームを実施する。

第6回 実技

（ゲーム）

習得した技能を生かし、ハーフコートでゲームを実施する。

第7回 講義（教室）

動画を鑑賞し、基礎技術を理解する。

第8回 講義（教室）

動画を鑑賞し、戦術を理解する。

第9回 実技

（ゲーム）

4つのチームに分かれて、リーグ戦を実施する。

* 攻撃における個人戦術を理解する。

第10回 実技

（ゲーム）

4つのチームに分かれて、リーグ戦を実施する。

* 守備における個人戦術を理解する。

第11回 実技

（ゲーム）

新しくチームを作り、トーナメント戦を実施する。

第12回 実技

（ゲーム）

トーナメント戦を実施する。

第13回 実技

（ゲーム）

リーグ戦およびトーナメント戦を実施する。

第14回 実技

（ゲーム）

リーグ戦およびトーナメント戦を実施する。

第15回 講義

まとめ

備考

雨天の場合は、教場や授業内容の変更がある。

* 13回目～15回目の授業において、個人の技能が向上したかを判断します。

2022年度 後期

2.0単位

スポーツ科学演習A（バドミントン）

上谷 聡子

< 授業の方法 >

実技・講義

< 授業の目的 >

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Aでは多様なスポーツ経験を養う機会となっている。

スポーツ種目の競技特性を主体的に理解し、スポーツの楽しさや喜びを味わい、個人的・集団的活動の中で自主性・自律性を養うことができることを目的とする。

<到達目標>

1. 競技特性を理解する。
2. スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。
3. 運動習慣を身につける。

<授業のキーワード>

バドミントン、ルール、シングルス、ダブルス

<授業の進め方>

講義と実技とで進めます。

なお、授業の進行状況によって、授業計画を変更する場合があります。

<履修するにあたって>

室内用シューズを必ず準備すること。室外で履いたシューズの底を拭いて使用するのは禁止する。また、運動できる服装に更衣してから実技を受けるように。なお、電車遅延等のやむを得ない遅刻以外はしないこと。

<授業時間外に必要な学修>

バドミンントンの試合やニュースなどに興味を持ち、授業時間外に30分程度は見たり聞いたりすること。また、運動習慣を身に付けるためにも、授業時間外に週2回・1回につき30分以上は身体を動かすことを心がける。

<提出課題など>

講義実施時にレポートを課し、コメントを付けて返却する。

<成績評価方法・基準>

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート30%

<参考図書>

岸 一弘『バドミンントンの理論と実技 初歩から基本技術の指導まで』大学教育出版、2019年

中口直人『知ってる？バドミンントン（クイズでスポーツがうまくなる）』ベースボール・マガジン社、2017年

<授業計画>

第1回（講義）

ガイダンス

バドミンントンの歴史

授業の目的、注意事項、成績評価方法などについて説明する。

自身の運動習慣について振り返る。

バドミンントンの歴史について概説する。

第2回（実技）

バドミンントンの基礎技術

（シャトル打ち、オーバーヘッドストローク、アンダーハンド）

実技テストの項目である、バドミンントンの技術を習得する。

第3回（実技）

バドミンントンの基礎技術

（サイドハンド、サービス、スマッシュ）

基本的な技術に加えて、ゲーム時に必要となる技術を習得する。

第4回（講義と実技）

シングルス

（総当たり戦）

シングルスのルールを理解する。

シングルスの総当たり戦を実施する。

第5回（実技）

シングルス

（2つのグループに分かれての総当たり戦）

2つのグループに分かれて、総当たり戦を実施する。

第6回（実技）

シングルス

2~4つのリーグに分かれて、リーグ戦を実施する。

第7回（講義）

バドミンントンのルール

体力について

バドミンントンのルールについて説明する。

様々な要素から構成される「体力」について学び、自身の運動習慣についても振り返る。

第8回（講義と実技）

ダブルス

（総当たり戦）

ダブルスのルールを理解する。

ダブルスの総当たり戦を実施する。

第9回（実技）

ダブルス

（2つのグループに分かれての総当たり戦）

2つのグループに分かれて、総当たり戦を実施する。

第10回（実技）

ダブルス

（リーグ戦）

2つのリーグに分かれて、リーグ戦を実施する。

第11回（実技）

ダブルス

（リーグ戦・入れ替え）

入れ替え戦を行い、新しいリーグでのゲームを実施する。

第12回（実技）

団体戦（前半）

8つのグループを自由に作り、メンバーの中でシングルス・ダブルス選手を選出し、団体戦を実施する。

第13回（実技）

団体戦（後半）

8つのグループを自由に作り、メンバーの中でシングルス・ダブルス選手を選出し、団体戦を実施する。

第14回（実技）

ダブルス

(総当たり戦)
くじ引きによってペアを決定し、総当たり戦を行う。

第15回 (講義と実技)

ふりかえり

ゲーム及び授業全体のまとめや総括を行う。

2022年度 後期

2.0単位

スポーツ科学演習 A (テニス)

坂手 比呂志

< 授業の方法 >

主に実習形式の展開と講義で実施する。

< 授業の目的 >

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Aでは多様なスポーツの経験を養う機会となっている。スポーツ種目の競技特性を主体的に理解し、スポーツの楽しさや喜びを味わう。個人的・集団的活動の中で自主性・自律性を養うことができる。

< 到達目標 >

- ・競技特性を理解する。
- ・スポーツの意義や楽しさを理解する。
- ・運動習慣を身につける。
- ・種目の基礎知識と基礎体力等を身につける。

< 授業の進め方 >

実技と講義で進める。

< 履修するにあたって >

毎回、授業開始時に出席をとる。

遅刻は授業の特性上、他の出席者の迷惑になるので厳につつしむこと。

教場では積極的な態度で受講すること。授業中は通信機器および電子機器(スマートフォン、カメラ等)の使用を禁止とする。

出席状況が悪く単位認定できない場合がある。

雨天の場合は授業計画の実技と講義を入れ替える場合があるので、注意して対応すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

テニスのゲームについて実際の試合やテレビおよびWebサイト等で「みる」機会を多くすることが、ひいては試合の競技特性と技術および戦術・ルール等について理解できるようになる。そのための予習・復習を各々30分程度すること(配布資料等も参考にすること)。

< 提出課題など >

テニスについてのレポート提出を義務づける(詳細は講義中に説明する)。また、講義室でおこなう課題についても出席して提出すること(評価に反映する)。

レポートおよび課題等については、適宜「解答例」を示してコメントする。

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート30%で評価する(競技種目などによって評価基準が異なることもある)。

< テキスト >

使用しない。適宜プリント(資料)を配布する。

< 参考図書 >

必要に応じて紹介する。

< 授業計画 >

第1回 (講義・ガイダンス)

- ・授業の進め方について説明する。
- ・テニスの歴史と発展、競技特性、プレーの原則的な考え方、戦術の基本的な考え方、テニスのマナー、安全に対する留意点等について学ぶ。

第2回 (講義)

テニスの技術向上や攻防および戦術等について、資料を配布して説明する。またその技術や戦術についてDVDを活用して学ぶ。

第3回 (実技)

講義で説明した技術の実際 (グループで活動)

- ・基礎技術：グリップの理解 [ウエスタングリップ・イースタングリップ・コンチネンタルグリップ]、グランドストローク [フォアハンド・バックハンド]。

第4回 (実技)

講義で説明した技術の実際 (グループで活動)

- ・基礎技術：ボールのコントロール [トップスピン系・スライス系] ボールの回転。

第5回 (実技)

技術の実際 (と の復習)。

第6回 (実技)

技術の実際

- ・サービス [フラットサービス・スピンサービス、サービスダッシュ]。
- ・アプローチ、スマッシュ、ボレー。

第7回 (講義)

ゲームの進め方とルールおよび審判法について学び、正式なゲームに備える。

第8回 (実技)

ゲーム シングルス1回目の実施。

第9回 (実技)

ゲーム シングルス2回目の実施。

: 次回からのダブルスに必要な攻防について、予習しておくこと。

第10回 (実技)

ゲーム ダブルス1回目の実施。

第11回 (実技)

ゲーム ダブルス2回目の実施。

第12回 (実技)

ゲーム ダブルス総当たり戦の実施。

第13回 (実技)

実技テスト(内容については授業中に、事前に説明する)。

第14回 (実技)

ゲームシングルスおよびダブルスの実施。

第15回 (講義)

・まとめ(ふり返り)。

(授業計画について)

授業計画は履修者の到達度に応じて、授業計画を変更する場合があります。

また、雨天の場合は実技と講義を入れ替えて、実施する場合があります。

2022年度 後期

2.0単位

スポーツ科学演習 A (バスケットボール)

伊藤 淳

<授業の方法>

対面授業：実技・講義

<授業の目的>

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Aでは多様なスポーツ経験を養う機会となっている。スポーツ種目の競技特性を主体的に理解し、スポーツの楽しさや喜びを味わう。個人的・集団的活動の中で自主性・自律性を養うことができる。

<到達目標>

- ・競技特性を理解する。
- ・スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。
- ・運動習慣を身につける。

<授業の進め方>

実技と講義で進めます。

<授業時間外に必要な学修>

授業内容について、図書館やインターネットから情報を収集し、次回の授業へ備えてください(1時間程度)。

また、授業終了後は、実施内容と次回の課題をまとめてください(1時間程度)。

<提出課題など>

レポート課題については、コメントをつけて返却する。

<成績評価方法・基準>

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート30%で評価する。競技種目などによって評価基準が異なることもある。

<授業計画>

第1回 講義

ガイダンス

第2回 実技

ボールハンドリング 1

ボールハンドリング 1

- ・1ボールでのボールハンドリング
- ・ドリブルシュート
- ・アウトナンバープレイ(2対1)

第3回 実技

ボールハンドリング 2

- ・2ボールでのボールハンドリング
- ・ドリブルシュート
- ・アウトナンバープレイ(2対1)

第4回 実技

ボールハンドリング 3

- ・パス系のボールハンドリング
- ・ドリブルシュート
- ・アウトナンバープレイ(2対1)

第5回 実技

ドリブル 1

- ・ドリブルチェンジ(クロスオーバー、レッグスルー)
- ・ランニングシュート
- ・アウトナンバープレイ(3対2)

第6回 実技

ドリブル 2

- ・ドリブルチェンジ(ビハインドバック、ロール)
- ・ランニングシュート
- ・アウトナンバープレイ(3対2)

第7回 実技

ドリブル 3

- ・ドリブルチェンジの連動
- ・ランニングシュート
- ・アウトナンバープレイ(3対2)

第8回 講義

バスケットボールのルールと審判法、歴史

第9回 講義

映像から見る、技術、戦術

第10回 実技

パス 1

- ・静止状態でのパス
- ・レイアップシュート(2ステップ、1ステップ、タップ)
- ・1対1
- ・ゲーム

第11回 実技

パス2

- ・動きながらのパス
- ・レイアップシュート(2ステップ、1ステップ、タップ)
- ・1対1
- ・ゲーム

第12回 実技

シュート1

- ・近距離からのセットシュート、ジャンプシュート
- ・レイアップシュート(2ステップ、1ステップ、タップ)
- ・1対1
- ・ゲーム

第13回 実技

シュート2

- ・中距離からのセットシュート、ジャンプシュート
- ・レイアップシュート(2ステップ、ギャロップ、バック)
- ・1対1
- ・ゲーム

第14回 実技

シュート3

- ・3ポイントシュート
- ・レイアップシュート(2ステップ、ギャロップ、バック)
- ・1対1

第15回 講義

授業全体のまとめ、総括。

2022年度 後期

2.0単位

スポーツ科学演習 A (バドミントン)

木谷 織信

< 授業の方法 >

「実技」と「講義」

< 授業の目的 >

この科目は、スポーツ科学分野のひとつである。全学ディプロマポリシーに示す。広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義内容を実技で実践する形式をとっている。科目構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Aでは多様なスポーツ経験を養う機会となっている。スポーツ種目の競技特性を主体的に理解し、スポーツを楽しむことや喜びを味わう。個人的・集団的活動の中で自主的・自律性を養う。

< 到達目標 >

1. 競技特性を理解する。
2. スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。
3. 運動習慣を身につける。

< 授業の進め方 >

実技と講義で進めます。

< 履修するにあたって >

1. 毎回、授業開始時に出席をとる。
2. 遅刻は授業の特性上、他の出席者に迷惑がかかるので慎むこと。
3. 準備や後片付け(ボール、ネット、シャトルの回収)等を積極的に行うこと。
4. 出席状況によっては、単位を認定できない場合がある。
5. 実技ではスポーツウェア、体育館シューズを必ず着用する。
6. 教場では、積極的な態度で受講すること。授業中は通信機器および電子機器(スマートフォン・カメラ)等の使用を禁止とする。
7. バドミントンの基礎知識および戦術を動画およびDVD等で理解する。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業終了後に各自の反省点を見つけ技能を高めるための対策を考えて次回の授業へ備えること。図書館やインターネットから情報を収集するための予習・復習を30分程度すること。

< 提出課題など >

適宜に連絡します。

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート30%で評価する。左記は必須である。

競技種目によって評価基準が異なる場合がある。

< テキスト >

適時プリントを配布する。

< 参考図書 >

松野修二著(2008)、バドミントンパーフェクトマスター、新星出版社、公和印刷

< 授業計画 >

開講科目概要

シャトルコックの特性によってさまざまな軌道を理解する。

・仲間とのコミュニケーションを図り、互いに協力しながらダブルスで成果を上げること。

第1回 講義

授業の目的、到達目標、授業の進め方、成績評価・基準などについて理解する。

第2回 講義・実技

バドミントンの基礎知識（歴史）について理解する。

その後、教場で施設や用具確認後グリップやラケット操作について学ぶ。

*更衣し教室に集まってください。

第3回 実技

（基礎技術）

確実に返球する（ラリーを組み立てるゲームを主とし、半面のゲームを行う）

・基礎技術であるオーバーヘッド（クリア・ドライブ）の技術を習得する。

・アンダーハンド（サービス）を理解する。

・フライトの違いを理解する。

第4回 実技

（基礎技術）

確実に返球する（ラリーを組み立てるゲームを主とし、半面のゲームを行う）

・オーバーヘッド（スマッシュ・ドロップ）ストロークの技術を習得する。

・フライトの違いを理解する。

第5回 実技

（基礎技術）

確実に返球する（ラリーを組み立てるゲームを主とし、半面のゲームを行う）

・フロンコートからのアンダーハンド（ヘアピン・ロブ）ストロークの技術を習得する。

・フライトの違いを理解する。

第6回 講義・実技（シングルス）

シングルのルールを理解する。

全面のシングルスゲームを実施する。

第7回 実技（シングルス）

全面のシングルスゲームを実施する。

第8回 講義・実技（ダブルスゲーム）

ダブルスのゲームを理解する

ダブルスのゲームを実施する。

第9回 実技（ダブルスゲーム）

ダブルスのゲームを実施する。

第10回 実技（ダブルスゲーム）

・団体戦、男子・女子・混合ダブルス戦を行う。

・ペアで協力して成果をあげることを目指す。

第11回 実技（ダブルスゲーム）

・団体戦、男子・女子・混合ダブルス戦を行う。

・ペアで協力して成果をあげることを目指す。

第12回 実技（ダブルスゲーム）

・団体戦、男子・女子・混合ダブルス戦を行う。

・ペアで協力して成果をあげることを目指す。

第13回 実技（ダブルスゲーム）

・団体戦、男子・女子・混合ダブルス戦を行う。

・ペアで協力して成果をあげることを目指す。

第14回 実技（ダブルスゲーム）

・団体戦、男子・女子・混合ダブルス戦を行う。

・ペアで協力して成果をあげることを目指す。

第15回 実技（ダブルスゲーム）

・団体戦、男子・女子・混合ダブルス戦を行う。

・ペアで協力して成果をあげることを目指す。

備考

13回目～15回目の授業において実技テスト（サーブ、ドライブ、クリア）を行う。

2022年度 後期

2.0単位

スポーツ科学演習A（バドミントン）

山下 新樹

<授業の方法>

実技 講義

<授業の目的>

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則及び戦術などを理解する。

Aでは多様なスポーツの経験を養う機会となっている。スポーツ種目の競技特性を主体的に理解し、スポーツの楽しさや喜びを味わう。個人的・集団的活動の中で自主性・自律性を養うことができる。

<到達目標>

競技特性を理解する。

スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。

運動習慣を身につける。

<授業の進め方>

実技と講義で進めます。

<履修するにあたって>

ビデオ等を使用する場合がある。

授業内容は、状況に応じて変更する場合があります。

<授業時間外に必要な学修>

バドミントンを行うために必要な基礎体力の維持増進のため、ウォーキングやジョギングを行い、また柔軟性の確保のためストレッチングを実施すること。（30分程度）

<提出課題など>

ゲームを円滑に実施するためのルール・マナーについて理解し、習得しているかレポートの提出を課します。提

出された課題・レポートに対してコメントをつけて返却します。

<成績評価方法・基準>

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート30%で評価する。(競技種目などによって評価基準が異なることもある。)

<テキスト>

適宜プリント(資料)を配布する。

<参考図書>

必要に応じて紹介する。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

授業の目的、到達目標、成績評価方法・基準などについて理解する。

その他受講についての諸注意について理解する。

第2回 (講義) バドミントンの歴史、競技特性など
バドミントンの歴史、競技特性などについて学ぶ。

第3回 (実技) 基礎技術

競技施設、用具、競技の概要について学び実践する。

第4回 (実技) 基礎技術

バドミントンの基礎技術 フォアハンドストローク、バックハンドストロークの技術を習得する。

第5回 (実技) 基礎技術

バドミントンの基礎技術 サービスとフライト等の技術を習得する。

第6回 (講義)

実践に役立つ練習法と主なルール及び試合の進め方などについて学ぶ。

第7回 (実技) 応用技術

シングルス、ダブルスのゲーム展開(班分けの試合及びリーグ戦方式)

第8回 (実技) 応用技術

シングルス、ダブルスのゲーム展開(班分けの試合及びリーグ戦方式)

第9回 (実技) 応用技術

シングルス、ダブルスのゲーム展開(班分けの試合及びリーグ戦方式)

第10回 (実技) 応用技術

シングルス、ダブルスのゲーム展開(班分けの試合及びリーグ戦方式)

第11回 (実技) 応用技術

団体戦のゲーム展開(シングルス、ダブルス、混合ダブルスを含む)

第12回 (実技) 応用技術

団体戦のゲーム展開(シングルス、ダブルス、混合ダブルスを含む)

第13回 (実技) 応用技術

団体戦のゲーム展開(シングルス、ダブルス、混合ダブルスを含む)

第14回 (実技) 応用技術

団体戦のゲーム展開(シングルス、ダブルス、混合ダブルスを含む)

第15回 (講義) まとめ

この授業の総括を行う。特に、講義と実技を通して、バドミントンの特性を理解することができたかを確認する。

2022年度 後期

2.0単位

スポーツ科学演習A (バスケットボール)

山下 新樹

<授業の方法>

実習(対面授業および遠隔授業併用)

<授業の目的>

この科目は、スポーツ科学分野のひとつである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Aでは多様なスポーツの経験を養う機会となっている。スポーツ種目の競技特性を主体的に理解し、スポーツの楽しさや喜びを味わう。個人的・集団的活動の中で自主性・自律性を養うことができる。

<到達目標>

- ・競技特性を理解する。
- ・スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。
- ・運動習慣を身につける。

<授業の進め方>

実技と講義で進めます。

<履修するにあたって>

ビデオ等を使用する。

<授業時間外に必要な学修>

バスケットボールのゲームについて「みる」機会を増やし、試合の進行状況や特性について理解する参考にしてほしい。そのことが演習AからBへの足掛かりとして役に立つことになる。各単元の予習・復習に各30分程度

<提出課題など>

講義で説明したことの中からレポート提出を義務づけ、コメントを付けて返却する。

<成績評価方法・基準>

授業への参加度40%、実技テスト30%、レポート30%で評価する。(種目によって評価基準が異なることもある。)

<テキスト>

適宜プリント(資料)を配布する。

<授業計画>

第1回 (講義)
 イン트로ダクション(講義概要説明)
 第2回 (実技)
 バasketボールに関する体カトレーニング
 第3回 (実技)
 ボールハンドリングドリル
 第4回 (実技)
 ドリブリングドリル、シューティングドリル
 第5回 (実技)
 パッシングドリル、シューティングドリル
 第6回 (実技)
 ハンディキャップゲーム 3 オン 2
 第7回 (実技)
 ハンディキャップゲーム 4 オン 3
 第8回 (実技)
 スクリメージ 5 オン 5
 第9回 (実技)
 スクリメージ 5 オン 5
 第10回 (講義)
 バasketボールの歴史や起源
 第11回 (講義)
 ビデオ鑑賞による技術・戦術解説。Basketボールの疑問。
 第12回 (実技)
 スクリメージ 5 オン 5 (リーグ戦)
 第13回 (実技)
 スクリメージ 5 オン 5 (リーグ戦)
 第14回 (実技)
 スクリメージ 5 オン 5 (リーグ戦)
 第15回 (講義)
 これまでの授業を振り返り、講義と実技を通してBasketボールの特性を理解できたかを確認する。

 2022年度 後期

2.0単位

スポーツ科学演習 A (バドミントン)

坂手 比呂志

 <授業の方法>

主に実習形式の展開と講義で実施する。

<授業の目的>

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Aでは多様なスポーツの経験を養う機会となっている。

スポーツ種目の競技特性を主体的に理解し、スポーツの楽しさや喜びを味わう。個人的・集団的活動の中で自主性・自律性を養うことができる。

<到達目標>

- ・競技特性を理解する。
- ・スポーツの意義や楽しさを理解する。
- ・運動習慣を身につける。
- ・種目の基礎知識と基礎体力等を身につける。

<授業の進め方>

実技と講義で進める。

<履修するにあたって>

毎回、授業開始時に出席をとる。

遅刻は授業の特性上、他の出席者の迷惑になるので厳につつしむこと。

教場では積極的な態度で受講すること。授業中は通信機器および電子機器(スマートフォン、カメラ等)の使用を禁止とする。

出席状況が悪く単位認定できない場合がある。

<授業時間外に必要な学修>

バドミントンのゲームについて実際の試合やテレビおよびWebサイト等で「みる」機会を多くすることが、ひいては試合の競技特性と技術および戦術・ルール等について理解できるようになる。そのための予習・復習を各々30分程度すること(配布資料等も参考にすること)。

<提出課題など>

バドミントンについてのレポート提出を義務づける(詳細は講義中に説明する)。また、講義室でおこなう課題についても出席して提出すること(評価に反映する)。

レポートおよび課題等については、適宜「解答例」を示してコメントする。

<成績評価方法・基準>

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート30%で評価する(競技種目などによって評価基準が異なることもある)。

<テキスト>

使用しない。適宜プリント(資料)を配布する。

<参考図書>

必要に応じて紹介する。

<授業計画>

第1回 (講義・ガイダンス)

・授業の進め方について説明する。

・バドミントンの歴史と発展、競技特性と競技に必要な施設用具等について学ぶ。

第2回 (講義)

バドミントンの基礎技術と用語について学ぶ。基礎技術についてはDVDを活用する。

第3回 (実技)

講義で説明した基礎技術の実際(ラケットの使い方、サーブの打ち方、フライトの種類等)。

第4回 (実技)

基礎技術の復習（ラケットの使い方、サービスの打ち方、フライトの種類等）。

第5回（実技）

基礎技術の復習（ラケットの使い方、サービスの打ち方、フライトの種類等）。

第6回（実技）

基礎技術から簡易ゲームへ。

第7回（実技）

簡易ゲーム。

第8回（講義）

ゲームの進め方と主なルールについて学び、理解する。

第9回（実技）

- ・簡易ゲームから正式なルールの試合にチャレンジする。
- ・ゲーム（シングルスへ）。

第10回（実技）

ゲーム（シングルス）。

第11回（実技）

ゲーム（ダブルスへ）。

第12回（実技）

ゲーム（ダブルス）。

第13回（実技）

実技テスト（内容については授業中に、事前に説明する）。

第14回（実技）

ゲームシングルスおよびダブルス。

第15回（講義）

- ・まとめ（ふり返り）。

（授業計画について）

授業計画は履修者の到達度に応じて、授業計画を変更する場合があります。

2022年度 後期

2.0単位

スポーツ科学演習 A（バドミントン）

坂手 比呂志

< 授業の方法 >

主に実習形式の展開と講義で実施する。

< 授業の目的 >

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Aでは多様なスポーツの経験を養う機会となっている。スポーツ種目の競技特性を主体的に理解し、スポーツの楽しさや喜びを味わう。個人的・集団的活動の中で自主

性・自律性を養うことができる。

< 到達目標 >

- ・競技特性を理解する。
- ・スポーツの意義や楽しさを理解する。
- ・運動習慣を身につける。
- ・種目の基礎知識と基礎体力等を身につける。

< 授業の進め方 >

実技と講義で進める。

< 履修するにあたって >

毎回、授業開始時に出席をとる。

遅刻は授業の特性上、他の出席者の迷惑になるので厳につしむこと。

教場では積極的な態度で受講すること。授業中は通信機器および電子機器（スマートフォン、カメラ等）の使用を禁止とする。

出席状況が悪く単位認定できない場合がある。

< 授業時間外に必要な学修 >

バドミントンのゲームについて実際の試合やテレビおよびWebサイト等で「みる」機会を多くすることが、ひいては試合の競技特性と技術および戦術・ルール等について理解できるようになる。そのための予習・復習を各々30分程度すること（配布資料等も参考にすること）。

< 提出課題など >

バドミントンについてのレポート提出を義務づける（詳細は講義中に説明する）。また、講義室でおこなう課題についても出席して提出すること（評価に反映する）。

レポートおよび課題等については、適宜「解答例」を示してコメントする。

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート30%で評価する（競技種目などによって評価基準が異なることもある）。

< テキスト >

使用しない。適宜プリント（資料）を配布する。

< 参考図書 >

必要に応じて紹介する。

< 授業計画 >

第1回（講義・ガイダンス）

- ・授業の進め方について説明する。
- ・バドミントンの歴史と発展、競技特性と競技に必要な施設用具等について学ぶ。

第2回（講義）

バドミントンの基礎技術と用語について学ぶ。基礎技術についてはDVDを活用する。

第3回（実技）

講義で説明した基礎技術の実際（ラケットの使い方、サービスの打ち方、フライトの種類等）。

第4回（実技）

基礎技術の復習（ラケットの使い方、サービスの打ち方、フライトの種類等）。

第5回 (実技)

基礎技術の復習 (ラケットの使い方、サービスの打ち方、フライトの種類等)。

第6回 (実技)

基礎技術から簡易ゲームへ。

第7回 (実技)

簡易ゲーム。

第8回 (講義)

ゲームの進め方と主なルールについて学び、理解する。

第9回 (実技)

- ・簡易ゲームから正式なルールの試合にチャレンジする。
- ・ゲーム (シングルスへ)。

第10回 (実技)

ゲーム (シングルス)。

第11回 (実技)

ゲーム (ダブルスへ)。

第12回 (実技)

ゲーム (ダブルス)。

第13回 (実技)

実技テスト(内容については授業中に、事前に説明する)。

第14回 (実技)

ゲームシングルスおよびダブルス。

第15回 (講義)

- ・まとめ(ふり返り)。
- (授業計画について)

授業計画は履修者の到達度に応じて、授業計画を変更する場合がある。

2022年度 後期

2.0単位

スポーツ科学演習 A (卓球)

吉田 美智子

< 授業の方法 >

実習 (対面授業)

< 授業の目的 >

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Aでは多様なスポーツ経験を養う機会となっている。スポーツ種目の競技特性を主体的に理解し、スポーツの楽しさや喜びを味わう。個人的・集団的活動の中で自主性・自律性を養うことができる。

< 到達目標 >

- ・競技特性を理解する。
- ・スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。
- ・運動習慣を身につける。

< 授業の進め方 >

基本は実技で行う

必要に応じて講義を設ける場合もある

< 授業時間外に必要な学修 >

普段の生活の中でも積極的にTV中継や地域の会場などで行なわれる卓球のゲームを鑑賞し、その選手の動きやゲームの進め方、ルールなどを自己学習しておくこと(60分程度)

< 提出課題など >

講義で説明したことの中からレポート提出を義務づける。

学生へのフィードバックとしてレポート内容が課題にそっているものであるか否かをまず採点し、レポート内容の全体評価する。学生はその後の授業で自己の課題を見つけ、より積極的に授業に取り組む意欲を養いたい

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート30%で評価する。競技種目などによって評価基準が異なることもある。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

第一回目はガイダンスです

指定の教室に集合して下さい

授業の進め方について

受講時の諸注意 など

第2回 基礎練習

第2回目授業 実技授業です

運動着に着替え室内スポーツシューズを履いてアリーナ集合です

基本説明(グリップ、構え方、他)卓球道具に慣れる

第3回 基礎練習

フォアハンド

着替えてアリーナに集合です

「体温 風邪症状チェック表」を忘れずに!

証明写真も持参して下さい

第4回 基礎練習

フォアハンド バックハンド

第5回 基礎練習

第6回 応用練習

サーブ、レシーブ、切り替え、スマッシュ

第7回 応用練習

サーブ、レシーブ、切り替え、スマッシュ

第8回 ゲーム

ルール説明 シングルスゲーム

第9回 ゲーム

シングルスゲーム

第10回 ゲーム

ダブルスゲーム

第11回 ゲーム

ダブルスゲーム

第12回 ゲーム

ダブルスゲーム

第13回 ゲーム

ダブルスゲーム

第14回 ゲーム

ダブルスゲーム

第15回 ゲーム

総論

2022年度 後期

2.0単位

スポーツ科学演習 A (卓球)

吉田 美智子

< 授業の方法 >

実習 (対面授業)

< 授業の目的 >

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Aでは多様なスポーツ経験を養う機会となっている。スポーツ種目の競技特性を主体的に理解し、スポーツの楽しさや喜びを味わう。個人的・集団的活動の中で自主性・自律性を養うことができる。

< 到達目標 >

- ・競技特性を理解する。
- ・スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。
- ・運動習慣を身につける。

< 授業の進め方 >

基本は実技で行う

必要に応じて講義を設ける場合もある

< 授業時間外に必要な学修 >

普段の生活の中でも積極的にTV中継や地域の会場などで行なわれる卓球のゲームを鑑賞し、その選手の動きやゲームの進め方、ルールなどを自己学習しておくこと(60分程度)

< 提出課題など >

講義で説明したことの中からレポート提出を義務づける。

学生へのフィードバックとしてレポート内容が課題にそっているものであるか否かをまず採点し、レポート内容の全体評価する。学生はその後の授業で自己の課題を見つけ、より積極的に授業に取り組む意欲を養いたい

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート30%で評価する。競技種目などによって評価基準が異なることもある。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

第一回目はガイダンスです

指定の教室に集合して下さい

授業の進め方について

受講時の諸注意 など

第2回 基礎練習

第2回目授業 実技授業です

運動着に着替え室内スポーツシューズを履いてアリーナ集合です

基本説明(グリップ、構え方、他)卓球道具に慣れる

第3回 基礎練習

フォアハンド

着替えてアリーナに集合です

「体温 風邪症状チェック表」を忘れずに!

証明写真も持参して下さい

第4回 基礎練習

フォアハンド バックハンド

第5回 基礎練習

フォアハンド バックハンド サーブ レシーブ

第6回 応用練習

サーブ、レシーブ、切り替え、スマッシュ

第7回 応用練習

サーブ、レシーブ、切り替え、スマッシュ

第8回 ゲーム

ルール説明 シングルスゲーム

第9回 ゲーム

シングルスゲーム

第10回 ゲーム

ダブルスゲーム

第11回 ゲーム

ダブルスゲーム

第12回 ゲーム

ダブルスゲーム

第13回 ゲーム

ダブルスゲーム

第14回 ゲーム

ダブルスゲーム

第15回 ゲーム

総論

2022年度 後期

2.0単位

スポーツ科学演習 A (バドミントン)

今井 啓介

< 授業の方法 >

対面授業とオンデマンド授業で行ないます。

非登学申請者はオンデマンド授業

< 授業の目的 >

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Aでは多様なスポーツ経験を養う機会となっている。スポーツ種目の競技特性を主体的に理解し、スポーツの楽しさや喜びを味わう。個人的・集団的活動の中で自主性・自律性を養うことができる。

< 到達目標 >

- ・ 競技特性を理解する。
- ・ スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。
- ・ 運動習慣を身につける。

< 授業の進め方 >

実技と講義で進めます。

< 履修するにあたって >

実技、授業内容、方法を変更することもある。自分のラ

ケットを使用してもよい。

< 授業時間外に必要な学修 >

TV等で放映されているバドミントンの試合を見て、バドミントンというスポーツに興味をもってもらいたい(30分程度)。

< 提出課題など >

適宜指示する。

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート課題30%で100%で評価する。

非登学の学生についてはレポート課題等100%で評価する。

< 授業計画 >

第1回 講義

授業の目的、注意事項、成績評価方法・基準などについて理解する。

第2回 講義

バドミントンの歴史、施設、用具や競技特性について理解する。

第3回 実技

バドミントンの基礎技術を習得する。

第4回 実技

基礎技術の復習とシングルの特性を学ぶ。

第5回 実技

基礎技術の復習とダブルスの特性を学ぶ。

第6回 実技

簡易ゲーム

第7回 実技

簡易ゲーム

第8回 講義

バドミントンのルールや審判方法について理解する。

第9回 講義

バドミントンの技術や戦術を理解する。

第10回 実技

ゲーム(シングルス)

第11回 実技

ゲーム(シングルス)

第12回 実技

ゲーム(ダブルス)

第13回 実技

ゲーム(ダブルス)

第14回 実技

リーグ戦等で試合を行なう。

第15回 実技

ゲーム及び授業全体のまとめ、総括を行なう。

2022年度 後期

2.0単位

スポーツ科学演習 A (バドミントン)

今井 啓介

< 授業の方法 >

対面授業とオンデマンド授業で行ないます。

非登学申請者はオンデマンド授業

< 授業の目的 >

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Aでは多様なスポーツ経験を養う機会となっている。スポーツ種目の競技特性を主体的に理解し、スポーツの楽しさや喜びを味わう。個人的・集団的活動の中で自主性・自律性を養うことができる。

< 到達目標 >

- ・ 競技特性を理解する。
- ・ スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。
- ・ 運動習慣を身につける。

< 授業の進め方 >

実技と講義で進めます。

< 履修するにあたって >

実技、授業内容、方法を変更することもある。自分のラケットを使用してもよい。

< 授業時間外に必要な学修 >

TV等で放映されているバドミントンの試合を見て、バドミントンというスポーツに興味をもってもらいたい(30分程度)。

< 提出課題など >

適宜指示する。

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート課題30%で100%で評価する。

非登学の学生についてはレポート課題等100%で評価する。

< 授業計画 >

第1回 講義

授業の目的、注意事項、成績評価方法・基準などについて理解する。

第2回 講義

バドミントンの歴史、施設、用具や競技特性について理解する。

第3回 実技

バドミントンの基礎技術を習得する。

第4回 実技

基礎技術の復習とシングルスの特徴を学ぶ。

第5回 実技

基礎技術の復習とダブルスの特徴を学ぶ。

第6回 実技

簡易ゲーム

第7回 実技

簡易ゲーム

第8回 講義

バドミントンのルールや審判方法について理解する。

第9回 講義

バドミントンの技術や戦術を理解する。

第10回 実技

ゲーム(シングルス)

第11回 実技

ゲーム(シングルス)

第12回 実技

ゲーム(ダブルス)

第13回 実技

ゲーム(ダブルス)

第14回 実技

リーグ戦等で試合を行なう。

第15回 実技

ゲーム及び授業全体のまとめ、総括を行なう。

2022年度 後期

2.0単位

スポーツ科学演習 A (バスケットボール)

今井 啓介

< 授業の方法 >

対面授業とオンデマンド授業で行ないます。

非登学申請者はオンデマンド授業

< 授業の目的 >

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Aでは多様なスポーツ経験を養う機会となっている。スポーツ種目の競技特性を主体的に理解し、スポーツの楽しさや喜びを味わう。個人的・集団的活動の中で自主性・自律性を養うことができる。

<到達目標>

- ・競技特性を理解する。
- ・スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。
- ・運動習慣を身につける。

<授業の進め方>

実技と講義で進めます。

<履修するにあたって>

実技、授業内容、方法を変更することもある。

<授業時間外に必要な学修>

TV等で放映されているバスケットボールの試合を見て、バスケットボールというスポーツに興味をもってもらいたい(30分程度)。

<提出課題など>

適宜指示する。

<成績評価方法・基準>

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート課題30%で100%で評価する。

非登学の学生についてはレポート課題等100%で評価する。

<授業計画>

第1回 講義

授業の目的、注意事項、成績評価方法・基準などについて理解する。

第2回 講義

バスケットボールの技術や戦術を視聴して学ぶ。

第3回 実技

バスケットボールの技術や戦術を視聴して学ぶ。

第4回 実技

ドリブル、シュート、パス

第5回 実技

ディフェンス

第6回 実技

ミニゲーム

第7回 実技

ミニゲーム

第8回 実技

ミニゲーム

第9回 講義

バスケットボールの歴史、施設、用具や競技特性について理解する。

第10回 実技

ハーフコートゲーム

第11回 実技

ハーフコートゲーム

第12回 実技

リーグ戦等で試合を行なう。

第13回 実技

リーグ戦等で試合を行なう。

第14回 実技

リーグ戦等で試合を行なう。

第15回 実技

ゲーム及び授業全体のまとめ、総括を行なう。

2022年度 後期

2.0単位

スポーツ科学演習A (バスケットボール)

今井 啓介

<授業の方法>

対面授業とオンデマンド授業で行ないます。

非登学申請者はオンデマンド授業

<授業の目的>

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Aでは多様なスポーツ経験を養う機会となっている。スポーツ種目の競技特性を主体的に理解し、スポーツの楽しさや喜びを味わう。個人的・集団的活動の中で自主性・自律性を養うことができる。

<到達目標>

- ・競技特性を理解する。
- ・スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。
- ・運動習慣を身につける。

<授業の進め方>

実技と講義で進めます。

<履修するにあたって>

実技、授業内容、方法を変更することもある。

<授業時間外に必要な学修>

TV等で放映されているバスケットボールの試合を見て、バスケットボールというスポーツに興味をもってもらいたい(30分程度)。

<提出課題など>

適宜指示する。

<成績評価方法・基準>

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート課題30%で100%で評価する。

非登学の学生についてはレポート課題等100%で評価する。

<授業計画>

第1回 講義

授業の目的、注意事項、成績評価方法・基準などについて理解する。

第2回 講義

バスケットボールの技術や戦術を視聴して学ぶ。

第3回 実技

バスケットボールの技術や戦術を視聴して学ぶ。

第4回 実技

ドリブル、シュート、パス

第5回 実技

ディフェンス

第6回 実技

ミニゲーム

第7回 実技

ミニゲーム

第8回 実技

ミニゲーム

第9回 講義

バスケットボールの歴史、施設、用具や競技特性について理解する。

第10回 実技

ハーフコートゲーム

第11回 実技

ハーフコートゲーム

第12回 実技

リーグ戦等で試合を行なう。

第13回 実技

リーグ戦等で試合を行なう。

第14回 実技

リーグ戦等で試合を行なう。

第15回 実技

ゲーム及び授業全体のまとめ、総括を行なう。

2022年度 後期

2.0単位

スポーツ科学演習 A (サッカー)

中川 昌幸

< 授業の方法 >

対面授業

< 授業の目的 >

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集团的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Aでは多様なスポーツ経験を養う機会となっている。スポーツ種目の競技特性を主体的に理解し、スポーツの楽

しさや喜びを味わう。個人的・集团的活動の中で自主性・自律性を養うことができる。

< 到達目標 >

- ・競技特性を理解する。
- ・スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。
- ・運動習慣を身につける。

< 授業の進め方 >

実技と講義で進めます。

< 履修するにあたって >

毎回、授業開始時に出席をとる。
遅刻は授業の特性上、他の出席者に迷惑がかかるので慎むこと。

ボール、ゼッケンの準備・後片付け等を積極的に行うこと。

出席状況によっては、単位を認定できない場合がある。

実技ではスポーツウェア、グラウンド用シューズを必ず着用する。服装違反者は受講させない場合がある。

授業計画は、履修者の状況によって変更する場合がある。

< 授業時間外に必要な学修 >

TVで放送されているサッカーの試合などを見て、サッカーというスポーツに興味を持ってほしい。

< 成績評価方法・基準 >

出席40%、態度、意欲30%、レポート30%で評価する

< 授業計画 >

第1回 講義

教室で講義形式で行う。

更衣場所やグラウンド使用の際の注意点の説明。

今後の授業の説明。

第2回 実技

サッカーについての理解を深める

第3回 実技

技術練習

正確なキックを習得する。

第4回 実技

技術練習

正確なパスとシュートを習得する。

第5回 実技

技術練習およびミニゲーム

習得した技術を生かし、ミニゲームを行う。

第6回 実技

技術練習およびミニゲーム

習得した技術を生かし、ミニゲームを行う。

第7回 講義

実際の試合をDVDで鑑賞し、さまざまな戦術とルール

を理解する。

第8回 実技

戦術練習およびゲーム

攻撃戦術の習得およびその戦術を使つてのゲームを行う。

第9回 実技

戦術練習およびゲーム

攻撃戦術の習得およびその戦術を使つてのゲームを行う。

第10回 実技

ゲーム

習熟度を考慮してチーム分けを行い、ゲームを運営する。

第11回 実技

ゲーム

習熟度を考慮してチーム分けを行い、ゲームを運営する。

第12回 実技

ゲーム

習熟度を考慮してチーム分けを行い、ゲームを運営する。

第13回 実技

実技テスト

第14回 実技

実技テスト

第15回 講義

まとめ

2022年度 後期

2.0単位

スポーツ科学演習 A (バレーボール)

秋田 和彦

< 授業の方法 >

演 習

対面授業

< 授業の目的 >

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Aでは多様なスポーツ経験を養う機会となっている。スポーツ種目の競技特性を主体的に理解し、スポーツの楽しさや喜びを味わう。個人的・集団的活動の中で自主性・自律性を養うことができる。

< 到達目標 >

- ・ 競技特性を理解する。

・ スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。

- ・ 運動習慣を身につける。

< 授業の進め方 >

実技と講義で進めます。

< 履修するにあたって >

ビデオ等を使用する。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業内容および配布資料等を用いて、事前事後の学習を行うこと。(30分程度)

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート30%で評価する。競技種目などによって評価基準が異なることもある

< テキスト >

適宜資料を配布する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス、バレーボールの基礎知識

- ・ 授業の進め方について
- ・ バレーボールの歴史

- ・ バレーボール施設、用具について
- ・ 競技特性と技術の仕組みについて

第2～7回 バレーボールの基本技術

- ・ バレーボール技術の仕組みと技術向上のからだ作り運動、ボール扱い
- ・ 基本技術(オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、スパイク、サーブ)の技術向上
- ・ 基本技術を用いたミニゲーム

第8回 バレーボールのルールと審判法

- ・ 基本的ルールの説明とルールの変移について
- ・ ゲーム運営の為の審判法

第9回 様々なバレーボール

- ・ 様々なバレーボール(9人制、ビーチバレー等)について学ぶ

第10～14回 ゲーム

- ・ チームを固定し、リーグ戦、トーナメント等での試合

第15回 まとめ

- ・ 授業全体の復習、総括を行う

2022年度 後期

2.0単位

スポーツ科学演習 A (ヨガ)

雄谷 昌子

< 授業の方法 >

対面授業(実技、講義)

< 授業の目的 >

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディ

プロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Aでは多様なスポーツ経験を養う機会となっている。スポーツ種目の競技特性を主体的に理解し、スポーツの楽しさや喜びを味わう。個人的・集団的活動の中で自主性・自律性を養うことができる。

<到達目標>

- ・競技特性を理解する。
- ・スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。
- ・運動習慣を身につける。

<授業の進め方>

ライブレッスン形式で、講師の実技デモとイントロダクションで全員一斉に実技を行う。実技とドリルで気付きをシェアリングしながらアクティブラーニングを行う。理論は、実技理論の他に、フィットネス知識や筋解剖学、整体、リハビリ、東洋医学、アーユルヴェーダなどの知識を要約し、一回の授業で一項目を解説する。

<履修するにあたって>

トレーニングウェアを着用する。携帯電話は片付けて(実技)授業に集中する。原則的には見学は無し、やむを得ない理由がある場合は要相談。

<授業時間外に必要な学修>

授業での内容を復習し、実技を自己のコンディションワークとして活用する。

dotcampasより参考資料(実技解説動画、理論まとめコラム)を確認する

<提出課題など>

気付き感想などをまとめレポート提出(授業中又はdotcampasより提出)

<成績評価方法・基準>

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート30%で評価する。競技種目などによって評価基準が異なることもある。

(ヨガ授業では、実技試験を実施せず、毎回の授業での取り組みを重視する)

<テキスト>

実技、理論の要点をまとめた動画をdotcampasより確認する。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

授業受講における注意事項、評価ポイントなど、確認

第2回 ?ヨガとは(概論)

理論

?ヨガの歴史

?現代にも繋がるヨガの知恵(アシュタンガ八支則)

?伝統的ヨガの種類

実技

?フィットネス的な観点で段階的な全身運動

第3回 トラディショナルなヨガを現代人に活かす為のポイント

理論

?フィットネス、リハビリ、医療、企業など色々な分野に活用されるヨガの要素

実技

?フィットネス的な観点、体の構造を踏まえたリズムカルな全身運動

第4回 ヨガの運動による体、メンタル、脳への効果01

理論

?背骨、骨盤、肩甲骨のニュートラルと動き

実技

?ニュートラルな姿勢 01

?3S(スタミナ、ストレンクス、ストレッチ)バランス良いリズムカルな全身運動 01

第5回 ヨガの運動による体、メンタル、脳への効果02

理論

?呼吸と自律神経

実技

?ニュートラルな姿勢(背骨、骨盤、肩甲骨)02

?3Sバランス良いリズムカルな全身運動02

第6回 ヨガの運動による体、メンタル、脳への効果03

理論

?ヨガの運動による体、メンタル、脳への効果03

実技

?ニュートラルな姿勢(背骨、骨盤、肩甲骨)03

?3S バランス良いリズムカルな全身運動

第7回 整体、コンディションワークとしてのヨガ01

理論

?骨盤、股関節、腰椎のメカニズム

実技

?骨盤調整を踏まえた全身運動

第8回 整体、コンディションワークとしてのヨガ02

理論

?背骨のメカニズム

実技

?背骨コンディションを踏まえたリズムカルな全身運動

第9回 整体、コンディションワークとしてのヨガ03

理論

?肩甲骨のメカニズム

実技

?肩甲帯コンディションを踏まえたりズミカルな全身運動

第10回 整体、コンディショニングワークとしてのヨガ 04
理論

?体質学

実技

?背骨、骨盤、肩甲帯のコンディショニングワークを踏まえたりズミカルな全身運動

第11回 1～10回目までのまとめ

理論

1～10回目までのレビュー

実技

1～10回目までのレビュー

第12回 グローバル時代におけるヨガの活用01

理論

フィットネス、セルフケア、コンディショニング、アーティスティック、コミュニケーションなどと融合するヨガの活用方法。(五感、クリエイティブな発想力、フレキシブルな編集力、適応力) 01

実技

?多様なアプローチ(運動スタイル)の動作。01

?身体の構造的アプローチと機能的動作 01

第13回 グローバル時代におけるヨガの活用02

理論

フィットネス、セルフケア、コンディショニング、アーティスティック、コミュニケーションなどと融合するヨガの活用方法。(五感、クリエイティブな発想力、フレキシブルな編集力、適応力、)02

実技

?色んなアプローチ(運動スタイル)で楽しく動きながら気付き深める。02

?身体の構造的なことを踏まえ全身バランス良く機能的に動く 02

第14回 グローバル時代におけるヨガの活用03

理論

フィットネス、セルフケア、コンディショニング、アーティスティック、コミュニケーションなどと融合するヨガの活用方法。(五感、クリエイティブな発想力、フレキシブルな編集力、適応力、) 03

実技

?色んなアプローチ(運動スタイル)で楽しく動きながら気付き深める。03

?身体の構造的なことを踏まえ全身バランス良く機能的に動く 03

15回目 まとめ

まとめ

(第1～14回目の内容は、受講反応により一部変更することもある)

2022年度 後期

2.0単位

スポーツ科学演習 A (テニス)

木谷 織信

<授業の方法>

「実技」と「講義」

<授業の目的>

この科目は、スポーツ科学分野のひとつである。全学ディボロマポリシーに示す。広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義内容を実技で実践する形式をとっている。科目構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。Aでは多様なスポーツ経験を養う機会となっている。スポーツ種目の競技特性を主体的に理解し、スポーツを楽しむや喜びを味わう。個人的。集団的活動の中で自主的・自律性を養う。

<到達目標>

1. 競技特性を理解する。
2. スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。
3. 運動習慣を身につける。

<授業の進め方>

講義と実技で進めます。

<履修するにあたって>

1. 毎回、授業開始時に出席をとる。
2. 遅刻は授業の特性上、他の出席者に迷惑がかかるので慎むこと。
3. スポーツウェアを着用する。服装違反者は受講させない場合がある。
4. ボールの回収やコート整備等を積極的行なう。
5. 出席状況によっては、単位を認定できない場合がある。
6. 教場では、積極的な態度で受講すること。授業中は通信機器および電子機器(スマートフォン・カメラ)等の使用を禁止とする。
7. 天候により教場や授業内容を変更することもあるので、注意して対応すること。
*雨天の場合は、教室で基礎知識(歴史、審判法、技能)について理解する。
8. 動画およびDVD等で基礎技術や戦術を理解する。

<授業時間外に必要な学修>

授業終了後に各自の反省点を見つけ技能を高めるための対策を考えて次回の授業へ備えること。図書館やインターネットから情報を収集するための予習・復習を30分程度すること。

<提出課題など>

適宜に連絡します。

<成績評価方法・基準>

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート30%で評価する。左記は必須である。

競技種目によって評価基準が異なる場合がある。

<テキスト>

適宜プリントを配布する。

<参考図書>

(財)日本テニス協会(2006)、新版テニス指導教本、大修館書店

<授業計画>

開講科目概要

各種のストロークを打つためには、ボールの回転、スピード、コース、深さをコントロールできるラケット操作や待機ポジションと打球位置に移動するフットワークを理解する。

・仲間とのコミュニケーションを図り、協力しながらダブルスで成果をあげる。

第1回 講義

授業の目的、到達目標、授業の進め方、成績評価・基準などについて理解する。

第2回 講義(教室)・実技(コート)

テニスの基礎知識について理解する。その後、教場に移動し施設や用具確認後にラケット操作について実技を行う。

*更衣し教室に集まってください。

第3回 実技

(基礎技術)

確実に返球するためのグリップを理解する。

・実技テストの項目である、グランドストローク(フォア・バックハンド)の技術を習得する。

・グループ活動で協力して上達することを目指すこと。

第4回 実技

(基礎技術)

確実に返球するグリップを理解する。

・サービスとリターンの技術を向上させる。

・グループ活動で協力して上達することを目指すこと。

第5回 実技

(基礎技術)

確実に返球するグリップを理解する。

・グラウンドストロークとボレーの技術を向上させる。

・グループ活動で協力して上達することを目指すこと。

第6回 実技

(基礎技術)

確実に返球するグリップを理解する。

・グラウンドストロークとロブ・スマッシュの技術を向上させる。

・グループ活動で協力して上達することを目指すこと。

第7回 講義(教室)・実技(コート)

シングルのルールを理解する。

・シングルのゲームを実施する。

第8回 実技

シングル

シングルの総当たり戦を実施する。

第9回 実技

シングル

シングルの総当たり戦を実施する。

第10回 講義(教室)・実技(コート)

ダブルスのルールを理解する。

ダブルスの総当たり戦を実施する。

第11回 実技

ダブルス

・団体戦、男子、女子、混合ダブルス戦を実施する。

・チーム活動で仲間とコミュニケーションを図り、協働できるように努めること。

第12回 実技

ダブルス

・団体戦、男子、女子、混合ダブルス戦を実施する。

・チーム活動で仲間とコミュニケーションを図り、協働できるように努めること。

第13回 実技

ダブルス

・団体戦、男子、女子、混合ダブルス戦を実施する。

・チーム活動で仲間とコミュニケーションを図り、協働できるように努めること。

第14回 実技

実技テスト・ダブルス

・団体戦、男子、女子、混合ダブルス戦を実施する。

・チーム活動で仲間とコミュニケーションを図り、協働できるように努めること。

・実技テスト：ゲーム中のグラウンドストロークの習得度を評価する。

第15回 実技

実技テスト・ダブルス

・団体戦、男子、女子、混合ダブルス戦を実施する。

・チーム活動で仲間とコミュニケーションを図り、協働できるように努めること。

・実技テスト：ゲーム中におけるグラウンドストロークの習得度を評価する。

備考

履修者の到達度や履修者状況(男女の比率)によって授業計画を変更する場合がある。

*14回目と15回目の授業で実技テスト(グラウンドストローク)を実施する。

2022年度 後期

2.0単位

スポーツ科学演習 A (サッカー)

中川 昌幸

< 授業の方法 >

対面授業

< 授業の目的 >

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集团的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Aでは多様なスポーツ経験を養う機会となっている。スポーツ種目の競技特性を主体的に理解し、スポーツの楽しさや喜びを味わう。個人的・集团的活動の中で自主性・自律性を養うことができる。

< 到達目標 >

- ・ 競技特性を理解する。
- ・ スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。
- ・ 運動習慣を身につける。

< 授業の進め方 >

実技と講義で進めます。

< 履修するにあたって >

毎回、授業開始時に出席をとる。

遅刻は授業の特性上、他の出席者に迷惑がかかるので慎むこと。

ボール、ゼッケンの準備・後片付け等を積極的に行うこと。

出席状況によっては、単位を認定できない場合がある。

実技ではスポーツウェア、グラウンド用シューズを必ず着用する。服装違反者は受講させない場合がある。

授業計画は、履修者の状況によって変更する場合がある。

< 授業時間外に必要な学修 >

TVで放送されているサッカーの試合などを見て、サッカーというスポーツに興味を持ってほしい。

< 成績評価方法・基準 >

出席40%、態度、意欲30%、レポート30%で評価する

< 授業計画 >

第1回 講義

教室で講義形式で行う。

更衣場所やグラウンド使用の際の注意点の説明。

今後の授業の説明。

第2回 実技

サッカーについての理解を深める

第3回 実技

技術練習

正確なキックを習得する。

第4回 実技

技術練習

正確なパスとシュートを習得する。

第5回 実技

技術練習およびミニゲーム

習得した技術を生かし、ミニゲームを行う。

第6回 実技

技術練習およびミニゲーム

習得した技術を生かし、ミニゲームを行う。

第7回 講義

実際の試合をDVDで鑑賞し、さまざまな戦術とルールを理解する。

第8回 実技

戦術練習およびゲーム

攻撃戦術の習得およびその戦術を使つてのゲームを行う。

第9回 実技

戦術練習およびゲーム

攻撃戦術の習得およびその戦術を使つてのゲームを行う。

第10回 実技

ゲーム

習熟度を考慮してチーム分けを行い、ゲームを運営する。

第11回 実技

ゲーム

習熟度を考慮してチーム分けを行い、ゲームを運営する。

第12回 実技

ゲーム

習熟度を考慮してチーム分けを行い、ゲームを運営する。

第13回 実技

実技テスト

第14回 実技

実技テスト

第15回 講義

まとめ

2022年度 後期

2.0単位

スポーツ科学演習 A (ヨガ)

雄谷 昌子

< 授業の方法 >

対面授業(実技、講義)

< 授業の目的 >

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Aでは多様なスポーツ経験を養う機会となっている。スポーツ種目の競技特性を主体的に理解し、スポーツの楽しさや喜びを味わう。個人的・集団的活動の中で自主性・自律性を養うことができる。

< 到達目標 >

- ・ 競技特性を理解する。
- ・ スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。
- ・ 運動習慣を身につける。

< 授業の進め方 >

ライブレッスン形式で、講師の実技デモとイントロダクションで全員一斉に実技を行う。実技とドリルで気付きをシェアリングしながらアクティブラーニングを行う。理論は、実技理論の他に、フィットネス知識や筋解剖学、整体、リハビリ、東洋医学、アーユルベダなどの知識を要約し、一回の授業で一項目を解説する。

< 履修するにあたって >

トレーニングウェアを着用する。携帯電話は片付けて(実技)授業に集中する。原則的には見学は無し、やむを得ない理由がある場合は要相談。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業での内容を復習し、実技を自己のコンディションワークとして活用する。

dotcampasより参考資料(実技解説動画、理論まとめコラム)を確認する

< 提出課題など >

気付き感想などをまとめレポート提出(授業中又はdotcampasより提出)

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート30%で評価する。競技種目などによって評価基準が異なることもある。

(ヨガ授業では、実技試験を実施せず、毎回の授業での取り組みを重視する)

< テキスト >

実技、理論の要点をまとめた動画をdotcampasより確認する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業受講における注意事項、評価ポイントなど、確認

第2回 ?ヨガとは(概論)

理論

?ヨガの歴史

?現代にも繋がるヨガの知恵(アシュタンガ八支則)

?伝統的ヨガの種類

実技

?フィットネス的な観点で段階的な全身運動

第3回 トラディショナルなヨガを現代人に活かす為のポイント

理論

?フィットネス、リハビリ、医療、企業など色々な分野に活用されるヨガの要素

実技

?フィットネス的な観点、体の構造を踏まえたリズムカルな全身運動

第4回 ヨガの運動による体、メンタル、脳への効果01

理論

?背骨、骨盤、肩甲帯のニュートラルと動き

実技

?ニュートラルな姿勢 01

?3S(スタミナ、ストレンクス、ストレッチ)バランス良いリズムカルな全身運動 01

第5回 ヨガの運動による体、メンタル、脳への効果02

理論

?呼吸と自律神経

実技

?ニュートラルな姿勢(背骨、骨盤、肩甲帯)02

?3Sバランス良いリズムカルな全身運動02

第6回 ヨガの運動による体、メンタル、脳への効果03

理論

?ヨガの運動による体、メンタル、脳への効果03

実技

?ニュートラルな姿勢(背骨、骨盤、肩甲帯)03

?3S バランス良いリズムカルな全身運動

第7回 整体、コンディションワークとしてのヨガ01

理論

?骨盤、股関節、腰椎のメカニズム

実技

?骨盤調整を踏まえた全身運動

第8回 整体、コンディションワークとしてのヨガ02

理論

?背骨のメカニズム

実技

?背骨コンディションを踏まえたリズムカルな全身運動

第9回 整体、コンディションワークとしてのヨガ03

理論

?肩甲帯のメカニズム

実技

?肩甲帯コンディションを踏まえたりズミカルな全身運動

第10回 整体、コンディションワークとしてのヨガ 04
理論

?体質学

実技

?背骨、骨盤、肩甲帯のコンディションワークを踏まえたりズミカルな全身運動

第11回 1～10回目までのまとめ

理論

1～10回目までのレビュー

実技

1～10回目までのレビュー

第12回 グローバル時代におけるヨガの活用01

理論

フィットネス、セルフケア、コンディショニング、アーティスティック、コミュニケーションなどと融合するヨガの活用方法。(五感、クリエイティブな発想力、フレキシブルな編集力、適応力) 01

実技

?多様なアプローチ(運動スタイル)の動作。01

?身体の構造的アプローチと機能的動作 01

第13回 グローバル時代におけるヨガの活用02

理論

フィットネス、セルフケア、コンディショニング、アーティスティック、コミュニケーションなどと融合するヨガの活用方法。(五感、クリエイティブな発想力、フレキシブルな編集力、適応力、)02

実技

?色んなアプローチ(運動スタイル)で楽しく動きながら気付き深める。02

?身体の構造的なことを踏まえ全身バランス良く機能的に動く 02

第14回 グローバル時代におけるヨガの活用03

理論

フィットネス、セルフケア、コンディショニング、アーティスティック、コミュニケーションなどと融合するヨガの活用方法。(五感、クリエイティブな発想力、フレキシブルな編集力、適応力、) 03

実技

?色んなアプローチ(運動スタイル)で楽しく動きながら気付き深める。03

?身体の構造的なことを踏まえ全身バランス良く機能的に動く 03

15回目 まとめ

まとめ

(第1～14回目の内容は、受講反応により一部変更することもある)

2022年度 後期

2.0単位

スポーツ科学演習A (テニス)

木谷 織信

<授業の方法>

「実技」と「講義」

<授業の目的>

この科目は、スポーツ科学分野のひとつである。全学ディプロマポリシーに示す。広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義内容を実技で実践する形式をとっている。科目構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。Aでは多様なスポーツ経験を養う機会となっている。スポーツ種目の競技特性を主体的に理解し、スポーツを楽しむや喜びを味わう。個人的。集団的活動の中で自主的・自律性を養う。

<到達目標>

1. 競技特性を理解する。
2. スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。
3. 運動習慣を身につける。

<授業の進め方>

講義と実技で進めます。

<履修するにあたって>

1. 毎回、授業開始時に出席をとる。
2. 遅刻は授業の特性上、他の出席者に迷惑がかかるので慎むこと。
3. スポーツウェアを着用する。服装違反者は受講させない場合がある。
4. ボールの回収やコート整備等を積極的行なう。
5. 出席状況によっては、単位を認定できない場合がある。
6. 教場では、積極的な態度で受講すること。授業中は通信機器および電子機器(スマートフォン・カメラ)等の使用を禁止とする。
7. 天候により教場や授業内容を変更することもあるので、注意して対応すること。
*雨天の場合は、教室で基礎知識(歴史、審判法、技能)について理解する。
8. 動画およびDVD等で基礎技術や戦術を理解する。

<授業時間外に必要な学修>

授業終了後に各自の反省点を見つけ技能を高めるための対策を考えて次回の授業へ備えること。図書館やインターネットから情報を収集するための予習・復習を30分程

度すること。

< 提出課題など >

適宜に連絡します。

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート30%で評価する。左記は必須である。

競技種目によって評価基準が異なる場合がある。

< テキスト >

適宜プリントを配布する。

< 参考図書 >

(財)日本テニス協会(2006)、新版テニス指導教本、大修館書店

< 授業計画 >

開講科目概要

各種のストロークを打つためには、ボールの回転、スピード、コース、深さをコントロールできるラケット操作や待機ポジションと打球位置に移動するフットワークを理解する。

・仲間とのコミュニケーションを図り、協力しながらダブルスで成果をあげる。

第1回 講義

授業の目的、到達目標、授業の進め方、成績評価・基準などについて理解する。

第2回 講義(教室)・実技(コート)

テニスの基礎知識について理解する。その後、教場へ移動し施設や用具確認後にラケット操作について実技を行う。

*更衣し教室に集まってください。

第3回 実技

(基礎技術)

確実に返球するためのグリップを理解する。

・実技テストの項目である、グラウンドストローク(フォア・バックハンド)の技術を習得する。

・グループ活動で協力して上達することを目指すこと。

第4回 実技

(基礎技術)

確実に返球するグリップを理解する。

・サービスとリターンの技術を向上させる。

・グループ活動で協力して上達することを目指すこと。

第5回 実技

(基礎技術)

確実に返球するグリップを理解する。

・グラウンドストロークとボレーの技術を向上させる。

・グループ活動で協力して上達することを目指すこと。

第6回 実技

(基礎技術)

確実に返球するグリップを理解する。

・グラウンドストロークとロブ・スマッシュの技術を向上させる。

・グループ活動で協力して上達することを目指すこと。

第7回 講義(教室)・実技(コート)

シングルのルールを理解する。

・シングルのゲームを実施する。

第8回 実技

シングル

シングルの総当たり戦を実施する。

第9回 実技

シングル

シングルの総当たり戦を実施する。

第10回 講義(教室)・実技(コート)

ダブルスのルールを理解する。

ダブルスの総当たり戦を実施する。

第11回 実技

ダブルス

・団体戦、男子、女子、混合ダブルス戦を実施する。

・チーム活動で仲間とコミュニケーションを図り、協働できるように努めること。

第12回 実技

ダブルス

・団体戦、男子、女子、混合ダブルス戦を実施する。

・チーム活動で仲間とコミュニケーションを図り、協働できるように努めること。

第13回 実技

ダブルス

・団体戦、男子、女子、混合ダブルス戦を実施する。

・チーム活動で仲間とコミュニケーションを図り、協働できるように努めること。

第14回 実技

実技テスト・ダブルス

・団体戦、男子、女子、混合ダブルス戦を実施する。

・チーム活動で仲間とコミュニケーションを図り、協働できるように努めること。

・実技テスト：ゲーム中のグラウンドストロークの習得度を評価する。

第15回 実技

実技テスト・ダブルス

・団体戦、男子、女子、混合ダブルス戦を実施する。

・チーム活動で仲間とコミュニケーションを図り、協働できるように努めること。

・実技テスト：ゲーム中のグラウンドストロークの習得度を評価する。

備考

履修者の到達度や履修者状況(男女の比率)によって授業計画を変更する場合がある。

*14回目と15回目の授業で実技テスト(グラウンドストローク)を実施する。

2022年度 後期

2.0単位

スポーツ科学演習 A (バドミントン)

吉田 美智子

< 授業の方法 >

実習 (対面授業)

< 授業の目的 >

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集团的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Aでは多様なスポーツ経験を養う機会となっている。スポーツ種目の競技特性を主体的に理解し、スポーツの楽しさや喜びを味わう。個人的・集团的活動の中で自主性・自律性を養うことができる。

到達目標

< 到達目標 >

- ・競技特性を理解する。
- ・スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。
- ・運動習慣を身につける。

< 授業の進め方 >

基本的には実技で行う

必要に応じて講義を設ける場合もある

< 履修するにあたって >

授業開始時に出席をとる

運動に適した服装・シューズでの参加に限る

準備・ゲーム参加・片づけ等積極的に行うこと

私服での見学は認めない (見学には理由が必要)

自分のラケット持参可能

< 授業時間外に必要な学修 >

TV中継や実際の試合会場等でバドミントンの試合観戦をする機会を積極的に設け、ゲームの進行状況や特性、選手の動き、審判のジャッジについて興味をもって観察する (60分程度)

< 提出課題など >

講義で説明したことの中からレポート提出を義務づける。

学生へのフィードバックとしてレポート内容が課題にそっているものであるか否かをまず採点し、レポート内容の全体評価する。学生はその後の授業で自己の課題を見つつけより積極的に授業に取り組む意欲を養いたい

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート30%で評価する。競技種目などによって評価基準が異なることもある。

< テキスト >

適宜プリント (資料) を配布する。

指定図書

< 授業計画 >

第1回 (講義)

第1回目授業はガイダンスです

指定教室に集合して下さい

- ・受講についての注意事項など説明

第2回 (実技)

第2回目授業以降は対面授業です

スポーツウエアでアリーナ集合です

- ・バドミントンの基礎技術と用語について説明後、実際に基礎技術の実技練習を行う

第3回 (実技)

- ・前授業で説明した基礎技術、ラケットの使い方、サーブの打ち方、フライトの種類等をペアで練習する

着替えてアリーナに集合です

「体温 風邪症状チェック表」を忘れずに!

証明写真も持参して下さい

第4回 (実技)

- ・基礎技術の練習

第5回 (実技)

- ・基礎技術の練習

第6回 (実技)

- ・簡易ゲーム

第7回 (実技)

- ・簡易ゲーム

第8回 (講義)

- ・ゲームの進め方と主なルールについて説明する

第9回 (実技)

- ・実践ゲーム ダブルス

第10回 (実技)

- ・実践ゲーム ダブルス

第11回 (実技)

- ・実践ゲーム シングルス

第12回 (実技)

- ・実践ゲーム シングルス

第13回 (実技)

・実践ゲーム ミックスダブルス

第14回 (実技)

・実践ゲーム シングルス

第15回 (講義)

・総論

2022年度 後期

2.0単位

スポーツ科学演習 A (バレーボール)

番平 守

< 授業の方法 >

対面授業 (実技or演習)

< 授業の目的 >

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

このスポーツ科学演習では、元バレーボール全日本代表コーチ経験のある教員から、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Aでは、多様なスポーツ経験を養う機会となっている。スポーツ種目の競技特性を主体的に理解し、スポーツの楽しさや、喜びを味わう。個人的・集団的活動の中で、自主性・自律性を養うことができる。

< 到達目標 >

・技能を向上させるとともに競技規則および戦術を理解する。

・スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。

・運動習慣を身につける。

< 授業の進め方 >

対面授業 (実技) を基本に行う。

< 履修するにあたって >

毎回、授業開始時に出席をとる。

遅刻は授業の特性上、他の出席者に迷惑がかかるので慎むこと。

ボール、ゼッケンの準備・後片付け等を積極的に行うこと。

出席状況によっては、単位を認定できない場合がある。

実技ではスポーツウェア、室内用シューズを必ず着用する。服装違反者は受講させない場合がある。

授業計画は、履修者の状況によって変更する場合がある。

< 授業時間外に必要な学修 >

バレーの特性を理解するために、積極的にバレーボールゲームの観戦及び審判のジャッジに注目する。また、ルールブック(ルールとシグナル)を熟読すること。授業終

了後には、各自の反省点を見つけ技能を高めるための対策を考えて次回の授業へ備えること。(60分)

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート30%で評価する。

競技種目などによって評価基準が異なることもある。

< テキスト >

適宜プリントを配布する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス・評価説明(講義)

資料配布を行い、授業の評価方法や内容、進め方について説明をおこなう。

第2回 バレーボールの歴史と特性(講義)

歴史的側面からバレーボール競技の特徴を理解する。

第3回 様々なバレーボール

様々なバレーボール(9人制、ビーチバレー等)について学ぶ

第4回 基礎技能の理解と習得

コートづくりとボールハンドリング

第5回 基礎技能の理解と習得

パス技術の獲得

第6回 基礎技能の理解と習得

パス技術の獲得 簡単なパスゲーム

第7回 基礎技能の理解と習得

サーブ・サーブレシーブ技術の獲得 簡易ゲーム

第8回 基礎技能の理解と習得

スパイク技術の獲得

第9回 基礎技能の理解と習得

スパイク技術の獲得 簡易ゲーム

第10回 基礎技能の理解と習得

レシーブとトス技術の獲得

第11回 基礎技能の理解と習得

スパイクレシーブとブロック技術の獲得

第12回 運営計画と審判技術の獲得(講義)

大会運営についてと主審・副審・線審の役割について理解する。

第13回 大会運営の実際(戦術と戦略)

グループによる試合及び試合運営

第14回 大会運営の実際(戦術と戦略)

グループによる試合及び試合運営

第15回 実技テスト

スキルテスト及びレポート課題

2022年度 後期

2.0単位

スポーツ科学演習 A (バレーボール)

吉田 美智子

< 授業の方法 >

実習(対面授業)

< 授業の目的 >

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Aでは多様なスポーツ経験を養う機会となっている。スポーツ種目の競技特性を主体的に理解し、スポーツの楽しさや喜びを味わう。個人的・集団的活動の中で自主性・自律性を養うことができる。

< 到達目標 >

- ・競技特性を理解する。
- ・スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。
- ・運動習慣を身につける。

< 授業の進め方 >

基本は実技となる

必要に応じて講義を設ける場合もある。

< 履修するにあたって >

ビデオ等を使用する。

< 授業時間外に必要な学修 >

普段の生活の中で行われているバレーボールの大会などを積極的に鑑賞し、ゲーム上でのレシーブ、アタックなどの技術を学び取るようにしておくこと(60分程度)

< 提出課題など >

講義で説明したことの中からレポート提出を義務づける。

学生へのフィードバックとしてレポート内容が課題にそっているものであるか否かをまず採点し、レポート内容の全体評価する。学生はその後の授業で自己の課題を見つけ、より積極的に授業に取り組む意欲を養いたい

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート30%で評価する。競技種目などによって評価基準が異なることもある。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス、バレーボールの基礎知識

第1回目授業はガイダンスです

指定教室に集合してください

- ・授業の進め方について
- ・バレーボール施設、用具について
- ・受講時の注意事項など

第2回 バレーボールの基本技術

第2回目から実技授業になりますのでスポーツウエアに

着替えてアリーナ集合です

- ・バレーボール基本技術練習とからだ作り運動
- ・基本技術(オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、)の基本動作

「体温 風邪症状チェック表」を忘れずに！
証明写真も持参して下さい

第3回 バレーボールの基本技術

パス練習 オーバーハンド/アンダーハンド

第4回 バレーボールの基本技術

- ・多様なパス練習の導入とサービス練習

第5回 バレーボールの基本技術

- ・多様なパス練習の導入とサービス練習

第6回 バレーボールの基本技術

- ・多様なパス練習の導入とサービス練習

第7回 バレーボールの基本技術

基本技術パスとレシーブの復習 サービスとレシーブの復習

ミニゲーム導入

第8回 ゲーム

今までの練習の成果がだせる様に簡易ゲームの実施

第9回

バレーボールのルールと審判法

- ・基本的ルールの説明とルールの変移について
- ・ゲーム運営の為の審判法

第10回 ゲームの実施

チーム編成を工夫しながらゲームを実施する

第11回 ゲームの実施

チーム編成を工夫しながらゲームを実施する

第12回 ゲームの実施

チーム編成を工夫しながらゲームを実施する

第13回 ゲームの実施

チーム編成を工夫しながらゲームを実施する

第14回 ゲームの実施

チーム編成を工夫しながらゲームを実施する

第15回 総括

総括

2022年度 後期

2.0単位

スポーツ科学演習A (バドミントン)

吉田 美智子

< 授業の方法 >

実習(対面授業)

< 授業の目的 >

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Aでは多様なスポーツ経験を養う機会となっている。スポーツ種目の競技特性を主体的に理解し、スポーツの楽しさや喜びを味わう。個人的・集団的活動の中で自主性・自律性を養うことができる。

到達目標

<到達目標>

- ・競技特性を理解する。
- ・スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。
- ・運動習慣を身につける。

<授業の進め方>

基本的には実技で行う

必要に応じて講義を設ける場合もある

<履修するにあたって>

授業開始時に出席をとる

運動に適した服装・シューズでの参加に限る

準備・ゲーム参加・片づけ等積極的に行うこと

私服での見学は認めない(見学には理由が必要)

自分のラケット持参可能

<授業時間外に必要な学修>

TV中継や実際の試合会場等でバドミントンの試合観戦をする機会を積極的に設け、ゲームの進行状況や特性、選手の動き、審判のジャッジについて興味をもって観察する(60分程度)

<提出課題など>

講義で説明したことの中からレポート提出を義務づける。

学生へのフィードバックとしてレポート内容が課題にそっているものであるか否かをまず採点し、レポート内容の全体評価する。学生はその後の授業で自己の課題を見つけより積極的に授業に取り組む意欲を養いたい

<成績評価方法・基準>

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート30%で評価する。競技種目などによって評価基準が異なることもある。

<テキスト>

適宜プリント(資料)を配布する。

指定図書

<授業計画>

第1回 (講義)

第1回目授業はガイダンスです

指定教室に集合して下さい

・受講についての注意事項など説明

第2回 (実技)

第2回目授業以降は対面授業です

スポーツウエアでアリーナ集合です

・バドミントンの基礎技術と用語について説明後、実際に基礎技術の実技練習を行う

第3回 (実技)

・前授業で説明した基礎技術、ラケットの使い方、サーブの打ち方、フライトの種類等をペアで練習する

着替えてアリーナに集合です

「体温 風邪症状チェック表」を忘れずに！
証明写真も持参して下さい

第4回 (実技)

・基礎技術の練習

第5回 (実技)

・基礎技術の練習

第6回 (実技)

・簡易ゲーム

第7回 (実技)

・簡易ゲーム

第8回 (講義)

・ゲームの進め方と主なルールについて説明する

第9回 (実技)

・実践ゲーム ダブルス

第10回 (実技)

・実践ゲーム ダブルス

第11回 (実技)

・実践ゲーム シングルス

第12回 (実技)

・実践ゲーム シングルス

第13回 (実技)

・実践ゲーム ミックスダブルス

第14回 (実技)

・実践ゲーム シングルス

第15回 (講義)

・総論

2022年度 前期

2.0単位

スポーツ科学演習B (サッカー)

今井 啓介

<授業の方法>

対面授業とオンデマンド授業で行ないます。

非登学申請者はオンデマンド授業

< 授業の目的 >

この科目は、健康科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Bでは、主体的により高い技能の習得を目指し、競技規則を理解し、攻防の仕方を考えてゲームを行えるようにする。個人的・集団的活動の中で協調性・責任感を養うことができる。

< 到達目標 >

・技能を向上させるとともに競技規則および戦術を理解する。

・スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。

・運動習慣を身につける。

< 授業の進め方 >

実技と講義で進めます。

< 履修するにあたって >

天候により教場、授業内容を変更することもあるためよく確認するように。

< 授業時間外に必要な学修 >

TV等で放映されているサッカーの試合を見て、サッカーというスポーツに興味をもってもらいたい(30分程度)。

< 提出課題など >

適宜指示する。

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート課題30%で100%で評価する。

非登学の学生についてはレポート課題等100%で評価する。

< 授業計画 >

第1回 講義

授業の目的、注意事項、成績評価方法・基準などについて理解する。

第2回 講義

サッカーの歴史、施設、用具や競技特性について理解する。

第3回 実技

ボールに慣れることから始めミニゲームを行なう。

第4回 実技

正確なキック、パスを習得し、ミニゲームを行なう。

第5回 実技

ドリブル、シュートを習得し、ミニゲームを行なう。

第6回 実技

習得した技術を活かしてハーフコートでミニゲームを行なう。

第7回 実技

習得した技術を活かしてハーフコートでミニゲームを行なう。

第8回 講義

実際の試合をDVDで鑑賞し、ルールや審判方法について理解する。

第9回 講義

フットサル、ビーチサッカーについて理解する。

第10回 実技

習熟度を考慮してチーム分けを行ないゲームを行なう。

第11回 実技

習熟度を考慮してチーム分けを行ないゲームを行なう。

第12回 実技

習熟度を考慮してチーム分けを行ないゲームを行なう。

第13回 実技

リーグ戦等で試合を行なう。

第14回 実技

リーグ戦等で試合を行なう。

第15回 実技

ゲーム及び授業全体のまとめ、総括を行なう。

2022年度 前期

2.0単位

スポーツ科学演習 B (ヨガ)

雄谷 昌子

< 授業の方法 >

対面授業(実技、講義)

< 授業の目的 >

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Bでは、主体的により高い技能の習得を目指し、競技規則を理解し、攻防の仕方を考えてゲームを行えるようにする。個人的・集団的活動の中で協調性・責任感を養うことができる。

< 到達目標 >

・技能を向上させるとともに競技規則および戦術を理解する。

・スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。

・運動習慣を身につける。

< 授業の進め方 >

ライブレッスン形式で、講師の実技デモとイントロダクションで全員一斉に実技体験する。

実技とドリルを行い気づきをシェアリングしながらアクティブラーニングを行う。

理論は、実技理論の他に、フィットネス知識や筋解剖学、整体、リハビリ、東洋医学、アユルベーダなどの知識を要約し日頃に役立てられるように、一回の授業で一項目を目安に解説する。

< 履修するにあたって >

トレーニングウェアを着用する。授業(実技)に集中する。見学は、原則として無し。やむを得ない理由がある場合は、要相談。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業での内容を復習し、自己のコンディションワークとして活用する。

dotcampasより参考資料(実技解説動画、理論まとめコラム)を確認する。

< 提出課題など >

気づき感想をまとめる(授業中、又はdotcampasより提出)

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート30%で評価する。競技種目などによって評価基準が異なることもある。(ヨガ授業では、実技試験は実施せず毎回の授業での取り組みを重視する)

< テキスト >

dotcampasより理論まとめコラム、実技解説動画を確認する

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

受講における注意事項、評価ポイント等の確認

第2回 ヨガとは(概論)

理論

ヨガの哲学、歴史、種類

現代にも活かされるヨガの知恵01

実技

身体の構造的な観点を踏まえフレキシブルなヨガ実技01

第3回 トラディショナルなヨガをグローバルな時代にフィットさせる 01

理論

時代の流れと共に変化したヨガ

ヨガの運動による体、メンタル、脳への効果01

実技

身体の構造的な観点を踏まえフレキシブルなヨガ実技02

第4回 トラディショナルなヨガをグローバルな時代にフィットさせる 02

理論

ヨガの運動による体、メンタル、脳への効果 02

背骨調整

実技

グローバルにフィットさせたフレキシブルなヨガ 01

チューブ、ボールを活用

第5回 トラディショナルなヨガをグローバルな時代にフィットさせる 03

理論

ヨガの運動による体、メンタル、脳への効果 03

骨盤調整

実技

グローバルにフィットさせたフレキシブルなヨガ 02

チューブ、ボール活用

第6回 希少性、情報編集力が求められる時代におけるフレキシブルなヨガ 01

理論

足裏反射区

実技

フィットネス、整体、アーティスティックな要素を踏まえたフレキシブルなヨガ 01

チューブ、ボール活用

第7回 希少性、情報編集力が求められる時代におけるフレキシブルなヨガ 02

理論

手の反射区

実技

レクリエーション、フィットネスな要素のフレキシブルなヨガ

チューブ、ボール活用

第8回 1~7回目までのレビュー

理論

1~7回目までのレビュー

筋関節、解剖学的な面

実技

トラディショナルでポピュラーなヨガルーティン(サンサルテーション 太陽礼拝メドレー)

第9回 体の気づきを深める

理論

筋関節の動き、ニュートラルな姿勢

実技

ボーンリズムを理解し効果的な動き方を考察

第10回 体の気づきと意識化

理解

コアの相関関係とキネティックチェーン

実技
ベーシックな動作をプロGRESSIONさせる
第11回 体の気付きとコントロール
理解
均整術からみた整体法

実技
背骨、骨盤、股関節、肩関節などのニュートラルでクリアな動き

第12回 体の気付きと集中
理論

呼吸の解剖学と豪華

実技
呼吸の意識とヨガ動作の調和

第13回 リハビリや整体としてのヨガとコンディショニングのヨガ
理論

アーユルベータ体質学
実技

腰痛、肩凝りなどのリセット
解剖学的な観点で効果的に動く
チューブ、ボール活用

第14回 リハビリや整体としてのヨガとコンディショニングのヨガ
理論

東洋医学陰陽五行の要点
実技

セルフマッサージ、
筋肉連鎖(キネティックチェーン)を踏まえたフレキシブルなヨガ

第15回 まとめ
まとめ

1～14回目までの内容は、受講反応により多少前後することもある

2022年度 前期

2.0単位

スポーツ科学演習 B (ヨガ)

雄谷 昌子

< 授業の方法 >

対面授業(実技、講義)

< 授業の目的 >

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Bでは、主体的により高い技能の習得を目指し、競技規則を理解し、攻防の仕方を考えてゲームを行えるようにする。個人的・集団的活動の中で協調性・責任感を養うことができる。

< 到達目標 >

・技能を向上させるとともに競技規則および戦術を理解する。

・スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。

・運動習慣を身につける。

< 授業の進め方 >

ライブレッスン形式で、講師の実技デモとイントロダクションで全員一斉に実技体験する。

実技とドリルを行い気付きをシェアリングしながらアクティブラーニングを行う。

理論は、実技理論の他に、フィットネス知識や筋解剖学、整体、リハビリ、東洋医学、アーユルベータなどの知識を要約し日頃に役立てられるように、一回の授業で一項目を目安に解説する。

< 履修するにあたって >

トレーニングウェアを着用する。授業(実技)に集中する。見学は、原則として無し。やむを得ない理由がある場合は、要相談。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業での内容を復習し、自己のコンディションワークとして活用する。

dotcampasより参考資料(実技解説動画、理論まとめコラム)を確認する。

< 提出課題など >

気付き感想をまとめる(授業中、又はdotcampasより提出)

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート30%で評価する。競技種目などによって評価基準が異なることもある。(ヨガ授業では、実技試験を実施せず毎回の授業での取り組みを重視する)

< テキスト >

dotcampasより理論まとめコラム、実技解説動画を確認する

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

受講における注意事項、評価ポイント等の確認

第2回 ヨガとは(概論)

理論

ヨガの哲学、歴史、種類

現代にも活かされるヨガの知恵01

実技

身体の構造的な観点を踏まえフレキシブルなヨガ実技01

第3回 トラディショナルなヨガをグローバルな時代にフィットさせる 01

理論

時代の流れと共に変化したヨガ

ヨガの運動による体、メンタル、脳への効果01

実技

身体の構造的な観点を踏まえフレキシブルなヨガ実技02

第4回 トラディショナルなヨガをグローバルな時代にフィットさせる 02

理論

ヨガの運動による体、メンタル、脳への効果 02

背骨調整

実技

グローバルにフィットさせたフレキシブルなヨガ 01

チューブ、ボールを活用

第5回 トラディショナルなヨガをグローバルな時代にフィットさせる 03

理論

ヨガの運動による体、メンタル、脳への効果 03

骨盤調整

実技

グローバルにフィットさせたフレキシブルなヨガ 02

チューブ、ボール活用

第6回 希少性、情報編集力が求められる時代においてのフレキシブルなヨガ 01

理論

足裏反射区

実技

フィットネス、整体、アーティスティックな要素を踏まえたフレキシブルなヨガ 01

チューブ、ボール活用

第7回 希少性、情報編集力が求められる時代においてのフレキシブルなヨガ 02

理論

手の反射区

実技

レクリエーション、フィットネスな要素のフレキシブルなヨガ

チューブ、ボール活用

第8回 1~7回目までのレビュー

理論

1~7回目までのレビュー

筋関節、解剖学的な面

実技

トラディショナルでポピュラーなヨガルーティン(サンサルテーション 太陽礼拝メドレー)

第9回 体の気付きを深める

理論

筋関節の動き、ニュートラルな姿勢

実技

ボーンリズムを理解し効果的な動き方を考察

第10回 体の気付きと意識化

理解

コアの相関関係とキネティックチェーン

実技

ベーシックな動作をプログレッションさせる

第11回 体の気付きとコントロール

理解

均整術からみた整体法

実技

背骨、骨盤、股関節、肩関節などのニュートラルでクリアな動き

第12回 体の気付きと集中

理論

呼吸の解剖学と豪華

実技

呼吸の意識とヨガ動作の調和

第13回 リハビリや整体としてのヨガとコンディショニングのヨガ

理論

アーユルベータ体質学

実技

腰痛、肩凝りなどのリセット

解剖学的な観点で効果的に動く

チューブ、ボール活用

第14回 リハビリや整体としてのヨガとコンディショニングのヨガ

理論

東洋医学陰陽五行の要点

実技

セルフマッサージ、

筋肉連鎖(キネティックチェーン)を踏まえたフレキシブルなヨガ

第15回 まとめ

まとめ

1~14回目までの内容は、受講反応により多少前後することもある

2022年度 前期

2.0単位

スポーツ科学演習 B (バスケットボール)

伊藤 淳

< 授業の方法 >

対面授業：実技・講義

< 授業の目的 >

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Bでは、主体的により高い技能の習得を目指し、競技規則を理解し、攻防の仕方を考えてゲームを行えるようにする。個人的・集団的活動の中で協調性・責任感を養うことができる。

< 到達目標 >

・技能を向上させるとともに競技規則および戦術を理解する。

・スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。

・運動習慣を身につける。

< 授業の進め方 >

実技と講義で進めます。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業内容について、図書館やインターネットから情報を収集し、次回の授業へ備えてください(1時間程度)。

また、授業終了後は、実施内容と次回の課題をまとめてください(1時間程度)。

< 提出課題など >

レポート課題については、コメントをつけて返却する。

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート30%で評価する。競技種目などによって評価基準が異なることもある。

非登学の学生についてはレポート課題等100%で評価する。

< 授業計画 >

第1回 講義

ガイダンス

第2回 実技

ボールハンドリング1

- ・パス系のボールハンドリング
- ・ドリブルシュート
- ・アウトナンバープレイ

第3回 実技

ボールハンドリング2

- ・2ボールでのボールハンドリング
- ・ドリブルシュート
- ・アウトナンバープレイ(2対1)

第4回 実技

ドリブル1

- ・各種ドリブルチェンジ
- ・ランニングシュート
- ・アウトナンバープレイ

第5回 実技

ドリブル2

- ・ドリブルチェンジの連動
- ・ランニングシュート
- ・アウトナンバープレイ

第6回 実技

アウトナンバープレイ1

- ・2対1
- ・ランニングシュート
- ・ゲーム

第7回 実技

アウトナンバープレイ2

- ・3対2
- ・ランニングシュート
- ・ゲーム

第8回 講義

バスケットボールのルールと審判法、歴史

第9回 講義

映像から見る、技術、戦術

第10回 実技

オープンナンバープレイ1

- ・1対1、2対2
- ・各種レイアップシュート
- ・セットシュート
- ・ゲーム

第11回 実技

オープンナンバープレイ2

- ・2対2、3対3
- ・各種レイアップシュート
- ・セットシュート
- ・ゲーム

第12回 実技

オープンナンバープレイ3

- ・3対3、4対4

- ・各種レイアップシュート
- ・ジャンプシュート
- ・ゲーム

第13回 実技
ゲーム1

- ・フリーランスオフェンス
- ・各種レイアップシュート
- ・シュート練習

第14回 実技
ゲーム1

- ・セットオフェンス
- ・各種レイアップシュート
- ・シュート練習

第15回 講義

授業全体のまとめ、総括。

2022年度 前期

2.0単位

スポーツ科学演習B (卓球)

坂手 比呂志

< 授業の方法 >

主に実習形式の展開と講義で実施する。

< 授業の目的 >

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Bでは主体的により高い技能の習得を目指し、競技規則を理解し、攻防の仕方を考えてゲームを行えるようにする。個人的・集団的活動の中で、協調性・責任感を養うことができる。

< 到達目標 >

・技能を向上させるとともに競技規則および戦術を理解する。

・スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。

・運動習慣を身につける。

< 授業の進め方 >

実技と講義で進める。

< 履修するにあたって >

毎回、授業開始時に出席をとる。

遅刻は授業の特性上、他の出席者の迷惑になるので厳につつしむこと。

教場では積極的な態度で受講すること。

出席状況が悪く単位認定できない場合がある。

< 授業時間外に必要な学修 >

卓球のゲームについて実際の試合やテレビ等で「みる」機会を多くし、試合の競技特性と技術および戦術やルール等について理解できるように、予習・復習を各々30分程度すること(配布資料等も参考にすること)。

< 提出課題など >

卓球についてのレポート提出を義務づける(詳細は講義中に説明する)。また、講義室でおこなう課題についても出席して提出すること(評価に反映する)。

レポートおよび課題等については、適宜「解答例」を示してコメントする。

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート30%で評価する(競技種目などによって評価基準が異なることもある)。

< テキスト >

適宜プリント(資料)を配布する。

< 参考図書 >

必要に応じて紹介する。

< 授業計画 >

第1回 (講義)

・授業の進め方について説明する。

・卓球の歴史と発展、競技特性と競技に必要な施設用具等について、学ぶ。

第2回 (講義)

卓球の技術向上ができるように、またゲーム中に相手駆使してくる技能に対して「卓越性」応じることができるように、その技術や戦術についてDVDを活用して学ぶ。

第3回 (実技)

講義で説明した技術の実際(ラケットの使い方、サービスの打ち方、独特なボールの回転等)について、色々なコースにボールが打てるように精度を高めていく。

第4回 (実技)

基礎技術の復習(ラケットの使い方、サービスの打ち方、独特なボールの回転等)

第5回 (実技)

基礎技術の復習(ラケットの使い方、サービスの打ち方、独特なボールの回転等)

第6回 (実技)

基礎技術から簡易ゲーム

第7回 (実技)

簡易ゲーム

第8回 (講義)

正式なゲームの進め方と主なルールおよび審判法について学び、正式なゲームに備え、戦術等についても理解できるようにすること。

第9回 (実技)

・簡易ゲームから正式なルールの試合にチャレンジする。

・ゲーム(シングルス、ゲームによるレベル分け1回目)

- 第10回 (実技)
- ゲーム (シングルス、ゲームによるレベル分け2回目)
- 第11回 (実技)
- ゲーム (ダブルス)
- 第12回 (実技)
- ゲーム (ダブルス)
- 第13回 (実技)
- 実技テスト(内容については授業中に、事前に説明する)
- 第14回 (実技)
- ゲームシングルスおよびダブルス
- 第15回 (講義)

・まとめ(ふり返り)

【授業計画について】

授業計画は履修者の到達度によって、授業計画に変更が出る場合がある。

2022年度 前期

2.0単位

スポーツ科学演習 B (バドミントン)

吉田 美智子

< 授業の方法 >

対面授業の実技とする

必要により講義の授業もある

< 授業の目的 >

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Bでは、主体的により高い技能の習得を目指し、競技規則を理解し、攻防の仕方を考えてゲームを行えるようにする。個人的・集団的活動の中で協調性・責任感を養うことができる。

< 到達目標 >

- ・技能を向上させるとともに競技規則および戦術を理解する。
- ・スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。
- ・運動習慣を身につける。

< 授業の進め方 >

対面授業で行う

< 履修するにあたって >

授業開始時に出席をとる

運動に適した服装・シューズでの参加に限る

準備・ゲーム参加・片づけ等積極的に行うこと

私服での見学は認めない(見学には理由が必要)

< 授業時間外に必要な学修 >

TV中継や実際の試合会場等でバドミントンの試合観戦をする機会を積極的に設け、ゲームの進行状況や特性、選手の動き、審判のジャッジについて興味をもって観察する(60分程度)

< 提出課題など >

講義で説明したことの中からレポート提出を義務づける。

学生へのフィードバックとしてレポート内容が課題にそっているものであるか否かをまず採点し、レポート内容の全体評価後、教員からのコメントを添えて返却する。学生はその後の授業で自己の課題を見つけより積極的に授業に取り組む意欲を養いたい

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート30%で評価する。競技種目などによって評価基準が異なることもある。

< テキスト >

適宜プリント(資料)を配布する。

< 授業計画 >

第1回 (講義) ガイダンス

指定の教室で対面ガイダンスです

・授業の進め方について説明

・競技に必要な施設、用具等

第2回 (実技)

・バドミントンの基礎技術と用語について説明後、実際に基礎技術の実技練習を行う

第3回 (実技)

対面授業/ 第1体育館

・前授業で説明した基礎技術、ラケットの使い方、サービスの打ち方、フライトの種類等をペアで練習する

第4回 (実技)

・基礎技術の練習

第5回 (実技)

・基礎技術の練習

第6回 (実技)

・簡易ゲーム

第7回 (実技)

・簡易ゲーム
第8回 (実技)

・ゲームの進め方と主なルールについて説明する
第9回 (実技)

・実践ゲーム シングルス
第10回 (実技)

・実践ゲーム シングルス
第11回 (実技)

・実践ゲーム ダブルス
第12回 (実技)

・実践ゲーム ダブルス
第13回 (実技)

・実践ゲーム ミックスダブルス
第14回 (実技)

・実践ゲーム ダブルス
第15回 (講義)

・総論

2022年度 前期

2.0単位

スポーツ科学演習 B (バドミントン)

田路 秀樹

< 授業の方法 >

授業方法：演習 (対面授業)

< 授業の目的 >

この科目は、スポーツ科学分野のひとつである。全学ディプロマ ポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体的運動の実践による技術の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Bでは主体的により高い技能の習得を目指し、スポーツの楽しさや喜びを味わう。個人的・集団的活動の中で、自主性・自律性なども養うことができる。

< 到達目標 >

・技能を向上させるとともに競技規則および戦術を理解する。

・スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。

・運動習慣を身につける。

< 授業の進め方 >

基本的に実技を中心に授業を進めますが、理論について講義も行います。

< 履修するにあたって >

毎回、授業開始時に出席をとる。

遅刻は授業の特性上、他の出席者に迷惑がかかるので慎むこと。

実技の授業は、積極的に参加すること。

出席状況によっては、単位を認定できない場合がある。

< 授業時間外に必要な学修 >

バドミントンのゲームを見る機会を増やし、試合の戦術について理解する。

また、前回学んだの技術を30分程度復習し授業に臨む。

< 提出課題など >

・バドミントンに対する課題についてレポートを提出してもらう。

・提出されたレポートに対しては、教員よりコメントをフィードバックする。

・積極的に試合を行う。

< 成績評価方法・基準 >

成績基準：授業目的、到達目標に記載する能力の到達度に応じて成績を与える。

成績評価の方法：レポート課題 (25%)、実技テスト (25%)、試合への取り組み (50%) で評価する。

< テキスト >

資料を配布する。

< 参考図書 >

大東忠司 『見るだけでうまくなるバドミントンの基礎』 ベースボールマガジン社 2019年

藤本ホセマリ 『バドミントンの戦い方』 ベースボールマガジン社 2018年

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス (講義)

授業の進め方を説明する

第2回 個人技術習得1 (講義 + 実技)

バドミントンにおける基礎技術について解説する

第3回 個人技術の習得2 (実技)

ドライブとハイクリア技術の習得

第4回 個人技術の習得3 (実技)

スマッシュ技術の習得

第5回 個人技術の習得4 (実技)

ドロップとヘアピン技術の習得

第6回 個人技術の応用1 (実技)

ハイクリアとスマッシュの連続技術の習得

第7回 個人技術の応用2 (実技)

ドロップとヘアピンの連続技術の習得

第8回 シングル技術の習得1 (実技)

サーブ技術の習得とシングルでのゲーム説明

第9回 シングル技術の習得2 (実技)

ハーフコートを使ったシングルでのゲーム

第10回 シングル技術の習得3 (実技)

ハーフコートを使ったシングルでのゲーム

第11回 ダブルス技術の習得1 (講義 + 実技)

ダブルスのゲーム方法及び戦術を解説する

第12回 ダブルス技術の習得2(実技)

ダブルスの攻撃・守備の習得、ドロップ、ヘアピン連続のテスト

第13回 ダブルス技術の習得3(実技)

ダブルスでのリーグ戦、ドロップ、ヘアピン連続のテスト

第14回 ダブルス技術の習得4(実技)

ダブルスでのリーグ戦

第15回 授業のまとめ(講義)

試合における個人成績等の発表及びまとめ

2022年度 前期

2.0単位

スポーツ科学演習 B (テニス)

坂手 比呂志

<授業の方法>

主に実習形式の展開と講義で実施する。

<授業の目的>

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集团的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Bでは主体的により高い技能の習得を目指し、競技規則を理解し、攻防の仕方を考えてゲームを行えるようにする。個人的・集团的活動の中で、協調性・責任感を養うことができる。

<到達目標>

・技能を向上させるとともに競技規則および戦術を理解する。

・スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。

・運動習慣を身につける。

<授業の進め方>

実技と講義で進める。

<履修するにあたって>

毎回、授業開始時に出席をとる。

遅刻は授業の特性上、他の出席者の迷惑になるので厳につつしむこと。

教場では積極的な態度で受講すること。授業中は通信機器および電子機器(スマートフォン、カメラ等)の使用を禁止とする。

出席状況が悪く単位認定できない場合がある。

雨天の場合は授業計画の実技と講義を入れ替える場合があるので、注意して対応すること。

<授業時間外に必要な学修>

テニスのゲームについて実際の試合やテレビおよびWebサイト等で「みる」機会を多くすることが、ひいては試合の競技特性や技術および戦術・ルール等について理解できるようになる。そのための予習・復習を各々30分程度すること(配布資料等も参考にすること)。

<提出課題など>

テニスについてのレポート提出を義務づける(詳細は講義中に説明する)。また、講義室でおこなう課題についても出席して提出すること(評価に反映する)。

レポートおよび課題等については、適宜「解答例」を示してコメントする。

<成績評価方法・基準>

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート30%で評価する(競技種目などによって評価基準が異なることもある)。

<テキスト>

適宜プリント(資料)を配布する。

<参考図書>

必要に応じて紹介する。

<授業計画>

第1回 (講義)

・授業の進め方について説明する。

・テニスの歴史と発展、競技特性、プレーの原則的な考え方、戦術の基本的な考え方、テニスのマナー、安全に対する留意点等について、学ぶ。

第2回 (講義)

テニスの技術向上や攻防および戦術等について、資料を配布して説明する。またその技術や戦術についてDVDを活用して学ぶ。

第3回 (実技)

講義で説明した技術の実際 (グループで活動)

・基礎技術: 確実に返球する(グリップの理解[ウエスタングリップ・イースタングリップ・コンチネンタルグリップ]、グランドストローク[フォアハンド・バックハンド])。

・基礎技術: ボールのコントロール、ラリーにおけるエラーを少なくする([トップスピン系・スライス系]ボールの回転)。

第4回 (実技)

講義で説明した技術の実際 (グループで活動・技術の実際)の復習)

・基礎技術の復習: 確実にできるようにする(グリップの理解[ウエスタングリップ・イースタングリップ・コンチネンタルグリップ]、グランドストローク[フォアハンド・バックハンド])。

・基礎技術の復習: ボールのコントロール、ラリーにおけるエラーを少なくする([トップスピン系・スライス系]ボールの回転)。

第5回 (実技)

技術の実際（グループで活動）

- ・相手を崩すチャンスをつくる（サービス[フラットサービス・スピンスervice]、[サービスダッシュ]）。
- ・相手を追い込む（アプローチ、スマッシュ、ボレー、パッシングとロブ）。

第6回（実技）

技術の実際（グループで活動・技術の実際 の復習）

- ・復習：相手を崩すチャンスをつくる（サービス[フラットサービス・スピンスervice]、[サービスダッシュ]）。
- ・復習：相手を追い込む（アプローチ、スマッシュ、ボレー、パッシングとロブ）。

第7回（講義）

ゲームの進め方とルールおよび審判法について学び、正式なゲームに備え作戦についても考える。

- ・相手を崩すとは等。

第8回（実技）

ゲーム シングルス1回目の実施。

第9回（実技）

ゲーム シングルス2回目の実施。

：次回のダブルスに必要な攻防について、予習して調べておくこと（ダブルスの陣形にはどのような陣形があるのか）。

第10回（実技）

ゲーム ダブルス1回目の実施。

第11回（実技）

ゲーム ダブルス2回目の実施。

第12回（実技）

ゲーム ダブルス総当たり戦の実施。

第13回（実技）

実技テスト（内容については授業中に、事前に説明する）。

第14回（実技）

ゲームシングルスおよびダブルスの実施。

第15回（講義）

- ・まとめ（ふり返り）

【授業計画について】

授業計画は履修者の到達度に応じて、授業計画を変更する場合がある。

また雨天の場合は実技と講義を入れ替えて、実施する場合がある。

2022年度 前期

2.0単位

スポーツ科学演習 B（バレーボール）

吉田 美智子

< 授業の方法 >

対面式実技で行う

必要に応じて講義の時間も設ける

< 授業の目的 >

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集团的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Bでは、主体的により高い技能の習得を目指し、競技規則を理解し、攻防の仕方を考えてゲームを行えるようにする。個人的・集团的活動の中で協調性・責任感を養うことができる。

< 到達目標 >

・技能を向上させるとともに競技規則および戦術を理解する。

・スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。

・運動習慣を身につける。

< 授業の進め方 >

対面授業で行う

< 履修するにあたって >

ビデオ等を使用する。

< 授業時間外に必要な学修 >

普段の生活の中で行われているバレーボールの大会などを積極的に鑑賞し、ゲーム上での攻撃作戦やサーブ、レシーブ、アタックなどの技術を学び取るようにしておくこと(60分程度)

< 提出課題など >

講義で説明したことの中からレポート提出を義務づける。

学生へのフィードバックとしてレポート内容が課題にそっているものであるか否かをまず採点し、レポート内容の全体評価後、必要に応じて教員からのコメントを添えて返却する。学生はその後の授業で自己の課題を見つけより積極的に授業に取り組む意欲を養いたい

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート30%で評価する。競技種目などによって評価基準が異なることもある。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

・この授業の次回からの進め方と注意事項についてガイダンスを行う

指定の教室で対面ガイダンスです

- ・授業の進め方について説明
- ・競技に必要な施設、用具等

第2回 バレーボールの基本技術

- ・バレーボール技術の仕組みと技術向上のからだ作り運動、ボール扱い
- ・基本技術（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、）の基本技術習得

第3回

バレーボールの基本技術

- ・バレーボール技術の仕組みと技術向上のからだ作り運動、ボール扱い
- ・基本技術（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス）の技術向上

第4回

バレーボールの基本技術

- ・バレーボール技術の仕組みと技術向上のからだ作り運動、ボール扱い
- ・ネット設営法の説明と実施
- ・基本技術（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ）の技術向上

第5回

バレーボールの基本技術

- ・バレーボール技術の仕組みと技術向上のからだ作り運動、ボール扱い
- ・基本技術（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ、スパイク）の技術向上

第6回 バレーボールの基本技術

- ・基本技術（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ、スパイク）の技術向上
- 。基本技術を使ったミニゲームの実施

第7回 バレーボールの基本技術

- 基本技術（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ、スパイク）の技術向上
- 。基本技術を使ったミニゲームの実施

第8回 バレーボールの基本技術

- ルールと審判法 について
- ・基本的ルールの説明とルールの変移について
- ・ゲーム運営の為の審判法
- ・ゲームの導入

第9回 ゲーム

- ・チーム編成を工夫し、リーグ戦、トーナメント等での試合

第10回 ゲーム

- ・チーム編成を工夫し、リーグ戦、トーナメント等での試合

第11回 ゲーム

- ・チーム編成を工夫し、リーグ戦、トーナメント等での試合

第12回 ゲーム

- ・チーム編成を工夫し、リーグ戦、トーナメント等での試合

第13回 ゲーム

- ・チーム編成を工夫し、リーグ戦、トーナメント等での試合

第14回 ゲーム

- ・チーム編成を工夫し、リーグ戦、トーナメント等での試合

第15回 総括

- ・授業全体の復習、総括を行う

2022年度 前期

2.0単位

スポーツ科学演習B（卓球）

渡邊 和香

<授業の方法>

対面授業（実技or演習）

<授業の目的>

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集团的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Bでは、主体的により高い技能の習得を目指し、競技規則を理解し、攻防の仕方を考えてゲームを行えるようにする。個人的・集团的活動の中で協調性・責任感を養うことができる。

<到達目標>

- ・技能を向上させるとともに競技規則および戦術を理解する。

- ・スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。

- ・運動習慣を身につける。

<授業の進め方>

基本的に実技授業を中心におこないます。

<履修するにあたって>

毎回、授業開始時に出席をとる。

遅刻は授業の特性上、他の出席者に迷惑がかかるので慎むこと。

用具・器具等の準備・後片付け等は積極的に行うこと。

出席状況によっては、単位を認定できない場合がある。
実技ではスポーツウェア、室内用シューズを必ず着用する。服装違反者は受講させない場合がある。

貴金属類（アクセサリ、ピアス、時計等）は着用しないこと。

授業計画は、履修者の状況によって変更する場合がある。

< 授業時間外に必要な学修 >

卓球の特性を理解するために、積極的に卓球の試合を視聴しておくこと。また、ルールを調べておくこと。授業終了後には、各自の反省点を見つけ技能を高めるための対策を考えて次回の授業へ備えること。（60分）

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度40%、実技試験（実技内に実施）30%、レポート30%で評価する。

競技種目などによって評価基準が異なることもある。

< テキスト >

適宜プリント配布します。

< 参考図書 >

適宜紹介します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス・評価説明（講義）

資料配布を行い、授業の評価方法や内容、進め方について説明をおこなう。

第2回 卓球の歴史と発展（講義）

歴史的側面から卓球の特徴を理解する。

第3回 卓球の基礎知識（講義）

卓球の競技特性とルール・審判法を理解する。

第4回 卓球の基本技術

卓球道具に慣れる。基本動作の説明。卓球に必要なとさせるトレーニングの紹介。

第5回 卓球の技術練習とゲーム

ラリー練習 + 試しのゲーム（シングルス）

第6回 卓球の技術練習とゲーム

サービス練習 + ゲーム（シングルス）

第7回 卓球の技術練習とゲーム

フォアハンド打法の習得 + フォアハンドラリーテスト

第8回 卓球の技術練習とゲーム

バックハンド打法の習得 + フォアハンドラリーテスト

第9回 卓球の技術練習とゲーム

スマッシュ練習 + ゲーム（シングルス）

第10回 卓球の技術と戦術（講義）

卓球の技術・戦術について理解する。

第11回 シングルスゲーム

競技レベルごとに分かれシングルのゲームをおこなう。

第12回 シングルスゲーム

競技レベルごとに分かれシングルのゲームをおこなう。

第13回 ダブルスゲーム

グループ内でペアを組み、他のグループのペアとダブルスのゲームをおこなう。

第14回 ダブルスゲーム

グループ内でペアを組み、他のグループのペアとダブルスのゲームをおこなう。

第15回 まとめ（講義）

授業全体のまとめ、総括をおこなう。レポート課題

2022年度 前期

2.0単位

スポーツ科学演習B（バスケットボール）

山下 新樹

< 授業の方法 >

実習（対面授業および遠隔授業併用）

< 授業の目的 >

この科目は、健康科学分野のひとつである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Bでは主体的により高い技能の習得を目指し、スポーツの楽しさや喜びを味わう。個人的・集団的活動の中で、自主性・自律性なども養うことができる。

< 到達目標 >

身体運動の実践を通して技能を向上させる。

< 授業の進め方 >

実技と講義で進めます。

< 履修するにあたって >

ビデオ等を使用する。

< 授業時間外に必要な学修 >

バスケットボールのゲームについて「みる」機会を増やし、試合の進行状況や特性について理解する参考にしてほしい。そのことが演習BからCへの足掛かりとして役に立つことになる。各単元の予習・復習に各30分程度

< 提出課題など >

講義で説明したことの中からレポート提出を義務づけ、コメントを付けて返却する。

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度（授業出席と、映像視聴、レポート提出等の課題に対する回答）100%で評価する。

< テキスト >

適宜プリント（資料）を配布する。

< 授業計画 >

第1回（講義）

イントロダクション（講義概要説明）

第2回

バスケットボールに関する体カトレーニング

第3回
ボールハンドリングドリル

第4回
ドリブリングドリル、シューティングドリル

第5回
パッシングドリル、シューティングドリル

第6回
ハンディキャップゲーム 3オン2

第7回
ハンディキャップゲーム 5オン3

第8回
スクリメージ 5オン5

第9回
スクリメージ 5オン5

第10回
バスケットボールの歴史や起源

第11回
ビデオ鑑賞による技術・戦術解説。バスケットボールの疑問。

第12回
スクリメージ 5オン5 (リーグ戦)

第13回
スクリメージ 5オン5 (リーグ戦)

第14回
スクリメージ 5オン5 (リーグ戦)

第15回
これまでの授業を振り返り、講義と実技を通してバスケットボールの特性を理解できたかを確認する。

2022年度 前期

2.0単位

スポーツ科学演習 B (バスケットボール)

山下 新樹

< 授業の方法 >

実習 (対面授業および遠隔授業併用)

< 授業の目的 >

この科目は、健康科学分野のひとつである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Bでは主体的により高い技能の習得を目指し、スポーツの楽しさや喜びを味わう。個人的・集団的活動の中で、自主性・自律性なども養うことができる。

< 到達目標 >

身体運動の実践を通して技能を向上させる。

< 授業の進め方 >

実技と講義で進めます。

< 履修するにあたって >

ビデオ等を使用する。

< 授業時間外に必要な学修 >

バスケットボールのゲームについて「みる」機会を増やし、試合の進行状況や特性について理解する参考にしてほしい。そのことが演習BからCへの足掛かりとして役に立つことになる。各単元の予習・復習に各30分程度

< 提出課題など >

講義で説明したことの中からレポート提出を義務づけ、コメントを付けて返却する。

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度 (授業出席と、映像視聴、レポート提出等の課題に対する回答) 100%で評価する。

< テキスト >

適宜プリント (資料) を配布する。

< 授業計画 >

第1回 (講義)

イントロダクション (講義概要説明)

第2回

バスケットボールに関する体カトレーニング

第3回

ボールハンドリングドリル

第4回

ドリブリングドリル、シューティングドリル

第5回

パッシングドリル、シューティングドリル

第6回

ハンディキャップゲーム 3オン2

第7回

ハンディキャップゲーム 5オン3

第8回

スクリメージ 5オン5

第9回

スクリメージ 5オン5

第10回

バスケットボールの歴史や起源

第11回

ビデオ鑑賞による技術・戦術解説。バスケットボールの疑問。

第12回

スクリメージ 5オン5 (リーグ戦)

第13回

スクリメージ 5オン5 (リーグ戦)

第14回

スクリメージ 5オン5 (リーグ戦)

第15回

これまでの授業を振り返り、講義と実技を通してバスケ

ットボールの特性を理解できたかを確認する。

2022年度 前期

2.0単位

スポーツ科学演習 B (テニス)

坂手 比呂志

< 授業の方法 >

主に実習形式の展開と講義で実施する。

< 授業の目的 >

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Bでは主体的により高い技能の習得を目指し、競技規則を理解し、攻防の仕方を考えてゲームを行えるようにする。個人的・集団的活動の中で、協調性・責任感を養うことができる。

< 到達目標 >

・技能を向上させるとともに競技規則および戦術を理解する。

・スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。

・運動習慣を身に着ける。

< 授業の進め方 >

実技と講義で進める。

< 履修するにあたって >

毎回、授業開始時に出席をとる。

遅刻は授業の特性上、他の出席者の迷惑になるので厳につつしむこと。

教場では積極的な態度で受講すること。授業中は通信機器および電子機器（スマートフォン、カメラ等）の使用を禁止とする。

出席状況が悪く単位認定できない場合がある。

雨天の場合は授業計画の実技と講義を入れ替える場合があるので、注意して対応すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

テニスのゲームについて実際の試合やテレビおよびWebサイト等で「みる」機会を多くすることが、ひいては試合の競技特性や技術および戦術・ルール等について理解できるようになる。そのための予習・復習を各々30分程度すること（配布資料等も参考にすること）。

< 提出課題など >

テニスについてのレポート提出を義務づける（詳細は講義中に説明する）。また、講義室でおこなう課題についても出席して提出すること（評価に反映する）。

レポートおよび課題等については、適宜「解答例」を示してコメントする。

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート30%で評価する（競技種目などによって評価基準が異なることもある）。

< テキスト >

適宜プリント（資料）を配布する。

< 参考図書 >

必要に応じて紹介する。

< 授業計画 >

第1回（講義）

・授業の進め方について説明する。

・テニスの歴史と発展、競技特性、プレーの原則的な考え方、戦術の基本的な考え方、テニスのマナー、安全に対する留意点等について、学ぶ。

第2回（講義）

テニスの技術向上や攻防および戦術等について、資料を配布して説明する。またその技術や戦術についてDVDを活用して学ぶ。

第3回（実技）

講義で説明した技術の実際（グループで活動）

・基礎技術：確実に返球する（グリップの理解 [ウエスタングリップ・イースタングリップ・コンチネンタルグリップ]、グラウンドストローク [フォアハンド・バックハンド] ）。

・基礎技術：ボールのコントロール、ラリーにおけるエラーを少なくする（ [トップスピン系・スライス系] ボールの回転）。

第4回（実技）

講義で説明した技術の実際（グループで活動・技術の実際 の復習）

・基礎技術の復習：確実にできるようにする（グリップの理解 [ウエスタングリップ・イースタングリップ・コンチネンタルグリップ]、グラウンドストローク [フォアハンド・バックハンド] ）。

・基礎技術の復習：ボールのコントロール、ラリーにおけるエラーを少なくする（ [トップスピン系・スライス系] ボールの回転）。

第5回（実技）

技術の実際（グループで活動）

・相手を崩すチャンスをつくる（サービス [フラットサービス・スピンサービス]、 [サービスダッシュ] ）。

・相手を追い込む（アプローチ、スマッシュ、ボレー、パッシングとロブ）。

第6回（実技）

技術の実際（グループで活動・技術の実際 の復習）

・復習：相手を崩すチャンスをつくる（サービス [フラットサービス・スピンサービス]、 [サービスダッシュ] ）。

・復習：相手を追い込む（アプローチ、スマッシュ、ボレー、パッシングとロブ）。

第7回（講義）

ゲームの進め方とルールおよび審判法について学び、正式なゲームに備え作戦についても考える。

・相手を崩すとは等。

第8回（実技）

ゲーム シングルス1回目の実施。

第9回（実技）

ゲーム シングルス2回目の実施。

：次回のダブルスに必要な攻防について、予習して調べておくこと（ダブルスの陣形にはどのような陣形があるのか）。

第10回（実技）

ゲーム ダブルス1回目の実施。

第11回（実技）

ゲーム ダブルス2回目の実施。

第12回（実技）

ゲーム ダブルス総当たり戦の実施。

第13回（実技）

実技テスト（内容については授業中に、事前に説明する）。

第14回（実技）

ゲームシングルスおよびダブルスの実施。

第15回（講義）

・まとめ（ふり返り）

【授業計画について】

授業計画は履修者の到達度に応じて、授業計画を変更する場合がある。

また雨天の場合は実技と講義を入れ替えて、実施する場合がある。

2022年度 前期

2.0単位

スポーツ科学演習 B（バドミントン）

田路 秀樹

< 授業の方法 >

授業方法：演習（対面授業）

< 授業の目的 >

この科目は、スポーツ科学分野のひとつである。全学ディプロマ ポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体的運動の実践による技術の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Bでは主体的により高い技能の習得を目指し、競技規則

を理解し、攻防の仕方を考えてゲームを行えるようにする。個人的・集団的活動の中で協調性・責任感を養うことができる。

< 到達目標 >

・技能を向上させるとともに競技規則および戦術を理解する。

・スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。

・運動習慣を身につける。

< 授業の進め方 >

基本的に実技を中心に授業を進めますが、理論について講義も行います。

< 履修するにあたって >

毎回、授業開始時に出席をとる。

遅刻は授業の特性上、他の出席者に迷惑がかかるので慎むこと。

実技の授業は、積極的に参加すること。

出席状況によっては、単位を認定できない場合がある。

< 授業時間外に必要な学修 >

バドミントンのゲームを見る機会を増やし、試合の戦術について理解する。

また、前回学んだの技術を30分程度復習し授業に臨む。

< 提出課題など >

・バドミントンに対する課題についてレポートを提出してもらう。

・提出されたレポートに対しては、教員よりコメントをフィードバックする。

・積極的に試合を行う。

< 成績評価方法・基準 >

成績基準：授業目的、到達目標に記載する能力の到達度に応じて成績を与える。

成績評価の方法：レポート課題（25%）、実技テスト（25%）、試合への取り組み（50%）で評価する。

< テキスト >

資料を配布する。

< 参考図書 >

大東忠司 『見るだけでうまくなるバドミントンの基礎』 ベースボールマガジン社 2019年

藤本ホセマリ 『バドミントンの戦い方』 ベースボールマガジン社 2018年

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス（講義）

授業の進め方を説明する

第2回 個人技術習得1（講義+実技）

バドミントンにおける基礎技術について解説する

第3回 個人技術の習得2（実技）

ドライブとハイクリア技術の習得

- 第4回 個人技術の習得3 (実技)
スマッシュ技術の習得
- 第5回 個人技術の習得4 (実技)
ドロップとヘアピン技術の習得
- 第6回 個人技術の応用1 (実技)
ハイクリアとスマッシュの連続技術の習得
- 第7回 個人技術の応用2 (実技)
ドロップとヘアピンの連続技術の習得
- 第8回 シングル技術の習得1 (実技)
サーブ技術の習得とシングルでのゲーム説明
- 第9回 シングル技術の習得2 (実技)
ハーフコートを使ったシングルでのゲーム
- 第10回 シングル技術の習得3 (実技)
ハーフコートを使ったシングルでのゲーム
- 第11回 ダブルス技術の習得1 (講義+実技)
ダブルスのゲーム方法及び戦術を解説する
- 第12回 ダブルス技術の習得2 (実技)
ダブルスの攻撃・守備の習得、ドロップ、ヘアピン連続のテスト
- 第13回 ダブルス技術の習得3 (実技)
ダブルスでのリーグ戦、ドロップ、ヘアピン連続のテスト
- 第14回 ダブルス技術の習得4 (実技)
ダブルスでのリーグ戦
- 第15回 授業のまとめ (講義)
試合における個人成績等の発表及びまとめ

2022年度 前期

2.0単位

スポーツ科学演習B (バドミントン)

山下 新樹

< 授業の方法 >

実習 (対面授業および遠隔授業併用)

< 授業の目的 >

この科目は、健康科学分野のひとつである。全学ディプロマポリシーに示す。広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Bでは主体的により高い技術の習得を目指し、スポーツの楽しさや喜びを味わう。個人的・集団的活動の中で、自主性・自律性なども養うことができる

< 到達目標 >

身体運動の実践を通して技術を向上させる

< 授業の進め方 >

実技と講義で進める。

< 履修するにあたって >

授業開始時に出席をとる

運動に適した服装・シューズでの参加に限る

準備・ゲーム参加・片づけ等積極的に行うこと

私服での見学は認めない (見学には理由が必要)

< 授業時間外に必要な学修 >

TV中継や実際の試合会場等でバドミントンの試合観戦をする機会を積極的に設け、ゲームの進行状況や特性、選手の動き、審判のジャッジについて興味をもって観察する (60分程度)

< 提出課題など >

講義で説明したことの中からレポート提出を義務づける。

学生へのフィードバックとしてレポート内容が課題にそっているものであるか否かをまず採点し、レポート内容の全体評価後、教員からのコメントを添えて返却する。学生はその後の授業で自己の課題を見つけより積極的に授業に取り組む意欲を養いたい

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度 (授業出席と、映像視聴、レポート提出等の課題に対する回答) 100%で評価する。

< テキスト >

適宜プリント (資料) を配布する。

< 授業計画 >

第1回 (講義)

・授業の進め方について説明

・競技に必要な施設、用具等

第2回 (講義・実技)

・バドミントンの基礎技術と用語について説明後、実際に基礎技術の実技練習を行う

第3回 (実技)

・前授業で説明した基礎技術、ラケットの使い方、サーブの打ち方、フライトの種類等をペアで練習する

第4回 (実技)

・基礎技術の練習

第5回 (実技)

・基礎技術の練習

第6回 (実技)

・簡易ゲーム

第7回 (実技)

・簡易ゲーム

第8回 (講義)

・ゲームの進め方と主なルールについて説明する

第9回 (実技)

・実践ゲーム シングルス

第10回 (実技)

・実践ゲーム シングルス

第11回 (実技)

・実践ゲーム ダブルス

第12回 (実技)

・実践ゲーム ダブルス

第13回 (実技)

・実践ゲーム ミックスダブルス

第14回 (実技)

・実技テスト

第15回 (講義)

・総論

2022年度 前期

2.0単位

スポーツ科学演習 B (バドミントン)

山下 新樹

< 授業の方法 >

実習 (対面授業および遠隔授業併用)

< 授業の目的 >

この科目は、健康科学分野のひとつである。全学ディプロマポリシーに示す。広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Bでは主体的により高い技術の習得を目指し、スポーツの楽しさや喜びを味わう。個人的・集団的活動の中で、自主性・自律性なども養うことができる

< 到達目標 >

身体運動の実践を通して技術を向上させる

< 授業の進め方 >

実技と講義で進める。

< 履修するにあたって >

授業開始時に出席をとる

運動に適した服装・シューズでの参加に限る

準備・ゲーム参加・片づけ等積極的に行うこと

私服での見学は認めない (見学には理由が必要)

< 授業時間外に必要な学修 >

T V中継や実際の試合会場等でバドミントンの試合観戦をする機会を積極的に設け、ゲームの進行状況や特性、選手の動き、審判のジャッジについて興味をもって観察する (60分程度)

< 提出課題など >

講義で説明したことの中からレポート提出を義務づける。

学生へのフィードバックとしてレポート内容が課題にそっているものであるか否かをまず採点し、レポート内容の全体評価後、教員からのコメントを添えて返却する。学生はその後の授業で自己の課題を見つけより積極的に授業に取り組む意欲を養いたい

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度 (授業出席と、映像視聴、レポート提出等の課題に対する回答) 100%で評価する。

< テキスト >

適宜プリント (資料) を配布する。

< 授業計画 >

第1回 (講義)

・授業の進め方について説明

・競技に必要な施設、用具等

第2回 (講義・実技)

・バドミントンの基礎技術と用語について説明後、実際に基礎技術の実技練習を行う

第3回 (実技)

・前授業で説明した基礎技術、ラケットの使い方、サーブの打ち方、フライトの種類等をペアで練習する

第4回 (実技)

・基礎技術の練習

第5回 (実技)

・基礎技術の練習

第6回 (実技)

・簡易ゲーム

第7回 (実技)

・簡易ゲーム

第8回 (講義)

・ゲームの進め方と主なルールについて説明する

第9回 (実技)

・実践ゲーム シングルス

第10回 (実技)

・実践ゲーム シングルス

第11回 (実技)

・実践ゲーム ダブルス

第12回 (実技)

・実践ゲーム ダブルス

第13回 (実技)

・実践ゲーム ミックスダブルス

第14回 (実技)

・実技テスト

第15回 (講義)

・総論

2022年度 前期

2.0単位

スポーツ科学演習 B (ヨガ)

雄谷 昌子

< 授業の方法 >

対面授業 (実技、講義)

< 授業の目的 >

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Bでは、主体的により高い技能の習得を目指し、競技規則を理解し、攻防の仕方を考えてゲームを行えるようにする。個人的・集団的活動の中で協調性・責任感を養うことができる。

<到達目標>

- ・技能を向上させるとともに競技規則および戦術を理解する。
- ・スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。
- ・運動習慣を身につける。

<授業の進め方>

ライブレッスン形式で、講師の実技デモとイントロダクションで全員一斉に実技体験する。

実技とドリルを行い気付きをシェアリングしながらアクティブラーニングを行う。

理論は、実技理論の他に、フィットネス知識や筋解剖学、整体、リハビリ、東洋医学、アーユルベータなどの知識を要約し日頃役に立てられるように、一回の授業で一項目を目安に解説する。

<履修するにあたって>

トレーニングウェアを着用する。授業(実技)に集中する。見学は、原則として無し。やむを得ない理由がある場合は、要相談。

<授業時間外に必要な学修>

授業での内容を復習し、自己のコンディションワークとして活用する。

dotcampasより参考資料(実技解説動画、理論まとめコラム)を確認する。

<提出課題など>

気付き感想をまとめる(授業中、又はdotcampasより提出)

<成績評価方法・基準>

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート30%で評価する。競技種目などによって評価基準が異なることもある。(ヨガ授業では、実技試験は実施せず毎回の授業での取り組みを重視する)

<テキスト>

dotcampasより理論まとめコラム、実技解説動画を確認する

<授業計画>

第1回 ガイダンス

受講における注意事項、評価ポイント等の確認

第2回 ヨガとは(概論)

理論

ヨガの哲学、歴史、種類

現代にも活かされるヨガの知恵01

実技

身体の構造的な観点を踏まえフレキシブルなヨガ実技01

第3回 トラディショナルなヨガをグローバルな時代にフィットさせる 01

理論

時代の流れと共に変化したヨガ

ヨガの運動による体、メンタル、脳への効果01

実技

身体の構造的な観点を踏まえフレキシブルなヨガ実技02

第4回 トラディショナルなヨガをグローバルな時代にフィットさせる 02

理論

ヨガの運動による体、メンタル、脳への効果 02

背骨調整

実技

グローバルにフィットさせたフレキシブルなヨガ 01

チューブ、ボールを活用

第5回 トラディショナルなヨガをグローバルな時代にフィットさせる 03

理論

ヨガの運動による体、メンタル、脳への効果 03

骨盤調整

実技

グローバルにフィットさせたフレキシブルなヨガ 02

チューブ、ボール活用

第6回 希少性、情報編集力が求められる時代におけるフレキシブルなヨガ 01

理論

足裏反射区

実技

フィットネス、整体、アーティスティックな要素を踏まえたフレキシブルなヨガ 01

チューブ、ボール活用

第7回 希少性、情報編集力が求められる時代におけるフレキシブルなヨガ 02

理論

手の反射区

実技

レクリエーション、フィットネスな要素のフレキシブルなヨガ

チューブ、ボール活用

第8回 1～7回目までのレビュー

理論

1～7回目までのレビュー

筋関節、解剖学的な面

実技

トラディショナルでポピュラーなヨガルーティン(サンサルテーション 太陽礼拝メドレー)

第9回 体の気付きを深める

理論

筋関節の動き、ニュートラルな姿勢

実技

ボーンリズムを理解し効果的な動き方を考察

第10回 体の気付きと意識化

理解

コアの相関関係とキネティックチェーン

実技

ベーシックな動作をプログレッションさせる

第11回 体の気付きとコントロール

理解

均整術からみた整体法

実技

背骨、骨盤、股関節、肩関節などのニュートラルでクリアな動き

第12回 体の気付きと集中

理論

呼吸の解剖学と豪華

実技

呼吸の意識とヨガ動作の調和

第13回 リハビリや整体としてのヨガとコンディショニングアップのヨガ

理論

アーユルヴェーダ体質学

実技

腰痛、肩凝りなどのリセット

解剖学的な観点で効果的に動く

チューブ、ボール活用

第14回 リハビリや整体としてのヨガとコンディショニングアップのヨガ

理論

東洋医学陰陽五行の要点

実技

セルフマッサージ、

筋肉連鎖(キネティックチェーン)を踏まえたフレキシブルなヨガ

第15回 まとめ

まとめ

1～14回目までの内容は、受講反応により多少前後することもある

2022年度 前期

2.0単位

スポーツ科学演習B (バレーボール)

木谷 織信

<授業の方法>

「実技」と「講義」

<授業の目的>

この科目は、スポーツ科学分野のひとつである。全学ディポロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義内容を実技で実践する形式をとっている。科目構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Bでは、主体的により高い技能の習得を目指し、競技規則を理解し、攻防の仕方を考えてゲームを行えるようにする。個人的・集団的活動の中で自主的・自律性を養うことができる。

<到達目標>

- ・技能を向上させるとともに競技規則および戦術を理解する。

- ・スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。

- ・運動習慣を身につける。

- ・身体運動の実践を通して技能を向上させる。

<授業の進め方>

講義と実技で進めます。

<履修するにあたって>

1. 毎回、授業開始時に出席をとる。

2. 遅刻は授業の特性上、他の出席者に迷惑がかかるので慎むこと。

3. スポーツウェアで、体育館シューズを必ず着用する。

4. 準備・後片付けやボールの回収を行なうこと。

5. 出席状況によっては、単位を認定できない場合がある。

6. 教場では、積極的な態度で受講すること。授業中は、通信機器および電子機器(スマートフォン・カメラ)等の使用を禁止とする。

7. 身体運動の実践を通して技能を向上させる。

<授業時間外に必要な学修>

TV中継などでバレーボールの試合を観戦する機会を設け、ゲーム展開や競技特性、ルールなどについて予習・復習を30分程度行う。

< 提出課題など >

適宜に連絡します。

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート30%で評価する。左記は必須である。

競技種目によって評価基準が異なる場合がある。

非登校学生についてはレポート課題等100%で評価する。

< テキスト >

適宜プリントを配布する。

< 参考図書 >

(財)日本バレーボール協会(2017)、コーチングバレーボール基礎編、大修館書店

< 授業計画 >

第1回 講義

授業の目的、到達目標、授業の進め方や成績評価方法・基準などについて理解する。

第2回 講義(教室)・実技(体育館)

バレーボールの基礎知識について理解する。その後、体育館に移動し施設や用具確認などについて理解する。*更衣し教室に集まってください。

・ソフトバレーボールを使ったゲームを行うことにより、つなぐ意識を養う。

第3回 実技

(基礎技術)

オーバーパス・アンダーパスを習得する。

第4回 実技

(基礎技術)

トスとスパイクを習得する。

(スパイクは実技テストの項目である)

第5回 実技

(基礎技術)

トスとスパイクを習得する。

第6回 実技

(基礎技術)

サーブとレシーブを習得する。

(サーブは実技テストの項目である)

第7回 講義(教室)・実技(アリーナ)

バレーボールのルールについて理解する。

・チームに分かれてゲームを行う。

第8回 講義(教室)・実技(アリーナ)

バレーボールの審判法について理解する。

・チームに分かれてゲームを行う。

第9回 実技

(リーグ戦)

チームを作り、ゲームを行う。

・ゲーム運営と審判を行う。

・グループでコミュニケーションを図りチームで成果をあげるようにする。

第10回 実技

(リーグ戦)

前回のチームでゲームを行う。

・ゲーム運営と審判を行う。

・グループでコミュニケーションを図りチームで成果をあげるようにする。

第11回 実技

(リーグ戦)

チームを作り、ゲームを行う。

・ゲーム運営と審判を行う。

・グループでコミュニケーションを図りチームで成果をあげるようにする。

第12回 実技

(トーナメント戦)

チームを作り、ゲームを行う。

・ゲーム運営と審判を行う。

・グループでコミュニケーションを図りチームで成果をあげるようにする。

第13回 実技

(トーナメント戦)

前回のチームでゲームを行う。

・ゲーム運営と審判を行う。

・グループでコミュニケーションを図りチームで成果をあげるようにする。

第14回 実技

(実技試験・ゲーム)

前回のチームでゲームを行う。

・ゲーム運営と審判を行う。

・グループでコミュニケーションを図りチームで成果をあげるようにする。

・ゲーム中のパフォーマンスを評価する。

第15回 実技

(実技試験・ゲーム)

前回のチームでゲームを行う。

・ゲーム運営と審判を行う。

・グループでコミュニケーションを図りチームで成果をあげるようにする。

・ゲーム中のパフォーマンスを評価する。

開講授業概要

競技特性上、身体接触によってプレーが妨害されることのない分、協調性やチームワークが重要になるスポーツである。「相手からボールを受ける～中継ぎをする～相手にボールを返す」という流れを理解し成果をあげる。

2022年度 前期

2.0単位

スポーツ科学演習B (ヨガ)

雄谷 昌子

< 授業の方法 >

対面授業(実技、講義)

< 授業の目的 >

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Bでは、主体的により高い技能の習得を目指し、競技規則を理解し、攻防の仕方を考えてゲームを行えるようにする。個人的・集団的活動の中で協調性・責任感を養うことができる。

< 到達目標 >

- ・技能を向上させるとともに競技規則および戦術を理解する。
- ・スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。
- ・運動習慣を身につける。

< 授業の進め方 >

ライブレッスン形式で、講師の実技デモとイントロダクションで全員一斉に実技体験する。

実技とドリルを行い気付きをシェアリングしながらアクティブラーニングを行う。

理論は、実技理論の他に、フィットネス知識や筋解剖学、整体、リハビリ、東洋医学、アーユルベータなどの知識を要約し日頃に役立てられるように、一回の授業で一項目を目安に解説する。

< 履修するにあたって >

トレーニングウェアを着用する。授業(実技)に集中する。見学は、原則として無し。やむを得ない理由がある場合は、要相談。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業での内容を復習し、自己のコンディションワークとして活用する。

dotcampasより参考資料(実技解説動画、理論まとめコラム)を確認する。

< 提出課題など >

気付き感想をまとめる(授業中、又はdotcampasより提出)

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート30%で評価する。競技種目などによって評価基準が異なることもある。(ヨガ授業では、実技試験は実施せず毎回の授業での取り組みを重視する)

< テキスト >

dotcampasより理論まとめコラム、実技解説動画を確認する

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

受講における注意事項、評価ポイント等の確認

第2回 ヨガとは(概論)

理論

ヨガの哲学、歴史、種類

現代にも活かされるヨガの知恵01

実技

身体の構造的な観点を踏まえフレキシブルなヨガ実技01

第3回 トラディショナルなヨガをグローバルな時代にフィットさせる 01

理論

時代の流れと共に変化したヨガ

ヨガの運動による体、メンタル、脳への効果01

実技

身体の構造的な観点を踏まえフレキシブルなヨガ実技02

第4回 トラディショナルなヨガをグローバルな時代にフィットさせる 02

理論

ヨガの運動による体、メンタル、脳への効果 02

背骨調整

実技

グローバルにフィットさせたフレキシブルなヨガ 01

チューブ、ボールを活用

第5回 トラディショナルなヨガをグローバルな時代にフィットさせる 03

理論

ヨガの運動による体、メンタル、脳への効果 03

骨盤調整

実技

グローバルにフィットさせたフレキシブルなヨガ 02

チューブ、ボール活用

第6回 希少性、情報編集力が求められる時代においてのフレキシブルなヨガ 01

理論

足裏反射区

実技

フィットネス、整体、アーティスティックな要素を踏まえたフレキシブルなヨガ 01

チューブ、ボール活用

第7回 希少性、情報編集力が求められる時代においてのフレキシブルなヨガ 02

理論

手の反射区

実技
レクリエーション、フィットネスな要素のフレキシブルなヨガ
チューブ、ボール活用
第8回 1～7回目までのレビュー
理論
1～7回目までのレビュー
筋関節、解剖学的な面
実技
トラディショナルでポピュラーなヨガルーティン(サンサルテーション 太陽礼拝メドレー)
第9回 体の気付きを深める
理論
筋関節の動き、ニュートラルな姿勢
実技
ボーンリズムを理解し効果的な動き方を考察
第10回 体の気付きと意識化
理解
コアの相関関係とキネティックチェーン
実技
ベーシックな動作をプログレッションさせる
第11回 体の気付きとコントロール
理解
均整術からみた整体法
実技
背骨、骨盤、股関節、肩関節などのニュートラルでクリアな動き
第12回 体の気付きと集中
理論
呼吸の解剖学と豪華
実技
呼吸の意識とヨガ動作の調和

第13回 リハビリや整体としてのヨガとコンディショニングアップのヨガ
理論
アーユルヴェーダ体質学
実技
腰痛、肩凝りなどのリセット
解剖学的な観点で効果的に動く
チューブ、ボール活用
第14回 リハビリや整体としてのヨガとコンディショニングアップのヨガ
理論
東洋医学陰陽五行の要点
実技
セルフマッサージ、
筋肉連鎖(キネティックチェーン)を踏まえたフレキシブルなヨガ

第15回 まとめ
まとめ

1～14回目までの内容は、受講反応により多少前後することもある

2022年度 前期

2.0単位

スポーツ科学演習B (テニス)

木谷 織信

<授業の方法>

「実技」と「講義」

<授業の目的>

この科目は、スポーツ科学分野のひとつである。全学ディポロマポリシーに示す。広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義内容を実技で実践する形式をとっている。科目構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。Bでは、主体的により高い技能の習得を目指し、競技規則を理解し、攻防の仕方を考えてゲームを行えるようにする。個人的・集団的活動の中で自主的・自律性を養うことができる。

<到達目標>

- ・技能を向上させるとともに競技規則および戦術を理解する。
- ・スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。
- ・運動習慣を身につける。
- ・身体運動の実践を通して技能を向上させる。

<授業の進め方>

講義と実技で進めます。

<履修するにあたって>

1. 毎回、授業開始時に出席をとる。
2. 遅刻は授業の特性上、他の出席者に迷惑がかかるので慎むこと。
3. スポーツウエアを着用すること。服装違反者は受講させない場合がある。
4. 準備・後片付け、ボールの回収やコート整備等を行なうこと。
5. 出席状況によっては、単位を認定できない場合がある。
6. 教場では、積極的な態度で受講すること。授業中は通信機器および電子機器(スマートフォン・カメラ)等の使用を禁止とする。
7. 天候により教場や授業内容を変更することもあるので、注意して対応すること。

雨天の場合は、教室でテニスの基礎知識(歴史・審判法

・技能)について理解する。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業終了後に各自の反省点を見つけ技能を高めるための対策を考えて次回の授業へ備えること。図書館やインターネットから情報を収集するための予習・復習を30分程度すること。

< 提出課題など >

適宜に連絡します。

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート30%で評価する。左記は必須である。

競技種目によって評価基準が異なる場合がある。

非登校学生についてはレポート課題等100%で評価する

< テキスト >

適宜プリントを配布する。

< 参考図書 >

鈴木一行(2006)、(財)日本テニス協会、新版テニス指導教本、大修館書店

< 授業計画 >

開講科目概要

テニスの特性上、ボールコントロールにはラケットワーク、ボディワーク、フットワークなどについて理解する。

・種目の基礎知識と基礎体力等および身体運動の実践を通して技能を向上させる。

第1回 講義

授業の目的、到達目標、授業の進め方、成績評価・基準などについて理解する。

第2回 実技

・ラケット操作について理解する。

グラウンドストローク(フォア・バック)の技術と特徴を理解する。

・グループ活動で協力して上達することを目指す。

グリップとラケットワーク、フットワーク、ボディワークの関係について理解する。

第3回 実技

(基礎技術)

グラウンドストローク(フォア・バック)の技術と特徴を理解する。

・グリップとラケットワーク、フットワーク、ボディワークの関係について理解する。

・グループ活動で協力して上達することを目指す。

第4回 実技

(基礎技術)

サーブストロークの技術と特徴を理解する。

・グリップとラケットワーク、ボディワークの関係について理解する。

・グループ活動で協力して上達することを目指す。

第5回 実技

(基礎技術)

ボレーストロークの技術と特徴を理解する。

・グリップとラケットワーク・ボディワーク・フットワークの関係について理解する。

・グループ活動で協力して上達することを目指す。

第6回 講義(教室)・実技(コート)

シングルのルールを理解する。

グループに分かれてシングルス戦を実施する。

第7回 実技

シングルス

シングルス戦を実施する。

第8回 講義(教室)・実技(コート)

ダブルスのルールを理解する。

グループに分かれてダブルス戦を実施する。

第9回 実技

(団体戦)

団体戦、男子・女子・混合ダブルスとシングルス戦を実施する。

・チームの活動で仲間とコミュニケーションを図り、協働できるよう努める。

第10回 実技

(団体戦)

団体戦、男子・女子・混合ダブルスとシングルス戦を実施する。

・チームの活動で仲間とコミュニケーションを図り、協働できるよう努める。

第11回 実技

(団体戦)

団体戦、男子・女子・混合ダブルスとシングルス戦を実施する。

・チームの活動で仲間とコミュニケーションを図り、協働できるよう努める。

第12回 実技

(団体戦)

チームを作り、ゲームを行う。

・団体戦でダブルスゲームを実施する。

・ゲームの運営と審判を行う。

・チームの活動で仲間とコミュニケーションを図り、協働できるよう努める。

第13回 実技

(団体戦)

前回のチームでゲームを行う。

・団体戦でダブルスゲームを実施する。

・チーム運営と審判を行う。

・チームの活動で仲間とコミュニケーションを図り、協働できるよう努める。

第14回 実技

(団体戦)

チームを作り、ゲームを行う。

・団体戦でダブルスゲームを実施する。

- ・ゲーム運営と審判を行う。
- ・チームの活動で仲間とコミュニケーションを図り、協働できるよう努める。

第15回 実技

(団体戦)

前回のチームでゲームを行う。

- ・団体戦でダブルゲームを実施する。
- ・ゲーム運営と審判を行う。
- ・チームの活動で仲間とコミュニケーションを図り、協働できるよう努める。

備考

履修者の到達度や履修者状況によって授業計画を変更する場合があります。

*14回目と15回目の授業で実技テスト(グラウンドストローク)を実施する。

2022年度 前期

2.0単位

スポーツ科学演習B (サッカー)

木谷 織信

<授業の方法>

「実技」と「講義」

<授業の目的>

この科目は、スポーツ科学分野のひとつである。全学ディポロマポリシーに示す。広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義内容を実技で実践する形式をとっている。科目構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。Bでは、主体的により高い技能の習得を目指し、競技規則を理解し、攻防の仕方を考えてゲームを行えるようにする。個人的・集団的活動の中で自主的・自律性を養うことができる。

<到達目標>

- ・技能を向上させるとともに競技規則および戦術を理解する。
- ・スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。
- ・運動習慣を身につける。
- ・身体運動の実践を通して技能を向上させる。

<授業の進め方>

講義と実技で進めます。

<履修するにあたって>

1. 毎回、授業開始時に出席をとる。
2. 遅刻は授業の特性上、他の出席者に迷惑がかかるので慎むこと。
3. スポーツウェアを必ず着用する。服装違反者は受講させない場合がある。

4. 準備から後片付けやボールの回収を行なうこと。

5. 出席状況によっては、単位を認定できない場合がある。

6. 天候により教場や授業内容を変更することもあるので、注意して対応すること。

*雨天の場合は、教室で基礎知識(歴史やルール・審判法)について理解する。

7. 動画で基本技術および戦術を理解する。

<授業時間外に必要な学修>

TV中継などでサッカーの試合を観戦する機会を設け、ゲーム展開や競技特性、ルールなどについて予習・復習を30分程度行う。

<提出課題など>

適宜連絡します。

<成績評価方法・基準>

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート30%で評価する。左記は必修である。

競技種目によって評価基準が異なる場合がある。

非登校学生についてはレポート課題等100%で評価する。

<テキスト>

適宜プリントを配布する。

<参考図書>

(財)日本サッカー協会(2002)、サッカー指導教本、サンメッセ印刷

<授業計画>

開講科目概要

サッカーはゴール型ゲームであり、ピッチ内で相手と味方のプレーヤーが入り混じっての攻防が展開されるため、「ボール操作の技能」と「ボールを持っていない動き方」を理解する。

「チームで働く」共通の目標のもと一人ひとりが、それぞれの役割(攻撃・守備の個人戦術)と責任を果たすことで、一丸となって取り組み(協働体制)ひとりが行うより、はるかに大きな業績を残すことができる。

第1回 講義

授業の目的、到達目標、授業の進め方、成績評価方法・基準などについて理解する。

第2回 実技(グラウンド)

ボールに慣れることを主題にし、ゲームを実施する。

第3回 実技

(基礎技術)

キック・トラップの技術を習得する。

・ゲームを実施する

第4回 実技

(基礎技術)

ドリブルの技術を習得する。

・ゲームを実施する。

第5回 実技

(ゲーム)

チームを編成し、習得した技術を用いてゲームを実施す

る。

第6回 実技
(ゲーム)
チームを編成し、取得した技術を用いてゲームを実施する。

第7回 講義(教室)
動画を鑑賞し、基礎技術を理解する。

第8回 講義(教室)
動画を鑑賞し、戦術を理解する。

第9回 実技
(ゲーム)
チーム編成し、戦術練習およびゲーム
攻撃における戦術の理解およびその戦術を使っのゲームを行う。

第10回 実技
(ゲーム)
チーム編成し、戦術練習およびゲーム
守備における戦術の理解およびその戦術を使っのゲームを行う。

第11回 実技
(ゲーム)
4つのチームに分かれて、リーグ戦およびトーナメント戦を実施する。
・習得した攻撃・守備戦術を生かし、ゲームを行う。

第12回 実技
(ゲーム)
4つのチームに分かれて、リーグ戦およびトーナメント戦を実施する。
・習得した攻撃・守備戦術を生かし、ゲームを行う。

第13回 実技
(ゲーム)
新しいチームでゲームを行う。
・チームで対話を図り協働できるようなゲームを目指す。
実技テスト。

第14回 実技
(ゲーム)
前回のチームでリーグ戦を実施する。
・チームで対話を図り協働できるようなゲームを目指す。
実技テスト

第15回 講義
まとめ
備考
・雨天の場合は、教場や授業内容の変更もある。
・受講者の習熟度によって授業計画を変更する場合がある。

2022年度 前期

2.0単位

スポーツ科学演習 B (バレーボール)

番平 守

< 授業の方法 >

対面授業(実技)を基本に行います

< 授業の目的 >

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

このスポーツ科学演習では、元バレーボール全日本代表コーチ経験のある教員から、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Bでは、主体的により高い技能の習得を目指し、競技規則を理解し、攻防の仕方を考えてゲームを行えるようにする。個人的・集団的活動の中で協調性・責任感を養うことができる。

< 到達目標 >

・技能を向上させるとともに競技規則および戦術を理解する。

・スポーツを通じて仲間とのコミュニケーションを図ることができる。

・運動習慣を身につける。

< 授業の進め方 >

・対面授業(実習or演習)

< 履修するにあたって >

毎回、授業開始時に出席をとる。

遅刻は授業の特性上、他の出席者に迷惑がかかるので慎むこと。

ボール、ゼッケンの準備・後片付け等を積極的に行うこと。

出席状況によっては、単位を認定できない場合がある。

実技ではスポーツウェア、室内用シューズを必ず着用する。服装違反者は受講させない場合がある。

授業計画は、履修者の状況によって変更する場合がある。

< 授業時間外に必要な学修 >

バレーの特性を理解するために、積極的にバレーボールゲームの観戦及び審判のジャッジに注目する。また、ルールブック(ルールとシグナル)を熟読すること。授業終了後には、各自の反省点を見つけ技能を高めるための対策を考えて次回の授業へ備えること。(60分)

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート30%で評価する。

競技種目などによって評価基準が異なることもある。

<テキスト>

適宜プリントを配布する。

<授業計画>

第1回 ガイダンス・評価説明（講義）

資料配布を行い、授業の評価方法や内容、進め方について説明をおこなう。

第2回 バレーボールの歴史と特性（講義）

歴史的側面からバレーボール競技の特徴を理解する。

第3回 バレーボール競技の発展（講義）

バレーボール発展のための一貫指導について学ぶ

第4回 様々なバレーボール

様々なバレーボール（9人制、ビーチバレー等）について学ぶ

第5回 基礎技能の理解と習得

ボールハンドリングとバレーボールに必要とされるトレーニング

第6回 基礎技能の理解と習得

パス技術、サーブ・サーブレシーブ技術の獲得

第7回 基礎技能の理解と習得

スパイク技術、レシーブとトス技術の獲得

第8回 応用技能の理解と習得

簡易ゲーム

第9回 応用技能の理解と習得

簡易ゲーム

第10回 戦術の理解とゲーム

習熟度を考慮してチーム分けを行ないゲームを行う

第11回 戦術の理解とゲーム

習熟度を考慮してチーム分けを行ないゲームを行う

第12回 運営計画と審判技術の獲得（講義）

大会運営についてと主審・副審・線審の役割について理解する。

第13回 大会運営の実際（戦術と戦略）

グループによる試合及び試合運営

第14回 大会運営の実際（戦術と戦略）

グループによる試合及び試合運営

第15回 大会運営の実際（戦術と戦略）

ゲーム及び授業全体のまとめ、総括

2022年度 後期

2.0単位

スポーツ科学演習C（バスケットボール）

山下 新樹

<授業の方法>

実習（対面授業および遠隔授業併用）

<授業の目的>

この科目は、健康科学分野のひとつである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Cでは主に競技規則を理解し、攻防の仕方を考えてゲームを行えるようにする。個人的・集団的活動の中で、協調性・責任感なども養うことができる。

<到達目標>

競技規則および戦術などを理解する。

<授業の進め方>

実技と講義で進めます。

<履修するにあたって>

ビデオ等を使用する。

<授業時間外に必要な学修>

バスケットボールのゲームについて「みる」機会を増やし、試合の進行状況や特性について理解する参考にしてほしい。

<提出課題など>

講義で説明したことの中からレポート提出を義務づけ、コメントを付けて返却する。

<成績評価方法・基準>

授業への参加度40%、実技テスト30%、レポート30%で評価する。（種目によって評価基準が異なることもある。）

<テキスト>

適宜プリント（資料）を配布する。

<授業計画>

第1回（講義）

イントロダクション（講義概要説明）大学生活で学ぶべきものをチームスポーツ・バスケットボールで考える

第2回（講義）

チーム競技・バスケットボールの特性

第3回（実技）

チーム競技・バスケットボールの練習ドリル実施

第4回（実技）

準備運動・ハンドリング

第5回（実技）

ハンドリング・パッシング・ドリブル・シューティングドリル

第6回（実技）

アウトナンバーを考える・ハンディキャップドリル 2 on 1

第7回（実技）

ハンディキャップゲーム 3 on 2

第8回（実技）

スクリメージ 5 on 5

第9回（実技）

スクリメージ 5 on 5

第10回（講義）

ビデオ鑑賞によるチーム意識の理解

第11回 (実技)

スクリメージ 5 on 5 (リーグ戦)

第12回 (実技)

スクリメージ 5 on 5 (リーグ戦)

第13回 (実技)

スクリメージ 5 on 5 (リーグ戦)

第14回 (講義)

チーム意識と個人技能の結果からの検証

第15回 (講義)

総括：チームスポーツ・バスケットボールの実践から学ぶもの

2022年度 後期

2.0単位

スポーツ科学演習C (テニス)

坂手 比呂志

< 授業の方法 >

主に実習形式の展開と講義で実施する。

< 授業の目的 >

この科目は、健康科学分野のひとつである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Cでは主に競技規則を理解し、攻防の仕方を考えてゲームを行えるようにする。個人的・集団的活動の中で、協調性・責任感なども養うことができる。

< 到達目標 >

- ・ 競技特性を理解する。
- ・ スポーツの意義や楽しさを理解する。
- ・ 運動習慣を身につける。

< 授業の進め方 >

実技と講義で進める。

< 履修するにあたって >

毎回、授業開始時に出席をとる。

遅刻は授業の特性上、他の出席者の迷惑になるので厳につつしむこと。

教場では積極的な態度で受講すること。授業中は通信機器および電子機器（スマートフォン、カメラ等）の使用を禁止とする。

出席状況が悪く単位認定できない場合がある。

雨天の場合は授業計画の実技と講義を入れ替える場合があるので、注意して対応すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

テニスのゲームについて実際の試合やテレビおよびWeb

サイト等で「みる」機会を多くすることが、ひいては試合の競技特性や技術および戦術・ルール等について理解できるようになる。そのための予習・復習を各々30分程度すること（配布資料等も参考にすること）。

< 提出課題など >

テニスについてのレポート提出を義務づける（詳細は講義中に説明する）。また、講義室でおこなう課題についても出席して提出すること（評価に反映する）。

レポートおよび課題等については、適宜「解答例」を示してコメントする。

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート30%で評価する（競技種目などによって評価基準が異なることもある）。

< テキスト >

使用しない。適宜プリント（資料）を配布する。

< 参考図書 >

必要に応じて紹介する。

< 授業計画 >

第1回 (講義・ガイダンス)

- ・ 授業の進め方について説明する。
- ・ テニスの歴史と発展、競技特性、プレーの原則的な考え方、戦術の基本的な考え方、テニスのマナー、安全に対する留意点等について、学ぶ。

第2回 (講義)

テニスの技術向上や攻防および戦術等について、資料を配布して説明する。またその技術や戦術についてDVDを活用して学ぶ。

第3回 (実技)

講義で説明した技術の実際 (グループで活動)

- ・ 基礎技術：確実に返球する（グリップの理解 [ウエスタングリップ・イースタングリップ・コンチネンタルグリップ]、グランドストローク [フォアハンド・バックハンド]）。
- ・ 基礎技術：ボールのコントロール、ラリーにおけるエラーを少なくする（ [トップスピン系・スライス系] ボールの回転）。

第4回 (実技)

講義で説明した技術の実際 (グループで活動・技術の実際 の復習)

- ・ 基礎技術の復習：精度を高める（グリップの理解 [ウエスタングリップ・イースタングリップ・コンチネンタルグリップ]、グランドストローク [フォアハンド・バックハンド]）。
- ・ 基礎技術の復習：精度を高める（ボールのコントロール、ラリーにおけるエラーを少なくする [トップスピン系・スライス系] ボールの回転）。

第5回 (実技)

講義で説明した戦術学習 (グループで活動)

- ・ 戦術：相手を崩すチャンスをつくる（サービス [フラ

ットサービス・スピンスサービス]、[サービスダッシュ])。

・戦術：相手を追い込む(アプローチ、スマッシュ、ボレー、パッシングとロブ)。

第6回 (実技)

講義で説明した戦術学習 (グループで活動・戦術学習の復習)

・戦術の復習：精度を高め、相手を崩すチャンスをつくる(サービス[フラットサービス・スピンスサービス]、[サービスダッシュ])。

・戦術の復習：精度を高め、相手を追い込む(アプローチ、スマッシュ、ボレー、パッシングとロブ)。

第7回 (講義)

ゲームの進め方とルールおよび審判法について学び、正式なゲームに備え作戦についても考える。

・相手を崩すとは。

・ラリーにおける戦術的局面(1.つなぎの局面[攻防の均衡]、2.崩しの局面[均衡の崩れ]、3.決めの局面/守りの局面[攻防の両極化])。

第8回 (実技)

ゲーム シングルス1回目の実施。

第9回 (実技)

ゲーム シングルス2回目の実施。

：次回のダブルスに必要な攻防について、予習して調べておくこと(ダブルスの陣形にはどのような陣形があるのか)。

第10回 (実技)

ゲーム ダブルス1回目の実施。

第11回 (実技)

ゲーム ダブルス2回目の実施。

第12回 (実技)

ゲーム ダブルス総当たり戦の実施。

第13回 (実技)

実技テスト(内容については授業中に、事前に説明する)。

第14回 (実技)

ゲームシングルスおよびダブルスの実施。

第15回 (講義)

・まとめ(ふり返り)。

(授業計画について)

授業計画は履修者の到達度に応じて、授業計画を変更する場合がある。

また雨天の場合は実技と講義を入れ替えて、実施する場合がある。

第17回

2022年度 後期

2.0単位

スポーツ科学演習C (バドミントン)

今井 啓介

<授業の方法>

対面授業とオンデマンド授業で行ないます。

非登学申請者はオンデマンド授業

<授業の目的>

この科目は、健康科学分野のひとつである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学演習は、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Cでは主に競技規則を理解し、攻防の仕方を考えてゲームを行えるようにする。個人的・集団的活動の中で、協調性・責任感なども養うことができる。

<到達目標>

競技規則および戦術などを理解する。

<授業の進め方>

実技と講義で進めます。

<履修するにあたって>

実技、授業内容、方法を変更することもある。自分のラケットを使用してもよい。

<授業時間外に必要な学修>

TV等で放映されているバドミントンの試合を見て、バドミントンというスポーツに興味をもってもらいたい(30分程度)。

<提出課題など>

適宜指示する。

<成績評価方法・基準>

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート課題30%で100%で評価する。

非登学の学生についてはレポート課題等100%で評価する。

<授業計画>

第1回 講義

授業の目的、注意事項、成績評価方法・基準などについて理解する。

第2回 講義

バドミントンの基礎技術を習得する。

第3回 実技

バドミントンの基礎技術を習得する。

第4回 実技

基礎技術の復習とシングルの特性を学ぶ。

第5回 実技

基礎技術の復習とダブルスの特性を学ぶ。

第6回 実技

簡易ゲーム

第7回 実技

簡易ゲーム

第8回 講義

バドミントンのルールや審判方法について理解する。

第9回 講義

バドミントンの技術や戦術を理解する。

第10回 実技

ゲーム（シングルス）

第11回 実技

ゲーム（シングルス）

第12回 実技

ゲーム（ダブルス）

第13回 実技

ゲーム（ダブルス）

第14回 実技

リーグ戦等で試合を行なう。

第15回 実技

ゲーム及び授業全体のまとめ、総括を行なう。

2022年度 後期

2.0単位

スポーツ科学演習C（バレーボール）

番平 守

< 授業の方法 >

対面授業（実技or演習）

< 授業の目的 >

この科目は、健康科学分野のひとつである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

このスポーツ科学演習では、元バレーボール全日本代表コーチ経験のある教員から、実技の理論を講義で学び、講義の内容を実技で実践する形式をとっている。科目の構成は、個人的・集団的活動に関する実践的理解が中心となる。身体運動の実践による技能の向上と競技規則および戦術などを理解する。

Cでは主に競技規則を理解し、攻防の仕方を考えてゲームを行えるようにする。個人的・集団的活動の中で、協調性・責任感なども養うことができる。

< 到達目標 >

・競技規則および戦術などを理解する。

< 授業の進め方 >

対面授業（実技）および講義で進めます。

< 履修するにあたって >

毎回、授業開始時に出席をとる。

遅刻は授業の特性上、他の出席者に迷惑がかかるので

慎むこと。

ボール、ゼッケンの準備・後片付け等を積極的に行うこと。

出席状況によっては、単位を認定できない場合がある。

実技ではスポーツウェア、室内用シューズを必ず着用する。服装違反者は受講させない場合がある。

授業計画は、履修者の状況によって変更する場合がある。

< 授業時間外に必要な学修 >

バレーの特性を理解するために、積極的にバレーボールゲームの観戦及び審判のジャッジに注目する。また、ルールブック(ルールとシグナル)を熟読すること。授業終了後には、各自の反省点を見つけ技能を高めるための対策を考えて次回の授業へ備えること。(60分)

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度40%、実技試験30%、レポート30%で評価する。

競技種目などによって評価基準が異なることもある。

< テキスト >

適宜プリントを配布する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス・評価説明(講義)

資料配布を行い、授業の評価方法や内容、進め方について説明をおこなう。

第2回 バレーボールの歴史と特性(講義)

歴史的側面からバレーボール競技の特徴を理解する。

第3回 バレーボール競技の発展(講義)

バレーボール発展のための一貫指導について学ぶ

第4回 様々なバレーボール

様々なバレーボール(9人制、ビーチバレー等)について学ぶ

第5回 基礎技能の理解と習得

ボールハンドリングとバレーボールに必要とされるトレーニング

第6回 基礎技能の理解と習得

パス技術、サーブ・サーブレシーブ技術の獲得

第7回 基礎技能の理解と習得

スパイク技術、レシーブとトス技術の獲得

第8回 応用技能の理解と習得

簡易ゲーム

第9回 応用技能の理解と習得

簡易ゲーム

第10回 戦術の理解とゲーム

習熟度を考慮してチーム分けを行ないゲームを行う

第11回 戦術の理解とゲーム

習熟度を考慮してチーム分けを行ないゲームを行う

第12回 運営計画と審判技術の獲得(講義 KPC2 体育館)

大会運営についてと主審・副審・線審の役割について理解する。

第13回 大会運営の実際（戦術と戦略）
グループによる試合及び試合運営
第14回 大会運営の実際（戦術と戦略）
グループによる試合及び試合運営
第15回 大会運営の実際（戦術と戦略）
チーム及び授業全体のまとめ、総括

2022年度 前期

2.0単位

スポーツ科学入門

西脇 満、秋田 和彦、上谷 聡子

< 授業の方法 >

講義やビデオ視聴など

< 授業の目的 >

この科目は、スポーツ科学分野のひとつである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学入門は、スポーツ科学演習A・B（1年次後期より履修が可能。実技と講義で構成されている）の入門講義である。本講義では、スポーツ科学演習への導入として、スポーツの歴史や心理などのスポーツ科学の基礎を紹介するとともに、競技種目の競技規則などについても説明を行う。スポーツ経験の有無を問わず、スポーツの楽しさや喜び、すばらしさを共有し、スポーツの意義やスポーツを「する」、「みる」、「ささえる」際の魅力を紹介する。

< 到達目標 >

スポーツを「する」、「みる」、「ささえる」際に有用な知識を習得する。

< 授業の進め方 >

講義やビデオ視聴など

< 授業時間外に必要な学修 >

講義内容および配布資料等を用いて、事前事後の学習を行うこと。（60分程度）

< 提出課題など >

出席カードに講義の課題をレポートし提出。（レポート内容については、次回の講義で開設する。）

< 成績評価方法・基準 >

定期テスト70%、小テスト30%

< テキスト >

適宜資料を配布する。

< 授業計画 >

第1回 バレーボールの歴史

バレーボールの起源などについて理解する。

担当：秋田

第2回 バレーボールの歴史

世界および日本での普及からオリンピック種目になるまでの歴史を理解する。

担当：秋田

第3回 バレーボール競技

6人制および9人制の競技について、比較しながら理解する。

担当：秋田

第4回 バレーボール競技

サイドアウト制とラリーポイント制について理解する。

担当：秋田

第5回 バレーボールのルールおよび審判法

バレーボールの競技規則および審判法について理解する。

担当：秋田

第6回 体型評価の基礎知識

自身の体型を正しく評価することができる。

体重、BMI、体脂肪率について理解する。

担当：上谷

第7回 レジスタンストレーニングの方法と効果

筋パワーや筋持久力の向上などを目的としたレジスタンストレーニングの処方や効果について理解する。

担当：上谷

第8回 有酸素性持久力トレーニングの基礎

ウォーキングやジョギング・ランニングのトレーニング処方について理解する。

担当：上谷

第9回 陸上競技の歴史とルール

陸上競技の歴史とルールについて概説し、その魅力について理解する。

担当：上谷

第10回 マラソンと駅伝の歴史とルール

神戸ゆかりのスポーツであるマラソンと、日本で人気のスポーツである駅伝の歴史とルールについて概説し、その魅力について理解する。

担当：上谷

第11回 近代オリンピックの歴史 1

1896年のアテネ五輪から1960年のローマ五輪までの開催の経緯、特筆すべき歴史に残る選手について理解する。

担当：西脇

第12回 近代オリンピックの歴史 2

1964年の東京五輪と1968年のメキシコ五輪について開催の経緯、特筆すべき歴史に残る選手について紹介する。

担当：西脇

第13回 サッカーワールドカップの歴史 1

1930年の第1回ウルグアイ大会から、1970年の第9回メキシコ大会までの歴史とスター選手について理解する。前半部分では1936年ベルリン五輪での日本代表の活躍、後半部では、ブラジルのペレ選手を中心に紹介する。

担当：西脇

第14回 サッカーワールドカップの歴史 2

1960年に日本がドイツからデットマール・クラマー氏を迎え黄金時代を築いた経緯と、東京・メキシコ五輪での日本代表の活躍。1974年の第10回西ドイツ大会でのクライフやベッケンバウアーから82年の第12回大会のスター

選手などについて理解する。86年のアジア最終予選での日本対韓国の因縁の試合についても理解する。

担当：西脇

第15回 サッカーワールドカップの歴史3

1986年の第13回大会から94年のアメリカ大会まで。マラドーナの活躍やドーピング問題、Jリーグの発足、96年アトランタ五輪でのマイアミの奇跡などについて理解する。

担当：西脇

2022年度 前期

2.0単位

スポーツ科学入門

赤坂 美月、坂手 比呂志、田路 秀樹

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、共通教育科目スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学入門は、スポーツ科学演習A・B（1年次後期より履修が可能。実技と講義で構成されている）の入門講義である。本講義では、スポーツ科学演習への導入として、スポーツの歴史やスポーツ科学の基礎を紹介するとともに、競技種目の競技規則などについても説明を行う。スポーツ経験の有無を問わず、スポーツの楽しさや喜び、すばらしさを共有し、スポーツの意義やスポーツを「する」、「みる」、「ささえる」際に有用な知識とその魅力について学ぶ。

< 到達目標 >

スポーツを「する」、「みる」、「ささえる」際に有用な知識を習得する。

< 授業の進め方 >

講義を中心に進める。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業後は、内容を整理しておくこと。（30分程度）理解が不十分な点があれば、質問すること。

< 提出課題など >

提出されたレポートについて、コメントを返す。

< 成績評価方法・基準 >

毎回のミニレポート30%、試験70%評価する。

< テキスト >

適宜資料を配布する。

< 参考図書 >

必要に応じて紹介する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

テニスのはじまり

授業の方法、授業の目的、到達目標、授業の進め方、授

業計画、成績評価方法・基準などについて理解する。

テニスの起源、近代テニスの誕生、日本への伝来について理解する。

担当：赤坂

第2回 テニスのマナー

テニスの魅力ともいえるテニスのマナーについて理解する。

担当：赤坂

第3回 テニスの4大大会

テニスの4大大会（全豪オープン、全仏オープン、ウィンブルドン、全米オープン）の特徴と魅力について理解する。

担当：赤坂

第4回 癒しとスポーツ

こころとからだの癒しとスポーツについて理解する。

担当：赤坂

第5回 神戸とゴルフ

神戸とゴルフのはじまりについて知る。

ゴルフの競技規則と競技特性について理解する。

担当：赤坂

第6回 体力の変化を知る

大学生の体格・体力の推移、身体組成の現状を理解する。

担当：田路

第7回 加齢に伴う体力を知る

加齢に伴う体力の変化を理解し、健康づくりの課題を考える。

担当：田路

第8回 健康づくりのための筋力・パワーを知る

健康づくりのための筋力・パワーを高める方法を理解する。

担当：田路

第9回 健康づくりのためのスタミナを知る

健康づくりのためのスタミナを高める方法を理解する。

担当：田路

第10回 オリンピックを知る

記録の変遷からヒトの限界を理解するとともに、日本の記録を知る。

担当：田路

第11回 スポーツをする身体について考える

運動やスポーツへのかかわり方が、健康に生活していくためにどのような意味をもつのか、その意義について学び、スポーツ活動時の身体の変化についても理解する。

担当：坂手

第12回 スポーツをする身体について考える

スポーツ活動による身体の変化について学び、理解する。

担当：坂手

第13回 卓球の歴史と競技特性

卓球の歴史と競技特性やルール等について学び、理解する。

担当：坂手

第14回 テニスの歴史と競技特性

テニスの歴史と競技特性やルール等について学び、理解する。

担当：坂手

第15回 野外活動（アウトドア・スポーツ）

ストレス社会におけるアウトドア・スポーツの有効性について学び、理解する。

担当：坂手

2022年度 前期

2.0単位

スポーツ科学入門

津田 真一郎、中川 昌幸、西脇 満

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、共通教育科目のリベラルアーツ科目群、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学入門は、スポーツ科学演習A・B（1年次後期より履修が可能。実技と講義で構成されている）の入門講義である。本講義では、スポーツ科学演習への導入として、スポーツの歴史やスポーツ科学の基礎を紹介するとともに、競技種目の規則などについても説明を行う。スポーツ経験の有無を問わず、スポーツの楽しさや喜び、すばらしさを共有し、スポーツの意義やスポーツを「する」、「みる」、「ささえる」際に有用な知識とその魅力について学ぶ。

< 到達目標 >

スポーツを「する」、「みる」、「ささえる」際に有用な知識を習得する。

< 授業の進め方 >

講義を中心に進めます。

< 授業時間外に必要な学修 >

各授業において配布資料等を用いて事前・事後学習を行うこと（各約30分）

< 提出課題など >

出席カードにて授業中にミニレポートを提出する。レポートについては、授業中に講評及び解説を加えてフィードバックを行う。

< 成績評価方法・基準 >

ミニレポート30%、定期試験70%で評価する。

< テキスト >

適宜資料を配布する。

< 参考図書 >

必要に応じて紹介する。DVD等を使用する。

< 授業計画 >

第1回 近代オリンピックの歴史

1986年のアテネ五輪から1960年のローマ五輪までの開催の経緯、特筆すべき歴史に残る選手について理解する。

第1回～5回 担当 西脇 満

第2回 近代オリンピックの歴史2

1964年の東京五輪と1968年のメキシコ五輪について開催の経緯、特筆すべき歴史に残る選手について紹介する。

第3回 サッカーワールドカップの歴史1

1930年の第1回ウルグアイ大会から、1970年の第9回メキシコ大会までの歴史とスター選手について理解する。前半部分では1936年ベルリン五輪での日本代表の活躍、後半部分では、ブラジルのペレ選手を中心に紹介する。

第4回 サッカーワールドカップの歴史2

1960年に日本がドイツからデットマール・クラマー氏を迎え黄金時代を迎えた経緯と、東京・メキシコ五輪での日本代表の活躍。1974年の第10回西ドイツ大会でのクライフやベッケンバウアーから82年の第12回大会のスター選手などについて理解する。86年のアジア最終予選での日本対韓国の因縁の試合についても理解する。

第5回 サッカーワールドカップの歴史3

1986年の第13回大会から94年のアメリカ大会まで。マラドーナの活躍やドーピング問題、Jリーグの発足、96年アトランタ五輪でのマイアミの奇跡などについて理解する。

第6回 わが国でのスポーツの成り立ちと嘉納治五郎
わが国でスポーツがどのように普及したのかを紐解くとともに、スポーツの普及に多大なる貢献を行った嘉納治五郎について学ぶ。

第6回?10回担当 中川昌幸

第7回 女性とスポーツについて

わが国で女性スポーツがどのように普及したのかを紐解くとともに、女性スポーツの普及に多大なる貢献をした人見絹江について学ぶ。

第8回 わが国でのサッカーの普及について

わが国でサッカーがどのように普及していったのかを紐解くとともに現在のサッカー人気の礎はどこにあるのかについて学ぶ。

第9回 Jリーグの成り立ちとその背景について

現在人気を博しているサッカーJリーグがどのような歴史を持ち、どのように設立されたのかについて学ぶ。

第10回 わが国のスポーツを取り巻く環境と生涯スポーツの意義について

現在のわが国でのスポーツを取り巻く環境を紹介するとともに生涯スポーツの意義について学ぶ。

第11回 スポーツ科学について

スポーツ科学の定義や科学的アプローチの重要性について理解する。

第11回～15回 担当 津田真一郎

第12回 スポーツとメンタルヘルス

運動・スポーツ活動とメンタルヘルスの関連について理

解する。

第13回 スポーツとメンタルヘルス

運動処方とメンタルヘルスの関連について理解する。

第14回 運動神経について

筋肉のしくみと運動神経について理解する。

第15回 ストレッチングの科学

ストレッチングの方法や理論について理解する。

2022年度 前期

2.0単位

スポーツ科学入門

上谷 聡子、秋田 和彦、中川 昌幸

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、共通教育科目のリベラルアーツ科目群・スポーツ科学分野の一つである。

全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身に付け、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学入門は、スポーツ科学演習A・B(1年次後期より履修が可能。実技と講義とで構成されている)の入門講義である。

本講義では、スポーツ科学演習への導入として、スポーツの歴史やスポーツ科学の基礎を紹介するとともに、競技種目の競技規則などについても説明を行う。スポーツ経験の有無を問わず、スポーツの楽しさや喜び、素晴らしさを共有し、スポーツの意義やスポーツを「する」「みる」「ささえる」際に有用な知識とその魅力について学ぶ。

< 到達目標 >

スポーツを「する」「みる」「ささえる」際に有用な知識を習得する。

< 授業の進め方 >

講義を中心に進める

< 履修するにあたって >

授業形態については、シラバスを確認すること。

今後の状況によって、変更になる可能性がある。

< 授業時間外に必要な学修 >

各回において、配布資料等を用いて事前・事後学習を行うこと(各30分程度)

< 提出課題など >

毎回、レポートの提出を求める。

また、レポートについては授業中に講評および解説を加えて、フィードバックを行う。

< 成績評価方法・基準 >

毎回のミニレポート30%、試験70%で評価する。

< テキスト >

適宜、資料を配布する。

< 参考図書 >

必要に応じて紹介する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

バレーボールの歴史

バレーボールの起源などについて理解する。

担当：秋田

第2回 バレーボールの歴史

世界および日本での普及からオリンピック種目になるまでの歴史を理解する。

担当：秋田

第3回 バレーボール競技

6人制および9人制の競技について、比較しながら理解する。

担当：秋田

第4回 バレーボール競技

サイドアウト制とラリーポイント制について理解する。

担当：秋田

第5回 バレーボールのルールおよび審判法

バレーボールの競技規則および審判法について理解する。

担当：秋田

第6回 わが国でのスポーツの成り立ちと嘉納治五郎

わが国でスポーツがどのように普及したのかを紐解くとともに、スポーツの普及に多大なる貢献を行った嘉納治五郎について学ぶ。

担当：中川

第7回 女性とスポーツについて

わが国で女性スポーツがどのように普及したのかを紐解くとともに、女性スポーツの普及に多大なる貢献をした人見絹枝について学ぶ。

担当：中川

第8回 わが国でのサッカーの普及について

わが国でサッカーがどのように普及していったのかを紐解くとともに現在のサッカー人気の礎はどこにあるのかについて学ぶ。

担当：中川

第9回 Jリーグの成り立ちとその背景について

現在人気を博しているサッカーJリーグがどのような歴史を持ち、どのように設立されたのかについて学ぶ。

担当：中川

第10回 わが国のスポーツを取り巻く環境と生涯スポーツの意義について

現在のわが国でのスポーツを取り巻く環境を紹介するとともに生涯スポーツの意義について学ぶ

担当：中川

第11回 体型評価の基礎知識

自身の体型を正しく評価することができる。

体重、BMI、体脂肪率について理解する。

担当：上谷

第12回 レジスタンストレーニングの方法と効果

筋パワーや筋持久力の向上などを目的としたレジスタン

ストレージングの処方や効果について理解する。

担当：上谷

第13回 有酸素性持久力トレーニングの基礎

ウォーキングやジョギングのトレーニング処方について理解する。

担当：上谷

第14回 陸上競技の歴史とルール

陸上競技の歴史とルールについて概説し、その魅力について理解する。

担当：上谷

第15回 マラソンと駅伝の歴史とルール

神戸ゆかりのスポーツであるマラソンと、日本で人気のスポーツである駅伝の歴史とルールについて概説し、その魅力について理解する。

担当：上谷

2022年度 前期

2.0単位

スポーツ科学入門

秋田 和彦、上谷 聡子、中川 昌幸

< 授業の方法 >

講義

対面授業

< 授業の目的 >

この科目は、スポーツ科学分野の一つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

スポーツ科学入門は、スポーツ科学演習A・B（1年次後期より履修が可能。実技と講義で構成されている）の入門講義である。本講義では、スポーツ科学演習への導入として、スポーツの歴史やスポーツ科学の基礎を紹介するとともに、競技種目の規則などについても説明を行う。スポーツ経験の有無を問わず、スポーツの楽しさや喜び、すばらしさを共有し、スポーツの意義やスポーツを「する」、「みる」、「ささえる」際に有用な知識とその魅力について学ぶ。

< 到達目標 >

スポーツを「する」、「みる」、「ささえる」際に有用な知識を習得する。

< 授業の進め方 >

オンデマンド授業となるため、基本的にはdotCampusを用いて授業を進めます。

ただし、第1回（4/8）と第2回（4/15）はdotCampusへの登録が終わっていない可能性があるため、OneDriveを用いて授業を行います。

遠隔授業欄に記載しているOneDrive内の資料を見て、授業に取り組んで下さい。

< 授業時間外に必要な学修 >

講義内容および配布資料等を用いて、事前事後の学習を行うこと。（60分程度）

< 成績評価方法・基準 >

毎回のミニレポート（30%）試験（70%）で評価する。

< テキスト >

適宜資料を配布する。

< 授業計画 >

第1回 主題：わが国でのスポーツの成り立ちと嘉納治五郎

わが国でスポーツがどのように普及したのかを紐解くとともに、スポーツの普及に多大なる貢献を行った嘉納治五郎について学ぶ。

担当：中川

第2回 女性とスポーツについて

わが国で女性スポーツがどのように普及したのかを紐解くとともに、女性スポーツの普及に多大なる貢献をした人見絹枝について学ぶ。

担当：中川

第3回 わが国でのサッカーの普及について

わが国でサッカーがどのように普及していったのかを紐解くとともに現在のサッカー人気の礎はどこにあるのかについて学ぶ。

担当：中川

第4回 Jリーグの成り立ちとその背景について

現在人気を博しているサッカーJリーグがどのような歴史を持ち、どのように設立されたのかについて学ぶ。

担当：中川

第5回 わが国のスポーツを取り巻く環境と生涯スポーツの意義について

現在のわが国でのスポーツを取り巻く環境を紹介するとともに生涯スポーツの意義について学ぶ

担当：中川

第6回 体型評価の基礎知識

自身の体型を正しく評価することができる。

体重、BMI、体脂肪率について理解する。

担当：上谷

第7回 レジスタンストレーニングの方法と効果

筋パワーや筋持久力の向上などを目的としたレジスタンストレーニングの処方や効果について理解する。

担当：上谷

第8回 有酸素性持久力トレーニングの基礎
ウォーキングやジョギングのトレーニング処方について理解する。

担当：上谷

第9回 陸上競技の歴史とルール

陸上競技の歴史とルールについて概説し、その魅力について理解する。

担当：上谷

第10回 マラソンと駅伝の歴史とルール

神戸ゆかりのスポーツであるマラソンと、日本で人気のスポーツである駅伝の歴史とルールについて概説し、その魅力について理解する。

担当：上谷

第11回 バレーボールの歴史

バレーボールの起源などについて理解する。

担当：秋田

第12回 バレーボールの歴史

世界および日本での普及からオリンピック種目になるまでの歴史を理解する。

担当：秋田

第13回 バレーボール競技

6人制および9人制の競技について、比較しながら理解する。

担当：秋田

第14回 バレーボール競技

サイドアウト制とラリーポイント制について理解する。

担当：秋田

第15回 バレーボールのルールおよび審判法

バレーボールの競技規則および審判法について理解する。

担当：秋田

2022年度 後期

2.0単位

スポーツと健康 A

西脇 満

< 授業の方法 >

講義やビデオ視聴など

< 授業の目的 >

本講はスポーツ科学分野のひとつであり、目的は全学ディプロマポリシー

1. 幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる。
2. さまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる。
3. 生涯にわたって学び続けることができる。
4. 獲得した知識や技能を社会に役立てることができる。

に基づき、次の通りとする。

1. 健康についての考え方、身体運動の歴史の変遷を理解できる（全学ディプロマポリシー 1, 2 より）

2. 身体構造の仕組みや運動による身体の変化について理解できる（全学ディプロマポリシー 1, 2 より）

3. 身体に必要な栄養、健康を維持するために効果的な運動やその効果などについて理解できる（全学ディプロマポリシー 3, 4 より）

< 到達目標 >

目標：現代生活において健康を維持増進するには運動とバランスのとれた栄養を摂取することが必要であると言われるが、なぜそうなのかが理解できる。さらに自ら健康を効果的に維持・増進できるようになる。

< 授業の進め方 >

オンデマンド授業（講義ビデオの視聴）

< 授業時間外に必要な学修 >

授業は教科書を中心に進めるので、事前の予習、講義後の復習に該当部分をそれぞれ1時間以上かけて熟読しておくことが望ましい。

< 提出課題など >

講義後などに理解度を確認する小テスト、あるいは簡単な問いを行うことがある。

また教科書の第1部が終わった時点でdotCampusを使った小テストを行う予定。

< 成績評価方法・基準 >

テスト80%、講義中に行う小テスト20%

< テキスト >

スポーツサイエンスフォーラム編「健康・スポーツ科学の基礎知識（第三版）」道和書院

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

本講の目的、目標、講義の進め方について説明

第2回 スポーツ・健康の概念

スポーツの定義、スポーツの文化として側面、現代社会におけるスポーツの必要性などについて理解する。

第3回 現代人の生活と健康

現代社会の生活と運動不足の問題、高齢化問題とスポーツの関係などについて理解する。

第4回 スポーツの文化とその歴史 1

古代社会における身体運動についての記録や遺跡、壁画などについて紹介し、古代オリンピックなどについて理解する。

第5回 スポーツの文化とその歴史 2

中世から近世にかけての身体運動、とりわけ欧米、特に英国における近代競技スポーツ発祥の経緯について理解する。

第6回 スポーツの文化とその歴史 3

近代スポーツの起源や近代オリンピックの始まりの経緯について理解する。ビデオを視聴し具体的なイメージを持つ。

第7回 余暇とスポーツ

日本人の余暇の過ごし方や実態、問題点について理解し、自分の生活を振り返って改善できる。

第8回 人体の構造と運動 1

人体の構造と運動による骨や筋肉の変化などについて理解する。

第9回 人体の構造と運動 2

筋肉の仕組みとエネルギー 1

運動による呼吸器系、循環器系の変化などについて理解する。

第10回 筋肉の仕組みとエネルギー 2

筋肉の構造や運動に必要なエネルギーが生成される仕組みについて、ビデオ視聴により具体的なイメージを持ちながら理解する。

第11回 運動と栄養 1

運動と三大栄養素との関係について理解する。同時にスポーツ選手の栄養摂取の基本的な考え方について理解する。

第12回 運動と栄養 2

運動とビタミン、ミネラル、水の関係や作用について理解する。

第13回 生活習慣病と運動 1

運動と高血圧、糖尿病の関係について理解する。

第14回 生活習慣病と運動 2

運動と高脂血症、糖尿病や栄養の代謝などについてビデオを視聴しながら理解する。

第15回 トレーニングの効果

トレーニングの種類や方法、効果などについて理解する。

2022年度 後期

2.0単位

スポーツと健康 A

秋田 和彦

< 授業の方法 >

講 義
対面授業

< 授業の目的 >

この科目は、スポーツ科学分野のひとつである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

近年わが国においては、高齢者社会を迎え「健康づくり」「体力づくり」に対して非常に高い関心がある。そこで、生涯を通して健康で豊かな生活を送るために、身体構造の仕組みや運動による身体の変化など、健康を維持していくための効果的な内容を解説する。

< 到達目標 >

運動することの重要性を理解し、自らの健康を効果的に維持増進できるようになる。

< 授業の進め方 >

講義中心に進める。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業内容および配布資料等を用いて、事前事後の学習を行うこと。(60分程度)

< 提出課題など >

毎回、出席カードに授業の課題をレポートし提出。(レポート内容については、次回の授業で解説する。)

< 成績評価方法・基準 >

講義前半小テスト(50%) 講義後半小テスト(50%) で評価する。

< テキスト >

適宜資料を配布する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

スポーツと健康Aの講義内容および、評価基準などについて理解する。

第2・3回 オリンピックの歴史

近代オリンピックの歴史について理解する。

第4・5回 救急処置法

観察から気道確保についての理解をする。

第6・7回 心肺蘇生法

人工呼吸および心臓マッサージについて理解する。(講義前半理解度の小テスト)

第8・9回 健康と運動

血液の循環と健康との関係および運動からおこる疲労について理解する。

第10回 エネルギーが生じるしくみ

エネルギーのもととなる物質およびATPが生まれるしくみなどについて理解する。

第11回 眠りと健康

血液の循環と健康との関係および運動からおこる疲労について理解する。(講義前半理解度の小テスト)

第12回 老化

老化のしくみについて理解する。

第13回 肥満とやせ

肥満とやせとの関係について理解する。

第14・15回 健康と水

健康と水との関係について理解する。(講義後半理解度の小テスト)

2022年度 後期

2.0単位

スポーツと健康 A

赤坂 美月

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、共通教育科目のスポーツ科学分野の一つで

ある。スポーツに関心を持ち、自らスポーツに親しみ、全学ディプロマポリシーに示すように、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

近年わが国では、高齢社会を迎えているなかで、「健康」や「体力」に対する関心は非常に高いものがある。また、すべてのライフステージにおいて心豊かな生活、余暇活動が強く求められているなかで、多くの人々がスポーツに取り組んでいる。

そこで、生涯にわたってスポーツと「する・みる・ささえる・知る」などとかわり、「健康で豊かで活力ある日々を過ごす」ために必要な知識を深める。本講義では、主にスポーツや健康の概念とともに、スポーツと心身の健康とのかかわりについて学ぶ。

<到達目標>

スポーツと心身の健康について説明できる。

<授業のキーワード>

生涯、スポーツ、楽しむ、健康、生きがい

<授業の進め方>

授業計画にそって講義を行う。DVDも使用する。

<授業時間外に必要な学修>

講義内容について、事前事後の学習を行うこと。(30分程度)

理解が不十分な点があれば、質問すること。

<提出課題など>

提出されたレポートなどについて、コメントを返す。

<成績評価方法・基準>

授業総数の3分の2以上の出席を必要とする。

毎回のミニレポート30%、レポート課題70%で評価する。

<テキスト>

適宜資料を紹介する。

<参考図書>

森川貞夫・依田充代編著『今日からはじめるスポーツ社会学』共栄出版

<授業計画>

第1回 ガイダンス

スポーツの概念

授業の方法、授業の目的、到達目標、授業の進め方、授業計画、成績評価方法・基準などについて理解する。

スポーツとは何かについて理解する。

第2回 健康の概念

健康とは何かについて理解する。

第3回 生涯スポーツのすすめ

生涯スポーツについて理解する。

第4回 スポーツの歴史1

スポーツの歴史(神戸とスポーツ)を通して、スポーツの意義について理解する。

第5回 スポーツの歴史2

オリンピックの歴史を通して、オリンピックの意義について理解する。

第6回 スポーツの歴史3

ドーピングの歴史を通して、アンチ・ドーピングについて理解する。

第7回 現代社会とスポーツ・健康1

現代社会において、人はスポーツに何を求めているかについて理解する。

スポーツの政策からスポーツと健康について理解する。

第8回 現代社会とスポーツ・健康2

健康の政策からスポーツと健康について理解する。

第9回 癒しとスポーツ

こころとからだの癒しと身体活動・運動について理解する。

第10回 健康と体力

筋肉、体力、健康に関連する体力について理解する。

第11回 人間とスポーツ

人はなぜスポーツをするのかについて理解する。

第12回 健康と身体活動・運動1

体力づくり・生活習慣病予防など、目的に応じた身体活動・運動について理解する。

ストレッチングの目的・効果・種類・方法などについて理解する。

第13回 健康と身体活動・運動2

トレーニングの原理・原則について理解する。

エアロビクスについて理解する。

健康日本2 1(第二次)「身体活動・運動に関する目標」について理解する。

第14回 健康と身体活動・運動3

レジスタンス運動の目的・効果・種類・方法などについて理解する。

第15回 スポーツを楽しむ

スポーツと心身の健康について、あらためて学ぶことにより、今後、どのようにスポーツを楽しみ取り組んでいくかを考える。

2022年度 後期

2.0単位

スポーツと健康A

上谷 聡子

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

この科目は、スポーツ科学分野の1つである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

2021年に東京オリンピックが開催され、日本全体としてスポーツや健康に対する意識が高まっている。その一方で、スポーツや健康に関する様々な問題や課題が数多く存在しているのが現状である。これらの問題や課題を理解するために、本講義では2つのテーマに分けて講義を進める。

前半ではスポーツの歴史について学び、文化としてのスポーツに対する理解を深める。また、スポーツの歴史を学ぶことを通じて、現在のスポーツが抱える問題や課題についてもアプローチする。後半は、スポーツと健康との関係性や日本における生涯スポーツの現状や課題について学ぶ。健康に過ごすために身に付けるべき基礎的な知識として、肥満や若年女性のやせ問題、生涯スポーツの現状や施策、実践方法について取り上げる。

本講義を通じて、スポーツや健康に対する自分なりの視点や価値観を構築することを目的とする。

<到達目標>

1. スポーツ文化を歴史的背景から学び、スポーツが現在に至るまでに過程をそれぞれの時代について説明できる。
2. スポーツが持つ文化的価値には負の側面もあることを知り、その具体例を2つ以上説明することができる。
3. 現在の日本における健康問題とスポーツに関する施策について、説明することができる。
4. 文化としてのスポーツを多面的に捉えられる態度を養う。
5. 自分の健康を維持増進しようとする態度を養う。

<授業のキーワード>

スポーツの歴史、スポーツとメディアとの関係性、日本における健康問題、生涯スポーツ

<授業の進め方>

配布資料を用いて、講義を中心に進める。

なお、授業の進行状況によって、授業計画を変更する場合がある。

<履修するにあたって>

他の受講生の迷惑行為となる私語や途中退出・遅刻等はないこと。

<授業時間外に必要な学修>

各授業の事前・事後学習をテキストやノートや配布プリント・参考図書などを用いて行うこと（約30分）。

毎回、講義前に参考図書の内容に関係したミニテストを実施する予定である。ミニテスト該当箇所については、前週の講義で指示する。予習を必ず行ってから、授業に臨むこと（約30分）。

<提出課題など>

毎回、講義内容に関する小レポートを課す。小レポートは翌週の講義開始時に紹介し、全体へのフィードバック

を行う。

<成績評価方法・基準>

小レポート（講義内容に関するテーマで毎回レポートを課します）：50%

定期テスト：50%

<参考図書>

菊本智之編著、前林清和・上谷聡子著『スポーツの思想』晃洋書房、2018年

スポーツサイエンスフォーラム編『健康・スポーツ科学の基礎知識（改訂版）』道和書院、2019年

<授業計画>

第1回 ガイダンス

スポーツとは

授業の進め方、受講に関する注意事項、評価基準などの説明。

スポーツの語源、定義について。

第2回 スポーツと体育

それぞれの言葉について、歴史と現状から違いを考える。

第3回 学校体育の歴史

日本における学校体育の歴史と現状および課題について。日米における大学スポーツの現状について学ぶ。

第4回 スポーツと政治

スポーツの歴史を知るとともに、スポーツが政治とも深く関わってきた背景について学ぶ。

第5回 スポーツとメディア

スポーツとルール

スポーツとメディアとの間における歴史や現状・問題点について学ぶ。

メディアとルール変更に関する問題について。

第6回 スポーツとビジネス

大規模スポーツイベントの現状を、都市型マラソンを中心に理解する。

第7回 スポーツとボランティア

スポーツボランティアの理念について知り、スポーツイベントとの関わりについて学ぶ。

第8回 スポーツと差別

スポーツ界にある差別の歴史や現状などについて学ぶ。

第9回 スポーツと女性

スポーツと女性における歴史や現状・問題点について学ぶ。

第10回 女性の身体とスポーツ

月経のメカニズムについて理解する。

女性の身体とスポーツに関する諸問題（FAT）について説明する。

第11回 日本が抱えるやせ問題

若い女性の痩身傾向について知り、やせが引き起こす健康問題について理解する。

第12回 日本が抱える肥満問題

生涯スポーツの現状と課題

肥満の判定方法や日本における状況を学び、肥満が引き

起こす健康問題（生活習慣病）について理解する。
日本における生涯スポーツの現状をデータから読み取る。
健康寿命と平均寿命との違いについて学ぶ。
健康とスポーツとの関係性について知る。
第13回 生涯スポーツとしてのランニング
生涯スポーツとして人気が高いランニングのトレーニング効果や処方について学ぶ。
第14回 「見る」スポーツとしてのマラソン・駅伝
「見る」スポーツとしてのマラソン・駅伝のルールや技術を知り、その魅力を理解する。
第15回 スポーツや健康に関するニュース
授業内容に関連したスポーツや健康に関する新聞記事を取り上げ、解説を行う。
講義全体のまとめとふりかえり

2022年度 前期

2.0単位

スポーツと健康 B

坂井 隆秀

< 授業の方法 >

対面授業 講義

< 授業の目的 >

この科目は、スポーツ科学分野のひとつである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

日本での平均寿命は女性 86 歳、男性 79 歳であるのに対し、介護などの世話にならず元気に暮らせる期間「健康寿命」は女性 73 歳、男性 70 歳と、それぞれの間の差には女性で 13 年、男性で 10 年ある。この差を縮めていくのが健康寿命の延伸となり、国全体で目指す健康づくりの大切な柱となるところである。そのためには健康づくりに関する知識を高めることはもとより、健康づくりに関する意識を高め、実際に行動することが最も大切である。

また、この授業の担当者は、健康運動指導士・NSCA - CSCSとしてアスリートから一般の方まで 30 年のトレーニング指導歴のある、実務経験のある教員です。

< 到達目標 >

本講義では、自分自身の現状を把握し、自らの健康づくりのために何が必要であるのかを学ぶ。そして、その知識を日常生活で実践していけるようになることを目的とする。

< 授業の進め方 >

講義を中心に進めます。その中に、実践及び体験学習を含めます。また、DVDやBDを使用する場合があります。

< 履修するにあたって >

授業内容は、状況に応じ変更する場合があります。

< 授業時間外に必要な学修 >

自身の日頃の活動量を理解し、日々その量を高める努力

を試みる。

活動量を増加させるために、1日10分以上、余分にウォーキングやジョギングを実施すること。

< 提出課題など >

授業期間内の活動量記録表及びレポートの提出を課しません。

毎月月初めに前月の活動量の内容を確認するため、計測忘れや記入漏れの無いようにすること。

提出された課題・レポートに対してコメントをつけて返却します。

< 成績評価方法・基準 >

課題40%、レポート60%で総合的に評価する。

< 参考図書 >

「健康・スポーツ科学の基礎知識」スポーツサイエンスフォーラム編、道和書院

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

本講の目的、進め方、課題、評価等について説明する。

第2回 スポーツ・健康の概念

スポーツ及び健康の定義について学ぶ。

第3回 現代人の生活と健康

現代人の生活と健康の動向を把握し、国の指針と対策を学ぶ。

第4回 余暇とスポーツ

余暇の過ごし方としてのスポーツの関わり方を学ぶ。

第5回 ストレスと運動

ストレス解消法と運動の関わりについて学ぶ。

第6回 人体の構造と運動

人体の構造の基礎と運動の関わりについて学ぶ。

第7回 筋肉の仕組みとエネルギー

筋肉の概要について学ぶ。

第8回 運動と栄養

栄養に関する基礎と運動の関わりについて学ぶ。

第9回 生活習慣病と運動

生活習慣病の基礎と運動の関わりについて学ぶ。

第10回 自分に合った運動

現在の自分を知り、適切な運動を見つける方法を学ぶ。

第11回 トレーニングの効果

トレーニングの原理について学ぶ。

第12回 ストレッチング

効果的にストレッチングを行うための基礎知識を学ぶ。

第13回 有酸素運動

有酸素運動の効果について学ぶ。

第14回 無酸素運動

効果的なレジスタンストレーニング方法について学ぶ。

第15回 まとめ

これまでの講義を振り返り、自らの健康づくりの為に必要な知識を学び、実践するための意識が高められたかを確認する。

2022年度 前期
2.0単位
スポーツと健康 B
渡邊 和香

< 授業の方法 >

対面授業でおこなう。

< 授業の目的 >

この科目は、共通教育科目のリベラルアーツ科目群、スポーツ科学分野のひとつである。全学ディプロマポリシーに示す、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養することを目指す。

現代の健康に関する諸問題を取り上げるとともに、自らの健康・体力の維持増進を図る生涯スポーツと、自らの能力と技術の限界に挑む競技スポーツを中心に紹介し、スポーツと健康の関係性についての理解を深めていく。また、協同学習を通して、生活習慣病の予防方法を理解し、正しい健康管理方法の実践を促すことを目的とする。

< 到達目標 >

- ・健康を阻害する要因・運動生理学の基礎を理解し、自己の健康観の確立を図ることができる。
- ・トレーニングの基礎知識・応急処置の基本的原理・原則、スポーツ障害についての知識を習得し、自身のコンディショニングを評価することができる。
- ・健康とスポーツに関するグループワークを通じて、生活に運動を取り入れ自身のスポーツライフを豊かにすることができる。

< 授業の進め方 >

講義を中心に進めます。

< 履修するにあたって >

授業中の私語、携帯電話の使用は禁止します。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業内容に記載されているキーワードについて事前に調べ、疑問点をまとめておくこと。また、授業内容を復習し、ノートなどにまとめておくこと。(60分程度)

< 成績評価方法・基準 >

各授業での小テスト 70%

テストレポート(期末) 30%

< テキスト >

適宜資料を配布します。

< 参考図書 >

適宜紹介します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

スポーツと健康についての基礎知識確認と授業の進め方の説明

第2回 大学生活における健康と運動

自分たちの身体について。(運動不足と運動障害・飲酒・喫煙・薬物・性感染症)

第3回 身体活動と健康

健康と体力について。体力テストの測定結果からみる身体機能の加齢変化と発育発達。

第4回 身体活動と健康

現代社会の健康問題と我が国の健康づくり施策。

第5回 身体活動と健康

生活習慣の現状と対策(生活習慣病、食生活、睡眠、ストレス、喫煙・飲酒行動)

第6回 身体活動と健康

(1)身体活動の意味と意義 (2)日本人の身体活動状況
(3)健康づくりのための身体運動の指針

第7回 身体活動と健康

運動処方の内容と運動の効果

第8回 季節ごとの健康管理

「食べる・休む・身体を動かす」ことに着目し健康管理について考える

第9回 スポーツ科学の歴史

(1)体育とスポーツの関係 (2)競技スポーツと生涯スポーツ

第10回 スポーツの生理学的理解

(1)スポーツと骨、筋系 (2)スポーツと呼吸循環器系
(3)スポーツにおけるエネルギー供給機構

第11回 トレーニングの種類と進め方

トレーニングの原理・原則、トレーニングの進め方と効果について

第12回 スポーツ活動中に多い怪我と病気

運動障害の予防と応急処置、熱中症、貧血、突然死。スポーツ外傷やスポーツ障害について

第13回 スポーツと栄養

減量問題、食事バランスガイド、サプリメント摂取について

第14回 心の健康とスポーツ

スポーツとメンタルヘルスの関係について

第15回 まとめ

これまでの講義を振り返り、生活習慣向上に向けての運動プランを作成する

2022年度 前期

2.0単位

スポーツと健康 B

西脇 満

< 授業の方法 >

講義やビデオ視聴など

< 授業の目的 >

本講はスポーツ科学分野のひとつであり、目的は全学ディプロマポリシー

1. 幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる。

2. さまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる。
3. 生涯にわたって学び続けることができる。
4. 獲得した知識や技能を社会に役立てることができる。

に基づき、次の通りとする。

1. 健康についての考え方、身体運動の歴史の変遷を理解できる（全学ディプロマポリシー 1, 2 より）
2. 身体構造の仕組みや運動による身体の変化について理解できる（全学ディプロマポリシー 1, 2 より）
3. 身体に必要な栄養、健康を維持するための効果的な運動やその効果などについて理解できる（全学ディプロマポリシー 3, 4 より）

<到達目標>

目標：現代生活において健康を維持増進するには運動とバランスのとれた栄養を摂取することが必要であると言われるが、なぜそうなのかが理解できる。さらに自ら健康を効果的に維持・増進できるようになる。

<授業の進め方>

テキストに基づいて講義を行うが、適宜ビデオなどを視聴する。

<授業時間外に必要な学修>

授業は教科書を中心に進めるので、事前の予習、講義後の復習に該当部分をそれぞれ1時間以上かけて熟読しておくことが望ましい。

<提出課題など>

講義後などに理解度を確認する小テスト、あるいは簡単な問いを行うことがある。

<成績評価方法・基準>

定期テスト80%、小テストなど20%

<テキスト>

スポーツサイエンスフォーラム編「健康・スポーツ科学の基礎知識（第三版）」道和書院

<授業計画>

第1回 ガイダンス

本講の目的、目標、講義の進め方について説明

第2回 スポーツ・健康の概念

スポーツの定義、スポーツの文化として側面、現代社会におけるスポーツの必要性などについて理解する。

第3回 現代人の生活と健康

現代社会の生活と運動不足の問題、高齢化問題とスポーツの関係などについて理解する。

第4回 スポーツの文化とその歴史 1

古代社会における身体運動についての記録や遺跡、壁画などについて紹介し、古代オリンピックなどについて理解する。

第5回 スポーツの文化とその歴史 2

中世から近世にかけての身体運動、とりわけ欧米、特に英国における近代競技スポーツ発祥の経緯について理解

する。

第6回 スポーツの文化とその歴史 3

近代スポーツの起源や近代オリンピックの始まりの経緯について理解する。ビデオを視聴し具体的なイメージを持つ。

第7回 ストレスと運動

ストレスと運動、スポーツとの関係やその効果について概観する。

第8回 人体の構造と運動 1

人体の構造と運動による骨や筋肉の変化などについて理解する。

第9回 人体の構造と運動 2

筋肉の仕組みとエネルギー 1

運動による呼吸器系、循環器系の変化などについて理解する。

第10回 筋肉の仕組みとエネルギー 2

筋肉の構造や運動に必要なエネルギーが生成される仕組みについて、ビデオ視聴により具体的なイメージを持ちながら理解する。

第11回 運動と栄養 1

運動と三大栄養素との関係について理解する。同時にスポーツ選手の栄養摂取の基本的な考え方について理解する。

第12回 運動と栄養 2

運動とビタミン、ミネラル、水の関係や作用について理解する。

第13回 生活習慣病と運動

糖尿病について教科書とビデオを参考に理解する。

第14回 トレーニングの効果

トレーニングの種類や方法、効果などについて理解する。

第15回 テスト

これまで学習してきた内容を教科書や資料を参照しながらのテストを行う。

2022年度 前期

2.0単位

生物学概論

橘 淳治

<授業の方法>

授業の方法：「対面授業」

<授業の目的>

共通教育科目は、共通教育センターカリキュラムポリシーに示す、学生がその資質や才能を活かし将来を現実のものにしていくため、従来の生産性や効率だけの評価ではなく、新しい価値の創造、社会変革の原動力となるための基盤づくりを目指すものである。

生物学概論（有瀬キャンパス開講）は、リテラシー領域高大接続分野に属し、高校で学んできた生物から各

自の学部教育への円滑な接続と学部専門科目を学ぶ糸口をつかむと共に、基礎的な教養を涵養し学部を越えた幅広い分野の学びで、多角的に見る力と考える力を養うことが目的である。

本授業では、理系の学生が、資格取得や国家試験に向けた生物学の基本概念の理解ができることを目標とした。

生物学とはどのようなものであろうか。科学には理論的基盤づくりとなる基礎科学と、産業、社会、医療など直接人々の生活に役立てることを目的とする応用科学がある。

本授業では、基礎科学としての生物学について、その基礎となる生命、細胞の構造と機能、生体関連物質、遺伝子についての学びを求めたい。

この授業を通して、受講者自身がどのような分野に対して興味を持つのかを考え、その分野への橋渡しとなることを期待している。

大学での学習は、受身的に講義を聞くことではなく、講義による基礎知識を基盤に自らの考えをまとめ、他者と討論や協働を行い、自身の考えや結論を発信することが重要であることを自覚して受講することを望む。

なお、この授業の担当者は、公立高等学校の教員の後に教育委員会（大阪府教育センター）で教員研修を行っていた実務経験のある教員である。

高大接続教育の観点から、大学の専門課程の基礎となる基礎教育、並びに実践教育を意図した授業科目である。
<到達目標>

(1)生物学について科学的側面からの知識・理解を行い、自身の属する学部の専門科目との関連性を見だし、今後の研究の素地とする。

(2)生物学の基礎となる、生命、細胞の構造と機能、生体関連物質、遺伝子を学習し、生物学的なヒトについて理解する。

(3)ヒトをはじめとする生物の生体機能の多くは化学反応によって説明することができる。本授業では生物学概論への系統性、連続性を考え、生物体内の化学反応からのアプローチで学習し、理解する。

(4)生物学・基礎生物学の既習事項を基に、それら問題の解決方法を考え、実践する態度や力を身につけ、他者に対して発信することができる。

<授業のキーワード>

生物学、細胞の機能と構造、生体関連物質、遺伝

<授業の進め方>

基礎的知識理解のためにテキストや資料を用いた講義を行い、さらに、自身の意見をまとめて発表するためにグループ討議、レポート作成、授業時の小テストなどを課す。

なお、レポートや理解度確認のための小テストの結果を踏まえて、次時の授業でのまとめや新たな学習課題として学生に学習結果を返す。

普通の授業においても、課題や意見を求めるので、ノートはきっちりと取ること。

授業内容を覚えるのではなく、自身の考えを築き上げることを意識して授業を受けること。

<履修するにあたって>

本生物学概論を理解する上で、幅広い考え方を養う必要があるため、生物学のみの知識・理解では不十分である。

物理、化学、生物、地学などの基礎的知識は必須であるため、授業テキストの予習のほか、高校の教科書などもよく復習しておくこと。

<授業時間外に必要な学修>

授業テキストの予習をしておくこと。

講義内容の復習、整理のために授業終了後にノートを読み直すほか、不足事項については自身で調べて加筆すること。

講義において、興味を持った学習項目については、シラバスに示してある指定図書・参考書を見て深く調べ学習をすると共に、一般書などで幅広く学習することも重要である。

授業に際して、上記内容を参照して30分の予習、および授業終了後60分の復習することが必須である。

<提出課題など>

授業回毎に簡単な課題やレポートを提出してもらいます。また、最終課題としてとしレポートを課します。

<成績評価方法・基準>

授業中のレポート課題（20%）、最終レポート課題（30%）、最終試験（50%）の割合で総合評価する。

<テキスト>

・南雲 保 編著(2014)：やさしい基礎生物学第2版，羊土社，ISBN978-4-7581-2051-7，2,900円（税別）

<参考図書>

・太田安隆(2017)：ビギナーズ生物学，化学同人，ISBN 978-4-7598-1937-3，2,600円（税別）

・和田勝(2014)：基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 第2版，羊土社，ISBN978-4-7581-2018-0，3000円(税別)

・南雲 保 編著(2014)：やさしい基礎生物学第2版，羊土社，ISBN978-4-7581-2051-7，2,900円（税別）

・南雲 保 編著(2016)：Ya-Sa-Shi-I Biological Science，羊土社，ISBN978-4-7581-2070-8，3,600円（税別）

・東京大学教養学部基礎生命科学実験編集委員会(2009)：基礎生命科学実験 第2版，東京大学出版会，ISBN978-4-13-062218-9，2800円(税別)

・野島博(2008)：生命科学の基礎，東京化学同人，ISBN 978-4-8079-0651-2，2400円(税別)

・武村政春ほか(2010)：Primary大学テキスト これだけ

はおさえたい生命科学, 実教出版, ISBN978-4-407-32166-1, 2,100円(税別)

・田之倉優ほか訳(2002): 生化学キーノート, シュブリ
ンガージャパン, ISBN978-4-431-70919-0, 4,600円(税
別)

・紺野邦夫(1986): 教養のための図説生化学, 実教出版,
ISBN978-4-407-02266-7, 2,400円(税別)

・坂本順司(2008): 微生物学 - 地球と健康を守る -, 裳
華房, ISBN978-4-7853-5216-5, 2,500円(税別)

・有坂文雄(2015): よくわかるスタンダード生化学, 裳
華房, ISBN978-4-7853-5232-5, 2,600円(税別)

・高月紘(2006): 環境安全学 - これからの研究教育の必
須学 -, 丸善, ISBN4-621-07780-5, 1700円(税別)

・堂本光子(2015): 大学生のための考えて学ぶ基礎生物
学, 共立出版, ISBN978-4-320-05775-3, 2500円(税別)

・坂本順司(2009): 理工系のための生物学. 裳華房, IS
BN978-4-7853-5220-2, 2700円(税別)

・石川統(2008): 生物学 第2版, 東京化学同人, ISBN97
8-4-8079-0674-1, 2400円(税別)

・三輪一智(2009): 生化学 - 人体の構造と機能 [2],
医学書院, ISBN978-4-260-00672-9, 2,200円(税別)

・桑澤清明(2004): 生物学, 医学書院, ISBN978-4-260-
35334-2, 2,100円(税別)

・當瀬規嗣(2008): 図解入門よくわかる薬理学の基本と
しくみ, 秀和システム, ISBN978-4-7980-2029-7, 1,800
円(税別)

・中谷豊(2009): 図解入門よくわかる栄養学の基本とし
くみ, 秀和システム, ISBN978-4-7980-2287-1, 2,200円
(税別)

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

細胞の構造と生命誕生(1)

授業進め方と成績評価について.

生命の最小単位である細胞

第2回 細胞の構造と生命誕生(2)

生物の誕生と多様化

細胞間結合

第3回 生命体を構成する物質(1)

生体高分子

アミノ酸とタンパク質

糖質(炭水化物)

第4回 生体を構成する物質(2)

脂質

核酸

ビタミンとミネラル

第5回 遺伝子の構造と機能(1)

DNAの構造とセントラルドグマ

DNAの複製

第6回 遺伝子の構造と機能(2)

遺伝子の転写

RNAの翻訳

原核生物の遺伝

第7回 生体とエネルギー(1)

酵素と代謝

ATPとエネルギー

解糖系

第8回 生体とエネルギー(2)

トリカルボン酸回路

電子伝達系

ATPと血糖調節

第9回 光合成と窒素同化(1)

光合成とは

光合成の機構

第10回 光合成と窒素同化(2)

光合成と植物の進化

窒素同化の機構

第11回 細胞の分裂・情報伝達・がん化

細胞分裂

細胞の分化

細胞社会の崩壊

第12回 生命体の受精と成長

生殖の仕組み

初期発生

アポトーシス

老化

第13回 生物と環境がつくる生態系

生物と環境は相互作用する

個体群の成長

生態系の物質循環とエネルギーの流れ

環境問題

第14回 生物の進化と多様性

生物の誕生と進化の歴史

進化の仕組みと証拠

系統分類

第15回 生命科学技術と社会

まとめ

臨床研究と生命倫理

動物実験の倫理

遺伝子組換え生物

クローン技術

再生医療

まとめ

2022年度 後期

2.0単位

生物学概論

橘 淳治

< 授業の方法 >

授業形態「対面授業」

< 授業の目的 >

共通教育科目は、共通教育センターカリキュラムポリシーに示す、学生がその資質や才能を活かし将来を現実のものにしていくため、従来の生産性や効率だけの評価ではなく、新しい価値の創造、社会変革の原動力となるための基盤づくりを目指すものである。

生物学概論（ポアアイキャンパス2開講）は、リテラシー領域高大接続分野に属し、高校で学んできた生物から各自の学部教育への円滑な接続と学部専門科目を学ぶ糸口をつかむと共に、基礎的な教養を涵養し学部を越えた幅広い分野の学びで、多角的に見る力と考える力を養うことが目的である。

本授業では、文系・理系を問わず、テレビ、新聞、インターネットに登場する生物学の話題について、その概要がつかめることを目標に、生物系の水圏微生物学・水圏生化学・生物地球化学の基本概念の理解と基礎実験・観察手法の習得を目指したい。

生物系の水圏微生物学・水圏生化学・生物地球化学とはどのようなものであろうか。科学には理論的基盤づくりとなる基礎科学と、産業、社会、医療など直接人々の生活に役立てることを目的とする応用科学がある。

本授業では、基礎科学としての生物系の水圏微生物学・水圏生化学・生物地球化学について、その基盤となる、水と生物、生命としての微生物、ヒトと微生物との関わり、環境と微生物との関わりなどについての学びを求めたい。

さらに、公衆衛生、環境保全の応用的側面についても生物学的な観点から考察できることを望む。

この授業を通して、受講者自身がどのような分野に対して興味を持つのかを考え、その分野への橋渡しとなることや受講者自身の専攻科目の視野が広がることを期待している。

大学での学習は、受身的に講義を聞くことではなく、講義による基礎知識を基盤に自らの考えをまとめ、他者と討論や協働を行い、自身の考えや結論を発信することが重要であることを自覚して受講することを望む。

なお、この授業の担当者は、公立高等学校の教員の後に教育委員会（大阪府教育センター）で教員研修を行っていた実務経験のある教員である。

高大接続教育の観点から、大学の専門課程の基礎となる基礎教育、並びに実践教育を意図した授業科目である。

< 到達目標 >

(1)生物系水圏微生物学・水圏生化学・生物地球化学について、科学的側面からの知識・理解を行い、自身の属する学部の専門科目との関連性を見だし、視野を広げると共に今後の研究の素地とする。

(2)生物系水圏微生物学・水圏生化学・生物地球化学の基礎となる、水と生物、生命としての微生物、ヒトと微生物との関わり、環境と微生物との関わりを学習し、他者への発信ができる。

(3)ヒトをはじめとする生物にとって水は重要である。水という媒質の中での微生物の生活と生理を化学反応によって説明することができる。本授業では微生物を生物としての扱う一方で、微生物を酵素系の化学反応として扱うなど、幅広いアプローチで学習し、考察できる。

(4)生物学・微生物学の既習事項を基に、公衆衛生、環境保全などの問題の解決方法を考え、実践する態度や力を身につけ、他者に対して発信することができる。

(5)基本的な生物実験の手法を身につけることができる。

(6)実験・観察の結果をまとめ、考察し、他者へ発信することができる。

< 授業のキーワード >

生命、水圏微生物、水圏生化学、生物地球化学、公衆衛生、環境保全、実験観察

< 授業の進め方 >

基礎的知識理解のためにテキストや資料を用いた講義を行い、さらに、実験・観察等の実習を行うことができるようにするため、実験計画や実験実施について自身の意見をまとめて文書化する手法を身につける。

実験・観察を行った際の実験レポートの作成演習を課す。

講義に関しては基本事項の理解や授業のポイントを押さえるために、ノートはきっちりと取ること。

講義については、学習の理解度を学生自身が知る意味で授業中に小テストや小課題の実施を行い、その結果を踏まえて次時の授業でのポイント説明などで、学習の深化を深める。

実験・観察については、知識的なもの以外に「技能」が重要視される。そのため、実験の「コツ」などについての説明等を行う。

実験・観察を行った際の正当性を示すための実験ノートを作成実習をも行う。そのため、ノートは講義用のノートと別に実験ノート（ルーズリーフ式は不可）の2冊を用意すること。

実験・観察を行う際には安全確保が重要である。安全教育を行う。

授業内容を覚えるのではなく、自身の考えを築き上げることを意識して授業を受け、また最終的には自身で決めた実験について実験計画を立てることを課す。

< 履修するにあたって >

本生物学概論を理解する上で、幅広い考え方を養う必

要があるため、生物学のみの知識・理解では不十分である。

物理，化学，生物，地学などの基礎的知識は必須であるため，授業テキストの予習のほか，高校の教科書などもよく復習しておくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業テキスト（新編湖沼調査法 第2版，講談社）の予習をしておくこと。

講義内容の復習，整理のために授業終了後にノートを読み直すほか，不足事項については自身で調べて加筆すること。

講義において，興味を持った学習項目については，シラバスに示してある指定図書・参考書を見て深く調べ学習をすると共に，一般書などで幅広く学習することも重要である。

授業に際して，上記内容を参照して30分の予習，および授業終了後60分の復習をすることが必須である。授業において実験レポート形式などは説明するので，実験に関しても内容の予習をしておくことが望ましい。

< 提出課題など >

授業回毎に簡単な課題を出しますので，それに対する受講者自身の考えなどを書いて提出してもらいます。

また，最終課題としてのレポートを課します。

最終課題は，ポートアイランドキャンパスA号館1階の教務センターに置いてあるレポート提出箱に提出すること。

< 成績評価方法・基準 >

授業回ごとの課題20%，最終課題30%（内訳は形式20%，内容の量40%，内容の正確さ20%，自身の考えや意見20%），定期試験50%の割合で総合的に評価する。

特にレポートは思考力と表現力を重視する。そのため，自身の意見を取り入れた内容や自身の考えを他者にうまく伝えることができるかなどを観点別に評価基準を定めて評価する。

定期試験についてはマークカードによる択一式試験問題であるが，思考力を重視したものを出题する予定である。

< テキスト >

西條八束・三田村 緒佐武(2016)：新編 湖沼調査法 第2版，講談社サイエンティフィック，ISBN978-4-06-155241-8，定価3,800円（税別）

< 参考図書 >

・半谷高久・小倉紀雄（1995）：第3版 水質調査法，丸善株式会社，ISBN4-621-04022-7，定価4,500円（税別）
・半谷高久・高井雄・小倉紀雄（1999）：水質調査ガイドブック，丸善株式会社，ISBN4-621-04588-1，定価1,900円（税別）

・宗宮功・津野洋（1999）：環境水質学，コロナ社，ISBN4-339-05209-4，定価3,000円（税別）

・東海大学海洋学部(1990)：一般海洋実習ハンドブック，東海大学出版会，ISBN9784486004233，定価1980円（税込み）

・神戸大学水圏光合成生物研究グループ(2009)：水環境の今と未来—藻類と植物のできるこ—，生物研究社，ISBN978-4-915342-53-0，定価1,800円（税別）

・日本微生物生態学会教育研究部会(2004)：微生物生態学入門，日科技連，ISBN4-8171-9067-1，定価3,500円（税別）

・岡崎勲・豊嶋英明・小林康毅(2009)：標準公衆衛生・社会医学，医学書院，ISBN978-4-260-00773-3，定価5,700円

・東京大学教養学部基礎生命科学実験編集委員会(2009)：基礎生命科学実験 第2版，東京大学出版会，ISBN978-4-13-062218-9，2800円(税別)

・田之倉優ほか訳(2002)：生化学キーノート，シュプリンガー・ジャパン，ISBN978-4-431-70919-0，4,600円（税別）

・紺野邦夫(1986)：教養のための図説生化学，実教出版，ISBN978-4-407-02266-7，2,400円（税別）

・有坂文雄(2015)：よくわかるスタンダード生化学，裳華房，ISBN978-4-7853-5232-5，2,600円（税別）

・高月紘(2006)：環境安全学 - これからの研究教育の必須学 - ，丸善，ISBN4-621-07780-5，1700円(税別)

・村澤聡(2005)：バイオ実験英語でトライ！，羊土社，ISBN4-89706-368-X，定価2,900円（税別）

・堂本光子(2015)：大学生のための考えて学ぶ基礎生物学，共立出版，ISBN978-4-320-05775-3，2500円(税別)

・坂本順司(2009)：理工系のための生物学。裳華房，ISBN978-4-7853-5220-2，2700円(税別)

・石川統(2008)：生物学 第2版，東京化学同人，ISBN978-4-8079-0674-1，2400円(税別)

・三輪一智(2009)：生化学 - 人体の構造と機能 [2] ，医学書院，ISBN978-4-260-00672-9，2,200円（税別）

・桑澤清明(2004)：生物学，医学書院，ISBN978-4-260-35334-2，2,100円（税別）

・當瀬規嗣(2008)：図解入門よくわかる薬理学の基本としくみ，秀和システム，ISBN978-4-7980-2029-7，1,800円（税別）

・中谷豊(2009)：図解入門よくわかる栄養学の基本としくみ，秀和システム，ISBN978-4-7980-2287-1，2,200円（税別）

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の進め方と成績評価

生物系実験の基本的な考え方

実験手法と実験ノート
安全な実験について
第2回 水の生物科学(1)
総合湖沼学からの湖沼調査の必要性
調査・実験計画
観測の回数, 場所
水の特性を理解することの重要性
異常値が出たときの考え方や処理
観測の際の諸注意(特に安全確保)
第3回 水の生物科学(2)
水界生態系
生態系を構成する生物
生態系の物質循環
生態系における炭素の循環
物質循環系の実験的解析
湖沼におけるエネルギーの流れ
第4回 水の生物科学(3)
湖沼の成因と湖盆形態
湖水の水理
水収支・滞留と交換
湖水面の変化と流れ
第5回 水の生物科学(4)

湖水中の光条件
太陽からの放射エネルギーと光の測定
透明度と水の色
水温とその分布

第6回 水の生物化学(1)
湖水の主要化学成分
化学物質の存在形態
BOD, COD
炭酸, pH, アルカリ度
第7回 水の生物化学(2)
溶存酸素
測定法とその鉛直分布
光合成生産
植物プランクトンの現存量と光合成
光合成と呼吸の測定
第8回 水の生物化学(3)
窒素とリン
藻類の窒素とリンの季節変化
窒素の循環の諸過程
リンの循環の諸過程
第9回 水の生物化学(4)
湖底堆積物の生物・化学
生産層から湖底への物質の沈降
湖底堆積物の分布
湖底堆積物からの窒素とリンの溶出
第10回 水の生物化学(5)

湖沼の形態調査
位置・深度・湖盆の計測
湖沼の物理調査
水温, 光学
第11回 水の生物化学(6)
採水と資料の保存
水分析の基本
一般項目
栄養塩類と有機物
第12回 水の生物化学(7)
植物プランクトン
大型水生植物
動物プランクトン
底生動物
第13回 水の生物化学(8)
湖底堆積物の生物化学
堆積物と間隙水
生産と分解
一次生産量, 呼吸量と分解量
第14回 水の生物化学(9)
粒子の沈降
沈降物の生物と化学成分
湖底堆積物からの回帰
擬似現場法, ふりだし法
第15回 まとめ
生物地球化学的観点からのまとめ

2022年度 前期
2.0単位
西洋音楽
横原 千史

<授業の方法>
対面授業(講義)
<授業の目的>
本講義では、西洋音楽の歴史を概観することで、音楽芸術と人間の歴史の変遷をたどる。時代はバロックから後期ロマン派までとし、毎回代表的な作曲家をとりあげて、その生涯と作品を論じる。場合によっては、作品の構造に深く立ち入ることもあり、周辺の作曲家、時代様式、美術、文芸、社会状況などに言及することもある。これらの学修によって、建学の精神「真理愛好・個性尊重」、及びディプロマ・ポリシーにある「豊かな人間性や社会性を涵養する」という目的に迫る。
<到達目標>
授業の目的で述べた西洋音楽の諸論点の総体的に学修することによって、西洋芸術音楽を深く理解し、楽しめるようになる。
そして、西洋音楽芸術の享受を通して幅広い教養を身に

つけ、人間性の基礎を形作る。

< 授業の進め方 >

毎回視聴した音楽について考えたことや感想をミニ・レポートに書いて提出する。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回視聴した音楽についてYouTubeなどで再度全曲を視聴し吟味する。

1週間に2時間程度。

< 提出課題など >

毎回出席し、ミニ・レポートを提出する。

< 成績評価方法・基準 >

最終試験（70%）ミニ・レポート（30%）

< テキスト >

毎回プリント配布

< 参考図書 >

横原千史『ベートーヴェン ピアノ・ソナタ全作品解説』（アルテス・パブリッシング）

高橋・中村・本岡・網干編著『西洋音楽の歴史』（東京書籍）

< 授業計画 >

第1回 J.S.バッハ

バロック音楽

第2回 モーツァルト

ウィーン古典派1

第3回 ベートーヴェン

ウィーン古典派2

第4回 シューベルト

リートと器楽

第5回 ウェーバー、シューマン

文学とロマン主義

第6回 ベルリオーズ、リスト

標題音楽

第7回 パガニーニ、ショパン

ヴィルトゥオーソの始まり

第8回 ヴァーグナー

楽劇と総合芸術

第9回 ブルックナー、フランク

宗教と音楽

第10回 ブラームス

伝統と革新

第11回 ヴェルディ、プッチーニ

イタリア近代オペラ

第12回 チャイコフスキー

国民楽派1

第13回 ドヴォルジャーク

国民楽派2

第14回 マーラー

後期ロマン派1

第15回 R.シュトラウス

後期ロマン派2

2022年度 前期

2.0単位

西洋美術

西影 めぐみ

< 授業の方法 >

対面授業

< 授業の目的 >

この科目は、本学のディプロマ・ポリシーに掲げられる「広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養する」ことを目的とするものです。古代から現代まで、西洋において美術はどのように展開してきたのでしょうか。本授業では西洋美術の歩みを、同時代の思想や社会といった多様な観点から概観します。

< 到達目標 >

1. 西洋の美術史の基本的な流れを把握する（知識）
2. 芸術作品を、同時代の社会や思想との関わりのなかで捉えられるようになる（知識・技能・習慣）
3. 個々の芸術作品について自らの考えをもち、かつそれを自らの言葉で表現できるようになる（習慣・技能）

< 授業のキーワード >

西洋美術史、芸術史、ヨーロッパ文化

< 授業の進め方 >

プロジェクターを用いた講義を中心として進めます。講義の始めに前回の復習を兼ねた小テストを行います。

< 履修するにあたって >

先史から現代まで、大まかな世界史の流れを把握しておくようにしてください。

< 授業時間外に必要な学修 >

西洋美術で扱う絵画や彫刻、建築物はもちろん、音楽や映画、文学等、日頃からさまざまな領野の作品に触れることをおすすめします。時代や地域にかかわらず広く芸術に関する著作や作品図録を手取る、あるいは美術館やギャラリー、演奏会等に足を運ぶなどして、積極的に芸術に触れるようにしてください。

時間：平均して1週間につき1～2時間程度。

< 提出課題など >

・毎授業内の小テスト・小感想文 ・学期末レポート

< 成績評価方法・基準 >

・毎授業内の小テスト（60パーセント） ・学期末レポート（40パーセント）

< テキスト >

特に指定しません

< 参考図書 >

授業内で指示します

< 授業計画 >

1 イントロダクション

「西洋美術」授業の導入、知識の確認

- 2 古代
古代ギリシア・ローマ美術
- 3 中世
中世キリスト教世界の美術
- 4 14世紀頃～16世紀
イタリア・ルネサンス
- 5 14世紀頃～16世紀
イタリア・ルネサンス
- 6 17世紀
バロック（イタリア、スペイン、フランス、フランドル）
- 7 17世紀
オランダ絵画
- 8 17～18世紀
アカデミー（イギリス・フランス）
- 9 18～19世紀

- ロココ／ロマン主義
- 10 19～20世紀
レアリスム／印象派
- 11 19～20世紀
後期印象主義
- 12 20世紀
20世紀美術
- 13 20世紀
抽象表現主義／ポップアート
- 14 20世紀～
現代アート
- 15 まとめ
これまでの授業の総括

2022年度 前期
2.0単位
西洋美術
西影 めぐみ

< 授業の方法 >

対面授業

< 授業の目的 >

この科目は、本学のディプロマ・ポリシーに掲げられる「広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養する」ことを目的とするものです。古代から現代まで、西洋において美術はどのように展開してきたのでしょうか。本授業では西洋美術の歩みを、同時代の思想や社会といった多様な観点から概観します。

< 到達目標 >

1. 西洋の美術史の基本的な流れを把握する（知識）
2. 芸術作品を、同時代の社会や思想との関わりのなかで捉えられるようになる（知識・技能・習慣）
3. 個々の芸術作品について自らの考えをもち、かつそ

れを自らの言葉で表現できるようになる（習慣・技能）

< 授業のキーワード >

西洋美術史、芸術史、ヨーロッパ文化

< 授業の進め方 >

プロジェクターを用いた講義を中心として進めます。講義の始めに前回の復習を兼ねた小テストを行います。

< 履修するにあたって >

先史から現代まで、大まかな世界史の流れを把握しておくようにしてください。

< 授業時間外に必要な学修 >

西洋美術で扱う絵画や彫刻、建築物はもちろん、音楽や映画、文学等、日頃からさまざまな分野の作品に触れることをおすすめします。時代や地域にかかわらず広く芸術に関する著作や作品図録を手取る、あるいは美術館やギャラリー、演奏会等に足を運ぶなどして、積極的に芸術に触れるようにしてください。

時間：平均して1週間につき1～2時間程度。

< 提出課題など >

・毎授業内の小テスト・小感想文 ・学期末レポート

< 成績評価方法・基準 >

・毎授業内の小テスト（60パーセント） ・学期末レポート（40パーセント）

< テキスト >

特に指定しません

< 参考図書 >

授業内で指示します

< 授業計画 >

1 イントロダクション

「西洋美術」授業の導入、知識の確認

2 古代

古代ギリシア・ローマ美術

3 中世

中世キリスト教世界の美術

4 14世紀頃～16世紀

イタリア・ルネサンス

5 14世紀頃～16世紀

イタリア・ルネサンス

6 17世紀

バロック（イタリア、スペイン、フランス、フランドル）

7 17世紀

オランダ絵画

8 17～18世紀

アカデミー（イギリス・フランス）

9 18～19世紀

ロココ／ロマン主義

10 19～20世紀

レアリスム／印象派

11 19～20世紀
後期印象主義
12 20世紀
20世紀美術
13 20世紀
抽象表現主義 / ポップアート
14 20世紀～
現代アート
15 まとめ
これまでの授業の総括

2022年度 後期

2.0単位

造形論・色彩論

新田 恭子

< 授業の方法 >

講義、演習、実技

< 授業の目的 >

この科目は、建学の精神「真理愛好・個性尊重」、及び広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養するというDPIに則り、共通教育科目として専門的な学びの基礎となる造形と色彩に関する知識を習得することを目指しています。

かたちや色が人間の知覚と心理に及ぼす作用を、講義と演習を通じて理解し、状況に応じて使いこなせるようになることを目的とします。

指示にしたがって作業を丁寧におこない、観察力、判断力と集中力を養います。

この授業の担当者は、繊維造形作家として国内外の美術館やギャラリーでの作品発表する経験を20年以上続けています。作品制作と展示をおこなう実務経験をもとに、形や色が効果的に用いられている作品例を提示しながら、造形や色彩が人間の視覚に及ぼす作用などについて具体的に解説するものとします。

< 到達目標 >

1. 色について学び、色の組み合わせによる視覚効果を意識して使えるようになる。(知識・技能)
2. デザインされた物の形と色から、制作者がそれをどんな人にどのように見せたいと考えているのかを読み取ることができる。(技能)
3. ユニットを組み合わせる平面の画面や、立体の多面体をつくりながら、形と色の組み合わせによる表現をおこなう。(技能)
4. 丁寧な作業を積み重ね、材料となる紙や色々な道具を使いこなせるようになる。(態度・習慣)
5. 制作物を魅力的に見せる仕上げ、展示、撮影方法を考え、実践できる。(技能、態度・習慣)

< 授業のキーワード >

色、心理、形、言葉、手作業

< 授業の進め方 >

講義形式で説明をおこなった後に、演習形式でトータルカラーや糸などの素材を使って制作をしながら、学びを深めます。

演習には、トータルカラーなどを素材として用い、筆記用具、定規、カッターナイフ、カッターマット、はさみ、糊、マスキングテープなどの道具を使います。毎回、次回授業に必要な素材と道具を知らせますので、各自忘れることなく、準備して持参してください。

< 履修するにあたって >

素材や道具は他の受講生と共有することはできません。持参物を忘れた者は演習できないことから、演習にあてた時間のパーセント(例えば演習が45分だとすると50パーセント)を欠席扱いとして累計し、100パーセントで欠席1回とします。

素材となるトータルカラーB6判93色(約700円)はテキストと共に、大学内の書店売店にて購入してください。演習で取り組む課題の鑑賞時には、積極的に発言をしてください。演習課題の表現と作者の意図について、視覚を言語化しながら、受講生同士で共有します。授業で取り組んだ課題とレポートは、必ず全てを提出してください。

美術に関して、中学校程度の知識と学習経験を有することを前提とします。

身の回りにおける色彩や造形を、普段から観察、分析する習慣をつけることを勧めます。

また、美術館の作品展示を鑑賞することからも多くを学べるので、機会があればぜひ足を運んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前にテキストの該当部分を読んでから、授業に臨んでください。(30分程度)

授業後は授業の内容を整理し、演習(課題とレポート)を完成させます。(90分程度)

理解が不十分であると感じた点は、出席カードに記載するか、教員に質問するなどして、あいまいなままにしておかないようにしてください。

< 提出課題など >

毎回の授業時に、出席カードを提出してもらいます。演習で取り組んだ課題とレポートは、必ず全て提出してもらいます。

提出課題が適切に制作されていない場合は、再制作したうえで再提出してもらいます。

個人の制作意図が大きく反映される演習課題については、相互に鑑賞する機会を設ける予定です。

色彩について、教科書で学んだ内容についてのレポート

を提出してもらいます。(授業中にレポートのテーマと提出日を発表します。)

<成績評価方法・基準>

出席カードの記載内容(10パーセント)、
到達目標1.についての演習課題とレポート(30パーセント)、
到達目標2.についての演習課題とレポート(20パーセント)、
到達目標3.についての演習課題とレポート(20パーセント)、
全ての演習課題から、到達目標4.と5.について総合的に評価します。(20パーセント)

<テキスト>

『色彩ルールブック 色を上手に使うために知っておきたい基礎知識』
武川カオリ著 パイ・インターナショナル 2016年 2000円+税

<参考図書>

『カラーユニバーサルデザインガイドブック』株式会社文化総合研究所(現:株式会社トータルメディア開発研究所)企画・編集NPO法人Color Universal Design Organization(CUDO)(現:特定非営利活動法人カラーユニバーサルデザイン機構)協力埼玉県県民生活部文化振興課発行 平成18年
『プロとして恥ずかしくない 新・配色の大原則』ヤマダジュンヤ 他 著 MdN BOOKS出版2016年
『みんなで楽しむ おりがみつ き 多面体おりがみ』布施知子著 日本ヴォーグ社 2018年

<授業計画>

第1回 あなたと色、私の造形
あなた自身と色の関わりを探る。
造形表現の可能性に注目する。
本授業についての説明をおこなう。

第2回 多様な色の世界
色の多様さ、そして色と色の名前に関係に注目する。
トータルカラーの93色と向き合い、それぞれの色から受けるイメージについて言葉で描写する。

第3回 色と光、色のしくみ
光と色の関係、色の3要素について学ぶ。
トータルカラーを用いて、12色相環を制作する。工夫しながら、丁寧に作業する。

第4回 色の本質
様々な混色、色の名前、色を知覚するしくみなどについて学ぶ。

て学ぶ。
混色に関する演習をおこなう。工夫しながら、丁寧に作業する。

第5回 身の回りにある色
自然の中にある色、天然の顔料や染料から得られる色、それぞれの色が持つ文化的、心理的な意味について学ぶ。
3種の色の対比画面を制作し、隣接する色同士が干渉し合う様子を観察する演習をおこなう。
工夫しながら、丁寧に作業する。

第6回 色の連想とイメージ、色の感じ方
それぞれの色がもつ特性を知り、特定の色に対して万人が共通して持っているイメージや感じ方を意識する。
トータルカラーを用いて、暖かい色と寒い色の組み合わせを対比させながら制作する演習をおこなう。工夫しながら、丁寧に作業する。

第7回 色の力とメッセージ
意識しているかどうかに関わらず、人間の心理に働きかける色の力とメッセージの内容に注目する。
トータルカラーを用いて、味や香りを感じる色を組み合わせた画面を制作する演習をおこなう。工夫しながら、丁寧に作業する。

第8回 配色の基本
様々な配色の技法について学ぶ。
トータルカラーを用いて、2種類の3色配色とそのバリエーションを複数制作する演習をおこなう。工夫しながら、丁寧に作業する。

第9回 配色の基本
様々な配色の技法について学ぶ。
トータルカラーを用いて、対照的な2種類の配色とそのバリエーションを複数制作する演習をおこなう。工夫しながら、丁寧に作業する。
第9回目までの授業で学習した色彩の知識を用いて、ポスターまたはフライヤーのデザインを分析した結果をレポートに書く課題について発表する。

第10回 タングラム
タングラムのフォーマットを用いて、形と色彩を組み合わせた表現に挑戦する。
これまで学んだ色彩の知識を役立てながら、ユニットを並べ替えているいろいろな形を作れる、長い歴史のあるパズル、タングラムで画面を構成する演習をおこなう。工夫しながら、丁寧に作業を進める。

第11回 葉っぱの世界
落ち葉とトータルカラーを用い、これまで学んだ色彩の

知識を役立てながら、落ち葉を主役にして、画面を構成する演習をおこなう。工夫しながら、丁寧に作業する。

第12回 多面体おりがみ

トータルカラーを用いて、折り紙でつくった複数のパーツを組み上げる、多面体おりがみの手法で立体作品を制作する演習をおこなう。

これまで学んだ色彩の知識を役立てる。指示書を読み解きながら、丁寧に作業を進める。

完成後、色彩、背景、構図などを工夫して画像を撮影する。

第13回 多面体おりがみ

トータルカラーを用いて、折り紙でつくった複数のパーツを組み上げる、多面体おりがみの手法で立体作品を制作する演習をおこなう。多面体おりがみで制作したもののよりもパーツの数が多く高度な技術を要する造形をおこなう。

これまで学んだ色彩の知識を役立てる。指示書を読み解きながら、丁寧に作業を進める。

完成後、色彩、背景、構図などを工夫して画像を撮影する。

第14回 作品の鑑賞

鑑賞をおこなう。視覚を言語化しながら、表現されていること、表現しようとしたことを受講生同士で共有し、学びを深める。

第15回 羊毛で糸をつくる。まとめ

スピンドルを用いて、羊毛から毛糸を紡ぐ演習をおこなう。工夫しながら、丁寧に作業する。

全15回の授業を通してのまとめをおこなう。

2022年度 前期

1.0単位

総合情報スキル実習

佐藤 毅

< 授業の方法 >

対面授業（実習）

< 授業の目的 >

全学DPに示されるように、幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる。また、自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手とのコミュニケーションを円滑にすることができる。

< 到達目標 >

データ収集、およびデータ分析の基礎知識を持ち、基本的な分析作業ができる。

ワードプロセッシングソフトを活用し、分析結果を適切にまとめることができる。

分析結果を、プレゼンテーションにより、わかりやすく

発表することができる。

< 授業のキーワード >

データ分析、文章作成、プレゼンテーション、論理的思考

< 授業の進め方 >

情報処理実習室において、Word, Excel, PowerPointなどのソフトウェアを用いた実習をおこなう。

毎回課題に取り組み、小テストを適宜実施することで、PCスキルの向上をはかる。

< 履修するにあたって >

授業は、実習室のPC（WindowsをOS）を利用します。

自宅で学習するためにも、PCを保有することを推奨します。

また、Macでも学習は可能ですが、ソフトウェアの操作方法がWindowsと異なることもあります。

< 授業時間外に必要な学修 >

各回の復習、および課題で90分を想定しています。

< 提出課題など >

dotCampusで、各種資料の配付、回収、提出を実施。

詳細については、講義において説明します。

フィードバックは、授業時、およびdotCampusで行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業成果物：40%、課題：50%、確認テスト：10%

< テキスト >

2022年度版情報活用の基礎

< 参考図書 >

特になし

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

実習の概要

実習の進め方

成績評価について

課題の提出方法

導入授業

第2回 データ分析基礎

データの種類

データ収集（インターネット上からの収集方法）

第3回 データの可視化

ヒストグラム

箱ひげ図

各種グラフの意味と作成

第4回 データの見方

ダイス分析

スライス分析

ピボットグラフ

第5回 データを用いた予測手法基礎

単回帰分析

重回帰分析 1
 第6回 データを用いた予測手法
 重回帰分析 2
 第7回 分散分析
 一元配置分散分析
 二元配置分散分析
 第8回 前半授業の総復習
 第7回授業までの理解度の確認テスト
 理解不足である箇所の洗い出し
 第9回 レポート・報告書の作成 1
 構成と書式
 ひな型の作成
 セクションの理解
 第10回 レポート・報告書の作成 2
 表・図形の挿入
 目次の作成
 索引の作成
 第11回 プレゼンテーション 1
 プレゼンテーションの意味
 資料作成のポイント
 第12回 レポート・報告書作成の復習
 第11回授業までの理解度の確認
 理解不足である箇所の洗い出し
 第13回 総合課題 1
 与えられた課題について、データ収集から分析を実施。
 第14回 総合課題 2
 第13回授業時に分析した結果をもとに、報告書の作成、
 およびプレゼンテーション資料の作成を実施。
 第15回 本実習の総まとめ
 総合課題の結果報告
 本実習における理解不足の点を洗い出し

 2022年度 後期
 1.0単位
 総合情報スキル実習
 佐藤 毅

 < 授業の方法 >
 ・ 対面授業（実習）
 < 授業の目的 >
 全学DPに示されるように、幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる。また、自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手とのコミュニケーションを円滑にすることができる。
 < 到達目標 >
 データ収集、およびデータ分析の知識と技術をもち、適切な意思決定できる。
 ワードプロセッシングソフトを活用し、自分の考えを適切にまとめることができる。
 プレゼンテーションにより、論理的に自分の考えを発表

することができる。
 < 授業のキーワード >
 データ分析、文章作成、プレゼンテーション、論理的思考
 < 授業の進め方 >
 Word, Excel, PowerPointなどのソフトウェアを用いた実習をおこなう。
 毎授業ごとの授業成果物の提出、複数回の課題問題に取り組むことで、
 問題解決を目的としたPCスキルの向上をはかります。
 < 履修するにあたって >
 授業は、実習室のPC (WindowsをOS) を利用します。
 自宅で学習するためにも、PCを保有することを推奨します。

 < 授業時間外に必要な学修 >
 各回の予習、および復習と課題で1時間から2時間を想定しています
 < 提出課題など >
 dotCampusで、各種資料の配付、回収、提出を実施。
 フィードバックは、授業時、およびdotCampusで実施。
 < 成績評価方法・基準 >
 授業成果物：40%、課題：60%、
 < テキスト >
 指定テキストはありません。各講義ごとに資料を提示します。
 < 参考図書 >
 2022年度版情報活用の基礎
 < 授業計画 >
 第1回 オリエンテーション
 情報処理実習室の利用について
 授業の進め方
 評価方法
 課題の提出方法
 導入授業
 第2回 PPM分析 1
 PPM分析とは
 Excelによるデータの可視化
 結果の解釈
 第3回 PPM分析 2
 データ収集
 分析結果の報告書作成
 第4回 損益分岐点 1
 損益分岐点とは
 Excelによるデータのグラフ化
 第5回 損益分岐点 2
 データ収集
 分析結果の報告書作成
 第6回 回帰分析 1
 単回帰分析

重回帰分析 1

第7回 回帰分析 2

重回帰分析 2

データ収集

第8回 回帰分析 3

報告書の作成

第9回 スポーツを分析しよう 1

セイバーメトリクスとは

データ収集

第10回 スポーツを分析しよう 2

打者と投手のサイバーメトリクス

第11回 スポーツを分析しよう 3

報告書の作成

第12回 総合課題 1

検討課題のテーマ設定

データ収集

第13回 総合課題 2

データ収集

データ分析

報告書作成

第14回 総合課題 3

報告書の作成

プレゼンテーション資料の作成

第15回 本実習の総まとめ

総合課題の結果報告

本実習における理解不足の点を洗い出し

2022年度 後期

2.0単位

男女共同参画推進論

山口 真紀

< 授業の方法 >

対面授業（予定）

< 授業の目的 >

男女共同参画は、性別にかかわらず全ての人が生きやすい社会を志向するものであり、キャリア選択、労働環境、家庭内責任、政策判断等、個人が社会で出会うさまざまな場面において実践されるものである。本講義では、日本の「男女共同参画社会基本法」の理念を理解し、そのうえでジェンダーギャップ指数において未だ低い順位である日本の課題について様々なトピックを通して検討する。本科目は、全学DPにおける、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性の涵養を促す科目に位置付けられるものである。

< 到達目標 >

・法や制度だけでなく、職業や社会生活の諸領域に偏在する性差にまつわる課題を分析し、男女平等の理念に基

づく社会の在り方を構想することができる

・講義を通して、現代社会における性差の構造について理解し、課題解決に向けて思考・実践する力を身につけることができる。

< 授業のキーワード >

ジェンダー平等、ジェンダーギャップ指数、男女雇用機会均等法、男女共同参画社会基本法

< 授業の進め方 >

・講義を中心に進め、毎回ミニレポートの提出を求めます。

・外部講師を招聘した講演会を設けることがあります。

・時事的な問題や受講生の関心を参考に、シラバスの予定は変更することがあります。

< 授業時間外に必要な学修 >

・講義の予習・復習として、ジェンダー平等と社会のかわりについて、日頃から知ろうとしてください。

・自身の身の周りの出来事と社会とのかかわりについて考え、ニュースや新聞、誰かの書き物に対してジェンダー平等の視点から批評を試みてください。

（事前・事後学習各1時間程度）

< 提出課題など >

毎回の授業後に、内容にかかわる問いへの課題をミニレポートとして提出する

< 成績評価方法・基準 >

毎回のミニレポート：70%

最終課題：30%

*ミニレポートについては、コメントおよび次回授業内でフィードバックを行います

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス / 男女共同参画社会とは

男女共同参画（ジェンダー平等）の概要について理解する。授業の進め方を確認する。

第2回 ジェンダー平等の歴史

日本におけるジェンダー平等の歴史を学ぶ。戦後の参政権獲得から雇用機会均等法に至るまで、社会を変えるために女性が社会にどのように働きかけてきたのかについてのドキュメンタリーを視聴する。

第3回 ジェンダー平等の歴史

日本におけるジェンダー平等の歴史を学ぶ。男女共同参画推進法から女性活躍推進法に至るまで、社会を変えるために女性が社会にどのように働きかけてきたのかについてのドキュメンタリーを視聴する。

第4回 男女共同参画社会基本法

1995年に施行された男女共同参画社会基本法について、条文を参照しながらその意義について理解する。

第5回 働き方改革

外部講師を招聘し、WLBと働き方改革について講演していただく。

第6回 ジェンダー平等と政治

議員や管理職における女性の比率についてデータを参照

し、日本の現状と課題を検討する。

第7回 ジェンダー平等と政治

アフーマティブ・アクションや、政治において多様性を確保することの意味について理解する。

第8回 ジェンダー平等と経済

労働、雇用について、ジェンダーの視点から日本の状況と課題を理解する。

第9回 ジェンダー平等と教育

職業や文理選択、高等教育への進学率における女性比率について、日本の現状と課題を検討する。

第10回 ジェンダー平等とスポーツ

収入差や、コーチ等上位職における女性比率、アスリートへの女性役割のおしつけなど、スポーツにおけるジェンダー平等を考える。

第11回 映像視聴

ジェンダー平等を目指した女性を題材とした映画を視聴する。

第12回 ジェンダー平等と保健

女性の健康、とりわけセクシュアル・ライツ/ヘルスについて確認し、日本の性教育の課題について検討する。

第13回 ジェンダー平等と保健

女性の健康と生存について、海外の事例を知り、経済・文化的背景から考える。

第14回 ダイバーシティ

社会的公正としてのダイバーシティの概念を理解し、互いの違いを尊重しあうことのできる、「多様性のある社会」について、性別二元論を越えて考える。

第15回 最終課題

男女共同参画社会の実現のための課題について、受講生各自で問題を設定し、検討した成果を発表する。

2022年度 後期

2.0単位

地域学演習A（実業界人物伝を読む）

谷口 義子

< 授業の方法 >

演習（対面授業）

< 授業の目的 >

この科目は全学DPに示す、「豊かな人間性や社会性を涵養するための教養を身につけ、幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができるようになることとともに、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになることを目指しており、共通教育科目の「リベラルアーツ科目群・地域学分野」に属している。

授業のテーマは、大学が立地する神戸の産業経済について学ぶことである。基本となるテキストを読んで理解し、その内容についてディスカッションし、時にはグループワークで共同作業をしながら、テキストから課題を

発見・研究して知の探求手法を習得していく。

身近な地域の産業経済を題材とし、地域形成の歴史やその特性について学び、見識を深めていく。

< 到達目標 >

地域の地理や歴史について学び、都市形成について理解する（知識）

図書資料を読んで理解し、要約し、要点を他者に伝えることができる（技能）

グループワークを行うことでコミュニケーション能力の向上を図り、役割分担した上で全体の取りまとめができるようになる（態度・習慣）

自発的・主体的に課題に取り組み、プレゼンテーションができる（態度・習慣）

< 授業のキーワード >

人物伝 小林一三 阪急電鉄 宝塚歌劇 阪急百貨店
郊外住宅 阪神間

< 授業の進め方 >

小林一三『逸翁自叙伝』を課題図書とし、毎回、読書範囲を指定する。事前に図書を読んで、各自が概略をまとめて発表し、内容について議論し、時にはグループディスカッションして意見を取りまとめる。

グループワークによる研究発表を行い、パワーポイントを使って発表内容をまとめる。グループでの役割分担や共同研究、成果発表の流れを体験して習得する（遠隔授業の場合は、グループワークは行わない）。

< 履修するにあたって >

原則として毎回の出席を求める。必要な出席日数が確保できなかった場合は、単位が得られない。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習として課題図書を読み、要約を作成する。（目安として各回90? 120分）

グループでの調査・研究、プレゼンテーション用のパワーポイントを作成。（目安として120? 270分）
レポートの作成。（目安として120? 270分）

< 提出課題など >

講読授業の予習として10? 20ページ程度の範囲を読み、要約を作成。授業中に発表する。

プレゼンテーションの提出（スライド10枚以上）。

期末レポート（2000字以上）を提出する。

< 成績評価方法・基準 >

授業前の予習による要約発表40%、レポート30%、プレゼンテーション30%で評価する。

プレゼンテーションについては、グループワークへの主体的な参加および貢献、調査の量・質、レポートの完成度などを総合的に評価する。

< テキスト >

小林一三『逸翁自叙伝 阪急創業者・小林一三の回想』
講談社学術文庫 2016年

<参考図書>

授業中に適宜紹介する

<授業計画>

第1回 ガイダンス

本講義の狙いと目的、講義の進め方について解説。課題
図書を紹介し、人物伝の概略を説明する。

第2回 神戸・大阪の近代史

阪急電鉄の創業期（明治末から大正・昭和初期）の神戸
・大阪の状況、時代背景、鉄道史の概略を説明する。

第3回 人物伝を読む

発表、ディスカッション、まとめ

第4回 人物伝を読む

発表、ディスカッション、まとめ

第5回 人物伝を読む

発表、ディスカッション、まとめ

第6回 グループワーク

（テーマ設定と準備）

プレゼンテーションのテーマ設定、役割分担、準備の進
め方、スケジュールなどをグループ単位で話し合う。

第7回 人物伝を読む

発表、ディスカッション、まとめ

第8回 人物伝を読む

発表、ディスカッション、まとめ

第9回 人物伝を読む

発表、ディスカッション、まとめ

第10回 グループワーク

（発表に向けた準備）

プレゼンテーションに向けて、骨太のまとめを行う。パ
ワーポイントの作業手順を学び、使用方法を確認する。

第11回 人物伝を読む

発表、ディスカッション、まとめ

第12回 人物伝を読む

発表、ディスカッション、まとめ

第13回 プレゼンテーション準備

プレゼンテーションに向けてパワーポイント作成を行う。

第14回 プレゼンテーション

グループ単位でパワーポイントまたはパネル等を使用し
たプレゼンテーションを実施。質疑応答などを行う。

第15回 総括

プレゼンテーションについての意見・評価を述べ合う。
また、研究対象についてのまとめを行い、その人物が現
在社会に与えた影響や経営哲学などを総括する。

2022年度 後期

2.0単位

地域学講義 A（兵庫学）

上羽 慶市

<授業の方法>

対面授業の予定です

<授業の目的>

この科目は、全学D pに示す他者や異文化に対する理解
を目的とし、また生涯にわたり学び続けられるような地
域に対する幅広い知識が身につくことを目的としている。
「地域学」とは、その地域の特性を歴史、風土、文化、
産業などから多面的に掘り下げ、地域の課題を見つけ、
その解決策と可能性を考える学問である。154年を迎え
た兵庫県は奈良時代に確定された旧五国（摂津、播磨、
但馬、丹波、淡路）からなり、北は日本海から南は瀬戸
内海、太平洋に続く。大都市から農山漁村、離島まで広
大で多様な地域から成り立っている。それは一方で、歴
史性や地理的環境、住民気質などを考慮せずに、明治政
府がつくった「恣意的複合県」ともいわれるゆえんだ。
「日本の縮図」といわれる複雑多様な文化は、ここから
生まれたのだが、この講義ではまず、なぜ異なる顔を持
つ五国が一つになったのか。その誕生の意味を考える。
そのうえで各地に育まれた多様な文化、産業、県民意識
などを考察し五国が連携しながら発展してきた兵庫の魅
力と将来像について理解し、適切なコメントができるよ
うになることを目的とする。

なおこの科目の担当者は、新聞記者、論説委員として長
年兵庫県を取材、様々な提言を行ってきた実務経験豊富
な教員である。

<到達目標>

1. 気候、風土、気質の異なる旧五国が、なぜ一つの兵
庫県になったのか、その背景を具体的に説明できる。（
知識）
2. なぜ、兵庫県は日本の縮図と呼ばれるのか。歴史、
文化、風土、産業から各地の特色と圏域像を語り、兵庫
の将来像を描くことができる。（知識、態度、習慣）
3. 兵庫の多様性から生まれる新しいモノづくり、コト
おこしの可能性について考え、提案できるようになる。
（知識、態度、習慣）

<授業のキーワード>

日本の縮図、恣意的複合県、多様性、産業軸と文化軸、
神戸港

<授業の進め方>

講義中心で進めます。

<履修するにあたって>

新聞朝刊の「兵庫県域」のページをはじめ、兵庫に関す

るニュースを読む。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業の最後に次週の講義概要について話します。参考書を紹介することもあるので、事前学習してください。事後学習として、授業の内容を整理し、確認してください。

< 提出課題など >

講義中にショートレポートを2回書いて提出してもらいます。

期末レポートは「到達目標」の1, 2, 3の中から課題を出します。つまり、気候、風土、文化、気質が異なる旧5国が、なぜ一つの兵庫県になったのか。なぜ、兵庫県は日本の縮図と呼ばれるのか。兵庫県の多様性から生まれる可能性について、の三つです。

< 成績評価方法・基準 >

期末レポート70点、ショートレポート(2回)30点。

自分の意見をレポートに入れてください。

< テキスト >

特にありません。

< 参考図書 >

「兵庫探検・総集編」(神戸新聞学芸部著・神戸新聞出版センター発行)1981年、5400円+税

大きな図書館にあります。

・崎山昌広監修「神戸学」(神戸新聞総合出版センター発行)2010年、800円+税

・河内厚郎編著「阪神学事始」(同)1994年、1300円+税

・兵庫の地域力研究会編著「ひょうごの力」(兵庫ジャーナル社)2009年、1200円+税

< 授業計画 >

第1回 兵庫県とは

”五つの国”を一つにした複合県の成り立ちと、明治政府の狙い、日本の中での位置づけを考える。

第2回 ハイカラ神戸

1867(明治元)年の開港以来、西欧文化の窓口となった神戸は、単なるものまねに終わらず、西欧文化をもとに独自の文化や産業を生み出してきた。パン、コーヒー、洋菓子、スキ焼き、ソース、映画、ファッション、ゴルフ、早朝登山、マッチ、SLなど次々と生み出した”神戸はじめ物語”から、神戸の進取の精神、新しもの好きの神戸人気質を読み解き、そのルーツを考える。

第3回 ハイカラ神戸

外国人居留地は、西欧からのモノ、ヒト、情報の窓口であり、文明開化の展示場であった。その周りに、居留地に入れなかった外国人たちが日本人と隣り合って住む雑居地が広がった。そこで生まれ、今に受け継がれる多文化共生の精神を理解する。

第4回 ハイカラ神戸

教育、産業、都市計画、食文化、スポーツなど神戸の発展に尽くし、大きな影響を与えた外国人をとり上げ、彼らの足跡と活躍をたどる。

第5回 阪神モダニズム

「宝塚」と、阪急グループの創始者小林一三が目指した大衆主義について考える。

第6回 阪神モダニズム

聖なるカリスマ空間としての「甲子園球場」とプロデューサー意識について考察する。

第7回 阪神モダニズム

阪神間の地域イメージの形成と、建築や教育などアメリカ文化の影響について考察する。

第8回 播磨の実力

播磨は大国である。広大な播磨の風土と自然が生み出した文化、産業、そして多彩な人材をとり上げ、播磨の歴史と未来について考える。

第9回 加古川流域

播磨を流れる兵庫一の大河・加古川。その流域が生み出した播州織、そろばん、金物、釣り針、こいのぼりなど優れた産品が多い。蓄積してきた産業基盤、技術を生かした質の高い製品づくりに取り組む動きと、播磨の地場産業の将来について考える。

第10回 丹波の魅力

黒大豆、栗、マツタケなどブランド産品を生み出してきた丹波。京都の影響を受けながらも独自の文化をはぐくんできた丹波の魅力を食べ、祭り、丹波焼などを通してかんがえる。

第11回 但馬の人・ものづくり

雪国が輩出した人材、市場をリードした鞆、針などの特産品。但馬牛に代表されるブランドが生まれた人と風土を掘り下げてみる。

第12回 但馬の人・ものづくり

特別天然記念物コウノトリ、ジオパークなど豊かな自然と文化資源の将来を考える。

第13回 国生みの島ー淡路

全国有数の生産高の線香や瓦。国生みの島は明石海峡大橋の開通によって変貌しつつある。淡路の農業、漁業、観光の将来についても考える。

第14回 兵庫の方言

兵庫県ほど方言の豊かな県はない。それは東西、南北の方言の接点にあるからだ。大阪弁と、神戸弁の境界はどこになるのか。但馬の方言はどのエリアに属するのか。日本語を豊かにしてきた兵庫の方言を考える。

第15回 県民意識

南北で住民意識の隔たりが大きい兵庫県だが、県平均では、ほぼ全国平均になる。「日本の縮図」に立ち返って、県民意識を通して、兵庫の多様性を考える。

2022年度 後期

2.0単位

地域学講義 A (兵庫学)

山崎 整、石田 裕之、谷口 義子、中本 忠

< 授業の方法 >

原則として「対面授業」を実施する予定ですが、コロナウイルスの感染状況により、「オンデマンド方式」(on edriveで視聴)による遠隔式に変更する可能性もありますが、ZOOMによる「リアルタイムのオンライン授業」は行いません。オンデマンド式になった場合も原則「対面による期末試験」を2023年1月25日に実施し、「レポートの提出」は求めません。試験は「マークシートによる5択式50問」とし、1週間前の1月18日の最終第15回講義で試験の概要を説明します

< 授業の目的 >

兵庫県が持つ、他の府県とは異なる特殊な性格を一つ一つ明らかにしていきます。時に授業当日または前日の新聞記事から重要な時事問題を切り抜き、「今」兵庫県、日本、世界で起きていることを知り、社会性を身に付けます。「兵庫学入門」に絡む「幅広い知識」を学ぶ過程で全学DPに示すように、発見した諸問題を解決に導き、習得した知識を社会で活用、生涯にわたり他者や異文化理解にもつなげます

当科目の担当4教員とも実務経験あり

山崎整(元新聞記者・編集委員、現ニュースコメンテーター) 石田裕之(現シンガーソングライター・防災士) 谷口義子(元自治体広報誌編集・執筆者、現地域研究者) 中本忠(元兵庫県警警視正)

< 到達目標 >

兵庫県は本州では、両端の青森と山口を除けば、唯一「太平洋から日本海にまたがる」源氏・平氏とも強いゆかりがある 県庁の町・神戸にも表と裏の顔がある なぜ神戸はスイーツとパンの町になったのか 災害に強い町 などに関する疑問が解決できます。高校までの教育では、ほとんど教えられてこなかった兵庫県内の事象についての知識が得られます。日頃何気なく見ている町の光景にも興味がわきます

< 授業のキーワード >

祭りの華・太鼓台文化 そもそも関西とは スイーツとパンが育まれた街 江戸時代の藩 姫路城が立派過ぎる 訳 シーボルトが見た兵庫県 淡路の人形浄瑠璃 警察の歴史と組織 災害と防災

< 授業の進め方 >

可能な限り「対面授業」を実施し、時に学生への質問を交えて理解度を測りながら、教える側と教えられる側の双方向性を持たせる方針です。もしコロナの感染拡大に伴い、オンデマンド式となっても「dotCampus のフォーラム」を活用し、学生からの質問には、その質問と回答

をフォーラムに貼って、受講学生全てに伝えます。dotCampusに載せて記録に残し、全履修生にアナウンスすることによって双方向性を持たせます。元記者で現在ラジオのニュースコメンテーターを務める山崎担当の回では、最新(原則、講義当日付朝刊)の新聞記事を使い、「今、神戸で、国内で、世界で、何が起きているのか」も確認し、時に歴史的事実とも対比させながら授業を進めます <履修するにあたって>

「対面」「オンデマンド」いずれの方式でも、毎回の授業で使うレジュメは、あらかじめ「dotCampus e-learning」に上げておきますが、対面の場合は当日配布もします。「オンデマンド」になれば、必ず授業前にレジュメを印刷(プリンターがなければコンビニでも可能)しておいてください。細かい年代の暗記は必要ないが、日本歴史の大まかな流れや時代区分をあらかじめ知ってほしい。時に、神戸などの地域史から日本全体の歴史も眺めます。講義用のレジュメのほか、各人が書き留めるノートがテキストであり、参考書となります。期末試験のためにも有用なノートを作成してください。試験にはレジュメ、ノートとも「持ち込み可」です

< 授業時間外に必要な学修 >

レジュメに掲載した「読み物」は、講義で触れられなくとも、必ず読んでおくこと。また、地域の歴史や文化に日頃から興味を持ち、知的好奇心のアンテナを張り巡らしてください。関連する書籍や新聞・雑誌の記事を読む時間を含め1時間程度は必要でしょう

< 提出課題など >

2023年1月25日に「対面による期末試験」を実施し、もし授業がオンデマンド式となっても原則「レポートの提出」は求めません。試験は「マークシートによる5択式50問」とし、試験の1週間前の1月18日の最終第15回講義で試験の概要を説明します

< 成績評価方法・基準 >

「対面によるマークシート式の期末試験」の結果により

< テキスト >

テキストは使用しませんが、毎回、レジュメをdotCampusにアップします。オンデマンドによる遠隔授業の場合は各自が事前に印刷した上、講義を視聴してください。対面授業ではプリントを配布します

< 参考図書 >

山崎整著『幕末維新の兵庫・神戸』(2018年、1750円)、神戸新聞社編『ひょうご全史④⑤』(2005年、2006年、各2000円)、田辺真人・谷口義子著『神戸の歴史ノート』(2018年、1300円)=いずれも神戸新聞総合出版センター刊=など多数ありますが、各自の関心に応じて地域史関連の読書を勧めます

< 授業計画 >

第1回(9月21日) ガイダンス 太鼓台の祭り
まず講義全体を概観。姫路の「灘・けんか祭り」や高砂

・曾根天満宮の秋祭りなどに担がれる山車を標準名「太鼓台」と呼ぶ。地元播磨では「屋台」と称するが、この太鼓台は、地域ごとに少しずつ形を変えながら瀬戸内海沿岸地域を中心に西日本各地に分布する。長崎の「ココデショ」、淡路の「かきだんじり」、大阪・堺の「布団太鼓」など地域の呼び名は異なっても、全て同類にまとめられる。その太鼓台が、なぜか兵庫県内で最も分布域を広げ、しかもパラエティーの豊かさでも他地域を圧倒する。いまだ謎が多い太鼓台型山車のルーツと現在までの発展過程を、仮説を交えながら探っていく。コロナの感染拡大により、2020、21年の祭礼中止が各地で相次いだのは残念。22年の開催に期待したい。(山崎)

第2回(9月28日) 兵庫は源氏が平氏が一般に「西日本は平氏」との印象が強く、神戸も平清盛が一時、都を置いたことから、色は完全に平氏色に染まっている。その連想から、兵庫県全体をも「平氏ゆかりの地」と捉えがち。しかし、川西市の多田神社は「源氏の中の源氏」とも言える「清和源氏発祥の地」だ。その事実を広める「川西市源氏まつり」も毎年4月に開かれる。2020年はコロナの感染拡大で中止された。地元を離れると「川西=源氏」の知名度は限りなくゼロに近い。同市では21年から「清和源氏まつり」に改称して飛躍を期したが、やはりコロナのため中止に追い込まれた。太鼓台の祭り同様、22年の開催を切望する。「源平」ともに深いゆかりを持つ兵庫県の奥深さを探る。(山崎)

第3回(10月5日) 近世藩の成立
兵庫県内には、江戸中期以降、「大藩」は存在しなかった。最大でも姫路藩の15万石。その石高にしては、世界遺産にもなった姫路城は立派過ぎる。なぜなのか。池田輝政が城主だった江戸初期、一族で播磨・淡路・備前・因幡の4国、合わせて100万石近くを領していた名残と言える。「大坂の陣」の後、幕府が政策を転換させ、姫路藩を分割する形で龍野・明石・赤穂・山崎・林田藩などを新たに立藩、「細分化支配」を構築していった。こうして誕生した「藩」の存在が、現在の住民気質にも受け継がれている実態に触れながら、近世藩の成立過程を追う。(山崎)

第4回(10月12日) 官兵衛 播磨からの飛躍
2014年のNHK大河ドラマ「軍師官兵衛」の主人公となった黒田官兵衛を取り上げ、福岡藩主家として幕末まで続いた名家の基礎を築いた人物の生涯をたどる。なぜ、官兵衛は「軍師」たり得たのか。正史「黒田家譜」の記述が全て正しいのか。幾つかの謎を解剖し、随時、異説にも触れながら、有能な軍師でありながら天下を取れなかった官兵衛という人物を通して、戦国期から江戸初期にかけての時代を考える。(山崎)

第5回(10月19日) シーボルトの『江戸参府紀行』
今日、シーボルトと言えば、日本地図などの禁制品を海外に持ち出そうとして軟禁後、国外追放された「シーボルト事件」の“首謀者”として教科書に書かれるように、

マイナスのイメージが強い。ところが、オランダ商館長に伴って長崎から江戸までを往復した際、博物・民族学者として道中を鋭く観察し、克明に日記に記した事実は意外に知られていない。兵庫県内でも各地に足跡を残し、中でも楠木正成の墓にまつわる記述などは、今日では湊川神社にも記録がない貴重なもの。現風景と比較しながら「シーボルトが見た兵庫」を再現する。(山崎)

第6回(10月26日) レコード王国だった関西
現在、日本レコード協会に加盟するレコード会社は正会員18社とも「東京」に一極集中する。ところが、明治44年、神戸に日本で2番目のレコード会社「時枝商店」が誕生して以来、大正から昭和戦前期まで、関西に数多くのレコード会社がひしめいていた。この事実は今日、完全に忘れられているが、兵庫県内にも、先の時枝商店のほか日英楽社(三木市)、内外 太平 大日本 日本マーカー(西宮市)、東亜(尼崎市)などの会社が存在し、それぞれ特徴ある演目を録音・製品化していた。残された「当時の音」を実際に聴きながら、今日的意義を探る。(山崎)

第7回(11月2日) 「土木の聖地」としての但馬
但馬には「古代=天日槍(あめのひぼこ)伝説」「中世=天空の竹田城」「近世=城下町や鉱山採掘」「近代=鉄道の難工事」など、各時代の代表的な土木構築物が残っている。また、土木学会の創立や治水の神様と呼ばれた土木学者も輩出した。「土木文化」という視点から検証することで、新たな但馬像をとらえる。(谷口)

第8回(11月9日) 「阪神間モダニズム」とその土壌

阪神地域は京都・大阪・神戸に近接しており、中央の文化や経済力の影響を受けてきた。近代以降、阪神間は別荘地および郊外住宅地として開発が進み、独特の「モダニズム文化」が開花した。近年着目されている阪神間モダニズムについて理解し、この地域の特性を考えよう。(谷口)

第9回(11月16日) 神戸・阪神間のスイーツとパン

神戸・阪神間の洋菓子メーカー&ベーカリーは、今や首都圏をはじめ全国のデパ地下に進出している。しかし、神戸の洋菓子文化を語る常套句の「開港場だから」という説明は、同じ開港場の横浜や長崎には該当しない。では、なぜ神戸がスイーツとパンの街として躍進できたのか。さまざまな資料を見ながら発展史をたどる。(谷口)

第10回(11月30日) 丹波の風土に育まれた逸品
兵庫県の内陸部に位置する丹波は、日本六古窯(瀬戸、常滑、信楽、備前、越前、丹波)の一つに数えられる丹波(立杭)焼のほか、黒豆・小豆・栗・山の芋・茶などの「逸品」特産品を産出している。丹波で豊富な逸品が生まれた背景は何か。丹波の歴史と風土に着目してみよう。(谷口)

第11回（12月7日） 芸能の島 淡路の人形浄瑠璃
淡路人形浄瑠璃は、鎌倉時代に西宮から伝わった「えびすかき」が起源とされる。江戸時代には淡路島だけで40以上の座元があり、全国各地へ巡業したという。国の重要無形民俗文化財に指定された淡路人形浄瑠璃に触れるとともに、県内他地域の民俗芸能へも視野を広げたい。
（谷口）

第12回（12月14日） 摂津 神戸市の二面性

神戸は、特に外部から「港町」「ハイカラ都市」と見られるが、それはいわば“表の顔”。実は、もう一つ“裏の顔”とも呼ぶべき、別の姿も持っている。港もなく、ハイカラでもないが、伝統的な「癒やし」系観光資源が豊かな北区や西区もまた同じ市域に含まれる。「二面性」を持つ神戸市の実態を解剖する。（石田）

第13回（12月21日） 兵庫の災害史と防災

旧五国からなる兵庫県は地域により地勢や気候が大きく異なり、その災害リスクも幅広く想定される。阪神・淡路大震災に代表される地震災害のみならず、これまで経験してきた様々な災害の事例を振り返り、日本の防災分野をリードする兵庫県の取り組みと今後の備えについて防災士の立場から考察する。（石田）

第14回（1月11日） 兵庫の警察とその歴史

兵庫県警の歴史と組織、警察が重点的に活動をしている業務の力点などについて話を進め、その中で今後、警察としていかに県民のために働き、日本一住みよい「兵庫県」を確立するため地道に活動しているか。ありのままの姿について話を展開する。（中本）

第15回（1月18日） 関西とは何か

兵庫県は関西圏に属している。何気なく使われている「関西」とは本来、何を意味し、どこからどこまでが関西なのか。似かよった「近畿」とはどのように住み分けられているのか。そして関東とは何が違うのか など、兵庫が属する関西の文化について考える。（山崎）

2022年度 後期

2.0単位

地域学講義 B（環境学）

先山 徹

< 授業の方法 >

講義形式

< 授業の目的 >

この科目は全学DPのうち「共通教育等を通じて、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養している」と「幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる」に関係し、地域の歴史や文化が大地の成り立ちに関係して作られてきたことを知ることで、その活用に向けての方策を生み出す

能力を身につけることを目的としています。

地域が成り立つ背景には、その地域の地形・地質・気象など自然の成り立ちが関わっています。それは、ある時は大きな災害である一方、豊かな恵みを与えてくれたことも多くあります。地域の成り立ちの意味を知るためには、その地域が地球や日本列島の成り立ちの中でどのように成り立ってきたかというグローバルな見方と、私たちの暮らしとどうかかわってきたかというローカルな見方の両面が必要です。この授業では、兵庫県を中心とした各地の事例を示しながら、地球環境や大地の成り立ちをもとに、それらが地域の暮らしとどうかかわってきたかを解説します。

授業担当者は第28次南極観測隊員としての調査ののち、兵庫県立人と自然の博物館に長年勤務し、また近年は山陰海岸ジオパークをはじめとするユネスコ世界ジオパーク活動に関わるなど、地質資源を活用した地域づくりに関わってきた、地球環境から地域の問題まで幅広くかかわった「実務経験のある教員」です。この授業ではそれらを活かして地域の成り立ちについて多面的に捉え、地域と人の暮らしに関する総合的な理解をはかります。

< 到達目標 >

・各地域の大地の成り立ちと人の暮らしとのかかわりが説明できること。「知識」

・身の回りの風景やその成り立ちに意識を向けるとともに、その活用を通じた地域づくりに目を向けるようになること「態度・習慣」

・地形図や地質図から、その地域の成り立ちを説明できるようになること。「技術」

< 授業のキーワード >

自然環境と暮らし、地球環境、地質、地形、災害、地域資源、観光

< 授業の進め方 >

講義を主体に進めます。

各回授業中に講師から与えられた簡単な質問に対して回答してもらいます。質問がある場合はそこに書いてください。質問については整理して次週以降の授業で回答します。

< 履修するにあたって >

日ごろからプラタモリなどのような自然や地理に関係したテレビ番組や災害に関係したニュースなどに触れ、興味を持つことは大切です。

< 授業時間外に必要な学修 >

各回のテーマと地域に関して、多かれ少なかれインターネットで検索することができる。予習としてネットで調べたものをノートにまとめておくと良い（30分程度）。ただしインターネットの情報が必ずしも正しいわけではない。授業後にはそれに授業での内容を加味して修正する（30分程度）

< 提出課題など >

授業中に随時出題します。

レポートの課題をdotCampus上にあげておきますので、そちらに提出してください

< 成績評価方法・基準 >

レポート課題を数回だし、その内容で成績評価します。

< テキスト >

テキストは使用しません。各回の配布資料を参照してください。

< 参考図書 >

特に指定しません

< 授業計画 >

第1回 地球環境と地域(1) 地球と生命の共進化
イントロダクション、地域学の背景としての地球のなりたち、大気と生命の歴史

第2回 地球環境と地域(2) 大地の動き
地球内部、プレートテクトニクスと地殻変動、日本列島の概観

第3回 地球環境と地域(3) 気候変動と海面変動
氷期と間氷期のサイクルとそれによる海水準変動。それによって生じる地形とそこでの暮らし。

第4回 地質資源と地域(1) 鉱物と鉱床
鉱物とは何か? 特徴的な鉱物と鉱床・鉱山。生野鉱山・銀の馬車道など、鉱山のある地域を紹介。

第5回 地質資源と地域(2) 特徴的な岩石 - 花崗岩
硬くて石材などに多く使われる反面、風化して崩れやすい花崗岩。それによって生じる独特の地形やたたら製鉄など。

第6回 地質資源と地域(3) 特徴的な岩石 - 石灰岩
石灰岩を作ったサンゴ礁はどこから来たのか? 炭酸カルシウムからなる石灰岩特有の地形であるカルスト台地や鍾乳洞。石灰岩台地特有の土地利用。

第7回 地質資源と地域(4) 石造物と石材の歴史
古墳時代の石棺、中世の石塔、城の石垣、北前船による流通、近代建築物への利用など、日本の石材利用と流通の歴史。石材として使用される岩石。

第8回 地形と地域(1) 火山のある地域
マグマの種類によって異なる火山の形と噴火様式。噴火が周辺の地域に及ぼす影響。火山活動による災害と恵み。

第9回 地形と地域(2) 河川の地形と暮らし
河川による浸食・運搬・堆積作用。段丘、扇状地、自然堤防と氾濫原など河川と土地利用。河川争奪や穿行河川などの地殻変動とかがわった地形。

第10回 地形と地域(3) 海岸の地形と暮らし
リアス海岸と岩石海岸の地形。砂丘・砂浜・砂漠の違い。砂洲・砂嘴・陸繋島と潟湖。砂丘の農業。

第11回 災害と地域(1) 地震災害

阪神淡路大震災と東日本大震災。活断層、液状化、津波などの災害。地域の防災と復興。

第12回 災害と地域(2) 土砂災害

崖崩れ・土石流・地すべりなど土砂災害の種類と原因。地すべり地の地形と棚田。ハザードマップ。

第13回 六甲山地の成り立ちと暮らし

断層運動と花崗岩による六甲山地の特徴。阪神間の街を支えた六甲山地の成り立ち。港・街の発展の歴史。土石流が作った六甲山麓の街。

第14回 地域資源の保護と活用(1) ジオパーク・日本遺産

世界遺産、ジオパーク、エコパーク、日本遺産における保護と活用の事例。

第15回 地域資源の保護と活用(2) ツーリズムと観光

まとめとして、地質資源を活用した地域づくりを考える。発地型観光と着地型観光など、これからの観光のあり方。

2022年度 後期

2.0単位

地域学講義 C (地域創生と観光)

竹内 利江

< 授業の方法 >

「講義」

< 授業の目的 >

この科目は、全学DPに示す、他者や異文化に対する理解と、獲得した知識や技能を社会に役立てることを目指す。人口減少社会が到来した日本では、観光は交流人口の増加や地域経済の活性化に貢献し、インバウンドの増大は、全国各地でグローバルな観光地域づくりを進展させてきた。質の高い文化体験や新たな交流は、地域にとって豊かな観光を創造する一方、急激な観光客の増加は、オーバーツーリズムの問題を生じさせ、またウイルスの感染拡大による移動の制限は、観光産業にとっては大きなダメージともなった。あらゆる面で、安全・安心であることが観光の基本である。この授業では、国や地方自治体の観光政策、観光の現状と課題を理解し、地域の観光資源を活かした、持続可能な地域観光のありかたについて考えることを目的とする。

なお、この科目の担当者は観光産業に従事した実務経験のある教員である。従って、実務的な視点を踏まえて、深い学びへつないでいきたい。

< 到達目標 >

・観光庁の観光地域づくり政策の主な事業について説明できる。

・持続可能な地域観光のありかたについて自らの見解を示すことができる。

・兵庫県内の地方自治体の観光振興について調査し、課題に対して自らの意見を述べるができる。

・グループワークを通して、コミュニケーション力とプレゼンテーション力を向上させる。

<授業のキーワード>

観光地域づくり、温泉、文化遺産、MICE

<授業の進め方>

・講義を中心に進めます。
・授業の後半に、少人数によるグループワークを行います。

履修人数や授業方法の変更によって修正する場合があります。

・毎回、講義内容に関するコメントを提出してもらいます。

アンケートを行う場合もあり、それらの内容は必要に応じて共有します。

<履修するにあたって>

・地域学入門C（現代観光論）を履修していることが望ましい。

・テキストは用いません。レジュメと参考資料は配布します。

・グループワークへの積極的な参加を求めます。

<授業時間外に必要な学修>

・授業内容の予習・復習で毎回1時間程度。

・小レポートの作成で5時間程度。

・国際観光、国内観光、観光地や地方公共団体などの観光振興に関わるニュースに関心を持ってください。

・提出課題など>

<提出課題など>

・兵庫県内の地方自治体の観光振興に関するレポートを提出してもらいます。

初回の授業で、調査内容について説明します。

・グループワークにおけるワークシートを提出してもらいます。

<成績評価方法・基準>

・小テスト 50% 授業を通して学修してきた知識の理解を問います。授業内で実施します。

・小レポート 50% 調査内容の妥当性と論理的構成について評価します。

グループで作成したワークシート等を含めて総合評価します。

<参考図書>

・竹内正人・竹内利江・山田浩之編著『入門観光学』ミネルヴァ書房、2018年。

・高橋一夫著『DMO 観光地経営のリノベーション』学芸出版社、2017年。

・西村幸夫『観光まちづくり まち自慢からはじまる地域マネジメント』学芸出版社、2009年。

その他参考文献・ウェブサイトは授業中に指示します。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

地域創生と観光

講義のねらい、進め方や注意事項、課題レポートの内容について確認し、国の地方創生の政策課題や観光の基本について学び、授業のテーマを理解する。

第2・3回 地域観光の動向

最新版の『観光白書』から日本の旅行・観光市場の概要、都道府県別の観光の状況を掴み、訪日外国人旅行者の増減が地域経済に与えている影響について確認する。

第4回 観光地域づくりと観光地経営

観光庁の観光地域づくりの施策と兵庫県の観光振興の概要を理解する。科学的手法を用いた観光地経営の必要性と観光地経営を担う日本のDMOについて学ぶ。

第5・6回 温泉地とリゾート再生

訪日外国人旅行者も、日本の温泉への関心が高まっている。温泉や温泉地の歴史、温泉の定義や機能等について、また近年の温泉旅館やリゾートホテルが抱える課題を理解し、事例として「星野リゾート」の取組みを学ぶ。

第7回 宿泊施設の多様化と民泊

近年、ゲストハウスやカプセルホテルが進化し、古民家や空き家・空き室を活用した民泊サービスも増加している。旅館業法の改正、住宅宿泊事業法の施行等、宿泊サービスに関わる環境変化と動向について学ぶ。

第8回 世界の「和食」とフードツーリズム

世界無形文化遺産に登録された「和食」は、訪日外国人旅行者にとって主要な観光目的である。和食の特徴と郷土色豊かな日本の食文化や日本の外食産業に関する理解を深め、フードツーリズムの展開について学ぶ。

第9・10回 文化遺産と歴史まちづくり

ユネスコの「世界遺産」及び日本における有形・無形の文化財の保護と活用の流れと、近年導入された「日本遺産」制度について学び、観光振興の視点から、地域の伝統文化の継承、歴史的な町並みや景観保護の重要性について理解する。

第11・12回 MICEと博覧会とIR

MICEとはビジネスイベントの総称であり、多くの人が集まるために経済効果が大きく、国際会議をターゲットにしたMICE誘致は国際観光の重要な施策である。MICEの一種である「博覧会」の歴史を紐解きながら「大阪・関西万博2025」に至る展開を学ぶ。また国が推進する日本のIRについて、大阪府・市他の地方公共団体の動向も踏まえて理解を深め、IRの課題について考える。

第13・14回 兵庫の観光振興

調査した課題レポートをもとに少人数でのグループワークを行う。兵庫県内の各市町の観光振興の現状と課題を報告し、課題の解決に向けて意見交換する。その内容をワークシートに整理してグループ発表を行い、兵庫観光のこれからについて考える。

第15回 オーバーツーリズムとサステイナブルツーリズム

ム
グループワークと授業について振り返るとともに、観光による負の側面にも目を向けて、環境を守り地域資源を活かした持続可能な観光について考える。

2022年度 前期

2.0単位

地域学講義 A (社会貢献とボランティア)

相川 康子

< 授業の方法 >

対面の講義形式で行います。ただし、新型コロナウイルス感染防止の対応でオンライン (ZOOM) になる可能性もあります。資料配布やテスト、レポート回収などは基本的にdot-campusで行います。

< 授業の目的 >

本講義は、共通教育科目「リベラルアーツ科目群・地域学分野」の1つで、受講生が阪神・淡路大震災の経験からボランティアな活動が盛んな神戸のまちへの理解を深めるとともに、「地域課題を解決する市民活動 (社会貢献やボランティア) の可能性」について自ら考察し、将来的に実践できるようになるのが目的です。全学ディプロマ・ポリシーの「共通教育等を通じて、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養している」に該当しています。

戦後50年の節目 (1995年) に起きた阪神・淡路大震災は、従来の考え方や経済社会システムを大きく揺らがせ、被災した神戸の人たちは、現在全国各地で起きている社会問題を先取りするかたちで、様々な課題に直面しました。行政も被災して公助の機能が低下する中、期待を集めたのが市民による救援活動や企業の社会貢献活動です。それらが評価されて、特定非営利活動促進法 (通称NPO法) 制定や公益法人改革といった制度改革につながり、企業の社会貢献活動 (CSR) も盛んになりました。

市民活動の領域は、少子化・高齢化が進み、行財政が厳しくなる中で今後も拡大していきます。コロナ禍によって、困窮者が増え、同調圧力が高まるといった傾向も気付きですが、それでも、本講義を通じて、社会貢献やボランティアな活動が「一部の篤志家が行う自己犠牲」ではなく「誰もができる自己実現」だと気づくことができれば、共通教育センターが到達目標として掲げる「生涯にわたって自発的に学び続けていくことができる」や「高い倫理観・責任感を以て社会に貢献することができる」が達成されるでしょう。

講師は、地元紙の神戸新聞社や東日本大震災の復興庁での勤務経験があり、現在はシンクタンク系NPOの役員を務める「実務経験のある教員」です。現在も神戸市で地域活動推進委員会や行財政改革懇談会の委員、兵庫県まちづくり審議会委員、大阪市市民活動推進事業運営会議委員、滋賀県や大阪市の地方防災会議委員を務め、民

間助成基金の選定委員も務めていることから、実際の施策や現場に基づく講義ができます。

< 到達目標 >

阪神・淡路大震災のあった1995年が、なぜ「ボランティア元年」を呼ばれているのかを理解し、それを知らない人に説明することができる

ボランティアな活動に対するイメージを広げ、行政・企業・市民それぞれのセクターの役割と、それが今度、どのように変化していくかについて自ら考えられるようになる

震災復興のさまざまな側面と、それを担った先人たちの意志や努力を学び、失敗例も含めて、自らの糧にすることができる

日常的にボランティアや社会貢献活動に関心を持ち、今後、どこかで災害が起きた際に効果的な直接支援や間接支援ができる

< 授業のキーワード >

社会貢献 ボランティア活動、阪神・淡路大震災、新しい公共領域、参画と協働

< 授業の進め方 >

初回オリエンテーションの後は、基礎編、ボランティア・市民活動の歴史編、展開編、総括編と、段階的に学びを深めます。講義が中心ですが、ワークシートやミニレポートで、学生が主体的に学べるよう工夫します。また、関連する行政資料や新聞記事、統計資料などにアクセスし、読み説いていきます。

< 履修するにあたって >

○ボランティアや社会貢献活動について、歴史から学ぶと同時に、現在の状況 (例えばコロナ対応でどのような活動が展開されているか / 各地の自然災害でどのようなボランティア活動が展開されているか等) にも思いを馳せてください。

○神戸のまちや市民活動に関心を持ち、新聞やテレビで、神戸関連のニュースをチェックする習慣をつけてください。

< 授業時間外に必要な学修 >

○基本編とボランティア・市民活動の歴史編では、公民や近現代史の基礎知識、地域コミュニティにかんする理解が必要なため、受講前に小中高で学んだ公民や現代社会の知識を思い出しておくこと。歴史編では年表に基づく予習・復習に各回30分程度、これまで近現代史を学んでこなかった人はその倍程度の時間の予習が必要。

○展開編以降では、阪神・淡路大震災にかんするドキュメンタリーを視聴したり、手記や記録集などをできるだけたくさん読んだりしておくこと。人と防災未来センターや神戸まちづくり会館のまちラボ、ボランティアプラザなどの拠点を訪れ、本や資料を検索すること (2~3日)。

< 提出課題など >

対面講義では毎回、コメントペーパーを提出してもら

います。そこに書かれた意見や質問については次回にフィードバックします。

歴史編終了時のミニテストは、終了後に模範解答を配布するので各自、復習してください。

展開編の間に、震災関連資料がある施設を訪れ、興味のある課題について調べた中間レポートを提出してもらいます。（新型コロナウイルス感染防止による外出自粛要請や施設の開設状況によって別の課題に振り替える可能性があります）。個別のフィードバックは行いませんが、講義の中で傾向を解説し、補足します。

展開編と総括編を受けた期末レポートを提出してもらいます。

<成績評価方法・基準>

到達目標と成績評価を連動させます

基礎編修了時に「行政・企業・市民それぞれのセクターの役割と、それが今度、どのように変化していくかについて自ら考えられるようになる」ことを確認するミニレポートを課します（20%）

歴史編修了時に、市民活動の歴史や「なぜ1995年がボランティア元年と呼ばれるか」の理解度を問うテストを行います（20%）

期末に「震災復興のさまざまな側面と、それを担った先人たちの意志や努力を学び、失敗例も含めて、自らの糧にすることができる」ようにするため施設を見学し課題を自ら設定したレポートを課します（40%）

「日常的にボランティアや社会貢献活動に関心を持つ」ために毎回のコメントペーパーの内容や受講態度を評価します（20%）

かつこの割合を目途として総合的に評価します。

<テキスト>

指定しません。

<参考図書>

○兵庫県／阪神・淡路大震災復興フォローアップ委員会監修『伝える 阪神・淡路大震災の教訓』ぎょうせい（2009）

○塩崎賢明・西川栄一・出口俊一編、兵庫県震災復興研究センター『大震災100の教訓』かもがわ出版（2002）

○土岐憲三、河田恵昭、林春男監修 メモリアル・コンファレンス・イン神戸編『12歳からの被災者学 阪神・淡路大震災に学ぶ78の知恵』NHK出版（2005）

○コミュニティ・サポートセンター神戸編『希望につながるコミュニティ CS神戸の20年』神戸新聞総合出版センター（2016）

○宮垣元 著『その後のボランティア元年 NPO・25年の検証』晃洋書房（2020）

<授業計画>

第1回 イントロダクション

講義の狙いやスケジュールを説明した後、地域学の対象地域である「神戸」の特性について概要を解説する。

第2回 基礎編 多様な主体と役割分担

社会の構成要素である行政セクター、企業セクター、市民セクターについて、それぞれの特徴を理解し、役割分担の変化を考察する。

第3回 基礎編 マクロな課題に気づく

人口減少や少子化・高齢化や家族・地域社会の変貌、格差の拡大など、今の日本社会が直面している諸課題について、統計データを見ながら理解する。その中で、自助・互助・共助・公助について考える。

第4回 基礎編 ミクロな課題に気づく

前回学んだ社会全体の（マクロな）課題を、自身や身近な地域社会というミクロな単位で考えてみる。また従来、地域の互助活動を支えてきた地縁団体などが、現在どういう状況にあるかを考察する。

第5回 ボランティア・市民活動の歴史編 近代ボランティアの誕生と発展

互助と博愛の違いを理解し、明治以降から太平洋戦争あたりまでの市民活動の歴史を概観する。

第6回 ボランティア・市民活動の歴史編 経済・社会情勢の変化とともに

終戦から高度経済成長期を経て1990年代半ばまでのボランティア・市民活動の歴史を、経済・社会情勢の変化とからめながら概観する。どのような時代に、どんな社会課題や救援ニーズが生じ、それにどのような人たちが、どんな活動で応えようとしてきたかに注目する。

第7回 ボランティア・市民活動の歴史編 阪神・淡路大震災のインパクト

阪神・淡路大震災の概要をあらわになった課題を整理し、1995年が「ボランティア元年」と呼ばれた理由を確認する。

第8回 ボランティア・市民活動の歴史編 市民社会の模索

震災を契機にできた特定非営利活動促進法（NPO法）などの様々な仕組みや法制度に触れつつ、現在に至るまでのボランティア・市民活動の歩みを概観する。

第9回 中間まとめとミニテスト

前半は基礎編と歴史編で学んだことを復習と補足を行い、後半で理解度を問うミニテストを実施する。

第10回 展開編 神戸のまちと被災の歴史

神戸は阪神・淡路大震災だけでなく、阪神大水害や太平洋戦争時の空襲とその後のGHQによる占領など、自然災害や戦災に見舞われてきた。当時の状況や復旧・復興のまちづくりについて学ぶ。

第11回 展開編 阪神・淡路大震災で芽生えた多様な市民活動

コミュニティFMやコミュニティサポート、外国人支援、専門家や組織によるボランティア活動など、阪神・淡路大震災を契機に生まれ定着したボランタリー活動を概観

する。

第12回 展開編

阪神・淡路大震災で生まれた市民社会の仕組み

生活再建支援法制定運動を紹介するとともに、被災者復興支援会議のような第三者機関、復興基金、参画と協働施策など震災を契機にすすんだ官民連携の仕組みを概観する。

第13回 展開編 KOBEから各地の被災地へ

阪神・淡路では救援ボランティアの在り方についても、様々な気づきや模索があり、災害救援を専門とする団体のネットワーク化も進んだ。中越大震災や東日本大震災、西日本豪雨など全国さらに世界各地の被災地で、どのような支援が行われているかを解説する。

第14回 総括編 復興を支えた人たちと神戸の将来像
災害からの復興を支えたキーパーソン数人を取り上げ、彼らの姿勢から復興の在り方や新しい市民社会の理念を探る。また、現在の神戸が、どのような課題を抱え、どのように持続可能なまちを目指しているかを考察する。

第15回 総括編 自分たちにできることを考える
阪神・淡路大震災を直接知らない世代が、経験を継承し、教訓をいかすために、どんな工夫が要るか、一人ひとりは何ができるかを考える。

2022年度 前期

2.0単位

地域学講義 B (都市比較論)

吉田 創

< 授業の方法 >

原則として対面授業ですが、新型コロナなど場合によってはオンライン授業となります。

< 授業の目的 >

「都市とは何か」。都市はさまざまな要素で構成されています、本講義では都市を理論の枠組みの中で俯瞰しながら皆さんのさまざまな気づきをもとに都市について学んでいきます。

< 到達目標 >

本講義の到達目標は「都市を構成する理論及び要素を理解する」ことです。

< 授業のキーワード >

都市、コミュニティ、産業

< 授業の進め方 >

レジュメをもとに板書で授業を進めていきます。

< 履修するにあたって >

あらかじめ参考文献を読み、雑誌などで都市や地元地域について考えておくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

紙媒体で地域の情報をチェックしておくこと。

< 提出課題など >

第7回の講義が終わった時点で小レポート課題を提出すること。

< 成績評価方法・基準 >

第7回目の講義後の小レポート課題（40点）及び最終テスト（60点）により評価する。オンライン講義の場合は最終テストに代えてレポート課題（60点）とする。

< テキスト >

吉原直樹，2018年，『都市社会学—歴史・思想・コミュニティ』，東京大学出版会。

< 参考図書 >

玉野和志〔編〕，2020年，『都市社会学を学ぶ人のために』，世界思想社。

< 授業計画 >

第1回 都市とは何か（はじめに）

都市の理論について学ぶ

第2回 都市についての視点

都市の歴史と概念について学ぶ。

第3回 都市とコミュニティ

都市のコミュニティ形成について学ぶ。

第4回 都市と市民

都市と市民の概念について学ぶ。

第5回 都市と産業

都市と生産地・製造業について学ぶ。

第6回 都市と産業

都市と小売業について学ぶ。

第7回 都市と産業

都市とその他のサービス産業について学ぶ。

第8回 都市とブランド

都市が持つブランド効果について学ぶ。

第9回 都市と観光

観光の定義と観光開発によってもたらされる弊害について学ぶ。

第10回 都市と観光

「おもてなし」及び「ホスピタリティ」について学ぶ。

第11回 都市と経済

都市内の経済の還流について学ぶ。

第12回 都市と環境

都市と都市を取り巻く環境について学ぶ。

第13回 都市と観光

都市の観光災害について学ぶ。

第14回 都市と私たち

都市の発展とともに私たちもどのように変化するのかについて学ぶ。

第15回 都市とは何か（まとめ）

講義のまとめとして、私たちが今後、都市とどのように向き合うべきかについて学ぶ。

2022年度 前期

2.0単位

地域学講義 C (地方自治体の都市政策)

大森 光則

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、学生が豊かな知識を備え、新しい価値を創造でき、将来にわたって自発的に学び続けることができる。そして、高い倫理観、責任感をもって社会に貢献するという本学が掲げるディプロマポリシーを踏まえ、さらに共通教育カリキュラムの地域学分野に示された履修系統における「地方自治体の政策」に属している。

具体的には、「地方自治体の都市政策」について、本学のキャンパスがある神戸市に焦点をあて、自治体から市民に提供されるサービス(政策)は、どのような目的をもち、どのような手続を経て実行されるのかについて明らかにしたい。また、自然災害やコロナ感染症などの災害を経て、今後、どのような都市をめざしていくのかを学生のみなさんと共に考えていきたい。

また、行政事例を学ぶだけでなく、神戸市という自治体を通じて実学を学ぶ機会も設ける。実際に神戸市において、政策を担当している幹部職員をゲストスピーカーとして招き、政策となる過程を学ぶことができる。また、第一線で働く職員の貴重な体験談を聞く機会も設けた。さらに2020年度、2021年度の授業においては、神戸市長、副市長、局長級の幹部職員から講義を行って頂いた。

以上のことを学ぶことにより、学生自らが、自治体の現状を分析し、問題点を見つけ、改善に向けた政策を考える力を養うことを目的としている。

なお、担当教員は、(公財)神戸都市問題研究所の研究員として勤務し、地方自治体が発行する地方債や戦前の外貨地方債について研究テーマとしていた実務経験のある教員である。

< 到達目標 >

学生が授業に参加するなかで以下の3点について修得できるようにする。

- (1)神戸市という自治体が戦前戦後を通じて災害に直面しながらも、市民と行政が協力して復興してきたことが理解できる。
- (2)自治体の幹部職員から政策の企画立案、実行への経緯を直接聞くことによって、自治体の役割について大まかに理解することができる。
- (3)どうすれば市民の暮らしが向上するのかといったこと

が意識できるようになる。学生個人やグループが改善に向けた政策が考えられるようになる。また、自治体が行う住民アンケートなどを通じて積極的に意見を述べるなど、身近な問題で地方自治体に具体案を提案することができるようになる。

< 授業のキーワード >

地方自治、自治体、神戸市、神戸市長、福祉行政、国と地方、財政赤字、財政の仕組み、地方債、外貨地方債、マルク債と為替差益、自治体の運営手法、都市経営、神戸と災害、阪神淡路大震災、災害と職員

< 授業の進め方 >

- (1)講義を中心に行う。DVDなどの視聴覚教材も利用する。教科書は使用せず、レジメを配布する。
- (2)ゲストスピーカー(自治体の幹部職員)の講義テーマについては、授業中に配布する日程表に記す。
- (3)一方通行の授業とならないように、適時質疑の時間を持つ。講義の内容や講義に関連する新聞記事などをテーマにディスカッションも行う。

< 履修するにあたって >

- (1)授業でわからないことは遠慮せずに聞いてほしい。また、レポートの書き方や期末テストへの取り組み方など、合格に向けた丁寧なサポートも行う。
- (2)授業での質問(Webメールによるものも含む)や意見発表は評価の対象とする。
- (3)公務員を志望する学生や地方自治体に興味を持つ学生をはじめ、多くのみなさんの受講を期待している。

< 授業時間外に必要な学修 >

- (1)授業ごとのテーマについてインターネットでの検索や参考文献に目を通し、気の付いたことはノートに残す。
- (2)図書館を利用し、新聞(週刊誌を含む)や居住する自治体の広報紙に眼を通すことも学修になる。
- (3)テレビやラジオのニュース番組を見聞きすることを習慣に。特にニュース解説の番組は就活するうえでの知識にもなる。
- (4)身近で生じていることから政策について考えてみる。例えば「高齢者の立場になって歩道の安全性を考えてみる」「利用者(市民)の立場から行政サービスについて考えてみる」ことも学修になる。
- (5)講義の内容をまとめる。参考文献を読む。そして、必要なところをノートにまとめてみる。これらの学修や作業はレポートの作成や期末試験対策にも有効だ。

これら授業の予習や復習は概ね各60分を目安にする。

< 提出課題など >

講義の内容や身近な問題から中間レポート(800字程度)を課すことを予定している。提出されたレポートにおいて、各学生に共通する内容については、授業のなかで説明したい。

< 成績評価方法・基準 >

評価の構成は、授業での質問や意見発表(大いに評価する)30%、中間レポート20%、期末試験50%を予定して

いる。コロナの感染状況によっては、期末試験に代えて期末レポートを行うこともある。

また、各学生からのWebメールによる質問も受け付ける（評価の対象とする）。メールによる質問で各学生に共通する内容については、授業のなかで説明したい。

<テキスト>

テキストは使用しない。その都度レジメを配布する。また、OneDriveを活用したい。授業前にはOneDriveの内容を確認すること。

<参考図書>

以下の文献を薦める。専門書は学生にとって高額なものも多い。コロナ禍にあって日々の生活費の工面も大変だと思ふ。無料で利用できる大学や自治体の図書館を活用することを薦める。

- (1) 伊多波良雄他『基礎から学ぶ財政学』（晃洋書房2018年）
- (2) 久元喜造、増田寛也『神戸市の挑戦』（ぎょうせい2017年）
- (4) 辻清明『日本の地方自治』（岩波書店1976年）絶版
- (5) 宮崎辰雄『神戸を創る』（河出書房1993年）
- (6) 神木哲夫『神戸検定神戸学公式テキスト』（神戸新聞総合出版センター2012年）
- (7) 神野直彦『財政のしくみがわかる本』（岩波ジュニア新書2007年）
- (8) 神野直彦『地方自治体壊滅』（NTT出版1999年）
- (9) 増田寛也『地方消滅』（中央公論新書2014年）
- (10) 高寄昇三『近代日本都市経営史上巻』（公人の友社2019年）
- (11) 大森光則、伊多波良雄「外貨地方債の政府保証のメリットとデメリットに関する研究」（『同志社政策科学』第11巻2009年）
- (12) 大森光則「水道建設と外資導入」『都市政策（135号）』（神戸都市問題研究所2009年4月）
- (13) 大森光則「ドイツマルク債と為替差益」『都市政策（148号）』（神戸都市問題研究所2012年7月）
- (14) 岩田隆義「神戸とユダヤ難民」辻雄史「勝田銀次郎と陽明丸」（神戸市史紀要『神戸の歴史』第26号2017年）
- (15) 手嶋龍一『スギハラ・サバイバル』（小学館文庫2021）2012年7月）』
- (16) 北室南苑『陽明丸と800人の子供たち』（並木書房2017年）
- (17) 白井勝彦他『神戸の戦災孤児たち』（みるめ書房2019年）

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

授業の進め方、評価の方法と基準（点数の配分など具体的に）について説明します。学修の仕方（レポートの書き方や書式など）、図書館や情報支援センター（PC関係）の利用について、経験も踏まえて説明する。

第2回 港ともに発展したまち

兵庫開港を取り上げる。神戸港の歴史は古く「大和田の泊」と呼ばれ、奈良時代からの歴史がある。DVDも利用し、今の神戸市域が港ともに発展してきたまちであることを理解する。

第3回 開港は開国だった

ペリー来航と鎖国の終わり、東アジアで残された最後の市場、不平等条約、居留地の誕生（神戸開港だった）、貿易が始まる、金本位制（交換比率の不平等）、商事会社の設立と委託、貿易と産業の発展など。

第4回 財政の仕組み⁽¹⁾

『日本の財政関係資料（財務省）』から国家財政は赤字なのか黒字なのか、財政悪化の原因、財政健全化の道筋などについて考える。

第5回 財政の仕組み⁽²⁾

神戸市の予算説明資料『こうべの家計簿』から、地方自治体の財政状況を考えてみる。

第6回 自治体運営の手法⁽¹⁾

戦後の代表的な市長であった宮崎辰雄神戸市長の『都市経営』を取り上げる。都市経営論の特徴である 公共デベロッパー方式、起債の最大限の活用、財政調整基金の活用、外郭団体の活用を観てみる。ドイツマルク債と為替差益（財源の確保）、最小の経費で最大の効果（コスト意識）について考える。

第7回 自治体運営の手法⁽²⁾

自治体が行う政策がどのようにして検討され成案化されていくのか、そして、どのような手続きを経て実現されるのかについて考える。市長が市民要求を把握する手法、市長と議会のバランス関係など。

第8回 （仮題）神戸市の課題

神戸市が進めようとしている今後のまちづくりの方向や課題について、久元神戸市長が講義を行います。

第9回 神戸と災害⁽¹⁾

阪神淡路大震災から27年、ワークショップから被災者が求めているものを考える。

第10回 神戸と災害⁽²⁾

自然災害と戦災（戦争による被害）をとりあげる。阪神大水害（1938年7月）や神戸大空襲（1945年2月～）について、当時の記録映像から被害状況をみてる。

第11回 災害と自治体職員

阪神淡路大震災直後、市役所の機能が果たせない状況下で、現場の職員は市民からの要望に対して、本庁からの指示待ちではなく、その都度、判断を求められるという困難があった。

第12回 命をつないだまち

『命のビザ』をもった4千人を超えるユダヤ難民が神戸に滞在し、神戸を経由地としてアメリカへ。

第13回 （仮題）今後の神戸のまちづくり

神戸市の今後のまちづくりについて、鈴木神戸市都市局長が講義を行います。

第14回 人口減少問題

2008年をピークに日本の人口は減少に転じた。シャッター街、消滅可能性都市、高齢化、福祉水準の低下、自治体財政の悪化などについて考える。

第15回 まとめ

学んだことを次のステップへ生かす。

期末試験の範囲や準備などについて説明をします。

2022年度 前期

2.0単位

地域学入門A (神戸学入門)

鶴飼 昌男

< 授業の方法 >

講義による対面授業形式で行います。

特別警報(すべての特別警報)の本科目の取扱いについて休講とします。

自治体より避難指示、避難勧告が発令されている場合は、その都度授業を中断し、自身の安全を最優先に考えて対応してください。(暴風警報発令の場合は授業を実施します。)

先輩からのコメント

・高校までの日本史では講義を聞いて理解し、単に暗記するだけだったが、この授業では先生が問題提起をしてくれて、本当にそうだったのか、なぜそうなったのかを深く掘り下げて考えることで、今までになかった発見や考え方を得ることができ、視野が広がった。また、人から与えられる答えを待つのではなく、まず自分で考えるようになったという変化があった。(社リハ)

・神戸のことだけかと思いきや、神戸の歴史そこからだんだんと調べるうちに、日本、世界への歴史の事柄を自分で調べている自分がいました。(現社)

出張や会議がしばしばありますので、その際にはZoomで録画したものを視聴してもらうこととなります。日時が決まり次第、dot campus のコースフィールドお知らせします。詳細はシラバス下段の「遠隔授業情報」を併せて参照して下さい。

< 授業の目的 >

学生時代を過ごす神戸の地を理解するために、神戸の成り立ちとゆかりの人物を取り上げ、彼らの各方面での業績から多面的に神戸を理解します。また、歴史上の人物の決断や思考に対して、正解のない問題に彼らはどのように自らの解を見いだして行ったのか、学生諸君と考えていきたいと思えます。学部での専門的な学習に進む前に、多角的な視点や知的好奇心の刺激によって、大学での学びに対するモチベーションを上げることができれば幸いです。

先輩からのコメント

・この授業では神戸の街を歴史的な観点や地理、産業や人物など多角的に捉え、地域が抱える問題に対して自分なりの答えを出すことを行っている。正解が無い問いに答えるためには一つの視点ではなくさまざまな視点から考えることが求められるため、自然と広い視野で物事を考える力を身に付けることができる。(人文)

この授業の担当者は、高校での20年以上にわたる歴史科教員及び管理職の実務経験を生かし、高大接続の観点から、大学入学直後の学生に大学で求められる主体的な学びの作法と意識も指導します。

< 到達目標 >

・神戸に関する歴史、文化、産業など地域の特徴を学び、地域の抱える問題とその対策について、自分なりに意見形成ができるまでの理解に至る。

・大学で学び始めるにあたって、講義を自分なりにノートにとる技術、文献や資料をまとめてプレゼンテーションする技術を向上させる。

先輩からのコメント

・正解のない問題があるため自分の考えや意見が必要となり、主体性が身に付きます。大学らしい学びに最も近い科目だと思います。(経営)

・歴史を学ぶことが出来るだけでなく、文章を書くことによりそのまま公務員試験に生きてくる講義である。(法)

・神戸市民としてこの授業で学んだ神戸の知識を知ったうえで、社会活動をしていきたいと思った。(人文)

< 授業のキーワード >

日本史、神戸

< 授業の進め方 >

講義を中心とした授業です。

毎回の授業では dot campus にアップする事前配布資料を参照し、授業後に「振り返り」を word 入力して dot campus から提出してもらいます。5回以上の提出がない場合は、単位を認めません。

授業後の「振り返り」は、授業内容をまとめるのではなく、授業によって得た新しい発見や興味を抱いた事柄、もう少し深掘りしたい部分など、授業を受けて生じた自分の頭の中の変化(質問や感想)を文章で説明してください。授業のポイントをついた各自の意見、ユニークな気づきなどが、制限字数内で他人に分かりやすく書かれているかどうか、採点の重要なポイントです。

また、事前配布資料や講義中に設問を出した場合、正解を調べて提出することによって、「振り返り」の基礎評価点に加点をします。

先輩からのコメント

・歴史に興味がある人はテーマの深掘り講義に、知的好奇心が刺激されます。「歴史は暗記ものではない」と実感したい人にも履修することを勧めます。(法)

<履修するにあたって>

・部活動での公欠や病欠など、欠席の事情は相談してください。

<授業時間外に必要な学修>

・予習としては、事前配信の資料を参考に、概説書などで各テーマや時代の概略をつかんでおいて下さい。講義がより分かりやすくなります。

・自己流のノートテイク術を身につけることを意識し、授業中のメモを板書ノートと合わせて再整理する時間が必要です。また、講義の中で各自の興味関心あるテーマや頭に浮かんだ質問事項に対しては、パワーポイント課題の作成に備えて、その場でノートに追記し、授業後に図書館やネットでの自主的な調べによって理解の幅を広げる作業が大切になります。

・予習1時間、ノート整理を中心とした復習1時間が目安となります。

先輩からのコメント

・配布された資料の設問に答えるという形式は、自分で調べる力がついたので良かった。難しい問題も何とか答えを出そうと考えるので、大変だけどやりがいを感じた。(現社)

<提出課題など>

毎年、神戸に関する興味関心のあるテーマを選んで、パワーポイント資料を作成し提出してもらいます。パワーポイントによるプレゼンテーション能力を上げるために、大学4年間の間にできるだけ経験を積んで欲しいと考えた課題です。(先輩たちには好評でした)

先輩からのコメント

・将来のために向上心を持って取り組むことのできる人であれば、この課題から学ぶことは沢山ある。日本を客観的にみる、海外目線で見ると、プレゼン作成で表現力を養うなど。(人文)

・調べていく楽しさや今まで知らなかった情報に対する関心などを感じることができ、さらに調べる効率性も上げることができた。(経済)

<成績評価方法・基準>

毎回の授業後に授業の振り返りを記す(75%)、プレゼン課題(25%)の総合で評価を行います。何回か登場する授業での設問に対する解答は加点材料とします。振り返りの記述には、授業内容のまとめを記すのではなく、授業を受けて自分の中でどのような発見があったのか、何が知的興味を刺激したのか、もう少し深掘りしたい部分や疑問点などを記してください。内容とともに筋道だった文章で簡潔に記されているかという、文章表現力も評価項目となります。毎回5点で採点しますが、減

点があるものと思って基礎点を積み上げていって下さい。

「振り返り」をどのように書いたらよいのか?授業を受けてそう思った人は、共通教育の「ライティング何でも相談室」に一度相談してみてください。先輩たちが何人も訪れてました。

事前配信資料の中に時々設問を設けてありますので、それに解答することが加点材料となります。

プレゼン課題は30点満点で(A、B、C、D、Eの5段階)としますが、特に優れた作品はS評価し加点します。また、E評価は参加賞1点です。

先輩からのコメント

・僕は大学生になったばかりの5月の時点では、根拠のある自分の意見を書くということを中学、高校とあまりやってこなかったため、この地域学入門Aではその練習ができると思います。(現社)

<テキスト>

なし

<参考図書>

なし

<授業計画>

第1回 ガイダンス

講義の進め方、受講にあたってのルール、ノートの取り方、成績評価、課題についての説明。ミニ講義「歴史学は暗記することではない!」

第2回 古代の神戸

神戸を含む兵庫南部の弥生から古墳時代の歴史地理を概説。

「古代、大阪平野は海だった!」(古墳が伝える神戸の様子)

第3回 中世の神戸

大輪田泊の重要性(清盛と義満)

中世の史料に見える荘園と兵庫津の姿。

第4回 江戸時代の神戸

北前船による近世の商品流通

「大阪の伝統的なお土産が...なんで塩昆布?!」

第5回 幕末の神戸開港

神戸居留地の特殊事情が生んだ北野異人館街

第6回 神戸華僑の歴史

明治大正期の日中関係に苦悩する神戸華僑

第7回 都市化の光と影

賀川豊彦の生き方と神戸の市街地の拡大

第8回 総合商社鈴木商店

金子直吉の経営手腕と神戸高商の人脈

第9回 「火垂るの墓」の舞台

神戸空襲は東京大空襲よりも凄まじかった!

第10回 人工島プロジェクト

「山、海へ行く」...戦後復興における神戸市長の見識

第11回 笠戸丸の出港地

日系人の歴史をたどって、外国人労働者問題を考えてみよう。

国籍とは何か？ ラグビーW杯の日本代表をどう思いましたか？

第12回 神戸の地場産業

高度経済成長と長田のケミカルシューズ

第13回 阪神淡路大震災

震災当日の市長・県知事の判断

第14回 プレゼン課題の講評

提出されたパワーポイントによる課題の優秀作品を発表し、講評を通じてプレゼン資料作成における注意点を伝えます。

第15回 神戸の美術館の歴史

国立西洋美術館設立の核になった神戸の造船王「松方幸次郎」の西洋絵画コレクションの数奇な歴史や、神戸市立博物館設立の核となった南蛮美術コレクションを辿ります。

2022年度 前期

2.0単位

地域学入門A（神戸学入門）

竹内 利江

< 授業の方法 >

「講義」「演習」

< 授業の目的 >

この科目は全学DPに示す、他者や異文化に対する理解と、獲得した知識や技能を社会に役立てることを目指す。

地域とは、その風土と歴史に根差し、文化的、社会的、経済的、また政治的な立場から多面的にアプローチできるとともに、それぞれが関係し合う包括的な概念として捉えることができる。まずは、地域を学ぶ意義や地域学の考え方を理解し、自らの根っこにある地域や暮らしの場を見つめ直してみよう。日本が直面する人口減少社会において、神戸市の現状はどうか。9つの行政区で構成される、現在の神戸の全体像を掴んでいく。

「モダン、ハイカラ、エキゾチック」と称される神戸のイメージは、神戸開港と外国人居留地の成り立ちの歴史が深く関わっている。本授業では、神戸を象徴するいくつかのキーワードをテーマとして取り上げ、「港都・神戸」の歴史を軸に、神戸の歴史と文化に関する幅広い知識を身につけることを目的とする。

< 到達目標 >

・地域学を学ぶ意義を理解し、何らかの関係を持つ地域に対して関心を持つようになる。

・港を中心とした神戸の歴史と、近代以降の神戸の文化的特徴について説明することができる。

・神戸市の9つの行政区の地域特性を理解し、地域の課題を発見することができる。

・情報を収集する力、収集した情報を整理する力、その内容を要約して説明する力を向上させる。

・グループワークを通してコミュニケーション力とプレゼンテーション力を養う。

< 授業のキーワード >

ハイカラ、スポーツ、映画、ファッション、デザイン

< 授業の進め方 >

・講義を中心に進めます。

・少人数のグループワークを行います。

履修人数や授業方法の変更によって修正する場合があります。

・毎回、授業内容に関するコメントを提出してもらいます。

アンケートを行う場合があり、それらは必要に応じて共有します。

< 履修するにあたって >

・テキストは用いません。レジュメと資料は配布します。

・グループワークに積極的に参加することを求めます。

< 授業時間外に必要な学修 >

・授業の予習・復習で1時間程度。レポートの作成に5時間程度。

・日頃から新聞の地域版（神戸版）や神戸新聞に目を通し、地域情報サイト等を検索するなどし

て、神戸のまちで何が起きているのか、どのような活動が行われているのか、関心を持ってください。

< 提出課題など >

・神戸の地域特性（行政区別）に関する調査レポートを提出してもらいます。

初回の授業で調査内容について説明します。

・グループで作成したワークシートを提出してもらいます。

< 成績評価方法・基準 >

小テスト 50% 授業を通して学修してきた知識の理解を問います。授業内で実施します。

レポート 50% 内容の妥当性について評価します。

グループワークのワークシートも含めて総合評価します。

< 参考図書 >

・神木哲男監修『神戸学検定公式テキスト神戸学〔改訂版〕』神戸新聞総合出版センター、2012年。

・神戸外国人慮留置研究会編『神戸と居留地 多文化共生都市の原像』神戸新聞総合出版センター、2005年。

・高木應光著『神戸 スポーツはじめ物語』神戸新聞総合出版センター、2006年。

・板倉史明編著『神戸と映画』神戸新聞総合出版センター、2019年。

その他、参考文献・ウェブサイトは授業中に随時指示し

ます。

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

神戸のイメージ

授業の目的、進め方や注意事項、課題レポートについて確認する。導入として、都市のイメージ形成や地域ブランドの考え方について学び、神戸のイメージや魅力について考える。

第2回 地域の多様性と神戸

地域の概念、地域を学ぶ意義、地域の多様性や地域文化を継承また創造することの重要性について理解し、神戸の自然と9つの行政区を有する神戸市の成り立ちについて学ぶ。

第3～4回 人口減少と神戸

都市の概念や日本の都市化の大きな流れを掴み、戦後の急速な都市化また過疎化の現状について、また日本の人口の推移と将来推計から人口減少社会の現状と課題を確認し、神戸市の地区別状況を把握する。

第5回 震災と神戸

阪神・淡路大震災が神戸に与えた被害を確認し、震災時の映像や定点観測の画像を通して、復興のプロセスと地域コミュニティの重要性について理解を深める。

第6回 港都・神戸の歴史

古代から近世まで

港都・神戸のはじまりは、平清盛によって改修された「大和田泊」。海上交通の要となった「大和田泊」は中世には「兵庫津」と称されて国際港としても栄え、近世に港湾都市として繁栄する流れを掴む。

第7回 港都・神戸の歴史

神戸開港と外国人居留地

港都・神戸の新たな展開が1868年の神戸開港である。開港とともに開設された外国人居留地と雑居地の特徴を理解し、明治・大正を通して急速に発展した神戸港の歴史を学ぶ。

第8回 ハイカラ神戸の起源

居留地と雑居地が創り出した「ハイカラ神戸」の起源を探り、スイーツやパン、ラムネなど、外国人がもたらした新たな食文化、旧居留地や北野地区に現存する洋風の近代建築について学ぶ。

第9回 神戸のスポーツと六甲山

六甲山は日本のゴルフ発祥の地、新開地は初のマラソン競技の出発点として知られている。近代スポーツの発信基地となった神戸のスポーツの歴史を紐解き、その後の六甲山開発についても学ぶ。

第10回 新開地と神戸の映画文化

湊川の付け替えによって生まれた新開地は、キネトスコープによる映画がはじめて上映された地とされる。神戸の映画文化について学び、新開地、元町通、三宮といった神戸の中心的な繁華街の発展についても理解を深める。

第11回 ファッションと神戸

戦後の神戸の主要産業を概観した上で、「ファッション都市・神戸」について、ポートアイランドと六甲アイランドを舞台とした、その後の展開について学ぶ。

第12回 デザインと神戸

ユネスコの創造都市ネットワークにおいて、神戸はアジアで、日本ではじめてデザイン都市に認定されている。その拠点である「デザイン・クリエイティブセンター神戸」（愛称：KIITO）の活動や市の取組みについて学ぶ。

第13・14回 神戸の地域特性

課題の調査レポートをもとに、少人数でのグループワークを行う。神戸市の各行政区の歴史、産業、文化等に関する調査内容を共有し、地域課題について意見交換する。その内容をワークシートに整理し、グループ発表を行い、神戸の地域特性について理解を深める。

第15回 神戸のこれから

都心・三宮、東遊園地の再整備、ウォーターフロントの活性化や各地区のリノベーション等、神戸市が進めている事業について学び、新たな神戸文化の創造について考える。

2022年度 前期

2.0単位

地域学入門A（神戸学入門）

谷口 義子

< 授業の方法 >

講義（対面授業）

< 授業の目的 >

この科目は、全学DPに示す「豊かな人間性や社会性を涵養するための広い教養を身につけ、幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができるようになることとともに、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができるようになる」ことを目指す。共通教育科目の「リベラルアーツ科目群・地域学分野」に属しており、授業のテーマは、大学が立地する神戸の街の歴史、文化、市民生活等を学ぶことである。

地域で社会・経済活動を行うにあたっては、その地域に関する知識や情報が必要不可欠である。加えて、地域に関する知識や情報の獲得には、そのバックボーンである歴史や地域の成り立ちについての理解が重要である。この授業では、主として神戸の都市変遷に関わる歴史的背景を学び、神戸の現在を理解し、未来のまちづくりを考える土台とする。

この科目の担当者は、15年以上にわたって神戸市広報および兵庫県広報の企画・制作に携わっており、実務経験の豊富な教員である。加えて、神戸および兵庫県の地域学に関する書籍の執筆実績が豊富である。時には過去の具体例を挙げて、神戸の近代史や都市の成り立ちをわかりやすく解説する。

<到達目標>

地域学とは何かについて理解し、自らと関わりのある地域に対して理解・関心を持つことができる。(知識)

神戸の現在とその発展過程についての知識をもとに、広い視野から神戸のまちづくりや都市のあり方について考えることができる。(知識)

新聞などのメディアから地域の情報を収集し、得た情報を整理・分析して総合的に地域の課題を発見・理解することができる。(態度・習慣)

授業で学んだ内容を基本情報として、200?800字程度の要約文を作成することができる。(技能)

<授業のキーワード>

神戸 港 摂津と播磨 西洋・東洋の文化 観光

<授業の進め方>

パワーポイントとレジュメによる講義を中心に進める。理解度を測るために授業中に質疑応答を行う。不明な点があれば、積極的に質問をしてください。

決まったテキストは用いない。必要に応じてレジュメや資料を配布する。

授業への理解度を確認するために、授業時間内に小テストを5回行う。

<履修するにあたって>

中学・高校で学んだ日本史の知識が授業理解に役立つ。予習として、中学・高校の日本史の教科書(特に近代以降)を再読していただきたい。また、神戸新聞や全国紙の地方版(神戸版など)を読む習慣をつけること。

授業を聞いて要点をメモし、ノートを作成すること。ノートは小テスト、期末テストのいずれも持ち込みできる。

履修人数および授業形態(オンデマンド授業の場合)によって授業計画を変更する場合がある。

<授業時間外に必要な学修>

授業ノートの整理と復習。毎回の授業でメモしたことを確認し、ノートを作成する。ノートは小テスト、期末テストのいずれも持ち込み可能。(目安として各回1?2時間)

授業の中で、神戸の文化や歴史の理解に役立つ参考図書を紹介する。事後学習として読んで理解を深めてほしい。(目安として各回1?2時間)

<提出課題など>

遠隔授業の場合は、期末試験の代わりに期末レポート(2000字以上)の提出を求める。

小テスト、期末試験、期末レポートのいずれも、解答例と総合評価を示してフィードバックする。

<成績評価方法・基準>

小テスト50%(要約文としての完成度、授業が理解できているかを評価)、期末試験50%(授業内容について設問する。解答は記述式)

遠隔授業の場合は、期末試験の代わりに期末レポート50%(テーマの選定、資料の利用、テーマへの理解度、

論述などを評価。2000字以上)

<テキスト>

テキストの代わりに毎回、レジュメを配布する。

<参考図書>

授業中に適宜紹介する

<授業計画>

第1回 ガイダンス

本講義のねらい、地域学とは何かを説明するとともに、神戸市の現状について解説する。また、導入として、神戸の都市イメージについて考えたい。

第2回 神戸の地形と地理

地形や地理が地域の形成にどのような影響を及ぼすのか。神戸市の自然環境や風土について学ぶ。

第3回 摂津と播磨

神戸の成り立ちを歴史的な観点からとらえる。律令国の摂津と播磨からなる神戸の地域性を理解しよう。

第4回 須磨の文学風景

なぜ須磨が「源氏物語」や「平家物語」の文学作品の舞台となったのか。須磨の文学風景について考えてみよう。

第5回 秀吉を癒した

有馬温泉

日本三古泉の一つに数えられる有馬温泉。その歴史をたどり、有馬温泉が愛された理由を考え、江戸時代の温泉観光の姿を学ぶ。

第6回 幕末・維新期の神戸

幕末の開国・開港によって神戸は大きな変化を遂げる。神戸開港の経緯と開港場の形成、近代都市への発展過程を理解する。

第7回 西洋・東洋の文化

神戸には旧居留地があり、南京町(チャイナタウン)と隣接している。神戸における西洋・東洋の文化移入とその発展について見ていく。

第8回 みなと神戸

神戸港の自然条件、特徴、機能、規模などについて学ぶ。また、現在進んでいる国際コンテナ戦略港湾の取り組みについて理解する。

第9回 神戸の農漁業

北区・西区では、どのような農産物を生産しているのだろうか。神戸の一次産業について学び、農漁業の未来展望を考える。

第10回 災害と復興の歴史

阪神大洪水・神戸大空襲・阪神淡路大震災など、神戸市を襲った自然災害・戦災の歴史を振り返り、災害復興の歩みを学ぶ。

第11回 訪れたくなる

都市の魅力

メリケンパークや異人館街、旧居留地、六甲山などの観光資源のなりたちを学び、観光都市としての魅力づくりを考える。

第12回 「都市山」としての
六甲山

神戸の大きな特徴に「山と海が近い」ことが挙げられる。
神戸の都市発展と六甲山の関わりについて考えてみよう。

第13回 神戸とスポーツ

居留地を窓口として近代スポーツが移入した神戸。日本初の公式ゴルフ場やマラソン大会の開催など、近代スポーツの足跡をたどる。

第14回 ハーバーランドと

H A T神戸

神戸市の大規模再開発地区であるハーバーランドとH A T神戸を事例に、再開発の意義やその成果、課題などに目を向けたい。

第15回 本講義のまとめ

これまでの授業を振り返りながら、神戸の街の変遷やイメージについて再考したい。

2022年度 前期

2.0単位

地域学入門B (兵庫の自然地理)

澤田 佳宏、先山 徹

< 授業の方法 >

講義

原則として対面形式で行う

講師連絡先

澤田 佳宏 y_sawada@ge.kobegakuin.ac.jp

先山 徹 geosaki01@ge.kobegakuin.ac.jp

< 授業の目的 >

この科目は全学DPのうち「 共通教育等を通じて、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養している 」および「 幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる 」の2項目に関連するものである。

地域を理解するためには、人文科学・社会科学・自然科学の各領域からの多様なアプローチが必要であり、この科目では、主に、植生学・生態学・地球科学などの自然科学の視点から地域の自然環境を理解することを目指す。授業では、兵庫県内各地の自然環境の成り立ち、文化との関連、自然環境保全上の課題などを学ぶ。これらを通して、地域の自然環境・生物・地形や地質に関心を持って学ぶ習慣を身につけることと、自然環境を保全し活用することの意義を理解することを目的とする。

< 到達目標 >

1. 地域の自然とそれに根ざした人の営みについて、関心をもつ姿勢を見につける。
2. 生態学・地球科学の視点から、地域の景観を読み解

くことができる。

3. 現代の地域社会が抱える自然環境に関わる問題について広い視野で考えることができる。

< 授業のキーワード >

地域資源、自然、地球科学、生態学、植生学

< 授業の進め方 >

講義を中心に授業を進めます。

授業の終わりにコメントカード・質問カードを記入し、次の回の冒頭でコメントカードの共有や質問への回答を行います。

第1回から第5回までを澤田が担当し、第6回から第15回までを先山が担当します。

< 履修するにあたって >

質問等がある場合は遠慮なくメールをしてください

講師連絡先

澤田 佳宏 y_sawada@ge.kobegakuin.ac.jp

先山 徹 geosaki01@ge.kobegakuin.ac.jp

< 授業時間外に必要な学修 >

予習復習課題が出された場合はこれに取り組む(60分程度)

特に課題が出されていない回は、復習として授業内容を振り返り、講義で示された生態系・地形・地質のうち興味のある項目を掘り下げて調べる(60分程度)

このほか、授業中に紹介した文献を読む、各地の自然史系の博物館を訪ねる、自然史系の博物館が主催するセミナーや行事に参加する、身近な野生生物や岩石鉱物を観察するなど、教養を育むことに日常的に取り組む。

< 提出課題など >

レポート課題は授業の中で発表する。

< 成績評価方法・基準 >

レポート(80%)とその他の課題点(20%)で総合的に評価する。レポート以外の課題点には、授業終了時のコメントシートの記述内容、授業中に伝達する予復習課題、簡単なフィールドワーク課題などを評価対象とする。レポートの評価基準は、地域の自然環境やそれに根ざした文化について理解できているかどうか、それらを論理的に記述できているかどうか、地域の自然について信頼できる情報源にアクセスして調べるスキルが身につけているか、を基準に採点する。

< テキスト >

テキストは用いない。授業は配布されるレジュメや資料を用いて進める。

< 参考図書 >

各回の内容に関する参考文献は授業中に紹介する。

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション（澤田）

地域の自然環境を調べる方法を紹介する。

地形図、植生図、地質図、空中写真などの種類と活用法、文献検索の方法、絵図、古写真、市町村史などの活用法、自然史系博物館の紹介など。

第2回 北摂・淡路の炭焼きと里山林の景観（澤田）

川西市黒川地区の「菊炭」生産とクヌギ・コナラが主体となる里山林の関係について紹介する。また、淡路島上灘地区で、昭和中期の炭焼きが盛んだった当時の植生景観を検討する。

第3回 但馬のスキー場がまもる草原植生（澤田）

多雪地帯である但馬地方には多くのスキー場がある。このうち神鍋山のスキー場は草原生生物の重要な生息地となっている。神鍋山のスキー場に草原の生き物が残った理由を述べる。

第4回 淡路島のため池の自然と文化（澤田）

淡路島は日本でもっともため池の多い地域である。この地域にため池が密集する理由について述べ、ため池の自然環境とその現状、およびため池の自然に根ざした生活文化について紹介する。

第5回 瀬戸内海のめぐみ：スーパーマーケットでできる自然観察（澤田）

瀬戸内海の環境と、その恵みとしての海産物の現状を整理し、生物多様性の供給サービスと持続的な利用について考える。

第6回 兵庫の地形と瀬戸内海（先山）

日本列島や瀬戸内海がどのようにしてでき、その中で兵庫の大地はどのようにして作り出されてきたか、その概観を示す。

第7回 六甲山地が阪神間にもたらしためぐみ（先山）

神戸を中心に阪神間に見られる文化の要因には、六甲山地の存在が大きい。水車産業や御影石、レジャー産業など、六甲山地に見られる文化や人の暮らしの背景となった六甲山地の地形と地質について述べる。

第8回 丹波と淡路の恐竜（先山）

淡路と丹波で見つかった恐竜や白亜紀の動物について、その学術的意義と、それを活用する地域づくりについて紹介する

第9回 石の宝殿と竜山石（先山）

古墳時代から現代まで続けられている高砂市の採石場とその石材利用について述べる

第10回 千種たたらと赤穂の塩田（先山）

千種川・揖保川・市川の上流の中国山地で行われた「たたら製鉄」と「鉄穴（かんな）流し」について紹介し、それによって生じた地形や下流への影響について述べる。

第11回 ミズバショウと蛇紋岩の大屋高原（先山）

日本列島のミズバショウ自生地南西端に位置する大屋高原。なぜそこにミズバショウが残ったのかを蛇紋岩の成り立ちとともに解説する。

第12回 なぜ山陰海岸のカニは美味しいのか（先山）

関西のカニ文化を創り出した日本海のスワイガニ。おいしいカニが得られる理由となった、日本海の成り立ちと地形を説明し、日本海沿岸の風土と恵について述べる。

第13回 但馬牛・神戸牛を育てた但馬の地形（先山） 神戸牛の素牛となる但馬牛がなぜ但馬で誕生したのか？

かつての火山活動が作り出した但馬の地形と暮らしについて説明する。

第14回 豊岡盆地とコウノトリ（先山）

豊岡盆地 玄武洞とコウノトリ、カバン産業、地震災害と水害が作り出した街並みに触れ、それぞれの関わりを示す

第15回 地形・地質の保護と活用（先山）

ジオパークや日本遺産など、地質・地形を保護し活用する活動を紹介しながら授業をふりかえり、まとめとする。

第30回

2022年度 前期

2.0単位

地域学入門B（兵庫の自然地理）

廣田 晴行

< 授業の方法 >

対面授業（75分は「講義」、15分はレポート作成の「演習」）

< 授業の目的 >

共通教育科目は、共通教育センターカリキュラムポリシーに示す、学生がその資質や才能を活かし将来を現実のものにしていくため、従来の生産性や効率だけの評価ではなく、新しい価値の創造、社会変革の原動力となるための基盤づくりを目指すものである。

地域学入門B（KPCキャンパス開講）は、リベラルアーツ領域地域学分野に属し、大学での専門的な学びを地域社会の活性化に結びつける科目の一つである。

兵庫県に関して自然環境を切口に系統的な地域理解を推し進める。さらに、地域環境から学部専門科目を学ぶ糸口をつかむと共に、基礎的な教養を涵養し学部を越えた幅広い分野の学びで、多角的に見る力と考える力を養うことが目的である。

本授業では、自然科学的な側面から自然地理学および環境科学の基礎理解の上に、世界の中の日本、日本の中の兵庫県の自然地理と環境についての学びを求めたい。

この授業を通して、受講者自身がどのような分野に対して興味を持つのかを考え、その分野への橋渡しとなることを期待している。

大学での学習は、受身的に講義を聞くことではなく、講義による基礎知識を基盤に自らの考えをまとめ、他者と討論や協働を行い、自身の考えや結論を発信することが重要であることを自覚して受講することを望む。

なお、この授業の担当者は、国・公立中学校の理科の

教員を経て管理職を長年務めた後、大学で教員研修を行っていた実務経験のある教員である。

自然教育の系統性を重視し、大学の専門課程の基礎となる基礎教育、並びに実践教育を意図した授業科目である。

<到達目標>

(1)地域自然環境について科学的側面からの知識・理解を行い、自身の属する学部専門科目との関連性を見だし、今後の研究の素地とする。

(2)地域自然環境の基礎となる自然地理学、環境科学について理解する。

(3)グローバルな視点から、世界の中の日本、日本の中の兵庫県の自然地理と環境というアプローチで理解する。

(4)既習事項を基に、地域の発展と自然環境の保全の調和を考え、実践する態度や力を身につけ、他者に対して発信することができる。

<授業のキーワード>

兵庫県、自然科学、自然地理学、地域環境科学、防災

<授業の進め方>

毎回、75分で基礎的知識理解のために資料を用いた講義を行い、残り15分で自分の考えをまとめるレポート(300字)を課す。

普段の授業においても、意見を求めるので、ノートはきっちりと取ること。

授業内容を覚えるのではなく、自身の考えを築き上げることを意識して授業を受けること。

<履修するにあたって>

本地域学入門Bを理解する上で、幅広い考え方を養う必要があるため地域環境科学のみの知識・理解では不十分である。

地理、物理、化学、生物、地学などの基礎的知識は必須であるため、中学校・高校の教科書などもよく復習しておくこと。

演習を授業に取り入れて行うため、課題提出とレポート作成は必須であることを十分に理解した上で受講すること。

<授業時間外に必要な学修>

講義内容の復習、整理のために授業終了後にノートを読み直すほか、不足事項については自身で調べて加筆すること。

講義において、興味を持った学習項目については、図書館等で専門書を見て深く調べ学習をすると共に、一般書などで幅広く学習することも重要である。

<提出課題など>

授業回毎に課題やレポートを提出してもらいます。

<成績評価方法・基準>

毎時の課題プリントとテストで評価する。

なお、課題プリントは100点満点で評価し、回数分の合計を1000点満点に換算する。テストも1000点満点で、合計2000点を1000点に換算する。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

プロローグ(授業の受け方、成績のつけ方)&お互いを
知ろう!(自己紹介と自己PRの違い)

第2回 地域学と自然地理学1

地域学とまとめ方(作文と小論文の違い)

第3回 地域学と自然地理学2

自然地理学とは

第4回 地域学と自然地理学3

兵庫県の概要

第5回 地域学と自然地理学4

兵庫県の地形

第6回 地域学と自然地理学5

兵庫県の土壌

第7回 地域学と自然地理学6

兵庫県の植生

第8回 地域学と自然地理学7

兵庫県の気候

第9回 地域学と自然地理学8

兵庫県の水文学

第10回 地域学と自然地理学9

兵庫県の温泉

第11回 地域学と自然地理学10

西宮市の宮水

第12回 地域学と自然災害1

地域学から見た阪神淡路大震災

第13回 地域学と自然災害2

地域学から見た水害・土砂災害

第14回 地域学と人間活動1

地域学から見た防災

第15回 地域学と人間活動2

地域学から見た地球温暖化

2022年度 前期

2.0単位

地域学入門C (現代観光論)

竹内 利江

<授業の方法>

「講義」

<授業の目的>

この科目は、全学DPIに示す、他者や異文化に対する理解と、獲得した知識や技能を社会に役立てることを目指す。観光は、「平和へのパスポート」と言われ、国際的、文化的な交流を促進するとともに、人々の健康で豊かな生活に貢献している。また国内観光が横ばい状態の中、訪日外国人旅行者の増大は地域経済活性化の切り札ともなってきた。授業を通して、観光の歴史や人々の観光行動、観光産業や観光庁の政策といった観光学の基礎を学び、現代社会における観光の役割と現代観光の特徴を理解す

ることを目的とする。観光に関する幅広い知識を身につけるとともに、アフターコロナ時代を見据え、近年の旅行市場の動向についても理解を深めていく。

なお、この科目の担当者は観光産業に従事した実務経験のある教員である。従って、実務的な視点を踏まえて、深い学びへつないでいきたい。

<到達目標>

・観光の歴史、観光産業、観光政策といった観光学の基礎知識を修得する。

・現代社会における観光の役割と現代観光の特徴を説明することができる。

・観光資源の現状と課題について調査し、課題の解決に向けて自ら意見を述べるができる。

<授業のキーワード>

観光史 観光行動 観光統計 観光産業 観光政策

<授業の進め方>

・講義を中心に進めます。

・毎回、講義内容に関するコメントを提出してもらいます。

アンケートを求める場合もあり、それらの内容は必要に応じて共有します。

<履修するにあたって>

・テキストの購入費用がかかります。

・レジュメと参考資料は、必要に応じて配布します。

<授業時間外に必要な学修>

・授業の予習・復習で毎回2時間程度。提示したテキストの章は授業前に必ず読んでおくこと。

・レポートの作成に10時間程度。可能なかぎり現地視察を行うこと。

・日頃から興味を持った観光地や観光スポットに関する情報を収集し、その魅力や課題について考

えてみてください。

<提出課題など>

・関心のある観光資源に関する調査レポートを提出してもらいます。

初回の授業で調査内容について説明します。

<成績評価方法・基準>

・小テスト 60% 授業を通して学修してきた知識の理解を問います。授業内で実施。

・レポート 40% 内容の妥当性について評価します。

<テキスト>

竹内正人・竹内利江・山田浩之編著『入門観光学』ミネルヴァ書房、2018年（2800円税別）。

<参考図書>

・大橋昭一・橋本和也・遠藤英樹・神田孝治編『観光学ガイドブック』ナカニシヤ出版、2016年。

・溝尾義隆編著『観光学の基礎』原書房、2009年。

・林清編著『観光産業論』原書房、2015年。

その他、参考文献・ウェブサイトは授業中に指示します。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

現代社会と観光

ガイダンスのあと、観光とは何か、観光の定義、現代社会における観光の役割について考える。

第2回 観光の歴史

古代、中世、近世のそれぞれの時代の旅の特徴を掴み、世界一周旅行が登場する、欧米における近代までの観光の歴史を学ぶ。

第3回 観光の歴史

日本の観光史について、平安時代の貴族の熊野詣、江戸時代の伊勢参詣、そして日本においても鉄道の敷設とともに観光が大衆化するまでの歴史を学ぶ。（テキスト第1章）

第4回 観光対象と観光行動

人々を観光へと駆り立てるものは何か。観光対象にはどのようなものがあるのか。人気観光地、観光スポットを取り上げ、身近な体験も踏まえて観光者の心理や行動について考える。（テキスト第2章）

第5回 観光産業と観光統計

観光は非常に幅広い産業と関わっている。国際基準による観光産業の定義や観光特有商品を学び、観光庁や日本政府観光局が実施する観光統計について理解する。（テキスト第3章）

第6回 旅行産業

旅行産業の特質、旅行会社の業務、分類、市場規模といった旅行産業の基礎を学び、情報化の進展やインバウンドの拡大に伴う旅行業界の動向について理解を深める。（テキスト第4章）

第7回 宿泊産業

旅館業法による営業形態の分類、市場規模や経営方式など、宿泊産業の基礎を学び、近年におけるホテル・旅館業界の動向について学ぶ。（テキスト第5章）

第8・9回 運輸産業

交通サービスの特性や市場構造など、観光に関わる運輸産業の基礎を学び、特に観光GDPの高い航空会社の経営戦略やLCCについて、また、観光列車など、鉄道会社の観光への取組みについても理解する。（テキスト第6章）

第9・10回 レジャー・文化産業

遊園地、テーマパーク、博物館や美術館、水族館や動物園、スポーツ施設などのサービスは観光特有商品に含まれている。レジャー施設・文化施設全体の動向を掴み、特にテーマパークと博物館・美術館の、それぞれの事業特性、市場規模や事業展開について学ぶ。（テキスト第7章、第8章）

第11～13回 日本の観光政策と旅行市場の動向

戦後日本の観光の動きを学び、2003年の観光立国宣言にはじまる、近年日本の観光政策の流れを掴む。また『観光白書』等で、世界の観光、訪日旅行、国内旅行等の観光市場の動向について理解を深める。（テキスト第10章）

)

第14・15回 地域発・新たな観光の創造

観光まちづくりと観光ボランティアガイドが活躍する地域観光の動向について学ぶとともに、エコツーリズム、グリーンツーリズム、コンテンツツーリズム、スポーツツーリズムなど、新たな観光の動きを確認し、多様な観光資源の課題や活用について考える。(テキスト第12章他)

2022年度 前期

2.0単位

地域コミュニティ入門 (ポ)

飛田 敦子

< 授業の方法 >

授業の方法について

2022年度は現時点(2022年1月現在)では対面方式の授業を予定していますが、コロナ禍の感染状況によってはオンデマンド方式に変更になる可能性があります。その場合はこちらのシラバスでも内容の変更を行います。

< 授業の目的 >

少子高齢化、人口減少、税収減、非正規雇用の増加、格差の拡大など、現代社会は様々な課題を抱えています。行政や企業だけでは、それらの課題すべてを解決するのは難しい時代となってきました。そこで注目されているのが、NPOや地域コミュニティといった新たな機能です。高齢者、子ども、まちづくりなど、その分野は多岐にわたり、様々な事例が構築されています。また、それらの主体(地域コミュニティ、行政、企業など)がともに手を取り合って行動する「協働(きょうどう)」も、なくてはならない手法となってきました。

2020年春以降、新型コロナウイルスの影響で、対面して多様な人間関係を構築するのが難しい状況が続いています。リアルな交流の機会が激減する中で、高齢者の認知および身体機能の低下、産後うつを抱える親の増加など、自粛や孤立による新たな社会課題も浮かび上がってきています。しかし一方で、「感染症による命のリスク」と「孤立による命のリスク」のバランスに苦慮しながらも、少しでも現状を打破しようとする挑戦も各地で生まれています。地域コミュニティの役割を再考するためにも、これらコロナ禍における取組事例も授業内で多数紹介します。

本授業は、双方向性を大切にしています。皆さんの授業における感想や質問を取り入れ、学生同士が学び合えるような手法を取り入れます。(これは、全学PDにある「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとること

ができる」という到達目標に合致するものです)。

また、様々な分野で活躍する実践者の方にもゲストスピーカーとしてご登壇いただき、現場での様々なチャレンジに触れながら、地域コミュニティの実態や役割、またその可能性について共に考えたいと思います。

担当教員はNPOや地域コミュニティをフィールドにした仕事に従事しており、「実務経験のある教員」です。

< 到達目標 >

地域コミュニティの抱える現代的課題の理解、考える力の構築、コミュニケーション力(話す力・聴く力・調整する力)の向上

< 授業のキーワード >

地域コミュニティ、NPO、無縁社会、ソーシャル・キャピタル、協働、コロナ禍でのつながりづくり

< 授業の進め方 >

学生、講師、ゲストスピーカーが皆で一緒に創る授業です。90分授業の前半を講義、後半をグループディスカッションやゲストスピーカーとの質疑応答等の参加型形式で行います。講義を聞いたり、板書したりするだけでなく、他人と議論することに重点を置き、「人と学び、人から学ぶ」授業を目指します。そのため、受身ではなく積極的な参加態度を求めます。

< 履修するにあたって >

ゲストスピーカーのご都合等で授業内容が前後・変更する場合があります。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業時間外にも積極的に調べ、考え、学ぶ姿勢を奨励します。

< 成績評価方法・基準 >

毎回のコミュニケーションシート45%、中間レポート15%、期末試験40% 対面授業の場合

< 授業計画 >

第1回 4/8 ガイダンス

講義全体説明、オリエンテーション

第2回 4/15 なぜ今、地域コミュニティなのか?

地域コミュニティが注目される理由? 社会の変化?

第3回 4/22 なぜ今、地域コミュニティなのか?

地域コミュニティが注目される理由? 家族の変化?

第4回 4/29 事例紹介 障がい者と地域コミュニティ

障がい者をとりまく環境と地域コミュニティ

ゲストスピーカー

第5回 5/6 事例紹介 外国人と地域コミュニティ

外国人をとりまく環境と地域コミュニティ

ゲストスピーカー

第6回 5/13 事例紹介 若者と地域コミュニティ

若者をとりまく環境と地域コミュニティ

ゲストスピーカー

第7回 5/20 事例紹介 まちあそびと地域コミュニテ

イ
 ”まちを楽しむ”アプローチと地域コミュニティ
 ゲストスピーカー
 第8回 5/27 事例紹介 地域組織と地域コミュニティ
 地域組織による地域づくり ゲストスピーカー
 第9回 6/3 事例紹介 中間支援と地域コミュニティ
 中間支援（NPOをサポートするNPO）と地域コミュニティ
 第10回 6/10 企業と地域コミュニティ
 企業の持続可能性と地域コミュニティ ゲストスピー
 ーカー
 第11回 6/17 行政と地域コミュニティ
 行政によるアプローチと地域コミュニティ ゲスト
 スピーカー
 第12回 6/24 多様な主体による”協働”の可能性
 地域団体、NPO、行政、企業などがともに取り組む協働
 の事例とその可能性
 第13回 7/1 グループワーク
 私たち大学生が地域コミュニティでできること 企画書
 作成
 第14回 7/8 グループワーク
 私たち大学生が地域コミュニティでできること 企画書
 作成
 第15回 7/15 発表、まとめ
 グループで作成した企画書の発表と授業のまとめ

 2022年度 前期

1.0単位

地域連携インターンシップ (ポ)

前田 光子

< 授業の方法 >

実技

< 授業の目的 >

本科目は、共通教育センターのDPに示すとおり、知識・
 技能を活用して社会と積極的に交わり、新しい価値を創
 造することを目指す。

[一般目標 (G10)]

将来、安全で楽しい社会を築いてゆける人材となるため
 に、地域や社会の多大な情報の中から自分の個性に合っ
 た事項を選択し、参加し、その活動を客観的に捉え、次
 へのステップのためにフィードバックをする、といった
 一連のPDCAサイクルを習得する。(P:Plan, D:Do, C:Ch
 eck, A:Act)

本学共通教育センターが標榜する以下の到達目標4点全
 てを網羅するものである。(1)文化・社会・自然に関
 する広く豊かな知識を備え、それを社会に役立てること
 ができる。(2)学修した知識・技能を活用して、人との
 円滑な交流を行ない、自立した生活を送ることができる。
 (3)高い倫理観・責任感を備えた社会人として行

動することができる。(4)自立的な学習基盤を備え、
 生涯学び続けていくことができる。

【主題】

大学生として知的な生活を送るためには、座学以外に、
 自発的な行動として、どの程度他者への関与ができるか
 という点も、大きく関わってくる。本講ではこの点で何
 かのアクションを起こしたいがどうしたらよいかと考
 えている学生を対象に、情報提供や相談などのサポートを
 行っている。インターンシップという名のとおり、実際
 に参加・行動することが評価の対象となる。主に大学連
 携事業、DMAT研修、神戸市民夏季防災大学、市民救命士
 講習、消防団活動、各種講演会などへの参画である。単
 位認定となる参加回数(チップ)の基本は10チップとす
 る。

この科目は、学外でのインターンシップを主とし、実践
 的教育から構成される授業科目である。

< 到達目標 >

[到達目標 (SB0s)]

参加した連携プログラムの趣旨やどのような人が参加
 しているかに興味を持ち、日頃から地域の行事や体験学
 習・公開講座に関心を持つことができる。(知識・態度
)

地域連携に参画して、地域や大学の問題点を挙げるこ
 とができる。(知識)

自分がどのように活動したか、どのように貢献できた
 かを、客観的に評価し、表現できる。(技能・態度)

活動の位置づけや意味するところを、第三者に説明で
 きる。(知識・技能)

連携事業の多様なプログラムや各種講演会への参画を
 通して、新たに企画をたてる際の手順を説明できる。(
 知識・技能)

< 授業のキーワード >

情報収集、活動、報告、チップ数

< 授業の進め方 >

・本講座は毎週定時に教室に集合して行う座学ではない。
 自分で企画し、スタッフと相談、実行、最後にまとめて
 皆に報告の形式をとる。

・初回講義時(KPCにて4月9日、KACにて4月16日)にガ
 イダンスをおこなう。その後は事前に提出した事業参加
 申告書に基づき、個々に活動する。期末に開催される活
 動報告会(7月9日予定)に参加し、その内容を報告し討議
 する。

・提示のプログラムは、期間中に追加されることがある。
 ・学生からのプログラム持込みは、事前に相談し、認定
 の可否とチップ数を確認すること。

< 履修するにあたって >

詳細は初回講義時のガイダンスにて説明するが、概ね次
 のとおり。

1. ポーアイ4大学連携事業 ポーアイ大学連携事業として取り組む事業活動に参加。
2. 神戸市民夏季防災大学 7?10月開催への事業参加で、実行委員参加は2チップ。
3. 市民救命士講習 高校生や一般市民対象の救命士講習は1回2チップ。
4. 消防団活動 学生消防団活動は前後期とも事業参加10回で認定する。
5. DMAT事業 年間10ヵ月の事業展開で1回8時間の事業活動で1回2チップ。
6. 各大学の関連事業として認定する事業。

7. 新聞・自治体や各方面の機関から得られた情報に基づいて、学生から積極的にプログラムが持込まれることを奨励する。

オフィスアワーなど

窓口：ポーアイ4大学連携推進センター 4u-renkei@j.kobegakuin.ac.jp

担当教員： maeda@pharm.kobegakuin.ac.jp

質問などがある場合は、メール本文に、大学名・学部学科・氏名・授業名を記載し、質問事項を記入すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

常日頃から周囲に目を向けること。何か不都合な点はないか、どうしたらもっと良くなるか、自分にできることは何かなど、観察し考える習慣をつけるよう努力すること。学生からのプログラム持ち込みを奨励する。また、活動ごとに、日時や内容等の記録を残すことを習慣づけること。

< 提出課題など >

事業参加申告書、参加報告書

< 成績評価方法・基準 >

【評価方法】単位認定となる参加回数（チップ）の基本は10チップとする。

【評価基準】参加態度50%、事業貢献度30%、プレゼンテーション20%

< テキスト >

なし

< 参考図書 >

なし

< 授業計画 >

第1 ガイダンス（KPC）

（ポートアイランドキャンパスにて）

参加・活動可能なイベントの探し方・計画書の作成方法
・相談や報告の方法を学ぶ

第2 ガイダンス（KAC）

（有瀬キャンパスにて）

参加・活動可能なイベントの探し方・計画書の作成方法
・相談や報告の方法を学ぶ

第3 ポーアイ4大学連携事業

ポーアイ大学連携事業として取り組む事業活動に参加

第4 市民救命士講習

救急インストラクターとして指導

高校生や一般市民対象の救命士講習は1回2チップ

第5 市民救命士講習会

市民救命士講習の受講

第6 ポーアイ・セーフティタウン・コミュニティ安全安心なまちづくりを目指して、地域社会と積極的に関わる

第7回 減災スコップ活動

防災減災を目指して、「備えた」まちにするために、地域社会と積極的に関わる

第8回 DMAT

DMAT研修への運営補助ボランティアとして参加
1回2チップ

第9回 禁煙キャンパス支援

キャンパス内のみならず、ポートアイランド島内の美化とマナーのレベルアップをはかる

第10回 講演会参加

公開講座(大学や各地域で開催される講演会)の聴講

第11回 大学関連事業

大学関連事業への参加

第12回 地域イベント

「リレー・フォー・ライフ・ジャパン神戸」などのイベントへの参加

第13回 地域イベント

神戸エイズフェスタへの参加

第14回 活動報告会

最終週に活動内容について発表し、質疑応答する

第15回 まとめ

新聞や各方面の機関から得られた情報に基づいて、学生から積極的にプログラムが持込まれることを奨励する

第16回

2022年度 後期

1.0単位

地域連携インターンシップ (ポ)

前田 光子

< 授業の方法 >

実技

< 授業の目的 >

本科目は、共通教育センターのDPに示すとおり、知識・技能を活用して社会と積極的に交わり、新しい価値を創造することを目指す。

[一般目標 (GIO)]

将来、安全で楽しい社会を築いてゆける人材となるために、地域や社会の多大な情報の中から自分の個性に合った事項を選択し、参加し、その活動を客観的に捉え、次

へのステップのためにフィードバックをする、といった一連のPDCAサイクルを習得する。(P:Plan, D:Do, C:Check, A:Act)

本学共通教育センターが標榜する以下の到達目標4点全てを網羅するものである。(1)文化・社会・自然に関する広く豊かな知識を備え、それを社会に役立てることができる。(2)学修した知識・技能を活用して、人との円滑な交流を行ない、自立した生活を送ることができる。(3)高い倫理観・責任感を備えた社会人として行動することができる。(4)自立的な学習基盤を備え、生涯学び続けていくことができる。

【主題】

大学生として知的な生活を送るためには、座学以外に、自発的な行動として、どの程度他者への関与ができるかという点も、大きく関わってくる。本講ではこの点で何かのアクションを起こしたいがどうしたらよいかと考えている学生を対象に、情報提供や相談などのサポートを行っている。インターンシップという名のとおり、実際に参加・行動することが評価の対象となる。主に大学連携事業、DMAT研修、神戸市民夏季防災大学、市民救命士講習、消防団活動、各種講演会などへの参画である。単位認定となる参加回数(チップ)の基本は10チップとする。

この科目は、学外でのインターンシップを主とし、実践的教育から構成される授業科目である。

<到達目標>

[到達目標(SBOs)]

参加した連携プログラムの趣旨やどのような人が参加しているかに興味を持ち、日頃から地域の行事や体験学習・公開講座に関心を持つことができる。(知識・態度)

地域連携に参画して、地域や大学の問題点を挙げることができる。(知識)

自分がどのように活動したか、どのように貢献できたかを、客観的に評価し、表現できる。(技能・態度)

活動の位置づけや意味するところを、第三者に説明できる。(知識・技能)

連携事業の多様なプログラムや各種講演会への参画を通して、新たに企画をたてる際の手順を説明できる。(知識・技能)

<授業のキーワード>

情報収集、活動、報告、チップ数

<授業の進め方>

・本講座は毎週定時に教室に集合して行う座学ではない。自分で企画し、スタッフと相談、実行、最後にまとめて皆に報告の形式をとる。

・初回講義時(KPCにて9月24日、KACにて10月1日)にガ

イダンスをおこなう。その後は事前に提出した事業参加申告書に基づき、個々に活動する。期末に開催される活動報告会(1月7日予定)に参加し、その内容を報告し討議する。

・提示のプログラムは、期間中に追加されることがある。
・学生からのプログラム持込みは、事前に相談し、認定の可否とチップ数を確認すること。

<履修するにあたって>

詳細は初回講義時のガイダンスにて説明するが、概ね次のとおり。

1. ポーアイ4大学連携事業 ポーアイ大学連携事業として取り組む事業活動に参加。

2. 神戸市民夏季防災大学 7?10月開催への事業参加で、実行委員参加は2チップ。

3. 市民救命士講習 高校生や一般市民対象の救命士講習は1回2チップ。

4. 消防団活動 学生消防団活動は前後期とも事業参加10回で認定する。

5. DMAT事業 年間10ヵ月の事業展開で1回8時間の事業活動で1回2チップ。

6. 各大学の関連事業として認定する事業。

7. 新聞・自治体や各方面の機関から得られた情報に基づいて、学生から積極的にプログラムが持込まれることを奨励する。

オフィスアワーなど

窓口: ポーアイ4大学連携推進センター 4u-renkei@j.kobegakuin.ac.jp

担当教員: maeda@pharm.kobegakuin.ac.jp

質問などがある場合は、メール本文に、大学名・学部学科・氏名・授業名を記載し、質問事項を記入すること。

<授業時間外に必要な学修>

常日頃から周囲に目を向けること。何か不都合な点はないか、どうしたらもっと良くなるか、自分にできることは何かなど、観察し考える習慣をつけるよう努力すること。学生からのプログラム持込みを奨励する。また、活動ごとに、日時や内容等の記録を残すことを習慣づけること。

<提出課題など>

事業参加申告書、参加報告書

<成績評価方法・基準>

【評価方法】単位認定となる参加回数(チップ)の基本は10チップとする。

【評価基準】参加態度50%、事業貢献度30%、プレゼンテーション20%

<テキスト>

なし

<参考図書>

なし

<授業計画>

第1 ガイダンス(KPC)

(ポートアイランドキャンパスにて)

参加・活動可能なイベントの探し方・計画書の作成方法
・相談や報告の方法を学ぶ

第2 ガイダンス (KAC)

(有瀬キャンパスにて)

参加・活動可能なイベントの探し方・計画書の作成方法
・相談や報告の方法を学ぶ

第3 ポーアイ4大学連携事業

ポーアイ大学連携事業として取り組む事業活動に参加

第4 市民救命士講習

救急インストラクターとして指導

高校生や一般市民対象の救命士講習は1回2チップ

第5 市民救命士講習会

市民救命士講習の受講

第6 ポーアイ・セーフティタウン・コミュニティ

安全安心なまちづくりを目指して、地域社会と積極的に
関わる

第7回 減災ス Copp 活動

防災減災を目指して、「備えた」まちにするために、地
域社会と積極的に関わる

第8回 DMAT

DMAT研修への運営補助ボランティアとして参加
1回2チップ

第9回 禁煙キャンパス支援

キャンパス内のみならず、ポートアイランド島内の美化
とマナーのレベルアップをはかる

第10回 講演会参加

公開講座(大学や各地域で開催される講演会)の聴講

第11回 大学関連事業

大学関連事業への参加

第12回 地域イベント

神戸マラソンや、地域のお祭りなどのイベントに、ボラ
ンティアとして参加

第13回 ひょうごメモリアルウォーク

1.17ひょうごメモリアルウォークへの参加

第14回 活動報告会

最終週に活動内容について発表し、質疑応答する

第15回 まとめ

新聞や各方面の機関から得られた情報に基づいて、学生
から積極的にプログラムが持込まれることを奨励する

第16回

2022年度 前期

1.0単位

中級韓国語 A 二

小西 敏夫

<授業の方法>

対面授業(講義・演習)

<授業の目的>

初級課程で学んだ基礎文法と語彙力をさらに深化させ、
中級レベルに必要な文法事項と表現を学び、文章の正確
な読解力と表現力を養うことを目的とする。なお、この
科目では、全学のDPに揚げられている「自分の意見を
口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解すること
で、良好なコミュニケーションをとることができる」よ
うになることを目指す。

<到達目標>

- 1.相談や根拠・推測・判断の表現、願望や依頼・やりも
らいの表現、禁止や婉曲表現など多様な文表表現を身に
つけ、使うことができる。
- 2.様々な接続形や連体形、特殊な活用をする用言などを
身につけ、使うことができる。
- 3.各文法事項と表現に対する理解を深めると共に定着さ
せ、文章の読解・表現やコミュニケーションに活かすこ
とができる。

<授業のキーワード>

読解力、表現力、コミュニケーション能力

<授業の進め方>

授業は読み書きを中心にテキストに沿って行われ、日常
会話に必要な語彙と表現を学ぶ。

毎回の授業では、各課の新しい文法事項や表現、関連語
彙の習得と定着を促す。

さらに、活用練習と句型練習を通して、身近な事柄を表
現できる作文能力とコミュニケーション能力の向上を図
る。

<履修するにあたって>

予めテキストの「韓国語の発音規則(付録3)」を讀ん
で、韓国語の発音の変化を理解しておくこと。

<授業時間外に必要な学修>

原則毎回の授業の冒頭に小テストを行うので、必ず新出
語彙と新出表現の復習を1時間以上してから授業に参加
すること。

<提出課題など>

毎回の授業で、その回の授業内容に関連した課題を課す。
筆記の課題については、次回の授業で提出しなければな
らない。提出された筆記の課題に対しては教員が採点を
施し、必要に応じて講評を加えて、課題の提出された次
の回の授業で返却する。

口頭の課題については、次回の授業までにこれを練習し、
次回の授業でそれに対する検査を受ける。教員はその場

でこれに採点を施し、必要に応じて講評を加える。

<成績評価方法・基準>

筆記または口頭の課題に対する評価20%・授業に参加する態度に対する評価20%、定期試験の結果に対する評価60%の割合で成績を評価する。

出席10回以上の者の成績はS・A・B・C・D,出席10回未満の者は「/」。

最終的な成績は中央値補正法を応用して補正を行ない、算出する。

<テキスト>

李昌圭 『韓国語を学ぼう(中級)』 朝日出版社 2007年 2300円+税

<参考図書>

『韓日辞典』小学館

<授業計画>

第1回 注文に関する表現

第1課： 学習目標と新出語彙・表現を確認し、本文の読解と朗読をする。

第2回 提案と勧誘、理由の表現

文法と表現を理解し、用例文と文型練習を通して理解を深め、活用練習で習得の程度を確認する。

第3回 意志と推量・予告、命令の表現

文法と表現を理解し、用例文と文型練習を通して理解を深め、活用練習で理解の程度を確認する。

第4回 電話に関する表現

第2課： 学習目標と新出語彙・表現を確認し、本文の読解と朗読をする。

第5回 母音脱落活用と理由の表現

文法と表現を理解し、用例文と文型練習を通して理解を深め、活用練習で理解の程度を確認する。

第6回 電話番号の読み方と否定文

文法と表現を理解し、用例文と文型練習を通して理解を深め、活用練習で理解の程度を確認する。

第7回 趣味に関する表現

第3課： 学習目標と新出語彙・表現を確認し、本文の読解と朗読をする。

第8回 連体形の表現

文法と表現を理解し、用例文と文型練習を通して理解を深め、活用練習で理解の程度を確認する。

第9回 仮定形と補助動詞の表現

文法と表現を理解し、用例文と文型練習を通して理解を深め、活用練習で理解の程度を確認する。

第10回 道を探る表現

第4課： 学習目標を確認し、新出語彙の発音練習と本文の読解・朗読をする。

第11回 話し手の予定や意図、助言や勧誘の表現

文法と表現を理解し、用例文と文型練習を通して理解を深め、活用練習で理解の程度を確認する。

第12回 理由や説明、意志や約束の表現

文法と表現を理解し、用例文と文型練習を通して理解を深め、活用練習で理解の程度を確認する。

第13回 病気や天気に関する表現

第5課： 学習目標を確認し、新出語彙の発音練習と本文の読解・朗読をする。

第14回 口、人、不規則活用、前置きと禁止や可能の表現
文法と表現を理解し、用例文と文型練習を通して理解を深め、活用練習で理解の程度を確認する。

第15回 まとめ

総復習

2022年度 前期

1.0単位

中級韓国語 B 力(検定)

任 哉玩

<授業の方法>

対面授業(講義・演習)

<授業の目的>

この科目では、全学のDPで掲げられてる「学びと知の探究を通じて、普遍的な学問体系の英知に触れる喜びを実感し、その過程で自己と他者の個性に気づき、互いの存在をこよなく尊重すること」を実践し、教育目標である自主的で個性豊かな良識ある社会人の育成を目指す。それを目標にし「共通教育等を通じて、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養して、専門分野に高い関心を持ち、専門領域の課題を考察し、解決するための知識や技能を身につけている」・「幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができ、自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」・「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる」ようになることを目指す。

ハングル能力検定協会の主催する検定試験の過去問を元に作成された教材を使い、ハングル能力検定試験4級に合格できるだけの韓国語能力を養成することを目的とする。また、日常的な場面で使われる基本的な韓国・朝鮮語を理解し、それらを用いて表現できることを目的とする。

<到達目標>

ハングル能力検定協会の4級レベルの目安に掲げられている次の4項目を主な到達目標とする。

1. 比較的使用頻度の高い約1,070語の単語や文型からなる文を理解することができる。
2. 決まり文句を用いて様々な場面であいさつやあいづち・質問ができ、事実を伝え合うことができる。また、

レストランでの注文や簡単な買い物をする際の依頼や簡単な誘いなどを行うことができる。

3. 簡単な日記や手紙、メールなどの短い文を読み、何について述べられたものなのかをつかむことができる。

4. 自分で辞書を引き、頻繁に用いられる単語の組み合わせ(連語)についても一定の知識を持ちあわせている。

< 授業のキーワード >

ハングル能力検定試験、ハン検、4級

< 授業の進め方 >

ハングル検定試験の過去問を元に作成された教材を使い、筆記問題対策と聞き取り問題対策を次のように授業を進める。

1. 聞き取り問題、筆記問題それぞれの出題類型の内容を分析したポイントと問題例(類題)について学習。

2. 4級出題の文法(助詞・語尾・慣用表現)を学習。

3. 毎回学習した内容の確認のために模擬試験問題を解く。そうすることによって実際の試験に慣れていく。

4. 聞き取り模擬試験台本をもって教材付属のCDを聞きながら聞き取り模擬試験問題を解く。

5. 毎回授業初めに4級範囲の単語小テストを行う。

< 履修するにあたって >

・履修するにあたっては1年次配当の韓国語科?を履修して単位を取得したのと同等程度の韓国語?を有していることが必要である。

・この科目の履修者は6月5日(日)に行なわれる第57回「ハングル」能力検定試験を受けなければならない。授業への出席条件を満たした上で検定試験に合格すれば、合格した級により規定の評点が与えられる。検定試験で級を取得できなかったり何らかの事情で検定試験を受けることができなかった場合は、定期試験を受けることにより規定の評点が与えられる。

・「韓国語検定対策」は a と b を一括して履修しなければならない。

< 授業時間外に必要な学修 >

・筆記問題対策・リスニング問題対策ともに、1時間程度の予習・復習が必須。

・筆記問題対策では、教材の「合格ポイント資料」を手書きして熟知し、模擬試験問題の語彙や文の意味を調べた上で授業に臨むこと。

・聞き取り問題対策では、教材付属のCDを使い、4級検定試験に出題される連語リスト・あいさつのことば、聞き取り模擬試験台本の語彙の意味調べなど事前に予習した上で授業に臨むこと。

授業後に1時間程度の復習をすることが重要。音声を聞きながら音読する練習を何度も繰り返して正しく発音できるように練習すること。

< 提出課題など >

予習・復習の状況や授業で課題に取り組む姿勢は記録され、定期試験を受けた人に対して評点C・Dを判断する際の資料となる。提出された課題は採点を施し、次の授

業で返却する。

< 成績評価方法・基準 >

単位を取得するためには a・b 共に10回以上の出席が必要。a・bのどちらかでも出席が10回に満たない場合は、a・bの単位を共に与えない。

6月の検定試験で4級以上に合格すれば評点Sを与える。

6月の検定試験で級を取得できなかった人は、定期試験を受けなければならない。定期試験を受けた場合の評点は相対評価によるものとし、おおむね上位から30%をA、30%をB、20~40%をC、20~0%をDとする。定期試験の難易度は「ハングル」能力検定試験4級相当とする。

< テキスト >

李昌圭著『ハングル能力検定試験4級直前模試』 白帝社 2018年 2200円+税

李昌圭著『ハングル能力検定試験3級直前模試』 白帝社 2018年 2600円+税

< 参考図書 >

白峰子『韓国語文法辞典』三修社 2006年

油谷 幸利他『小学館 韓日辞典』 小学館 2018年

< 授業計画 >

第1回 4級 筆記問題対策(1)

/ 聞き取り問題対策(1)

1. 第3章 筆記問題の出題類型(1)

2. 第1章 4. 文の内容一致選択問題

第2回 4級 筆記問題対策(2)

/ 聞き取り問題対策(2)

1. 第3章 筆記問題の出題類型(2)

2. 第1章 5. 対話の内容把握問題

第3回 4級筆記問題対策(3)

/ 聞き取り問題対策(3)

1. 第3章 筆記問題の出題類型(3)

2. 第2章 第3回聞き取り模擬試験(1)

第4回 4級筆記問題対策(4)

/ 聞き取り問題対策(4)

1. 第3章 4級出題文法リスト(1)

2. 第2章 第3回聞き取り模擬試験(2)

第5回 4級筆記問題対策(5)

/ 聞き取り問題対策(5)

1. 第3章 4級出題文法リスト(2)

2. 第2章 第4回聞き取り模擬試験(1)

第6回 4級筆記問題対策(6)

/ 聞き取り問題対策(6)

1. 第3章 4級出題文法リスト(3)

2. 第2章 第4回聞き取り模擬試験(2)

第7回 4級筆記問題対策(7)

/ 聞き取り問題対策(7)

1. 第4章 第4回筆記模擬試験

2. 第2章 第5回聞き取り模擬試験(1)

第8回 4級筆記問題対策(8)

/聞き取り問題対策(8)

1.第4章 第5回筆記模擬試験

2.第2章 第5回聞き取り模擬試験(2)

第9回 第54回4級試験の振り返り

第10回 3級筆記問題対策(1)/聞き取り問題対策(1)

1.第3章 1.正しい発音選択問題(1)

2.第1章 1.イラスト問題(1)

第11回 3級筆記問題対策(2)/聞き取り問題対策(2)

1.第3章 1.正しい発音選択問題(2)

2.第1章 1.イラスト問題(2)

第12回 3級筆記問題対策(3)/聞き取り問題対策(3)

1.第3章 2.文の空所補充問題

2.第1章 2.単語説明問題(1)

第13回 3級筆記問題対策(4)/聞き取り問題対策(4)

1.第3章 3.文の空所補充問題(1)

2.第1章 2.単語説明問題(2)

第14回 3級筆記問題対策(5)/聞き取り問題対策(5)

1.第3章 3.文の空所補充問題(2)

2.第1章 3.対話の応答文選択問題(1)

第15回 3級筆記問題対策(6)/聞き取り問題対策(6)

1.第3章 4.置き換え表現選択問題

2.第1章 3.対話の応答文選択問題(2)

2022年度 前期

1.0単位

中級韓国語 B キ

文 春琴

<授業の方法>

対面授業(講義・演習)

<授業の目的>

初級課程で学んだ発音の変化と語彙力をさらに深化させ、中級レベルでの文法事項と表現を学び、正確な発音と豊かなコミュニケーション運用力を養うことを目的とする。なお、この科目では、全学のDPに揚げられている「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになることを目指す。

<到達目標>

1.相談や根拠・推測・判断の表現、願望や依頼・やりもらいの表現、禁止や婉曲表現など多様な表現のディクテーションができる。

2.シャドウイングを通して様々な接続形や連体形、特殊な活用をする用言を正確に発音できる。

3.日常における身の回りの一通りのことを、関連表現を使い述べるができる。

<授業のキーワード>

韓国語、中級、発音・会話

<授業の進め方>

授業は聞く・話すを中心にテキストに沿って行なわれ、日常会話に必要な基本語彙と表現は書いて学ぶ。毎回の授業は、シャドウイングとディクテーションを通して正確な発音と聴解の力を高め、コミュニケーション能力の向上を図る。

<履修するにあたって>

予めテキストの「主要発音規則(付録4)」を読んで、韓国語の発音の変化を理解しておくこと。

<授業時間外に必要な学修>

原則毎回の授業ではディクテーションを行うので、必ずCDを使った予習と復習を1時間以上してから参加すること。

<提出課題など>

毎回の授業で、その回の授業内容に関連した課題を課す。筆記の課題については、次回の授業で提出しなければならない。提出された筆記の課題に対しては教員が採点を施し、必要に応じて講評を加えて、課題の提出された次の回の授業で返却する。

口頭の課題については、次回の授業までにこれを練習し、次回の授業でそれに対する検査を受ける。教員はその場でこれに採点を施し、必要に応じて講評を加える。

<成績評価方法・基準>

定期試験は行わない。筆記または口頭の課題に対する評価40%・授業に参加する態度に対する評価60%の割合で成績を評価する。

出席10回以上の者の成績はS・A・B・C・D,出席10回未満の者は「/」。

最終的な成績は中央値補正法を応用して補正を行ない、算出する。

<テキスト>

李昌圭 『韓国語をはじめよう(中級)』 朝日出版社
2015年 2400円+税

<参考図書>

『韓日辞典』小学館

<授業計画>

第1回 数詞の復習

第1課:漢字語の数詞、固有語の数詞、単位名詞、年月日と時間の表現を復習し、シャドウイングの後、ディクテーション及び和訳で習得の程度を確認する。

第2回 語尾の復習

第2課:丁寧形の作り方、過去形の作り方、その他主な文末表現を復習し、シャドウイングの後、ディクテーシ

ョン及び和訳で習得の程度を確認する。

第3回 助詞の復習

第3課：初級で学習している助詞とこれから出てくる助詞のシャドウイングの後、ディクテーション及び和訳で理解と習得の程度を確認する。

第4回 時間の前後、理由、原因、否定、意図や予定の意を表す

第4課：学習項目を確認し、「用例」と「表現」の和訳とシャドウイングの後、ディクテーション及び和訳で理解と習得の程度を確認する。

第5回 話し手や第三者の希望、判断の根拠、意志や計画を表す

第5課：学習項目を確認し、「用例」と「表現」の和訳とシャドウイングの後、ディクテーション及び和訳で理解と習得の程度を確認する。

第6回 脱落、ㄷ不規則活用、話し手の意志表明の意を表す

第6課：学習項目を確認し、「用例」と「表現」の和訳とシャドウイングの後、ディクテーション及び和訳で理解と習得の程度を確認する。

第7回 4課・5課・6課の復習

第7課：「文型練習」の和訳とシャドウイングの後、ディクテーション及び和訳で習得の程度を確認し、「復習問題」を完成させる。

第8回 動詞の連体形語尾、形容詞の連体形語尾、対比の意を表す

第8課：学習項目を確認し、「用例」と「表現」の和訳とシャドウイングの後、ディクテーション及び和訳で理解と習得の程度を確認する。

第9回 試す、与える、経験、途中、原因、理由、根拠の意を表す

第9課：学習項目を確認し、「用例」と「表現」の和訳とシャドウイングの後、ディクテーション及び和訳で理解と習得の程度を確認する。

第10回 時間の経過、計画の説明、意図や意向を表す

第10課：学習項目を確認し、「用例」と「表現」の和訳とシャドウイングの後、ディクテーション及び和訳で理解と習得の程度を確認する。

第11回 8課・9課・10課の復習

第11課：「文型練習」の和訳とシャドウイングの後、ディクテーション及び和訳で習得の程度を確認し、「復習問題」を完成させる。

第12回 ㄹ不規則活用、仮定などの条件を表す

第12課：学習項目を確認し、「用例」と「表現」の和訳とシャドウイングの後、ディクテーション及び和訳で理解と習得の程度を確認する。

第13回 動作・状態の平行、禁止や中止の依頼・指示を表す

第13課：学習項目を確認し、「用例」と「表現」の和

訳とシャドウイングの後、ディクテーション及び和訳で理解と習得の程度を確認する。

第14回 12課・13課の復習

第14課：「文型練習」の和訳とシャドウイングの後、ディクテーション及び和訳で習得の程度を確認し、「復習問題」を完成させる。

第15回 まとめ

総復習と確認テスト

2022年度 後期

1.0単位

中級韓国語 A 二

小西 敏夫

<授業の方法>

対面授業(講義・演習)

<授業の目的>

前期に引き続き、初級課程で学んだ基礎文法と語彙力をさらに深化させ、中級レベルで必要な文法事項と表現を学び、文章の正確な読解力と表現力を養うことを目的とする。なお、この科目では、全学のDPに揚げられている「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになることを目指す。

<到達目標>

1. 相談や根拠・推測・判断の表現、願望や依頼・やりもらひの表現、禁止や婉曲表現など多様な文表表現を身につけ、使うことができる。

2. 様々な接続形や連体形、特殊な活用をする用言などを身につけ、使うことができる。

3. 各文法事項と表現に対する理解を深めると共に定着させ、文章の読解・表現やコミュニケーションに活かすことができる。

<授業のキーワード>

読解力、表現力、コミュニケーション能力

<授業の進め方>

授業は読み書きを中心にテキストに沿って行われ、日常会話に必要な語彙と表現を学ぶ。毎回の授業では、各課の新しい文法事項や表現、関連語彙の習得と定着を促す。さらに、活用練習と文型練習を通して、身近な事柄を表現できる作文能力とコミュニケーション能力の向上を図る。

<履修するにあたって>

予めテキストの「韓国語の発音規則(付録3)」を読んで、韓国語の発音の変化を理解しておくこと。

<授業時間外に必要な学修>

原則毎回の授業の冒頭に小テストを行うので、必ず新出語彙と新出表現の復習を1時間以上してから授業に参加すること。

<提出課題など>

毎回の授業で、その回の授業内容に関連した課題を課す。筆記の課題については、次回の授業で提出しなければならない。提出された筆記の課題に対しては教員が採点を施し、必要に応じて講評を加えて、課題の提出された次の回の授業で返却する。

口頭の課題については、次回の授業までにこれを練習し、次回の授業でそれに対する検査を受ける。教員はその場でこれに採点を施し、必要に応じて講評を加える。

<成績評価方法・基準>

授業に参加する態度に対する評価40%・筆記または口頭の課題に対する評価20%・定期試験の結果に対する評価40%の割合で成績を評価する。

出席10回以上の者の成績はS・A・B・C・D,出席10回未満の者は「/」。

最終的な成績は中央値補正法を応用して補正を行ない、算出する。

<テキスト>

李昌圭 『韓国語を学ぼう(中級)』 朝日出版社 2007年 2300円+税

<参考図書>

『韓日辞典』小学館

<授業計画>

- 第1回 前期の復習、休日の過ごし方に関する表現
前期学習内容のおさらいと第6課の学習目標と新出語彙・表現を確認し、本文の読解と朗読をする。
- 第2回 譲歩、同時進行、未了の表現
文法と表現を理解し、用例文と文型練習を通して理解を深め、活用練習と練習帳で習得の程度を確認する。
- 第3回 不規則活用
文法と表現を理解し、用例文と文型練習を通して理解を深め、活用練習と練習帳で習得の程度を確認する。
- 第4回 天気、季節に関する表現
第7課： 学習目標と新出語彙・表現を確認し、本文の読解と朗読をする。
- 第5回 推測や判断、感想の表現
文法と表現を理解し、用例文と文型練習を通して理解を深め、活用練習と練習帳で習得の程度を確認する。
- 第6回 引用・伝聞の表現
文法と表現を理解し、用例文と文型練習を通して理解を深め、活用練習と練習帳で習得の程度を確認する。
- 第7回 意志・意向の表現
文法と表現を理解し、用例文と文型練習を通して理解を深め、活用練習と練習帳で習得の程度を確認する。
- 第8回 韓国料理に関する表現
第8課： 学習目標と新出語彙・表現を確認し、本文の読解と朗読をする。
- 第9回 方法・可能、経験の有無の表現

文法と表現を理解し、用例文と文型練習を通して理解を深め、活用練習と練習帳で習得の程度を確認する。

第10回 不規則活用

文法と表現を理解し、用例文と文型練習を通して理解を深め、活用練習と練習帳で習得の程度を確認する。

第11回 話し手の願望や希望、意志の表現

文法と表現を理解し、用例文と文型練習を通して理解を深め、活用練習と練習帳で習得の程度を確認する。

第12回 買い物に関する表現

第9課： 学習目標と新出語彙・表現を確認し、本文の読解と朗読をする。

第13回 当然・義務の表現

文法と表現を理解し、用例文と文型練習を通して理解を深め、活用練習と練習帳で習得の程度を確認する。

第14回 禁止の理由や原因の表現、状態や結果の持続、許容の表現

文法と表現を理解し、用例文と文型練習を通して理解を深め、活用練習と練習帳で習得の程度を確認する。

第15回 まとめ

総復習

2022年度 後期

1.0単位

中級韓国語 B 力(検定)

任 哉玩

<授業の方法>

講義・演習

<授業の目的>

この科目では、全学のDPで掲げられてる「学びと知の探究を通じて、普遍的な学問体系の英知に触れる喜びを実感し、その過程で自己と他者の個性に気づき、互いの存在をこよなく尊重すること」を実践し、教育目標である自主的で個性豊かな良識ある社会人の育成を目指す。それを目標にし「共通教育等を通じて、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養して、専門分野に高い関心を持ち、専門領域の課題を考察し、解決するための知識や技能を身につけている」・「幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができ、自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」・「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立つことができる」ようになることを目指す。ハングル能力検定協会の主催する検定試験の過去問を元に作成された教材を使い、ハングル能力検定試験3級に合格できるだけの韓国語能力を養成することを目的とする。また、日常的な場面で使われる基本的な韓国・朝鮮

語を理解し、それらを用いて表現できることを目的とする。

<到達目標>

ハングル能力検定試験の3級レベルの目安に掲げられている次の4項目を主な到達目標とする。

1. 決まり文句以外の表現を用いてあいさつなどができ、丁寧な依頼や誘いはもちろん、指示・命令、依頼や誘いの受諾や拒否、許可の授受など様々な意図を大まかに表現することができる。
2. 私的で身近な話題ばかりではなく、親しみのある社会的出来事についても話題にできる。
3. 日記や手紙など比較的長い文やまとまりを持った文章を読んだり聞いたりして、その大意をつかむことができる。
4. 単語の範囲にとどまらず、連語など組合せとして用いられる表現や、使用頻度の高い慣用句なども理解し、使用することができる。

<授業のキーワード>

ハングル能力検定試験、ハン検、3級、TOPIK、韓国語能力試験中級

<授業の進め方>

ハングル検定試験の過去問を元に作成された教材を使い、筆記問題対策と聞き取り問題対策を次のように授業を進める。

1. 聞き取り問題、筆記問題それぞれの出題類型の内容を分析したポイントと問題例(類題)について学習。
2. 3級出題の文法(連結語尾・終結語尾・漢字語・助詞・慣用表現)を学習。
3. 毎回学習した内容の確認のために模擬試験問題を解く。そうすることによって実際の試験に慣れていく。
4. 聞き取り模擬試験台本をもって教材付属のCDを聞きながら聞き取り模擬試験問題を解く。
5. 毎回授業初めに3級範囲の単語小テストを行う。

なお、11月の検定試験終了後は、韓国政府が公認する世界共通基準の資格試験であるTOPIK(Test of Proficiency in Korean:韓国語能力試験)(中・上級)の過去問(のうち、中級レベルの問題)を演習する。

<履修するにあたって>

- ・履修するにあたっては1年次配当の韓国語科?を履修して単位を取得したのと同等程度の韓国語?を有していることが必要である。
- ・この科目の履修者は11月13日(日)に行なわれる第58回「ハングル」能力検定試験を受けなければならない。授業への出席条件を満たした上で検定試験に合格すれば、合格した級により規定の評点が与えられる。検定試験で級を取得できなかつたり何らかの事情で検定試験を受け

ることができなかった場合は、定期試験を受けることにより規定の評点が与えられる。

- ・「韓国語検定対策」は a と b を一括して履修しなければならない。

<授業時間外に必要な学修>

- ・筆記問題対策・リスニング問題対策ともに、1時間程度の予習・復習が必須。
 - ・筆記問題対策では、教材の「合格ポイント資料」を手書きして熟知し、模擬試験問題の語彙や文の意味を調べた上で授業に臨むこと。
 - ・聞き取り問題対策では、教材付属のCDを使い、3級検定試験に出題される連語リスト・あいさつのことば、聞き取り模擬試験台本の語彙の意味調べなど事前に予習した上で授業に臨むこと。
- 授業後に1時間程度の復習をすることが重要。音声を聞きながら音読する練習を何度も繰り返して正しく発音できるように練習すること。

<提出課題など>

予習・復習の状況や授業で課題に取り組む姿勢は記録され、定期試験を受けた人に対して評点C・Dを判断する際の資料となる。提出された課題は採点を施し、次の授業で返却する。

<成績評価方法・基準>

単位を取得するためにはa・b共に10回以上の出席が必要。a・bのどちらかでも出席が10回に満たない場合は、a・bの単位を共に与えない。

11月の検定試験で3級以上に合格すれば評点Sを与える。

11月の検定試験で級を取得できなかった人は、定期試験を受けなければならない。定期試験を受けた場合の評点は相対評価によるものとし、おおむね上位から30%をA、30%をB、20~40%をC、20~0%をDとする。定期試験の難易度は「ハングル」能力検定試験3級相当とする。またTOPIKの内容も含む。

<テキスト>

李昌圭著 『ハングル能力検定試験3級直前模試』 白帝社 2018年 2600円+税

<参考図書>

白峰子 『韓国語文法辞典』 三修社 2006年
油谷 幸利他 『小学館 韓日辞典』 小学館 2018年

<授業計画>

- 第1回 3級筆記問題対策(7)
/ 聞き取り問題対策(7)
1. 第3章 8. 文の内容把握問題
 2. 第2章 第3回聞き取り模擬試験(1)

第2回 3級筆記問題対策(8)	
/聞き取り問題対策(8)	
1.第3章 5.多義語選択問題(2)	
2.第1章 2.単語説明問題、資料3(2)	
第3回 3級筆記問題対策(9)	
/聞き取り問題対策(9)	
1.第3章 6.対話文の空所補充問題	
2.第1章 3.対話の応答文選択問題、資料3(3)	
第4回 3級筆記問題対策(10)	
/聞き取り問題対策(10)	
1.第3章 7.同音の漢字語選択問題	
2.第2章 第1回聞き取り模擬試験(1)	
第5回 3級筆記問題対策(11)	
/聞き取り問題対策(11)	
1.第4章 第1回筆記模擬試験	
2.第2章 第1回聞き取り模擬試験(2)	
第6回 3級筆記問題対策(12)	
/聞き取り問題対策(12)	
1.第4章 第2回筆記模擬試験	
2.第2章 第2回聞き取り模擬試験(1)	
第7回 3級筆記問題対策(13)	
/聞き取り問題対策(13)	
1.第4章 第3回筆記模擬試験	
2.第2章 第2回聞き取り模擬試験(2)	
第8回 第55回3級問題振り返り	
第9回 TOPIK 対策(1)	
第52回 TOPIK 過去問の模擬テストおよび解説(1)	
第10回 TOPIK 対策(2)	
第52回 TOPIK 過去問の模擬テストおよび解説(2)	
第11回 TOPIK 対策(3)	
第52回 TOPIK 過去問の模擬テストおよび解説(3)	
第12回 TOPIK 対策(4)	
第52回 TOPIK 過去問の模擬テストおよび解説(4)	
第13回 TOPIK 対策(5)	
第41回 TOPIK 過去問の模擬テストおよび解説(1)	
第14回 TOPIK 対策(6)	
第41回 TOPIK 過去問の模擬テストおよび解説(2)	
第15回 TOPIK 対策(7)	
第41回 TOPIK 過去問の模擬テストおよび解説(3)	

2022年度 後期

1.0単位

中級韓国語 B キ

文 春琴

<授業の方法>

対面授業(講義・演習)

<授業の目的>

前期に引き続き、初級課程で学んだ発音の変化と語彙力をさらに深化させ、中級レベルでの文法事項と表現を学び、正確な発音と豊かなコミュニケーション運用力を養うことを目的とする。なお、この科目では、全学のDPに揚げられている「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」とようになることを目指す。

<到達目標>

1.相談や根拠・推測・判断の表現、願望や依頼・やりもらいの表現、禁止や婉曲表現など多様な表現のディクテーションができる。

2.シャドウイングを通して様々な接続形や連体形、特殊な活用をする用言を正確に発音できる。

3.日常における身の回りの一通りのことを、関連表現を使い述べることができる。

<授業のキーワード>

会話のシャドウイングとディクテーション、コミュニケーション能力

<授業の進め方>

授業は聞く・話すを中心にテキストに沿って行われ、日常会話に必要な基本語彙と表現は書いて学ぶ。

毎回の授業では、シャドウイングとディクテーションを通して正確な発音と聴解の力を高め、コミュニケーション能力の向上を図る。

<履修するにあたって>

予めテキストの「主要発音規則(付録4)」を読んで、韓国語の発音の変化を理解しておくこと。

<授業時間外に必要な学修>

原則毎回の授業ではディクテーションを行うので、必ずCDを使った予習と復習を1時間以上してから参加すること。

<提出課題など>

毎回の授業で、その回の授業内容に関連した課題を課す。筆記の課題については、次回の授業で提出しなければならない。提出された筆記の課題に対しては教員が採点を施し、必要に応じて講評を加えて、課題の提出された次の回の授業で返却する。

口頭の課題については、次回の授業までにこれを練習し、次回の授業でそれに対する検査を受ける。教員はその場でこれに採点を施し、必要に応じて講評を加える。

<成績評価方法・基準>

定期試験は行わない。筆記または口頭の課題に対する評価40%・授業に参加する態度に対する評価60%の割合で成績を評価する。

出席10回以上の者の成績はS・A・B・C・D,出席10回未満の者は「/」。

最終的な成績は中央値補正法を応用して補正を行ない、算出する。

<テキスト>

李昌圭 『韓国語をはじめよう(中級)』 朝日出版社
2015年 2400円+税

<参考図書>

『韓日辞典』小学館

<授業計画>

- 第1回 前期の復習、動詞語幹+状況や事実に対する話し手の推測や判断を表す
前期学習内容のおさらいと第15課の学習項目を確認し、「用例」と「表現」の和訳とシャドウイングの後、ディクテーション及び和訳で理解と習得の程度を確認する。
- 第2回 形容詞語幹+状況や事実に対する話し手の推測や判断を表す
第15課：学習項目を確認し、「用例」と「表現」の和訳とシャドウイングの後、ディクテーション及び和訳で理解と習得の程度を確認する。
- 第3回 前置きや状況説明、理由、逆接などの意を表す
第16課：学習項目を確認し、「用例」と「表現」の和訳とシャドウイングの後、ディクテーション及び和訳で理解と習得の程度を確認する。
- 第4回 人不規則活用、意図や意志の表明を表す
第16課：学習項目を確認し、「用例」と「表現」の和訳とシャドウイングの後、ディクテーション及び和訳で理解と習得の程度を確認する。
- 第5回 仮定や譲歩、許容や許可、禁止や制限の意を表す
第17課：学習項目を確認し、「用例」と「表現」の和訳とシャドウイングの後、ディクテーション及び和訳で理解と習得の程度を確認する。
- 第6回 15課・16課・17課の復習
第18課：「文型練習」の和訳とシャドウイングの後、ディクテーション及び和訳で習得の程度を確認し、「復習問題」を完成させる。
- 第7回 条件を満たす、確認や同意を求める、ある事実に対する説明や根拠を述べる
第19課：学習項目を確認し、「用例」と「表現」の和訳とシャドウイングの後、ディクテーション及び和訳で理解と習得の程度を確認する。
- 第8回 当然に必要な行為や条件の表現、状態の変化の表現
第20課：学習項目を確認し、「用例」と「表現」の和

訳とシャドウイングの後、ディクテーション及び和訳で理解と習得の程度を確認する。

第9回 不規則活用、決定や決心、約束の意を表す

第21課：学習項目を確認し、「用例」と「表現」の和訳とシャドウイングの後、ディクテーション及び和訳で理解と習得の程度を確認する。

第10回 19課・20課・21課の復習

第22課：「文型練習」の和訳とシャドウイングの後、ディクテーション及び和訳で習得の程度を確認し、「復習問題」を完成させる。

第11回 可能や不可能、能力の有無を表す

第23課：学習項目を確認し、「用例」と「表現」の和訳とシャドウイングの後、ディクテーション及び和訳で理解と習得の程度を確認する。

第12回 過去の経験の有無、ある行為や状態の途中変化を表す

第24課：学習項目を確認し、「用例」と「表現」の和訳とシャドウイングの後、ディクテーション及び和訳で理解と習得の程度を確認する。

第13回 伝聞、願望や希望、能力や可能、方法の理解を表す

第25課：学習項目を確認し、「用例」と「表現」の和訳とシャドウイングの後、ディクテーション及び和訳で理解と習得の程度を確認する。

第14回 23課・24課・25課の復習

「文型練習」の和訳とシャドウイングの後、ディクテーション及び和訳で習得の程度を確認し、「復習問題」を完成させる。

第15回 まとめ

総復習と確認テスト

2022年度 前期

1.0単位

中級中国語 A 力(検定)

池田 磨左文

<授業の方法>

講義・演習

<授業の目的>

共通教育科? に属する「中級中国語 A(検定)」では、同じく共通教育科? に属する「中級中国語 B(検定)」と共に、全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて、広い教養を? につけ、豊かな? 間性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活? してさまざまな問題を発? し、それを解決する? 策を導くことができる」ようになること・「? 分の意? を? 頭や? 書によって表現し、相? の意? を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること、そして「獲得した知識や技能を活? し、国内外において、価値観

や意? の異なるさまざまな? と議論し、学びを深め、協働して、社会に役? てることができる」ようになることを? 的とする。

? 本中国語検定協会の主催する検定試験の過去問を元に作成された教材を使い、中国語検定試験4級に合格できるだけの中国語? を養成することを? 指す。

<到達目標>

- 1.常? 語500?1000を? につけている。(知識)
- 2.? 分の? で中国語を発? し、読み取り、表現することができる。(態度・習慣)
- 3.平易な中国語を聴き取り、話すことができる。(技能)
- 4.常? 語による中国語単? の? 本語訳と? 本語の中国語訳ができる。(技能)
- 5.? 本中国語検定協会の実施する中国語検定試験4級に合格することができる。(技能)

<授業のキーワード>

中国語検定試験，準4級，4級，3級，シンクロ・リーディング，シャドウイング

<授業の進め方>

中国語検定試験の過去問を元に作成された教材を使い、筆記問題対策とリスニング問題対策とを? 行う。

1.筆記問題対策では、次のように授業を進める。

- (1)漢字で書かれた教材の単語・? や? 章をすべて発? ができ、意味も分かるようにしておく。(予習)
- (2)? テストを? ない、予習の状況を確認する。(授業)
- (3)ピンインで書かれた単語・? や? 章を、解説を聴きながら? 分で漢字に書き直し、知識の理解・定着を図る。(授業)
- (4)漢字で書かれた単語・? や? 章を発? し、漢字・発? ・意味の三者を結びつける。(授業・復習)

2.リスニング問題対策では、次のように授業を進める。

- (1)『精選中国語基本? 例集』を熟読しておく。(予習)
- (2)『精選中国語基本? 例集』の例? を語順整序または? ? 中訳の形で再現する? テストを? 行う。(授業)
- (3)リスニング問題を演習する。(授業)
- (4)漢字で書かれた? や? 章を解説を聴きながら発? し、漢字・発? ・意味の三者を結びつける。(授業)
- (5)漢字で書かれた? や? 章をシンクロ・リーディング(? 声を聴きながら? や? 章を? 読する)したり、シャドウイング(? 字を? ずに? 声を聴きながら、できるだけ正確に原? を再現する)し、? 声を通して中国語の定着を図る。(授業・復習)

<履修するにあたって>

- ・履修するにあたっては1年次配当の中国語科? を履修して単位を取得したのと同程度程度の中国語? を有していることが必要である。
- ・この科? の履修者は6?26?(?)に? なわれる第106回中国語検定試験を受けなければならない。授業への出席

条件を満たした上で検定試験に合格すれば、合格した級により規定の評点が与えられる。検定試験で級を取得できなかったり何らかの事情で検定試験を受けることができなかったりした場合は、定期試験を受けることにより規定の評点が与えられる。

・「中級中国語 (検定)」はAとBを? 括して履修しなければならない。

<授業時間外に必要な学修>

筆記問題対策・リスニング問題対策ともに、予習・復習をきちんと? 行うにはそれぞれ合わせて1時間程度の時間が必要である。

筆記問題対策では、問題の答えを選ぶだけでなく、全? を? 書きし、意味を調べ、発? できるようにした上で授業に臨まなければならない。予習が重要である。

リスニング問題対策では、復習が重要である。授業で扱われた? や? 章を先ず? 字を? ながら? 声に合わせて? 読し、次に? 字を? ずに? 声に合わせて発? する練習を何度も繰り返して、? や? 章を? 声と共に? 分のものにするよう努めること。

問題を解くのは? 分の実? を測り、弱点を? 出すためであり、学習がこれに? まってはならない。単に問題を解くだけではなく、? 字・意味・? 声を? 体のものとして捉えるよう? 分で訓練をしてほしい。

<提出課題など>

予習・復習の状況や授業で課題に取り組む姿勢は記録され、定期試験を受けた? に対して評点C・Dを判断する際の資料となる。提出された課題は採点を施し、次の授業で返却する。

<成績評価方法・基準>

・単位を取得するためにはA・B共に10回以上の出席が必要である。A・Bのどちらかでも出席が10回に満たない場合は、A・Bの単位を共に与えない。

・6? の検定試験で準4級に合格すれば評点Bを、4級以上に合格すれば評点Sを与える。

・6? の検定試験で級を取得できなかった? は、定期試験を受けなければならない。定期試験を受けた場合の評点はA・B・C・Dの何れかとする。

・6? の検定試験で準4級にだけ合格した? も定期試験を受けることができる。この場合、評点Bを保証し、さらに定期試験の結果が良好であればAを与える。

・定期試験の難易度は中国語検定試験4級相当とする。

<テキスト>

上野恵司 『精選中国語基本? 例集』 ? 帝社 2006年 2000円 + 税

他に中国語検定試験過去問を元に作成した教材を使う。OneDriveを通じて配布する。

<参考図書>

- 1.北京・商務印書館 ? 学館 『中? 辞典 第3版』 ? 学館 2016年 7500円 + 税
- 2.相原茂・? ? 知? ・? 沼市? 『Why?にこたえるはじ

めての中国語の? 法書 新訂版』

同学社 2016年 2500円 + 税

< 授業計画 >

第1回 中検4級

筆記問題対策1

1. 第96回4級筆記問題(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第96回4級筆記問題について理解し, 練習する。

第2回 中検4級

筆記問題対策2

1. 第95回4級筆記問題(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第95回4級筆記問題について理解し, 練習する。

第3回 中検4級

筆記問題対策3

1. 第94回4級筆記問題(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第94回4級筆記問題について理解し, 練習する。

第4回 中検4級

筆記問題対策4

1. 第93回4級筆記問題(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第93回4級筆記問題について理解し, 練習する。

第5回 中検4級

筆記問題対策5

1. 第92回4級筆記問題(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第92回4級筆記問題について理解し, 練習する。

第6回 中検4級

筆記問題対策6

1. 第91回4級筆記問題(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第91回4級筆記問題について理解し, 練習する。

第7回 中検4級

リスニング問題対策8

1. 『精選中国語基本? 例集』第13・14項? について? テストを? なう。

2. 第89回4級リスニング問題を解き, 練習する。

第8回 中検4級

リスニング問題対策9

1. 『精選中国語基本? 例集』第15・16項? について? テストを? なう。

2. 第88回4級リスニング問題を解き, 練習する。

第9回 中検4級

リスニング問題対策10

1. 『精選中国語基本? 例集』第17・18項? について? テストを? なう。

2. 第87回4級リスニング問題を解き, 練習する。

第10回 中検4級

リスニング問題対策11

1. 『精選中国語基本? 例集』第19・20項? について? テストを? なう。

2. 第86回4級リスニング問題を解き, 練習する。

第11回 中検3級

筆記問題対策1

1. 第96回3級筆記問題第1・2・3問(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第96回3級筆記問題第1・2・3問について理解し, 練習する。

第12回 中検3級

筆記問題対策2

1. 第96回3級筆記問題第4・5問(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第96回3級筆記問題第4・5問について理解し, 練習する。

第13回 中検3級

筆記問題対策3

1. 第95回3級筆記問題第1・2・3問(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第95回3級筆記問題第1・2・3問について理解し, 練習する。

第14回 中検3級

リスニング問題対策4

1. 『精選中国語基本? 例集』第27項目について? テストを? なう。

2. 第95回3級リスニング問題第2問を解き, 練習する。

第15回 中検3級

リスニング問題対策5

1. 『精選中国語基本? 例集』付について? テストを? なう。

2. 第94回3級リスニング問題第1問を解き, 練習する。

2022年度 前期

1.0単位

中級中国語 A タ(検定)

池田 磨左文

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

共通教育科? に属する「中級中国語 A(検定)」では, 同じく共通教育科? に属する「中級中国語 B(検定)」と共に, 全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて, 広い教養を? につけ, 豊かな? 感性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活? してさまざまな問題を発? し, それを解決する? 策を導くことができる」ようになること・「? 分の意? を? 頭や? 書によって表現し, 相? の意? を理解することで, 良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること, そして「獲得した知識や技能を活? し, 国内外において, 価値観

や意? の異なるさまざまな? と議論し、学びを深め、協働して、社会に役? てることができる」ようになることを? 的とする。

? 本中国語検定協会の主催する検定試験の過去問を元に作成された教材を使い、中国語検定試験4級に合格できるだけの中国語? を養成することを? 指す。

<到達目標>

- 1.常? 語500?1000を? につけている。(知識)
- 2.? 分の? で中国語を発? し、読み取り、表現することができる。(態度・習慣)
- 3.平易な中国語を聴き取り、話すことができる。(技能)
- 4.常? 語による中国語単? の? 本語訳と? 本語の中国語訳ができる。(技能)
- 5.? 本中国語検定協会の実施する中国語検定試験4級に合格することができる。(技能)

<授業のキーワード>

中国語検定試験，準4級，4級，3級，シンクロ・リーディング，シャドウイング

<授業の進め方>

中国語検定試験の過去問を元に作成された教材を使い、筆記問題対策とリスニング問題対策とを? 行う。

1.筆記問題対策では、次のように授業を進める。

- (1)漢字で書かれた教材の単語・? や? 章をすべて発? ができ、意味も分かるようにしておく。(予習)
- (2)? テストを? ない、予習の状況を確認する。(授業)
- (3)ピンインで書かれた単語・? や? 章を、解説を聴きながら? 分で漢字に書き直し、知識の理解・定着を図る。(授業)
- (4)漢字で書かれた単語・? や? 章を発? し、漢字・発? ・意味の三者を結びつける。(授業・復習)

2.リスニング問題対策では、次のように授業を進める。

- (1)『精選中国語基本? 例集』を熟読しておく。(予習)
- (2)『精選中国語基本? 例集』の例? を語順整序または? ? 中訳の形で再現する? テストを? 行う。(授業)
- (3)リスニング問題を演習する。(授業)
- (4)漢字で書かれた? や? 章を解説を聴きながら発? し、漢字・発? ・意味の三者を結びつける。(授業)
- (5)漢字で書かれた? や? 章をシンクロ・リーディング(? 声を聴きながら? や? 章を? 読する)したり、シャドウイング(? 字を? ずに? 声を聴きながら、できるだけ正確に原? を再現する)し、? 声を通して中国語の定着を図る。(授業・復習)

<履修するにあたって>

- ・履修するにあたっては1年次配当の中国語科? を履修して単位を取得したのと同程度程度の中国語? を有していることが必要である。
- ・この科? の履修者は6?26?(?)に? なる第106回中国語検定試験を受けなければならない。授業への出席

条件を満たした上で検定試験に合格すれば、合格した級により規定の評点が与えられる。検定試験で級を取得できなかったり何らかの事情で検定試験を受けることができなかったりした場合は、定期試験を受けることにより規定の評点が与えられる。

・「中級中国語 (検定)」はAとBを? 括して履修しなければならない。

<授業時間外に必要な学修>

筆記問題対策・リスニング問題対策ともに、予習・復習をきちんと? 行うにはそれぞれ合わせて1時間程度の時間が必要である。

筆記問題対策では、問題の答えを選ぶだけでなく、全? を? 書きし、意味を調べ、発? できるようにした上で授業に臨まなければならない。予習が重要である。

リスニング問題対策では、復習が重要である。授業で扱われた? や? 章を先ず? 字を? ながら? 声に合わせて? 読し、次に? 字を? ずに? 声に合わせて発? する練習を何度も繰り返して、? や? 章を? 声と共に? 分のものにするよう努めること。

問題を解くのは? 分の実? を測り、弱点を? 出すためであり、学習がこれに? まってはならない。単に問題を解くだけではなく、? 字・意味・? 声を? 体のものとして捉えるよう? 分で訓練をしてほしい。

<提出課題など>

予習・復習の状況や授業で課題に取り組む姿勢は記録され、定期試験を受けた? に対して評点C・Dを判断する際の資料となる。提出された課題は採点を施し、次の授業で返却する。

<成績評価方法・基準>

・単位を取得するためにはA・B共に10回以上の出席が必要である。A・Bのどちらかでも出席が10回に満たない場合は、A・Bの単位を共に与えない。

・6? の検定試験で準4級に合格すれば評点Bを、4級以上に合格すれば評点Sを与える。

・6? の検定試験で級を取得できなかった? は、定期試験を受けなければならない。定期試験を受けた場合の評点はA・B・C・Dの何れかとする。

・6? の検定試験で準4級にだけ合格した? も定期試験を受けることができる。この場合、評点Bを保証し、さらに定期試験の結果が良好であればAを与える。

・定期試験の難易度は中国語検定試験4級相当とする。

<テキスト>

上野恵司 『精選中国語基本? 例集』 ? 帝社 2006年 2000円 + 税

他に中国語検定試験過去問を元に作成した教材を使う。OneDriveを通じて配布する。

<参考図書>

- 1.北京・商務印書館 ? 学館 『中? 辞典 第3版』 ? 学館 2016年 7500円 + 税
- 2.相原茂・? ? 知? ・? 沼市? 『Why?にこたえるはじ

めての中国語の? 法書 新訂版』

同学社 2016年 2500円 + 税

< 授業計画 >

第1回 中検4級

筆記問題対策1

1. 第96回4級筆記問題(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第96回4級筆記問題について理解し, 練習する。

第2回 中検4級

筆記問題対策2

1. 第95回4級筆記問題(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第95回4級筆記問題について理解し, 練習する。

第3回 中検4級

筆記問題対策3

1. 第94回4級筆記問題(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第94回4級筆記問題について理解し, 練習する。

第4回 中検4級

筆記問題対策4

1. 第93回4級筆記問題(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第93回4級筆記問題について理解し, 練習する。

第5回 中検4級

筆記問題対策5

1. 第92回4級筆記問題(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第92回4級筆記問題について理解し, 練習する。

第6回 中検4級

筆記問題対策6

1. 第91回4級筆記問題(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第91回4級筆記問題について理解し, 練習する。

第7回 中検4級

リスニング問題対策8

1. 『精選中国語基本? 例集』第15・16項? について? テストを? なう。

2. 第89回4級リスニング問題を解き, 練習する。

第8回 中検4級

リスニング問題対策9

1. 『精選中国語基本? 例集』第17・18項? について? テストを? なう。

2. 第88回4級リスニング問題を解き, 練習する。

第9回 中検4級

リスニング問題対策10

1. 『精選中国語基本? 例集』第19・20項? について? テストを? なう。

2. 第87回4級リスニング問題を解き, 練習する。

第10回 中検4級

リスニング問題対策11

1. 『精選中国語基本? 例集』第21・22項? について? テストを? なう。

2. 第86回4級リスニング問題を解き, 練習する。

第11回 中検4級

リスニング問題対策12

1. 『精選中国語基本? 例集』第23・24項? について? テストを? なう。

2. 第85回4級リスニング問題を解き, 練習する。

第12回 中検3級

筆記問題対策1

1. 第96回3級筆記問題第1・2・3問(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第96回3級筆記問題第1・2・3問について理解し, 練習する。

第13回 中検3級

筆記問題対策2

1. 第96回3級筆記問題第4・5問(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第96回3級筆記問題第4・5問について理解し, 練習する。

第14回 中検3級

リスニング問題対策3

1. 『精選中国語基本? 例集』第27項? について? テストを? なう。

2. 第95回3級リスニング問題第1問を解き, 練習する。

第15回 中検3級

リスニング問題対策4

1. 『精選中国語基本? 例集』付について? テストを? なう。

2. 第95回3級リスニング問題第2問を解き, 練習する。

2022年度 前期

1.0単位

中級中国語 A ナ(読解)

池田 磨左文

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

この科? は, 全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて, 広い教養を? につけ, 豊かな? 間性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活? してさまざまな問題を発? し, それを解決する? 策を導くことができる」ようになること・「? 分の意? を? 頭や? 書によって表現し, 相? の意? を理解することで, 良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること, そして「獲得した知識や技能を活? し, 国内外において, 価値観や意? の異なるさまざまな? と議論し, 学びを深め, 協働して, 社会に役? てることことができる」ようになることを? 的とする。

具体的には次ができるようになることを指す。

1. 活の中で接する頻度の多い常語500?600の範囲で平易に書き換えられた読物を教材とする。常語が何度も現われるように設計された?章を読むことにより、常語・常?型に対して発音・意味・漢字など総合的な理解と記憶とを強化することができる。

2. 教材には?章全ての朗読が収められた?音声ファイルが附属している。これを聴きながら読むことにより、リスニング能力を向上させることができると共に、発話能力も向上させることができる。

3. 教材に取られた元の作品は?々の?近な?活を描いた掌編?説(ショートショート)である。これを読むことにより、1980年代から現在に?るまでの中国に暮らす?々の?活や中国社会に起こったさまざまな変化を読み取ることができる。

<到達目標>

1. 最も基礎的な常用語や常用文型に対する理解と記憶とを強化することができる。(知識)

2. 1980年代から現在に至るまでの中国に暮らす人々の生活や中国社会に起こったさまざまな変化を知ることができる。(知識)

3. 中国社会の中で暮らす人々の生活や中国社会に起こっているさまざまな変化に関心を向けることができる。(態度・習慣)

4. ピンインに頼らず、漢字だけの文章を音読することができる。(知識・技能)

5. HSK(漢語水平考試)3級に相当する中国語力を身につけることができる。(技能)

ちなみにHSKの公式サイトに拠れば、HSK3級の試験の程度は「生活・学習・仕事などの場面で基本的なコミュニケーションをとることができ、中国旅行の際にも大部分のことに対応できる」、語彙量の目安は「600語程度の基礎常用中国語及びそれに相応する文法知識」とされている。これを中国語検定試験に当てはめれば「準4級~4級」に相当する。

<授業のキーワード>

音読, HSK3級

<授業の進め方>

復習??読練習と?読テスト

1. 前回の授業で学習した?章を、?声を聴きながら数回?読する。(シンクロ・リーディング)

2. 漢字だけで打ち直された?章を材料に、指定された箇所を?読する。(??読テスト)

新しい内容の学習

1. 教員による説明を聴きながら?章の内容を理解する。

2. 教員または録音のあとについて?章を?読する。

<履修するにあたって>

履修するに当たっては1年次配当の中国語科?を履修して単位を取得したのと同程度の中国語?を有している

ことが必要。ただし、?度な中国語?は求めない。意味の解説や?読の指導は全て教員が?なう。すでに?につけている中国語?をさらに確かなものにしたいと思う?の履修を歓迎する。

<授業時間外に必要な学修>

・予習をしておけば授業での理解がさらに深まるだろうし、復習をすれば獲得した知識や技能をさらに固めることができる。役に?つ中国語を?につけたいと思うのであれば、予習・復習を?かすことはできない。少なくとも30分程度の時間を毎回の予習・復習それぞれに充ててほしい。

・教科書にはMP3で収録された?源が附されている。毎回の授業で「漢字だけで打ち直された?章を材料に、指定された箇所を?読する」?テストが?なわれるので、授業までに?読の練習を?分しておく必要がある。

<提出課題など>

毎回の授業で「漢字だけで打ち直された?章を材料に、指定された箇所を?読する」?テストを実施する。

<成績評価方法・基準>

・単位を取得するためには10回以上の出席が必要。

・毎回の授業で実施する?読テストの結果を20%、定期試験の結果を80%として成績を評価する。

・定期試験は全問マークシート?式で、全クラス統?試験として?なう。出題形式は「空所補充」とする。

<テキスト>

史迹『汉语分集阅读・500词』 华语教学出版社 2013年 2500円(輸?書)

このテキストは中国から直接輸?したものであるため、他と販売?法が異なり、書店では取り次がれません。第1回の授業時に教員が教室で直接販売しますので、代?2500円を?意しておいて下さい。なお、テキストの注釈等は全て英語です。

<参考図書>

1. 北京・商務印書館 小学館 『中日辞典 第3版』

小学館 2016年 7500円+税

2. 相原茂・石田知子・戸沼市子 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』

同学社 2016年 2500円+税

<授業計画>

第1回 ?、献你?束花：前半1

「?、献你?束花」前半の理解と音読。

第2回 ?、献你?束花：前半2

?、献你?束花：後半1

「?、献你?束花」前半の音読練習と音読テスト。

「?、献你?束花」後半の理解と音読。

第3回 ?、献你?束花：後半2

?、等待天鹅：前半1

「?、献你?束花」後半の音読練習と音読テスト。

「?、等待天鹅」前半の理解と音読。

第4回 ?、等待天鹅：前半2

?、等待天鹅：後半1
「?、等待天鹅」前半の音読練習と音読テスト。
「?、等待天鹅」後半の理解と音読。

第5回 ?、等待天鹅：後半2
三、? 中：前半1
「?、等待天鹅」後半の音読練習と音読テスト。
「三、? 中」前半の理解と音読。

第6回 三、? 中：前半2
三、? 中：後半1
「三、? 中」前半の音読練習と音読テスト。
「三、? 中」後半の理解と音読。

第7回 三、? 中：後半2
四、三枚硬币：前半1
「三、? 中」後半の音読練習と音読テスト。
「四、三枚硬币」前半の理解と音読。

第8回 四、三枚硬币：前半2
四、三枚硬币：後半1
「四、三枚硬币」前半の音読練習と音読テスト。
「四、三枚硬币」後半の理解と音読。

第9回 四、三枚硬币：後半2
五、你很漂亮：前半1
「四、三枚硬币」後半の音読練習と音読テスト。
「五、你很漂亮」前半の理解と音読。

第10回 五、你很漂亮：前半2
五、你很漂亮：後半1
「五、你很漂亮」前半の音読練習と音読テスト。
「五、你很漂亮」後半の理解と音読。

第11回 五、你很漂亮：後半2
六、照?：前半1
「五、你很漂亮」後半の音読練習と音読テスト。
「六、照?」前半の理解と音読。

第12回 六、照?：前半2
六、照?：後半1
「六、照?」前半の音読練習と音読テスト。
「六、照?」後半の理解と音読。

第13回 六、照?：後半2
七、洞房悄悄话：前半1
「六、照?」後半の音読練習と音読テスト。
「七、洞房悄悄话」前半の理解と音読。

第14回 七、洞房悄悄话：前半2
七、洞房悄悄话：後半1
「七、洞房悄悄话」前半の音読練習と音読テスト。
「七、洞房悄悄话」後半の理解と音読。

第15回 七、洞房悄悄话：後半2
「七、洞房悄悄话」後半の音読練習と音読テスト。

2022年度 前期
1.0単位
中級中国語 A 二（読解）【GC 優先・学籍番号奇数】
上田 なおみ

<授業の方法>

講義・演習

<授業の目的>

この科? は、全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて、広い教養を? につけ、豊かな? 問性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活? してさまざまな問題を発? し、それを解決する? 策を導くことができる」ようになること・「? 分の意? を? 頭や? 書によって表現し、相? の意? を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること、そして「獲得した知識や技能を活? し、国内外において、価値観や意? の異なるさまざまな? と議論し、学びを深め、協働して、社会に役? てることができる」ようになることを? 的とする。

具体的には次ができるようになることを? 指す。

- 1.? 活の中で接する頻度の? い常? 語500?600の範囲で平易に書き換えられた読物を教材とする。常? 語が何度も現われるように設計された? 章を読むことにより、常? 語・常? ? 型に対して発? ・意味・漢字など総合的な? から理解と記憶とを強化することができる。
- 2.教材には? 章全ての朗読が収められた? 声ファイルが附属している。これを聴きながら読むことにより、リスニング能? を向上させることができると共に、発話能? も向上させることができる。
- 3.教材に取られた元の作品は? 々の? 近な? 活を描いた掌編? 説(ショートショート)である。これを読むことによって、1980年代から現在に? るまでの中国に暮らす? 々の? 活や中国社会に起こったさまざまな変化を読み取ることができる。

<到達目標>

- 1.最も基礎的な常用語や常用文型に対する理解と記憶とを強化することができる。(知識)
- 2.1980年代から現在に至るまでの中国に暮らす人々の生活や中国社会に起こったさまざまな変化を知ることができる。(知識)
- 3.中国社会の中で暮らす人々の生活や中国社会に起こっているさまざま変化に関心を向けることができる。(態度・習慣)
- 4.ピンインに頼らず、漢字だけの文章を音読することができる。(知識・技能)
- 5.HSK(漢語水平考試)3級に相当する中国語力を身につけることができる。(技能)

ちなみにHSKの公式サイトに拠れば、HSK3級の試験の程度は「生活・学習・仕事などの場面で基本的なコミュニケーションをとることができ、中国旅行の際にも大部分のことに対応できる」、語彙量の目安は「600語程度の基礎常用中国語及びそれに相応する文法知識」とされている。これを中国語検定試験に当てはめれば「準4級～4級」に相当する。

<授業のキーワード>

音読, HSK3級

<授業の進め方>

復習?? 読練習と? 読テスト

1. 前回の授業で学習した? 章を, ? 声を聴きながら数回? 読する。(シンクロ・リーディング)

2. 漢字だけで打ち直された? 章を材料に, 指定された箇所を? 読する。(? 読テスト)

新しい内容の学習

1. 教員による説明を聴きながら? 章の内容を理解する。

2. 教員または録? のあとについて? 章を? 読する。

<履修するにあたって>

履修するに当たっては1年次配当の中国語科? を履修して単位を取得したのと同程度の中国語? を有していることが必要。ただし, ? 度な中国語? は求めない。意味の解説や? 読の指導は全て教員が? 行う。すでに? につけている中国語? をさらに確かなものにしたいと思う? の履修を歓迎する。

<授業時間外に必要な学修>

・予習をしておけば授業での理解がさらに深まるだろうし, 復習をすれば獲得した知識や技能をさらに固めることができる。役に? つ中国語を? につけたいと思うのであれば, 予習・復習を? 行うことはできない。少なくとも30分程度の時間を毎回の予習・復習それぞれに充ててほしい。

・教科書にはMP3で収録された? 源が附されている。毎回の授業で「漢字だけで打ち直された? 章を材料に, 指定された箇所を? 読する」? テストが? 行われるので, 授業までに? 読の練習を? 行うしておく必要がある。

<提出課題など>

毎回の授業で「漢字だけで打ち直された? 章を材料に, 指定された箇所を? 読する」? テストを実施する。

<成績評価方法・基準>

・単位を取得するためには10回以上の出席が必要。

・毎回の授業で実施する? 読テストの結果を20%, 定期試験の結果を80%として成績を評価する。

・定期試験は全問マークシート? 式で, 全クラス統? 試験として? 行う。出題形式は「空所補充」とする。

<テキスト>

史迹 『汉语分集阅读・500词』 华语教学出版社 2013年 2500円(輸? 書)

このテキストは中国から直接輸? したものであるため,

他と販売? 法が異なり, 書店では取り次がれません。第1回の授業時に教員が教室で直接販売しますので, 代? 2500円を? 意しておいて下さい。なお, テキストの注釈等は全て英語です。

<参考図書>

1. 北京・商務印書館 小学館 『中日辞典 第3版』 小学館 2016年 7500円+税

2. 相原茂・石田知子・戸沼市子 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』

同学社 2016年 2500円+税

<授業計画>

第1回 ?、献你? 束花：前半1

「?、献你? 束花」前半の理解と音読。

第2回 ?、献你? 束花：前半2

?、献你? 束花：後半1

「?、献你? 束花」前半の音読練習と音読テスト。

「?、献你? 束花」後半の理解と音読。

第3回 ?、献你? 束花：後半2

?、等待天鹅：前半1

「?、献你? 束花」後半の音読練習と音読テスト。

「?、等待天鹅」前半の理解と音読。

第4回 ?、等待天鹅：前半2

?、等待天鹅：後半1

「?、等待天鹅」前半の音読練習と音読テスト。

「?、等待天鹅」後半の理解と音読。

第5回 ?、等待天鹅：後半2

三、? 中：前半1

「?、等待天鹅」後半の音読練習と音読テスト。

「三、? 中」前半の理解と音読。

第6回 三、? 中：前半2

三、? 中：後半1

「三、? 中」前半の音読練習と音読テスト。

「三、? 中」後半の理解と音読。

第7回 三、? 中：後半2

四、三枚硬币：前半1

「三、? 中」後半の音読練習と音読テスト。

「四、三枚硬币」前半の理解と音読。

第8回 四、三枚硬币：前半2

四、三枚硬币：後半1

「四、三枚硬币」前半の音読練習と音読テスト。

「四、三枚硬币」後半の理解と音読。

第9回 四、三枚硬币：後半2

五、你很漂亮：前半1

「四、三枚硬币」後半の音読練習と音読テスト。

「五、你很漂亮」前半の理解と音読。

第10回 五、你很漂亮：前半2

五、你很漂亮：後半1

「五、你很漂亮」前半の音読練習と音読テスト。

「五、你很漂亮」後半の理解と音読。

第11回 五、你很漂亮：後半2

六、照? : 前半1

「五、你很漂亮」後半の音読練習と音読テスト。

「六、照?」前半の理解と音読。

第12回 六、照? : 前半2

六、照? : 後半1

「六、照?」前半の音読練習と音読テスト。

「六、照?」後半の理解と音読。

第13回 六、照? : 後半2

七、洞房悄悄话 : 前半1

「六、照?」後半の音読練習と音読テスト。

「七、洞房悄悄话」前半の理解と音読。

第14回 七、洞房悄悄话 : 前半2

七、洞房悄悄话 : 後半1

「七、洞房悄悄话」前半の音読練習と音読テスト。

「七、洞房悄悄话」後半の理解と音読。

第15回 七、洞房悄悄话 : 後半2

「七、洞房悄悄话」後半の音読練習と音読テスト。

2022年度 前期

1.0単位

中級中国語 A 又(読解)【GC優先・学籍番号偶数】

傍島 史奈

<授業の方法>

講義・演習

<授業の目的>

この科? は、全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて、広い教養を? につけ、豊かな? 間性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活? してさまざまな問題を発? し、それを解決する? 策を導くことができる」ようになること・「? 分の意? を? 頭や? 書によって表現し、相? の意? を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること、そして「獲得した知識や技能を活? し、国内外において、価値観や意? の異なるさまざまな? と議論し、学びを深め、協働して、社会に役? てることができる」ようになることを? 的とする。

具体的には次ができるようになることを? 指す。

1.? 活の中で接する頻度の? い常? 語500?600の範囲で平易に書き換えられた読物を教材とする。常? 語が何度も現われるように設計された? 章を読むことにより、常? 語・常? ? 型に対して発? ・意味・漢字など総合的な? から理解と記憶とを強化することができる。

2.教材には? 章全ての朗読が収められた? 声ファイルが附属している。これを聴きながら読むことにより、リスニング能? を向上させることができると共に、発話能? も向上させることができる。

3.教材に取られた元の作品は? 々の? 近な? 活を描いた

掌編? 説(ショートショート)である。これを読むことによって、1980年代から現在に? るまでの中国に暮らす? 々の? 活や中国社会に起こったさまざまな変化を読み取ることができる。

<到達目標>

1.最も基礎的な常用語や常用文型に対する理解と記憶とを強化することができる。(知識)

2.1980年代から現在に至るまでの中国に暮らす人々の生活や中国社会に起こったさまざまな変化を知ることができる。(知識)

3.中国社会の中で暮らす人々の生活や中国社会に起こっているさまざまな変化に関心を向けることができる。(態度・習慣)

4.ピンインに頼らず、漢字だけの文章を音読することができる。(知識・技能)

5.HSK(漢語水平考試)3級に相当する中国語力を身につけることができる。(技能)

ちなみにHSKの公式サイトに拠れば、HSK3級の試験の程度は「生活・学習・仕事などの場面で基本的なコミュニケーションをとることができ、中国旅行の際にも大部分のことに対応できる」、語彙量の目安は「600語程度の基礎常用中国語及びそれに相応する文法知識」とされている。これを中国語検定試験に当てはめれば「準4級~4級」に相当する。

<授業のキーワード>

音読、HSK3級

<授業の進め方>

復習?? 読練習と? 読テスト

1.前回の授業で学習した? 章を、? 声を聴きながら数回? 読する。(シンクロ・リーディング)

2.漢字だけで打ち直された? 章を材料に、指定された箇所を? 読する。(? 読テスト)

新しい内容の学習

1.教員による説明を聴きながら? 章の内容を理解する。

2.教員または録? のあとについて? 章を? 読する。

<履修するにあたって>

履修するにあたっては1年次配当の中国語科? を履修して単位を取得したのと同程度程度の中国語? を有していることが必要。ただし、? 度な中国語? は求めない。意味の解説や? 読の指導は全て教員が? なる。すでに? につけている中国語? をさらに確かなものにしたいと思う? の履修を歓迎する。

<授業時間外に必要な学修>

・予習をしておけば授業での理解がさらに深まるだろうし、復習をすれば獲得した知識や技能をさらに固めることができる。役に? つ中国語を? につけたいと思うのであれば、予習・復習を? かつことはできない。少なくとも30分程度の時間を毎回の予習・復習それぞれに充ててほしい。

・教科書にはMP3で収録された？源が附されている。毎回の授業で「漢字だけで打ち直された？章を材料に、指定された箇所を？読する」？テストが？なわれるので、授業までに？読の練習を？分にしておく必要がある。

<提出課題など>

毎回の授業で「漢字だけで打ち直された？章を材料に、指定された箇所を？読する」？テストを実施する。

<成績評価方法・基準>

- ・単位を取得するためには10回以上の出席が必要。
- ・毎回の授業で実施する？読テストの結果を20%、定期試験の結果を80%として成績を評価する。
- ・定期試験は全問マークシート？式で、全クラス統？試験として？なう。出題形式は「空所補充」とする。

<テキスト>

史迹 『汉语分集阅读・500词』 华语教学出版社 2013年 2500円(輸？書)

このテキストは中国から直接輸？したものであるため、他と販売？法が異なり、書店では取り次がれません。第1回の授業時に教員が教室で直接販売しますので、代？2500円を？意しておいて下さい。なお、テキストの注釈等は全て英語です。

<参考図書>

- 1.北京・商務印書館 小学館 『中日辞典 第3版』 小学館 2016年 7500円+税
- 2.相原茂・石田知子・戸沼市子 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』 同学社 2016年 2500円+税

<授業計画>

- 第1回 ?、献你? 束花：前半1
「?、献你? 束花」前半の理解と音読。
- 第2回 ?、献你? 束花：前半2
?、献你? 束花：後半1
「?、献你? 束花」前半の音読練習と音読テスト。
「?、献你? 束花」後半の理解と音読。
- 第3回 ?、献你? 束花：後半2
?、等待天鹅：前半1
「?、献你? 束花」後半の音読練習と音読テスト。
「?、等待天鹅」前半の理解と音読。
- 第4回 ?、等待天鹅：前半2
?、等待天鹅：後半1
「?、等待天鹅」前半の音読練習と音読テスト。
「?、等待天鹅」後半の理解と音読。
- 第5回 ?、等待天鹅：後半2
三、? 中：前半1
「?、等待天鹅」後半の音読練習と音読テスト。
「三、? 中」前半の理解と音読。
- 第6回 三、? 中：前半2
三、? 中：後半1
「三、? 中」前半の音読練習と音読テスト。
「三、? 中」後半の理解と音読。

- 第7回 三、? 中：後半2
四、三枚硬币：前半1
「三、? 中」後半の音読練習と音読テスト。
「四、三枚硬币」前半の理解と音読。
- 第8回 四、三枚硬币：前半2
四、三枚硬币：後半1
「四、三枚硬币」前半の音読練習と音読テスト。
「四、三枚硬币」後半の理解と音読。
- 第9回 四、三枚硬币：後半2
五、你很漂亮：前半1
「四、三枚硬币」後半の音読練習と音読テスト。
「五、你很漂亮」前半の理解と音読。
- 第10回 五、你很漂亮：前半2
五、你很漂亮：後半1
「五、你很漂亮」前半の音読練習と音読テスト。
「五、你很漂亮」後半の理解と音読。
- 第11回 五、你很漂亮：後半2
六、照?：前半1
「五、你很漂亮」後半の音読練習と音読テスト。
「六、照?」前半の理解と音読。
- 第12回 六、照?：前半2
六、照?：後半1
「六、照?」前半の音読練習と音読テスト。
「六、照?」後半の理解と音読。
- 第13回 六、照?：後半2
七、洞房悄悄话：前半1
「六、照?」後半の音読練習と音読テスト。
「七、洞房悄悄话」前半の理解と音読。
- 第14回 七、洞房悄悄话：前半2
七、洞房悄悄话：後半1
「七、洞房悄悄话」前半の音読練習と音読テスト。
「七、洞房悄悄话」後半の理解と音読。
- 第15回 七、洞房悄悄话：後半2
「七、洞房悄悄话」後半の音読練習と音読テスト。

2022年度 前期
1.0単位
中級中国語 B 力(検定)
于 耀明

<授業の方法>
講義・演習
<授業の目的>
共通教育科?に属する「中級中国語 B(検定)」では、同じく共通教育科?に属する「中級中国語 A(検定)」と共に、全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて、広い教養を?につけ、豊かな?間性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活?してさまざまな問題を発?し、それを解決する?策を導くことができる」ようになること・「?分の意?を?頭や?書によって表現

し、相? の意? を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること、そして「獲得した知識や技能を活? し、国内外において、価値観や意? の異なるさまざまな? と議論し、学びを深め、協働して、社会に役? てることができる」ようになることを? 的とする。

? 本中国語検定協会の主催する検定試験の過去問を元に作成された教材を使い、中国語検定試験4級に合格できるだけの中国語? を養成することを? 指す。

<到達目標>

- 1.常? 語500?1000を? につけている。(知識)
- 2.? 分の? で中国語を発? し、読み取り、表現することができる。(態度・習慣)
- 3.平易な中国語を聴き取り、話すことができる。(技能)
- 4.常? 語による中国語単? の? 本語訳と? 本語の中国語訳ができる。(技能)
- 5.? 本中国語検定協会の実施する中国語検定試験4級に合格することができる。(技能)

<授業のキーワード>

中国語検定試験、準4級、4級、3級、シンクロ・リーディング、シャドウイング

<授業の進め方>

中国語検定試験の過去問を元に作成された教材を使い、筆記問題対策とリスニング問題対策とを? 行う。

- 1.筆記問題対策では、次のように授業を進める。
 - (1)漢字で書かれた教材の単語・? や? 章をすべて発? ができ、意味も分かるようにしておく。(予習)
 - (2)? テストを? ない、予習の状況を確認する。(授業)
 - (3)ピンインで書かれた単語・? や? 章を、解説を聴きながら? 分で漢字に書き直し、知識の理解・定着を図る。(授業)
 - (4)漢字で書かれた単語・? や? 章を発? し、漢字・発? ・意味の三者を結びつける。(授業・復習)
- 2.リスニング問題対策では、次のように授業を進める。
 - (1)『精選中国語基本? 例集』を熟読しておく。(予習)
 - (2)『精選中国語基本? 例集』の例? を語順整序または?? 中訳の形で再現する? テストを? 行う。(授業)
 - (3)リスニング問題を演習する。(授業)
 - (4)漢字で書かれた? や? 章を解説を聴きながら発? し、漢字・発? ・意味の三者を結びつける。(授業)
 - (5)漢字で書かれた? や? 章をシンクロ・リーディング(? 声を聴きながら? や? 章を? 読する)したり、シャドウイング(? 字を? ずに? 声を聴きながら、できるだけ正確に原? を再現する)し、? 声を通して中国語の定着を図る。(授業・復習)

<履修するにあたって>

・履修するにあたっては1年次配当の中国語科? を履修して単位を取得したのと同程度程度の中国語? を有してい

ることが必要である。

・この科? の履修者は6?26?(?)に? なわれる第106回中国語検定試験を受けなければならない。授業への出席条件を満たした上で検定試験に合格すれば、合格した級により規定の評点が与えられる。検定試験で級を取得できなかったり何らかの事情で検定試験を受けることができなかつたりした場合は、定期試験を受けることにより規定の評点が与えられる。

・「中級中国語 (検定)」はAとBを? 括して履修しなければならない。

<授業時間外に必要な学修>

筆記問題対策・リスニング問題対策ともに、予習・復習をきちんと? 行うにはそれぞれ合わせて1時間程度の時間が必要である。

筆記問題対策では、問題の答えを選ぶだけでなく、全? を? 書きし、意味を調べ、発? できるようにした上で授業に臨まなければならない。予習が重要である。

リスニング問題対策では、復習が重要である。授業で扱われた? や? 章を先ず? 字を? ながら? 声に合わせて? 読し、次に? 字を? ずに? 声に合わせて発? する練習を何度も繰り返して、? や? 章を? 声と共に? 分のものにするよう努めること。

問題を解くのは? 分の実? を測り、弱点を? 出すためであり、学習がこれに? まってはならない。単に問題を解くだけではなく、? 字・意味・? 声を? 体のものとして捉えるよう? 分で訓練をしてほしい。

<提出課題など>

予習・復習の状況や授業で課題に取り組む姿勢は記録され、定期試験を受けた? に対して評点C・Dを判断する際の資料となる。提出された課題は採点を施し、次の授業で返却する。

<成績評価方法・基準>

・単位を取得するためにはA・B共に10回以上の出席が必要である。A・Bのどちらかでも出席が10回に満たない場合は、A・Bの単位を共に与えない。

・6? の検定試験で準4級に合格すれば評点Bを、4級以上に合格すれば評点Sを与える。

・6? の検定試験で級を取得できなかった? は、定期試験を受けなければならない。定期試験を受けた場合の評点はA・B・C・Dの何れかとする。

・6? の検定試験で準4級にだけ合格した? も定期試験を受けることができる。この場合、評点Bを保証し、さらに定期試験の結果が良好であればAを与える。

・定期試験の難易度は中国語検定試験4級相当とする。

<テキスト>

上野恵司 『精選中国語基本? 例集』 ? 帝社 2006年 2000円+税

他に中国語検定試験過去問を元に作成した教材を使う。OneDriveを通じて配布する。

<参考図書>

1.北京・商務印書館？学館『中？辞典 第3版』？学館 2016年 7500円＋税

2.相原茂・？？知？．？沼市？『Why?にこたえるはじめての中国語の？法書 新訂版』

同学社 2016年 2500円＋税

<授業計画>

第1回 中検4級

リスニング問題対策1

1.『精選中国語基本？例集』第1・2項？について？テストを？なう。

2.第96回4級リスニング問題を解き，練習する。

第2回 中検4級

リスニング問題対策2

1.『精選中国語基本？例集』第3・4項？について？テストを？なう。

2.第95回4級リスニング問題を解き，練習する。

第3回 中検4級

リスニング問題対策3

1.『精選中国語基本？例集』第5・6項？について？テストを？なう。

2.第94回4級リスニング問題を解き，練習する。

第4回 中検4級

リスニング問題対策4

1.『精選中国語基本？例集』第7・8項？について？テストを？なう。

2.第93回4級リスニング問題を解き，練習する。

第5回 中検4級

リスニング問題対策5

1.『精選中国語基本？例集』第9・10項？について？テストを？なう。

2.第92回4級リスニング問題を解き，練習する。

第6回 中検4級

リスニング問題対策6

1.『精選中国語基本？例集』第11・12項？について？テストを？なう。

2.第91回4級リスニング問題を解き，練習する。

第7回 中検4級

筆記問題対策7

1.第90回4級筆記問題(予習課題)について小テストを行なう。

2.第90回4級筆記問題について理解し，練習する。

第8回 中検4級

筆記問題対策8

1.第89回4級筆記問題(予習課題)について小テストを行なう。

2.第89回4級筆記問題について理解し，練習する。

第9回 中検4級

筆記問題対策9

1.第88回4級筆記問題(予習課題)について小テストを行なう。

2.第88回4級筆記問題について理解し，練習する。

第10回 中検4級

筆記問題対策10

1.第87回4級筆記問題(予習課題)について小テストを行なう。

2.第87回4級筆記問題について理解し，練習する。

第11回 中検3級

リスニング問題対策1

1.『精選中国語基本？例集』第21・22項？について？テストを？なう。

2.第96回3級リスニング問題第1問を解き，練習する。

第12回 中検3級

リスニング問題対策2

1.『精選中国語基本？例集』第23・24項？について？テストを？なう。

2.第96回3級リスニング問題第2問を解き，練習する。

第13回 中検3級

リスニング問題対策3

1.『精選中国語基本？例集』第25・26項？について？テストを？なう。

2.第95回3級リスニング問題第1問を解き，練習する。

第14回 中検3級

筆記問題対策4

1.第95回3級筆記問題第4・5問(予習課題)について小テストを行なう。

2.第95回3級筆記問題第4・5問について理解し，練習する。

第15回 中検3級

筆記問題対策5

1.第94回3級筆記問題第1・2・3問(予習課題)について小テストを行なう。

2.第94回4級筆記問題第1・2・3問について理解し，練習する。

2022年度 前期

1.0単位

中級中国語 B サ(会話)

馬 麗娟

<授業の方法>

講義・演習

<授業の目的>

この科？は，全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて，広い教養を？につけ，豊かな？問性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活？してさまざまな問題を発？し，それを解決する？策を導くことができる」ようになること・「？分の意？を？頭や？書によって表現し，相？の意？を理解することで，良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること，そして「獲得した知識や技能を活？し，国内外において，価値

観や意? の異なるさまざま? と議論し、学びを深め、協働して、社会に役? てることができる」ようになることを? 的とする。

初級中国語の学習を終えた人が中国語の会話力をさらに向上させ、中国語でコミュニケーションを図ることができるようになることを目指す。中国語を母語とする先生の指導の下、リスニング訓練を中心として編まれた教材を使いながら、主に聴く・話す訓練を通じて中国語の会話力を養成する。

<到達目標>

- 1.生活に密着した単語や語句を身に付け、口頭で言うことができる。(知識・技能)
- 2.長くない文章の内容を聴き取ることができる。(知識・技能)
- 3.短文での問答ができる。また、文章の内容について問答ができる。(知識・技能)
- 4.中国語検定試験4級リスニング問題に対応できる。(知識・技能)

<授業のキーワード>

リスニング、会話

<授業の進め方>

この教科書に採られた中国語の難易度自体は高くない。これを「聴いて話す」作業を繰り返すことによってリスニング能力を養成し、同時に総合力を充実させることを意図してこの教科書は編まれている。授業は基本的に教科書の構成に沿いながら進めていく。授業ではできるだけ教員と学生、あるいは学生同士の会話を多く行ないながら進めていく。

<履修するにあたって>

履修するに当たっては1年次配当の中国語科? を履修して単位を取得したのと同程度程度の中国語? を有していることが必要。ただし、? 度な中国語? は求めない。意味の解説や発音の指導などは全て教員が? 行う。すでに? につけている中国語? をさらに確かなものにしたいと思う? の履修を歓迎する。

2年生向けの会話科目には、これの他に「中国語基礎会話・」(とを合わせての通年登録科目)もあり、これと同じく中国語を母語とする教員がその授業を担当する。会話練習をさらに充実させたい人は、そちらも併せて履修すると良い。

<授業時間外に必要な学修>

外国語の学習に当たっては、繰り返し訓練することが何よりも重要である。音声材料を活用しながら、1時間程度の時間をかけて予習・復習をしっかりと行なってほしい。

<提出課題など>

授業では? 頭または筆記による? テストを随時実施する。? 頭による? テストを? なった場合は、原則として? ? ? に対して発? を指導する。筆記による? テストを? なった場合は、採点を施し次回の授業で返却する。

<成績評価方法・基準>

- ・単位を取得するためには10回以上の出席が必要。
- ・定期試験は? なわない。授業中に教員と学? との間で、または学? 同? で? なわれる応? 会話や、その他適宜? なわれる? テストによって、総合的に成績を評価する。
- ・最終的な成績は補正を行ない、科目名が同一である複数クラスの間で各評点の割合に大きな偏りのないようにする。

<テキスト>

胡金定 陳敏 吐山名月 『聴力UP! 中国語リスニングトレーニング』

朝日出版社 2016年 2300円+税

<参考図書>

1.北京・商務印書館 小学館 『中日辞典 第3版』

小学館 2016年 7500円+税

2.相原茂・石田知子・戸沼市子 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』

同学社 2016年 2500円+税

<授業計画>

第1回 1、你有外国朋友吗? 1/3

ステップ 基本的な人名、国名、地名、専攻科目名などに関する語句

第2回 1、你有外国朋友吗? 2/3

ステップ 人名、国籍、出身地、専攻科目の尋ね方
人物を紹介する簡単な文章

第3回 1、你有外国朋友吗? 3/3

ステップ 実践問題

第4回 2、快乐的家庭 1/3

ステップ 親族の呼び方、職業名などに関する語句

第5回 2、快乐的家庭 2/3

ステップ 家族構成、職業、年齢などの尋ね方
家族を紹介する簡単な文章

第6回 2、快乐的家庭 3/3

ステップ 実践問題

第7回 3、我的一个星期 1/3

ステップ 曜日、日常の主な行動などに関する語句

第8回 3、我的一个星期 2/3

ステップ 曜日、予定の尋ね方 一週間の予定に関する簡単な文章

第9回 3、我的一个星期 3/3

ステップ 実践問題

第10回 4、我的一天 1/3

ステップ 時刻、一日の行動などに関する語句

第11回 4、我的一天 2/3

ステップ 時刻、日常の行動、動作の持続時間などの尋ね方

一日の生活に関する簡単な文章

第12回 4、我的一天 3/3

ステップ 実践問題

第13回 5、生日快乐 1/3

ステップ 年??, 季節などに関する語句

第14回 5、生日快乐 2/3

ステップ 誕??, ??の尋ね? 年齢, 誕??を紹介する簡単な?章

第15回 5、生日快乐 3/3

ステップ 実践問題

2022年度 前期

1.0単位

中級中国語 B タ(検定)

李 玲

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

共通教育科?に属する「中級中国語 B(検定)」では、同じく共通教育科?に属する「中級中国語 A(検定)」と共に、全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて、広い教養を?につけ、豊かな?間性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活?してさまざまな問題を発?し、それを解決する?策を導くことができる」ようになること・「?分の意?を?頭や?書によって表現し、相?の意?を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること、そして「獲得した知識や技能を活?し、国内外において、価値観や意?の異なるさまざまな?と議論し、学びを深め、協働して、社会に役?てることができる」ようになることを?的とする。

?本中国語検定協会の主催する検定試験の過去問を元に作成された教材を使い、中国語検定試験4級に合格できるだけの中国語?を養成することを?指す。

< 到達目標 >

1. 常?語500?1000を?につけている。(知識)
2. ?分の?で中国語を発?し、読み取り、表現することができる。(態度・習慣)
3. 平易な中国語を聴き取り、話すことができる。(技能)
4. 常?語による中国語単?の?本語訳と?本語の中国語訳ができる。(技能)
5. ?本中国語検定協会の実施する中国語検定試験4級に合格することができる。(技能)

< 授業のキーワード >

中国語検定試験, 準4級, 4級, 3級, シンクロ・リーディング, シャドウイング

< 授業の進め方 >

中国語検定試験の過去問を元に作成された教材を使い、筆記問題対策とリスニング問題対策とを?なう。

1. 筆記問題対策では、次のように授業を進める。

(1) 漢字で書かれた教材の単語・?や?章をすべて発?ができ、意味も分かるようにしておく。(予習)

(2)?テストを?ない、予習の状況を確認する。(授業)

(3)ピンインで書かれた単語・?や?章を、解説を聴きながら?分で漢字に書き直し、知識の理解・定着を図る。(授業)

(4)漢字で書かれた単語・?や?章を発?し、漢字・発?・意味の三者を結びつける。(授業・復習)

2. リスニング問題対策では、次のように授業を進める。

(1)『精選中国語基本?例集』を熟読しておく。(予習)

(2)『精選中国語基本?例集』の例?を語順整序または??中訳の形で再現する?テストを?なう。(授業)

(3)リスニング問題を演習する。(授業)

(4)漢字で書かれた?や?章を解説を聴きながら発?し、漢字・発?・意味の三者を結びつける。(授業)

(5)漢字で書かれた?や?章をシンクロ・リーディング(?声を聴きながら?や?章を?読する)したり、シャドウイング(?字を?ずに?声を聴きながら、できるだけ正確に原?を再現する)し、?声を通して中国語の定着を図る。(授業・復習)

< 履修するにあたって >

・履修するにあたっては1年次配当の中国語科?を履修して単位を取得したのと同程度程度の中国語?を有していることが必要である。

・この科?の履修者は6?26?(?)に?なわれる第106回中国語検定試験を受けなければならない。授業への出席条件を満たした上で検定試験に合格すれば、合格した級により規定の評点が与えられる。検定試験で級を取得できなかったり何らかの事情で検定試験を受けることができなかつたりした場合は、定期試験を受けることにより規定の評点が与えられる。

・「中級中国語 (検定)」はAとBを?括して履修しなければならない。

< 授業時間外に必要な学修 >

筆記問題対策・リスニング問題対策ともに、予習・復習をきちんと?なうにはそれぞれ合わせて1時間程度の時間が必要である。

筆記問題対策では、問題の答えを選ぶだけでなく、全?を?書きし、意味を調べ、発?できるようにした上で授業に臨まなければならない。予習が重要である。

リスニング問題対策では、復習が重要である。授業で扱われた?や?章を先ず?字を?ながら?声に合わせて?読し、次に?字を?ずに?声に合わせて発?する練習を何度も繰り返して、?や?章を?声と共に?分のものにするよう努めること。

問題を解くのは?分の実?を測り、弱点を?出すためであり、学習がこれに?まってはならない。単に問題を解くだけではなく、?字・意味・?声を?体のものとして捉えるよう?分で訓練をしてほしい。

< 提出課題など >

予習・復習の状況や授業で課題に取り組む姿勢は記録さ

れ、定期試験を受けた？ に対して評点 C・D を判断する際の資料となる。提出された課題は採点を施し、次の授業で返却する。

< 成績評価方法・基準 >

・単位を取得するためには A・B 共に10回以上の出席が必要である。A・B のどちらかでも出席が10回に満たない場合は、A・B の単位を共に与えない。

・6? の検定試験で準4級に合格すれば評点 B を、4級以上に合格すれば評点 S を与える。

・6? の検定試験で級を取得できなかった? は、定期試験を受けなければならない。定期試験を受けた場合の評点は A・B・C・D の何れかとする。

・6? の検定試験で準4級にだけ合格した? も定期試験を受けることができる。この場合、評点 B を保証し、さらに定期試験の結果が良好であれば A を与える。

・定期試験の難易度は中国語検定試験4級相当とする。

< テキスト >

上野恵司 『精選中国語基本? 例集』? 帝社 2006年 2000円 + 税

他に中国語検定試験過去問を元に作成した教材を使う。OneDriveを通じて配布する。

< 参考図書 >

1. 北京・商務印書館? 学館 『中? 辞典 第3版』? 学館 2016年 7500円 + 税

2. 相原茂・?? 知?・? 沼市? 『Why? にこたえるはじめての中国語の? 法書 新訂版』
同学社 2016年 2500円 + 税

< 授業計画 >

第1回 中検4級

リスニング問題対策1

1. 『精選中国語基本? 例集』第1・2項? について? テストを? なう。

2. 第96回4級リスニング問題を解き、練習する。

第2回 中検4級

リスニング問題対策2

1. 『精選中国語基本? 例集』第3・4項? について? テストを? なう。

2. 第95回4級リスニング問題を解き、練習する。

第3回 中検4級

リスニング問題対策3

1. 『精選中国語基本? 例集』第5・6項? について? テストを? なう。

2. 第94回4級リスニング問題を解き、練習する。

第4回 中検4級

リスニング問題対策4

1. 『精選中国語基本? 例集』第7・8項? について? テストを? なう。

2. 第93回4級リスニング問題を解き、練習する。

第5回 中検4級

リスニング問題対策5

1. 『精選中国語基本? 例集』第9・10項? について? テストを? なう。

2. 第92回4級リスニング問題を解き、練習する。

第6回 中検4級

リスニング問題対策6

1. 『精選中国語基本? 例集』第11・12項? について? テストを? なう。

2. 第91回4級リスニング問題を解き、練習する。

第7回 中検4級

リスニング問題対策7

1. 『精選中国語基本? 例集』第13・14項? について? テストを? なう。

2. 第90回4級リスニング問題を解き、練習する。

第8回 中検4級

筆記問題対策7

1. 第90回4級筆記問題(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第90回4級筆記問題について理解し、練習する。

第9回 中検4級

筆記問題対策8

1. 第89回4級筆記問題(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第89回4級筆記問題について理解し、練習する。

第10回 中検4級

筆記問題対策9

1. 第88回4級筆記問題(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第88回4級筆記問題について理解し、練習する。

第11回 中検4級

筆記問題対策10

1. 第87回4級筆記問題(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第87回4級筆記問題について理解し、練習する。

第12回 中検4級

筆記問題対策11

1. 第86回4級筆記問題(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第86回4級筆記問題について理解し、練習する。

第13回 中検3級

リスニング問題対策1

1. 『精選中国語基本? 例集』第25項? について? テストを? なう。

2. 第96回3級リスニング問題第1問を解き、練習する。

第14回 中検3級

リスニング問題対策2

1. 『精選中国語基本? 例集』第26項? について? テストを? なう。

2. 第96回3級リスニング問題第2問を解き、練習する。

第15回 中検3級

筆記問題対策3

1. 第95回3級筆記問題第1・2・3問(予習課題)について小テストを行なう。
2. 第95回3級筆記問題第1・2・3問について理解し、練習する。

2022年度 前期

1.0単位

中級中国語 B 二(会話)【GC優先・学籍番号奇数】

王 彩麗

<授業の方法>

講義・演習

<授業の目的>

この科? は、全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて、広い教養を? につけ、豊かな? 間性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活? してさまざまな問題を発? し、それを解決する? 策を導くことができる」ようになること・「? 分の意? を? 頭や? 書によって表現し、相? の意? を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること、そして「獲得した知識や技能を活? し、国内外において、価値観や意? の異なるさまざまな? と議論し、学びを深め、協働して、社会に役? てることができる」ようになることを? 的とする。

初級中国語の学習を終えた人が中国語の会話力をさらに向上させ、中国語でコミュニケーションを図ることができるようになることを目指す。中国語を母語とする先生の指導の下、リスニング訓練を中心として編まれた教材を使いながら、主に聴く・話す訓練を通じて中国語の会話力を養成する。

<到達目標>

1. 生活に密着した単語や語句を身に付け、口頭で言うことができる。(知識・技能)
2. 長くない文章の内容を聴き取ることができる。(知識・技能)
3. 短文での問答ができる。また、文章の内容について問答ができる。(知識・技能)
4. 中国語検定試験4級リスニング問題に対応できる。(知識・技能)

<授業のキーワード>

リスニング, 会話

<授業の進め方>

この教科書に採られた中国語の難易度自体は高くない。これを「聴いて話す」作業を繰り返すことによってリスニング能力を養成し、同時に総合力を充実させることを意図してこの教科書は編まれている。授業は基本的に教科書の構成に沿いながら進めていく。授業ではできるだけ教員と学生、あるいは学生同士の会話を多く行ないながら進めていく。

<履修するにあたって>

履修するにあたっては1年次配当の中国語科? を履修して単位を取得したのと同程度の中国語? を有していることが必要。ただし、? 度な中国語? は求めない。意味の解説や発音の指導などは全て教員が? なる。すでに? につけている中国語? をさらに確かなものにしたいと思う? の履修を歓迎する。

2年生向けの会話科目には、これの他に「中国語基礎会話・? 」(と を合わせての通年登録科目)もあり、これと同じく中国語を母語とする教員がその授業を担当する。会話練習をさらに充実させたい人は、そちらも併せて履修すると良い。

<授業時間外に必要な学修>

外国語の学習にあたっては、繰り返し訓練することが何よりも重要である。音声材料を活用しながら、1時間程度の時間をかけて予習・復習をしっかりと行なってほしい。

<提出課題など>

授業では? 頭または筆記による? テストを随時実施する。? 頭による? テストを? なった場合は、原則として? ? ? ? に対して発? を指導する。筆記による? テストを? なった場合は、採点を施し次回の授業で返却する。

<成績評価方法・基準>

- ・単位を取得するためには10回以上の出席が必要。
- ・定期試験は? なわない。授業中に教員と学? との間で、または学? 同? で? なわれる応? 会話や、その他適宜? なわれる? テストによって、総合的に成績を評価する。
- ・最終的な成績は補正を行ない、科目名が同一である複数クラスの間で各評点の割合に大きな偏りのないようにする。

<テキスト>

胡金定 陳敏 吐山名月 『聴力UP! 中国語リスニングトレーニング』

朝日出版社 2016年 2300円+税

<参考図書>

1. 北京・商務印書館 小学館 『中日辞典 第3版』
小学館 2016年 7500円+税

2. 相原茂・石田知子・戸沼市子 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』

同学社 2016年 2500円+税

<授業計画>

第1回 1、你有外国朋友吗? 1/3

ステップ 基本的な人名、国名、地名、専攻科目名などに関する語句

第2回 1、你有外国朋友吗? 2/3

ステップ 人名、国籍、出身地、専攻科目の尋ね方
人物を紹介する簡単な文章

第3回 1、你有外国朋友吗? 3/3

ステップ 実践問題

第4回 2、快乐的家庭 1/3

ステップ 親族の呼び方，職業名などに関する語句
 第5回 2、快乐的家庭 2/3
 ステップ 家族構成，職業，年齢などの尋ね方
 家族を紹介する簡単な文章
 第6回 2、快乐的家庭 3/3
 ステップ 実践問題
 第7回 3、我的一个星期 1/3
 ステップ 曜日，日常の主な行動などに関する語句
 第8回 3、我的一个星期 2/3
 ステップ 曜日，予定の尋ね方 一週間の予定に関する簡単な文章
 第9回 3、我的一个星期 3/3
 ステップ 実践問題
 第10回 4、我的一天 1/3
 ステップ 時刻，一日の行動などに関する語句
 第11回 4、我的一天 2/3
 ステップ 時刻，日常の行動，動作の持続時間などの尋ね方
 一日の生活に関する簡単な文章
 第12回 4、我的一天 3/3
 ステップ 実践問題
 第13回 5、生日快乐 1/3
 ステップ 年？？，季節などに関する語句
 第14回 5、生日快乐 2/3
 ステップ 誕？？，？？の尋ね？ 年齢，誕？？を紹介する簡単な？章
 第15回 5、生日快乐 3/3
 ステップ 実践問題

 2022年度 前期

1.0単位

中級中国語 B 又(会話)【GC優先・学籍番号偶数】

孫 輝

 < 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

この科？は，全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて，広い教養を？につけ，豊かな？問性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活？してさまざまな問題を発？し，それを解決する？策を導くことができる」ようになること・「？分の意？を？頭や？書によって表現し，相？の意？を理解することで，良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること，そして「獲得した知識や技能を活？し，国内外において，価値観や意？の異なるさまざまな？と議論し，学びを深め，協働して，社会に役？てることができる」ようになることを？的とする。

初級中国語の学習を終えた人が中国語の会話力をさら

に向上させ，中国語でコミュニケーションを図ることができるようになることを目指す。中国語を母語とする先生の指導の下，リスニング訓練を中心として編まれた教材を使いながら，主に聴く・話す訓練を通じて中国語の会話力を養成する。

< 到達目標 >

- 1.生活に密着した単語や語句を身に付け，口頭で言うことができる。(知識・技能)
- 2.長くない文章の内容を聴き取ることができる。(知識・技能)
- 3.短文での問答ができる。また，文章の内容について問答ができる。(知識・技能)
- 4.中国語検定試験4級リスニング問題に対応できる。(知識・技能)

< 授業のキーワード >

リスニング，会話

< 授業の進め方 >

この教科書に採られた中国語の難易度自体は高くない。これを「聴いて話す」作業を繰り返すことによってリスニング能力を養成し，同時に総合力を充実させることを意図してこの教科書は編まれている。授業は基本的に教科書の構成に沿いながら進めていく。授業ではできるだけ教員と学生，あるいは学生同士の会話を多く行ないながら進めていく。

< 履修するにあたって >

履修するにあたっては1年次配当の中国語科？を履修して単位を取得したのと同程度程度の中国語？を有していることが必要。ただし，？度な中国語？は求めない。意味の解説や発音の指導などは全て教員が？なう。すでに？につけている中国語？をさらに確かなものにしたいと思う？の履修を歓迎する。

2年生向けの会話科目には，これの他に「中国語基礎会話・？」(とを合わせての通年登録科目)もあり，これと同じく中国語を母語とする教員がその授業を担当する。会話練習をさらに充実させたい人は，そちらも併せて履修すると良い。

< 授業時間外に必要な学修 >

外国語の学習にあたっては，繰り返し訓練することが何よりも重要である。音声材料を活用しながら，1時間程度の時間をかけて予習・復習をしっかりと行なってほしい。

< 提出課題など >

授業では？頭または筆記による？テストを随時実施する。？頭による？テストを？なった場合は，原則として？？？？に対して発？を指導する。筆記による？テストを？なった場合は，採点を施し次回の授業で返却する。

< 成績評価方法・基準 >

- ・単位を取得するためには10回以上の出席が必要。
- ・定期試験は？なわない。授業中に教員と学？との間で，または学？同？で？なわれる応？会話や，その他適宜？

なわれる? テストによって、総合的に成績を評価する。
・最終的な成績は補正を行ない、科目名が同一である複数クラスの間で各評点の割合に大きな偏りのないようにする。

<テキスト>

胡金定 陳敏 吐山名月 『聴力UP! 中国語リスニングトレーニング』

朝日出版社 2016年 2300円+税

<参考図書>

1.北京・商務印書館 小学館 『中日辞典 第3版』

小学館 2016年 7500円+税

2.相原茂・石田知子・戸沼市子 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』

同学社 2016年 2500円+税

<授業計画>

第1回 1、你有外国朋友吗? 1/3

ステップ 基本的な人名, 国名, 地名, 専攻科目名などに関する語句

第2回 1、你有外国朋友吗? 2/3

ステップ 人名, 国籍, 出身地, 専攻科目の尋ね方
人物を紹介する簡単な文章

第3回 1、你有外国朋友吗? 3/3

ステップ 実践問題

第4回 2、快乐的家庭 1/3

ステップ 親族の呼び方, 職業名などに関する語句

第5回 2、快乐的家庭 2/3

ステップ 家族構成, 職業, 年齢などの尋ね方
家族を紹介する簡単な文章

第6回 2、快乐的家庭 3/3

ステップ 実践問題

第7回 3、我的一个星期 1/3

ステップ 曜日, 日常の主な行動などに関する語句

第8回 3、我的一个星期 2/3

ステップ 曜日, 予定の尋ね方 一週間の予定に関する簡単な文章

第9回 3、我的一个星期 3/3

ステップ 実践問題

第10回 4、我的一天 1/3

ステップ 時刻, 一日の行動などに関する語句

第11回 4、我的一天 2/3

ステップ 時刻, 日常の行動, 動作の持続時間などの尋ね方

一日の生活に関する簡単な文章

第12回 4、我的一天 3/3

ステップ 実践問題

第13回 5、生日快乐 1/3

ステップ 年? ?, 季節などに関する語句

第14回 5、生日快乐 2/3

ステップ 誕? ?, ? ? の尋ね? 年齢, 誕? ? を紹介する簡単な? 章

第15回 5、生日快乐 3/3

ステップ 実践問題

2022年度 後期

1.0単位

中級中国語 A カ(検定)

池田 磨左文

<授業の方法>

講義・演習

<授業の目的>

共通教育科? に属する「中級中国語 A(検定)」では、同じく共通教育科? に属する「中級中国語 B(検定)」と共に、全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて、広い教養を? につけ、豊かな? 間性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活? してさまざまな問題を発? し、それを解決する? 策を導くことができる」ようになること・「? 分の意? を? 頭や? 書によって表現し、相? の意? を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること、そして「獲得した知識や技能を活? し、国内外において、価値観や意? の異なるさまざまな? と議論し、学びを深め、協働して、社会に役? てることのできる」ようになることを? 的とする。

? 本中国語検定協会の主催する中国語検定試験3級および中華? ? 共和国政府教育部に直属する機関である孔? 学院総部/国家漢弁(国家漢語国際推广領導? 組弁公室)が主催し中華? ? 共和国政府が認定するHSK(漢語? 平考試)4級に合格できるだけの中国語? を養成することを? 指す。

HSK4級は受験? の? 常中国語の応? 能? を判定するテストであり、「幅広い範囲にわたる話題について、中国語でコミュニケーションをすることができ、中国語を? 語とする者と流ちょうに話すことができる」ことができるかどうかを測るものである。1200語程度の常? 単語と? 法知識を習得している者を対象としており、? 学の第? 外国語における第? 年度後期履修程度の学習が? 安とされている。設定されている対象者や難易度は中国語検定試験3級にほぼ相当する。

<到達目標>

- 1.常? 語1000?2000を? につけている。(知識)
- 2.? 分の? で中国語を発? し、読み取り、表現することができる。(態度・習慣)
- 3.基本的な? 章を読み、書くことができる。また、簡単な? 常会話ができる。(技能)
- 4.常? 語による中国語複? の? 本語訳と? 本語の中国語訳ができる。(技能)
- 5.? 本中国語検定協会の主催する中国語検定試験3級に合格することができる。(技能)
- 6.中華? ? 共和国政府教育部に直属する孔? 学院総部/

国家漢弁(国家漢語国際推广領導? 組弁公室)
が主催し中華?? 共和国政府が認定するHSK(漢語? 平考
試)4級に合格することができる。(技能)

<授業のキーワード>

中国語検定試験3級, HSK4級, シンクロ・リーディング,
シャドウイング

<授業の進め方>

中国語検定試験の過去問を元に作成された教材を使い,
筆記問題対策とリスニング問題対策とを? 行う。

1. 筆記問題対策では, 次のように授業を進める。

- (1) 漢字で書かれた教材の単語・? や? 章をすべて発?
ができ, 意味も分かるようにしておく。(予習)
- (2)? テストを? ない, 予習の状況を確認する。(授業)
- (3) ピンインで書かれた単語・? や? 章を, 解説を聴き
ながら? 分で漢字に書き直し, 知識の理解・定着を図る。
(授業)
- (4) 漢字で書かれた単語・? や? 章を発? し, 漢字・発?
? ・意味の三者を結びつける。(授業・復習)

2. リスニング問題対策では, 次のように授業を進める。

- (1) 『精選中国語基本? 例集』を熟読しておく。(予習)
- (2) 『精選中国語基本? 例集』の例? を語順整序または
?? 中訳の形で再現する? テストを? 行う。(授業)
- (3) リスニング問題を演習する。(授業)
- (4) 漢字で書かれた? や? 章を解説を聴きながら発? し,
漢字・発? ・意味の三者を結びつける。(授業)
- (5) 漢字で書かれた? や? 章をシンクロ・リーディング(
? 声を聴きながら? や? 章を? 読する)したり, シャド
ウイング(? 字を? ずに? 声を聴きながら, できるだけ
正確に原? を再現する)し, ? 声を通して中国語の定着
を図る。(授業・復習)

なお, 11? の中国語検定試験終了後は, HSK4級の過去問
を演習する。

<履修するにあたって>

・履修するにあたっては1年次配当の中国語科? を履修
して単位を取得したのと同等程度の中国語? を有してい
ることが必要である。

・この科? の履修者は11?27?(?)に? なわれる第107
回中国語検定試験を受けなければならない。授業への出
席条件を満たした上で検定試験に合格すれば, 合格した
級により規定の評点が与えられる。検定試験で級を取得
できなかったり何らかの事情で検定試験を受けることが
できなかったりした場合は, 定期試験を受けることによ
り規定の評点が与えられる。

・「中級中国語 (検定)」はAとBを? 括して履修し
なければならない。

<授業時間外に必要な学修>

筆記問題対策・リスニング問題対策ともに, 予習・復習

をきちんと? 行うにはそれぞれ合わせて1時間程度の時
間が必要である。

筆記問題対策では, 問題の答えを選ぶだけでなく, 全
? を? 書きし, 意味を調べ, 発? できるようにした上で
授業に臨まなければならない。予習が重要である。

リスニング問題対策では, 復習が重要である。授業で
扱われた? や? 章を先ず? 字を? ながら? 声に合わせて
? 読し, 次に? 字を? ずに? 声に合わせて発? する練習
を何度も繰り返して, ? や? 章を? 声と共に? 分のもの
にするよう努めること。

問題を解くのは? 分の実? を測り, 弱点を? 出すため
であり, 学習がこれに? まってはならない。単に問題を
解くだけではなく, ? 字・意味・? 声を? 体のものとし
て捉えるよう? 分で訓練をしていってほしい。

<提出課題など>

予習・復習の状況や授業で課題に取り組む姿勢は記録さ
れ, 定期試験を受けた? に対して評点C・Dを判断する
際の資料となる。提出された課題は採点を施し, 次の授
業で返却する。

<成績評価方法・基準>

・単位を取得するためにはA・B共に10回以上の出席が
必要。A・Bのどちらかでも出席が10回に満たない場合
は, A・Bの単位を共に与えない。

・11? の検定試験で4級に合格すれば評点Bを, 3級以
上に合格すれば評点Sを与える。

・11? の検定試験で4級以上の級を取得できなかった?
は, 定期試験を受けなければならない。定期試験を受け
た場合の評点はA・B・C・Dの何れかとする。

・11? の検定試験で4級にだけ合格した? も定期試験を
受けることができる。この場合, 評点Bを保証し, さら
に定期試験の成績が良好であればAを与える。

・定期試験の難易度は中国語検定試験3級相当とする。
HSK4級の内容も含む。

<テキスト>

上野恵司 『精選中国語基本? 例集』? 帝社 2006年 20
00円+税

他に中国語検定試験過去問を元に作成した教材を使う。
OneDriveを通じて配布する。

<参考図書>

1. 北京・商務印書館? 学館 『中? 辞典 第3版』? 学
館 2016年 7500円+税

2. 相原茂・?? 知? ・? 沼市? 『Why? にこたえるはじ
めての中国語の? 法書 新訂版』

同学社 2016年 2500円+税

<授業計画>

第1回 中検3級

筆記問題対策6

1. 第94回3級筆記問題第4・5問(予習課題)について小テ
ストを行なう。

2. 第94回3級筆記問題第4・5問について理解し, 練習す

る。

第2回 中検3級

筆記問題対策7

1. 第93回3級筆記問題第1・2・3問(予習課題)について小テストを行なう。
2. 第93回3級筆記問題第1・2・3問について理解し、練習する。

第3回 中検3級

筆記問題対策8

1. 第93回3級筆記問題第4・5問(予習課題)について小テストを行なう。
2. 第93回3級筆記問題第4・5問を理解し、練習する。

第4回 中検3級

筆記問題対策9

1. 第92回3級筆記問題第1・2・3問(予習課題)について小テストを行なう。
2. 第92回3級筆記問題第1・2・3問を理解し、練習する。

第5回 中検3級

筆記問題対策10

1. 第92回3級筆記問題第4・5問(予習課題)について小テストを行なう。
2. 第92回3級筆記問題第4・5問を理解し、練習する。

第6回 中検3級

リスニング問題対策11

1. 『精選中国語基本? 例集』第16・17・18項? について? テストを? なう。
2. 第91回3級リスニング問題第1問を解き、練習する。

第7回 中検3級

リスニング問題対策12

1. 『精選中国語基本? 例集』第19・20・21項? について? テストを? なう。
2. 第91回3級リスニング問題第2問を解き、練習する。

第8回 中検3級

リスニング問題対策13

1. 『精選中国語基本? 例集』第22・23・24項? について? テストを? なう。
2. 第90回3級リスニング問題第1問を解き、練習する。

第9回 中検3級

リスニング問題対策14

1. 『精選中国語基本? 例集』第25・26・27項? について? テストを? なう。
2. 第90回3級リスニング問題第2問を解き、練習する。

第10回 中検3級

リスニング問題対策15

1. 『精選中国語基本? 例集』付について? テストを? なう。
2. 第89回3級リスニング問題第1問を解き、練習する。

第11回 HSK4級

阅读、书写考试1

HSK4级阅读、书写考试1を解き、練習する。

第12回 HSK4級

阅读、书写考试2

HSK4级阅读、书写考试2を解き、練習する。

第13回 HSK4級

阅读、书写考试3

HSK4级阅读、书写考试3を解き、練習する。

第14回 HSK4級

听? 考试4

HSK4级听? 考试4を解き、練習する。

第15回 HSK4級

听? 考试5

HSK4级听? 考试5を解き、練習する。

2022年度 後期

1.0単位

中級中国語 A タ(検定)

池田 磨左文

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

共通教育科? に属する「中級中国語 A (検定)」では、同じく共通教育科? に属する「中級中国語 B (検定)」と共に、全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて、広い教養を? につけ、豊かな? 問性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活? してさまざまな問題を発? し、それを解決する? 策を導くことができる」ようになること・「? 分の意? を? 頭や? 書によって表現し、相? の意? を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること、そして「獲得した知識や技能を活? し、国内外において、価値観や意? の異なるさまざまな? と議論し、学びを深め、協働して、社会に役? てることができる」ようになることを? 的とする。

? 本中国語検定協会の主催する中国語検定試験3級および中華? ? 共和国政府教育部に直属する機関である孔? 学院総部/国家漢弁(国家漢語国際推广領導? 組弁公室)が主催し中華? ? 共和国政府が認定するHSK(漢語? 平考試)4級に合格できるだけ中国語? を養成することを? 指す。

HSK4級は受験? の? 常中国語の応? 能? を判定するテストであり、「幅広い範囲にわたる話題について、中国語でコミュニケーションをすることができ、中国語を? 語とする者と流ちょうに話すことができる」ことができるかどうかを測るものである。1200語程度の常? 単語と? 法知識を習得している者を対象としており、? 学の第? 外国語における第? 年度後期履修程度の学習が? 安とされている。設定されている対象者や難易度は中国語検定試験3級にほぼ相当する。

< 到達目標 >

1. 常? 語1000?2000を? につけている。(知識)
 2. ? 分の? で中国語を発? し, 読み取り, 表現することができる。(態度・習慣)
 3. 基本的な? 章を読み, 書くことができる。また, 簡単な? 常会話ができる。(技能)
 4. 常? 語による中国語複? の? 本語訳と? 本語の中国語訳ができる。(技能)
 5. ? 本中国語検定協会の主催する中国語検定試験3級に合格することができる。(技能)
 6. 中華? ? 共和国政府教育部に直属する孔? 学院総部/ 国家漢弁(国家漢語国際推广領導? 組弁公室) が主催し中華? ? 共和国政府が認定するHSK(漢語? 平考試)4級に合格することができる。(技能)
- < 授業のキーワード >
- 中国語検定試験 3 級, HSK4級, シンクロ・リーディング, シャドウイング
- < 授業の進め方 >
- 中国語検定試験の過去問を元に作成された教材を使い, 筆記問題対策とリスニング問題対策とを? 行う。

1. 筆記問題対策では, 次のように授業を進める。
 - (1) 漢字で書かれた教材の単語・? や? 章をすべて発? ができ, 意味も分かるようにしておく。(予習)
 - (2)? テストを? ない, 予習の状況を確認する。(授業)
 - (3) ピンインで書かれた単語・? や? 章を, 解説を聴きながら? 分で漢字に書き直し, 知識の理解・定着を図る。(授業)
 - (4) 漢字で書かれた単語・? や? 章を発? し, 漢字・発? ・意味の三者を結びつける。(授業・復習)

2. リスニング問題対策では, 次のように授業を進める。
 - (1) 『精選中国語基本? 例集』を熟読しておく。(予習)
 - (2) 『精選中国語基本? 例集』の例? を語順整序または?? 中訳の形で再現する? テストを? 行う。(授業)
 - (3) リスニング問題を演習する。(授業)
 - (4) 漢字で書かれた? や? 章を解説を聴きながら発? し, 漢字・発? ・意味の三者を結びつける。(授業)
 - (5) 漢字で書かれた? や? 章をシンクロ・リーディング(? 声を聴きながら? や? 章を? 読する)したり, シャドウイング(? 字を? ずに? 声を聴きながら, できるだけ正確に原? を再現する)し, ? 声を通して中国語の定着を図る。(授業・復習)

なお, 11? の中国語検定試験終了後は, HSK4級の過去問を演習する。

< 履修するにあたって >

- ・履修するにあたっては1年次配当の中国語科? を履修して単位を取得したのと同程度程度の中国語? を有していることが必要である。
- ・この科? の履修者は11?27?(?)に? なる第107

回中国語検定試験を受けなければならない。授業への出席条件を満たした上で検定試験に合格すれば, 合格した級により規定の評点が与えられる。検定試験で級を取得できなかつたり何らかの事情で検定試験を受けることができなかつたりした場合は, 定期試験を受けることにより規定の評点が与えられる。

・「中級中国語 (検定)」はAとBを? 括して履修しなければならない。

< 授業時間外に必要な学修 >

筆記問題対策・リスニング問題対策ともに, 予習・復習をきちんと? 行うにはそれぞれ合わせて1時間程度の時間が必要である。

筆記問題対策では, 問題の答えを選ぶだけでなく, 全? を? 書きし, 意味を調べ, 発? できるようにした上で授業に臨まなければならない。予習が重要である。

リスニング問題対策では, 復習が重要である。授業で扱われた? や? 章を先ず? 字を? ながら? 声に合わせて? 読し, 次に? 字を? ずに? 声に合わせて発? する練習を何度も繰り返して, ? や? 章を? 声と共に? 分のものにするよう努めること。

問題を解くのは? 分の実? を測り, 弱点を? 出すためであり, 学習がこれに? まってはならない。単に問題を解くだけではなく, ? 字・意味・? 声を? 体のものとして捉えるよう? 分で訓練をしてほしい。

< 提出課題など >

予習・復習の状況や授業で課題に取り組む姿勢は記録され, 定期試験を受けた? に対して評点C・Dを判断する際の資料となる。提出された課題は採点を施し, 次の授業で返却する。

< 成績評価方法・基準 >

・単位を取得するためにはA・B共に10回以上の出席が必要。A・Bのどちらかでも出席が10回に満たない場合は, A・Bの単位を共に与えない。

・11? の検定試験で4級に合格すれば評点Bを, 3級以上に合格すれば評点Sを与える。

・11? の検定試験で4級以上の級を取得できなかった? は, 定期試験を受けなければならない。定期試験を受けた場合の評点はA・B・C・Dの何れかとする。

・11? の検定試験で4級にだけ合格した? も定期試験を受けることができる。この場合, 評点Bを保証し, さらに定期試験の成績が良好であればAを与える。

・定期試験の難易度は中国語検定試験3級相当とする。HSK4級の内容も含む。

< テキスト >

上野恵司 『精選中国語基本? 例集』 ? 帝社 2006年 2000円 + 税

他に中国語検定試験過去問を元に作成した教材を使う。OneDriveを通じて配布する。

< 参考図書 >

1. 北京・商務印書館 ? 学館 『中? 辞典 第3版』 ? 学

館 2016年 7500円 + 税

2. 相原茂・? ? 知? ? ? 沼市? 『Why?にこたえるはじめての中国語の? 法書 新訂版』

同学社 2016年 2500円 + 税

< 授業計画 >

第1回 中検3級

筆記問題対策4

1. 第95回3級筆記問題第4・5問(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第95回3級筆記問題第4・5問について理解し、練習する。

第2回 中検3級

筆記問題対策5

1. 第94回3級筆記問題第1・2・3問(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第94回3級筆記問題第1・2・3問について理解し、練習する。

第3回 中検3級

筆記問題対策6

1. 第94回3級筆記問題第4・5問(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第94回3級筆記問題第4・5問を理解し、練習する。

第4回 中検3級

筆記問題対策7

1. 第93回3級筆記問題第1・2・3問(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第93回3級筆記問題第1・2・3問を理解し、練習する。

第5回 中検3級

筆記問題対策8

1. 第93回3級筆記問題第4・5問(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第93回3級筆記問題第4・5問を理解し、練習する。

第6回 中検3級

リスニング問題対策9

1. 『精選中国語基本? 例集』第13・14・15項? について? テストを? なう。

2. 第91回3級リスニング問題第1問を解き、練習する。

第7回 中検3級

リスニング問題対策10

1. 『精選中国語基本? 例集』第16・17・18項? について? テストを? なう。

2. 第91回3級リスニング問題第2問を解き、練習する。

第8回 中検3級

リスニング問題対策11

1. 『精選中国語基本? 例集』第19・20・21項? について? テストを? なう。

2. 第90回3級リスニング問題第1問を解き、練習する。

第9回 中検3級

リスニング問題対策12

1. 『精選中国語基本? 例集』第22・23・24項? について

? テストを? なう。

2. 第90回3級リスニング問題第2問を解き、練習する。

第10回 中検3級

リスニング問題対策13

1. 『精選中国語基本? 例集』第25・26・27項目と付について? テストを? なう。

2. 第89回3級リスニング問題第1問を解き、練習する。

第11回 HSK4級

阅读、书写考试1

HSK4級阅读、书写考试1を解き、練習する。

第12回 HSK4級

阅读、书写考试2

HSK4級阅读、书写考试2を解き、練習する。

第13回 HSK4級

阅读、书写考试3

HSK4級阅读、书写考试3を解き、練習する。

第14回 HSK4級

听? 考试4

HSK4級听? 考试4を解き、練習する。

第15回 HSK4級

听? 考试5

HSK4級听? 考试5を解き、練習する。

2022年度 後期

1.0単位

中級中国語 A ナ(読解)

池田 磨左文

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

この科? は、全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて、広い教養を? につけ、豊かな? 間性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活? してさまざまな問題を発? し、それを解決する? 策を導くことができる」ようになること・「? 分の意? を? 頭や? 書によって表現し、相? の意? を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること、そして「獲得した知識や技能を活? し、国内外において、価値観や意? の異なるさまざまな? と議論し、学びを深め、協働して、社会に役? てること」ようになることを? 的とする。

具体的には次ができるようになることを? 指す。

1.? 活の中で接する頻度の? 日常? 語500?600の範囲で平易に書き換えられた読物を教材とする。常? 語が何度も現われるように設計された? 章を読むことにより、常? 語・常? ? 型に対して発? ・意味・漢字など総合的な? から理解と記憶とを強化することができる。

2.教材には? 章全ての朗読が収められた? 声ファイルが

附属している。これを聴きながら読むことにより、リスニング能?を向上させることができると共に、発話能?も向上させることができる。

3.教材に取られた元の作品は?々の?近な?活を描いた掌編?説(ショートショート)である。これを読むことによって、1980年代から現在に?るまでの中国に暮らす?々の?活や中国社会に起こったさまざまな変化を読み取ることができる。

<到達目標>

- 1.最も基礎的な常用語や常用文型に対する理解と記憶とを強化することができる。(知識)
- 2.1980年代から現在に至るまでの中国に暮らす人々の生活や中国社会に起こったさまざまな変化を知ることができる。(知識)
- 3.中国社会の中で暮らす人々の生活や中国社会に起こっているさまざまな変化に関心を向けることができる。(態度・習慣)
- 4.ピンインに頼らず、漢字だけの文章を音読することができる。(知識・技能)
- 5.HSK(漢語水平考試)3級に相当する中国語力を身につけることができる。(技能)

ちなみにHSKの公式サイトに拠れば、HSK3級の試験の程度は「生活・学習・仕事などの場面で基本的なコミュニケーションをとることができ、中国旅行の際にも大部分のことに対応できる」、語彙量の目安は「600語程度の基礎常用中国語及びそれに相応する文法知識」とされている。これを中国語検定試験に当てはめれば「準4級~4級」に相当する。

<授業のキーワード>

音読, HSK3級

<授業の進め方>

復習?? 読練習と? 読テスト

- 1.前回の授業で学習した?章を、?声を聴きながら数回?読する。(シンクロ・リーディング)
- 2.漢字だけで打ち直された?章を材料に、指定された箇所を?読する。(??読テスト)

新しい内容の学習

- 1.教員による説明を聴きながら?章の内容を理解する。
- 2.教員または録?のあとについて?章を?読する。

<履修するにあたって>

履修するに当たっては1年次配当の中国語科?を履修して単位を取得したのと同程度の中国語?を有していることが必要。ただし、?度な中国語?は求めない。意味の解説や?読の指導は全て教員が?なう。すでに?につけている中国語?をさらに確かなものになりたいと思う?の履修を歓迎する。

<授業時間外に必要な学修>

・予習をしておけば授業での理解がさらに深まるだろうし、復習をすれば獲得した知識や技能をさ

らに固めることができる。役に?つ中国語を?につけたいと思うのであれば、予習・復習を?かすことはできない。少なくとも30分程度の時間を毎回の予習・復習それぞれに充ててほしい。

・教科書にはMP3で収録された?源が附されている。毎回の授業で「漢字だけで打ち直された?章を材料に、指定された箇所を?読する」?テストが?なわれるので、授業までに?読の練習を?分にしておく必要がある。

<提出課題など>

毎回の授業で「漢字だけで打ち直された?章を材料に、指定された箇所を?読する」?テストを実施する。

<成績評価方法・基準>

- ・単位を取得するためには10回以上の出席が必要。
- ・毎回の授業で実施する?読テストの結果を20%、定期試験の結果を80%として成績を評価する。
- ・定期試験は全問マークシート?式で、全クラス統?試験として?なう。出題形式は「空所補充」とする。

<テキスト>

史迹 『汉语分集阅读・500词』 华语教学出版社 2013年 2500円(輸?書)

(このテキストの注釈等は全て英語です。)

使?するテキストは前期の「中級中国語 A」と同じですので、前期にこの科?を履修した?はテキストを新たに購?する必要がありません。

このテキストは中国から直接輸?したものであるため、他と販売?法が異なり、書店では取り次がれません。前期の「中級中国語 A」を履修していない?に対しては、第1回の授業時に教員が教室でテキストを直接販売しません。販売の必要なおおよその冊数を事前に把握するため、新たにテキストの購?が必要な?は、第1回授業の前?までに下記「遠隔授業情報」に記載されている分野主任メールアドレスに宛ててメールを送り、その旨を知らせておいて下さい。第1回の授業時に、代?と引き換えにテキストを渡します。

<参考図書>

- 1.北京・商務印書館 小学館 『中日辞典 第3版』 小学館 2016年 7500円+税
- 2.相原茂・石田知子・戸沼市子 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』 同学社 2016年 2500円+税

<授業計画>

第1回 八、老人和鳥：前半1

「八、老人和鳥」前半の理解と音読。

第2回 八、老人和鳥：前半2

八、老人和鳥：後半1

「八、老人和鳥」前半の音読練習と音読テスト。

「八、老人和鳥」後半の理解と音読。

第3回 八、老人和鳥：後半2

九、租个儿子过年：前半1

「八、老人和鸟」後半の音読練習と音読テスト。
「九、租个儿子过年」前半の理解と音読。
第4回 九、租个儿子过年：前半2
九、租个儿子过年：後半1
「九、租个儿子过年」前半の音読練習と音読テスト。
「九、租个儿子过年」後半の理解と音読。
第5回 九、租个儿子过年：後半2
十、你是我的兄弟：前半1
「九、租个儿子过年」後半の音読練習と音読テスト。
「十、你是我的兄弟」前半の理解と音読。
第6回 十、你是我的兄弟：前半2
十、你是我的兄弟：後半1
「十、你是我的兄弟」前半の音読練習と音読テスト。
「十、你是我的兄弟」後半の理解と音読。
第7回 十、你是我的兄弟：後半2
十一、流泪的月亮：前半1
「十、你是我的兄弟」後半の音読練習と音読テスト。
「十一、流泪的月亮」前半の理解と音読。
第8回 十一、流泪的月亮：前半2
十一、流泪的月亮：後半1
「十一、流泪的月亮」前半の音読練習と音読テスト。
「十一、流泪的月亮」後半の理解と音読。
第9回 十一、流泪的月亮：後半2
十二、糖醋爱情：前半1
「十一、流泪的月亮」後半の音読練習と音読テスト。
「十二、糖醋爱情」前半の理解と音読。
第10回 十二、糖醋爱情：前半2
十二、糖醋爱情：後半1
「十二、糖醋爱情」前半の音読練習と音読テスト。
「十二、糖醋爱情」後半の理解と音読。
第11回 十二、糖醋爱情：後半2
十三、女人：全1
「十二、糖醋爱情」後半の音読練習と音読テスト。
「十三、女人」全の理解と音読。
第12回 十三、女人：全2
十四、童心：全1
「十三、女人」全の音読練習と音読テスト。
「十四、童心」全の理解と音読。
第13回 十四、童心：全2
十五、阳光路17号：前半1
「十四、童心」全の音読練習と音読テスト。
「十五、阳光路17号」前半の理解と音読。
第14回 十五、阳光路17号：前半2
十五、阳光路17号：後半1
「十五、阳光路17号」前半の音読練習と音読テスト。
「十五、阳光路17号」後半の理解と音読。
第15回 十五、阳光路17号：後半2
「十五、阳光路17号」後半の音読練習と音読テスト。

2022年度 後期

1.0単位

中級中国語 A 二(読解)【GC優先・学籍番号奇数】

傍島 史奈

<授業の方法>

講義・演習

<授業の目的>

この科? は、全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて、広い教養を? につけ、豊かな? 問性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活? してさまざまな問題を発? し、それを解決する? 策を導くことができる」ようになること・「? 分の意? を? 頭や? 書によって表現し、相? の意? を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること、そして「獲得した知識や技能を活? し、国内外において、価値観や意? の異なるさまざまな? と議論し、学びを深め、協働して、社会に役? てることができる」ようになることを? 的とする。

具体的には次ができるようになることを? 指す。

- 1.? 活の中で接する頻度の? い常? 語500?600の範囲で平易に書き換えられた読物を教材とする。常? 語が何度も現われるように設計された? 章を読むことにより、常? 語・常? ? 型に対して発? ・意味・漢字など総合的な? から理解と記憶とを強化することができる。
- 2.教材には? 章全ての朗読が収められた? 声ファイルが附属している。これを聴きながら読むことにより、リスニング能? を向上させることができると共に、発話能? も向上させることができる。
- 3.教材に取られた元の作品は? 々の? 近な? 活を描いた掌編? 説(ショートショート)である。これを読むことによって、1980年代から現在に? るまでの中国に暮らす? 々の? 活や中国社会に起こったさまざまな変化を読み取ることができる。

<到達目標>

- 1.最も基礎的な常用語や常用文型に対する理解と記憶とを強化することができる。(知識)
- 2.1980年代から現在に至るまでの中国に暮らす人々の生活や中国社会に起こったさまざまな変化を知ることができる。(知識)
- 3.中国社会の中で暮らす人々の生活や中国社会に起こっているさまざま変化に関心を向けることができる。(態度・習慣)
- 4.ピンインに頼らず、漢字だけの文章を音読することができる。(知識・技能)
- 5.HSK(漢語水平考試)3級に相当する中国語力を身につけることができる。(技能)

ちなみにHSKの公式サイトに拠れば、HSK3級の試験の程度は「生活・学習・仕事などの場面で基本的なコミュニケーションをとることができ、中国旅行の際にも大部分のことに対応できる」、語彙量の目安は「600語程度の基礎常用中国語及びそれに相応する文法知識」とされている。これを中国語検定試験に当てはめれば「準4級～4級」に相当する。

<授業のキーワード>

音読, HSK3級

<授業の進め方>

復習?? 読練習と? 読テスト

1. 前回の授業で学習した? 章を, ? 声を聴きながら数回? 読する。(シンクロ・リーディング)

2. 漢字だけで打ち直された? 章を材料に, 指定された箇所を? 読する。(? 読テスト)

新しい内容の学習

1. 教員による説明を聴きながら? 章の内容を理解する。

2. 教員または録? のあとについて? 章を? 読する。

<履修するにあたって>

履修するにあたっては1年次配当の中国語科? を履修して単位を取得したのと同程度の中国語? を有していることが必要。ただし, ? 度な中国語? は求めない。意味の解説や? 読の指導は全て教員が? 行う。すでに? につけている中国語? をさらに確かなものにしたいと思う? の履修を歓迎する。

<授業時間外に必要な学修>

・予習をしておけば授業での理解がさらに深まるだろうし, 復習をすれば獲得した知識や技能をさらに固めることができる。役に? つ中国語を? につけたいと思うのであれば, 予習・復習を? 行うことはできない。少なくとも30分程度の時間を毎回の予習・復習それぞれに充ててほしい。

・教科書にはMP3で収録された? 源が附されている。毎回の授業で「漢字だけで打ち直された?

章を材料に, 指定された箇所を? 読する」? テストが? 行われるので, 授業までに? 読の練習を?

分にしておく必要がある。

<提出課題など>

毎回の授業で「漢字だけで打ち直された? 章を材料に, 指定された箇所を? 読する」? テストを実施する。

<成績評価方法・基準>

・単位を取得するためには10回以上の出席が必要。

・毎回の授業で実施する? 読テストの結果を20%, 定期試験の結果を80%として成績を評価する。

・定期試験は全問マークシート? 式で, 全クラス統? 試験として? 行う。出題形式は「空所補充」とする。

<テキスト>

史迹 『汉语分集阅读・500词』 华语教学出版社 2013年 2500円(輸? 書)

(このテキストの注釈等は全て英語です。)

使? するテキストは前期の「中級中国語 A」と同じです。前期にこの科? を履修した? はテキストを新たに購? する必要があります。

このテキストは中国から直接輸? したものであるため, 他と販売? 法が異なり, 書店では取り次がれません。前期の「中級中国語 A」を履修していない? に対しては, 第1回の授業時に教員が教室でテキストを直接販売しません。販売の必要なおおよその冊数を事前に把握するため, 新たにテキストの購? が必要? は, 第1回授業の前? までに下記「遠隔授業情報」に記されている分野メールアドレスに宛ててメールを送り, その旨を知らせておいて下さい。第1回の授業時に, 代? と引き換えにテキストを渡します。

<参考図書>

1. 北京・商務印書館 小学館 『中日辞典 第3版』

小学館 2016年 7500円+税

2. 相原茂・石田知子・戸沼市子 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』

同学社 2016年 2500円+税

<授業計画>

第1回 八、老人和鸟：前半1

「八、老人和鸟」前半の理解と音読。

第2回 八、老人和鸟：前半2

八、老人和鸟：後半1

「八、老人和鸟」前半の音読練習と音読テスト。

「八、老人和鸟」後半の理解と音読。

第3回 八、老人和鸟：後半2

九、租个儿子过年：前半1

「八、老人和鸟」後半の音読練習と音読テスト。

「九、租个儿子过年」前半の理解と音読。

第4回 九、租个儿子过年：前半2

九、租个儿子过年：後半1

「九、租个儿子过年」前半の音読練習と音読テスト。

「九、租个儿子过年」後半の理解と音読。

第5回 九、租个儿子过年：後半2

十、你是我的兄弟：前半1

「九、租个儿子过年」後半の音読練習と音読テスト。

「十、你是我的兄弟」前半の理解と音読。

第6回 十、你是我的兄弟：前半2

十、你是我的兄弟：後半1

「十、你是我的兄弟」前半の音読練習と音読テスト。

「十、你是我的兄弟」後半の理解と音読。

第7回 十、你是我的兄弟：後半2

十一、流泪的月亮：前半1

「十、你是我的兄弟」後半の音読練習と音読テスト。

「十一、流泪的月亮」前半の理解と音読。

第8回 十一、流泪的月亮：前半2

十一、流泪的月亮：後半1

「十一、流泪的月亮」前半の音読練習と音読テスト。

「十一、流涙的月亮：後半の理解と音読。
 第9回 十一、流涙的月亮：後半2
 十二、糖醋愛情：前半1
 「十一、流涙的月亮」後半の音読練習と音読テスト。
 「十二、糖醋愛情」前半の理解と音読。
 第10回 十二、糖醋愛情：前半2
 十二、糖醋愛情：後半1
 「十二、糖醋愛情」前半の音読練習と音読テスト。
 「十二、糖醋愛情」後半の理解と音読。
 第11回 十二、糖醋愛情：後半2
 十三、女人：全1
 「十二、糖醋愛情」後半の音読練習と音読テスト。
 「十三、女人」全の理解と音読。
 第12回 十三、女人：全2
 十四、童心：全1
 「十三、女人」全の音読練習と音読テスト。
 「十四、童心」全の理解と音読。
 第13回 十四、童心：全2
 十五、阳光路17号：前半1
 「十四、童心」全の音読練習と音読テスト。
 「十五、阳光路17号」前半の理解と音読。
 第14回 十五、阳光路17号：前半2
 十五、阳光路17号：後半1
 「十五、阳光路17号」前半の音読練習と音読テスト。
 「十五、阳光路17号」後半の理解と音読。
 第15回 十五、阳光路17号：後半2
 「十五、阳光路17号」後半の音読練習と音読テスト。

 2022年度 後期

1.0単位

中級中国語 A 又(読解)【GC優先・学籍番号偶数】

上田 なおみ

 <授業の方法>

講義・演習

<授業の目的>

この科? は、全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて、広い教養を? につけ、豊かな? 間性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活? してさまざまな問題を発? し、それを解決する? 策を導くことができる」ようになること・「? 分の意? を? 頭や? 書によって表現し、相? の意? を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること、そして「獲得した知識や技能を活? し、国内外において、価値観や意? の異なるさまざまな? と議論し、学びを深め、協働して、社会に役? てることことができる」ようになることを? 的とする。

具体的には次ができるようになることを? 指す。

1.? 活の中で接する頻度の? い常? 語500?600の範囲で平易に書き換えられた読物を教材とする。常? 語が何度も現われるように設計された? 章を読むことにより、常? 語・常? ? 型に対して発? ・意味・漢字など総合的な? から理解と記憶とを強化することができる。

2.教材には? 章全ての朗読が収められた? 声ファイルが附属している。これを聴きながら読むことにより、リスニング能? を向上させることができると共に、発話能? も向上させることができる。

3.教材に取られた元の作品は? 々の? 近な? 活を描いた掌編? 説(ショートショート)である。これを読むことによって、1980年代から現在に? までの中国に暮らす? 々の? 活や中国社会に起こったさまざまな変化を読み取ることができる。

<到達目標>

1.最も基礎的な常用語や常用文型に対する理解と記憶とを強化することができる。(知識)

2.1980年代から現在に至るまでの中国に暮らす人々の生活や中国社会に起こったさまざまな変化を知ることができる。(知識)

3.中国社会の中で暮らす人々の生活や中国社会に起こっているさまざま変化に関心を向けることができる。(態度・習慣)

4.ピンインに頼らず、漢字だけの文章を音読することができる。(知識・技能)

5.HSK(漢語水平考試)3級に相当する中国語力を身につけることができる。(技能)

ちなみにHSKの公式サイトに拠れば、HSK3級の試験の程度は「生活・学習・仕事などの場面で基本的なコミュニケーションをとることができ、中国旅行の際にも大部分のことに対応できる」、語彙量の目安は「600語程度の基礎常用中国語及びそれに相応する文法知識」とされている。これを中国語検定試験に当てはめれば「準4級~4級」に相当する。

<授業のキーワード>

音読, HSK3級

<授業の進め方>

復習?? 読練習と? 読テスト

1.前回の授業で学習した? 章を、? 声を聴きながら数回? 読する。(シンクロ・リーディング)

2.漢字だけで打ち直された? 章を材料に、指定された箇所を? 読する。(? 読テスト)

新しい内容の学習

1.教員による説明を聴きながら? 章の内容を理解する。

2.教員または録? のあとについて? 章を? 読する。

<履修するにあたって>

履修するにあたっては1年次配当の中国語科? を履修して単位を取得したのと同程度程度の中国語? を有していることが必要。ただし、? 度な中国語? は求めない。意味

の解説や？ 読の指導は全て教員が？ なる。すでに？ につ
けている中国語？ をさらに確かなものになりたいと思う？
の履修を歓迎する。

< 授業時間外に必要な学修 >

・ 予習をしておけば授業での理解がさらに深まるだろう
し、復習をすれば獲得した知識や技能をさ
らに固めることができる。役に？ つ中国語を？ につけた
いと思うのであれば、予習・復習を？ かす
ことはできない。少なくとも30分程度の時間を毎回の予
習・復習それぞれに充ててほしい。

・ 教科書にはMP3で収録された？ 源が附されている。毎
回の授業で「漢字だけで打ち直された？

章を材料に、指定された箇所を？ 読する」？ テストが？
なわれるので、授業までに？ 読の練習を？

分にしておく必要がある。

< 提出課題など >

毎回の授業で「漢字だけで打ち直された？ 章を材料に、
指定された箇所を？ 読する」？ テストを実施する。

< 成績評価方法・基準 >

・ 単位を取得するためには10回以上の出席が必要。
・ 毎回の授業で実施する？ 読テストの結果を20%、定期
試験の結果を80%として成績を評価する。

・ 定期試験は全問マークシート？ 式で、全クラス統？ 試
験として？ なる。出題形式は「空所補充」とする。

< テキスト >

史迹 『汉语分集阅读・500词』 华语教学出版社 2013年
2500円(輸？ 書)

(このテキストの注釈等は全て英語です。)

使？ するテキストは前期の「中級中国語 A」と同じ
ですので、前期にこの科？ を履修した？ はテキストを新
たに購？ する必要がありません。

このテキストは中国から直接輸？ したものであるため、
他と販売？ 法が異なり、書店では取り次がれません。前
期の「中級中国語 A」を履修していない？ に対しては、
第1回の授業時に教員が教室でテキストを直接販売しま
す。販売の必要なおおよその冊数を事前に把握するため、
新たにテキストの購？ が必要な？ は、第1回授業の前？
までに下記「遠隔授業情報」に記載されている分野主任メ
ールアドレスに宛ててメールを送り、その旨を知らせて
おいて下さい。第1回の授業時に、代？ と引き換えにテ
キストを渡します。

< 参考図書 >

1. 北京・商務印書館 小学館 『中日辞典 第3版』
小学館 2016年 7500円+税
2. 相原茂・石田知子・戸沼市子 『Why?にこたえるはじ
めての中国語の文法書 新訂版』
同学社 2016年 2500円+税

< 授業計画 >

第1回 八、老人和鸟：前半1

「八、老人和鸟」前半の理解と音読。

第2回 八、老人和鸟：前半2

八、老人和鸟：後半1

「八、老人和鸟」前半の音読練習と音読テスト。

「八、老人和鸟」後半の理解と音読。

第3回 八、老人和鸟：後半2

九、租个儿子过年：前半1

「八、老人和鸟」後半の音読練習と音読テスト。

「九、租个儿子过年」前半の理解と音読。

第4回 九、租个儿子过年：前半2

九、租个儿子过年：後半1

「九、租个儿子过年」前半の音読練習と音読テスト。

「九、租个儿子过年」後半の理解と音読。

第5回 九、租个儿子过年：後半2

十、你是我的兄弟：前半1

「九、租个儿子过年」後半の音読練習と音読テスト。

「十、你是我的兄弟」前半の理解と音読。

第6回 十、你是我的兄弟：前半2

十、你是我的兄弟：後半1

「十、你是我的兄弟」前半の音読練習と音読テスト。

「十、你是我的兄弟」後半の理解と音読。

第7回 十、你是我的兄弟：後半2

十一、流泪的月亮：前半1

「十、你是我的兄弟」後半の音読練習と音読テスト。

「十一、流泪的月亮」前半の理解と音読。

第8回 十一、流泪的月亮：前半2

十一、流泪的月亮：後半1

「十一、流泪的月亮」前半の音読練習と音読テスト。

「十一、流泪的月亮」後半の理解と音読。

第9回 十一、流泪的月亮：後半2

十二、糖醋爱情：前半1

「十一、流泪的月亮」後半の音読練習と音読テスト。

「十二、糖醋爱情」前半の理解と音読。

第10回 十二、糖醋爱情：前半2

十二、糖醋爱情：後半1

「十二、糖醋爱情」前半の音読練習と音読テスト。

「十二、糖醋爱情」後半の理解と音読。

第11回 十二、糖醋爱情：後半2

十三、女人：全1

「十二、糖醋爱情」後半の音読練習と音読テスト。

「十三、女人」全の理解と音読。

第12回 十三、女人：全2

十四、童心：全1

「十三、女人」全の音読練習と音読テスト。

「十四、童心」全の理解と音読。

第13回 十四、童心：全2

十五、阳光路17号：前半1

「十四、童心」全の音読練習と音読テスト。

「十五、阳光路17号」前半の理解と音読。

第14回 十五、阳光路17号：前半2

十五、阳光路17号：後半1

「十五、阳光路17号」前半の音読練習と音読テスト。

「十五、阳光路17号」後半の理解と音読。

第15回 十五、阳光路17号：後半2

「十五、阳光路17号」後半の音読練習と音読テスト。

2022年度 後期

1.0単位

中級中国語 B カ(検定)

于 耀明

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

共通教育科? に属する「中級中国語 B (検定)」では、同じく共通教育科? に属する「中級中国語 A (検定)」と共に、全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて、広い教養を? につけ、豊かな? 間性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活? してさまざまな問題を発? し、それを解決する? 策を導くことができる」ようになること・「? 分の意? を? 頭や? 書によって表現し、相? の意? を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること、そして「獲得した知識や技能を活? し、国内外において、価値観や意? の異なるさまざまな? と議論し、学びを深め、協働して、社会に役? てることができる」ようになることを? 的とする。

? 本中国語検定協会の主催する中国語検定試験3級および中華? ? 共和国政府教育部に直属する機関である孔? 学院総部/国家漢弁(国家漢語国際推广領導? 組弁公室)が主催し中華? ? 共和国政府が認定するHSK(漢語? 平考試)4級に合格できるだけの中国語? を養成することを? 指す。

HSK4級は受験? の? 常中国語の応? 能? を判定するテストであり、「幅広い範囲にわたる話題について、中国語でコミュニケーションをすることができ、中国語を? 語とする者と流ちょうに話すことができる」ことができるかどうかを測るものである。1200語程度の常? 単語と? 法知識を習得している者を対象としており、? 学の第? 外国語における第? 年度後期履修程度の学習が? 安とされている。設定されている対象者や難易度は中国語検定試験3級にほぼ相当する。

< 到達目標 >

1. 常? 語1000?2000を? につけている。(知識)
2. ? 分の? で中国語を発? し、読み取り、表現することができる。(態度・習慣)
3. 基本的な? 章を読み、書くことができる。また、簡単な? 常会話ができる。(技能)
4. 常? 語による中国語複? の? 本語訳と? 本語の中国語訳ができる。(技能)
5. ? 本中国語検定協会の主催する中国語検定試験3級に

合格することができる。(技能)

6. 中華? ? 共和国政府教育部に直属する孔? 学院総部/国家漢弁(国家漢語国際推广領導? 組弁公室)

が主催し中華? ? 共和国政府が認定するHSK(漢語? 平考試)4級に合格することができる。(技能)

< 授業のキーワード >

中国語検定試験 3 級, HSK4級, シンクロ・リーディング, シャドウイング

< 授業の進め方 >

中国語検定試験の過去問を元に作成された教材を使い、筆記問題対策とリスニング問題対策とを? 行う。

1. 筆記問題対策では、次のように授業を進める。

- (1) 漢字で書かれた教材の単語・? や? 章をすべて発? ができ、意味も分かるようにしておく。(予習)
- (2) ? テストを? ない、予習の状況を確認する。(授業)
- (3) ピンインで書かれた単語・? や? 章を、解説を聴きながら? 分で漢字に書き直し、知識の理解・定着を図る。(授業)
- (4) 漢字で書かれた単語・? や? 章を発? し、漢字・発? ・意味の三者を結びつける。(授業・復習)

2. リスニング問題対策では、次のように授業を進める。

- (1) 『精選中国語基本? 例集』を熟読しておく。(予習)
- (2) 『精選中国語基本? 例集』の例? を語順整序または? ? 中訳の形で再現する? テストを? 行う。(授業)
- (3) リスニング問題を演習する。(授業)
- (4) 漢字で書かれた? や? 章を解説を聴きながら発? し、漢字・発? ・意味の三者を結びつける。(授業)
- (5) 漢字で書かれた? や? 章をシンクロ・リーディング(? 声を聴きながら? や? 章を? 読する)したり、シャドウイング(? 字を? ずに? 声を聴きながら、できるだけ正確に原? を再現する)し、? 声を通して中国語の定着を図る。(授業・復習)

なお、11? の中国語検定試験終了後は、HSK4級の過去問を演習する。

< 履修するにあたって >

・履修するにあたっては1年次配当の中国語科? を履修して単位を取得したのと同程度中国語? を有していることが必要である。

・この科? の履修者は11?27?(?)に? なわれる第107回中国語検定試験を受けなければならない。授業への出席条件を満たした上で検定試験に合格すれば、合格した級により規定の評点が与えられる。検定試験で級を取得できなかつたり何らかの事情で検定試験を受けることができなかつたりした場合は、定期試験を受けることにより規定の評点が与えられる。

・「中級中国語 (検定)」はAとBを? 括して履修しなければならない。

< 授業時間外に必要な学修 >

筆記問題対策・リスニング問題対策ともに、予習・復習をきちんと？ 行うにはそれぞれ合わせて1時間程度の時間が必要である。

筆記問題対策では、問題の答えを選ぶだけでなく、全？ を？ 書きし、意味を調べ、発？ できるようにした上で授業に臨まなければならない。予習が重要である。

リスニング問題対策では、復習が重要である。授業で扱われた？ や？ 章を先ず？ 字を？ ながら？ 声に合わせて？ 読み、次に？ 字を？ ずに？ 声に合わせて発？ する練習を何度も繰り返して、？ や？ 章を？ 声と共に？ 分のものにするよう努めること。

問題を解くのは？ 分の実？ を測り、弱点を？ 出すためであり、学習がこれに？ まってはならない。単に問題を解くだけではなく、？ 字・意味・？ 声を？ 体のものとして捉えるよう？ 分で訓練をしていってほしい。

< 提出課題など >

予習・復習の状況や授業で課題に取り組む姿勢は記録され、定期試験を受けた？ に対して評点C・Dを判断する際の資料となる。提出された課題は採点を施し、次の授業で返却する。

< 成績評価方法・基準 >

・単位を取得するためにはA・B共に10回以上の出席が必要。A・Bのどちらかでも出席が10回に満たない場合は、A・Bの単位を共に与えない。

・11？ の検定試験で4級に合格すれば評点Bを、3級以上に合格すれば評点Sを与える。

・11？ の検定試験で4級以上の級を取得できなかった？ は、定期試験を受けなければならない。定期試験を受けた場合の評点はA・B・C・Dの何れかとする。

・11？ の検定試験で4級にだけ合格した？ も定期試験を受けることができる。この場合、評点Bを保証し、さらに定期試験の成績が良好であればAを与える。

・定期試験の難易度は中国語検定試験3級相当とする。HSK4級の内容も含む。

< テキスト >

上野恵司 『精選中国語基本？ 例集』？ 帝社 2006年 2000円＋税

他に中国語検定試験過去問を元に作成した教材を使う。OneDriveを通じて配布する。

< 参考図書 >

1. 北京・商務印書館？ 学館 『中？ 辞典 第3版』？ 学館 2016年 7500円＋税

2. 相原茂・？ 知？ ・？ 沼市？ 『Why？ にこたえるはじめての中国語の？ 法書 新訂版』

同学社 2016年 2500円＋税

< 授業計画 >

第1回 中検3級

リスニング問題対策5

1. 『精選中国語基本？ 例集』第1・2・3項？ について？

テストを？ 行う。

2. 第94回3級リスニング問題第1問を解き、練習する。

第2回 中検3級

リスニング問題対策6

1. 『精選中国語基本？ 例集』第4・5・6項？ について？ テストを？ 行う。

2. 第94回3級リスニング問題第2問を解き、練習する。

第3回 中検3級

リスニング問題対策7

1. 『精選中国語基本？ 例集』第7・8・9項？ について？ テストを？ 行う。

2. 第93回3級リスニング問題第1問を解き、練習する。

第4回 中検3級

リスニング問題対策8

1. 『精選中国語基本？ 例集』第10・11・12項？ について？ テストを？ 行う。

2. 第93回3級リスニング問題第2問を解き、練習する。

第5回 中検3級

筆記問題対策9

1. 第92回3級筆記問題第1・2・3問(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第92回3級筆記問題第1・2・3問を理解し、練習する。

第6回 中検3級

筆記問題対策10

1. 第92回3級筆記問題第4・5問(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第92回3級筆記問題第4・5問を理解し、練習する。

第7回 中検3級

筆記問題対策11

1. 第91回3級筆記問題第1・2・3問(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第91回3級筆記問題第1・2・3問を理解し、練習する。

第8回 中検3級

筆記問題対策12

1. 第91回3級筆記問題第4・5問(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第91回3級筆記問題第4・5問を理解し、練習する。

第9回 HSK4級

听？ 考试1

HSK4級听？ 考试1を解き、練習する。

第10回 HSK4級

听？ 考试2

HSK4級听？ 考试2を解き、練習する。

第11回 HSK4級

听？ 考试3

HSK4級听？ 考试3を解き、練習する。

第12回 HSK4級

阅读、书写考试4

HSK4級阅读、书写考试4を解き、練習する。

第13回 HSK4級

阅读、书写考试5

HSK4级阅读、书写考试5を解き、練習する。

第14回 HSK4级

阅读、书写考试6

HSK4级阅读、书写考试6を解き、練習する。

第15回 HSK4级

阅读、书写考试7

HSK4级阅读、书写考试7を解き、練習する。

2022年度 後期

1.0単位

中級中国語 B サ(会話)

馬 麗娟

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

この科? は、全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて、広い教養を? につけ、豊かな? 間性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活? してさまざまな問題を発? し、それを解決する? 策を導くことができる」ようになること・「? 分の意? を? 頭や? 書によって表現し、相? の意? を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること、そして「獲得した知識や技能を活? し、国内外において、価値観や意? の異なるさまざまな? と議論し、学びを深め、協働して、社会に役? てることができる」ようになることを? 的とする。

初級中国語の学習を終えた? が中国語の会話? をさらに向上させ、中国語でコミュニケーションを図ることができるようになることを? 指す。中国語を? 語とする先? の指導の下、リスニング訓練を中? として編まれた教材を使いながら、主に聴く・話す訓練を通じて中国語の会話? を養成する。

< 到達目標 >

- 1.生活に密着した単語や語句を身に付け、口頭で言うことができる。(知識・技能)
- 2.長くない文章の内容を聴き取ることができる。(知識・技能)
- 3.短文での問答ができる。また、文章の内容について問答ができる。(知識・技能)
- 4.中国語検定試験4級リスニング問題に対応できる。(知識・技能)

< 授業のキーワード >

リスニング、会話

< 授業の進め方 >

この教科書に採られた中国語の難易度? 体は? くない。これを「聴いて話す」作業を繰り返すことによってリスニング能? を養成し、同時に総合? を充実させることを意図してこの教科書は編まれている。授業は基本的に教

科書の構成に沿いながら進めていく。授業ではできるだけ教員と学? ,あるいは学? 同? の会話を多く? ないながら進めていく。

< 履修するにあたって >

履修するにあたっては1年次配当の中国語科? を履修して単位を取得したのと同程度中国語? を有していることが必要。ただし、? 度な中国語? は求めない。意味の解説や発? の指導などは全て教員が? なる。すでに? につけている中国語? をさらに確かなものになりたいと思? う? の履修を歓迎する。

2年? 向けの会話科? には、これの他に「中国語基礎会話・? 」(とを合わせての通年登録科?)もあり、これと同じく中国語を? 語とする教員がその授業を担当する。会話練習をさらに充実させたい? は、そちらも併せて履修すると良い。

< 授業時間外に必要な学修 >

外国語の学習にあたっては、繰り返し訓練することが何よりも重要である。? 声材料を活? しながら、1時間程度の時間をかけて予習・復習をしっかりと? なってほしい。

< 提出課題など >

授業では? 頭または筆記による? テストを随時実施する。? 頭による? テストを? なった場合は、原則として? ? ? ? に対して発? を指導する。筆記による? テストを? なった場合は、採点を施し次回の授業で返却する。

< 成績評価方法・基準 >

- ・単位を取得するためには10回以上の出席が必要。
- ・定期試験は? なわない。授業中に教員と学? との間で、または学? 同? で? なわれる応? 会話や、その他適宜? なわれる? テストによって、総合的に成績を評価する。
- ・最終的な成績は補正を? ない、科? 名が同? である複数クラスの間で各評点の割合に? きな偏りのないようにする。

< テキスト >

胡金定 陳敏 吐山名月 『聴力UP! 中国語リスニングトレーニング』

朝日出版社 2016年 2300円+税

< 参考図書 >

1.北京・商務印書館 小学館『中日辞典 第3版』小学館 2016 7500+税

2.相原茂・石田知子・戸沼市子『Why? にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』

同学社 2016年 2500+税

< 授業計画 >

第1回 6.你老家在哪儿? 1/3

ステップ 場所、方角などに関する語句

第2回 6.你老家在哪儿? 2/3

ステップ 場所、方角などの尋ね方 所在地を紹介する簡単な文章

第3回 6.你老家在哪儿? 3/3

ステップ 実践問題

第4回 7.你怎么去车站? 1/3

ステップ 交通手段などに関する語句

第5回 7.你怎么去车站? 2/3

ステップ 行き方, 所要時間などの尋ね方 旅行に関する簡単な文章

第6回 7.你怎么去车站? 3/3

ステップ 実践問題

第7回 8.一共多少钱? 1/3

ステップ 勉強道具, 日用品, 衣服, お土産, 色などに関する語句

第8回 8.一共多少钱? 2/3

ステップ 値段, 色などに関する語句 買物に関する簡単な文章

第9回 8.一共多少钱? 3/3

ステップ 実践問題

第10回 9.今天你想吃什么? 1/3

ステップ 飲食などに関する語句

第11回 9.今天你想吃什么? 2/3

ステップ 食べ物, 飲み物の嗜好の尋ね方やレストランでの注文の仕方

食事に関する簡単な文章

第12回 9.今天你想吃什么? 3/3

ステップ 実践問題

第13回 10.我喜欢学汉语 1/3

ステップ 勉強, 趣味, スポーツなどに関する語句

第14回 10.我喜欢学汉语 2/3

ステップ 好きなこと, できること, 出来具合に関する尋ね方や言い方

趣味や勉強に関する簡単な文章

第15回 10.我喜欢学汉语 3/3

ステップ 実践問題

2022年度 後期

1.0単位

中級中国語 B タ(検定)

李 玲

<授業の方法>

講義・演習

<授業の目的>

共通教育科? に属する「中級中国語 B(検定)」では、同じく共通教育科? に属する「中級中国語 A(検定)」と共に、全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて、広い教養を? につけ、豊かな? 間性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活? してさまざまな問題を発? し、それを解決する? 策を導くことができる」ようになること・「? 分の意? を? 頭や? 書によって表現し、相? の意? を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること、そして「

獲得した知識や技能を活? し、国内外において、価値観や意? の異なるさまざまな? と議論し、学びを深め、協働して、社会に役? てることができる」ようになることを? 的とする。

? 本中国語検定協会の主催する中国語検定試験3級および中華?? 共和国政府教育部に直属する機関である孔? 学院総部/国家漢弁(国家漢語国際推广領導? 組弁公室)が主催し中華?? 共和国政府が認定するHSK(漢語? 平考試)4級に合格できるだけ中国語? を養成することを? 指す。

HSK4級は受験? の? 常中国語の応? 能? を判定するテストであり、「幅広い範囲にわたる話題について、中国語でコミュニケーションをすることができ、中国語を? 語とする者と流ちょうに話すことができる」ことができるかどうかを測るものである。1200語程度の常? 単語と? 法知識を習得している者を対象としており、? 学の第? 外国語における第? 年度後期履修程度の学習が? 安とされている。設定されている対象者や難易度は中国語検定試験3級にほぼ相当する。

<到達目標>

- 1.常? 語1000?2000を? につけている。(知識)
- 2.? 分の? で中国語を発? し、読み取り、表現することができる。(態度・習慣)
- 3.基本的な? 章を読み、書くことができる。また、簡単な? 常会話ができる。(技能)
- 4.常? 語による中国語複? の? 本語訳と? 本語の中国語訳ができる。(技能)
- 5.? 本中国語検定協会の主催する中国語検定試験3級に合格することができる。(技能)
- 6.中華?? 共和国政府教育部に直属する孔? 学院総部/国家漢弁(国家漢語国際推广領導? 組弁公室)が主催し中華?? 共和国政府が認定するHSK(漢語? 平考試)4級に合格することができる。(技能)

<授業のキーワード>

中国語検定試験 3 級, HSK4級, シンクロ・リーディング, シャドウイング

<授業の進め方>

中国語検定試験の過去問を元に作成された教材を使い、筆記問題対策とリスニング問題対策とを? 行う。

- 1.筆記問題対策では、次のように授業を進める。
 - (1)漢字で書かれた教材の単語・? や? 章をすべて発? ができ、意味も分かるようにしておく。(予習)
 - (2)? テストを? ない、予習の状況を確認する。(授業)
 - (3)ピンインで書かれた単語・? や? 章を、解説を聴きながら? 分で漢字に書き直し、知識の理解・定着を図る。(授業)
 - (4)漢字で書かれた単語・? や? 章を発? し、漢字・発? ・意味の三者を結びつける。(授業・復習)

2. リスニング問題対策では、次のように授業を進める。
- (1) 『精選中国語基本? 例集』を熟読しておく。(予習)
 - (2) 『精選中国語基本? 例集』の例? を語順整序または?? 中訳の形で再現する? テストを? なう。(授業)
 - (3) リスニング問題を演習する。(授業)
 - (4) 漢字で書かれた? や? 章を解説を聴きながら発? し、漢字・発? ・意味の三者を結びつける。(授業)
 - (5) 漢字で書かれた? や? 章をシンクロ・リーディング(? 声を聴きながら? や? 章を? 読する)したり、シャドウイング(? 字を? ずに? 声を聴きながら、できるだけ正確に原? を再現する)し、? 声を通して中国語の定着を図る。(授業・復習)

なお、11? の中国語検定試験終了後は、HSK4級の過去問を演習する。

<履修するにあたって>

・履修するにあたっては1年次配当の中国語科? を履修して単位を取得したのと同程度程度の中国語? を有していることが必要である。

・この科? の履修者は11?27?(?)に? なわれる第107回中国語検定試験を受けなければならない。授業への出席条件を満たした上で検定試験に合格すれば、合格した級により規定の評点が与えられる。検定試験で級を取得できなかったり何らかの事情で検定試験を受けることができなかつたりした場合は、定期試験を受けることにより規定の評点が与えられる。

・「中級中国語 (検定)」はAとBを? 括して履修しなければならない。

<授業時間外に必要な学修>

筆記問題対策・リスニング問題対策ともに、予習・復習をきちんと? なうにはそれぞれ合わせて1時間程度の時間が必要である。

筆記問題対策では、問題の答えを選ぶだけでなく、全? を? 書きし、意味を調べ、発? できるようにした上で授業に臨まなければならない。予習が重要である。

リスニング問題対策では、復習が重要である。授業で扱われた? や? 章を先ず? 字を? ながら? 声に合わせて? 読し、次に? 字を? ずに? 声に合わせて発? する練習を何度も繰り返して、? や? 章を? 声と共に? 分のものにするよう努めること。

問題を解くのは? 分の実? を測り、弱点を? 出すためであり、学習がこれに? まってはならない。単に問題を解くだけではなく、? 字・意味・? 声を? 体のものとして捉えるよう? 分で訓練をしてほしい。

<提出課題など>

予習・復習の状況や授業で課題に取り組む姿勢は記録され、定期試験を受けた? に対して評点C・Dを判断する際の資料となる。提出された課題は採点を施し、次の授業で返却する。

<成績評価方法・基準>

・単位を取得するためにはA・B共に10回以上の出席が必要。A・Bのどちらかでも出席が10回に満たない場合は、A・Bの単位を共に与えない。

・11? の検定試験で4級に合格すれば評点Bを、3級以上に合格すれば評点Sを与える。

・11? の検定試験で4級以上の級を取得できなかった? は、定期試験を受けなければならない。定期試験を受けた場合の評点はA・B・C・Dの何れかとする。

・11? の検定試験で4級にだけ合格した? も定期試験を受けることができる。この場合、評点Bを保証し、さらに定期試験の成績が良好であればAを与える。

・定期試験の難易度は中国語検定試験3級相当とする。HSK4級の内容も含む。

<テキスト>

上野恵司 『精選中国語基本? 例集』? 帝社 2006年 2000円+税

他に中国語検定試験過去問を元に作成した教材を使う。OneDriveを通じて配布する。

<参考図書>

1. 北京・商務印書館? 学館 『中? 辞典 第3版』? 学館 2016年 7500円+税

2. 相原茂・?? 知? ・? 沼市? 『Why?にこたえるはじめての中国語の? 法書 新訂版』

同学社 2016年 2500円+税

<授業計画>

第1回 中検3級

リスニング問題対策5

1. 『精選中国語基本? 例集』第1・2・3項? について? テストを? なう。

2. 第94回3級リスニング問題第1問を解き、練習する。

第2回 中検3級

リスニング問題対策6

1. 『精選中国語基本? 例集』第4・5・6項? について? テストを? なう。

2. 第94回3級リスニング問題第2問を解き、練習する。

第3回 中検3級

リスニング問題対策7

1. 『精選中国語基本? 例集』第7・8・9項? について? テストを? なう。

2. 第93回3級リスニング問題第1問を解き、練習する。

第4回 中検3級

リスニング問題対策8

1. 『精選中国語基本? 例集』第10・11・12項? について? テストを? なう。

2. 第93回3級リスニング問題第2問を解き、練習する。

第5回 中検3級

筆記問題対策9

1. 第92回3級筆記問題第1・2・3問(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第92回3級筆記問題第1・2・3問を理解し、練習する。

第6回 中検3級

筆記問題対策10

1. 第92回3級筆記問題第4・5問(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第92回3級筆記問題第4・5問を理解し、練習する。

第7回 中検3級

筆記問題対策11

1. 第91回3級筆記問題第1・2・3問(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第91回3級筆記問題第1・2・3問を理解し、練習する。

第8回 中検3級

筆記問題対策12

1. 第91回3級筆記問題第4・5問(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第91回3級筆記問題第4・5問を理解し、練習する。

第9回 HSK4級

聴? 考试1

HSK4級聴? 考试1を解き、練習する。

第10回 HSK4級

聴? 考试2

HSK4級聴? 考试2を解き、練習する。

第11回 HSK4級

聴? 考试3

HSK4級聴? 考试3を解き、練習する。

第12回 HSK4級

阅读、书写考试4

HSK4級阅读、书写考试4を解き、練習する。

第13回 HSK4級

阅读、书写考试5

HSK4級阅读、书写考试5を解き、練習する。

第14回 HSK4級

阅读、书写考试6

HSK4級阅读、书写考试6を解き、練習する。

第15回 HSK4級

阅读、书写考试7

HSK4級阅读、书写考试7を解き、練習する。

2022年度 後期

1.0単位

中級中国語 B 二(会話)【G C 優先・学籍番号奇数】

孫 輝

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

この科? は、全学のD Pに掲げるように「共通教育等を通じて、広い教養を? につけ、豊かな? 間性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活? してさまざまな問題を発? し、それを解決する? 策を導くことができる」

ようになること・「? 分の意? を? 頭や? 書によって表現し、相? の意? を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること、そして「獲得した知識や技能を活? し、国内外において、価値観や意? の異なるさまざまな? と議論し、学びを深め、協働して、社会に役? てることことができる」ようになることを? 的とする。

初級中国語の学習を終えた? が中国語の会話? をさらに向上させ、中国語でコミュニケーションを図ることができるようになることを? 指す。中国語を? 語とする先? の指導の下、リスニング訓練を中? として編まれた教材を使いながら、主に聴く・話す訓練を通じて中国語の会話? を養成する。

< 到達目標 >

1. 生活に密着した単語や語句を身に付け、口頭で言うことができる。(知識・技能)
2. 長くない文章の内容を聴き取ることができる。(知識・技能)
3. 短文での問答ができる。また、文章の内容について問答ができる。(知識・技能)
4. 中国語検定試験4級リスニング問題に対応できる。(知識・技能)

< 授業のキーワード >

リスニング、会話

< 授業の進め方 >

この教科書に採られた中国語の難易度? 体は? くない。これを「聴いて話す」作業を繰り返すことによってリスニング能? を養成し、同時に総合? を充実させることを意図してこの教科書は編まれている。授業は基本的に教科書の構成に沿いながら進めていく。授業ではできるだけ教員と学? ,あるいは学? 同? の会話を多く? ないながら進めていく。

< 履修するにあたって >

履修するにあたっては1年次配当の中国語科? を履修して単位を取得したのと同程度中国語? を有していることが必要。ただし、? 度な中国語? は求めない。意味の解説や発? の指導などは全て教員が? なう。すでにつけている中国語? をさらに確かなものにしたいと思う? の履修を歓迎する。

2年? 向けの会話科? には、これの他に「中国語基礎会話・? 」(とを合わせての通年登録科?)もあり、これと同じく中国語を? 語とする教員がその授業を担当する。会話練習をさらに充実させたい? は、そちらも併せて履修すると良い。

< 授業時間外に必要な学修 >

外国語の学習にあたっては、繰り返し訓練することが何よりも重要である。? 声材料を活? しなが、1時間程度の時間をかけて予習・復習をしっかりと? なってほしい。

< 提出課題など >

授業では？ 頭または筆記による？ テストを随時実施する。
？ 頭による？ テストを？ なった場合は，原則として？
？ ？ に対して発？ を指導する。筆記による？ テストを？
なった場合は，採点を施し次回の授業で返却する。

<成績評価方法・基準>

- ・単位を取得するためには10回以上の出席が必要。
- ・定期試験は？ なわない。授業中に教員と学？ との間で，または学？ 同？ で？ なわれる応？ 会話や，その他適宜？ なわれる？ テストによって，総合的に成績を評価する。
- ・最終的な成績は補正を？ ない，科？ 名が同？ である複数クラスの間で各評点の割合に？ きな偏りのないようにする。

<テキスト>

胡金定 陳敏 吐山名月 『聴力UP! 中国語リスニングトレーニング』

朝日出版社 2016年 2300円 + 税

<参考図書>

1.北京・商務印書館 小学館 『中日辞典 第3版』 小学館 2016 7500 + 税

2.相原茂・石田知子・戸沼市子 『Why? にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』

同学社 2016年 2500 + 税

<授業計画>

第1回 6. 你老家在哪儿？ 1/3

ステップ 場所，方角などに関する語句

第2回 6. 你老家在哪儿？ 2/3

ステップ 場所，方角などの尋ね方 所在地を紹介する簡単な文章

第3回 6. 你老家在哪儿？ 3/3

ステップ 実践問題

第4回 7. 你怎么去车站？ 1/3

ステップ 交通手段などに関する語句

第5回 7. 你怎么去车站？ 2/3

ステップ 行き方，所要時間などの尋ね方 旅行に関する簡単な文章

第6回 7. 你怎么去车站？ 3/3

ステップ 実践問題

第7回 8. 一共多少钱？ 1/3

ステップ 勉強道具，日用品，衣服，お土産，色などに関する語句

第8回 8. 一共多少钱？ 2/3

ステップ 値段，色などに関する語句 買物に関する簡単な文章

第9回 8. 一共多少钱？ 3/3

ステップ 実践問題

第10回 9. 今天你想吃什么？ 1/3

ステップ 飲食などに関する語句

第11回 9. 今天你想吃什么？ 2/3

ステップ 食べ物，飲み物の嗜好の尋ね方やレストランでの注文の仕方

食事に関する簡単な文章

第12回 9. 今天你想吃什么？ 3/3

ステップ 実践問題

第13回 10. 我喜欢学汉语 1/3

ステップ 勉強，趣味，スポーツなどに関する語句

第14回 10. 我喜欢学汉语 2/3

ステップ 好きなこと，できること，出来具合に関する尋ね方や言い方

趣味や勉強に関する簡単な文章

第15回 10. 我喜欢学汉语 3/3

ステップ 実践問題

2022年度 後期

1.0単位

中級中国語 B 又(会話)【GC優先・学籍番号偶数】

王 彩麗

<授業の方法>

講義・演習

<授業の目的>

この科？ は，全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて，広い教養を？ につけ，豊かな？ 間性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活？ してさまざまな問題を発？ し，それを解決する？ 策を導くことができる」ようになること・「？ 分の意？ を？ 頭や？ 書によって表現し，相？ の意？ を理解することで，良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること，そして「獲得した知識や技能を活？ し，国内外において，価値観や意？ の異なるさまざまな？ と議論し，学びを深め，協働して，社会に役？ てることができる」ようになることを？ 的とする。

初級中国語の学習を終えた？ が中国語の会話？ をさらに向上させ，中国語でコミュニケーションを図ることができるようになることを？ 指す。中国語を？ 語とする先？ の指導の下，リスニング訓練を中？ として編まれた教材を使いながら，主に聴く・話す訓練を通じて中国語の会話？ を養成する。

<到達目標>

- 1.生活に密着した単語や語句を身に付け，口頭で言うことができる。(知識・技能)
- 2.長くない文章の内容を聴き取ることができる。(知識・技能)
- 3.短文での問答ができる。また，文章の内容について問答ができる。(知識・技能)
- 4.中国語検定試験4級リスニング問題に対応できる。(知識・技能)

<授業のキーワード>

リスニング，会話

<授業の進め方>

この教科書に採られた中国語の難易度？ 体は？ くない。これを「聴いて話す」作業を繰り返すことによってリスニング能？ を養成し、同時に総合？ を充実させることを意図してこの教科書は編まれている。授業は基本的に教科書の構成に沿いながら進めていく。授業ではできるだけ教員と学？、あるいは学？ 同？ の会話を多く？ ないながら進めていく。

<履修するにあたって>

履修するにあたっては1年次配当の中国語科？ を履修して単位を取得したのと同等程度の中国語？ を有していることが必要。ただし、？ 度な中国語？ は求めない。意味の解説や発？ の指導などは全て教員が？ なる。すでに？ につけている中国語？ をさらに確かなものにしたいと思う？ の履修を歓迎する。

2年？ 向けの会話科？ には、これの他に「中国語基礎会話 ・ 」(と を合わせての通年登録科？)もあり、これと同じく中国語を？ 語とする教員がその授業を担当する。会話練習をさらに充実させたい？ は、そちらも併せて履修すると良い。

<授業時間外に必要な学修>

外国語の学習にあたっては、繰り返し訓練することが何よりも重要である。？ 声材料を活？ しながら、1時間程度の時間をかけて予習・復習をしっかりと？ なってほしい。

<提出課題など>

授業では？ 頭または筆記による？ テストを随時実施する。？ 頭による？ テストを？ なった場合は、原則として？ ？ ？ に対して発？ を指導する。筆記による？ テストを？ なった場合は、採点を施し次回の授業で返却する。

<成績評価方法・基準>

- ・単位を取得するためには10回以上の出席が必要。
- ・定期試験は？ ない。授業中に教員と学？ との間で、または学？ 同？ で？ えられる応？ 会話や、その他適宜？ えられる？ テストによって、総合的に成績を評価する。
- ・最終的な成績は補正を？ ない、科？ 名が同？ である複数クラスの間で各評点の割合に？ きな偏りのないようにする。

<テキスト>

胡金定 陳敏 吐山名月 『聴力UP! 中国語リスニングトレーニング』
朝日出版社 2016年 2300円+税

<参考図書>

- 1.北京・商務印書館 小学館 『中日辞典 第3版』小学館 2016 7500+税
- 2.相原茂・石田知子・戸沼市子 『Why? にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』
同学社 2016年 2500+税

<授業計画>

第1回 6.你老家在哪儿？ 1/3
ステップ 場所、方角などに関する語句

第2回 6.你老家在哪儿？ 2/3
ステップ 場所、方角などの尋ね方 所在地を紹介する簡単な文章

第3回 6.你老家在哪儿？ 3/3
ステップ 実践問題

第4回 7.你怎么去车站？ 1/3
ステップ 交通手段などに関する語句

第5回 7.你怎么去车站？ 2/3
ステップ 行き方、所要時間などの尋ね方 旅行に関する簡単な文章

第6回 7.你怎么去车站？ 3/3
ステップ 実践問題

第7回 8.一共多少钱？ 1/3
ステップ 勉強道具、日用品、衣服、お土産、色などに関する語句

第8回 8.一共多少钱？ 2/3
ステップ 値段、色などに関する語句 買物に関する簡単な文章

第9回 8.一共多少钱？ 3/3
ステップ 実践問題

第10回 9.今天你想吃什么？ 1/3
ステップ 飲食などに関する語句

第11回 9.今天你想吃什么？ 2/3
ステップ 食べ物、飲み物の嗜好の尋ね方やレストランでの注文の仕方
食事に関する簡単な文章

第12回 9.今天你想吃什么？ 3/3
ステップ 実践問題

第13回 10.我喜欢学汉语 1/3
ステップ 勉強、趣味、スポーツなどに関する語句

第14回 10.我喜欢学汉语 2/3
ステップ 好きなこと、できること、出来具合に関する尋ね方や言い方
趣味や勉強に関する簡単な文章

第15回 10.我喜欢学汉语 3/3
ステップ 実践問題

2022年度 前期
1.0単位
中級ドイツ語 A カ(総合的コミュニケーション)
森田 昌美

<授業の方法>
対面授業(演習)

<授業の目的>
ドイツ語の言語運用能力を育成しながら、日常生活を中心にドイツ語圏の文化に触れていきましょう。その学習過程で、受講者自身の文化を客観的、相対的にとらえる態度や観点を育てます。異なる文化背景を持つ人たちと

のコミュニケーションのあり方を考え、みずからの行動にフィードバックする能力を身につけ付けましょう。これは、全学ディプロマ・ポリシー「1. 幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる」、「2. さまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる」にそったものです。

<到達目標>

この授業は、ドイツ語学習を通して、ごく簡単な表現が聴き取れ、基本的な語句で自分の気持ちが伝えられるようになること、さらに日常生活での基本的な表現を理解し、ごく簡単なやり取りができるようになることを目的とします。これは、『ヨーロッパ言語共通参照枠』(略称CEFR)に照らせば、A1レベルのさらなる定着、すなわち A1+ (プラス)レベルに相当するドイツ語運用能力です。

CEFR「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠」の6つのレベルは、ゲーテ・インスティトゥートの公式HPによれば以下のようになります。

A1: まず、日常生活の場面で短く簡単なドイツ語表現が理解でき、自分でも言えるようになります。例えば自己紹介ができ、相手に簡単な質問をしたり、それに答えたりできます。食事や買い物や旅行の場面で、相手がゆっくり明瞭に話してくれるなら、コミュニケーションが図れます。

A2: 毎日の生活で頻繁に使われる言葉や表現に慣れ、仕事や家族や故郷など、自分に関する事や日常的で具体的な生活に関する事なら、ドイツ語でコミュニケーションが図れます。また日常的に必要な事柄が、簡単な文章の形で表現できるようになります。

B1: 明瞭な通常のドイツ語であれば、仕事や趣味や生活など日常的な事柄についてのドイツ語の発言や文章が理解できます。例えば、旅行中に会うさまざまな出来事に対して、必要な対応ができ、また、自分の経験や夢・希望・目標などについて話すことができます。さらに、自分に身近なテーマがあれば、意見を述べたり、その論拠を説明したりできます。

B2: 抽象的で複雑なドイツ語で表現されても、その趣旨が理解できます。自分の仕事や専門分野に関する事柄なら、ドイツ語で行われる議論の内容が理解できるだけでなく、自分の立場や意見を述べたり、あるいはひとつの意見に対する利点と不利点を論述したりできます。日常的ないくつかのテーマでは、広い範囲にわたって明確に意見と情報が交換でき、ドイツ語を母国語とする人との間で、相互に困難を感じずに自然な会話が成立します。

C1: ほとんどのテーマで、高度なドイツ語表現や長い文章が理解でき、また、その言外のニュアンスも感じ取れます。ドイツ人社会で、社会人として職業についたり大学で学んだりするのに必要十分な語彙と表現を使いこなし、複雑で微妙な内容を正確なドイツ語で表現することができます。

C2: 社会生活上、不自由なくすべてのことに対応できるドイツ語力があります。さまざまな分野の多様なテーマに関して、読む、書く、話す、聞くことが困難なくでき、また、ニュアンスにとんだ自然なドイツ語を正確に使うことができます。

<授業のキーワード>

コミュニケーション能力の育成、複数の言語・文化の多様性を理解する国際性の習得

<授業の進め方>

中級ドイツ語では、AとBは別々に履修できます。Aでは4つの言語運用能力、すなわち「読む、書く、聴く、話す」能力を有機的・効果的に身に付けるために、1年次で使用した教科書の続編前半を使います。必ず教科書を購入してください。また1年次に使用した『スタート1！コミュニケーション活動を学ぶドイツ語』も用意してください。ドイツ語圏の社会や文化についての理解も深めていきましょう。

<履修するにあたって>

この科目を履修するにあたって、宿題にきちんと取り組むことはもちろんですが、前回の授業内容をしっかり復習した上で授業に臨む習慣をつけるようにしてください。授業は、初級ドイツ語で学んだ文法事項や表現を復習しながら進めていきます。教科書を必ず購入してください。課題として出される宿題の提出状況や随時行なわれる小テストの成績は、成績評価の対象になります。

この科目は、ドイツ語をすでに学習した経験のある人を対象としたものです。1年次で初級ドイツ語科目を履修したかどうかは問いませんが、初級ドイツ語を履修したのと同程度の基礎力が必要です。

<授業時間外に必要な学修>

原則として、毎回宿題があります。次回の授業までに取り組んでおいてください。また授業で学んだ学習事項を復習する習慣を身につけましょう。宿題と復習で1時間くらいを目安に、授業時間外の学習時間を取ってください。

<提出課題など>

宿題は必ず期限までに提出してください。宿題に取り組んでいることを前提として、授業は進められます。提出物については、添削や解答例の提示など、宿題の内容にそってフィードバックします。なお宿題の提出状況は、成績評価の対象になります。

<成績評価方法・基準>

授業中の自発的な発言回数とその内容など、授業への積極的な参加 20% + 宿題の提出とその内容 20% + 小テストの成績 20% + 定期試験 40%

出席10回以上の者の成績はS・A・B・C・D、出席10回未満の者は「/」。

A評価以上の者の割合は、D評価以上の者を母数として合わせて概ね30%以内とする。

S評価は、A評価相当の中でも特に優れた者に対してのみ、これを与える。

<テキスト>

藤原三枝子他著 『スタート! 2 コミュニケーション活動で学ぶドイツ語』(三修社 2019年) 2600円 + 税

<参考図書>

授業の内容・進度に合わせて、適宜紹介します

<授業計画>

第1回 総復習

1年次の学習内容を振り返り、復習する

第2回 総復習

1年次の学習内容を振り返り、復習する

第3回 旅行

<1課の言語行為> 休暇とそこでの活動について計画する、ホテルの宿泊リストに記入する、受付で部屋をとる、利用案内を理解する、依頼する・応える、観光局に問い合わせのメールを書く

<1課の文法項目> 場所を表す前置詞と格、話法の助動詞 d?rfen, k?nnen,

wollen, m?ssen, m?chten のまとめ

第4回 旅行

<1課の言語行為> 休暇とそこでの活動について計画する、ホテルの宿泊リストに記入する、受付で部屋をとる、利用案内を理解する、依頼する・応える、観光局に問い合わせのメールを書く

<1課の文法項目> 場所を表す前置詞と格、話法の助動詞 d?rfen, k?nnen,

wollen, m?ssen, m?chten のまとめ

第5回 旅行

<1課の言語行為> 休暇とそこでの活動について計画する、ホテルの宿泊リストに記入する、受付で部屋をとる、利用案内を理解する、依頼する・応える、観光局に問い合わせのメールを書く

<1課の文法項目> 場所を表す前置詞と格、話法の助動詞 d?rfen, k?nnen,

wollen, m?ssen, m?chten のまとめ

第6回 旅行

<1課の言語行為> 休暇とそこでの活動について計画する、ホテルの宿泊リストに記入する、受付で部屋をとる、利用案内を理解する、依頼する・応える、観光局に問い合わせのメールを書く

<1課の文法項目> 場所を表す前置詞と格、話法の助動

詞 d?rfen, k?nnen,

wollen, m?ssen, m?chten のまとめ

第7回 旅行

<1課の言語行為> 休暇とそこでの活動について計画する、ホテルの宿泊リストに記入する、受付で部屋をとる、利用案内を理解する、依頼する・応える、観光局に問い合わせのメールを書く

<1課の文法項目> 場所を表す前置詞と格、話法の助動詞 d?rfen, k?nnen,

wollen, m?ssen, m?chten のまとめ

<ドイツ事情> Wohin reisen die Deutschen am liebsten?

第8回 復習

1課全体について復習する。

第9回 街角で

<2課の言語行為> 過去の行動について話す(1)、道を尋ねる、交通手段について話す、家に招待するメールを書く、インターネットで行き方を検索する

<2課の文法項目> 現在完了(1)、過去分詞、交通手段 mit + Dativ

第10回 街角で

<2課の言語行為> 過去の行動について話す(1)、道を尋ねる、交通手段について話す、家に招待するメールを書く、インターネットで行き方を検索する

<2課の文法項目> 現在完了(1)、過去分詞、交通手段 mit + Dativ

第11回 街角で

<2課の言語行為> 過去の行動について話す(1)、道を尋ねる、交通手段について話す、家に招待するメールを書く、インターネットで行き方を検索する

<2課の文法項目> 現在完了(1)、過去分詞、交通手段 mit + Dativ

第12回 街角で

<2課の言語行為> 過去の行動について話す(1)、道を尋ねる、交通手段について話す、家に招待するメールを書く、インターネットで行き方を検索する

<2課の文法項目> 現在完了(1)、過去分詞、交通手段 mit + Dativ

第13回 街角で

<2課の言語行為> 過去の行動について話す(1)、道を尋ねる、交通手段について話す、家に招待するメールを書く、インターネットで行き方を検索する

<2課の文法項目> 現在完了(1)、過去分詞、交通手段 mit + Dativ

第14回 街角で

<2課の言語行為> 過去の行動について話す(1)、道を尋ねる、交通手段について話す、家に招待するメールを書く、インターネットで行き方を検索する

<2課の文法項目> 現在完了(1)、過去分詞、交通手段 mit + Dativ

<ドイツ事情> Mit Bus und Bahn unterwegs in Berlin

第15回 総復習

1課と2課の学習事項を復習する

2022年度 前期

1.0単位

中級ドイツ語 B カ

湯浅 博章

<授業の方法>

対面授業(演習)

<授業の目的>

ドイツ語の言語運用能力を育成しながら、日常生活を中心にドイツ語圏の文化に触れていきましょう。その学習過程で、受講者自身の文化を客観的、相対的にとらえる態度や観点を育てます。異なる文化背景を持つ人たちとのコミュニケーションのあり方を考え、みずからの行動にフィードバックする能力を身につけ付けましょう。これは、全学ディプロマ・ポリシー「1. 幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる」、「2. さまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる」にそったものです。

<到達目標>

この授業は、ドイツ語学習を通して、ごく簡単な表現が聴き取れ、基本的な語句で自分の気持ちが伝えられるようになること、さらに日常生活での基本的な表現を理解し、ごく簡単なやり取りができるようになることを目的とします。これは、『ヨーロッパ言語共通参照枠』(略称CEFR)に照らせば、A1レベルのさらなる定着、すなわち A1+ (プラス)レベルに相当するドイツ語運用能力です。

CEFR「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠」の6つのレベルは、ゲーテ・インスティトゥートの公式HPによれば以下のようになります。

A1: まず、日常生活の場面で短く簡単なドイツ語表現が理解でき、自分でも言えるようになります。例えば自己紹介ができ、相手に簡単な質問をしたり、それに答えたりできます。食事や買い物や旅行の場面で、相手がゆっくり明瞭に話してくれるなら、コミュニケーションが図れます。

A2: 毎日の生活で頻繁に使われる言葉や表現に慣れ、仕事や家族や故郷など、自分に関する事や日常的で具体的な生活に関する事なら、ドイツ語でコミュニケーションが図れます。また日常的に必要な事柄が、簡単な文章の形で表現できるようになります。

B1: 明瞭な通常のドイツ語であれば、仕事や趣味や生活など日常的な事柄についてのドイツ語の発言や文章が理解できます。例えば、旅行中に出会うさまざまな出来事に対して、必要な対応ができ、また、自分の経験や夢・希望・目標などについて話すことができます。さらに、自分に身近なテーマがあれば、意見を述べたり、その論拠を説明したりできます。

B2: 抽象的で複雑なドイツ語で表現されても、その趣旨が理解できます。自分の仕事や専門分野に関する事柄なら、ドイツ語で行われる議論の内容が理解できるだけでなく、自分の立場や意見を述べたり、あるいはひとつの意見に対する利点と不利点を論述したりできます。日常的ないくつかのテーマでは、広い範囲にわたって明確に意見と情報が交換でき、ドイツ語を母国語とする人との間で、相互に困難を感じずに自然な会話が成立します。

C1: ほとんどのテーマで、高度なドイツ語表現や長い文章が理解でき、また、その言外のニュアンスも感じ取れます。ドイツ人社会で、社会人として職業についたり大学で学んだりするのに必要十分な語彙と表現を使いこなす、複雑で微妙な内容を正確なドイツ語で表現することができます。

C2: 社会生活上、不自由なくすべてのことに対応できるドイツ語力があります。さまざまな分野の多様なテーマに関して、読む、書く、話す、聞くことが困難なくでき、また、ニュアンスにとんだ自然なドイツ語を正確に使うことができます。

<授業のキーワード>

コミュニケーション能力の育成、複数の言語・文化の多様性を理解する国際性の習得

<授業の進め方>

中級ドイツ語では A・ Bは別々の教科書を使用し、別々に履修できます。ただし、 BはPCやスマートフォンを使ったドイツ語学習に重点を置きますので、そのスキルを身に付けていることが前提となります。教科書を必ず購入してください。また1年次の『スタート1! コミュニケーション活動を学ぶドイツ語』も適宜使用します。ドイツ語圏の社会や文化についての理解も深めていきましょう。

<履修するにあたって>

この科目を履修するにあたって、宿題にきちんと取り組むことはもちろんですが、前回の授業内容をしっかり復習した上で授業に臨む習慣をつけるようにしてください。授業は、初級ドイツ語で学んだ文法事項や表現を復習しながら進めていきます。教科書を必ず購入してください。課題として出される宿題の提出状況や内容は、成績評価

の対象になります。

この科目は、ドイツ語をすでに学習した経験のある人を対象としたものです。1年次で初級ドイツ語科目を履修したかどうかは問いませんが、初級ドイツ語を履修したのと同程度の基礎力が必要です。また、Wordはもちろんのこと、Power Pointを用いたプレゼンテーションの練習や、Excelを使ったグラフや表を作成する練習も行う予定です。高度なICTの技術は不要ですが、普段から、コンピューター・リテラシーに親しんでいることが前提となります。

< 授業時間外に必要な学修 >

原則として、毎回宿題があります。次回の授業までに取り組んでおいてください。また授業で学んだ学習事項を復習する習慣を身に付けましょう。宿題と復習で1時間くらいを目安に、授業時間外の学習時間を取ってください。

< 提出課題など >

宿題は、必ず期限までに提出してください。(基本的には、翌週の授業までを期限とします。) 提出されたものは、添削等の何らかの方法でフィードバックを行います。なお、宿題に取り組んでいることを前提として、授業は進められます。また、宿題の提出状況は、成績評価の対象になります。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の自発的な発言回数とその内容など、授業への積極的な参加 20% + 宿題の提出とその内容 20% + 小テストの成績 20% + 定期試験 40%

出席10回以上の者の成績はS・A・B・C・D、出席10回未満の者は「/」。

A評価以上の者の割合は、D評価以上の者を母数として合わせて概ね30%以内とする。

S評価は、A評価相当の中でも特に優れた者に対してのみ、これを与える。

< テキスト >

新倉真矢子他著 『シュピツェ 2』 (朝日出版社 2020年) 2700円 + 税

< 参考図書 >

授業の内容・進度に合わせて、適宜紹介します

< 授業計画 >

第1回 総復習

1年次の学習内容を振り返り、復習する

第2回 総復習

1年次の学習内容を振り返り、復習する

第3回 健康と病気

過去のことを話す

<1課の言語行為> 健康と病気、過去のことを話す

<1課の文法項目> 過去形 (sein・haben・werden
・話法の助動詞)

名詞の2格と2格支配の前置詞

< 発音 > ウムラウト

第4回 健康と病気

過去のことを話す

<1課の言語行為> 健康と病気、過去のことを話す

<1課の文法項目> 過去形 (sein・haben・werden
・話法の助動詞)

名詞の2格と2格支配の前置詞

< 発音 > ウムラウト

第5回 健康と病気

過去のことを話す

<1課の言語行為> 健康と病気、過去のことを話す

<1課の文法項目> 過去形 (sein・haben・werden
・話法の助動詞)

名詞の2格と2格支配の前置詞

< 発音 > ウムラウト

第6回 健康と病気

過去のことを話す

<1課の言語行為> 健康と病気、過去のことを話す

<1課の文法項目> 過去形 (sein・haben・werden
・話法の助動詞)

名詞の2格と2格支配の前置詞

< 発音 > ウムラウト

第7回 買い物

交通

<2課の言語行為> 買い物、交通について話す、読む

<2課の文法項目> 定冠詞類、副詞的4格、使役動詞、知覚動詞

< 発音 > 子音 (b-v-f / chの発音)

第8回 買い物

交通

<2課の言語行為> 買い物、交通について話す、読む

<2課の文法項目> 定冠詞類、副詞的4格、使役動詞、知覚動詞

< 発音 > 子音 (b-v-f / chの発音)

第9回 買い物

交通

<2課の言語行為> 買い物、交通について話す、読む

<2課の文法項目> 定冠詞類、副詞的4格、使役動詞、知覚動詞

< 発音 > 子音 (b-v-f / chの発音)

第10回 買い物

交通

<2課の言語行為> 買い物、交通について話す、読む、書く、聴く

<2課の文法項目> 定冠詞類、副詞的4格、使役動詞、知覚動詞

< 発音 > 子音 (b-v-f / chの発音)

第11回 街並みや暮らしの変化

<3課の言語行為> 街並みや暮らしの変化について語る、読む、書く

<3課の文法項目> 過去形 (分離・非分離動詞含む)

zu 不定詞 (句)
um zu / statt zu / ohne zu 不定詞

(句)

<3 課の発音> 二重母音

第12回 街並みや暮らしの変化

<3課の言語行為> 街並みや暮らしの変化について語る、読む、書く

<3課の文法項目> 過去形 (分離・非分離動詞含む)

zu 不定詞 (句)

um zu / statt zu / ohne zu 不定詞

(句)

<3 課の発音> 二重母音

第13回 街並みや暮らしの変化

<3課の言語行為> 街並みや暮らしの変化について語る、読む、書く

<3課の文法項目> 過去形 (分離・非分離動詞含む)

zu 不定詞 (句)

um zu / statt zu / ohne zu 不定詞

(句)

<3 課の発音> 二重母音

第14回 街並みや暮らしの変化

<3課の言語行為> 街並みや暮らしの変化について語る、読む、書く

<3課の文法項目> 過去形 (分離・非分離動詞含む)

zu 不定詞 (句)

um zu / statt zu / ohne zu 不定詞

(句)

<3 課の発音> 二重母音

第15回 総復習

1課から3課の学習事項を復習する

2022年度 後期

1.0単位

中級ドイツ語 A カ (総合的コミュニケーション)

森田 昌美

< 授業の方法 >

対面授業 (演習)

< 授業の目的 >

ドイツ語の言語運用能力を育成しながら、日常生活を中心にドイツ語圏の文化に触れていきましょう。その学習過程で、受講者自身の文化を客観的、相対的にとらえる態度や観点を育てます。異なる文化背景を持つ人々とのコミュニケーションのあり方を考え、みずからの行動にフィードバックする能力を身につけ付けましょう。これは、全学ディプロマ・ポリシー「1. 幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる」、「2. さまざまな問題を発見し、それを解決する方策を

導くことができる」にそったものです。

<到達目標>

この授業は、ドイツ語学習を通して、ごく簡単な表現が聴き取り、基本的な語句で自分の気持ちが伝えられるようになること、さらに日常生活での基本的な表現を理解し、ごく簡単なやり取りができるようになることを目的とします。これは、『ヨーロッパ言語共通参照枠』(略称CEFR)に照らせば、A1レベルのさらなる定着、すなわち A1+ (プラス) レベルに相当するドイツ語運用能力です。

CEFR「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠」の6つのレベルは、ゲーテ・インスティトゥートの公式HPによれば以下ようになります。

A1: まず、日常生活の場面で短く簡単なドイツ語表現が理解でき、自分でも言えるようになります。例えば自己紹介ができ、相手に簡単な質問をしたり、それに答えたりできます。食事や買い物や旅行の場面で、相手がゆっくり明瞭に話してくれるなら、コミュニケーションが図れます。

A2: 毎日の生活で頻繁に使われる言葉や表現に慣れ、仕事や家族や故郷など、自分に関する事や日常的で具体的な生活に関する事なら、ドイツ語でコミュニケーションが図れます。また日常的に必要な事柄が、簡単な文章の形で表現できるようになります。

B1: 明瞭な通常のドイツ語であれば、仕事や趣味や生活など日常的な事柄についてのドイツ語の発言や文章が理解できます。例えば、旅行中に出会うさまざまな出来事に対して、必要な対応ができ、また、自分の経験や夢・希望・目標などについて話すことができます。さらに、自分に身近なテーマがあれば、意見を述べたり、その論拠を説明したりできます。

B2: 抽象的で複雑なドイツ語で表現されても、その趣旨が理解できます。自分の仕事や専門分野に関する事柄なら、ドイツ語で行われる議論の内容が理解できるだけでなく、自分の立場や意見を述べたり、あるいはひとつの意見に対する利点と不利点を論述したりできます。日常的ないくつかのテーマでは、広い範囲にわたって明確に意見と情報が交換でき、ドイツ語を母国語とする人との間で、相互に困難を感じずに自然な会話が成立します。

C1: ほとんどのテーマで、高度なドイツ語表現や長い文章が理解でき、また、その言外のニュアンスも感じ取れます。ドイツ人社会で、社会人として職業についたり大学で学んだりするのに必要十分な語彙と表現を使いこなす、複雑で微妙な内容を正確なドイツ語で表現すること

ができます。

C2: 社会生活上、不自由なくすべてのことに対応できるドイツ語力があります。さまざまな分野の多様なテーマに関して、読む、書く、話す、聞くことが困難なくでき、また、ニュアンスにとんだ自然なドイツ語を正確に使うことができます。

< 授業のキーワード >

コミュニケーション能力の育成、複数の言語・文化の多様性を理解する国際性の習得

< 授業の進め方 >

中級ドイツ語では、AとBは別々に履修できます。4つの言語運用能力、すなわち「読む、書く、聴く、話す」能力を有機的・効果的に身に付けるために、1年次で使用した教科書の続編を使います。必ず教科書を購入してください。また1年次に使用した『スタート1! コミュニケーション活動を学ぶドイツ語』も持って来てください。ドイツ語圏の社会や文化についての理解も深めていきましょう。

< 履修するにあたって >

この科目を履修するにあたって、宿題にきちんと取り組むことはもちろんですが、前回の授業内容をしっかり復習した上で授業に臨む習慣をつけるようにしてください。授業は、初級ドイツ語で学んだ文法事項や表現を復習しながら進めていきます。教科書を必ず購入してください。課題として出される宿題の提出状況や随時行なわれる小テストの成績は、成績評価の対象になります。

この科目は、ドイツ語をすでに学習した経験のある人を対象としたものです。1年次で初級ドイツ語科目を履修し、加えて中級科目を前期に受講したかどうかは問いませんが、3学期を履修したのと同程度の基礎力が必要です。

< 授業時間外に必要な学修 >

原則として、毎回宿題があります。次回の授業までに取り組んでおいてください。また授業で学んだ学習事項を復習する習慣を身に付けましょう。宿題と復習で1時間くらいを目安に、授業時間外の学習時間を取ってください。

< 提出課題など >

宿題は必ず期限までに提出してください。提出されたものは、添削して返却し、注意事項を授業で伝えます。宿題に取り組んでいることを前提として、授業は進められます。宿題の提出状況は、成績評価の対象になります。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の自発的な発言回数とその内容など、授業への積極的な参加 20% + 宿題の提出とその内容 20% + 小テストの成績 20% + 定期試験 40%

出席10回以上の者の成績はS・A・B・C・D、出席10回

未満の者は「/」。

A評価以上の者の割合は、D評価以上の者を母数として合わせて概ね30%以内とする。

S評価は、A評価相当の中でも特に優れた者に対するのみ、これを与える。

< テキスト >

藤原三枝子他著 『スタート! 2 コミュニケーション活動で学ぶドイツ語』(三修社 2019年) 2600円+税

< 参考図書 >

授業の内容・進度に合わせて、適宜紹介します

< 授業計画 >

第1回 街角で

<2課の言語行為> 過去の行動について話す(1)、道を尋ねる、交通手段について話す、家に招待するメールを書く、インターネットで行き方を検索する

<2課の文法項目> 現在完了(1)、過去分詞、交通手段 mit + Dativ

第2回 街角で

<2課の言語行為> 過去の行動について話す(1)、道を尋ねる、交通手段について話す、家に招待するメールを書く、インターネットで行き方を検索する

<2課の文法項目> 現在完了(1)、過去分詞、交通手段 mit + Dativ

第3回 街の暮らし、田舎の暮らし

<3課の言語行為> どのような所に住みたいかを述べる、その理由を述べる(1)、街と田舎の暮らしを比較する、過去の行動について話す(2)、ブログにコメントを書く

<3課の文法項目> 理由を述べるための接続詞 denn、複合語、形容詞・副詞の比較級、現在完了形(2)

第4回 街の暮らし、田舎の暮らし

<3課の言語行為> どのような所に住みたいかを述べる、その理由を述べる(1)、街と田舎の暮らしを比較する、過去の行動について話す(2)、ブログにコメントを書く

<3課の文法項目> 理由を述べるための接続詞 denn、複合語、形容詞・副詞の比較級、現在完了形(2)

第5回 街の暮らし、田舎の暮らし

<3課の言語行為> どのような所に住みたいかを述べる、その理由を述べる(1)、街と田舎の暮らしを比較する、過去の行動について話す(2)、ブログにコメントを書く

<3課の文法項目> 理由を述べるための接続詞 denn、複合語、形容詞・副詞の比較級、現在完了形(2)

第6回 街の暮らし、田舎の暮らし

<3課の言語行為> どのような所に住みたいかを述べる、その理由を述べる(1)、街と田舎の暮らしを比較する、過去の行動について話す(2)、ブログにコメントを書く

<3課の文法項目> 理由を述べるための接続詞 denn、複合語、形容詞・副詞の比較級、現在完了形(2)

第7回 街の暮らし、田舎の暮らし

<3課の言語行為> どのような所に住みたいかを述べる、その理由を述べる(1)、街と田舎の暮らしを比較する、

過去の行動について話す (2)、ブログにコメントを書く
<3課の文法項目> 理由を述べるための接続詞 denn、複合語、形容詞・副詞の比較級、現在完了形 (2)

第8回 街の暮らし、田舎の暮らし

<3課の言語行為> どのような所に住みたいかを述べる、その理由を述べる (1)、街と田舎の暮らしを比較する、過去の行動について話す (2)、ブログにコメントを書く
<3課の文法項目> 理由を述べるための接続詞 denn、複合語、形容詞・副詞の比較級、現在完了形 (2)

<ドイツ事情> Hochschule in Deutschland

第9回 スポーツ、健康、余暇

<4課の言語行為> 活動に友人を誘う、スポーツの経験について語る、体調について述べる、アドバイスする、提案をする、健康のためにしていることを話す、天気について話す、統計を読む

<4課の文法項目> アドバイスと提案の表現：sollte, k?nnte, wie w?re es mit ...?

従属接続詞 wenn と語順

第10回 スポーツ、健康、余暇

<4課の言語行為> 活動に友人を誘う、スポーツの経験について語る、体調について述べる、アドバイスする、提案をする、健康のためにしていることを話す、天気について話す、統計を読む

<4課の文法項目> アドバイスと提案の表現：sollte, k?nnte, wie w?re es mit ...?

従属接続詞 wenn と語順

第11回 スポーツ、健康、余暇

<4課の言語行為> 活動に友人を誘う、スポーツの経験について語る、体調について述べる、アドバイスする、提案をする、健康のためにしていることを話す、天気について話す、統計を読む

<4課の文法項目> アドバイスと提案の表現：sollte, k?nnte, wie w?re es mit ...?

従属接続詞 wenn と語順

第12回 スポーツ、健康、余暇

<4課の言語行為> 活動に友人を誘う、スポーツの経験について語る、体調について述べる、アドバイスする、提案をする、健康のためにしていることを話す、天気について話す、統計を読む

<4課の文法項目> アドバイスと提案の表現：sollte, k?nnte, wie w?re es mit ...?

従属接続詞 wenn と語順

第13回 スポーツ、健康、余暇

<4課の言語行為> 活動に友人を誘う、スポーツの経験について語る、体調について述べる、アドバイスする、提案をする、健康のためにしていることを話す、天気について話す、統計を読む

<4課の文法項目> アドバイスと提案の表現：sollte, k?nnte, wie w?re es mit ...?

従属接続詞 wenn と語順

第14回 スポーツ、健康、余暇

<4課の言語行為> 活動に友人を誘う、スポーツの経験について語る、体調について述べる、アドバイスする、提案をする、健康のためにしていることを話す、天気について話す、統計を読む

<4課の文法項目> アドバイスと提案の表現：sollte, k?nnte, wie w?re es mit ...?

従属接続詞 wenn と語順

<ドイツ事情> Sind Deutsche sportlich?

第15回 総復習

3課と4課の学習事項を復習する

2022年度 後期

1.0単位

中級ドイツ語 B カ

湯浅 博章

<授業の方法>

対面授業（演習）

<授業の目的>

ドイツ語の言語運用能力を育成しながら、日常生活を中心にドイツ語圏の文化に触れていきましょう。その学習過程で、受講者自身の文化を客観的、相対的にとらえる態度や観点を育てます。異なる文化背景を持つ人たちとのコミュニケーションのあり方を考え、みずからの行動にフィードバックする能力を身につけ付けましょう。これは、全学ディプロマ・ポリシー「1. 幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる」、「2. さまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる」にそったものです。

<到達目標>

この授業は、ドイツ語学習を通して、ごく簡単な表現が聴き取れ、基本的な語句で自分の気持ちが伝えられるようになること、さらに日常生活での基本的な表現を理解し、ごく簡単なやり取りができるようになることを目的とします。これは、『ヨーロッパ言語共通参照枠』（略称CEFR）に照らせば、A1レベルのさらなる定着、すなわち A1+（プラス）レベルに相当するドイツ語運用能力です。

CEFR「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠」の6つのレベルは、ゲーテ・インスティトゥートの公式HPIによれば以下ようになります。

A1: まず、日常生活の場面で短く簡単なドイツ語表現が

理解でき、自分でも言えるようになります。例えば自己紹介ができ、相手に簡単な質問をしたり、それに答えたりできます。食事や買い物や旅行の場面で、相手がゆっくり明瞭に話してくれるなら、コミュニケーションが図れます。

A2: 毎日の生活で頻繁に使われる言葉や表現に慣れ、仕事や家族や故郷など、自分に関する事や日常的で具体的な生活に関する事なら、ドイツ語でコミュニケーションが図れます。また日常的に必要な事柄が、簡単な文章の形で表現できるようになります。

B1: 明瞭な通常のドイツ語であれば、仕事や趣味や生活など日常的な事柄についてのドイツ語の発言や文章が理解できます。例えば、旅行中に会おうさまざまな出来事に対して、必要な対応ができ、また、自分の経験や夢・希望・目標などについて話すことができます。さらに、自分に身近なテーマがあれば、意見を述べたり、その論拠を説明したりできます。

B2: 抽象的で複雑なドイツ語で表現されても、その趣旨が理解できます。自分の仕事や専門分野に関する事柄なら、ドイツ語で行われる議論の内容が理解できるだけでなく、自分の立場や意見を述べたり、あるいはひとつの意見に対する利点と不利点を論述したりできます。日常的ないくつかのテーマでは、広い範囲にわたって明確に意見と情報が交換でき、ドイツ語を母国語とする人との間で、相互に困難を感じずに自然な会話が成立します。

C1: ほとんどのテーマで、高度なドイツ語表現や長い文章が理解でき、また、その言外のニュアンスも感じ取れます。ドイツ人社会で、社会人として職業についたり大学で学んだりするのに必要十分な語彙と表現を使いこなす、複雑で微妙な内容を正確なドイツ語で表現することができます。

C2: 社会生活上、不自由なくすべてのことに対応できるドイツ語力があります。さまざまな分野の多様なテーマに関して、読む、書く、話す、聞くことが困難なくでき、また、ニュアンスにとんだ自然なドイツ語を正確に使うことができます。

< 授業のキーワード >

コミュニケーション能力の育成、複数の言語・文化の多様性を理解する国際性の習得

< 授業の進め方 >

中級ドイツ語では A・Bは別々の教科書を使用します。

AとBは別々に履修できます。BはPCやスマートフォンを使ったドイツ語学習に重点を置きます。4つの言語運用能力、すなわち「読む、書く、聴く、話す」能力

を有機的・効果的に身に付けましょう。必ず教科書を購入してください。また1年次に使用した『スタート1! コミュニケーション活動を学ぶドイツ語』も持って来てください。ドイツ語圏の社会や文化についての理解も深めていきましょう。

< 履修するにあたって >

この科目を履修するにあたって、宿題にきちんと取り組むことはもちろんですが、前回の授業内容をしっかり復習した上で授業に臨む習慣をつけるようにしてください。授業は、初級ドイツ語で学んだ文法事項や表現を復習しながら進めていきます。教科書を必ず購入してください。課題として出される宿題の提出状況や随時行なわれる小テストの成績は、成績評価の対象になります。

この科目は、ドイツ語をすでに学習した経験のある人を対象としたものです。1年次で初級ドイツ語科目を履修したかどうかは問いませんが、初級ドイツ語を履修したのと同程度の基礎力が必要です。また、Wordはもちろんのこと、Power Pointを用いてプレゼンテーションをしたり、Excelを使ってグラフや表も作成します。高度なICTの技術は不要ですが、普段から、コンピューター・リテラシーに親しんでいることが前提となります。

< 授業時間外に必要な学修 >

原則として、毎回宿題があります。次回の授業までに取り組んでおいてください。また授業で学んだ学習事項を復習する習慣を身に付けましょう。宿題と復習で1時間くらいを目安に、授業時間外の学習時間を取ってください。

< 提出課題など >

宿題は必ず期限までに提出してください。(基本的には、翌週の授業までを期限とします。)提出された課題については、添削等の何らかの方法でフィードバックを行います。なお、宿題に取り組んでいることを前提として、授業は進められます。また、宿題の提出状況は、成績評価の対象になります。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の自発的な発言回数とその内容など、授業への積極的な参加 20% + 宿題の提出とその内容 20% + 小テストの成績 20% + 定期試験 40%

出席10回以上の者の成績はS・A・B・C・D、出席10回未満の者は「/」。

A評価以上の者の割合は、D評価以上の者を母数として合わせて概ね30%以内とする。

S評価は、A評価相当の中でも特に優れた者に対してのみ、これを与える。

< テキスト >

新倉真矢子他著 『シュピッツェ 2』(朝日出版社 2020年) 2700円 + 税

< 参考図書 >

授業の内容・進度に合わせて、適宜紹介します。

< 授業計画 >

第1回 総復習

前期の学習内容を振り返り、復習する

第2回 家事、1日の行動、過去のことを話す

<4課の言語行為> 家事、1日の行動、過去のことを話す

<4課の文法項目> 方向・場所を表す前置詞

現在完了形(分離動詞・非分離前綴
つづりのある動詞・

-ieren で終わる動詞)

<4課の発音> 長母音と短母音

第3回 家事、1日の行動、過去のことを話す

<4課の言語行為> 家事、1日の行動、過去のことを話す

<4課の文法項目> 方向・場所を表す前置詞

現在完了形(分離動詞・非分離前綴
つづりのある動詞・

-ieren で終わる動詞)

<4課の発音> 長母音と短母音

第4回 家事、1日の行動、過去のことを話す

<4課の言語行為> 家事、1日の行動、過去のことを話す

<4課の文法項目> 方向・場所を表す前置詞

現在完了形(分離動詞・非分離前綴
つづりのある動詞・

-ieren で終わる動詞)

<4課の発音> 長母音と短母音

第5回 家事、1日の行動、過去のことを話す

<4課の言語行為> 家事、1日の行動、過去のことを話す

<4課の文法項目> 方向・場所を表す前置詞

現在完了形(分離動詞・非分離前綴
つづりのある動詞・

-ieren で終わる動詞)

<4課の発音> 長母音と短母音

第6回 家事、1日の行動、過去のことを話す

<4課の言語行為> 家事、1日の行動、過去のことを話す

<4課の文法項目> 方向・場所を表す前置詞

現在完了形(分離動詞・非分離前綴
つづりのある動詞・

-ieren で終わる動詞)

<4課の発音> 長母音と短母音

第7回 身だしなみ

<5課の言語行為> 身だしなみについて話す、読む

<5課の文法項目> 再帰代名詞、再帰動詞

<5課の発音> lとr

第8回 身だしなみ

<5課の言語行為> 身だしなみについて話す、読む

<5課の文法項目> 再帰代名詞、再帰動詞

<5課の発音> lとr

第9回 身だしなみ

<5課の言語行為> 身だしなみについて話す、読む

<5課の文法項目> 再帰代名詞、再帰動詞

<5課の発音> lとr

第10回 身だしなみ

<5課の言語行為> 身だしなみについて話す、読む

<5課の文法項目> 再帰代名詞、再帰動詞

<5課の発音> lとr

第11回 料理、食文化

<6課の言語行為> 料理。食文化について話す、読む

<6課の文法項目> 命令形

接続法 式(丁寧な表現)

複合名詞

<6課の発音> 文末イントネーション

第12回 料理、食文化

<6課の言語行為> 料理。食文化について話す、読む

<6課の文法項目> 命令形

接続法 式(丁寧な表現)

複合名詞

<6課の発音> 文末イントネーション

第13回 料理、食文化

<6課の言語行為> 料理。食文化について話す、読む

<6課の文法項目> 命令形

接続法 式(丁寧な表現)

複合名詞

<6課の発音> 文末イントネーション

第14回 料理、食文化

<6課の言語行為> 料理。食文化について話す、読む

<6課の文法項目> 命令形

接続法 式(丁寧な表現)

複合名詞

<6課の発音> 文末イントネーション

第15回 料理、食文化

<6課の言語行為> 料理。食文化について話す、読む

<6課の文法項目> 命令形

接続法 式(丁寧な表現)

複合名詞

<6課の発音> 文末イントネーション

2022年度 前期

1.0単位

中級フランス語 A ア(検定クラス)

本多 雄一郎

< 授業の方法 >

対面授業

< 授業の目的 >

1. 検定合格に十分な能力, すなわち言葉を運用する上で基本となる「聞く」・「話す」・「読む」能力を身につけることができる。

2. 検定の問題を通して初級フランス語の授業で学んだフ

ランス語の基礎知識をより深め、日常生活で使用されている幅広い会話表現を実践できる。

3.全学ディプロマポリシーに関連して、検定の授業を通して得たフランス・フランス語の知識に基づいて西洋の異文化に対する理解を深めるとともに、日本と異なる社会に属する人々との円滑な交流を実践することができる。生涯的にはフランス語の確かな運用能力をもとにさらなる上級のクラスを目指せる。

<到達目標>

フランス語検定の5・4・3級に合格するのに必要なフランス語の運用能力が身につけられる。

5級レベルでは、初歩的な日常的フランス語を理解し、読み、聞き、書くことができる(仏検HPから)。

仏検HPから引用すると次の通り。

・読む(初歩的な単文の構成と文意の理解、短い初歩的な対話の理解)。

・聞く(初歩的な文の聞き分け、挨拶等日常的な応答表現の理解、数の聞き取り)。

・文法知識(初歩的な日常表現の単文を構成するのに必要な文法的知識。動詞としては、直説法現在、近接未来、近接過去、命令法の範囲内)。

<授業のキーワード>

フランス語検定 フランス語の日常会話表現

<授業の進め方>

授業の前半では、テキストの毎回の所定の項目について、講義および演習により、習得する。aクラスでは基本的にテキストの文法項目についての説明と練習問題を行う。授業の後半では、各教員により、実際の検定試験による模試や、会話教材による聞き取り、映画の聞き取りなど、それぞれの教員独自の教材により、フランス語能力を養成していく。

<履修するにあたって>

入学時に選択した言語にかかわらず、原則として自由などの言語でも選択できる。語学力をさらに伸ばすために積極的に履修してほしい。ただし、1年次にその外国語科目を履修した学生と同等程度の基礎力は必要。2年次配当の外国語科目においては、再履修初級科目を除いて全くの初学者を対象とする授業は行なわない。2年次以降で新しい外国語を学びたい人や卒業要件を満たすために新しい外国語を履修することを迫られている人は、「再履修初級」科目を履修すること。

<授業時間外に必要な学修>

使用するテキストや配布する仏検資料に含まれる練習問題で授業中に解答できなかった箇所を自分で解くことを含めて、少なくとも次の授業までに復習を二時間以上すること。

<提出課題など>

検定問題に関する課題については授業中に解答・解説をする。

<成績評価方法・基準>

・単位を取得するためには10回以上の出席が必要。
・6月の検定試験で5級に合格すれば定期試験を免除して評点Bを与える。さらに定期試験を受ければ成績次第で評点AあるいはSを与える。

・4級以上に合格すれば定期試験を免除して評点Aを与える。さらに定期試験を受ければ成績次第で評点Sを与える。

・6月の検定試験で級を取得できなかった、あるいは受験しなかった場合、定期試験を受けなければなりません。評点は相対評価によるものとし、おおむね上位から30%をSとA、30%をB、20~40%をC、20~0%をDとする。

・定期試験、課題レポートの難易度は仏検4級相当とする。

<テキスト>

『ニヴォー・サンク』、富田正二著、駿河台出版社

<授業計画>

第1回 ガイダンス、 仏検問題の形式の説明

授業の進め方を説明する。仏検問題の形式の説明と模擬練習。

第2回 名詞の前につくことば(1)

冠詞(不定冠詞、定冠詞、部分冠詞) 12ページ

第3回 名詞の前につくことば(2)

指示形容詞、所有形容詞(14ページ)

第4回 動詞の活用(1)

-er型動詞、不規則動詞avoir, etre, aller, ouvrirの現在形(20ページ)

第5回 動詞の活用(2)

-ir型動詞、不規則動詞、venir, partir, voir, devoir, など(22ページ)

第6回 動詞の活用(3)

dire, faire, prendre, pouvoir, vouloirなど(24ページ)

第7回 単語配列(1)

平叙文、否定文、命令文(34ページ)

第8回 単語配列(2)

疑問文(38ページ)

第9回 単語配列(3)

非人称構文、比較構文(40ページ)

第10回 単語配列(4)

形容詞と副詞の位置、前置詞の用法(44ページ)

第11回 単語配列(5)

よく使われる表現(45ページ)

第12回 応答問題(1)

疑問詞を用いない疑問文(48ページ)

第13回 応答問題(2)

疑問形容詞、疑問副詞を用いる疑問文(52ページ)

第14回 応答問題(3)

疑問代名詞を用いる疑問文(56ページ)

第15回 応答問題(4)

会話表現(60ページ)

2022年度 前期

1.0単位

中級フランス語 A カ(総合的コミュニケーション)

寺尾 佳子

< 授業の方法 >

対面授業(演習)

< 授業の目的 >

この科目の受講生は、「初級フランス語I」で習得した知識をもとに、中級レベルのフランス語の総合的なコミュニケーション能力(聞く、読む、話す、書く力)をバランスよく身につけることを目的とします。

授業中に受講生は、各課で習う文法事項に関連したビデオを視聴し、クイズ形式の文法問題を解き、ペア・グループで表現を練習することにより、日常の様々な場面で幅広く使えるようなフランス語の知識を主体的に獲得していきます。ビデオでは、フランス留学中の主人公がホストファミリーや友人と様々な経験をする様子を見ます。また、練習問題では、適宜インターネットで調べ学習を行ってクラスで情報を共有することで、フランスでの暮らしを仮想体験することができるでしょう。各課の最後では、パリ観光、フランスの地方、芸術等に関するテキストを読んだり、自分で文章を書いたりする練習にもチャレンジします。

授業を通して、実践的な言語能力に加え、フランス語圏の文化や社会に関する知識も身につけることで、異文化体験をしながら、汎用性の高いフランス語の力を習得することを目的とします。これは、全学ディプロマ・ポリシー「1. 幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる」、「2. さまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる」に沿ったものです。

< 到達目標 >

受講生は、「中級フランス語 IA、IIA」修了時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR) A1+レベルに到達することを目指します。ヨーロッパ言語共通参照枠とは、言語の枠や国境を越えて、外国語の運用能力を同一の基準で測ることが出来る国際標準のことです。

ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)の6つのレベルは、日本フランス語試験管理センターによれば以下のようになります。

A1: 簡単なやりとりが可能で、自分や、身近な物事について話すことができます。

A2: 日常生活に関わる簡単な課題を実行できます。丁寧な表現を用いたり、もっとも日常的なやり取りを交わしたりすることができます。

B1: やりとりを維持すること、議論を理解、継続し、

自分の見解や意見を述べるすることができます。日常生活の予期せぬ状況にも対処できます。

B2: 自分の意見を主張するために筋道の通った議論の流れを作ることができ、自分の見解を展開し、交渉することができます。このレベルの受験者は、社交的な談話の中で流暢に会話を交わし、自分の間違いを自分で修正することができるようになっていきます。

C1: 流暢で自然なコミュニケーションを成立させることが可能です。豊富な語彙があり、自分の意見を伝える際に適切な表現を選択できます。明瞭で構成の整った話を滑らかに発し、様々な構文に習熟した使用者であることが見て取れます。

C2: 言語への熟練が、表現の正確さや適切さ、流暢さに現われます。受験者は学術的な、あるいは高度な課題を実現することができます。

< 授業のキーワード >

コミュニケーション能力の獲得、異文化体験、フランス語圏の社会・文化

< 授業の進め方 >

3回の授業で1課を終わらせるペースで教科書を進めていきます。「初級フランス語I、II」の授業で使用した教科書『マエストロ1』の後半部を扱います。

まず、各課で習う文法事項に関連したビデオを見て、教師の質問や教科書の設問に答えて、ビデオの大まかな内容を推測します。

それから、文法ルールを受講生が自ら発見する形で学び取り、ペア・グループワークを活用することで、学習事項を定着させ、自分でも応用できるようにします。適宜、文化的要素が取り入れられたある程度の文章を読んだり、文を書いたりする練習もします。

授業の理解度を把握するために、必要に応じて小テストに挑戦します。

< 履修するにあたって >

すでに学習した「初級フランス語I、II」の知識をさらに深めるため、積極的に履修してください。

この科目は、フランス語をすでに学習した経験のある人を対象としたものです。1年次で初級フランス語科目を履修したかどうかは問いませんが、初級フランス語を履修したのと同程度の基礎力が必要です。

単位を取得するためには10回以上の出席が必要です。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業後には新しく習ったことを中心に、1時間ほど復習を行いましょう。少しずつ学修を継続することで、確実に力がついていくのを実感できるでしょう。

< 提出課題など >

授業で課された課題は添削後コメントをつけて返却しま

す。課題は成績評価の対象になります。
実施したテストについては、授業のなかで解説したり、dotCampusを通してフィードバックしたりします。

<成績評価方法・基準>

授業への積極的な参加 20% + 宿題の提出とその内容 20% + 小テストの成績 20% + 定期試験 40%
定期試験を受けるには、全15回の授業のうち10回以上の授業の出席日数が必要です。

* 評点 S・A の取得者の割合は、概ね単位取得者の30%を超えないものとします。

<テキスト>

北村亜矢子、Durrenberger Vincent 『マエストロ1』(朝日出版社 2020年) 定価2,700円 + 税

<参考図書>

授業の内容に応じて、授業中に適宜指示します。

<授業計画>

第1回 Introduction

Exprimer le pass? r?cent

オリエンテーション：授業履修の注意事項、成績評価方法・基準の説明。

テキスト15課：今していることを言う
進行形

第2回 Exprimer le pass? r?cent

テキスト15課：したばかりのことを言う
近接過去

第3回 Exprimer le pass? r?cent

テキスト15課：贈り物について相談する
間接目的補語人称代名詞 lui, leur、主語人称代名詞 on

第4回 Parler au pass?

テキスト16課：過去の行為や出来事を語る(1)
複合過去(1) (avoir + p.p.)

第5回 Parler au pass?

テキスト16課：過去の行為や出来事を語る(1)
過去分詞の作り方

第6回 Parler au pass?

テキスト16課：過去の行為や出来事を語る(1)
複合過去の否定形

第7回 Parler au pass?2

テキスト17課：過去の行為や出来事を語る(2)
複合過去(1) (?tre + p.p.)

第8回 Parler au pass?2

テキスト17課：過去の行為や出来事を語る(2)
過去分詞の性数一致

第9回 Parler au pass?2

テキスト17課：過去の行為や出来事を語る(2)
過去分詞の性数一致

第10回 Parler au pass?3

テキスト18課：過去の行為や出来事を語る(3)
代名動詞の複合過去

第11回 Parler au pass?3

テキスト18課：過去の行為や出来事を語る(3)
複合過去のまとめ

第12回 Parler au pass?3

テキスト18課：過去の行為や出来事を語る(3)
複合過去のまとめ

第13回 Comparer

テキスト19課：比較する
不定詞構文 vouloir / pouvoir / devoir + 不定詞

第14回 Comparer

テキスト19課：比較する
比較級

第15回 Comparer

テキスト19課：比較する
最上級

2022年度 前期

1.0単位

中級フランス語 A タ(検定クラス)

門脇 伸二

<授業の方法>

対面授業

<授業の目的>

1. 検定合格に十分な能力、すなわち言葉を運用する上で基本となる「聞く」・「話す」・「読む」能力を身につけることができる。
2. 検定の問題を通して初級フランス語の授業で学んだフランス語の基礎知識をより深め、日常生活で使用されている幅広い会話表現を実践できる。
3. 全学ディプロマポリシーに関連して、検定の授業を通して得たフランス・フランス語の知識に基づいて西洋の異文化に対する理解を深めるとともに、日本と異なる社

会に属する人々との円滑な交流を実践することができる。生涯的にはフランス語の確かな運用能力をもとにさらなる上級のクラスを目指す。

<到達目標>

フランス語検定の5・4・3級に合格するのに必要なフランス語の運用能力が身につけられる。

5級レベルでは、初歩的な日常的フランス語を理解し、読み、聞き、書くことができる(仏検HPから)。

仏検HPから引用すると次の通り。

・読む(初歩的な単文の構成と文意の理解、短い初歩的な対話の理解)。

・聞く(初歩的な文の聞き分け、挨拶等日常的な応答表現の理解、数の聞き取り)。

・文法知識(初歩的な日常表現の単文を構成するのに必要な文法的知識。動詞としては、直説法現在、近接未来、近接過去、命令法の範囲内)。

<授業のキーワード>

フランス語検定 フランス語の日常会話表現

<授業の進め方>

授業の前半では、テキストの毎回の所定の項目について、講義および演習により、習得する。aクラスでは基本的にテキストの文法項目についての説明と練習問題を行う。授業の後半では、各教員により、実際の検定試験による模試や、会話教材による聞き取り、映画の聞き取りなど、それぞれの教員独自の教材により、フランス語能力を養成していく。

<履修するにあたって>

入学時に選択した言語にかかわらず、原則として自由にもどの言語でも選択できる。語学力をさらに伸ばすために積極的に履修してほしい。ただし、1年次にその外国語科目を履修した学生と同等程度の基礎力は必要。2年次配当の外国語科目においては、再履修初級科目を除いて全くの初学者を対象とする授業は行なわない。2年次以降で新しい外国語を学びたい人や卒業要件を満たすために新しい外国語を履修することを迫られている人は、「再履修初級」科目を履修すること。

<授業時間外に必要な学修>

使用するテキストや配布する仏検資料に含まれる練習問題で授業中に解答できなかった箇所を自分で解くことを含めて、少なくとも次の授業までに復習を二時間以上すること。

<提出課題など>

検定問題に関する課題については授業中に解答・解説をする。

<成績評価方法・基準>

・単位を取得するためには10回以上の出席が必要。

・6月の検定試験で5級に合格すれば定期試験を免除して評点Bを与える。さらに定期試験を受ければ成績次第で評点AあるいはSを与える。

・4級以上に合格すれば定期試験を免除して評点Aを与

える。さらに定期試験を受ければ成績次第で評点Sを与える。

・6月の検定試験で級を取得できなかった、あるいは受験しなかった場合、定期試験を受けなければなりません。評点は相対評価によるものとし、おおむね上位から30%をSとA、30%をB、20~40%をC、20~0%をDとする。

・定期試験、課題レポートの難易度は仏検4級相当とする。

<テキスト>

『ニヴォー・サンク』、富田正二著、駿河台出版社

<授業計画>

第1回 ガイダンス、 仏検問題の形式の説明

授業の進め方を説明する。仏検問題の形式の説明と模擬練習。

第2回 名詞の前につくことば(1)

冠詞(不定冠詞、定冠詞、部分冠詞)12ページ

第3回 名詞の前につくことば(2)

指示形容詞、所有形容詞(14ページ)

第4回 動詞の活用(1)

-er型動詞、不規則動詞avoir, etre, aller, ouvrirの現在形(20ページ)

第5回 動詞の活用(2)

-ir型動詞、不規則動詞、venir, partir, voir, devoir, など(22ページ)

第6回 動詞の活用(3)

dire, faire, prendre, pouvoir, vouloirなど(24ページ)

第7回 単語配列(1)

平叙文、否定文、命令文(34ページ)

第8回 単語配列(2)

疑問文(38ページ)

第9回 単語配列(3)

非人称構文、比較構文(40ページ)

第10回 単語配列(4)

形容詞と副詞の位置、前置詞の用法(44ページ)

第11回 単語配列(5)

よく使われる表現(45ページ)

第12回 応答問題(1)

疑問詞を用いない疑問文(48ページ)

第13回 応答問題(2)

疑問形容詞、疑問副詞を用いる疑問文(52ページ)

第14回 応答問題(3)

疑問代名詞を用いる疑問文(56ページ)

第15回 応答問題(4)

会話表現(60ページ)

2022年度 前期

1.0単位

中級フランス語 A ナ(総合的コミュニケーション)

南 コニー

< 授業の方法 >

遠隔授業(オンデマンド授業)

< 授業の目的 >

「初級フランス語I」と「中級フランス語I」で習得した知識をもとに、実用フランス語技能検定(3級)に必要なレベルに到達することを目的とします。

前期に引き続き、フランス語文法の基礎を身につけつつ、日常の様々な場面で幅広く使えるようなフランス語の知識を獲得します。

授業中には、ペア・ワークやグループ・ワークを活用することで、フランス語のコミュニケーション能力を着実に高めてゆくとともに、教科書『なびふらんせ2』で扱われている世界遺産や地方都市等のテーマや、適宜、補助教材でフランスの音楽、映画、ニュース等にも触れます。実践的な言語の能力に加え、フランスの社会や文化、歴史等の幅広い知識も身につけることで、異文化体験をしながら、汎用性の高いフランス語の力を習得することを目的とします。これは、全学ディプロマ・ポリシー「1. 幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる」、「2. さまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる」にそったものです。

< 到達目標 >

「初級フランス語II」において、受講生は、フランス語検定3級のレベルに達することを目指します。ちなみに、3級のレベルでみなさんは、以下のように、日常的表現について「読む」、「書く」、「聞く」、「文法知識」といった総合的な語学運用能力の獲得を目指します。

読む：日常的に使われる表現を理解し、簡単な文による長文の内容を理解できる

書く：日常生活で使われる簡単な表現や、基本的語句を正しく書くことができる

聞く：簡単な会話を聞いて内容を理解できる

文法知識：基本的文法知識全般

< 授業のキーワード >

コミュニケーション能力の獲得、異文化体験、フランスの社会・歴史・文化

< 授業の進め方 >

まず、フランス語圏への旅行や日常生活で実際に使えるような会話文を聞き、自分でも話せるように練習します。

それから、新しく出てきた文法事項をしっかりとおさえて、会話の文章の構造を理解します。

さらに、練習問題を解き、新しい知識を定着させることで、自分でも応用できるようにします。

授業の理解度を把握するために、必要に応じて小テストを実施します。

なお、積極的に自主学習をすることをおすすめします。教科書『なびふらんせ2』には「フランス語学習サポート教材：Web なびふらんせ2」がついています。このWeb版では、フランスの様々な都市の動画やフランス語の音声などを視聴し、予習復習をすることができます。また、各課の最後には、ポートフォリオ付きの「テスト」があります。これを活用することで、自分の理解度や強化していくべき点などを把握することが可能です。

< 履修するにあたって >

すでに学習した「初級フランス語I」の知識をさらに深めるため、積極的に履修してください。

この科目は、フランス語をすでに学習した経験のある人を対象としたものです。1年次で初級フランス語科目を履修したかどうかは問いませんが、初級フランス語を履修したのと同程度の基礎力が必要です。

単位を取得するためには10回以上の出席が必要です。

< 授業時間外に必要な学修 >

教科書『なびふらんせ2』や付属の「フランス語学習サポート教材：Web なびふらんせ2」を活用しつつ、授業後には新しく習ったことを中心に、1時間ほど復習を行いましょ。少しずつ学修を継続することで、確実に力がついていくのを実感できるでしょう。

< 提出課題など >

授業で課された課題は添削後コメントをつけて返却しません。課題は成績評価の対象になります。

実施したテストについては、授業のなかで解説したり、dotCampusを通してフィードバックしたりします。

< 成績評価方法・基準 >

「授業記録」の提出と内容30% + 「課題」の提出と内容30% +

5回の小テスト40%

< テキスト >

『なびふらんせ2』、有富智世他著、朝日出版社、2019

< 参考図書 >

授業の内容に応じて、授業中に適宜指示します。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション、前期の復習

授業の進め方や評価方法の説明、前期の内容のおさらい

第2回 第5課

カルカッソヌ

会話練習と現在分詞を使った表現(p.30,31)
第3回 第5課
カルカッソヌ
ジェロンディフを使った文章読解、現在分詞の文法解説
(p.31,32)
第4回 第5課
カルカッソヌ
使役動詞と知覚動詞の文法解説、文法とリスニングの練習問題(p.32,33)
第5回 第6課
コート・ダジュール
会話練習、形容詞・乗り物(p.34,35)
第6回 第6課
コート・ダジュール
比較級、最上級を使った文章読解、比較級の文法解説(p.36,37)
第7回 第6課
コート・ダジュール
最上級と特殊な比較級と最上級。文法とリスニングの練習問題(p.36,37)
第8回 復習
第5課と第6課のまとめとして、復習を行う。
第9回 第7課
プロヴァンス
会話練習、公共の建物や店(p.38,39)
第10回 第7課
プロヴァンス
中性代名詞を使った文章読解、中性代名詞の文法解説(p.39,40)
第11回 第7課
プロヴァンス
代名詞の語順の文法解説、文法とリスニングの練習問題(p.40,41)
第12回 第8課
リヨン
会話練習、toutを使った表現(p.42,43)
第13回 第8課
リヨン
関係代名詞を使った文章読解、関係代名詞を文法解説(p.43,44)
第14回 第8課
リヨン
過去分詞の性数一致、toutの用法の文法解説、文法とリスニングの練習問題(p.44,45)
第15回 後期の総まとめ
第5課から第8課までの総復習

2022年度 前期
1.0単位
中級フランス語 B カ (ICTによる学習)
山本 健二

<授業の方法>
対面授業(演習)

<授業の目的>
初級フランス語で学習したことをベースに、より詳しくフランス語と文化を学んでいく。

日常生活における様々な場面で適切なフランス語を運用する実用的な能力を身につけることを目的とする。

「読む・話す・書く・聞く」の4技能をバランスよく学習することで、自分のことを話したり、買い物をしたり、必要な情報を尋ねたりといった、フランス語での日常的なコミュニケーションを行えるようになる。またペアワークやグループワークを通して、幅広い意味でのコミュニケーション能力、さらに自発的に言語運用能力の可能性を広げていく姿勢を身につけていく。

また、テキストの視聴覚教材を用いて、フランス社会や歴史、文化について豊かな知識を習得するとともに、言語習得を通して異文化を体験し、理解することも目的とする。本授業は全学ディプロマ・ポリシー「1幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる」に基づいている。

<到達目標>

中級フランス語 では学生が仏検3級の合格圏内に入ることを目標にしており、仏検3級の到達目標は次の通りです。

- 1 【読む】 学生は日常的に使われる表現を理解し、簡単な文による領分の内容を理解できるようになる。
- 2 【書く】 学生は 日常生活で使われる簡単な表現や、基本的語句を正しく書くことができるようになる。
- 3 【聞く】 学生は簡単な会話を聞いて内容を理解することができるようになる。
- 4 【文法知識】 学生は基本的文法知識全般を修得する。

<授業のキーワード>

フランスの社会・歴史・文化、ICTによる学習、異文化体験

<授業の進め方>

前期は第1課から第4課までを行います。各課ではフランスの一都市が取り上げられ、会話、文法、語彙、読解、練習問題で構成されています。2~3回の授業で1課進む予定です。Webで公開されている学習教材や視聴覚教材も使用し、フランス語のみならず文化や音楽、ゲームなども紹介します。

授業参加度や小テスト、定期試験で評価します。間違

いをおそれず積極的に授業に参加してください。

<履修するにあたって>

中級フランス語 Aと Bはともに同じ教科書『なびふらんせ2』（朝日出版社、2019年）を使います。授業は演習、講義形式で、初級フランス語と中級フランス語 で学習したことをベースに、中級フランス語 Aでは「話す、聞く、(読み手を想定して)書く、読む」という総合的コミュニケーションをさらに図りますが、 Bでは、それらの能力を獲得するために、PCやスマートフォンなどICTを活用します。

具体的な方法として、教科書の解説や練習問題を進めていくだけでなく、インタラクティブな方法として、教科書を題材としたペア・ワークやグループ・ワークを随時取り入れます。また『なびふらんせ2』はフランスの世界遺産をテーマにして、各課ごとにひとつの地方都市が紹介されており、テキストの解説やそれに付随する視聴覚教材を用いて、フランスの豊かな地方文化を学びます。すでに学習した初級フランス語の知識をさらに深めるため積極的に履修してください。

2年次以降で新しい外国語を学びたい人は「再履修初級」科目を履修してください。

自主学习に関して言えば、『なびふらんせ2』に付随する「フランス語学習サポート教材：Web なびふらんせ2」にアクセスすることで、ネット上でフランスの各都市の動画を見ることができただけでなく、予習・復習の教材が公開されており、学生は自主的にフランス語を学習することができます。また各課の最後には「テスト」があり、「テスト」の点数は自動的にポートフォリオに記録され、学生自身が自分の学習過程を振り返り、理解度をその都度確認することができる。また、学習者自身が学習成果をポートフォリオに記入することで、自分の学習方法の改善点や克服すべき事柄を知ることができます。

<授業時間外に必要な学修>

授業前にテキストに目を通し、発音や文法の予習をしておく。

「ウェブ・ナビフランセ」を利用して、予習・復習合わせて約1時間の学修を欠かさないようにする。

<提出課題など>

課題は期日までに提出し、添削後コメントをつけて返却します。課題は成績評価の対象になります。

<成績評価方法・基準>

授業中の自発的な発言、取り組みなどの授業への積極的な参加や小テストな60%

+

定期試験40%。

出席10回以上の者の成績はS・A・B・C・D、出席10回未満の者は「/」。

A評価以上の者の割合は、D評価以上の者を母数として合

わせて概ね40%以内とする。

S評価は、A評価相当の中でも特に優れた者に対してのみ、これを与える。

<テキスト>

『なびふらんせ2』、有富智世他著、朝日出版社、2019

<参考図書>

授業中に適宜指示します。

<授業計画>

第1回 ガイダンス、初級フランス語の復習、「教室で使う表現」

授業の進め方、評価方法の説明。初級フランス語文法の復習。「教室で使うフランス語」

第2回 第1課 ル・アーヴル

複合過去を使った会話練習と動詞の過去分詞 (p.14.15)

第3回 第1課 ル・アーヴル

複合過去を使った文章読解、直接法複合過去の文法解説 (p.15.16)

第4回 第1課 ル・アーヴル

代名動詞の複合過去の文法解説、練習問題と答え合わせ

第5回 第2課 モン・サン・ミッシェル

半過去を使った会話練習、職業に関する表現、熟語表現 (p.18.19)

第6回 第2課 モン・サン・ミッシェル

半過去を使った文章読解、直説法半過去の文法解説 (p.20)

第7回 第2課 モン・サン・ミッシェル

直説法大過去の文法解説、練習問題と答え合わせ

第8回 復習と小テスト

第1課、第2課の定着度をはかる。口頭試験を行う。

第9回 第3課 ツール

会話練習、時の表現 (p.22.23)

第10回 第3課 ツール

単純未来を使った文章読解、直説法単純未来の文法解説

第11回 第3課 ツール

直説法前未来の文法解説、練習問題と答え合わせ

第12回 第4課 ボルドー

会話練習、季節・月・週に関する表現 (p.26.27)

第13回 第4課 ボルドー

受動態と強調構文を使った文章読解、受動態の文法解説

第14回 第4課 ボルドー

強調構文の文法解説、練習問題と答え合わせ (p.28.29)

第15回 前期の復習、期末試験対策

前期の復習。後期期末試験のための対策、内容説明。

2022年度 後期

1.0単位

中級フランス語 A ア(検定クラス)

本多 雄一郎

< 授業の方法 >

対面授業

< 授業の目的 >

1. 検定合格に十分な能力，すなわち言葉を運用する上で基本となる「聞く」・「話す」・「読む」能力を身につけることができる。
2. 検定の問題を通して初級フランス語の授業で学んだフランス語の基礎知識をより深め，日常生活で使用されている幅広い会話表現を实践できる。
3. 全学ディプロマポリシーに関連して，検定の授業を通して得たフランス・フランス語の知識に基づいて西洋の異文化に対する理解を深めるとともに，日本と異なる社会に属する人々との円滑な交流を实践することができる。生涯的にはフランス語の確かな運用能力をもとにさらなる上級のクラスを目指せる。

< 到達目標 >

フランス語検定の4級に合格するのに必要なフランス語の運用能力が身につけられる。

4級レベルでは，基礎的な日常的フランス語を理解し，読み，聞き，書くことができる。

仏検HPから引用すると次の通り。

- ・読む（基礎的な単文の構成と文意の理解。基礎的な対話の理解）。
- ・聞く（基礎的な文の聞き分け，日常使われる基礎的な応答表現の理解，数の聞き取り）。
- ・文法知識（基礎的な日常表現の単文を構成するのに必要な文法的知識。動詞としては，直説法（現在，近接未来，近接過去，複合過去，半過去，単純未来，代名動詞），命令法等）。

< 授業のキーワード >

フランス語検定 フランス語の日常会話表現

< 授業の進め方 >

授業の前半では，テキストの毎回の所定の項目について，講義および演習により，習得する。aクラスでは基本的にテキストの文法項目についての説明と練習問題を行う。授業の後半では，各教員により，実際の検定試験による模試や，会話教材による聞き取り，映画の聞き取りなど，それぞれの教員独自の教材により，フランス語能力を養成していく。

< 履修するにあたって >

入学時に選択した言語にかかわらず，原則として自由などの言語でも選択できる。語学力をさらに伸ばすために積極的に履修してほしい。ただし，1年次にその外国語科目を履修した学生と同等程度の基礎力は必要。2年次

配当の外国語科目においては，再履修初級科目を除いて全くの初学者を対象とする授業は行なわない。2年次以降で新しい外国語を学びたい人や卒業要件を満たすために新しい外国語を履修することを迫られている人は，「再履修初級」科目を履修すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

使用するテキストや配布する仏検資料に含まれる練習問題で授業中に解答できなかった箇所を自分で解くことを含めて，少なくとも次の授業までに復習を二時間以上すること。

< 提出課題など >

課題の出題・提出はdot-Campusで行う。

< 成績評価方法・基準 >

- ・定期試験を行なう。成績評価の方法・割合は，定期試験で70%、授業中の小テストや課題の評価で30%とする。
- ・11月の検定試験で5級に合格すれば評点Bを与える。さらに授業の成績次第で評点AあるいはSを与える。
- ・4級以上に合格すれば評点Aを与える。さらに成績次第で評点Sを与える。
- ・11月の検定試験で級を取得できなかった，あるいは受験しなかった場合，授業の成績で評価するが，その場合の評点は相対評価によるものとし，おおむね上位から30%をA、30%をB、20~40%をC、20~0%をDとする。

< テキスト >

『ニヴォー・カトル - 教室で学ぶ仏検4級 - 』（富田正二著・駿河台出版社）

< 授業計画 >

第1回 冠詞

不定冠詞、部分冠詞、定冠詞（6~9ページ）

第2回 動詞の活用（1）

動詞の活用（現在形と命令形）（10~14ページ）

第3回 動詞の活用（2）

動詞の活用（複合過去形）（15ページ）

第4回 動詞の活用（3）

動詞の活用（単純未来形）（16ページ）

第5回 動詞の活用（4）

動詞の活用（半過去形）ジェロンディフ（16ページ、17ページ）

第6回 代名詞（1）

目的語人称代名詞（28ページ）

第7回 代名詞（2）

強勢形、再帰代名詞、指示代名詞（30~31ページ）

第8回 代名詞（3）

中性代名詞（32ページ）

第9回 単語配列（1）

否定文など（36ページ）

第10回 単語配列（2）

受動態など（37ページ）

第11回 単語配列(3)
 非人称構文、関係代名詞など(38ページ)
 第12回 単語配列(4)
 形容詞、副詞の位置(39ページ)
 第13回 単語配列(5)
 比較構文など(40～41ページ)
 第14回 前置詞
 前置詞1(46～47ページ)
 第15回 前置詞
 前置詞2(48～49ページ)

 2022年度 後期

1.0単位

中級フランス語 A カ(総合的コミュニケーション)

寺尾 佳子

 <授業の方法>

対面授業(演習)

<授業の目的>

この科目の受講生は、「初級フランス語I」、「中級フランス語IA」で習得した知識をもとに、中級レベルのフランス語の総合的なコミュニケーション能力(聞く、読む、話す、書く力)をさらに高めていくことを目的とします。

授業中に受講生は、各課で習う文法事項に関連したビデオを視聴し、クイズ形式の文法問題を解き、ペア・グループで表現を練習することにより、日常の様々な場面で幅広く使えるようなフランス語の知識を主体的に獲得していきます。ビデオでは、フランス留学中の主人公がホストファミリーや友人と様々な経験をする様子を見ます。また、練習問題では、適宜インターネットで調べ学習を行ってクラスで情報を共有することで、フランスでの暮らしを仮想体験することができるでしょう。各課の最後では、フランスのお菓子の歴史、フランス語圏の文化等に関するテキストを読んだり、自分で文章を書いたりする練習にもチャレンジします。

授業を通して、実践的な言語能力に加え、フランス語圏の文化や社会に関する知識も身につけることで、異文化体験をしながら、汎用性の高いフランス語の力を習得することを目的とします。これは、全学ディプロマ・ポリシー「1. 幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる」、「2. さまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる」に沿ったものです。

<到達目標>

受講生は、「中級フランス語 IA、IIA」修了時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR) A1+レベルに到達することを目指します。ヨーロッパ言語共通参照枠とは、言語の枠や国境を越えて、外国語の運用能力を同一の基準

で測ることが出来る国際標準のことです。

ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)の6つのレベルは、日本フランス語試験管理センターによれば以下のようになります。

A1 : 簡単なやりとりが可能で、自分や、身近な物事について話すことができます。

A2 : 日常生活に関わる簡単な課題を実行できます。丁寧表現を用いたり、もっとも日常的なやり取りを交わしたりすることができます。

B1 : やりとりを維持すること、議論を理解、継続し、自分の見解や意見を述べるすることができます。日常生活の予期せぬ状況にも対処できます。

B2 : 自分の意見を主張するために筋道の通った議論の流れを作ることができ、自分の見解を展開し、交渉することができます。このレベルの受験者は、社交的な談話の中で流暢に会話を交わし、自分の間違いを自分で修正することができるようになっています。

C1 : 流暢で自然なコミュニケーションを成立させることが可能です。豊富な語彙があり、自分の意見を伝える際に適切な表現を選択できます。明瞭で構成の整った話を滑らかに発し、様々な構文に習熟した使用者であることが見て取れます。

C2 : 言語への熟練が、表現の正確さや適切さ、流暢さに現われます。受験者は学術的な、あるいは高度な課題を実現することができます。

<授業のキーワード>

コミュニケーション能力の獲得、異文化体験、フランス語圏の社会・文化

<授業の進め方>

3回の授業で1課を終わらせるペースで教科書を進めていきます。「初級フランス語I、II」、「中級フランス語IA」の授業で使用した教科書『マエストロ1』の後半部を扱います。

まず、各課で習う文法事項に関連したビデオを見て、教師の質問や教科書の設問に答えて、ビデオの大まかな内容を推測します。

それから、文法ルールを受講生が自ら発見する形で学び取り、ペア・グループワークを活用することで、学習事項を定着させ、自分でも応用できるようにします。適宜、文化的要素が取り入れられたある程度の文章を読んだり、文を書いたりする練習もします。

授業の理解度を把握するために、必要に応じて小テストに挑戦します。

<履修するにあたって>

履修するにあたってすでに学習した「初級フランス語I」「中級フランス語IA」の知識をさらに深めるため、積

極的に履修してください。

この科目は、フランス語をすでに学習した経験のある人を対象としたものです。1年次で初級フランス語科目を履修したかどうかは問いませんが、初級フランス語を履修したのと同程度の基礎力が必要です。

単位を取得するためには10回以上の出席が必要です。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業後には新しく習ったことを中心に、1時間ほど復習を行いましょう。少しずつ学修を継続することで、確実に力がついていくのを実感できるでしょう。

< 提出課題など >

授業で課された課題は添削後コメントをつけて返却します。課題は成績評価の対象になります。

実施したテストについては、授業のなかで解説したり、dotCampusを通してフィードバックしたりします。

< 成績評価方法・基準 >

- ・ 授業への積極的な参加 20% + 宿題の提出とその内容 20% + 小テストの成績 20% + 定期試験 40%
- ・ 定期試験を受けるには、全15回の授業のうち10回以上の授業の出席日数が必要です。

* 評点 S・A の取得者の割合は、概ね単位取得者の30%を超えないものとします。

< テキスト >

北村亜矢子、Durrenberger Vincent 『マエストロ1』 (朝日出版社 2020年) 定価2,700円 + 税

< 参考図書 >

授業の内容に応じて、授業中に適宜指示します。

< 授業計画 >

第1回 Introduction
Parler au pass? 4

オリエンテーション：授業履修の注意事項、成績評価方法・基準の説明。

テキスト20課：過去の状態、習慣、感想を言う
半過去

第2回 Parler au pass? 4
テキスト20課：過去の状態、習慣、感想を言う
複合過去と半過去

第3回 Parler au pass? 4
テキスト20課：過去の状態、習慣、感想を言う
複合過去と半過去

第4回 Parler de ses loisirs
テキスト21課：実践するスポーツを言う、弾く楽器を言

う、休暇中の活動について語る
faire du / de la + スポーツ

第5回 Parler de ses loisirs
テキスト21課：実践するスポーツを言う、弾く楽器を言う、休暇中の活動について語る
jouer du / de la + 楽器

第6回 Parler de ses loisirs
テキスト21課：実践するスポーツを言う、弾く楽器を言う、休暇中の活動について語る
jouer du / de la + 楽器

第7回 Parler de la sant?
テキスト22課：身体の状態を伝える、アドバイスを与える
avoir mal ? + 身体語彙

第8回 Parler de la sant?
テキスト22課：身体の状態を伝える、アドバイスを与える
条件法 (1) tu devrais / vous devriez

第9回 Parler de la sant?
テキスト22課：身体の状態を伝える、アドバイスを与える
動詞 + plus / moins、plus de / moins de + 名詞

第10回 Inviter
テキスト23課：誘う、約束をする、頼みごとをする
条件法 (2) tu pourrais / vous pourriez

第11回 Inviter
テキスト23課：誘う、約束をする、頼みごとをする
条件法 (2) tu pourrais / vous pourriez

第12回 Inviter
テキスト23課：誘う、約束をする、頼みごとをする
条件法 (2) tu pourrais / vous pourriez

第13回 R?server
テキスト24課：婉曲に願望を伝える、予約する、交通手段を言う、所要時間を言う
条件法 (3) je voudrais / j'aimerais

第14回 R?server
テキスト24課：婉曲に願望を伝える、予約する、交通手段を言う、所要時間を言う
en / ? + 乗り物

第15回 R?server

テキスト24課：婉曲に願望を伝える、予約する、交通手段を言う、所要時間を言う

期間の言い方、?a prend + 所要時間

2022年度 後期

1.0単位

中級フランス語 A タ(検定クラス)

門脇 伸二

< 授業の方法 >

対面授業

< 授業の目的 >

1. 検定合格に十分な能力，すなわち言葉を運用する上で基本となる「聞く」・「話す」・「読む」能力を身につけることができる。
2. 検定の問題を通して初級フランス語の授業で学んだフランス語の基礎知識をより深め，日常生活で使用されている幅広い会話表現を实践できる。
3. 全学ディプロマポリシーに関連して、検定の授業を通して得たフランス・フランス語の知識に基づいて西洋の異文化に対する理解を深めるとともに、日本と異なる社会に属する人々との円滑な交流を实践することができる。生涯的にはフランス語の確かな運用能力をもとにさらなる上級のクラスを目指す。

< 到達目標 >

フランス語検定の4級に合格するのに必要なフランス語の運用能力が身につけられる。

4級レベルでは、基礎的な日常的フランス語を理解し、読み、聞き、書くことができる。

仏検HPから引用すると次の通り。

- ・読む（基礎的な単文の構成と文意の理解。基礎的な対話の理解）。
- ・聞く（基礎的な文の聞き分け、日常使われる基礎的応答表現の理解、数の聞き取り）。
- ・文法知識（基礎的な日常表現の単文を構成するのに必要な文法的知識。動詞としては、直説法（現在、近接未来、近接過去、複合過去、半過去、単純未来、代名動詞）、命令法等）。

< 授業のキーワード >

フランス語検定 フランス語の日常会話表現

< 授業の進め方 >

授業の前半では、テキストの毎回の所定の項目について、講義および演習により、習得する。aクラスでは基本的にテキストの文法項目についての説明と練習問題を行う。授業の後半では、各教員により、実際の検定試験による模試や、会話教材による聞き取り、映画の聞き取りなど、それぞれの教員独自の教材により、フランス語能力を養成していく。

< 履修するにあたって >

入学時に選択した言語にかかわらず、原則として自由にとどの言語でも選択できる。語学力をさらに伸ばすために積極的に履修してほしい。ただし、1年次にその外国語科目を履修した学生と同等程度の基礎力は必要。2年次配当の外国語科目においては、再履修初級科目を除いて全くの初学者を対象とする授業は行なわない。2年次以降で新しい外国語を学びたい人や卒業要件を満たすために新しい外国語を履修することを迫られている人は、「再履修初級」科目を履修すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

使用するテキストや配布する仏検資料に含まれる練習問題で授業中に解答できなかった箇所を自分で解くことを含めて、少なくとも次の授業までに復習を二時間以上すること。

< 提出課題など >

課題の出題・提出はdot-Campusで行う。

< 成績評価方法・基準 >

- ・定期試験を行なう。成績評価の方法・割合は、定期試験で70%、授業中の小テストや課題の評価で30%とする。
- ・11月の検定試験で5級に合格すれば評点Bを与える。さらに授業の成績次第で評点AあるいはSを与える。
- ・4級以上に合格すれば評点Aを与える。さらに成績次第で評点Sを与える。
- ・11月の検定試験で級を取得できなかった、あるいは受験しなかった場合、授業の成績で評価するが、その場合の評点は相対評価によるものとし、おおむね上位から30%をA、30%をB、20~40%をC、20~0%をDとする。

< テキスト >

『ニヴォー・カトル - 教室で学ぶ仏検4級 -』（富田正二著・駿河台出版社）

< 授業計画 >

第1回 冠詞

不定冠詞、部分冠詞、定冠詞（6~9ページ）

第2回 動詞の活用（1）

動詞の活用（現在形と命令形）（10~14ページ）

第3回 動詞の活用（2）

動詞の活用（複合過去形）（15ページ）

第4回 動詞の活用（3）

動詞の活用（単純未来形）（16ページ）

第5回 動詞の活用（4）

動詞の活用（半過去形）ジェロンディフ（16ページ、17ページ）

第6回 代名詞（1）

目的語人称代名詞（28ページ）

第7回 代名詞（2）

強勢形、再帰代名詞、指示代名詞（30~31ページ）

第8回 代名詞（3）

中性代名詞〔32ページ〕

第9回 単語配列(1)

否定文など(36ページ)

第10回 単語配列(2)

受動態など(37ページ)

第11回 単語配列(3)

非人称構文、関係代名詞など(38ページ)

第12回 単語配列(4)

形容詞、副詞の位置(39ページ)

第13回 単語配列(5)

比較構文など(40～41ページ)

第14回 前置詞

前置詞1(46～47ページ)

第15回 前置詞

前置詞2(48～49ページ)

2022年度 後期

1.0単位

中級フランス語 A ナ(総合的コミュニケーション)

南 コニー

< 授業の方法 >

遠隔授業(オンデマンド授業)

< 授業の目的 >

「初級フランス語Ⅰ」と「中級フランス語Ⅰ」で習得した知識をもとに、実用フランス語技能検定(3級)に必要なレベルに到達することを目的とします。

前期に引き続き、フランス語文法の基礎を身につけつつ、日常の様々な場面で幅広く使えるようなフランス語の知識を獲得します。

授業中には、ペア・ワークやグループ・ワークを活用することで、フランス語のコミュニケーション能力を着実に高めてゆくとともに、教科書『なびふらんせ2』で扱われている世界遺産や地方都市等のテーマや、適宜、補助教材でフランスの音楽、映画、ニュース等にも触れます。実践的な言語の能力に加え、フランスの社会や文化、歴史等の幅広い知識も身につけることで、異文化体験をしながら、汎用性の高いフランス語の力を習得することを目的とします。これは、全学ディプロマ・ポリシー「1. 幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる」、「2. さまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる」にそったものです。

< 到達目標 >

「初級フランス語Ⅱ」において、受講生は、フランス語検定3級のレベルに達することを目指します。ちなみに、3級のレベルでみなさんは、以下のように、日常的表現について「読む」、「書く」、「聞く」、「文法知識」

といった総合的な語学運用能力の獲得を目指します。

読む：日常的に使われる表現を理解し、簡単な文による長文の内容を理解できる

書く：日常生活で使われる簡単な表現や、基本的語句を正しく書くことができる

聞く：簡単な会話を聞いて内容を理解できる

文法知識：基本的文法知識全般

< 授業のキーワード >

コミュニケーション能力の獲得、異文化体験、フランスの社会・歴史・文化

< 授業の進め方 >

まず、フランス語圏への旅行や日常生活で実際に使えるような会話文を聞き、自分でも話せるように練習します。

それから、新しく出てきた文法事項をしっかりおさえて、会話の文章の構造を理解します。

さらに、練習問題を解き、新しい知識を定着させることで、自分でも応用できるようにします。

授業の理解度を把握するために、必要に応じて小テストを実施します。

なお、積極的に自主学習をすることをおすすめします。教科書『なびふらんせ2』には「フランス語学習サポート教材：Web なびふらんせ2」がついています。このWeb版では、フランスの様々な都市の動画やフランス語の音声などを視聴し、予習復習をすることができます。また、各課の最後には、ポートフォリオ付きの「テスト」があります。これを活用することで、自分の理解度や強化していくべき点を把握することが可能です。

< 履修するにあたって >

すでに学習した「初級フランス語Ⅰ」の知識をさらに深めるため、積極的に履修してください。

この科目は、フランス語をすでに学習した経験のある人を対象としたものです。1年次で初級フランス語科目を履修したかどうかは問いませんが、初級フランス語を履修したのと同程度の基礎力が必要です。

単位を取得するためには10回以上の出席が必要です。

< 授業時間外に必要な学修 >

教科書『なびふらんせ2』や付属の「フランス語学習サポート教材：Web なびふらんせ2」を活用しつつ、授業後には新しく習ったことを中心に、1時間ほど復習を行いましょう。少しずつ学修を継続することで、確実に力がついていくのを実感できるでしょう。

< 提出課題など >

授業で課された課題は添削後コメントをつけて返却しません。課題は成績評価の対象になりません。

実施したテストについては、授業のなかで解説したり、dotCampusを通してフィードバックしたりします。

< 成績評価方法・基準 >

「授業記録」の提出と内容30% + 「課題」の提出と内容30% +

5回の小テスト40%

< テキスト >

『なびふらんせ2』、有富智世他著、朝日出版社、2019

< 参考図書 >

授業の内容に応じて、授業中に適宜指示します。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション、前期の復習

授業の進め方や評価方法の説明、前期の内容のおさらい

第2回 第5課

カルカッソンヌ

会話練習と現在分詞を使った表現(p.30,31)

第3回 第5課

カルカッソンヌ

ジェロンディフを使った文章読解、現在分詞の文法解説(p.31,32)

第4回 第5課

カルカッソンヌ

使役動詞と知覚動詞の文法解説、文法とリスニングの練習問題(p.32,33)

第5回 第6課

コート・ダジュール

会話練習、形容詞・乗り物(p.34,35)

第6回 第6課

コート・ダジュール

比較級、最上級を使った文章読解、比較級の文法解説(p.36,37)

第7回 第6課

コート・ダジュール

最上級と特殊な比較級と最上級。文法とリスニングの練習問題(p.36,37)

第8回 復習

第5課と第6課のまとめとして、復習を行う。

第9回 第7課

プロヴァンス

会話練習、公共の建物や店(p.38,39)

第10回 第7課

プロヴァンス

中性代名詞を使った文章読解、中性代名詞の文法解説(p.39,40)

第11回 第7課

プロヴァンス

代名詞の語順の文法解説、文法とリスニングの練習問題(p.40,41)

第12回 第8課

リヨン

会話練習、toutを使った表現(p.42,43)

第13回 第8課

リヨン

関係代名詞を使った文章読解、関係代名詞を文法解説(p.43,44)

第14回 第8課

リヨン

過去分詞の性数一致、toutの用法の文法解説、文法とリスニングの練習問題(p.44,45)

第15回 後期の総まとめ

第5課から第8課までの総復習

2022年度 後期

1.0単位

中級フランス語 B カ (ICTによる学習)

山本 健二

< 授業の方法 >

対面授業(演習)です。

< 授業の目的 >

初級フランス語と中級フランス語 で学習したことを踏まえ、実用フランス語技能検定3級合格に必要なレベルに到達することを目的とします。

またペアワークやグループワークを通して、日常生活における様々な場面で適切なフランス語を運用する実用的な能力を身につけるだけでなく、どんな状況にも対応できる柔軟な、幅広い意味でのコミュニケーション能力、さらに自発的に言語運用能力の可能性を広げていく姿勢を涵養することを目的とします。

さらにフランスの世界遺産や地方都市をテーマにした『なびふらんせ2』の解説や、それに付属する視聴覚教材、あるいは他の教材(映画や音楽やニュース)を用いて、フランスの社会や歴史、文化について豊かな知識を身につけるとともに、言語習得を通して異文化を体験し、理解することも目的とし、これは、全学ディプロマシー「幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる」に基づくものでもあります。

< 到達目標 >

中級フランス語 では学生が仏検3級の合格圏内に入ることを目標にしており、仏検3級の到達目標は次の通りです。

- 1 【読む】 学生は日常的に使われる表現を理解し、簡単な文による領分の内容を理解できるようになる。
- 2 【書く】 学生は日常生活で使われる簡単な表現や、基本的語句を正しく書くことができるようになる。
- 3 【聞く】 学生は簡単な会話を聞いて内容を理解できるようになる。
- 4 【文法知識】 学生は基本的文法知識全般を修得する。

< 授業のキーワード >

フランスの社会・歴史・文化、ICTによる学習、異文化体験

< 授業の進め方 >

後期は第5課から第8課まで進みます。第9課以降は2020年度「上級フランス語」で取り扱う予定です。各課ではフランスの一都市が取り上げられ、会話、文法、語彙、読解、練習問題で構成されています。2~3回の授業で1課進む予定です。Webで公開されている学習教材や視聴覚教材も使用し、随時ペアワークやグループワークを導入します。またフランス語のみならず文化や音楽、ゲームなども紹介します。

小テストや定期試験だけでなく、授業参加度も評価しますので、積極的に授業に参加してください。

< 履修するにあたって >

前期に引き続き、中級フランス語 Aと Bはともに同じ教科書『なびふらんせ2』（朝日出版社、2019年）を使います。授業は演習、講義形式で、初級フランス語と中級フランス語 で学習したことをベースに、中級フランス語 Aでは「話す、聞く、(読み手を想定して)書く、読む」という総合的コミュニケーションをさらに図りますが、Bでは、それらの能力を獲得するために、PCやスマートフォンなどICTを活用します。

具体的な方法として、教科書の解説や練習問題を進めていくだけでなく、インタラクティブな方法として、教科書を題材としたペア・ワークやグループ・ワークを随時取り入れます。また『なびふらんせ2』はフランスの世界遺産をテーマにして、各課ごとにひとつの地方都市が紹介されており、テキストの解説やそれに付属する視聴覚教材を用いて、フランスの豊かな地方文化を学びます。すでに学習した初級フランス語の知識をさらに深めるため積極的に履修してください。

2年次以降で新しい外国語を学びたい人は「再履修初級」科目を履修してください。

自主学习に関して言えば、『なびふらんせ2』に付随する「フランス語学習サポート教材：Web なびふらんせ2」にアクセスすることで、ネット上でフランスの各都市の動画を見ることができるだけだけでなく、予習・復習の教材が公開されており、学生は自主的にフランス語を学習することができます。また各課の最後には「テスト」があり、「テスト」の点数は自動的にポートフォリオに記録され、学生自身が自分の学習過程を振り返り、理解度をその都度確認することができる。また、学習者自身が学習成果をポートフォリオに記入することで、自分の学習方法の改善点や克服すべき事柄を知ることができます。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業前にテキストに目を通し、発音や文法の予習をしておく。

「ウェブ・ナビフランセ」を利用して、予習・復習合わ

せて約1時間の学修を欠かさないようにする。

< 提出課題など >

課題は期日までに提出し、添削後コメントをつけて返却します。課題は成績評価の対象になります。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の自発的な発言、取り組みなどの授業への積極的な参加や小テストな60%

+

定期試験40%。

出席10回以上の者の成績はS・A・B・C・D、出席10回未満の者は「/」。

A評価以上の者の割合は、D評価以上の者を母数として合わせて概ね40%以内とする。

S評価は、A評価相当の中でも特に優れた者に対してのみ、これを与える。

< テキスト >

『なびふらんせ2』、有富智世他著、朝日出版社、2019

< 参考図書 >

授業中に適宜紹介します。

< 授業計画 >

第1回 前期の復習 第5課 カルカッソヌ

前期で学んだ表現、文法を復習 会話練習と現在分詞を使った表現(p.30,31)

第2回 第5課 カルカッソヌ

ジェロンディフを使った文章読解、現在分詞の文法解説(p.31,32)

第3回 第5課 カルカッソヌ

使役動詞と知覚動詞の文法解説、練習問題と答え合わせ(p.32,33)

第4回 第6課 コート・ダジュール

会話練習、形容詞・乗り物(p.34,35)

第5回 第6課 コート・ダジュール

比較級、最上級を使った文章読解、比較級の文法解説(p.36,37)

第6回 第6課 コート・ダジュール

最上級と特殊な比較級と最上級。練習問題と答え合わせ(p.36,37)

第7回 復習と小テスト

第5課、第6課の定着度をはかる。口頭試験を行う。

第8回 第7課 プロヴァンス

会話練習、公共の建物や店(p.38,39)

第9回 第7課 プロヴァンス

中性代名詞を使った文章読解、中性代名詞の文法解説(p.39,40)

第10回 第7課 プロヴァンス

代名詞の語順の文法解説、練習問題と答え合わせ(p.40,41)

第11回 第8課 リヨン

会話練習、toutを使った表現(p.42,43)

第12回 第8課 リヨン

関係代名詞を使った文章読解、関係代名詞を文法解説(p.43,44)

第13回 第8課 リヨン

過去分詞の性数一致、toutの用法の文法解説(p.44,45)

第14回 Webナビプランセを使った復習

練習問題と答え合わせ(p.45)、Web「なびふらんせ2」を使った復習、動画視聴。

第15回 後期の総復習、試験対策

後期の復習。後期期末試験のための対策、内容説明。

2022年度 前期

1.0単位

中国語基礎会話 ア

馬 麗娟

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

共通教育科? に属する「中国語? ? 会話」では、全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて、広い教養を? につけ、豊かな? 問性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活? してさまざまな問題を発? し、それを解決する? 策を導くことができる」ようになること・「? 分の意? を? 頭や? 書によって表現し、相? の意? を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること、そして「獲得した知識や技能を活? し、国内外において、価値観や意? の異なるさまざまな? と議論し、学びを深め、協働して、社会に役? てることができる」ようになることを? 的とする。

すでに初歩的な中国語力を持つ人が中国語の会話力をさらに向上させ、中国語でコミュニケーションを図ることができるようになることを目指す。中国語を母語とする教員の指導の下、説明に偏ることなく、主に口頭での訓練を通じて中国語の会話力を養成する。

< 到達目標 >

- 1.生活に密着した単語や語句を身につけ、口頭で言うことができる。(知識・技能)
- 2.短文での問答ができる。(知識・技能)
- 3.身近な話題について簡単な議論や主張をすることができる。(知識・技能)

< 授業のキーワード >

口頭 会話 コミュニケーション

< 授業の進め方 >

「? 分の紹介」や「? 分の? 活」など? 分の? 近なことを話すさまざまな場? を想定し、教員と学? との間で、あるいは学? と学? との間で会話を? ないながら授業を進めていく。

< 履修するにあたって >

中国語基礎会話は入門～初級段階を終えた学習者の基礎的会話力を養成するために開設された科目である。初級中国語や中国語入門会話など1年次配当中国語科目の履修を前提としないが、この科目の履修に当たってはそれらの科目を履修して単位を取得したのと同程度の基礎力を有していることが必要である。全くの初心者を対象とした科目でないことに留意してほしい。ただし、高度な中国語力は必要ない。すでに初歩的な中国語を身につけた上で会話力をさらに伸ばしたいという意欲のある人の履修を歓迎する。

発音はひとたび身につけてしまうと、たとえそれが間違ったものであったとしてもあとから矯正することは非常に困難である。中国語の発音に不安のある人は、参考書の3に挙げられている『CDムック 発音マスター！ 読めて書ける中国語』を使って自習すると良い。中級課程の中国語科目として中国語基礎会話だけを履修する人はもちろん、中級中国語を平行して履修している人にも助けになるはずである。

中国語基礎会話は、後期に開講される中国語基礎会話と一括して履修しなければならない。どちらか一方だけを単独で履修することはできない。

< 授業時間外に必要な学修 >

外国語の学習に当たっては、繰り返し訓練することが何よりも重要である。音声材料を活用しながら、1時間程度の時間をかけて予習・復習をしっかりと行なってほしい。

< 提出課題など >

授業では? テストを随時実施する。? 頭による? テストを? なった場合は、適宜個別また全体的に指導を? 行う。筆記による? テストを? なった場合は、採点し次回の授業で返却する。

< 成績評価方法・基準 >

- ・単位を取得するためには10回以上の出席が必要。
- ・定期試験は? なわない。授業中に教員と学? との間で、または学? 同? で? なわれる応? 会話や、その他随時? なわれる? テストによって、総合的に成績を評価する。
- ・最終的な成績は補正を? ない、科? 名が同? である複数クラスの間で各評点の割合に? きな偏りのないようにする。

< テキスト >

相原茂・蘇紅 『話してみたい 中国語スピーキング沙龍』 朝日出版社 2014年 2200円＋税

< 参考図書 >

- 1.北京・商務印書館 小学館 『中日辞典 第3版』 小学館 2016年 7500円＋税
- 2.相原茂・石田知子・戸沼市子 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』 同学社 2016年 2500円＋税
- 3.荒川清秀 『CDムック 発音マスター！ 読めて書け

る中国語』
NHK出版 2010年 952円 + 税
< 授業計画 >
第1回 第0課
発? おさらい編
初級で学んだ発? のポイントを復習する。
第2回 第1課
能和你们交个朋友吗?1/2
本? 新出語句 補充語句
本? 1・2・3とそれぞれの看? 看・練? 練
第3回 第1課
能和你们交个朋友吗?2/2
本? のまとめ 応? 練習 1・2・3
Column「中国語は? ? い」: “好吃”
第4回 第2課
? 好吃? 便宜?1/2
本? 新出語句 補充語句
本? 1・2・3とそれぞれの看? 看・練? 練
第5回 第2課
? 好吃? 便宜?2/2
本? のまとめ 応? 練習 1・2・3
Column「中国語は? ? い」: “? A? B”
第6回 第3課
咱们去哪儿玩儿玩儿吧 1/2
本? 新出語句 補充語句
本? 1・2・3とそれぞれの看? 看・練? 練
第7回 第3課
咱们去哪儿玩儿玩儿吧 2/2
本? のまとめ 応? 練習 1・2・3
Column「中国語は? ? い」: “喜欢”と“爱”
第8回 第4課
你最喜欢什么节日?1/2
本? 新出語句 補充語句
本? 1・2・3とそれぞれの看? 看・練? 練
第9回 第4課
你最喜欢什么节日?2/2
本? のまとめ 応? 練習 1・2・3
Column「中国語は? ? い」: 趣味の表現
第10回 第5課
陪爸爸妈妈
到日本各地转转。1/2
本? 新出語句 補充語句
本? 1・2・3とそれぞれの看? 看・練? 練
第11回 第5課
陪爸爸妈妈
到日本各地转转。2/2
本? のまとめ 応? 練習 1・2・3
Column「中国語は? ? い」: 熱中症の話
第12回 第6課
我好像

来到了一个梦幻世界。1/2
本? 新出語句 補充語句
本? 1・2・3とそれぞれの看? 看・練? 練
第13回 第6課
我好像
来到了一个梦幻世界。2/2
本? のまとめ 応? 練習 1・2・3
Column「中国語は? ? い」: “你们别聊了”
第14回 第7課
我真舍不得离开这? 。1/2
本? 新出語句 補充語句
本? 1・2・3とそれぞれの看? 看・練? 練
第15回 第7課
我真舍不得离开这? 。2/2
本? のまとめ 応? 練習 1・2・3
Column「中国語は? ? い」: “? 死不可”

2022年度 後期
1.0単位
中国語基礎会話 ア
馬 麗娟

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

共通教育科? に属する「中国語?? 会話」では、全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて、広い教養を? につけ、豊かな? 問性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活? してさまざまな問題を発? し、それを解決する? 策を導くことができる」ようになること・「? 分の意? を? 頭や? 書によって表現し、相? の意? を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること、そして「獲得した知識や技能を活? し、国内外において、価値観や意? の異なるさまざまな? と議論し、学びを深め、協働して、社会に役? てることができる」ようになることを? 的とする。

すでに初歩的な中国語? を持つ? が中国語の会話? をさらに向上させ、中国語でコミュニケーションを図ることができるようになることを? 指す。中国語を? 語とする教員の指導の下、説明に偏ることなく、主に? 頭での訓練を通じて中国語の会話? を養成する。

< 到達目標 >

- 1.生活に密着した単語や語句を身につけ、口頭で言うことができる。(知識・技能)
- 2.短文での問答ができる。(知識・技能)
- 3.身近な話題について簡単な議論や主張をすることができる。(知識・技能)

< 授業のキーワード >

口頭 会話 コミュニケーション

< 授業の進め方 >

「? 分の紹介」や「? 分の? 活」など? 分の? 近なことを話すさまざまな場? を想定し、教員と学? との間で、あるいは学? と学? との間で会話を? ないながら授業を進めていく。

< 履修するにあたって >

・中国語基礎会話は入門～初級段階を終えた学習者の基礎的会話力を養成するために開設された科目である。初級中国語や中国語入門会話など1年次配当中国語科目の履修を前提としないが、この科目の履修に当たってはそれらの科目を履修して単位を取得したのと同程度程度の基礎力を有していることが必要である。全くの初心者を対象とした科目でないことに留意して欲しい。ただし、高度な中国語力は必要ない。すでに基礎的な中国語を身につけた上で会話力をさらに伸ばしたいという意欲のある人の履修を歓迎する。

・発音はひとたび身につけてしまうと、たとえそれが間違ったものであったとしてもあとから矯正することは非常に困難である。中国語の発音に不安のある人は、参考書の3に挙げられている『CDムック 発音マスター！ 読めて書ける中国語』を使って自習すると良い。中級課程の中国語科目として中国語基礎会話だけを履修する人はもちろん、中級中国語を平行して履修している人にも助けになるはずである。

・中国語基礎会話は、前期に開講される中国語基礎会話 と一括して履修しなければならない。どちらか一方だけを単独で履修することはできない。

< 授業時間外に必要な学修 >

外国語の学習に当たっては、繰り返し訓練することが何よりも重要である。? 声材料を活? しなから、1時間程度の時間をかけて予習・復習をしっかりと? なってほしい。

< 提出課題など >

授業では? テストを随時実施する。? 頭による? テストを? なった場合は、適宜個別また全体的に指導を? 行う。筆記による? テストを? なった場合は、採点し次回の授業で返却する。

< 成績評価方法・基準 >

・単位を取得するためには10回以上の出席が必要。
・定期試験は? なわない。授業中に教員と学? との間で、または学? 同? で? なわれる応? 会話や、その他随時? なわれる? テストによって、総合的に成績を評価する。
・最終的な成績は補正を? ない、科? 名が同? である複数クラスの間で各評点の割合に? きな偏りのないようにする。

< テキスト >

相原茂・蘇紅 『話してみたい 中国語スピーキング沙龍』 朝日出版社 2014年 2200円＋税

< 参考図書 >

1.北京・商務印書館? 学館 『中? 辞典 第3版』? 学

館 2016年 7500円＋税

2.相原茂・?? 知? ・? 沼市? 『Why?にこたえるはじめての中国語の? 法書 新訂版』

同学社 2016年 2500円＋税

3.荒川清秀 『CDムック 発? マスター? 読めて書ける中国語』

NHK出版 2010年 952円＋税

< 授業計画 >

第1回 第8課

说不定她想我们了。1/2

本? 新出語句 補充語句

本? 1・2・3とそれぞれの看? 看・練? 練

第2回 第8課

说不定她想我们了。2/2

本文のまとめ 応用練習 1・2・3

Column「中国語は面白い」：“我有一个朋友在旅行社工作”

第3回 第9課

我们又见面了。1/2

本? 新出語句 補充語句

本? 1・2・3とそれぞれの看? 看・練? 練

第4回 第9課

我们又见面了。2/2

本文のまとめ 応用練習 1・2・3

Column「中国語は面白い」：“不好意思”

第5回 第10課

今天我当导游。1/2

本? 新出語句 補充語句

本? 1・2・3とそれぞれの看? 看・練? 練

第6回 第10課

今天我当导游。2/2

本文のまとめ 応用練習 1・2・3

Column「中国語は面白い」：“今天玩儿得太开心了”

第7回 第11課

你们家房子好大呀！1/2

本? 新出語句 補充語句

本? 1・2・3とそれぞれの看? 看・練? 練

第8回 第11課

你们家房子好大呀！2/2

本文のまとめ 応用練習 1・2・3

Column「中国語は面白い」：“房子，家；屋子，房间”

第9回 第12課

谈谈你们的理想吧。1/2

本? 新出語句 補充語句

本? 1・2・3とそれぞれの看? 看・練? 練

第10回 第12課

谈谈你们的理想吧。2/2

本文のまとめ 応用練習 1・2・3

Column「中国語は面白い」：“给我夹了那么多菜，撑死我了”

第11回 第13課

你哪儿不舒服？1/2

本？新出語句 補充語句

本？1・2・3とそれぞれの看？看・練？練

第12回 第13課

你哪儿不舒服？2/2

本文のまとめ 応用練習 1・2・3

Column「中国語は面白い」：“不会吧”

第13回 第14課

祝你们一路顺风。1/2

本？新出語句 補充語句

本？1・2・3とそれぞれの看？看・練？練

第14回 第14課

祝你们一路顺风。2/2

本文のまとめ 応用練習 1・2・3

Column「中国語は面白い」：“后会有期”

第15回 第15課

有缘千里来相会。1/1

本文新出語句 補充語句

本文1・2・3とそれぞれの看一看・練一練

本文のまとめ 応用練習 1・2・3

Column「中国語は面白い」：“祝”と“祝贺”

2022年度 前期

1.0単位

中国語検定対策 a 力（中国語検定試験対策）

池田 磨左文

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

共通教育科に属する「中国語検定対策 a」では、同じく共通教育科に属する「中国語検定対策 b」と共に、全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養すること・「幅広い知識を活かしてさまざまな問題を解決し、それを解決する策を導くことができる」ようになること・「自分の意を頭や書によって表現し、相手の意を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること、そして「獲得した知識や技能を活かし、国内外において、価値観や意の異なるさまざまな」と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる」ようになることを目的とする。

本中国語検定協会の主催する検定試験の過去問を元に作成された教材を使い、中国語検定試験4級に合格できるだけの中国語を養成することを指す。

< 到達目標 >

1. 常語500?1000を身につけている。(知識)

2. 自分ので中国語を発し、読み取り、表現すること

ができる。(態度・習慣)

3. 平易な中国語を聞き取り、話すことができる。(技能)

4. 常語による中国語単語の？本語訳と？本語の中国語訳ができる。(技能)

5. 本中国語検定協会の実施する中国語検定試験4級に合格することができる。(技能)

< 授業のキーワード >

中国語検定試験、準4級、4級、3級、シンクロ・リーディング、シャドウイング

< 授業の進め方 >

中国語検定試験の過去問を元に作成された教材を使い、筆記問題対策とリスニング問題対策とをなう。

1. 筆記問題対策では、次のように授業を進める。

(1) 漢字で書かれた教材の単語・？や？章をすべて発音でき、意味も分かるようにしておく。(予習)

(2) テストを？ない、予習の状況を確認する。(授業)

(3) ピンインで書かれた単語・？や？章を、解説を聞きながら？分で漢字に書き直し、知識の理解・定着を図る。(授業)

(4) 漢字で書かれた単語・？や？章を発音し、漢字・発音・意味の三者を結びつける。(授業・復習)

2. リスニング問題対策では、次のように授業を進める。

(1) 『精選中国語基本例集』を熟読しておく。(予習)

(2) 『精選中国語基本例集』の例を語順整序または？中訳の形で再現する？テストを？なう。(授業)

(3) リスニング問題を演習する。(授業)

(4) 漢字で書かれた？や？章を解説を聞きながら発音し、漢字・発音・意味の三者を結びつける。(授業)

(5) 漢字で書かれた？や？章をシンクロ・リーディング(？声を聞きながら？や？章を？読する)したり、シャドウイング(？字を？ずに？声を聞きながら、できるだけ正確に原？を再現する)し、？声を通して中国語の定着を図る。(授業・復習)

< 履修するにあたって >

・履修するにあたっては1年次配当の中国語科を履修して単位を取得したのと同程度程度の中国語を有していることが必要である。

・この科の履修者は6?26?(?)に？なわれる第106回中国語検定試験を受けなければならない。授業への出席条件を満たした上で検定試験に合格すれば、合格した級により規定の評点が与えられる。検定試験で級を取得できなかったり何らかの事情で検定試験を受けることができなかったりした場合は、定期試験を受けることにより規定の評点が与えられる。

・「中国語検定対策」はaとbを？括して履修しなければならない。

< 授業時間外に必要な学修 >

筆記問題対策・リスニング問題対策ともに、予習・復習

をきちんと? ふうにはそれぞれ合わせて1時間程度の時間が必要である。

筆記問題対策では、問題の答えを選ぶだけでなく、全? を? 書きし、意味を調べ、発? できるようにした上で授業に臨まなければならない。予習が重要である。

リスニング問題対策では、復習が重要である。授業で扱われた? や? 章を先ず? 字を? ながら? 声に合わせて? 読み、次に? 字を? ずに? 声に合わせて発? する練習を何度も繰り返して、? や? 章を? 声と共に? 分のものにするよう努めること。

問題を解くのは? 分の実? を測り、弱点を? 出すためであり、学習がこれに? まってはならない。単に問題を解くだけではなく、? 字・意味・? 声を? 体のものとして捉えるよう? 分で訓練をしていってほしい。

< 提出課題など >

予習・復習の状況や授業で課題に取り組む姿勢は記録され、定期試験を受けた? に対して評点C・Dを判断する際の資料となる。提出された課題は採点を施し、次の授業で返却する。

< 成績評価方法・基準 >

・単位を取得するためにはa・b共に10回以上の出席が必要である。a・bのどちらかでも出席が10回に満たない場合は、a・bの単位を共に与えない。

・6? の検定試験で準4級に合格すれば評点Bを、4級以上に合格すれば評点Sを与える。

・6? の検定試験で級を取得できなかった? は、定期試験を受けなければならない。定期試験を受けた場合の評点はA・B・C・Dの何れかとする。

・6? の検定試験で準4級にだけ合格した? も定期試験を受けることができる。この場合、評点Bを保証し、さらに定期試験の結果が良好であればAを与える。

・定期試験の難易度は中国語検定試験4級相当とする。

< テキスト >

上野恵司 『精選中国語基本? 例集』? 帝社 2006年 2000円 + 税

他に中国語検定試験過去問を元に作成した教材を使う。OneDriveを通じて配布する。

< 参考図書 >

1. 北京・商務印書館? 学館 『中? 辞典 第3版』? 学館 2016年 7500円 + 税

2. 相原茂・?? 知? ?? 沼市? 『Why?にこたえるはじめての中国語の? 法書 新訂版』

同学社 2016年 2500円 + 税

< 授業計画 >

第1回 中検4級

筆記問題対策1

1. 第96回4級筆記問題(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第96回4級筆記問題について理解し、練習する。

第2回 中検4級

筆記問題対策2

1. 第95回4級筆記問題(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第95回4級筆記問題について理解し、練習する。

第3回 中検4級

筆記問題対策3

1. 第94回4級筆記問題(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第94回4級筆記問題について理解し、練習する。

第4回 中検4級

筆記問題対策4

1. 第93回4級筆記問題(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第93回4級筆記問題について理解し、練習する。

第5回 中検4級

筆記問題対策5

1. 第92回4級筆記問題(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第92回4級筆記問題について理解し、練習する。

第6回 中検4級

筆記問題対策6

1. 第91回4級筆記問題(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第91回4級筆記問題について理解し、練習する。

第7回 中検4級

リスニング問題対策8

1. 『精選中国語基本? 例集』第13・14項? について? テストを? なう。

2. 第89回4級リスニング問題を解き、練習する。

第8回 中検4級

リスニング問題対策9

1. 『精選中国語基本? 例集』第15・16項? について? テストを? なう。

2. 第88回4級リスニング問題を解き、練習する。

第9回 中検4級

リスニング問題対策10

1. 『精選中国語基本? 例集』第17・18項? について? テストを? なう。

2. 第87回4級リスニング問題を解き、練習する。

第10回 中検4級

リスニング問題対策11

1. 『精選中国語基本? 例集』第19・20項? について? テストを? なう。

2. 第86回4級リスニング問題を解き、練習する。

第11回 中検3級

筆記問題対策1

1. 第96回3級筆記問題第1・2・3問(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第96回3級筆記問題第1・2・3問について理解し、練習する。

第12回 中検3級

筆記問題対策2

1. 第96回3級筆記問題第4・5問(予習課題)について小テストを行なう。
2. 第96回3級筆記問題第4・5問について理解し、練習する。

第13回 中検3級

筆記問題対策3

1. 第95回3級筆記問題第1・2・3問(予習課題)について小テストを行なう。
2. 第95回3級筆記問題第1・2・3問について理解し、練習する。

第14回 中検3級

リスニング問題対策4

1. 『精選中国語基本? 例集』第27項目について? テストを? なう。
2. 第95回3級リスニング問題第2問を解き、練習する。

第15回 中検3級

リスニング問題対策5

1. 『精選中国語基本? 例集』付について? テストを? なう。
2. 第94回3級リスニング問題第1問を解き、練習する。

2022年度 前期

1.0単位

中国語検定対策 a タ(中国語検定試験対策)

池田 磨左文

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

共通教育科? に属する「中国語検定対策 a」では、同じく共通教育科? に属する「中国語検定対策 b」と共に、全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて、広い教養を? につけ、豊かな? 間性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活? してさまざまな問題を発? し、それを解決する? 策を導くことができる」ようになること・「? 分の意? を? 頭や? 書によって表現し、相? の意? を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること、そして「獲得した知識や技能を活? し、国内外において、価値観や意? の異なるさまざまな? と議論し、学びを深め、協働して、社会に役? てることことができる」ようになることを? 的とする。

? 本中国語検定協会の主催する検定試験の過去問を元に作成された教材を使い、中国語検定試験4級に合格できるだけの中国語? を養成することを? 指す。

< 到達目標 >

1. 常? 語500?1000を? につけている。(知識)
2. ? 分の? で中国語を発? し、読み取り、表現すること

ができる。(態度・習慣)

3. 平易な中国語を聞き取り、話すことができる。(技能)

4. 常? 語による中国語単? の? 本語訳と? 本語の中国語訳ができる。(技能)

5. ? 本中国語検定協会の実施する中国語検定試験4級に合格することができる。(技能)

< 授業のキーワード >

中国語検定試験、準4級、4級、3級、シンクロ・リーディング、シャドウイング

< 授業の進め方 >

中国語検定試験の過去問を元に作成された教材を使い、筆記問題対策とリスニング問題対策とを? なう。

1. 筆記問題対策では、次のように授業を進める。

(1) 漢字で書かれた教材の単語・? や? 章をすべて発? ができ、意味も分かるようにしておく。(予習)

(2)? テストを? ない、予習の状況を確認する。(授業)

(3) ピンインで書かれた単語・? や? 章を、解説を聴きながら? 分で漢字に書き直し、知識の理解・定着を図る。(授業)

(4) 漢字で書かれた単語・? や? 章を発? し、漢字・発? ・意味の三者を結びつける。(授業・復習)

2. リスニング問題対策では、次のように授業を進める。

(1) 『精選中国語基本? 例集』を熟読しておく。(予習)

(2) 『精選中国語基本? 例集』の例? を語順整序または?? 中訳の形で再現する? テストを? なう。(授業)

(3) リスニング問題を演習する。(授業)

(4) 漢字で書かれた? や? 章を解説を聴きながら発? し、漢字・発? ・意味の三者を結びつける。(授業)

(5) 漢字で書かれた? や? 章をシンクロ・リーディング(? 声を聴きながら? や? 章を? 読する)したり、シャドウイング(? 字を? ずに? 声を聴きながら、できるだけ正確に原? を再現する)し、? 声を通して中国語の定着を図る。(授業・復習)

< 履修するにあたって >

・履修するにあたっては1年次配当の中国語科? を履修して単位を取得したのと同程度程度の中国語? を有していることが必要である。

・この科? の履修者は6?26?(?)に? なわれる第106回中国語検定試験を受けなければならない。授業への出席条件を満たした上で検定試験に合格すれば、合格した級により規定の評点が与えられる。検定試験で級を取得できなかったり何らかの事情で検定試験を受けることができなかつたりした場合は、定期試験を受けることにより規定の評点が与えられる。

・「中国語検定対策」はaとbを? 括して履修しなければならない。

< 授業時間外に必要な学修 >

筆記問題対策・リスニング問題対策ともに、予習・復習

をきちんと? ふうにはそれぞれ合わせて1時間程度の時間が必要である。

筆記問題対策では、問題の答えを選ぶだけでなく、全? を? 書きし、意味を調べ、発? できるようにした上で授業に臨まなければならない。予習が重要である。

リスニング問題対策では、復習が重要である。授業で扱われた? や? 章を先ず? 字を? ながら? 声に合わせて? 読み、次に? 字を? ずに? 声に合わせて発? する練習を何度も繰り返して、? や? 章を? 声と共に? 分のものにするよう努めること。

問題を解くのは? 分の実? を測り、弱点を? 出すためであり、学習がこれに? まってはならない。単に問題を解くだけではなく、? 字・意味・? 声を? 体のものとして捉えるよう? 分で訓練をしてほしい。

< 提出課題など >

予習・復習の状況や授業で課題に取り組む姿勢は記録され、定期試験を受けた? に対して評点C・Dを判断する際の資料となる。提出された課題は採点を施し、次の授業で返却する。

< 成績評価方法・基準 >

・単位を取得するためにはa・b共に10回以上の出席が必要である。a・bのどちらかでも出席が10回に満たない場合は、a・bの単位を共に与えない。

・6? の検定試験で準4級に合格すれば評点Bを、4級以上に合格すれば評点Sを与える。

・6? の検定試験で級を取得できなかった? は、定期試験を受けなければならない。定期試験を受けた場合の評点はA・B・C・Dの何れかとする。

・6? の検定試験で準4級にだけ合格した? も定期試験を受けることができる。この場合、評点Bを保証し、さらに定期試験の結果が良好であればAを与える。

・定期試験の難易度は中国語検定試験4級相当とする。

< テキスト >

上野恵司 『精選中国語基本? 例集』? 帝社 2006年 2000円 + 税

他に中国語検定試験過去問を元に作成した教材を使う。OneDriveを通じて配布する。

< 参考図書 >

1. 北京・商務印書館? 学館 『中? 辞典 第3版』? 学館 2016年 7500円 + 税

2. 相原茂・?? 知? ?? 沼市? 『Why? にこたえるはじめての中国語の? 法書 新訂版』

同学社 2016年 2500円 + 税

< 授業計画 >

第1回 中検4級

筆記問題対策1

1. 第96回4級筆記問題(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第96回4級筆記問題について理解し、練習する。

第2回 中検4級

筆記問題対策2

1. 第95回4級筆記問題(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第95回4級筆記問題について理解し、練習する。

第3回 中検4級

筆記問題対策3

1. 第94回4級筆記問題(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第94回4級筆記問題について理解し、練習する。

第4回 中検4級

筆記問題対策4

1. 第93回4級筆記問題(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第93回4級筆記問題について理解し、練習する。

第5回 中検4級

筆記問題対策5

1. 第92回4級筆記問題(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第92回4級筆記問題について理解し、練習する。

第6回 中検4級

筆記問題対策6

1. 第91回4級筆記問題(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第91回4級筆記問題について理解し、練習する。

第7回 中検4級

リスニング問題対策8

1. 『精選中国語基本? 例集』第15・16項? について? テストを? 行う。

2. 第89回4級リスニング問題を解き、練習する。

第8回 中検4級

リスニング問題対策9

1. 『精選中国語基本? 例集』第17・18項? について? テストを? 行う。

2. 第88回4級リスニング問題を解き、練習する。

第9回 中検4級

リスニング問題対策10

1. 『精選中国語基本? 例集』第19・20項? について? テストを? 行う。

2. 第87回4級リスニング問題を解き、練習する。

第10回 中検4級

リスニング問題対策11

1. 『精選中国語基本? 例集』第21・22項? について? テストを? 行う。

2. 第86回4級リスニング問題を解き、練習する。

第11回 中検4級

リスニング問題対策12

1. 『精選中国語基本? 例集』第23・24項? について? テストを? 行う。

2. 第85回4級リスニング問題を解き、練習する。

第12回 中検3級

筆記問題対策1

1. 第96回3級筆記問題第1・2・3問(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第96回3級筆記問題第1・2・3問について理解し、練習する。

第13回 中検3級

筆記問題対策2

1. 第96回3級筆記問題第4・5問(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第96回3級筆記問題第4・5問について理解し、練習する。

第14回 中検3級

リスニング問題対策3

1. 『精選中国語基本? 例集』第27項? について? テストを? なう。

2. 第95回3級リスニング問題第1問を解き、練習する。

第15回 中検3級

リスニング問題対策4

1. 『精選中国語基本? 例集』付について? テストを? なう。

2. 第95回3級リスニング問題第2問を解き、練習する。

2022年度 前期

1.0単位

中国語検定対策 b カ(中国語検定試験対策)

于 耀明

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

共通教育科? に属する「中国語検定対策 b」では、同じく共通教育科? に属する「中国語検定対策 a」と共に、全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて、広い教養を? につけ、豊かな? 問性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活? してさまざまな問題を発? し、それを解決する? 策を導くことができる」ようになること・「? 分の意? を? 頭や? 書によって表現し、相? の意? を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること、そして「獲得した知識や技能を活? し、国内外において、価値観や意? の異なるさまざまな? と議論し、学びを深め、協働して、社会に役? てることことができる」ようになることを? 的とする。

? 本中国語検定協会の主催する検定試験の過去問を元に作成された教材を使い、中国語検定試験4級に合格できるだけの中国語? を養成することを? 指す。

< 到達目標 >

1. 常? 語500?1000を? につけている。(知識)

2.? 分の? で中国語を発? し、読み取り、表現することができる。(態度・習慣)

3. 平易な中国語を聞き取り、話すことができる。(技能)

4. 常? 語による中国語単? の? 本語訳と? 本語の中国語訳ができる。(技能)

5.? 本中国語検定協会の実施する中国語検定試験4級に合格することができる。(技能)

< 授業のキーワード >

中国語検定試験、準4級、4級、3級、シンクロ・リーディング、シャドウイング

< 授業の進め方 >

中国語検定試験の過去問を元に作成された教材を使い、筆記問題対策とリスニング問題対策とを? なう。

1. 筆記問題対策では、次のように授業を進める。

(1)漢字で書かれた教材の単語・? や? 章をすべて発? ことができ、意味も分かるようにしておく。(予習)

(2)? テストを? ない、予習の状況を確認する。(授業)

(3)ピンインで書かれた単語・? や? 章を、解説を聞きながら? 分で漢字に書き直し、知識の理解・定着を図る。(授業)

(4)漢字で書かれた単語・? や? 章を発? し、漢字・発? ・意味の三者を結びつける。(授業・復習)

2. リスニング問題対策では、次のように授業を進める。

(1)『精選中国語基本? 例集』を熟読しておく。(予習)

(2)『精選中国語基本? 例集』の例? を語順整序または?? 中訳の形で再現する? テストを? なう。(授業)

(3)リスニング問題を演習する。(授業)

(4)漢字で書かれた? や? 章を解説を聞きながら発? し、漢字・発? ・意味の三者を結びつける。(授業)

(5)漢字で書かれた? や? 章をシンクロ・リーディング(? 声を聞きながら? や? 章を? 読する)したり、シャドウイング(? 字を? ずに? 声を聞きながら、できるだけ正確に原? を再現する)し、? 声を通して中国語の定着を図る。(授業・復習)

< 履修するにあたって >

・履修するにあたっては1年次配当の中国語科? を履修して単位を取得したのと同程度程度の中国語? を有していることが必要である。

・この科? の履修者は6?26?(?)に? なわれる第106回中国語検定試験を受けなければならない。授業への出席条件を満たした上で検定試験に合格すれば、合格した級により規定の評点が与えられる。検定試験で級を取得できなかったり何らかの事情で検定試験を受けることができなかつたりした場合は、定期試験を受けることにより規定の評点が与えられる。

・「中国語検定対策」はaとbを? 括して履修しなければならない。

< 授業時間外に必要な学修 >

筆記問題対策・リスニング問題対策ともに、予習・復習をきちんと? なうにはそれぞれ合わせて1時間程度の時

間が必要である。

筆記問題対策では、問題の答えを選ぶだけでなく、全？を？書きし、意味を調べ、発？できるようにした上で授業に臨まなければならない。予習が重要である。

リスニング問題対策では、復習が重要である。授業で扱われた？や？章を先ず？字を？ながら？声に合わせて？読し、次に？字を？ずに？声に合わせて発？する練習を何度も繰り返して、？や？章を？声と共に？分のものにするよう努めること。

問題を解くのは？分の実？を測り、弱点を？出すためであり、学習がこれに？まってはならない。単に問題を解くだけではなく、？字・意味・？声を？体のものとして捉えるよう？分で訓練をしてほしい。

<提出課題など>

予習・復習の状況や授業で課題に取り組む姿勢は記録され、定期試験を受けた？に対して評点C・Dを判断する際の資料となる。提出された課題は採点を施し、次の授業で返却する。

<成績評価方法・基準>

・単位を取得するためにはa・b共に10回以上の出席が必要である。a・bのどちらかでも出席が10回に満たない場合は、a・bの単位を共に与えない。

・6？の検定試験で準4級に合格すれば評点Bを、4級以上に合格すれば評点Sを与える。

・6？の検定試験で級を取得できなかった？は、定期試験を受けなければならない。定期試験を受けた場合の評点はA・B・C・Dの何れかとする。

・6？の検定試験で準4級にだけ合格した？も定期試験を受けることができる。この場合、評点Bを保証し、さらに定期試験の結果が良好であればAを与える。

・定期試験の難易度は中国語検定試験4級相当とする。

<テキスト>

上野恵司『精選中国語基本？例集』？帝社 2006年 2000円＋税

他に中国語検定試験過去問を元に作成した教材を使う。OneDriveを通じて配布する。

<参考図書>

1.北京・商務印書館？学館『中？辞典 第3版』？学館 2016年 7500円＋税

2.相原茂・？？知？・？沼市？『Why？にこたえるはじめての中国語の？法書 新訂版』

同学社 2016年 2500円＋税

<授業計画>

第1回 中検4級

リスニング問題対策1

1.『精選中国語基本？例集』第1・2項？について？テストを？なう。

2.第96回4級リスニング問題を解き、練習する。

第2回 中検4級

リスニング問題対策2

1.『精選中国語基本？例集』第3・4項？について？テストを？なう。

2.第95回4級リスニング問題を解き、練習する。

第3回 中検4級

リスニング問題対策3

1.『精選中国語基本？例集』第5・6項？について？テストを？なう。

2.第94回4級リスニング問題を解き、練習する。

第4回 中検4級

リスニング問題対策4

1.『精選中国語基本？例集』第7・8項？について？テストを？なう。

2.第93回4級リスニング問題を解き、練習する。

第5回 中検4級

リスニング問題対策5

1.『精選中国語基本？例集』第9・10項？について？テストを？なう。

2.第92回4級リスニング問題を解き、練習する。

第6回 中検4級

リスニング問題対策6

1.『精選中国語基本？例集』第11・12項？について？テストを？なう。

2.第91回4級リスニング問題を解き、練習する。

第7回 中検4級

筆記問題対策7

1.第90回4級筆記問題(予習課題)について小テストを行なう。

2.第90回4級筆記問題について理解し、練習する。

第8回 中検4級

筆記問題対策8

1.第89回4級筆記問題(予習課題)について小テストを行なう。

2.第89回4級筆記問題について理解し、練習する。

第9回 中検4級

筆記問題対策9

1.第88回4級筆記問題(予習課題)について小テストを行なう。

2.第88回4級筆記問題について理解し、練習する。

第10回 中検4級

筆記問題対策10

1.第87回4級筆記問題(予習課題)について小テストを行なう。

2.第87回4級筆記問題について理解し、練習する。

第11回 中検3級

リスニング問題対策1

1.『精選中国語基本？例集』第21・22項？について？テストを？なう。

2.第96回3級リスニング問題第1問を解き、練習する。

第12回 中検3級

リスニング問題対策2

1.『精選中国語基本? 例集』第23・24項? について? テストを? 行う。

2.第96回3級リスニング問題第2問を解き, 練習する。

第13回 中検3級

リスニング問題対策3

1.『精選中国語基本? 例集』第25・26項? について? テストを? 行う。

2.第95回3級リスニング問題第1問を解き, 練習する。

第14回 中検3級

筆記問題対策4

1.第95回3級筆記問題第4・5問(予習課題)について小テストを行なう。

2.第95回3級筆記問題第4・5問について理解し, 練習する。

第15回 中検3級

筆記問題対策5

1.第94回3級筆記問題第1・2・3問(予習課題)について小テストを行なう。

2.第94回4級筆記問題第1・2・3問について理解し, 練習する。

2022年度 前期

1.0単位

中国語検定対策 b タ(中国語検定試験対策)

李 玲

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

共通教育科? に属する「中国語検定対策 b」では, 同じく共通教育科? に属する「中国語検定対策 a」と共に, 全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて, 広い教養を? につけ, 豊かな? 間性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活? してさまざまな問題を発? し, それを解決する? 策を導くことができる」ようになること・「? 分の意? を? 頭や? 書によって表現し, 相? の意? を理解することで, 良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること, そして「獲得した知識や技能を活? し, 国内外において, 価値観や意? の異なるさまざまな? と議論し, 学びを深め, 協働して, 社会に役? てることことができる」ようになることを? 的とする。

? 本中国語検定協会の主催する検定試験の過去問を元に作成された教材を使い, 中国語検定試験4級に合格できるだけの中国語? を養成することを? 指す。

< 到達目標 >

1.常? 語500?1000を? につけている。(知識)

2.? 分の? で中国語を発? し, 読み取り, 表現することができる。(態度・習慣)

3.平易な中国語を聴き取り, 話すことができる。(技能)

4.常? 語による中国語単? の? 本語訳と? 本語の中国語訳ができる。(技能)

5.? 本中国語検定協会の実施する中国語検定試験4級に合格することができる。(技能)

< 授業のキーワード >

中国語検定試験, 準4級, 4級, 3級, シンクロ・リーディング, シャドウイング

< 授業の進め方 >

中国語検定試験の過去問を元に作成された教材を使い, 筆記問題対策とリスニング問題対策とを? 行う。

1.筆記問題対策では, 次のように授業を進める。

(1)漢字で書かれた教材の単語・? や? 章をすべて発? ができ, 意味も分かるようにしておく。(予習)

(2)? テストを? ない, 予習の状況を確認する。(授業)

(3)ピンインで書かれた単語・? や? 章を, 解説を聴きながら? 分で漢字に書き直し, 知識の理解・定着を図る。(授業)

(4)漢字で書かれた単語・? や? 章を発? し, 漢字・発? ・意味の三者を結びつける。(授業・復習)

2.リスニング問題対策では, 次のように授業を進める。

(1)『精選中国語基本? 例集』を熟読しておく。(予習)

(2)『精選中国語基本? 例集』の例? を語順整序または? ? 中訳の形で再現する? テストを? 行う。(授業)

(3)リスニング問題を演習する。(授業)

(4)漢字で書かれた? や? 章を解説を聴きながら発? し, 漢字・発? ・意味の三者を結びつける。(授業)

(5)漢字で書かれた? や? 章をシンクロ・リーディング(? 声を聴きながら? や? 章を? 読する)したり, シャドウイング(? 字を? ずに? 声を聴きながら, できるだけ正確に原? を再現する)し, ? 声を通して中国語の定着を図る。(授業・復習)

< 履修するにあたって >

・履修するにあたっては1年次配当の中国語科? を履修して単位を取得したのと同程度中国語? を有していることが必要である。

・この科? の履修者は6?26?(?)に? なわれる第106回中国語検定試験を受けなければならない。授業への出席条件を満たした上で検定試験に合格すれば, 合格した級により規定の評点が与えられる。検定試験で級を取得できなかったり何らかの事情で検定試験を受けることができなかつたりした場合は, 定期試験を受けることにより規定の評点が与えられる。

・「中国語検定対策」はaとbを? 括して履修しなければならない。

< 授業時間外に必要な学修 >

筆記問題対策・リスニング問題対策ともに, 予習・復習をきちんと? 行うにはそれぞれ合わせて1時間程度の時間が必要である。

筆記問題対策では、問題の答えを選ぶだけでなく、全？を？書きし、意味を調べ、発？できるようにした上で授業に臨まなければならない。予習が重要である。

リスニング問題対策では、復習が重要である。授業で扱われた？や？章を先ず？字を？ながら？声に合わせて？読し、次に？字を？ずに？声に合わせて発？する練習を何度も繰り返して、？や？章を？声と共に？分のものにするよう努めること。

問題を解くのは？分の実？を測り、弱点を？出すためであり、学習がこれに？まってはならない。単に問題を解くだけではなく、？字・意味・？声を？体のものとして捉えるよう？分で訓練をしてほしい。

< 提出課題など >

予習・復習の状況や授業で課題に取り組む姿勢は記録され、定期試験を受けた？に対して評点C・Dを判断する際の資料となる。提出された課題は採点を施し、次の授業で返却する。

< 成績評価方法・基準 >

・単位を取得するためにはa・b共に10回以上の出席が必要である。a・bのどちらかでも出席が10回に満たない場合は、a・bの単位を共に与えない。

・6？の検定試験で準4級に合格すれば評点Bを、4級以上に合格すれば評点Sを与える。

・6？の検定試験で級を取得できなかった？は、定期試験を受けなければならない。定期試験を受けた場合の評点はA・B・C・Dの何れかとする。

・6？の検定試験で準4級にだけ合格した？も定期試験を受けることができる。この場合、評点Bを保証し、さらに定期試験の結果が良好であればAを与える。

・定期試験の難易度は中国語検定試験4級相当とする。

< テキスト >

上野恵司 『精選中国語基本？例集』？帝社 2006年 2000円＋税

他に中国語検定試験過去問を元に作成した教材を使う。OneDriveを通じて配布する。

< 参考図書 >

1.北京・商務印書館？学館 『中？辞典 第3版』？学館 2016年 7500円＋税

2.相原茂・？？知？．？沼市？ 『Why?にこたえるはじめての中国語の？法書 新訂版』

同学社 2016年 2500円＋税

< 授業計画 >

第1回 中検4級

リスニング問題対策1

1. 『精選中国語基本？例集』第1・2項？について？テストを？なう。

2. 第96回4級リスニング問題を解き、練習する。

第2回 中検4級

リスニング問題対策2

1. 『精選中国語基本？例集』第3・4項？について？テ

ストを？なう。

2. 第95回4級リスニング問題を解き、練習する。

第3回 中検4級

リスニング問題対策3

1. 『精選中国語基本？例集』第5・6項？について？テストを？なう。

2. 第94回4級リスニング問題を解き、練習する。

第4回 中検4級

リスニング問題対策4

1. 『精選中国語基本？例集』第7・8項？について？テストを？なう。

2. 第93回4級リスニング問題を解き、練習する。

第5回 中検4級

リスニング問題対策5

1. 『精選中国語基本？例集』第9・10項？について？テストを？なう。

2. 第92回4級リスニング問題を解き、練習する。

第6回 中検4級

リスニング問題対策6

1. 『精選中国語基本？例集』第11・12項？について？テストを？なう。

2. 第91回4級リスニング問題を解き、練習する。

第7回 中検4級

リスニング問題対策7

1. 『精選中国語基本？例集』第13・14項？について？テストを？なう。

2. 第90回4級リスニング問題を解き、練習する。

第8回 中検4級

筆記問題対策7

1. 第90回4級筆記問題(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第90回4級筆記問題について理解し、練習する。

第9回 中検4級

筆記問題対策8

1. 第89回4級筆記問題(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第89回4級筆記問題について理解し、練習する。

第10回 中検4級

筆記問題対策9

1. 第88回4級筆記問題(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第88回4級筆記問題について理解し、練習する。

第11回 中検4級

筆記問題対策10

1. 第87回4級筆記問題(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第87回4級筆記問題について理解し、練習する。

第12回 中検4級

筆記問題対策11

1. 第86回4級筆記問題(予習課題)について小テストを行

なう。

2. 第86回4級筆記問題について理解し，練習する。

第13回 中検3級

リスニング問題対策1

1. 『精選中国語基本? 例集』第25項? について? テストを? なう。

2. 第96回3級リスニング問題第1問を解き，練習する。

第14回 中検3級

リスニング問題対策2

1. 『精選中国語基本? 例集』第26項? について? テストを? なう。

2. 第96回3級リスニング問題第2問を解き，練習する。

第15回 中検3級

筆記問題対策3

1. 第95回3級筆記問題第1・2・3問(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第95回3級筆記問題第1・2・3問について理解し，練習する。

2022年度 後期

1.0単位

中国語検定対策 a 力(中国語検定試験・HSK対策)

池田 磨左文

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

共通教育科? に属する「中国語検定対策 a」では，同じく共通教育科? に属する「中国語検定対策 b」と共に，全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて，広い教養を? につけ，豊かな? 問性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活? してさまざまな問題を発? し，それを解決する? 策を導くことができる」ようになること・「? 分の意? を? 頭や? 書によって表現し，相? の意? を理解することで，良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること，そして「獲得した知識や技能を活? し，国内外において，価値観や意? の異なるさまざまな? と議論し，学びを深め，協働して，社会に役? てることことができる」ようになることを? 的とする。

? 本中国語検定協会の主催する中国語検定試験3級および中華? ? 共和国政府教育部に直属する機関である孔? 学院総部/国家漢弁(国家漢語国際推广領導? 組弁公室)が主催し中華? ? 共和国政府が認定するHSK(漢語? 平考試)4級に合格できるだけの中国語? を養成することを? 指す。

HSK4級は受験? の? 常中国語の応? 能? を判定するテストであり，「幅広い範囲にわたる話題について，中国語でコミュニケーションをすることができ，中国語を?

語とする者と流ちょうに話すことができる」ことができるかどうかを測るものである。1200語程度の常? 単語と? 法知識を習得している者を対象としており，? 学の第? 外国語における第? 年度後期履修程度の学習が? 安とされている。設定されている対象者や難易度は中国語検定試験3級にほぼ相当する。

< 到達目標 >

1. 常? 語1000?2000を? につけている。(知識)

2.? 分の? で中国語を発? し，読み取り，表現することができる。(態度・習慣)

3. 基本的な? 章を読み，書くことができる。また，簡単な? 常会話ができる。(技能)

4. 常? 語による中国語複? の? 本語訳と? 本語の中国語訳ができる。(技能)

5.? 本中国語検定協会の主催する中国語検定試験3級に合格することができる。(技能)

6. 中華? ? 共和国政府教育部に直属する孔? 学院総部/国家漢弁(国家漢語国際推广領導? 組弁公室)

が主催し中華? ? 共和国政府が認定するHSK(漢語? 平考試)4級に合格することができる。(技能)

< 授業のキーワード >

中国語検定試験 3 級，HSK4級，シンクロ・リーディング，シャドウイング

< 授業の進め方 >

中国語検定試験の過去問を元に作成された教材を使い，筆記問題対策とリスニング問題対策とを? なう。

1. 筆記問題対策では，次のように授業を進める。

(1) 漢字で書かれた教材の単語・? や? 章をすべて発? ができ，意味も分かるようにしておく。(予習)

(2)? テストを? ない，予習の状況を確認する。(授業)

(3) ピンインで書かれた単語・? や? 章を，解説を聴きながら? 分で漢字に書き直し，知識の理解・定着を図る。(授業)

(4) 漢字で書かれた単語・? や? 章を発? し，漢字・発? ・意味の三者を結びつける。(授業・復習)

2. リスニング問題対策では，次のように授業を進める。

(1) 『精選中国語基本? 例集』を熟読しておく。(予習)

(2) 『精選中国語基本? 例集』の例? を語順整序または? ? 中訳の形で再現する? テストを? なう。(授業)

(3) リスニング問題を演習する。(授業)

(4) 漢字で書かれた? や? 章を解説を聴きながら発? し，漢字・発? ・意味の三者を結びつける。(授業)

(5) 漢字で書かれた? や? 章をシンクロ・リーディング(? 声を聴きながら? や? 章を? 読する)したり，シャドウイング(? 字を? ずに? 声を聴きながら，できるだけ正確に原? を再現する)し，? 声を通して中国語の定着を図る。(授業・復習)

なお、11? の中国語検定試験終了後は、HSK4級の過去問を演習する。

<履修するにあたって>

・履修するにあたっては1年次配当の中国語科? を履修して単位を取得したのと同程度の中国語? を有していることが必要である。

・この科? の履修者は11?27?(?)に? なされる第107回中国語検定試験を受けなければならない。授業への出席条件を満たした上で検定試験に合格すれば、合格した級により規定の評点が与えられる。検定試験で級を取得できなかったり何らかの事情で検定試験を受けることができなかったりした場合は、定期試験を受けることにより規定の評点が与えられる。

・「中国語検定対策」はaとbを? 括して履修しなければならない。

<授業時間外に必要な学修>

筆記問題対策・リスニング問題対策ともに、予習・復習をきちんと? 行うにはそれぞれ合わせて1時間程度の時間が必要である。

筆記問題対策では、問題の答えを選ぶだけでなく、全? を? 書きし、意味を調べ、発? できるようにした上で授業に臨まなければならない。予習が重要である。

リスニング問題対策では、復習が重要である。授業で扱われた? や? 章を先ず? 字を? ながら? 声に合わせて? 読し、次に? 字を? ずに? 声に合わせて発? する練習を何度も繰り返して、? や? 章を? 声と共に? 分のものにするよう努めること。

問題を解くのは? 分の実? を測り、弱点を? 出すためであり、学習がこれに? まってはならない。単に問題を解くだけではなく、? 字・意味・? 声を? 体のものとして捉えるよう? 分で訓練をしてほしい。

<提出課題など>

予習・復習の状況や授業で課題に取り組む姿勢は記録され、定期試験を受けた? に対して評点C・Dを判断する際の資料となる。提出された課題は採点を施し、次の授業で返却する。

<成績評価方法・基準>

・単位を取得するためにはa・b共に10回以上の出席が必要。a・bのどちらかでも出席が10回に満たない場合は、a・bの単位を共に与えない。

・11? の検定試験で4級に合格すれば評点Bを、3級以上に合格すれば評点Sを与える。

・11? の検定試験で4級以上の級を取得できなかった? は、定期試験を受けなければならない。定期試験を受けた場合の評点はA・B・C・Dの何れかとする。

・11? の検定試験で4級にだけ合格した? も定期試験を受けることができる。この場合、評点Bを保証し、さらに定期試験の成績が良好であればAを与える。

・定期試験の難易度は中国語検定試験3級相当とする。HSK4級の内容も含む。

<テキスト>

上野恵司 『精選中国語基本? 例集』? 帝社 2006年 2000円+税

他に中国語検定試験過去問を元に作成した教材を使う。OneDriveを通じて配布する。

<参考図書>

1.北京・商務印書館? 学館 『中? 辞典 第3版』? 学館 2016年 7500円+税

2.相原茂・? ? 知? ・? 沼市? 『Why?にこたえるはじめての中国語の? 法書 新訂版』

同学社 2016年 2500円+税

<授業計画>

第1回 中検3級

筆記問題対策6

1.第94回3級筆記問題第4・5問(予習課題)について小テストを行なう。

2.第94回3級筆記問題第4・5問について理解し、練習する。

第2回 中検3級

筆記問題対策7

1.第93回3級筆記問題第1・2・3問(予習課題)について小テストを行なう。

2.第93回3級筆記問題第1・2・3問について理解し、練習する。

第3回 中検3級

筆記問題対策8

1.第93回3級筆記問題第4・5問(予習課題)について小テストを行なう。

2.第93回3級筆記問題第4・5問を理解し、練習する。

第4回 中検3級

筆記問題対策9

1.第92回3級筆記問題第1・2・3問(予習課題)について小テストを行なう。

2.第92回3級筆記問題第1・2・3問を理解し、練習する。

第5回 中検3級

筆記問題対策10

1.第92回3級筆記問題第4・5問(予習課題)について小テストを行なう。

2.第92回3級筆記問題第4・5問を理解し、練習する。

第6回 中検3級

リスニング問題対策11

1.『精選中国語基本? 例集』第16・17・18項? について? テストを? 行う。

2.第91回3級リスニング問題第1問を解き、練習する。

第7回 中検3級

リスニング問題対策12

1.『精選中国語基本? 例集』第19・20・21項? について? テストを? 行う。

2.第91回3級リスニング問題第2問を解き、練習する。

第8回 中検3級

リスニング問題対策13

1.『精選中国語基本? 例集』第22・23・24項? について? テストを? 行う。

2.第90回3級リスニング問題第1問を解き、練習する。

第9回 中検3級

リスニング問題対策14

1.『精選中国語基本? 例集』第25・26・27項? について? テストを? 行う。

2.第90回3級リスニング問題第2問を解き、練習する。

第10回 中検3級

リスニング問題対策15

1.『精選中国語基本? 例集』付について? テストを? 行う。

2.第89回3級リスニング問題第1問を解き、練習する。

第11回 HSK4級

阅读、书写考试1

HSK4级阅读、书写考试1を解き、練習する。

第12回 HSK4級

阅读、书写考试2

HSK4级阅读、书写考试2を解き、練習する。

第13回 HSK4級

阅读、书写考试3

HSK4级阅读、书写考试3を解き、練習する。

第14回 HSK4級

听? 考试4

HSK4级听? 考试4を解き、練習する。

第15回 HSK4級

听? 考试5

HSK4级听? 考试5を解き、練習する。

2022年度 後期

1.0単位

中国語検定対策 a タ (中国語検定試験・HSK対策)

池田 磨左文

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

共通教育科? に属する「中国語検定対策 a」では、同じく共通教育科? に属する「中国語検定対策 b」と共に、全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて、広い教養を? につけ、豊かな? 間性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活? してさまざまな問題を発? し、それを解決する? 策を導くことができる」ようになること・「? 分の意? を? 頭や? 書によって表現し、相? の意? を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること、そして「獲得した知識や技能を活? し、国内外において、価値観や意? の異なるさまざまな? と議論し、学びを深め、協働して、

社会に役? てることができる」ようになることを? 的とする。

? 本中国語検定協会の主催する中国語検定試験3級および中華? ? 共和国政府教育部に直属する機関である孔? 学院総部/国家漢弁(国家漢語国際推广領導? 組弁公室)が主催し中華? ? 共和国政府が認定するHSK(漢語? 平考試)4級に合格できるだけの中国語? を養成することを? 指す。

HSK4級は受験? の? 常中国語の応? 能? を判定するテストであり、「幅広い範囲にわたる話題について、中国語でコミュニケーションをすることができ、中国語を? 語とする者と流ちょうに話すことができる」ことができるかどうかを測るものである。1200語程度の常? 単語と? 法知識を習得している者を対象としており、? 学の第? 外国語における第? 年度後期履修程度の学習が? 安とされている。設定されている対象者や難易度は中国語検定試験3級にほぼ相当する。

< 到達目標 >

1.常? 語1000?2000を? につけている。(知識)

2.? 分の? で中国語を発? し、読み取り、表現することができる。(態度・習慣)

3.基本的な? 章を読み、書くことができる。また、簡単な? 常会話ができる。(技能)

4.常? 語による中国語複? の? 本語訳と? 本語の中国語訳ができる。(技能)

5.? 本中国語検定協会の主催する中国語検定試験3級に合格することができる。(技能)

6.中華? ? 共和国政府教育部に直属する孔? 学院総部/国家漢弁(国家漢語国際推广領導? 組弁公室)が主催し中華? ? 共和国政府が認定するHSK(漢語? 平考試)4級に合格することができる。(技能)

< 授業のキーワード >

中国語検定試験 3級, HSK4級, シンクロ・リーディング, シャドウイング

< 授業の進め方 >

中国語検定試験の過去問を元に作成された教材を使い、筆記問題対策とリスニング問題対策とを? 行う。

1.筆記問題対策では、次のように授業を進める。

(1)漢字で書かれた教材の単語・? や? 章をすべて発? ができ、意味も分かるようにしておく。(予習)

(2)? テストを? ない、予習の状況を確認する。(授業)

(3)ピンインで書かれた単語・? や? 章を、解説を聴きながら? 分で漢字に書き直し、知識の理解・定着を図る。(授業)

(4)漢字で書かれた単語・? や? 章を発? し、漢字・発? ・意味の三者を結びつける。(授業・復習)

2.リスニング問題対策では、次のように授業を進める。

(1)『精選中国語基本? 例集』を熟読しておく。(予習)

- (2)『精選中国語基本? 例集』の例? を語順整序または?? 中訳の形で再現する? テストを? なう。(授業)
- (3)リスニング問題を演習する。(授業)
- (4)漢字で書かれた? や? 章を解説を聴きながら発? し、漢字・発? ・意味の三者を結びつける。(授業)
- (5)漢字で書かれた? や? 章をシンクロ・リーディング(? 声を聴きながら? や? 章を? 読する)したり、シャドウイング(? 字を? ずに? 声を聴きながら、できるだけ正確に原? を再現する)し、? 声を通して中国語の定着を図る。(授業・復習)

なお、11? の中国語検定試験終了後は、HSK4級の過去問を演習する。

<履修するにあたって>

・履修するにあたっては1年次配当の中国語科? を履修して単位を取得したのと同程度中国語? を有していることが必要である。

・この科? の履修者は11?27?(?)に? なる第107回中国語検定試験を受けなければならない。授業への出席条件を満たした上で検定試験に合格すれば、合格した級により規定の評点が与えられる。検定試験で級を取得できなかったり何らかの事情で検定試験を受けることができなかつたりした場合は、定期試験を受けることにより規定の評点が与えられる。

・「中国語検定対策」はaとbを? 括して履修しなければならない。

<授業時間外に必要な学修>

筆記問題対策・リスニング問題対策ともに、予習・復習をきちんと? なうにはそれぞれ合わせて1時間程度の時間が必要である。

筆記問題対策では、問題の答えを選ぶだけでなく、全? を? 書きし、意味を調べ、発? できるようにした上で授業に臨まなければならない。予習が重要である。

リスニング問題対策では、復習が重要である。授業で扱われた? や? 章を先ず? 字を? ながら? 声に合わせて? 読し、次に? 字を? ずに? 声に合わせて発? する練習を何度も繰り返して、? や? 章を? 声と共に? 分のものにするよう努めること。

問題を解くのは? 分の実? を測り、弱点を? 出すためであり、学習がこれに? まってはならない。単に問題を解くだけではなく、? 字・意味・? 声を? 体のものとして捉えるよう? 分で訓練をしてほしい。

<提出課題など>

予習・復習の状況や授業で課題に取り組む姿勢は記録され、定期試験を受けた? に対して評点C・Dを判断する際の資料となる。提出された課題は採点を施し、次の授業で返却する。

<成績評価方法・基準>

・単位を取得するためにはa・b共に10回以上の出席が必要。a・bのどちらかでも出席が10回に満たない場合

は、a・bの単位を共に与えない。

・11? の検定試験で4級に合格すれば評点Bを、3級以上に合格すれば評点Sを与える。

・11? の検定試験で4級以上の級を取得できなかった? は、定期試験を受けなければならない。定期試験を受けた場合の評点はA・B・C・Dの何れかとする。

・11? の検定試験で4級にだけ合格した? も定期試験を受けることができる。この場合、評点Bを保証し、さらに定期試験の成績が良好であればAを与える。

・定期試験の難易度は中国語検定試験3級相当とする。HSK4級の内容も含む。

<テキスト>

上野恵司『精選中国語基本? 例集』? 帝社 2006年 2000円+税

他に中国語検定試験過去問を元に作成した教材を使う。OneDriveを通じて配布する。

<参考図書>

1.北京・商務印書館? 学館『中? 辞典 第3版』? 学館 2016年 7500円+税

2.相原茂・? ? 知? ・? 沼市? 『Why?にこたえるはじめての中国語の? 法書 新訂版』

同学社 2016年 2500円+税

<授業計画>

第1回 中検3級

筆記問題対策4

1.第95回3級筆記問題第4・5問(予習課題)について小テストを行なう。

2.第95回3級筆記問題第4・5問について理解し、練習する。

第2回 中検3級

筆記問題対策5

1.第94回3級筆記問題第1・2・3問(予習課題)について小テストを行なう。

2.第94回3級筆記問題第1・2・3問について理解し、練習する。

第3回 中検3級

筆記問題対策6

1.第94回3級筆記問題第4・5問(予習課題)について小テストを行なう。

2.第94回3級筆記問題第4・5問を理解し、練習する。

第4回 中検3級

筆記問題対策7

1.第93回3級筆記問題第1・2・3問(予習課題)について小テストを行なう。

2.第93回3級筆記問題第1・2・3問を理解し、練習する。

第5回 中検3級

筆記問題対策8

1.第93回3級筆記問題第4・5問(予習課題)について小テストを行なう。

2.第93回3級筆記問題第4・5問を理解し、練習する。

第6回 中検3級

リスニング問題対策9

- 1.『精選中国語基本? 例集』第13・14・15項? について? テストを? 行う。
- 2.第91回3級リスニング問題第1問を解き, 練習する。

第7回 中検3級

リスニング問題対策10

- 1.『精選中国語基本? 例集』第16・17・18項? について? テストを? 行う。
- 2.第91回3級リスニング問題第2問を解き, 練習する。

第8回 中検3級

リスニング問題対策11

- 1.『精選中国語基本? 例集』第19・20・21項? について? テストを? 行う。
- 2.第90回3級リスニング問題第1問を解き, 練習する。

第9回 中検3級

リスニング問題対策12

- 1.『精選中国語基本? 例集』第22・23・24項? について? テストを? 行う。
- 2.第90回3級リスニング問題第2問を解き, 練習する。

第10回 中検3級

リスニング問題対策13

- 1.『精選中国語基本? 例集』第25・26・27項目と付について? テストを? 行う。
- 2.第89回3級リスニング問題第1問を解き, 練習する。

第11回 HSK4級

阅读、书写考试1

HSK4級阅读、书写考试1を解き, 練習する。

第12回 HSK4級

阅读、书写考试2

HSK4級阅读、书写考试2を解き, 練習する。

第13回 HSK4級

阅读、书写考试3

HSK4級阅读、书写考试3を解き, 練習する。

第14回 HSK4級

听? 考试4

HSK4級听? 考试4を解き, 練習する。

第15回 HSK4級

听? 考试5

HSK4級听? 考试5を解き, 練習する。

2022年度 後期

1.0単位

中国語検定対策 b 力(中国語検定試験・HSK対策)

于 耀明

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

共通教育科? に属する「中国語検定対策 b」では、同じく共通教育科? に属する「中国語検定対策 a」と共に、全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて、広い教養を? につけ、豊かな? 間性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活? してさまざまな問題を発? し、それを解決する? 策を導くことができる」ようになること・「? 分の意? を? 頭や? 書によって表現し、相? の意? を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること、そして「獲得した知識や技能を活? し、国内外において、価値観や意? の異なるさまざまな? と議論し、学びを深め、協働して、社会に役? てることのできる」ようになることを? 的とする。

? 本中国語検定協会の主催する中国語検定試験3級および中華? ? 共和国政府教育部に直属する機関である孔? 学院総部/国家漢弁(国家漢語国際推广領導? 組弁公室)が主催し中華? ? 共和国政府が認定するHSK(漢語? 平考試)4級に合格できるだけの中国語? を養成することを? 指す。

HSK4級は受験? の? 常中国語の応? 能? を判定するテストであり、「幅広い範囲にわたる話題について、中国語でコミュニケーションをすることができ、中国語を? 語とする者と流ちょうに話すことができる」ことができるかどうかを測るものである。1200語程度の常? 単語と? 法知識を習得している者を対象としており、? 学の第? 外国語における第? 年度後期履修程度の学習が? 安とされている。設定されている対象者や難易度は中国語検定試験3級にほぼ相当する。

< 到達目標 >

- 1.常? 語1000?2000を? につけている。(知識)
- 2.? 分の? で中国語を発? し、読み取り、表現することができる。(態度・習慣)
- 3.基本的な? 章を読み、書くことができる。また、簡単な? 常会話ができる。(技能)
- 4.常? 語による中国語複? の? 本語訳と? 本語の中国語訳ができる。(技能)
- 5.? 本中国語検定協会の主催する中国語検定試験3級に合格することができる。(技能)
- 6.中華? ? 共和国政府教育部に直属する孔? 学院総部/国家漢弁(国家漢語国際推广領導? 組弁公室)が主催し中華? ? 共和国政府が認定するHSK(漢語? 平考試)4級に合格することができる。(技能)

< 授業のキーワード >

中国語検定試験 3 級, HSK4級, シンクロ・リーディング, シャドウイング

< 授業の進め方 >

中国語検定試験の過去問を元に作成された教材を使い、筆記問題対策とリスニング問題対策とを? 行う。

- 1.筆記問題対策では、次のように授業を進める。

- (1)漢字で書かれた教材の単語・? や? 章をすべて発? ができ、意味も分かるようにしておく。(予習)
- (2)? テストを? ない、予習の状況を確認する。(授業)
- (3)ピンインで書かれた単語・? や? 章を、解説を聴きながら? 分で漢字に書き直し、知識の理解・定着を図る。(授業)
- (4)漢字で書かれた単語・? や? 章を発? し、漢字・発? ・意味の三者を結びつける。(授業・復習)

2.リスニング問題対策では、次のように授業を進める。

- (1)『精選中国語基本? 例集』を熟読しておく。(予習)
- (2)『精選中国語基本? 例集』の例? を語順整序または? ? 中訳の形で再現する? テストを? なく。(授業)
- (3)リスニング問題を演習する。(授業)
- (4)漢字で書かれた? や? 章を解説を聴きながら発? し、漢字・発? ・意味の三者を結びつける。(授業)
- (5)漢字で書かれた? や? 章をシンクロ・リーディング(? 声を聴きながら? や? 章を? 読する)したり、シャドウイング(? 字を? ずに? 声を聴きながら、できるだけ正確に原? を再現する)し、? 声を通して中国語の定着を図る。(授業・復習)

なお、11? の中国語検定試験終了後は、HSK4級の過去問を演習する。

<履修するにあたって>

・履修するにあたっては1年次配当の中国語科? を履修して単位を取得したのと同程度中国語? を有していることが必要である。

・この科? の履修者は11?27? (?)に? なる第107回中国語検定試験を受けなければならない。授業への出席条件を満たした上で検定試験に合格すれば、合格した級により規定の評点が与えられる。検定試験で級を取得できなかったり何らかの事情で検定試験を受けることができなかったりした場合は、定期試験を受けることにより規定の評点が与えられる。

・「中国語検定対策」は aと bを? 括して履修しなければならない。

<授業時間外に必要な学修>

筆記問題対策・リスニング問題対策ともに、予習・復習をきちんと? なくにはそれぞれ合わせて1時間程度の時間が必要である。

筆記問題対策では、問題の答えを選ぶだけでなく、全? を? 書きし、意味を調べ、発? できるようにした上で授業に臨まなければならない。予習が重要である。

リスニング問題対策では、復習が重要である。授業で扱われた? や? 章を先ず? 字を? ながら? 声に合わせて? 読し、次に? 字を? ずに? 声に合わせて発? する練習を何度も繰り返して、? や? 章を? 声と共に? 分のものにするよう努めること。

問題を解くのは? 分の実? を測り、弱点を? 出すため

であり、学習がこれに? まってはならない。単に問題を解くだけではなく、? 字・意味・? 声を? 体のものとして捉えるよう? 分で訓練をしてほしい。

<提出課題など>

予習・復習の状況や授業で課題に取り組む姿勢は記録され、定期試験を受けた? に対して評点C・Dを判断する際の資料となる。提出された課題は採点を施し、次の授業で返却する。

<成績評価方法・基準>

・単位を取得するためにはa・b共に10回以上の出席が必要。a・bのどちらかでも出席が10回に満たない場合は、a・bの単位を共に与えない。

・11? の検定試験で4級に合格すれば評点Bを、3級以上に合格すれば評点Sを与える。

・11? の検定試験で4級以上の級を取得できなかった? は、定期試験を受けなければならない。定期試験を受けた場合の評点はA・B・C・Dの何れかとする。

・11? の検定試験で4級にだけ合格した? も定期試験を受けることができる。この場合、評点Bを保証し、さらに定期試験の成績が良好であればAを与える。

・定期試験の難易度は中国語検定試験3級相当とする。

HSK4級の内容も含む。

<テキスト>

上野恵司 『精選中国語基本? 例集』 ? 帝社 2006年 2000円+税

他に中国語検定試験過去問を元に作成した教材を使う。OneDriveを通じて配布する。

<参考図書>

1.北京・商務印書館 ? 学館 『中? 辞典 第3版』 ? 学館 2016年 7500円+税

2.相原茂・? ? 知? ・? 沼市? 『Why?にこたえるはじめての中国語の? 法書 新訂版』

同学社 2016年 2500円+税

<授業計画>

第1回 中検3級

リスニング問題対策5

1.『精選中国語基本? 例集』第1・2・3項? について? テストを? なく。

2.第94回3級リスニング問題第1問を解き、練習する。

第2回 中検3級

リスニング問題対策6

1.『精選中国語基本? 例集』第4・5・6項? について? テストを? なく。

2.第94回3級リスニング問題第2問を解き、練習する。

第3回 中検3級

リスニング問題対策7

1.『精選中国語基本? 例集』第7・8・9項? について? テストを? なく。

2.第93回3級リスニング問題第1問を解き、練習する。

第4回 中検3級

リスニング問題対策8

1. 『精選中国語基本? 例集』第10・11・12項? について? テストを? 行う。

2. 第93回3級リスニング問題第2問を解き, 練習する。

第5回 中検3級

筆記問題対策9

1. 第92回3級筆記問題第1・2・3問(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第92回3級筆記問題第1・2・3問を理解し, 練習する。

第6回 中検3級

筆記問題対策10

1. 第92回3級筆記問題第4・5問(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第92回3級筆記問題第4・5問を理解し, 練習する。

第7回 中検3級

筆記問題対策11

1. 第91回3級筆記問題第1・2・3問(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第91回3級筆記問題第1・2・3問を理解し, 練習する。

第8回 中検3級

筆記問題対策12

1. 第91回3級筆記問題第4・5問(予習課題)について小テストを行なう。

2. 第91回3級筆記問題第4・5問を理解し, 練習する。

第9回 HSK4級

聴? 考试1

HSK4級聴? 考试1を解き, 練習する。

第10回 HSK4級

聴? 考试2

HSK4級聴? 考试2を解き, 練習する。

第11回 HSK4級

聴? 考试3

HSK4級聴? 考试3を解き, 練習する。

第12回 HSK4級

阅读、书写考试4

HSK4級阅读、书写考试4を解き, 練習する。

第13回 HSK4級

阅读、书写考试5

HSK4級阅读、书写考试5を解き, 練習する。

第14回 HSK4級

阅读、书写考试6

HSK4級阅读、书写考试6を解き, 練習する。

第15回 HSK4級

阅读、书写考试7

HSK4級阅读、书写考试7を解き, 練習する。

2022年度 後期

1.0単位

中国語検定対策 b タ(中国語検定試験・HSK対策)

李 玲

<授業の方法>

講義・演習

<授業の目的>

共通教育科? に属する「中国語検定対策 b」では, 同じく共通教育科? に属する「中国語検定対策 a」と共に, 全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて, 広い教養を? につけ, 豊かな? 間性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活? してさまざまな問題を発? し, それを解決する? 策を導くことができる」ようになること・「? 分の意? を? 頭や? 書によって表現し, 相? の意? を理解することで, 良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること, そして「獲得した知識や技能を活? し, 国内外において, 価値観や意? の異なるさまざまな? と議論し, 学びを深め, 協働して, 社会に役? てることのできる」ようになることを? 的とする。

? 本中国語検定協会の主催する中国語検定試験3級および中華?? 共和国政府教育部に直属する機関である孔? 学院総部/国家漢弁(国家漢語国際推广領導? 組弁公室)が主催し中華?? 共和国政府が認定するHSK(漢語? 平考試)4級に合格できるだけ中国語? を養成することを? 指す。

HSK4級は受験? の? 常中国語の応? 能? を判定するテストであり, 「幅広い範囲にわたる話題について, 中国語でコミュニケーションをすることができ, 中国語を? 語とする者と流ちょうに話すことができる」ことができるかどうかを測るものである。1200語程度の常? 単語と? 法知識を習得している者を対象としており, ? 学の第? 外国語における第? 年度後期履修程度の学習が? 安とされている。設定されている対象者や難易度は中国語検定試験3級にほぼ相当する。

<到達目標>

1. 常? 語1000?2000を? につけている。(知識)

2.? 分の? で中国語を発? し, 読み取り, 表現することができる。(態度・習慣)

3. 基本的な? 章を読み, 書くことができる。また, 簡単な? 常会話ができる。(技能)

4. 常? 語による中国語複? の? 本語訳と? 本語の中国語訳ができる。(技能)

5.? 本中国語検定協会の主催する中国語検定試験3級に合格することができる。(技能)

6. 中華?? 共和国政府教育部に直属する孔? 学院総部/国家漢弁(国家漢語国際推广領導? 組弁公室)

が主催し中華人民共和国政府が認定するHSK(漢語? 平考試)4級に合格することができる。(技能)

<授業のキーワード>

中国語検定試験3級, HSK4級, シンクロ・リーディング, シャドウイング

<授業の進め方>

中国語検定試験の過去問を元に作成された教材を使い, 筆記問題対策とリスニング問題対策とを? 行う。

1. 筆記問題対策では, 次のように授業を進める。

- (1) 漢字で書かれた教材の単語・? や? 章をすべて発? ができ, 意味も分かるようにしておく。(予習)
- (2) ? テストを? ない, 予習の状況を確認する。(授業)
- (3) ピンインで書かれた単語・? や? 章を, 解説を聴きながら? 分で漢字に書き直し, 知識の理解・定着を図る。(授業)
- (4) 漢字で書かれた単語・? や? 章を発? し, 漢字・発? ・意味の三者を結びつける。(授業・復習)

2. リスニング問題対策では, 次のように授業を進める。

- (1) 『精選中国語基本? 例集』を熟読しておく。(予習)
- (2) 『精選中国語基本? 例集』の例? を語順整序または?? 中訳の形で再現する? テストを? 行う。(授業)
- (3) リスニング問題を演習する。(授業)
- (4) 漢字で書かれた? や? 章を解説を聴きながら発? し, 漢字・発? ・意味の三者を結びつける。(授業)
- (5) 漢字で書かれた? や? 章をシンクロ・リーディング(? 声を聴きながら? や? 章を? 読する)したり, シャドウイング(? 字を? ずに? 声を聴きながら, できるだけ正確に原? を再現する)し, ? 声を通して中国語の定着を図る。(授業・復習)

なお, 11? の中国語検定試験終了後は, HSK4級の過去問を演習する。

<履修するにあたって>

・履修するにあたっては1年次配当の中国語科? を履修して単位を取得したのと同等程度の中国語? を有していることが必要である。

・この科? の履修者は11?27?(?)に? なる第107回中国語検定試験を受けなければならない。授業への出席条件を満たした上で検定試験に合格すれば, 合格した級により規定の評点が与えられる。検定試験で級を取得できなかったり何らかの事情で検定試験を受けることができなかつたりした場合は, 定期試験を受けることにより規定の評点が与えられる。

・「中国語検定対策」はaとbを? 括して履修しなければならない。

<授業時間外に必要な学修>

筆記問題対策・リスニング問題対策ともに, 予習・復習をきちんと? 行うにはそれぞれ合わせて1時間程度の時

間が必要である。

筆記問題対策では, 問題の答えを選ぶだけでなく, 全? を? 書きし, 意味を調べ, 発? できるようにした上で授業に臨まなければならない。予習が重要である。

リスニング問題対策では, 復習が重要である。授業で扱われた? や? 章を先ず? 字を? ながら? 声に合わせて? 読し, 次に? 字を? ずに? 声に合わせて発? する練習を何度も繰り返して, ? や? 章を? 声と共に? 分のものにするよう努めること。

問題を解くのは? 分の実? を測り, 弱点を? 出すためであり, 学習がこれに? まってはならない。単に問題を解くだけではなく, ? 字・意味・? 声を? 体のものとして捉えるよう? 分で訓練をしてほしい。

<提出課題など>

予習・復習の状況や授業で課題に取り組む姿勢は記録され, 定期試験を受けた? に対して評点C・Dを判断する際の資料となる。提出された課題は採点を施し, 次の授業で返却する。

<成績評価方法・基準>

・単位を取得するためにはa・b共に10回以上の出席が必要。a・bのどちらかでも出席が10回に満たない場合は, a・bの単位を共に与えない。

・11? の検定試験で4級に合格すれば評点Bを, 3級以上に合格すれば評点Sを与える。

・11? の検定試験で4級以上の級を取得できなかった? は, 定期試験を受けなければならない。定期試験を受けた場合の評点はA・B・C・Dの何れかとする。

・11? の検定試験で4級にだけ合格した? も定期試験を受けることができる。この場合, 評点Bを保証し, さらに定期試験の成績が良好であればAを与える。

・定期試験の難易度は中国語検定試験3級相当とする。HSK4級の内容も含む。

<テキスト>

上野恵司 『精選中国語基本? 例集』? 帝社 2006年 2000円+税

他に中国語検定試験過去問を元に作成した教材を使う。OneDriveを通じて配布する。

<参考図書>

1. 北京・商務印書館? 学館 『中? 辞典 第3版』? 学館 2016年 7500円+税

2. 相原茂・?? 知? ・? 沼市? 『Why?にこたえるはじめての中国語の? 法書 新訂版』

同学社 2016年 2500円+税

<授業計画>

第1回 中検3級

リスニング問題対策5

1. 『精選中国語基本? 例集』第1・2・3項? について? テストを? 行う。

2. 第94回3級リスニング問題第1問を解き, 練習する。

第2回 中検3級

リスニング問題対策6

1.『精選中国語基本? 例集』第4・5・6項? について? テストを? 行う。

2.第94回3級リスニング問題第2問を解き, 練習する。

第3回 中検3級

リスニング問題対策7

1.『精選中国語基本? 例集』第7・8・9項? について? テストを? 行う。

2.第93回3級リスニング問題第1問を解き, 練習する。

第4回 中検3級

リスニング問題対策8

1.『精選中国語基本? 例集』第10・11・12項? について? テストを? 行う。

2.第93回3級リスニング問題第2問を解き, 練習する。

第5回 中検3級

筆記問題対策9

1.第92回3級筆記問題第1・2・3問(予習課題)について小テストを行なう。

2.第92回3級筆記問題第1・2・3問を理解し, 練習する。

第6回 中検3級

筆記問題対策10

1.第92回3級筆記問題第4・5問(予習課題)について小テストを行なう。

2.第92回3級筆記問題第4・5問を理解し, 練習する。

第7回 中検3級

筆記問題対策11

1.第91回3級筆記問題第1・2・3問(予習課題)について小テストを行なう。

2.第91回3級筆記問題第1・2・3問を理解し, 練習する。

第8回 中検3級

筆記問題対策12

1.第91回3級筆記問題第4・5問(予習課題)について小テストを行なう。

2.第91回3級筆記問題第4・5問を理解し, 練習する。

第9回 HSK4級

聴? 考试1

HSK4級聴? 考试1を解き, 練習する。

第10回 HSK4級

聴? 考试2

HSK4級聴? 考试2を解き, 練習する。

第11回 HSK4級

聴? 考试3

HSK4級聴? 考试3を解き, 練習する。

第12回 HSK4級

阅读、书写考试4

HSK4級阅读、书写考试4を解き, 練習する。

第13回 HSK4級

阅读、书写考试5

HSK4級阅读、书写考试5を解き, 練習する。

第14回 HSK4級

阅读、书写考试6

HSK4級阅读、书写考试6を解き, 練習する。

第15回 HSK4級

阅读、书写考试7

HSK4級阅读、书写考试7を解き, 練習する。

2022年度 前期

1.0単位

中国語入門会話 ア

馬 麗娟

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

共通教育科? に属する「中国語入門会話」では, 全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて, 広い教養を? につけ, 豊かな? 感性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活? してさまざまな問題を発? し, それを解決する? 策を導くことができる」ようになること・「? 分の意? を? 頭や? 書によって表現し, 相? の意? を理解することで, 良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること, そして「獲得した知識や技能を活? し, 国内外において, 価値観や意? の異なるさまざまな? と議論し, 学びを深め, 協働して, 社会に役? てることができる」ようになることを? 的とする。

簡潔な会話を材料に練習することを通して, 中国語の基本を習得し, 中国語による初歩的なコミュニケーション能? を? につけることを? 指す。

< 到達目標 >

1.中国語のすべての? 節を聴き分け, 発? することができる。(技能)

2.中国語で簡単な? 常会話ができる。(知識・技能)

3.中国語の基礎的な単語約500を習得している。(知識・技能)

4.中国語の基本? 型を把握し, ? を理解し, 聴き取り, 話し, 書くことができる。(知識・技能)

< 授業のキーワード >

中国語, 初級, 会話・コミュニケーション

< 授業の進め方 >

1.前回授業で学習した課の「Drill」を使って練習する。

2.新しい課の「本? 」・「POINT」を学習する。

「本? 」・「POINT」・「Drill」を学習・練習するに当たっては適宜? テストを? ない, その結果を以て成績を評価するための主な材料とする。

< 履修するにあたって >

・中国語入門会話 は, 後期に開講される中国語入門会話 と一括して履修しなければならない。どちらかを単独で履修することはできない。

・中国語入門会話は中国語を発音の基礎から初歩的な会話までしっかりと身につけたい人や, 中国語を学んだこ

とがあるが会話を中心に改めて学び直したい人のために開設された科目である。初級中国語と同時に履修すれば効果は倍増するが、その履修は必須としない。初級外国語科目としてドイツ語・フランス語・韓国語などを学びながら、基本的な中国語だけを別に身につけたい人の履修も歓迎する。

・中国語(漢族語・漢語)は、日本語とは異なる語族に属する、日本語とは異なる言語である。このことを常に意識しながら学習して欲しい。

・発音はひとたび身につけてしまうと、たとえそれが間違ったものであったとしてもあとから矯正することは非常に困難である。中国語の発音に不安のある人は、参考書の3に挙げられている『CDムック 発音マスター！ 読めて書ける中国語』を使って自習すると良い。中国語を初めて学ぶが初級中国語を履修せず中国語入門会話だけを履修する人はもちろん、初級中国語を平行して履修している人にも助けになるはずである。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習をしておけば授業での理解がさらに深まるだろうし、復習をすれば獲得した知識や技能をさらに固めることができる。役に？ つ中国語を？ につけたいと思うのであれば、予習・復習を？ かすことはできない。？ 声材料を活？ しながら、少なくとも30分程度の時間を毎回の予習・復習それぞれに充ててほしい。

< 提出課題など >

授業では？ 頭または筆記による？ テストを随時実施する。？ テストを？ なった場合は、適宜個別または全体的に指導を？ なう。筆記による？ テストを？ なった場合は、採点の上、次回の授業でこれを返却する。

< 成績評価方法・基準 >

・単位を取得するためには10回以上の出席が必要。
・定期試験は？ なわない。授業中に適宜？ なわれる？ テストや授業に取り組む姿勢によって、総合的に成績を評価する。

・最終的な成績は補正を行ない、科目名が同一である複数クラスの間で各評点の割合に大きな偏りのないようにする。

< テキスト >

楊凱栄・張麗群 『中国語で伝えよう？ CD付 コミュニケーション・チャイニーズ』

朝？ 出版社 2019年 2400円+税

{<http://text.asahipress.com/free/ch/tsutaeyou>}

{<http://text.asahipress.com/free/ch/tsutaeyou-drill>}

< 参考図書 >

1. 北京・商務印書館 小学館 『中日辞典 第3版』

小学館 2016年 7500円+税

2. 相原茂・石田知子・戸沼市子 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』

同学社 2016年 2500円+税

3. 荒川清秀 『CDムック 発音マスター！ 読めて書ける中国語』

NHK出版 2010年 952円+税

< 授業計画 >

第1回 発音編1

発音編2

声調と単母音 1. 声調 2. 単母音 3. そり舌母音

複合母音

第2回 発音編1・2

発音編3

練習

子音

第3回 発音編3

発音編4

練習

鼻母音

第4回 発音編4

発音編5

練習

発音の規則

第5回 発音編5

第1課

声調の組み合わせ・あいさつ言葉・教室用語 「発音編」発音小テスト

本文・POINT

第6回 第1課

第2課

Drill

本文・POINT：(1)動詞“是”述語？ (2)“吗”疑問？

(3)名前

第7回 第2課

第3課

Drill

本？・POINT：(1)“这、那、哪” (2)形容詞述語？ (3)動詞述語？

第8回 第3課

第4課

Drill

本？・POINT：(1)“的”の省略 (2)数字を使う表現 (3)名詞述語？

第9回 第4課

第5課

Drill

本？・POINT：(1)動詞“有” (2)量詞 (3)疑問詞疑問？

第10回 第5課

第6課

Drill

本？・POINT：(1)前置詞“离” (2)動詞“在” (3)? 未助詞“吧”

第11回 第6課

第7課

Drill

本?・POINT:(1)動詞+“?下”(2)反復疑問?(3)

“請”+動詞

第12回 第7課

第8課

Drill

本?・POINT:(1)動詞由来連体修飾語(2)前置詞“在”(3)連動文

第13回 第8課

第9課

Drill

本?・POINT:(1)助動詞“想”(2)動詞の重ね型(3)

疑問詞“怎么”

第14回 第9課

第10課

Drill

本?・POINT:(1)動詞+“了”(2)“是……的”(3)

前置詞“?”

第15回 第10課

第1課?第10課の復習

Drill

第1課?第10課「本?」の音読?テスト(音読原稿は漢字のみ)

2022年度 後期

1.0単位

中国語入門会話 ア

馬 麗娟

<授業の方法>

講義・演習

<授業の目的>

共通教育科?に属する「中国語??会話」では、全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて、広い教養を?につけ、豊かな?問性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活?してさまざまな問題を発?し、それを解決する?策を導くことができる」ようになること・「?分の意?を?頭や?書によって表現し、相?の意?を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること、そして「獲得した知識や技能を活?し、国内外において、価値観や意?の異なるさまざまな?と議論し、学びを深め、協働して、社会に役?てることができる」ようになることを?的とする。

簡潔な会話を材料に練習することを通して、中国語の基本を習得し、中国語による初歩的なコミュニケーション能?を?につけることを?指す。

<到達目標>

1.中国語のすべての?節を聴き分け、発?することがで

きる。(技能)

2.中国語で簡単な?常会話ができる。(知識・技能)

3.中国語の基礎的な単語約500を習得している。(知識・技能)

4.中国語の基本?型を把握し、?を理解し、聴き取り、話し、書くことができる。(知識・技能)

<授業のキーワード>

中国語、初級、会話・コミュニケーション

<授業の進め方>

1.前回授業で学習した課の「Drill」を使って練習する。

2.新しい課の「本?」・「POINT」を学習する。

「本?」・「POINT」・「Drill」を学習・練習するに当たっては適宜?テストを?ない、その結果を以て成績を評価するための主な材料とする。

<履修するにあたって>

・中国語??会話は、前期に開講される中国語??会話と?括して履修しなければならない。どちらかを単独で履修することはできない。

・中国語??会話は中国語を発?の基礎から初歩的な会話までしっかりと?につけたい?や、中国語を学んだことがあるが会話を中?に改めて学び直したい?のために開設された科?である。初級中国語と同時に履修すれば効果は倍増するが、その履修は必須としない。初級外国語科?としてドイツ語・フランス語・韓国語などを学びながら、基本的な中国語だけを別に?につけたい?の履修も歓迎する。

・中国語(漢族語・漢語)は、?本語とは異なる語族に属する、?本語とは異なる?語である。このことを常に意識しながら学習して欲しい。

・発?はひとたび?についてしまうと、たとえそれが間違ったものであったとしてもあとから矯正することは?常に困難である。中国語の発?に不安のある?は、参考書の3に挙げられている『CDムック 発?マスター?読めて書ける中国語』を使って?習すると良い。中国語を初めて学ぶが初級中国語を履修せず中国語??会話だけを履修する?はもちろん、初級中国語を平?して履修している?にも助けになるはずである。

<授業時間外に必要な学修>

予習をしておけば授業での理解がさらに深まるだろうし、復習をすれば獲得した知識や技能をさらに固めることができる。役に?つ中国語を?につけたいと思うのであれば、予習・復習を?かすことはできない。?声材料を活?しながら、少なくとも30分程度の時間を毎回の予習・復習それぞれに充てて欲しい。

<提出課題など>

授業では?頭または筆記による?テストを随時実施する。?テストを?なった場合は、適宜個別または全体的に指導を?なう。筆記による?テストを?なった場合は、採点の上、次回の授業でこれを返却する。

<成績評価方法・基準>

- ・単位を取得するためには10回以上の出席が必要。
- ・定期試験は？ ならない。授業中に適宜？ なわれる？ テストや授業に取り組む姿勢によって、総合的に成績を評価する。
- ・最終的な成績は補正を？ ない、科？ 名が同？ である複数クラスの間で各評点の割合に？ きな偏りのないようにする。

<テキスト>

楊凱栄・張麗群 『中国語で伝えよう？ CD付 コミュニケーション・チャイニーズ』
朝？ 出版社 2019年 2400円+税
{<http://text.asahipress.com/free/ch/tsutaeyou>}
{<http://text.asahipress.com/free/ch/tsutaeyou-drill>}

<参考図書>

- 1.北京・商務印書館？ 学館 『中？ 辞典 第3版』？ 学館 2016年 7500円+税
- 2.相原茂・？ 知？ 沼市？ 『Why?にこたえるはじめての中国語の？ 法書 新訂版』
同学社 2016年 2500円+税
- 3.荒川清秀 『CDムック 発？ マスター？ 読めて書ける中国語』
NHK出版 2010年 952円+税

<授業計画>

第1回 中国語検定試験問題演習
第11課
中国語検定試験準4級問題を演習し、実？ を確認する。
本？ ・POINT：(1)助動詞“要” (2)選択疑問？ (3)時点と時間
第2回 第11課
第12課
Drill
本？ ・POINT：(1)前置詞“从” (2)“呢”疑問？ (3)動詞+“？点？”
第3回 第12課
第13課
Drill
本？ ・POINT：(1)? 未助詞“了” (2)? 未助詞“吧” (3)助動詞“得”
第4回 第13課
第14課
Drill
本？ ・POINT：(1)助動詞“可以” (2)副詞“有点？” (3)お？
第5回 第14課
第15課
Drill
本？ ・POINT：(1)主述述語？ (2)? 位詞 (3)副詞“就”
第6回 第15課

第16課
Drill
本？ ・POINT：(1)副詞“在” (2)“多”+形容詞 (3)動詞“觉得”
第7回 第16課
第17課
Drill
本？ ・POINT：(1)助動詞“能” (2)? 重？ 的語動詞 (3)助動詞“会”
第8回 第17課
第18課
Drill
本？ ・POINT：(1)? 向補語 (2)? 未助詞“呢” (3)前置詞“给”
第9回 第18課
第19課
Drill
本？ ・POINT：(1)様態補語 (2)結果補語 (3)副詞“再”
第10回 第19課
第20課
Drill
本？ ・POINT：(1)疑問詞+“都” (2)“太……了” (3)形容詞+“极了”
第11回 第20課
第21課
Drill
本？ ・POINT：(1)可能補語 (2)前置詞“把” (3)副詞“别”
第12回 第21課
第22課
Drill
本？ ・POINT：(1)助動詞“会” (2)存現？ (3)動詞+“给”
第13回 第22課
第23課
Drill
本？ ・POINT：(1)疑問詞“怎么” (2)前置詞“被” (3)動詞“让/叫”
第14回 第23課
第24課
Drill
本？ ・POINT：(1)“要……了” (2)動詞+“着” (3)“有”+名詞+動詞
第15回 第24課
第11課？ 第24課の復習
Drill
第11課？ 第24課「本？」の音読小テスト(音読原稿は漢字のみ)

2022年度 後期

1.0単位

中国語入門会話 タ

張 凌志

< 授業の方法 >

講義・演習

<9月20日(月)・10月2日(土)までの授業形態>

遠隔授業(Zoomによるリアルタイム授業)

10月4日(月)以降は授業形態を対面形式に戻すことを予定していますが、新型コロナウイルス感染症の蔓延状況によっては遠隔授業を継続せざるを得ないかもしれません。これについては大学の方針が決まり次第改めてお知らせします。

何らかの事情によりZoomによるリアルタイム授業を受けることのできない学生に対しては、授業の録画データまたは音声データを授業後にOneDriveなどを通じて提供します。具体的な方法は授業科目担当教員がdotCampusなどを通じて指示します。これについて不明の点があれば、授業科目担当教員にメールで尋ねてください。

Zoomに関する情報・OneDriveへのリンクや授業科目担当教員のメールアドレスなどは<遠隔授業情報>欄に記してあります。

<10月4日(月)以降の授業形態>

対面授業(講義・演習)

今後の感染状況によっては変更の可能性があります。

< 授業の目的 >

共通教育科? に属する「中国語? ? 会話」では、全学のDPに掲げるように「共通教育等を通じて、広い教養を? につけ、豊かな? 問性や社会性を涵養」すること・「幅広い知識を活? してさまざまな問題を発? し、それを解決する? 策を導くことができる」ようになること・「? 分の意? を? 頭や? 書によって表現し、相? の意? を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ようになること、そして「獲得した知識や技能を活? し、国内外において、価値観や意? の異なるさまざまな? と議論し、学びを深め、協働して、社会に役? てることができる」ようになることを? 的とする。

すでに初歩的な中国語? を持つ? が中国語の会話? をさらに向上させ、中国語でコミュニケーションを図ることができるようになることを? 指す。中国語を? 語とする教員の指導の下、説明に偏ることなく、主に? 頭での訓練を通じて中国語の会話? を養成する。

< 到達目標 >

1.生活に密着した単語や語句を身につけ、口頭で言うことができる。(知識・技能)

2.短文での問答ができる。(知識・技能)

3.身近な話題について簡単な議論や主張をすることができる。(知識・技能)

< 授業のキーワード >

口頭 会話 コミュニケーション

< 授業の進め方 >

「? 分の紹介」や「? 分の? 活」など? 分の? 近なことを話すさまざまな場? を想定し、教員と学? との間で、あるいは学? と学? との間で会話を? ないながら授業を進めていく。

< 履修するにあたって >

・中国語基礎会話は入門～初級段階を終えた学習者の基礎的会話力を養成するために開設された科目である。初級中国語や中国語入門会話など1年次配当中国語科目の履修を前提としないが、この科目の履修に当たってはそれらの科目を履修して単位を取得したのと同等程度の基礎力を有していることが必要である。全くの初心者を対象とした科目でないことに留意して欲しい。ただし、高度な中国語力は必要ない。すでに基礎的な中国語を身につけた上で会話力をさらに伸ばしたいという意欲のある人の履修を歓迎する。

・発音はひとたび身につけてしまうと、たとえそれが間違ったものであったとしてもあとから矯正することは非常に困難である。中国語の発音に不安のある人は、参考書の3に挙げられている『CDムック 発音マスター! 読めて書ける中国語』を使って自習すると良い。中級課程の中国語科目として中国語基礎会話だけを履修する人はもちろん、中級中国語を平行して履修している人にも助けになるはずである。

・中国語基礎会話は、前期に開講される中国語基礎会話と一括して履修しなければならない。どちらか一方だけを単独で履修することはできない。

< 授業時間外に必要な学修 >

外国語の学習に当たっては、繰り返し訓練することが何よりも重要である。? 声材料を活? しなから、1時間程度の時間をかけて予習・復習をしっかりと? なってほしい。

< 提出課題など >

授業では? テストを随時実施する。? 頭による? テストを? なった場合は、適宜個別また全体的に指導を? 行う。筆記による? テストを? なった場合は、採点し次回の授業で返却する。

< 成績評価方法・基準 >

・単位を取得するためには10回以上の出席が必要。
・定期試験は? なわない。授業中に教員と学? との間で、または学? 同? で? なわれる? 会話や、その他随時? なわれる? テストによって、総合的に成績を評価する。
・最終的な成績は補正を? ない、科? 名が同? である複数クラスの間で各評点の割合に? きな偏りのないようにする。

< テキスト >

相原茂・蘇紅 『話してみたい 中国語スピーキング沙龍』 朝日出版社 2014年 2200円＋税

< 参考図書 >

1.北京・商務印書館？学館 『中？辞典 第3版』？学館 2016年 7500円＋税

2.相原茂・？？知？・？沼市？ 『Why?にこたえるはじめての中国語の？法書 新訂版』
同学社 2016年 2500円＋税

3.荒川清秀 『CDムック 発？マスター？読めて書ける中国語』
NHK出版 2010年 952円＋税

< 授業計画 >

第1回 第8課

说不定她想我们了。1/2

本？新出語句 補充語句

本？1・2・3とそれぞれの看？看・練？練

第2回 第8課

说不定她想我们了。2/2

本文のまとめ 応用練習 1・2・3

Column「中国語は面白い」：“我有一个朋友在旅行社工作”

第3回 第9課

我们又见面了。1/2

本？新出語句 補充語句

本？1・2・3とそれぞれの看？看・練？練

第4回 第9課

我们又见面了。2/2

本文のまとめ 応用練習 1・2・3

Column「中国語は面白い」：“不好意思”

第5回 第10課

今天我当导游。1/2

本？新出語句 補充語句

本？1・2・3とそれぞれの看？看・練？練

第6回 第10課

今天我当导游。2/2

本文のまとめ 応用練習 1・2・3

Column「中国語は面白い」：“今天玩儿得太开心了”

第7回 第11課

你们家房子好大呀！1/2

本？新出語句 補充語句

本？1・2・3とそれぞれの看？看・練？練

第8回 第11課

你们家房子好大呀！2/2

本文のまとめ 応用練習 1・2・3

Column「中国語は面白い」：“房子，家；屋子，房间”

第9回 第12課

谈谈你们的理想吧。1/2

本？新出語句 補充語句

本？1・2・3とそれぞれの看？看・練？練

第10回 第12課

谈谈你们的理想吧。2/2

本文のまとめ 応用練習 1・2・3

Column「中国語は面白い」：“给我夹了那么多菜，撑死我了”

第11回 第13課

你哪儿不舒服？1/2

本？新出語句 補充語句

本？1・2・3とそれぞれの看？看・練？練

第12回 第13課

你哪儿不舒服？2/2

本文のまとめ 応用練習 1・2・3

Column「中国語は面白い」：“不会吧”

第13回 第14課

祝你们一路顺风。1/2

本？新出語句 補充語句

本？1・2・3とそれぞれの看？看・練？練

第14回 第14課

祝你们一路顺风。2/2

本文のまとめ 応用練習 1・2・3

Column「中国語は面白い」：“后会有期”

第15回 第15課

有缘千里来相会。1/1

本文新出語句 補充語句

本文1・2・3とそれぞれの看一看・練一練

本文のまとめ 応用練習 1・2・3

Column「中国語は面白い」：“祝”と“祝贺”

2022年度 前期

2.0単位

データサイエンス基礎（遠隔オンデマンド）

佐藤 毅、生田 卓也、小川 賢、毛利 進太郎、林坂 弘一郎

< 授業の方法 >

講義（遠隔：オンデマンド型）

この授業はオンデマンド型の遠隔講義で行います。講義ビデオを視聴し、各回に割り当てられた課題を、担当講師の指定する方法で提出してください。

< 授業の目的 >

全学 DP に掲げる、広い教養を身につけること、獲得した知識や技能をもって社会に貢献する力を身につけることを目的とします。具体的には、実社会におけるAIの利活用、データの取り扱いに関する注意事項、グラフの見方、ソーシャルネットワークやビッグデータの分析事例などをとおし、データの潜在的価値について学びます。

この学びから、各学部の専門科目を履修する上で、データに関わる基礎教養の習得を目的とします。

この科目は、共通教育科目のリテラシー科目群、情報分

野に属しています。

<到達目標>

- ・データを守る上での留意事項を説明できる。
- ・基礎統計量（平均、分散）の説明ができる。
- ・実社会で実現されているデータの利活用について説明できる。

<授業のキーワード>

データサイエンス、AI、情報、統計、データリテラシー

<授業の進め方>

動画を配信（オンデマンド型遠隔講義）し、データサイエンスに必要な基礎知識を講義します。講義レジュメとともに、課題、演習問題を課し、知識の習得を促します。

<履修するにあたって>

学習オンラインシステムMoodle上に、講義動画のリンク、教材及び課題をアップロードします。

Moodleの利用方法について、早く慣れてください。

<授業時間外に必要な学修>

配布教材を事前学習として読んでおく。（目安1時間）
課題・演習問題を事後学習として解く。（目安30分）

<提出課題など>

学内情報サービスにある、e-Learningシステム

Moodle

の利用を基本とします。

<成績評価方法・基準>

提出課題による評価（100点）

<参考図書>

データサイエンス基礎（データサイエンス講座 1）
齋藤 政彦（編さん）

培風館

<授業計画>

第2回 データを読む1

データとは（データの種類、代表値、性質）
質的データと量的データについて
代表値（平均、中央値、最頻値）について
母集団と標本の関係

第3回 データを読む2

データのばらつき（分散と標準偏差、誤差）と標本抽出
分散と標準偏差とは何か
誤差とは何か
標本の抽出法について

第4回 データを読む3

相関と因果、クロス集計とは
相関係数とは
相関と因果について
交絡因子と疑似相関

第5回 データを説明する

可視化（グラフ化）によるデータの説明、メリットとデメリットについて理解
グラフを用いたデータの比較
不適切なグラフの作成
グラフによる発見

第6回 企業におけるデータの活用

企業におけるデータの活用事例を紹介する
Amazonレコメンデーションシステム
ニュースのキュレーションの原理
Googleの検索順位の設定（ページランク）
A/Bテストの活用

第9回 社会におけるデータ・AI活用1

社会におけるデータやAIの活用事例について理解する

第10回 社会におけるデータ・AI活用2

社会におけるデータやAIの活用と私たちのかわりについて理解を深める

第11回 データ・AIを扱う上での留意事項1

データやAIを扱う上での留意事項について理解する

第12回 データ・AIを扱う上での留意事項2

データやAIを扱う上での留意事項と私たちのかわりについて理解を深める

第13回 サイバーセキュリティ1

サイバーセキュリティの特徴について理解する

第14回 サイバーセキュリティ2

サイバーセキュリティが私たちの生活に与える影響について理解を深める

2022年度 後期

2.0単位

データサイエンス（遠隔オンデマンド）

佐藤 毅、生田 卓也、小川 賢、毛利 進太郎、林坂 弘一郎

<授業の方法>

講義（遠隔：オンデマンド型）

この授業はオンデマンド型の遠隔講義で行います。講義ビデオを視聴し、各回に割り当てられた課題を、担当講師の指定する方法で提出してください。

<授業の目的>

全学 DP に掲げる、広い教養を身につけること、獲得した知識や技能をもって社会に貢献する力を身につけることを目的とします。

具体的には、数理的思考へのいざない、基本統計量の理解、データの可視化、機械学習やニューラルネットワークの基礎原理を事例をとおして学びます。この学びから、データから情報を引き出し、新たな価値を生み出すための教養を育みます。

この科目は、共通教育科目のリテラシー科目群、情報分野に属しています。

<到達目標>

・データの可視化(グラフとして表現)することができる
・PCのソフトウェアを利用し、基本統計量の算出ができる

・回帰分析を理解し、活用することができる
・ニューラルネットワークの利活用について説明できる

<授業のキーワード>

データサイエンス、数理、AI、情報、統計、データリテラシー

<授業の進め方>

動画を配信(オンデマンド型遠隔講義)し、データサイエンスに必要な基礎知識を講義します。講義レジュメとともに、課題、演習問題を課し、知識の習得を促します。

<履修するにあたって>

学習オンラインシステムMoodle上に、講義動画のリンク、教材及び課題をアップロードします。

Moodleの利用方法について、早く慣れてください。

<授業時間外に必要な学修>

配布教材を事前学習として読んでおく。(目安1時間)

課題・演習問題を事後学習として解く。(目安30分)

<提出課題など>

学内情報サービスにある、e-Learningシステム Moodle

の利用を基本とします。

<成績評価方法・基準>

提出課題による評価(100点)

<授業計画>

第3回 データを読む1

(最も起こりやすい事象とは、その事象は、稀な事象ですか)

平均、中央値、最頻値、分散、標準偏差を求める

第4回 データを読む2

(興味の対象間の関係を考える)

相関係数を求める、クロス集計を実施する

第5回 データを説明する

(データを視覚的に表現しよう)

基本グラフの作成(棒グラフ、円グラフ、折れ線グラフ) 散布図と相関係数

クロス集計と積み上げグラフ

第6回 データを扱う

(乱数について、データ分析ツールの活用)

乱数表の作成。

乱数表を用いたデータ抽出

第7回 確率を再考

ルーレットから期待値と大数の法則を考える。

病気の検査から偽陽性・偽陰性について考える。

第8回 確率変数との確率分布

サイコロの目とその確率を考えよう。

2つのサイコロの目の和から確率変数と確率分布について考える。

コイン投げの試行から2項分布を考え、正規分布に拡張する。

正規分布から偏差値の意味、考え方を学ぶ。

第9回 統計的仮説検定

世論調査の例から母集団の性質を標本から推定する方法について考える。

コイン投げの例から仮説検定・推定のイメージ。

帰無仮説、対立仮説の考え方。簡単な仮説検定の演習 統計的仮説検定とは

第10回 回帰分析

単純な時系列データの回帰分析

単回帰分析

重回帰分析

疑似相関、因果関係

第11回 回帰分析の応用

中古車、不動産の価格決定(質的変数の利用)

ヒット曲を予測しよう(ダミー変数、アンケート分析)

第12回 データを分類する手法

データを分類する

線形判別、ロジスティック回帰

回帰式の応用の線形判別、ロジスティック回帰

3つ以上のクラスターに分けるクラスタリング

教師付き学習と教師なし学習

2022年度 前期

1.0単位

データ分析実習

佐藤 毅

<授業の方法>

対面(実習)

<授業の目的>

統計の考え方を理解することを目的とする。

Excelを活用し、データ集計、分析ができることを目的とする。

アンケートに関する基本的知識を習得し、活用することを目的とする。

これらの目的を達成することで、全学DPに示されるように、幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる。

<到達目標>

基本統計量を理解し、計算することができる。

Excelを活用し、基礎的なデータ集計、グラフ化ができる。

アンケートに関する基本的知識を習得し、活用すること

ができる。

< 授業のキーワード >

基本統計量、標本平均の分布、定量的データ、質的データ、Excel

< 授業の進め方 >

授業前半では、講義中心の理論や手法の解説を実施。

後半で、Excel等のPCを用いた実習をおこなう。

実習は情報処理実習室で実施する。

< 履修するにあたって >

授業は、実習室のPC (WindowsをOS) を利用します。

自宅で学習するためにも、PCを保有することを推奨します。

また、Macでも学習は可能ですが、ソフトウェアの操作方法がWindowsと異なることもあります。

< 授業時間外に必要な学修 >

各回の予習、復習、課題で90分程度を想定しています。

< 提出課題など >

dotCampusで、各種資料の配付、回収、提出を実施。

フィードバックは、授業時、およびdotCampusで行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加状況、毎授業時間における実習成果(40%)、課題(40%)、確認テスト(20%)として総合して評価します。

< テキスト >

テキストはありません。授業ごとに講義ファイルを準備し、公開します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

資料検索基礎 1

授業の進め方、評価方法

課題の提出方法

情報の種類と評価

第2回 ヒストグラムと基本統計量

データと情報の違い

度数分布とヒストグラム

基本統計量

第3回 資料検索基礎 2

データ収集基礎 1

統計情報の種類

資料の入手

データの種類

データ分析の種類

第4回 平均、分散・標準偏差

平均の概念、種類、およびそれらの求め方

分散・標準偏差の概念と求め方

第5回 データ収集基礎 2

回帰と相関1

プレイマリーとセカンダリーデータ

データの6W1H

散布図と回帰直線

第6回 回帰と相関2

相関係数

第7回 統計と確率

統計と確率の関係性

確率の定義

ベン図

加法定理

第8回 前半の総復習

第1回から第7回までの理解度の確認テスト

理解不足である内容の復習

第9回 標本調査と標本平均の分布

母集団と標本

母平均と標本平均

第10回 アンケート調査基礎1

アンケート調査の種類

アンケート票の作成

サンプリング1

第11回 アンケート調査基礎2

サンプリング2

データ集計

第12回 定量的データ分析基礎1

平均値の差の検定：母分散既知の場合

第13回 定量的データ分析基礎2

平均値の差の検定：母分散未知の場合

第14回 定量的データ分析基礎3

統計的仮説の検定の考え方

分散分析

第15回 総復習

第9回から第14回までの理解度の確認テスト

本授業全体の総括

2022年度 後期

1.0単位

データ分析実習

佐藤 毅

< 授業の方法 >

・対面授業(実習)

< 授業の目的 >

データ収集に関する知識を持ち、適切に収集作業ができる。

Excelを活用し、分散分析や、データのクレンジングができる。

Rの基本操作について理解し、Excelとは異なるデータ分析手法を身につける。

これらの目的を達成することで、全学DPに示されるように、幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる。

<到達目標>

Web上データを収集し、ExcelやCSV形式で保存できる。
Excelを活用し、データ集計、分析ができる。
Rの基本操作について理解し、分析ができる。

<授業のキーワード>

データ収集、時系列分析、基本統計量

<授業の進め方>

授業前半では、講義中心の理論や手法の解説を実施。
後半で、PCを用いた実習をおこなう。

<履修するにあたって>

授業は、実習室のPC (WindowsをOS) を利用します。
自宅で学習するためにも、PCを保有することを推奨しま
す。

また、Macでも学習は可能ですが、ソフトウェアの操作
方法がWindowsと異なることもあります。

<授業時間外に必要な学修>

各回の予習で30分、復習、課題で60分程度を想定してい
ます。

<提出課題など>

dotCampusで、各種資料の配付、回収、提出を実施。
フィードバックもdotCampusにて実施。

<成績評価方法・基準>

授業への参加状況、毎授業時間における実習成果(40%)、
課題(40%)、確認テスト(20%)として評価します。

<テキスト>

テキストはありません。授業ごとに講義ファイルを準備
し、公開します。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

資料検索発展

情報処理実習室の利用について

授業の進め方

評価方法

課題の提出方法など

第2回 データ収集 1

データの種類

データ収集の方法

収集データの取り扱いと著作権

第3回 データ収集 2

Webからのデータ収集

Excelの活用

第4回 データ収集 3

Webからのデータ収集

スクレイピングサービスの活用

第5回 データのクレンジング

異常値の処理

第6回 分散分析 1

統計的仮説の検定について

一元配置分散分析

第7回 分散分析 2

二元配置分散分析

第8回 前半の総復習

確認テスト 1

第1回から第7回までの理解度の確認

理解不足である学習内容の復習

第9回 Rとは

Rって何？

データ分析におけるRの役割

Rのインストール

基本統計量

第10回 R-基礎 1

ベクトル

行列

データフレーム

第11回 R-基礎 2

データのファイル出力

ファイルからのデータ読込

第12回 Rによる作図

データプロット

ヒストグラム

第13回 Rによる統計的仮説の検定

平均値の差の検定

第14回 Rによる分散分析

一元配置分散分析

二元配置分散分析

第15回 確認テスト2

本実習をふりかえって

第14回までの理解度の確認

2022年度 前期

1.0単位

ドイツ語検定対策 A (独検対策)

奥田 誠司

<授業の方法>

対面授業(演習)

急激な感染拡大に伴う授業形態の一時的変更について：
5月6日(木)から5月30日(日)までの期間、Zoomによ
るリアルタイム授業に変更します。

なお、移行期となる4月22日(木)は対面授業を続け、4
月29日(木)はオンデマンド方式の授業へ変更します。
具体的な授業方法については、シラバス一番下の「遠隔
授業情報」で確認してください。

<授業の目的>

ドイツ語の文法学習・語彙学習を通じて、異なる文化背
景を持つ人たちとのコミュニケーションのあり方を考え、
みずからの行動にフィードバックする能力を身につけ付
けましょう。具体的には、『ドイツ語技能検定試験』(
以下、『独検』と略称)4級に合格できるレベルに達す

ることを目的とします。

これは、全学ディプロマ・ポリシー「1. 幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる」、「2. さまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる」にそったものです。

<到達目標>

皆さんが受験すると思われる『独検』各級の認定基準を次に示します(『独検』HPより)。これがこの授業における到達目標になります。

5級：初歩的なドイツ語を理解し、日常生活でよく使われる簡単な表現や文が運用できる。

(ドイツ語授業を約30時間以上受講しているか、これと同じ程度の学習経験のある人)

4級：基礎的なドイツ語を理解し、初歩的な文法規則を使って日常生活に必要な表現や文が運用できる。

(ドイツ語授業を約60時間以上受講しているか、これと同じ程度の学習経験のある人)

3級：ドイツ語の初級文法全般にわたる知識を前提に、簡単な会話や文章が理解できる。

(ドイツ語授業を約120時間以上受講しているか、これと同じ程度の学習経験のある人)

<授業のキーワード>

日本で広く知られた検定試験、文法学習の重要性

<授業の進め方>

5級・4級・3級対策用の文法学習中心の教科書(0章から17章で構成)を使用します。シラバスでは4級対策用の4章からスタートしていますが、必要ならば、5級対策用の0章から3章、<対策学習編1>を使って復習してください。練習問題にはCD(MP3形式)が付いていますから、答えを確認する場合、文字に頼らず、聴き取る習慣を付けましょう。『独検』の聴き取りテストに役立ちます。随時、『独検』の過去問題集のプリントを用意し、文法問題への取り組みばかりでなく、読解、聴解の練習も行います。

<履修するにあたって>

この科目を履修するにあたって、宿題にきちんと取り組むことはもちろんですが、前回の授業内容をしっかり復習した上で授業に臨む習慣をつけるようにしてください。授業は、初級ドイツ語で学んだ文法事項や表現を復習しながら進めていきます。教科書を必ず購入してください。『独検』4級、あるいはそれ以上のレベルの合格者も、授業には出席してください。単位が認定されるためには、授業に出席することが必要です。

課題として出される宿題の提出状況も、成績評価の対象になります。

この科目は、ドイツ語をすでに学習した経験のある人を対象としたものです。1年次でドイツ語科目を履修したかどうかは問いませんが、初級ドイツ語 と を履修し

たのと同程度の基礎力が必要です。

<授業時間外に必要な学修>

原則として、毎回宿題があります。次回の授業までに取り組んでおいてください。また授業で学んだ学習事項を復習する習慣を身に付けましょう。宿題と復習で1時間くらいを目安に、授業時間外の学習時間を取ってください。

<提出課題など>

宿題は必ず期限までに提出してください。提出されたものは、添削して返却し、注意事項を授業で伝えます。宿題に取り組んでいることを前提として、授業は進められます。宿題の提出状況は、成績評価の対象になります。提出物については、添削や解答例の提示など、宿題の内容にそってフィードバックします。

<成績評価方法・基準>

- ・単位を取得するためには10回以上の出席が必要。
- ・6月の検定試験で5級に合格すれば評点Bを、4級以上に合格すれば評点AまたはSを与える。
- ・6月の検定試験で級を取得できなかった、あるいは受験しなかった場合、定期試験を受けなければならない。定期試験を受けた場合の評点は相対評価によるものとし、おおむね上位から30%をA、30%をB、20~40%をC、20~0%をDとする。
- ・6月の検定試験で5級にだけ合格した場合、定期試験を受けることができる。この場合、評点Bを保証し、さらに定期試験の成績が最上位30%の中であればAを与える。
- ・定期試験の難易度は独検4級相当とする。

<テキスト>

存間進他著『CD(MP3)付き 独検5級・4級・3級対応ドイツ語文法』(三修社 2014年) 定価 2400円+税

<参考図書>

ドイツ語学文学振興会編『独検過去問題集<5級・4級・3級> 2017年版』(郁文堂 2014年)、ドイツ語学文学振興会編『独検過去問題集 <5級・4級・3級> 2018年版』(郁文堂 2015年)

<授業計画>

第1回 4級受験の準備 (1)

4章：複数形の作り方・覚え方・使い方、不規則に格変化する名詞+対策練習

第2回 4級受験の準備 (2)

5章：定冠詞類、不定冠詞類、名詞2格と所有冠詞+対策練習

第3回 4級受験の準備 (3)

<4級対策学習編 2> 不規則変化動詞、複合的な疑問詞+過去問題からの聴き取り練習

第4回 4級受験の準備 (4)

6章：前置詞の格支配、3・4格支配の前置詞、不定句+過去問題からの聴き取り練習

第5回 4級受験の準備 (5)

7章：人称代名詞、再帰代名詞、再帰動詞 + 過去問題からの聴き取り練習

第6回 4級受験の準備 (6)

8章：話法の助動詞、未来形 + 過去問題からの聴き取り練習

第7回 4級受験の準備 (7)

<4級対策学習編 3>分離動詞、主な非分離動詞つづり、疑問文の作り方、nichtの位置 + 過去問題からの聴き取り練習

第8回 受験直前の模擬練習 (1)

過去問題から出題された課題に取り組む

第9回 受験直前の模擬練習 (2)

過去問題から出題された課題に取り組む

第10回 受験直前の模擬練習 (3)

過去問題から出題された課題に取り組む

第11回 答え合わせ

過去問題から出題された課題の答え合わせ、直前の試験対策

第12回 3級受験の準備 (1)

<準備編>三基本形、特殊な基本形を復習する

第13回 3級受験の準備 (2)

9章：過去形、動詞の特殊な使い方を学ぶ

第14回 3級受験の準備 (3)

10章：現在完了形、完了の助動詞 sein の例外的用法を学ぶ

第15回 3級受験の準備 (4)

11章：I. 受動文の不定詞と人称変化と受動文の作り方、II. 受動の過去形と現在完了形を学ぶ

2022年度 前期

1.0単位

ドイツ語検定対策 B (ヨーロッパの検定試験対策)

森田 昌美

< 授業の方法 >

対面授業 (演習)

< 授業の目的 >

ドイツ語の言語運用能力を育成しながら、日常生活を中心にドイツ語圏の文化に触れていきましょう。その学習過程で、受講者自身の文化を客観的、相対的にとらえる態度や観点を育てます。異なる文化背景を持つ人々とのコミュニケーションのあり方を考え、みずからの行動にフィードバックする能力を身につけ付けましょう。これは、全学ディプロマ・ポリシー「1. 幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる」、
「2. さまざまな問題を発見し、それを解決する方策を

導くことができる」にそったものです。

< 到達目標 >

この授業は、ドイツ語学習を通して、ごく簡単な表現が聴き取り、基本的な語句で自分の気持ちが伝えられるようになること、さらに日常生活での基本的な表現を理解し、ごく簡単なやり取りができるようになることを目的とします。これは、『ヨーロッパ言語共通参照枠』(略称CEFR)に照らせば、A1レベルのさらなる定着、すなわち A1+ (プラス) レベルに相当するドイツ語運用能力です。

CEFR「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠」の6つのレベルは、ゲーテ・インスティトゥートの公式HPによれば以下ようになります。

A1: まず、日常生活の場面で短く簡単なドイツ語表現が理解でき、自分でも言えるようになります。例えば自己紹介ができ、相手に簡単な質問をしたり、それに答えたりできます。食事や買い物や旅行の場面で、相手がゆっくり明瞭に話してくれるなら、コミュニケーションが図れます。

A2: 毎日の生活で頻繁に使われる言葉や表現に慣れ、仕事や家族や故郷など、自分に関する事や日常的で具体的な生活に関する事なら、ドイツ語でコミュニケーションが図れます。また日常的に必要な事柄が、簡単な文章の形で表現できるようになります。

B1: 明瞭な通常のドイツ語であれば、仕事や趣味や生活など日常的な事柄についてのドイツ語の発言や文章が理解できます。例えば、旅行中に出会うさまざまな出来事に対して、必要な対応ができ、また、自分の経験や夢・希望・目標などについて話すことができます。さらに、自分に身近なテーマあれば、意見を述べたり、その論拠を説明したりできます。

B2: 抽象的で複雑なドイツ語で表現されても、その趣旨が理解できます。自分の仕事や専門分野に関する事柄なら、ドイツ語で行われる議論の内容が理解できるだけでなく、自分の立場や意見を述べたり、あるいはひとつの意見に対する利点と不利点を論述したりできます。日常的ないくつかのテーマでは、広い範囲にわたって明確に意見と情報が交換でき、ドイツ語を母国語とする人との間で、相互に困難を感じずに自然な会話が成立します。

C1: ほとんどのテーマで、高度なドイツ語表現や長い文章が理解でき、また、その言外のニュアンスも感じ取れます。ドイツ人社会で、社会人として職業についたり大学で学んだりするのに必要十分な語彙と表現を使いこなし、複雑で微妙な内容を正確なドイツ語で表現すること

ができます。

C2: 社会生活上、不自由なくすべてのことに対応できるドイツ語力があります。さまざまな分野の多様なテーマに関して、読む、書く、話す、聞くことが困難なくでき、また、ニュアンスにとんだ自然なドイツ語を正確に使うことができます。

< 授業のキーワード >

コミュニケーション能力の育成、複数の言語・文化の多様性を理解する国際性の習得

< 授業の進め方 >

「ドイツ語検定対策」 Aと Bでは、異なる教科書を使用し、Aと Bは別々に履修できます。4つの言語運用能力、すなわち「読む、書く、聴く、話す」能力を有機的・効果的に身に付けるために、1年次で使用した教科書の続編前半を使います。必ず教科書を購入してください。また1年次に使用した『スタート1! コミュニケーション活動を学ぶドイツ語』も持って来てください。ドイツ語圏の社会や文化についての理解も深めていきましょう。

< 履修するにあたって >

この科目を履修するにあたって、宿題にきちんと取り組むことはもちろんですが、前回の授業内容をしっかり復習した上で授業に臨む習慣をつけるようにしてください。授業は、初級ドイツ語で学んだ文法事項や表現を復習しながら進めていきます。教科書を必ず購入してください。課題として出される宿題の提出状況や随時行なわれる小テストの成績は、成績評価の対象になります。

ドイツ文化センター (Goethe-Institut) の Start Deutsch 1、あるいはそれ以上のレベルの合格者も、授業には出席してください。単位が認定されるためには、授業に出席することが必要です。

課題として出される宿題の提出状況も、成績評価の対象になります。なお、この科目は、ドイツ語をすでに学習した経験のある人を対象としたものです。1年次でドイツ語科目を履修したかどうかは問いませんが、初級ドイツ語を履修したのと同程度の基礎力が必要です。

< 授業時間外に必要な学修 >

原則として、毎回宿題があります。次回の授業までに取り組んでおいてください。また授業で学んだ学習事項を復習する習慣を身に付けましょう。宿題と復習で1時間くらいを目安に、授業時間外の学習時間を取ってください。

< 提出課題など >

宿題は必ず期限までに提出してください。宿題に取り組

んでいることを前提として、授業は進められます。提出物については、添削や解答例の提示など、宿題の内容にそってフィードバックします。なお宿題の提出状況は、成績評価の対象になります。

< 成績評価方法・基準 >

- ・単位を取得するためには10回以上の出席が必要。
- ・6月の検定試験でA1レベルに合格すれば、評点Sを与える。
- ・6月の検定試験でレベルに達しなかった、あるいは検定試験を受験しなかった場合、定期試験を受けなければならない。評価基準は以下の通りである。授業中の自発的な発言回数とその内容など、授業への積極的な参加 20% + 宿題の提出とその内容 20% + 小テストの成績 + 20% + 定期試験 40%

A評価以上の者の割合は、D評価以上の者を母数として合わせて概ね30%以内とする。

S評価は、A評価相当の中でも特に優れた者に対するのみ、これを与える。

< テキスト >

藤原三枝子他著 『スタート! 2 コミュニケーション活動で学ぶドイツ語』 (三修社 2019年) 2600円 + 税

< 参考図書 >

授業の内容・進度に合わせて、適宜紹介します

< 授業計画 >

第1回 総復習

1年次の学習内容を振り返り、復習する

第2回 総復習

1年次の学習内容を振り返り、復習する

第3回 旅行

<1課の言語行為> 休暇とそこでの活動について計画する、ホテルの宿泊リストに記入する、受付で部屋をとる、利用案内を理解する、依頼する・応える、観光局に問い合わせのメールを書く

<1課の文法項目> 場所を表す前置詞と格、話法の助動詞 dürfen, können,

wollen, müssen, möchten のまとめ

第4回 旅行

<1課の言語行為> 休暇とそこでの活動について計画する、ホテルの宿泊リストに記入する、受付で部屋をとる、利用案内を理解する、依頼する・応える、観光局に問い合わせのメールを書く

<1課の文法項目> 場所を表す前置詞と格、話法の助動詞 dürfen, können,

wollen, müssen, möchten のまとめ

第5回 旅行

<1課の言語行為> 休暇とそこでの活動について計画する、ホテルの宿泊リストに記入する、受付で部屋をとる、利用案内を理解する、依頼する・応える、観光局に問い合わせのメールを書く

<1課の文法項目> 場所を表す前置詞と格、話法の助動

詞 dürfen, können,
wollen, müssen, möchten のまとめ

第6回 旅行

<1課の言語行為> 休暇とそこでの活動について計画する、ホテルの宿泊リストに記入する、受付で部屋をとる、利用案内を理解する、依頼する・応える、観光局に問い合わせのメールを書く

<1課の文法項目> 場所を表す前置詞と格、話法の助動詞 dürfen, können,

wollen, müssen, möchten のまとめ

第7回 旅行

<1課の言語行為> 休暇とそこでの活動について計画する、ホテルの宿泊リストに記入する、受付で部屋をとる、利用案内を理解する、依頼する・応える、観光局に問い合わせのメールを書く

<1課の文法項目> 場所を表す前置詞と格、話法の助動詞 dürfen, können,

wollen, müssen, möchten のまとめ

<ドイツ事情> Wohin reisen die Deutschen am liebsten?

第8回 復習

1課全体について復習する

第9回 街角で

<2課の言語行為> 過去の行動について話す(1)、道を尋ねる、交通手段について話す、家に招待するメールを書く、インターネットで行き方を検索する

<2課の文法項目> 現在完了(1)、過去分詞、交通手段 mit + Dativ

第10回 街角で

<2課の言語行為> 過去の行動について話す(1)、道を尋ねる、交通手段について話す、家に招待するメールを書く、インターネットで行き方を検索する

<2課の文法項目> 現在完了(1)、過去分詞、交通手段 mit + Dativ

第11回 街角で

<2課の言語行為> 過去の行動について話す(1)、道を尋ねる、交通手段について話す、家に招待するメールを書く、インターネットで行き方を検索する

<2課の文法項目> 現在完了(1)、過去分詞、交通手段 mit + Dativ

第12回 街角で

<2課の言語行為> 過去の行動について話す(1)、道を尋ねる、交通手段について話す、家に招待するメールを書く、インターネットで行き方を検索する

<2課の文法項目> 現在完了(1)、過去分詞、交通手段 mit + Dativ

第13回 街角で

<2課の言語行為> 過去の行動について話す(1)、道を尋ねる、交通手段について話す、家に招待するメールを書く、インターネットで行き方を検索する

<2課の文法項目> 現在完了(1)、過去分詞、交通手段 mit + Dativ

第14回 模擬練習

ドイツ語能力検定試験(Österreichisches Sprachdiplom Deutsch Grundstufe A1, Goethe-Institut Start Deutsch 1)の模擬練習問題に取り組む

第15回 模擬練習

ドイツ語能力検定試験(Österreichisches Sprachdiplom Deutsch Grundstufe A1, Goethe-Institut Start Deutsch 1)の模擬練習問題に取り組む

2022年度 後期

1.0単位

ドイツ語検定対策 A (独検対策)

奥田 誠司

<授業の方法>

対面授業(演習)

<授業の目的>

ドイツ語の文法学習・語彙学習を通じて、異なる文化背景を持つ人たちとのコミュニケーションのあり方を考え、みずからの行動にフィードバックする能力を身につけましょう。具体的には、『ドイツ語技能検定試験』(以下、『独検』と略称)3級に合格できるレベルに達することを目的とします。

これは、全学ディプロマ・ポリシー「1. 幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる」、「2. さまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる」にそったものです。

<到達目標>

皆さんが受験すると思われる『独検』各級の認定基準を次に示します(『独検』HPより)。これがこの授業における到達目標になります。

4級：基礎的なドイツ語を理解し、初歩的な文法規則を使って日常生活に必要な表現や文が運用できる。

(ドイツ語授業を約60時間以上受講しているか、これと同じ程度の学習経験のある人)

3級：ドイツ語の初級文法全般にわたる知識を前提に、簡単な会話や文章が理解できる。

(ドイツ語授業を約120時間以上受講しているか、これと同じ程度の学習経験のある人)

<授業のキーワード>

日本で広く知られた検定試験、文法学習の重要性

<授業の進め方>

5級・4級・3級対策用の文法学習中心の教科書(0章から17章で構成)を使用します。後期は3級対策用の12章からスタートしますが、必要ならば、4章から11章を使っ

て復習してください。練習問題にはCD (MP3形式)が付いていますから、答えを確認する場合、文字に頼らず、聴き取る習慣を付けましょう。『独検』の聴き取りテストに役立ちます。随時、『独検』の過去問題集のプリントを用意し、文法問題への取り組みばかりでなく、読解、聴解の練習も行います。

<履修するにあたって>

この科目を履修するにあたって、宿題にきちんと取り組むことはもちろんですが、前回の授業内容をしっかり復習した上で授業に臨む習慣をつけるようにしてください。授業は、初級ドイツ語で学んだ文法事項や表現を復習しながら進めていきます。教科書を必ず購入してください。授業への欠席回数が三分の一を超えた場合、単位は認められません。

『独検』3級、あるいはそれ以上のレベルの合格者は定期試験の受験が免除されますが、授業には出席してください。単位が認定されるためには、三分の二以上の授業に出席することが必要です。

課題として出される宿題の提出状況も、成績評価の対象になります。

この科目は、ドイツ語をすでに学習した経験のある人を対象としたものです。1年次でドイツ語科目を履修したかどうかは問いませんが、中級ドイツ語を履修したのと同程度の基礎力は必要です。

<授業時間外に必要な学修>

原則として、毎回宿題があります。次回の授業までに取り組んでおいてください。また授業で学んだ学習事項を復習する習慣を身に付けましょう。宿題と復習で1時間くらいを目安に、授業時間外の学習時間を取ってください。

<提出課題など>

宿題は必ず期限までに提出してください。提出されたものは、添削して返却し、注意事項を授業で伝えます。宿題に取り組んでいることを前提として、授業は進められます。宿題の提出状況は、成績評価の対象になります。

<成績評価方法・基準>

- ・単位を取得するためには10回以上の出席が必要。
- ・12月の検定試験で4級に合格すれば評点Bを、3級以上に合格すれば評点AまたはSを与える。
- ・12月の検定試験で級を取得できなかった、あるいは受験しなかった場合、定期試験を受けなければならない。定期試験を受けた場合の評点は相対評価によるものとし、おおむね上位から30%をA、30%をB、20~40%をC、20~0%をDとする。
- ・12月の検定試験で4級にだけ合格した場合、定期試験を受けることができる。この場合、評点Bを保証し、さらに定期試験の成績が最上位30%の中にあればAを与える。
- ・定期試験の難易度は独検3級相当とする。

<テキスト>

存間進他著『CD (MP3) 付き 独検5級・4級・3級対応ドイツ語文法』(三修社 2014年) 定価 2400円 + 税

<参考図書>

ドイツ語学文学振興会編『独検過去問題集<5級・4級・3級> 2017年版』(郁文堂 2017年)、ドイツ語学文学振興会編『独検過去問題集 <5級・4級・3級> 2018年版』(郁文堂 2018年)

<授業計画>

第1回 復習

前期の学習内容を確認する。

第2回 3級受験の準備 (5)

12章：並列接続詞、従属接続詞と副文の作り方、間接疑問文 + 過去問題からの聴き取り練習

第3回 3級受験の準備 (6)

13章：I. 接続法、接続法第1式、II. 接続法第2式 + 過去問題からの聴き取り練習

第4回 3級受験の準備 (7)

14章：比較変化、同等の比較 + 過去問題からの聴き取り練習

第5回 3級受験の準備 (8)

15章：関係文 + 過去問題からの聴き取り練習

第6回 3級受験の準備 (9)

16章：zu 不定詞句 + 過去問題からの聴き取り練習

第7回 3級受験の準備 (10)

17章：形容詞変化(比較変化形を含む)、冠詞の名詞的用法 + 過去問題からの聴き取り練習

第8回 受験直前の模擬練習 (1)

過去問題から出題された課題に取り組む

第9回 受験直前の模擬練習 (2)

過去問題から出題された課題に取り組む。

第10回 受験直前の模擬練習 (3)

過去問題から出題された課題に取り組む。

第11回 答え合わせ

出題された課題の答え合わせ

第12回 受験後の対策 + 総復習 (1)

受験者のレベルと希望、受験結果に合わせて、教材を選び、授業内容を決定します。

第13回 受験後の対策 + 総復習 (2)

受験者のレベルと希望、受験結果に合わせて、教材を選び、授業内容を決定します。

第14回 受験後の対策 + 総復習 (3)

受験者のレベルと希望、受験結果に合わせて、教材を選び、授業内容を決定します。

第15回 受験後の対策 + 総復習 (4)

受験者のレベルと希望、受験結果に合わせて、教材を選び、授業内容を決定します。

2022年度 後期

1.0単位

ドイツ語検定対策 B (ヨーロッパの検定試験対策)

森田 昌美

< 授業の方法 >

対面授業(演習)

< 授業の目的 >

ドイツ語の言語運用能力を育成しながら、日常生活を中心にドイツ語圏の文化に触れていきましょう。その学習過程で、受講者自身の文化を客観的、相対的にとらえる態度や観点を育てます。異なる文化背景を持つ人たちとのコミュニケーションのあり方を考え、みずからの行動にフィードバックする能力を身につけ付けましょう。これは、全学ディプロマ・ポリシー「1. 幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる」、「2. さまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる」にそったものです。

< 到達目標 >

この授業は、ドイツ語学習を通して、ごく簡単な表現が聴き取れ、基本的な語句で自分の気持ちが伝えられるようになること、さらに日常生活での基本的な表現を理解し、ごく簡単なやり取りができるようになることを目的とします。これは、『ヨーロッパ言語共通参照枠』(略称CEFR)に照らせば、A1レベルのさらなる定着、すなわち A1+ (プラス)レベルに相当するドイツ語運用能力です。

CEFR「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠」の6つのレベルは、ゲーテ・インスティトゥートの公式HPによれば以下ようになります。

A1: まず、日常生活の場面で短く簡単なドイツ語表現が理解でき、自分でも言えるようになります。例えば自己紹介ができ、相手に簡単な質問をしたり、それに答えたりできます。食事や買い物や旅行の場面で、相手がゆっくり明瞭に話してくれるなら、コミュニケーションが図れます。

A2: 毎日の生活で頻繁に使われる言葉や表現に慣れ、仕事や家族や故郷など、自分に関する事や日常的で具体的な生活に関する事なら、ドイツ語でコミュニケーションが図れます。また日常的に必要な事柄が、簡単な文章の形で表現できるようになります。

B1: 明瞭な通常のドイツ語であれば、仕事や趣味や生活など日常的な事柄についてのドイツ語の発言や文章が理解できます。例えば、旅行中に出会うさまざまな出来事

に対して、必要な対応ができ、また、自分の経験や夢・希望・目標などについて話すことができます。さらに、自分に身近なテーマがあれば、意見を述べたり、その論拠を説明したりできます。

B2: 抽象的で複雑なドイツ語で表現されても、その趣旨が理解できます。自分の仕事や専門分野に関する事柄なら、ドイツ語で行われる議論の内容が理解できるだけでなく、自分の立場や意見を述べたり、あるいはひとつの意見に対する利点と不利点を論述したりできます。日常的ないくつかのテーマでは、広い範囲にわたって明確に意見と情報が交換でき、ドイツ語を母国語とする人との間で、相互に困難を感じずに自然な会話が成立します。

C1: ほとんどのテーマで、高度なドイツ語表現や長い文章が理解でき、また、その言外のニュアンスも感じ取れます。ドイツ人社会で、社会人として職業についたり大学で学んだりするのに必要十分な語彙と表現を使いこなし、複雑で微妙な内容を正確なドイツ語で表現することができます。

C2: 社会生活上、不自由なくすべてのことに対応できるドイツ語力があります。さまざまな分野の多様なテーマに関して、読む、書く、話す、聞くことが困難なくでき、また、ニュアンスにとんだ自然なドイツ語を正確に使うことができます。

< 授業のキーワード >

コミュニケーション能力の育成、複数の言語・文化の多様性を理解する国際性の習得

< 授業の進め方 >

「ドイツ語検定対策 Aと Bでは、異なる教科書を使用し、Aと Bは別々に履修できます。4つの言語運用能力、すなわち「読む、書く、聴く、話す」能力を有機的・効果的に身に付けるために、1年次で使用した教科書の続編を使います。必ず教科書を購入してください。また1年次に使用した『スタート1! コミュニケーション活動を学ぶドイツ語』も持って来てください。ドイツ語圏の社会や文化についての理解も深めていきましょう。

< 履修するにあたって >

この科目を履修するにあたって、宿題にきちんと取り組むことはもちろんですが、前回の授業内容をしっかり復習した上で授業に臨む習慣をつけるようにしてください。授業は、初級ドイツ語で学んだ文法事項や表現を復習しながら進めていきます。教科書を必ず購入してください。課題として出される宿題の提出状況や随時行なわれる小テストの成績は、成績評価の対象になります。

ドイツ語能力検定試験A1、たとえばドイツ文化センター

(Goethe-Institut)のStart Deutsch 1、あるいはそれ以上のレベルの合格者も、授業には参加してください。

課題として出される宿題の提出状況も、成績評価の対象になります。なお、この科目は、ドイツ語をすでに学習した経験のある人を対象としたものです。1年次でドイツ語科目を履修したかどうかは問いませんが、初級ドイツ語を履修したのと同程度の基礎力が必要です。

< 授業時間外に必要な学修 >

原則として、毎回宿題があります。次回の授業までに取り組んでおいてください。また授業で学んだ学習事項を復習する習慣を身に付けましょう。宿題と復習で1時間くらいを目安に、授業時間外の学習時間を取ってください。

< 提出課題など >

宿題は必ず期限までに提出してください。提出されたものは、添削して返却し、注意事項を授業で伝えます。宿題に取り組んでいることを前提として、授業は進められます。宿題の提出状況は、成績評価の対象になります。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の自発的な発言回数とその内容など、授業への積極的な参加 20% + 宿題の提出とその内容 20% + 小テストの成績 20% + 定期試験 40%

出席10回以上の者の成績はS・A・B・C・D、出席10回未満の者は「/」。

A評価以上の者の割合は、D評価以上の者を母数として合わせて概ね30%以内とする。

S評価は、A評価相当の中でも特に優れた者に対してのみ、これを与える。

< テキスト >

藤原三枝子他著 『スタート! 2 コミュニケーション活動で学ぶドイツ語』(三修社 2019年) 2600円 + 税

< 参考図書 >

授業の内容・進度に合わせて、適宜紹介します

< 授業計画 >

第1回 街角で

<2課の言語行為> 過去の行動について話す(1)、道を尋ねる、交通手段について話す、家に招待するメールを書く、インターネットで行き方を検索する

<2課の文法項目> 現在完了(1)、過去分詞、交通手段 mit + Dativ

第2回 街角で

<2課の言語行為> 過去の行動について話す(1)、道を尋ねる、交通手段について話す、家に招待するメールを書く、インターネットで行き方を検索する

<2課の文法項目> 現在完了(1)、過去分詞、交通手段 mit + Dativ

第3回 街の暮らし、田舎の暮らし

<3課の言語行為> どのような所に住みたいかを述べる、その理由を述べる(1)、街と田舎の暮らしを比較する、

過去の行動について話す(2)、ブログにコメントを書く <3課の文法項目> 理由を述べるための接続詞 denn、複合語、形容詞・副詞の比較級、現在完了形(2)

第4回 街の暮らし、田舎の暮らし

<3課の言語行為> どのような所に住みたいかを述べる、その理由を述べる(1)、街と田舎の暮らしを比較する、過去の行動について話す(2)、ブログにコメントを書く <3課の文法項目> 理由を述べるための接続詞 denn、複合語、形容詞・副詞の比較級、現在完了形(2)

第5回 街の暮らし、田舎の暮らし

<3課の言語行為> どのような所に住みたいかを述べる、その理由を述べる(1)、街と田舎の暮らしを比較する、過去の行動について話す(2)、ブログにコメントを書く <3課の文法項目> 理由を述べるための接続詞 denn、複合語、形容詞・副詞の比較級、現在完了形(2)

第6回 街の暮らし、田舎の暮らし

<3課の言語行為> どのような所に住みたいかを述べる、その理由を述べる(1)、街と田舎の暮らしを比較する、過去の行動について話す(2)、ブログにコメントを書く <3課の文法項目> 理由を述べるための接続詞 denn、複合語、形容詞・副詞の比較級、現在完了形(2)

第7回 街の暮らし、田舎の暮らし

<3課の言語行為> どのような所に住みたいかを述べる、その理由を述べる(1)、街と田舎の暮らしを比較する、過去の行動について話す(2)、ブログにコメントを書く <3課の文法項目> 理由を述べるための接続詞 denn、複合語、形容詞・副詞の比較級、現在完了形(2)

第8回 街の暮らし、田舎の暮らし

<3課の言語行為> どのような所に住みたいかを述べる、その理由を述べる(1)、街と田舎の暮らしを比較する、過去の行動について話す(2)、ブログにコメントを書く <3課の文法項目> 理由を述べるための接続詞 denn、複合語、形容詞・副詞の比較級、現在完了形(2)

< ドイツ事情 > Hochschule in Deutschland

第9回 スポーツ、健康、余暇

<4課の言語行為> 活動に友人を誘う、スポーツの経験について語る、体調について述べる、アドバイスする、提案をする、健康のためにしていることを話す、天気について話す、統計を読む

<4課の文法項目> アドバイスと提案の表現: sollte, k?nnte, wie w?re es mit ...?

従属接続詞 wenn と語順

第10回 スポーツ、健康、余暇

<4課の言語行為> 活動に友人を誘う、スポーツの経験について語る、体調について述べる、アドバイスする、提案をする、健康のためにしていることを話す、天気について話す、統計を読む

<4課の文法項目> アドバイスと提案の表現：sollte, könnte, wie wäre es mit ...?

従属接続詞 wenn と語順

第11回 スポーツ、健康、余暇

<4課の言語行為> 活動に友人を誘う、スポーツの経験について語る、体調について述べる、アドバイスする、提案をする、健康のためにしていることを話す、天気について話す、統計を読む

<4課の文法項目> アドバイスと提案の表現：sollte, könnte, wie wäre es mit ...?

従属接続詞 wenn と語順

第12回 スポーツ、健康、余暇

<4課の言語行為> 活動に友人を誘う、スポーツの経験について語る、体調について述べる、アドバイスする、提案をする、健康のためにしていることを話す、天気について話す、統計を読む

<4課の文法項目> アドバイスと提案の表現：sollte, könnte, wie wäre es mit ...?

従属接続詞 wenn と語順

第13回 スポーツ、健康、余暇

<4課の言語行為> 活動に友人を誘う、スポーツの経験について語る、体調について述べる、アドバイスする、提案をする、健康のためにしていることを話す、天気について話す、統計を読む

<4課の文法項目> アドバイスと提案の表現：sollte, könnte, wie wäre es mit ...?

従属接続詞 wenn と語順

ドイツ事情：Sind Deutsche sportlich?

第14回 模擬練習

ドイツ語能力検定試験(österreichisches Sprachdiplom Deutsch Grundstufe A1, Goethe-Institut Start Deutsch 1) の模擬練習問題に取り組む

第15回 模擬練習

ドイツ語能力検定試験(österreichisches Sprachdiplom Deutsch Grundstufe A1, Goethe-Institut Start Deutsch 1) の模擬練習問題に取り組む

2022年度 前期

2.0単位

トップランナー特別講義 (トップランナー特別講義)

中村 光宏

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、全学のDPに示す、主体性を持って多様な人々と共同して学ぶ態度を修得することを目指しています。

地元企業の経営者の方の貴重な話を聞き、地域と企業と

の結びつきを考えてもらうことを目的とし、実践的教育から構成される授業科目である。

< 到達目標 >

阪神淡路大震災から20年以上が経ち、この間地元の企業がどのようにして神戸の良さを生かし、地域貢献をして、また企業を発展させてきたかを地元神戸の企業経営者の話を聞いて考えることができる。

< 授業のキーワード >

神戸の企業、経営者、社長、キャリア教育

< 授業の進め方 >

14回様々な経営者(講師)が登壇致します。社会人としての成功体験・失敗談等を聞き、転機をどのようにしてチャンスに変えていったのかを考えます。

講義終了間際には質問時間を設け、講演の中では聞けなかった話も聞くことができます。

< 履修するにあたって >

授業中の私語、途中からの出席及び退出等は禁止させていただきます。

授業開始後は開始15分後まで交通機関による遅延証明書発行時のみ入室を許可します。

講師の日程は変更になる可能性もあります。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前に登壇予定者の会社・業種等を調べ、講義後に感想や得たことを書いて提出する為毎回2時間以上の学習を要する。

< 提出課題など >

授業授業終了後に感想及び得たことを書いて提出。その内容は各登壇者に渡して、必要に応じて後日回答をいただく。

< 成績評価方法・基準 >

各授業での感想や得たことをまとめる(7点×14回、2点×1回)

< 参考図書 >

『ビジョナリー・マーケティング』栗木契等編集 中央経済社

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

登壇者の紹介。授業の受け方。

第2回 講演

永田宏和【特定非営利活動法人 プラス・アーツ】

第3回 講演

塚本浩康【六甲バター 株式会社】

第4回 講演

横山剛【SRCグループ・Kiss FM KOBE】

第5回 講演

曹英生【南京町商店街振興組合、株式会社老詳記】

第6回 講演

安本卓史【INAC神戸レオネッサ】

第7回 講演

清家久樹【神戸市中央区長】

第8回 講演

松下麻里【神戸フィルムオフィス】

第9回 講演

村上豪英【神戸モトマチ大学・(株)村上工務店】

第10回 講演

竹中ナミ【社会福祉法人プロップステーション】

第11回 講演

星加ルリコ【(株)RURIKO PLANNING ルリコプランニング】

第12回 講演

藤尾益雄【株式会社 神明ホールディングス】

第13回 講演

鶴殿麻里絵【株式会社 エムズブランディング】

第14回 講演

小泉寛明【(有) Lusie】

第15回 講演

永吉一郎【(株)神戸デジタル・ラボ】

2022年度 前期

1.0単位

日本語A (エンバイスガ大学交換留学)

瀬古 悦世

< 授業の方法 >

対面授業(演習)

< 授業の目的 >

この科目は、既にエンバイスガ大学で学習した日本語初級文法を定着させた上で、日本語中級文法の修得を目指します。確実に学習が進められるように、理解度を確認しながら授業を進めていきます。また、神戸学院大学の交換留学生として、必要な知識や情報も身に付けられるようにし、日本語能力試験N3/N2レベルに到達できることも目指します。

そして、この授業を履修することで、全学のディプロマ・ポリシーに掲げられている次のことができるようになります。

- 1.幅広い知識を活用して、さまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くこと
- 2.自分の意見を口頭や文章によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとること
- 3.獲得した知識や技術を活用し、国内外において、価値観や意見の異なる多様な人と議論し、学びを深め、協同し、社会に役立てること

< 到達目標 >

- 1.日本語初級文法を復習し定着させた上で、中級文法を修得することができています。
- 2.日本語を表現する場合、複数のバリエーションが扱えるようになります。

3.相手や場面、状況に応じて、適切な表現を使い分けられるようになります。

< 授業のキーワード >

初級日本語文法整理

中級日本語

日本語能力試験N3/N2

< 授業の進め方 >

初回授業でレベルチェックを行います。

初級日本語文法の整理は、教科書を利用します。

そして、初級日本語文法では、修得しておくべき文法を整理します。

また、日本語能力試験対策は練習問題などを利用します。

< 履修するにあたって >

エンバイスガ大学の交換留学生のためのクラスです。

授業の前に、必ず、予習(言葉の意味調べ等)をお願いください。そして、授業後には学習したところを復習しておきましょう。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業前の予習(新出語彙の読み・意味の確認、文法項目の確認等)に1時間、授業後の復習(学習項目の整理、練習等)に最低でも1時間は必要です。

< 提出課題など >

授業中に適宜、指示します。提出を受けた課題については、速やかに確認し、返却します。

< 成績評価方法・基準 >

評価は、以下のポイントから総合的に判断します。

授業参加度 30%

課題(提出物) 20%

中間理解度確認テスト 25%

最終理解度確認テスト 25%

*定期試験は行いません。

< テキスト >

石川恵子他(2004)『日本語2ndステップ 改訂版』白帝社 1600円+税 ISBN-9784891747114

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

自己紹介を行ったり、レベルチェックを行ったりします。

第2回 復習

初級文法で修得しておくべき文法をチェックします。

第3回 復習

練習問題を行いながら、初級文法を復習していきます。

第4回 練習問題

第2課 工場見学

時間的前後関係・依頼表現などを整理します。

段落でのキーワードについて考えます。

第5回 練習問題

第4課 思い出の人物

知覚動詞や様子・状態の表現を整理します。

連体修飾を使って物の描写を練習します。

第6回 練習問題

第6課 青と緑

知覚動詞や様子・状態の表現を整理します。

連体修飾を使って物の描写を練習します。

第7回 練習問題

第8課 志のままに

「です・ます」体と「だ・である」体を整理します。

話し言葉・書き言葉を整理します。

希望・願望表現や自分の意思を説明する表現についても理解を深めます。

第8回 練習問題

第10課 河童

状態の表現を整理します。

第9回 中間理解度確認テスト

前半部分で学習した内容の理解度確認テストを行います。

第10回 練習問題

第12課 睡眠

許可・義務の表現を整理します。

書き言葉に関する表現を学習します。

第11回 練習問題

第14課 自身

間接引用表現を整理します。

不確かなことを説明する表現についても整理します。

第12回 練習問題

第16課

使役形・使役受身形を整理します。

より丁寧な意思表示の表現についても学習します。

第13回 練習問題

第18課 温泉

条件表現を整理します。

第14回 練習問題

第20課 お礼状

待遇表現を整理します。

丁寧な手紙やお礼状が書けるように練習します。

第15回 最終理解度確認テスト

学期内で学習した内容の理解度確認テストを行います。

2022年度 後期

1.0単位

日本語A（リーズ大学交換留学）

山本 さゆみ

< 授業の方法 >

対面授業（講義）

< 授業の目的 >

既にリーズ大学で学習した日本語初級文法を整理し、中級日本語文法を習得するクラスです。

スモールステップで、無理のないように、日本語文法を整理します。

また、神戸学院大学で、交換留学生として生活するため

に必要な知識も、身に付けられるようにし、日本語能力試験N3/N2レベルに到達できるようになることを目的とします。

そして、この授業を履修することで、全学のディプロマ・ポリシーに掲げられているように「幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くこと」・「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションを取ること」や「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協同し、社会に役立てること」ができるようになります。

< 到達目標 >

・初級日本語文法を整理することができます。

・いくつかのバリエーションで日本語を扱うことができます。

・相手や対象に応じて、日本語を使い分けることができます。

< 授業のキーワード >

初級日本語文法整理

中級日本語

日本語能力試験 N3/N2

< 授業の進め方 >

まずはレベルチェックを行います。

初級日本語文法の整理は、教科書を利用します。

そして、初級日本語文法で、習得しておくべき文法を整理します。

また、日本語能力試験への対策は、練習問題などを利用します。

< 履修するにあたって >

リーズ大学・交換留学生のためのクラスです。

リーズ大学の交換留学生は、必ず受講しなければなりません。

授業の前に、必ず、言葉を調べて、確認して来てください。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業前の語彙の読み方や意味の確認に1時間、授業後には学習事項と語彙の整理に最低でも1時間は必要です。

< 提出課題など >

提出を受けた課題については、速やかに、確認し、返却します。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の参加度 30%

提出物 20%

復習テスト 25%（2、3課終了ごとに行う復習テスト）

まとめテスト 25%（最終的にテキストのまとめとして行うテスト）

* 定期試験は行いません

* それぞれに対する評価の基準は「到達目標」に従います。

<テキスト>

石川恵子他(2004) 『日本語2nd ステップ
改訂版』 白帝社 1600円+税金
ISBN-9784891747114 (4891747110)

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

自己紹介を行ったり、レベルチェックを行います。

第2回 復習

初級文法で、習得しておくべき文法をチェックします。

第3回 復習

練習問題を行いながら、初級文法を確認します。

第4回 練習問題

第1課 新宿

第5回 練習問題

第3課 日本の方言

第6回 練習問題

第5課 日本間

第7回 練習問題

第7課 マンガ文化

第8回 練習問題

第9課 すし

第9回 確認テスト

復習テストをします。

第10回 練習問題

第11課 寄席

第11回 練習問題

第13課 経済発展

第12回 練習問題

第15課 線路わきのやぎ

第13回 練習問題

第17課 オランウータン

第14回 練習問題

第19課 酒

第15回 まとめ

学期内で学習した内容を総復習し、整理します。

2022年度 前期

1.0単位

日本語A (資格試験対策)

金澤 協子

<授業の方法>

対面授業：講義・演習

<授業の目的>

この科目は、日本語能力試験N1レベルの語彙・漢字を総復習し、文法項目の復習を行ないながら、それらの力をさらに伸ばすことを目的とします。

もちろん、神戸学院大学の交換留学生として、必要な知識や情報をも身に付けることも目的の一つです。

この授業を履修することで、神戸学院大学の全学ディプロマ・ポリシーに掲げられている以下のことが出来るようになります。

幅広い知識を活用して、さまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くこと

自分の意見を口頭や文章によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションを取ること

獲得した知識や技術を活用して、国内外において、価値観や意見の異なる多様な人と議論し、学びを深め、協同し、社会に役立てること

この科目の担当者は、学部・大学院ともに、日本語教育を専門として修学・研究しており、卒業・修了後も外国人日本語学習者への教育を行なってきました。特に、交換留学生への教育には、30年の教授経験を有しています。そして、日本語教育関係の研究会の役員として、会を運営する実務にも対応しています。

また、日本語教師養成講座の開講・運営にも携わっており、実務経験のある教員として、日本語学習に不具合が生じた場合、多角的で具体的なアドバイスを行なうことが出来ます。

<到達目標>

この授業を受けると、次のことが出来るようになります。

態度・習慣として、日本語中級文法の復習と上級文法を勉強するために、学習スタイルを身に付けること。

また、留学が終了し、帰国後も、引き続いて、本国での日本語学習が継続出来ること。

知識・技能として、日本語を表現する場合、複数のバリエーションが幅広く扱えること。

知識・技能として、相手や対象に応じて、適切に、日本語が使い分けられること。

知識・技能として、日本語の漢字語彙を広く身に付けられ、適切に使うことが出来ること。

また、総合的に、幅広い場面で使われる日本語を理解するのに十分な量の漢字・語彙を覚え、日本語能力試験N1を受験し、認定を得るための力を付けることです。

< 授業のキーワード >

日本語能力試験N1合格・認定

< 授業の進め方 >

まず、第一回目の授業で、日本語能力のレベルチェックを行ないます。

日本語文法の整理だけでなく、実践的な運用も視野に入れます。

また、日本語能力試験対策に関しては、数多くの練習問題などを利用します。

日々の授業では...

語彙の確認と適切な運用の提示

文法項目の確認

長文読解を実施後、内容把握

事後整理としての確認作業...を行ないます。

また、毎回、小テストも実施します。

小テストは、授業内で確認し、即座にフィードバックします。

授業内では、十分な質疑応答の時間を取り、対応します。また、より深く対応するに当たり、授業の中で、改めて、対応を指示します。

< 履修するにあたって >

一度、誤った部分に関しては、確実に得点出来るよう、十分な復習をすること。

< 授業時間外に必要な学修 >

- ・ 予習・復習合わせて1時間程度の学習が必要です。特に、復習には、十分な対応を心掛けて下さい。
- ・ 毎回の授業の冒頭で前回の授業で学習した内容について小テストを行ないます。復習をしっかりとしておいて下さい。
- ・ 次回の授業で答えられるよう、配当された問題を予習しておいて下さい。
- また、可能であれば、割り当てられていない問題も、目を通しておいて下さい。

< 提出課題など >

初回の授業で、レベルチェックした後に、対応を指示します。

提出された課題は、次の授業時間内にフィードバックします。

< 成績評価方法・基準 >

成績は、以下のポイントから、総合的に判断します。

課題遂行：練習問題の実施と提出50%

確認作業：小テスト・練習問題実施後、誤答に対する修正50%

各評価基準は、到達目標に従います。

また、この授業は、対面で行ないません。

< テキスト >

プリントを配布する予定です。

レベルチェックをした後に、対応を指示します。

< 参考図書 >

レベルチェックをした後に、クラスで紹介・指示します。受講者の要望に応じた参考図書を紹介します。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

・ 受講者自己紹介

・ 今後の授業の進め方の説明・練習

第2回 語彙・文法の学習

日本語能力試験N1レベルの語彙の読み方、文法表現の学習

わざと、わざわざ、せっかく、あいにく等

第3回 語彙・文法の学習

日本語能力試験N1レベルの語彙の書き方、文法表現の学習

ぐるぐる、おろおろ、うろうろ等

第4回 語彙・文法の学習

日本語能力試験N1レベルの語彙の読み方、文法表現の学習

いかにも、さも、今にも等

第5回 語彙・文法の学習

日本語能力試験N1レベルの語彙の書き方、文法表現の学習

なるほど、もちろん、無理はない等

第6回 語彙・文法の学習

日本語能力試験N1レベルの語彙の読み方、文法表現の学習

きっと、おそらく、必ず等

第7回 語彙・文法の学習

日本語能力試験N1レベルの語彙の書き方、文法表現の学習

ころ、盛り、模様等

第8回 語彙・文法の学習

日本語能力試験N1レベルの語彙の読み方、文法表現の学

習
そろそろ、いそいそ、いよいよ等

第9回 語彙・文法の学習

日本語能力試験N1レベルの語彙の書き方、文法表現の学習

めきめき、そこそこ、ぼつぼつ等

第10回 語彙・文法の学習

日本語能力試験N1レベルの語彙の読み方、文法表現の学習

ついに・とうとう・やっと・ようやく等

第11回 語彙・文法の学習

日本語能力試験N1レベルの語彙の書き方、文法表現の学習

見損なう・見下げる・見失う等

第12回 語彙総復習

2-11回で学習した語彙の総復習を行う

第13回 文法総復習

2-11回で学習した文法事項の総復習を行う

第14回 総復習

実際の試験に沿った問題の実施と解答解説

第15回 総復習

実際の試験に沿った問題の実施と解答解説

2022年度 前期

1.0単位

日本語B（エンバイスガ大学交換留学）

瀬古 悦世

< 授業の方法 >

対面授業（演習）

< 授業の目的 >

この科目は、既にエンバイスガ大学で学習した日本語初級文法を定着させた上で、日本語中級文法の修得を目指します。確実に学習が進められるように、理解度を確認しながら授業を進めていきます。また、神戸学院大学の交換留学生として、必要な知識や情報も身に付けられるようにし、日本語能力試験N3/N2レベルに到達できることも目指します。

そして、この授業を履修することで、全学のディプロマ・ポリシーに掲げられている次のことができるようになります。

- 1.幅広い知識を活用して、さまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くこと
- 2.自分の意見を口頭や文章によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとること
- 3.獲得した知識や技術を活用し、国内外において、価値観や意見の異なる多様な人と議論し、学びを深め、協同

し、社会に役立てること

< 到達目標 >

1.日本語初級文法を復習し定着させた上で、中級文法を修得することができています。

2.日本語を表現する場合、複数のバリエーションが扱えるようになります。

3.相手や場面、状況に応じて、適切な表現を使い分けられるようになります。

< 授業のキーワード >

初級日本語文法整理

中級日本語

日本語能力試験N3/N2

< 授業の進め方 >

初回授業でレベルチェックを行います。

初級日本語文法の整理は、教科書を利用します。

そして、初級日本語文法では、修得しておくべき文法を整理します。

また、日本語能力試験対策は練習問題などを利用します。

< 履修するにあたって >

エンバイスガ大学の交換留学生のためのクラスです。

授業の前に、必ず、予習（言葉の意味調べ等）をしておいてください。そして、授業後には学習したところを復習しておきましょう。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業前の予習（新出語彙の読み・意味の確認、文法項目の確認等）に1時間、授業後の復習（学習項目の整理、練習等）に最低でも1時間は必要です。

< 提出課題など >

授業中に適宜、指示します。提出を受けた課題については、速やかに確認し、返却します。

< 成績評価方法・基準 >

評価は、以下のポイントから総合的に判断します。

授業参加度 30%

課題（提出物） 20%

中間理解度確認テスト 25%

最終理解度確認テスト 25%

*定期試験は行いません。

< テキスト >

石川恵子他（2004）『日本語2ndステップ 改訂版』白帝社 1600円＋税 ISBN-9784891747114

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

自己紹介を行ったり、レベルチェックを行ったりします。

第2回 復習

初級文法で修得しておくべき文法をチェックします。

第3回 復習

練習問題を行いながら、初級文法を復習していきます。

第4回 練習問題

第2課 工場見学

時間的前後関係・依頼表現などを整理します。
段落でのキーワードについて考えます。

第5回 練習問題

第4課 思い出の人形

知覚動詞や様子・状態の表現を整理します。
連体修飾を使って物の描写を練習します。

第6回 練習問題

第6課 青と緑

知覚動詞や様子・状態の表現を整理します。
連体修飾を使って物の描写を練習します。

第7回 練習問題

第8課 志のままに

「です・ます」体と「だ・である」体を整理します。
話し言葉・書き言葉を整理します。
希望・願望表現や自分の意思を説明する表現についても理解を深めます。

第8回 練習問題

第10課 河童

状態の表現を整理します。

第9回 中間理解度確認テスト

前半部分で学習した内容の理解度確認テストを行います。

第10回 練習問題

第12課 睡眠

許可・義務の表現を整理します。
書き言葉に関する表現を学習します。

第11回 練習問題

第14課 自身

間接引用表現を整理します。
不確かなことを説明する表現についても整理します。

第12回 練習問題

第16課

使役形・使役受身形を整理します。
より丁寧な意思表示の表現についても学習します。

第13回 練習問題

第18課 温泉

条件表現を整理します。

第14回 練習問題

第20課 お礼状

待遇表現を整理します。
丁寧な手紙やお礼状が書けるように練習します。

第15回 最終理解度確認テスト

学期内で学習した内容の理解度確認テストを行います。

2022年度 後期

1.0単位

日本語B (リーズ大学交換留学)

山本 さゆみ

< 授業の方法 >

対面授業 (講義)

< 授業の目的 >

既にリーズ大学で学習した日本語初級文法を整理し、中級日本語文法を習得するクラスです。

スモールステップで、無理のないように、日本語文法を整理します。

また、神戸学院大学で、交換留学生として生活するために必要な知識も、身に付けられるようにし、日本語能力試験N3/N2レベルに到達できるようになることを目的とします。

そして、この授業を履修することで、全学のディプロマ・ポリシーに掲げられているように「幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くこと」・「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションを取ること」や「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協同し、社会に役立てること」ができるようになります。

< 到達目標 >

・初級日本語文法を整理した上で中級文法を習得することができます。

・いくつかのバリエーションで日本語を扱うことができます。

・相手や対象に応じて、日本語を使い分けることができます。

< 授業のキーワード >

初級日本語文法整理

中級日本語

日本語能力試験 N3/N2

< 授業の進め方 >

先生が行なう講義を聴き、先生の指示の下で練習を行います。

まずはレベルチェックを行います。

初級日本語文法の整理は、教科書を利用します。

そして、初級日本語文法で、習得しておくべき文法を整理します。

また、日本語能力試験への対策は、練習問題などを利用します。

< 履修するにあたって >

リーズ大学・交換留学生のためのクラスです。

リーズ大学の交換留学生は、必ず受講しなければなりません。

授業の前に、必ず、言葉を調べて、確認して来てください。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業前の語彙の読み方や意味の確認に1時間、授業後には学習事項と語彙の整理に最低でも1時間は必要です。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の参加度 30%
提出課題 20%
復習テスト 25% (2、3課終了ごとに行う復習テスト)
まとめテスト 25% (最終的にテキストのまとめとして行うテスト)

* 定期試験は行いません
* それぞれに対する評価の基準は「到達目標」に従います。

<テキスト>

石川恵子他(2004) 『日本語2nd ステップ改訂版』 白帝社 1600円+税金
ISBN-9784891747114 (4891747110)

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

自己紹介を行ったり、レベルチェックを行います。

第2回 復習

初級文法で、習得しておくべき文法をチェックします。

第3回 復習

練習問題を行いながら、初級文法を確認します。

第4回 練習問題

第1課 新宿

第5回 練習問題

第3課 日本の方言

第6回 練習問題

第5課 日本間

第7回 練習問題

第7課 マンガ文化

第8回 練習問題

第9課 すし

第9回 確認テスト

復習テストをします。

第10回 練習問題

第11課 寄席

第11回 練習問題

第13課 経済発展

第12回 練習問題

第15課 線路わきのやぎ

第13回 練習問題

第17課 オランウータン

第14回 練習問題

第19課 酒

第15回 まとめ

まとめテストを行って、学期内で学習した内容を総復習し、整理します。

2022年度 前期

1.0単位

日本語B (文章作成の基礎)

金澤 協子

<授業の方法>

対面授業：講義・演習

<授業の目的>

この科目は、論理的な文章を書くための表現方法、留学生が間違いやすい文法表現などを学び、より明確な文章が書けるようになることを目的とします。

もちろん、神戸学院大学の交換留学生として、必要な知識や情報をも身に付けることも目的の一つです。

この授業を履修することで、神戸学院大学の全学ディプロマ・ポリシーに掲げられている以下のことが出来るようになります。

幅広い知識を活用して、さまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くこと

自分の意見を口頭や文章によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションを取ること

獲得した知識や技術を活用して、国内外において、価値観や意見の異なる多様な人と議論し、学びを深め、協同し、社会に役立てること

この科目の担当者は、学部・大学院ともに、日本語教育を専門として修学・研究しており、卒業・修了後も外国人日本語学習者への教育を行なってきました。特に、交換留学生への教育には、30年の教授経験を有しています。そして、日本語教育関係の研究会の役員として、会を運営する実務にも対応しています。

また、日本語教師養成講座の開講・運営にも携わっており、実務経験のある教員として、日本語学習に不具合が生じた場合、多角的で具体的なアドバイスをこなうことが出来ます。

<到達目標>

この授業を受けると、次のことが出来るようになります。

態度・習慣として、会話・話し言葉で使われる表現ではなく、レポート、論文作成のための論理的な文章が書けるようになり、普段の学習生活に活かせるようにするために、学習スタイルを身に付けること。

また、留学が終了し、帰国後も、引き続いて、本国で

の日本語学習が継続出来ること。

知識・技能として、日本語を表現する場合、複数のバリエーションが幅広く扱えること。

知識・技能として、相手や対象に応じて、適切に、日本語が使い分けられること。

知識・技能として、日本語の漢字語彙を広く身に付けられ、適切に使うことが出来ること。

< 授業のキーワード >

日本語らしさ

< 授業の進め方 >

まず、第一回目の授業で、日本語能力のレベルチェックを行ないます。

そして、提示した教材で、主語述語の関係、名詞修飾など、留学生が間違いやすい文法や表現を練習します。

また、関連語彙の読み方や意味を知り、漢字語彙を幅広く身に付けます。

それから、大学生活で必要となるまとまった文章を書けるよう練習を進めます。

日々の授業では…。

語彙の確認と適切な運用の提示

文法項目の確認

長文読解を実施後、内容把握

事後整理としての確認作業…を行ないます。

また、毎回、小テストも実施します。

小テストは、実施後、解答解説を行ない、すぐに、フィードバックします。

授業内で、質疑応答の時間を取り、対応します。

また、より深く対応するに当たり、授業の中で、改めて、対応を指示します。

< 履修するにあたって >

十分な準備時間を確保して下さい。

授業中、時間を割くべき項目について指示します。

< 授業時間外に必要な学修 >

課題の遂行や復習には、最低でも1時間は必要になるはずです。

< 提出課題など >

初回授業で、レベルを判断してから、授業中に、指示をします。

提出を受けた課題・小テスト等については、速やかに確認し、返却・フィードバックします。

クラス授業以上に、質疑応答などの時間を充分に取り、丁寧に対応します。

課題の提出の期限や方法に関しては、また、改めて、授業の中で知らせます。

授業で理解が充分でなかった学習項目について、与えられた課題を提出して下さい。

提出された課題については、次回の授業でフィードバックします。

< 成績評価方法・基準 >

成績は、以下のポイントから、総合的に判断します。

課題遂行：文書作成等40%

まとめ復習作業：課題とした文書作成等の修正60%

それぞれに対する評価基準は、到達目標に従います。

また、この授業は、対面で行ないます。

< テキスト >

プリントなど、生教材を中心に配布します。

レベルチェックを行なった後、改めて、指示します。

< 参考図書 >

レベルチェックをした後に、クラスで紹介・指示します。受講者の要望に応じた参考図書を紹介します。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

・受講者自己紹介

・dot.campusなどの使い方のチェック

・今後の授業の進め方の説明・練習

第2回 日本の地理

日本の都道府県の名前等の資料を配布

第3回 日本の地理

日本の都道府県、県庁所在地などの資料を配布する

第4回 表記のしかた

句読点、記号の使い方

原稿用紙の書き方

第5回 文体

普通体で書く練習

連用中止形の使い方

第6回 話し言葉から書き言葉への切り替え

くだけた会話文と、小論文などに使う硬いことばの使い分け

直接話法から間接話法

第7回 正しい構造の文

主語と述語の関係を正しく書く練習

第8回 正しい構造の文

修飾することばとされる言葉の関係を正しく書く

第9回 正しい構造の文

簡潔な文を書く練習

第10回 文の繋がり

指示語の使い方

第11回 文の繋がり

接続詞の使い方

第12回 小論文に使われる表現

小論文で使われない表現

小論文でよく使われる文末表現

第13回 小論文に使われる表現

助詞の働きをすることは

第14回 小論文に使われる表現

助詞の働きをすることは

第15回 論理的な文

これまで学習してきたことを踏まえて、論理的な文章を書く練習をする

2022年度 前期

1.0単位

日本語C (エンバイスガ大学交換留学)

瀬古 悦世

< 授業の方法 >

対面授業 (演習)

< 授業の目的 >

この科目は、既にエンバイスガ大学で学習した日本語初級文法を定着させた上で、日本語中級文法の修得を目指します。確実に学習が進められるように、理解度を確認しながら授業を進めていきます。また、神戸学院大学の交換留学生として、必要な知識や情報も身に付けられるようにし、日本語能力試験N3/N2レベルに到達できることも目指します。

そして、この授業を履修することで、全学のディプロマ・ポリシーに掲げられている次のことができるようになります。

1. 幅広い知識を活用して、さまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くこと
2. 自分の意見を口頭や文章によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとること
3. 獲得した知識や技術を活用し、国内外において、価値観や意見の異なる多様な人と議論し、学びを深め、協同し、社会に役立てること

< 到達目標 >

1. 日本語初級文法を復習し定着させた上で、中級文法を修得することができています。

2. 日本語を表現する場合、複数のバリエーションが扱えるようになります。

3. 相手や場面、状況に応じて、適切な表現を使い分けられるようになります。

< 授業のキーワード >

初級日本語文法整理

中級日本語

日本語能力試験N3/N2

< 授業の進め方 >

初回授業でレベルチェックを行います。

初級日本語文法の整理は、教科書を利用します。

そして、初級日本語文法では、修得しておくべき文法を整理します。

また、日本語能力試験対策は練習問題などを利用します。

< 履修するにあたって >

エンバイスガ大学の交換留学生のためのクラスです。

授業の前に、必ず、予習 (言葉の意味調べ等) をしておいてください。そして、授業後には学習したところを復習しておきましょう。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業前の予習 (新出語彙の読み・意味の確認、文法項目の確認等) に1時間、授業後の復習 (学習項目の整理、練習等) に最低でも1時間は必要です。

< 提出課題など >

授業中に適宜、指示します。提出を受けた課題については、速やかに確認し、返却します。

< 成績評価方法・基準 >

評価は、以下のポイントから総合的に判断します。

授業参加度 30%

課題 (提出物) 20%

中間理解度確認テスト 25%

最終理解度確認テスト 25%

*定期試験は行いません。

< テキスト >

石川恵子他 (2004) 『日本語2ndステップ 改訂版』白帝社 1600円 + 税 ISBN-9784891747114

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

自己紹介を行ったり、レベルチェックを行ったりします。

第2回 復習

初級文法で修得しておくべき文法をチェックします。

第3回 復習

練習問題を行いながら、初級文法を復習していきます。

第4回 練習問題

第2課 工場見学

時間的前後関係・依頼表現などを整理します。

段落でのキーワードについて考えます。

第5回 練習問題

第4課 思い出の人形

知覚動詞や様子・状態の表現を整理します。

連体修飾を使って物の描写を練習します。

第6回 練習問題

第6課 青と緑

知覚動詞や様子・状態の表現を整理します。

連体修飾を使って物の描写を練習します。

第7回 練習問題

第8課 志のままに

「です・ます」体と「だ・である」体を整理します。

話し言葉・書き言葉を整理します。

希望・願望表現や自分の意思を説明する表現についても理解を深めます。

第8回 練習問題

第10課 河童

状態の表現を整理します。

第9回 中間理解度確認テスト

前半部分で学習した内容の理解度確認テストを行います。

第10回 練習問題

第12課 睡眠

許可・義務の表現を整理します。

書き言葉に関する表現を学習します。

第11回 練習問題

第14課 自身

間接引用表現を整理します。

不確かなことを説明する表現についても整理します。

第12回 練習問題

第16課

使役形・使役受身形を整理します。

より丁寧な意思表示の表現についても学習します。

第13回 練習問題

第18課 温泉

条件表現を整理します。

第14回 練習問題

第20課 お礼状

待遇表現を整理します。

丁寧な手紙やお礼状が書けるように練習します。

第15回 最終理解度確認テスト

学期内で学習した内容の理解度確認テストを行います。

2022年度 後期

1.0単位

日本語C (リーズ大学交換留学)

山本 さゆみ

< 授業の方法 >

対面授業 (講義)

< 授業の目的 >

本授業では、さまざまな形式の練習問題を通して、言語知識、聴解力を伸ばし、最終的には日本語能力試験N3、

できればN2に合格できるようになることを目的とします。そして、この授業を履修することで、全学のディプロマ・ポリシーに掲げられているように「幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くこと」・「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションを取ること」や「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協同し、社会に役立てること」ができるようになります。

< 到達目標 >

日本語の言語知識を拡充し、聴解能力を伸ばし、最終的には各自のレベルに合った日本語能力試験に合格できます。

< 授業のキーワード >

日本語能力試験 N3/ N2

< 授業の進め方 >

日本語能力試験合格に向けて様々な練習問題を解き、日本語力を磨きます。

また、日本の文化、風習に触れることができる活動を通して、日本語の応用力を磨きます。

< 履修するにあたって >

交換留学生のためのクラスです。

リーズ大学交換留学生は必ず、受講しなければなりません。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業前の語彙の読み方や意味の確認に1時間、授業後には学習事項と語彙の整理に最低でも1時間は必要です。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の参加度 30%

提出課題 20% (作文等)

授業中の課題 50% (テキスト、配付プリントに記載されている練習問題等の課題)

* 定期試験は行いません。

* それぞれに対する評価の基準は「到達目標」に従いません。

< テキスト >

特にありません。

プリントを配付します。

< 授業計画 >

第1回 文字・語彙

漢字読み：漢字で書かれたことばの読み方を答える練習。

第2回 文字・語彙

表記：ひらがなで書かれたことばを、漢字でどう書くか答える練習。

第3回 文字・語彙

文脈規定：空欄に入れるのに意味的に最もふさわしいことばを答える練習。

第4回 文字・語彙

言い換え類義：問題となっていることばや表現と意味の近いことばや表現を答える練習。

第5回 文字・語彙

用法：出題語が文の中でどのように使われているのが正しいか答える練習。

第6回 文法

文法形式の判断：文の内容に合った文法形式かどうか判断して答える練習。

第7回 文法

文の組み立て：正しく意味が通る文を組み立て答える練習。

第8回 文法

文章の文法：文章の流れにあったことばや表現を答える練習。

第9回 模試と対策

実際の日本語能力試験と同じ問題形式で作られた模擬試験を実際の時間内で行い、解答解説する。

第10回 模試と対策

実際の日本語能力試験と同じ問題形式で作られた模擬試験を実際の時間内で行い、解答解説する。

第11回 模試と対策

実際の日本語能力試験と同じ問題形式で作られた模擬試験を実際の時間内で行い、解答解説する。

第12回 日本の昔話

日本の昔話

第13回 応用練習

4コマ漫画

第14回 応用練習

川柳

第15回 応用練習

日本の行事

2022年度 前期

1.0単位

日本語C (ニュースの言葉)

金澤 協子

< 授業の方法 >

対面授業：講義・演習

< 授業の目的 >

この科目は、新聞や専門書を読みこなすための準備として、新聞等で話題となるキーワードを詳しく知り、新聞が読めるようになることを目的とします。

もちろん、神戸学院大学の交換留学生として、必要な知識や情報をも身に付けることも目的の一つです。

また、履修者が少ない場合には、各自が不得意な分野を解消させることを助けるため、それぞれの学生に対して、不得意分野を個別に指導することもあります。

この授業を履修することで、神戸学院大学の全学ディプロマ・ポリシーに掲げられている以下のことが出来るようになります。

幅広い知識を活用して、さまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くこと

自分の意見を口頭や文章によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションを取ること

獲得した知識や技術を活用して、国内外において、価値観や意見の異なる多様な人と議論し、学びを深め、協同し、社会に役立てること

この科目の担当者は、学部・大学院ともに、日本語教育を専門として修学・研究しており、卒業・修了後も外国人日本語学習者への教育を行なってきました。特に、交換留学生への教育には、30年の教授経験を有しています。そして、日本語教育関係の研究会の役員として、会を運営する実務にも対応しています。

また、日本語教師養成講座の開講・運営にも携わっており、実務経験のある教員として、日本語学習に不具合が生じた場合、多角的で具体的なアドバイスを行なうことが出来ます。

< 到達目標 >

この授業を受けると、次のことが出来るようになります。

態度・習慣として、ニュースで話題になる語彙について、意味を理解するために、学習スタイルを身に付けること。

また、留学が終了し、帰国後も、引き続いて、本国での日本語学習が継続出来ること。

知識・技能として、日本語を表現する場合、複数のバリエーションが扱えること。

知識・技能として、要約を書いたり、概要をつかんだり出来るようになり、適切に、日本語が使い分けられること。

知識・技能として、日本語の漢字語彙を広く身に付けられ、使うことが出来ること。

< 授業のキーワード >

現代社会用語の知識

< 授業の進め方 >

まず、第一回目の授業で、日本語能力のレベルチェックを行ないます。

そして、ニュースに出てくるキーワードについての文章を読み、関連語彙の読み方や意味を知り、漢字語彙を幅広く身に付けます。

また、キーワード周辺の日本事情・日本文化などについて、講師と学生との間、又は学生同士で質疑応答や議論を行ない、理解を深めます。

最後に、段落ごとに文章をまとめて書き、日本での留学生生活を充実させるようにします。

日々の授業では...

語彙の確認と適切な運用の提示

文法項目の確認

長文読解を実施後、内容把握

事後整理としての確認作業...を行ないます。

また、毎回、小テストも実施します。

小テストは、実施後、即座に解答解説を行ない、フィードバックします。

授業内で、質疑応答の時間を取り、対応します。

また、より深く対応するに当たり、授業の中で、改めて、対応を指示します。

< 履修するにあたって >

十分な復習時間を取って下さい。

ニュースで出てくる漢字語彙は、日々の生活に必要な情報です。

日本での留学生活が、充実したものになるかは、受講者の皆さんの対応に掛かっています。

< 授業時間外に必要な学修 >

各回の授業で読んだ文章の中の読めなかった漢字語彙の復習が必要になります。

また、意味のとれなかった文章の確認などの復習に、最低でも、1時間程度が必要です。

< 提出課題など >

初回授業で、レベルを判断してから、授業中に、指示をします。

提出を受けた課題。小テスト等については、速やかに確認し、返却・フィードバックします。

クラス授業以上に、質疑応答などの時間を充分に取り、丁寧に対応します。

課題の提出の期限や方法に関しては、また、改めて、授業の中で知らせます。

段落毎にまとめ文を書き、提出して下さい。

提出された課題については、次回の授業でフィードバックします。

< 成績評価方法・基準 >

成績は、以下のポイントから、総合的に判断します。

課題遂行：適切な運用と内容把握40%

まとめ復習作業：誤理解からの修正等60%

それぞれに対する評価基準は、到達目標に従います。

また、この授業は、対面で行ないます。

< テキスト >

プリントなど、生教材を中心に配布します。

レベルチェックを行なった後、指示します。

< 参考図書 >

レベルチェックをした後に、クラスで紹介・指示します。受講者の要望に応じた参考図書を紹介します。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

・履修生自己紹介

・dot.campusなどの使い方のチェック

・今後の授業の進め方の説明・練習

第2回 クローン

クローンについての文章を読み、語彙の意味・読み方を確認し、文の読解を行う

第3回 クローン

前回学んだ語彙の読み方テスト

段落ごとのまとめ文を作成する

第4回 ボランティア休暇

「ボランティア休暇」についての文章を読み、語彙の意味・読み方を確認し、文の読解を行う

第5回 ボランティア休暇

前回学んだ語彙の読み方テスト

段落ごとのまとめ文を作成する

第6回 200海里経済水域

「200海里経済水域」についての文章を読み、語彙の意味・読み方を確認し、文の読解を行う

第7回 200海里経済水域

前回学んだ語彙の読み方テスト

段落ごとのまとめ文を作成する

第8回 脳死

「脳死」についての文章を読み、語彙の意味・読み方を確認し、文の読解を行う

第9回 脳死

前回学んだ語彙の読み方テスト

段落ごとのまとめ文を作成する

第10回 少年法

「少年法」についての文章を読み、語彙の意味・読み方を確認し、文の読解を行う

第11回 少年法

前回学んだ語彙の読み方テスト

段落ごとのまとめ文を作成する

第12回 日本人妻

「日本人妻」についての資料を配布する

第13回 日本人妻

「日本人妻」についての資料を配布する

第14回 北方領土

「北方領土」についての文章を読み、語彙の意味・読み方を確認し、文の読解を行う

第15回 北方領土

ニュースのキーワードについてのまとめ：語彙・読解に対するまとめテストを行う

2022年度 前期

1.0単位

日本語D（現代用語）

鈴木 庸子

< 授業の方法 >

「講義」「演習」

< 授業の目的 >

この科目は、全学のDPに示す「共通教育等を通じて、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養している」ことを目指す。

日々新しく生まれ変わる現代用語の意味や内容を正しく知ると共に、学習したこれらの用語を適切に使うことができるようになることを目的とする。現代日本ではカタカナ語が広く使われているが、これらは留学生にとって修得することが特に難しいとされている。専門教育の中でもカタカナ語が使われることが多く、これらカタカナ語を学び、使うことができるようにすることも、この授業の目的である。日本語能力試験N1,N2に頻出する語彙や表現も併せて学び、日本語能力試験の受験に向けた準備としたい。

< 到達目標 >

- 1.現代社会で使われている文字・語彙や及び表現を身につけ、適切に使うことができる。(知識)
- 2.現代社会や専門教育で使われているカタカナ語を身につけ、適切に使うことができる。(知識)
- 3.学んだ文字やカタカナ語を含む語彙の使われる場面やそれらを含む表現に目を向け、それらの用語が使われる

背景を考えることができる。(態度・習慣)

< 授業の進め方 >

講義でテキスト、資料を学んだ後、練習問題を行い学習を確認する。

3課～5課毎に現代用語をテーマにした文章を作成し提出する。

教員がコメントを付けて返却した後、クラスでテーマについて話し合う。

テーマについて話し合った後、同じテーマで文章を作成して、提出する。

< 授業時間外に必要な学修 >

新聞やインターネットなどでどのような語彙が使われているか調べておくこと。(予習：30分)

新聞やインターネット、専門書などに、学んだ語彙がどのように使われているかを確認すること。(復習：30分)

< 提出課題など >

授業内容をテーマにした文章作成の課題が3回課される。提出された課題は、教員の指摘を受けた箇所の問題点やテーマについてクラスで話し合う。クラスで話し合った後、同じテーマで文章を作成し、提出する。

漢字・語彙、カタカナ語復習テスト

復習テストの間違った箇所等を確認し、復習テストの類題の練習を行い、総復習する。

< 成績評価方法・基準 >

提出課題に対する評価(30%)、課題の修正に対する評価(10%)、復習テストに対する評価(50%)授業中の態度、意欲、発言(10%)を成績評価とする。

それぞれに対する評価の基準は「到達目標」に従う。

< テキスト >

『分野別カタカナ語彙トレーニング』スリーエーネットワーク 島野節子他著 1,300円

この授業のテキストは、第1回の授業を受ける前に購入しないこと。第1回の授業でテキストについて詳しく説明するので、その説明を受け内容を理解してから、改めて購入するようにしてほしい。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス、漢字・語彙 カタカナの習得 食 授業の進め方の説明

漢字・語彙 動詞、副詞、接続詞を中心に、意味が似た言葉、使い方、意味と言葉などの問題を解きながら、語彙を学ぶ

カタカナ語 食に関する語を学び、練習で学習を確認する

第2回 漢字・語彙語彙 カタカナの習得 住

漢字・語彙 動詞、副詞、接続詞を中心に、意味が似た言葉、使い方、意味と言葉などの問題を解きながら、語彙を学ぶ

カタカナ語 住に関するカタカナ語を学び、練習で学習

を確認する

第3回 漢字・語彙 カタカナ語の習得 買い物

漢字・語彙 動詞、副詞、接続詞などを中心に、意味が似た言葉、使い方、意味と言葉などの問題を解きながら、語彙を学ぶ

カタカナ語 買い物に関するカタカナ語を学び練習で学習を確認する

第4回 漢字・語彙 カタカナ語の習得 交通

漢字・語彙 動詞、副詞、接続詞などを中心に、意味が似た言葉、使い方、意味と言葉などの問題を解きながら、語彙を学ぶ

カタカナ語 交通に関するカタカナ語を学び、練習で学習を確認する

第5回 漢字・語彙 カタカナ語の習得 旅行

漢字・語彙 動詞、副詞、接続詞などを中心に、意味が似た言葉、使い方、意味と言葉の問題を解きながら、語彙を学ぶ

カタカナ語 旅行に関するカタカナ語を学び、練習で学習を確認する

漢字・語彙、カタカナ語 ~ の用語をもとに文章作成し、提出する

第6回 漢字・語彙 カタカナ語の習得 スポーツ

~ の提出課題のFBと問題点の共有

漢字・語彙 動詞、副詞、接続詞などを中心に、意味が似た言葉、使い方、意味と言葉などの問題を解きながら、語彙を学ぶ

カタカナ語 スポーツに関するカタカナ語を学び、練習で学習を確認する

第7回 漢字・語彙 カタカナ語の習得 趣味・娯楽

漢字・語彙 動詞、副詞、接続詞などを中心に、意味が似た言葉、使い方、意味と言葉などの問題を解きながら、語彙を学ぶ

カタカナ語 趣味・娯楽に関するカタカナ語を学び、練習で学習を確認する

第8回 漢字・語彙 カタカナ語の習得 医療・健康 1

漢字・語彙 動詞、副詞、接続詞などを中心に、意味が似た言葉、使い方、意味と言葉)などの問題を解きながら、語彙を学ぶ

カタカナ語 医療・健康 1に関するカタカナ語を学び、練習で学習を確認する

第9回 漢字・語彙 カタカナ語の習得 医療・健康 2

漢字・語彙 動詞、副詞、接続詞などを中心に、意味が似た言葉、使い方、意味と言葉)などの問題を解きながら、語彙を学ぶ

カタカナ語 医療・健康 2に関するカタカナ語を学び、練習で学習を確認する

漢字・語彙、カタカナ語 ~ の用語をもとに文章作成し、提出する

第10回 漢字・語彙 カタカナ語の習得 情報

~ の提出課題のFBと問題点の共有

漢字・語彙 動詞、副詞、接続詞などを中心に、意味が似た言葉、使い方、意味と言葉)などの問題を解きながら、語彙を学ぶ

カタカナ語 情報に関するカタカナ語を学び、練習で学習を確認する

第11回 漢字・語彙 カタカナ語の習得 技術・機械

漢字・語彙 動詞、副詞、接続詞などを中心に、意味が似た言葉、使い方、意味と言葉などの問題を解きながら、語彙を学ぶ

カタカナ語 技術・機械に関するカタカナ語を学び、練習で学習を確認する

第12回 漢字・語彙 カタカナ語の習得 性格・感情

漢字・語彙 動詞、副詞、接続詞などを中心に、意味が似た言葉、使い方、意味と言葉などの問題を解きながら、語彙を学ぶ

カタカナ語 性格・感情に関するカタカナ語を学び、練習で学習を確認する

漢字・語彙、カタカナ語 ~ の用語をもとに文章を作成し、提出する

第13回 漢字・語彙 カタカナ語の習得 対人関係

~ の提出課題のFBと問題点の共有

漢字・語彙 動詞、副詞、接続詞などを中心に、意味が似た言葉、使い方、意味と言葉などの問題を解きながら、語彙を学ぶ

カタカナ語 対人関係に関するカタカナ語を学び、練習で学習を確認する

第14回 漢字・語彙、カタカナ語の復習テスト

漢字・語彙、カタカナ語の復習テストを行う

第15回 まとめの練習、総復習

漢字・語彙、カタカナ語の復習テストの間違った箇所等を中心に、練習課題を行う

2022年度 前期

1.0単位

日本語D (エンバイスガ大学交換留学)

山本 さゆみ

<授業の方法>

対面授業(講義)

<授業の目的>

既にエンバイスガ大学で学習した日本語初級文法を整理し、中級日本語文法を習得するクラスです。

スモールステップで、無理のないように、日本語文法を整理します。

また、神戸学院大学で、交換留学生として生活するために必要な知識も、身に付けられるようにし、日本語能力試験N3/N2レベルに到達できるようになることを目的と

します。
そして、この授業を履修することで、全学のディプロマ・ポリシーに掲げられているように「幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くこと」・「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションを取ること」や「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協同し、社会に役立てること」ができるようになります。

<到達目標>

・初級日本語文法を整理した上で中級文法を習得することができます。

・いくつかのバリエーションで日本語を扱うことができます。

・相手や対象に応じて、日本語を使い分けることができます。

<授業のキーワード>

初級日本語文法整理

中級日本語

日本語能力試験 N3/N2

<授業の進め方>

まずはレベルチェックを行います。

初級日本語文法の整理は、教科書を利用します。

そして、初級日本語文法で、習得しておくべき文法を整理します。

また、日本語能力試験への対策は、練習問題などを利用します。

<履修するにあたって>

エンバイスガ大学・交換留学生のためのクラスです。

エンバイスガ大学の交換留学生は、必ず受講しなければなりません。

授業の前に、必ず、言葉を調べて、確認して来てください。

<授業時間外に必要な学修>

授業前の語彙の読み方や意味の確認に1時間、授業後には学習事項と語彙の整理に最低でも1時間は必要です。

<成績評価方法・基準>

授業中の参加度 30%

提出課題 20%

復習テスト 25% (2、3課終了ごとに行う復習テスト)

まとめテスト 25% (最終的にテキストのまとめとして行うテスト)

*定期試験は行いません。

*それぞれに対する評価の基準は「到達目標」に従います。

<テキスト>

石川恵子他(2004) 『日本語2nd ステップ 改訂版』 白帝社 1600円+税金
ISBN-9784891747114 (4891747110)

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

自己紹介を行ったり、レベルチェックを行います。

第2回 復習

初級文法で、習得しておくべき文法をチェックします。

第3回 復習

練習問題を行いながら、初級文法を確認します。

第4回 練習問題

第1課 新宿

第5回 練習問題

第3課 日本の方言

第6回 練習問題

第5課 日本間

第7回 練習問題

第7課 マンガ文化

第8回 練習問題

第9課 すし

第9回 確認テスト

復習テストをします。

第10回 練習問題

第11課 寄席

第11回 練習問題

第13課 経済発展

第12回 練習問題

第15課 線路わきのやぎ

第13回 練習問題

第17課 オランウータン

第14回 練習問題

第19課 酒

第15回 まとめ

まとめテストを行って、学期内で学習した内容を総復習し、整理します。

2022年度 後期

1.0単位

日本語D (リーズ大学交換留学)

金澤 協子

<授業の方法>

来日後は、対面授業：講義・演習

来日前は、リアルタイムon-line遠隔授業：講義・演習

<授業の目的>

この科目は、母国での日本語初級文法を学習したことを受け、引き続き、日本語中級文法の学習を行ない、それを身に付けるのが目的です。

難度が高くなるので、初級での勉強方法とは、少し、異なった方法で進めます。

また、日本留学からの帰国後、無理なく、日本語学習が続けられるように準備することも、目的としています。

もちろん、神戸学院大学の交換留学生として、必要な知識や情報をも身に付けることも目的の一つです。

そして、日本語能力試験N3/N2レベルを受験する準備にも役立ちます。

この授業を履修することで、神戸学院大学の全学ディプロマ・ポリシーに掲げられている以下のことが出来るようになります。

幅広い知識を活用して、さまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くこと

自分の意見を口頭や文章によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションを取ること

獲得した知識や技術を活用して、国内外において、価値観や意見の異なる多様な人と議論し、学びを深め、協同し、社会に役立てること

この科目の担当者は、学部・大学院ともに、日本語教育を専門として修学・研究しており、卒業・修了後も外国人日本語学習者への教育を行なってきました。特に、交換留学生への教育には、30年の教授経験を有しています。そして、日本語教育関係の研究会の役員として、会を運営する実務にも対応しています。

また、日本語教師養成講座の開講・運営にも携わっており、実務経験のある教員として、日本語学習に不具合が生じた場合、多角的で具体的なアドバイスを行なうことが出来ます。

<到達目標>

この授業を受けると、次のことが出来るようになります。

態度・習慣として、日本語中級文法を勉強するために、学習スタイルを身に付けること。

また、留学が終了し、帰国後も、引き続いて、本国での日本語学習が継続出来ること。

知識・技能として、日本語を表現する場合、複数のパリエーションが扱えること。

知識・技能として、相手や対象に応じて、適切に、日本語が使い分けられること。

知識・技能として、日本語の漢字語彙を広く身に付けられ、使うことが出来ること。

<授業のキーワード>

初級日本語文法整理

中級日本語

日本語能力試験N3/N2

<授業の進め方>

まず、第一回目の授業で、日本語能力のレベルチェックを行ないます。

初級日本語文法の整理は、教科書を利用します。

そして、初級日本語文法で、習得しておくべき文法も整理します。

それから、中級日本語文法で扱う教科書を使用して、授業を進めます。

また、日本語能力試験対策に関しては、練習問題などを利用します。

日々の授業では…。

語彙の確認と適切な運用の提示

文法項目の確認

長文読解を実施後、内容把握

事後整理としての確認作業…を行ないます。

また、毎回、小テストも実施します。

小テストは、提出後、即座に、解答解説を行ない、返却後フィードバックします。

授業内で、質疑応答の時間を取り、対応します。

また、より深く対応するに当たり、授業の中で、改めて、対応を指示します。

<履修するにあたって>

このクラスは、英国：リーズ大学からの交換留学生のためのクラスです。

授業挑む前に、必ず、学習課の新出語彙を確認して来て下さい。

また、文法項目なども、事前に把握しておくこと、より余裕を持って、挑めます。

授業後は、語彙の把握に引き続き、関連語彙の整理も必要となるでしょう。

授業には、必ず、辞書・筆記用具(黒・赤・青など)・ノートを持参して下さい。

<授業時間外に必要な学修>

授業で学習する課の新出語彙は、事前に、読み方や意味などを確認しておいて下さい。

新出語彙の確認には、課にもよりますが、1時間程度は、必要になると思います。

また、学習した文型を確認したり、語彙の整理などをしながら、新しい知識を確実に身に付けて下さい。文型・表現を確認するチェックシートを利用して、定着を確認して下さい。

この作業にも、確実に、1時間程度は必要になると思います。

< 提出課題など >

初回授業で、レベルを判断してから、授業中に、指示をします。

提出を受けた課題については、速やかに確認し、返却します。

クラス授業以上に、質疑応答などの時間を充分に取り、丁寧に対応します。

課題の提出の期限や方法に関しては、また、改めて、授業の中で知らせます。

< 成績評価方法・基準 >

成績は、以下のポイントから、総合的に判断します。

中間・修了テスト40%

課題遂行・復習小テスト等60%

それぞれに対する評価基準は、到達目標に従います。

・毎回、学習した語彙・文型を確認する復習小テストを実施します。

・定期試験期間ではなく、授業内で、中間・修了テストを実施します。

・授業期間内に、出題形式を提示し、日本での受験形式にも慣れるようにします。

< テキスト >

使用テキストは、授業中にも、アナウンスします。

石川恵子他(2004)『日本語 2nd ステップ 改訂版』白帝社

1600円+税金

ISBN-9784891747114(4891747110)

< 参考図書 >

レベルチェックをした後に、クラスで紹介・指示します。受講者の要望に応じた参考図書を紹介します。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

自己紹介を行ったり、レベルチェックを行ったりします。

神戸学院大学で学習するのに必要な情報を提供します。また、日本語学習に必要な情報を提供します。

第2回 復習

初級文法で、習得しておきべき文法に関して、チェックします。

特に、動詞・形容詞などの活用や、助詞について整理します。

第3回 復習

実践的な練習問題を行なてながら、初級文法を確認します。

第4回 練習問題

第2課 工場見学

時間的前後関係・依頼表現などの整理をします。

段落でのキーワードについても、考えます。

第5回 練習問題

第4課 思い出の人形

知覚動詞・様子状態の表現について整理します。

連体修飾を使って、物の描写を練習します。

第6回 練習問題

第6課 青と緑

試行・限定の表現について整理します。

言葉の歴史についても、知識を深めます。

第7回 練習問題

第8課 志のままに

「です・ます」体と「だ・である」体の使い分けについて整理します。

話し言葉・書き言葉についても、整理します。

希望願望の表現・自分の意思を説明する表現についても、知識を広げます。

第8回 練習問題

第10課 河童

様態の表現を整理します。

また、様子・状態を表現する方法を深めます。

第9回 中間・確認テスト

前半部分の文法に関する復習、また、言葉についての復習のために、中間テストを実施します。

第10回 練習問題

第12課 睡眠

許可・義務の表現の整理を行ないます。

書き言葉に関する表現を深めます。

第11回 練習問題

第14課 地震

関節引用表現について、整理します。

そのために、普通形の整理も行ないます。

また、不確かなことを説明する表現に関しても、整理します。

第12回 練習問題

第16課 宮沢賢治

使役形・使役受身形を使用する表現を整理します。

より丁寧な意思表示についても、知識を深めます。

第13回 練習問題

第18課 温泉

条件表現の全体的な整理を行ないます。

第14回 練習問題

第20課 お礼状

尊敬・謙讓を含めた待遇表見について、整理を行ないます。

また、授受表現についても、整理します。

丁寧な手紙や、お礼状が書けるような練習を行ないます。

第15回 まとめ確認テスト

半期分の文法に関する復習を行ないます。

また、言葉についての復習も行ないます。

初級文法の整理と、中級文法の整理のために、まとめ確認テストを実施します。

2022年度 前期

1.0単位

日本語E (文章読解の技術)

鈴木 庸子

< 授業の方法 >

「講義」「演習」

< 授業の目的 >

この科目は、全学のDPに示す「幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる」ようになることを目指す。

専門分野の文章を読むために必要とされる読み方の方略を学ぶと共に、分野毎に文章を要約し、文章の読み方を実践的に訓練できる。

< 到達目標 >

1. さまざまな分野の文章についてその読み方を学ぶことにより、文章の内容をより深く理解することができる。(知識・技能)

2. 読んだ文章を要約する作業を通して、文章の内容やポイントをよりの確に把握することができる。(技能)

3. 読み方に関する知識を活用し、さまざまな文章を自分の力で読むことができる。(態度・習慣)

< 授業のキーワード >

読解のストラテジー(方略)、背景知識、他の読み手との差異

< 授業の進め方 >

テキストで読解の方法を学び、練習問題で確認する。

学んだ読解の技術を用い、要約文を作成し、提出する。

教員がコメントを付けて返却した要約文をもとに、読解の技術の共有や他の読み手との差異を確認する。

< 授業時間外に必要な学修 >

読む文章の語彙の意味等を調べ、背景となる知識を得ておく。(予習:60分)

返却された要約文に対する教員のコメントを確認し、文章を読むポイントをまとめる(復習:30分)

< 提出課題など >

課題読解文(1課毎)の要約文を作成し、提出する。

教員がコメントを付けて返却した課題について、読解の技術の理解と他の読み手との差異を確認した後、再提出する。

読解復習テスト

復習テストのポイントを確認しながら、読み方の方略を総復習する

< 成績評価方法・基準 >

要約文提出(30%)、要約文の修正(10%)、復習テスト(50%) 授業中の態度、意欲、発言(10%)を成績評価とする。

それぞれに対する評価の基準は「到達目標」に従う。

< テキスト >

『ストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』

スリーエーネットワーク 一橋大学国際教育交流センター 1,320円

この授業のテキストは、第1回の授業を受ける前に購入しないこと。第1回の授業でテキストについて詳しく説明するので、その説明を受け内容を理解してから、改めて購入するようにしてほしい。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

読解の方法

内容理解のためのストラテジー

・何の話かをつかむ キーワードの見つけ方

授業の進め方

「何の話か」が分かりにくい文章について、キーワードの発見の仕方を学ぶ

第2回 内容理解のためのストラテジー

・何の話かをつかむ キーワードを見つけながらの読解文章を読んで、キーワードの発見の仕方を実践練習する
関連文の要約を行い、要約文を提出する

第3回 内容理解のためのストラテジー

・何が問題になっているかをつかむ 「問い」の表れ方
返却した要約文をもとに、読みの方略の理解度を確認し、他の読み手との差異を考える

文章の「問い」がどのような形で文章に表れるのかを学ぶ

第4回 内容理解のためのストラテジー

・何が問題になっているかをつかむ 問いを探しながらの読解

文章の中にある「問い」をつかむ実践練習をする

関連文の要約を行い、要約文を提出する

第5回 内容理解のためのストラテジー

・言いたいことは何かをつかむ 結論の見つけ方
返却した要約文をもとに、読みの方略の理解度を確認し、他の読み手との差異を考える
文章の「問い」からその「答え」としての結論の見つけ方を学ぶ

第6回 内容理解のためのストラテジー

・言いたいことは何かをつかむ 結論を見つける
文章を読んで、結論を見つける練習をする
関連文を読んで、要約を行い、要約文を提出する

第7回 内容理解のためのストラテジー

・歴史を扱った文章を読む 時間の経緯や因果関係の見つけ方

返却した要約文をもとに、読みの方略の理解度を確認し、他の読み手との差異を考える

時間経過と因果関係に注目しつつ、歴史を扱った文章の構成を学ぶ

第8回 内容理解のためのストラテジー

・歴史を扱った文章を読む 時間的経緯や因果関係を見つめる読解

歴史を扱った文章を読んで、構成を考えながら、時間的経緯や因果関係を見つめる練習をする

関連文の要約を行い、要約文を提出する

第9回 内容理解のためのストラテジー

・二項対立を見抜く 2つの立場の見分け方

返却した要約文をもとに、読みの方略の理解度を確認し、他の読み手との差異を考える

二項対立の文章の二つの立場の区別を学ぶ

第10回 内容理解のためのストラテジー

・二項対立を見抜く 2つの立場を見分ける読解

二項対立の文章を読んで、二つの立場を見分ける練習をする

関連文の要約を行い、要約文を提出する

第11回 内容理解のためのストラテジー

・筆者の立場を見抜く 筆者の立場を見抜く方法

返却した要約文をもとに、読みの方略の理解度を確認し、他の読み手との差異を考える

筆者の立場を明確にする表現上の手がかりの見つけ方を学ぶ

第12回 内容理解のためのストラテジー

・筆者の立場を見抜く 表現上の手がかりから筆者に立場を見抜く読解

表現上の手がかりから、筆者の立場を見抜く練習をする
関連文の要約を行い、要約文を提出する

第13回 内容理解のためのストラテジー

・文章を整理して理解する 長い文章の構造を理解する方法

返却した要約文をもとに、読みの方略の理解度を確認し、他の読み手との差異を考える

順序を表す言葉を手がかりにして、長い文章の構造を理解する方法を学ぶ

第14回 読解復習テスト

読解の方略を測る復習テストを行う

第15回 文章読解の方略の総復習

復習テストの間違が多い箇所を中心に、学んだ読みの方略を復習する

2022年度 前期

1.0単位

日本語E (エンバイスガ大学交換留学)

山本 さゆみ

<授業の方法>

対面授業(講義)

<授業の目的>

既にエンバイスガ大学で学習した日本語初級文法を整理し、中級日本語文法を習得するクラスです。

スモールステップで、無理のないように、日本語文法を整理します。

また、神戸学院大学で、交換留学生として生活するために必要な知識も、身に付けられるようにし、日本語能力試験N3/N2レベルに到達できるようになることを目的とします。

そして、この授業を履修することで、全学のディプロマ

・ポリシーに掲げられているように「幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くこと」・「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションを取ること」や「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協同し、社会に役立てること」ができるようになります。

そして、この授業を履修することで、全学のディプロマ

・ポリシーに掲げられているように「幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くこと」・「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションを取ること」や「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協同し、社会に役立てること」ができるようになります。

そして、この授業を履修することで、全学のディプロマ

<到達目標>

・初級日本語文法を整理した上で中級文法を習得することができます。

・いくつかのパリエーションで日本語を扱うことができます。

・相手や対象に応じて、日本語を使い分けることができます。

<授業のキーワード>

初級日本語文法整理

中級日本語

日本語能力試験 N3/N2

<授業の進め方>

まずはレベルチェックを行います。

初級日本語文法の整理は、教科書を利用します。

そして、初級日本語文法で、習得しておくべき文法を整理します。

また、日本語能力試験への対策は、練習問題などを利用します。

<履修するにあたって>

エンバイスガ大学・交換留学生のためのクラスです。
エンバイスガ大学の交換留学生は、必ず受講しなければなりません。

授業の前に、必ず、言葉を調べて、確認して来てください。

<授業時間外に必要な学修>

授業前の語彙の読み方や意味の確認に1時間、授業後には学習事項と語彙の整理に最低でも1時間は必要です。

<成績評価方法・基準>

授業中の参加度 30%

提出課題 20%

復習テスト 25% (2、3課終了ごとに行う復習テスト)

まとめテスト 25% (最終的にテキストのまとめとして行うテスト)

* 定期試験は行いません。

* それぞれに対する評価の基準は「到達目標」に従います。

<テキスト>

石川恵子他(2004) 『日本語2nd ステップ改訂版』 白帝社 1600円+税金
ISBN-9784891747114 (4891747110)

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

自己紹介を行ったり、レベルチェックを行います。

第2回 復習

初級文法で、習得しておくべき文法をチェックします。

第3回 復習

練習問題を行いながら、初級文法を確認します。

第4回 練習問題

第1課 新宿

第5回 練習問題

第3課 日本の方言

第6回 練習問題

第5課 日本間

第7回 練習問題

第7課 マンガ文化

第8回 練習問題

第9課 すし

第9回 確認テスト

復習テストをします。

第10回 練習問題

第11課 寄席

第11回 練習問題

第13課 経済発展

第12回 練習問題

第15課 線路わきのやぎ

第13回 練習問題

第17課 オランウータン

第14回 練習問題

第19課 酒

第15回 まとめ

まとめテストを行って、学期内で学習した内容を総復習し、整理します。

2022年度 後期

1.0単位

日本語E (リーズ大学交換留学)

金澤 協子

<授業の方法>

来日後は、対面授業：講義・演習

来日前は、リアルタイムon-line遠隔授業：講義・演習

<授業の目的>

この科目は、母国での日本語初級文法を学習したことを受け、引き続き、日本語中級文法の学習を行ない、それを身に付けるのが目的です。

難度が高くなるので、初級での勉強方法とは、少し、異なった方法で進めます。

また、日本留学からの帰国後、無理なく、日本語学習が続けられるように準備することも、目的としています。もちろん、神戸学院大学の交換留学生として、必要な知識や情報をも身に付けることも目的の一つです。

そして、日本語能力試験N3/N2レベルを受験する準備にも役立ちます。

この授業を履修することで、神戸学院大学の全学ディプロマ・ポリシーに掲げられている以下のことが出来るようになります。

幅広い知識を活用して、さまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くこと

自分の意見を口頭や文章によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションを取ること

獲得した知識や技術を活用して、国内外において、価値観や意見の異なる多様な人と議論し、学びを深め、協同し、社会に役立てること

この科目の担当者は、学部・大学院ともに、日本語教育を専門として修学・研究しており、卒業・修了後も外国人日本語学習者への教育を行なってきました。特に、交

換留学生への教育には、30年の教授経験を有しています。そして、日本語教育関係の研究会の役員として、会を運営する実務にも対応しています。

また、日本語教師養成講座の開講・運営にも携わっており、実務経験のある教員として、日本語学習に不具合が生じた場合、多角的で具体的なアドバイスを行なうことが出来ます。

<到達目標>

この授業を受けると、次のことが出来るようになります。

態度・習慣として、日本語中級文法を勉強するために、学習スタイルを身に付けること。

また、留学が終了し、帰国後も、引き続いて、本国での日本語学習が継続出来ること。

知識・技能として、日本語を表現する場合、複数のバリエーションが扱えること。

知識・技能として、相手や対象に応じて、適切に、日本語が使い分けられること。

知識・技能として、日本語の漢字語彙を広く身に付けられ、使うことが出来ること。

<授業のキーワード>

初級日本語文法整理

中級日本語

日本語能力試験N3/N2

<授業の進め方>

まず、第一回目の授業で、日本語能力のレベルチェックを行ないます。

初級日本語文法の整理は、教科書を利用します。

そして、初級日本語文法で、習得しておくべき文法も整理します。

それから、中級日本語文法で扱う教科書を使用して、授業を進めます。

また、日本語能力試験対策に関しては、練習問題などを利用します。

日々の授業では...

語彙の確認と適切な運用の提示

文法項目の確認

長文読解を実施後、内容把握

事後整理としての確認作業...を行ないます。

また、毎回、小テストも実施します。

小テストは、提出後、即座に、解答解説を行ない、返却後フィードバックします。

授業内で、質疑応答の時間を取り、対応します。

また、より深く対応するに当たり、授業の中で、改めて、対応を指示します。

<履修するにあたって>

このクラスは、英国：リーズ大学からの交換留学生のためのクラスです。

授業挑む前に、必ず、学習課の新出語彙を確認して来て下さい。

また、文法項目なども、事前に把握しておくこと、より余裕を持って、挑めます。

授業後は、語彙の把握に引き続き、関連語彙の整理も必要となるでしょう。

授業には、必ず、辞書・筆記用具(黒・赤・青など)・ノートを持参して下さい。

<授業時間外に必要な学修>

授業で学習する課の新出語彙は、事前に、読み方や意味などを確認しておいて下さい。

新出語彙の確認には、課にもよりますが、1時間程度は、必要になると思います。

また、学習した文型を確認したり、語彙の整理などをしながら、新しい知識を確実に身に付けて下さい。

文型・表現を確認するチェックシートを利用して、定着を確認して下さい。

この作業にも、確実に、1時間程度は必要になると思います。

<提出課題など>

初回授業で、レベルを判断してから、授業中に、指示をします。

提出を受けた課題については、速やかに確認し、返却します。

クラス授業以上に、質疑応答などの時間を充分に取り、丁寧に対応します。

課題の提出の期限や方法に関しては、また、改めて、授業の中で知らせます。

<成績評価方法・基準>

成績は、以下のポイントから、総合的に判断します。

中間・修了テスト40%

課題遂行・復習小テスト等60%

それぞれに対する評価基準は、到達目標に従います。

・ 毎回、学習した語彙・文型を確認する復習小テストを実施します。

・ 定期試験期間ではなく、授業内で、中間・修了テストを実施します。

・ 授業期間内に、出題形式を提示し、日本での受験形式にも慣れるようにします。

<テキスト>

使用テキストは、授業中にも、アナウンスします。

石川恵子他(2004)『日本語 2nd ステップ 改訂版』白帝社

1600円+税金

ISBN-9784891747114(4891747110)

<参考図書>

レベルチェックをした後に、クラスで紹介・指示します。受講者の要望に応じた参考図書を紹介します。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

自己紹介を行ったり、レベルチェックを行ったりします。

神戸学院大学で学習するのに必要な情報を提供します。

また、日本語学習に必要な情報を提供します。

第2回 復習

初級文法で、習得しておきべき文法に関して、チェックします。

特に、動詞・形容詞などの活用や、助詞について整理します。

第3回 復習

実践的な練習問題を行なてながら、初級文法を確認します。

第4回 練習問題

第2課 工場見学

時間的前後関係・依頼表現などの整理をします。

段落でのキーワードについても、考えます。

第5回 練習問題

第4課 思い出の人形

知覚動詞・様子状態の表現について整理します。

連体修飾を使って、物の描写を練習します。

第6回 練習問題

第6課 青と緑

試行・限定の表現について整理します。

言葉の歴史についても、知識を深めます。

第7回 練習問題

第8課 志のままに

「です・ます」体と「だ・である」体の使い分けについて整理します。

話し言葉・書き言葉についても、整理します。

希望願望の表現・自分の意思を説明する表現についても、知識を広げます。

第8回 練習問題

第10課 河童

様態の表現を整理します。

また、様子・状態を表現する方法を深めます。

第9回 中間・確認テスト

前半部分の文法に関する復習、また、言葉についての復習のために、中間テストを実施します。

第10回 練習問題

第12課 睡眠

許可・義務の表現の整理を行ないます。

書き言葉に関する表現を深めます。

第11回 練習問題

第14課 地震

関節引用表現について、整理します。

そのために、普通形の整理も行ないます。

また、不確かなことを説明する表現に関しても、整理します。

第12回 練習問題

第16課 宮沢賢治

使役形・使役受身形を使用する表現を整理します。

より丁寧な意思表示についても、知識を深めます。

第13回 練習問題

第18課 温泉

条件表現の全体的な整理を行ないます。

第14回 練習問題

第20課 お礼状

尊敬・謙譲を含めた待遇表見について、整理を行ないます。

また、授受表現についても、整理します。

丁寧な手紙や、お礼状が書けるような練習を行ないます。

第15回 まとめ確認テスト

半期分の文法に関する復習を行ないます。

また、言葉についての復習も行ないます。

初級文法の整理と、中級文法の整理のために、まとめ確認テストを実施します。

2022年度 前期

1.0単位

日本語F (レポートの作成)

鈴木 庸子

<授業の方法>

「講義」「演習」

<授業の目的>

この科目は、全学のDPに示す「専門分野に高い関心を持ち、専門領域の課題を考察し、解決するための知識や技能を身につけている」ことを目指す。

文章表現の基礎と論理的思考による文章表現力を養い、専門科目でのレポート作成など論理的な文章表現ができるようになることを目的とする。

<到達目標>

1. レポートを作成するために必要な文法知識・表現や文章構成を学び、自分の意図が確実に相手に伝わる文章を書くことができる。(知識・技能)
2. レポートの中で用語に対する定義を的確に行い、他の著作物からの引用等を正しく行うことができる。(技能)
3. 指定された話題について論理的に文章を構成し、レポートを作成することができる。(技能)

<授業の進め方>

テキスト、資料の文法知識・表現、文章交際を説明してから、レポート作成練習を行う。

課毎に課題レポートを作成し、提出する。

提出された課題レポートは、教員が問題点を指摘し、コメントを付けて返却する。

次回の授業で、問題点を確認し、共有した後、修正文を作成する。

<授業時間外に必要な学修>

授業で扱われる課題に関する文を事前に読み、その文章の構成がどのようなになっているか、その文章の中にどのような表現が使われているかを知っておく。(予習：30分)

教師が確認した課題文を、教師や他の学生からの批評や議論を踏まえて書き直す。(復習：60分)

<提出課題など>

授業内容に即したテーマで、課題としてレポートを作成し、提出する。

提出された課題レポートは、教員が問題点を指摘し、コメントを付けて返却する。返却された問題点を共有した後、修正文を作成し、提出する。

レポートを書くために必要な文法知識・表現、文章作成の復習テスト。

復習テストの問題点を確認した後、課題レポートの修正文を作成する。

<成績評価方法・基準>

課ごとに提出された課題レポート(30%)、修正文の作成(10%)、復習テスト(40%)授業中の態度、意欲、発言(10%)を成績評価とする。

それぞれに対する評価の基準は「到達目標」に従う。

<テキスト>

『大学・大学院留学生のための日本語2作文編』アルク アカデミック・ジャパニーズ研究会著
1,760円

この授業のテキストは、第1回の授業を受ける前に購入しないこと。第1回の授業でテキストについて詳しく説

明するので、その説明を受け内容を理解してから、改めて購入するようにしてほしい。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

文体と書き言葉

授業の進め方

レポート作成などの論理的な文章の文体を学ぶ

課題レポートを作成し、提出する

第2回 段落

段落を作って、文章を作成することを学ぶ

課題レポート「これからの生活」を3段落、中心文を

支持文 支持文の形式で作成し、提出する

第3回 段落

「は」と「が」

判断文と事実文

判断文と事実文の違い

2回目で作成した課題レポートを修正し、修正文を作成する

「は」と「が」に使い方と判断文と事実文の違いを学ぶ

第4回 「は」と「が」

判断文と事実文の違い

「は」と「が」に使い方と判断文と事実文の違いを学び、文体を意識して、課題レポート「自国の有名人」を作成し、提出する

第5回 「は」と「が」

判断文と事実文

課題文の修正

4回目で作成した課題レポートの問題点、修正点を話し

合い、修正文を作成する

作成した修正文を提出する

第6回 「テーマを述べる」

テーマの述べ方

助詞相当句の使い方を学ぶ

テーマを示し、その重要性を述べることを考えて、課題レポート「国の特別なもの」を作成し、提出する

第7回 「テーマを述べる」

課題文の修正

6回目で作成した課題レポートの問題点、修正点を話し

合い、修正文を作成する

作成した修正文を提出する

第8回 「理由・経過を述べる」

理由、経過の述べ方

理由・経過の述べ方を学ぶ

理由、経緯を考慮して、課題レポート「私が日本へ来るまで」を作成し、提出する

第9回 「理由・経過を述べる」

課題文の修正

8回目で作成した課題レポートの問題点、修正点を話し合い、修正文を作成する

作成した修正文を提出する

第10回 「定義する」

定義の仕方

定義の仕方を学ぶ

定義の仕方の練習をする

第11回 「定義する」

課題文の作成

定義の仕方の練習文の修正

中心文、支持文を考えて課題レポート「ゴミのリサイクルについて」を作成し、提出する

第12回 「定義する」

課題文の修正

11回目で作成した課題レポートの修正点、疑問点を話し合い、修正文を作成する

作成した修正文を提出する

第13回 「判明していることを述べる」

助詞相当句の使い方を学び、グラフを基に、わかっていること、予想される問題を考え、課題レポート「高齢化」を作成し、提出する

第14回 レポートの書き方復習テスト

レポートを書くために学んだ文法知識、表現、文章作成を問う復習テストを行う

第15回 レポート作成の総復習と課題レポートの完成

復習テストの文法知識、表現、文章作成の問題点を確認し、課題レポート「高齢化」の修正文を作成し、提出する

2022年度 前期

1.0単位

日本語F（エンバイスガ大学交換留学）

山本 さゆみ

< 授業の方法 >

対面授業（講義）

< 授業の目的 >

本授業では、さまざまな形式の練習問題を通して、言語知識、聴解力を伸ばし、最終的には日本語能力試験N3、できればN2に合格できるようになることを目的とします。そして、この授業を履修することで、全学のディプロマ・ポリシーに掲げられているように「幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くこと」・「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーション

ンを取ること」や「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協同し、社会に役立てること」ができるようになります。

< 到達目標 >

日本語の言語知識を拡充し、聴解能力を伸ばし、最終的には各自のレベルに合った日本語能力試験に合格できます。

< 授業のキーワード >

日本語能力試験 N3/ N2

< 授業の進め方 >

日本語能力試験がある7月までは、試験合格に向けて様々な練習問題を解き、日本語力を磨きます。

能力試験後は日本の文化、風習に触れることができる活動を通して、日本語の応用力を磨きます。

< 履修するにあたって >

交換留学生のためのクラスです。

エンバイスガ大学交換留学生は必ず、受講しなければなりません。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業前の語彙の読み方や意味の確認に1時間、授業後には学習事項と語彙の整理に最低でも1時間は必要です。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の参加度 30%

提出課題 20%（作文等）

授業中の課題 50%（テキスト、配付プリントに記載されている練習問題等の課題）

* 定期試験は行いません。

* それぞれに対する評価の基準は「到達目標」に従います。

< テキスト >

特にありません。

プリントを配付します。

< 授業計画 >

第1回 文字・語彙

漢字読み：漢字で書かれたことばの読み方を答える練習。

第2回 文字・語彙

表記：ひらがなで書かれたことばを、漢字でどう書くか答える練習。

第3回 文字・語彙

文脈規定：空欄に入れるのに意味的に最もふさわしいことばを答える練習。

第4回 文字・語彙

言い換え類義：問題となっていることばや表現と意味の近いことばや表現を答える練習。

第5回 文字・語彙

用法：出題語が文の中でどのように使われているのが正しいか答える練習。

第6回 文法

文法形式の判断：文の内容に合った文法形式かどうか判断して答える練習。

第7回 文法

文の組み立て：正しく意味が通る文を組み立て答える練習。

第8回 文法

文章の文法：文章の流れにあったことばや表現を答える練習。

第9回 模試と対策

実際の日本語能力試験と同じ問題形式で作られた模擬試験を実際の時間内で行い、解答解説する。

第10回 模試と対策

実際の日本語能力試験と同じ問題形式で作られた模擬試験を実際の時間内で行い、解答解説する。

第11回 模試と対策

実際の日本語能力試験と同じ問題形式で作られた模擬試験を実際の時間内で行い、解答解説する。

第12回 応用練習

日本の昔話

第13回 応用練習

4コマ漫画

第14回 応用練習

川柳

第15回 応用練習

日本の行事

2022年度 後期

1.0単位

日本語F（リーズ大学交換留学）

金澤 協子

< 授業の方法 >

来日後は、対面授業：講義・演習

来日前は、リアルタイムon-line遠隔授業：講義・演習

< 授業の目的 >

この科目は、母国での日本語初級文法を学習したことを受け、引き続き、日本語中級文法の学習を行ない、それを身に付けるのが目的です。

難度が高くなるので、初級での勉強方法とは、少し、異なった方法で進めます。

また、日本留学からの帰国後、無理なく、日本語学習が続けられるように準備することも、目的としています。

もちろん、神戸学院大学の交換留学生として、必要な知

識や情報をも身に付けることも目的の一つです。

そして、日本語能力試験N3/N2レベルを受験する準備にも役立ちます。

この授業を履修することで、神戸学院大学の全学ディプロマ・ポリシーに掲げられている以下のことが出来るようになります。

幅広い知識を活用して、さまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くこと

自分の意見を口頭や文章によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションを取ること

獲得した知識や技術を活用して、国内外において、価値観や意見の異なる多様な人と議論し、学びを深め、協同し、社会に役立てること

この科目の担当者は、学部・大学院ともに、日本語教育を専門として修学・研究しており、卒業・修了後も外国人日本語学習者への教育を行なってきました。特に、交換留学生への教育には、30年の教授経験を有しています。そして、日本語教育関係の研究会の役員として、会を運営する実務にも対応しています。

また、日本語教師養成講座の開講・運営にも携わっており、実務経験のある教員として、日本語学習に不具合が生じた場合、多角的で具体的なアドバイスを行なうことが出来ます。

< 到達目標 >

この授業を受けると、次のことが出来るようになります。

態度・習慣として、日本語中級文法を勉強するために、学習スタイルを身に付けること。

また、留学が終了し、帰国後も、引き続いて、本国での日本語学習が継続出来ること。

知識・技能として、日本語を表現する場合、複数のバリエーションが扱えること。

知識・技能として、相手や対象に応じて、適切に、日本語が使い分けられること。

知識・技能として、日本語の漢字語彙を広く身に付けられ、使うことが出来ること。

< 授業のキーワード >

初級日本語文法整理

中級日本語

日本語能力試験N3/N2

< 授業の進め方 >

まず、第一回目の授業で、日本語能力のレベルチェックを行ないます。

初級日本語文法の整理は、教科書を利用します。

そして、初級日本語文法で、習得しておくべき文法も整理します。

それから、中級日本語文法で扱う教科書を使用して、授業を進めます。

また、日本語能力試験対策に関しては、練習問題などを利用します。

日々の授業では...

語彙の確認と適切な運用の提示

文法項目の確認

長文読解を実施後、内容把握

事後整理としての確認作業...を行ないます。

また、毎回、小テストも実施します。

小テストは、提出後、即座に、解答解説を行ない、返却後フィードバックします。

授業内で、質疑応答の時間を取り、対応します。

また、より深く対応するに当たり、授業の中で、改めて、対応を指示します。

<履修するにあたって>

このクラスは、英国：リーズ大学からの交換留学生のためのクラスです。

授業挑む前に、必ず、学習課の新出語彙を確認して来て下さい。

また、文法項目なども、事前に把握しておくこと、より余裕を持って、挑めます。

授業後は、語彙の把握に引き続き、関連語彙の整理も必要となるでしょう。

授業には、必ず、辞書・筆記用具(黒・赤・青など)・ノートを持参して下さい。

<授業時間外に必要な学修>

授業で学習する課の新出語彙は、事前に、読み方や意味などを確認しておいて下さい。

新出語彙の確認には、課にもよりますが、1時間程度は、必要になると思います。

また、学習した文型を確認したり、語彙の整理などしながら、新しい知識を確実に身に付けて下さい。

文型・表現を確認するチェックシートを利用して、定着を確認して下さい。

この作業にも、確実に、1時間程度は必要になると思い

ます。

<提出課題など>

初回授業で、レベルを判断してから、授業中に、指示をします。

提出を受けた課題については、速やかに確認し、返却します。

クラス授業以上に、質疑応答などの時間を充分に取り、丁寧に対応します。

課題の提出の期限や方法に関しては、また、改めて、授業の中で知らせます。

<成績評価方法・基準>

成績は、以下のポイントから、総合的に判断します。

中間・修了テスト40%

課題遂行・復習小テスト等60%

それぞれに対する評価基準は、到達目標に従います。

・毎回、学習した語彙・文型を確認する復習小テストを実施します。

・定期試験期間ではなく、授業内で、中間・修了テストを実施します。

・授業期間内に、出題形式を提示し、日本での受験形式にも慣れるようにします。

<テキスト>

使用テキストは、授業中にも、アナウンスします。

石川恵子他(2004)『日本語 2nd ステップ 改訂版』白帝社

1600円+税金

ISBN-9784891747114(4891747110)

<参考図書>

レベルチェックをした後に、クラスで紹介・指示します。受講者の要望に応じた参考図書を紹介します。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

自己紹介を行ったり、レベルチェックを行ったりします。

神戸学院大学で学習するのに必要な情報を提供します。

また、日本語学習に必要な情報を提供します。

第2回 復習

初級文法で、習得しておくべき文法に関して、チェック

します。

特に、動詞・形容詞などの活用や、助詞について整理します。

第3回 復習

実践的な練習問題を行なてながら、初級文法を確認します。

第4回 練習問題

第2課 工場見学

時間的前後関係・依頼表現などの整理をします。段落でのキーワードについても、考えます。

第5回 練習問題

第4課 思い出の人形

知覚動詞・様子状態の表現について整理します。連体修飾を使って、物の描写を練習します。

第6回 練習問題

第6課 青と緑

試行・限定の表現について整理します。言葉の歴史についても、知識を深めます。

第7回 練習問題

第8課 志のままに

「です・ます」体と「だ・である」体の使い分けについて整理します。

話し言葉・書き言葉についても、整理します。

希望願望の表現・自分の意思を説明する表現についても、知識を広げます。

第8回 練習問題

第10課 河童

様態の表現を整理します。

また、様子・状態を表現する方法を深めます。

第9回 中間・確認テスト

前半部分の文法に関する復習、また、言葉についての復習のために、中間テストを実施します。

第10回 練習問題

第12課 睡眠

許可・義務の表現の整理を行ないます。

書き言葉に関する表現を深めます。

第11回 練習問題

第14課 地震

関節引用表現について、整理します。

そのために、普通形の整理も行ないます。

また、不確かなことを説明する表現に関しても、整理します。

第12回 練習問題

第16課 宮沢賢治

使役形・使役受身形を使用する表現を整理します。

より丁寧な意思表示についても、知識を深めます。

第13回 練習問題

第18課 温泉

条件表現の全体的な整理を行ないます。

第14回 練習問題

第20課 お礼状

尊敬・謙譲を含めた待遇表見について、整理を行ないます。

また、授受表現についても、整理します。

丁寧な手紙や、お礼状が書けるような練習を行ないます。

第15回 まとめ確認テスト

半期分の文法に関する復習を行ないます。

また、言葉についての復習も行ないます。

初級文法の整理と、中級文法の整理のために、まとめ確認テストを実施します。

2022年度 前期

1.0単位

日本語G（リーズ大学交換留学）

山本 さゆみ

<授業の方法>

対面授業（講義）

<授業の目的>

後期に勉強した日本語初級文法を基にして、日本語中級文法を勉強します。

初級での勉強方法とは、少し異なった方法での学習スタイルで進めます。

帰国後、大学で無理なく日本語学習が続けられるように準備をします。

もちろん、神戸学院大学の交換留学生として、必要な知識や情報も習得できるようになることを目的とします。

また、日本語能力試験N3/ N2レベルに到達できるようにすることを目的とします。

そして、この授業を履修することで、全学のディプロマ・ポリシーに掲げられているように「幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くこと」・「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションを取ること」や「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協同し、社会に役立てること」ができるようになります。

<到達目標>

・日本語中級文法を勉強するための学習スタイルを身に付けることができます。

・日本語を表現する時、複数のバリエーションを扱うことができます。

・相手や対象に応じて、日本語を使い分けることができます。

・漢字語彙も、身に付け、それを理解し、使うことができるようになります。

<授業のキーワード>

中級日本語文法

< 授業の進め方 >

先生が行なう講義を聴き、先生の指示の下で練習を行います。

中級日本語文法を扱うテキストを利用して、勉強を進めます。

また、日本語能力試験対策としては、練習問題などを利用します。

< 履修するにあたって >

交換留学生のためのクラスです。

リーズ大学交換留学生は必ず、受講しなければなりません。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業前の語彙の読み方や意味の確認に1時間、授業後には学習事項と語彙の整理に最低でも1時間は必要です。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の参加度 30%

提出課題 20%

復習テスト 25% (2、3課終了ごとに行う復習テスト)

まとめテスト 25% (最終的にテキストのまとめとして行うテスト)

* 定期試験は行いません。

* それぞれに対する評価の基準は「到達目標」に従います。

< テキスト >

小柳昇 (2004) 『ニューアプローチ中級日本語「基礎編」改訂版』日本語研究社

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

レベルチェック等を行います。

第2回 練習問題

第2課 様子・類似 世界のじゃんけん

第3回 練習問題

第4課 対比・逆説 アナウンスと親切

第4回 練習問題

第6課 時 夢の自転車

第5回 練習問題

長文読解練習

第6回 練習問題

第8課 予想・期待 100%の占い師

第7回 練習問題

第10課 原因・理由 しょうがない

第8回 練習問題

第12課 様子・類似 格言・名言

第9回 練習問題

長文読解練習

第10回 練習問題

第14課 対比・逆説 笑いの効果

第11回 練習問題

第16課 時 梅雨

第12回 練習問題

第18課 予想・期待 行列のできる店

第13回 練習問題

第20課 説明・結論 車のコミュニケーション

第14回 練習問題

長文読解練習

第15回 まとめ

まとめのテストをして、学期内で学習した内容を総復習し、整理します。

2022年度 後期

1.0単位

日本語G (新聞記事読解)

金澤 協子

< 授業の方法 >

対面授業：講義・演習

< 授業の目的 >

新聞記事を読むことで、語彙の拡充を図り、社会事情などを知ること目的としています。

この授業を履修することで、神戸学院大学の全学ディプロマ・ポリシーに掲げられている以下のことが出来るようになります。

幅広い知識を活用して、さまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くこと

自分の意見を口頭や文章によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションを取ること

獲得した知識や技術を活用して、国内外において、価値観や意見の異なる多様な人と議論し、学びを深め、協同し、社会に役立てること

また、履修生が少ない場合には、各自が不得意な分野を解消させることを助けるため、それぞれの学生に対して不得意分野を個別に指導することもあります。

なお、この科目の担当者は、学部・大学院ともに、日本語教育を専門として修学・研究しており、卒業・修了後も外国人日本語学習者への教育を行なってきました。特に、交換留学生への教育には、30年の教授経験を有して

います。

そして、日本語教育関係の研究会の役員として、会を運営する実務にも対応しています。

また、日本語教師養成講座の開講・運営にも携わっており、実務経験のある教員として、日本語学習に不具合が生じた場合、多角的で具体的なアドバイスを行なうことが出来ます。

<到達目標>

この授業を受けると、次のようなことが、出来るようになります。

新聞に出てくるレベルの語彙を増やすことができる。
新聞記事の省略的な書き方を補って意味をとることができる。

新聞記事を読んで、段落ごとの大意をまとめて書くことができる。

<授業のキーワード>

語彙の拡充・社会事情の把握

<授業の進め方>

まず、第一回目の授業で、日本語能力のレベルチェックを行ないます。

また、毎週の授業では、生の新聞記事を読んで内容について正確に理解し、大意をまとめる練習をします。

受講者との話し合いで、授業内容を決めることがあります。

そして、受講者の人数によっては、個別対応もあり得ます。

<履修するにあたって>

授業には、必ず、辞書・筆記用具(黒・赤・青などのペン)・ノートを準備して挑んで下さい。

<授業時間外に必要な学修>

各授業で読んだ新聞記事の中で、読めなかった漢字や、理解出来なかった文章については、約1時間の復習を必要とするはずです。

<提出課題など>

まとめ文：段落毎の大意を50字程度で要約の提出
毎回、新出語彙を覚えて、次回の授業での確認作業

<成績評価方法・基準>

成績は、総合的に、判断します。

授業参加度・読解確認を含めた態度意欲：50%
まとめ文・まとめ作文等の要約文提出等：50%
それぞれに対する評価基準は、到達目標に従います。

<テキスト>

テキストは、使用しません。

生教材である新聞記事を使用します。

受講者が選んだ新聞記事、または、こちらから提供した新聞記事です。

最初の授業で、レベルチェック確認後、指示します。

<参考図書>

レベルチェックをした後に、クラス内で、紹介・指示します。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

- ・履修生 自己紹介
- ・日本語レベルチェック
- ・ガイダンス

第2回 新聞記事読解

学習者が選んだ記事、または提供する新聞記事の読解を行なう

- ・少子化歯止めの結果を

第3回 新聞記事作文

新聞記事について、読解確認とまとめ作文を行なう

- ・少子化歯止めの結果を

第4回 新聞記事読解

新聞記事について、読解を行なう

- ・もろかったレンガ造り

第5回 新聞記事作文

新聞記事について、読解確認とまとめ作文を行なう

- ・もろかったレンガ造り

第6回 新聞記事読解

新聞記事について読解を行なう

- ・台湾ハトレース

第7回 新聞記事作文

新聞記事について、読解確認とまとめ作文を行なう

- ・台湾ハトレース

第8回 新聞記事読解

新聞記事について読解を行なう

- ・パート収入

第9回 新聞記事作文

新聞記事について、読解確認とまとめ作文を行なう

・パート収入

第10回 新聞記事読解

新聞記事について読解を行なう

・モンスターペアレント

第11回 新聞記事作文

新聞記事について、読解確認とまとめ作文を行なう

・モンスターペアレント

第12回 新聞記事読解

新聞記事についての読解を行なう

・生前贈与

第13回 新聞記事作文

新聞記事について、読解確認とまとめ作文を行なう

・生前贈与

第14回 新聞記事読解

新聞記事について読解を行なう

・生命倫理

第15回 総まとめ

新聞記事読解や大意のまとめ等について、要約文についての確認を行なう

2022年度 前期

1.0単位

日本語H（リーズ大学交換留学）

山本 さゆみ

< 授業の方法 >

対面授業（講義）

< 授業の目的 >

後期に勉強した日本語初級文法を基にして、日本語中級文法を勉強します。

初級での勉強方法とは、少し異なった方法での学習スタイルを進めます。

帰国後、大学で無理なく日本語学習が続けられるように準備をします。

もちろん、神戸学院大学の交換留学生として、必要な知識や情報も習得できるようになることを目的とします。

また、日本語能力試験N3/ N2レベルに到達できようになることを目的とします。

そして、この授業を履修することで、全学のディプロマ・ポリシーに掲げられているように「幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くこと」・「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションを取ること」や「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協同し、社会に役立てること」ができるようになります。

< 到達目標 >

・日本語中級文法を勉強するための学習スタイルを身に付けることができます。

・日本語を表現する時、複数のバリエーションを扱うことができます。

・相手や対象に応じて、日本語を使い分けることができます。

・漢字語彙も、身に付け、それを理解し、使うことができるようになります。

< 授業のキーワード >

中級日本語文法

日本語能力試験 N3/ N2

< 授業の進め方 >

先生が行なう講義を聴き、先生の指示の下で練習を行います。

中級日本語文法を扱うテキストを利用して、勉強を進めます。

また、日本語能力試験対策としては、練習問題などを利用します。

< 履修するにあたって >

交換留学生のためのクラスです。

リーズ大学交換留学生は必ず、受講しなければなりません。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業前の語彙の読み方や意味の確認に1時間、授業後には学習事項と語彙の整理に最低でも1時間は必要です。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の参加度 30%

提出課題 20%

復習テスト 25%（2、3課終了ごとに行う復習テスト）

まとめテスト 25%（最終的にテキストのまとめとして行うテスト）

* 定期試験は行いません。

* それぞれに対する評価の基準は「到達目標」に従いません。

< テキスト >

小柳昇（2004）『ニューアプローチ中級日本語「基礎編」改訂版』日本語研究社

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

レベルチェック等を行います。

第2回 練習問題

第2課 様子・類似 世界のじゃんけん

第3回 練習問題

第4課 対比・逆説 アナウンスと親切

第4回 練習問題

第6課 時 夢の自転車

第5回 練習問題

長文読解練習

第6回 練習問題

第8課 予想・期待 100%の占い師

第7回 練習問題

第10課 原因・理由 しょうがない

第8回 練習問題

第12課 様子・類似 格言・名言

第9回 練習問題

長文読解練習

第10回 練習問題

第14課 対比・逆説 笑いの効果

第11回 練習問題

第16課 時 梅雨

第12回 練習問題

第18課 予想・期待 行列のできる店

第13回 練習問題

第20課 説明・結論 車のコミュニケーション

第14回 練習問題

長文読解練習

第15回 まとめ

まとめのテストをして、学期内で学習した内容を総復習し、整理します。

2022年度 後期

1.0単位

日本語H (待遇表現)

金澤 協子

< 授業の方法 >

対面授業：講義・演習

< 授業の目的 >

日本で生活するには、避けて通れない待遇表現（敬語・謙譲語など）の文法を理解し、的確な使い方をするための練習を行なうことを通して、敬語を中心としたコミュニケーションができるようになることを目的とします。

この授業を履修することで、神戸学院大学の全学ディプロマ・ポリシーに掲げられている以下のことが出来るようになります。

幅広い知識を活用して、さまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くこと

自分の意見を口頭や文章によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションを取ること

獲得した知識や技術を活用して、国内外において、価値観や意見の異なる多様な人と議論し、学びを深め、協同し、社会に役立てること

また、履修生が少ない場合には、各自が不得意な分野を解消させることを助けるため、それぞれの学生に対して不得意分野を個別に指導することもあります。

なお、この科目の担当者は、学部・大学院ともに、日本語教育を専門として修学・研究しており、卒業・修了後も外国人日本語学習者への教育を行なってきました。特に、交換留学生への教育には、30年の教授経験を有しています。

そして、日本語教育関係の研究会の役員として、会を運営する実務にも対応しています。

また、日本語教師養成講座の開講・運営にも携わっており、実務経験のある教員として、日本語学習に不具合が生じた場合、多角的で具体的なアドバイスを行なうことが出来ます。

< 到達目標 >

この授業を受けると、次のようなことが、出来るようになります。

実際の生活において、待遇表現が適切に使えるようになる。

丁寧さのレベルを学び、使い分けが出来るようになる。

< 授業のキーワード >

待遇表現・敬語・対人関係

< 授業の進め方 >

まず、第一回目の授業で、日本語能力のレベルチェックを行ないます。

また、テキストに沿って、待遇表現の種類、それぞれの形の作り方を学びます。

そして、テキストの問題を解き、テキストを元に、実際に敬語を使って話す練習します。

< 履修するにあたって >

授業には、必ず、辞書・筆記用具(黒・赤・青などのペン)・ノートを準備して挑んで下さい。

< 授業時間外に必要な学修 >

各授業時間中に練習した敬語表現について、自宅で復習し、できるだけ日常生活の中で使ってみることで、確実な実力に繋がるはずです。

< 提出課題など >

毎回、学んだ待遇表現を課外で練習し、実際に使えるかどうか次回の授業中に口頭で確認を行なうことで、課題遂行とします。

また、授業中に、課題遂行の成果を確認します。

< 成績評価方法・基準 >

成績は、総合的に、判断します。

授業参加度・態度意欲（各課題についての確認を含む）
：50%

待遇表現が使用された文章の全体的なまとめ作業：50%

それぞれに対する評価基準は、到達目標に従います。

< テキスト >

小川誉子美・前田直子著（2003）

『日本語文法演習 敬語を中心とした対人関係の表現-待遇表現-』 スリーエーネットワーク

ISBNコード：978-4-88319-272-4

税込み金額：1,430円

< 参考図書 >

レベルチェックした後に、クラス内で、指示します。
受講者の要望に応じた参考図書を紹介します。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

- ・履修生 自己紹介
- ・日本語レベルチェック
- ・ガイダンス

第2回 日本の歴史

日本の歴史について、整理をする。

第3回 日本の歴史

日本の歴史について、整理をする。

第4回 待遇表現の意味

- ・待遇表現とは、敬語の機能・種類・原則について学ぶ

第5回 待遇表現が用いられる場面

敬語表現 動詞：られる、お~になる、お~する、特別な形 について学ぶ

第6回 待遇表現が用いられる場面

敬語表現 あらたまった表現 丁寧語、させていただく、

ございます について学ぶ

第7回 待遇表現が用いられる場面

- ・敬語表現 あらたまった形 について学ぶ

第8回 ~てもらう、~てくれる

- ・授受表現 形と使い方、用法について学ぶ

第9回 日本語の文体

- ・丁寧体と普通体の使い分け 書き言葉、話し言葉について学ぶ

第10回 様々な待遇表現

- 1. 依頼・誘いと承諾の仕方について学ぶ

第11回 様々な待遇表現

- 2. 助言・忠告の仕方について学ぶ

第12回 様々な待遇表現

- 3. 主張・意見の述べ方について学ぶ

第13回 様々な待遇表現

- 4. 許可申し出の仕方について学ぶ

第14回 様々な待遇表現

- 5. 感謝・おわびの仕方について学ぶ

第15回 総まとめ

授業の総復習として、待遇表現が用いられた文章を読み、学習成果を確認する。

2022年度 前期

1.0単位

日本語Ⅰ（リーズ大学交換留学）

山本 さゆみ

< 授業の方法 >

対面授業（講義）

< 授業の目的 >

本授業では、さまざまな形式の練習問題を通して、言語知識、聴解力を伸ばし、最終的には日本語能力試験N3、できればN2に合格できるようになることを目的とします。そして、この授業を履修することで、全学のディプロマ・ポリシーに掲げられているように「幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くこと」・「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションを取ること」や「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協同し、社会に役立てること」ができるようになります。

< 到達目標 >

日本語の言語知識を拡充し、聴解能力を伸ばし、最終的には各自のレベルに合った日本語能力試験に合格できます。

< 授業のキーワード >

日本語能力試験 N3/ N2

< 授業の進め方 >

先生が行なう講義を聴き、先生の指示の下で練習を行います。日本語能力試験がある7月までは、試験合格に向けて様々な練習問題を解き、日本語力を磨きます。能力試験後は日本の文化、風習に触れることができる活動を通して、日本語の応用力を磨きます。

< 履修するにあたって >

交換留学生のためのクラスです。

リーズ大学交換留学生は必ず、受講しなければなりません。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業前の語彙の読み方や意味の確認に1時間、授業後には学習事項と語彙の整理に最低でも1時間は必要です。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の参加度 30%

提出課題 20% (エッセイ、レポート等)

授業中の課題 50% (テキスト、配付プリントに記載されている練習問題等の課題)

* 定期試験は行いません。

* それぞれに対する評価の基準は「到達目標」に従います。

< テキスト >

特にありません。

プリントを配付します。

< 授業計画 >

第1回 文字・語彙

漢字読み：漢字で書かれたことばの読み方を答える練習。

第2回 文字・語彙

表記：ひらがなで書かれたことばを、漢字でどう書くか答える練習。

第3回 文字・語彙

文脈規定：空欄に入れるのに意味的に最もふさわしいことばを答える練習。

第4回 文字・語彙

言い換え類義：問題となっていることばや表現と意味の近いことばや表現を答える練習。

第5回 文字・語彙

用法：出題語が文の中でどのように使われているのが正しいか答える練習。

第6回 文法

文法形式の判断：文の内容に合った文法形式かどうか判断して答える練習。

第7回 文法

文の組み立て：正しく意味が通る文を組み立て答える練習。

第8回 文法

文章の文法：文章の流れにあったことばや表現を答える練習。

第9回 模試と対策

実際の日本語能力試験と同じ問題形式で作られた模擬試験を実際の時間内で行い、解答解説する。

第10回 模試と対策

実際の日本語能力試験と同じ問題形式で作られた模擬試験を実際の時間内で行い、解答解説する。

第11回 模試と対策

実際の日本語能力試験と同じ問題形式で作られた模擬試験を実際の時間内で行い、解答解説する。

第12回 応用練習

日本の昔話

第13回 応用練習

4コマ漫画

第14回 応用練習

新聞記事読解

第15回 応用練習

新聞記事読解

2022年度 後期

1.0単位

日本語 I (小冊子読解)

金澤 協子

< 授業の方法 >

対面授業：講義・演習

< 授業の目的 >

専門に関するブックレットを読んでいく過程で、多くの専門用語や表現を身に付けることにより、各自の今後の専門教育につなげていくことを目的とします。

この授業を履修することで、神戸学院大学の全学ディプロマ・ポリシーに掲げられている以下のことが出来るようになります。

幅広い知識を活用して、さまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くこと

自分の意見を口頭や文章によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションを取ること

獲得した知識や技術を活用して、国内外において、価値観や意見の異なる多様な人と議論し、学びを深め、協同し、社会に役立てること

また、履修生が少ない場合には、各自が不得意な分野を解消させることを助けるため、それぞれの学生に対して不得意分野を個別に指導することもあります。

なお、この科目の担当者は、学部・大学院ともに、日本語教育を専門として修学・研究しており、卒業・修了後も外国人日本語学習者への教育を行なってきました。特に、交換留学生への教育には、30年の教授経験を有しています。

そして、日本語教育関係の研究会の役員として、会を運営する実務にも対応しています。

また、日本語教師養成講座の開講・運営にも携わっており、実務経験のある教員として、日本語学習に不具合が生じた場合、多角的で具体的なアドバイスを行なうことが出来ます。

<到達目標>

この授業を受けると、次のようなことが、出来るようになります。

個別の問題点・弱点の克服

言語的に支障がない状態での専門分野に関する授業受講

<授業のキーワード>

専門用語・専門教育への橋渡し

<授業の進め方>

まず、第一回目の授業で、日本語能力をレベルチェックします。

また、授業で実際に、各自の専門分野の本「ブックレット」などを読み進めます。

そして、個別に徹底的に文章を要約する練習を行ないます。

その際に出てくる未習語彙を抜き出し、確認作業等を行ないます。

<履修するにあたって>

授業には、必ず、辞書・筆記用具(黒・赤・青などのペン)・ノートを準備して挑んで下さい。

<授業時間外に必要な学修>

読めない漢字のチェックなど、1時間程度の自宅での予習が必要であるはずです。

<提出課題など>

読めなかった漢字・語彙等のリスト

- ・リストに書き出して提出し、教員の添削を受ける。
- ・添削後、即座に、フィードバックを行なう。

各段落ごとのまとめ

- ・100字程度のまとめ文を作成し、提出をする。
- ・提出されたまとめ文は、即座に添削し、返却・フィードバックを行なう。

<成績評価方法・基準>

成績は、総合的に、判断します。

授業参加度、態度意欲：30%

各段落ごとのまとめ提出：50%

漢字の読み方を中心とした確認作業：20%

それぞれに対する評価基準は、到達目標に従います。

<テキスト>

岩波・角川ブックレットなど 各自、興味のあるブックレットを選ぶ予定です。

最初の授業で、レベルチェックをした後に、指示します。

<参考図書>

レベルチェックをした後に、クラス内で、紹介・指示します。

受講者の要望に応じた参考図書を紹介します。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

- ・履修生 自己紹介
- ・日本語レベルチェック
- ・ガイダンス

第2回 読解・まとめ計画の作成

各自が選んだブックレットを分割し、ページを割り振って、計画をたてる

これからの授業の進め方の説明

第3回 段落の読解とまとめ文の作成

毎回、計画に沿って、段落ごとの語彙の読み方・意味の確認と、明確なまとめ文の作成を行なう。提出された文を添削指導する

第4回 段落の読解とまとめ文の作成

毎回、計画に沿って、段落ごとの語彙の読み方・意味の確認と、明確なまとめ文の作成を行なう。提出された文を添削指導する

第5回 段落の読解とまとめ文の作成

毎回、計画に沿って、段落ごとの語彙の読み方・意味の確認と、明確なまとめ文の作成を行なう。提出された文を添削指導する

第6回 段落の読解とまとめ文の作成

毎回、計画に沿って、段落ごとの語彙の読み方・意味の確認と、明確なまとめ文の作成を行なう。提出された文を添削指導する

第7回 段落の読解とまとめ文の作成

毎回、計画に沿って、段落ごとの語彙の読み方・意味の確認と、明確なまとめ文の作成を行なう。提出された文を添削指導する

第8回 段落の読解とまとめ文の作成

毎回、計画に沿って、段落ごとの語彙の読み方・意味の確認と、明確なまとめ文の作成を行なう。提出された文を添削指導する

第9回 段落の読解とまとめ文の作成

毎回、計画に沿って、段落ごとの語彙の読み方・意味の確認と、明確なまとめ文の作成を行なう。提出された文を添削指導する

第10回 段落の読解とまとめ文の作成

毎回、計画に沿って、段落ごとの語彙の読み方・意味の確認と、明確なまとめ文の作成を行なう。提出された文を添削指導する

第11回 段落の読解とまとめ文の作成

毎回、計画に沿って、段落ごとの語彙の読み方・意味の確認と、明確なまとめ文の作成を行なう。提出された文を添削指導する

第12回 段落の読解とまとめ文の作成

毎回、計画に沿って、段落ごとの語彙の読み方・意味の確認と、明確なまとめ文の作成を行なう。提出された文を添削指導する

第13回 段落の読解とまとめ文の作成

毎回、計画に沿って、段落ごとの語彙の読み方・意味の確認と、明確なまとめ文の作成を行なう。提出された文を添削指導する

第14回 冊子全体のまとめと発表準備

これまで読み進めてきた冊子の内容をまとめ、次週の発表の準備をする。発表の際の言葉などについても練習する。

第15回 総まとめ

なこれまでに読めなかった漢字・語彙などのまとめを行なう。あるいは、各自が読んだブックレットについての発表を行なう。

2022年度 後期

1.0単位

日本語J (文法や言語知識の運用)

鈴木 庸子

< 授業の方法 >

「講義」「演習」

< 授業の目的 >

この科目は、全学のDPに示す「共通教育等を通じて、広

い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養している」ことを目指す。

日本語を理解・表現するうえでの基盤となる文法や日本語そのものに対する理解を深める共に、学んだ知識を適切に運用できるようになることを目的とする。

< 到達目標 >

1. 「助詞」や「自動詞・他動詞」、「使役」、「受身」などヴォイスにかかわる表現を中心に、呼応や文末表現の調整など文、文章単位で適切に運用することができる。(知識・技能)
2. 学んだ言語知識を使って、文章を読み・書くことができる。(知識・技能)
3. N1レベルの言語知識を含む文章を読むことができる。(知識・技能)

< 授業の進め方 >

言語知識の確認とテキストの説明の後、練習問題を通じて、理解を深める。

学んだ言語知識を使って、短文作成の課題を行い、習得状況を確認する。

項目ごとに誤用修正を中心とした言語運用を測るためのテストを行う。

N1レベルの言語知識を含む文章を読み、練習問題を解いていく。

< 授業時間外に必要な学修 >

教師が配布するハンドアウトなどの資料を読み込んでおくこと。(予習:30分)

授業で行った問題を再度解き、問題点を確認すること。(復習:30分)

< 提出課題など >

授業内容をテーマにした文章作成の課題が4回課される。提出された課題は、翌週返却され、教員の指摘を受けた箇所の問題点等をクラスで話し合う。

クラスで話し合った後、同じテーマで文章を作成し、再提出する。

「自動詞・他動詞、使役、受身」復習テスト

間違いが多い箇所を中心に確認し、まとめの練習(総復習)を行う。

< 成績評価方法・基準 >

提出課題に対する評価(30%)、課題の修正に対する評価(10%)、まとめの復習テスト(50%)授業中の態度、意欲、発言(10%)を成績評価とする。

それぞれに対する評価の基準は「到達目標」に従う。

< テキスト >

『日本語文法演習上級 自動詞・他動詞、使役、受身』(2001)小川誉子他

スリーエーネットワーク 1,300円

この授業のテキストは、第1回の授業を受ける前に購入しないこと。第1回の授業でテキストについて詳しく説明するので、その説明を受け内容を理解してから、改めて購入するようにしてほしい。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス、日本語の助詞
後期の授業? 法について説明する
助詞の使い方 誤用訂正などから、日本語の助詞の使い方
の復習と確認をする
第2回 言葉の形の使い分け、自動詞、他動詞、受身
誤用から、正しい活用や時間表現を学ぶ
自動詞・他動詞、受身の基本的な使い方を確認する
第3回 上級レベルで必要な自動詞・他動詞の知識と使
い方 自動詞・他動詞の意味・機能
問いに答えながら、自動詞・他動詞の基本的な形と意味
・機能を確認する
N1レベルの言語知識を含む文章を読み、練習問題を解
く
第4回 上級レベルで必要な自動詞・他動詞の知識と使
い方 自動詞・他動詞の意味・機能
問いに答えながら、自動詞・他動詞の基本的な使い方を
学ぶ
N1レベルの言語知識を含む文章を読み、練習問題を解
く
第5回 上級レベルで必要な自動詞・他動詞の知識と使
い方 自動詞・他動詞の発展的用法
問いに答えながら、自動詞・他動詞の発展的用法を学ぶ
N1レベルの言語知識を含む文章を読み、練習問題を解
く
第6回 上級レベルで必要な自動詞・他動詞の知識と使
い方 自動詞・他動詞のまとめの練習
自動詞・他動詞の総合練習
自動詞・他動詞を含む文章の正誤判断練習、文章読解練
習をする
自動詞・他動詞を含む文章の作成課題 提出
N1レベルの言語知識を含む文章を読み、練習問題を解
く
第7回 上級レベルで必要な「(さ)せる(使役)」の
知識と使い方 「(さ)せる」の意味・機能
問いに答えながら、「(さ)せる(使役)」の形と意味
・機能を学ぶ
N1レベルの言語知識を含む文章を読み、練習問題を解
く
第8回 上級レベルで必要な「(さ)せる(使役)」の
知識と使い方 「(さ)せる(使役)」の使い方
問いに答えながら、「(さ)せる(使役)」の基本的な
使い方を学ぶ
N1レベルの言語知識を含む文章を読み、練習問題を解
く
第9回 上級レベルで必要な「(さ)せる(使役)」の
知識と使い方 「(さ)せる(使役)」の発展的用法
問いに答えながら、「(さ)せる(使役)」の発展的用

法を学ぶ

N1レベルの言語知識を含む文章を読み、練習問題を解
く
第10回 上級レベルで必要な「(さ)せる(使役)」の
知識と使い方 「(さ)せる(使役)」のまとめの練習
「(さ)せる(使役)」の総合練習
「(さ)せる(使役)」を含む文章の正誤判断練習、文
章読解練習をする
「(さ)せる(使役)」を含む文章の作成課題 提出
N1レベルの言語知識を含む文章を読み、練習問題を解
く
第11回 上級レベルで必要な「(ら)れる(受身)」の
知識と基本的な使い方 「(ら)れる(受身)」の意味
・機能
問いに答えながら、「(ら)れる(受身)」の形と意味
・機能を学ぶ
N1レベルの言語知識を含む文章を読み、練習問題を解
く
第12回 上級レベルで必要な「(ら)れる(受身)」の
知識と使い方 「(ら)れる(受身)」の基本的な使
い方
問いに答えながら、「(ら)れる(受身)」の基本的な
使い方を学ぶ
「(ら)れる(受身)」の運用を測る誤用修正の課題
提出
N1レベルの言語知識を含む文章を読み、練習問題を解
く
第13回 上級レベルで必要な「(ら)れる(受身)」の
知識と使い方 「(ら)れる(受身)」の発展的用法
問いに答えながら、「(ら)れる(受身)」の発展的
用法を学ぶ
N1レベルの言語知識を含む文章を読み、練習問題を解
く
第14回 「自動詞・他動詞、使役、受身」のまとめの復
習テスト
「自動詞・他動詞、使役、受身」の復習テストを行う
第15回 「自動詞・他動詞、使役、受身」のまとめの練
習
「自動詞・他動詞、使役、受身」の復習テストの間違
いの多い箇所を確認し、まとめの練習を行う

2022年度 前期
1.0単位
日本語J (リーズ大学交換留学)
金澤 協子

< 授業の方法 >
来日後は、対面授業：講義・演習
来日前は、リアルタイムon-line遠隔授業：講義・演習

< 授業の目的 >

この科目は、母国での日本語初級文法を学習したことを受け、引き続き、日本語中級文法の学習を行ない、それを身に付けるのが目的です。

難度が高くなるので、初級での勉強方法とは、少し、異なった方法で進めます。

また、日本留学からの帰国後、無理なく、日本語学習が続けられるように準備することも、目的としています。

もちろん、神戸学院大学の交換留学生として、必要な知識や情報をも身に付けることも目的の一つです。

そして、日本語能力試験N3/N2レベルを受験する準備にも役立ちます。

この授業を履修することで、神戸学院大学の全学ディプロマ・ポリシーに掲げられている以下のことが出来るようになります。

幅広い知識を活用して、さまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くこと

自分の意見を口頭や文章によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションを取ること

獲得した知識や技術を活用して、国内外において、価値観や意見の異なる多様な人と議論し、学びを深め、協同し、社会に役立てること

この科目の担当者は、学部・大学院ともに、日本語教育を専門として修学・研究しており、卒業・修了後も外国人日本語学習者への教育を行なってきました。特に、交換留学生への教育には、30年の教授経験を有しています。そして、日本語教育関係の研究会の役員として、会を運営する実務にも対応しています。

また、日本語教師養成講座の開講・運営にも携わっており、実務経験のある教員として、日本語学習に不具合が生じた場合、多角的で具体的なアドバイスを行なうことが出来ます。

< 到達目標 >

この授業を受けると、次のことが出来るようになります。

態度・習慣として、日本語中級文法を勉強するために、学習スタイルを身に付けること。

また、留学が終了し、帰国後も、引き続いて、本国での日本語学習が継続出来ること。

知識・技能として、日本語を表現する場合、複数のバリエーションが扱えること。

知識・技能として、相手や対象に応じて、適切に、日本語が使い分けられること。

知識・技能として、日本語の漢字語彙を広く身に付け

られ、使うことが出来ること。

< 授業のキーワード >

初級日本語文法整理

中級日本語

日本語能力試験N3/N2

< 授業の進め方 >

まず、第一回目の授業で、日本語能力のレベルチェックを行ないます。

初級日本語文法の整理は、教科書を利用します。

そして、初級日本語文法で、習得しておくべき文法も整理します。

それから、中級日本語文法で扱う教科書を使用して、授業を進めます。

また、日本語能力試験対策に関しては、練習問題などを利用します。

日々の授業では…。

語彙の確認と適切な運用の提示

文法項目の確認

長文読解を実施後、内容把握

事後整理としての確認作業…を行ないます。

また、毎回、小テストも実施します。

授業内で、質疑応答の時間を取り、対応します。

また、より深く対応するに当たり、授業の中で、改めて、対応を指示します。

< 履修するにあたって >

このクラスは、英国：リーズ大学からの交換留学生のためのクラスです。

授業に挑む前に、必ず、学習課の新出語彙を確認して来て下さい。

また、文法項目なども、事前に把握しておくこと、より余裕を持って、授業に挑めます。

授業後は、語彙の把握に引き続き、関連語彙の整理も必要となるでしょう。

授業には、必ず、辞書・筆記用具(黒・赤・青など)・ノートを持参して下さい。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業で学習する課の新出語彙は、事前に、読み方や意味などを確認しておいて下さい。

新出語彙の確認には、課にもよりますが、1時間程度は、必要になると思います。

また、学習した文型を確認したり、語彙の整理などをしながら、新しい知識を確実に身に付けて下さい。
文型・表現を確認するチェックシートを利用して、定着を確認して下さい。
この作業にも、確実に、1時間程度は必要になると思います。

< 提出課題など >

初回授業で、レベルを判断してから、授業中に、指示をします。
提出を受けた課題については、速やかに確認し、返却します。

クラス授業以上に、質疑応答などの時間を充分に取り、丁寧に対応します。
課題の提出の期限や方法に関しては、また、改めて、授業の中で知らせます。

< 成績評価方法・基準 >

成績は、以下のポイントから、総合的に判断します。
中間・修了テスト40%
課題遂行30%
復習小テスト30%
それぞれに対する評価基準は、到達目標に従います。

- ・ 毎回、学習した語彙・文型を確認する復習小テストを実施します。
- ・ 定期試験期間ではなく、授業内で、中間・修了テストを実施します。
- ・ 授業期間内に、日本語能力試験等の出題形式を提示し、日本での受験形式にも慣れるようにします。

また、この授業は、対面で行ないます。
非登学の学生に対しては、個別に確認後、定期試験に代わる方法を実施する場合があります。

< テキスト >

使用テキストは、授業中にも、アナウンスします。

小柳昇他(2002)『ニューアプローチ中級日本語(基礎編)改訂版』
2700円 + 税金
ISBN-9784931615150

< 参考図書 >

レベルチェックをした後に、クラスで紹介・指示します。
受講者の要望に応じた参考図書を紹介します。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション
レベルチェックを行ないます。

第2回 練習問題

第1課 色のイメージ

比較に関する表現の整理を行ないます。

各国・各文化による色のイメージの違いについて、ディスカッションします。

第3回 練習問題

第3課 不便な駐車場

程度や変化に関する表現を整理します。

便利さと対価について、話し合います。

第4回 練習問題

第5課 タイムカプセル

伝聞に関する表現を整理します。

未来への提言について考えます。

第5回 練習問題

会話文型・表現

書き言葉だけではなく、話し言葉についても、知識を深めます。

第6回 練習問題

第7課 ギネスブックに挑戦

様子や推測に関する表現を整理します。

実際に、ギネスブックに挑戦してみます。

第7回 練習問題

第9課 やる気

原因・理由に関する表現を整理します。

やる気を起こすために、何が必要かについてディスカッションします。

第8回 練習問題

第11課 いろいろな選択

中間テスト

様態の表現を整理します。

また、様子・状態を表現する方法を深めます。

前半部分の文型・表現整理のために、中間テストを行ないます。

漢字語彙の拡充のためにも、中間テストを利用して、学習の機会として欲しいです。

第9回 練習問題

第13課 子供の時の夢

程度・変化に関する表現について、より知識を深めます。
過去回想に関する表現も整理します。

第10回 練習問題

第15課 絵はがき

～富士登山～

伝聞に関する表現について、より、知識を深めます。
お土産に関する内容に相応しいハガキの書き方について、話し合います。

第11回 練習問題

第17課 トリックアート

様子や推量に関する表現について、知識を深めます。
トリックアートの実際についても、体験します。

第12回 練習問題

第19課 素朴な疑問

原因・理由に関する表現について、知識を深めます。
考え方の違いについて、話し合います。

第13回 練習問題

長文読解

学習した文型・表現を使って、長文読解を行ない、知識の裏打ちを行ないます。

実力を確認する良い機会として欲しいです。

第14回 練習問題

実践練習

学習した文型・表現が、身に付いているか、知識の裏打ちがなされているか、実際の問題を使って、実力を確認する機会です。

第15回 まとめ

後半部分を中心に、文型・表現整理のために、修了テストを行ないます。

漢字語彙の拡充のためにも、テストを利用して、学習の機会として欲しいです。

2022年度 後期

1.0単位

日本語K（評論文読解）

鈴木 庸子

< 授業の方法 >

「講義」「演習」

< 授業の目的 >

この科目は、全学のDPに示す「幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる」ようになることを目指す。

生教材を集めたテキストの読解を通じて、語彙、文法、背景知識を増やし、専門科目の授業を受ける際に支障のない程度まで日本語の理解力を向上させることを目的とする。

< 到達目標 >

1. 評論文に特徴的に使われる語彙や文法に関する知識を増やすことにより、評論文をより容易に読解することができる。(知識)

2. 個別の評論文の書かれた時代背景・社会背景や筆者の

立場などを理解することにより、評論文をより正確に読解することができる。(知識)

3. 日本語で書かれた評論文に特有の構成を知ることにより、日本人の発想や日本語の論理をよりの確に把握することができる。(知識)

4. 個別の評論文の内容について話し合い、それに対する自分の見解をまとめて発表することができる。(技能)

< 授業の進め方 >

評論文を読み、個別の評論文の内容について話し合う。評論文のテーマによって、内容の要約をしたり、自分の意見をまとめたりして、提出する。

< 履修するにあたって >

日常生活でも様々な文章を読む習慣をつけること。

< 授業時間外に必要な学修 >

評論文に関連する語彙の意味を調べて、背景となる知識を得ておく。(予習：30分)

前回の授業内に書いて提出し、返却された要約文、意見文などの教師や他の学生からのコメントを確認し、場合によっては再修正する。(復習：30分)

< 提出課題など >

授業内容をテーマにした文章作成の課題が6回課される。課題は、翌週返却され、問題点等を確認し、テーマについてクラスで話し合った後、同じテーマで文章を作成し、再提出する。

読解まとめのテスト

読解のテストの間違が多い箇所、ポイントを確認し、読解の総復習を行う。

< 成績評価方法・基準 >

提出課題に対する評価(30%)、課題の修正に対する評価(10%)、復習テスト(50%)授業中の態度、意欲、発言(10%)を成績評価とする。

それぞれに対する評価の基準は「到達目標」に従う。

< テキスト >

『中上級者のための日本語読解ワークブック』(2011)

目黒真美 アルク 2,400円

『上級者のための日本語読解ワークブック』(2010) 目

黒真美 アルク 2,400円

この授業のテキストは、第1回の授業を受ける前に購入しないこと。第1回の授業でテキストについて詳しく説明するので、その説明を受け内容を理解してから、改めて購入するようにしてほしい。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

日本語の読解 現代の日本人の行動

後期の授業? 法について説明する。

日本人の行動様式「ウチとソトとヨソ」『敬語で説く日本の平等・不平等』を読み、敬語と現代日本人の行動様式について考える

現代社会で良好な人間関係を築くには、何が重要かを考える

第2回 日本語の読解 異文化理解

「文化の多様性」、『生きる意味』を読み、多様な文化と「生きる意味」について考える

グローバル化と異文化理解の関係について話し合う

「文化の多様性」について考えたことを200字程度にまとめ、提出する

第3回 日本語の読解 環境意識

「森林を守った縄文人」、『都市と日本人』を読み、日本で本格的な農耕が行われなかった理由と縄文時代の環境意識がどのようなものだったかを考える

第4回 日本語の読解 リサイクル社会

「リサイクル社会」、『リサイクル社会への道』を読み、リサイクル社会を築くにはどのような課題があるのかを考える

リサイクル社会を築くために、一人一人ができることはどのようなことかを200字でまとめ、提出する

第5回 日本語の読解 生命と倫理

「手塚治虫の『火の鳥』」、『街場の現代思想』を読み、手塚治虫の考えた逆説的な「生きる意味」とは何かを考える

この文章を読んで感じたこと、考えたことを200字程度にまとめ、提出する

第6回 日本語の読解 日本人の行動様式

「赤信号、みんなで渡れば怖くない」、『「みんな」のバカ！無責任になる構造』を読み、日本人の行動様式と「みんな」の二つの意味について考える

第7回 日本語の読解 異文化理解

「異文化の狭間で生きる」、『異文化理解』を読み、「文化」の捉え方、「自文化」と「異文化」の関係について考える

第8回 日本語の読解 文化と行動パターン

「日本人の行動パターン」朝日新聞を読み、文化と人の行動パターンの関係について考える

行動パターンについて、200字程度にまとめ、提出する

第9回 日本語の読解 環境と人間

「環境問題の発端」、『いちばん大事なこと』を読み、環境問題の歴史について考える

都市化と森林伐採について、自国と他の国を比較し話し合う

第10回 日本語の読解 自然のシステム

「日本最後のトキ」、『いちばん大事なこと』を読み、自然というシステムについて考える

「生物多様性の意義」について、100字程度でまとめ、提出する

第11回 日本語の読解 ITと情報社会

「×式の弊害」、『父の失恋娘の結婚 ベソっかきの幸福そうな顔』を読んで、この文章で筆者が言いたいことを考える。

第12回 日本語の読解 教育と学び

「固定観念」、『ジョークとトリック』を読み、人の物事のとらえ方や認識について考える

固定観念をテーマに自分の体験を話し合う

第13回 日本語の読解 現代の社会

「貧困の定義」、『現代社会の理論』を読み、所得だけでは測れない貧困の概念と現代社会の幸福について話し合う

「現代社会の幸福」について、200字程度にまとめ、提出する

第14回 まとめ復習テスト

読解のまとめ復習テストを行う

第15回 読解のまとめ練習

まとめ復習テストの間違が多い箇所を確認し、読解のまとめ練習を行う

「現代社会と幸福」の修正文を作成し、提出する

2022年度 前期

1.0単位

日本語K（リーズ大学交換留学）

金澤 協子

<授業の方法>

来日後は、対面授業：講義・演習

来日前は、リアルタイムon-line遠隔授業：講義・演習

<授業の目的>

この科目は、母国での日本語初級文法を学習したことを受け、引き続き、日本語中級文法の学習を行ない、それを身に付けるのが目的です。

難度が高くなるので、初級での勉強方法とは、少し、異なった方法で進めます。

また、日本留学からの帰国後、無理なく、日本語学習が続けられるように準備することも、目的としています。もちろん、神戸学院大学の交換留学生として、必要な知識や情報をも身に付けることも目的の一つです。

そして、日本語能力試験N3/N2レベルを受験する準備にも役立ちます。

この授業を履修することで、神戸学院大学の全学ディプロマ・ポリシーに掲げられている以下のことが出来るようになります。

幅広い知識を活用して、さまざまな問題を発見し、そ

れを解決する方策を導くこと

自分の意見を口頭や文章によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションを取ること

獲得した知識や技術を活用して、国内外において、価値観や意見の異なる多様な人と議論し、学びを深め、協同し、社会に役立てること

この科目の担当者は、学部・大学院ともに、日本語教育を専門として修学・研究しており、卒業・修了後も外国人日本語学習者への教育を行なってきました。特に、交換留学生への教育には、30年の教授経験を有しています。そして、日本語教育関係の研究会の役員として、会を運営する実務にも対応しています。

また、日本語教師養成講座の開講・運営にも携わっており、実務経験のある教員として、日本語学習に不具合が生じた場合、多角的で具体的なアドバイスを行なうことが出来ます。

<到達目標>

この授業を受けると、次のことが出来るようになります。

態度・習慣として、日本語中級文法を勉強するために、学習スタイルを身に付けること。

また、留学が終了し、帰国後も、引き続いて、本国での日本語学習が継続出来ること。

知識・技能として、日本語を表現する場合、複数のパリエーションが扱えること。

知識・技能として、相手や対象に応じて、適切に、日本語が使い分けられること。

知識・技能として、日本語の漢字語彙を広く身に付けられ、使うことが出来ること。

<授業のキーワード>

初級日本語文法整理

中級日本語

日本語能力試験N3/N2

<授業の進め方>

まず、第一回目の授業で、日本語能力のレベルチェックを行ないます。

初級日本語文法の整理は、教科書を利用します。

そして、初級日本語文法で、習得しておくべき文法も整理します。

それから、中級日本語文法で扱う教科書を使用して、授業を進めます。

また、日本語能力試験対策に関しては、練習問題などを

利用します。

日々の授業では…。

語彙の確認と適切な運用の提示

文法項目の確認

長文読解を実施後、内容把握

事後整理としての確認作業…を行ないます。

また、毎回、小テストも実施します。

授業内で、質疑応答の時間を取り、対応します。

また、より深く対応するに当たり、授業の中で、改めて、対応を指示します。

<履修するにあたって>

このクラスは、英国：リーズ大学からの交換留学生のためのクラスです。

授業に挑む前に、必ず、学習課の新出語彙を確認して来て下さい。

また、文法項目なども、事前に把握しておくこと、より余裕を持って、授業に挑めます。

授業後は、語彙の把握に引き続き、関連語彙の整理も必要となるでしょう。

授業には、必ず、辞書・筆記用具(黒・赤・青など)・ノートを持参して下さい。

<授業時間外に必要な学修>

授業で学習する課の新出語彙は、事前に、読み方や意味などを確認しておいて下さい。

新出語彙の確認には、課にもよりますが、1時間程度は、必要になると思います。

また、学習した文型を確認したり、語彙の整理などをしながら、新しい知識を確実に身に付けて下さい。

文型・表現を確認するチェックシートを利用して、定着を確認して下さい。

この作業にも、確実に、1時間程度は必要になると思います。

<提出課題など>

初回授業で、レベルを判断してから、授業中に、指示をします。

提出を受けた課題については、速やかに確認し、返却します。

クラス授業以上に、質疑応答などの時間を充分に取り、

丁寧に対応します。
課題の提出の期限や方法に関しては、また、改めて、授業の中で知らせます。

<成績評価方法・基準>

成績は、以下のポイントから、総合的に判断します。
中間・修了テスト40%
課題遂行30%
復習小テスト30%
それぞれに対する評価基準は、到達目標に従います。

- ・毎回、学習した語彙・文型を確認する復習小テストを実施します。
- ・定期試験期間ではなく、授業内で、中間・修了テストを実施します。
- ・授業期間内に、日本語能力試験等の出題形式を提示し、日本での受験形式にも慣れるようにします。

また、この授業は、対面で行ないます。
非登学の学生に対しては、個別に確認後、定期試験に代わる方法を実施する場合があります。

<テキスト>

使用テキストは、授業中にも、アナウンスします。

小柳昇他(2002)『ニューアプローチ中級日本語(基礎編)改訂版』
2700円 + 税金
ISBN-9784931615150

<参考図書>

レベルチェックをした後に、クラスで紹介・指示します。
受講者の要望に応じた参考図書を紹介します。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション
レベルチェックを行ないます。

第2回 練習問題
第1課 色のイメージ
比較に関する表現の整理を行ないます。
各国・各文化による色のイメージの違いについて、ディスカッションします。

第3回 練習問題
第3課 不便な駐車場
程度や変化に関する表現を整理します。
便利さと対価について、話し合います。

第4回 練習問題
第5課 タイムカプセル
伝聞に関する表現を整理します。
未来への提言について考えます。
第5回 練習問題
会話文型・表現
書き言葉だけではなく、話し言葉についても、知識を深めます。
第6回 練習問題
第7課 ギネスブックに挑戦
様子や推測に関する表現を整理します。
実際に、ギネスブックに挑戦してみます。
第7回 練習問題
第9課 やる気
原因・理由に関する表現を整理します。
やる気を起こすために、何が必要かについてディスカッションします。
第8回 練習問題
第11課 いろいろな選択

中間テスト
様態の表現を整理します。
また、様子・状態を表現する方法を深めます。

前半部分の文型・表現整理のために、中間テストを行ないます。
漢字語彙の拡充のためにも、中間テストを利用して、学習の機会として欲しいです。

第9回 練習問題
第13課 子供の時の夢
程度・変化に関する表現について、より知識を深めます。
過去回想に関する表現も整理します。

第10回 練習問題
第15課 絵はがき
~富士登山~
伝聞に関する表現について、より、知識を深めます。
お土産に関する内容に相応しいハガキの書き方について、話し合います。

第11回 練習問題
第17課 トリックアート
様子や推量に関する表現について、知識を深めます。
トリックアートの実際についても、体験します。

第12回 練習問題
第19課 素朴な疑問
原因・理由に関する表現について、知識を深めます。
考え方の違いについて、話し合います。

第13回 練習問題
長文読解
学習した文型・表現を使って、長文読解を行ない、知識の裏打ちを行ないます。

実力を確認する良い機会として欲しいです。

第14回 練習問題

実践練習

学習した文型・表現が、身に付いているか、知識の裏打ちがなされているか、実際の問題を使って、実力を確認する機会です。

第15回 まとめ

後半部分を中心に、文型・表現整理のために、修了テストを行ないます。

漢字語彙の拡充のためにも、テストを利用して、学習の機会として欲しいです。

2022年度 後期

1.0単位

日本語L（長文作文）

鈴木 庸子

< 授業の方法 >

「講義」「演習」

< 授業の目的 >

この科目は、全学のDPに示す「専門分野に高い関心を持ち、専門領域の課題を考察し、解決するための知識や技能を身につけている」ことを目指す。

長文作成の準備として、引用の仕方や要約の技術などに対する基礎知識を深めた後、自らテーマを決めて、長文作成を行うことを目的とする。

< 到達目標 >

- 1.長文を作成するための基礎的な技能を身につけることにより、長文を作成することができる。（知識・技能）
- 2.長文を作成のために情報を収集する仕方を身につけると共に、得た情報を文章の中で適切に提示することができる。（知識・技能）
- 3.新聞やインターネットなどの媒体から長文を作成するために必要な情報を選んで収集することができる。（知識・技能）

< 授業の進め方 >

前半は、要約、引用など文章を書く練習をし、長文作成のために、アウトライン、序論、本論、結論の構成で書く練習をする。

後半は決められたテーマをもとに、各自が長文を作成する。

< 授業時間外に必要な学修 >

与えられたテーマに関連する新聞の記事・インターネット上の情報や書籍に当たり、長文を作成するために必要な情報や資料を得ておく。（予習：60分）

授業で指摘を受けた自分の文章を修正する。（復習：60分）修正した文章は、次回の授業で再度提出する。

< 提出課題など >

長文のアウトラインや長文の序論・本論・結論を提出することを課題とする。

一つの長文を作成する各段階で提出した課題は、教員が問題点を指摘し、コメントを付けて返却するので、問題点を共有した後、修正文を作成し、提出する。

各段階で提出した課題や課題修正、完成させて提出した長文の最終稿は、成績評価の基準に則して評価する。

< 成績評価方法・基準 >

最終提出の課題長文(50%)、各回での提出課題(30%)、課題修正(10%)、授業中の態度、意欲、発言(10%)で評価する。

それぞれに対する評価の基準は「到達目標」に従う。

< テキスト >

『留学生のための論理的な文章の書き方』(2003) 二通信子 スリーエーネットワーク 1,400円

『大学で学ぶための日本語ライティング』(2006) 藤尾喜代子他 旺文社 1,800円

この授業のテキストは、第1回の授業を受ける前に購入しないこと。第1回の授業でテキストについて詳しく説明するので、その説明を受け内容を理解してから、改めて購入するようにしてほしい。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

後期の授業? 法について説明する。

第2回 長文作成の準備 引用

引用の種類、引用に使われる表現・文型、出典の出し方を学ぶ

第3回 長文作成の準備 要約

要約の方法を学び、課題文を100字程度で要約する

第4回 長文作成の準備 事実文と意見文

事実文と意見文の違いを学び、課題文の事実と意見を分ける練習をする

第5回 長文作成の準備 図表の説明

提示した図表を説明する文型表現を学び、課題の図表を分析し、説明する文を書く

第6回 長文作成の準備 変化、比較の形容

変化、比較を説明する文型、表現を学び、課題資料(図表)の変化、比較を分析し、説明する文を書く

第7回 長文作成 テーマの決定と資料検索

長文のテーマを決定する

資料検索にはどのような方法があるかを学ぶ

第8回 長文作成 序論の作成

序論はどのような構成と展開になっているのかを学ぶ

序論を作成する

第9回 長文作成 本論の構成要素

本論の構成は、長文作成の準備で学んだ要素がどのように使われているかを学ぶ

本論を作成する

第10回 長文

作成 本論の作成

本論を作成する

第11回 論文作成 序論、本論の提出

本論を作成する
序論、本論を見直し、修正後提出する
第12回 長文作成 中間発表
作成した長文の中間発表発表を行い、修正点を確認する
第13回 長文作成
序論の修正
序論、本論の修正を行う
第14回 長文作成 本論の修正
序論本論の修正を基に、まとめ(結論部)を作成する
第15回 長文作成 長文作成の完成
帰結、まとめ、添付資料等を確認し、長文(2000字~4000字)を完成させる
作成した長文を提出する

2022年度 前期

1.0単位

日本語L (リーズ大学交換留学)

金澤 協子

< 授業の方法 >

来日後は、対面授業：講義・演習

来日前は、リアルタイムon-line遠隔授業：講義・演習

< 授業の目的 >

この科目は、母国での日本語初級文法を学習したことを受け、引き続き、日本語中級文法の学習を行ない、それを身に付けるのが目的です。

難度が高くなるので、初級での勉強方法とは、少し、異なった方法で進めます。

また、日本留学からの帰国後、無理なく、日本語学習が続けられるように準備することも、目的としています。もちろん、神戸学院大学の交換留学生として、必要な知識や情報をも身に付けることも目的の一つです。

そして、日本語能力試験N3/N2レベルを受験する準備にも役立ちます。

この授業を履修することで、神戸学院大学の全学ディプロマ・ポリシーに掲げられている以下のことが出来るようになります。

幅広い知識を活用して、さまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くこと

自分の意見を口頭や文章によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションを取ること

獲得した知識や技術を活用して、国内外において、価値観や意見の異なる多様な人と議論し、学びを深め、協同し、社会に役立てること

この科目の担当者は、学部・大学院ともに、日本語教育を専門として修学・研究しており、卒業・修了後も外国人日本語学習者への教育を行なってきました。特に、交換留学生への教育には、30年の教授経験を有しています。そして、日本語教育関係の研究会の役員として、会を運営する実務にも対応しています。

また、日本語教師養成講座の開講・運営にも携わっており、実務経験のある教員として、日本語学習に不具合が生じた場合、多角的で具体的なアドバイスを行なうことが出来ます。

< 到達目標 >

この授業を受けると、次のことが出来るようになります。

態度・習慣として、日本語中級文法を勉強するために、学習スタイルを身に付けること。

また、留学が終了し、帰国後も、引き続いて、本国での日本語学習が継続出来ること。

知識・技能として、日本語を表現する場合、複数のバリエーションが扱えること。

知識・技能として、相手や対象に応じて、適切に、日本語が使い分けられること。

知識・技能として、日本語の漢字語彙を広く身に付けられ、使うことが出来ること。

< 授業のキーワード >

初級日本語文法整理

中級日本語

日本語能力試験N3/N2

< 授業の進め方 >

まず、第一回目の授業で、日本語能力のレベルチェックを行ないます。

初級日本語文法の整理は、教科書を利用します。

そして、初級日本語文法で、習得しておくべき文法も整理します。

それから、中級日本語文法で扱う教科書を使用して、授業を進めます。

また、日本語能力試験対策に関しては、練習問題などを利用します。

日々の授業では...

語彙の確認と適切な運用の提示

文法項目の確認

長文読解を実施後、内容把握

事後整理としての確認作業...を行ないます。

また、毎回、小テストも実施します。

授業内で、質疑応答の時間を取り、対応します。
また、より深く対応するに当たり、授業の中で、改めて、対応を指示します。

<履修するにあたって>

このクラスは、英国：リーズ大学からの交換留学生のためのクラスです。

授業に挑む前に、必ず、学習課の新出語彙を確認して来て下さい。

また、文法項目なども、事前に把握しておく、より余裕を持って、授業に挑めます。

授業後は、語彙の把握に引き続き、関連語彙の整理も必要となるでしょう。

授業には、必ず、辞書・筆記用具(黒・赤・青など)・ノートを持参して下さい。

<授業時間外に必要な学修>

授業で学習する課の新出語彙は、事前に、読み方や意味などを確認しておいて下さい。

新出語彙の確認には、課にもよりますが、1時間程度は、必要になると思います。

また、学習した文型を確認したり、語彙の整理などをしながら、新しい知識を確実に身に付けて下さい。

文型・表現を確認するチェックシートを利用して、定着を確認して下さい。

この作業にも、確実に、1時間程度は必要になると思います。

<提出課題など>

初回授業で、レベルを判断してから、授業中に、指示をします。

提出を受けた課題については、速やかに確認し、返却します。

クラス授業以上に、質疑応答などの時間を充分に取り、丁寧に対応します。

課題の提出の期限や方法に関しては、また、改めて、授業の中で知らせます。

<成績評価方法・基準>

成績は、以下のポイントから、総合的に判断します。

中間・修了テスト40%

課題遂行30%

復習小テスト30%

それぞれに対する評価基準は、到達目標に従います。

・毎回、学習した語彙・文型を確認する復習小テストを実施します。

・定期試験期間ではなく、授業内で、中間・修了テストを実施します。

・授業期間内に、日本語能力試験等の出題形式を提示し、日本での受験形式にも慣れるようにします。

また、この授業は、対面で行ないます。

非登学の学生に対しては、個別に確認後、定期試験に代わる方法を実施する場合があります。

<テキスト>

使用テキストは、授業中にも、アナウンスします。

小柳昇他(2002)『ニューアプローチ中級日本語(基礎編)改訂版』

2700円+税金

ISBN-9784931615150

<参考図書>

レベルチェックをした後に、クラスで紹介・指示します。受講者の要望に応じた参考図書を紹介します。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

レベルチェックを行ないます。

第2回 練習問題

第1課 色のイメージ

比較に関する表現の整理を行ないます。

各国・各文化による色のイメージの違いについて、ディスカッションします。

第3回 練習問題

第3課 不便な駐車場

程度や変化に関する表現を整理します。

便利さと対価について、話し合います。

第4回 練習問題

第5課 タイムカプセル

伝聞に関する表現を整理します。

未来への提言について考えます。

第5回 練習問題

会話文型・表現

書き言葉だけではなく、話し言葉についても、知識を深めます。

第6回 練習問題

第7課 ギネスブックに挑戦

様子や推測に関する表現を整理します。

実際に、ギネスブックに挑戦してみます。

第7回 練習問題

第9課 やる気

原因・理由に関する表現を整理します。

やる気を起こすために、何が必要かについてディスカッションします。

第8回 練習問題

第11課 いろいろな選択

中間テスト

様態の表現を整理します。

また、様子・状態を表現する方法を深めます。

前半部分の文型・表現整理のために、中間テストを行ないます。

漢字語彙の拡充のためにも、中間テストを利用して、学習の機会として欲しいです。

第9回 練習問題

第13課 子供の時の夢

程度・変化に関する表現について、より知識を深めます。過去回想に関する表現も整理します。

第10回 練習問題

第15課 絵はがき

～富士登山～

伝聞に関する表現について、より、知識を深めます。

お土産に関する内容に相応しいハガキの書き方について、話し合います。

第11回 練習問題

第17課 トリックアート

様子や推量に関する表現について、知識を深めます。

トリックアートの実際についても、体験します。

第12回 練習問題

第19課 素朴な疑問

原因・理由に関する表現について、知識を深めます。

考え方の違いについて、話し合います。

第13回 練習問題

長文読解

学習した文型・表現を使って、長文読解を行ない、知識の裏打ちを行ないます。

実力を確認する良い機会として欲しいです。

第14回 練習問題

実践練習

学習した文型・表現が、身に付いているか、知識の裏打ちがなされているか、実際の問題を使って、実力を確認する機会です。

第15回 まとめ

後半部分を中心に、文型・表現整理のために、修了テストを行ないます。

漢字語彙の拡充のためにも、テストを利用して、学習の機会として欲しいです。

2022年度 前期

2.0単位

日本と世界の民族音楽

上畑 史

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この授業は、日本を含めた世界の諸民族の音楽と、音楽研究についての基礎的な知識を習得し、それにより社会的・文化的な多様性を尊重する態度や、自己と他者との相互理解を促す意識を養うことを目的としています。また、履修者の積極的な参加により、読解力、思考力、コミュニケーション力を習得することも目指しています。

この授業では、一定の社会・集団に根ざす音楽を広く民族音楽として捉えます。その意味では、民族音楽学とは、扱う音楽そのものよりも、それをどう考えるかという考え方に関わる学問といえます。たとえば西欧の国民的なクラシック音楽作品、日本の演歌、韓国のK-popなども民族音楽の範疇に入れて扱うことができます。こうした民族音楽の聴取は、個人的な体験でありながら、世界や社会や他者を理解する行為でもあります。なぜなら民族音楽は、世界・社会を取り巻く諸問題や人々のアイデンティティと結びついて成立・展開しているからです。

以上を踏まえて、本科目は3つの段階に沿って進めます。まず、民族音楽学の意義や民族音楽の在り方を学びます。そして、民族音楽を考察・分析する視点と、「フィールドワーク」と呼ばれる調査方法を習得します。さらに、そうした視点・方法が音楽調査・研究の実践に、どう活かされているかを学習します。最終的に、以上の3段階を通じて得られた知識を活かしながら、履修者は、自らが関心のある音楽についての「調査研究計画」をレポートとして作成します。

< 到達目標 >

・講義を通じて、音楽そのものに加え、世界や社会や他者への関心をもち、それらへの理解を深める教養・視点・思考を身につけることができる。

・講義でのコミュニケーションや対話を通じて、他者の考えを理解した上で、自分の考えを表現することができる。

・自分の関心に従ってフィールドワークの計画を適切に立てることができるようになる。

< 授業のキーワード >

民族音楽、民俗音楽、ポピュラー音楽、フィールドワーク、セルビア、旧ユーゴスラヴィア、バルカン、東欧

< 授業の進め方 >

教員による講義を基本としますが、中盤の授業は、履修

者（3?5名程度のグループ）によるテキスト読解・発表に基づいて進めます。

<履修するにあたって>

特になし 音楽の専門知識は必要ありません。

<授業時間外に必要な学修>

1週間に1時間程度

<提出課題など>

全授業後、履修者全員にレポートとして「音楽の調査研究計画」を作成・提出してもらいます。自分の関心のある音楽について、授業で学んだ研究の視点・フィールドワークの手法を用いた調査の計画を立ててください。（

新型ウイルス感染の懸念があるため、実際に調査活動をしてもらうわけではありません。）「音楽の調査研究計画」の詳しい作成方法や締切等については、授業のなかで説明・指示します。

<成績評価方法・基準>

・授業の理解度50%（毎回の授業後に履修者に書いてもらうコメントで理解度を測ります。）

・レポート 50%

<テキスト>

次のテキストを使用します。 購入不要。教員が準備します。

・岸政彦・石岡丈昇・丸山里美。『質的社会調査の方法――他者の合理性の理解社会学』。有斐閣、2016年。

<参考図書>

・櫻井哲男・水野信男編。『諸民族の音楽を学ぶ人のために』。世界思想社、2005年。

・根岸一美・三浦信一郎編。『音楽学を学ぶ人のために』。世界思想社、2003年。

いずれも購入は不要ですが、予め読んでおくことを推奨します。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

授業の趣旨・全体の流れについて（教員による講義）

第2回 民族音楽 / 民族音楽学とはなにか

民族音楽 / 民族音楽学の概念・射程について学ぶ（教員による講義）

第3回 民族音楽の調査・研究方法

民族音楽を調査・研究する方法について包括的に学ぶ（教員による講義）

第4回

フィールドワークについて

フィールドワークとは何か、その方法論を学ぶ（履修者によるテキスト読解・発表と、教員による講義）

第5回 フィールドワークについて

フィールドワークのための事前準備について学ぶ（履修者によるテキスト読解・発表と、教員による講義）

第6回 フィールドワークについて

フィールドワークの実践方法について学ぶ（履修者によるテキスト読解・発表と、教員による講義）

第7回 フィールドワークについて

フィールドワークで得られた調査結果のまとめ方を学ぶ（教員による講義）

第8回 参与観察について

フィールドワークにおける参与観察の意義について学ぶ（履修者によるテキスト読解・発表と、教員による講義）

第9回 参与観察について

参与観察を通じて、研究における「問い」をどのように設定するかを学ぶ（教員による講義）

第10回 インタビュー（生活史調査）について

フィールドワークにおけるインタビュー（生活史調査）の意義について学ぶ（履修者によるテキスト読解・発表と、教員による講義）

第11回 インタビュー（生活史調査）について

フィールドワークにおけるインタビュー（生活史調査）の実践方法について学ぶ（履修者によるテキスト読解・発表と、教員による講義）

第12回 「音楽の調査研究計画」について

11回までの授業で学んだ知識を、履修者が全授業後に提出する「音楽の調査研究計画」にどのように活かすのかを学ぶ（教員による講義）

第13回 民族音楽研究のケース・スタディ

第11回までの授業で学んだ調査・研究方法が、日本や世界の民族音楽調査・研究において、実際にどう採用されているのかを学ぶ（教員による講義）

第14回 民族音楽研究のケース・スタディ

第11回までの授業で学んだ調査・研究方法が、日本や世界の民族音楽調査・研究において、実際にどう採用されているのかを学ぶ（教員による講義）

第15回 まとめ

これまでの講義を総括する（教員による講義）

2022年度 前期

2.0単位

日本と東洋の美術

木村 朱晶、知念 理

<授業の方法>

スライドプロジェクターを用いた対面での講義

<授業の目的>

本科目では、日本、および東洋の古美術作品について、その造形を読み解くための基礎的なアプローチを学びます。作品の様式的な特徴、及び主題の成立や作家の動向を時代的な思潮の変化と関係づけ、その史的価値を見定める視点の獲得を目指します。それとともに、これら学修を通じて豊かな人間性や社会性を涵養してゆきます。

また、本科目担当者は、博物館・美術館施設で学芸員として豊富な実務を経験している教員であることから、文化財の保存と公開、継承と移動という観点から、古美術作品と現代に生きる我々との接点に実践的な気づきを与えます。

<到達目標>

1. 日本、および東洋の美術史をはじめ、文化史全般に関する基礎知識を習得する。(知識)
2. 美術作品の造形的な特徴の観察力、及び近代(明治時代)以前の日本人が共有していた伝統的な視覚イメージへの理解力を高める。(技能)
3. 自国の美術作品(造形的アイデンティティ)が有する普遍的な価値を、グローバルな視点から再発見できる感覚を養う。(態度・習慣)

<授業のキーワード>

絵巻 近世絵画 在外日本美術

<授業の進め方>

授業各回ごとに、日本・東洋の古美術作品からメインとなる作品・作家をとりあげ、スライド(作品画像)を用いた解説を中心とする講義を全15回行います。

<授業時間外に必要な学修>

授業についての復習。授業内で紹介する美術館や博物館、展覧会などに積極的に足を運ぶことを推奨します。強制ではありませんが、実際に作品を見ることによって、より理解が深まります。

<成績評価方法・基準>

対面授業の場合、毎回実施するミニレポート(30%・授業への参加態度・授業内容の理解度・問題意識の有無)、小テスト(授業内で2回・70%・授業内容の理解度)から成績評価します。小テストは前半(8回)および後半(7回)の授業内で各1回ずつ、合計2回実施します。オンライン授業の場合は、毎回のミニレポートと課題(2回)から総合的に判断し評価します。

<授業計画>

- 第1回(木村) 絵巻とは 鳥獣人物戯画
絵巻の基礎知識(形状・鑑賞方法など) 絵にみる文化について知る
- 第2回(木村) 信貴山縁起絵巻
朝護孫子寺ゆかりの僧・命蓮についての説話絵巻をみる
- 第3回(木村) 伴大納言絵巻
応天門炎上事件を元にした説話絵巻をみる
- 第4回(木村) 源氏物語絵巻
文学を元にした絵巻をみる:紫式部「源氏物語」
- 第5回(木村) 伊勢物語絵巻
文学を元にした絵巻をみる:「伊勢物語」
- 第6回(木村) 吉備大臣入唐絵巻
遣唐使・吉備真備の説話を元にした絵巻をみる
- 第7回(木村) 地獄草紙・餓鬼草紙
六道思想をテーマとする絵巻をみる
- 第8回(木村) 蒙古襲来絵詞

元寇についての史実を元にした絵巻をみる

第9回(知念) 禅宗と美術

雪舟ら禅僧画家の活躍と、中国・朝鮮から流入した唐物飾りの美をみる

第10回(知念) 神々の美術

一般に広く知られた天神と住吉神を中心に、その信仰をめぐる美術をみる

第11回(知念) 豊臣の美術

狩野派、長谷川派の大画面障壁画など、豊臣氏ゆかりの桃山美術をみる

第12回(知念) 近世やまと絵

近世やまと絵の二大流派である土佐派と住吉派の絵師、制作主題をみる

第13回(知念) 琳派-伝統と創造

光悦・宗達から光琳・乾山、抱一・其一へと展開した装飾美の系譜をみる

第14回(知念) 写生・奇想・清雅

応挙、若冲ら百花繚乱を呈した近世京都画壇における個性の開花をみる

第15回(知念) 在外日本・東洋の美術

ボストン美術館ほかアメリカに渡った日本・東洋美術の国宝級名品をみる

2022年度 前期

2.0単位

日本と東洋の美術

海原 靖子

<授業の方法>

対面授業(講義)

<授業の目的>

古美術作品を考察することは、今の私たち自身の文化を再認識し、また豊かなものにする力を持っています。この授業では現在「伝統」・「古典」とみえる主に東洋古美術品を軸にして、美術品とそれを生み出してきた時代と思想などを認識します。(DP1-)作品から垣間見えてくる文化そのものを探ってみましょう。(DP2-)

学修を通じて、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養していきます。

<到達目標>

東洋美術・工芸品の素材・技術を軸に美術とその時代の人びとの思想・文化との関係を捉えます。また、東洋美術作品を考察し、イメージとその意味を捉えます。

<授業のキーワード>

東洋美術・工芸史、文化史

<授業の進め方>

この授業では、画像による解説や観察・考察を中心とします。またその主な対象となるのは、近代以前の東洋古美術です。授業内容の理解度を確認するためにも、「授

業後レポート」や「確認プリント」の提出を求めます。
(DP3-) 履修人数によっては提出回数と提出日の調整を行います。また必要があると判断する場合は、次回以降、補習に時間を割くこともあります。

<履修するにあたって>

この授業では、東洋古美術を中心に授業を行います。出来るだけ授業で紹介する美術展示をみたり、授業で取り上げる作品の類例などを調べてみるようにして下さい。

<授業時間外に必要な学修>

該当する作品などを所蔵する美術館・博物館、あるいは展覧会を紹介します。実物により感得したことが授業の理解に繋がります(DP1-) ので、できるだけ自発的に見学するようにして下さい。また東洋古美術の素材や技術を表わす用語や作品名称などは復習(1時間ほど)しておきましょう。

<提出課題など>

「授業後レポート」や「確認プリント」(1、もしくは2回)を行い、その都度提出となります。レポートなどによって、疑問点や理解度をはかりながら授業を進めます。また「授業後レポート」とその内容(5段階評価)・「確認プリント」・「課題レポート」提出物などによって総合的に成績の判断とします。

<成績評価方法・基準>

「授業後レポート」・「確認プリント」・「課題レポート」など(都度授業後提出)の内容(5段階評価)によって総合的に判断します。

<授業計画>

第1回 ガイダンス はじめに

ガイダンス

第2回 素材・技法からみる文化1

まずは美術作品の素材、技術について考察し、その文化を確認していきましょう。あわせて、その形や装飾文様の特徴なども捉えていきます。

第3回 素材・技法からみる文化2

<講義テーマ(素材と技法)>:金属器(金・銀・銅)1

第4回 素材・技法からみる文化3

<講義テーマ(素材と技法)>:金属器(金・銀・銅)2

第5回 素材・技法からみる文化4

<講義テーマ(素材・技法・文化)>:陶磁器(中国陶磁史)1 漢時代までの陶磁器と文化

第6回 素材・技法からみる文化5

<講義テーマ(素材・技法・文化)>:陶磁器(中国陶磁史)2 唐時代の陶磁器と文化

第7回 素材・技法からみる文化6

<講義テーマ(素材・技法・文化)>:陶磁器(中国陶磁史)3 宋時代の陶磁器と文化

第8回 素材・技法からみる文化7

<講義テーマ(素材・技法・文化)>:木製・漆工芸

第9回 素材・技法からみる文化8

<講義テーマ(素材・技法・文化)>:紙・絹

第10回 素材・技法からみる文化9

<講義テーマ(素材・技法・文化)>:墨・顔料・染料

第11回 復習/描かれた時代1

<復習と応用>

・前半最後に進度によってはここまでの内容を問う「確認プリント」を行う場合があります。

東洋絵画作品を課題に、これまで学んだ素材・技術と時代背景に基づき、時代性や価値観、製作の意図など、人びとの意識を考察してみます。これまでみてきた学んできた美術工芸作品やその装飾・文様についても振り返ってみましょう。

第12回 描かれた時代2

<講義テーマ:時代を語るもの1(絵画のなかの「美術品」古代)>

第13回 描かれた時代3

<講義テーマ:時代を語るもの2(絵画のなかの「美術品」中世)>

第14回 描かれた時代4

<講義テーマ:時代をかたるもの3(絵画のなかの「美術品」近世)>

第15回 終わりに:<復習>現在の文化と古典・古美術

終わりに:現在の私たちの生活に遺る古典や文化を例に学習内容を確認してみます。

(復習として、13~15回の間「確認プリント」を行う場合があります。)

2022年度 前期

2.0単位

日本の歴史と文化

用田 政晴

<授業の方法>

本科目は、講義を中心に、原則として対面授業で進めます。講義での意見や質問については、授業の場で可能な限り対応します。

【注意】コロナ禍の状況、あるいは受講者数等によっては、授業の方法・内容ともに今後変更の可能性があります。その場合は、掲示・dotCampas・メール等でお知らせします。

<授業の目的>

本科目は、本学の共通教育センターがめざす、学生の「到達目標」に掲げられているように、受講生個々人が、文化・社会・自然に関して広く豊かな知識を備えている学修した知識・技能を活用して社会と交わり、新しい価値を創造する生涯にわたって自発的に学び続

けていく、および 高い倫理観・責任感を持って社会に貢献することができることをめざしています。

なお、「共通教育科目」とは、学部教育の基礎となる技能、専門を超えて将来社会人として必要とされる基礎的な思考力や基礎的な実践能力を育くむための科目群です。

本科目は、主題を『考古学入門』とする共通教育科目群の一つです。

この授業では、考古学の歴史や方法論、遺跡保存と歴史教育、各時代ごとの主要な課題を通じて日本の歴史と文化の一端を学ぼうとするものであり、広くアジアからの視点でも日本列島の歴史と文化を評価していく必要性も説く予定です。

なお、講義者は博物館に26年間勤務した実務経験のある教員であり、県史編纂事業や文化財保護行政などに関わった期間を加えると40年以上の考古学研究やその関連調査に従事してきました。講義ではそうした博物館や研究活動で得られた知識・体験等も交えて話をする予定です。

<到達目標>

- (1) 考古学とは何か、その方法論はどのようなものかを説明できる（知識）
- (2) 日本考古学の現状と課題を理解し、関連諸科学とアジアの歴史についての基礎を知る（知識）
- (3) 歴史と文化をテーマにした文章（レポート）を論理的に、かつ正しく書くことができる（知識・技能）
- (4) 歴史を学び、自分の将来像を描いてそれに向かって行動できる（企画・計画力）
- (5) これからの社会を支える人としての基本的な歴史の知識や社会生活での態度を育てる（習慣）

<授業のキーワード>

考古学 埋蔵文化財 遺跡 遺物 保護

<授業の進め方>

本科目は、講義を中心に進めます。受講者が講義の中でわからなかった点については、その場の授業で講師が必要に応じて解説します。

初回授業では、考古学をテーマとする本講義の全体像を把握するためのオリエンテーション等を行います。

第2回から第6回の講義では、日本考古学の現状、方法論、学史と時代区分、歴史教育など、第7回以降は各時代ごとの主要なテーマを取り上げ、第13回から第15回は日本考古学との比較のためのアジア考古学の現状を取り上げます。

<履修するにあたって>

- (1) 講義期間中に、下記参考図書に掲げた日本の考古学・古代史に関する岩波新書か岩波文庫・岩波現代文庫、あるいは講談社現代新書・講談社学術文庫等を最低1冊以上は読むように努めてください（掲げるものの一部を小テストあるいは課題レポートのテーマに出題予定です）。

(2) 講義の中で興味を持った点などは、自分自身でも図書館等で積極的に調べるようにしてください。

(3) 講義日程は事情により変更されることがあります。原則として事前の講義時にお知らせします。また、掲示・dotCampus・メール等でも連絡します。

<授業時間外に必要な学修>

(1) 毎回、講義資料を配布する予定で、次回のテーマも伝えますので下記参考図書等により予習をしておいてください。（目安として20～30分）。また、事後学習として講義内容の重要な点をノートなどに整理しておいてください（目安として30～40分）。

(2) 受講生は、できるかぎり身近にある古墳・城跡・集落跡などの遺跡を訪問し、説明資料等を熟読するなどして実践的に講義の補強を行うようにしてください。

<提出課題など>

下記の2件の課題を出す予定です。

- (1) 小テスト3回
- (2) 課題レポート1回

作成にあたっては、可能な範囲において下記の指定図書等を参照してください。

レポート未提出あるいは出席回数が規定に満たない方は評価対象外とします。なお、提出期限を過ぎたレポートは受け付けません

<成績評価方法・基準>

以下の3点を勘案して総合的に評価します。

- (1) 適宜実施の小テスト（3回）60%
- (2) 課題レポート（1回）30%
- (3) 受講態度（出席カード記載事項等による積極性など）10%

レポート未提出、小テスト未受験2回以上、講義への出席が規定回数に満たない者は評価対象外とします。

<テキスト>

なし

<参考図書>

以下の文献は安価なお薦め例です。その他、大学の図書館や県立・市立図書館等で自ら適切な本を探してください。

・ 田中 琢・佐原 真1993『考古学の散歩道』岩波新書

・ 田中 琢2015『考古学で現代を見る』岩波現代文庫

・ 佐原 真2003『魏志倭人伝の考古学』岩波現代文庫

・ 都出比呂志2011『古代国家はいつ成立したか』岩波新書

・ 近藤義郎2020『前方後円墳の時代』岩波文庫

・ 森 浩一2002『地域学のすすめ - 考古学からの提言』岩波新書

・ 広瀬和雄2010『前方後円墳の世界』岩波新書

・ 石川日出志2010『農耕社会の成立』岩波新書

・ 瀬川拓郎2017『縄文の思想』講談社現代新書

・ 藤尾慎一郎2015『弥生時代の歴史』講談社現代新書

<授業計画>

第1回 ガイダンス

講義の進め方、内容を聴く。また、レポートの書き方やまとめ方、および評価基準・方法等について説明をきく。

第2回 日本考古学の現状

考古学というイメージと実態が重なる部分と異なる部分を明らかにしながら、現代日本の中での考古学の現状を知る。

第3回 考古学の方法論

考古学研究はどのような方法論・資料操作で科学的に行われるものなのか、型式学を基本に考古資料分析法を学ぶ。

第4回 理化学的年代測定法

相対年代しか明らかにできない考古資料の絶対年代を知る方法として放射性炭素14年代測定法をはじめとする理化学的方法論の概略を知る。

第5回 考古学史と時代区分

考古学の歴史を近代以前のヨーロッパから学び、時代区分の原理とその変遷から日本列島や人類の歴史区分について理解する。

第6回 歴史教育と遺跡の保護

小学校・中学校の歴史教科書の記述を評価しながら考古学の現状を学び、また現代日本の開発と遺跡の保護・保存の関係を知る。

第7回 縄文時代農耕論

かつては狩猟採集の時代であったとされる縄文時代は、すでに農耕が始まっていたという最近の成果とその評価について学ぶ。

第8回 揺らぐ弥生時代年代論

放射性炭素14年代や年輪年代測定法の開発等によって、日本考古学における縄文・弥生・古墳時代の従来の年代観が大きく変わろうとしている実態を知る。

第9回 前方後円墳の創出

古墳時代の始まりは前方後円墳の出現によって規定されることを知り、弥生時代墳墓との違いから社会構成体の変化を読み取る。

第10回 爆発的に築かれた群集墳

6世紀を境にした古墳時代後期は、古墳造営の様相とその背景が大きく異なることを知り、その歴史的な意味を学ぶ。

第11回 古代の鉄生産と塩生産

弥生・古墳時代から古代律令制期にかけて行われた鉄の生産と製塩について、その方法を学び、古代国家の関与を理解する。

第12回 山岳信仰の考古学

自然崇拜にはじまる日本の信仰の歴史を考古学から学び、山岳寺院の歴史の変遷モデルを理解しながら神仏習合、修験道なども知る。

第13回 東南アジア考古学紀行

東南アジアを代表する大河川メコン川流域のベトナム・ラオス・カンボジアにおける遺跡の保存と活用のありかたについて知る。

第14回 西アジアの発掘

アジアの西端イスラエルにおける文化財保護の現状と発掘調査の方法等について知り、人類史と考古学の在り方について理解を深める。

第15回 中国の遺跡と博物館

中国の遺跡と博物館から文化財の保護と活用を学び、講義の全体を振り返り、受講者それぞれが歴史に学ぶ意味とそれを今後どのように活かせるかを考える。

2022年度 前期

2.0単位

日本の歴史と文化

白方 佳果

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この授業は、大学のDPに示されている「広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養」すること、「幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見」する力、「自分の意見を口頭や文書によって表現」する力をつけることを目指します。

この授業は「日本の歴史と文化」の中でも特に、「日本近代文学」をおもな対象とします。明治時代に広く流通した作品、いわゆる「ベストセラー」のなかで、文学史上重要な作品、あるいは時代状況をよく反映した作品をおもに取り上げ、その内容や表現を鑑賞します。さらに背景、同時代の評価などを検討することを通して、日本の文学史、また作品が登場した日本の「近代」という時代について理解を深めることを目指します。

< 到達目標 >

- (1) 日本の歴史や文学に対する関心を高める。
- (2) 日本の近代文学に関する基礎的な知識を身に付け、的確に説明できる。
- (3) 文学作品を理解し、そこから得た自分なりの問題意識や考え、感想などを的確に表現することができる。

< 授業のキーワード >

文学 近代 日本文学 近代文学

< 授業の進め方 >

講義を基本とします。

<履修するにあたって>

・講義形式で授業を進めますが、コメント等の授業参加を受講者に求める場合があります。

・文学作品を中心に扱います。文学作品を読むことや、感想を述べることに抵抗がある人の受講はおすすめしません。

・予習状況・理解度などを確認するミニッツペーパー・ワークシートの提出を課します。きちんと予習したうえで受講して下さい。

・授業の性質上、受講者数や受講者の理解度等により、授業の進め方や授業計画（進度、内容等）は予定から変更される場合があります。

<授業時間外に必要な学修>

各回120分程度の事前・事後学習が必要です。事前学習として、事前に配付した資料や授業で取り上げる作品を読み込み、自分なりの考えを用意したうえで授業に臨んでください。事後学習として、授業内容を再確認してください。また課題にきちんと取り組み、期限までに提出して下さい。

<提出課題など>

毎回ミニッツペーパーを提出してもらいます。また授業の予習状況や理解度を問うワークシートを数回課します。ほか、小テストやレポートを実施します。

<成績評価方法・基準>

ミニッツペーパー・ワークシート等40%、小テスト30%、レポート30%として、総合的に評価します。

(1)ミニッツペーパー・ワークシート等。授業の中でフィードバックを行う。評価基準は「到達目標」を達成できているかどうか、適切に予習を行うなど、授業に対して真摯に取り組む姿勢を見せているか、の2点です。

(2)小テスト。評価基準は「到達目標」。

(3)レポート。評価基準は「到達目標」。

<テキスト>

プリントを配布、もしくはweb上にファイルをアップロードします。図書館での閲覧、またはインターネット上のテキストの閲覧を指示する場合があります。

<参考図書>

澤村修治『ベストセラー全史 【近代篇】』（岩波書店、2019）。高校生向けの国語便覧や日本文学史の参考書を用意しておくことが望ましい。ほか、授業中に紹介します。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

授業のねらいや、受講上の注意について説明します。

第2回 明治初期のベストセラー1

福沢諭吉『西洋事情』をはじめとする啓蒙書のベストセラーを紹介し、その内容や時代背景について解説します。

第3回 明治初期のベストセラー2

ジュール・ヴェルヌ『八十日世界一周』の翻訳作品を紹

介し、近代日本の翻訳文学のベストセラーについて解説します。

第4回 明治初期のベストセラー3

仮名垣魯文『高橋阿伝夜刃譚』を取り上げ、「毒婦もの」の流行について解説します。

第5回 「小説」の「改良」

坪内逍遙『当世書生気質』の内容や表現、背景、文学史的意義などについて解説します。

第6回 言文一致体小説の成功

二葉亭四迷『浮雲』の内容や表現、背景などについて解説します。

第7回 児童文学の登場とベストセラー

巖谷小波『こがね丸』、バーネット夫人著・若松賤子訳『小公子』などを紹介し、その内容や表現、近代日本の児童文学の始まりについて解説します。

第8回 樋口一葉のベストセラー

明治中期のベストセラーについて概説を行います。とくに樋口一葉の実用書『通俗書簡文』を取り上げ、その内容や表現、背景について解説します。

第9回 通俗小説のベストセラー1

尾崎紅葉と、その代表作『金色夜叉』の内容や表現、背景、影響などについて解説します。

第10回 通俗小説のベストセラー2

徳富蘆花『不如帰』を取り上げ、その内容や背景、影響などについて解説します。

第11回 通俗小説のベストセラー3

小杉天外『魔風恋風』、島崎藤村『破戒』等を紹介し、「自然主義文学」の隆盛について解説します。

第12回 通俗小説のベストセラー4

泉鏡花『婦系図』を紹介し、映像資料を鑑賞します。

第13回 通俗小説のベストセラー5

前回は引き続き、『婦系図』を取り上げます。

第14回 夏目漱石のベストセラー1

夏目漱石の初期ベストセラーについて概説します。

第15回 夏目漱石のベストセラー2

夏目漱石『虞美人草』について解説します。

2022年度 前期

2.0単位

日本の歴史と文化

赤坂 義浩

<授業の方法>

今のところ対面による開講を予定している。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染状況により、遠隔（オンディマンド）開講する可能性がある。その場合、Onedriveに動画、講義資料等をアップロードする。URL等はドットキャンパスで通知する。

また対面講義の場合でも、感染防止のため、講義レジュメ、参考プリントは印刷したものを手渡して配付しな

い。講義資料はすべてonedriveにアップするすので、事前にダウンロードすること。講義資料ファイルのURLも、DotCampusで通知する。

< 授業の目的 >

【主題】本講義は、共通教育センターのDPが示す「文化・社会・自然に関する広く豊かな知識を備え、それを社会に役立てることができる」ことを目指すものである。日本における交通インフラの整備、特に鉄道の整備と発展が、日本の経済発展にどのような役割を果たしたのか、あるいは、日本の社会変容にどのような役割を果たしたのかについて学んでいく。それによって、受講者が、現代の社会を歴史的な経緯を知ることにより深く理解することが出来るようになることが目標である。

< 到達目標 >

受講者が、歴史的な視点を通して、現在の社会や経済の問題をより深く理解し、考えることができるようになることが目標である。本科目を学ぶことにより、近年大きな問題となっている、地域の公共交通網の維持問題について、正確な理解と考察が出来るようになることが目標である。

< 授業のキーワード >

日本 交通 鉄道 経済発展 社会の変容 企業家 企業者活動

< 授業の進め方 >

講義は毎回資料を配付し、出来るだけビジュアルに進めて行く予定である。

< 履修するにあたって >

日本では、少子・高齢化や、地域経済の不振等により、公共交通ネットワークの維持が困難になりつつある。そこで、鉄道を中心に、公共交通が経済や社会の発展に対してどのような役割を果たして来たか、について学ぶことにより、その知見に基づいて、現在の問題の解決策を受講者自らが考えられるようになって欲しい。

< 授業時間外に必要な学修 >

受講に際しては、必ず講義ノートを作成し、毎回講義内容について必ず復習をしておくこと。予習に1時間半、復習に1時間程度の学修時間を必要とする。定期試験実施時には、試験対策として総復習をすること。

< 提出課題など >

特になし。

< 成績評価方法・基準 >

対面講義で開講する場合は、定期試験で評価する。また、遠隔開講の場合は、定期試験に替えてレポート課題によって評価する（中間レポート30点満点、期末レポート70点満点で評価）。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

本講義の概要、進め方等についてガイダンスを行う。

第2回 鉄道の役割

鉄道は経済活動のインフラストラクチャーであることが

ら、鉄道が経済発展にどのような役割を果たすのか、その必要性について学ぶ。

第3回 鉄道創業までの推移

日本人がどこでどのように鉄道の存在を認識し、その必要性を理解したのか、鉄道創業までの前史について学ぶ。

第4回 殖産興業政策と鉄道事業の創業

明治政府が進めた一連の経済近代化政策、いわゆる殖産興業政策の一環として実現した官設鉄道の創業とその意義について学ぶ。

第5回 私鉄企業の創設

株式会社制度と近代産業の適合性と、それによる私鉄企業の創設、その意義について学ぶ。

第6回 鉄道技術の自立

鉄道技術は、欧米からの技術移転により日本に移植された。それがどのようにして進められ、実現したか、について学ぶ。

第7回 鉄道ブームと企業家

1880年代半ばから私鉄企業の設立が相次ぐ、いわゆる「鉄道ブーム」が発生した。これらのうち、いくつかの代表的な事例を取り上げ、そこでの企業家による企業者活動、経営の推移について学ぶ。

第8回 日本の工業化と鉄道

明治期日本における工業の発展に鉄道が果たした役割について学ぶ。

第9回 鉄道の開通と社会の変容

鉄道の開通が、地域社会をどのように変えたのかについて、いくつかの事例を通じて学ぶ。

第10回 鉄道国有化

明治末に実施された幹線私鉄企業の国有化をめぐる政策論争、およびその意義について学ぶ。

第11回 鉄道国有化後の鉄道政策

鉄道国有化後の鉄道整備に関する政策の変化と、整備主体の変化について学ぶ。

第12回 都市化の進展と電鉄の発展

第1次大戦ブームに伴う都市化の進展と電気鉄道の整備について学ぶ。

第13回 日本型私鉄経営の形成

鉄道企業が経営多角化を進めて鉄道事業以外の様々な事業を手がけるといビジネスモデルは、阪急電鉄の創業者小林一三によって確立された。そこで、都市化の進展と電鉄業の発展、およびそこでの小林一三の企業者活動について学ぶ。

第14回 戦後高度成長期における鉄道と、国鉄改革

戦後の高度成長期における経済の変化と鉄道の対応、および国鉄の経営悪化と分割民営化、その意義について学ぶ。

第15回 人口減少時代における鉄道経営

近年の日本における少子高齢化の進展と人口の東京一極集中は、鉄道を中心とする公共交通事業の経営に大きな変化をもたらしている。この回では、近年における地方

公共交通維持の問題について学ぶ。

2022年度 前期

2.0単位

日本の歴史と文化 (日本の将棋)

西川 和宏、井上 慶太

< 授業の方法 >

プロ棋士の指導を受ける講義「日本の歴史と文化 「将棋」特別クラスの開講について

日本の伝統的な文化の一つである「将棋」について、まずは講義形式で、日本将棋連盟の棋士から、日本の将棋の歴史、将棋にまつわるマナー、駒の種類と働き(価値)手筋、戦術などを学ぶ。一通りの知識が身についたのち、受講者どうしで対局を楽しむところまでの参加型スタイルの講義とする。対局後は、プロ棋士の指導を受けながら振り返りを行う。毎時間、自分の頭で考えることで、思考力、洞察力、集中力などが身につく予定である。将棋をある程度知っている人が対象。

将棋をほとんど知らない人は後期に開講される「将棋の歴史と文化」を履修されることを勧めます。

なお、講義を担当するプロ棋士は以下の3名である。

日本将棋連盟 常務理事 井上慶太(九段)、西川和宏(六段)、長谷川優貴(女流二段)

< 授業の目的 >

この講義は、将棋を学習することにより日本の伝統文化に触れるだけでなく、対戦相手の考えを読み、どうしたらよいか考え、自分で結論を出して指すことを学びます。これを繰り返すことにより、洞察力、思考力、集中力、忍耐力を身につけると同時に相手を思いやる気持ち、マナー、礼儀を習得することなどの教育的効果が期待できます。

さらに、将棋というわが

国が誇るべき伝統文化にふれることにより、日本文化の理解を深める機会を設け、礼儀作法の習得、相手を思いやる気持ちなど、豊かな心や生きる力をはぐくむ機会が得られます。

< 到達目標 >

90分間、自分の頭を使って考えることを意識してください。さらに将棋を観て楽しむ、指して楽しむことができるようになっていることを目標とする

< 授業のキーワード >

将棋、プロ棋士、思考力・集中力・忍耐力、決断力・洞

察力の養成

< 授業の進め方 >

少人数(24人の履修制限)で、プロ棋士の指導のもと、講義と実践(対局と振り返り)を繰り返す、参加型の講義室での対面型授業です。講義をスムーズに進めるため、将棋に関する基礎知識のない人にとっては毎回の講義内容の復習が必須となります。前向きな姿勢での講義への参加が期待される。

< 履修するにあたって >

大学の講義室で授業を受ける形式の講義です。(非通学者向けの講義はありません)抽選科目なので、履修を取り消すことは原則できません。2人一組で授業を進める(対局する)ことが多いので、相手に迷惑がからないように、毎日遅刻することなく出席することを求めます。

< 授業時間外に必要な学修 >

特に義務化することは考えていませんが、興味があることを調べたり(日本将棋連盟のホームページ)、講義で習ったことを忘れないように、振り返ることを勧めます。将棋アプリ(びよ将棋等)で対局することもお勧めである。

< 提出課題など >

講義を進めながら、必要に応じて、簡単な課題を出すかもしれません。

< 成績評価方法・基準 >

定期試験は実施しない。15回の講義の出席状況、授業中の態度、積極的な質問などで評価します。

< テキスト >

特に指定しない。講義中にプリントを配布することがある。

< 参考図書 >

盤上の向日葵(上、下) 柚月裕子 中公文庫。この本を読むと将棋の理解が深まります。

< 授業計画 >

第1回 本講義の概要、講義の進め方、将棋の歴史、駒、将棋盤

講義の前にアンケートを取ります。本講義の概要を説明し、講義の進め方を説明する。また、授業を受ける態度、注意事項、評価方法などを説明する。

将棋の歴史(海外、日本)、駒、将棋盤、並べ方、持ち方、駒の価値、など

第2回 将棋の歴史 将棋に関するマナーと将棋のルール

将棋の歴史(日本)駒を成る、駒の価値、将棋に関する

マナー、将棋のルール（勝ち負け、反則）を覚える
第3回 将棋の指し方、駒を取る、玉の囲い方など

駒を取る、駒を逃げる、駒得くの仕方、将棋の指し方、
対局

第4回 王手と詰み（1手詰み）

将棋の指し方、玉の囲い方、対局と振り返り（解説）

第5回 王手と詰み（1手、3手詰）、必至、対局

王手と詰み（1手、3手詰）、必至、対局と振り返り
（解説）

第6回 形勢判断。対局

形勢判断、対局と振り返り（解説）

第7回 将棋にまつわる格言、対局

将棋にまつわる格言、対局と振り返り（解説）

第8回 定跡、対局

定跡、対局と振り返り（解説）

第9回 対局と振り返り（解説）

対局と振り返り（解説）

第10回 対局と振り返り（解説）

対局と振り返り

第11回 対局と振り返り（解説）

対局と振り返り

第12回 対局と振り返り（解説）

対局と振り返り

第13回 対局と振り返り（解説）

対局と振り返り

第14回 対局と振り返り（解説）

対局と振り返り

第15回 来年に向けて、講義の締めくくりのアンケート
を取ります。記念対局

要望、反省、課題、良かった点、改善すべき点などのア
ンケートをお願いします。

対局と振り返り

2022年度 後期

2.0単位

日本の歴史と文化

鶴飼 昌男

< 授業の方法 >

対面での講義形式授業を行います。

< 授業の目的 >

日本史と世界史の接点を取り上げ、世界史（外国史料）
から見た日本について、古代から現代まで通史的に概説
します。日本史・世界史の学び直しばかりでなく、グロ
ーバル化の中で生きる学生に、多角的な視点の重要性を
理解してもらい、幅広い知識に基づいて日本と関わりの
あった諸外国およびその文化を理解することができる素
養を身につけます。

暗記物で終わってしまった高校までの歴史学習を、根拠

のある新しい知識や論理的な考え方で刷新し学びを深め、
価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、協働共生
することができる教養に基づいた社会性を養いたいと考
えています。

また、1回生には共通教育科目として、大学で学び始め
るにあたって学部での専門的な学習に進む前に、ベース
となる基礎教養（自国の歴史）を厚くしながら、知的好
奇心の刺激によって大学での学びに対するモチベーショ
ンアップを図り、学部での学びに目的意識を持たせたい
と思います。

この授業の担当者は、高校での20年以上にわたる歴
史科教員及び管理職としての実務経験を生かし、高大接
続の観点から、大学入学初年次の学生に大学で求められ
る主体的な学びの作法とその考え方も指導します。

< 到達目標 >

・高校の科目枠にとらわれない社会人としての歴史の基
礎教養を身につける。

・アジア諸国と日本との関係を題材に、異なる視点を持
つことの大切さを理解する。

・日本史に対する各自の興味関心が広がり、自ら深めて
いきたい時代やテーマを持つことができる。

・講義を自分なりに的確にノートできる技術を身につけ
る。

・文献や資料をまとめてプレゼンテーションする技術を
身につける。

< 授業のキーワード >

日中関係史、貿易、外交、戦争、文化史

< 授業の進め方 >

教室のスクリーンにPCのスライド画面を投影しながら講
義します。

毎回、事前資料を dot campus にアップしますので、
それを参照して受講してください。事前資料には、講義
概要や史料、スライド画面、課題となる設問を掲載しま
す。講義を聴きながらメモをとるスペースも設けていま
すので、ノートテイクスキルの向上にも役立てて下さい。

毎回の授業終了後に、授業の振り返りと設問に対する解
答を dot campus にWordで入力し、3日以内に提出して
もらいます。授業への参加はこのWordシートの提出によ
ってカウントします。要点をついた記述、ユニークな気
づき等に対して、次回の授業時にフィードバックしてい
きます。

注) 授業の振り返りでは、400字?800字の予定で、
授業によって得た新しい発見や興味を抱いた事柄、もう
少し深掘りしたい部分など、授業によって生じた自分の
頭の中の変化（質問や感想）を文章で説明してください。
くれぐれも、授業内容をまとめるような記述では、大幅
減点となりますので各自の意見を書くようにして下さい。
また、授業においてテーマを指示し各自の意見を書いて

もらう場合もあります。

毎年好評のプレゼン課題に関する優秀作品講評の時間を後期後半に1コマ設けます。(予定)

スライドを用いながら講義を中心に進めますので、板書事項ばかりでなく口頭による講義内容を適宜ノートしてください。

<履修するにあたって>

- ・サークル活動での公欠や病欠、就活などは相談してください。
- ・毎回のテーマに関する高校の日本史教科書部分を、事前に読んでおくことより分かりやすくなります。
- ・地歴科教員志望の学生には、高校での新科目「歴史総合」に対応するための一つの経験になると思います。

先輩からのコメント

- ・この授業では、いままでに学習したことのある歴史を様々な角度から考察でき、面白い発見や新しい発見を多く経験することが出来る。
- ・歴史は当然暗記するものと考えている人は、それをこの講義で改める喜びを感じてもらおうと良いと思う。
- ・大学の勉強は、基本的に暗記ではなく、深く考えることなので、本講義が大学の学習の仕方も教えてくれるから、ひじょうに有意義だと思う。

<授業時間外に必要な学修>

事前配布資料を読んで、毎回のテーマに関する高校教科書程度の予習があれば、講義内容の理解と面白さが実感できます。(先輩からのアドバイス)

授業中は各自のノートまたは事前配布資料にメモを取り、授業後にメモを整理する作業が理解のために有効です。したがって、授業中のメモをいかに増やすか(耳からの情報をポイントをおさえてメモにする)が鍵です。授業中に浮かんだ疑問や興味を覚えた出来事などは、タイミングを逃さずにメモし、図書館やネット検索で授業後に「後追い調べ」する習慣を身につけてほしいと思います。大学での自主的な学びとは、このような習慣が基本的態度となります。

予習1時間、事後のノート整理と「後追い調べ」1時間半が目安です。

<提出課題など>

授業のための事前配信資料または授業中に指示した設問課題は、授業後に提出する dot campus のWordシートに入力して出して下さい。

日本と外国との関係の歴史から各自の興味関心に基づいたテーマを選び、各自が持ったそのテーマの面白さについて、8分間のプレゼン発表用資料をパワーポイントで作成する「プレゼン課題(A4用紙1枚に6画面を一括掲載)」を予定しています。

注) プレゼン資料作成においては、起承転結の筋道だった説明の展開、聴衆に対して発表に興味を持たせたい

ってもらうための工夫、画面レイアウトなどの経験を在学中に少しでも積むことを目的とした課題です。

毎年、履修者には難しかったけれど良い経験になったと好評でした。優秀作品の紹介とフィードバックは授業で行います。課題を出さなければ、原則単位は認めません。

<成績評価方法・基準>

毎回の授業後に提出するWordシート(70%)、プレゼン課題(30%)、毎回の授業中の設問に対する解答(加点)の総合評価とします。

文章による論理的な表現力、意見形成のための基礎知識、パワーポイントによる説明スキルのアップ、この3点を少しでもつけてもらうために講義しますので、自分の力をつけるために授業と課題に取り組んでください。

Wordシートには、次の2点を書いて下さい。

設問に対する解答

「授業の振り返り」 = 授業によって得た新しい発見や興味を抱いた事柄、もう少し深掘りしたい部分など、授業によって生じた自分の頭の中の変化(質問や感想)を説明してください。評価のポイントは、筋道だった文の展開と簡潔に自らの考えをまとめているかどうかです。単に授業内容をまとめるだけのものでは点がつきません。毎回の講義の振り返りには5点を配点しますが、毎回満点とは考えずに、減点があるものと思って自分の基礎点を積み上げていって下さい。

プレゼン課題の評価は、A/B/C/D/Eの5段階で採点します。優秀作品は30点+アルファの加点をします。

毎回の授業への参加を重視しますが、全出席であってもWordシートが十分かけていないと減点が多くなり、結果的に単位を落とす学生が毎年数人はいますので注意してください。

(単位を取りやすい科目ではない、と先輩たちは言っていました)。

<テキスト>

なし

<参考図書>

適宜講義において指示します。

<授業計画>

第1回 ガイダンスと序論

講義の進め方、受講にあたってのルール、ノートの取り方、評価と課題についての説明

序論 「歴史は暗記科目ではない」

「日本を外から見るとどう見えているのか？」

第2回 古代の日本 1

3世紀 卑弥呼の遣使と三国志...偶然か必然か?の問題

第3回 古代の日本 2

渡来人と朝鮮半島情勢...渡来人はいつ頃から何人ぐらいでやって来たと思いますか?

第4回 古代の日本 3

7世紀の遣唐使と天智天皇の苦しい外交判断...外交官としての遣唐使

第5回 古代の日本 4

8世紀の遣唐使が、奈良時代にもたらした「インパクトの強さと文化の質」を考えてみます。

第6回 中世の日本 1

国風文化なんて?...平安貴族はこんなにも唐物が好きでしたよ!

第7回 中世の日本 2

朝鮮半島から見た元寇...大国に挟まれる小国の苦しみと元寇の怖さ

第8回 中世の日本 3

日明貿易には両国の国内事情が露骨に表れました。足利義政の時に応仁の乱、日明貿易もトラブル続出だったのです。

第9回 近世の日本 1

西洋との接触と禅宗僧侶の果たした役割
ポルトガル商人が乗って来た船は、中国船だった?!

第10回 近世の日本 2

鎖国の中でなぜオランダだけが貿易を認められたのか? 蘭東インド会社の狡猾な対日貿易独占戦略があったのです。

第11回 近世の日本 3

長崎貿易の実態と清朝の政治情勢(康熙帝・雍正帝がみていた長崎貿易)
...そして、徳川吉宗は名君だと思いますよ。

第12回 幕末の日本

欧米列強に対する幕府の首脳部は、実に有能で勤勉でした。

(文化史とは作者と作品名の暗記ではなく、こういうものなのです。)

第13回 近現代の日本 1

日本はかつて植民地を持っていました。
(対日感情の基礎にあるものを知って下さい)

第14回 近現代の日本 2

戦後賠償と日本の東南アジア外交との関係
(外国人労働者との共生と理解のために、必須の教養です。)

第15回 プレゼンのスキルアップ講座

プレゼン課題の優秀作品発表と講評

2022年度 後期

2.0単位

日本の歴史と文化

金 益見

< 授業の方法 >

対面授業

< 授業の目的 >

講義では、日本の食の文化について理解を深めることを目的とします。食文化は、私たちの生活や文化を知る上で重要なテーマです。

したがって、本講義は人文学部のディプロマポリシーに掲げられた「広い教養を身につけること」、「幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見する」ことが可能になります。

< 到達目標 >

日本の食文化について理解を深め、日本文化の基礎知識を教養として身につける。食文化を通して日本の伝統と文化の特色についての認識を深める。

< 授業の進め方 >

講義形式を中心にして進めます。15回のうち複数回「確認プリント」という形式の小テストを行います。それがいつあるかはあらかじめ知らせませんので、基本的に毎回出席していないと対応できません。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業資料は特に配布しませんので、ノート等を作り、毎回授業前後に数時間程度の復習を行った上で、小テストに臨んでください(小テストは手書きノートのみ持ち込み可です)。授業時間外に必要な学修時間は1? 2時間です。

< 成績評価方法・基準 >

小テスト(確認プリント)を第2?15回までの間で3~4回実施します。

小テストの回数は、講義の理解度をみて決定します。

・3回行った場合は、1回目と2回目は25点、3回目を50点問題にします。

$$25(\text{点}) \times 2(\text{回}) = 50(\text{点})$$

$$50(\text{点}) \times 1(\text{回}) = 50(\text{点}) \text{ 合計}100\text{点}$$

・4回行った場合は、25(点) × 4(回) = 100(点)

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の進め方や約束事、評価方法について説明します。

第2回 いのちの食べ方

まずは、現在の日本と世界の食について考えていきます。「いのちの食べ方」というドキュメンタリーを参考にしながら、大量生産、大量消費・廃棄社会を取り上げ、改めて食べるということはどういうことを考えていきます。

第3回 いのちの食べ方

前回到引き続き、食べるとはどういうことを考えていきます。

第4回 日本の食文化? 食肉と牧畜を中心に?

古代から15世紀末頃までの長い期間を「日本的食文化の形成期」として捉えて、第4~8回にかけて説明します。中国文明の受容から、日本独自性の文化につながるまで背景、貴族や武士の文化の影響、肉食のタブー、仏教の普及などを元に考えていきます。

第5回 日本の食文化? 食肉と牧畜を中心に?

古代から15世紀末頃までの長い期間を「日本的食文化の形成期」として捉えて、第4～8回にかけて説明します。中国文明の受容から、日本独自性の文化につながるまで背景、貴族や武士の文化の影響、肉食のタブー、仏教の普及などを元に考えていきます。

第6回 日本の食文化？ 食肉と牧畜を中心に？

古代から15世紀末頃までの長い期間を「日本的食文化の形成期」として捉えて、第4～8回にかけて説明します。中国文明の受容から、日本独自性の文化につながるまで背景、貴族や武士の文化の影響、肉食のタブー、仏教の普及などを元に考えていきます。

第7回 日本の食文化？ 食肉と牧畜を中心に？

古代から15世紀末頃までの長い期間を「日本的食文化の形成期」として捉えて、第4～8回にかけて説明します。中国文明の受容から、日本独自性の文化につながるまで背景、貴族や武士の文化の影響、肉食のタブー、仏教の普及などを元に考えていきます。

第8回 日本の食文化？ 食肉と牧畜を中心に？

古代から15世紀末頃までの長い期間を「日本的食文化の形成期」として捉えて、第4～8回にかけて説明します。中国文明の受容から、日本独自性の文化につながるまで背景、貴族や武士の文化の影響、肉食のタブー、仏教の普及などを元に考えていきます。

第9回 日本の発酵文化

「肉食の習慣がない日本人が 生きながらえた理由は“発酵”にあり」（小泉,1999）という言葉が示すように、日本の食文化において発酵食は欠かせないものでした。

第9？ 11回にかけて、日本の発酵文化について考えていきます。

第10回 日本の発酵文化

「肉食の習慣がない日本人が 生きながらえた理由は“発酵”にあり」（小泉,1999）という言葉が示すように、日本の食文化において発酵食は欠かせないものでした。

第9？ 11回にかけて、日本の発酵文化について考えていきます。

第11回 日本の発酵文化

「肉食の習慣がない日本人が 生きながらえた理由は“発酵”にあり」（小泉,1999）という言葉が示すように、日本の食文化において発酵食は欠かせないものでした。

第9？ 11回にかけて、日本の発酵文化について考えていきます。

第12回 近代における変化

欧米の文明を規範とした日本社会の近代化が進行し、それとともに大きく変化した食文化に着目します。

第13回 近代における変化

欧米の文明を規範とした日本社会の近代化が進行し、それとともに大きく変化した食文化に着目します。

第14回 まとめ

今までに講義内容を振り返り、受講生のみなさんと議論します。

第15回 まとめ

今までの講義と、受講生のみなさんと議論した内容をまとめます。

2022年度 後期

2.0単位

日本の歴史と文化

鶴飼 昌男

<授業の方法>

対面での講義形式授業を行います。

<授業の目的>

日本史と世界史の接点を取り上げ、世界史（外国史料）から見た日本について、古代から現代まで通史的に概説します。日本史・世界史の学び直しばかりでなく、グローバル化の中で生きる学生に、多角的な視点の重要性を理解してもらい、幅広い知識に基づいて日本と関わりのあった諸外国およびその文化を理解することができる素養を身につけます。

暗記物で終わってしまった高校までの歴史学習を、根拠のある新しい知識や論理的な考え方で刷新し学びを深め、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、協働共生することができる教養に基づいた社会性を養いたいと考えています。

また、1年生には共通教育科目として、大学で学び始めるにあたって学部での専門的な学習に進む前に、ベースとなる基礎教養（自国の歴史）を厚くしながら、知的好奇心の刺激によって大学での学びに対するモチベーションアップを図り、学部での学びに目的意識を持たせたいと思います。

この授業の担当者は、高校での20年以上にわたる歴史科教員及び管理職としての実務経験を生かし、高大接続の観点から、大学入学初年次の学生に大学で求められる主体的な学びの作法とその考え方も指導します。

<到達目標>

・高校の科目枠にとらわれない社会人としての歴史の基礎教養を身につける。

・アジア諸国と日本との関係を題材に、異なる視点を持つことの大切さを理解する。

・日本史に対する各自の興味関心が広がり、自ら深めていきたい時代やテーマを持つことができる。

・講義を自分なりに的確にノートできる技術を身につける。

・文献や資料をまとめてプレゼンテーションする技術を身につける。

<授業のキーワード>

日中関係史、貿易、外交、戦争、文化史

<授業の進め方>

教室のスクリーンにPCのスライド画面を投影しながら講義します。

毎回、事前資料を dot campus にアップしますので、それを参照して受講してください。事前資料には、講義概要や史料、スライド画面、課題となる設問を掲載します。講義を聴きながらメモをとるスペースも設けていますので、ノートテイクスキルの向上にも役立ててください。

毎回の授業終了後に、授業の振り返りと設問に対する解答を dot campus にWordで入力し、3日以内に提出してもらいます。授業への参加はこのWordシートの提出によってカウントします。要点をついた記述、ユニークな気づき等に対して、次回の授業時にフィードバックしていきます。

注) 授業の振り返りでは、400字?800字の予定で、授業によって得た新しい発見や興味を抱いた事柄、もう少し深掘りしたい部分など、授業によって生じた自分の頭の中の変化(質問や感想)を文章で説明してください。くれぐれも、授業内容をまとめるような記述では、大幅減点となりますので各自の意見を書くようにして下さい。また、授業においてテーマを指示し各自の意見を書いてもらう場合もあります。

毎年好評のプレゼン課題に関する優秀作品講評の時間を後期後半に1コマ設けます。(予定)スライドを用いながら講義を中心に進めますので、板書事項ばかりでなく口頭による講義内容を適宜ノートしてください。

<履修するにあたって>

- ・サークル活動での公欠や病欠、就活などは相談してください。
- ・毎回のテーマに関する高校の日本史教科書部分を、事前に読んでおくことより分かりやすくなります。
- ・地歴科教員志望の学生には、高校での新科目「歴史総合」に対応するための一つの経験になると思います。

先輩からのコメント

- ・この授業では、いままでに学習したことのある歴史を様々な角度から考察でき、面白い発見や新しい発見を多く経験することが出来る。
- ・歴史は当然暗記するものと考えている人は、それをこの講義で改める喜びを感じてもらおうと良いと思う。
- ・大学の勉強は、基本的に暗記ではなく、深く考えることなので、本講義が大学の学習の仕方も教えてくれるから、ひじょうに有意義だと思う。

<授業時間外に必要な学修>

事前配布資料を読んで、毎回のテーマに関する高校教科書程度の予習があれば、講義内容の理解と面白さが実感できます。(先輩からのアドバイス)

授業中は各自のノートまたは事前配布資料にメモを取り、授業後にメモを整理する作業が理解のために有効です。したがって、授業中のメモをいかに増やすか(耳からの

情報をポイントをおさえてメモにする)が鍵です。授業中に浮かんだ疑問や興味を覚えた出来事などは、タイミングを逃さずにメモし、図書館やネット検索で授業後に「後追い調べ」する習慣を身につけてほしいと思います。大学での自主的な学びとは、このような習慣が基本的態度となります。

予習1時間、事後のノート整理と「後追い調べ」1時間半が目安です。

<提出課題など>

授業のための事前配信資料または授業中に指示した設問課題は、授業後に提出する dot campus のWordシートに入力して出して下さい。

日本と外国との関係の歴史から各自の興味関心に基づいたテーマを選び、各自が持ったそのテーマの面白さについて、8分間のプレゼン発表用資料をパワーポイントで作成する「プレゼン課題(A4用紙1枚に6画面を一括掲載)」を予定しています。

注) プレゼン資料作成においては、起承転結の筋道だった説明の展開、聴衆に対して発表に興味を持たせ聴いてもらうための工夫、画面レイアウトなどの経験を在学中に少しでも積むことを目的とした課題です。

毎年、履修者には難しかったけれど良い経験になったと好評でした。優秀作品の紹介とフィードバックは授業で行います。課題を出さなければ、原則単位は認めません。

<成績評価方法・基準>

毎回の授業後に提出するWordシート(70%)、プレゼン課題(30%)、毎回の授業中の設問に対する解答(加点)の総合評価とします。

文章による論理的な表現力、意見形成のための基礎知識、パワーポイントによる説明スキルのアップ、この3点を少しでもつけてもらうために講義しますので、自分の力をつけるために授業と課題に取り組んでください。

Wordシートには、次の2点を書いて下さい。

設問に対する解答

「授業の振り返り」 = 授業によって得た新しい発見や興味を抱いた事柄、もう少し深掘りしたい部分など、授業によって生じた自分の頭の中の変化(質問や感想)を説明してください。評価のポイントは、筋道だった文の展開と簡潔に自らの考えをまとめているかどうかです。単に授業内容をまとめるだけのものでは点がつきません。毎回の講義の振り返りには5点を配点しますが、毎回満点とは考えずに、減点があるものと思って自分の基礎点を積み上げて行って下さい。

プレゼン課題の評価は、A/B/C/D/Eの5段階で採点します。優秀作品は30点+アルファの加点をします。

毎回の授業への参加を重視しますが、全出席であってもWordシートが十分かけていないと減点が多くなり、結果的に単位を落とす学生が毎年数人はいますので注意し

てください。
(単位を取りやすい科目ではない、と先輩たちは言っていました)。
<テキスト>
なし
<参考図書>
適宜講義において指示します。
<授業計画>
第1回 ガイダンスと序論
講義の進め方、受講にあたってのルール、ノートの取り方、評価と課題についての説明
序論 「歴史は暗記科目ではない」
「日本を外から見るとどう見えているのか？」
第2回 古代の日本 1
3世紀 卑弥呼の遣使と三国志...偶然か必然か？の問題
第3回 古代の日本 2
渡来人と朝鮮半島情勢...渡来人はいつ頃から何人ぐらいでやって来たと思いますか？
第4回 古代の日本 3
7世紀の遣唐使と天智天皇の苦しい外交判断...外交官としての遣唐使
第5回 古代の日本 4
8世紀の遣唐使が、奈良時代にもたらした「インパクトの強さと文化の質」を考えてみます。
第6回 中世の日本 1
国風文化なんて？...平安貴族はこんなにも唐物が好きでしたよ！
第7回 中世の日本 2
朝鮮半島から見た元寇...大国に挟まれる小国の苦しみと元寇の怖さ
第8回 中世の日本 3
日明貿易には両国の国内事情が露骨に表れました。
足利義政の時に応仁の乱、日明貿易もトラブル続出だったのです。
第9回 近世の日本 1
西洋との接触と禅宗僧侶の果たした役割
ポルトガル商人が乗って来た船は、中国船だった？！
第10回 近世の日本 2
鎖国の中でなぜオランダだけが貿易を認められたのか？
蘭東インド会社の狡猾な対日貿易独占戦略があったのです。
第11回 近世の日本 3
長崎貿易の実態と清朝の政治情勢(康熙帝・雍正帝がみていた長崎貿易)
...そして、徳川吉宗は名君だと思いますよ。
第12回 幕末の日本
欧米列強に対する幕府の首脳部は、実に有能で勤勉でした。
(文化史とは作者と作品名の暗記ではなく、こういうも

のなのです。)
第13回 近現代の日本 1
日本はかつて植民地を持っていました。
(対日感情の基礎にあるものを知って下さい)
第14回 近現代の日本 2
戦後賠償と日本の東南アジア外交との関係
(外国人労働者との共生と理解のために、必須の教養です。)
第15回 プレゼンのスキルアップ講座
プレゼン課題の優秀作品発表と講評

2022年度 後期
2.0単位
日本の歴史と文化
新田町 義尚

<授業の方法>
講義
<授業の目的>
本講義は、共通教育科目DPが示す「文化・社会・自然に関する広く豊かな知識を備え、それを社会に役立てることができる」ことを目的とする。
日本古代史の概観を学び、氏族制度から律令制度への転換に伴う文化的な変容と統合のはたらき、展開過程を史料の記述から読み取る。政治・法制史と文化史・思想史・美術史の関連を学ぶ。
<到達目標>
1. 日本古代国家の成立、奈良時代史の概観を理解できるようになる。
2. 氏族制から官僚制への流れ、律令の特色と歴史的意義を理解できる。
3. 歴史資料や美術・建築の表現的特質から白鳳・天平期の文化的特色を理解できる。
<授業のキーワード>
氏族制から律令制へ 飛鳥・白鳳・天平の美と精神 日本文化のかたち
<授業の進め方>
講義形式で行います。毎時間、出席を取り、短い授業シート記入をしてもらいます。授業スライドに従ってプリントに記入をしていきながら、自分の意見やまとめを加えて完成させます。対面授業では大人数の教室ですが、できるだけ学生の意見や質問を反映させる双方向形式を取り入れたいと計画しています。学生同士で授業シートを使っの4~5人程度のグループでの意見交換の時間を設定し、授業のまとめの記入をして仕上げ最後に提出という流れを予定しています。ただし、今後の社会状況の変化を見ながら安全を最優先させて対面授業を実施しなければなりませんので、グループでの意見交換などの

実施可否は状況を見て判断し、講義のみを行うという場合もあり得ます。

<履修するにあたって>

日本史についての知識は前提として必要ありません。高校時代に日本史を履修していなかった人に対してもわかりやすいように、基礎から専門用語を説明します。この授業は、毎回キーになる専門用語を取り上げ、それを中心に解説をするかたちで進めます。日本法制史(古代)を軸にしながら、日本古代の歴史と古代宗教・美術・日本語などの複数の分野がまたがる学際的な領域を扱います。どの学部・学科の人にとっても、これからグローバルな異文化交流の時代に、自分たちがいま生きているこの「日本の原点」を知るため、とても有益です。ぜひこの機会に日本古代史について積極的に学んでみてください。すでに高校時代に日本史Bなどを履修していた人は、シラバスの授業予定に従って、高校時代に使った日本史の教科書や、山川出版社「日本史用語集」などで、基本的な用語などをあらかじめ調べてから受講すると、さらに授業の理解が深まります。授業ではノートをしっかり作るようにしましょう。毎回の授業シート、プリントまたはレポートなどの課題にきちんと取り組むように。

<授業時間外に必要な学修>

事前学習として、毎回の授業内容に対応する項目について専門用語の意味を調べておく。高校時代に使った日本史の教科書、『日本史用語集』などを持っている人は再度利用する。(目安として60分)それらを持っていない人や日本史を履修していなかった人は電子辞書や事典類をフルに活用する。ノートに用語の意味や説明、人名や歴史的事件の解説を書いておく。インターネット検索で歴史の専門用語を調べることもよいが、その際にはどのサイト、ホームページから調べた知識なのか、必ず引用元(出典)のURL、最終更新日時と調べた日時(閲覧日・時刻)を記録しておく。復習として、授業内容を振り返り各自でノート作成する。学習事項をまとめておく。関連する文献、概説書等を読んでおくようにし、最後の期末レポートに備える。(目安として60分)

<提出課題など>

原則、毎回の授業で最後に確認の小レポート課題を出す。分量は毎回異なり、短い場合は一語で答えるものにひとこと感想やコメントを自由に添える程度のものもあります。オンライン授業が導入される場合は1週間以内にdo tCampusにword打ち出しの添付のレポート形式で提出する。対面授業では教室で、この小レポートを授業シート形式のプリントとして配布・回収する。毎回出すものは、ごく短いもので出席・受講確認のためのものですが、3回に1回程度は「確認問題」とし、200字~400字程度の論述型、自分の意見などを交えたものにします。

<成績評価方法・基準>

後期の最終期末レポート60%。毎回の授業で課す課題=授業シートの提出と小レポート(授業時間内と授業時間

外の取り組みへの評価を含む)40%。

<テキスト>

テキストは使用しない。

<参考図書>

吉田 孝 (1997)『日本の誕生』(岩波新書)岩波書店。

斎川 眞 (1999)『天皇がわかれば日本がわかる』(ちくま新書)筑摩書房

松岡正剛(2006)『日本という方法』NHKブックス、日本放送協会出版。角川ソフィア文庫版。

<授業計画>

第1回 授業ガイダンス

序論 「律令」と古代日本

授業の進め方・成績評価方法など説明 歴史用語の基礎知識

律令制とは 古代日本の国家体制について その成立と特色

第2回 神仏習合

古代日本の宗教・信仰

神仏習合について 古代日本の神祇信仰と仏教

氏族制共同体の信仰 仏教の伝来・受容・融合の歴史

第3回 「冊封」体制

東アジア世界とヤマト王権

冊封とは何か 7世紀以前の東アジア古代世界

中華帝国秩序 「天皇」号と「日本」の呼称の由来

第4回 推古朝の転換

遣隋使と厩戸皇子の時代

日本古代国家の成立 古代氏族共同体から中央集権国家へ

厩戸皇子(聖徳太子)の時代 600年と607年2つの遣隋使の謎

第5回 「天皇」号と「日本」国号の成立

「天皇」「日本」とは何か 律令国家成立の思想的基盤

氏族制から律令制=官僚制への転換 儒教・道教・神祇信仰

第6回 弥勒信仰とは

仏教伝来 弥勒信仰の受容と展開 メシア救済思想

弥勒上生信仰と弥勒下生信仰 仏像彫刻

第7回 飛鳥・白鳳期の仏教美術

初期仏教・飛鳥文化の展開 渡来人と秦氏 広隆寺

白鳳美術の特色 法隆寺を支えた木について

第8回 神祇信仰と仏教

神祇信仰の特質 折口信夫「まれびと」論 柳田国男「海上他界観」

仏教伝来をめぐる政治的・文化的問題 古代的神仏習合の展開

第9回 『古事記』について

『古事記』より 日本神話の世界 伝承と古代歌謡・儀礼

古代日本語 漢文と和文 日本語の表記・文体について

第10回 弥勒信仰の伝来と

飛鳥・白鳳期仏像美術

古代日本における弥勒信仰について

初期仏教の展開 白鳳美術の特色

第11回 白鳳文化から天平文化へ

観音信仰の受容と日本的展開 救いのかたち

初期山岳仏教の特色 玄昉・行基・泰澄などの活動

第12回 天武・持統朝の政治と文化

天武系皇統の時代 八色の姓 藤原京遷都 律令制確立期

飛鳥浄御原令と庚午年籍 皇統意識と歴史 神話の形成

第13回 聖武天皇と国家仏教

聖武天皇と光明皇后の信仰と思想 仏教政策の特徴

天平文化の特質 玄昉・吉備真備・行基・泰澄

第14回 『古今和歌集』と平安国風文化の成立

「国風暗黒時代」から「和風」の平安王朝文化へ

仮名文字の誕生 『古今和歌集』と和漢並立の文化様式

第15回 『日本という方法』(松岡正剛)の文化史観

まとめ 紀貫之の日本語改良と『古今和歌集』仮名序の意義

古代日本律令国家の変質・解体 和風と手わざの方法の文化

2022年度 後期

2.0単位

日本の歴史と文化 (日本の将棋)

西川 和宏、井上 慶太

< 授業の方法 >

プロ棋士の指導を受ける講義「日本の歴史と文化」, 「将棋」特別クラスの開講について

この講義は将棋をある程度知っているが、もう一度基礎から勉強したい人、今よりもっと上達したい人を対象とした科目です。将棋の歴史(日本、海外)将棋に関する礼儀、マナー、定跡、戦術等を日本将棋連盟所属のプロ棋士が講義する。

なお、講義を担当するプロ棋士は以下の3名である。

日本将棋連盟 常務理事 井上慶太(九段)、西川和宏(六段)、長谷川優貴(女流二段)

< 授業の目的 >

この講義は、将棋を学習することにより日本の伝統文化に触れるだけでなく、対戦相手の考えを読み、どうしたらよいか考え、自分で結論を出して指すことを学びま

す。これを繰り返すことにより、洞察力、思考力、集中力、忍耐力を身につけると同時に相手を思いやる気持ち、マナー、礼儀を習得することなどの教育的効果が期待できます。

さらに、将棋というわが国が誇るべき伝統文化にふれることにより、日本文化の理解を深める機会を設け、礼儀作法の習得、相手を思いやる気持ちなど、豊かな心や生きる力をはぐくむ機会が得られます。

< 到達目標 >

90分間、自分の頭を使って考えることを意識してください。さらに将棋を観て楽しむ、指して楽しむことができるようになっていることを目標とする

< 授業のキーワード >

将棋、プロ棋士、思考力・集中力・忍耐力、決断力・洞察力の養成

< 授業の進め方 >

少人数(24人の履修制限)で、プロ棋士の指導のもと、講義と実践(対局と振り返り)を繰り返す、参加型の講義室での対面型授業です。講義をスムーズに進めるため、将棋に関する基礎知識のない人にとっては毎回の講義内容の復習が必須となります。前向きな姿勢での講義への参加が期待される。

< 履修するにあたって >

大学の講義室で授業を受ける形式の講義です。(非通学者向けの講義はありません)抽選科目なので、履修を取り消しすることは原則できません。2人一組で授業を進める(対局する)ことが多いので、相手に迷惑がかけないように、毎日遅刻することなく出席することを求めます。

< 授業時間外に必要な学修 >

特に義務化することは考えていませんが、興味があることを調べたり(日本将棋連盟のホームページ)、講義で習ったことを忘れないように、振り返ることを勧めます。

将棋アプリ(びよ将棋等)で対局することもお勧め。

< 提出課題など >

講義を進めながら、必要に応じて、簡単な課題を出すかもしれません。

< 成績評価方法・基準 >

定期試験は実施しない。15回の講義の出席状況、授業中の態度、積極的な質問などで評価します。

< テキスト >

特に指定しない。講義中にプリントを配布することがあ

る。

<参考図書>

盤上の向日葵（上、下） 柚月裕子 中公文庫。この本を読むと将棋の理解が深まります。

<授業計画>

第1回 本講義の概要、講義の進め方、将棋の歴史、駒、将棋盤

講義の前にアンケートを取ります。本講義の概要を説明し、講義の進め方を説明する。また、授業を受ける態度、注意事項、評価方法などを説明する。

将棋の歴史（海外、日本）、駒、将棋盤、駒の種類、持ち方、駒の価値、など

第2回 将棋の歴史、将棋に関するマナーと将棋のルール

駒の種類、読み方、並べ方、持ち方、動かし方、駒を成る、駒の価値、将棋に関するマナー、将棋のルール（勝ち負け、反則）を覚える

第3回 将棋の指し方、駒を取る、玉の囲い方など

駒を取る、駒を逃げる、駒を成る、駒得くの仕方、将棋の指し方、駒の並べ方、対局

第4回 王手と詰み（1手詰み）

将棋の指し方、玉の囲い方、対局と振り返り（解説）

第5回 王手と詰み（1手、3手詰）、必至、対局

王手と詰み（1手、3手詰）、必至、対局と振り返り（解説）

第6回 形勢判断。対局

形勢判断、対局と振り返り（解説）

第7回 将棋にまつわる格言、対局

将棋にまつわる格言、対局と振り返り（解説）

第8回 定跡、対局

定跡、対局と振り返り（解説）

第9回 対局と振り返り（解説）

対局と振り返り（解説）

第10回 対局と振り返り（解説）

対局と振り返り

第11回 対局と振り返り（解説）

対局と振り返り

第12回 対局と振り返り（解説）

対局と振り返り

第13回 対局と振り返り（解説）

対局と振り返り

第14回 対局と振り返り（解説）

対局と振り返り

第15回 来年に向けて、講義の締めくくりにアンケートを取ります。記念対局

要望、反省、課題、良かった点、改善すべき点などのアンケートをお願いします。

対局と振り返り

2022年度 後期

2.0単位

人間関係づくりワークショップ（ポ）（9/12、13、14、15）

浜中 恵美子

<授業の方法>

・講義 ・演習 ・実習

<授業の目的>

【授業概要】

この授業は、一方的に話を聞いたり、ただテキストや教材を読むだけではなく、4大学という異なった文化的背景を持つ受講生が、小グループで様々なアクティビティに取り組み、受講生同士が感じた事をリアルに交流し合うという双方向型の「体験」を通じた学びを重視します。

【授業の目的・ねらい】

「産声(うぶごえ)からデジタルデバイスへと変容する身体コミュニケーション」

人間のコミュニケーションは、生理的な欲求を泣き声で訴えるという原初的な方法から始まりました。現在は、友人からのSNSを常にチェックし、スマートフォンが片時も手放せない”SNS症候群”も存在します。そこには、加速度的に進化するデジタルデバイスを前に、生身の人間関係を忘れ、戸惑う身体があります。この社会にあって、過不足なく他者とコミュニケーションを交わり、健康な人間関係を維持していくことは決して容易ではありません。

ワークショップ形式の授業を通じ、グループ内の刻々と変化する人間関係の中で他者の気持ちを「受容」「共感」し、自己理解や他者理解への気づきを深め、自己のコミュニケーションスタイルを見直し、新しい行動様式を身につけることができます。

この科目は神戸学院大学ディプロマ・ポリシーのうち、2「思考力・判断力・表現力等の能力」と3「主体性を持って多様な人々と共同して学ぶ態度」と関係し、それを育成します。

授業の担当者は、NTLA (National Training Laboratory Association)の考えを主にワークショップのファシリテーターやカウンセラーとして、大学、企業、外資系企業、病院、官公庁など、20年以上の実務を持つ教員です。グループのファシリテート、ヒューマンリレーションについてより実務的な視点から解説します。

<到達目標>

・コミュニケーションの理論やスキルを習得することができます。

・他者の気持ちを「受容」「共感」することを味わい、自分自身や他者への気づきを深めること

ができます。

- ・感情のコントロールについて理解し、他者からのフィードバックを受け入れ、冷静に対話をすることを学び、自己成長することができます。
- ・プレゼンテーションが求められる場面や初めて出会う人の前で、不安や緊張をコントロールし、自信を持ってパブリック・スピーキングができるよう習得します。
- ・これまで一過性の個人的体験であった自己のコミュニケーションスタイルを見直し、新しい行動様式を身につけることができます。
- ・これからの人間関係づくりを肯定的にとらえ、可能性に満ちた学生生活のきっかけになることを目標とします。

< 授業のキーワード >

・コミュニケーション ・自己理解 ・他者理解 ・体験 ・気づき ・受容、共感 ・変容

< 授業の進め方 >

・体験学習を中心に進めます。

< 履修するにあたって >

【受講生への要望、その他】

- ・プログラム上、全日程参加可能な方。
- ・状況により授業内容、時間を変更することがあります。

< 授業時間外に必要な学修 >

・日常においても、授業内容やソーシャルスキルを意識して行動し身につけよう。

< 提出課題など >

・授業内で指示をします

< 成績評価方法・基準 >

1. 授業に取り組む姿勢 70%

(・授業参画態度 40% ・課題、発表他 30%)

2. 課題レポート 30%

< テキスト >

・ワークシート配布。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

- ・ワークショップとは
- ・体験学習の理論 ・授業の考え方、ねらい、進め方、評価について

第2回 「対話」とコミュニケーション

- ・コミュニケーション能力とは何か
- ・『他者』と関わる、『経験』するということの意味について

第3回 自分に見えない自分の姿に気づく

- ・対人関係における気づきについて
- ・自分を理解し、相手を理解するための試み

第4回 出会いの試み

- ・出会いの試みを体験する ・自己理解や他者理解を深める

第5回 より良い人間関係を築くために

・分かり合うとはどういうことか ・他者とかわり、思いを伝えるとは

第6回 コミュニケーションの弊害

- ・コミュニケーションの弊害について
- ・「聴く力」「話す力(伝える)」「観る力」について

第7回 心の枠組みを点検する

・「厄介な人間関係のからくり」・心の歪みとは何か

第8回 コミュニケーションと

『感情』

・感情のコントロールとは ・感情の考え方、扱い方

第9回 オールタナティブな問題解決法

・オールタナティブな考え方とは ・「問題」とは何か

・問題解決のルールとステップ

第10回 相手を理解し自分の考えを伝える

・コミュニケーションの学びを生かし、自分の考えや思いを表現する

・他者への理解を深める

第11回 『Who am I』 「私」を表現する

・『私』をどのように認識しているか、自分の気持ちや思いを表現する

・フィードバックを通して、自己・他者への気づきの手ごかりにする

第12回 協力ゲーム

・ゲームの体験から集団意思決定の方法を理解し、ファシリテーター型リーダーシップやチームワーク、自己のコミュニケーション特性に気づく

第13回 「考える」ということ

私をデザインする

・「考える」ことを通して、自分の思考・思索のプロセスの方法を学ぶ

・自分と向き合う(自己作業)

第14回 『自分を語る』

「考える」ということ

私をデザインする

・自分について語る ・メンバーからのフィードバック

・グループの分かち合い

第15回 作成した作品のフィードバック

・全体の分かち合い

・これまでの振り返りと明日に向かって

2022年度 後期

2.0単位

美術演習

岸本 吉弘

< 授業の方法 >

演習・実技(対面式授業を前提とします)

< 授業の目的 >

「絵を描く」ということについて、どのような経験やイメージを持っているでしょうか？小学校の図画工作の時間や、中学校の美術授業を思い出す人も多いのではないのでしょうか。上手く描けずに「自分には向いていない」と思っている人もなかにはいるかもしれません。古来、絵画は愛おしい人や大切な物などを描きとめ、記録として残す重要な役割を担ってきました。また近代以降はその表現に広がりが増え、種々様々な絵画表現が登場してきます。つまり「絵」は上手いや下手という価値判断だけでは決してなく、「何を表現しようとしているか？」という主体的なモチベーションや情熱的な姿勢こそが重要視されるとも言えます。本授業では絵画制作を通じ、豊かな感性と表現力を養い、また必要な技術・知識を得ることを目的としています。それらは全学DPにある（知識・技能）（思考力・判断力・表現力等の能力）（主体性を持って多様な人々と共同して学ぶ態度）と深く連動するであろうものなのです。

尚、この授業の担当者は30年近くにわたり、画家として抽象絵画の創作に専念し、個展やグループ展など国内外での発表活動も多く、国内での主要美術館にも作品収蔵もあり、かつ美術批評的な活動も併せて展開している実務経験のある教員であるので、より実際の観点から授業展開及び制作指導をすることが可能であり、その上でアクティヴ・ラーニング（能動的・積極的な学び）の場の提供も可能となります。

また、シラバスについては、折々の制作の進捗状況によって、順序や内容を変更する場合があります。

< 到達目標 >

絵画の実制作を主軸に、題材やテーマをどう解釈し、その絵画的（造形性・構図・色彩など）特性をどう判断・理解するか、そしてそれらを実践制作に結びつけ、自分らしい「ものの見方」や「感じ方」などの価値基準をもって作品を具体的に制作する力、すなわち「高度な創造力・表現力」を得ることが本授業の目標であり、これは「自立した自己の育成」にも深くつながります。またそうした「力量」は芸術表現分野での活用に留まらず、他の学術分野への主体的な理解や態度、また日常生活においても役立つものなのです。

< 授業のキーワード >

絵画、デッサン、写実絵画、抽象絵画、現代美術、自己表現、色彩表現、イメージ、鑑賞

< 授業の進め方 >

本授業は演習（実技）の授業として行います。演習内容の紹介や導入、その後の創作時間、最終的には完成作品を一堂に並べての合評会を開催します。各授業回の質問や感想等は必要に応じ出席カードに記入して下さい。

< 履修するにあたって >

汚れて良い服装で受講するか、もしくは作業着を持参し着替えた上で受講して下さい。また受講するに当たり鉛筆や絵具類の購入など、最低でも3000円程度以上の材料費が必要となります。購買店にてそれら全ては購入可能です。（授業内において次回授業の必要材料等は指示します。）美術や表現することに関して、積極性のある学生を求めます。

< 授業時間外に必要な学修 >

自らが制作するだけでなく、なるべく多くの美術館に足を運び、絵画作品の実物を見るようにしてください。実際の作品には多くの多義的な情報量があり、創作の参考になると同時に、自身の感性を磨くことにも繋がります、お薦めの展覧会等の情報は授業中に伝えます。この美術館見学は授業時間外に各自で必要な時期に行ってください。（1時間以上かけてじっくりと展示全体を鑑賞し、その中から興味・関心がある作品を選び、その作品の特徴や意義、創作理念や技法などをじっくりと観察してするのがポイントです。展示会場にある作品説明キャプションや音声ガイド、展示カタログもその手助けとなることでしょう。）

< 提出課題など >

・本授業内で大きくは2つの課題（表現演習、 ）を課します。その作品（指定の画用紙サイズによる）提出が必須となります。また完成作品のみならず、その制作プロセスも重要視します。尚、適宜フィードバックなども行います。

< 成績評価方法・基準 >

平常点（参加度、態度等：30%）、作品提出2課題（70%）

< テキスト >

資料などを配布します。

< 参考図書 >

岸本吉弘著「絵画 新たなる物語のために」晃洋書房、2018年

他に美術基礎やデッサン基礎のような実技入門書（美術出版社刊など）も必要に応じ参照ください。色々な技術的なヒントを得ることも可能です。

< 授業計画 >

1 美術表現とは（導入1）

絵画史（具象絵画や写実絵画を中心）の概要のスライド講義を実施し、絵画の根源、発祥から多様性まで紹介します。

2 美術表現とは（導入2）

実技や創作する観点から、その方法や次週以降の準備物まで紹介する。

3 表現演習 リアルさの探求 1

鉛筆の削り方から、グラデーション作成を实践します。

4 表現演習 リアルさの探求 2

陰影のつけ方（明暗グラデーション）を作成し、立体らしさを表現することを学びます。

5 表現演習 リアルさの探求 3

自画像デッサン1：頭部の構造（骨格や筋肉）を量感として明暗対比の中で鉛筆デッサンし（四切サイズ画用紙）、対象を観察することを学ぶ。

6 表現演習 リアルさの探求 4

自画像デッサン2：描写密度を高め、完成を目指す。

7 表現演習 リアルさの探求（合評会）

皆さんの完成作品（自画像デッサン）を一堂に並べて、比較相対化するなかで個別作品の評価を行う。教員からの一方通行的な指導だけでは無く、学生からの作品プレゼンテーション的な意味合いも併せ持ち。本授業前半（リアルさの探求）としての振り返りもし、総括とする。

8 表現演習 導入

20世紀以降の絵画史（抽象絵画や現代美術作品を中心）のスライド講義に加え、美術実技の特性や魅力などを講義し、次回からの授業紹介（導入）・準備物の指示する。

9 表現演習 表現性の探求1

モダンテクニック演習：色彩（アクリル系絵具などの水性絵具など）を使用して、絵具表現（色彩表現）の可能性を探る、ドリッピング（跳ね飛ばし）やステイニング（にじみぼかし）などの様々な抽象的表現効果を実践し、自身の感覚を画面上で解放させる。

10 表現演習 表現性の探求2

イメージトレーニング1：「四季のイメージ」（四切サイズ画用紙）に自己表現（上記のモダンテクニックなども表現効果として活用しながら）を実践する。色や形や構成などを具体的に発想しながらも、自身の無意識下にある感覚値も表面化できるように工夫する。

11 表現演習 表現性の探求3

イメージトレーニング2：「四季のイメージ」（四切サイズ画用紙）の密度を高め、完成へと向かう。

12 表現演習 表現性の探求4

抽象的自画像1：四切サイズ画用紙に自己表現（上記のモダンテクニックなども表現効果として活用しながら）を実践する。色や形や構成などを具体的に発想しながらも、自身の無意識下にある感覚値も表面化できるように工夫する。

13 表現演習 表現性の探求5

抽象的自画像2：密度を高め、完成へと向かう。

14 表現演習 表現性の探求（合評会）

完成作品（四季のイメージと抽象的自画像の2作品）を一堂に並べて、比較相対化するなかで個別作品の評価を行う。教員からの一方通行的な指導だけでは無く、学生からの作品プレゼンテーション的な意味合いも併せ持ち。本授業後半（表現性の探求）としての振り返りもし、総括とする。

15 美術鑑賞について（まとめ）

これまでの本授業での実践的な経験値をベースにし、鑑賞授業を実施する。絵画の感じ方や考え方、見方なども踏まえ、グループディスカッション形式で意見交換をする場も提供し、美術作品を鑑賞することの意味や意義を認識する。

2022年度 前期

1.0単位

フランス語検定対策 A ア（仏検対策）

本多 雄一郎

<授業の方法>

対面授業

<授業の目的>

1. 検定合格に十分な能力，すなわち言葉を運用する上で基本となる「聞く」・「話す」・「読む」能力を身につけることができる。
2. 検定の問題を通して初級フランス語の授業で学んだフランス語の基礎知識をより深め，日常生活で使用されている幅広い会話表現を実践できる。
3. 全学ディプロマポリシーに関連して，検定の授業を通して得たフランス・フランス語の知識に基づいて西洋の異文化に対する理解を深めるとともに，日本と異なる社会に属する人々との円滑な交流を実践することができる。生涯的にはフランス語の確かな運用能力をもとにさらなる上級のクラスを目指せる。

<到達目標>

フランス語検定の5・4・3級に合格するのに必要なフランス語の運用能力が身につけられる。

5級レベルでは，初歩的な日常的フランス語を理解し，読み，聞き，書くことができる（仏検HPから）。

仏検HPから引用すると次の通り。

- ・読む（初歩的な単文の構成と文意の理解、短い初歩的な対話の理解）。
- ・聞く（初歩的な文の聞き分け、挨拶等日常的な応答表現の理解、数の聞き取り）。
- ・文法知識（初歩的な日常表現の単文を構成するのに

必要な文法的知識。動詞としては、直説法現在、近接未来、近接過去、命令法の範囲内)。

<授業のキーワード>

フランス語検定 フランス語の日常会話表現

<授業の進め方>

授業の前半では、テキストの毎回の所定の項目について、講義および演習により、習得する。aクラスでは基本的にテキストの文法項目についての説明と練習問題を行う。授業の後半では、各教員により、実際の検定試験による模試や、会話教材による聞き取り、映画の聞き取りなど、それぞれの教員独自の教材により、フランス語能力を養成していく。

<履修するにあたって>

入学時に選択した言語にかかわらず、原則として自由にとどの言語でも選択できる。語学力をさらに伸ばすために積極的に履修してほしい。ただし、1年次にその外国語科目を履修した学生と同等程度の基礎力は必要。2年次配当の外国語科目においては、再履修初級科目を除いて全くの初学者を対象とする授業は行なわない。2年次以降で新しい外国語を学びたい人や卒業要件を満たすために新しい外国語を履修することを迫られている人は、「再履修初級」科目を履修すること。

<授業時間外に必要な学修>

使用するテキストや配布する仏検資料に含まれる練習問題で授業中に解答できなかった箇所を自分で解くことを含めて、少なくとも次の授業までに復習を二時間以上すること。

<提出課題など>

検定問題に関する課題については授業中に解答・解説をする。

<成績評価方法・基準>

- ・単位を取得するためには10回以上の出席が必要。
- ・6月の検定試験で5級に合格すれば定期試験を免除して評点Bを与える。さらに定期試験を受ければ成績次第で評点AあるいはSを与える。
- ・4級以上に合格すれば定期試験を免除して評点Aを与える。さらに定期試験を受ければ成績次第で評点Sを与える。
- ・6月の検定試験で級を取得できなかった、あるいは受験しなかった場合、定期試験を受けなければなりません。評点は相対評価によるものとし、おおむね上位から30%をSとA、30%をB、20~40%をC、20~0%をDとする。
- ・定期試験、課題レポートの難易度は仏検4級相当とする。

<テキスト>

『ニヴォー・サンク』、富田正二著、駿河台出版社

<授業計画>

第1回 ガイダンス、仏検問題の形式の説明

授業の進め方を説明する。仏検問題の形式の説明と模擬練習。

第2回 名詞の前につくことば(1)

冠詞(不定冠詞、定冠詞、部分冠詞) 12ページ

第3回 名詞の前につくことば(2)

指示形容詞、所有形容詞(14ページ)

第4回 動詞の活用(1)

-er型動詞、不規則動詞avoir, etre, aller, ouvrirの現在形(20ページ)

第5回 動詞の活用(2)

-ir型動詞、不規則動詞、venir, partir, voir, devoir, など(22ページ)

第6回 動詞の活用(3)

dire, faire, prendre, pouvoir, vouloirなど(24ページ)

第7回 単語配列(1)

平叙文、否定文、命令文(34ページ)

第8回 単語配列(2)

疑問文(38ページ)

第9回 単語配列(3)

非人称構文、比較構文(40ページ)

第10回 単語配列(4)

形容詞と副詞の位置、前置詞の用法(44ページ)

第11回 単語配列(5)

よく使われる表現(45ページ)

第12回 応答問題(1)

疑問詞を用いない疑問文(48ページ)

第13回 応答問題(2)

疑問形容詞、疑問副詞を用いる疑問文(52ページ)

第14回 応答問題(3)

疑問代名詞を用いる疑問文(56ページ)

第15回 応答問題(4)

会話表現(60ページ)

2022年度 前期

1.0単位

フランス語検定対策 A (仏検対策)

門脇 伸二

<授業の方法>

対面授業

<授業の目的>

- 1.検定合格に十分な能力、すなわち言葉を運用する上で基本となる「聞く」・「話す」・「読む」能力を身につけることができる。
- 2.検定の問題を通して初級フランス語の授業で学んだフランス語の基礎知識をより深め、日常生活で使用されている幅広い会話表現を実践できる。
- 3.全学ディプロマポリシーに関連して、検定の授業を通して得たフランス・フランス語の知識に基づいて西洋の異文化に対する理解を深めるとともに、日本と異なる社会に属する人々との円滑な交流を実践することができる。

生涯的にはフランス語の確かな運用能力をもとにさらなる上級のクラスを目指す。

<到達目標>

フランス語検定の5・4・3級に合格するのに必要なフランス語の運用能力が身につけられる。

5級レベルでは、初歩的な日常的フランス語を理解し、読み、聞き、書くことができる(仏検HPから)。

仏検HPから引用すると次の通り。

・読む(初歩的な単文の構成と文意の理解、短い初歩的な対話の理解)。

・聞く(初歩的な文の聞き分け、挨拶等日常的な応答表現の理解、数の聞き取り)。

・文法知識(初歩的な日常表現の単文を構成するのに必要な文法的知識。動詞としては、直説法現在、近接未来、近接過去、命令法の範囲内)。

<授業のキーワード>

フランス語検定 フランス語の日常会話表現

<授業の進め方>

授業の前半では、テキストの毎回の所定の項目について、講義および演習により、習得する。aクラスでは基本的にテキストの文法項目についての説明と練習問題を行う。授業の後半では、各教員により、実際の検定試験による模試や、会話教材による聞き取り、映画の聞き取りなど、それぞれの教員独自の教材により、フランス語能力を養成していく。

<履修するにあたって>

入学時に選択した言語にかかわらず、原則として自由にとどの言語でも選択できる。語学力をさらに伸ばすために積極的に履修してほしい。ただし、1年次にその外国語科目を履修した学生と同等程度の基礎力は必要。2年次配当の外国語科目においては、再履修初級科目を除いて全くの初学者を対象とする授業は行なわない。2年次以降で新しい外国語を学びたい人や卒業要件を満たすために新しい外国語を履修することを迫られている人は、「再履修初級」科目を履修すること。

<授業時間外に必要な学修>

使用するテキストや配布する仏検資料に含まれる練習問題で授業中に解答できなかった箇所を自分で解くことを含めて、少なくとも次の授業までに復習を二時間以上すること。

<提出課題など>

検定問題に関する課題については授業中に解答・解説をする。

<成績評価方法・基準>

・単位を取得するためには10回以上の出席が必要。

・6月の検定試験で5級に合格すれば定期試験を免除して評点Bを与える。さらに定期試験を受ければ成績次第で評点AあるいはSを与える。

・4級以上に合格すれば定期試験を免除して評点Aを与える。さらに定期試験を受ければ成績次第で評点Sを与

える。

・6月の検定試験で級を取得できなかった、あるいは受験しなかった場合、定期試験を受けなければなりません。

評点は相対評価によるものとし、おおむね上位から30%をSとA、30%をB、20~40%をC、20~0%をDとする。

・定期試験、課題レポートの難易度は仏検4級相当とする。

<テキスト>

『ニヴォー・サンク』、富田正二著、駿河台出版社

<授業計画>

第1回 ガイダンス、 仏検問題の形式の説明

授業の進め方を説明する。仏検問題の形式の説明と模擬練習。

第2回 名詞の前につくことば(1)

冠詞(不定冠詞、定冠詞、部分冠詞)12ページ

第3回 名詞の前につくことば(2)

指示形容詞、所有形容詞(14ページ)

第4回 動詞の活用(1)

-er型動詞、不規則動詞avoir, etre, aller, ouvrirの現在形(20ページ)

第5回 動詞の活用(2)

-ir型動詞、不規則動詞、venir, partir, voir, devoir, など(22ページ)

第6回 動詞の活用(3)

dire, faire, prendre, pouvoir, vouloirなど(24ページ)

第7回 単語配列(1)

平叙文、否定文、命令文(34ページ)

第8回 単語配列(2)

疑問文(38ページ)

第9回 単語配列(3)

非人称構文、比較構文(40ページ)

第10回 単語配列(4)

形容詞と副詞の位置、前置詞の用法(44ページ)

第11回 単語配列(5)

よく使われる表現(45ページ)

第12回 応答問題(1)

疑問詞を用いない疑問文(48ページ)

第13回 応答問題(2)

疑問形容詞、疑問副詞を用いる疑問文(52ページ)

第14回 応答問題(3)

疑問代名詞を用いる疑問文(56ページ)

第15回 応答問題(4)

会話表現(60ページ)

2022年度 前期

1.0単位

フランス語検定対策 B (仏検対策)

釣 馨

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

1. 検定合格に十分な能力，すなわち言葉を運用する上で基本となる「聞く」・「話す」・「読む」能力を身につけることができる。
2. 検定の問題を通して初級フランス語の授業で学んだフランス語の基礎知識をより深め，日常生活で使用されている幅広い会話表現を实践できる。
3. 全学ディプロマポリシーに関連して，検定の授業を通して得たフランス・フランス語の知識に基づいて西洋の異文化に対する理解を深めるとともに，日本と異なる社会に属する人々との円滑な交流を实践することができる。生涯的にはフランス語の確かな運用能力をもとにさらなる上級のクラスを目指せる。

< 到達目標 >

フランス語検定の5・4・3級に合格するのに必要なフランス語の運用能力が身につけられる。

5級レベルでは，初歩的な日常的フランス語を理解し，読み，聞き，書くことができる（仏検HPから）。

仏検HPから引用すると次の通り。

- ・読む（初歩的な単文の構成と文意の理解、短い初歩的な対話の理解）。
- ・聞く（初歩的な文の聞き分け、挨拶等日常的な応答表現の理解、数の聞き取り）。
- ・文法知識（初歩的な日常表現の単文を構成するのに必要な文法的知識。動詞としては、直説法現在、近接未来、近接過去、命令法の範囲内）。

< 授業の進め方 >

授業の前半では、テキストの毎回の所定の項目について、講義および演習により、習得する。bクラスでは基本的に語彙の習得と表現の理解、音声の聞き取りの練習問題を行う。授業の後半では、各教員により、実際の検定試験による模試や、会話教材による聞き取り、映画の聞き取りなど、それぞれの教員独自の教材により、フランス語能力を養成していく。

< 履修するにあたって >

入学時に選択した言語にかかわらず，原則として自由にとどの言語でも選択できる。語学力をさらに伸ばすために積極的に履修してほしい。ただし，1年次にその外国語科目を履修した学生と同等程度の基礎力は必要。2年次配当の外国語科目においては，再履修初級科目を除いて全くの初学者を対象とする授業は行なわない。2年次以降で新しい外国語を学びたい人や卒業要件を満たすため

に新しい外国語を履修することを迫られている人は，「再履修初級」科目を履修すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

使用するテキストや配布する仏検資料に含まれる練習問題で授業中に解答できなかった箇所を自分で解くことを含めて、少なくとも次の授業までに復習を二時間以上すること。

< 提出課題など >

検定問題に関する宿題については授業中に解答・解説をする。

< 成績評価方法・基準 >

「授業記録」の提出と内容30% + 「課題」の提出と内容30% +

5回の小テスト40%

< テキスト >

『ニヴォー・サンク』、富田正二著、駿河台出版社

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス、 仏検問題の形式の説明
授業の進め方を説明する。仏検問題の形式の説明と模擬練習。

第2回 語彙（1）

名詞（1）（6ページ）

第3回 語彙（1）

名詞（1）（6ページ）

第4回 語彙（2）

名詞（2）（8ページ）

第5回 語彙（2）

名詞（2）（8ページ）

第6回 数字の聞き取り（1）

数字の聞き取り1～10、聞き取り問題1（16～17ページ）

第7回 語彙（3）

動詞（18ページ）

第8回 語彙（3）

動詞（18ページ）

第9回 語彙（4）

形容詞、前置詞（28ページ）聞き取り問題2（27ページ）

第10回 語彙（4）

形容詞、前置詞（28ページ）

第11回 数字の聞き取り（2）

数字の聞き取り1～20、（33ページ）、聞き取り問題3、4、（31～32ページ）

第12回 聞き取り問題

聞き取り問題5、6、7（37、43、50ページ）

第13回 会話文

会話文1、2（51、55ページ）、聞き取り問題8（54ページ）

第14回 会話文

会話文3(59ページ)聞き取り問題9(58ページ)
第15回 会話文
会話文4、5(62~62ページ)、聞き取り問題10
(61ページ)

2022年度 後期

1.0単位

フランス語検定対策 A ア(仏検対策)

本多 雄一郎

<授業の方法>

対面授業

<授業の目的>

- 1.検定合格に十分な能力,すなわち言葉を運用する上で基本となる「聞く」・「話す」・「読む」能力を身につけることができる。
- 2.検定の問題を通して初級フランス語の授業で学んだフランス語の基礎知識をより深め,日常生活で使用されている幅広い会話表現を实践できる。
- 3.全学ディプロマポリシーに関連して,検定の授業を通して得たフランス・フランス語の知識に基づいて西洋の異文化に対する理解を深めるとともに,日本と異なる社会に属する人々との円滑な交流を实践することができる。生涯的にはフランス語の確かな運用能力をもとにさらなる上級のクラスを目指せる。

<到達目標>

フランス語検定の4級に合格するのに必要なフランス語の運用能力が身につけられる。

4級レベルでは,基礎的な日常的フランス語を理解し,読み,聞き,書くことができる。

仏検HPから引用すると次の通り。

- ・読む(基礎的な単文の構成と文意の理解。基礎的な対話の理解)。
- ・聞く(基礎的な文の聞き分け,日常使われる基礎的な応答表現の理解,数の聞き取り)。
- ・文法知識(基礎的な日常表現の単文を構成するのに必要な文法的知識。動詞としては,直説法(現在,近接未来,近接過去,複合過去,半過去,単純未来,代名動詞),命令法等)。

<授業の進め方>

授業の前半では,テキストの毎回の所定の項目について,講義および演習により,習得する。aクラスでは基本的にテキストの文法項目についての説明と練習問題を行う。授業の後半では,各教員により,実際の検定試験による模試や,会話教材による聞き取り,映画の聞き取りなど,それぞれの教員独自の教材により,フランス語能力を養成していく。

<履修するにあたって>

入学時に選択した言語にかかわらず,原則として自由にとどの言語でも選択できる。語学力をさらに伸ばすために

積極的に履修してほしい。ただし,1年次にその外国語科目を履修した学生と同等程度の基礎力は必要。2年次配当の外国語科目においては,再履修初級科目を除いて全くの初学者を対象とする授業は行なわない。2年次以降で新しい外国語を学びたい人や卒業要件を満たすために新しい外国語を履修することを迫られている人は,「再履修初級」科目を履修すること。

<授業時間外に必要な学修>

使用するテキストや配布する仏検資料に含まれる練習問題で授業中に解答できなかった箇所を自分で解くことを含めて,少なくとも次の授業までに復習を二時間以上すること。

<提出課題など>

検定問題に関する宿題については授業中に解答・解説をする。

<成績評価方法・基準>

宿題の提出とその内容+小テストの成績:70%、「授業記録」の提出とその内容:30%。4級・3級の合格者も授業に参加すること。

<テキスト>

『ニヴォー・カトル - 教室で学ぶ仏検4級 - 』(富田正二著・駿河台出版社)

<授業計画>

第1回 冠詞

不定冠詞,部分冠詞,定冠詞(6~9ページ)

第2回 動詞の活用(1)

動詞の活用(現在形と命令形)(10~14ページ)

第3回 動詞の活用(2)

動詞の活用(複合過去形)(15ページ)

第4回 動詞の活用(3)

動詞の活用(単純未来形)(16ページ)

第5回 動詞の活用(4)

動詞の活用(半過去形)ジェロンディフ(16ページ,17ページ)

第6回 代名詞(1)

目的語人称代名詞(28ページ)

第7回 代名詞(2)

強勢形,再帰代名詞,指示代名詞(30~31ページ)

第8回 代名詞(3)

中性代名詞(32ページ)

第9回 単語配列(1)

否定文など(36ページ)

第10回 単語配列(2)

受動態など(37ページ)

第11回 単語配列(3)

非人称構文,関係代名詞など(38ページ)

第12回 単語配列(4)

形容詞,副詞の位置(39ページ)

第13回 単語配列(5)

比較構文など(40～41ページ)

第14回 前置詞

前置詞1(46～47ページ)

第15回 前置詞

前置詞2(48～49ページ)

2022年度 後期

1.0単位

フランス語検定対策 A (仏検対策)

門脇 伸二

< 授業の方法 >

対面授業

< 授業の目的 >

1. 検定合格に十分な能力, すなわち言葉を運用する上で基本となる「聞く」・「話す」・「読む」能力を身につけることができる。
2. 検定の問題を通して初級フランス語の授業で学んだフランス語の基礎知識をより深め, 日常生活で使用されている幅広い会話表現を实践できる。
3. 全学ディプロマポリシーに関連して, 検定の授業を通して得たフランス・フランス語の知識に基づいて西洋の異文化に対する理解を深めるとともに, 日本と異なる社会に属する人々との円滑な交流を实践することができる。生涯的にはフランス語の確かな運用能力をもとにさらなる上級のクラスを目指す。

< 到達目標 >

フランス語検定の4級に合格するのに必要なフランス語の運用能力が身につけられる。

4級レベルでは, 基礎的な日常的フランス語を理解し, 読み, 聞き, 書くことができる。

仏検HPから引用すると次の通り。

- ・読む (基礎的な単文の構成と文意の理解。基礎的な対話の理解)。
- ・聞く (基礎的な文の聞き分け, 日常使われる基礎的な応答表現の理解, 数の聞き取り)。
- ・文法知識 (基礎的な日常表現の単文を構成するのに必要な文法的知識。動詞としては, 直説法(現在, 近接未来, 近接過去, 複合過去, 半過去, 単純未来, 代名動詞), 命令法等)。

< 授業の進め方 >

授業の前半では, テキストの毎回の所定の項目について, 講義および演習により, 習得する。aクラスでは基本的にテキストの文法項目についての説明と練習問題を行う。授業の後半では, 各教員により, 実際の検定試験による模試や, 会話教材による聞き取り, 映画の聞き取りなど, それぞれの教員独自の教材により, フランス語能力を養成していく。

< 履修するにあたって >

入学時に選択した言語にかかわらず, 原則として自由に

どの言語でも選択できる。語学力をさらに伸ばすために積極的に履修してほしい。ただし, 1年次にその外国語科目を履修した学生と同等程度の基礎力は必要。2年次配当の外国語科目においては, 再履修初級科目を除いて全くの初学者を対象とする授業は行なわない。2年次以降で新しい外国語を学びたい人や卒業要件を満たすために新しい外国語を履修することを迫られている人は, 「再履修初級」科目を履修すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

使用するテキストや配布する仏検資料に含まれる練習問題で授業中に解答できなかった箇所を自分で解くことを含めて, 少なくとも次の授業までに復習を二時間以上すること。

< 提出課題など >

検定問題に関する宿題については授業中に解答・解説をする。

< 成績評価方法・基準 >

宿題の提出とその内容+小テストの成績: 70%、「授業記録」の提出とその内容: 30%。4級・3級の合格者も授業に参加すること。

< テキスト >

『ニヴォー・カトル - 教室で学ぶ仏検4級』(富田正二著・駿河台出版社)

< 授業計画 >

第1回 冠詞

不定冠詞, 部分冠詞, 定冠詞(6～9ページ)

第2回 動詞の活用(1)

動詞の活用(現在形と命令形)(10～14ページ)

第3回 動詞の活用(2)

動詞の活用(複合過去形)(15ページ)

第4回 動詞の活用(3)

動詞の活用(単純未来形)(16ページ)

第5回 動詞の活用(4)

動詞の活用(半過去形)ジェロンディフ(16ページ, 17ページ)

第6回 代名詞(1)

目的語人称代名詞(28ページ)

第7回 代名詞(2)

強勢形, 再帰代名詞, 指示代名詞(30～31ページ)

第8回 代名詞(3)

中性代名詞(32ページ)

第9回 単語配列(1)

否定文など(36ページ)

第10回 単語配列(2)

受動態など(37ページ)

第11回 単語配列(3)

非人称構文, 関係代名詞など(38ページ)

第12回 単語配列(4)

形容詞, 副詞の位置(39ページ)

第13回 単語配列(5)
 比較構文など(40~41ページ)
 第14回 前置詞
 前置詞1(46~47ページ)
 第15回 前置詞
 前置詞2(48~49ページ)

 2022年度 後期

1.0単位
 フランス語検定対策 B (仏検対策)
 釣 馨

 < 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

1. 検定合格に十分な能力、すなわち言葉を運用する上で基本となる「聞く」・「話す」・「読む」能力を身につけることができる。
2. 検定の問題を通して初級フランス語の授業で学んだフランス語の基礎知識をより深め、日常生活で使用されている幅広い会話表現を実践できる。
3. 全学ディプロマポリシーに関連して、検定の授業を通して得たフランス・フランス語の知識に基づいて西洋の異文化に対する理解を深めるとともに、日本と異なる社会に属する人々との円滑な交流を実践することができる。生涯的にはフランス語の確かな運用能力をもとにさらなる上級のクラスを目指せる。

< 到達目標 >

フランス語検定の4級に合格するのに必要なフランス語の運用能力が身につけられる。

4級レベルでは、基礎的な日常的フランス語を理解し、読み、聞き、書くことができる。

仏検HPから引用すると次の通り。

- ・読む (基礎的な単文の構成と文意の理解。基礎的な対話の理解)。
- ・聞く (基礎的な文の聞き分け、日常使われる基礎的な応答表現の理解、数の聞き取り)。
- ・文法知識 (基礎的な日常表現の単文を構成するのに必要な文法的知識。動詞としては、直説法(現在、近接未来、近接過去、複合過去、半過去、単純未来、代名動詞)、命令法等)。

< 授業の進め方 >

授業の前半では、テキストの毎回の所定の項目について、講義および演習により、習得する。bクラスでは基本的に語彙の習得と表現の理解、音声の聞き取りの練習問題を行う。授業の後半では、各教員により、実際の検定試験による模試や、会話教材による聞き取り、映画の聞き取りなど、それぞれの教員独自の教材により、フランス語能力を養成していく。

< 履修するにあたって >

入学時に選択した言語にかかわらず、原則として自由にもどの言語でも選択できる。語学力をさらに伸ばすために積極的に履修してほしい。ただし、1年次にその外国語科目を履修した学生と同等程度の基礎力は必要。2年次配当の外国語科目においては、再履修初級科目を除いて全くの初学者を対象とする授業は行なわない。2年次以降で新しい外国語を学びたい人や卒業要件を満たすために新しい外国語を履修することを迫られている人は、「再履修初級」科目を履修すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

使用するテキストや配布する仏検資料に含まれる練習問題で授業中に解答できなかった箇所を自分で解くことを含めて、少なくとも次の授業までに復習を二時間以上すること。

< 提出課題など >

検定問題に関する宿題については授業中に解答・解説をする。

< 成績評価方法・基準 >

「授業記録」の提出と内容30% + 「課題」の提出と内容30% +

5回の小テスト40%

< テキスト >

『ニヴォー・サンク』、富田正二著、駿河台出版社

< 授業計画 >

- 第1回 絵を使った問題
 絵を使った問題1(26、30ページ)
 第2回 絵を使った問題
 絵を使った問題2(36、42ページ)
 第3回 数字の聞き取り(1)
 数字の聞き取り0~20
 第4回 数字の聞き取り(2)
 数字の聞き取り20~60
 第5回 応答問題(1)
 応答問題(1)(48~49ページ)
 第6回 応答問題(2)
 応答問題(2)(52~53ページ)
 第7回 数字の聞き取り(3)
 数字の聞き取り60~100
 第8回 短文聞き取り(1)
 短文聞き取り
 第9回 短文聞き取り(2)
 短文聞き取り
 第10回 応答問題(3)
 応答問題(3)(52~53ページ)
 第11回 会話文(1)
 会話文(1)
 第12回 会話文(2)
 会話文(2)
 第13回 会話文聞き取り(1)

会話文聞き取り
第14回 会話文聞き取り(2)
会話文聞き取り
第15回 数字の聞き取り
数字の聞き取り1~100

2022年度 前期
1.0単位
プログラミング実習
佐藤 毅

< 授業の方法 >
対面(実習)

< 授業の目的 >
Scratchと呼ばれるビジュアルプログラミング言語を利用し、プログラミングのエッセンスを修得する。Scratch以外のプログラミング言語への応用も意識し、論理的思考力を身につける。
幅広い知識を活用して、全学DPに示されるように目的達成にいたるまでのさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる。
情報社会を生きる上で必要な知識・スキルを、より実践的な観点から解説します。

< 到達目標 >
プログラミング言語の種類について説明できる。
アルゴリズムとは何かを説明できる。
Scratchの基本操作ができる。
条件分岐に代表される基本的制御文を活用できる。
流れ図の記号を用い、アルゴリズムを表現することができる。

< 授業のキーワード >
プログラミング、Scratch、流れ図、論理的思考、ゲーム作成

< 授業の進め方 >
授業冒頭で、実習内容の概要説明。提示される課題をどのように実現(解く)すべきか思考し、その後文法・理論で補完する。

< 履修するにあたって >
授業は、実習室のPC(WindowsをOS)を利用します。自宅学習のためにも、PCを保有することを推奨します。
また、Macでも学習は可能です。
プログラミング初心者を対象とした授業です。

< 授業時間外に必要な学修 >
各回の復習、および課題で90分程度を想定しています。

< 提出課題など >
課題提出、資料配布は、dotCampusで実施する。

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加状況、毎授業時間における実習成果(40%)、課題(60%)として総合して評価します。

< テキスト >
各授業ごとに資料を公開。指定テキストはありません。

< 参考図書 >
プログラミングとアルゴリズムの基本
親子で学ぶプログラミング超入門
プログラミング入門講座
スクラッチで始めようプログラミング入門

< 授業計画 >
第1回 ガイダンス
情報処理実習室の利用について
授業の進め方
評価方法
課題の提出方法など
プログラミングとは
第2回 プログラミング言語とScratch
言語の種類
アルゴリズム

Scratchについて
第3回 Scratchの基礎1
Scratchの構成
スプライト(オブジェクト)
コスチューム
スクリプト(メソッド)
第4回 Scratchの基礎2
エントリーポイント

逐次処理
初期化
第5回 メッセージ
スプライト間の情報伝達
ブロードキャスト

第6回 制御文1
変数
繰り返し制御
変数の取り扱い
宣言、代入、参照

第7回 制御文2
配列1
条件分岐1
配列2
第8回 制御文3

配列2
条件分岐2
配列2
第9回 フローチャート
流れ図の書き方と活用

第10回 マルチスレッド
ポリモルフィズム
複数スプライトの同時実行

第11回 ゲーム作成 1

ゲームの ;

- ・設計
- ・コーディング 1

第12回 ゲーム作成

ゲームの ;

- ・コーディング 2
- ・デバッグ

第13回 ゲームの評価、および説明書の作成

作成ゲームの発表・評価

説明書の作成

第14回 総復習 1

実習の理解度確認

第15回 総復習 2

プログラミングの基礎から応用に向けて

2022年度 前期

1.0単位

プログラミング実習

岡元 直樹

< 授業の方法 >

実習（対面授業）

講師のアドレス : okamoto@ge.kobegakuin.ac.jp

< 授業の目的 >

Scratchと呼ばれるビジュアルプログラミング言語を利用し、プログラミングのエッセンスを修得する。Scratch 以外のプログラミング言語への応用も意識し、論理的思考力を身に着ける。

幅広い知識を活用して、目的達成にいたるまでのさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる。

なお、この授業の担当者は、IT企業での業務を11年、学外（公的機関）での教育業務を13年経験しています。

情報社会を生きる上で必要な知識・スキルを、より実践的な観点から解説します。

< 到達目標 >

プログラミング言語の種類について説明できる。

アルゴリズムとは何かを説明できる。

Scratchの基本操作ができる。

条件分岐に代表される基本的制御文を活用できる。

流れ図の記号を用い、アルゴリズムを表現することができる。

< 授業のキーワード >

プログラミング、Scratch、流れ図、論理的思考、ゲーム作成

< 授業の進め方 >

授業冒頭で、実習内容の概要説明。提示される課題をど

のように実現（解く）すべきか思考し、その後に文法・理論で補完する。

< 履修するにあたって >

本実習は、プログラミングに興味のある学生が対象です。各種プログラミング言語特有の文法を学習することが目的ではなく、社会人の一般教養としてのプログラミングスキルを身につけることを意識してください。

さらに高度なプログラミングスキルを身につけたい場合は、プログラミング実習 を継続して履修してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

各回の予習で1時間。復習と課題で1時間を想定しています。

< 提出課題など >

課題提出、資料配布は、Teamsで実施する。

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加状況、毎授業時間における実習成果(40%)、課題(60%)として総合して評価します。

< テキスト >

各授業ごとに資料を公開。指定テキストはありません。

< 参考図書 >

スクラッチプログラミングの図鑑

松下 孝太郎、山本 光 共著

技術評論社

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

情報処理実習室の利用について

授業の進め方

評価方法

課題の提出方法など

プログラミングとは

第2回 プログラミング言語とScratch

言語の種類

アルゴリズム

Scratchについて

第3回 Scratchの基礎 1

Scratchの構成

スプライト（オブジェクト）

コスチューム

スクリプト（メソッド）

第4回 Scratchの基礎 2

エンタリーポイント

逐次処理

初期化

第5回 メッセージ

スプライト間の情報伝達

ブロードキャスト

第6回 制御文 1

変数

繰り返し制御
変数の取り扱い
宣言、代入、参照
第7回 制御文 2
配列
条件分岐 1
配列の作り方と使い方 1
第8回 制御文 3
配列 2
条件分岐 2
配列の作り方と使い方 2
第9回 フローチャート
流れ図の書き方と活用
第10回 マルチスレッド
ポリモルフィズム
複数スプライトの同時実行
第11回 ゲーム作成 1
ゲームの ;
・コーディング 1
・デバッグ
第12回 ゲーム作成 2
ゲームの ;
・コーディング 2
・デバッグ
第13回 ゲームの評価、および説明書の作成
作成ゲームの発表・評価
説明書の作成
第14回 総復習 1
実習の理解度確認
第15回 総復習 2
プログラミングの基礎から応用に向けて

2022年度 後期
1.0単位
プログラミング実習
佐藤 毅

< 授業の方法 >
・ 対面授業 (実習)
< 授業の目的 >
Scratchと呼ばれるビジュアルプログラミング言語を利用し、プログラミングエッセンスの修得とともに、応用技法について学ぶ。
Scratch以外のプログラミング言語への応用も意識し、論理的思考力を身につける。
本実習を履修することにより、全学DPに示されるように、幅広い知識を活用し、目的達成にいたるまでのさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる。
< 到達目標 >

アルゴリズムとは何かを説明できる。
Scratchを用いた、基本的なアルゴリズムの実現ができる。
構造化プログラミングについて説明でき、プログラムを作成することができる。
VBAによる、初等レベルのマクロ作成 (プログラミング) ができる。
< 授業のキーワード >
プログラミング、Scratch、構造化プログラミング、アルゴリズム
< 授業の進め方 >
授業冒頭で、実習内容の概要説明。
基本問題を解いた (スクリプト化) 後、提示される課題を解く。
< 履修するにあたって >
本実習は、プログラミングに興味のある学生が対象です。各種プログラミング言語特有の文法を学習することが目的ではなく、社会人の一般教養としてのプログラミングスキルを身につけることを意識してください。(Scratchの習得を目的とした実習ではありません)
プログラミングに関する知識、経験が全くない場合、前期開講のプログラミング実習 を履修後、本実習を履修することを推奨します。
また、前期開講のプログラミング実習 を履修せず、本科目の受講を希望する人は、高等学校や独学で、プログラミングに触れた経験を有することが望ましいです。
授業は、実習室のPC (WindowsをOS) を利用します。自宅学習するためにも、PCを保有することを推奨します。
また、Macでも学習は可能ですが、ソフトウェアの操作方法がWindowsと異なることもあります。
< 授業時間外に必要な学修 >
各回の予習、復習、および課題で90分を想定しています。
< 提出課題など >
課題提出、資料配布は、dotCampusで実施。
フィードバックは、授業時、およびdotCampusにて実施。
< 成績評価方法・基準 >
毎授業時間における実習成果 (40%)、および、1週間程度の提出期限を設ける課題 (60%) の提出により評価します。
< テキスト >
各授業ごとに資料を公開。指定テキストはありません。
< 参考図書 >
スクラッチプログラミングの図鑑
松下 孝太郎、山本 光 共著
技術評論社
< 授業計画 >
第1回 ガイダンス
Scratchの基礎 1

授業の進め方
評価方法
課題の提出方法
Scratchの利用方法
Scratchの構成
第2回 Scratchの基礎 2
構造化プログラミング 1
スプライト（オブジェクト）
スクリプト（メソッド）
エントリーポイント
初期化
順次構造
選択構造 1
反復構造 1
第3回 構造化プログラミング 2
関数 1

選択構造 2
反復構造 2
関数とは
第4回 関数 2
変数
ローカル変数
グローバル変数
第5回 アルゴリズム 1
フローチャート
メインルーチンとサブルーチン
第6回 アルゴリズム 2
リストと配列
第7回 アルゴリズム 3
探索（線形探索）
第8回 前半の復習
確認問題による理解度の確認
第9回 アルゴリズム 4
条件分岐
第10回 アルゴリズム 5
データの並び替え（バブルソート）
第11回 VBAプログラミング 1
VBA基礎
モジュールとプロシージャ
第12回 VBAプログラミング 2
VBAコーディング基礎 1
第13回 VBAプログラミング 3
VBAコーディング基礎 2
第14回 VBAプログラミング 4
VBAコーディング応用 1
第15回 VBAプログラミング 5

VBAコーディング応用 2

2022年度 後期
1.0単位
プログラミング実習
岡元 直樹

< 授業の方法 >
実習（対面授業）

講師のアドレス：okamoto@ge.kobegakuin.ac.jp

< 授業の目的 >

Scratchと呼ばれるビジュアルプログラミング言語を利用し、プログラミングエッセンスの修得とともに、応用技法について学ぶ。

Scratch以外のプログラミング言語への応用も意識し、論理的思考力を身につける。

本実習を履修することにより、幅広い知識を活用し、目的達成にいたるまでのさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる。

なお、この授業の担当者は、IT企業での業務を11年、学外（公的機関）での教育業務を13年経験しています。情報社会を生きる上で必要な知識・スキルを、より実践的な観点から解説します。

< 到達目標 >

アルゴリズムとは何かを説明できる。

Scratchを用いた、基本的なアルゴリズムの実現ができる。

構造化プログラミングについて説明でき、プログラムを作成することができる。

< 授業のキーワード >

プログラミング、Scratch、構造化プログラミング、アルゴリズム

< 授業の進め方 >

授業冒頭で、実習内容の概要説明。

基本問題を解いた（スクリプト化）後、提示される課題を解く。

< 履修するにあたって >

本実習は、プログラミングに興味のある学生が対象です。各種プログラミング言語特有の文法を学習することが目的ではなく、社会人の一般教養としてのプログラミングスキルを身につけることを意識してください。（Scratchの習得を目的とした実習ではありません）

プログラミングに関する知識、経験が全くない場合、前期開講のプログラミング実習を履修後、本実習を履修することを推奨します。

また、前期開講のプログラミング実習を履修せず、本科目の受講を希望する人は、高等学校や独学で、プログラミングに触れた経験を有することが望ましいです。受講の際は、Scratchをすぐに使用できるよう、ダウンロード

ードを行い、Scratchについて予習しておくことを推奨します。（後期からの履修であっても、意欲があれば、皆さんの受講を待っています）

授業は、実習室のPC（WindowsをOS）を利用します。自宅で学習するためにも、PCを保有することを推奨します。

また、Macでも学習は可能ですが、ソフトウェアの操作方法がWindowsと異なることもあります。

< 授業時間外に必要な学修 >

各回の予習で1時間。復習と課題で1時間を想定しています。

< 提出課題など >

課題提出、資料配布は、Office365（主にTeams）で実施。フィードバックは、授業時、およびTeams等にて実施。

< 成績評価方法・基準 >

毎授業時間における実習成果(40%)、および、1週間程度の提出期限を設ける課題(60%)の提出により評価します。

< テキスト >

各授業ごとに資料を公開。指定テキストはありません。

< 参考図書 >

スクラッチプログラミングの図鑑

松下 孝太郎、山本 光 共著

技術評論社

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

Scratchの基礎 1

授業の進め方

評価方法

課題の提出方法

Scratchの利用方法

Scratchの構成

第2回 Scratchの基礎 2

構造化プログラミング 1

スプライト（オブジェクト）

スクリプト（メソッド）

エントリーポイント

初期化

順次構造

選択構造 1

反復構造 1

第3回 構造化プログラミング 2

関数 1

選択構造 2

反復構造 2

関数とは

第4回 関数 2

変数

ローカル変数

グローバル変数

第5回 アルゴリズム 1

フローチャート

メインルーチンとサブルーチン

第6回 アルゴリズム 2

リストと配列

第7回 アルゴリズム 3

探索（線形探索）

第8回 前半の復習

確認問題による理解度の確認

第9回 アルゴリズム 4

条件分岐

第10回 アルゴリズム 5

データの並び替え（バブルソート）

第11回 VBAプログラミング 1

VBA基礎

モジュールとプロシージャ

第12回 VBAプログラミング 2

VBAコーディング基礎 1

第13回 VBAプログラミング 3

VBAコーディング基礎 2

第14回 VBAプログラミング 4

VBAコーディング応用 1

第15回 VBAプログラミング 5

VBAコーディング応用 2

2022年度 後期

2.0単位

プロジェクト学習基礎

棚橋 浩樹

< 授業の方法 >

「講義」対面授業

< 授業の目的 >

この科目は、全学のDPに示す主体性をもって多様な人々と共同して学ぶ態度を習得することを目指します。大学生活で身につけるべき「チームで課題を解決する力」を身につけます。グループワークの中で小さな成功体験を積み、その結果として多様なメンバーのなかでの自分のリーダーシップスタイルを知っていくことが出来ます。この科目の担当者は、10年間大学生のキャリア教育・就職活動支援の実務経験がある教員です。社会人として必要なスキルや能力を実例を交えて、解説します。

< 到達目標 >

プロジェクトの学びを通して、自ら情報収集を行い、議論をして結果を導く。自らが考えた結果をプレゼンテーションし、仲間と協働する能力と能動的な学習スタイルを身につける。

< 授業のキーワード >

リーダーシップ、プロジェクト学習、課題解決、プレゼンテーション、キャリア

< 授業の進め方 >

15回の授業の中で、実際の企業課題を解決します。学部混成チームを組み（1チーム5名）、グループワークを行います。課題に関する情報収集・ディスカッション・資料作成・プレゼンテーション・報告書作成を行います。

【履修時の注意】

授業の中で、PowerPoint、Wordを多く使用しますので、PCを使っただけの受講を推奨します。

PCを持参出来る人は持参してください。

また、資料作成で使うソフトの使用の仕方のお答えはありますが、

細かく授業の中では触れることが出来ませんので、自己習得する努力をお願いします。

開講クラスによっては日本人と留学生の合同チームを組んでいただく場合もあります。

（語学力を求める科目ではありませんので日本語で対応いただいても問題ありません。）

< 履修するにあたって >

授業のお知らせ・資料配布・レポート課題提出方法についての詳細は初回授業で説明いたします。

この授業は、座学だけではなく、グループワークが主な活動になります。自らがグループに能動的に関わる主体性が求められます。毎回、授業時間外での活動も評価の対象となりますので各自がグループワークに参加するようにお願いいたします。

< 授業時間外に必要な学修 >

時間外に、グループで連絡を取り合い、情報収集などの活動が必要です。各回1時間以上の時間をかけて、グループで授業の振り返りと、課題解決のための行動をしておいてください。

< 提出課題など >

出席課題（毎回）：授業内容・感想・行動計画・意見など

提出課題：レポート・最終プレゼンテーションパワーポイント

< 成績評価方法・基準 >

授業への取り組み姿勢10% 毎回の出席レポート45%
レポート・プレゼンテーションによる評価45%（これは、1年生が履修するのが望ましい講座です）

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の目的と進め方を理解する。シラバスを確認し、15回の進め方・グループワークの進行の仕方を知ります。

第2回 チームビルディング

これから一緒にワークをしていく、チーム分けを行います。

第3回 グループ活動の進め方

グループ活動の進め方や課題解決をするマインドセットについてチームごとに設定します。

第4回 課題発表と質疑

企業の方に来ていただき、課題を発表してもらいます。また、課題についての質疑を行います。

第5回 グループ活動1

「計画の立て方と実行について」をテーマにチーム活動を行います

第6回 グループ活動2

「課題を解決するとはどういうことか」をテーマにチーム活動を行います

第7回 グループ活動3

「情報収集の仕方と活用方法」をテーマにチーム活動を行います。

第8回 中間発表

グループ活動の中間報告をし、他のグループや教員からフィードバックをもらいます。

第9回 グループ活動の振り返り

グループ活動でのチームの在り方や個人個人の参加姿勢などを振り返り、次回以降に備えます

第10回 課題解決にむけてのグループ活動1

グループで集めた情報をもとに、課題を設定します。

第11回 課題解決に向けてのグループワーク2

グループで行動計画にそって、行動し、発表に向けて準備をします。

第12回 課題解決に向けてのグループワーク活動3

グループで行動計画にそって、行動し、発表に向けて準備をします。

第13回 課題解決に向けてのグループ活動4（発表準備）

発表会に向けて、パワーポイントなどの発表ツールの準備をし、練習をします。

第14回 発表（講評と振り返り）

グループごとに発表を行い、課題を提出して下さった企業から、講評をもらいます。

第15回 全体の振り返り（最終レポート作成など）

15回の振り返り、これからの自分の目標を設定します。

2022年度 後期

2.0単位

プロジェクト学習基礎

吉澤 飛鳥

< 授業の方法 >

「講義」対面授業

< 授業の目的 >

この科目は、全学のDPに示す主体性をもって多様な人々

と共同して学ぶ態度を習得することを目指します。大学生活で身につけるべき「チームで課題を解決する力」を身につけます。グループワークの中で小さな成功体験を積み、その結果として多様なメンバーのなかでの自分のリーダーシップスタイルを知っていくことが出来ます。この科目の担当者は、外資系の企業でマーケティングを担当し、新卒採用にも携わってきた実務経験のある教員です。キャリアコンサルタント・産業カウンセラーの資格保有もしており、社会人として必要なスキルや能力を、実例を交えて、解説します。

<到達目標>

プロジェクトの学びを通して、自ら情報収集を行い、議論をして結果を導く。自らが考えた結果をプレゼンテーションし、仲間と協働する能力と能動的な学習スタイルを身につける。

<授業のキーワード>

リーダーシップ、プロジェクト学習、課題解決、プレゼンテーション、キャリア

<授業の進め方>

15回の授業の中で、実際の企業課題を解決します。学部混成チームを組み（1チーム5名）、グループワークを行います。課題に関する情報収集・ディスカッション・資料作成・プレゼンテーション・報告書作成を行います。

【履修時の注意】

授業の中で、PowerPoint、Wordを多く使用しますので、PCを使っただけの受講を推奨します。

PCを持参出来る人は持参してください。

また、資料作成で使うソフトの使用の仕方のお答えにはお答えしますが、

細かく授業の中では触れることが出来ませんので、自己習得する努力をお願いします。

開講クラスによっては日本人と留学生の合同チームを組んでいただく場合もあります。

（語学力を求める科目ではありませんので日本語で対応いただいても問題ありません。）

<履修するにあたって>

授業のお知らせ・資料配布・レポート課題提出方法についての詳細は初回授業で説明いたします。

この授業は、座学だけではなく、グループワークが主な活動になります。自らがグループに能動的に関わる主体性が求められます。毎回、授業時間外での活動も評価の対象となりますので各自がグループワークに参加するようにお願いいたします。

<授業時間外に必要な学修>

時間外に、グループで連絡を取り合い、情報収集などの活動が必要です。各回1時間以上の時間をかけて、グル

ープで授業の振り返りと、課題解決のための行動をしておいてください。

<提出課題など>

出席課題（毎回）：授業内容・感想・行動計画・意見など

提出課題：レポート・最終プレゼンテーションパワーポイント

<成績評価方法・基準>

授業への取り組み姿勢10% 毎回の出席レポート45%
レポート・プレゼンテーションによる評価45%（これは、1年生が履修するのが望ましい講座です）

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

授業の目的と進め方を理解する。シラバスを確認し、15回の進め方・グループワークの進行の仕方を知ります。

第2回 チームビルディング

これから一緒にワークをしていく、チーム分けを行います。

第3回 グループ活動の進め方

グループ活動の進め方や課題解決をするマインドセットについてチームごとに設定します。

第4回 課題発表と質疑

企業の方に来ていただき、課題を発表してもらいます。また、課題についての質疑を行います。

第5回 グループ活動1

「計画の立て方と実行について」をテーマにチーム活動を行います

第6回 グループ活動2

「課題を解決するとはどういうことか」をテーマにチーム活動を行います

第7回 グループ活動3

「情報収集の仕方と活用方法」をテーマにチーム活動を行います。

第8回 中間発表

グループ活動の中間報告をし、他のグループや教員からフィードバックをもらいます。

第9回 グループ活動の振り返り

グループ活動でのチームの在り方や個々人の参加姿勢などを振り返り、次回以降に備えます

第10回 課題解決にむけてのグループ活動1

グループで集めた情報をもとに、課題を設定します。

第11回 課題解決に向けてのグループワーク2

グループで行動計画にそって、行動し、発表に向けて準備をします。

第12回 課題解決に向けてのグループワーク活動3

グループで行動計画にそって、行動し、発表に向けて準備をします。

第13回 課題解決に向けてのグループ活動4（発表準備

)
発表会に向けて、パワーポイントなどの発表ツールの準備をし、練習をします。

第14回 発表（講評と振り返り）

グループごとに発表を行い、課題を提出して下さった企業から、講評をもらいます。

第15回 全体の振り返り（最終レポート作成など）

15回の振り返り、これからの自分の目標を設定します。

2022年度 前期

2.0単位

文章読解

新谷 遥

< 授業の方法 >

対面授業（講義・演習）

< 授業の目的 >

この科目は、全学（学部）のDPに示す「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」を達成するものであり、共通教育科目リテラシー科目群基礎思考分野に属しています。

読解を文章を通じたコミュニケーションととらえ、文章で述べられていることを正確に読み取る能力の向上を目的とします。基本的文法、段落の役割を確認し、文章を読んで学ぶ能力の基礎作りを目指します。

< 到達目標 >

- ・日本語文章の基礎的な文法を説明できる。（知識）
- ・段落を中心とした構造的な読解ができる。（技能）
- ・文章中の事実と意見を読み分け、文章を正確に読み取ることができる。（技能）
- ・文章を必要に応じて要約することができる。（技能）

< 授業のキーワード >

事実・意見 段落 文章構造・構成 ディスカッション

< 授業の進め方 >

ポイント解説を聞く（あるいは読む）、問題に取り組む、解答を確認する、というサイクルを基本とする。毎回、授業内容を確認するミニツツペーパーを提出する。可能な範囲で受講生同士の意見交換の場を設け、自分の読み方の正確さを確認する。

< 授業時間外に必要な学修 >

・事後学習として、授業中に扱った読解問題の確認（目安として1時間）、構造的な文章の読解を習慣化するために関連する書籍を読む（目安として1時間以上）。

< 提出課題など >

基本的に毎回授業内に提出課題を課す。

< 成績評価方法・基準 >

授業内課題（ミニツツペーパー、場合により小テスト）

45%、中間テスト15%、期末テスト40%。中間テスト、

期末テストは受験を必須とする。

それぞれに対する評価の基準は「到達目標」に従いません。

< テキスト >

毎回プリントを配布する。

< 参考図書 >

授業中に紹介する。

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

授業に関する全般的な説明と読解力の確認を行う（出席必須）

第2回 読解演習

文章を読む際の基礎知識を知る（語彙、コロケーション、文体など）

第3回 読解演習

文脈を捉える（接続詞、指示詞、読点など）

第4回 読解演習

事実と意見を読み分ける

第5回 読解演習

文章の構成と段落の役割を考える

第6回 読解演習

文章全体の要旨を捉え、要約する

第7回 前半のまとめ

前半の内容を振り返り、達成度を確認する「中間テスト」を実施する

第8回 課題の確認

テストの解説、確認を行う

第9回 読解演習

コミュニケーションにかんする文章の読解練習（ディスカッション）

第10回 読解演習

異文化にかんする文章の読解練習（ディスカッション）

第11回 読解演習

社会問題にかんする文章の読解練習（ディスカッション）

第12回 読解問題の作成

読解問題の作成を通して、正確な読み取りを確認する

第13回 作成問題の解答

作成した問題を読み手がどのように解答するかを確認する

第14回 読解演習

就職試験等で使われる文章の読解練習

第15回 全体のまとめ

全体のまとめを行い、達成度を確認する「期末テスト」を実施する

2022年度 前期

2.0単位

文章読解

木村 雅則

< 授業の方法 >

講義・演習（対面授業）

< 授業の目的 >

・この授業は、共通教育科目リテラシー科目群基礎思考分野に属しており、全学DPに示すように、以下の3点をめざして、基礎的な思考力・文章読解力を身につけることを目的としています。

1. 広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養する。
2. 幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見する。
3. 相手の意見を理解することで良好なコミュニケーションをとる。

具体的には、大学で学ぶにあたって必要な文章読解力を身につけられるように段階的に学び、さらに様々なジャンルの文章の特徴を学びながら、その読解のための力を身につけることを目指します。

・この授業は「文章読解」の最初の段階ですので、文章読解の基礎となる日本語の力や読解の基本的な方法についても学ぶとともに、あまり長すぎない文章を速く正しく読み取る力を身に付けることを目的とします。

・なお、担当者は、公立高等学校国語科教諭として32年間勤務し、高等学校と国語科の現状を熟知している、実務経験のある教員です。したがって高等学校との接続の観点を生かし、大学の学びに必要な内容を展開することができます。

< 到達目標 >

1. 文章を読解する基本となる日本語の力を身に付けている。
2. 文章を読む時に、どこに注目してどのように読み進めたら良いかがわかる。
3. 様々なジャンルの文章を読解することを通して、文章の構造やその主張を読み取ることができる。

< 授業のキーワード >

国語常識・キーワード・構成・事実と意見

< 授業の進め方 >

1. 基本的には、毎回、授業の冒頭に「小テスト」を実施します。これは授業とは別の一連の流れに従って行います。詳しくは第1回ガイダンスで説明します。
2. 第6回までは、授業前半にその日のテーマの講義と解説、後半は演習と解答チェックの形が中心です。
3. 第8回以降は、授業前半にその日の文章を問題形式で読み、後半に解答チェックとその回の文章やジャンルについて読解のポイントを講義します。
4. 「小テスト」以外でも、必要があれば、提出課題を

指示します。

5. 必要に応じて、教室でのプリント配布以外に、「授業フォルダ」（シラバス最下欄にあり）に資料をアップすることがあります。

< 履修するにあたって >

- ・この授業は、対面授業です。
- ・課題などは、基本的には辞書なしで取り組むことを前提とします。
- ・上にも書きましたが、「小テスト」で出欠点検をすることが多いので、遅刻にはご注意ください。
- ・文章読解の基本は「日本語力」であることを自覚し、日常的に身の回りの言語表現に注目することを心がけてください。
- ・履修上必要なことは、第1回ガイダンスで説明しますので、受講者は必ず出席してください。ガイダンス欠席による不利益は、自己責任としますので、ご注意ください。

・Zoomの操作、dotCampasの操作については、各自の責任で扱えるようにしておいてください。

< 授業時間外に必要な学修 >

・この授業は、予習より復習が大切です。毎回の授業の内容をしっかりと復習し、読解のポイントを身につけてください。（人によってかける時間は違うでしょうが、毎回少なくとも1時間以上は必要だと考えます）

< 提出課題など >

必要に応じて、成績算出に必要なレポートなどの提出課題を指示することがあります。その場合は、指定期日までに提出してください。

< 成績評価方法・基準 >

・前提として、単位認定のためには3分の2以上の出席が必要です。出席は、基本的には授業冒頭の「小テスト」の提出で確認します。ただし、「3分の2以上出席したから自動的に単位が取れる」というわけではありませんので、誤解のないようにしてください。

・欠席や遅刻で「小テスト」を受けていない場合、その日の「小テスト」は0点となります。

・成績は、以下のA + Bを基本として算出します。

A：第6回課題 + 第15回課題。比率50%。

B：「小テスト」の合計30% + 授業中の取組姿勢や授業課題の成績20%。

ただし、遅刻や欠席が連続する場合、睡眠・私語・集中力欠如など授業に積極的に参加している姿勢が見られない場合は、A + Bにかかわらず単位を認定しない場合があります。逆に、Aが悪くてもBが非常に良い場合は、A + Bにかかわらず単位を認定する場合があります。日常の積み重ねを軽く考えないでください。なお「出席」は非常に重視します。

詳しくは第1回の授業で説明しますので、欠席のないようにしてください。

< テキスト >

使用しません。毎回プリントで対応します。詳細は、第1回のガイダンスで説明します。ガイダンス欠席の場合、その不利益は本人の責任としますので、ご注意ください。

<参考図書>

特になし

<授業計画>

第1回 ガイダンス

授業の基本的な進め方や、この授業の約束事、評価のしかたなど、この授業の全てについて説明します。

第2回 いわゆる国語常識 1

慣用句・慣用的表現と、日本語のコロケーション（共起）について学びます。

第3回 いわゆる国語常識 2

日本語の語種とその語感について学びます。

第4回

読解のための基礎知識 1

難意語・難読語とその言い換えなどについて学びます。

第5回 読解のための基礎知識 2

略語・新語とその言い換えなどについて学びます。

第6回 ここまでのまとめ

第5回までの内容についてまとめ、課題に取り組みます。これは「中間考査」にあたるものです。

第7回 文章の読み方の基本 1

キーワードに注目する読み方など、文章読解の基本について学びます。

第8回 文章の読み方の基本 2

全体の構成に注目する読み方など、文章読解の基本について学びます。

第9回 人文系の文章の読解 1

芸術・人生・文学などをテーマとした文章の読解について学びます。

第10回 人文系の文章の読解 2

言語・思想・芸術などをテーマとした文章の読解について学びます。

第11回 社会系の文章の読解 1

政治・経済・国際・文化などをテーマとした文章の読解について学びます。

第12回 社会系の文章の読解 2

政治・環境・教育・福祉などをテーマとした文章の読解について学びます。

第13回 自然系の文章の読解 1

医療・科学技術・情報などをテーマとした文章の読解について学びます。

第14回 自然系の文章の読解 2

医療・生命・健康などをテーマとした文章の読解について

学びます。

第15回 まとめ

これまでの学習のまとめとして、課題に取り組みます。これは「期末試験」にあたるものです。

2022年度 前期

2.0単位

文章読解

岡村 裕美

<授業の方法>

講義と演習

<授業の目的>

この科目は、全学（学部）のDPに示す「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」を達成するものであり、共通教育科目リテラシー科目群基礎思考分野に属しています。

読解を文章を通じたコミュニケーションととらえ、文章で述べられていることを正確に読み取る能力の向上を目的とします。基本的文法、段落の役割を確認し、文章を読んで学ぶ能力の基礎作りを目指します。

<到達目標>

- ・日本語文章の基礎的な文法を説明できる。（知識）
- ・段落を中心とした構造的な読解ができる。（技能）
- ・文章中の事実と意見を読み分け、文章を正確に読み取ることができる。（技能）
- ・文章を必要に応じて要約することができる。（技能）

<授業のキーワード>

事実・意見 段落 文章構造・構成 ディスカッション

<授業の進め方>

ポイント解説を聞く（あるいは読む）、問題に取り組む、解答を確認する、というサイクルを基本とする。毎回、授業内容を確認するミニツッペーパーを提出する。可能な範囲で受講生同士の意見交換の場を設け、自分の読み方の正確さを確認する。

<授業時間外に必要な学修>

・事後学習として、授業中に扱った読解問題の確認（目安として1時間）、構造的な文章の読解を習慣化するための関連する書籍を読む（目安として1時間以上）。

<提出課題など>

基本的に毎回授業内に提出課題を課す。

<成績評価方法・基準>

授業内課題（ミニツッペーパー、場合により小テスト）45%、中間テスト15%、期末定期試験40%。中間テスト、期末テストは受験を必須とする。それぞれに対する評価の基準は「到達目標」に従います。

<テキスト>

毎回プリントを配布する。

< 参考図書 >

授業中に紹介する。

< 授業計画 >

第1回 イン트로ダクション

授業の目的と読解力の確認を行う。

第2回 読解演習

文章を読む際の注意事項、基礎的な文法の確認。

第3回 読解演習

文章構成と語彙、正確に読むことの確認。

第4回 読解演習

事実と意見の確認。

第5回 読解演習

基本的な文章構成要素の確認。

第6回 読解演習

段落の役割の確認。

第7回 前半のまとめ

前半の内容を振り返り、達成度を確認する「中間テスト」を実施する

第8回 課題の確認

テストの解説、確認を行う

第9回 読解演習

コミュニケーションにかんする文章の読解練習（ディスカッション）。

第10回 読解演習

異文化にかんする文章の読解練習（ディスカッション）。

第11回 読解演習

人間関係にかんする文章の読解練習（ディスカッション）。

第12回 問題作成

読解問題の作成を通して、正確な読み取りを確認する

第13回 作成問題の解答

作成した問題を読み手がどのように解答するかを確認する

第14回 読解演習

就職試験等で使われる文章の読解練習。

第15回 全体の振り返り

全体のまとめ、定期試験のポイント解説。

2022年度 後期

2.0単位

文章読解

坂口 佳代

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

この科目は全学DPに示されている「共通教育等を通じて、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養する」「幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる」能力を養うこと

を目的とします。

本授業は文章読解の基礎を学ぶ授業です。そのため、文章を読解するうえで必要となる日本語の基礎知識（文法・漢字・慣用句・時事用語等）を確実に身につけ、そのうえで文章の構成等を把握する力を段階的に育成していきます。

最終的には要旨を正確に捉えるとともに、批判的に読む力を身に付けることができます。

担当教員は中学校・高等学校で17年間国語教師を勤めている実務経験のある教員です。そのため、高等学校までの学びや課題を生かしたうえで、大学において新たな学習成果を積み上げることができます。

< 到達目標 >

1. 漢字、語彙、文法など読解するうえで必要な力を確実に身につける。（知識）
2. 文章の構成と、構成要素の関係性をおおまかに把握することができる。（知識、技能）
3. 文章等にかかれていたことを正確に理解したうえで、自分の意見を論理的に示すことができる。（技能）
4. 仲間と協働で読むことを通じ、自分自身の考えを深め、自身の読みを深めることができる。（態度・習慣）

< 授業のキーワード >

慣用句 時事用語 接続表現 文章構成 要約 クリティカルリーディング

< 授業の進め方 >

毎授業始めに日本語の基礎知識についての小テストを行います。テスト内容については初回の授業で説明をします。

授業ではプリントを配布し、まずは各自がプリント課題に取り組みます。その後、グループにおいて協働で読み、最後に全体で授業のまとめを行います。グループ活動には積極的に参加をしてください。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎授業始めに小テストを行います。範囲は事前に指定し、周知しますので各自学習を進めてください。

また、授業は前授業の学習内容を踏まえ、進めていきます。そのため、授業の復習を少なくとも1時間は行い、知識の定着を図ってください。

< 提出課題など >

毎授業後、ミニツツペーパーを配布し、提出してもらいます。ミニツツペーパーは次の授業で返却します。

< 成績評価方法・基準 >

小テスト20%、授業内課題（ミニツツペーパー等）20%、中間テスト、期末テスト60%で総合的に評価します。

< テキスト >

プリントを配布します。

< 参考図書 >

授業内で紹介します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の進め方、評価の仕方、読解とは何かについて説明します。また、現在のリーディングスキルを測定します。

第2回 指示表現

指示語を中心にその用法を確認し、文脈を把握する練習を行います。

第3回 接続表現(1)

接続語を中心にその用法を確認し、文脈を把握する練習を行います。

第4回 接続表現(2)

接続語を中心にその用法を確認し、文脈を把握する練習を行います。

第5回 事実と意見について

事実と意見の違いを知り、その表現方法の特徴を学ぶ練習を行います。

第6回 文章構成について(1)

論理的な文章の基本的な構成(演繹法・帰納法)について学び、各段落の役割を学ぶ練習を行います。

第7回 文章構成について(2)

キーワードやトピックセンテンスに注目し、それぞれの段落の関係性を学ぶ練習を行います。

第8回 中間テスト

第1回から第7回までの授業内容についてテストを行います。

第9回 中間テストの振り返り&新聞を読む(1)

前授業で行った中間テストの振り返りを行います。

5W1Hを意識して新聞を読む練習を行います。

第10回 新聞を読む(2)

新聞のコラムを要約し、そのコラムについて自分の意見を述べる練習を行います。

第11回 資料を読む

複数の資料を読み、類似点と相違点を比較し、論点をまとめる練習を行います。

第12回 図表を読む

図表が示す事実を読み取り、その事実から自分の意見を主張する練習を行います。

第13回 長文読解(1)

長文読解を通じ、文章の要旨を把握し、要約文を作成する練習を行います。

第14回 長文読解(2)

長文読解を通じ、文章の要旨を把握し、筆者の主張に対し自身の立場を論理的に主張する練習を行います。

第15回 期末テスト&授業の総括

後半の内容についての期末テストを行います。また、これまでの授業内容についての総括を行い、文章読解能力の高まりを確認します。

2022年度 前期

2.0単位

文章読解

木村 雅則

<授業の方法>

講義・演習(対面授業)

<授業の目的>

・この授業は、共通教育科目リテラシー科目群基礎思考分野に属しており、全学DPに示すように、以下の3点をめざして、基礎的な思考力・文章読解力を身につけることを目的としています。

1. 広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養する。
2. 幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見する。
3. 相手の意見を理解することで良好なコミュニケーションをとる。

具体的には、大学で学ぶにあたって必要な文章読解力を身につけられるように段階的に学び、さらに様々なジャンルの文章の特徴を学びながら、その読解のための力を身につけることを目指します。

・この授業は「文章読解」の2段階目ですので、比較的広いジャンルの文章を速く正しく読み取る力を身に付けるとともに、それぞれのジャンルについてのキーワードを学びます。また、文章読解の基礎となる語彙力を伸ばすための手立ても提供する予定です。

・なお、担当者は、公立高等学校国語科教諭として32年間勤務し、高等学校と国語科の現状を熟知している、実務経験のある教員です。したがって高等学校との接続の観点を生かし、大学の学びに必要な内容を展開することができます。

<到達目標>

1. 論理的な文章を読解するポイントを理解し、速く正確に文章を適切に読解することができるようになる。
2. 様々なジャンルにおける「思考のキーワード」を理解し、読解する時の手がかりにすることができる。
3. 漢字能力検定2級程度の漢字や語彙などの知識を習得し、読解に適切に使うことができる。

<授業のキーワード>

対比・主張・キーワード

<授業の進め方>

1. この授業は、対面授業です。
2. 原則として毎回、授業冒頭に「小テスト」を課します。これは、授業とは別の流れで行います。第1回ガイダンスをよく聞いてください。
3. 授業前半に、その日の文章を問題形式で読みます。読解問題を解答してもらい形が多いと思います。
4. 授業の後半に、その回の文章やジャンルについて、読解のポイントを講義します。

5. 必要に応じて、成績算出のための提出課題やレポートを指示することがあります。

<履修するにあたって>

- ・この授業は、対面授業です。
- ・履修上必要なことは、すべて第1回ガイダンスで説明しますので、受講者は必ず出席してください。ガイダンス欠席による不利益は、自己責任とします。
- ・欠席や遅刻で「小テスト」が受けられなかった場合、その回の「小テスト」は0点になります。また、「小テスト」で出欠を確認しますので、ご注意ください。
- ・Zoomの操作、dotCampasの操作については、各自の責任で扱えるようにしておいてください。

<授業時間外に必要な学修>

- ・本授業は復習が大切ですし、復習が必須となります。授業の内容をしっかりと復習し、読解のポイントを身に付けてください(人によってかける時間は違うでしょうが、毎回少なくとも1時間以上は必要です)。

<提出課題など>

- ・必要があれば提出課題を指示することがあります。指示された課題は、指定期日までに提出してください。

<成績評価方法・基準>

- ・前提として、単位認定のためには3分の2以上の出席が必要です。出席は、基本的には授業冒頭の「小テスト」の提出で確認します。ただし、「出席が3分の2以上だから自動的に単位が取れる」というわけではありませんので、誤解のないようにしてください。
- ・欠席や遅刻で「小テスト」を受けていない場合、その日の「小テスト」は0点となります。
- ・成績は、以下のA+Bを基本として算出します。

A: 第8回課題+第15回課題。比率60%。

B: 「小テスト」の合計30%+授業中の取組姿勢や授業課題の成績10%。

ただし、遅刻や欠席が連続する場合、睡眠・私語・集中力欠如など授業に参加している姿勢が見られない場合、「小テスト」があまりに低すぎる回が何度もある場合などは、A+Bにかかわらず単位を認定しないことがあります。逆に、Aが悪くてもBが非常に良い場合は、A+Bにかかわらず単位を認定することもあります。日常の積み重ねを軽く考えないでください。なお「出席」は非常に重視します。

詳しくは第1回の授業で説明しますので、欠席のないようにしてください。

<テキスト>

使用しません。毎回プリントで対応します。

<参考図書>

特にありません。必要に応じて、授業で参考図書等を紹介することがあります。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

授業の基本的な進め方や、この授業の約束事、評価のしかたなど、この授業の全てについて説明します。

第2回 読解の基本的な着眼点

読解問題の基本的な着眼点や解法を、問題演習を通じて確認・講義します。

第3回 テーマ1 環境

地球汚染・自然破壊・温暖化などについての文章を扱い、読解練習を行います。

第4回 テーマ2 人文

文学・哲学・宗教・芸術・歴史などについての文章を扱い、読解練習を行います。

第5回 テーマ3 生活

現代社会・生活・介護・福祉・ジェンダーなどについての文章を扱い、読解練習を行います。

第6回 テーマ4 社会

政治・経済・国家・人口問題などについての文章を扱い、読解練習を行います。

第7回 テーマ5 医療・生命

現代医学・医療現場・健康などについての文章を扱い、読解練習を行います。

第8回 ここまでのまとめ

ここまでの範囲についてまとめをし、レポート課題を指示します。

第9回 テーマ6 言語

日本語・コミュニケーション・言語などについての文章を扱い、読解練習を行います。

第10回 テーマ7 国際

国際問題・貿易・比較文化などについての文章を扱い、読解練習を行います。

第11回 テーマ8 情報

情報社会・インターネットなどについての文章を扱い、読解練習を行います。

第12回 テーマ9 人間

個人の生き方・仕事・人生などについての文章を扱い、読解練習を行います。

第13回 テーマ10 文化・文明

日本文化・異文化理解・文明などについての文章を扱い、読解練習を行います。

第14回 テーマ11 科学・IT

科学技術・科学思想・AIなどについての文章を扱い、読解練習を行います。

第15回 まとめ

全体のまとめを行うとともに、レポート課題を指示します。

2022年度 前期

2.0単位

文章読解

岡村 裕美

< 授業の方法 >

講義と演習

< 授業の目的 >

この科目は、全学（学部）のDPに示す「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」を達成するものであり、共通教育科目リテラシー科目群基礎思考分野に属しています。

読解を文章を通じたコミュニケーションにとらえ、文章で述べられていることを正確に読み取る能力の向上を目的とする。事実と意見を読み分け、文章を構造的に捉える能力の獲得を目指す。

< 到達目標 >

- ・日本語文章の基礎的な文法を説明できる。（知識）
- ・段落を中心とした構造的な読解ができる。（技能）
- ・文章中の事実と意見を読み分け、文章を正確に読み取ることができる。（技能）
- ・文章を必要に応じて要約することができる。（技能）

< 授業のキーワード >

事実・意見 段落 文章構造・構成

< 授業の進め方 >

ポイント解説を聞く（あるいは読む）、問題に取り組む、解答を確認する、というサイクルを基本とする。毎回、授業内容を確認するミニツツペーパーを提出する。

< 授業時間外に必要な学修 >

・事後学習として、授業中に扱った読解問題の確認（目安として1時間）、構造的な文章の読解を習慣化するための関連する書籍を読む（目安として1時間以上）。

< 提出課題など >

基本的に毎回授業内に提出課題を課す。

< 成績評価方法・基準 >

授業内課題（ミニツツペーパー、場合により小テスト）45%、中間テスト15%、期末定期試験40%。中間テスト、期末テストは必須とする。それぞれに対する評価の基準は「到達目標」に従います。

< テキスト >

毎回プリントを配布する。

< 参考図書 >

授業中に紹介する。

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

授業の目的と読解力の確認を行う（出席必須）

第2回 読解演習

接続詞や段落等の確認。

第3回 読解演習

一文一文を丁寧に読むことの必要性の確認。

第4回 読解演習

事実と意見の確認。

第5回 読解演習

基本的な文章構成要素の確認。

第6回 読解演習

段落の役割の確認。

第7回 前半のまとめ

前半の内容を振り返り、達成度を確認する「中間テスト」を実施する

第8回 課題の確認

テストの解説、確認を行う

第9回 読解演習

人文系の専門分野（入門レベル）の文章の読解練習。

第10回 読解演習

人文系の専門分野（入門レベル）の文章の読解練習。

第11回 読解演習

人文系の専門分野（入門レベル）の文章の読解練習。

第12回 問題作成

読解問題の作成を通して、正確な読み取りを確認する

第13回 作成問題の解答

作成した問題を読み手がどのように解答するかを確認する

第14回 読解演習

やや専門的な内容の文章の読解練習を行う

第15回 全体の振り返り

定期試験のポイントを解説する

2022年度 前期

2.0単位

文章読解

新谷 知佳

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

この授業は、全学DPに示される「共通教育等を通じて、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を滋養している」「専門分野に高い関心を持ち、専門領域の課題を考察し、解決するための知識や技能を身につけている」ことと深く関連する科目で、共通教育科目リテラシー科目群基礎思考分野に属しています。大学での学びおよび社会生活で必要となる読解力の基礎を見つけることを目的に、様々な分野の概論書や専門書から、特に社会生活において重要だと思われる部分を抜き出して読み深めていきます。この授業では、文章をどれだけ正確に読むことができるかという点について、実践的な形で能力の向上を目指します。

< 到達目標 >

- ・文章読解を通じて、書き手の主張を正確に理解できるようになる。
- ・書き手が用いている論拠の構造を明確に理解できるようになる。
- ・基本的な語彙、論理展開、文章の構成について理解できるようになる。
- ・読んで理解した内容について、自分の言葉で説明することができる。
- ・意見と事実を識別して、客観的に文章を捉えられるようになる。
- ・文章そのものを正確に読むことができる。

<授業のキーワード>

文章読解 読解力 実践練習 グループワーク

<授業の進め方>

- ・指定された課題に取り組み、必要に応じて提出してもらいます。課題は解説・フィードバックを行い、理解を深めます。必要に応じて、グループワーク・発表をしてもらった場合があります。

<履修するにあたって>

- ・課題に積極的に取り組むこと。
- ・わからない語句等を調べる際は、適宜辞書（電子辞書）を使用すること（インターネットでの安易な検索は控えてください）。
- ・環境・進度によって授業計画が前後・変更される場合があります。

<授業時間外に必要な学修>

語彙などの基礎的な知識を定着させ、読解能力を向上させるために、目安として授業の前後に約1時間の学修・読書が必要です。

<提出課題など>

文章の要約を含め、10回程度提出課題を課します。

<成績評価方法・基準>

- ・授業内で実施する小課題（持ち帰り含む）60%
- ・達成度確認テスト40%

<テキスト>

テキストは使用せず、プリントを配布します。

<参考図書>

授業中に適宜紹介します。

<授業計画>

第1回 イン트로ダクション

授業内容や進め方について説明する。また、現時点での文章読解力・表現力を測るための簡単な課題を課す。

第2回 文章読解1

文章を読解するうえで必要となる表現を学ぶ。特に漢字・慣用句・四字熟語を中心に扱う。

第3回 文章読解2

ニュース記事の読み比べを通して、読解の際に注意すべきことを学ぶ

第4回 文章読解3

要約の基礎と技法を学ぶ。文章を読解するうえで必要となる表現を学ぶ。

第5回 文章読解4

要約の基礎と技法を学ぶ。与えられた文章を読み、その内容のアウトラインおよび要約について検討する。

第6回 文章読解5

ニュース記事の読み比べを通して、読解の際に注意すべきことを学ぶ

第7回 文章読解6

要約の基礎と技法を学ぶ。与えられた文章を読み、その内容のアウトラインおよび要約について検討する。

第8回 文章読解7

文章の要旨の捉え方について学ぶ。与えられた文章を読み、その構成や要旨を把握する。

第9回 文章読解8

文章の要旨の捉え方について学ぶ。与えられた文章を読み、その構成や要旨を把握する。

第10回 文章読解9

文章の要旨の捉え方について学ぶ。与えられた文章を読み、その構成や要旨を把握する。

第11回 文章読解10

第5～10回の内容を踏まえた上で与えられた文章を読み、各課題に実践的に取り組む。

第12回 文章読解11

第5～10回の内容を踏まえた上で与えられた文章を読み、各課題に実践的に取り組む。

第13回 資料読解1

資料を読み、その内容を要約する。

第14回 資料読解2

資料を読み、その内容を要約する。

第15回 授業の振り返り

これまでに学んだ内容を振り返り、自身の文章読解力を改めて確認する。達成度確認テストを行う。

2022年度 後期

2.0単位

文章読解

米澤 優

<授業の方法>

講義・演習

<授業の目的>

本科目は、レポートを書く際や今後の生活で必要となってくる論理的思考力を鍛え、分析的・批判的に文章が読めるようになることを目的とします。

全学DPに示される5つの能力・態度を身につけることを目指す科目で、特に「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」「獲得した知識や技能

を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる」という能力・態度を身につけることを目指します。

<到達目標>

- ・ 接続表現・指示表現を理解し、文脈を把握できるようになる（知識・技能）
- ・ 論証を理解し、論証の構造を把握できるようになる（知識・技能）
- ・ 分析的・批判的に文章を読めるようになる（知識・技能）
- ・ グループワークを円滑に進め、他者と協力して成果を上げることができる（態度・習慣）

<授業のキーワード>

文章読解、接続表現、論証、クリティカル・リーディング、グループワーク

<授業の進め方>

テーマについての解説の後、グループで話し合っ問題て問題を解き、その解答を発表してもらいます。その後、解説を行い、理解を深めます。

また、グループは固定せず、毎回変更します。

<履修するにあたって>

- ・ 単位の認定には、2回の確認テストの受験と2/3以上の出席が必要です。
- ・ 出席しているかどうかは、グループで協調して課題に積極的に取り組んでいるか、積極的に発表しているかなどで判断します（つまり、ただ教室にいるだけでは出席と見なしません）。
- ・ 遅刻・授業中の無断退席・私語・携帯電話の操作などは大きく減点します。
- ・ 毎回グループワークを行うので、積極性だけでなく、協調性も必要となります。
- ・ 分からない語句を調べるために、辞書（電子辞書）を持参してください（携帯電話の使用は認めません）。
- ・ 進度によって、授業計画が前後・変更されることがあります。

<授業時間外に必要な学修>

毎回必ず復習し、授業内容の理解・定着に努めてください。そのうえで、しっかり時間をかけて考えて課題に取り組んでください。最低1時間以上は必要だと思います。授業内容についてさらに詳しく知りたい場合などには、授業中に示された参考書を読んでください。

また、授業で示された問題を解くだけでは、読解力や論理的思考力は身につけません。学習したことを念頭に置いて、日頃から積極的にさまざまな文章を読み、分析的・批判的に考え、理解を深めてください。読解力（さらには表現力）の基礎となる語彙力をつける必要もあるので、分からない語彙は調べるようにしてください。

目安として示す時間は、それぞれの不足している知識・能力によるので難しいですが、1時間以上は必要ではな

いかと思います。

<提出課題など>

ほぼ毎回課題を課します。

確認テストを2回行います。

いずれも授業でフィードバックします。

<成績評価方法・基準>

参加度（グループワーク・課題の提出・発表）40%、2回の確認テスト60%で評価します。

単位の認定には、2回の確認テストの受験・2/3以上の参加が必要です。

授業に参加しているかどうかは、グループで協調して課題に積極的に取り組んでいるか、積極的に発表しているかなどで判断します。

<テキスト>

プリントを配布します。

<参考図書>

野矢茂樹（2001）『論理トレーニング 101題』産業図書

野矢茂樹（2006）『新版 論理トレーニング』産業図書

福澤一吉（2012）『文章を論理で読み解くためのクリティカル・リーディング』NHK出版

その他、必要に応じて、授業中に紹介します。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

授業の概要を説明し、アイスブレイクを行います。

第2回 接続表現

接続表現について練習問題を解き、その用法を確認します。

第3回 指示表現と接続の構造

指示表現について練習問題を解き、その用法を確認します。指示表現・接続表現を踏まえ、接続の構造について考えます。

第4回 論証

論証とは何かを学習します。接続詞や述語に注目し、根拠となる部分・主張となる部分を見つける練習をします。

第5回 演繹的論証と帰納的論証

演繹的論証・帰納的論証について学習し、論証について理解を深めます。

第6回 論証の構造

論証の構造を分析し、論証について理解を深めます。

第7回 論証の構造

さらに論証の構造を分析し、論証について理解を深めます。

第8回 これまでのまとめと確認

前半のまとめをし、これまでの内容が身についているか確認するためにテストを行います。

第9回 価値評価

価値評価の論証構造について考え、論証について理解を深めます。

第10回 根拠

主張を支える根拠として、どのようなものが使われているか考えます。また、因果関係についても考えます。

第11回 隠れた前提

演繹的論証の前提となっている根拠について考え、論証について理解を深めます。

第12回 曖昧な表現

主観的な表現や曖昧な表現などに注目し、主張を支える根拠についてさらに考えます。

第13回 クリティカル・リーディング

これまでの学習内容を踏まえ、分析的・批判的に読む練習をします。

第14回 クリティカル・リーディング

さらに分析的・批判的に読む練習をします。

第15回 全体のまとめと確認

全体のまとめをし、確認テストを行います。

2022年度 後期

2.0単位

文章読解

新谷 知佳

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

この科目は全学DPに示される「共通教育等を通じて、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養している」「幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる」能力を養うことを目的としています。

この授業では、文章を読み理解する能力を高め、文章を読解するうえで必要となる基礎知識（漢字・四字熟語・慣用句・敬語など）について学びます。また、文章読解に必要な、構成を把握する力や、文脈把握の力を育成します。

それらの能力を身につけることにより、社会に出てからも、他者との円滑な交流が可能になります。

この科目は事情によりシラバス内容が変更される可能性があります。

< 到達目標 >

1. 文章を読解するうえで必要となる、漢字・熟語・慣用句などの基礎能力が身につく。2. 敬語について理解し、正確に使えるようになる。3. 指示語・接続語を理解し、文脈を把握できるようになる。4. 各段落の役割を捉え、文章全体の構成を把握することができるようになる。5. 文章全体の要旨を適切に把握できるようになる。

< 授業のキーワード >

文章 漢字 慣用句 敬語 主語と述語

< 授業の進め方 >

毎回プリントを配布し、それに沿って授業を行います。

< 履修するにあたって >

事前に漢検3級程度のテキストに目を通しておくとう良いでしょう。

< 授業時間外に必要な学修 >

原則的に毎回の授業で習熟度をはかる課題を課しますが、それが宿題になることもあります。

毎回の授業の積み重ねがないと課題をこなすことができませんので、帰宅後は、その日の授業で学んだ内容を復習して下さい。

ほぼ毎回語彙テストや復習テストを実施するため、毎週、授業後に少なくとも1時間の復習が必要です。

< 提出課題など >

習熟度チェックのための課題や小テストを提出してもらいます。

< 成績評価方法・基準 >

課題提出60%、確認テスト(2回)40%

< テキスト >

プリントを配布します。

< 参考図書 >

なし

< 授業計画 >

第1回 授業の概要説明

授業概要の説明。また、読解力の重要性について考えます。

第2回 実力テスト

現時点での読解力を測るテストを行います。

第3回 語彙

概念などに関わる頻出キーワードについて学びます。

第4回 語彙

概念などに関わる頻出キーワードについて学びます。

第5回 文脈把握（指示語）

文脈を捉えるために必要となる指示語について、その用法を確認し、文脈を把握する練習をします。

第6回 文脈把握（接続語）

文脈の流れを捉えるために必要となる接続語について、その用法を確認し、文脈を把握する練習をします。

第7回 文章整序

指示詞、接続詞に注意しながら過去の公務員試験に取り組みます。

第8回 前半（1～7）のまとめ

確認テスト

前半の内容について復習し、文章読解能力の高まりを確認します。

まとめの小テストを実施します。

第9回 文章構成把握（構成の確認）

論理的な文章の構成を確認し、各段落の役割を指摘できるように練習します。

第10回 文章構成把握（構成の把握）

段落を適切に分け、その内容を示すトピックセンテンスについて考えます。文章の構成を捉えると同時に、文脈に沿って要旨を捉える練習となります。

第11回 要旨把握

過去の公務員試験を元に実践的読解練習を行います。

第12回 内容把握

文章の主張を捉え、内容を適切に把握する練習をします。

第13回 内容把握

文章の主張を捉え、内容を適切に把握できるように問題に取り組みます。

第14回 文学的文章

文学的文章を読解します。また、比較を通して、論理的文章の特徴を再確認します。

第15回 後半(9~14)のまとめ

確認テスト

後半の内容について復習し、文章読解能力の高まりを確認します。

まとめの小テストを実施します。

2022年度 前期

2.0単位

文章読解

大谷 通高

< 授業の方法 >

対面での講義

< 授業の目的 >

この科目は、全学(学部)のDPに示す「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」を達成するものであり、共通教育科目リテラシー科目群基礎思考分野に属しています。

「文章表現」・「文章読解」で培った基本的な文章能力を具体的な評価の獲得につなげ、SPI3の言語領域(および一部公務員試験の国語・文章理解)の問題に対応できることを目的とします。また日常の場面を意識した文章読解に関するグループワークを行い、SPI1の文章問題に正解することだけでなく、素材となる語彙や文章について理解を深め、豊かな言語生活を送るための基礎的な教養を身につけることを目指します。

< 到達目標 >

- ・就職試験で課されるレベルの語彙、慣用句、文法問題に一定の割合で正解できる。(知識)
- ・就職試験で課されるレベルの文章読解問題について、限られた時間で内容を正確に把握できる。(知識、技能)
- ・日常の活動における文章読解能力が向上する。

< 授業のキーワード >

SPI3(言語)、日常の活動、文章読解、グループワーク

< 授業の進め方 >

ポイント解説を聞く(あるいは読む)、問題に取り組む、解答を確認する、というサイクルを基本とします。毎回のテーマに係る何らかの課題を毎回提出してもらいます。なお、本授業計画は、一部変更になる場合もあります。

< 履修するにあたって >

- ・課題に積極的に取り組むこと。
- ・環境・進度によって授業内容が前後・変更する場合があります。

< 授業時間外に必要な学修 >

就職試験で課される問題は範囲が非常に広いため、毎日の積み重ねが必須です。頻出とされる問題は復習が必要ですし、反復練習が結果に結びつきやすいので、授業で与えられる課題以外にも自分で問題集などに取り組むことが必要です。時事的な話題についての文章はもちろん、長文読解問題は、思想や文化がテーマになった文章が使用されることも多いので、幅広い分野の文章(とくに書籍)を毎日少しずつでも読むことを強く推奨します(目安として合計1~2時間程度)。

< 提出課題など >

必要に応じてコメントして返却し、または翌週解説します。

< 成績評価方法・基準 >

100%授業時間内・あるいは時間外に提出を課した課題で評価します。

< テキスト >

使用しません。

< 参考図書 >

授業中に適宜紹介します。

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

SPIや公務員試験の例題を解いて必要な知識や読解力は何かを把握する。

文章読解にかかるグループワークを行うことで、文章読解の多義性を実感する。

第2回 同意語・反意語

「作品系読解」のワーク

同意語・反意語の特徴を学び、練習問題を解く。

流行歌の歌詞の読解に関するグループワークを行う。

第3回 二語関係

「相談系読解」のワーク

語と語との関係の特徴を学び、練習問題を解く。

相談文を読んで、自身の立場を踏まえた文章読解に関するグループワークを行う。

第4回 語句の意味

「学術系読解」のワーク

日本語の語彙の特徴を学び、練習問題を解く。

学術エッセイや文学作品などの読み解きに関するワークを行う。

第5回 複数の意味

「作品系読解」のワーク

日本語の文法の特徴を概観し理解を深めた上で練習問題を解く。

流行歌の歌詞の読解に関するグループワークを行う。

第6回 空所補充・文章整序

「相談系読解」のワーク

短文の文章構成を概観し理解を深めた上で練習問題を解く

相談文を読んで、自身の立場を踏まえた文章読解に関するグループワークを行う。

第7回 中間試験

これまでの内容を振り返り、確認のための試験を行う。

第8回 日本語の文法

「学術系読解」のワーク

日本語文法の特徴を概観し理解を深めた上で練習問題を解く。

学術エッセイや文学作品などの読み解きに関するワークを行う。

第9回 語彙・敬語

文章読解に関するワーク

語彙にかんする基本的な概念および敬語の原則を理解したうえで練習問題を解く。

「作品系」「相談系」「学術系」を混ぜた読解のワークを行う。

第10回 漢字・言葉の用法

文章読解に関するワーク

間違いやすい漢字や表現について確認し、練習問題を解く。

「作品系」「相談系」「学術系」を混ぜた読解のワークを行う。

第11回 慣用表現

文章読解に関するワーク

間違いやすい慣用表現や四字熟語について確認し、練習問題を解く。

「作品系」「相談系」「学術系」を混ぜた読解のワークを行う。

第12回 ことわざ・故事成語

文章読解に関するワーク

一般的なことわざや故事成語について確認し、練習問題を解く。

「作品系」「相談系」「学術系」を混ぜた読解のワークを行う。

第13回 文章理解

文章読解に関するワーク

限られた時間で文章の内容を把握するための練習をする。

「作品系」「相談系」「学術系」を混ぜた読解のワークを行う。

第14回 達成度の確認

全体を復習し、達成度を確認する試験を行う。

第15回 全体のまとめ

全体を振り返り、それぞれの課題を明らかにする。

2022年度 前期

2.0単位

文章読解

酒井 雅史

< 授業の方法 >

講義 6月20日(日)に緊急事態宣言が解除された場合
対面授業(講義)

< 授業の目的 >

この科目は、全学(学部)のDPに示す「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」を達成するものであり、共通教育科目リテラシー科目群基礎思考分野に属しています。

「文章表現・」「文章読解?」で培った基本的な文章能力を具体的な評価の獲得につなげ、SPI3の言語領域(および一部公務員試験の国語・文章理解)の問題に対応できることを目的とします。正解することだけでなく、素材となる語彙や文章について理解を深め、豊かな言語生活を送るための基礎的な教養を身につけることを目指します。

< 到達目標 >

・就職試験で課されるレベルの語彙、慣用句、文法問題に一定の割合で正解できる。(知識)

・就職試験で課されるレベルの文章読解問題について、限られた時間で内容を正確に把握できる。(知識、技能)

< 授業のキーワード >

SPI3(言語)

< 授業の進め方 >

ポイント解説を聞く(あるいは読む)、問題に取り組む、解答を確認する、というサイクルを基本とします。毎回のテーマに関係する何らかの課題を毎回提出してもらいます。

< 履修するにあたって >

・課題に積極的に取り組むこと。

・環境・進度によって授業内容が前後・変更する場合があります。

< 授業時間外に必要な学修 >

就職試験で課される問題は範囲が非常に広いため、毎日の積み重ねが必須です。頻出とされる問題は復習が必要ですし、反復練習が結果に結びつきやすいので、授業で与えられる課題以外にも自分で問題集などに取り組むことが必要です。時事的な話題についての文章はもちろん、長文読解問題は、思想や文化がテーマになった文章が使用されることも多いので、幅広い分野の文章(とくに書籍)を毎日少しずつでも読むことを強く推奨します(目

安として合計1～2時間程度)。

<提出課題など>

必要に応じてコメントして返却し、または翌週解説します。

<成績評価方法・基準>

100%授業時間内・あるいは時間外に提出を課した課題で評価します。

<テキスト>

使用しません。

<参考図書>

授業中に適宜紹介します。

<授業計画>

第1回 イントロダクション

SPIや公務員試験の例題を解き、必要な知識や読解力は何かを把握する。

第2回 同意語・反意語

同意語・反意語の特徴を学び、練習問題を解く。

第3回 二語関係

語と語との関係の特徴を学び、練習問題を解く。

第4回 語句の意味

日本語の語彙の特徴を学び、練習問題を解く。

第5回 複数の意味

日本語の文法の特徴を概観し理解を深めた上で練習問題を解く。

第6回 空所補充・文章整理

短文の文章構成を概観し理解を深めた上で練習問題を解く。

第7回 中間試験

これまでの内容を振り返り、確認のための試験を行う。

第8回 日本語の文法

日本語文法の特徴を概観し理解を深めた上で練習問題を解く。

第9回 語彙・敬語

語彙にかんする基本的な概念および敬語の原則を理解したうえで練習問題を解く。

第10回 漢字・言葉の用法

間違いやすい漢字や表現について確認し、練習問題を解く。

第11回 慣用表現

間違いやすい慣用表現や四字熟語について確認し、練習問題を解く。

第12回 ことわざ・故事成語

一般的なことわざや故事成語について確認し、練習問題を解く。

第13回 文章理解

限られた時間で文章の内容を把握するための練習をする。

第14回 達成度の確認

全体を復習し、達成度を確認する試験を行う。

第15回 全体のまとめ

全体を振り返り、それぞれの課題を明らかにする。

2022年度 後期

2.0単位

文章読解

木村 雅則

<授業の方法>

対面授業(講義・演習)

<授業の目的>

1. この授業は、全学(学部)DPで示される「共通教育等を通じて、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養している」「専門分野に高い関心を持ち、専門領域の課題を考察し、解決するための知識や技能を身につけている」ことと深く関連するとともに、共通教育センターが目指す学生の到達目標のうち、「生涯にわたって自発的に学び続けていくことができる」に関する科目で、基礎思考分野に属しています。その上で、将来、中学校及び高等学校の国語科教員を目指す学生を対象としたものです(国語科の教員免許を取得しない人、国語教育にかかわる職業に関心がない人は受講を控えてください)。

2. 教員採用試験の過去問題を実際に解き、その読解・分析を通して、国語に関する基礎学力を向上させるとともに、国語科教員としての自覚をより高めることを目指します。

3. 本授業の担当者は、京都府立高等学校で32年間国語科教諭として勤務し、高等学校および国語科の実情を熟知した、実務経験を持つ教員です。その経験を生かし、より実践的な観点から教員採用試験問題を読解・分析していきます。

<到達目標>

・教員採用試験問題の演習・分析を通して、要求されている学力を知り、自分にとっての対策を考えることができる。

・どのような国語力が国語科教員に求められているのかを理解することができる。

・国語科教員として備えておくべき知識や態度を身に付けることができる。

<授業のキーワード>

教員採用試験 現古漢 学習指導要領 読解力

<授業の進め方>

・この授業は、対面授業です。

・基本的には、毎回、教員採用試験の過去問をその場で解き、解説と分析を講義します。

・必要があれば、文章を読解するための方策や、基本的知識の拡充についての講義も行います。

・受講人数によりますが、授業と並行して個々の受講生が取り組む問題を指示し、その成果の提出を求める予定です。また、これも受講人数によりますが、できる限り

個々の受講生のニーズに合わせて授業を進めたいと考えています。

・詳しくは、第1回ガイダンス時に説明しますので、欠席しないようにしてください。

<履修するにあたって>

この授業は、中学校及び高等学校の国語科教員を目指す人を対象とした授業ですので、国語科の教員免許を取得しない人や国語教育にかかわる職業や内容に興味・関心がない人は受講を控えてください

・第1回ガイダンスは必ず出席してください。欠席による不利益は自己責任とします。

・授業には皆出席が基本です。また、受講態度については、国語科教員（塾・予備校講師を目指す人も含む）として相応しい態度を求めます。

・授業の進め方もありますので、受講者は各自の課題を明らかにして受講してください。

・個別に指定する図書（過去問集や教員試験対策用問題集など）を1冊購入してもらう予定をしています。詳細は授業中に説明しますが、そのつもりをしておいてください。

・教員採用試験は自治体ごとにより異なるので、受講時までには自分の志望を固めておく（または絞っておく）ことが望ましい状態です。これから決めるという場合も考えられますが、早く決めれば早く対策を取れることを知っておいてください。

<授業時間外に必要な学修>

・授業と並行して、受講者個々に対して個別の課題を指示する予定です。授業の復習と併せて、その課題に取り組んでください。1日1時間程度が目途になると考えます。

・自分の志望する自治体の教員採用試験の過去問を調査してください。詳細は授業で説明します。

・国語という教科では、世の中のすべての事象が教材となりえます。どんな教材を作成できるか常に考え、国語科教員らしい思考法を身に付けてください。

・上記以外にも、多くの本を読み、教員採用試験に向けて勉強し、教員としての自覚を養ってください。

<提出課題など>

個々に指示した課題のほか、全体にレポート課題を課す予定です。

<成績評価方法・基準>

・授業には皆出席が基本ですが、大前提として、授業回数数の3分の2以上の出席がある人だけを評価対象とします。

・基本算出式 = 2回の授業時課題（中間・到達度）50% + それ以外の課題（レポートや個別のもの）25% + 授業への参加態度（出欠遅刻などを含む）25%とします。ただし、上記3項目のうち1つでも著しく低い場合は、単位を認定しないことがあります。

<テキスト>

授業での問題演習はプリントで対応します。ただし、前述したように、個別に指導する図書を購入する予定ですので、その図書をテキストとして使用することがあります。

<参考図書>

受講人数によりますが、個別に指定する図書（過去問集や教員試験対策用問題集など）を1冊購入してもらう予定をしています。詳細は第1回ガイダンス時に説明します。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

本授業についてガイダンスします。欠席しないでください。

第2回 教員試験過去問演習1

教員採用試験のうち、基本的な現代文の問題を演習・解説します。

第3回 教員試験過去問演習2

教員採用試験のうち、基本的な古文の問題を演習・解説します。

第4回 教員試験過去問演習3

教員採用試験のうち、基本的な漢文の問題を演習・解説します。

第5回 教員試験過去問演習4

教員採用試験のうち、頻出する現代文の問題を演習・解説します。

第6回 教員試験過去問演習5

教員採用試験のうち、頻出する古文の問題を演習・解説します。

第7回 教員試験過去問演習6

教員採用試験のうち、頻出する漢文の問題を演習・解説します。

第8回 中間試験に代わる課題

これまで学習した内容を中心に、中間試験に代わる課題（現・古・漢）を出し、提出を求めます。

第9回 教員試験過去問演習7

教員採用試験のうち、やや難度の高い現代文の問題を演習・解説します。

第10回 教員試験過去問演習8

教員採用試験のうち、やや難度の高い古文の問題を演習・解説します。

第11回 教員試験過去問演習9

教員採用試験のうち、やや難度の高い漢文の問題を演習・解説します。

第12回 教員試験過去問演習10

教員採用試験のうち、特徴的な設問を持つ現代文の問題を演習・解説します。

第13回 教員試験過去問演習11

教員採用試験のうち、特徴的な設問を持つ古文の問題を演習・解説します。

第14回 教員試験過去問演習12

教員採用試験のうち、特徴的な設問を持つ漢文の問題を演習・解説します。

第15回 到達度確認課題

本授業の内容がどの程度定着しているか、課題（現・古・漢）によって確認します。なお、この答えは返却しません。

2022年度 後期

2.0単位

文章読解

清田 朗裕

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

本授業は、神戸学院大学の全学DPのもと、共通教育センターが目指す学生の到達目標のうち、特に以下の2点に関する科目で、基礎思考分野に属しています。

1. 学修した知識・技能を活用して、人との円滑な交流を行ない、自立した生活を送ることができる。
2. 自立的な学修基盤を備え、生涯学び続けていくことができる。

この到達目標を達成するための一環として、本授業では、主に公務員試験の過去問題を教材として取り上げ、大学生として、また社会人として自立するための基礎となる日本語の文章読解能力の向上を目指します。担当教員は私立高校で11年間国語の非常勤講師を勤めた実務経験のある教員であるので、より実践的な観点から教授する。

< 到達目標 >

1. 公務員試験（文章理解）の問題を解けるようになる
2. 課題文を適切に要約できるようになる
3. 要約した内容を検討し、修正できるようになる
4. 修正した内容を発表できるようになる

< 授業のキーワード >

文章理解 公務員試験 読解方略 要約 ペア活動

< 授業の進め方 >

基本的には、以下の1～5の内容を、2回構成で実施し、それを繰り返します（1回目に1～3を、2回目に4～6を実施する予定）。

1. 課題文を読み、問題を解く（+ 解答提示）
2. 課題文の内容把握を行う
3. 課題文の要約文を作成する
4. ペア活動・グループ活動により、互いの要約文を検

討・修正する

5. 検討し、修正した要約文を全体に発表し、質疑応答

6. 教員によるまとめ

< 履修するにあたって >

受講登録者にのみ、資料の接続先を連絡する予定ですので、受講予定の人は、早めに受講登録をすましておいてください。不明な点がある人は、下部【連絡先】まで。

・ペア活動・グループ活動を行います。

・授業資料はdotCampus上にあげることがあります。

・課題文に書き込むための色付きのペン（複数）を用意してください。

【連絡先】

kiyotakihiro@outlook.com

< 授業時間外に必要な学修 >

課題文に出てくる語彙を調べたり、よりよい要約文作成や発表に向けて準備する時間として、授業前後1時間程度の学修が必要です。

また、授業で取り上げなかった公務員試験の過去問題にも取り組み、理解を深めてください。

< 提出課題など >

授業中に取り組む要約課題や発表時に使用する資料を提出してもらいます。

dotcampus上に提出場所を用意する予定です。

< 成績評価方法・基準 >

【成績評価方法】以下の1, 2を評価する。ただし、最終レポートが未提出の場合は、即不可とする。

1. 毎回の課題（発表・討議含む）（60%）
2. 最終レポート（40%）

【基準】

1については、授業時に課す課題への記述内容・表現形式や、数回実施する予定の発表内容・態度と、討議における積極性（例：質問し理解を深めようとしている、よりよい表現を提案する等）を評価する。

2については、文章要約の課題を課し、その記述内容・表現形式を評価する。

< テキスト >

資料を配付します。

< 参考図書 >

購入する必要はありませんが、以下の図書は読解力の理論を知るのに有益です。

秋田喜代美（2002）『読む心・書く心 文章の心理学入門』北大路書房

大村彰道監修、秋田喜代美・久野雅樹編（2001）『文章理解の心理学 認知、発達、教育の広がりの中で』北大路書房

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業概要や受講に当たってのルール説明等を行います。

第2回 読解方略

文章読解時に必要とされる能力について解説します。

その後、課題（文）を通じて理解を深めます。

第3回 実習1-1

公務員試験（文章理解）の過去問題を解きます。

その後、文章内容を検討し、要約文を作成します。

第4回 実習1-2

公務員試験（文章理解）の過去問題を解きます。

その後、文章内容を検討し、要約文を作成します。

第5回 実習2-1

ペア活動・グループ活動を通じ、第3回に作成した要約内容を検討します。

その後、発表・討議を行います。

第6回 実習2-2

ペア活動・グループ活動を通じ、第4回に作成した要約内容を検討します。

その後、発表・討議を行います。

第7回 実習3-1

公務員試験（文章理解）の過去問題を解きます。

その後、文章内容を検討し、要約文を作成します。

第8回 実習3-2

公務員試験（文章理解）の過去問題を解きます。

その後、文章内容を検討し、要約文を作成します。

第9回 実習4-1

ペア活動・グループ活動を通じ、第7回に作成した要約内容を検討します。

その後、発表・討議を行います。

第10回 実習4-2

ペア活動・グループ活動を通じ、第8回に作成した要約内容を検討します。

その後、発表・討議を行います。

第11回 実習5-1

公務員試験（文章理解）の過去問題を解きます。

その後、文章内容を検討し、要約文を作成します。

第12回 実習5-2

公務員試験（文章理解）の過去問題を解きます。

その後、文章内容を検討し、要約文を作成します。

第13回 実習6-1

ペア活動・グループ活動を通じ、第11回に作成した要約内容を検討します。

その後、発表・討議を行います。

第14回 実習6-2

ペア活動・グループ活動を通じ、第12回に作成した要約内容を検討します。

その後、発表・討議を行います。

第15回 総括

授業の総括を行い、本授業を通して学修した内容を振り返ります。

また、最終課題についての連絡を行います。

2022年度 前期

2.0単位

文章表現（工）【経済】

木村 雅則、米澤 優

< 授業の方法 >

講義・演習（対面授業）

< 授業の目的 >

・この授業は、共通教育科目リテラシー科目群基礎思考分野に属しており、全学DPに示すように、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養するとともに、自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることをめざし、基礎的な思考力・表現力を身につけることを目的としています。具体的には、大学で学ぶにあたって必要な、課された課題に適切に応えることができる表現力を身につけられるように段階的に学び、社会人として必要な基本的な考え方や技術を身につけることを目指します。

・この授業は「文章表現」の最初の段階ですので、さしあたって表現のための基本的な事項や言語表現の周辺の知識・事項を、実際に演習しながら理解し体得することを目的とします。

・なお、担当者は、公立高等学校国語科教諭として32年間勤務し、高等学校と国語科の現状を熟知している、実務経験のある教員です。したがって高等学校との接続の観点を生かし、大学の学びに必要な内容を展開することができます。

< 到達目標 >

・文章の表現を通じて日本語の性質や特徴を学び、それらを身に付けることができる。

・スマホのフリック入力や携帯電話のトルグ入力ではなく、手にした筆記具を使って正しく文を書くことができる。

・敬語・手紙・電子メールなどについての約束事を学び、相手に失礼のないコミュニケーションをとることができる。

< 授業のキーワード >

表記法・敬語・定型文・通信文・伝達ツール

< 授業の進め方 >

・対面授業とします。第1回の授業も、対面授業です。

・基本的には、授業の冒頭に「小テスト」を課します（「小テスト」の無い回もあります）。この時は、その「小テスト」の提出で出欠を確認しますので、遅刻にご注意ください。

・授業は、下に示した「テキスト」を読み進めながら、付属の「ワークブック」を使って課題に取り組むことが中心になります。また「ワークブック」の代わりに、回によっては独自の課題を提示することがありますが、そ

の場合の課題は授業で配布します。

・出席は、授業冒頭の「小テスト」の提出、または課題の提出で確認します。また、その場で点呼を取ることもあります。

・授業での課題以外に、宿題や予習の課題を課すことがあります。

・詳細については、第1回ガイダンスで説明する予定です。

<履修するにあたって>

・第1回の授業(ガイダンス)をよく聞いて、それに従ってください。特に第1回の授業は欠席しないでください。聞かなかったことによる不利益は本人の自己責任ですので、ご注意ください。

・身の回りにある間違った日本語表現にも敏感に反応できる言語感覚を磨いてください。

・テキストの未購入やワークブックの紛失の場合、単位を認定しません。ご注意ください。

・Zoomの操作、dotCampasの操作については、各自の責任で扱えるようにしておいてください。

・Microsoft Wordの利用方法、またメールソフトの取り扱い方法について、不明なところは、インターネット等を用いて自ら情報収集して身につけておいてください。

<授業時間外に必要な学修>

・この授業は、予習よりも復習が大切になります。毎時間の内容を、テキストの該当範囲や配布プリントを使って復習し、ポイントを確実に身に付けてください。また、返却された課題についても復習とポイントを再確認し、重要事項を身に付ける努力を続けてください。

・これらをこなすと、授業の時だけではなく、1日平均1時間前後の学修は必要だろうと考えます。詳細については、第1回のガイダンスで説明する予定です。第1回の授業は必ず出席してください。

<提出課題など>

・なるべく授業内でこなせる課題にするように心がけますが、回によっては宿題の形で提出課題を課すこともあります。そのような場合は、期限内に確実にこなして提出してください。また、後日まとめて、課題やレポートを担当者宛に郵送で送る形を取ることがあります(送料は自己負担になります)。その時は授業で別途指示します。

・本授業は試験を行いませんので、授業にかかわる全ての課題・小テスト・レポートなどが評価の対象となります。ご注意ください。

<成績評価方法・基準>

・前提として、単位認定のためには3分の2以上の出席が必要です。ただし、「出席が3分の2以上あるから自動的に単位が取れる」というわけではありませんので、誤解しないでください。

・欠席の場合は、その日の課題は0点となります。再提出の必要はありません。

・テキスト未購入または「ワークブック」無しの場合、単位は認定できません。

・本授業は試験を行いませんので、授業にかかわる全ての課題・小テスト・レポートなどの総合計を、以下の「基本算出式」に代入します。

・基本算出式 = 課題(レポートを含む。内容と提出の有無)80% + 授業に取り組む姿勢(遅刻・早退を含む)20%とします。ただし、欠席・遅刻・早退が多い場合や連続する場合、私語・睡眠など取り組む意欲が見られない場合、課題作成時に授業での指示を守らない場合などは、基本算出式にかかわらず単位を認定しないことがあります。

・各回の課題の配点はまちまちです。したがって、配点の大きな回の課題が不提出だったり成績不良だったりする場合は、欠席回数が3分の1未満であっても単位が認定されない場合があります。

<テキスト>

・三省堂『日本語表現法 改訂版』(沖森卓也 半沢幹一編) ISBN978-4-385-34589-5。必ず購入して、毎時間授業に持参すること(添付のワークブックを授業で使います)。未購入、またはワークブックが無い場合は、単位認定ができません。

・また、回によっては、授業で使うプリントをdotCampusや以下の「授業フォルダ」にpdfファイルで提示することがあります。

<参考図書>

特にありません。必要に6応じて、授業時に参考図書等を紹介することがあります。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

この授業についてガイダンスをします。受講の仕方、授業の具体的な進め方、評価の仕方などについても解説しますので、必ず出席してください。出席しなかった場合の不利益は、本人の自己責任とします。

第2回 ありがちな間違い

書かれた文章にはいろいろとありがちな間違いがありますが、特に「論理性」に注目し、そのような間違った文を書かないように学びます。

第3回 文章表現の周辺1 文字表記と仮名づかい

日本語の文字表記の約束や、間違いやすいポイントについて学び、身に付けられるようにします。

第4回 文章表現の周辺2 記号類と表記法

日本語の文で使われる記号類について学習し、日本語の書き方について学びます。

第5回 文章表現の周辺3 話しことばと書きことば

話しことばと書きことばについて、違いやそれぞれの特性について学びます。

第6回 辞書について

特に国語辞典について、単に意味を調べるツールとしてだけでなく、「文章表現力を高めるツール」としての

使い方を学びます。

第7回 用紙と表記

大学では縦書き原稿用紙を使う機会が少なくなりますので、それ以外の用紙の使い方やそれに伴う表記のしかたについて学びます。

第8回 敬語法 1

日本語の敬語について、様々な場面を想定して学び、実際に使いこなせるようになることを目指します。

第9回 敬語法 2

前回の授業よりもやや高度な内容を扱い、日本語の敬語について、話しことばと書きことばの両面について学びます。

第10回 定型文 1 案内文を書こう

書式がある程度決まっている文章を書くことで、まとまった文を書くとともに、書式が持つ意味を学びます。

第11回 定型文 2 手紙文を書こう

いわゆる「手紙文」の書式を学ぶとともに、その活用の仕方について学びます。

第12回 はがきを書こう

通信手段としてのはがきについて、その長所や短所を含めて学び、あわせて郵便物の形式などについて学びます。

第13回 電子メールを知ろう

スマホではなくパソコン上の「電子メール」について学び、その活用の仕方について考えます。

第14回 この授業のまとめ

これまでの学習を振り返り、今後ある程度の分量の文章を書くための基礎的知識をまとめます。

第15回 最終課題

これまでの学習が定着しているか、またこれまでの授業の振り返りができているか等の観点から、課題レポートを課します。

2022年度 前期

2.0単位

文章表現 【総リハ】

大谷 通高

< 授業の方法 >

対面での講義・演習

< 授業の目的 >

この科目は、全学（学部）のDPに示す「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」の達成に特に欠かせないものであり、共通教育科目リテラシー科目群基礎思考分野に属しています。大学で学ぶにあたって必要な、課された課題に適切に応えることができる文章力を身につけることを目的とし、ひいては、社会人として必要な、文章によって人に何かを伝えるための、基本的な考え方や技術を身につけることを目指します。

身近な文章を題材にして、わかりにくい文章はなぜわかりにくいのか、わかりやすい文章を書くためにはどのようなことに気をつけたらよいのかを実践的に学びます。

< 到達目標 >

・客観的な情報を伝えるために、事実と意見を区別し、書き分けることができる。（技能）

・メールなどで、立場をわきまえた表現で、情報を過不足なく効果的に伝えることができる。（知識、技能）

・基本的なアカデミック・ライティングのルールに従って文章を書くことができる。（知識、技能）

・グループワークを円滑に進め、他者と協力して成果を上げることができる（技能、態度・習慣）

< 授業のキーワード >

文章表現 メール・敬語 アカデミック・ライティング
グループワーク

< 授業の進め方 >

毎回のテーマについて教員が解説し、個人あるいはグループで練習問題に取り組む形を基本とする。

< 履修するにあたって >

・課された課題に積極的に取り組むこと。

・環境・進度によって、授業計画が前後・変更する場合があります。

< 授業時間外に必要な学修 >

事後学習として、教科書の練習問題の見直し、持ち帰り課題に取り組む（目安として60分）。また、様々な文章表現や構造化された文章に慣れるために習慣的に書籍を読む（目安として60分以上）。

< 提出課題など >

・5～8回の課題を課します。

・課題は内容をチェックしたうえで必要に応じて返却し、あるいは再提出を求めます。

・グループワーク等、授業内での活動への協調性、積極的な参加を求めます。

< 成績評価方法・基準 >

・提出課題（授業内・授業外含む、授業期間中の達成度確認課題含む）60%

・授業中のグループワーク等の活動40%

< テキスト >

野田春美・岡村裕美・米田真理子・辻野あらと・藤本真理子・稲葉小由紀（2016）『グループワークで日本語表現力アップ』ひつじ書房（1400円＋税）

< 参考図書 >

野田尚史『なぜ伝わらない、その日本語』岩波書店（2005）¥1,600+税

その他、必要に応じて紹介します。

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

文章表現に関する自分の現在の実力を把握し、目標を明確にする。

第2回 表現の基礎（1）

表記と言葉づかひの基本を知り、印象のよい文章を書く姿勢を身につける。

第3回 情報を整理して示す

メモや飲食店のメニューを例に、複数の情報を整理し、見やすく示す方法を学ぶ。

第4回 情報を確実に伝える

注意書きなどを例に、重要な情報を確実に伝えるための効果的な方法を身につける。

第5回 情報を正確に伝える

メール作成などを通して、情報を正確に伝えるために必要な力を身につける。

第6回 表現の基礎(2)

読みにくい文の原因を把握し、読みやすくするために必要なことを学ぶ。

第7回 相手に合わせて表現する

敬語の基本的な仕組みを知り、使い方を学ぶ。

第8回 配慮して伝える

依頼のメールなどを通して、行動を促す文章の適切な書き方を身につける。

第9回 丁寧に伝える

手紙の基本的なルールや書式、マナーなどを身につける。

第10回 表現の基礎(3)

わかりやすい文章の書き方を身につけ、伝えたいことがアピールできるようになる。

第11回 アカデミックな文章を書く

アカデミックな文章を書く際のルールを学び、客観的な文章を書く力を身につける。

第12回 企画をアピールする(1)

企画書を書く際に必要なことを学ぶ。

第13回 企画をアピールする(2)

実際に作成した企画書を見直し、改善を加える。

第14回 達成度の確認

これまで学んだことが身についているかどうかを確認する。

第15回 自分を表現する

自己PRの基礎を学ぶ。

2022年度 前期

2.0単位

文章表現 (ア)【人文】

岡村 裕美、米澤 優、稲葉 小由紀、中原 香苗、新谷 遥、山田 伸武、真田 聡美、岡村 裕美

< 授業の方法 >

講義と演習

< 授業の目的 >

この科目は、全学(学部)のDPに示す「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」の達成に特に欠かせないものであり、共通教育科目リテラ

シー科目群基礎思考分野に属しています。大学で学ぶにあたって必要な、課された課題に適切に応えることができる文章力を身につけることを目的とし、ひいては、社会人として必要な、文章によって人に何かを伝えるための、基本的な考え方や技術を身につけることを目指します。

身近な文章を題材にして、わかりにくい文章はなぜわかりにくいのか、わかりやすい文章を書くためにはどのようなことに気をつけたらよいのかを実践的に学びます。

< 到達目標 >

・客観的な情報を伝えるために、事実と意見を区別し、書き分けることができる。(技能)

・メールなどで、立場をわきまえた表現で、情報を過不足なく効果的に伝えることができる。(知識、技能)

・基本的なアカデミック・ライティングのルールに従って文章を書くことができる。(知識、技能)

・グループワークを円滑に進め、他者と協力して成果を上げることができる(技能、態度・習慣)

< 授業のキーワード >

文章表現 メール・敬語 アカデミック・ライティング
グループワーク

< 授業の進め方 >

毎回のテーマについて教員が解説し、個人あるいはグループで練習問題に取り組む形を基本とする。

< 履修するにあたって >

・グループワーク等、授業内での活動への協調性、積極的な参加を求めます。

・授業担当者、環境、進度によって、授業計画が前後・変更することがあります。

< 授業時間外に必要な学修 >

事後学習として、教科書の練習問題の見直し、持ち帰り課題に取り組む(目安として60分)。また、様々な文章表現や構造化された文章に慣れるために習慣的に書籍を読む(目安として60分以上)。

< 提出課題など >

・5~8回の提出課題(宿題・授業内)を課します。

・課題は内容をチェックしたうえで必要に応じて返却し、あるいは再提出を求めます。

< 成績評価方法・基準 >

提出課題(授業内・授業外含む、授業期間中の達成度確認課題含む)60%

授業中のグループワーク等の活動40%

それぞれに対する評価の基準は「到達目標」に従いません。

< テキスト >

『グループワークで日本語表現力アップ』(2016)野田春美他、ひつじ書房

< 参考図書 >

野田尚史『なぜ伝わらない、その日本語』岩波書店(2005)¥1,600+税

その他、必要に応じて紹介します。

< 授業計画 >

第1回 インTRODクシヨン

現在の文章力を知り、目標を明確にする。

第2回 表現の基礎(1)

表記と言葉づかひの基礎を学ぶ。

第3回 情報を整理して示す

メモやメニューを利用し、情報を整理して示すために必要なことを学ぶ。

第4回 情報を確実に伝える

注意書きを利用し、情報を確実に伝える方法を学ぶ。

第5回 情報を正確に伝える

連絡・案内のメールを送る際に情報を正確に伝えるために必要なことを学ぶ。

第6回 表現の基礎(2)

読みやすい文を書くために必要なことを学ぶ。

第7回 相手に合わせて表現する

敬語の基本的な仕組みを知り、使い方を学ぶ。

第8回 配慮して伝える

依頼など、行動を促す文章について学ぶ。

第9回 丁寧に伝える

手紙の書き方を学ぶ。

第10回 表現の基礎(3)

わかりやすい文章を書くために必要なことを学ぶ。

第11回 アカデミックな文章を書く

アカデミック・ライティングの基礎を学ぶ。

第12回 企画をアピールする(1)

企画書を書く際に必要な基礎的なことを学ぶ。

第13回 企画をアピールする(2)

作成した企画書を改善する。

第14回 達成度の確認

これまで学んだことが身についているかどうかを確認する。

第15回 自分を表現する

自己PRの基礎を学ぶ。

2022年度 前期

2.0単位

文章表現 (ア)【心理】

稲葉 小由紀、二條 絵実子、新谷 遥

< 授業の方法 >

講義と演習

< 授業の目的 >

この科目は、全学(学部)のDPに示す「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」の達成に特に欠かせないものであり、共通教育科目リテラシー科目群基礎思考分野に属しています。大学で学ぶにあたって必要な、課された課題に適切に応えることがで

きる文章力を身につけることを目的とし、ひいては、社会人として必要な、文章によって人に何かを伝えるための、基本的な考え方や技術を身につけることを目指します。

身近な文章を題材にして、わかりにくい文章はなぜわかりにくいのか、わかりやすい文章を書くためにはどのようなことに気をつけたらよいのかを実践的に学びます。

< 到達目標 >

- ・客観的な情報を伝えるために、事実と意見を区別し、書き分けることができる。(技能)
- ・メールなどで、立場をわきまえた表現で、情報を過不足なく効果的に伝えることができる。(知識、技能)
- ・基本的なアカデミック・ライティングのルールに従って文章を書くことができる。(知識、技能)
- ・グループワークを円滑に進め、他者と協力して成果を上げることができる(技能、態度・習慣)

< 授業のキーワード >

文章表現 メール・敬語 アカデミック・ライティング
グループワーク

< 授業の進め方 >

毎回のテーマについて教員が解説し、個人あるいはグループで練習問題に取り組む形を基本とする。

< 履修するにあたって >

- ・グループワーク等、授業内での活動への協調性、積極的な参加を求めます。
- ・授業担当者、環境、進度によって、授業計画が前後・変更することがあります。

< 授業時間外に必要な学修 >

事後学習として、教科書の練習問題の見直し、持ち帰り課題に取り組む(目安として60分)。また、様々な文章表現や構造化された文章に慣れるために習慣的に書籍を読む(目安として60分以上)。

< 提出課題など >

- ・5～8回の提出課題(宿題・授業内)を課します。
- ・課題は内容をチェックしたうえで必要に応じて返却し、あるいは再提出を求めます。

< 成績評価方法・基準 >

提出課題(授業内・授業外含む、授業期間中の達成度確認課題含む)60%

授業中のグループワーク等の活動40%

それぞれに対する評価の基準は「到達目標」に従います。

< テキスト >

『グループワークで日本語表現力アップ』(2016)野田春美他、ひつじ書房

< 参考図書 >

野田尚史『なぜ伝わらない、その日本語』岩波書店(2005)¥1,600+税

その他、必要に応じて紹介します。

< 授業計画 >

第1回 イン트로ダクション

現在の文章力を知り、目標を明確にする。

第2回 表現の基礎(1)

表記と言葉づかひの基礎を学ぶ。

第3回 情報を整理して示す

メモやメニューを利用し、情報を整理して示すために必要なことを学ぶ。

第4回 情報を確実に伝える

注意書きを利用し、情報を確実に伝える方法を学ぶ。

第5回 情報を正確に伝える

連絡・案内のメールを送る際に情報を正確に伝えるために必要なことを学ぶ。

第6回 表現の基礎(2)

読みやすい文を書くために必要なことを学ぶ。

第7回 相手に合わせて表現する

敬語の基本的な仕組みを知り、使い方を学ぶ。

第8回 配慮して伝える

依頼など、行動を促す文章について学ぶ。

第9回 丁寧に伝える

手紙の書き方を学ぶ。

第10回 表現の基礎(3)

わかりやすい文章を書くために必要なことを学ぶ。

第11回 アカデミックな文章を書く

アカデミック・ライティングの基礎を学ぶ。

第12回 企画をアピールする(1)

企画書を書く際に必要な基礎的なことを学ぶ。

第13回 企画をアピールする(2)

作成した企画書を改善する。

第14回 達成度の確認

これまで学んだことが身についているかどうかを確認する。

第15回 自分を表現する

自己PRの基礎を学ぶ。

2022年度 前期

2.0単位

文章表現

木村 雅則

< 授業の方法 >

講義・演習(対面授業)

< 授業の目的 >

・この授業は、共通教育科目リテラシー科目群基礎思考分野に属しており、全学DPに示すように、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養するとともに、自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることをめざし、基礎的な思考力・表現力を身につけることを目的としています。具体的には、大学で学ぶにあたって必要な、課された課題に適切に応えることができる表現

力を身につけられるように段階的に学び、社会人として必要な基本的な考え方や技術を身につけることを目指します。

・この授業は「文章表現」の最初の段階ですので、さしあたって表現のための基本的な事項や言語表現の周辺的な知識・事項を、実際に演習しながら理解し体得することを目的とします。

・なお、担当者は、公立高等学校国語科教諭として32年間勤務し、高等学校と国語科の現状を熟知している、実務経験のある教員です。したがって高等学校との接続の観点を生かし、大学の学びに必要な内容を展開することができます。

< 到達目標 >

・文章の表現を通じて日本語の性質や特徴を学び、それらを身に付けることができる。

・スマホのフリック入力や携帯電話のトルグ入力ではなく、手にした筆記具を使って正しく文を書くことができる。

・敬語・手紙・電子メールなどについての約束事を学び、相手に失礼のないコミュニケーションをとることができる。

< 授業のキーワード >

表記法・敬語・定型文・通信文・伝達ツール

< 授業の進め方 >

・対面授業とします。第1回の授業も、対面授業です。

・基本的には、授業の冒頭に「小テスト」を課します(「小テスト」の無い回もあります)。この時は、その「小テスト」の提出で出欠を確認しますので、遅刻にご注意ください。

・授業は、下に示した「テキスト」を読み進めながら、付属の「ワークブック」を使って課題に取り組むことが中心になります。また「ワークブック」の代わりに、回によっては独自の課題を提示することがありますが、その場合の課題は授業で配布します。

・出席は、授業冒頭の「小テスト」の提出、または課題の提出で確認します。また、その場で点呼を取ることもあります。

・授業での課題以外に、宿題や予習の課題を課すことがあります。

・詳細については、第1回ガイダンスで説明する予定で

ず。

< 履修するにあたって >

・第1回の授業(ガイダンス)をよく聞いて、それに従ってください。特に第1回の授業は欠席しないでください。聞かなかつたことによる不利益は本人の自己責任です。ご注意ください。

・身の回りにある間違つた日本語表現にも敏感に反応できる言語感覚を磨いてください。

・テキストの未購入やワークブックの紛失の場合、単位を認定しません。ご注意ください。

・Zoomの操作、dotCampasの操作については、各自の責任で扱えるようにしておいてください。

・Microsoft Wordの利用方法、またメールソフトの取り扱い方法について、不明なところは、インターネット等を用いて自ら情報収集して身につけておいてください。

< 授業時間外に必要な学修 >

・この授業は、予習よりも復習が大切になります。毎時間の内容を、テキストの該当範囲や配布プリントを使って復習し、ポイントを確実に身に付けてください。また、返却された課題についても復習とポイントを再確認し、重要事項を身に付ける努力を続けてください。

・これらをこなすと、授業の時だけではなく、1日平均1時間前後の学修は必要だろうと考えます。詳細については、第1回のガイダンスで説明する予定ですので、第1回の授業は必ず出席してください。

< 提出課題など >

・なるべく授業内でこなせる課題にするように心がけますが、回によっては宿題の形で提出課題を課すこともあり得ます。そのような場合は、期限内に確実にこなして提出してください。また、後日まとめて、課題やレポートを担当者宛に郵送で送る形を取ることがあります（送料は自己負担になります）。その時は授業で別途指示します。

・本授業は試験を行いませんので、授業にかかわる全ての課題・小テスト・レポートなどが評価の対象となります。ご注意ください。

< 成績評価方法・基準 >

・前提として、単位認定のためには3分の2以上の出席が必要です。ただし、「出席が3分の2以上あるから自動的に単位が取れる」というわけではありませんので、誤解しないでください。

・欠席の場合は、その日の課題は0点となります。再提出の必要はありません。

・テキスト未購入または「ワークブック」無しの場合、単位は認定できません。

・本授業は試験を行いませんので、授業にかかわる全ての課題・小テスト・レポートなどの総合計を、以下の「基本算出式」に代入します。

・基本算出式 = 課題（レポートを含む。内容と提出の有無）80% + 授業に取り組む姿勢（遅刻・早退を含む）20%とします。ただし、欠席・遅刻・早退が多い場合や連続する場合、私語・睡眠など取り組む意欲が見られない場合、課題作成時に授業での指示を守らない場合などは、基本算出式にかかわらず単位を認定しないことがあります。

・各回の課題の配点はまちまちです。したがって、配点の大きな回の課題が不提出だったり成績不良だったりする場合は、欠席回数が3分の1未満であっても単位が認定されない場合があります。

< テキスト >

・三省堂『日本語表現法 改訂版』（沖森卓也 半沢幹一編） ISBN978-4-385-34589-5。必ず購入して、毎時間授業に持参すること（添付のワークブックを授業で使います）。未購入、またはワークブックが無い場合は、単位認定ができません。

・また、回によっては、授業で使うプリントをdotCampasや以下の「授業フォルダ」にpdfファイルで提示することがあります。

< 参考図書 >

特にありません。必要に応じて、授業時に参考図書等を紹介することがあります。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

この授業についてガイダンスをします。受講の仕方、授業の具体的な進め方、評価の仕方などについても解説しますので、必ず出席してください。出席しなかった場合の不利益は、本人の自己責任とします。

第2回 ありがちな間違い

書かれた文章にはいろいろとありがちな間違いがありますが、特に「論理性」に注目し、そのような間違った文を書かないように学びます。

第3回 文章表現の周辺 1 文字表記と仮名づかい

日本語の文字表記の約束や、間違いやすいポイントについて学び、身に付けられるようにします。

第4回 文章表現の周辺 2 記号類と表記法

日本語の文で使われる記号類について学習し、日本語の書き方について学びます。

第5回 文章表現の周辺 3 話しことばと書きことば

話しことばと書きことばについて、違いやそれぞれの特性について学びます。

第6回 辞書について

特に国語辞典について、単に意味を調べるツールとしてだけでなく、「文章表現力を高めるツール」としての使い方を学びます。

第7回 用紙と表記

大学では縦書き原稿用紙を使う機会が少なくなりますので、それ以外の用紙の使い方やそれに伴う表記のしかたについて学びます。

第8回 敬語法 1

日本語の敬語について、様々な場面を想定して学び、実際に使いこなせるようになることを目指します。

第9回 敬語法 2

前回の授業よりもやや高度な内容を扱い、日本語の敬語について、話しことばと書きことばの両面について学びます。

第10回 定型文 1 案内文を書こう

書式がある程度決まっている文章を書くことで、まとまった文を書くとともに、書式が持つ意味を学びます。

第11回 定型文 2 手紙文を書こう

いわゆる「手紙文」の書式を学ぶとともに、その活用の

仕方について学びます。

第12回 はがきを書こう

通信手段としてのはがきについて、その長所や短所を含めて学び、あわせて郵便物の形式などについて学びます。

第13回 電子メールを知ろう

スマホではなくパソコン上の「電子メール」について学び、その活用の仕方について考えます。

第14回 この授業のまとめ

これまでの学習を振り返り、今後ある程度の分量の文章を書くための基礎的知識をまとめます。

第15回 最終課題

これまでの学習が定着しているか、またこれまでの授業の振り返りができているか等の観点から、課題レポートを課します。

2022年度 前期

2.0単位

文章表現 (ア)【法】

新田町 義尚、酒井 雅史、百瀬 みのり

< 授業の方法 >

講義と演習

< 授業の目的 >

この科目は、全学(学部)のDPに示す「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」の達成に特に欠かせないものであり、共通教育科目リテラシー科目群基礎思考分野に属しています。大学で学ぶにあたって必要な、課された課題に適切に応えることができる文章力を身につけることを目的とし、ひいては、社会人として必要な、文章によって人に何かを伝えるための、基本的な考え方や技術を身につけることを目指します。

身近な文章を題材にして、わかりにくい文章はなぜわかりにくいのか、わかりやすい文章を書くためにはどのようなことに気をつけたらよいのかを実践的に学びます。

< 到達目標 >

- ・客観的な情報を伝えるために、事実と意見を区別し、書き分けることができる。(技能)
- ・メールなどで、立場をわきまえた表現で、情報を過不足なく効果的に伝えることができる。(知識、技能)
- ・基本的なアカデミック・ライティングのルールに従って文章を書くことができる。(知識、技能)
- ・グループワークを円滑に進め、他者と協力して成果を上げることができる(技能、態度・習慣)

< 授業のキーワード >

文章表現 メール・敬語 アカデミック・ライティング
グループワーク

< 授業の進め方 >

毎回のテーマについて教員が解説し、個人あるいはグル

ープで練習問題に取り組む形を基本とする。アクティブラーニング形式を実施。学生同士で教科書の課題の解答例を協働で作成し、班ごとに発表、各自で最終的に仕上げたものを提出するという形式の授業を予定。

< 履修するにあたって >

・グループワーク等、授業内での活動への協調性、積極的な参加を求めます。

・授業担当者、環境、進度によって、授業計画が前後・変更することがあります。

< 授業時間外に必要な学修 >

事後学習として、教科書の練習問題の見直し持ち帰り、次回の課題に取り組む(目安として60分)。また、様々な文章表現や構造化された文章に慣れるために習慣的に書籍を読む(目安として60分以上)。【事前学習必須】指定された教科書課題を必ず予習し、解答例をあらかじめ作成しておいてから、教室での協働学習に参加する(目安として先の時間に含み30分確保すること)

< 提出課題など >

・教科書課題を1章ずつ毎週1回dotCampusレポート欄へオンライン提出。

・そのほかにも5回~8回程度の新聞記事要約などの提出課題(宿題・授業内)を課します。

・課題は内容をチェックしたうえで必要に応じて返却し、あるいは再提出を求めます。

< 成績評価方法・基準 >

提出課題(最終の前期末レポート課題、授業内・授業外含む、授業期間中の達成度確認課題含む)60% 授業中のグループワーク等の活動40%(授業出席と協働学習への参加が評価点の前提)

それぞれに対する評価の基準は「到達目標」に従います。

< テキスト >

『グループワークで日本語表現力アップ』(2016)野田春美他、ひつじ書房

< 参考図書 >

野田尚史『なぜ伝わらない、その日本語』岩波書店(2005)¥1,600+税

その他、必要に応じて紹介します。

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

現在の文章力を知り、目標を明確にする。

第2回 表現の基礎(1)

表記と言葉づかひの基礎を学ぶ。

第3回 情報を整理して示す

メモやメニューを利用し、情報を整理して示すために必要なことを学ぶ。

第4回 情報を確実に伝える

注意書きを利用し、情報を確実に伝える方法を学ぶ。

第5回 情報を正確に伝える

連絡・案内のメールを送る際に情報を正確に伝えるため

に必要なことを学ぶ。

第6回 表現の基礎(2)

読みやすい文を書くために必要なことを学ぶ。

第7回 相手に合わせて表現する

敬語の基本的な仕組みを知り、使い方を学ぶ。

第8回 配慮して伝える

依頼など、行動を促す文章について学ぶ。

第9回 丁寧に伝える

手紙の書き方を学ぶ。

第10回 表現の基礎(3)

わかりやすい文章を書くために必要なことを学ぶ。

第11回 アカデミックな文章を書く

アカデミック・ライティングの基礎を学ぶ。

第12回 企画をアピールする(1)

企画書を書く際に必要な基礎的なことを学ぶ。

第13回 企画をアピールする(2)

作成した企画書を改善する。

第14回 達成度の確認

これまで学んだことが身についているかどうかを確認する。

第15回 自分を表現する

自己PRの基礎を学ぶ。

2022年度 前期

2.0単位

文章表現 (ア)【薬】

山上 登志美、高寺 直子、岡村 裕美

< 授業の方法 >

講義と演習

< 授業の目的 >

この科目は共通教育科目に属し、全学DP「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」の達成を目指すとともに、薬学部のDP、および「薬学教育モデル・コアカリキュラムのSB0s」の中のA-(3) - コミュニケーションの1)~8)の項目の達成を目的とする。薬学部6年制教育が実施されて以来、目指す薬剤師像は「かかりつけ薬剤師」と言われるように、患者さんにとって身近な医療者として日常的に気軽に健康上の相談ができる薬剤師である。そのためには、相手の話をよく聞き理解できるとともに、自分の持つ知識をわかりやすく正確に相手に説明できることが必要とされる。また、病院では患者さんだけでなく他の医療スタッフとの相互理解を適切に行なうためにも日本語表現力は重要である。俗に理系学生はことばに対する関心は希薄だと言われるが、これからの薬剤師には日本語表現力・理解力も重要な位置にあることを理解し、日本語知識の修得と、自らの言葉で表現できることを目指す。

< 到達目標 >

文章表現の基礎・人と上手にコミュニケーションができるための待遇表現(敬語)の修得と、患者さんと薬剤師とのロールプレイを体験して実践的な表現力を身につける。

言語的および非言語的コミュニケーションの方法を概説できる。(知識)

相手の立場、文化、習慣などによって、コミュニケーションのあり方が異なることを例示できる。(知識)

日本語表現の基礎を踏まえ、わかりやすい文章を書くことができる。(知識・技能)

敬語の種類とその働きの違いが説明できる。(知識)

尊敬語と謙譲語、丁寧語のそれぞれの具体的表現を述べることができる。(知識)

敬語表現のレベルの違いを説明できる。(知識)

敬語表現の誤りを指摘できる。(知識)

手紙の書き方の基本を説明できる。(知識)

目的に応じた手紙文を書くことができる。(知識・技能)

目上の方に対して失礼のない文章表現ができる。(知識・技能)

便箋に書く手紙と葉書に書く手紙の違いを列挙できる。(知識)

相手に配慮してわかりやすく説明を行なうことができる。(知識・態度・技能)

相手の心理状態とその変化に配慮し、適切に対応できる。(知識・態度・技能)

薬剤師にとって、如何に表現力が大切かを説明できる。(知識)

< 授業のキーワード >

日本語の基礎知識、コミュニケーション力、手紙の書き方、敬語、ロールプレイ

< 授業の進め方 >

各授業時間の前半は講義形式で説明を行ない、後半でその説明をもとに文章を書いたり、ロールプレイ形式で実践的な日本語表現を体験する。

< 履修するにあたって >

聞くだけではなく、作業の多い授業でなので、積極的な授業参加を望みます。

平日頃からたくさんの文章を読むことを心掛けてもらいたい。特に新聞を読む癖をつけ、健康や医療に関する記事に関心を持つようにしてほしい。

< 授業時間外に必要な学修 >

事後学習として、教科書の練習問題等を目安1時間。第3?6回までは、毎回提出物が課される。

< 提出課題など >

第3?6回の講義内容にあるとおり、課題を書き、ドットキャンパスから提出します。

< 成績評価方法・基準 >

授業内に課される提出課題、演習課題など40%、期末定期試験60%。

<テキスト>

米田明美・藏中さやか・山上登志美著『大学生のための日本語表現実践ノート』風間書房

<授業計画>

第1回 ことばの働き

初めに、薬学教育モデル・コアカリキュラムを紹介し、その上で、ことばによる共通理解とは？ ことばの意味とは？ ことばを選択するとは？ 語彙を多く持つ必要性、などについて説明する。A-(1)- -1,A-(3)- -1

第2回 ことばによる意思の伝達

言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション、「話す」と「書く」との違い、話しことばと書きことばとの違いについて説明し、後半は文章表現の基礎知識を説明してから、「自己紹介」の文章を書く。A-(3)- -2,A-(3)- -3

第3回 敬語と手紙（お礼状）

相手との距離感、相手に対する心遣いを表現するために重要な敬語・敬意表現の基礎を学び、「敬語の種類」について説明する。後半は、手紙（お礼状）を書く。A-(3)- -8

第4回 敬語と手紙（お祝い状）

敬語の基礎としての、「尊敬語と謙譲語」の違いを確認する。また、目下から目上の方に対して用いるのは不相当だとされることば遣いを考える。後半には、手紙（お祝い状）を書く。A-(3)- -8

第5回 敬語と手紙（案内状）

敬語の間違いやすいポイントを押さえ、正しい敬語表現を理解する。後半は、手紙（案内文）を書く。A-(3)- -8

第6回 敬語と手紙（葉書）

文法的な知識としての敬語表現には入らない「接遇」としてのことば遣い・敬意表現について理解する。後半は、葉書の書き方を学び、実際に暑中見舞い状を書いてみる。A-(3)- -8

第7回 手紙（まとめ）敬語用法

手紙文についてこれまで実践的に書いてきたものを総括、整理して理解する。また、正しい敬語表現を、練習問題を解くことによって具体的に習得する。A-(3)- -8

第8回 敬語用法のまとめ

テキストの練習問題を中心に、いろいろな表現の適否を考える。A-(3)- -8

第9回 説明してみよう1

初めにこの作業の目標である「薬剤師に必要な表現能力」について説明し、その後、「ことば当て」・「道案内」の課題を実際にことばで説明する。A-(3)- -8

第10回 説明してみよう2

前回に続いて、「薬剤師に必要な表現能力」を考える。今回は、目で見えたものをことばだけで説明する。たとえば、写真や絵画などを題材に、ことばだけで写真の映像や絵画を聞き手が正確にイメージして描けるように、説

明する。A-(3)- -8

第11回 説明してみよう3

前回に続いて、「薬剤師に必要な表現能力」を考える。今回は、目で見えたものをことばだけで説明します。写真や絵画などを題材に、ことばだけで写真の映像や絵画を聞き手が正確にイメージして描けるように、説明する。

A-(3)- -8

第12回 ロールプレイ1

薬局における様々な場面を想定し、患者さんに失礼のないように敬語を使って話す練習をする。A-(3)- -6,7,8

第13回 ロールプレイ2

前回に引き続いて、患者さんに失礼のないように敬語を使って話す練習をする。A-(3)- -6,7,8

第14回 ロールプレイ3

前回に引き続いて、患者さんに失礼のないように敬語を使って話す練習をする。A-(3)- -6,7,8

第15回 前期授業のまとめ

前期授業で学んだことを振り返って、問題の残るところを復習する。

2022年度 前期

2.0単位

文章表現 (ア)【現社・社防】

岡田 裕子、岡村 裕美

<授業の方法>

講義・演習

<授業の目的>

この科目は、全学のDPに示す「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」能力や「獲得した知識や技能を活用し、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して」いく方策を獲得するための基盤となるような基本的な文章表現能力、コミュニケーション能力を身につけることを目指しており、共通教育科目リテラシー科目群基礎思考分野に属しています。大学で学ぶにあたって必要な、課された課題に適切に応えることができる文章力を身につけることを目的とし、ひいては、社会人として必要な、文章によって人に何かを伝えるための、基本的な考え方や技術を身につけることを目指します。

身近な文章を題材にして、わかりにくい文章はなぜわかりにくいのか、わかりやすい文章を書くためにはどのようなことに気をつけたらよいのかを実践的に学びます。
<到達目標>

- ・客観的な情報を伝えるために、事実と意見を区別し、書き分けることができる。（技能）
- ・メールなどで、立場をわきまえた表現で、情報を過不足なく効果的に伝えることができる。（知識、技能）
- ・基本的なアカデミック・ライティングのルールに従っ

て文章を書くことができる。(知識、技能)
・指示にそって、状況に応じた文章を書くことができる。
(知識、技能)
・グループワークを円滑に進め、他者と協力して成果を
上げることができる(技能、態度・習慣
<授業のキーワード>
文文章表現 メール・敬語 アカデミック・ライティ
ング グループワーク
<授業の進め方>
毎回のテーマについて教員が解説し、個人あるいはグル
ープで練習問題に取り組む形を基本とする。自分で考え
るだけでなく、他の人の意見も参照しながら課題に取り
組むことで、より深く考え、文章表現に関連した知識や
技術を身につける。
<履修するにあたって>
授業担当者、環境、進度によって、授業計画が前後・変
更することがあります。
<授業時間外に必要な学修>
事後学習として、教科書の練習問題の見直し、持ち帰り
課題に取り組む(目安として60分)。
また、様々な文章表現や構造化された文章に慣れるた
めに習慣的に書籍を読む(目安として60分以上)。文章
力の向上のためには、実際に文章を読み、批判的にとら
えることも必要。文章の読み書きの際は、わかりやすい
文章・そうではない文章は、何が原因でそうなっている
のか、常に意識しながら読んだり書いたりすると、より
効果的である。
<提出課題など>
・必要に応じてさまざまな課題を課します。
・課題は内容をチェックしたうえで必要に応じて返却し、
あるいは再提出を求めます。
・グループワーク等、授業内での活動への協調性、積極
的な参加を求めます。
<成績評価方法・基準>
課題60%(授業内で課される提出課題・持ち帰りの課題
30%、到達度確認テスト30%)
授業でのグループワーク・プレゼンテーションなど40%
定期試験は実施しませんが、授業期間内に理解度・到
達度を確保するためのテストを1回行います。
<テキスト>
『グループワークで日本語表現力アップ』(2016)野田
春美他、ひつじ書房
<参考図書>
野田尚史『なぜ伝わらない、その日本語』岩波書店(20
05)¥1,600+税
その他、必要に応じて紹介します。
<授業計画>
第1回 イントロダクション
現在の文章力を知り、目標を明確にする。
第2回 表現の基礎(1)

表記と言葉づかひの基礎を学ぶ。
第3回 表現の基礎(2)
読みやすい文を書くために必要なことを学ぶ。
第4回 表現の基礎(3)
わかりやすい文章を書くために必要なことを学ぶ。
第5回 情報を整理して示す
メモやメニューを利用し、情報を整理して示すために必
要なことを学ぶ。
第6回 情報を確実に伝える
注意書きを利用し、情報を確実に伝える方法を学ぶ。
第7回 情報を正確に伝える
連絡・案内のメールを送る際に情報を正確に伝えるため
に必要なことを学ぶ。
第8回 相手に合わせて表現する
敬語の基本的な仕組みを知り、使い方を学ぶ。
第9回 配慮して伝える
依頼など、行動を促す文章について学ぶ。
第10回 丁寧に伝える
手紙の書き方を学ぶ。
第11回 アカデミックな文章を書く
アカデミック・ライティングの基礎を学ぶ。
第12回 企画をアピールする(1)
企画書を書く際に必要な基礎的なことを学ぶ。
第13回 企画をアピールする(2)
作成した企画書をプレゼンテーションするうえで必要な
ことを学ぶ。
第14回 達成度の確認
これまで学んだことが身につけているかどうかを確認す
る。
第15回 自分を表現する
自己PRの基礎を学ぶ。

2022年度 前期

2.0単位

文章表現 【GC】

清田 朗裕

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

この科目は、全学(学部)のディプロマ・ポリシーに示
す「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意
見を理解することで、良好なコミュニケーションをとる
ことができる」の達成に特に欠かせないものであり、共
通教育科目リテラシー科目群基礎思考分野に属していま
す。大学で学ぶにあたって必要な、課された課題に適切
に応えることができる文章力を身に付けることを目的と
し、ひいては、社会人として必要な、文章によって人
に何かを伝えるための、基本的な考え方や技術を身に付け
ることを目的とします。

身近な文章を題材にして、わかりにくい文章はなぜわかりにくいのか、わかりやすい文章を書くためにはどのようなことに気をつけたらよいのかを実践的に学びます。なお、担当教員は私立高校で11年間国語の非常勤講師を勤めた実務経験のある教員ですので、より実践的な観点から教授します。

<到達目標>

- ・客観的な情報を伝えるために、あいまいな表現を避けることができる。(態度・習慣、技能)
- ・メールなどで、立場をわきまえた表現で、情報を過不足なく効果的に伝えることができる。(態度・習慣、技能)
- ・基本的なアカデミック・ライティングのルールに従って文章を書くことができる。(知識、技能)
- ・グループワークで他の人と協調し、ひとつの課題を作り上げることができる。(態度・習慣、技能)
- ・自分たちが考えたものについて、簡単なプレゼンテーションができる。(技能)

<授業のキーワード>

文章表現 実戦練習 グループワーク プレゼンテーション

<授業の進め方>

数人のグループでの作業を交えながら授業を進めます。自分で考えるだけでなく、他人の意見も聞きながら課題に取り組むことで、文章表現についてより深く考え、知識や技術を身に付けることができます。また、グループワークの成果をプレゼンテーションで示してもらいます。

<履修するにあたって>

- ・グループワークやプレゼンテーションに積極的に参加すること。
- ・遅刻・早退は3回で欠席1回とみなします。
- ・科目担当者によって、授業の進度が前後することがあります。

<授業時間外に必要な学修>

文章力の向上のためには、実際に文章を読み、批判的にとらえることが必要です。わかりやすい文章・そうではない文章は、何が原因でそうなっているのか、常に意識しながら文章を読み書きするようにしてください。

提出課題以外にも、事前学習として教科書の該当箇所を読み、事後学習として授業で直接扱わなかった練習問題を自分で取り組んでみるのが効果的です(目安として合計1時間程度)。

<提出課題など>

- ・授業内で実施するワークのほか、持ち帰りの課題の提出を5回～8回求めます。
- ・提出物はチェックして、必要に応じ再提出を求めます。

<成績評価方法・基準>

授業内でのグループワークへの参加・発表30%、文章作成の課題30%、定期試験(作文)40%

<テキスト>

『グループワークで日本語表現力アップ』(2016)野田春美他、ひつじ書房¥1,400+税

<参考図書>

野田尚史『なぜ伝わらない、その日本語』(2005)岩波書店¥1,600+税

その他、必要に応じて紹介します。

<授業計画>

第1回 イントロダクション

現在の文章力を知り、目標を明確にする。

第2回 表現の基礎(1)

表記と言葉づかひの基礎を学ぶ。

第3回 情報を整理して示す

メモやメニューを利用し、情報を整理して示すために必要なことを学ぶ。

第4回 情報を確実に伝える

注意書きを利用し、情報を確実に伝える方法を学ぶ。

第5回 情報を正確に伝える

連絡・案内のメールを送る際に情報を正確に伝えるために必要なことを学ぶ。

第6回 表現の基礎(2)

読みやすい文を書くために必要なことを学ぶ。

第7回 相手に合わせて表現する

敬語の基本的な仕組みを知り、使い方を学ぶ。

第8回 配慮して伝える

依頼など、行動を促す文章について学ぶ。

第9回 丁寧に伝える

手紙の書き方を学ぶ。

第10回 表現の基礎(3)

わかりやすい文章を書くために必要なことを学ぶ。

第11回 アカデミックな文章を書く

アカデミック・ライティングの基礎を学ぶ。

第12回 企画をアピールする(1)

企画書を書く際に必要な基礎的なことを学ぶ。

第13回 企画をアピールする(2)

作成した企画書をプレゼンテーションする。

第14回 達成度の確認

これまで学んだことが身についているかどうかを確認する。

第15回 自分を表現する

自己PRの基礎を学ぶ。

2022年度 前期

2.0単位

文章表現

中原 香苗、清田 朗裕

<授業の方法>

講義と演習

<授業の目的>

この科目は、全学(学部)のDPに示す「自分の意見を

口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」の達成に特に欠かせないものであり、共通教育科目リテラシー科目群基礎思考分野に属しています。大学で学ぶにあたって必要な、課された課題に適切に応えることができる文章力を身につけることを目的とします。

具体的には、社会人として必要な、文章によって人に何かを伝えるための基本的な考え方や技術を身につけることを目指します。

あわせて、社会に出たときに適切なコミュニケーションをとるために必要な基本的な技術を身につけることを目指します。

<到達目標>

- ・文章を書くうえでの基本的な約束事を理解する。
- ・公的なメールを正しく書くことができるようになる。
- ・手紙のルールを理解し、失礼のない手紙を書くことができるようになる。
- ・敬語のシステムを理解し、正しく使うことができるようになる。

<授業のキーワード>

文章表現 メール 敬語 アカデミック・ライティング
グループワーク

<授業の進め方>

基本的な知識の解説をする講義と、個人または数人のグループで課題に取り組みます。グループワークの成果をプレゼンテーションしてもらうこともあります。

<履修するにあたって>

- ・単位認定には、3分の2以上の出席が必須です。
- ・グループワークなどの活動に積極的に参加してください。

<授業時間外に必要な学修>

授業で学んだ知識を定着させ、それを活用して文章を書くために、目安として授業後に1時間の学修が必要です。

授業で学んだことを意識して、インターネットや日常で目にする文章を読み、わかりやすい文章とそうでない文章の違いを考えたいうえで、その文章はどこがよいのか、またどうすればよりわかりやすくなるのか、を考えるようにしてください。

<提出課題など>

授業中の提出課題、持ち帰りの課題を合わせて、複数回の課題を出します。

課題は内容をチェックしたうえで必要に応じて返却します。

<成績評価方法・基準>

グループワークなどの授業内活動40%、敬語小テスト、授業内で課される提出課題、持ち帰りの課題、達成度の確認60%。

<テキスト>

使用しません。

<参考図書>

野田春美他、『グループワークで日本語表現力アップ』
(2016) 1,600+ 税

<授業計画>

第1回 イントロダクション

授業で学ぶことを確認し、現在の自分の文章表現能力を知り、目標を確認する。

第2回 自分のことを相手に伝える

相手に自分のことを伝える自己紹介のポイントを学ぶ。

第3回 文章表現の基礎(1)

話すときに使う話し言葉と、文章を書くときに使う書き言葉の違いを学ぶ。

第4回 文章表現の基礎(2)

話し言葉と書き言葉の違いを理解したうえで実践練習をする。

第5回 文章表現の基礎(3)

わかりやすい文章を書くために気をつけるべきことを学ぶ。

第6回 他者とのコミュニケーション(1)

敬語の基本的な仕組みを学ぶ。

第7回 他者とのコミュニケーション(2)

敬語の使いかたを学ぶ。

第8回 他者とのコミュニケーション(3)

誤解のない敬語を使えるようにトレーニングする。

第9回 情報を伝える

メールの基本的なルールを理解し、情報を正確に伝える方法を学ぶ。

第10回 情報を正確に伝える

伝えるべき情報を正確に過不足なく伝えるメールを書く。

第11回 丁寧に伝える

依頼やお願いのメールなどで、相手に配慮して伝える方法を学ぶ。

第12回 気持ちを相手に伝える(1)

自分の気持ちを相手に伝えるツールとしての手紙の特色を学ぶ。

第13回 気持ちを相手に伝える(2)

手紙の基本的なルールを学び、手紙を書く練習をする。

第14回 アカデミックな文章を書く

アカデミックライティングの基礎を学ぶ。

第15回 達成度の確認

これまで学んだことが身についているかどうかを確認する。

2022年度 後期

2.0単位

文章表現 (工)【経済】

木村 雅則、米澤 優

<授業の方法>

対面授業(演習・講義)

< 授業の目的 >

・この授業は、共通教育科目リテラシー科目群基礎思考分野に属しており、全学DPに示すように、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養するとともに、自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることをめざし、基礎的な思考力・表現力を身につけることを目的としています。具体的には、大学で学ぶにあたって必要な、課された課題に適切に応えることができる表現力を身につけられるように段階的に学び、社会人として必要な基本的な考え方や技術を身につけることを目指します。

・この授業は「文章表現」の2段階目ですので、実際に文章を書くことが中心になります。取り上げる文章は基本的に意見文とし、相手に正しく伝わり説得力のある意見文を書くにはどうすれば良いかを、演習を通じて体得することを目的とします。また、音声言語や非文字情報についても取り上げる予定です。

・なお、担当者は、公立高等学校国語科教諭として32年間勤務し、高等学校と国語科の現状を熟知している、実務経験のある教員です。したがって高等学校との接続の観点を生かし、大学の学びに必要な内容を展開することができます。

< 到達目標 >

・自分の手で、ある程度まとまった量の意見文を組み立て、それを正しい日本語の表現で書くことができる。
・自分の意見と相手の意見の違いを理解し、説得力を持って自分の意見を正しく相手に伝えることができる。
・文章の表現や理解を通じて日本語の性質や特徴を学び、それらを身に付けている。

< 授業のキーワード >

意見文・要約・説得力・論理性・非文字情報

< 授業の進め方 >

・毎時間、課題演習が中心になります。最初にその回のテーマと課題について講義・説明し、その後で課題に取り組み、それを提出する流れが基本です。

・出席は、対面授業ではその場での確認または提出物による確認、遠隔授業ではZoomのチャットか課題の提出で確認する予定です。

・授業中の課題以外に、宿題や予習の課題を課すことがあります。

・課題の内容によっては、2回の連続した授業が続き物の内容になっていることがあります。欠席すると次の授業で不便なことがありますので、ご注意ください。詳しくは、第1回ガイダンスで説明します。

< 履修するにあたって >

・この授業は、対面授業です。
・この授業は「文章表現」を履修していることを前提としていますので、前期で「文章表現」を履修しておくことを強く勧めます。

・スマホやキーボードではなく、手にした筆記具での文章作成に慣れるようにしてください。

・身の回りにある間違った日本語表現にも敏感に反応できる言語感覚を磨いてください。

・2回の連続した授業が続き物の内容になっていることがありますので、欠席のないように心がけてください。欠席すると、次の授業で不便をすることがあります。また、出席はかなり重視します。

< 授業時間外に必要な学修 >

・授業中の課題は授業内で完結させることが基本ですが、宿題として次の時間までに仕上げるとか、授業に関連した別の課題などを課すこともありますので、必要に応じて期日を守って提出してください。

・この授業は、予習よりも復習が中心になります。学習した内容が他でも使えるように、毎時間の内容をしっかり復習して積み上げてください。また、返却された課題についても復習とポイントを再確認し、重要事項を身に付ける努力を続けてください。授業の時だけではなく、1日平均1時間前後の学修は必要だろうと考えます。

< 提出課題など >

・提出を課したすべての課題（授業での課題や授業外の課題も）は評価の対象とします。

・授業時間時に提出された課題は、次回講義または「授業フォルダ（シラバス最下欄）」に「解答例」のような形で解答を示し、自己採点が可能なようにします。

< 成績評価方法・基準 >

・前提として、単位認定のためには3分の2以上の出席が必要です。出席は、提出物やその場での点呼などで確認します。なお、本授業では出席を非常に重視しますが、「3分の2以上出席したら自動的に単位がもらえる」という意味ではありません。ご注意ください。

・本授業は、考査を実施しません。以下の「基本算出式」を基本として成績をつけます。

・基本算出式 = すべての課題（提出の有無と内容）80% + 取組姿勢（遅刻・早退を含む）20%とします。ただし、欠席・遅刻・早退が多い場合、参加する意欲が見られない場合、課題で授業の指示を守らない場合などは、基本算出式にかかわらず単位を認定しない場合があります。

・各回の課題は配点は、回ごとに大きく異なります。したがって、配点の大きな回の課題の不提出や成績不良が続く場合は、欠席回数が3分の1未満でも単位が認定されない場合があります。

< テキスト >

使用しません。毎回プリントで対応します。

< 参考図書 >

特にありません。

【注意】「文章表現」で使ったテキスト（三省堂『日本語表現法 改訂版』）は、この授業では使用しません。したがって「文章表現」を履修しなかった人は新規購入する必要はありません。その本は、本授業の参考図書

として活用してください。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

この授業に関する全てのことについて説明します。受講者は特に欠席のないようにしてください。

第2回

文を整える 1 文を切る

文章を書くにあたって、一文が長すぎたり短すぎたりしないように、自分で自在に調整するためのトレーニング（文を切ること）を行います。

第3回 文を整える 2 文をつなぐ

文章を書くにあたって、一文が長すぎたり短すぎたりしないように、自分で自在に調整するためのトレーニング（文をつなぐこと）を行います。

第4回 要約する 1

文章を読み取り、その内容を早く正しく短い文章に書き表すトレーニングを行います。

第5回 要約する 2

文章を読み取り、その内容を決められた字数内で文章に書き表すトレーニングを行います。

第6回 まとまった文を書く 1 書く材料を「集める」

意見文を書く時に、書く材料を「集める」方法と、それらから「自分の意見」を見つける方法について学びます。

第7回 まとまった文を書く 2 説得力を上げる

自分の意見をまとめていく中で、説得力を上げるための方法とその効果について学びます。

第8回 まとまった文を書く 3 構成を考える

自分の書く意見文の内容が正しく相手に伝わるには、文章全体の構成はどうすれば良いかについて学びます。

第9回 型に従って書く 1 具体化する

自分の書く意見文が論理的に展開するように、型に従って書く方法について学び、その中でテーマを具体化することを学びます。

第10回 型に従って書く 2 他人が読むことを意識して書く

自分以外の人を読むことを前提として文章を書き、他人に通じる論理構成や表現ができているかを学びます。

第11回 自分の文章を客体化させる

自分の文章は本当に相手に通じているのかを検証することにより、自分の文章を客体化することを学びます。なお、この時間はグループワークを行う予定です。

第12回 非文字情報を読み取る 1

文字情報ではなく、図・表・グラフなどの非文字情報を正しく読み取るにはどうすれば良いかについて学びます。

第13回 非文字情報を読み取る 2

図・表・グラフなどの非文字情報を含んだ文章から、正しく内容を読み取るにはどうすればよいかについて学びます。

第14回 聞き取って書く

文字情報ではなく音声情報を聞き取り、その内容を正しく理解したりまとめたりするトレーニングを行います。

第15回 まとめと課題

授業の内容を再確認する中で、文章表現上のポイントや課題を再度確認し、それがどの程度定着しているかを課題で確認します。

2022年度 後期

2.0単位

文章表現 【総リ八】

大谷 通高

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

この科目は、全学（学部）のDPに示す「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」の達成に特に欠かせないものであり、共通教育科目リテラシー科目群基礎思考分野に属しています。大学におけるレポートや卒業論文の文章表現（アカデミック・ライティング）、および就職活動に直結する文章表現の知識を身につけ、その技術を習得することを目標とします。

実践的なトレーニングによって、論理的で効果的な文章構成の方法などを学び、実用的な文章表現能力を身につけます。実践の成果として、一定の水準を満たしたレポートを1本書き上げることを必須とします。その過程で、自分の文章を読み返し、推敲する力も養います。併せて「文章表現」で学んだことをさらに広く応用できるようにすることも目指します。

< 到達目標 >

・アカデミック・ライティングを身につけ、形式の整ったレポートが書ける。（知識、技能）

・文章を見直すときのポイントがわかり、推敲することができます。（技能）

・授業内容を振り返り、自身の課題や文章表現力向上に活かすことができる。（態度・習慣、技能）

・考えていることを、的確な表現で読み手に伝えることができる。（技能）

< 授業のキーワード >

アカデミック・ライティング レポート

< 授業の進め方 >

・「文章表現」と同様、必要に応じてグループワークを取り入れます。グループで作業することにより、文章を書くときの読み手に配慮する意識を高めます。

・わからない語句等を調べる際は、辞書（電子辞書可）を参照して作業に取り組みます（インターネットによる安易な検索は控えること）。

< 履修するにあたって >

- ・授業中の課題に積極的に参加すること。
- ・一定水準のレポートが未提出の場合、単位は認定しません。
- ・環境・進度によって授業計画の内容を前後・変更する場合があります。

< 授業時間外に必要な学修 >

レポートを執筆するためには、題材となっていることについて文献や資料を探し、知識を増やすことが必要不可欠です。また事実を解釈するためには幅広い知識が必要です。インターネットで情報を検索するだけでなく、図書館で関連する文献を探して読むことを強く推奨します。一定の水準のレポートを書くために、情報収集、要約、解釈などをまとめる作業が必要です（目安として授業前後に1時間）。

< 提出課題など >

- ・5回から8回程度課題を出します（レポート提出2回を含む）。
- ・最終提出レポートを除き、提出物は内容をチェックして返却し、場合によっては再提出を求めます。

< 成績評価方法・基準 >

授業への取り組み方・提出課題60%、レポート（2回）40%。レポート提出（2回）は必須とします。定期試験は実施しません。

< テキスト >

『グループワークで日本語表現力アップ』（2016）野田春美他、ひつじ書房

< 参考図書 >

浜田麻里他著『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版2,700円
その他、必要に応じて紹介します。

< 授業計画 >

第1回 イン트로ダクション

「文章表現」を振り返る。

第2回 レポートとは何かを知る(1)

事実と意見の区別を学ぶ。

第3回 レポートとは何かを知る(2)

レポートの基本的な構成を学ぶ。

第4回 レポートのテーマ

レポートのテーマを決める際の注意事項を学ぶ。

第5回 レポートを書くための資料

資料を探すときの注意事項を学ぶ。

第6回 論拠を示す(1)

説得力のある論拠とは何かを学ぶ。

第7回 論拠を示す(2)

データを解釈する練習をする。

第8回 文献から引用する(1)

基本的な引用のルールを学ぶ。

第9回 文献から引用する(2)

文章を解釈する練習をする。

第10回 アンケート調査をする

アンケート調査を行う際の基本的な注意事項を学ぶ。

第11回 図表を利用する

レポートで図表を使用する際のルールを学ぶ。

第12回 プレゼンテーションで内容を見直す

レポートの内容をプレゼンテーションする。

第13回 レポートを仕上げる

推敲などでレポートを仕上げる。

第14回 レポート執筆のまとめ

レポート執筆作業を振り返る。

第15回 自分を表現する

就職活動に役立つ自己PRを学ぶ。

2022年度 後期

2.0単位

文章表現 (ア)【人文】

岡村 裕美、米澤 優、稲葉 小由紀、中原 香苗、新谷 遥、山田 伸武、真田 聡美、岡村 裕美

< 授業の方法 >

講義と演習

< 授業の目的 >

この科目は、全学（学部）のDPに示す「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」の達成に特に欠かせないものであり、共通教育科目リテラシー科目群基礎思考分野に属しています。大学におけるレポートや卒業論文の文章表現（アカデミック・ライティング）、および就職活動に直結する文章表現の知識を身につけ、その技術を習得することを目標とします。

実践的なトレーニングによって、論理的で効果的な文章構成の方法などを学び、実用的な文章表現能力を身につけます。実践の成果として、一定の水準を満たしたレポートを1本書き上げることが必須とします。その過程で、自分の文章を読み返し、推敲する力も養います。併せて「文章表現」で学んだことをさらに広く応用できるようになることも目指します。

< 到達目標 >

- ・アカデミック・ライティングを身につけ、形式の整ったレポートが書ける。（知識、技能）
- ・文章を見直すときのポイントがわかり、推敲することができる。（技能）
- ・グループワークや相互評価を通じ、他者の意見を聞くことで自分の考えや文章を改善することができる。（技能）

< 授業のキーワード >

アカデミック・ライティング レポート グループワーク

< 授業の進め方 >

可能な範囲で、グループでの作業を取り入れます。グループで作業することにより、文章を書くときの読み手に

配慮する意識を高めます。

<履修するにあたって>

・グループワークをはじめ授業中の課題に積極的に参加すること。

・一定水準のレポート提出が単位認定の必須条件です。

・授業担当者、進度等によって、授業計画の内容が前後することがあります。

・遅刻、早退は3回で欠席1回とみなします。

<授業時間外に必要な学修>

レポートを執筆するためには、題材となっていることについて文献や資料を探し、知識を増やすことが必要不可欠です。また事実を解釈するためには幅広い知識が必要です。インターネットで情報を検索するだけでなく、図書館で関連する文献を探して読むことを強く推奨します。一定の水準のレポートを書くために、情報収集、要約、解釈などをまとめる作業が必要です(目安として授業前後に1時間)。

<提出課題など>

・5回から8回程度課題を出します(レポート提出2回を含む)。

・最終提出レポートを除き、提出物は内容をチェックして返却し、場合によっては再提出を求めます。

<成績評価方法・基準>

授業での作業の取り組みや課題60%、レポート(2回)40%。レポート提出(2回)は必須とします。定期試験は実施しません。

それぞれに対する評価の基準は「到達目標」に従います。

<テキスト>

『グループワークで日本語表現力アップ』(2016)野田春美他、ひつじ書房

<参考図書>

浜田麻里他著『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版2,700円

その他、必要に応じて紹介します。

<授業計画>

第1回 イントロダクション

「文章表現」を振り返る。

第2回 レポートとは何かを知る(1)

事実と意見の区別を学ぶ。

第3回 レポートとは何かを知る(2)

レポートの基本的な構成を学ぶ。

第4回 レポートのテーマ

レポートのテーマを決める際の注意事項を学ぶ。

第5回 レポートを書くための資料

資料を探すときの注意事項を学ぶ。

第6回 論拠を示す(1)

説得力のある論拠とは何かを学ぶ。

第7回 論拠を示す(2)

データを解釈する練習をする。

第8回 文献から引用する(1)

基本的な引用のルールを学ぶ。

第9回 文献から引用する(2)

文章を解釈する練習をする。

第10回 アンケート調査をする

アンケート調査を行う際の基本的な注意事項を学ぶ。

第11回 図表を利用する

レポートで図表を使用する際のルールを学ぶ。

第12回 プレゼンテーションで内容を見直す

レポートの内容をプレゼンテーションする。

第13回 レポートを仕上げる

推敲などでレポートを仕上げる。

第14回 レポート執筆のまとめ

レポート執筆作業を振り返る。

第15回 自分を表現する

就職活動に役立つ自己PRを学ぶ。

2022年度 後期

2.0単位

文章表現 (ア)【心理】

稲葉 小由紀、二條 絵実子、新谷 遥

<授業の方法>

講義と演習

<授業の目的>

この科目は、全学(学部)のDPに示す「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」の達成に特に欠かせないものであり、共通教育科目リテラシー科目群基礎思考分野に属しています。大学におけるレポートや卒業論文の文章表現(アカデミック・ライティング)、および就職活動に直結する文章表現の知識を身につけ、その技術を習得することを目標とします。

実践的なトレーニングによって、論理的で効果的な文章構成の方法などを学び、実用的な文章表現能力を身につけます。実践の成果として、一定の水準を満たしたレポートを1本書き上げることを必須とします。その過程で、自分の文章を読み返し、推敲する力も養います。併せて「文章表現」で学んだことをさらに広く応用できるようにすることも目指します。

<到達目標>

・アカデミック・ライティングを身につけ、形式の整ったレポートが書ける。(知識、技能)

・文章を見直すときのポイントがわかり、推敲することができる。(技能)

・グループワークや相互評価を通じ、他者の意見を聞くことで自分の考えや文章を改善することができる。(技能)

<授業のキーワード>

アカデミック・ライティング レポート グループワー

ク

<授業の進め方>

可能な範囲で、グループでの作業を取り入れます。グループで作業することにより、文章を書くときの読み手に配慮する意識を高めます。

<履修するにあたって>

- ・グループワークをはじめ授業中の課題に積極的に参加すること。
- ・一定水準のレポート提出が単位認定の必須条件です。
- ・授業担当者、進度等によって、授業計画の内容が前後することがあります。
- ・遅刻、早退は3回で欠席1回とみなします。

<授業時間外に必要な学修>

レポートを執筆するためには、題材となっていることについて文献や資料を探し、知識を増やすことが必要不可欠です。また事実を解釈するためには幅広い知識が必要です。インターネットで情報を検索するだけでなく、図書館で関連する文献を探して読むことを強く推奨します。一定の水準のレポートを書くために、情報収集、要約、解釈などをまとめる作業が必要です(目安として授業前後に1時間)。

<提出課題など>

- ・5回から8回程度課題を出します(レポート提出2回を含む)。
- ・最終提出レポートを除き、提出物は内容をチェックして返却し、場合によっては再提出を求めます。

<成績評価方法・基準>

授業での作業の取り組みや課題60%、レポート(2回)40%。レポート提出(2回)は必須とします。定期試験は実施しません。

それぞれに対する評価の基準は「到達目標」に従います。

<テキスト>

『グループワークで日本語表現力アップ』(2016)野田春美他、ひつじ書房

<参考図書>

浜田麻里他著『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版2,700円

その他、必要に応じて紹介します。

<授業計画>

第1回 イントロダクション

「文章表現」を振り返る。

第2回 レポートとは何かを知る(1)

事実と意見の区別を学ぶ。

第3回 レポートとは何かを知る(2)

レポートの基本的な構成を学ぶ。

第4回 レポートのテーマ

レポートのテーマを決める際の注意事項を学ぶ。

第5回 レポートを書くための資料

資料を探すときの注意事項を学ぶ。

第6回 論拠を示す(1)

説得力のある論拠とは何かを学ぶ。

第7回 論拠を示す(2)

データを解釈する練習をする。

第8回 文献から引用する(1)

基本的な引用のルールを学ぶ。

第9回 文献から引用する(2)

文章を解釈する練習をする。

第10回 アンケート調査をする

アンケート調査を行う際の基本的な注意事項を学ぶ。

第11回 図表を利用する

レポートで図表を使用する際のルールを学ぶ。

第12回 プレゼンテーションで内容を見直す

レポートの内容をプレゼンテーションする。

第13回 レポートを仕上げる

推敲などでレポートを仕上げる。

第14回 レポート執筆のまとめ

レポート執筆作業を振り返る。

第15回 自分を表現する

就職活動に役立つ自己PRを学ぶ。

2022年度 後期

2.0単位

文章表現

木村 雅則

<授業の方法>

対面授業(演習・講義)

<授業の目的>

・この授業は、共通教育科目リテラシー科目群基礎思考分野に属しており、全学DPに示すように、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養するとともに、自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることをめざし、基礎的な思考力・表現力を身につけることを目的としています。具体的には、大学で学ぶにあたって必要な、課された課題に適切に応えることができる表現力を身につけられるように段階的に学び、社会人として必要な基本的な考え方や技術を身につけることを目指します。

・この授業は「文章表現」の2段階目ですので、実際に文章を書くことが中心になります。取り上げる文章は基本的に意見文とし、相手に正しく伝わり説得力のある意見文を書くにはどうすれば良いかを、演習を通じて体得することを目的とします。また、音声言語や非文字情報についても取り上げる予定です。

・なお、担当者は、公立高等学校国語科教諭として32年間勤務し、高等学校と国語科の現状を熟知している、実務経験のある教員です。したがって高等学校との接続の観点を生かし、大学の学びに必要な内容を展開すること

ができます。

<到達目標>

- ・自分の手で、ある程度まとまった量の意見文を組み立て、それを正しい日本語の表現で書くことができる。
- ・自分の意見と相手の意見の違いを理解し、説得力を持って自分の意見を正しく相手に伝えることができる。
- ・文章の表現や理解を通じて日本語の性質や特徴を学び、それらを身に付けている。

<授業のキーワード>

意見文・要約・説得力・論理性・非文字情報

<授業の進め方>

- ・毎時間、課題演習が中心になります。最初にその回のテーマと課題について講義・説明し、その後で課題に取り組み、それを提出する流れが基本です。
- ・出席は、対面授業ではその場での確認または提出物による確認、遠隔授業ではZoomのチャットか課題の提出で確認する予定です。
- ・授業中の課題以外に、宿題や予習の課題を課すことがあります。
- ・課題の内容によっては、2回の連続した授業が続き物の内容になっていることがあります。欠席すると次の授業で不便なことがありますので、ご注意ください。詳しくは、第1回ガイダンスで説明します。

<履修するにあたって>

- ・この授業は、対面授業です。
- ・この授業は「文章表現」を履修していることを前提としていますので、前期で「文章表現」を履修しておくことを強く勧めます。
- ・スマホやキーボードではなく、手にした筆記具での文章作成に慣れるようにしてください。
- ・身の回りにある間違った日本語表現にも敏感に反応できる言語感覚を磨いてください。
- ・2回の連続した授業が続き物の内容になっていることがありますので、欠席のないように心がけてください。欠席すると、次の授業で不便をすることがあります。また、出席はかなり重視します。

<授業時間外に必要な学修>

- ・授業中の課題は授業内で完結させることが基本ですが、宿題として次の時間までに仕上げるとか、授業に関連した別の課題などを課すこともありますので、必要に応じて期日を守って提出してください。
- ・この授業は、予習よりも復習が中心になります。学習した内容が他でも使えるように、毎時間の内容をしっかり復習して積み上げてください。また、返却された課題についても復習とポイントを再確認し、重要事項を身に付ける努力を続けてください。授業の時だけでなく、1日平均1時間前後の学修は必要だろうと考えます。

<提出課題など>

- ・提出を課したすべての課題（授業での課題や授業外の課題も）は評価の対象とします。

- ・授業時間時に提出された課題は、次回講義または「授業フォルダ（シラバス最下欄）」に「解答例」のような形で解答を示し、自己採点が可能なようにします。

<成績評価方法・基準>

- ・前提として、単位認定のためには3分の2以上の出席が必要です。出席は、提出物やその場での点呼などで確認します。なお、本授業では出席を非常に重視しますが、「3分の2以上出席したら自動的に単位がもらえる」という意味ではありません。ご注意ください。
- ・本授業は、考査を実施しません。以下の「基本算出式」を基本として成績をつけます。
- ・基本算出式 = すべての課題（提出の有無と内容）80% + 取組姿勢（遅刻・早退を含む）20%とします。ただし、欠席・遅刻・早退が多い場合、参加する意欲が見られない場合、課題で授業の指示を守らない場合などは、基本算出式にかかわらず単位を認定しない場合があります。
- ・各回の課題は配点は、回ごとに大きく異なります。したがって、配点の大きな回の課題の不提出や成績不良が続く場合は、欠席回数が3分の1未満でも単位が認定されない場合があります。

<テキスト>

使用しません。毎回プリントで対応します。

<参考図書>

特にありません。

【注意】「文章表現」で使ったテキスト（三省堂『日本語表現法 改訂版』）は、この授業では使用しません。したがって「文章表現」を履修しなかった人は新規購入する必要はありません。その本は、本授業の参考図書として活用してください。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

この授業に関する全てのことについて説明します。受講者は特に欠席のないようにしてください。

第2回

文を整える 1 文を切る

文章を書くにあたって、一文が長すぎたり短すぎたりしないように、自分で自在に調整するためのトレーニング（文を切ること）を行います。

第3回 文を整える 2 文をつなぐ

文章を書くにあたって、一文が長すぎたり短すぎたりしないように、自分で自在に調整するためのトレーニング（文をつなぐこと）を行います。

第4回 要約する 1

文章を読み取り、その内容を早く正しく短い文章に書き表すトレーニングを行います。

第5回 要約する 2

文章を読み取り、その内容を決められた字数内で文章に書き表すトレーニングを行います。

第6回 まとまった文を書く1 書く材料を「集める」
意見文を書く時に、書く材料を「集める」方法と、それらから「自分の意見」を見つける方法について学びます。

第7回 まとまった文を書く2 説得力を上げる
自分の意見をまとめていく中で、説得力を上げるための方法とその効果について学びます。

第8回 まとまった文を書く3 構成を考える
自分の書く意見文の内容が正しく相手に伝わるには、文章全体の構成はどうすれば良いかについて学びます。

第9回 型に従って書く1 具体化する
自分の書く意見文が論理的に展開するように、型に従って書く方法について学び、その中でテーマを具体化することを学びます。

第10回 型に従って書く2 他人が読むことを意識して書く
自分以外の人が読むことを前提として文章を書き、他人に通じる論理構成や表現ができていないかを学びます。

第11回 自分の文章を客体化させる
自分の文章は本当に相手に通じているのかを検証することにより、自分の文章を客体化することを学びます。なお、この時間はグループワークを行う予定です。

第12回 非文字情報を読み取る1
文字情報ではなく、図・表・グラフなどの非文字情報を正しく読み取るにはどうすれば良いかについて学びます。

第13回 非文字情報を読み取る2
図・表・グラフなどの非文字情報を含んだ文章から、正しく内容を読み取るにはどうすればよいかについて学びます。

第14回 聞き取って書く
文字情報ではなく音声情報を聞き取り、その内容を正しく理解したりまとめたりするトレーニングを行います。

第15回 まとめと課題
授業の内容を再確認する中で、文章表現上のポイントや課題を再度確認し、それがどの程度定着しているかを課題で確認します。

2022年度 後期

2.0単位

文章表現

木村 雅則

< 授業の方法 >

対面授業（演習・講義）

< 授業の目的 >

・この授業は、共通教育科目リテラシー科目群基礎思考分野に属しており、全学DPに示すように、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養するとともに、自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることをめざし、基礎的な思考力・表現力を身につけることを

目的としています。具体的には、大学で学ぶにあたって必要な、課された課題に適切に応えることができる表現力を身につけられるように段階的に学び、社会人として必要な基本的な考え方や技術を身につけることを目指します。

・この授業は「文章表現」の2段階目ですので、実際に文章を書くことが中心になります。取り上げる文章は基本的に意見文とし、相手に正しく伝わり説得力のある意見文を書くにはどうすれば良いかを、演習を通じて体得することを目的とします。また、音声言語や非文字情報についても取り上げる予定です。

・なお、担当者は、公立高等学校国語科教諭として32年間勤務し、高等学校と国語科の現状を熟知している、実務経験のある教員です。したがって高等学校との接続の観点を生かし、大学の学びに必要な内容を展開することができます。

< 到達目標 >

・自分の手で、ある程度まとまった量の意見文を組み立て、それを正しい日本語の表現で書くことができる。
・自分の意見と相手の意見の違いを理解し、説得力を持って自分の意見を正しく相手に伝えることができる。
・文章の表現や理解を通じて日本語の性質や特徴を学び、それらを身に付けている。

< 授業のキーワード >

意見文・要約・説得力・論理性・非文字情報

< 授業の進め方 >

・毎時間、課題演習が中心になります。最初にその回のテーマと課題について講義・説明し、その後で課題に取り組み、それを提出する流れが基本です。
・出席は、対面授業ではその場での確認または提出物による確認、遠隔授業ではZoomのチャットが課題の提出で確認する予定です。

・授業中の課題以外に、宿題や予習の課題を課すことがあります。

・課題の内容によっては、2回の連続した授業が続き物の内容になっていることがあります。欠席すると次の授業で不便なことがありますので、ご注意ください。詳しくは、第1回ガイダンスで説明します。

< 履修するにあたって >

・この授業は、対面授業です。
・この授業は「文章表現」を履修していることを前提としていますので、前期で「文章表現」を履修しておくことを強く勧めます。

・スマホやキーボードではなく、手にした筆記具での文章作成に慣れるようにしてください。

・身の回りにある間違った日本語表現にも敏感に反応できる言語感覚を磨いてください。

・2回の連続した授業が続き物の内容になっていることがありますので、欠席のないように心がけてください。欠席すると、次の授業で不便をすることがあります。ま

た、出席はかなり重視します。

<授業時間外に必要な学修>

・授業中の課題は授業内で完結させることが基本ですが、宿題として次の時間までに仕上げるとか、授業に関連した別の課題などを課すこともありますので、必要に応じて期日を守って提出してください。

・この授業は、予習よりも復習が中心になります。学習した内容が他でも使えるように、毎時間の内容をしっかり復習して積み上げてください。また、返却された課題についても復習とポイントを再確認し、重要事項を身に付ける努力を続けてください。授業の時だけではなく、1日平均1時間前後の学修は必要だろうと考えます。

<提出課題など>

・提出を課したすべての課題（授業での課題や授業外の課題も）は評価の対象とします。

・授業時間時に提出された課題は、次回講義または「授業フォルダ（シラバス最下欄）」に「解答例」のような形で解答を示し、自己採点が可能なようにします。

<成績評価方法・基準>

・前提として、単位認定のためには3分の2以上の出席が必要です。出席は、提出物やその場での点呼などで確認します。なお、本授業では出席を非常に重視しますが、「3分の2以上出席したら自動的に単位がもらえる」という意味ではありません。ご注意ください。

・本授業は、考査を実施しません。以下の「基本算出式」を基本として成績をつけます。

・基本算出式 = すべての課題（提出の有無と内容）80% + 取組姿勢（遅刻・早退を含む）20%とします。ただし、欠席・遅刻・早退が多い場合、参加する意欲が見られない場合、課題で授業の指示を守らない場合などは、基本算出式にかかわらず単位を認定しない場合があります。

・各回の課題は配点は、回ごとに大きく異なります。したがって、配点の大きな回の課題の不提出や成績不良が続く場合は、欠席回数が3分の1未満でも単位が認定されない場合があります。

<テキスト>

使用しません。毎回プリントで対応します。

<参考図書>

特にありません。

【注意】「文章表現」で使ったテキスト（三省堂『日本語表現法 改訂版』）は、この授業では使用しません。したがって「文章表現」を履修しなかった人は新規購入する必要はありません。その本は、本授業の参考図書として活用してください。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

この授業に関する全てのことについて説明します。受講者は特に欠席のないようにしてください。

第2回

文を整える 1 文を切る

文章を書くにあたって、一文が長すぎたり短すぎたりしないように、自分で自在に調整するためのトレーニング（文を切ること）を行います。

第3回 文を整える 2 文をつなぐ

文章を書くにあたって、一文が長すぎたり短すぎたりしないように、自分で自在に調整するためのトレーニング（文をつなぐこと）を行います。

第4回 要約する 1

文章を読み取り、その内容を早く正しく短い文章に書き表すトレーニングを行います。

第5回 要約する 2

文章を読み取り、その内容を決められた字数内で文章に書き表すトレーニングを行います。

第6回 まとまった文を書く 1 書く材料を「集める」意見文を書く時に、書く材料を「集める」方法と、それらから「自分の意見」を見つける方法について学びます。

第7回 まとまった文を書く 2 説得力を上げる

自分の意見をまとめていく中で、説得力を上げるための方法とその効果について学びます。

第8回 まとまった文を書く 3 構成を考える

自分の書く意見文の内容が正しく相手に伝わるには、文章全体の構成はどうすれば良いかについて学びます。

第9回 型に従って書く 1 具体化する

自分の書く意見文が論理的に展開するように、型に従って書く方法について学び、その中でテーマを具体化することを学びます。

第10回 型に従って書く 2 他人が読むことを意識して書く

自分以外の人を読むことを前提として文章を書き、他人に通じる論理構成や表現ができていないかを学びます。

第11回 自分の文章を客体化させる

自分の文章は本当に相手に通じているのかを検証することにより、自分の文章を客体化することを学びます。なお、この時間はグループワークを行う予定です。

第12回 非文字情報を読み取る 1

文字情報ではなく、図・表・グラフなどの非文字情報を正しく読み取るにはどうすれば良いかについて学びます。

第13回 非文字情報を読み取る 2

図・表・グラフなどの非文字情報を含んだ文章から、正しく内容を読み取るにはどうすればよいかについて学びます。

第14回 聞き取って書く

文字情報ではなく音声情報を聞き取り、その内容を正しく理解したりまとめたりするトレーニングを行います。

第15回 まとめと課題

授業の内容を再確認する中で、文章表現上のポイントや課題を再度確認し、それがどの程度定着しているかを課題で確認します。

2022年度 後期

2.0単位

文章表現 (ア)【法】

新田町 義尚、酒井 雅史、百瀬 みのり

< 授業の方法 >

講義と演習

< 授業の目的 >

この科目は、全学(学部)のDPに示す「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」の達成に特に欠かせないものであり、共通教育科目リテラシー科目群基礎思考分野に属しています。大学におけるレポートや卒業論文の文章表現(アカデミック・ライティング)、および就職活動に直結する文章表現の知識を身につけ、その技術を習得することを目標とします。

実践的なトレーニングによって、論理的で効果的な文章構成の方法などを学び、実用的な文章表現能力を身につけます。実践の成果として、一定の水準を満たしたレポートを1本書き上げることを必須とします。その過程で、自分の文章を読み返し、推敲する力も養います。併せて「文章表現」で学んだことをさらに広く応用できるようになることも目指します。

< 到達目標 >

- ・アカデミック・ライティングを身につけ、形式の整ったレポートが書ける。(知識、技能)
- ・文章を見直すときのポイントがわかり、推敲することができる。(技能)
- ・グループワークや相互評価を通じ、他者の意見を聞くことで自分の考えや文章を改善することができる。(技能)

< 授業のキーワード >

アカデミック・ライティング レポート グループワーク

< 授業の進め方 >

可能な範囲で、グループでの作業を取り入れます。グループで作業することにより、文章を書くときの読み手に配慮する意識を高めます。アクティブラーニング形式を実施。学生同士で教科書の課題の解答例を協働で作成し、班ごとに発表、各自で最終的に仕上げたものを提出するという形式の授業を予定。

< 履修するにあたって >

- ・グループワークをはじめ授業中の課題に積極的に参加すること。
- ・一定水準のレポート提出が単位認定の必須条件です。
- ・授業担当者、進度等によって、授業計画の内容が前後することがあります。
- ・遅刻、早退は3回で欠席1回とみなします。

< 授業時間外に必要な学修 >

レポートを執筆するためには、題材となっていることについて文献や資料を探し、知識を増やすことが必要不可欠です。また事実を解釈するためには幅広い知識が必要です。インターネットで情報を検索するだけでなく、図書館で関連する文献を探して読むことを強く推奨します。一定の水準のレポートを書くために、情報収集、要約、解釈などをまとめる作業が必要です(目安として授業前後に1時間)。**【事前学習】**指定された教科書課題を必ず予習し、解答例をあらかじめ作成しておいてから、教室での協働学習に参加する(目安として30分以上確保すること)

< 提出課題など >

- ・教科書課題を1章ずつ毎週1回dotCampusレポート欄へオンライン提出。
- ・そのほか新聞記事要約など5回から8回程度課題を出します(レポート提出2回を含む)。
- ・最終提出レポートを除き、提出物は内容をチェックして返却し場合によっては再提出を求めます。

< 成績評価方法・基準 >

授業での作業の取り組みや課題60%、中間+期末のレポート(2回)40%。レポート提出(2回)は必須とします。定期試験は実施しません。

それぞれに対する評価の基準は「到達目標」に従います。

< テキスト >

『グループワークで日本語表現力アップ』(2016)野田春美他、ひつじ書房

< 参考図書 >

浜田麻里他著『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版2,700円

その他、必要に応じて紹介します。

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

「文章表現」を振り返る。

第2回 レポートとは何かを知る(1)

事実と意見の区別を学ぶ。

第3回 レポートとは何かを知る(2)

レポートの基本的な構成を学ぶ。

第4回 レポートのテーマ

レポートのテーマを決める際の注意事項を学ぶ。

第5回 レポートを書くための資料

資料を探すときの注意事項を学ぶ。

第6回 論拠を示す(1)

説得力のある論拠とは何かを学ぶ。

第7回 論拠を示す(2)

データを解釈する練習をする。

第8回 文献から引用する(1)

基本的な引用のルールを学ぶ。

第9回 文献から引用する(2)

文章を解釈する練習をする。

第10回 アンケート調査をする
アンケート調査を行う際の基本的な注意事項を学ぶ。
第11回 図表を利用する
レポートで図表を使用する際のルールを学ぶ。
第12回 プレゼンテーションで内容を見直す
レポートの内容をプレゼンテーションする。
第13回 レポートを仕上げる
推敲などでレポートを仕上げる。
第14回 レポート執筆のまとめ
レポート執筆作業を振り返る。
第15回 自分を表現する
就職活動に役立つ自己PRを学ぶ。

2022年度 後期

2.0単位

文章表現 (ア)【薬】

山上 登志美、高寺 直子、岡村 裕美

< 授業の方法 >

講義と演習

< 授業の目的 >

この科目は共通教育科目に属し、全学DP「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」の達成を目指すとともに、薬学部のDP、および「薬学教育モデル・コアカリキュラムのSB0s」の中のA-(3) - コミュニケーションの1)-8)の項目の達成を目的とする。薬学部6年制教育が実施されて以来、目指す薬剤師像は「かかりつけ薬剤師」と言われるように、患者さんにとって身近な医療者として日常的に気軽に健康上の相談ができる薬剤師である。そのためには、相手の話をよく聞き理解できるとともに、自分の持つ知識をわかりやすく正確に相手に説明できることが必要とされる。また、病院では患者さんだけでなく他の医療スタッフとの相互理解を適切に行なうためにも日本語表現力は重要である。理系学生はことばに対する関心は希薄だと言われるが、これからの薬剤師には日本語表現力・理解力も重要な位置にあることを理解し、日本語知識の修得と、自らの言葉で表現できることを目的とする。

< 到達目標 >

「文章表現」では、日本語の文章の書き方や文法的な基礎知識を身につけることを目標とする。その実践として「プレゼンテーション」のプリント作成を課題とする。また、具体的な文章表現力、論理的かつ客観的な文章の書き方を理解し、その作成も行う。具体的な到達目標は以下のとおり。

日本語の文の基礎として、主語・述語をきちんと呼応させて書くことができる。(知識・技能)

修飾語・読点・接続詞・副詞・助詞を正確に使うことができる。(知識・技能)

相手を配慮して、わかりやすく説明することができる。(知識・態度)

他人の書いた文章の内容を正確に理解できる。(知識・技能)

他人の意見を鵜呑みにせず、自ら調べて意見の根拠を見つけることができる。(知識・態度)

わかりやすいプリントを作成できる。(知識・技能)
効果的なプレゼンテーションを行う工夫をする。(技能・態度)

根拠を明確にした論理的な説明ができる。(知識・態度)

レポートの書き方と科学論文(実験や調査にもとづいて考察を述べる)の書き方を理解する。(知識)

科学論文の構成を列挙できる。(知識)

定められた書式、正しい文法に則って科学論文を書くことができる。(知識・技能)

薬剤師にとって、如何に表現力が大切かを説明できる。(知識・技能・態度)

< 授業のキーワード >

日本語の基礎、主語・述語、科学論文の書き方、プレゼンテーションのプリント作成

< 授業の進め方 >

各授業の前半は講義形式で説明を行ない、後半では実際に文章作成を行なう。「プレゼンテーション」のプリント作成では、随時個人指導も行う。自ら作成したプリントにもとづいて、第9?11回めの授業中に各自5分の発表を行い、質問を受ける。

< 履修するにあたって >

聞くだけではなく、作業の多い授業なので、積極的な授業参加を望みます。日頃から新聞を読む習慣をつけ、健康・医療に関する記事に関心を持つようにしてください。夏休みの間に、後期に行うプレゼンテーションのテーマを見つけるように頑張りましょう。

< 授業時間外に必要な学修 >

プレゼンテーションのプリント作成は授業時間外に各自でテーマを見つけ、下案を作成すること。ただし、授業中に必要に応じて個別にプリント作成の指導を行います。事前学習は目安として1~2時間。

< 提出課題など >

第12回・13回の授業で、科学論文の書き方の簡単な練習問題を課題として提出します。提出物は次の授業で添削したものを返却します。

< 成績評価方法・基準 >

プレゼンテーション40%、提出課題20%、期末定期試験40%で総合的に評価します。

< テキスト >

米田明美・藏中さやか・山上登志美著『大学生のための日本語表現実践ノート』風間書房¥1,000

< 授業計画 >

第1回 授業の予定とプレゼンテーションについての説明

第9?11回目の授業で行うプレゼンテーションについて、テーマの決め方、内容のまとめ方・プリントの作成方法を説明する。

第2回 プレゼンテーションのテーマを決定する

図書館にて、新聞やPCのデータベースなどから、各自興味のあるテーマを探し出す。

第3回 プリント作成の方法

プリント作成の方法を具体的な例を示しながら詳しく説明する。発表の順番決めを行なう。

第4回 文の構造 1 (主語と述語)

わかりやすい文章を書くために、日本語の文の基本となる主語と述語の呼応を理解する。

第5回 文の構造 2 (修飾語と被修飾語)

わかりやすい文章を書くために、修飾語と被修飾について確認する。後半は、この時間以後、プレゼンの発表順の早い学生から、プリント作成の指導を、適宜個人指導も交えながら行っていく。

第6回 文の構造 3 (接続詞・読点・助詞1)

わかりやすい文章を書くために、接続詞の使い方、助詞の意味・用法、読点の打ち方を確認する。プレゼンの発表順に従って、プリント作成の指導を、適宜個人指導も交えながら行っていく。

第7回 文の構造 4 (助詞 2)

わかりやすい文章を書くために、助詞の意味・用法を確認する。プレゼンの発表順に従って、プリント作成の指導を、適宜個人指導も交えながら行っていく。

第8回 わかりやすい文章を書くために

わかりやすい文章を書くために、これまで説明した基礎的な文法的知識を、練習問題を用いて具体的に理解する。プレゼンの発表順に従って、プリント作成の指導を、適宜、個人指導も交えながら行っていく。

第9回 ・プレゼンテーション 1

・わかりやすい文章を書くために
・自分が調べたこと考えたことを、作成したプリントを用いて、決められた時間内に効果的に人に伝えるにはどのようにすればよいのか。一人ひとりが人前で話す体験を通して自分の考えを述べる体験をする。また、聞いている人は、発表者の優れた点や改良点をチェックシートに記入し、積極的に質問する。

・わかりやすい文章を書くために、これまで説明した基礎的な文法的知識を、練習問題を用いて具体的に理解する。

第10回 ・プレゼンテーション 2

・わかりやすい文章を書くために
・自分が調べたこと考えたことを、作成したプリントを用いて、決められた時間内に効果的に人に伝えるにはどのようにすればよいのか。一人ひとりが人前で話す体験を通して自分の考えを述べる体験をする。また、聞いている人は、発表者の優れた点や改良点をチェックシートに記入し、積極的に質問する。

いる人は、発表者の優れた点や改良点をチェックシートに記入し、積極的に質問する。

・わかりやすい文章を書くために、これまで説明した基礎的な文法的知識を、練習問題を用いて具体的に理解する。

第11回 ・プレゼンテーション 2

・わかりやすい文章を書くために
・自分が調べたこと考えたことを、作成したプリントを用いて、決められた時間内に効果的に人に伝えるにはどのようにすればよいのか。一人ひとりが人前で話す体験を通して自分の考えを述べる体験をする。また、聞いている人は、発表者の優れた点や改良点をチェックシートに記入し、積極的に質問する。

・わかりやすい文章を書くために、これまで説明した基礎的な文法的知識を、練習問題を用いて具体的に理解する。

第12回 科学論文の書き方 1

科学論文の書き方、特に構成について理解する。

第13回 科学論文の書き方 2

科学論文の構成(序論・方法・結果・考察)のそれぞれについて、練習問題を用いて書き方を理解する。

第14回 履歴書・エントリーシート

就職活動で役立つ履歴書、エントリーシートの書き方理解する。また、エントリーシートに書ける内容を持っておくために、これからの学生生活でやっておくべき事柄について理解する。

第15回 後期授業のまとめ

後期授業で学んだことを振り返って、問題の残るところを復習する。

2022年度 後期

2.0単位

文章表現 (ア)【現社・社防】

岡田 裕子、岡村 裕美

<授業の方法>

講義・演習

<授業の目的>

この科目は、全学のDPに示す「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」能力や「獲得した知識や技能を活用し、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して」いく方策を獲得するための基盤となるような基本的な文章表現能力、コミュニケーション能力を身につけることを目指しており、共通教育科目リテラシー科目群基礎思考分野に属しています。大学におけるレポートや卒業論文の文章表現(アカデミック・ライティング)、および就職活動に直結する文章表現の知識を身につけ、その技術を習得することを目標とします。

実践的なトレーニングによって、論理的で効果的な文章構成の方法などを学び、実用的な文章表現能力を身につけます。実践の成果として、一定の水準を満たしたレポートを1本書き上げることを必須とします。その過程で、自分の文章を読み返し、推敲する力も養います。併せて「文章表現」で学んだことをさらに広く応用できるようにすることも目指します。

<到達目標>

- ・アカデミック・ライティングを身につけ、形式の整ったレポートが書ける。(知識、技能)
- ・文章を見直すときのポイントがわかり、推敲することができる。(技能)
- ・グループワークや相互評価を通じ、他者の意見を聞くことで自分の考えや文章を改善することができる。(技能)

<授業のキーワード>

アカデミック・ライティング レポート グループワーク

<授業の進め方>

「文章表現」と同様、必要に応じてペアワークやグループでの作業、プレゼンテーションを取り入れます。複数で作業することにより、文章を書くときの読み手に配慮する意識を高めます。

<履修するにあたって>

- ・「文章表現」を前期で履修することを薦めます。
- ・遅刻・早退は3回で欠席1回とみなします。
- ・一定水準のレポートが未提出の場合、単位は認定しません。
- ・必要に応じて、授業計画の内容を前後することがあります。

<授業時間外に必要な学修>

レポートを執筆するためには、題材となっていることについて文献や資料を探し、知識を増やすことが必要不可欠です。インターネットで情報を検索するだけでなく、図書館で関連する文献を探して読むことを強く推奨します。また、アカデミックな文章に必須のルールを定着させるために、目安として授業前後に1時間の学修が必要です。

<提出課題など>

- ・2回のレポートを含み、5回から8回程度課題を出します。
- ・最終提出レポートを除き、提出物は必要に応じて内容をチェックし返却します。場合によっては再提出を求めます。

<成績評価方法・基準>

- ・授業での取り組み(プレゼンテーション2回を含む)

40

- ・課題(授業内のタスク、宿題、レポート2回を含む)

60

レポート提出(2回)は必須とします。定期試験は実施

しません。

それぞれに対する評価の基準は「到達目標」に従いません。

<テキスト>

『グループワークで日本語表現力アップ』(2016)野田春美他、ひつじ書房

<参考図書>

浜田麻里他著『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版2,700円

その他、必要に応じて紹介します。

<授業計画>

第1回 イントロダクション

「文章表現」を振り返る。

第2回 レポートとは何かを知る(1)

事実と意見の区別を学ぶ。

第3回 レポートとは何かを知る(2)

レポートの基本的な構成を学ぶ。

第4回 レポートのテーマ

レポートのテーマを決める際の注意事項を学ぶ。

第5回 レポートを書くための資料

資料を探すときの注意事項を学ぶ。

第6回 構成(1)

レポートの構成を考える。

第7回 プレゼンテーション(1)

レポートの内容とアウトラインを発表する。

第8回 文献から引用する(1)

基本的な引用のルールを学ぶ。

第9回 文献から引用する(2)

文章を解釈する練習をする。

第10回 アンケート調査をする

アンケート調査を行う際の基本的な注意事項を学ぶ。

第11回 図表を利用する

レポートで図表を使用する際のルールを学ぶ。

第12回 構成(2)

レポート全体の構成を整える。

第13回 プレゼンテーション(2)

レポートの内容を発表する。

第14回 レポートの仕上げ

レポート執筆作業を振り返り、全体を仕上げる。

第15回 自分を表現する

就職活動に役立つ自己PRを学ぶ。

2022年度 後期

2.0単位

文章表現 【GC】

清田 朗裕

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

この科目は、全学（学部）のディプロマ・ポリシーに示す「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」の達成に特に欠かせないものであり、共通教育科目リテラシー科目群基礎思考分野に属しています。大学におけるレポートや卒業論文の文章表現（アカデミック・ライティング）、および就職活動に直結する文章表現の知識を身に付け、その技術を習得することを目標とします。

実践的なトレーニングによって、論理的で効果的な文章構成の方法などを学び、実用的な文章表現能力を身に付けます。実践の成果として、一定の水準を満たしたレポートを1本書き上げることを必須とします。その過程で、自分の文章を読み返し、推敲する力も養います。併せて、「文章表現」で学んだことをさらに広く応用できるようにすることも目指します。

なお、担当教員は私立高校で11年間国語の非常勤講師を勤めた実務経験のある教員ですので、より実践的な観点から教授します。

<到達目標>

・アカデミック・ライティングを身に付け、形式の整ったレポートが書ける。（知識・技能）

・実用的で伝わりやすい文章を書くことができる。（技能）

・文章を見直すときのポイントが分かり、推敲することができる。（態度・習慣、技能）

・考えていることを、プレゼンテーションでわかりやすく伝えることができる。（技能）

<授業のキーワード>

アカデミック・ライティング レポート

<授業の進め方>

「文章表現」と同様、数人のグループでの作業を交えながら授業を進めます。自分で考えるだけでなく、他人の意見も聞きながら課題に取り組むことで、文章表現についてより深く考え、知識や技術を身に付けることができます。これらの作業を通して、文章を書くときの読み手に配慮する意識を高めます。

<履修するにあたって>

・一定水準のレポートが提出されていない場合、単位は認定しません。

・遅刻・早退は3回で欠席1回とみなします。

・科目担当者によって、授業の進度が前後することがあります。

<授業時間外に必要な学修>

レポートを執筆するためには、題材となっていることについて文献や資料を探し、知識を増やすことが必要不可欠です。インターネットで情報を検索するだけでなく、図書館で関連する文献を探して読むことを強く推奨します。それと共にアカデミックな文章に必須のルールを定着させるために、目安として授業前後に1時間の学修が

必要です。

<提出課題など>

・原則として毎回課題を出します（レポート提出2回を含む）。

・提出物はチェックして、必要に応じ再提出を求めます。

<成績評価方法・基準>

授業への取り組み・課題60%、レポート（2回）40%

<テキスト>

『グループワークで日本語表現力アップ』（2016）野田春美他、ひつじ書房¥1,400+税

<参考図書>

戸田山和久『新版論文の教室 レポートから卒論まで』（2012）NHK出版¥1,200+税

このほか、必要に応じて紹介します。

<授業計画>

第1回 イントロダクション

「文章表現」を振り返る。

第2回 レポートとは何かを知る（1）

事実と意見の区別を学ぶ。

第3回 レポートとは何かを知る（2）

レポートの基本的な構成を学ぶ。

第4回 レポートのテーマ

レポートのテーマを決める際の注意事項を学ぶ。

第5回 レポートを書くための資料

資料を探すときの注意事項を学ぶ。

第6回 論拠を示す（1）

説得力のある論拠とは何かを学ぶ。

第7回 論拠を示す（2）

データを解釈する練習をする。

第8回 文献から引用する（1）

基本的な引用のルールを学ぶ。

第9回 文献から引用する（2）

文章を解釈する練習をする。

第10回 アンケート調査をする

アンケート調査を行う際の基本的な注意事項を学ぶ。

第11回 図表を利用する

レポートで図表を使用する際のルールを学ぶ。

第12回 プレゼンテーションで内容を見直す

レポートの内容をプレゼンテーションする。

第13回 レポートを仕上げる

推敲などでレポートを仕上げる。

第14回 レポート執筆のまとめ

レポート執筆作業を振り返る。

第15回 自分を表現する

就職活動に役立つ自己PRを学ぶ。

2022年度 後期

2.0単位

文章表現

中原 香苗

< 授業の方法 >

講義と演習

< 授業の目的 >

この科目は、全学のディプロマポリシーに示す「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」ことの基盤となるような基本的な文章表現能力を身につけることを目指しています。

具体的には、大学でのレポートや卒業論文（アカデミック・ライティング）、および就職活動に役立つ文章表現の知識を身につけ、その技術を習得することを目的とします。

実践的なトレーニングによって、論理的で効果的な文章構成の方法などを学び、実用的な文章表現能力を身につけます。その能力を習得するための具体的な練習として、授業中の作業と課題とを通して、形式の整ったレポートを1本書き上げることを必須とします。その過程で、自分の文章を読み返し、推敲する力も養います。

< 到達目標 >

- ・アカデミック・ライティングを身につけ、形式の整ったレポートが書ける。
- ・実用的で伝わりやすい文章が書ける。
- ・文章を見直すときのポイントを理解し、推敲することができる。

< 授業のキーワード >

アカデミック・ライティング レポート グループワーク

< 授業の進め方 >

レポートなどの知識を学ぶとともに、必要に応じて少人数のグループで作業をします。

< 履修するにあたって >

- ・グループワークなどの活動に積極的に参加してください。
- ・一定水準のレポートが未提出の場合、単位は認定しません。

< 授業時間外に必要な学修 >

レポートを執筆するためには、題材となっていることについて文献や資料を探し、知識を増やすことが必要不可欠です。インターネットで情報を検索するだけでなく、図書館で関連する文献を探して読むことを強く推奨します。また、アカデミックな文章に必須のルールを定着させるために、目安として授業前後に1時間の学修が必要です。

< 提出課題など >

2回のレポートを含み、複数回の課題を出します。提出物は内容をチェックしたうえで必要に応じて返却します。

< 成績評価方法・基準 >

授業での作業や取り組み40%、課題60%（授業内課題、授業外課題、レポート提出2回を含む）。レポート提出（2回）は必須とします。定期試験は実施しません。

< テキスト >

使用しません。

< 参考図書 >

野田春美他『グループワークで日本語表現力アップ』（2016）1,600+税

浜田麻里他『大学生と留学生のための論文ワークブック』（1997）くろしお出版 2,700+税

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

現在の文章表現能力を確認する。

第2回 自己PR文を書く

就職活動に役立つ自己PR文の書き方を学ぶ。

第3回 レポートの基礎(1)

レポートとはどのようなものなのかを学ぶ。

第4回 レポートの基礎(2)

レポートで使う表現を学ぶ。

第5回 レポートの基礎(3)

事実と意見の違いについて学ぶ。

第6回 レポートの構成

レポートの基本的な構成を学ぶ。

第7回 レポートのテーマ

レポートのテーマを決める際の基本的事項を学ぶ。

第8回 レポートを書くための資料

レポートの資料を探すときの注意事項を学ぶ。

第9回 レポートの論拠

説得力のある論拠とは何かを学ぶ。

第10回 文献から引用する

基本的な引用のルールを学ぶ。

第11回 レポートの構成を考え、レポート概要を発表する

レポートのテーマを決め、説得力のあるレポートにするための構成を考える。そのうえでレポートの概要を発表する。

第12回 レポートを仕上げる

レポートを完成させる。

第13回 レポートを推敲する

レポートを推敲し、より完成度の高いレポートにする。

第14回 レポート執筆のまとめ

レポート執筆作業を振り返る。

第15回 授業の振り返り

授業で学んだことを確認する。

2022年度 後期

2.0単位

文章表現

清田 朗裕

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、全学（学部）のディプロマ・ポリシーに示す「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」の達成に特に欠かせないものであり、共通教育科目リテラシー科目群基礎思考分野に属しています。大学におけるレポートや卒業論文の文章表現（アカデミック・ライティング）、および就職活動に直結する文章表現の知識を身に付け、その技術を習得することを目標とします。

実践的なトレーニングによって、論理的で効果的な文章構成の方法などを学び、実用的な文章表現能力を身に付けます。実践の成果として、一定の水準を満たしたレポートを1本書き上げることを必須とします。その過程で、自分の文章を読み返し、推敲する力も養います。併せて、「文章表現」で学んだことをさらに広く応用できるようになることも目指します。

なお、担当教員は私立高校で11年間国語の非常勤講師を勤めた実務経験のある教員ですので、より実践的な観点から教授します。

< 到達目標 >

・アカデミック・ライティングを身に付け、形式の整ったレポートが書ける。（知識・技能）

・実用的で伝わりやすい文章を書くことができる。（技能）

・文章を見直すときのポイントが分かり、推敲することができる。（態度・習慣、技能）

・考えていることを、プレゼンテーションでわかりやすく伝えることができる。（技能）

< 授業のキーワード >

アカデミック・ライティング レポート

< 授業の進め方 >

「文章表現」と同様、数人のグループでの作業を交えながら授業を進めます。自分で考えるだけでなく、他人の意見も聞きながら課題に取り組むことで、文章表現についてより深く考え、知識や技術を身に付けることができます。これらの作業を通して、文章を書くときの読み手に配慮する意識を高めます。

< 履修するにあたって >

・一定水準のレポートが提出されていない場合、単位は認定しません。

・遅刻・早退は3回で欠席1回とみなします。

・科目担当者によって、授業の進度が前後することがあります。

< 授業時間外に必要な学修 >

レポートを執筆するためには、題材となっていることについて文献や資料を探し、知識を増やすことが必要不可欠です。インターネットで情報を検索するだけでなく、図書館で関連する文献を探して読むことを強く推奨します。それと共にアカデミックな文章に必須のルールを定着させるために、目安として授業前後に1時間の学修が必要です。

< 提出課題など >

・原則として毎回課題を出します（レポート提出2回を含む）。

・提出物はチェックして、必要に応じ再提出を求めます。

< 成績評価方法・基準 >

授業への取り組み・課題60%、レポート（2回）40%

< テキスト >

『グループワークで日本語表現力アップ』（2016）野田春美他、ひつじ書房 ¥1,400+税

< 参考図書 >

戸田山和久『新版論文の教室 レポートから卒論まで』

（2012）NHK出版 ¥1,200+税

このほか、必要に応じて紹介します。

< 授業計画 >

第1回 イン트로ダクション

「文章表現」を振り返る。

第2回 レポートとは何かを知る（1）

事実と意見の区別を学ぶ。

第3回 レポートとは何かを知る（2）

レポートの基本的な構成を学ぶ。

第4回 レポートのテーマ

レポートのテーマを決める際の注意事項を学ぶ。

第5回 レポートを書くための資料

資料を探すときの注意事項を学ぶ。

第6回 論拠を示す（1）

説得力のある論拠とは何かを学ぶ。

第7回 論拠を示す（2）

データを解釈する練習をする。

第8回 文献から引用する（1）

基本的な引用のルールを学ぶ。

第9回 文献から引用する（2）

文章を解釈する練習をする。

第10回 アンケート調査をする

アンケート調査を行う際の基本的な注意事項を学ぶ。

第11回 図表を利用する

レポートで図表を使用する際のルールを学ぶ。

第12回 プレゼンテーションで内容を見直す

レポートの内容をプレゼンテーションする。

第13回 レポートを仕上げる

推敲などでレポートを仕上げる。

第14回 レポート執筆のまとめ

レポート執筆作業を振り返る。

第15回 自分を表現する

就職活動に役立つ自己PRを学ぶ。

2022年度 前期

1.0単位

Basic Speaking F

E C C

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

Basic Speaking1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、きわめて実践的な英語運用能力の養成科目として位置づけられる。生きた英語を身につけ、相手の意見をしっかりと聞きながら理解し、自らの意見も発信できるスキルを身につけることを目的とする。中級者以上を対象とした講義となる。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることが出来る」を目指す。

< 到達目標 >

- ・ これまで培ってきた基本的な語彙や文法の知識を英会話に応用できる。(知識)
- ・ 英語コミュニケーション能力向上のために積極的に参加できる。(態度・習慣)
- ・ クラスメートと積極的に意見の共有をし、自らの考えを英語で表現できる。(態度・習慣)
- ・ 必要に応じて効果的なジェスチャーを使うなど、意思伝達のための工夫ができる。(技能)
- ・ 初出の単語や表現について辞書などで調べ、会話の中で実践することができる。(技能)

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・語彙・文法

< 授業の進め方 >

"クラスのアクティビティに積極的に参加し、?ら積極的に質問に答えることが求められます。このクラスでは英語で効果的にコミュニケーションを取ることを?指します。そのためにも、出来るだけ多く英語を話すように?掛けて下さい。"

< 履修するにあたって >

このクラスは中級者以上を対象とした科目となります。

< 授業時間外に必要な学修 >

Students should spend 20 minutes reviewing the material from the previous class.

Students should spend 20 minutes previewing the material for the following class.

Students should prepare for any course assessment with additional review of the target language

studied.

Further instruction and feedback will be given in class.

< 成績評価方法・基準 >

Daily Speaking = 35%, Unit Challenges = 15%, Speaking Evaluations = 15%, Participation = 35%

< テキスト >

World English 1 (3e) 出版社:Cengage 3,000 円(税込) 978-0-35-711368-4

< 授業計画 >

第1回 Introduction & Orientation, Expectations, Classroom English; People

Course Introduction / Classroom English; Meet people and Ask for Personal Information

第2回 People

Describe People and Occupations

第3回 Communication

Personal Informaion and Contact Information

第4回 Communication

Describe Characteristics and Qualities

第5回 A Day in the Life

Daily Routines and Free Time

第6回 A Day in the Life

Hobbies an Interests

第7回 Midterm Speaking Evaluation

Based on lessons 1 - 6

第8回 Sports

Everyday and currently on-going activities

第9回 Sports

Talk about and Compare Sports and Activities

第10回 Lifestyles

Healthy living habits and related advice.

第11回 Lifestyles

Compare Lifestyles and Talk about Happiness

第12回 Decisions

Advice about Money

第13回 Decisions

Make Decisions about Money

第14回 Final Speaking Evaluation

Based on lessons 8 - 13

第15回 Review and Consolidation

Based on lessons 1 - 13

2022年度 前期

1.0単位

Basic Speaking F (2018年度以前入学生)

E C C

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

Basic Speaking1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、きわめて実践的な英語運用能力の養成科目として位置づけられる。生きた英語を身につけ、相手の意見をしっかりと聞きながら理解し、自らの意見も発信できるスキルを身につけることを目的とする。中級者以上を対象とした講義となる。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

- ・ これまで培ってきた基本的な語彙や文法の知識を英会話に応用できる。(知識)
- ・ 英語コミュニケーション能力向上のために積極的に参加できる。(態度・習慣)
- ・ クラスメートと積極的に意見の共有をし、自らの考えを英語で表現できる。(態度・習慣)
- ・ 必要に応じて効果的なジェスチャーを使うなど、意思伝達のための工夫ができる。(技能)
- ・ 初出の単語や表現について辞書などで調べ、会話の中で実践することができる。(技能)

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・語彙・文法

< 授業の進め方 >

"クラスのアクティビティに積極的に参加し、?ら積極的に質問に答えることが求められます。このクラスでは英語で効果的にコミュニケーションを取るこ

とを? 指します。そのためにも、出来るだけ多く英語を話すように? 掛けて下さい。"

< 履修するにあたって >

このクラスは中級者以上を対象とした科目となります。

< 授業時間外に必要な学修 >

Students should spend 20 minutes reviewing the material from the previous class.

Students should spend 20 minutes previewing the material for the following class.

Students should prepare for any course assessment with additional review of the target language studied.

Further instruction and feedback will be given in class.

< 成績評価方法・基準 >

Daily Speaking = 35%, Unit Challenges = 15%, Speaking Evaluations = 15%, Participation = 35%

< テキスト >

World English 1 (3e) 出版社:Cengage 3,000 円(税込) 978-0-35-711368-4

< 授業計画 >

第1回 Introduction & Orientation, Expectations, Classroom English; People

Course Introduction / Classroom English; Meet people and Ask for Personal

Information

第2回 People

Describe People and Occupations

第3回 Communication

Personal Information and Contact Information

第4回 Communication

Describe Characteristics and Qualities

第5回 A Day in the Life

Daily Routines and Free Time

第6回 A Day in the Life

Hobbies and Interests

第7回 Midterm Speaking Evaluation

Based on lessons 1 - 6

第8回 Sports

Everyday and currently on-going activities

第9回 Sports

Talk about and Compare Sports and Activities

第10回 Lifestyles

Healthy living habits and related advice.

第11回 Lifestyles

Compare Lifestyles and Talk about Happiness

第12回 Decisions

Advice about Money

第13回 Decisions

Make Decisions about Money

第14回 Final Speaking Evaluation

Based on lessons 8 - 13

第15回 Review and Consolidation

Based on lessons 1 - 13

2022年度 前期

1.0単位

Basic Speaking A

HORVAT JAMES ANDREW、E C C、Aurik Ocon

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

Basic Speaking1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、きわめて実践的な英語運用能力の養成科目として位置づけられる。生きた英語を身につけ、相手の意見をしっかりと聞きながら理解し、自らの意見も発信できるスキルを身につけることを目的とする。中級者以上を対象とした講義となる。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

- ・ これまで培ってきた基本的な語彙や文法の知識を英会話に応用できる。(知識)
- ・ 英語コミュニケーション能力向上のために積極的に参加できる。(態度・習慣)

・ クラスメートと積極的に意見の共有をし、自らの考えを英語で表現できる。(態度・習慣)

・ 必要に応じて効果的なジェスチャーを使うなど、意思伝達のための工夫ができる。(技能)

・ 初出の単語や表現について辞書などで調べ、会話の中で実践することができる。(技能)

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・語彙・文法

< 授業の進め方 >

In AY 2021, this class had a combination of both online and face-to-face classes.

Maybe AY 2022 will have both face-to-face and online classes.

We will use the DotCampus System for submission of homework.

Basic Speaking will emphasize speaking and listening skills. Grammar and vocabulary will be reviewed and activated. Students will learn strategies for their conversations. Listening exercises, grammar practice, pair discussions, speaking exercises, and presentations will be used.

My email address--

jhorvat333@ge.kobegakuin.ac.jp

< 履修するにあたって >

Regular attendance is important for this class. Those who are absent for 6 or more classes will probably fail the class.

< 授業時間外に必要な学修 >

Preview the unit to be covered Review the unit, complete the homework

< 成績評価方法・基準 >

Homework 50%, Participation and Attitude 50%

< テキスト >

Top Notch 1 (Pearson)

< 参考図書 >

None

< 授業計画 >

第1回 Class Introduction

Introduction

第2回 Unit 1

Introductions, Use of Questions when meeting someone new

第3回 Unit 1

Review of questions with "be" verbs

第4回 Unit 2

Invitations, Musical Events

第5回 Unit 2

Questions with When, What time, and Where

第6回 Unit 3

Discuss Family Members, Family Relationships

第7回 Unit 3

Simple Present Tense Review

第8回 Unit 4

Food, Restaurants, Healthiness of Food

第9回 Unit 4

Review of count, no-count nouns. There is / There are

第10回 Unit 4

Menus, Nutritional Website

第11回 Unit 5

Electronic Devices, Complaints about defective machines

第12回 Unit 5

Review of present continuous

第13回 Unit 5

Online Product Reviews

第14回 Unit 5- Continuation of Unit

Unit 15 Continuation of Unit

第15回 Review and Wrap Up

Review

2022年度 前期

1.0単位

Basic Speaking A (2018年度以前入学生)

HORVAT JAMES ANDREW、E C C

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

Basic Speaking1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、きわめて実践的な英語運用能力の養成科目として位置づけられる。生きた英語を身につけ、相手の意見をしっかりと聞きながら理解し、自らの意見も発信できるスキルを身につけることを目的とする。中級者以上を対象とした講義となる。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

・ これまで培ってきた基本的な語彙や文法の知識を英

会話に応用できる。(知識)

・ 英語コミュニケーション能力向上のために積極的に参加できる。(態度・習慣)

・ クラスメートと積極的に意見の共有をし、自らの考えを英語で表現できる。(態度・習慣)

・ 必要に応じて効果的なジェスチャーを使うなど、意思伝達のための工夫ができる。(技能)

・ 初出の単語や表現について辞書などで調べ、会話の中で実践することができる。(技能)

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・語彙・文法

< 授業の進め方 >

In AY 2021, this class had done both online and face-to-face.

Maybe AY 2022 will have both face-to-face and online classes.

We will use the DotCampus System for submission of homework.

Basic Speaking will emphasize speaking and listening skills. Grammar and vocabulary will be reviewed and activated. Students will learn strategies for their conversations. Listening exercises, grammar practice, pair discussions, speaking exercises, and presentations will be used.

My email address--

jhorvat333@ge.kobegakuin.ac.jp

< 履修するにあたって >

Regular attendance is important for this class. Those who are absent for 6 or more classes will probably fail the class.

< 授業時間外に必要な学修 >

Preview the unit to be covered Review the unit, complete the homework

< 成績評価方法・基準 >

Homework 50%, Participation and Attitude 50%

< テキスト >

Top Notch 1 (Pearson)

< 参考図書 >

None

< 授業計画 >

第1回 Class Introduction
Introduction
第2回 Unit 1
Introductions, Use of Questions when meeting someone new
第3回 Unit 1
Review of questions with "be" verbs
第4回 Unit 2
Invitations, Musical Events
第5回 Unit 2
Questions with When, What time, and Where
第6回 Unit 3
Discuss Family Members, Family Relationships
第7回 Unit 3
Simple Present Tense Review
第8回 Unit 4
Food, Restaurants, Healthiness of Food
第9回 Unit 4
Review of count, no-count nouns. There is / There are
第10回 Unit 4
Menus, Nutritional Website
第11回 Unit 5
Electronic Devices, Complaints about defective machines
第12回 Unit 5
Review of present continuous
第13回 Unit 5
Online Product Reviews
第14回 Unit 5
Unit 5
第15回 Review and Wrap Up
Review

2022年度 後期

1.0単位

Basic Speaking F
E C C、HORVAT JAMES ANDREW

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

Basic Speaking1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、きわめて実践的な英語運用能力の養成科目として位置づけられる。生きた英語を身につけ、相手の意見をしっかりと聞きながら理解し、自らの意見も発信できるスキルを身につけることを目的とする。中級者以上を対象とした講義となる。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、

協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

- ・ これまで培ってきた基本的な語彙や文法の知識を英会話に応用できる。(知識)
- ・ 英語コミュニケーション能力向上のために積極的に参加できる。(態度・習慣)
- ・ クラスメイトと積極的に意見の共有をし、自らの考えを英語で表現できる。(態度・習慣)
- ・ 必要に応じて効果的なジェスチャーを使うなど、意思伝達のための工夫ができる。(技能)
- ・ 初出の単語や表現について辞書などで調べ、会話の中で実践することができる。(技能)

< 授業のキーワード >

リスニング・スピーキング・語彙・文法

< 授業の進め方 >

クラスのアクティビティに積極的に参加し、?ら積極的に質問に答えることが求められます。このクラスでは英語で効果的にコミュニケーションを取ることを?指します。そのためにも、出来るだけ多く英語を話すように?掛けて下さい。

< 履修するにあたって >

このクラスは中級者以上を対象とした科目となります。

< 授業時間外に必要な学修 >

Students should spend 20 minutes reviewing the material from the previous class.

Students should spend 20 minutes previewing the material for the following class.

Students should prepare for any course assessment with additional review of the target language studied.

Further instruction and feedback will be given in class.

< 成績評価方法・基準 >

Daily Speaking = 35%, Unit Challenges = 15%, Speaking Evaluations = 15%, Participation = 35%

< テキスト >

World English 1 (3e) 出版社:Cengage 3,000 円(税込) 978-0-35-711368-4

< 授業計画 >

第1回 Introduction & Orientation, Course Overview, Semester 1 Review,

Orientation and Review

第2回 Achievements

Personal Responsibilities and Obligations.

第3回 Achievements

Achievements and Plans for Success

第4回 Food

Describe a Recipe and Talk about Diets.

第5回 Food

Order a Meal.

第6回 Types of Clothing
Compare and Buy Clothes
第7回 Types of Clothing
Decide What to Wear and Discuss Fashion
第8回 Midterm Speaking Evaluation
Based on lessons 1 - 7.
第9回 Going Places
Talk about your possessions
第10回 Going Places
Ask for and Give Travel Advice and Information
第11回 Destinations
Talk about your Weekend
第12回 Destinations
Past Trips and Vacations
第13回 Making Plans
Talk about Plans and Make a Prediction
第14回 Final Speaking Evaluation
Based on lessons 9 - 13.
第15回 Review and Consolidation
Based on lessons 1 - 13.

2022年度 後期

1.0単位

防災・防犯指導論実習 (ポ)

松下 眞

< 授業の方法 >

「講義」「実習」(レポート作成)

< 授業の目的 >

この講義はディプロマ・ポリシー全学(学部)1~5に合致しており、防災・防犯に関する幅広い知識を身につけ文章化して活用する能力を習得することを目的としている。

すなわち、身近な犯罪被害からの自分自身の身を守るための対策を習得し、市民救命士を取得する。自然災害等の原因や結果を自ら考えるための基礎技術・知識を身につける。

行政の実務経験を有する教員が全体を見ながら、地域のリーダー、警察・消防職員と講義を分担し、住民の安全・保護という視点から「行政の役割」を理解できるようにする。また、レポート作成を通じて実社会での報告書・会議録の作成方法を教員の実務経験から実践的に指導していく。

< 到達目標 >

身近な犯罪被害からの防止対策を身につける。

自然災害等の報道から、原因や結果を自分で考えるための基礎知識を習得する。

防災・防犯を題材として、自己の考えを文章上で表現する技術を身につける。

< 授業のキーワード >

自然災害 防災 防犯 防火 まちづくり

< 授業の進め方 >

防犯における地域のリーダー・警察の役割、火災の発生原因と消防職員の役割など実務者の話から、自らの環境に重ねて小論文を作成する。自然災害に関する報道解説などから、災害発生のメカニズムを理解し、専門用語を用いた文章を作成することで、自分の知識として定着させる。

< 履修するにあたって >

普段から災害、身近な犯罪、火災報道に接し、原因などを理解しようとするのが望ましい。

< 授業時間外に必要な学修 >

本講義により、報道番組を見る場合の留意点を学習できるが、普段から、災害に関する多様な報道に接し、その科学的解説から災害メカニズムを理解していくことが必要である。

< 提出課題など >

毎回、テーマに沿った小論文作成をおこなう。(実習日を除く)

< 成績評価方法・基準 >

講話と報道映像に基づく小論文で評価する。小論文作成にあたっては、学んだ専門用語を用いて、自らの言葉で解説する姿勢を評価する。併せて、文章の一貫性、誤字・脱字の少ない読みやすい文章であることが望ましい。

< テキスト >

なし

< 参考図書 >

なし

< 授業計画 >

第1回 概論

本講義の全体像、成績評価の方法を示し、例示する報道映像から小論文を作成する。

第2回 地域の防災・防犯活動

地域の防災・防犯について地域のリーダー(学外講師)の活動から学ぶ。

第3回 警察の役割と防犯

警察職員から犯罪傾向を学び、犯罪に巻き込まれないような行動を考える。

第4回 消防署の役割と火災防止

消防職員から火災に関する知識を得て、身の回りの火災予防に関心を持つ。

第5回 巨大地震

巨大地震の発生メカニズムについて学ぶ。

第6回 巨大津波

巨大津波の発生メカニズムについて学ぶ。

第7回 地震と火山

巨大地震が火山活動につながる事例を知り、危険性を理解する。

第8回 感染症 1

人類と感染症の闘いの歴史を学ぶ。

第9回 感染症 2

新型コロナウイルス感染症の対策について学ぶ。

第10回 長周期地震動

都市の高層化がもたらす「長周期地震動」による被害について学習する。

第11回 住宅耐震

最も身近な住宅の耐震について、建築行政の専門家から解説を受ける。

第12回 豪雨災害 1

大きな被害をもたらす「線状降水帯」の発生原因について学ぶ。

第13回 豪雨災害 2

大きな被害をもたらす「深層崩壊」のメカニズムと対策を学ぶ。

第14回 豪雨災害 3

温暖化がもたらす局地豪雨と河川の氾濫、堤防決壊について学習する。

第15回 複合災害

地震・津波・豪雨・地すべりなど複数の災害が連続して起こることによる被害の巨大化について学ぶ。

2022年度 前期

2.0単位

防災・防犯入門（ポ）

舩木 伸江

< 授業の方法 >

講義 演習 実習 実技

< 授業の目的 >

21世紀の課題の1つは安全で安心な社会の構築にあります。阪神・淡路大震災や東日本大震災で学んだ教訓は、日常的な取り組みと助け合いの精神の大切さです。この教訓は安全で安心な暮らしを守る防災と防犯対策にとっても重要なキーワードです。自分と愛する人を守るためには何が必要なのかについて、自分のこととして考えます。市民救命士の資格の取得や生活安全確保のための防犯対策など、各界の人々のお話を含めた授業展開をしてきます。

なお、この授業の担当者は、阪神・淡路大震災記念人と防災未来センターの資料室で実務経験のある教員であり、警察を含めた実務者を講師に招くオムニバス形式の実践的授業である。

< 到達目標 >

防犯や防災についての見識を備え、いざという時に行動できる。

- 1 防災の基礎的知識用語の意味、実践を知る（知識）
- 2 防犯の基礎的知識用語の意味、実践を知る（知識）
- 3 市民救命士となり、応急手当の方法を習得する（技能）

< 授業のキーワード >

阪神淡路大震災、安全、安心、防災、防犯

< 授業の進め方 >

担当教員を中心に、防災・防犯の各界から講師を適宜招いて、オムニバスで行う。

< 授業時間外に必要な学修 >

新聞等をよく読むなど最低2時間以上予習復習する。

< 成績評価方法・基準 >

授業態度・授業への積極的貢献度（40%）、レポート（60%、提出3回）

< テキスト >

なし

< 参考図書 >

随時紹介する

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

15回の講義の進め方、成績評価の仕方などを説明する

第2回 防災入門

1995年に神戸で発生した阪神・淡路大震災を事例に災害の被害と防災のあり方について学ぶ

第3回 防災入門

2011年に東北で発生した東日本大震災を事例に災害の被害と防災のあり方について学ぶ

第4回 防災入門

災害に備えるためには日ごろからどのようなことをしておけばいいのか、備えのあり方について学ぶ

第5回 防災ワークショップ

防災教育教材を用いて災害の被害を体験しながら、防災についてワークショップ形式で学ぶ

第6回 神戸気象台

気象と災害

第7回 市民救命士講習

家族が倒れたり、町を歩いていて誰かが倒れていた際の応急手当の知識を学びます。正式な神戸市の市民救命士講習です。

第8回 市民救命士講習

実際に倒れた人を救うために、胸骨圧迫や人工呼吸、AEDの取扱方法などの的確な応急処置法を学びます（この講習を修了することで神戸市消防局の修了証を取得できます）。

第9回 水上警察署

身近に迫る犯罪の防止

第10回 県警本部

被害者支援の現状、取り組み

第11回 水上警察署

交通安全教育の参画

第12回 消費者教育

消費者犯罪について

第13回 災害と被災者

災害にあうということは、その後の生活にどのような影響を与えるのか、実際の被災者の声から学ぶ

第14回 災害と被災者

災害にあうということは、その後の生活にどのような影響を与えるのか、実際の被災者の声から学ぶ（阪神・淡路大震災の直接経験者から話を聞きます）

第15回 防災・防犯知識の活用

これまでの講義で学んだ防災・防犯の事例を生活に活かす方法を学ぶ

2022年度 後期

2.0単位

防災・防犯ワークショップ（ポ）

室崎 友輔

< 授業の方法 >

対面の講義とグループワークで授業を行います。

< 授業の目的 >

生活を支える安全・安心は平素の備えが重要です。多発する災害事象は複雑多様化し顕在化しています。また、犯罪など身近な社会生活の安全をおびやかすリスクも凶悪化し多様化しています。この授業では現代社会に求められている安全・安心についての視野を広げ、防災・防犯のリーダーとなり得る人材の育成を目指します。このことによって、全学のDPである獲得した知識や技能を社会に役立てることが出来ます。

この科目の担当者は、NPOおよび企業で、社会教育・防災普及啓発業務を10年以上経験した実務経験のある教員です。講演・ワークショップの豊富な実務経験を活かし、より実践的で分かりやすい解説と、学修者が主体となって関わり学べる授業をおこないます。

< 到達目標 >

防災・防犯について自分の言葉で説明することができる。

（知識）

日頃から防災・防犯に関するニュース等に関心を持つ。

（態度・習慣）

防災・防犯における危機管理能力を身につける。（技能）

< 授業の進め方 >

防災・防犯にかかわっている指導者や専門家の講話も取り入れ、幅広い授業展開をおこないます。

ワークショップではグループに分かれ、ゲームやシミュレーション、ディスカッションやブレインストーミング、プレゼンテーションなどを取り入れます。

警察官・消防士・公務員の進路希望者はぜひ受講して、キャリアデザインを習得してください。

< 履修するにあたって >

ワークショップでは、お互いの意見を尊重し合い、協力しあう姿勢をもって望むこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

日頃から防災・防犯に関するニュース等に関心を持つこと。

< 提出課題など >

授業終了前に、毎回の授業テーマ関連課題に対する小レポートを提出します。

< 成績評価方法・基準 >

授業貢献度（ワークショップへ積極的に参加する態度）（30%）と、毎回の授業テーマ関連課題の小レポートによる授業理解度（70%）で評価する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

ガイダンスと防災ゲーム（なまずの学校）体験

第2回 護身術

護身術を習得する（学部特別講師：警察）

第3回 交通安全講話

交通安全対策を学ぶ（学部特別講師：警察）

第4回 ワークショップ（防災）

災害協力シミュレーション（ダイレクトロード）を通じて、災害対応・災害協力について学ぶ

第5回 生活安全講話

生活安全講話を学ぶ（学部特別講師：警察）

第6回 気象と災害

気象と災害についてまなぶ（学部特別講師：気象台）

第7回 ワークショップ（土砂災害・風水害）

土砂災害・風水害シミュレーション（気象庁ワークショップ）を通じて、土砂災害・風水害から身を守る方法を学ぶ

第8回 ワークショップ（土砂災害・風水害）

避難行動シミュレーション（EVAG）を通じて、避難行動について学ぶ

第9回 地震と津波

地震と津波のメカニズムを学ぶ

阪神・淡路大震災、東日本大震災から学ぶ

南海トラフ地震への対応を学ぶ

第10回 ワークショップ（防災）

阪神・淡路大震災の教訓を基にした災害対応ゲーム（クロスロード）を通じて、災害対応について学ぶ

第11回 ワークショップ（防災）

東日本大震災の教訓を基にした避難所運営シミュレーション（さすけなぶる）を通じて、避難所運営について学ぶ

第12回 災害への備え

災害への備え（家具転倒防災対策、防災用品、地域防災活動）について学ぶ

第13回 携帯被害・サイバー被害対策

携帯被害・サイバー被害への対応を学ぶ（学部特別講師：警察）

第14回 防災・防犯の啓発

防災・防犯の普及啓発手法について学ぶ

防災アニメの視聴

第15回 防災・防犯の啓発

防災ゲームの体験（シャッフル、たすカルテット）

2022年度 後期

2.0単位

法と社会

上脇 博之

< 授業の方法 >

講義。オンラインによるオンデマンド授業になる可能性が高いです。

dotCampusを通じて各回の授業レジュメを入手できるようにします。

オンデマンド授業の場合には、授業動画も案内しま（末尾の「遠隔授業情報」でも随時案内します。

< 授業の目的 >

本科目の目的は、全学のディプロマ・ポリシー（DP）が掲げる「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる」ことを踏まえたうえで、“日本における最高法規である日本国憲法とそれを取り巻く社会を考えること”である。

< 到達目標 >

本科目の到達目標の第一は、そもそも憲法は何のためにあるのか、日本国憲法はどのような基本原理に基づいてつくられているのかについて受講生が説明できるようになることである。

第二は、日本国憲法がつくられてから現在に至る社会的現状、あるいはまた憲法を取り巻く状況は、どのようなものなのかを、受講生が正確に把握し、説明できるようになることである。

第三は、日本国憲法が保障する基本的人権にはどのようなものがあるのかを、受講生が正確に把握し、説明できるようになることである。

< 授業のキーワード >

近代的な意味での憲法、市民革命、近代憲法、現代憲法、日本国憲法の基本原理、国民主権主義、平和主義、基本的人権尊重主義、権力分立制、自由権、社会権。

< 授業の進め方 >

本授業の到達目標を達成するために、憲法が置かれた歴史的な社会状況に照らして学ぶというアプローチにより執筆されているテキストを使って、講義を行うことにする。必ずレジュメを、dotCampusを通じて配布し、動画を受講してもらう。

対面授業の場合には授業中に試験を行うので、授業計画を変更する。

< 履修するにあたって >

必ずシラバスを読み、テキストを購入しておくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

テキストと配布レジュメで予習・復習することが望まれる。授業1回につき予習と復習を最低でも合計4時間行うこと。

< 提出課題など >

対面授業の場合には課題レポートの提出はない。

オンデマンド授業の場合には課題レポートを提出してもらう。

その場合、以下の課題のうち1つの課題を選択して、必ず下記の参考文献を使用し（他の文献を参考にする場合でも必ず使用し）、3000字以上でまとめて提出する。

日本国憲法の基本的特徴を近代憲法と現代憲法の視点と大日本帝国憲法との比較を通じて論述しなさい（参考文献は2冊のテキスト）。

いわゆる「押しつけ憲法」論について、その内容を簡潔に説明したうえで、「押しつけ憲法」論が妥当かどうか論述しなさい（参考文献は2冊のテキスト）。

日本国憲法の基本的人権の中で、あなたが特に注目した人権を取り上げて、その内容を紹介しなさい、その際には、その人権の内容について、大日本帝国憲法との違い、または自民党「日本国憲法改正草案」等との違いについても説明しなさい（参考文献は2冊のテキスト）。

日本国憲法を改正する場合、その改正に限界があるかどうか、限界がある場合、どのような限界が内容の点と手続きの点であるのか、論述しなさい（参考文献は2冊のテキスト）。

自民党の「4項目」改憲案の特徴とその問題点について憲法学の視点から論じなさい（参考文献は上脇博之『安倍「4項目」改憲の建前と本音』日本機関紙出版センター、2018年）。

本科目は憲法の科目であり、そのレポートなので、憲法の視点で論述されていないレポートは、本科目のレポートとして評価できないので、必ず明記した参考文献を精読し、そこから憲法の視点を読み取り、レポートをまとめること。

提出するレポートには、

本科目名、担当教員名、受講生の所属学部、学科、氏名、学籍番号、上記のうち選択したテーマ、使用した参考文献、レポート提出日

を必ず明記すること。

参考文献については、著者名、書名、出版社名、出版年、該当ページを必ず明記すること。

なお、私の担当科目において、過去に提出したレポートをそのまま本科目のレポートして提出した場合、本科目のレポートは未提出として扱う。

また、インターネットのものをコピーして貼り付けたものは、独自のレポートではないので、本科目のレポートは未提出として扱う。

提出された課題レポートについては、各レポートに対する個々のコメントは行わないが、全レポート全体についての論評を行い、それをdotCampusを通じてお知らせする場合もあるので、その場合は、今後の学習の参考にしてください。

<成績評価方法・基準>

対面授業の場合には授業中に試験を行い、それで100%評価する。

オンデマンド授業の場合には、100%課題レポートで評価を行う。

いずれの場合も、定期試験期間にも試験を行わない。

<テキスト>

播磨信義・上脇博之・木下智史・脇田吉隆・渡辺洋『新・どうなっている憲法！？〔第3版〕 - 憲法と社会を考える - 』法律文化社、2016年、予定定価2300円（税別）

上脇博之『日本国憲法の真価と改憲論の正体 - 施行70年、希望の活憲政治をめざして- 』（日本機関紙出版センター、2017年）。

<参考図書>

- ・長谷部恭男・石川健治・穴戸常寿編『憲法判例百選I 第7版』（有斐閣、2017年）、
- ・長谷部恭男・石川健治・穴戸常寿編『憲法判例百選II 第7版』（有斐閣、2017年）、
- ・播磨信義・上脇博之・木下智史・脇田吉隆・渡辺洋『新・どうなっている日本国憲法！？〔第3版〕 - 憲法と社会を考える - 』（法律文化社、2016年）
- ・浦部法穂『憲法学教室〔全訂第3版〕』（日本評論社、2016年）
- ・浦田賢治・愛敬浩二編『演習ノート憲法〔第4版〕』（法学書院、2010年）
- ・小林孝輔編『憲法演習・自習セレクト50』（勤草書房、2004年）
- ・坂本修・小沢隆一・上脇博之『国会議員定数削減と私たちの選択』（新日本出版社、2011年）
- ・上脇博之『なぜ4割の得票で8割の議席なのか？いまこそ、小選挙区制の見直しを』（日本機関紙出版センター、2013年）
- 上脇博之『自民改憲案 VS日本国憲法？ 緊迫！ 9条と96条の危機』（日本機関紙出版センター、2013年）
- 上脇博之『安倍改憲と「政治改革」【解釈・立法・96条先行】改憲のカラクリ』（日本機関紙出版センター、

2013年）

上脇博之『どう思う？地方議員削減 [憲法と民意が生きる地方自治のために]』（日本機関紙出版センター、2014年）

上脇博之『誰も言わない政党助成金の闇 「政治とカネ」の本質に迫る』（日本機関紙出版センター、2014年）

上脇博之『財界主権国家・ニッポン 買収政治の構図に迫る』（日本機関紙出版センター、2014年）

上脇博之『告発！政治とカネ 政党助成金20年、腐敗の深層』（かもがわ出版、2015年）

上脇博之『追及！民主主義の蹂躪者たち【戦争法廃止と立憲主義復活のために】』（日本機関紙出版センター、2016年）

上脇博之『日本国憲法の真価と改憲論の正体 - 施行70年、希望の活憲政治をめざして- 』（日本機関紙出版センター、2017年3月発行予定）

上脇博之『ここまで来た小選挙区制の弊害 アベ「独裁」政権誕生の元凶を廃止しよう！』（あけび書房、2018年）

上脇博之『内閣官房長官の裏金』（日本機関紙出版センター、2018年）

上脇博之『安倍「4項目」改憲の建前と本音』（日本機関紙出版センター、2018年）

上脇博之『逃げる総理 壊れる行政 追及！！「桜を見る会」と「前夜祭」』（日本機関紙出版センター、2020年）

富田宏治・上脇博之・石川康宏『いまこそ、野党連合政権を！真実とやさしさ、そして希望の政治を』（日本機関紙出版センター、2020年）

上脇博之『忘れない、許さない！ 安倍政権の事件・疑惑の総決算とその終焉』（かもがわ出版、2020年）

上脇博之『政党助成金、まだ続きますか？』（日本機関紙出版センター、2021年）。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

本科目について必要な説明を行う。

第2回 近代憲法と現代憲法

近代憲法とは何か、現代憲法とは何か。

自由権的基本的人権とは何か、社会権的基本的人権とは何か。

第3回 大日本帝国憲法と日本国憲法の基本原理

大日本帝国憲法と日本国憲法とは本質的にどのように違うのか。

第4回 日本国憲法の制定過程

ポツダム宣言とは何か。日本国憲法はどのようにしてつくられたのか。

第5回 国民主権と参政権

参政権、選挙権、被選挙権とは？

第6回 平和主義と平和的生存権

日本国憲法の平和主義と平和的生存権とは？（その１）
第7回 平和主義と平和的生存権
日本国憲法の平和主義と平和的生存権とは？（その２）
第8回 基本的人権とその制限
基本的人権尊重主義と公共の福祉
第9回 精神的自由権
精神的自由権、思想・良心の自由、信教の自由とは？
第10回 精神的自由権
表現の自由、集会の自由、結社の自由とは？
第11回 人身の自由
人身の自由、罪刑法定主義、適正手続きとは？
第12回 社会権
社会権、生存権、労働基本権とは？
第13回 自由権と社会権
学問の自由、教育を受ける権利とは？
第14回 平等
法の下での平等とは何か？
第15回 憲法改正
憲法改正、改正の限界とは？

2022年度 後期

2.0単位

法と社会

脇田 吉隆

< 授業の方法 >

今年度は授業は講義を中心にして行う。

< 授業の目的 >

私たちは一人の人間として社会で生活している。その中には法律に関係することは意外と多い。私たちは国家や社会の構成員としてルールを決めて生活している。日常生活におこる社会問題を社会現象として捉え、その法律・憲法問題を法・憲法現象として捉えて、具体的な社会現象を法学的・憲法学的に解決することが求められる。法学・憲法学をどのような方法で学ぶかを理解し、憲法の基本原理は何かを学び、人権問題、統治機構について基本的理解と問題解決方法を学ぶ。

日常生活と法のかかわりの中で発生する具体的な憲法現象の問題点を発見し、法学・憲法学的に解決する方法を学ぶ。

そして、獲得した学問方法と知識を社会に役立てることができること、さらに、生涯にわたって学び続けることができることをこの授業の目的とする。

< 到達目標 >

この授業では一人一人の個人が持っている「平和な社会で自由に豊かで幸せに暮らしたい」という要望を法学・憲法学的に実現することを到達目標とする。

< 授業のキーワード >

憲法学的思考・生活者の視点・人権感覚

< 授業の進め方 >

今年度の授業は講義を中心に進める。

< 履修するにあたって >

第1回の講義で受講生と講義の進め方について話し合い、ルールを決めるので必ず『シラバス(年間授業計画)』を読んで出席すること。無断遅刻・無断早退・無断欠席は認めない。講義中に提示する課題について原則として毎回レポートを書いてもらい提出することによって出席をとる。

< 授業時間外に必要な学修 >

日常生活における身近な法律問題を常に意識して、考え行動することを心掛けてほしい。 次回の講義についてのテーマを知らせるので、事前学習としてテキストの該当する範囲を30分の予習し講義には必ず出席すること。講義終了後は配布資料等の内容を再確認して課題レポートに取り組むために60分の事後学習を行うこと。

< 提出課題など >

講義の最初に前回の確認作業を行う。講義中に提示する課題について毎回課題レポートを書いてもらい次回の講義が始まるまでに提出してもらう。第9回目に確認テストを実施する。確認作業・確認テストと課題レポートについての評価点を記入した評価表を最後の講義に配布する。

< 成績評価方法・基準 >

定期試験(2/3), 課題レポート(1/6), 確認作業・確認テスト(1/6)の割合で総合的に評価する。

< テキスト >

播磨啓義・上脇博之・木下智史・脇田吉隆・渡辺洋 編著 『新・どうなっている!? 日本国憲法』【第3版】第8刷 法律文化社 2021年9月 2,300+税

< 参考図書 >

笹沼弘志 著『臨床憲法』 日本評論社 2014年8月 2,200円+税

憲法を楽しむ研究会編 『憲法を楽しむ』 法律文化社 2020年5月 2,700円+税

京都憲法会議監修/ 木藤伸一郎・倉田原志・奥野恒久編『入門 憲法学 憲法原理から日本社会を考える』

法律文化社 2020年5月 2,000円+税

奥野恒久著『人権論入門 日本国憲法から考える』 法律文化社 2019年8月 2,000円+税

その他は講義中に紹介する。

< 授業計画 >

第1回 大学で法学・憲法をいかに学ぶか

これまでの教育の問題点と新しい視点で法律学・憲法学の学び方について理解を深めることができる。

第2回 日常生活における法と憲法のかかわり

法と憲法とは何か、人の一生における法律問題を考え理解を深めることができる。

第3回 日本国憲法の基本原理 1

国家の最高法規 近代憲法から現代憲法を考え理解を深

めることができる。

第4回 日本国憲法の基本原理 2

基本的人権の尊重 国民主権、平和主義を考え理解を深めることができる。

第5回 日本国憲法の人権問題 1

人権の享有主体 外国人の人権を考え理解を深めることができる。

第6回 日本国憲法の人権問題 2

平等権 法の下での平等を考え理解を深めることができる。

第7回 日本国憲法の人権問題 3

自由権 表現の自由とプライバシーを考え理解を深めることができる。

第8回 日本国憲法の人権問題 4

自由権 心身の自由と冤罪事件と被疑者・被告人の権利を考え理解を深めることができる。

第9回 日本国憲法の人権問題 5

社会権 生存権を考え理解を深めることができる。

第10回 日本国憲法の人権問題 6

社会権 教育を受ける権利を考え理解を深めることができる。

第11回 日本国憲法の統治機構 1

立法機関としての国会を考え理解を深めることができる。

第12回 日本国憲法の統治機構 2

行政機関としての内閣を考え理解を深めることができる。

第13回 日本国憲法の統治機構 3

司法機関としての裁判所 国民の司法参加を考え理解を深めることができる。

第14回 日本国憲法の統治機構 4

地方自治を考え理解を深めることができる。

第15回 全体のまとめ

この授業のキーワードである「生活者の視点から憲法学的思考と人権感覚」を持って、到達目標である「平和な社会で自由に豊かで幸せに暮らしたい」という要望が実現することに役立つ学びができたかを確認することができる。

2022年度 前期

2.0単位

法と社会

藤川 直樹

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

「教養としての法学/法のリテラシー」をテーマとして、幅広い法的教養の獲得を目指す(この科目は全学DPIに所謂「広い教養」の習得、「幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導く」能力の育成の趣旨に対応する)。

< 到達目標 >

基本的な法的知識を身につけ、説明できる。

具体的な事案から法的問題を発見し、説明できる。

< 授業のキーワード >

法 法律 民法 刑法 行政法 裁判 訴訟 憲法 労働法

< 授業の進め方 >

基本的には講義形式によって法学入門ないし法学概論に相当する内容を概説的に説明していくが、適宜新聞記事や裁判所判決、その他身近な事例を採り上げて解説する。場合によっては受講者から気になる事件や問題を提示してもらい、講義内でフィードバックしたい。

< 履修するにあたって >

任意の六法(最新のものを)を購入し、講義時に持参すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

テキストを参考にしながら、各回の講義に関する基本的な用語・概念・制度を復習し(90分)、講義で触れられた事例や判例に関わる条文を整理する(90分)。

< 提出課題など >

なし

< 成績評価方法・基準 >

定期試験による(100%)。但し、各回のリアクションペーパーによって、特に講義内で採り上げるに値する情報提供・話題提供を行った場合には、10ポイントを限度に加点する。なお、共通教育科目のルールに従い、原則として3分の2以上の出席のあることが受験条件となる。

< テキスト >

『ポケット六法 令和4年版』(有斐閣、2021年)

穴戸常寿・石川博康編『法学入門』(有斐閣、2021年)

< 参考図書 >

穴戸常寿・石川博康(編)『法学入門』(有斐閣、2021年)

磯村哲(編)『現代法学講義』(有斐閣、1978年)

伊藤正巳・加藤一郎(編)『現代法学入門〔第4版〕』(有斐閣、2005年)

山田晟『法学』(東京大学出版会、1964年)

三ヶ月章『法学入門』(弘文堂、1982年)

団藤重光『法学の基礎〔第2版〕』(有斐閣、2007年)

原島重義『法的判断とは何か 民法の基礎理論』(創文社、2002年)

村上淳一『「法」の歴史』(東京大学出版会、1997年[新装版2013年])

山下純司・深町晋也・高橋信行『学生生活の法学入門』(弘文堂、2019年)

芦部信喜(高橋和之補訂)『憲法〔第7版〕』(岩波書店、2020年)

長谷部恭男『憲法〔第7版〕』(新世社、2018年)

宇賀克也『行政法概説I・II・III』(有斐閣)全3巻

宇賀克也(編)『ブリッジブック行政法』(信山社、第

3版2017年)

石川敏行『新プロゼミ行政法』(実務教育出版、2020年)

我妻栄『民法講義』(岩波書店、新訂版)全8巻

潮見佳男『民法(全)〔第2版〕』(有斐閣、2019年)

新堂幸司『新民事訴訟法〔第6版〕』(弘文堂、2019年)

山口厚『刑法〔第3版〕』(有斐閣、2015年)

松尾浩也『刑事訴訟法 上・下』(弘文堂)全2巻

<授業計画>

第1回 法学への誘い

講義の導入

第2回 法学の基礎

法の概念

第3回 法学の基礎

法の構造

第4回 法学の基礎

法の形成

第5回 法学の基礎

法の実現

第6回 民事法の基礎

民法の基本原則

第7回 民事法の基礎

物権法

第8回 民事法の基礎

債権法

第9回 民事法の基礎

親族・相続法

第10回 刑事法の基礎

刑事法の基本原則・犯罪の諸類型

第11回 刑事法の基礎

構成要件該当性・違法性阻却事由

第12回 刑事法の基礎

故意処罰原則・責任阻却事由

第13回 行政法の基礎

行政法の基本原則・行政作用法

第14回 行政法の基礎

行政救済法

第15回 総括

講義の総括

2022年度 前期

2.0単位

法と社会

佐藤 弘直

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

より広い視野と柔軟な思考力は、よりよい生活を送るた

めに必要である。年齢と社会の動きに応じた学びをしていかなければならない。社会のできごとを知ることから得られた知識が生活を豊かにしてくれるともいえる。われわれ人間は、食料や生活に必要な物品を手に入れ、それを使用・消費して生存を確保している。消費者として生涯を過ごしていくのである。他方で消費者は、事業者との取引において被害を被ることがある。この授業では消費者が被る被害について、その実態と問題点、そしてその被害の防止・回復策を考えていく。たとえば訪問販売の問題、ネットショッピングの問題、食品表示の問題、不動産賃貸の問題などである。講義開始後新聞紙上などで大きく報道される事件が生じた場合には、講義の予定を変更することもある。

<到達目標>

1. 消費者として日常生活を送るうえで遭遇するかもしれない場面を説明できる。
2. 社会問題や身近な経験から法的問題に発展しそうな場面を説明できる。
3. 消費者と取引相手である事業者との関係性を説明できる。
4. 消費者として生活する上で重要となる知識を調べることができる。
5. 事業者となった場合に消費者に目を向けた対応ができる。

<授業のキーワード>

消費者被害、消費者庁、消費者センター、消費者政策、事業者、表示、契約の自由、契約内容、約款

<授業の進め方>

講義形式により、新聞記事や裁判所判決、身近な事例を素材として法的観点から解説していく。場合によっては受講者から気になる事件や問題を提示してもらい、解説のかたちで適宜フィードバックする。

<履修するにあたって>

消費者庁、神戸市(<https://www.city.kobe.lg.jp/a07153/kurashi/lifestyle/index.html>)の「相談事例」「啓発資料」を中心に)、国民生活センター、適格消費者団体ひょうご消費者ネット(<http://hyogo-c-net.com/>)の「申入・差止請求」「活動報告」を中心に)のホームページをみて、どのような消費者被害があるかを確認すること。この確認がされていることを前提に講義は展開される。

また新聞やテレビニュースで気になった消費者取引に関する記事や報道をチェックしておくこと。

<授業時間外に必要な学修>

講義前には消費者を保護・援助する公的機関である消費者庁などの活動状況とそこで取り上げられている消費者被害の実態をそれぞれのホームページで確認する。(1時間程度)

講義後は、講義で取り上げられた上記機関の活動内容や

消費者被害の事例をさらに掘り下げて確認すること。その際には自分が被害にあうかもしれないことを念頭に置いてどのようにすれば回避できるかを想定しながら確認すること。(1時間程度)

<提出課題など>

原則として課さない。課題レポートを求める場合は、講義内において、事前に通知する。

<成績評価方法・基準>

定期試験(論述式が中心)100%で評価する。出席は成績評価の対象とはならない。

<テキスト>

使用しない。

<参考図書>

細川幸一『大学生が知っておきたい消費生活と法律』(慶應義塾大学出版、2018年)

杉浦市郎編『新・消費者法これだけは〔第3版〕』(法律文化社、2020年)

松本恒雄・後藤巻則編『消費者法判例インデックス』(商事法務、2017年)

河上正二・沖野眞己編『消費者法判例百選 第2版』(有斐閣、2020年)

国民生活センター『2021年版くらしの豆知識』(国民生活センター、2020年)

<授業計画>

第1回 消費者とは

消費者の定義と消費者被害の実態を知る。

第2回 事業者間の競争

事業者が商品の価格を他の事業者と競争する。市場での事業者の競争はあるべきかを考える。

第3回 商品購入の決め手

消費者が商品を購入する際、どのような点を重視しているか。事業者のセールストークはどこまで許されるか。

第4回 民法は消費者を守っているか

民法による消費者を保護する制度を学ぶ。

第5回 消費者への不当な働きかけ1

事業者から消費者への働きかけ、セールストークにはどのようなものがあるか。

第6回 消費者への不当な働きかけ2

事業者からの働きかけが不当であるとき、消費者はどのような法的措置をとることができるか。

第7回 隠された契約内容

契約を締結した後に、消費者に不利となる契約内容が契約書に書かれていたらどのような法的措置をとることができるか。

第8回 対面販売と訪問販売

訪問販売の危険性を知る。

第9回 ネット通販と英会話教室

インターネットでの購入の落とし穴と、契約締結後でないと効果がわからない契約を知る。

第10回 クレジットカードによる契約の仕組み

売主と買主との契約が基本的な契約であるとする、クレジットカードを使った契約は2者間取引とどのような違いがあるか。

第11回 クレジットカードでの取引の規制

クレジットカードによる取引に法的規制があること、その内容を学ぶ。

第12回 スマホからの出火

商品の安全性が損なわれたとき、消費者はどのような法的措置をとることができるか。

第13回 民事訴訟手続きの概要

消費者取引における言い分に歩み寄れないとき、裁判所に判断を委ねることになる。その仕組みを学ぶ。

第14回 消費者被害の防止

消費者は、被った被害をどのようにして防止すればよいか。公的機関やNPO法人は消費者を守ってくれないか。

第15回 消費者被害の回復

消費者は、被った被害をどのようにして回復すればよいか。公的機関やNPO法人は代わりに被害回復をしてくれないか。

2022年度 前期

1.0単位

Reading B

高松 琢麻

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

Reading1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、英語4技能の中でも特にリーディングに特化した技能を育てることを目標としている。本科目は中級者以上を対象としたクラスである。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

<到達目標>

- ・ これまで培ってきた基本的な語彙や文法の知識を活用し、500語以上のまとまった英文を理解できる。(知識)
- ・ 読解した英文の内容をまとめて相手に発信したり、その内容について積極的に英語でコミュニケーションすることができる。(態度・習慣)
- ・ リーディングに必要な語彙学習やその他の学習を授業外でも行うことができる。(態度・習慣)
- ・ 初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

<授業のキーワード>

リーディング・語彙・文法

<授業の進め方>

文章読解と文章表現に関する練習を行うことに加えて、

パラグラフリーディングの指導や要約の練習を行う。講義中は毎回必ず受講生にテキストの内容に関して回答や発言を求める。

各ユニットのテーマに応じたディスカッションをおこない、英文で作成した課題を提出してもらい、それを授業評価の一環とする

<履修するにあたって>

本科目は中級者以上を対象としたクラスです。課題が多くあります。英語が不得意な学生は基礎英語3/4および英語コミュニケーション1/2を履修することを勧めます。

・毎回各自必ずテキストと使い慣れた英和辞書を持参すること。

・3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り、単位認定されない。

<授業時間外に必要な学修>

予習(1時間程度)。教員より指示があった場合は、指示された箇所の和訳やテーマに関する予習をして授業に臨むこと。

復習(30分程度)。各Unitに関する小テストを実施するので、指定された箇所を復習して毎回のテストに望むこと。

<提出課題など>

パラグラフリーディングの要領に従って、指定された文章を読み、要約やエッセイの作成と提出を求める。

<成績評価方法・基準>

授業内評価50%

レポート及び授業時間内におこなう習熟度確認テスト50%

<テキスト>

『Reading Advantage 3』 CENGAGE

<授業計画>

第1回 Introduction

講義の概要・方針の解説を行う。

第2回 Unit 1

Spiders

Reading

Unitのテーマについて読解を行った後に、理解度の確認とUnitのテーマに沿った英文の作成練習を行い、発表する。

第3回 Unit 2

The Sphinx

Reading & Discussion

パラグラフリーディングの練習を行う。パラグラフの構成と文章表現について学び、Unitのテーマに沿った英文や要約の作成練習を行う。Unitのテーマについて読解を行った後に、理解度の確認とディスカッションを行う。Unitのテーマに沿った英文の作成練習を行い、発表する。

第4回 Unit 3

Blogging

Reading & Discussion

パラグラフリーディングの練習を行う。パラグラフの構成と文章表現について学び、Unitのテーマに沿った英文や要約の作成練習を行う。Unitのテーマについて読解を行った後に、理解度の確認とディスカッションを行う。Unitのテーマに沿った英文の作成練習を行い、発表する。

第5回 Unit 4

Blockbuster Movies

Reading & Discussion

パラグラフリーディングの練習を行う。パラグラフの構成と文章表現について学び、Unitのテーマに沿った英文や要約の作成練習を行う。Unitのテーマについて読解を行った後に、理解度の確認とディスカッションを行う。Unitのテーマに沿った英文の作成練習を行い、発表する。

第6回 Unit 5

The tour de France

Reading

パラグラフリーディングの練習を行う。パラグラフの構成と文章表現について学び、Unitのテーマに沿った英文や要約の作成練習を行う。

第7回 Unit 5 (2)

The tour de France

Discussion

Unitのテーマについて読解を行った後に、理解度の確認とディスカッションを行う。Unitのテーマに沿った英文の作成練習を行い、発表する。

第8回 Unit 6

Left-Handness

Reading & Discussion

パラグラフリーディングの練習を行う。パラグラフの構成と文章表現について学び、Unitのテーマに沿った英文や要約の作成練習を行う。Unitのテーマについて読解を行った後に、理解度の確認とディスカッションを行う。Unitのテーマに沿った英文の作成練習を行い、発表する。

第9回 Unit 7

Music and Dance

Reading

パラグラフリーディングの練習を行う。パラグラフの構成と文章表現について学び、Unitのテーマに沿った英文や要約の作成練習を行う。

第10回 Unit 7 (2)

Music and Dance

Discussion

Unitのテーマについて読解を行った後に、理解度の確認とディスカッションを行う。Unitのテーマに沿った英文の作成練習を行い、発表する。

第11回 Unit 8

Body Language

Reading

パラグラフリーディングの練習を行う。パラグラフの構成と文章表現について学び、Unitのテーマに沿った英文

や要約の作成練習を行う。

第12回 Unit 8 (2)

Body Language

Discussion

Unitのテーマについて読解を行った後に、理解度の確認とディスカッションを行う。Unitのテーマに沿った英文の作成練習を行い、発表する。

第13回 Unit 9

Cosmetic Surgery

Reading & Discussion

パラグラフリーディングの練習を行う。パラグラフの構成と文章表現について学び、Unitのテーマに沿った英文や要約の作成練習を行う。Unitのテーマについて読解を行った後に、理解度の確認とディスカッションを行う。Unitのテーマに沿った英文の作成練習を行い、発表する。

第14回 Unit 10

Natural Wonders

Reading & Discussion

Unitのテーマについて読解を行った後に、理解度の確認とディスカッションを行う。Unitのテーマに沿った英文の作成練習を行い、発表する。

第15回 習熟度確認テスト

質疑応答

これまで授業で学んだリーディングスキルを用いて、読解問題の解答を行う。

2022年度 後期

1.0単位

Reading B

高松 琢麻

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

Reading1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、英語4技能の中でも特にリーディングに特化した技能を育てることを目標としている。本科目は中級者以上を対象としたクラスである。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

- ・ これまで培ってきた基本的な語彙や文法の知識を活用し、500語以上のまとまった英文を理解できる。(知識)
- ・ 読解した英文の内容をまとめて相手に発信したり、その内容について積極的に英語でコミュニケーションすることができる。(態度・習慣)
- ・ リーディングに必要な語彙学習やその他の学習を授業外でも行うことができる。(態度・習慣)

・ 初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

< 授業のキーワード >

リーディング・語彙・文法

< 授業の進め方 >

文章読解と文章表現に関する練習を行うことに加えて、パラグラフリーディングの指導や要約の練習を行う。講義中は毎回必ず受講生にテキストの内容に関して回答や発言を求める。

各ユニットのテーマに応じたディスカッションをおこない、英文で作成した課題を提出してもらい、それを授業評価の一環とする

< 履修するにあたって >

本科目は中級者以上を対象としたクラスです。課題が多くあります。英語が不得意な学生は基礎英語3/4および英語コミュニケーション1/2を履修することを勧めます。

・ 毎回各自必ずテキストと使い慣れた英和辞書を持参すること。

・ 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り、単位認定されない。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習(1時間程度)。教員より指示があった場合は、指示された箇所の和訳やテーマに関する予習をして授業に臨むこと。

復習(30分程度)。各Unitに関する小テストを実施するので、指定された箇所を復習して毎回のテストに望むこと。

< 提出課題など >

パラグラフリーディングの要領に従って、指定された文章を読み、要約やエッセイの作成と提出を求める。

< 成績評価方法・基準 >

授業内評価50%

レポート及び授業時間内におこなう習熟度確認テスト50%

< テキスト >

『Reading Advantage 3』 CENGAGE

< 授業計画 >

第1回 Introduction

講義の概要・方針の解説を行う。

第2回 Unit 11

Delivering the mail

Reading

Unitのテーマについて読解を行った後に、理解度の確認とUnitのテーマに沿った英文の作成練習を行い、発表する。

第3回 Unit 12

Motivating Student

Reading & Discussion

パラグラフリーディングの練習を行う。パラグラフの構成と文章表現について学び、Unitのテーマに沿った英文

や要約の作成練習を行う。Unitのテーマについて読解を行った後に、理解度の確認とディスカッションを行う。Unitのテーマに沿った英文の作成練習を行い、発表する。

第4回 Unit 13

Mystery Mansion

Reading & Discussion

パラグラフリーディングの練習を行う。パラグラフの構成と文章表現について学び、Unitのテーマに沿った英文や要約の作成練習を行う。Unitのテーマについて読解を行った後に、理解度の確認とディスカッションを行う。Unitのテーマに沿った英文の作成練習を行い、発表する。

第5回 Unit 14

International Baseball

Reading & Discussion

パラグラフリーディングの練習を行う。パラグラフの構成と文章表現について学び、Unitのテーマに沿った英文や要約の作成練習を行う。Unitのテーマについて読解を行った後に、理解度の確認とディスカッションを行う。Unitのテーマに沿った英文の作成練習を行い、発表する。

第6回 Unit 15

Strange Foods

Reading

パラグラフリーディングの練習を行う。パラグラフの構成と文章表現について学び、Unitのテーマに沿った英文や要約の作成練習を行う。

第7回 Unit 15(2)

Strange Foods

Discussion

Unitのテーマについて読解を行った後に、理解度の確認とディスカッションを行う。Unitのテーマに沿った英文の作成練習を行い、発表する。

第8回 Unit 16

A special Station

Reading & Discussion

パラグラフリーディングの練習を行う。パラグラフの構成と文章表現について学び、Unitのテーマに沿った英文や要約の作成練習を行う。Unitのテーマについて読解を行った後に、理解度の確認とディスカッションを行う。Unitのテーマに沿った英文の作成練習を行い、発表する。

第9回 Unit 17

Taekwondo

Reading

パラグラフリーディングの練習を行う。パラグラフの構成と文章表現について学び、Unitのテーマに沿った英文や要約の作成練習を行う。

第10回 Unit 17(2)

Taekwondo

Discussion

Unitのテーマについて読解を行った後に、理解度の確認とディスカッションを行う。Unitのテーマに沿った英

文の作成練習を行い、発表する。

第11回 Unit 18

White Sand

Reading

パラグラフリーディングの練習を行う。パラグラフの構成と文章表現について学び、Unitのテーマに沿った英文や要約の作成練習を行う。

第12回 Unit 18 (2)

White Sand

Discussion

Unitのテーマについて読解を行った後に、理解度の確認とディスカッションを行う。Unitのテーマに沿った英文の作成練習を行い、発表する。

第13回 Unit 19

Paper Products

Reading & Discussion

パラグラフリーディングの練習を行う。パラグラフの構成と文章表現について学び、Unitのテーマに沿った英文や要約の作成練習を行う。Unitのテーマについて読解を行った後に、理解度の確認とディスカッションを行う。Unitのテーマに沿った英文の作成練習を行い、発表する。

第14回 Unit 20

Camouflage Art

Reading & Discussion

Unitのテーマについて読解を行った後に、理解度の確認とディスカッションを行う。Unitのテーマに沿った英文の作成練習を行い、発表する。

第15回 習熟度確認テスト

質疑応答

これまで授業で学んだリーディングスキルを用いて、読解問題の解答を行う。

2022年度 前期

1.0単位

Listening B

E C C

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

Listening1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、英語4技能の中でも特にリスニングに特化した技能を育てることを目標としている。本科目は中級者以上を対象としたクラスである。この科目は、全学DPIに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

< 到達目標 >

・ これまで培ってきた基本的な語彙や文法の知識を活用し、簡単な英会話や英文を聞いて理解できる。(知識

)

- ・ 英語コミュニケーション能力向上のために積極的に参加できる。(態度・習慣)
- ・ リスニングに必要な語彙学習やその他の学習を授業外でも行うことができる。(態度・習慣)
- ・ 初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

<授業のキーワード>
リスニング・スピーキング・語彙・文法

<授業の進め方>
原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加型の授業ですので積極的な参加が必要となります。

<履修するにあたって>
1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。| 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。| 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。

<授業時間外に必要な学修>
1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。(週30分程度)| 2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。(週1時間程度)

<提出課題など>
必要に応じて課された課題を提出。詳細は授業内で指示する。

<成績評価方法・基準>
授業内評価(小テスト20% 授業参加度20%) 授業外評価(授業外課題30%) 期末試験(資料10% プレゼンテーション20%)

<テキスト>
Listening Steps 出版社:金星堂 2640円(税込) ISBN:9784764740396

<授業計画>
第1回 オリエンテーション
授業の進め方や成績評価の詳細等を説明します。
第2回 Unit 1-1
Travel
第3回 Unit 1-2
[eɪ] 音の連結
第4回 Unit 2-1
College Life
第5回 Unit 2-2
[r] 弱形
第6回 Unit 3-1
Shopping
第7回 Unit 3-2
[l] 強形

第8回 Unit 4-1
College Life
第9回 Unit 4-2
[ə] 弱化
第10回 Unit 5-1
Hotel
第11回 Unit 5-2
[ʔ] 弱化 - - 音の脱落 - -
第12回 Unit 6-1
Train
第13回 Unit 6-2
[ʃ] r 音化
第14回 プレゼンテーション準備
プレゼンテーションの準備を行います。
第15回 プレゼンテーション
前期の既習項目の総復習とプレゼンテーション

2022年度 後期
1.0単位
Listening B
E C C

<授業の方法>
演習

<授業の目的>
Listening1/2は共通教育リテラシー科目群外国語分野に属し、英語4技能の中でも特にリスニングに特化した技能を育てることを目標としている。本科目は中級者以上を対象としたクラスである。この科目は、全学DPに示す「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てることができる」を目指す。

<到達目標>
・ これまで培ってきた基本的な語彙や文法の知識を活用し、簡単な英会話や英文を聞いて理解できる。(知識)

- ・ 英語コミュニケーション能力向上のために積極的に参加できる。(態度・習慣)
- ・ リスニングに必要な語彙学習やその他の学習を授業外でも行うことができる。(態度・習慣)
- ・ 初出の単語や表現について辞書などで調べることができる。(技能)

<授業のキーワード>
リスニング・スピーキング・語彙・文法

<授業の進め方>
原則毎回、教科書の既習項目に基づいた小テストを実施します。ペアワークやグループワークを数多く取り入れます。発言や発表の機会も多くある学生参加型の授業ですので積極的な参加が必要となります。

<履修するにあたって>

1) 3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り単位認定されません。| 2) ペア・グループワークを通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。そのため、クラスメイトと積極的に関わる姿勢が求められます。| 3) 授業の予習・復習をしっかりと行って毎回の授業に臨んでください。
< 授業時間外に必要な学修 >

1) 講師が指示をする単語や表現の暗記。(週30分程度)| 2) 授業日に学んだ箇所の音読と内容の復習。(週1時間程度)
< 提出課題など >
必要に応じて課された課題を提出。詳細は授業内で指示する。

< 成績評価方法・基準 >
授業内評価(小テスト20% 授業参加度20%) 授業外評価(授業外課題30%) 期末試験(資料10% プレゼンテーション20%)

< テキスト >
Listening Steps 出版社:金星堂 2640円(税込) ISBN:9784764740396

< 授業計画 >
第1回 Unit 7-1
Restaurant
第2回 Unit 7-2
[f][v] 同じ音の連続
第3回 Unit 8-1
College Life
第4回 Unit 8-2
[ʌ] portとsport
第5回 Unit 9-1
Leisure
第6回 Unit 9-2
[ɜ:] [ɜ:] 強勢(ストレス)
第7回 復習
Unit 7からUnit 9の復習
第8回 Unit 10-1
Traffic
第9回 Unit 10-2
[ʃ][tʃ] rainとtrain
第10回 Unit 11-1
Business
第11回 Unit 11-2
[ə][ʔ] 語頭と語末の/b/ /d/ /g/
第12回 Unit 12-1
Clinic
第13回 Unit 12-2
[ɒ] 語末の子音脱落と母音の長さ
第14回 プレゼンテーション準備
プレゼンテーションの準備を行います。
第15回 プレゼンテーション

前期の既習項目の総復習とプレゼンテーション

2022年度 後期

1.0単位
ロシア語基礎
Gilmutdinova Tanzilia

< 授業の方法 >

講義、演習、実習、実技

< 授業の目的 >

【!!!】この科目は、有瀬キャンパスで前期の「ロシア語入門」を受けていた学生が対象している。

【その他】全学のDPに示す、職業を担うため高度な専門知識や技能を身につけること、多様な人々と協働して学会や専攻分野で理論や応用に重要な貢献を行うことを目指す。この科目では、4技能(書く、読む、聞く、話す)の基礎知識を修得し、ロシア語で日常生活の会話が創作できるようになることを目的とする。

< 到達目標 >

1. ロシアの文化、お祭り、民族について具体的に述べることができる。(知識)
2. 基礎文法と単語を覚える。(知識)
3. メディアで報道されるロシアに関するニュースに関心を持つ。(態度・習慣)
4. ロシア文字(筆記体を含めて)が書ける。(技能)
5. 単語の美しく正確な発音ができる。(技能)
6. 名詞、形容詞、動詞などの変化できる。(技能)
7. 日常の会話ができる。(技能)
8. 読み取った、聞き取ったテキストの内容について話ができる。(技能)

< 授業のキーワード >

ロシア、ロシア語、ロシア文化

< 授業の進め方 >

教科書やCDなどの視聴覚教材などを中心に授業を進めますが、ロシア語学習が大きなストレスにならないように、楽しく練習用ゲームもプレイしてロシア語に親しみます。また、学生たちがロシア文化にも触れるように、授業で講習会を開催し、ロシア文化に関する実用的な知識を深めます。

< 授業時間外に必要な学修 >

【必ず】ロシア語を勉強したことがある学生が対象なので、後期の第一回の日までに必ず前期のことを復習してきてください。

【その他】教員やロシア人のフレンドと話すときやメールを送るとき、挨拶や学んだ文法、単語を必ず使ってください。

時間を見つけて積極的に予習(新出単語を調べる、テキ

ストを訳す、練習問題を解く)や復習(文法の暗記、テキスト音読練習)を行うリズムを身につける。
インターネットでロシアニュース番組やYoutubeでロシア人のビデオなどでリスニングの練習をしてください。
宿題をする前、授業でした練習と問題を見て、授業のテーマの説明を読んでから宿題に臨んでください。
理解が不十分であると感じた点は、教員に質問するなどして、あいまいなままにしておかないようにしてください。

< 提出課題など >

前期の「ロシア語入門」を受けていなくても、ロシア語を自分で勉強していて後期の授業に入りたいと思っている学生は、登録する前にロシア語のレベルを確認させてもらいたいので、必ずtanzila_96@mail.ruにご連絡ください。

< 成績評価方法・基準 >

評価方法として、試験(40%)、小テストの結果(15%)、宿題(15%)、出席率/授業態度/授業中の発表(30%)等すべての項目を評価に含んだ総合評価形式とする。

< 授業計画 >

第1回

前期の知識を思い出す

第2回 1,2,3...

第3回

?

1. 市内の場所、国の名前、街の名前
2. 名詞の前置格

第4回

1. 市内の場所、国の名前、街の名前
2. 名詞の前置格

第5回

- 1.
2. 動詞の過去形

第6回

- 1.
2. " +10",
3. 4

第7回

- 1.
2. " +10",

第8回

- 1.
2. 名詞の前置格

第9回

- 1.
2. 同上

第10回

同上

第11回

形容詞

第12回

形容詞

第13回

第14回

形容詞

第15回 後期の最後の授業

後期試験のための練習

2022年度 後期

1.0単位

ロシア語基礎

Parfenova Natalia

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この授業では、ロシア語テキストを通じてロシア語の基礎を勉強することができます。担当教員はネイティブスピーカーでありながら、発音、イントネーション、色々な面で勉強になると思います。

< 到達目標 >

気軽に、楽しく授業をしながら、短期間でロシア語で日常会話できることが最終目的です。

< 授業のキーワード >

ロシア、ロシアの言語、ロシア文化、日ロ交流

< 授業の進め方 >

1. ウォミングアップ：軽く前の授業で習ったこと繰り返し
2. ロシア語アルファベットの読み方、発音など
3. 用意したプリントを読んだり、書いたりする
4. ロシア語会話

< 授業時間外に必要な学修 >

予習30分以上、復習60分以上

< 提出課題など >

授業内でのミニレポート 等

<成績評価方法・基準>

各回授業内で実施する会話のチェック(30%)・各回授業内でプリントの内容の部分に関する小テスト(30%)・最終回で実施する到達度確認テスト(40%)。定期試験は、問題解答、聞き取り、習ったロシア語で問題集を作って、それを採点。

<テキスト>

基礎からレッスン はじめてのロシア語 柚木かおり 著

<参考図書>

「気軽に学ぶロシア語」 沼野充義

「ロシア語入門」 植野修司

「自習ロシア語問題集」中村健之介

「新ロシア語会話教本」 宇多文雄/住吉エレナ

など

<授業計画>

第1回 自己紹介

1. ウォミングアップ：自己紹介
2. ロシア語アルファベットの紹介 読み方、発音など

第2回 基本挨拶

1. ウォミングアップ：軽く前の授業で習ったこと繰り返し
2. ロシア語アルファベットの読み方、発音など
3. 用意したプリントを読んだり、書いたりする
4. ロシア語会話

第3回 お元気ですか

1. ウォミングアップ：軽く前の授業で習ったこと繰り返し
2. ロシア語アルファベットの読み方、発音など
3. 用意したプリントを読んだり、書いたりする
4. ロシア語会話

第4回 別れの挨拶

1. ウォミングアップ：軽く前の授業で習ったこと繰り返し
2. ロシア語アルファベットの読み方、発音など
3. 用意したプリントを読んだり、書いたりする
4. ロシア語会話

第5回 お礼の言葉

1. ウォミングアップ：軽く前の授業で習ったこと繰り返し
2. ロシア語アルファベットの読み方、発音など
3. 用意したプリントを読んだり、書いたりする
4. ロシア語会話

第6回 会話

1. ウォミングアップ：軽く前の授業で習ったこと繰り返し

2. ロシア語アルファベットの読み方、発音など
3. 用意したプリントを読んだり、書いたりする
4. ロシア語会話

第7回 お詫びの言葉

1. ウォミングアップ：軽く前の授業で習ったこと繰り返し

2. ロシア語アルファベットの読み方、発音など
3. 用意したプリントを読んだり、書いたりする
4. ロシア語会話

第8回 返事をする

1. ウォミングアップ：軽く前の授業で習ったこと繰り返し

2. ロシア語アルファベットの読み方、発音など
3. 用意したプリントを読んだり、書いたりする
4. ロシア語会話

第9回 許可を聞く

1. ウォミングアップ：軽く前の授業で習ったこと繰り返し

2. ロシア語アルファベットの読み方、発音など
3. 用意したプリントを読んだり、書いたりする
4. ロシア語会話

第10回 気候

1. ウォミングアップ：軽く前の授業で習ったこと繰り返し

2. ロシア語アルファベットの読み方、発音など
3. 用意したプリントを読んだり、書いたりする
4. ロシア語会話

第11回 スポーツ

1. ウォミングアップ：軽く前の授業で習ったこと繰り返し

2. ロシア語アルファベットの読み方、発音など
3. 用意したプリントを読んだり、書いたりする
4. ロシア語会話

第12回 ロシア語について尋ねる

1. ウォミングアップ：軽く前の授業で習ったこと繰り返し

2. ロシア語アルファベットの読み方、発音など
3. 用意したプリントを読んだり、書いたりする
4. ロシア語会話

第13回 これは何ですか/誰ですか

1. ウォミングアップ：軽く前の授業で習ったこと繰り返し

2. ロシア語アルファベットの読み方、発音など
3. 用意したプリントを読んだり、書いたりする
4. ロシア語会話

第14回 ? を持っていますか?

1. ウォミングアップ：軽く前の授業で習ったこと繰り返し

2. ロシア語アルファベットの読み方、発音など

3. 用意したプリントを読んだり、書いたりする

4. ロシア語会話

第15回 これは。。。な? です。

1. ウォミングアップ：軽く前の授業で習ったこと繰り返し

2. ロシア語アルファベットの読み方、発音など

3. 用意したプリントを読んだり、書いたりする

4. ロシア語会話

2022年度 前期

1.0単位

ロシア語入門

Gilmutdinova Tanzilia

< 授業の方法 >

講義、演習、実習、実技

< 授業の目的 >

この科目は、全学のDPに示す、職業を担うため高度な専門知識や技能を身につけること、多様な人々と協働して学会や専攻分野で理論や応用に重要な貢献を行うことを目指す。初めてロシア語を学ぶ学生が対象。この科目では、ロシアの生活習慣や伝統と現代文化の知識を深め、4技能（書く、読む、聞く、話す）の基礎知識を修得し、ロシア語で日常生活の会話が創作できるようになることを目的とする。

< 到達目標 >

1. ロシアの文化、お祭り、民族について具体的に述べることができる。（知識）
2. 基礎文法と単語を覚える。（知識）
3. メディアで報道されるロシアに関するニュースに関心を持つ。（態度・習慣）
4. ロシア文字（筆記体を含めて）が書ける。（技能）
5. 単語の美しく正確な発音ができる。（技能）
6. 名詞、形容詞、動詞などの変化できる。（技能）
7. 日常の会話ができる。（技能）
8. 読み取った、聞き取ったテキストの内容について話ができる。（技能）

< 授業のキーワード >

ロシア、ロシア語、ロシア文化

< 授業の進め方 >

教科書やCDなどの視聴覚教材などを中心に授業を進めますが、ロシア語学習が大きなストレスにならないように、楽しく練習用ゲームもプレイしてロシア語に親しみます。また、学生たちがロシア文化にも触れるように、授業で講習会を開催し、ロシア文化に関する実用的な知識を深めます。

< 授業時間外に必要な学修 >

ロシア語に初めて触れる学生が対象なので、アルファベットから丁寧に指導する。

教員やロシア人のフレンドと話すときやメールを送ると

き、挨拶や学んだ文法、単語を必ず使ってください。

時間を見つけて積極的に予習（新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く）や復習（文法の暗記、テキスト音読練習）を行うリズムを身につける。

インターネットでロシアニュース番組やYoutubeでロシア人のビデオなどでリスニングの練習をしてください。宿題をする前、授業でした練習と問題を見て、授業のテーマの説明を読んでから宿題に臨んでください。

理解が不十分であると感じた点は、出席カードに記載するか、教員に質問するなどして、あいまいなままにしておかないようにしてください。

< 成績評価方法・基準 >

評価方法として、試験（40%）、小テストの結果（15%）、宿題（15%）、出席率/授業態度/授業中の発表（30%）等すべての項目を評価に含んだ総合評価形式とする。

< 授業計画 >

第1回 ロシア語に親しむ

挨拶、ロシア語のアルファベット、発音、アクセント、書き方

第2回 ロシア語に親しむ

挨拶、ロシア語のアルファベット、発音、アクセント、書き方

第3回

1. 自己紹介
2. 人称代名詞、名詞の性

第4回

1. 職業
2. 人称代名詞、名詞の性

第5回

- 9
1. 市内の場所、日常生活の活動
2. 動詞、動詞の変更（現在形）
3. 9 ()

第6回

1. 市内の場所、日常生活の活動
2. 動詞、動詞の変更（現在形）

第7回

1. 市内の場所、日常生活の活動
2. 動詞、動詞の変更（現在形）

第8回

名詞の複数

第9回

名詞の複数

第10回

1. 家族	
2. 所有格, "	... "
3. 12	-
第11回	.
1. 家族	
2. 所有格, "	... "
第12回	.
1. 家族	
2. 所有格, "	... ", "
	...".
第13回	.
1. 家族	
2. 所有格, "	... ", "
	...".
第14回	学んだことの復習
	確認テストのための練習
第15回	前期の最後の授業
	確認テスト

2022年度 前期	
1.0単位	
ロシア語入門	
Parfenova Natalia	

< 授業の方法 >	
講義	
< 授業の目的 >	
この授業では、ロシア語テキストを通じてロシア語の基礎を勉強することができます。担当教員はネイティブスピーカーでありながら、発音、イントネーション、色々と面で勉強になると思います。	
< 到達目標 >	
気軽に、楽しく授業をしながら、短期間でロシア語で日常会話できることが最終目的です。	
< 授業のキーワード >	
ロシア、ロシアの言語、ロシア文化、日ロ交流	
< 授業の進め方 >	
1. ウォミングアップ：軽く前の授業で習ったこと繰り返し	
2. ロシア語アルファベットの読み方、発音など	
3. 用意したプリントを読んだり、書いたりする	
4. ロシア語会話	
< 授業時間外に必要な学修 >	
予習30分以上、復習60分以上	
< 提出課題など >	
授業内でのミニレポート 等	
< 成績評価方法・基準 >	
各回授業内で実施する会話のチェック(30%)、各回授業内でプリントの内容の部分に関する小テスト(30%)、最終回で実施する到達度確認テスト(40%)、定期試験は、	

問題解答、聞き取り、習ったロシア語で問題集を作って、それを採点。
< テキスト >
基礎からレッスン はじめてのロシア語 柚木かおり 著
< 参考図書 >
「気軽に学ぶロシア語」 沼野充義
「ロシア語入門」 植野修司
「自習ロシア語問題集」中村健之介
「新ロシア語会話教本」 宇多文雄/住吉エレナ など
< 授業計画 >
第1回 自己紹介
1. ウォミングアップ：自己紹介
2. ロシア語アルファベットの紹介 読み方、発音など
第2回 基本挨拶
1. ウォミングアップ：軽く前の授業で習ったこと繰り返し
2. ロシア語アルファベットの読み方、発音など
3. 用意したプリントを読んだり、書いたりする
4. ロシア語会話
第3回 お元気ですか
1. ウォミングアップ：軽く前の授業で習ったこと繰り返し
2. ロシア語アルファベットの読み方、発音など
3. 用意したプリントを読んだり、書いたりする
4. ロシア語会話
第4回 別れの挨拶
1. ウォミングアップ：軽く前の授業で習ったこと繰り返し
2. ロシア語アルファベットの読み方、発音など
3. 用意したプリントを読んだり、書いたりする
4. ロシア語会話
第5回 お礼の言葉
1. ウォミングアップ：軽く前の授業で習ったこと繰り返し
2. ロシア語アルファベットの読み方、発音など
3. 用意したプリントを読んだり、書いたりする
4. ロシア語会話
第6回 会話
1. ウォミングアップ：軽く前の授業で習ったこと繰り返し
2. ロシア語アルファベットの読み方、発音など
3. 用意したプリントを読んだり、書いたりする
4. ロシア語会話
第7回 お詫びの言葉
1. ウォミングアップ：軽く前の授業で習ったこと繰り返し

返し

2. ロシア語アルファベットの読み方、発音など
3. 用意したプリントを読んだり、書いたりする
4. ロシア語会話

第8回 返事をする

1. ウォミングアップ：軽く前の授業で習ったこと繰り返し

2. ロシア語アルファベットの読み方、発音など
3. 用意したプリントを読んだり、書いたりする
4. ロシア語会話

第9回 許可を聞く

1. ウォミングアップ：軽く前の授業で習ったこと繰り返し

2. ロシア語アルファベットの読み方、発音など
3. 用意したプリントを読んだり、書いたりする
4. ロシア語会話

第10回 気候

1. ウォミングアップ：軽く前の授業で習ったこと繰り返し

2. ロシア語アルファベットの読み方、発音など
3. 用意したプリントを読んだり、書いたりする
4. ロシア語会話

第11回 スポーツ

1. ウォミングアップ：軽く前の授業で習ったこと繰り返し

2. ロシア語アルファベットの読み方、発音など
3. 用意したプリントを読んだり、書いたりする
4. ロシア語会話

第12回 ロシア語について尋ねる

1. ウォミングアップ：軽く前の授業で習ったこと繰り返し

2. ロシア語アルファベットの読み方、発音など
3. 用意したプリントを読んだり、書いたりする
4. ロシア語会話

第13回 これは何ですか / 誰ですか

1. ウォミングアップ：軽く前の授業で習ったこと繰り返し

2. ロシア語アルファベットの読み方、発音など
3. 用意したプリントを読んだり、書いたりする
4. ロシア語会話

第14回 ? を持っていますか?

1. ウォミングアップ：軽く前の授業で習ったこと繰り返し

2. ロシア語アルファベットの読み方、発音など
3. 用意したプリントを読んだり、書いたりする
4. ロシア語会話

第15回 これは。。。な? です。

1. ウォミングアップ：軽く前の授業で習ったこと繰り返し

2. ロシア語アルファベットの読み方、発音など

3. 用意したプリントを読んだり、書いたりする

4. ロシア語会話